三十五年史



日本実業団バドミントン連盟

日本実業団バドミントン連盟
創立三十五周年記念誌　目次

刊行のことば …… 1
刊行によせて …… 2
連盟旗 …… 5
全日本実業団バドミントン選手権大会優勝杯 …… 7
故秩父宮妃殿下を偲んで …… 8

■写真集
全日実大会プログラム（第1回～第45回） …… 10
大会記録写真 …… 15

■歴史
1.年表 …… 35
2.日本実連のあゆみ …… 41
3.過去の総会、常務理事会、理事会審議内容 …… 53
4.日本実連を支えた人々 …… 57
歴代の会長、理事長、役員、事務局、特別功労賞、功労賞受賞者一覧表
5.大会の概観 …… 73
6.全日本実業団選手権大会の思い出　　わたしと全日実大会 …… 133
7.座談会
（1）創草期を顧みて　　（当時の監督、選手） …… 147
（2）現大会を振返って　　（45回大会参加監督、選手） …… 151
（3）日本実連運営を顧みて　（日本実連役員［元・現］） …… 157
8.特別寄稿　バドミントンプレーの変遷 …… 163
9.全日本実業団バドミントン選手権大会要項 …… 165
10.日本実業団バドミントン連盟年度登録状況 …… 172
11.全日本実業団バドミントン選手権大会参加状況 …… 173

■日本実業団バドミントン連盟加盟都道府県連盟のあゆみ …… 177

■記録
1.全日本実業団バドミントン選手権大会記録　（第1回～第45回） …… 237
2.過去の栄冠
（1）全日本実業団バドミントン選手権大会 …… 632
（2）全日本総合バドミントン選手権大会 …… 645
（3）全日本社会人バドミントン選手権大会 …… 646
（4）日本リーグ …… 648
（5）全日本実業団対全日本学生バドミントン団体対抗戦 …… 649
（6）トマス杯・ユーバー杯大会 …… 652

■諸規定
日本実業団バドミントン連盟規定 …… 655
（財）日本バドミントン協会規定 …… 664

■名簿
連盟役員・支部連盟事務局役員名簿 …… 671

■編集後記 …… 681



刊行のことば

日本バドミントン連盟会長
山口　開生

日本実業団バドミントン連盟は、1961年岡山県倉敷市において第11回全日本実業団バドミントン選手権大会開催の前日、靱(ウツボ)　勉　初代会長を中心に日本バドミントン協会のご指導を戴き、当時の役員、及び加盟事業所チームの方々により創立されました。

日本に於けるバドミントン競技の育成発展を図り併せて実業団並びに社会人の体位向上と親睦融和を当初の目的として発足し、バドミントンを愛する人々の献身的な努力と情熱により、ここに全国加盟670事業所と、今日の隆盛を見るにいたりました。昨年開催の第45回札幌大会では、参加208チーム3500名を超すバドミントン界最大のイベントに発展し、その間各種世界大会・オリンピックに連盟加盟選手を代表として送るなど、その使命の重大さは年々増しており、皆様と共に更にこれからの発展を祈願致したいと思います。

おわりに35年の記念誌の発刊に際し、ご協力戴きました関係各位をはじめ編集に参画された方々に対し深い感謝を申し上げ、あいさつといたします。



刊行によせて

財団法人日本バドミントン協会会長
桜内義雄

日本実業団バドミントン連盟がこの度創立35周年を迎えられ、その記念行事の一環とし記念誌の刊行をみるに到りましたことを心からお喜び申しあげます。

日本実業団バドミントン連盟が35年の永きに亘り育成発展に努力され今日の組織に盛り挙げられた加盟事業所の皆様と、役員各位に対しましてバドミントン界を挙げて敬意を表する次第であります。

ご存じのとおりナショナルチームの主力メンバーは貴連盟所属の事業所の選手でありこれから世界に向けトマス杯並びユーバー杯の奪回、又オリンピックにも、活躍を期待するところであります。貴連盟の発展は申すまでもなく日本バドミントン協会の礎の充実であり、その意味からも日本実業団バドミントン連盟の輝かしい35年の歴史は意義深く感謝にたえません。

この35周年を節目として、今後さらに底辺の拡大、組織の充実などに努められ、日本のバドミントン界のリーダー的存在として、益々発展されますことを衷心より祈念してお祝の言葉といたします。



刊行によせて

日本実業団バドミントン連盟二代目会長
米沢　滋

日本実業団バドミントン連盟３５周年記念誌刊行おめでとうございます。

1965年より1977年まで12年の長きにわたり会長をお引受けしたのですが、第15回の北九州市に於ける大会の折、秩父の宮妃殿下をお迎えしての開会式では、そのご先導を勤めさせて戴き、私の生涯の一ページとして今でも思い出の深いものであります。

当時、皆さんとバドミントンの発展を願って来た事を考えますと、現在、加盟670事業所を数えることは、歴代の役員各位のご協力と、ご苦労の賜ものと敬意を表するものであります。

また、昨今の全日本実業団バドミントン選手権大会では、参加が200チームを越え、毎年欠かさず、盛大に開催されるはこびとなり、誠に加盟役員、選手諸君と共にお喜び申し上げます。

職場に基盤を持ち、社会に根ざした日本実業団バドミントン連盟の使命は、これからも益々重要性を加えております。

おわりに、連盟の発展を心からお祈り申し上げます。

刊行によせて



日本実業団バドミントン連盟九代目理事長
江畑　誠一

実連創立35周年記念事業の一環として、本記念誌が刊行の運びに至ったことは、本計画の立案に携わった一人として、同慶に耐えません。

平成元年に理事長に就任した当初から、創立30年（平成三年）に向けて記念事業をやりたいという声はあがっており、常務理事会において検討を開始しましたが、先立つ資金が全くないという隘路にぶちあたりました。

時間的制約もあり、30年の節目はともかく、中長期的展望にたって先ず基金作りから始めようと、平成３年の定期総会（仙台）に「運営基金について」を提案し論議頂きましたが、結論をみるに至らず、「提案の大枠はかえぬことを基本に、使用目的、徴収方法をもう少し具体的に整理し、事前調整の後次期総会に諮る」との横井議長（副会長）の集約により、次年度に持ち越すこととなりました。

一年かけて常務理事会で数回議論し、具体的計画を平成四年の定期総会（広島）に諮り、「日本実業団バドミントン連盟創立35周年記念事業及び基金計画（案）」が承認されたのです。

平成八年を目途に、五年がかりで基金を積み立てるとともに、記念の編纂準備に着手することとなり、早速、並木さんに編纂準備委員をお願いして今日に至ったわけで、検討開始からの期間を通算すると、実に八年ごしの懸案がようやく達成できる状況になったのです。

平成五年をもって理事長を退任し、油井さん以下に後事を託しましたが、本連盟の長い伝統と今後の発展の為には、ぜひとも本事業を成功させたいと訴え、当時の常務理事、理事、代議員の方々と長時間議論したことが昨日のことのように思い出されます。

記念誌編纂に携わった皆様方のご苦労に感謝申し上げるとともに、実連が日本バドミントン界の中核として更なる発展を遂げることを心からお祈り申し上げます。

日本実業団バドミントン連盟旗



連盟旗の制定については1975年頃より、大会時公募をしたが、なかなか決定するに至らず1987年に、宮入恒明（NEC神奈川）、池田信孝（NTT東京）の両氏を担当として草案し、1988年の総会（金沢市）に於いて制定された。

図柄の４枚の羽は、本州、四国、九州、北海道を模し全国を表わし、又日本古来の藍染の藍を地色とした。

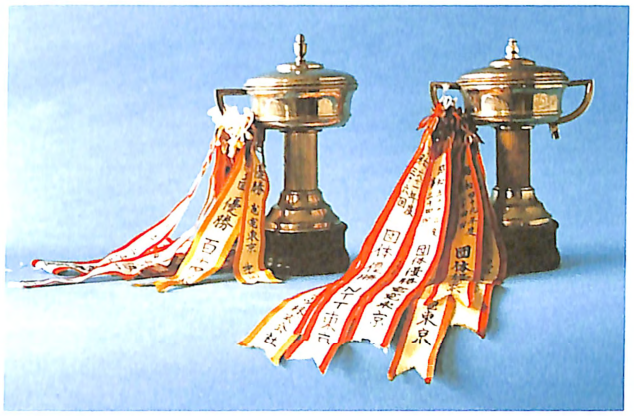
優　勝　杯

秩父宮妃賜杯



男子団体の部　　女子団体の部

労働大臣杯



初代労働大臣杯

女子団体の部　　男子団体の部



現労働大臣杯

女子団体の部



男子団体の部

連盟会長杯



女子団体の部　　男子団体の部

日本協会長杯



故秩父宮妃殿下を偲んで



秩父宮妃勢津子殿下

秩父宮妃勢津子殿下は去る平成７年（1995年）８月25日心不全のため、ご逝去になりました。享年85才でした。

日本実業団バドミントン連盟は、昭和32（1957）年第７回全日本実業団バドミントン選手権（岐阜）大会の折り妃杯の下賜をうけ、以来この大会は「秩父宮妃賜杯争奪」と冠になりました。ここに秩父宮殿下を偲びつつ、妃殿下と全日本実業団バドミントン選手権大会との結びつきを述べることにします。

昭和26（1951）年日本バドミントン協会常務理事会で、全国高校選手権大会の開催が決定し、更に希望議案として、宮杯の下賜を懇願することが決定した。広田兼敏副会長と井沢三郎常務理事が秩父宮家へ赴き、妃殿下の計らいで、大学選手権大会に秩父宮杯、高校選手権大会には高松宮杯の下賜を快諾していただき、秩父宮賜杯、秩父宮賜杯争奪として、大学大会、高校大会が始まった（注：大学選手権大会は既に昭和25年から開始されていた。）

その後第１回全日本実業団バドミントン選手権大会は、昭和27年２月に開催されたが、昭和32年日本バドミントン協会常務理事会でこの大会にも秩父宮妃杯の下賜を懇願することが決定し、本田弘敏日バ会長と加藤義孝岐阜県協会会長の肝入りで、秩父宮妃杯が下賜された。第７回岐阜大会では妃殿下のご来臨はなかったが、開会式に妃殿下のお言葉をいただき熊本副知事が朗読された。

昭和40（1965）年の開催を福岡でと、福岡へ赴いた時和田寿理事長（日本協会常務理事）が実業団大会開催を引き受けるならば、是非秩父宮妃殿下のご来臨いただこうと言われ、本田日バ会長のご助力によりご来臨のはこびとなった。

日本実業団バドミントン連盟
副理事長　並木萬次郎

裏話を承ると、妃殿下には、その年の日本赤十字社総会が熊本での開催で、これにご臨席のご予定があり、日赤総会開催日時を全日本実業団大会の日程に含わせ、総会日程を変更してのご来臨となったとのことで、誠にかしこき極みと関係者一同で感謝したことを思い出します。

第15回北九州大会（1965年）にご臨席になった妃殿下の開会式でのご挨拶は、世界と日本のバドミントン情勢を把握されたすばらしいもので、感動しました。

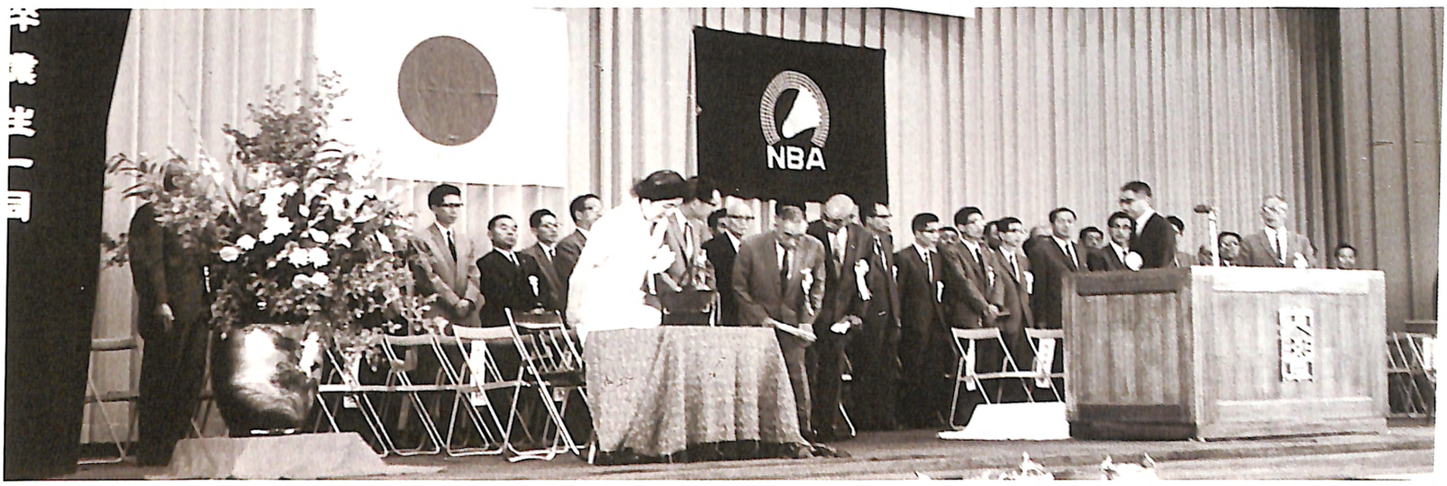
本田日バ会長、米沢実連会長の側に控えていて、妃殿下のバドミントン知識の広いことに驚き、更に感激したことを覚えています。

ただ、妃殿下は各施設の訪問のためお忙しく開会式だけでお帰りになり、競技はご覧になれず、それが残念に思えてなりませんでした。

昭和53（1978）年第28回東京大会（駒沢体育館）開催の折りは、開会式・閉会式にご来臨になり、特に閉会式の日は競技もご覧あそばされ、秩父宮妃賜杯を自ら授与されました。

妃殿下がご観戦された時のご質問の内容は、当時日本はユ杯保持国であり、日本代表選手、競技技術、体育館のことまでに及びバドミントンへの興味と知識の深さに感嘆したことを、今更ながら思い出します。

ご遺徳を偲び、ご冥福を皆様とともにお祈り致します。



昭和40年（1965年）第15回北九州大会



昭和53年（1978年）第28回東京大会



昭和53年（1978年）第28回東京大会

全日本実業団バドミントン選手権大会プログラム



■第1回　東京大会
(1952)



■第2回　横浜大会
(1953)



■第3回　長崎大会
(1954)



■第4回　名古屋大会
(1955)



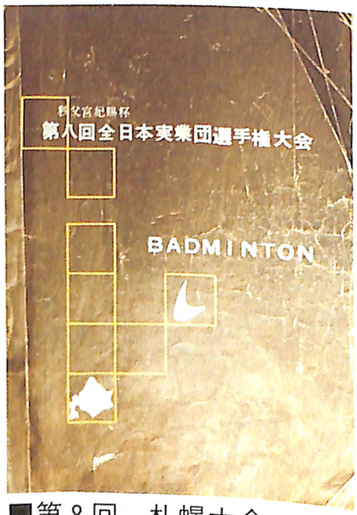
■第5回　高岡大会
(1956)



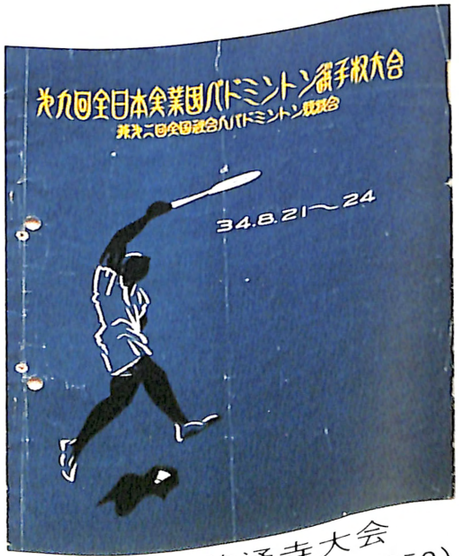
■第6回　高松大会
(1957)



■第7回　岐阜大会
(1957)

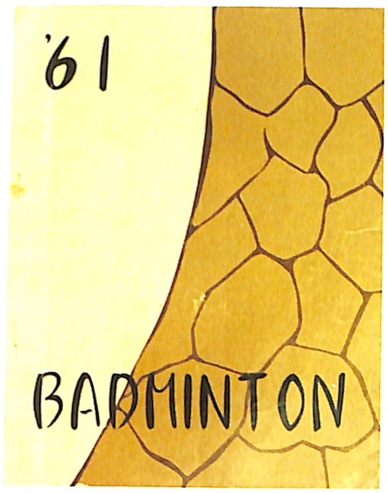


■第8回　札幌大会
(1958)

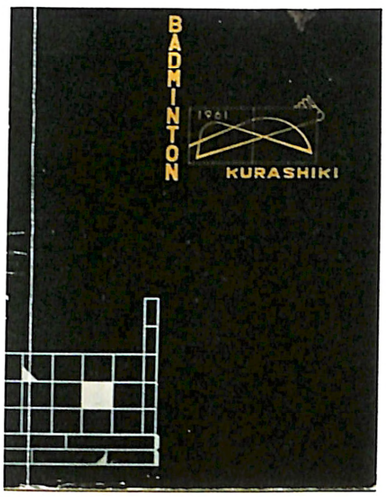


■第9回　善通寺大会
(1959)

全日本実業団バドミントン選手権大会プログラム



■第10回　名古屋大会
（1961）



■第11回　倉敷大会
（1961）



■第12回　熊本大会
（1962）



■第13回　三条大会
（1963）



■第14回　松山大会
（1964）



■第15回　北九州大会
（1965）



■第16回　大阪大会
（1966）



■第17回　勝山大会
（1967）



■第18回　諫早大会
（1968）

全日本実業団バドミントン選手権大会プログラム



■第19回　釜石大会
(1969)



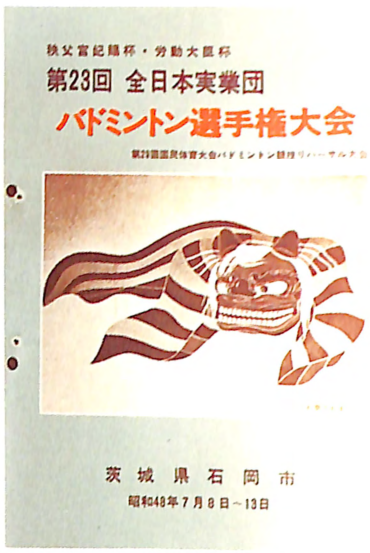
■第20回　高松大会
(1971)



■第21回　鹿児島大会
(1971)



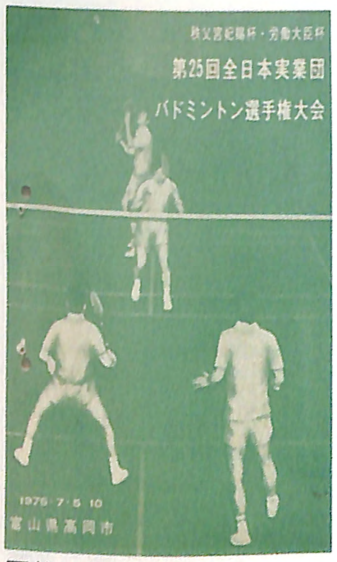
■第22回　茂原大会
(1972)



■第23回　石岡大会
(1973)



■第24回　松阪大会
(1974)



■第25回　高岡大会
(1975)



■第26回　藤沢大会
(1976)

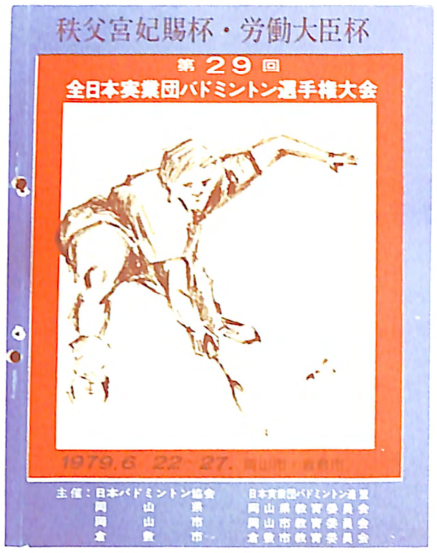


■第27回　大阪・京都大会
(1977)

全日本実業団バドミントン選手権大会プログラム



■第28回　東京大会
（1978）



■第29回　岡山・倉敷大会
（1979）



■第30回　新居浜大会
（1980）



■第31回　名古屋大会
（1981）



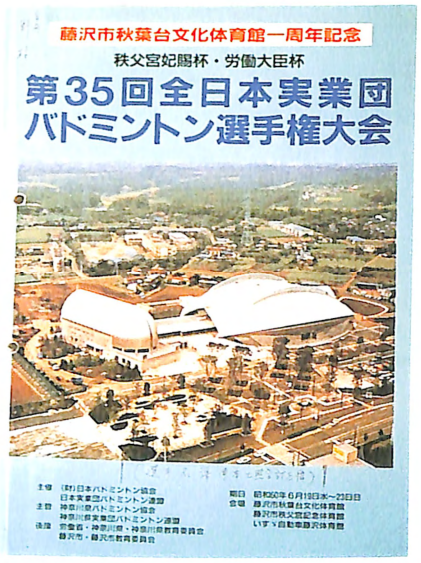
■第32回　立川大会
（1982）



■第33回　札幌大会
（1983）



■第34回　大阪大会
（1984）



■第35回　藤沢大会
（1985）



■第36回　京都大会
（1986）

全日本実業団バドミントン選手権大会プログラム



■第37回　名古屋大会
(1987)



■第38回　金沢大会
(1988)



■第39回岡山大会
(1989)



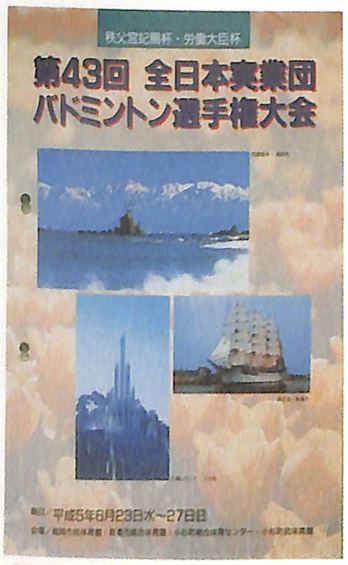
■第40回　神戸大会
(1990)



■第41回　仙台大会
(1991)



■第42回　広島大会
(1992)



■第43回　高岡・新湊・
小杉大会（1993）



■第44回　福岡大会
(1994)

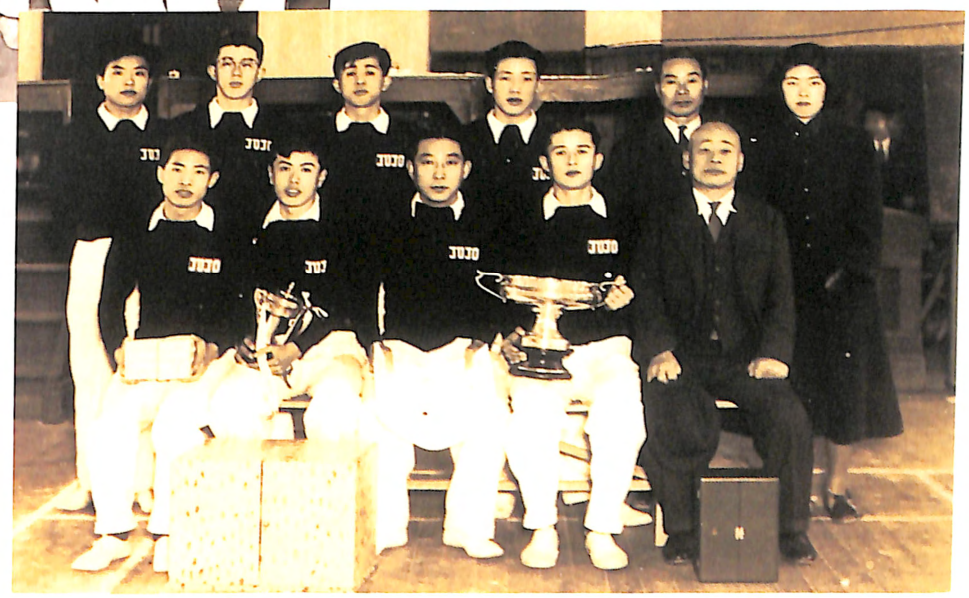


■第45回　札幌大会
(1995)

男子団体3連勝の
十條製紙伏木チーム



▲ 第2回　神奈川大会（昭和28年2月）
優勝　十條製紙・伏木チーム



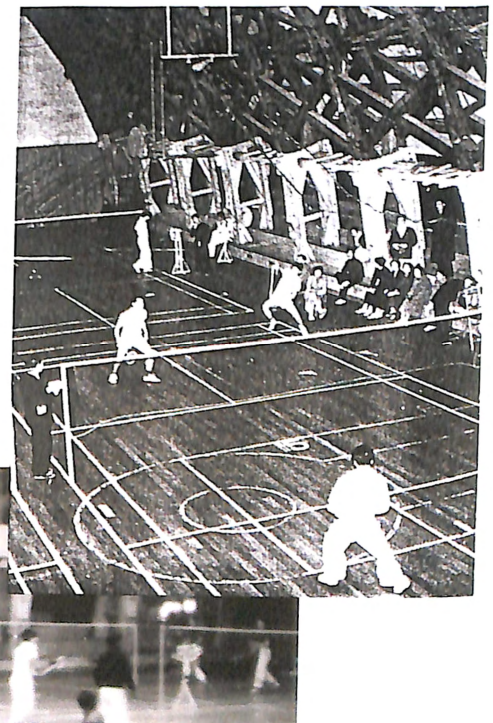
▲ 第3回　長崎大会（昭和29年2月）
優勝　十條製紙・伏木チーム
後列左より　荒木、筆谷、佐野、宮下
前列左より　工、釣谷、石上、清水



▲ 5回大会記念バッヂ

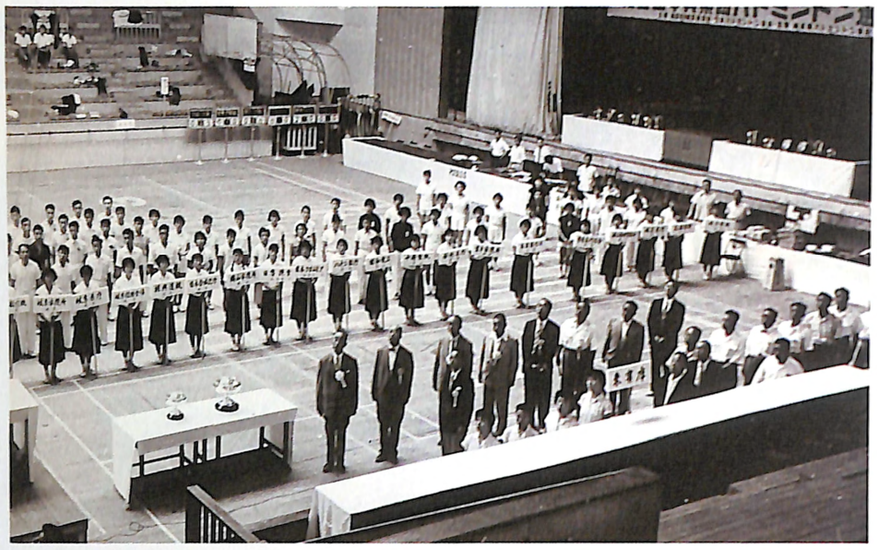


▲ 第5回　高岡大会（昭和31年3月）
大会風景
（当時の競技スタイル、観客に注目。座りこんで見ている人、窓に立っている人あり）





▲ 第6回　高松大会（ネットの張り方に注目。1本のロープにネットがさがり、サイトライン上には白のテープがさげてある）



▲ 第7回　岐阜大会（昭和32年10月）
秩父宮妃杯が下賜された大会（右下に秩父宮妃杯が飾られている）



▲第7回大会記念バックル



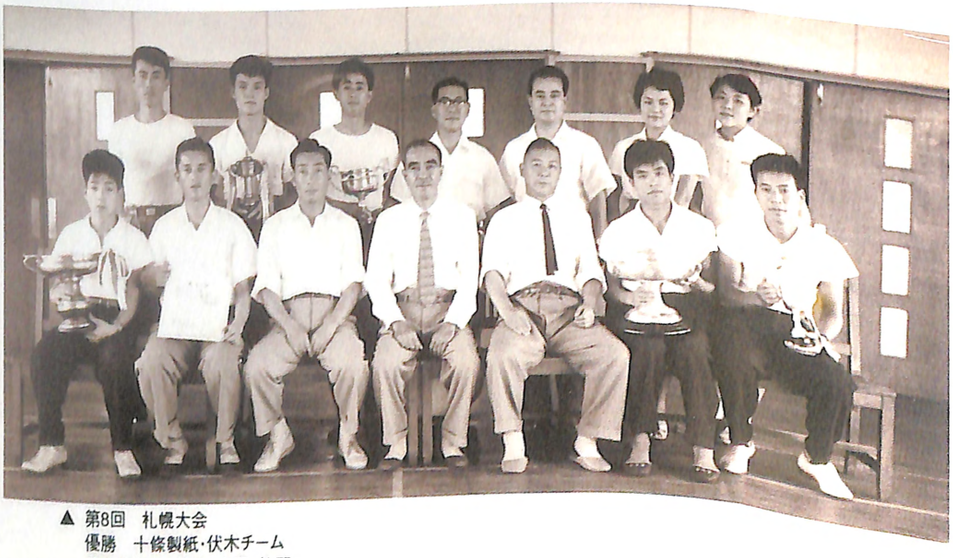
▲第7回大会記念バッヂ



▲ 第7回　岐阜大会（昭和32年10月）
大会風景



▲ 第7回大会優勝
男子　十條製紙・伏木チーム
女子　森岡経理事務所チーム



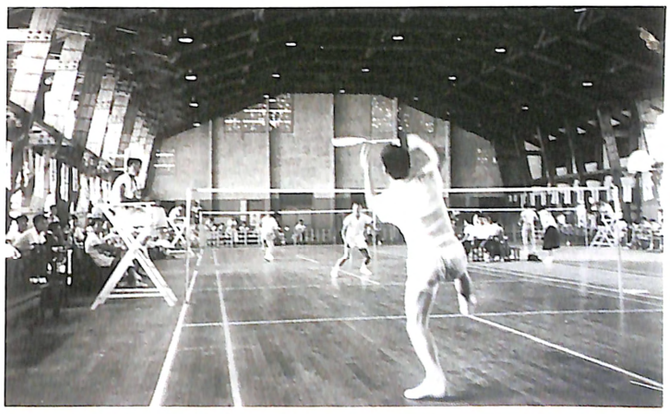
▲ 第8回　札幌大会
優勝　十條製紙・伏木チーム
後列左より　釣谷、大野、佐野
前列左より　扇沢、清水
前列右より　品川、荒木



▲第8回大会記念バッヂ



▲ 第9回　善通寺大会
大会風景



▲ 第9回　善通寺大会
大会風景



▲ 第9回　善通寺大会閉会式
男子団体優勝　十條製紙・伏木チームの表彰



▲ 第9回善通寺大会
トヨタ自工チーム





▲ 第9回大会記念バッチ

◀ 第9回　善通寺大会（昭和34年）
男子優勝　十條製紙・伏木チーム
前列左より　品川　佐野　清水　荒木
後列左より　江守　扇沢　大野



▲ 第10回　名古屋大会（昭和36年1月）
男子団体優勝　十條製紙・伏木チーム
後列左より　山田、江守、清水
前列右より　扇沢、荒木、品川、大野



▲ 第12回　熊本大会
女子団体優勝　金森藤平商店（橋、酒井選手）



◀ 第12回　熊本大会
男子団体　電電東京初優勝
後列左より　喜多川、沢村、森谷
前列左より　富田、星野（忠）、並木、井門、貝戸、高橋



▲ 第10回大会記念バッチ



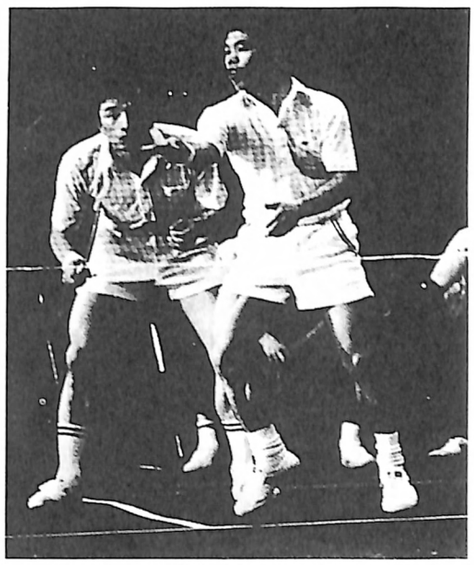
第18回　諫早大会 ▶
女子団体　電電東京初優勝



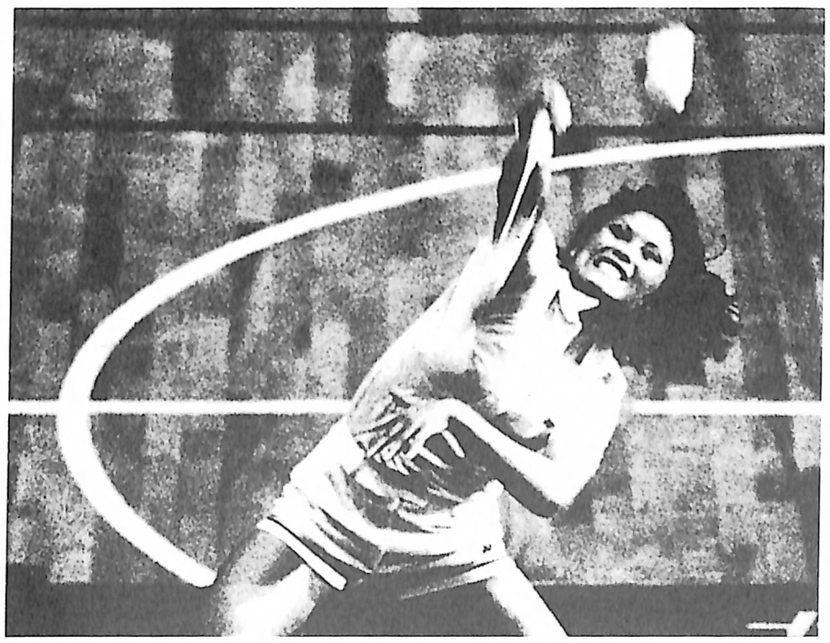
▲ 第26回　藤沢大会
女子複優勝　湯木、池田組（河崎ラケット）
（BK）



▲ 第26回　藤沢大会
背面ネームが初めて採用された
（BK）



▲ 第26回　藤沢大会
池田・尾崎組（電電東京）
（BK）



▲ 第26回　藤沢大会
徳田選手（サントリー）
（BK）



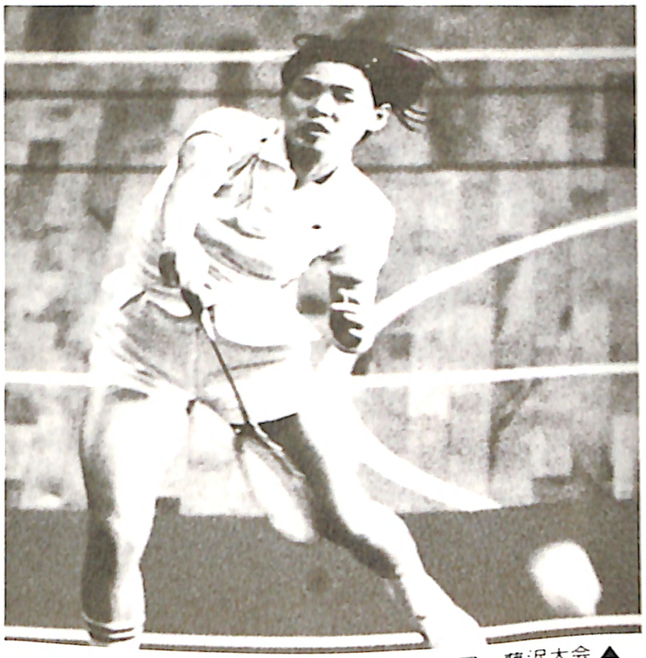
▲ 第26回　藤沢大会
混合複優勝　栂野尾夫妻
（BK）



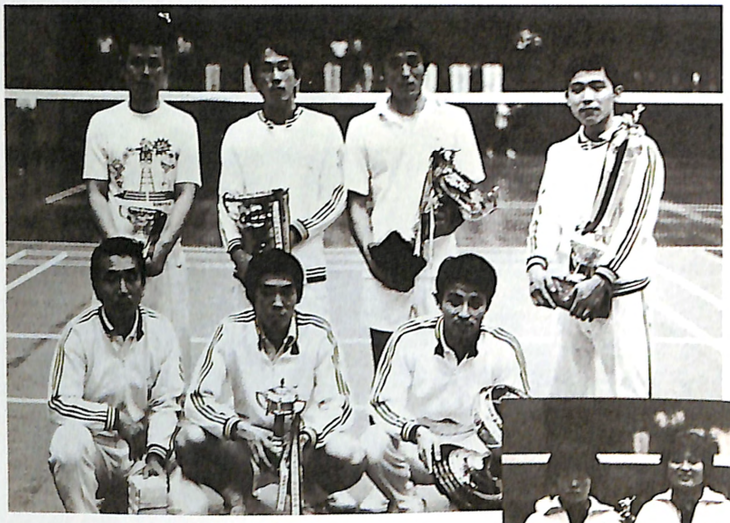
◀ 第26回　藤沢大会
秋本（左）谷（右）選手（サントリー）



◀ 第26回　藤沢大会
女子複3位　石崎・今田組（電電東京）
（BK）



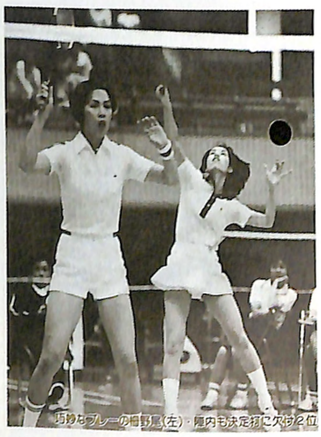
第26回　藤沢大会 ▲
女子単3位　梅野尾（ヨネックス）
（BK）



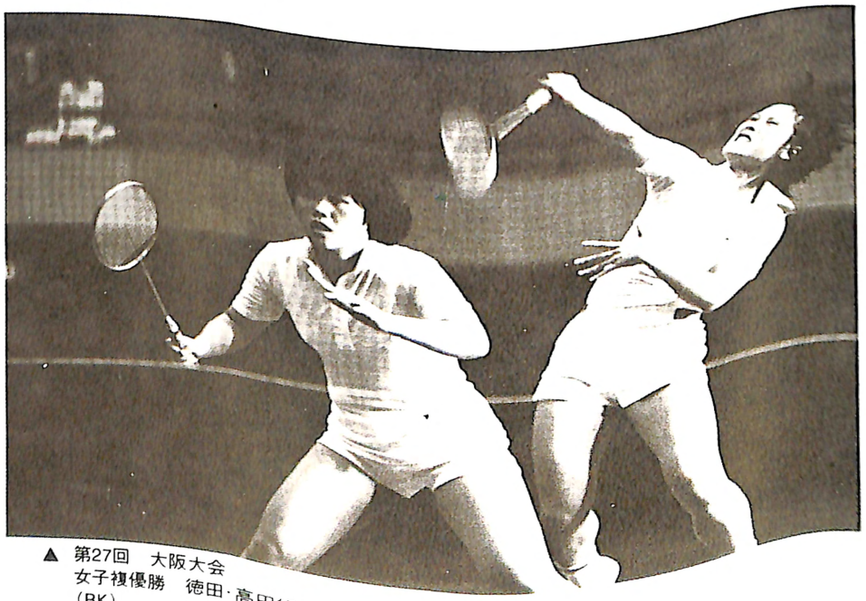
◀ 第27回　大阪大会
初優勝の河崎ラケットチーム
（BK）



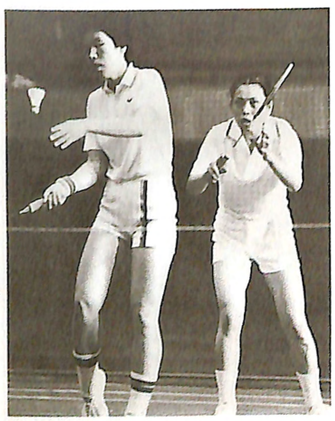
▲ 第27回　大阪大会
2連勝のサントリーチーム
（BK）



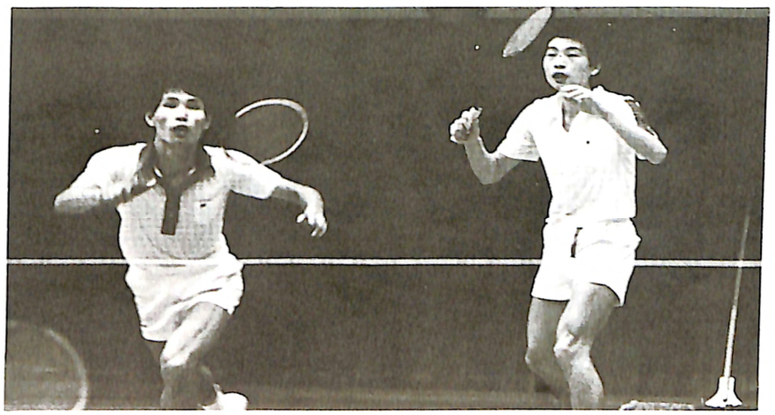
◀ 第27回　大阪大会
女子複2位
梅野尾・陣内組
（ヨネックス）
（BK）



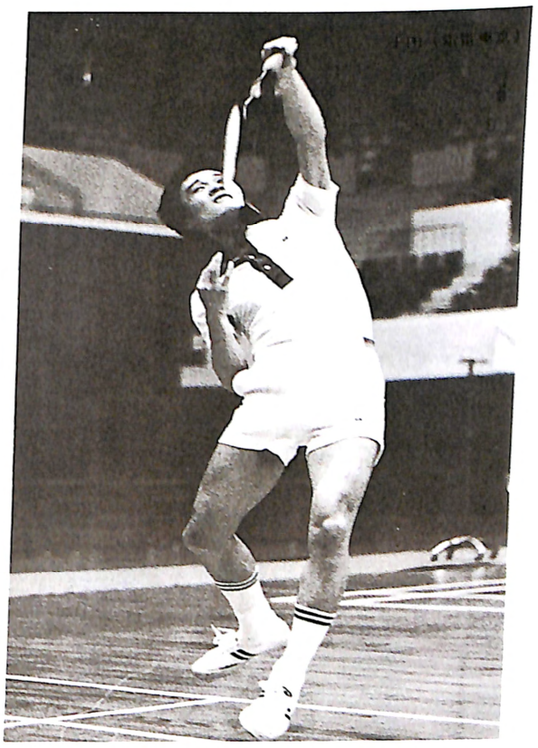
▲ 第27回　大阪大会
女子複優勝　徳田・高田組（サントリー）
（BK）



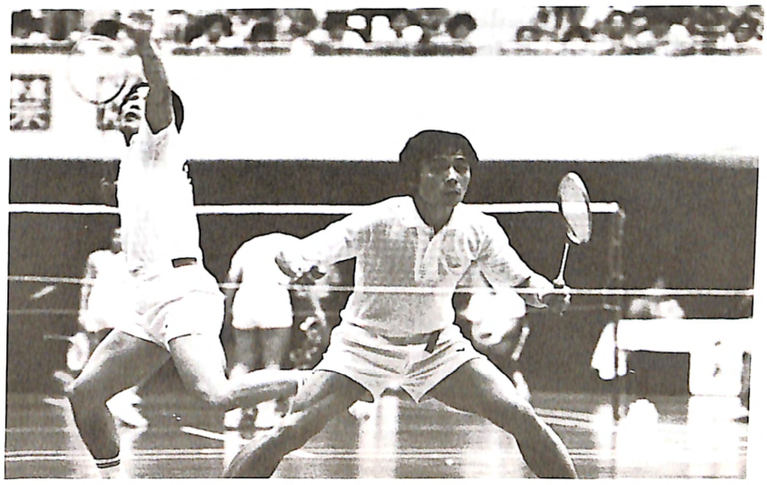
第27回　大阪大会 ▶
女子複3位
湯木・池田組
（河崎ラケット）
（BK）



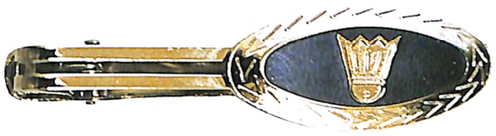
▲ 第27回　京都大会
男子複堂々の3連勝
梅野尾・飯野組（ヨネックス）
（BK）



▲ 第27回　京都大会
男子単準優勝
土田（電電東京）
（BK）

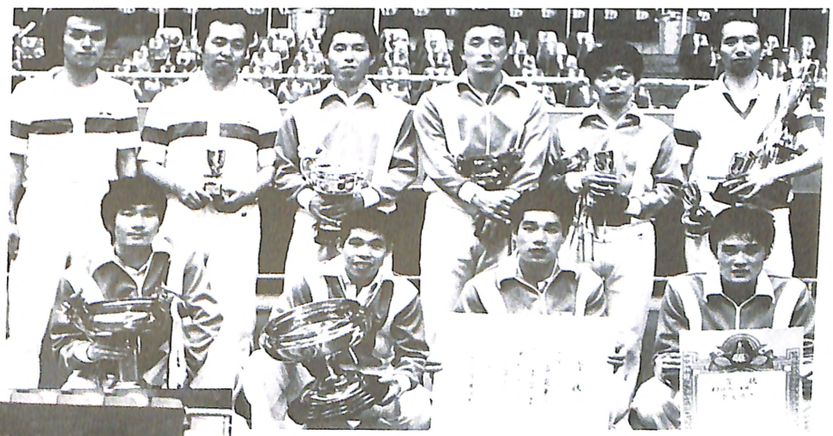


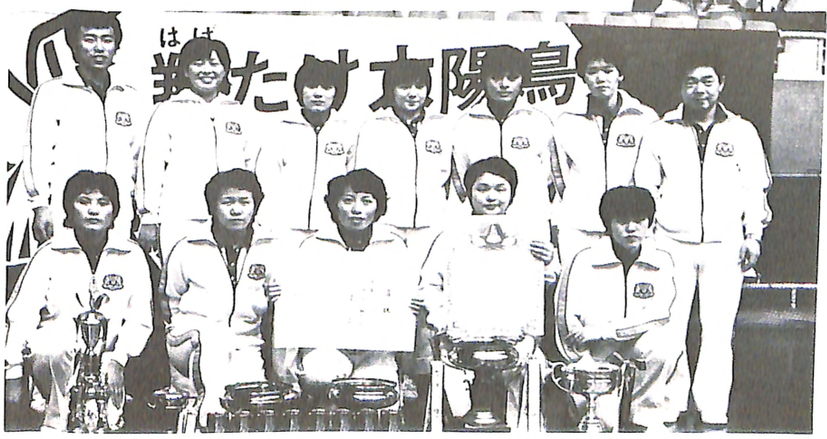
▲ 第27回　京都大会
男子複準決勝
今泉・牧野組（高岡市役所）
（BK）



▲第27回大会タイピン

第28回　東京大会 ▶
通算5度目の優勝を果たし喜色満面の電電東京チーム
（BK）





◀ 第28回　東京大会
惜しくも三冠は逃したが勢い天を突く活躍のサントリーチーム
（BK）

第28回東京大会（駒沢体育館）へ秩父宮妃殿下ご臨席



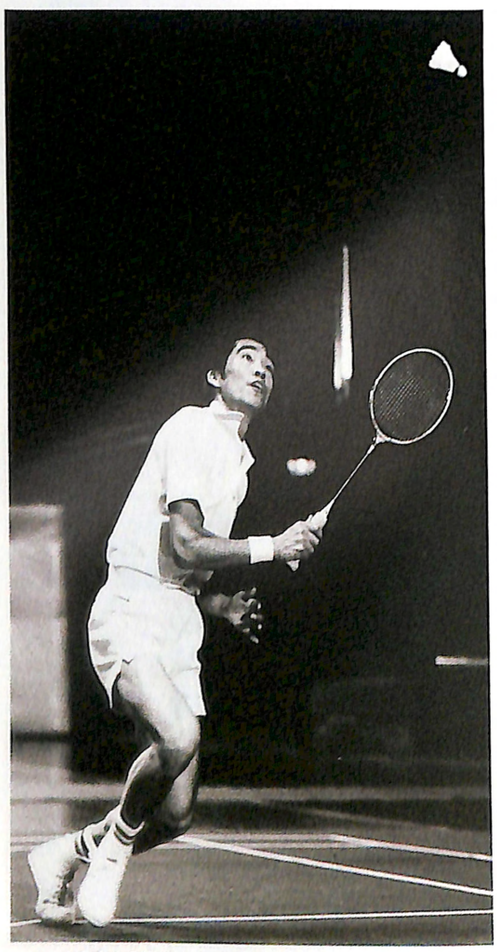
▲ 会場へ進まれる妃殿下と
日本協会　本田会長
日本実連　秋草会長



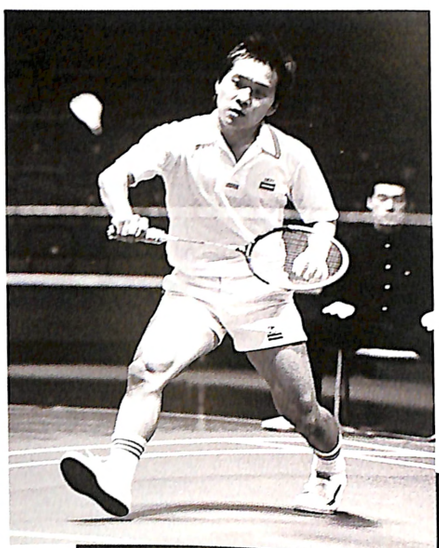
▲ ご観戦中の秩父宮妃殿下



◀ 閉会式で優勝チームへ
秩父宮杯を自ら渡される
妃殿下
電電東京とサントリーチーム
右端は高村理事長



▲ 全日実大会男子単で6回優勝の銭谷欽治



◀ 全日実大会男子単で
3回優勝の小島一平



▲ 全日実31回大会女子単で優勝の米倉よし子



▲ 第30回　　新居浜大会
男子団体優勝（3度目）ヨネックスチーム
（BM）



▲ 第30回　　新居浜大会
女子団体優勝（5度目）サントリーチーム
（BM）



▲ 第31回大会
女子優勝（2度目）ヨネックスチーム
（BM）



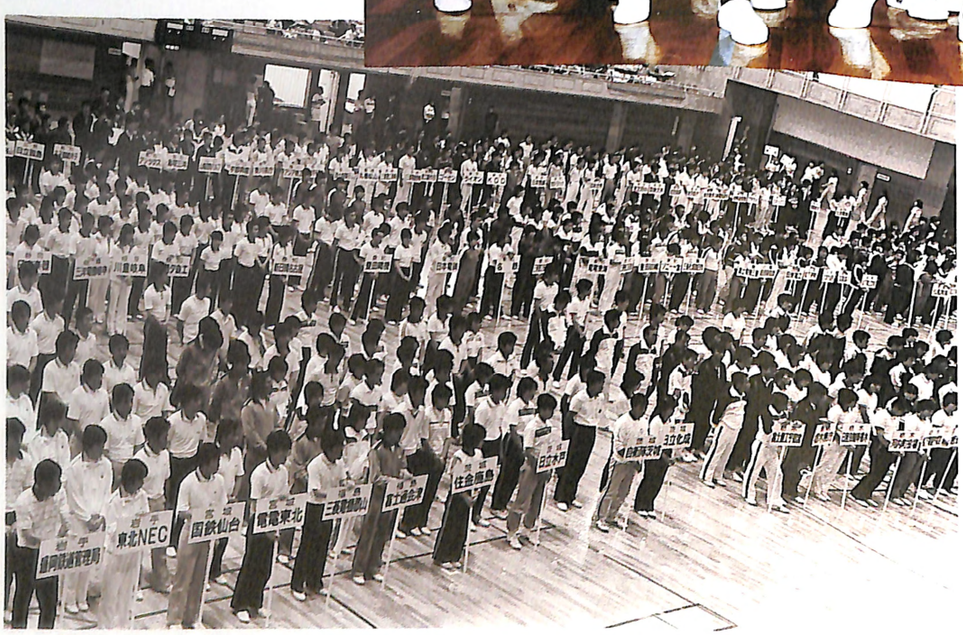
▲ 第32回　立川大会
女子優勝(6度目)　サントリーチーム
(BM)



▲ 第32回　立川大会
優勝決定の瞬間　応援席から紙テープが散る
(BM)



第32回　立川大会
男子優勝(8度目)　電電東京チーム
(BM) ▶



▲ 第32回　立川大会　開会式
(BM)



▲ 第33回　札幌大会（昭和58年）
優勝決定の瞬間歓喜のサントリーベンチ
（BM）



▲ 第33回　札幌大会（昭和58年）
選手ふれあい広場テープカット



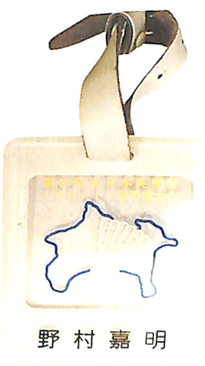
▲ 第35回　藤沢大会（昭和60年）
嬉し涙でベンチを引揚げる三洋電機チーム
（BM）



▲ 第35回　藤沢大会（昭和60年）
女子優勝（初）　三洋電機チーム
（BM）



▲ 第35回　藤沢大会（昭和60年）
男子優勝（11度目）　NTT東京チーム
（BM）



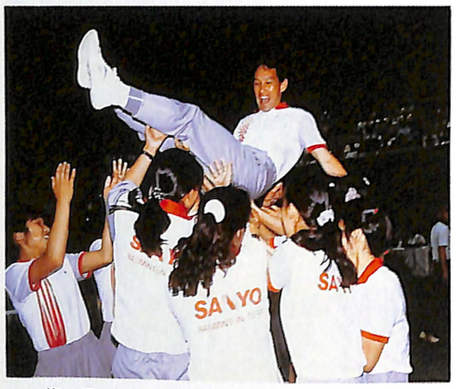
▲ 第35回大会記念ネームプレート



◀ 第37回大会
男子優勝（13度目） NTT東京
（BM）

第38回 金沢大会（昭和63年）
女子優勝（4度目） 三洋電機
▼ （BM）





▲ 第38回 金沢大会（昭和63年）
三洋電機 宇治監督の胴上げ
（BM）



▲ 第38回 金沢大会（昭和63年）
大会風景



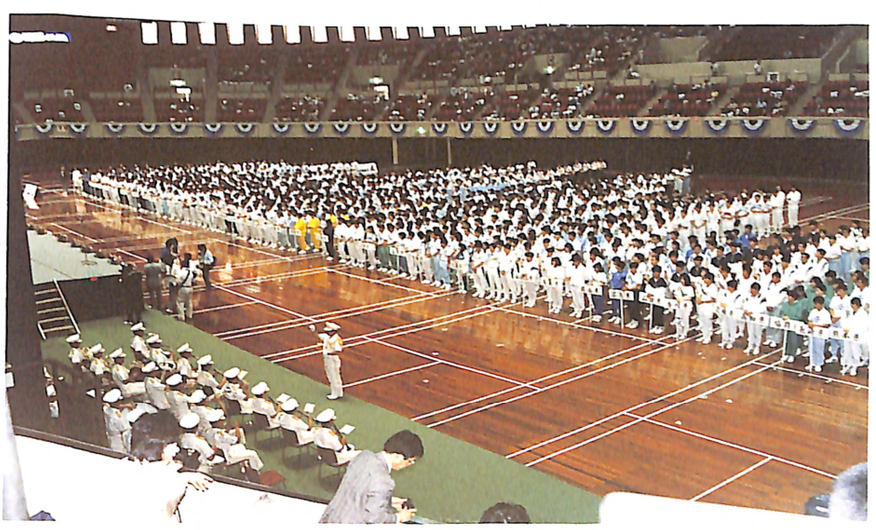
◀ 第39回大会
男子優勝（15度目） NTT東京
（BM）



▲ 第39回大会
女子優勝（9度目）　サントリーチーム
（BM）



▲ 第39回大会
サントリー　山本監督の胴上げ
（BM）



第40回　神戸大会（平成2年）▶
開会式



▲ 第41回　仙台大会（平成3年）
初の決勝進出を決め、沸き立つNTT北海道ベンチ
（BM）



第42回　広島大会（平成4年）▶
サントリーの4連覇を阻み
NTT東京女子が24年振り
優勝の瞬間
（BM）



▲第43回　高岡市・新湊市・小杉町大会（平成5年）
勝利を喜び合うNTT東京　松野、柳谷組
（BM）



▲第46回　東京大会（平成8年）
トナミ運輸初優勝の瞬間
両拳を握って床にくずれ喜ぶ鈴木選手



▲第44回　福岡大会（平成6年）
男子優勝（20度目）　NTT東京チーム
（BM）



▲第44回大会記念品博多人形



▲第45回　札幌大会（平成7年）
大会風景



▲第45回　札幌大会（平成7年）
男子優勝（21度目）　NTT東京
（BM）



▲ 第46回　東京大会（平成8年）
選手宣誓（町田選手）
（BM）



▲ 第46回　東京大会（平成8年）
記念レセプション　鏡開き
（BM）



▲ 第46回　東京大会（平成8年）
開会式
（BM）



◀ 第46回　東京大会（平成8年）
大会風景



▲ 第46回　東京大会（平成8年）
優勝を決め喜びの胴上げ　三洋電機チーム
（BM）



第46回　東京大会（平成8年）▶
女子優勝（5度目）　三洋電機
（BM）



▲ 第46回　東京大会（平成8年）
男子優勝（初）　トナミ運輸
（BM）



▲ 第46回　東京大会（平成8年）
創部7年王者NTT東京を下し
悲願のVを達成し喜びの胴上げ
トナミ運輸
（BM）



◀ 第46回　東京大会（平成8年）
記念レセプションにおいてアトランタ五輪
出場選手の壮行会を行い会長らと記念写真
後列左から　阪本、松尾、水井妹、水井姉、町田選手
（BM）

ラケットの変遷

写真の説明

〔種類（構造）、使用時期（最盛期）、
写真ラケットの銘柄、重量、当時の価格〕



1 ウッドゥン（Wooden）ラケット（全木製ラケット）
昭和26～35年頃（サンバタ製）
130～170g　¥1,000

2 スチール・シャフトラケット（シャフトの部分だけスチールパイプ、フレームは木製）
昭和33～45年頃（Dunlop製）

3 スチール・シャフトラケット（構造は2と同じであるがイチョウ部分（シャフト差し込み部分の木製部）が少々短い　昭和40～55年頃
KAWASAKI GRAND SLAM B-75　（湯木博恵選手愛用ラケット）　110～170g
¥5,000

4 オールスチールラケット（フレーム、シャフト共スチール製でイチョウ部継手有）　昭和50～55年頃　（CARLTON製）（リムスイキンがワールドカップ '80で使用したラケット）

5 フレーム特殊アルミ製・シャフトはカーボン製ラケット（イチョウ部継手有）　昭和53～60年頃
（YONEX CARBONEX8）　90～99g
¥11,000



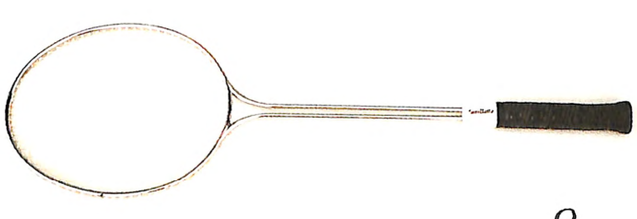
6 オールカーボンラケット（フレーム、シャフト共カーボン製イチョウ部継手有）　昭和57～現在
（YONEX CARBONEX15）　90～99g　¥14,000

7 オールカーボン一体形（イチョウ部継手無フレーム、シャフト一体形）　昭和59～現在
（YONEX CARBONEX20）　90～99g　¥18,000

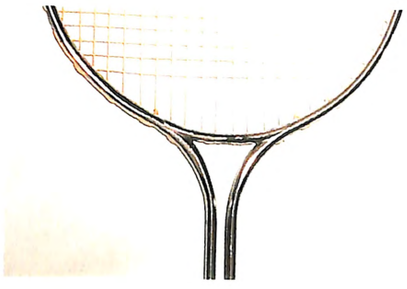
8 シャフト2本形・オールスチールラケット（シャフトが2本立て）
昭和49～51年頃　（サンバタ製　S-74）　¥5,000　あまり普及しなかったが異例の特長のあるラケットであった。

歴代のラケットの違いはフレームとシャフトのつなぎ目（イチョウ）の変化にある。これはメーカーが苦労した部分の歴史でもある。
この40年間にすばらしいラケットとなった。

注1）4 と同時代にフレーム木製、シャフトカーボン製のものもあった。¥7,500



8



（記念誌編集委員
野村嘉明）

日本実業団バドミントン連盟
歴史

1.年表
2.日本実連のあゆみ
3.過去の総会、常務理事会、理事会審議内容
4.日本実連を支えた人々
　歴代の会長、理事長、役員、事務局、
　特別功労賞、功労賞受賞者一覧表
5.大会の概観
6.全日本実業団選手権大会の思い出　わたしと全日実大会
7.座談会
　(1)創草期を顧みて　（当時の監督、選手）
　(2)現大会を振返って　（45回大会参加監督、選手）
　(3)日本実連運営を顧みて　（日本実連運営を顧みて）
8.特別寄稿　バドミントンプレーの変遷
9.全日本実業団バドミントン選手権大会要項
10.日本実業団バドミントン連盟年度登録状況
11.全日本実業団バドミントン選手権大会参加状況

1．年表

年（西暦年）	回	開催地	日本実業団バドミントン連盟（全日本実業団バドミントン選手権大会）	財団法人日本バドミントン協会	関連事項 世の中の出来事
昭和21年（1946）				▷日本バドミントン協会創立(11月2日)初代理事長宮沢宏之就任	
昭和22年（1947）				▷初代会長に白山源三郎就任（4月）	
昭和23年（1948）				▷第二代理事長角田賢三就任（4月） ▷第二代会長山田文雄就任（5月） ▷第1回全日本選手権大会開催（5月東京都） ▷第1回男子世界選手権(ト杯)大会開催（英国）	△日本国憲法施行 ◇全国高等学校体育連盟結成(7月) ◇大日本体育協会は日本体育協会と改称される（11月）
昭和24年（1949）				▷第4回国民体育大会にオープン種目で初参加（10月東京都） ▷日本体育協会に加盟(11月23日) ▷初の全国総会開催（横浜）	△1ドル360円の単一為替レート決まる
昭和25年（1950）				▷第1回全日本学生大会始まる ▷全日本学生連盟創立 ▷全国高校体育連盟（バドミントン専門部）創立 ▷シャトルコック公認制度設定 ▷第5回国体でバドミントン正式種目となる（10月名古屋）	
昭和26年（1951）				▷第1回全国高校選手権大会(S25年度)開催（横浜市）	△サンフランシスコ講和条約日米安保条約調印
昭和27年（1952）	1	東京都	○第1回全日本実業団大会始まる（日本協会主催)男子団体2D3S、女子団体1D2S 参加男子24女子13チーム(2月)	▷国際連盟（IBF）に正式加盟 ▷公認審判員資格審査規定制定	
昭和28年（1953）	2	横　浜	○(2月)　参加男子24女子8チーム	▷日本協会事務所東京YMCA(5月記念体育館（お茶の水）へ移転	△テレビ放送開始
昭和29年（1954）	3	長　[illegible]	[illegible]加男子24女子5チーム	▷第3回トマス杯大会に初参加（11月香港）	
昭和30年（1955）	4	名古屋	○(3月)　参加男子24女子11チーム		◇国体開催基準要項制定（1月）
昭和31年（1956）	5	高　岡	○(3月)　参加男子29女子12チーム	▷日本バドミントン協会第三代会長に本田弘敏就任（10月）	○第1回世界女子選手権（ユ杯）大会開催
昭和32年（1957）	6	高　松	○(3月)　参加男子28女子10チーム	▷第三代理事長井沢三郎就任（4月）	
	7	岐　阜	○(8月)　参加男子36女子17チーム ○全日実大会に秩父宮妃杯下賜		
昭和33年（1958）	8	札　幌	○(7月)　参加男子23女子16チーム ○全日本社会人大会(個人戦)を併開催	▷全日本社会人大会始まる ▷第3回アジア大会東京大会で男子チーム優勝	
昭和34年（1959）	9	善通寺	○(8月)　参加男子43女子12チーム □大会開催時監督会議でシード件でもめ連盟早期創立を決議	▷アジアバドミントン連盟（ABC）に加盟	△伊勢湾台風で東海地方大被害うける
昭和35年（1960）				▷日本バドミントン協会大会運営規定制定（4月）	△カラーテレビ放送開始

注1）お名前は敬称省略させて頂きました

注2）記号　□：日本実連関係　○：全日実大会関係　▷：日本協会関係　◇：関連事項　△：世の中の出来事

1．年表

年（西暦年）	日本実業団バドミントン連盟（全日本実業団バドミントン選手権大会） 回	開催地		財団法人日本バドミントン協会	関連事項 世の中の出来事
昭和36年（1961）	10	名古屋	○（1月） 参加男子38女子16チーム □倉敷市ダイヤ旅館にて日本実業団連盟創設を決議（7月） □日本実業団連盟創立 初代会長鞆 勉、初代理事長増井益二が就任（7月）	▷第四代理事長に森友徳兵衛就任（1月） ▷秋田国体時日本協会総会にて日本実業団連盟の創設を承認（10月） ▷日本教職員連盟創立	△ソ連、米、人間衛星打ち上げに成功
	11	倉　敷	○（7月） 参加男子42女子17チーム		
昭和37年（1962）	12	熊　本	○（4月） 参加男子32女子18チーム ○全日本実業団大会は日本協会、日本実業団連盟共催となる（全日本実業団大会の表彰状は協会長、連盟会長の二枚になる） ○全日本社会人大会の併開催終わる	▷全日本教職員大会始まる ▷第1回日韓競技大会開催（名古屋）	
昭和38年（1963）	13	三　条	○（6月） 参加男子56女子19チーム ○実業団個人戦開始 ○女子団体2D3Sとなる ○都道府県代表の出場となる ○NHKラジオ（新潟）実況放送	▷小宮好雄が日本人として初めて全英大会に出場 単ベスト8 ▷初代事務局長に村山幸雄就任（4月）	△ケネディ米大統領暗殺される（11月）
昭和39年（1964）				▷第6回男子世界選手権(トマス杯)大会チャレンジラウンド東京で開催日本はアメリカゾーンで出場権獲得し出場インドネシアが選手権保持国になる(5月)	◇東京オリンピック大会開催（10月） △東海道新幹線営業開始
昭和40年（1965）	14	松　山	○（1月） 参加男子50女子17チーム ○大会使用球が陸鳥球から水鳥球となる ○初めて県実連主管となる □第二代会長に米沢滋が就任		◇東京オリンピックのため全日実大会は1月開催となる △中国文化大革命始まる
	15	北九州	○（6月） 参加男子40女子18チーム ○秩父宮妃殿下ご来臨		
昭和41年（1966）	16	大　阪	○（6月） 参加男子61女子20チーム ○実業団大会及び社会人大会を国体リハーサル大会とすることが決定 ○以後都道府県実連主管となる	▷第4回ユ杯大会で日本は米国を破り初優勝（5月ニュージランド） ▷第56回全英大会で秋山真男が男子単準優勝	
昭和42年（1967）	17	勝　山	○（6月） 参加男子67女子28チーム ○国体リハーサル大会として開催		
昭和43年（1968）	18	諫　早	○（6月） 参加男子68女子28チーム ○国体リハーサル大会として開催		△札幌医大で日本初の心臓移植手術
昭和44年（1969）	19	釜　石	○（6月） 参加男子62女子27チーム ○国体リハーサル大会として開催	▷第五代理事長に川端昇市が就任（1月） ▷第5回ユ杯大会東京で開催 日本初防衛に成功（6月） ▷第59回全英選手権大会で湯木博江が日本人として初めて女子単に優勝（3月） ▷協会機関誌「バドミントン界」を創刊	△アポロ11号人類初の月着陸に成功 △東名高速道路が全線開通
昭和45年（1970）			○和歌山県湯浅町で開催されることになっていた20回大会は湯浅町の公民館の補助金詐取事件があり大会返上となり代替開催地折衝の結果高松市開催となる	▷第60回全英選手権大会で竹中悦子が女子単に優勝、男子単に小島一平ベスト4（3月）	△日本万国博開催 世界77ヵ国参加

注1）お名前は敬称省略させて頂きました　　注2）記号 □：日本実連関係　○：全日実大会関係　▷：日本協会関係　◇：関連事項　△：世の中の出来事

1．年表

年（西暦年）	回	開催地	日本実業団バドミントン連盟（全日本実業団バドミントン選手権大会）	財団法人日本バドミントン協会	関連事項 世の中の出来事
昭和46年（1971）	20	高　松	○（２月）　参加男子66女子17チーム ○敗者審判制にて実施	▷第61回全英選手権大会で湯木博恵高木紀子組は初の女子複優勝（３月） ▷第１回全国中学生大会始まる（７月東京都）	△日中国交樹立共同声明の調印 △１ドル360円の固定相場制終わる
	21	鹿児島	○（７月）　参加男子69女子22チーム ○国体リハーサル大会として開催		
昭和47年（1972）	22	茂　原	□第二代理事長に今武一が就任 ○（９月）　参加男子87女子32チーム ○国体リハーサル大会として開催	▷第62回全英選手権大会で竹中悦子相沢マチ子組が女子複に中山紀子が女子単に優勝（３月） ▷第６回ユ杯大会が東京で開催され日本は３回連続優勝（６月）	△冬季オリンピック札幌大会開催（２月） △沖縄施政権の返還沖縄県に（５月）
昭和48年（1973）	23	石　岡	□第１回実業団対学生団体対抗戦開催（４月東京都千代田体育館） ○（７月）　参加男子86女子33チーム ○国体リハーサル大会として開催	▷第六代理事長に小宮淳宏が就任（２月） ▷第63回全英選手権大会で竹中悦子・相沢マチ子組が女子複に連続優勝（３月） ▷沖縄本土復帰記念として沖縄特別国体が開催された（５月） ▷日中国交回復に・い第１回日中大会が東京他９会場で開催された（９月）	△石油危機深刻化
昭和49年（1974）	24	松　阪	○第２回実業団対学生団体対抗戦開催（４月東京都板橋区体育館） ○（６月）　参加男子102D女子38チーム ○実業団大会の規模が国体と大差となり国体リハーサルとすることを中止と決定	▷第64回全英選手権大会で湯木博恵が女子単に二度目の優勝、池田信孝・栂野尾昌一組が男子複にベスト４（３月）	
昭和50年（1975）	25	高　岡	□第３回実業団対学生選抜（団体）大会開催（４月東京都板橋区立体育館） □第三代理事長に諸星三代治が就任 ○（７月）　参加男子107女子47チーム ○ユニホーム背面にチーム名をいれることを決定 ○国体リハーサル大会は[illegible]	▷第65回全英選手権大会で湯木博恵が女子単（２年連続３回目）、竹中悦子・相沢マチ子組女子複（３回目）に優勝（３月）	△新幹線博多まで開通（３月）
[illegible]（1976）	26	藤　沢	□第４回実業団対学生選抜（団体）大会開催（４月東京都板橋区立体育館）（ユニホーム背面にチーム名入れ実施） ○（６月）　参加男子117女子44チーム ○ユニホーム背面にチーム名を入れ実施 ○女子団体決勝テレビ初放映	▷全英大会出場をボイコット（中国ＩＢＦ加盟問題でＡＢＣ連盟決議に同調　（ＡＢＣ加盟国と西欧諸国が対立）	△ロッキード事件 △ジョギングブーム
昭和52年（1977）	27	大　阪 京　都	□第５回実業団対学生選抜（団体）大会開催（１月国立代々木第２体育館） □第四代理事長に高村工三朗が就任 ○（６月）　参加男子99女子51チーム ○団体戦は大阪、個人戦は京都で開催 ○女子団体決勝テレビ放映	▷第七代理事長に小口政雄が就任（２月） ▷第１回世界選手権大会（個人）で栂野尾悦子・植野恵美子組女子複に優勝（スエーデン・マルメ） ▷第１回全日本総合団体選手権大会開催（２月国立代々木第２体育館）	△カラオケブーム始まる
昭和53年（1978）	28	東　京	□第三代会長に秋草篤二が就任 ○（６月）　参加男子93女子44チーム ○秩父宮妃殿下ご来臨（開会式・閉会式） ○出場選手・役員全員参加のレセプション開催（駒沢オリンピック公園総合運動場体育館）	▷第８回ユ杯大会で日本４度目の優勝（５月ニュージランド） ▷第68回全英選手権大会で徳田敦子・高田幹子組女子複で優勝 ▷世界バドミントン連盟（ＷＢＦ）結成される	△成田空港開発

注１）お名前は敬称省略させて頂きました　　注２）記号　□：日本実連関係　○：全日実大会関係　▷：日本協会関係　◇：関連事項　△：世の中の出来事

1．年表

年（西暦年）	日本実業団バドミントン連盟（全日本実業団バドミントン選手権大会） 回	開催地		財団法人日本バドミントン協会	関連事項 世の中の出来事
昭和54年（1979）	29	岡山 倉敷	□第五代理事長に丸山芳春が就任 ○（6月） 参加男子101女子40チーム ○女子団体決勝テレビ放映	▷第1回日本リーグ開催（12月～1月 東京、京都、高岡、高崎、大阪） ▷協会機関誌「バドミントン界」廃刊 ▷第1回ワールドチャンピオンズカップトーナメント開催（前年までの国際競技大会の発展大会でヨネックスジャパンオープンの前身となる）（1月東京都）	△第2次石油ショック
昭和55年（1980）	30	新居浜	○（6月） 参加男子101女子44チーム ○女子団体決勝テレビ放映 ○全国理事長会開催（上荻荘9月）個人戦廃止の件審議	▷国体の教員種目廃止（成年の部に吸収）及び従来全県出場は成年の部のみであったが各部輪番制となる（35回栃木大会）	△モスクワオリンピック開催 日、米、中、西独など不参加
昭和56年（1981）	31	名古屋	□第四代理事長に真藤恒が就任 □第六代理事長に相沢和夫が就任 ○（9月） 参加男子113女子63チーム ○ユ杯大会、大相撲名古屋場所の関係で9月開催となる	▷第9回ユ杯大会で日本5度目の優勝（5月東京、名古屋、京都） ▷第八代理事長に小飼栄一が就任（7月） ▷本田弘敏会長死去（10月18日） ▷第四代会長に桜内義雄が就任（11月2日） ▷新IBF結成（IBFとWBFの合体）今北基夫が同理事に就任	
昭和57年（1982）	32	立川	○（6月） 参加男子124女子62チーム ○個人戦の部廃止となる ○シードチーム以外の組合せは大会地での抽選会にて実施となる ○選手ふれあい広場設置 ○参加料6万円に値上げ（従来3万円） ○プログラムB5サイズからA4サイズに変わる ○日本実連事務所西新宿に設置	▷第1回ヨネックスカップジャパンオープン開催（1月東京都） ▷日本バドミントン協会は法人化について文部省の認可をうけ財団法人日本バドミントン協会となる（4月1日付） ▷第1回全日本ジュニア選手権大会開催（12月東京都）	△東北新幹線（6月）上越新幹線（11月）営業開始 △テレホンカード発売
昭和58年（1983）	33	札幌	○（6月） 参加男子105女子62チーム ○選手ふれあい広場設置	▷日本家庭婦人バドミントン連盟創立 初代会長渡辺秀央、初代理事長玉手庸が就任 ▷第1回全日本家庭婦人大会開催（8月東京都田橋区立体育館、駒沢オリンピック公園屋内競技場）	△東京ディズニーランド開園
昭和59年（1984）	34	大阪	□第七代理事長に鈴木龍平が就任 ○（6月） 参加男子116女子66チーム	▷第1回全日本シニア選手権大会開催（10月上尾市）	
昭和60年（1985）	35	藤沢	○（6月） 参加男子122女子62チーム ○連盟20周年記念大会として開催 年齢別個人戦を開催 ○男子団体決勝テレビ放映	▷1992年オリンピック（バルセロナ）に正式種目競技となることが決定	△科学万博筑波で開催 △電電公社民営化でNTTになる
昭和61年（1986）	36	京都	○（6月） 参加男子120女子69チーム ○選手ふれあい広場設置 ○競技報告書B5サイズからA4サイズに変わる		
昭和62年（1987）	37	名古屋	□第八代理事長に原田和坦が就任 ○（6月） 参加男子114女子66チーム	▷協会創立40周年記念祝賀会開催	△国鉄分割民営化でJRになる
昭和63年（1988）	38	金沢	□連盟旗及びマーク制定 ○（6月） 参加男子128女子64チーム	▷第24回オリンピック競技（ソウル）大会にバドミントン競技は公開競技として参加 日本も参加	◇ソウルオリンピック開催 △青函トンネル／瀬戸大橋開通

注1）お名前は敬称省略させて頂きました　　注2）記号　□：日本実連関係　○：全日実大会関係　▷：日本協会関係　◇：関連事項　△：世の中の出来事

1．年表

年（西暦年）	回	開催地	日本実業団バドミントン連盟（全日本実業団バドミントン選手権大会）	財団法人日本バドミントン協会	関連事項 世の中の出来事
平成元年（1989）	39	岡　山	□第五代会長に山口開生（ＮＴＴ社長）が就任 □第九代理事長に江畑誠一が就任 □外国選手の全日本実業団大会出場について規約細則に制定 ○（６月）　参加男子128女子68チーム		△昭和天皇崩御（１月７日） △年号が昭和から平成となる △消費税導入
平成２年（1990）	40	神　戸	○（６月）　参加男子132女子77チーム ○全日実大会40回記念大会として開催記念祝賀レセプション開催		△天皇即位の礼 △雲仙普賢岳噴火 △花の万博
平成３年（1991）	41	仙　台	○（６月）　参加男子132女子84チーム	▷第二代専務理事に今北基夫が就任	△ソ連崩壊 △バブル崩壊
平成４年（1992）	42	広　島	□実連創立35周年記念事業実施決定 ○（６月）　参加男子134女子88チーム ○アジア大会（1994）のリハーサル大会として開催	▷バルセロナオリンピックでバドミントン競技が正式種目として開催され日本も出場	
平成５年（1993）	43	高　岡	○（６月）　参加男子142女子87チーム	▷第三代専務理事に村山幸雄が就任	△Ｊリーグ開幕
平成６年（1994）	44	福　岡	○（６月）　参加男子133女子87チーム	▷国体の出場資格にナショナル選手追加となる	△自社連立内閣誕生 △関西空港開港
平成７年（1995）	45	札　幌	○（６月）　参加男子134女子74チーム □第十代理事長に油井秀男が就任（６月）	▷国体の出場資格に大学生が追加となる	△阪神淡路大震災（１月17日） △オウムサリン事件
平成８年（1996）	46	東　京	○（７月）　参加男子149女子69チーム ○創立35周年記念大会 年齢別個人戦を開催 □記念祝賀レセプション開催（７月） □総会にて①連盟規定改定（専門委員会、事務局の任務、他詳細事項）②表彰規定・細則の改定③役員選出規定制定④旅費規定改正⑤登録料の値上げ（4000円→7000円 [illegible]		▷アトランタオリンピック開催 日本からは男子１名、女子４名参加（７月）

注１）名前は敬称省略させて頂きました

注２）記号　□：日本実連関係　○：全日実大会関係　▷：日本協会関係　◇：関連事項　△：世の中の出来事

2．日本実業団バドミントン連盟のあゆみ

第1回全日本実業団バドミントン選手権大会は昭和27年(1952年)日本バドミントン協会の主催ではじまった。日本バドミントン協会創立（昭和21年（1946年））後6年目のことであった。

その間に全国的な大会は全日本選手権大会(昭和23年)、全日本学生選手権大会(昭和25年)、全国高校選手権大会（昭和26年）が開催された。又第5回国民体育大会（昭和25年）にバドミントン競技が正式種目としての参加があった。

日本実連のあゆみを述べるにあたり、日本のバドミントンの渡来、戦前、戦後のバドミントン界には触れておかないわけにはいかないので、先輩達の記述と筆者のしるところで記しておくことにする。

戦前の日本のバドミントン

日本へのバドミントンの渡来は、定かでないが大正末期（1924年頃）といわれているが、アメリカ、イギリス等から用具やルールがYMCA、ナルトスポーツ商会の手により入手されたのが始まりとある。

その後昭和2、3年頃から横浜YMCA及び横浜YC & AC（外人クラブ）等で練習が始まり、昭和14年横浜YMCAが大阪YMCA、神戸YMCAに講習指導し、その後東西のYMCAを通じて一般に普及して行った。

日本で最初の県協会は昭和15年神奈川県バドミントン協会の誕生である。これは戦前唯一の県協会であった。なお、このメンバーの中に日本コロムビア、古河電線、ナルトスポーツの名がある。実業団チームとしては、[illegible]といえる。

[illegible]YMCAは将来性を期待して学生の指導にあたり、特に慶応大学の学生が多く、昭和17年に慶応大学バドミントン部が結成された。

このメンバーの中には元日本バドミントン協会副会長の森友氏（現故人）の名もある。

その後このクラブが日本学生連盟の創設に尽力することになる。

その後YMCAは講習会の開催。春秋のリーグ戦、YC & ACとの交流試合等を行って10年余普及活動を続けたが時あたかも戦争が激化し時局が緊迫のため、昭和18年他の競技団体と運命を共にし、神奈川県協会も一時解散の止むなきに至った。

終戦直後のスポーツ界

昭和20年（1945年）8月、わが国は対戦国であった連合国のポツダム宣言を受諾、敗戦という結末で太平洋戦争を終えた。即進駐軍の指令と占領政策のもとで、軍国主義的、超国家主義的色彩をもつ活動の払拭が条件づけられた。敗戦という未曽有の経験は物資の欠乏と、精神的な虚脱感をもたらして、スポーツ活動への意欲など起こりえないのは当然のことであった。スポーツ実施の意欲が動くまでには多少の時間的経過を必要とした。

終戦直後の荒廃した世相の中で、食糧難、住宅難、物資難、就職難その上娯楽一つなく殺伐、無味乾燥の生活が続いたが、終戦後数カ月して国民に平和愛好の心を喚起し、生活に潤いと喜びとを与え、士気を高めるための運動として、全国的スポーツ大会の開催が企画されていた。これが第1回国民体育大会として、終戦の翌年（昭21年）に開催された。第1回国体といっても、それは今日の国体と全く様相を異にし、貧弱なものではあったが、この大会の成果は戦前のスポーツの復活に拍車をかけた。

日本バドミントン協会の設立

戦後のバドミントンも荒廃した国土の中では直ぐには復活することはなかったが、いちはやく復活の火の手を上げたのは、戦前に活動していた、横浜、大阪、神戸のYMCAと在外帰国者のバドミントン愛好者であった。又この人達による講習会の開催、東京クラブをはじめとする同好会の設立で急速にバドミントンは復活し、東京を中心として、中央協会設立の気運がたかまった。

そして、第1回国民体育大会開催中、大阪YMCAにおいてその設立準備会が開かれ、ここに日本バドミントン協会が設立されたのである。（昭和21年11月）

協会設立後文部省（府県教委保健体育課）の斡旋もあって都道府県での講習会の開催で普及活動が展開されて行く。一方学生は、慶、明、立の三大学により関東三大学リーグ戦が開催(昭和23年10月)、その後法政が加わり、これが現在の関東学連のもととなり、全日本学生連盟結成へと発展して行く。

職場では在外帰国者の指導及び職域団体を対象とする講習会等により同好者の急増、クラブの結成と急速に普及して行った。

占領下のスポーツ界・バドミントン界

昭和26年頃までは占領軍、特にアメリカの影響をうけた時期である。占領軍はスポーツを奨励してきたので国民は一るの明るさをもつことが出来た。

占領軍は、体育の旧い体勢を打ち破るために、まず学校では軍事的色彩をもった体育教材を除去し、訓練

2．日本実業団バドミントン連盟のあゆみ

組織の民主化を計ろうとした。

これまでのわが国の体育のあり方を是正して、スポーツやレクリエーション及び遊戯を普及発展させるべきとしていた。

このような状況のもとにあって、すべての国民にスポーツを行わせようとして国民体育大会が開催されることになったのである。従って国民体育大会は民主国家の建設とスポーツの大衆化をねらって誕生したのであった。

このように大衆スポーツの呼びかけに呼応して、競技スポーツ（チャンピオン・スポーツ）のための組織も漸く整ってた。

バドミントン界も着々と各種大会が開催された。

昭和23年に入り第１回都民大会、東京都対神奈川県社会人対抗戦、更に第１回全日本バドミントン選手権大会（５月）が開催され、こうして東京を中心にバドミントン普及の機運は高まり、同年11月24日㈶日本体育協会へ正式加盟が承認され、第５回国民体育大会より正式種目として参加することになった。(昭和25年)

国体参加を契機に普及はさらに加速され次々と各連盟の結成を見るに至った。即ち全日本学生バドミントン連盟及び全国高校体育連盟バドミントン専門部が昭和25年に結成され、第１回インカレ(横浜)、第１回インターハイ（横浜）と全国大会が始まった。

全日本実業団大会始まる

そして、昭和27年には全日本実業団バドミントン選手権大会[illegible]で労働大臣杯を戴き、男子団体24チーム、女子団体13チームの参加で２月16、17日の２日間開催された。

主催は日本バドミントン協会、主管は東京都バドミントン協会であった。

試合は男子２複３単、女子は普及度を考慮し１複２単で行われた。

参加チームの内訳は男子は宮城３、福島１、新潟３、宮城３、富山２、長野１、神奈川７、愛知１、大阪２、長崎１。女子は宮城１、新潟３、富山２、東京１、神奈川３、愛知１、京都１、大阪１であった。男子の東京の参加がない事は当時の普及の中心が東京であったので意外である。当時の要項によると参加料は男子千円、女子五百円とある。宿泊料は一泊三食五百五十円但し米、寝巻持参とあり、当時まだ食糧難が続いていた事を物語る。この大会の特記事項としては、この大会参加のトヨタ自工の監督酒巻和雄氏は第二次世界戦争開戦時の「ハワイ真珠湾作戦の特殊潜航艇の生き残り唯一人の勇士」で、当時の新聞はこのことに係るエピソードを交え大きく報じた。

酒巻氏は戦時中はアメリカに抑留され、その間にバドミントンを習得し、終戦帰国後トヨタ自工に就職し、社内のバドミントン普及に務め、所謂トヨタ自工バドミントン部の草分けであった。全日実大会は第１回、２回大会に監督・選手として出場している。

その後全日実大会は第２回横浜大会、第３回長崎大会、第４回名古屋大会、第５回高岡大会、第６回高松大会と経過して大会参加チーム数は大幅に増えなかったが、各府県の職域事業所のバドミントンの普及は進み府県実業団連盟の結成が見られた。

既に全日本学生大会には秩父宮妃杯、全国高校大会に高松宮杯が下賜されており、第７回岐阜大会を前に、全日本実業団大会にも労働大臣杯に加え秩父宮妃杯の下賜を懇願することが日本バドミントン協会常務理事会で決定し、本田弘敏日バ会長と加藤義孝岐阜県協会会長の肝入りで、秩父宮妃杯が下賜され、この時より全日本実業団バドミントン選手権大会は、「秩父宮妃賜杯・労働大臣杯争奪」が冠となった。

第８回札幌大会からは全日本社会人バドミントン選手権大会が全日本実業団大会と併開催となり、団体戦の部は事業所チーム戦、個人戦の部は日バ登録済の社会人選手により競う形となった。

日本実業団連盟結成を決議

第９回善通寺大会の折り、開催前日の監督会議において、チーム編成で岡山教員チームと高松商店チームが、事業所チームでないということが問題となり、又前年ベスト８の三菱重工長崎造船所がシードされていないという組合せ上の致命的なミス等々で、会議は紛糾し夕方から真夜中まで、延々と続き激論の末、それまで日本協会の競技委員会に一任して運営されていたが、出場する事業所の代表が大会の運営に当たることを確認し、出来る限り早期に実業団連盟結成を結論として、午前１時過ぎ散会しました。

客観的には、既に学生連盟、高体連も連盟を結成し９年が経過しており又全日実大会も同じく９年が経過し、この時点で神奈川、長崎、愛媛、京都、北海道、大阪、静岡、千葉は県実業団連盟を創設(以上創設順)しており、全日実大会の運営上からも内的にも外的にも日本実業団バドミントン連盟の創設の機運はあった。

昭和36年１月日本バドミントン協会総会にて日本実

2．日本実業団バドミントン連盟のあゆみ

業団バドミントン連盟と日本教職員バドミントン連盟の設立を決定、設立準備にとりかかることになった。実業団の設立準備委員は、伊藤活次（日バ常務理事）、並木萬次郎委員が担当することになり、規約原案等の作成に着手した。同年６月14日第１回日本実連発起人会が、東京駿河台の旧日本体育協会で、当時日本バドミントン協会理事長の森友徳兵衛の要請で、伊藤活次、並木萬次郎両設立準備委員、斉藤健太郎東京都社会人連盟理事長、北中勇京都実連理事長、十條製紙東京支店の方、三菱造船の方（以上２名お名前失念）以上７名が集まり、規約案、登録方法、登録料について検討した。尚この会において連盟会長には当時の日本バドミントン協会会長本田弘敏の義兄弟である　鞏　勉（当時東京オリンピック資金財団理事長、日本電信電話公社副総裁）を、理事長には増井益二（電電東京副部長（元総裁秘書））にお願いすることに内定した。

その後森友、増井、並木の３名で虎の門の森村ビルのオリンピック資金財団へ鞏氏を訪ね、会長就任を要請し、快諾を得た。

第２回日本実連発起人会は同年７月３日に開催され、前回と同じく登録、登録料・分担金について検討され、次の全日実大会までに、実行予算案を作成し、それに基づき登録料・分担金を決めることとなった。

創立準備の為の諮問等にお世話戴いた方々の中で、特に村上忠治(バドミントントヨダの創始者)、菊地貫能（日産自動車）の二氏が記憶に残っています。

日本実業団バドミントン連盟誕生

創立総会は第11回倉敷大会開催の前日、倉敷のダイヤ旅館で監督会議に続いて開催され、すべて準備のとおり満場一致で決議され、日本実業団バドミントン連盟発足が決定した。時に昭和36年７月25日であった。

創立当時の役員はつぎの通りであった。

☆会　長　鞏　　勉
☆理事長　増井　益二（電電東京）
☆常務理事　並木萬次郎(電電東京)、斉藤健太郎(東京中日)、斉藤信義（東京都庁)、菊地貫能（日産自動車)、鈴木　保（日本鋼管)、内藤　昭（日研化学）
☆理　事　西本秀一郎(国鉄札幌)、相場清一(帝国石油)、社　竹三(岡山市役所)、多賀純一(トヨタ自工)、矢田直宏（松下電子)、溝淵宏二（国際電電)、池田芳麻(電電近畿)、池上　任(高松市役所)、山口賢郎(三菱重工長崎)

日本実業団連盟の誕生は、実連を組織すれば日本バドミントン協会としては、協会の財政が潤うというと言う考え方が大半で、他は何故実連を組織しなければならないのかというのが、当時の現状であった。前者は協会側で後者は都道府県の評議員の大半の意見で、これも各県ともお家の事情が教職員の方々指導の下に実業団という組織があったことにもよったのではないかと思います。



▲設立準備委員会（最終打合せ）（於駿台の日体協会議室）
左手前より　森友徳兵衛、鞏勉、増井益二
右手前より　伊藤活次、並木萬次郎、斎藤健太郎　他

又当時の日本バドミントン協会は財政的にゆとりがなく、会員の登録料に対する見返りをする事業も執行出来ない状況であっただけに、財政的期待も当然であったかもしれない。

第４回トマス杯（1958年）の予選に出場し１回戦で香港に勝ったものの、２回戦以後は財源の関係で途中棄権で以後不戦負けということもあった。選手が学生であったことによる。

当時他の競技団体では、協会と実業団が分立している所もあり、このことで実連が組織されることに危惧する都道府県協会の役員、評議員が多くあった。

又、当時の協会役員、都道府県協会の代表者の大半は「バドミントン競技は個人技であり団体戦は？」という考え方で実業団大会のあり方を疑う者もあった。

昭和30年当初は全日本チャンピオンは暫く学生選手であったが、大企業がまだバドミントンへの認識がなく、有力選手でも大企業への就職は望めなかった。従って全日本実業団大会の出場チームの殆どは、その地方の高校出身の選手で構成していたのが実態であった。

昭和35年頃からは、バドミントンの普及もかなり進み全日実大会への参加も大企業の参加が徐々に増え、有力選手の獲得で選手強化を計る企業も現れ、日本経済の高度成長と相まって学生選手の就職門戸も開けて行った。

そんな中、日本実連は「健全な職場スポーツの拡大」

2．日本実業団バドミントン連盟のあゆみ

「日本のバドミントン競技の育成発達を計る」「全国都道府県実業団連盟の総括機関としての組織・運営」を目指しスタートした。

連盟本部は、当初準備の段階では田村飛行会館の靱氏の事務所で始まったが、この事務所が虎の門のガス協会ビル２Ｂに移転したので、連盟創立時の本部はここになった。

名実とも実業団大会となる

第12回熊本大会より、主催は従来の日本バドミントン協会に日本実業団バドミントン連盟が加わり共催となった。

なお、これを機に全日本社会人選手権大会の併開催を終わりとし、第13回三条大会からは個人戦は実業団加盟登録選手のみのトーナメント戦となった。

同時に女子団体戦がチーム編成１複２単を２複３単に改定された。１複２単では団体戦と認め難いことより予てから懸案となっていたが、女子チームもバドミントンの普及で編成可能となったことによる。

全日本実業団大会もここで名実ともに実業団の大会となった。

全日実大会に水鳥球採用

全日本実業団大会は第13回大会までは、陸鳥（ニワトリ）球を使用していた。水鳥球は当時は輸入品しかなく価格も高く大会で使用することは困難であった。

シャトルコックの検定制度が出来たのは昭和25年（1950年）の第３回全日本選手権大会の時であった。

検定球といっても、当時は原毛の鵞鳥の羽根は入手困難でシャトルコックはニワトリの羽根、即ち陸鳥球であった。

当時は大会１カ月前までにメーカーが持ち込んだシャトルコックを協会役員が試打し合格品を公示し、各府県に通知し、各府県はそれからメーカーに注文してシャトルコックを取り寄せるということで、当時のメーカーの生産量は１カ月の期間にこれに対応出来るようなものではなかった。

試合当日まで大会指定球を打ったことのない選手も多かったと聞きます。その上品質は耐久性に欠け、現在のシャトルコックより飛距離も短く、打球感も少々重い感じであった。

ト杯大会、アジア大会に参加するようになった日本代表選手は敗因はシャトルコックにあるという程であった。即ち国際大会は水鳥球であり、日本選手は陸鳥球の技しか習得していなかったというハンデによるという言い分である。そんなことでシャトルコックの国産化が急がれ漸く水鳥球の国産品が出来、日本協会の検定合格球となったのは昭和40年（1965年）のことであった。

その年日本協会は昭和41年度からの主催大会の使用シャトルコックは水鳥球を使用することを発表した。

国産の水鳥球が、日本で初めて公式試合に採用されたのは、学生の強い要望でその前年（1964年）の全日本学生選手権大会である。それ以前の主要大会は、全日本総合選手権大会のRSL球（英国産水鳥球）を除いて、全て陸鳥球であった。

現在はシャトルコックは全て水鳥球が使用されているが、これも世界中品質が均一化し、飛距離もそろい、耐久性もほゞ整い、昭和30年、40年代ものとは、品質、量的にも格段の差となった。

日本実業団連盟も第14回松山大会（昭和40年）から水鳥球の使用を決定した。これは当時としては画期的なことであった。



▲当時の陸鳥球

東京オリンピックとバドミントン

昭和34年には東京オリンピック開催が決定、スポーツ振興法が制定され「国民総スポーツ」が呼びかけられ、全国民にスポーツの理解が行き届くようになった時期であった。行政的には、文部省に体育局が復活（昭和33年）、学校体育、社会体育、スポーツ振興について体育行政を行う体制が出来、日本のスポーツは東京オリンピックを中軸として展開された。

1995年８月15日付け朝日新聞「スポーツひと半世紀」の記事の中で、東京オリンピックを次のように回顧している。『戦後の復興期を生き抜き、スポーツに取り組んで来た者にとっては、東京オリンピックの16個の金メダル獲得の成果をみるに、スポーツを支えるものは、物や金でなく、情熱や努力であることを感じた。この時はまだ、「負けてなるものか」の根性論や「お国のため」という戦前の日本をひきずったスポーツ観が残っ

2．日本実業団バドミントン連盟のあゆみ

ていた。それが「東洋の魔女」の出現、マラソン３位の円谷選手の悲劇な最後を生んだとしている。』

バドミントンも用具が十分でない中、知られざるスポーツを多くの方の理解と支援を得るには、全く至難なことであったが、開拓の諸氏の努力と情熱が、このオリンピックによる世間のスポーツの理解も加わって大きく開花し、飛躍的な普及と競技力の強化をとげた。

国際舞台で日本選手の活躍は第３回のアジア大会での男子チームの優勝（1958）、小宮好男（トヨタ自工）が全英大会でベスト８入り（1963）、また東京オリンピックの翌々年には日本の女子チームが世界女子選手権（ユ杯）大会に優勝（1966年）を遂げる偉業を達成する等輝かしいものがあった。

第１回全日実大会の出場チーム数は男子24、女子13であったが、第14松山大会（昭和39年度）には男子50、女子17チームの参加、日本協会の登録者数もこの年一万人を越えた。これは日本協会創設期数百人であったことからすると雲泥のものがある（ちなみに平成６年度の登録者数は15万人となっている。）

これらはバドミントン普及の急速ぶりを示している。

昭和40年代に入って、大量生産を可能にした技術革新は、これまでの生産第一主義の考えを弱め、働くことを中心とする生活意識を変えるに至った。即ち余暇を「余った時間」と考えなくなったことである。余暇ということばが、レジャーということばにうって変わって、その傾向が強くなり、労働時間の短縮、家事労働の軽減と発展し、レジャー活用の中でスポーツへの参加は急上昇し、わが実業団の事業所登録数、大会参加数も大きな変化があった。ご婦人方のスポーツの参加も活発となり、ママさんバドミントンが盛んになったのもこの頃からである。

その結果昭和50年代以降の実業団大会の開催に際しては、各開催地とも家庭婦人連盟の絶大な協力を得て実行することになり、有り難い状況が続いている。

全日実大会に秩父宮妃殿下ご臨席

第15回北九州大会は開催誘致の段階で、地元からの希望条件として秩父宮妃殿下のご臨席が提示され、本田日本協会会長のご助力でこれが実現し、全日実大会に初めて秩父宮妃殿下のご臨席のもと開催された。

その時の妃殿下のお言葉は世界と日本のバドミントン情勢を把握されたすばらしい内容で感動した。

その後は第28回東京大会の際ご臨席いただいた。この時は開会式、閉会式にご臨席になり、閉会式では自ら秩父宮杯を授与されました。



▲第15回北九州大会秩父宮妃殿下ご来場

国体リハーサル大会に

国民体育大会は年々規模が拡大し、各競技種目ともリハーサル大会を開催するようになり、日本協会は国体のバドミントン競技のリハーサル大会を全日本実業団大会及び全日本社会人と指定した。

その結果第17回勝山大会よりこの大会が国体リハーサル大会として開催されることになった。

この形式も第18回から第24回大会まで、諫早、釜石、鹿児島、茂原、石岡、松阪と７大会が実施されたが大会規模が国体と相当差があるということで中止となった。

その間は、地元行政機関（国体実行委員会）とその府県協会の尽力で大会は運営されたが、日本実連の執行部の一部理事は大会の受入れ、運営の説明にかなり開催地に足を運んだ苦労があった。

又思いがけない事件が起きたのは、第20回の大会を予定していた和歌山県が、開催地の湯浅町で公民館補助金詐取事件があり大会を返上するという事態が発生したことである。（事件の詳細別掲参照）

幸い地理的にも和歌山に近い高松市がこの事情を理解し、温かい友情をもって、準備期間もない中引き受けてくれた。

この時急なことで審判員が確保出来ないことで、敗者審判制の提案があり、これを受入れ実施となった。

これが敗者審判制の始まりである（その後このことの執行については議論を呼んだ）。

実業団対学生団体対抗戦実施

昭和20年代、30年代は全日本のチャンピオンは学生が占めていたが、昭和40年代に入って実業団の選手と

2．日本実業団バドミントン連盟のあゆみ

なった。又東京オリンピック以降世界に通じる選手の育成はジュニア選手の育成の必要性が確認され、日本のスポーツ界は選手強化をジュニアの強化にも努めることとなった。バドミントンにおいてもこの点が見直され、小学生からバドミントンの取組みが始動した。

日本女子はユ杯大会に優勝するなど華々しいものがあったが、男子は今一つ世界の壁が破れない状況で低迷していた。そこで実業団連盟は現実として学生に立ち上がってもらわなければという願いを込めて、お互いに切磋琢磨しようと合意し、実業団と学生のトップチームが競い合う機会をもつこととなり、昭和48年から実業団対学生選抜（団体）大会が開催された。以後第５回大会（昭和52年）まで行われたが、その後は日本総合団体選手権大会となり、昭和54年には日本リーグの開催となり（当初は学生選抜チームも日本リーグに参加していた。）この大会も発展的解消となった。

男子は実業団が圧倒的に強かったが、女子は学生が制していた。（戦績は記録の頁参照）

ユニホームの背面にチーム名が入る

バドミントンの競技スタイルは、白のもつ純粋、潔白、清潔のイメージから、全体として何よりも品位を保ちうるスタイルの色として、当時の大会運営規定には「着衣はブレザーコートを除き全て白一色を原則とする」と規定していました。

バドミントンの大会に目を向けて見ますと、多数のコートに白一色の選手がネットに対して入り乱れ競技している。観客側の立場になると全く誰が競技しているのか不明で、観客無視の状態が実状であった。たとえコート上ですばらしいプレーが展開されても名前の分からない選手のプレーを追うことは観客にとってこれほど興味を半減するものはありません。

実業団大会にあっては、応援に来た同僚、会社の応援団がわがチームはどこで試合しているのか全く分からないという声が高まっていた。実業団の性格上からも思わしくない状態でした。また取材にかけつける報道記者からも不満の声があった。そこで日本実連では、ユニホームの背面にチーム名を表示することを決議し、日本協会総会の承認をうけ実行することになった。これによって、観客の立場になって試合を見やすくすると同時に、選手のチーム意識を高めること、競技の進行をスムーズにすること（競技役員のチームの掌握が円滑になる）等ねらい通りの成果を得、好評をうけることができました。

これを実現しなかったら、バドミントンはやるスポーツで、見ても楽しめるスポーツで無くなっていたと思います。この採用は第26回藤沢大会（昭和51年）からであった。この大会では女子団体決勝が初めてテレビ放映され背面のチーム名は効果を発揮し観戦し易くした。

以後この背面ネームはどの大会にも採用され定着したので実連としても画期的な事であったと評価している。

一方この背面ネームの採用を関心しないとする者もあった。プロスポーツならともかく紳士のスポーツとして誇り高いバドミントンであるべきが、企業色むき出しでコートの上でまで宣伝をやらなくてよいと異論を立てていた。又費用がかかってこまる等立場の違った見方の方があった。

開催地について

国体リハーサルとして全日本実業団大会が開催されていた時期は執行部はこの大会の開催地の誘致について、心配無用であったが、執行部として昭和50年以降は開催地の誘致について一時悩まされた時期があった。大会の規模が大きく成り過ぎたため引受け手が中々思うようにならなかった。そんなことで必然的に常務理事の地元に打診し決定する傾向が続いた。そうした状況を打開すべく、常務理事会では、開催地は選手の集まり易い所を選ぶということで、特別のことを除いて新幹線上の開催地とすることを不文律ながら決めて誘致していた。最近ではあるイベントのリハーサルとして立候補する所もあり結構なこともある。その例が金沢大会（第46回国体のため）、広島大会（アジア大会のため）であった。しかし全体的に不便な所は避けなければならないとしている。

開催地の決定は大会の規模が相当膨大なものとなっているので、これを誇らしくするのでなく縮小を考えないと今後開催地誘致は難しい状況にある。

日本リーグの誕生

東京オリンピック以後日本のスポーツ界は大きく変わった。テレビの普及に伴い広告会社がお膳立てする競技会、スポンサー付きの冠大会等も盛んになった。

そして、サッカー、バレーボール、アイスホッケー等は日本リーグを発足するなど華々しいものがあった。

日本リーグの発足は、サッカーにおける西独クラマー氏の提唱により「年に１回（トーナメントによる選手権）では実力は上がらない、お互いにより多く実力を

2．日本実業団バドミントン連盟のあゆみ

競わないと強くならない」という発想によるもので、結果として、「やること」「みせること」を両立させて、普及率、競技力の向上を果たすというものである。

わがバドミントンも遅れてはという意気込みで昭和52年日本リーグのねらいを

①実業団が主体となった日本バドミントンの競技力向上

②バドミントンの普及活動の推進
（高度のプレーを全国転戦で見せる。TVの活用。地方協会への支援）

③国際的実力を養う

として日本リーグの検討に入った。

一方全日本実業団大会も150チーム、1500名の選手の参加する大会となり、この大会のあり方も検討の対象にあった。

そこで改革案として、日本リーグの下に実業団リーグと実業団優勝大会をおき、実業団優勝大会には日本リーグ及び実業団リーグのチームは出場しない。優勝大会は全国都道府県実業団代表チームによるトーナメント戦、個人戦は廃止し全日本社会人大会に参加依存するというものであった。

この改革案に対しかなりの激論がつづいたが、結局は日本リーグの発足は認めたものの、全日本実業団大会は従来の形で存続となった。個人戦は継続審議となった。

日本実連は日本協会総会に日本リーグの創設を提案することを決議した。

日本リーグの実施案は当該年度の実業団大会のベスト４と日本学生ベスト２をもって行う内容であった。

その結果日本協会は日本リーグの創設を認め、準備のため運営委員会を設置し実行に向けて始動した。

学生チームは、開催時期が学期末試験の時期で参加困難という意向を示した。

その後チーム編成が色々と難航したが、男子はヨネックススポーツ、電電東京、河崎ラケット、高岡市役所、全日本学生選抜、女子はサントリー、河崎ラケット、ヨネックススポーツ、日本電装、全日本学生選抜の男女各５チームで第１回日本リーグの開催となった。

第１回日本リーグは昭和54年12月７日から昭和55年１月13日の間東京代々木第二体育館を皮切りに京都市、高岡市、高崎市、東京都（東京都体育館）、大阪市と転戦し行われた。観客動員も高岡市の4500名を筆頭に各会場約2000名と初回にしてはまず成功といえた。

第２回大会からは男女６チーム編成となった。学生チームはその後費用負担が多額で問題があり、第５回大会より出場を辞退し、その後は実業団チームによる編成となった。


▲日本リーグ発足祝賀会・優勝旗

日本リーグは、作戦タイム、鳴りものいり応援も可、競技用着衣は品位を保つことを基調として白、柄を自由とした。これらは日本リーグを見て楽しんで戴くための発想であった。これが多くの方からの批判をうけたが現在もそのまま継続されている。結果としてこれらは日本リーグの特徴として定着したのではないでしょうか。

作戦タイムは、１対戦につき１回１分以内与えるものであった。これは大会運営規定が「１試合が終了するまでコーチ、監督または応援者はプレヤーに助言してはならない」としていたため、日本リーグ運営細則に特例として認めていたが批判の対象となった。これを取り入れた趣旨は、観客に見せる場を提供するということで監督不在の規則を曲げて特例としたものであった。

その背景には常の試合で助言行為がありながら、黙認が目立った試合が多かったことでの提案でもあった。

応援については、バドミントンそのものが静かな中で観戦するというのが本来で応援は拍手に限るとしていただけに批判は当然であったが、参加企業側から応援を許して欲しい要望が強かったのでこれを受け入れた結果である。鳴りものにはラリー中、２コートで試合が平行する時は不可としたが、後者は現在も守られていないので観客からの批判をうけていることは残念である。

競技用着衣はチームの特徴を出すということで特別の色柄が採用された。また背面にはチーム名の他背番号を入れプログラムのメンバー表と照合出来るようにしたことも特徴であった。このようなことはバレーボール、バスケット、サッカー等では既に定着していたが、

2．日本実業団バドミントン連盟のあゆみ

バドミントンとしては型破りとして当時はかなりの批判をうけた。

以後回を重ねリーグは男女8チーム編成となり、日本リーグ2部も出来、当初改革案とした実業団リーグの形に収まっている。開催地は年間事業の一つとして開催を申し出る所も増え、初期の目的を満たし毎年盛況に行われていることは、喜ばしい限りである。

（日本リーグの戦績は記録の頁参照）

個人戦の廃止と一味違った大会へ

昭和52年提示された大会改革案のうち個人戦廃止の件はその後も継続審議されていたが、昭和53年実業団大会の問題点を提起し、個人戦の廃止について全国都道府県の実業団連盟あてアンケートを実施した。

その時の問題提起の内容は次のとおりであった。

(1) 大会が大規模になり大会期限が長くつぎのような問題を起こしている。

イ．会場の取得が困難

ロ．役員の動員に無理がある。

ハ．大会消化が深夜に及ぶ事があり、選手の健康管理、大会運営役員の拘束にも問題が起きている。

(2) 実業団大会と社会人大会の出場状況を分析すると両大会の出場メンバーが重複しており、総合大会への推薦も重複している者が多い。

バドミントン界全体からするとメリットがなくなっている。

以上のことより実業団の個人戦を廃止し、個人戦は社会人大会に依存してはどうか。実業団は団体戦に主体をおくべきではないか。

この背景には、ナショナル選手の国内大会の多いことが問題としてあった。

アンケートの結果と全国都道府県実業団連盟理事長会議（臨時）（昭和55年9月）の意見を集約するとつぎのような内容であった。

(1) 縮小には賛成であるが個人戦の全廃には反対。
(2) 社会人と実業団が一緒にするのは反対。
(3) 個人戦と団体戦を分けて開催してはどうか。
(4) 日本最大の大会でもあり、ブロック制にしてみたらどうか。予選が充実してくる。
(5) 個人戦は出るが団体戦には出られない人もいる。片手落ちではないか。
(6) 会場の確保、日程等から団体戦のみでよい。社会人大会に依存する時は一般社会人との出場枠に考慮して欲しい。

これらを踏まえ実業団連盟は第32回立川大会より個人戦の廃止と今後の大会の充実を図るべく次のことを打ち立てた。

(1) 大会期間の短縮と選手の健康管理を考慮した日程とする。（結果として2日の短縮となった。）
(2) 選手交流の場を充実。
(3) 参加チームのPRを強化する。
(4) 大会の広報活動を活発にする。
(5) 大会会場を極力1カ所とし運営の効率を図る。
(6) 同好会組織のチーム（企業内でクラブとして認知されていないもの）は企業内認知をはかるよう指導し、大会参加ための休業、傷害、費用の補償がされるようにする。（名実ともに実業団チームとしての本来の姿にする事）

しかし、個人戦の廃止で参加料が300万円（当時）収入減となることで参加料を3万円／チーム値上げを必要とし、この2件を日本協会の総会へ提示した。結果は参料が2万円／チーム値上げ（参加料5万円／チームとなる）に押さえられ承認された。

このようにして、第32回大会は東京都実連の画期的取組み、特に選手ふれあい広場の設定はユニークなものであった。

又この大会よりシードチーム以外は組合せが公開抽選にて行われることになった。従来は常務理事会で組合せを行い、日本協会競技委員会の承認をとる形で実施していたが、個人戦、団体戦とあり、組合せの常務理事会はいつも徹夜で、色々組合せ上の不平不満もあり、いつも問題になっていたが画期的改革であった。

更にこの時からプログラムのサイズが従来のB5からA4となったことで、内容も参加チームを広く紹介できるように変更された。

ここでの新しい試みは以後の大会の一つの方向付けをし、現在も続けられている。

試合形式の検討

IBFが昭和58年（1983年）試合形式を3単、2複（単を先に行う）形式に変更し1984年の世界選手権から実施することを発表した。所謂単優先の形である。

日本の現状は実業団、学生とも2複3単、高校は2複1単で行われたおり、いずれも複優先形である。

また最近の国際大会における日本選手の戦績も複は対等に対抗できているが、単は全くといってよい程実力差がある状態である。これは国内の試合が複優先形であることも起因するということで、宮永理事より実

2．日本実業団バドミントン連盟のあゆみ

業団大会の試合形式も一考を要するという提案があり、検討の結果都道府県実連にアンケートすることになった。結果は別表のように従来とおりの意向が多い結果となった。

アンケート集計結果

試合形式について（3単2複とする件）		日本リーグと日実大会の位置付けについて	
従来とおり	14	日実一任	13
日本実連一任	9	現行おり	11
早い機会に採用	6	野村私案	8
段階的に採用（注1）	5	回答なし	1
回答なし	1	石川案	1
石川案	1	検討中	1
検討中	1		
回答数計	37		35

注1．段階的にというのは、2S、2D、Sまたは2S、D、S、Dの方式をまず採り入れ段階的にIBF形式としてはどうかということである。

日本リーグと全日本実業団大会の位置付け

日本リーグは当初から日本で最強チームによる編成で実施するべく始めたが、5回の大会を消化した所この間全日本実業団大会のベスト8チームの編成でなくベスト16の時もあり、所謂チャンピオンチームによる編成でないことで内外から日本リーグの位置付けが疑われており日本リーグ発足前に示された改革案が再燃し、野村私案が示された。（昭和59年）

即ちつぎに示すような全日本実業団大会の形態の改定案が示された。

1部　日本リーグ（当面6チーム）、2部　実業団リーグ（仮称　当面6チーム）、3部　実業団トーナメント（仮称　上記以外の府県代表チームによる）とし、各部門は入替え戦を行う。そしてこの大会を会期7日間でこれらを消化し、日本リーグはこの時を前期リーグとし後期は地方転戦にて実施するという内容であった。

この件も上記の試合形式と同時に都道府県実連にアンケートする事になり、結果は別表の通りで、継続審議となった。

記念大会

全日本実業団大会の記念大会は過去3回開催されており、第35回藤沢大会、第40回神戸大会は節目の大会として、第46回東京大会は連盟創立35周年記念大会として開催された。それぞれ趣向を凝らして実行された。

第35回藤沢大会はその3年前に個人戦が廃止されOB選手の大会の機会がなくなり、この方々の強い要望でシニアの個人戦を実施し、久方ぶりに技を競って記念行事に花を添えた。（昭和60年）

第40回神戸大会は全日本大会の40回の記念と兵庫県実連創立25周年記念を併せて記念祝賀レセプションが行われた。日本実連及び兵庫県実連の功労者表彰、地元三菱重工闘技会の「鬼面太鼓」と宝塚スターの「香みどりショウ」がアトラクションとして実施され、参加役員、選手が大会を記念し祝杯をあげた。（平成2年ポートピアホテル）

連盟創立35周年記念行事は記念のレセプションとOB選手参加の35歳の部、40歳の部、45歳の部、50歳の部、55歳の部、60歳の部（いずれも複　計45ペア）の記念大が行われた。

記念レセプションでは特別功労者の表彰、折しもアトランタオリンピックに参加する選手の壮行会を行い、参加役員、選手が連盟のこれまでの成果を労いながら、次代の発展と努力を祈念しあって祝杯をあげた。（平成8年7月3日　ホテルグランドパレス）



▲第46回記念大会レセプション　山口会長あいさつ

〈活躍したチームと選手達〉

全日本実業団大会は現在46回の大会を終えましたが、別掲の「過去の栄冠」に見られるように、輝かしい記録を残されたチーム、選手がありました。また、数々の名勝負の試合、勝負にまつわるエピソードのあ

2．日本実業団バドミントン連盟のあゆみ

り、思い出されますが、限られた紙面の中では書きつくせませんので、ここでは割愛さしていただくとして、特筆すべき記録のみを記述しておくにとどめます。

●活躍したチーム●

☆通算優勝・準優勝数

男子団体の部	優　勝	準優勝
NTT 東京（電電東京）	20回	12回
十條製紙伏木	10回	0回
トヨタ自動車	8回	6回
ヨネックス	3回	7回
高岡市役所	2回	4回
日本鋼管・鶴見	1回	4回
カワサキラケット	1回	1回
女子団体の部		
サントリー	14回	3回
琴平電鉄	5回	2回
三洋電機	5回	2回
トヨタ自動車	4回	3回
高岡市役所	2回	1回
帝国石油	2回	1回
NTT 東京（電電東京）	2回	10回
ヨネックス	2回	6回
カワサキラケット	2回	4回
日本コロンビア	1回	4回

☆連続優勝

男子団体		女子団体	
NTT 東京	15連勝	サントリー	5連勝
トヨタ自動車	7連勝	サントリー	3連勝(2)
十條製紙伏木	7連勝	三洋電機	4連勝
		琴平電鉄	4連勝
		トヨタ自工	3連勝

NTT 東京は15連勝を継続していたが、46回大会においてその牙城をトナミ運輸が崩し歴史的勝利を収めた。しかしこの15連勝は偉大なる記録であり、今後も破ることは出来ないであろう。

☆連続出場

男子の部	
三菱重工長崎造船所	46回（継続中）
トヨタ自動車	46回（継続中）
NTT 東京	39回（継続中）
NTT 関西	37回（継続中）
横浜市役所	31回（継続中）
女子の部	
トヨタ自動車	46回（継続中）
NTT 東京	37回（継続中）
百十四銀行	31回（継続中）
ヨネックス	25回（継続中）
松下電工・伊勢	23回（継続中）
関東自工	23回
日立・戸塚	22回
高松琴平電鉄	22回
サントリー	21回（継続中）
電電近畿	21回
日本電装	20回（継続中）

トヨタ自動車(男女)、三菱重工長崎造船所の全日実大会全回出場は誠に立派な記録であり、今後はこのチームがこの特権をどこまで継続して行くかこのチームの努力に懸かっています。

☆出場回数

男子の部

46回　トヨタ自動車、三菱重工長崎造船所
41回　JR北海道（札鉄）
39回　NTT 東京（電電東京）
37回　NTT 関西（電電近畿）、島津製作所
35回　三菱自工・京都（三菱重工・京都）
32回　横浜市役所、豊田自動織機
31回　三井造船・玉野
30回　日立・水戸、富士重工・群馬、東京都庁、不二越、宇部興産、日本製紙・岩国（山陽国策パルプ）

女子の部

46回　トヨタ自動車
37回　NTT 東京（電電東京）
32回　高松琴平電鉄
31回　三菱電機・伊丹、百十四銀行
25回　ヨネックス、豊田自動織機、三菱自工・京都（三菱重工・京都）
24回　日立・戸塚、日本電装、チザキ
23回　関東自工

●活躍した選手●

個人戦が実施されていた第8回大会から第31回大会までは、当時の活躍選手は鮮明ですが、第32回大会以降は団体戦のみであるので、それぞれの戦記を辿らねばならない。本誌においては、「大会の概観」に記述してありますので、ご参照願うことにします。

筆者としては、全日実大会ではチームのエースとし

2．日本実業団バドミントン連盟のあゆみ

て大会を盛り上げる活躍をするとともに、チーム優勝に貢献し、全日実大会、全日本総合大会の個人戦ではチャンピオンとなり、世界の舞台でも日本代表選手として、めざましい活躍をされた選手を選びここに書きおくことにします。

男子では、日本選手として初めて全英選手権大会に出場しベスト８となった小宮好雄(トヨタ自工)、ト杯大会をはじめとする国際大会で大活躍した板垣善憲(トヨタ自工)、秋山真男(ヨネヤマラケット)、小島一平(ヨネヤマラケット)、本間順次(トヨタ自工)、銭谷欽二(河崎ラケット)、松野修二(NTT 東京)等である。

女子では、全日実大会女子単８回優勝、全英選手権大会で４度の優勝、ユ杯大会優勝メンバーの湯木(現新沼)博恵(河崎ラケット)を筆頭に、同じくユ杯選手の横井(現東条)文子(高松琴平電鉄)、竹中(現栂野尾)悦子(ヨネヤマラケット)、相沢マチ子(ヨネヤマラケット)、徳田敦子(サントリー)、近藤(現河本)小織(河崎ラケット)、米倉(現田児)よし子(NTT東京)、北田(現芝)スミ子(三洋電機)等である。

ここに掲げた選手は、世界に通じる選手であったので現在の日本バドミントンの低迷をみる時に、今の選手に望むところは、何故飛躍出来ないのかを、これらの選手から学び、早い機会に再びすばらしい選手の出現を期待致します。

〈おわりに〉

振り返ってみると日本実業団バドミントン連盟は、日本リーグの誕生はあったものの、全日実大会開催の事業のみの35年間であったことになる。

当初日本協会が期待した財政的潤いも、間接的には加盟事業所がバックアップしているが、連盟独自としては出来ていない。

財政は常に当座的におわり、全く蓄えのない現状を残念に思います。

事業も会員の要望に応え、新しいものを掘り起こさねばならない。

全日実大会の形態の見直し(現状のマンモス大会のままで行くのか、地区大会と関連付けたものとするのか、日本リーグと関係付け実業団リーグとするのか)、地区大会の確立、登録方法の見直し、47都道府県すべてに支部連盟を作る(平成七年度39支部)、財政確保等々連盟としての課題は山積の状態である。

日本代表選手をかかえる連盟であるので、日本協会の強化委員会と連携を密にして、世界に通じる選手の養成も考えて行かねばならない当面の大きな課題もある。

これらの遂行するには、現在の連盟財政規模では何も出来ない。

色々と次代に向かって、本連盟への期待は大きいのでどうか早い機会に21世紀へのビジョンを確立し日本バドミントン界をリードする連盟に飛躍することを期待しまとめと致します。

文責　並木萬次郎
　　野村　嘉明

2．日本実業団バドミントン連盟のあゆみ

趣意書

日本実業団バドミントン連盟について

バドミントンは戦前東南アジアの留学生により、横浜のＹＭＣＡに初めて紹介されたものでありますが、大平洋戦争の勃発により中断されていましたところが、戦後東南アジア方面から帰還した各企業体の職員の人々によって再び紹介されましてから、あたかもわが国スポーツ勃興の気運に乗って、急速な普及を見、今日では国民の各層に凡そ百万人にも及ぶバドミントン、スポーツ人があります。

そもそもバドミントンは、昔インドで始められたものでありますが、一八四四年に英国に紹介され、ゆかりの地グロセスターシヤアン県バドミントン村の名をとって「バドミントン」と名づけられたものであります。

このスポーツはその後欧州、アメリカ、アジアの各大陸に普及し、国際的競技の地位を得て、一九三四年に国際バドミントン連盟の設立も見たのであります。

わが国でも昭和二十一年にバドミントンの健全なる普及と国民体位の向上、国際親善を目的として、日本バドミントン協会が設立され、競技規則の制定、指導、全日本選手権大会等の事業を行っているのであります。

昨年七月新たに設立を見ました、日本実業団バドミントン連盟は、日本バドミントン協会の傘下に属し、各都道府県実業団バドミントン連盟の加盟を得て、各種企業体に属する社会人を中心としてわが国における、このスポーツの育成発達に寄与することを目的としているものであります。

国民の心身の健全な発達と明るく豊かな国民生活の形成には、スポーツの振興に俟つもの大であることは言うまでもありませんが、わが国においては、ひろく国民があらゆる機会とあらゆる場所において、その適性と健康状態に応じてスポーツをする諸条件が、未だ整備されていない状態に在ることも敢えて説明を要しません。

すなわち、昨年スポーツ振興法が制定された所以でもありますが、とくにバドミントンにおいては、競技会の開催にしても、指導者の充実においても極めて不充分であり、また室内体育館の如き専用のものは一つもないという有様で、これらを充実整備して、このスポーツの普及発達のためには、国、公共団体の措置に加え有識者の格別の指導と援助を必要としているのであり、しかし、バドミントンの普及はわが国では戦後のことでまだその歴史も短いのであります、先年のアジア大会でも、タイ、中国、マラヤに連覇しており、昭和三十三年に来日したアメリカチームにも勝つているのであります。

従つて、現在競技を行つている世界二十七ケ国のうち、トップレベルにある国はインドネシヤ、マラヤを頂点として、タイ、デンマーク、アメリカ、インド、イギリス等が覇を競つていますが、わが国バドミントン界の今後の努力によつては、日本が世界制覇の栄冠を得ることは決して夢ではないのであります。

バドミントンは職場スポーツとして最適のものであります。

勤労者は勤労の余暇を利用して、大いにこのスポーツを楽しむことができますし、バドミントン競技会においては職場内にある社会人は、とくに優位に立ち得るものであります。

すなわち、日本実業団バドミントン連盟は、できるだけ多くの職場に実業団の結成を支援し、指導者を充実し、選手権大会その他の競技会を主催して、バドミントンの普及と技術向上の中核となるとともに、各地に専用の室内体育館の建設を計画して、広くこのスポーツの普及を図ることをその事業としております。

これがためには、スポーツに深きご理解を有し、バドミントンに対してもご指導、ご支援の特別のお志をもたれる皆さまに、本連盟の顧問をお引受け願い玆にご依頼申上げ、連盟の目的達成に絶大なるご助力を賜れるようご依頼申上げる次第であります。

昭和三十八年　月　日

日本実業団バドミントン連盟
会長　鞠　勉

殿

賛助会名簿

沖電気工業株式会社	大明電話工業株式会社
トヨタ自動車工業株式会社	大日日本電線株式会社
保土谷化学株式会社	凸版印刷株式会社
株式会社大丸東京店	共同印刷株式会社
日本放送協会	大日本印刷株式会社
電気通信共済会	吉村工業株式会社
富士通信機製造株式会社	長村鉄工所株式会社
九州電気通信局	古河電気工業株式会社
中国電気通信局	藤倉電線株式会社
近畿電気通信局	新興製作所
東京電気通信局	河崎ラケット工業株式会社
日本電信電話株式会社	株式会社米山製作所
岩崎通信機株式会社	東京芝浦電気工業株式会社
日本電気株式会社	北越製紙株式会社
日本通信建設株式会社	昭和電線電纜株式会社
協和電設株式会社	

注：本趣意書は運営資金確保のため賛助会費を募るべく創設の翌年配布され、その後10年近く賛助会費にて支援をうけた。

3．過去の総会・常務理事会・理事会審議内容

年　度	主な提案・審議内容	摘要・関連事項
昭和40年	○日バは全日実大会の開催について国体開催前年にリハーサル大会として開催することを決定	○岐阜国体臨時総会にて決定
昭和41年	○規約細則改正 理事選出数の改定（加盟団体（支部）は15事業所毎に１名の理事選出となる）	○当時細則では加盟団体（支部）からチーム数24毎に１名の理事を選出とあった
昭和42年	○規約細則改定 全日実大会出場選手規制（臨時雇員（アルバイト生等）学生・生徒（夜間学生は除く）は出場不可）	○第17回日実大会（勝山）から国体リハーサル大会となる
昭和45年	○和歌山湯浅町大会開催返上により代替開催地について協議 ○敗者審判制実施検討	○代替開催地高松市に決定 ○高松大会より実施（S46／２）
昭和47年	○実業団対学生団体対抗戦開催について	
昭和48年		○実業団対学生対抗団体戦開始
昭和49年	○規約及び細則一部改定 入会金→登録金、加盟団体→支部連盟（団体）と表現が変る　細則は登録金、分担金の増額（昭和50年度より）と全日実大会の出場推薦の追加	○細則では分担金2000円→3000円 登録金1000円→2000円となる 全日実大会の連盟推薦が前年度大会８位までが「但し男子単は16位まで」が追加となる
昭和50年	○池田提案 ①全日実大会主管支部連盟に対し広告料・寄附金等の協力体制の確立 ②全日実大会派遣役員の必要経費と滞在義務の意識統一 ③ナショナル選手強化方針と日本実連運営方針の在り方について ④日本実連も日バ協会常務理事推薦の協力体制を整えるべきである ○専門委員会の設置 総務、財務、競技、企画 ○試合数増大により個人戦の出場数を減らすべく出場種目２とする ○ユニホ[illegible]	○日バ協会法人化による理事数が限定されるため ○各部委員長つぎの通り 総務：黒崎　財務：宮永 競技：中山　企画：池田 ○日実連として日バ協会への見解を求めることとした
昭和51年	○日バ協会理事選出方法（定員20名）の改定に対し日実連として如何に議席を確保するか	○第26回藤沢大会にて背面ネーム表示採用となる
昭和52年	○日本リーグ結成について提案（野村私案呈示） ・全日実大会を日本リーグ、全国実業団リーグ、全国実業団優勝大会の３本立て大会に切替えてはどうか ・個人戦は廃止し社会人大会にかえる ・実業団対学生対抗戦は廃止する	
昭和53年	○ユニホームのカラー採用について 従来白色と限定されていたがチームの特徴をだすためにスポーツマンとしての品位を損わない範囲でカラーを採用してはどうか。 ○第28回東京大会の提案（１月） ・組合せは大シード制実施 ・優勝杯の買替え（労働大臣杯及び個人戦の杯が老朽化による） ・敗者審判制を廃止したい。 ○実業団対学生対抗戦にてゲーム中作戦タイムを設ける。 ○日本リーグ創設について日バ協会総会に提案することとなっ	○日バ理事会に提案 ○開催地の審判員の態勢によっては敗者審判制によらなくてもよい ○日バ協会総会にて承認（２月）

3．過去の総会・常務理事会・理事会審議内容

年　度	主な提案・審議内容	摘要・関連事項
	た（発足時は実連４チームと全日本学生選抜の計５チーム男女共）	日本リーグ運営委員会発足（８月）
	○個人戦の部存続の可否について	○６月の総会にて支部連盟の意向を聞くべくアンケートを実施することになった
昭和54年		○日本リーグ発足（12月）
	○日本実連創設25周年記念行事の検討	○昭和60年までに結論要
昭和55年	○個人戦の廃止（６月総会にて承認） 廃止理由　①大会期間が長期化し参加事業所に問題提起有　②会場確保困難　③個人戦の部廃止により団体戦の部の充実を計る	○第32回立川大会より実施となる
	○登録料の改定（2000円→3000円／事業所）	
昭和56年	○個人戦の部廃止に伴う発展的代替案として日本実業団リーグ戦大会結成への検討提案（野村理事）	
	○第32回立川大会開催の基本的位置付け ①健康上、業務上の配慮から開催期間及び１日の試合時間を短縮する　②選手交流の場を充実させる　③参加チームのPRを強化する　④大会の広報活動を活発にする　⑤大会会場を一ヵ所して運営の効果を計る なお個人戦の部廃止により収入が約400万円減で参加料の増額が提示された	○参加料は最終的に従来の３万円が５万円となる ○第32回立川大会より実施
	○組合せ　公開抽選にて実施 但し前年度大会で16位まではシード　ベスト８位のシードは常務理事会で決定	
	○選手移籍に係わる出場停止期間について 日本実連細則では、このことは１年間であったが日バ協会が２／21より２年間としたので日本実連細則もこれと同じにすべきでないか	○日本実連も細則改定し２年間となる
昭和57年	○日本実連新事務所設置について	○西新宿福星ビルとなる
昭和58年		
昭和59年	○表彰規定の一部改定 細則の功労賞の項に団体表彰は全日実大会連続15回以上出場を15回以上出場に１個人表彰は全日実大会連続10回以上出場を10回以上出場に改定	
	○試合オーダの変更（２複３単→３単２複） IBFではユ杯、ト杯大会でシングルス先行形式としたことによる	○第34回大阪大会から実施と提案されたが見送りとし、支部連盟で検討することになる
	○参加料の値上げ（５万円→６万円）	○見送りとなる
	○第35回藤沢大会を記念大会とする	○オープンにて年齢別個人戦実施となる
	○日本リーグは全日実大会の上に位置付けるべきであるという考えのもと、全日実大会と日本リーグの関連性を考えて行かねばならないことで、つぎの２項目の提案があった ①全日実大会のベスト８が日本リーグの下位チームと入替戦を行う　③全日実大会を１部実連リーグと２部実連トーナメントとし１部・２部間、１部と日本リーグを入替戦を行い、チーム編成をする方法を取ってはどうか	○当時日本リーグのチームが日本実連のトップチームでない所から名実ともにチャンピオンチームによる日本リーグとすべきである考えからの提案 支部連盟での検討事項となる
昭和61年	○第36回京都大会について ・試合オーダについて懸案であったが従来通り２複３単の順となる	
	・参加料値上げ　５万円→６万円　となる	○57年からの物価上昇（経済白書では８％）、

3．過去の総会・常務理事会・理事会審議内容

年　度	主な提案・審議内容	摘要・関連事項
		連盟分担金2000円／チームの値上げ、大会資質を上げる必要から承認
昭和62年	○「同一事業所」」の解釈について ・全日実大会は「同一都道府県の同一事業所に勤務する者でチームを編成する」ことを原則としているが、同一会社（事業所）であっても経理体系、クラブ補助体系が別立ての場合は別々で編成することは止む得ない ○全日実大会の出場資格について 地区大会開催を促進し、全日実大会の出場資格を、地区大会の上位チームのみの出場としてはどうか	○色々意見が出たが、結論はまづ全府県登録実現が先決となり見送りとなった
昭和63年	○外国人選手出場資格について ・大会日より逆算して日本在住２年以上の者は出場可 ・外国人のエントリーは２名以内とし内１名が１種目のみ出場可となる ○登録料値上げ　2000円→4000円／事業所 理由：①各ブロック理事が常務理事となり旅費出費増 ②会議開催を増やすため	○平成元年４月１日実施となる（２年間のテスト期間として実施）
平成元年	○全日実大会審判員の件 大会出場チームは参加申込みの際審判担当者（審判有資格者）３名を登録し主管の審判支援をすることになる ○規約細則の一部改定 ①２項　理事の但し書改定　従来「会長推薦理事は……」を「学識経験者含む会長推薦理事は……」とする ②６(5)項に外国人選手の規制追記 「ハ．日本における在住期間が２年に満たない日本国籍以外（外国人）の選手」	
平成２年	○第40回神戸大会を40回記念大会とする ・祝賀記念行事として功労者表彰、レセプションを実施とする ○日本実連運営資金について（京屋理事提案） 余裕資金のない実情に鑑み、連盟に必要な財源を蓄える必要があるとして、加盟選手登録料として300円／人／年を徴収してはとの提案があった ○日本実連創設30周年記念行事について 平成３年に実施が提案された	○提案趣旨は理解されたが、常務理事会での審議が十分でないので総会報告事項にとどめた ○その後実施は35周年記念行事とし平成８年実施となる
平成３年	○日本実連創立35周年記念事業及び基金計画について ・事業実施時期：平成８年 ・総事業予算：1200万円	○事業基金の調達方法 3000円／事業所×650事業所×５年にて975万円調達となる
平成４年	35周年記念事業、基金計画について 基金管理規定制定 公印使用規定制定	○総会に於いて原案通り承認
平成５年	運営事項検討	
平成６年	運営事項検討	
平成７年	運営事項検討 常務理事20名から15名に縮小（案） 連盟規約、役員の分担について 登録制審判員に関する件	○神奈川県実連より提案 ○近畿実連より提案 ○登録審判員は審判資格者に限る。 来年からは本件要項に入れる予定。

日本実業団バドミントン連盟歴代会長



初　代
故靭　勉



二　代
米澤　滋



三　代
秋草篤二



四　代
真藤　恒



五　代
山口開生

日本実業団バドミントン連盟歴代副会長



初　代
故山田哲三

二　代
橋本真澄



三　代
有賀主一

4.日本実連を支えた人々　歴代理事長



初　代
故増井益二



二　代
今　武一



三　代
諸星三代治



四　代
故高村工三朗



五　代
丸山芳春



六　代
相沢和夫



七　代
鈴木龍平



八　代
原田和坦



九　代
江畑誠一



十　代
油井秀男

4．日本実連を支えた人々

歴代役員

役　職	昭和36年度	昭和37年度	昭和38年度 39
会　長	鞏　勉（オリンピック） （資金財団理事長）	鞏　勉（オリンピック） （資金財団理事長）	鞏　勉（オリンピック） （資金財団理事長）
副会長		鈴木　允（東京中日新聞社副社長） 山田　哲三（大日日本電線常務取締役）	鈴木　允（東京中日新聞社副社長） 山田　哲三（大日日本電線常務取締役）
顧　問			
参　与			
理事長	増井　益二（推薦・電電東京）	増井　益二（推薦・電電東京）	増井　益二（推薦・電電東京）
副理事長		並木萬次郎（推薦・電電東京）	並木萬次郎（推薦・電電東京） 斉藤健次郎（推薦・東京中日新聞社）
常務理事	並木萬次郎（推薦・電電東京） 斉藤健太郎（東京・中日新聞社） 斉藤　信義（東京・東京都庁） 菊池　貫能（神奈川・日産自動車） 鈴木　保（京浜・日本鋼管） 内藤　昭（関東・日研化学）	斉藤健太郎（東京・中日新聞社） 斉藤　信義（東京・東京都庁） 菊池　貫能（神奈川・日産自動車） 鈴木　保（京浜・日本鋼管） 内藤　昭（関東・日研化学）	遠藤　啓治（推薦・日本鋼管） 飯野　康央（東京・大丸東京） 杉山　健治（東京・電電東京） 島田　貞夫（東京・保土ヶ谷化学） 金子　幸男（京浜・三菱重工横浜） 横井　初夫（関東・日研化学） 伊藤　鉱一（東海・名古屋市役所） 池田　芳麻（近畿・電電大阪） 阪本　健治（推薦・米国陸軍技術本部）
理　事	西本秀一郎（北海道・国鉄札幌管理局） 清水　正（北信越・十條製紙） 多賀　純一（東海・トヨタ自工） 池田　芳麻（近畿・電電近畿） 社　竹三（中国・岡山市役所） 池上　任（四国・高松市役所） 山口　賢郎（九州・三菱重工長崎） 矢田　直宏（京都・松下電子） 溝淵　宏二（大阪・国際電電）	西本秀一郎（北海道・国鉄札幌管理局） 清水　正（北信越・十條製紙） 多賀　純一（東海・トヨタ自工） 池田　芳麻（近畿・電電近畿） 社　竹三（中国・岡山市役所） 池上　任（四国・高松市役所） 山口　賢郎（九州・三菱重工長崎） 矢田　直宏（京都・松下電子） 溝淵　宏二（大阪・国際電電）	青山　繁樹（北海道・国鉄札幌管理局） 相場　清一（東北・帝国石油秋田） 清水　正（北信越・十條製紙） 社　竹三（中国・岡山市役所） 池上　任（四国・高松市役所） 高野　末雄（九州・三菱重工長崎） 矢田　直宏（京都・松下電子） 溝淵　宏二（大阪・国際電電）
監　事			片桐　昭三（国鉄関東） 内藤　昭（日研化学）
事務局	杉山　健治（電電東京）	杉山　健治（電電東京）	杉山　健治（電電東京）

4．日本実連を支えた人々

歴代役員

役職	昭和40年度 41	昭和42年度 43	昭和44年度 45
会長	米沢　滋（電電公社副総裁）	米沢　滋（電電公社副総裁）	米沢　滋（電電公社副総裁）
副会長	鞏　勉（国際電電社長） 鈴木　允（東京中日新聞社副社長） 山田　哲三（大日日本電線常務取締役）	鞏　勉（国際電電社長） 山田　哲三（大日日本電線常務取締役）	鞏　勉（国際電電社長） 山田　哲三（大日日本電線常務取締役）
顧問			
参与			
理事長	増井　益二（推薦・電電東京）	増井　益二（推薦・電電東京）	増井　益二（推薦・電電東京）
副理事長	並木萬次郎（推薦・電電東京）	並木萬次郎（推薦・電電東京）	並木萬次郎（推薦・電電東京）
常務理事	斉藤健太郎（推薦・東京中日新聞社） 遠藤　啓治（推薦・日本鋼管） 飯野　康央（東京・大丸東京） 杉山　健治（東京・電電東京） 島田　貞夫（東京・保土ヶ谷化学） 金子　幸男（京浜・三菱重工横浜） 横井　初夫（関東・日研化学） 伊藤　鉱一（東海・名古屋市役所） 池田　芳麻（近畿・電電大阪） 坂本　健治（推薦・米国陸軍技術本部）	横井　初夫（関東・日研化学） 遠藤　啓治（推薦・日本鋼管） 星野　忠男（東京・電電東京） 杉山　健治（東京・電電東京） 島田　貞夫（東京・保土ヶ谷化学） 高橋　正宏（京浜・横浜市役所） 保坂　俊一（神奈川・関東自動車） 伊藤　鉱一（東海・名古屋市役所） 池田　芳麻（近畿・電電大阪） 斉藤健太郎（推薦・東京中日新聞社）	横井　初夫（関東・日研化学） 池田　芳麻（近畿・電電近畿） 遠藤　啓治（推薦・日本鋼管） 上杉　光芳（神奈川・三菱重工横浜） 黒崎　二男（東京・北辰電機） 鈴木　幸春（東京・電電東京） 原　功（東京・石川島播磨重工）
理事	青山　繁樹（北海道・国鉄札幌管理局） 相場　清一（東北・帝国石油秋田） 清水　正（北信越・十條製紙伏木） 社　竹三（中国・岡山市役所） 池上　任（四国・高松市役所） 高野　末雄（九州・三菱重工長崎） 矢田　直宏（京都・松下電子工業） 溝淵　宏二（大阪・国際電電）	青山　繁樹（北海道・国鉄札幌管理局） 相場　清一（東北・帝国石油秋田） 釣谷　友一（北信越・十條製紙伏木） 後藤　守（東海・名古屋鉄道） 社　竹三（中国・岡山市役所） 浜中　誠（四国・丸善石油松山） 高野　末雄（九州・三菱重工長崎） 三沢　英二（推薦・北九州市役所）	渋井　明（北海道・国鉄札幌管理局） 千葉　信次（東北・陸自東北） 中山　邦夫（北信越・高山市役所） 後藤　守（東海・名古屋鉄道） 社　竹三（中国・岡山市役所） 浜中　誠（四国・丸善石油松山） 喜多　昭夫（九州・三菱重工長崎） 淵上　英紀（推薦・北九州市役所） 溝淵　宏二（大阪・国際電電）
監事	片桐　昭三（推薦・国鉄関東） 内藤　昭（推薦・日研化学）	佐藤　忠男（推薦・日研化学） 飯野　康央（推薦・大丸東京）	佐藤　忠男（推薦・日研化学）

4．日本実連を支えた人々

歴代役員

役　職	昭和46年度 47	昭和48年度 49	昭和50年度 51
会　長	米沢　滋（電電公社総裁）	米沢　滋（電電公社総裁）	米沢　滋（電電公社総裁）
副会長	橋本　真澄（日本通信建設・専務取締役） 山田　哲三（大日日本電線・常務取締役）	橋本　真澄（日本通信建設・専務取締役） 有賀　主一（大日日本電線・専務取締役）	橋本　真澄（日本通信建設・専務取締役） 有賀　主一（大日日本電線・専務取締役） 清水　照彦（大阪実業団バド連盟会長）
顧　問		山田　哲三（元副会長）	山田　哲三（元副会長）
参　与		増井　益二（元理事長）	増井　益二（元理事長） 今　武一（元理事長）
理事長	46増井　益二（推薦・電電東京） 47今　武二（推薦・電電東京）	今　武一（推薦・電電東京）	諸星三代治（推薦・電電東京）
副理事長	並木萬次郎（推薦・電電東京） 横井　初夫（関東・日研化学）	並木萬次郎（推薦・電電東京） 横井　初夫（関東・日研化学） 49北　義一（近畿・三菱電機伊丹）	並木萬次郎（推薦・電電東京） 横井　初夫（関東・日研化学） 野村　嘉明（京都・島津製作所）
常務理事	佐藤彦次郎（東京・沖電気） 黒崎　二男（東京・北辰電機） 原　功（東京・石川島播磨重工） 上杉　光芳（神奈川・三菱重工横浜） 遠藤　啓治（京浜・日本鋼管） 池田　芳麻（近畿・電電近畿） 中山　邦夫（北信越・高岡市役所）	佐藤彦次郎（東京・沖電気） 黒崎　二男（東京・北辰電機） 遠藤　啓治（京浜・日本鋼管） 中山　邦夫（北信越・高岡市役所） 池田　芳麻（近畿・電電近畿） 48北　義一（兵庫・三菱電機伊丹） 49野村　嘉明（京都・島津製作所）	佐藤彦次郎（推薦・沖電気） 宮永　武司（東京・明治生命） 黒崎　二男（東京・北辰電機） 京屋　孝治（神奈川・日本石油） 井上　忠久（京浜・関東自工） 池田　芳麻（近畿・電電近畿） 北　義一（兵庫・三菱電機） 中山　邦夫（推薦・高岡市役所） 佐藤　忠男（推薦・日研化学）
理　事	渋井　明（北海道・国鉄札幌管理局） 千葉　信次（東北・陸自東北） 後藤　守（東海・名古屋鉄道） 上原　信彦（愛知・豊田自動織機） 梶谷　将人（北信越・福井銀行） 溝淵　宏二（大阪・国際電電） 野村　嘉明（京都・島津製作所） 北　義一（兵庫・三菱電機伊丹） 社　竹三（中国・岡山市役所） 浜中　誠（四国・丸善石油松山） 淵上　英紀（推薦・北九州市役所） 喜多　昭夫（九州・三菱重工長崎） 野口　利夫（推薦・高松市役所）	渋井　明（北海道・国鉄札幌管理局） 千葉　信次（東北・陸自東北） 後藤　守（東海・名古屋鉄道） 上原　信彦（愛知・豊田自動織機） 梶谷　将人（北信越・福井銀行） 溝淵　宏二（大阪・国際電電） 48野村　嘉明（京都・島津製作所） 社　竹三（中国・岡山市役所） 浜中　誠（四国・丸善石油松山） 淵上　英紀（推薦・北九州市役所） 喜多　昭夫（九州・三菱重工長崎） 野口　利夫（推薦・高松市役所）	伊勢　武（北海道・電電北海道） 渋井　明（北海道・国鉄札幌管理局） 本多　三郎（東北・新日鉄釜石） 安江　勉（北信越・津田駒工業） 油井　秀男（東海・新日本製鉄） 岡本　武利（中国・岡山市役所） 浜中　誠（四国・丸善石油松山） 喜多　昭夫（九州・三菱重工長崎） 吉成　素彦（埼玉・埼玉銀行） 小塙　宏人（栃木・旭光学工業） 伊藤　誠彦（東京・簡易保険局） 内堀　毅（神奈川・横浜市役所） 鈴木　勝美（愛知・三菱電機） 清水　義雄（大阪・川崎重工） 増井　孝夫（三重・三菱化成） 野口　利行（推薦・高松市役所）
監　事	佐藤　忠男（埼玉・日研化学）	佐藤　忠男（埼玉・日研化学）	武村　俊平（大阪・KDD） 幸野　邦昭（千葉・丸善石油）
事務局	坂本　澄夫（推薦・電電東京）	坂本　澄夫（推薦・電電東京） 豊島　光男（推薦・電電東京）	豊島　光男（推薦・電電東京）

4．日本実連を支えた人々

役員	昭和52年度 53	昭和54年度 55	昭和56年度 57
会長	52米沢　滋（電電公社総裁） 53秋草　篤二（電電公社総裁）	秋草　篤二（電電公社総裁）	真藤　恒（電電公社総裁）
副会長	52橋本　真澄（日本通信建設・専務取締役） 53玉野　義雄 53川崎鋼次郎 有賀　主一（大日日本電線・専務取締役） 清水　照彦（大阪実業団バド連盟会長）	54浅原　義人（電電・東京電気通信局長） 有賀　主一（大日日本電線・専務取締役） 植田　義明（近畿通信建設） 55坂部　政夫（電電・東京電気通信局長）	星　正也（電電・東京電気通信局長） 有賀　主一（大日日本電線・専務取締役） 植田　義明（近畿通信建設） 横井　初夫（日研化学常務取締役） 上島　保（明治生命常務取締役）
顧問	米沢　滋 山田　哲三	米沢　滋 山田　哲三 橋本　真澄	米沢　滋 山田　哲三 橋本　真澄
参与	増井　益三 今　武一 諸星三代治	増井　益二 今　武一 諸星三代治 高村工三朗	増井　益二 今　武一 諸星三代治 高村工三朗
理事長	高村工三朗（推薦・電電東京）	丸山　芳春（推薦・電電東京）	相沢　和夫（推薦・電電東京）
副理事長	並木萬次郎（推薦・電電東京） 横井　初夫（関東・日研化学） 野村　嘉明（京都・島津製作所）	並木萬次郎（推薦・電電東京） 横井　初夫（関東・日研化学） 野村　嘉明（京都・島津製作所）	並木萬次郎（推薦・電電東京） 野村　嘉明（京都・島津製作所） 宮永　武司（東京・明治生命）
常務理事	佐藤彦次郎（推薦・沖電気） 宮永　武司（東京・明治生命） 黒崎　二男（東京・北辰電機） 井上　忠久（京浜・関東自工） 京屋　孝治（神奈川・日本石油） 池田　芳麻（近畿・電電近畿） 北　義一（兵庫・三菱電機） 油井　秀男（東海・新日鉄製鉄） 中山　邦夫（推薦・高岡市役所） 佐藤　忠男（推薦・日研化学）	54佐藤彦次郎（推薦・沖電気） 55豊島　光男（推薦・東京電電） 宮永　武司（東京・明治生命） 黒崎　二男（東京・北辰電機） 井上　忠久（京浜・関東自工） 京屋　孝治（神奈川・日本石油） 池田　芳麻（近畿・電電近畿） 北　義一（兵庫・三菱電機） 油井　秀男（東海・新日鉄製鉄） 中山　邦夫（推薦・高岡市役所） 松浪鋭四郎（東京・KDD） 55星野　義明（東京・電電東京） 幸野　邦昭（千葉・丸善石油） 野口　利行（推薦・高松市役所） 武村　俊平（大阪・KDD）	豊島　光男（推薦・東京電電） 中山　邦夫（推薦・高岡市役所） 京屋　孝治（神奈川・日本石油） 井上　忠久（京浜・関東自工） 油井　秀男（東海・新日鉄製鉄） 池田　芳麻（近畿・電電近畿） 清水　義雄（大阪・川崎重工） 野口　利行（推薦・高松市役所） 幸野　邦昭（推薦・丸善石油） 多賀　純一（愛知・トヨタ自工）
理事	伊勢　武（北海道・電電北海道） 渋井　明（北海道・電電北海道） 本多　三郎（東北・新日鉄釜石） 52安江　勉（[illegible]） 53川谷　貞夫（北信越・日本石油新潟） 岡本　武利（中国・岡山市役所） 浜中　誠（四国・丸善石油松山） 喜多　昭夫（九州・三菱長崎造船） 52吉成　素彦（埼玉・埼玉県庁） 53今井　清兼（埼玉・サンケン電気） 小塙　宏人（栃木・旭光学工業） 伊藤　誠彦（東京・簡易保険局） 53海保　正義（東京・明治生命） 内堀　毅（神奈川・横浜市役所） 53安藤　保（神奈川・横浜市役所） 鈴木　勝美（愛知・三菱電機） 53堀　幸矩（愛知・トヨタ自工） 増井　孝夫（三重・三菱化成） 53山口　香（三重・富士電機） 清水　義雄（大阪・川崎重工） 53佐藤　武人（京都・立石電機） 53川口　正光（兵庫・神戸市役所） 53岩堀　武（千葉・日立精機） 野口　利行（推薦・高松市役所）	伊勢　武（北海道・電電北海道） 中瀬　幸記（北海道・電電北海道） [illegible] 河村　博之（北信越・高岡市役所） 岡本　武利（中国・岡山市役所） 浜中　誠（四国・丸善石油松山） 喜多　昭夫（九州・三菱長崎造船） 今井　清兼（埼玉・サンケン電気） 小塙　宏人（栃木・旭光学工業） 海保　正義（東京・明治生命） 高橋　秀夫（神奈川・三菱重工） 鈴木　勝美（愛知・三菱電機） 堀　幸矩（愛知・トヨタ自工） 増井　孝夫（三重・三菱化成） 山口　香（三重・富士電機） 清水　義雄（大阪・川崎重工） 竹原　茂（大阪・電電近畿）	中瀬　幸記（北海道・電電北海道） [illegible]（東北・鶴岡市役所） 小塙　宏人（栃木・旭光学工業） 河村　博之（北信越・高岡市役所） 岡本　武利（中国・岡山市役所） 浜中　誠（四国・丸善石油松山） 小島日出夫（埼玉・本田狭山） 海保　正義（東京・明治生命） 松浪鋭四郎（東京・KDD） 加藤　豊（神奈川・関東自工） 鈴木　勝美（愛知・三菱電機） 増井　孝夫（三重・三菱化成） 山口　香（三重・富士電機） 御前　龍雄（大阪・塩野香料） 武村　俊平（大阪・KDD） 北　義一（兵庫・三菱電機） 入間　秀哲（推薦・東京トヨペ）
監事	武村　俊平（大阪・KDD） 幸野　邦昭（千葉・丸善石油）	伊藤　誠彦（東京・簡易保険局）	伊藤　誠彦（東京・簡易保険局） 佐藤　忠男（埼玉・日研化学） 黒崎　二男（東京・北辰電機）
事務局	52松崎　一雄（推薦・電電東京） 53宮脇　幸彦（推薦・電電東京）	宮脇　幸彦（推薦・電電東京）	中村　昭（推薦・電電東京）

4．日本実連を支えた人々

歴代役員

役職	昭和58年度 59	昭和60年度 61	昭和62年度 63
会長	真藤　恒（電電公社総裁）	真藤　恒（NTT社長）	真藤　恒（NTT社長）
副会長	58草加　英資（電電・東京電気通信局長） 59長谷川寿彦（　同　上　）	長谷川寿彦（電電・東京電気通信局長） 横井　初夫（日研化学常務取締役）	神林　留雄（NTT取締役東京支社長） 横井　初夫（日研化学常務取締役）
顧問	米沢　滋　川崎鋼次郎 秋草　篤二　浅草　巌人 山田　哲三　有賀　主一 橋本　真澄　星　正也 玉野　義雄	米沢　滋　川崎鋼次郎 秋草　篤二　浅原　巌人 山田　哲三　有賀　主一 橋本　真澄　星　正也 玉野　義雄　草加　英資	米沢　滋　川崎鋼次郎 秋草　篤二　浅原　巌人 山田　哲三　有賀　主一 橋本　真澄　星　正也 玉野　義雄　草加　英資 長谷川寿彦
参与	増井　益二 今　武一 諸星三代治 高村工三郎 丸山　芳春	増井　益二 今　武一 諸星三代治 高村工三郎 丸山　芳春 相沢　和夫	増井　益二　鈴木　龍平 今　武一　宮永　武司 諸星三代治　中山　邦夫 高村工三郎 丸山　芳春 相沢　和夫
理事長	58相沢　和夫（推薦・電電東京） 59鈴木　龍平（推薦・電電東京）	鈴木　龍平（推薦・NTT東京）	原田　和坦（推薦・NTT東京）
副理事長	並木萬次郎（推薦・電電東京） 宮永　武司（推薦・明治生命） 野村　嘉明（京都・島津製作所）	並木萬次郎（推薦・NTT東京） 60宮永　武司（推薦・明治生命） 61松浪鋭四郎（東京・KDD） 野村　嘉明（京都・島津製作所）	並木萬次郎（推薦・NTT東京） 松浪鋭四郎（東京・KDD） 野村　嘉明（京都・島津製作所）
常務理事	井上　忠久（京浜・関東自工） 油井　秀男（東海・新日本製鉄） 池田　芳麻（近畿・電電近畿） 野口　利行（四国・高松市役所） 幸野　邦昭（推薦・丸善石油） 伊勢　武（北海道・電電北海道） 松浪鋭四郎（東京・KDD） 京屋　孝治（神奈川・日本石油） 堀　幸矩（愛知・トヨタ自動車） 清水　義雄（大阪・川崎重工） 中山　邦夫（推薦・高岡市役所） 星野　義昭（推薦・電電東京） 豊島　光男（推薦・電電東京） 鈴木　弘毅（推薦・電電東京）	井上　忠久（京浜・関東自工） 油井　秀男（東海・新日本製鉄） 池田　芳麻（近畿・NTT近畿） 野口　利行（四国・高松市役所） 幸野　邦昭（関東・丸善石油） 伊勢　武（北海道・NTT北海道） 60松浪鋭四郎（東京・KDD） 森谷喜久男（東京・NTT東京） 京屋　孝治（神奈川・日本石油） 堀　幸矩（愛知・トヨタ自動車） 清水　義雄（大阪・川崎重工） 61宮永　武司（推薦・明治生命） 中山　邦夫（推薦・高岡市役所） 星野　義昭（推薦・NTT東京） 木場　成男（推薦・NTT東京）	井上　忠久（推薦・関東自工） 油井　秀男（東海・新日本製鉄） 池田　芳麻（近畿・NTT近畿） 野口　利行（四国・高松市役所） 幸野　邦昭（関東・丸善石油） 伊勢　武（北海道・NTT北海道） 奈良坂　孝（東北・東北大学） 森谷喜久男（東京・NTT東京） 京屋　孝治（神奈川・日本石油） 堀　幸矩（愛知・トヨタ自動車） 月原　朗（大阪・三洋電機） 藤原　航（中国・三井造船玉野） 北田　葆光（九州・ベスト電器） 星野　義昭（推薦・NTT東京） 宮入　恒明（京浜・日本電気） 河村　博之（北信越・高岡市役所） 池田　信孝（推薦・NTT東京）
理事	中瀬　幸記（北海道・電電北海道） 窪田　完士（東北・鶴岡市役所） 河村　博之（北信越・高岡市役所） 岡本　武利（中国・岡山市役所） 奈良坂　孝（宮城・東北大学） 藤田　繁樹（埼玉・本田技研） 入間　秀哲（東京・東京トヨペット） 今井　茂満（東京・カワサキ） 佐藤　龍典（東京・ヨネックス） 高橋　秀男（神奈川・三菱重工） 鈴木　勝美（愛知・三菱電機） 増井　孝夫（三重・三菱化成） 御前　龍雄（大阪・塩野香料） 北　義一（兵庫・三菱電機）	河村　博之（北信越・高岡市役所） 藤原　航（中国・三井造船玉野） 中瀬　幸記（北海道・NTT北海道） 奈良坂　孝（東北・東北大学） 今井　茂満（東京・カワサキ） 入間　秀哲（東京・東京トヨペット） 高橋　秀夫（神奈川・三菱重工） 鈴木　勝美（愛知・三菱電機） 増井　孝夫（三重・三菱化成） 御前　龍雄（大阪・塩野香料） 北　義一（兵庫・三菱電機） 太田　博之（石川・金沢市役所）	清水　義雄（大阪・川崎重工） 御前　龍雄（大阪・塩野香料） 中瀬　幸記（北海道・NTT北海道） 山本　次生（推薦・サントリ） 今井　茂満（東京・カワサキ） 丹藤　勇一（東京・ヨネックス） 高橋　秀夫（神奈川・三菱重工） 鈴木　勝美（愛知・三菱電機） 増井　孝夫（三重・三菱化成） 太田　博之（石川・金沢市役所） 北　義一（兵庫・三菱電機）
監事	伊藤　誠彦（東京・簡易保険局） 佐藤　忠男（埼玉・日研化学） 吉里　文雄（大阪・大阪ガス）	伊藤　誠彦（東京・簡易保険局） 佐藤　忠男（埼玉・日研化学）	伊藤　誠彦（東京・簡易保険局） 佐藤　忠男（埼玉・日研化学） 庄司　俊介（東京・東芝）
事務局	瀬田　幸夫（電電東京）	棚井　幸則（NTT東京）	沼崎　洋典（NTT東京）

4．日本実連を支えた人々　歴代役員

役職	平成元年度 2	平成3年度 4	平成5年度 6
会長	山口　開生（NTT社長）	山口　開生（NTT代表取締役会長）	山口　開生（NTT代表取締役会長）
副会長	西村　守正（NTT取締役東京支社長） 横井　初夫（日研化学・相談役）	西村　守正（NTT常務取締役東京支社長） 横井　初夫（日研化学・相談役）	朝原　雅邦（NTT常務取締役東京支社長） 横井　初夫（日研化学・相談役）
顧問	米沢　滋　川崎鋼次郎 秋草　篤二　浅原　巌人 山田　哲三　有賀　主一 橋本　真澄　星　正也 玉野　義雄　草加　英資	米沢　滋　川崎鋼次郎 秋草　篤二　浅原　巌人 山田　哲三　有賀　主一 橋本　真澄　星　正也 玉野　義雄　草加　英資	米沢　滋　川崎鋼次郎 秋草　篤二　浅原　巌人 山田　哲三　有賀　主一 橋本　真澄　星　正也 玉野　義雄　草加　英資
参与	増井　益二　鈴木　龍平 今　武一　宮永　武司 諸星三代治　中山　邦夫 高村工三郎　原田　和坦 丸山　芳春　野村　嘉明 相沢　和夫	増井　益二　鈴木　龍平 今　武一　宮永　武司 諸星三代治　中山　邦夫 高村工三郎　原田　和坦 丸山　芳春　野村　嘉明 相沢　和夫	増井　益二　鈴木　龍平 今　武一　宮永　武司 諸星三代治　中山　邦夫 高村工三郎　原田　和坦 丸山　芳春　野村　嘉明 相沢　和夫
理事長	江畑　誠一（推薦・NTT東京）	江畑　誠一（推薦・NTT東京）	江畑　誠一（推薦・NTT東京）
副理事長	並木萬次郎（推薦） 松浪鋭四郎（東京・東京都実連副会長） 油井　秀男（東海・愛知県実連理事長）	並木萬次郎（推薦） 松浪鋭四郎（東京・東京実連副会長） 油井　秀男（東海・愛知県実連理事長）	並木萬次郎（推薦） 油井　秀男（東海・愛知県実連理事長）
常務理事	伊勢　武（北海道・NTT北海道） 奈良坂　孝（東北・東北大学） 幸野　邦昭（関東・丸善油化商事） 桜田　豊治（京浜・日産自動車） 河村　博之（北信越・高岡市役所） 北　義一（近畿・三菱電機） 藤原　航（中国・三井造船玉野） 野口　利行（四国・高松市役所） 北田　葆光（九州・ベスト電器） 本多　修治（東京・ニコン電子） 京屋　孝治（神奈川・日本石油） 堀　幸矩（愛知・トヨタ自工） 月原　朗（大阪・三洋電機） 森谷喜[illegible] 星野　義昭（推薦・NTT東京） 池田　信孝（推薦・NTT東京）	伊勢　武（北海道・北海道実連副会長） 奈良坂　孝（東北・東北大学） 幸野　邦昭（関東・丸善油化商事） 桜田　豊治（京浜・日産自動車） 河村　博之（北信越・高岡市役所） 北　義一（近畿・三菱電機） 藤原　航（中国・三井造船玉野） 吉田　一人（四国・タダノ） 坂田　雄二（九州・ベスト電器） 今井　茂満（東京・ブリジストンスポーツ） 本多　修治（東京・ニコン電子） 京屋　孝治（神奈川・日本石油） 鈴木　勝美（愛知・[illegible]） [illegible]（大阪・三洋電機） 庄司　俊介（推薦・東芝） 池田　信孝（推薦・NTT東京）	伊勢　武（北海道・北海道実連副会長） 奈良坂　孝（東北・東北大学） 幸野　邦昭（関東・丸善油化商事） 桜田　豊治（京浜・日産自動車） 河村　博之（北信越・高岡市役所） 北　義一（近畿・三菱電機） 藤原　航（中国・三井造船玉野） 吉田　一人（四国・タダノ） 坂田　雄二（九州・ベスト電器） 今井　茂満（東京・ブリジストンスポーツ） 本多　修治（東京・ニコン電子） 京屋　孝治（神奈川・[illegible]） 鈴木　[illegible]（愛知・三菱電機） 月原　朗（大阪・三洋電機） 庄司　俊介（推薦・東芝） 池田　信孝（推薦・NTT東京） 星野　義昭（推薦・NTT東京）
理事	中瀬　幸記（北海道・NTT北海道） 今井　茂満（東京・学習研究社） 丹藤　勇一（東京・ヨネックス） 高橋　清（神奈川・関東自工） 鈴木　勝美（愛知・三菱電機） 増井　孝夫（三重・三菱化成） 太田　博之（石川・金沢市役所） 佐藤　武人（京都・立石電機） 池田　芳麻（大阪・大阪実理事長） 御前　龍雄（大阪・塩野香料） 宮入　恒明（推薦・日本電気）	中瀬　幸記（北海道・NTT北海道） 三浦　紀重（宮城・東北大学） 丹藤　勇一（東京・ヨネックス） 高橋　清（神奈川・関東自工） 牧野　光男（富山・高岡市役所） 太田　博之（石川・金沢市役所） 山口　香（三重・富士電機） 佐藤　武人（京都・オムロン） 清水　義雄（大阪・大阪実副理事長） 御前　龍雄（大阪・塩野香料） 瀬川　欽也（兵庫・三菱重工）	中瀬　幸記（北海道・NTT北海道） 三浦　紀重（宮城・東北大学） 丹藤　勇一（東京・ヨネックス） 内田　淳吉（東京・コニカ） 高橋　清（神奈川・関東自工） 牧野　光男（富山・高岡市役所） 太田　博之（石川・金沢市役所） 武田　正男（愛知・豊田自動織機） 山口　香（三重・富士電機） 佐藤　武人（京都・オムロン） 清水　義雄（大阪・大阪実連副理事長） 瀬川　欽也（兵庫・三菱重工） 小林　正人（東京・東京簡保）
監事	佐藤　忠男（埼玉・日研化学） 庄司　俊介（東京・東芝）	佐藤　忠男（埼玉・日研化学） 西原　四郎（滋賀・大津市役所） 森谷喜久男（東京・NTT東京）	佐藤　忠男（埼玉・日研化学） 西原　四郎（滋賀・大津市役所） 森谷喜久男（東京・NTT東京）
事務局	山下　博（推薦・NTT東京）	山下　博（推薦・NTT東京）	山下　博（推薦・NTT東京）

4．日本実連を支えた人々

役　職	平成7年度 8
会　長	山口　開生（NTT会長）
副会長	朝原　雅邦（NTT常務取締役東京支社長） 横井　初夫（日研化学・相談役） 宮永　武司（㈱明治生命厚生事業団）
顧　問	米沢　　滋　　浅原　巌人 秋草　篤二　　有賀　主一 橋本　真澄　　星　　正也 玉野　義雄　　草加　英資 川崎鋼次郎　　西村　守正
参　与	今　　武一　　鈴木　龍平 諸星三代治　　中山　邦夫 丸山　芳春　　原田　和坦 相沢　和夫　　野村　嘉明
理事長	油井　秀男（東海・愛知県実連理事長）
副理事長	古田　　嵩（NTT東京） 並木萬次郎（推薦） 伊勢　　武（北海道・北海道実連副会長）
常務理事	奈良坂　孝（東北・東北大学） 幸野　邦昭（関東・丸善石油千葉） 京屋　孝治（京浜・日本石油） 河村　博之（北信越・高岡市役所） 北　　義一（近畿・三菱電機） 藤原　　航（中国・岡山大学） 吉田　一人（四国・タダノ） 坂田　雄二（九州・ベスト電器） 今井　茂満（東京・ブリジストンスポーツ） 本多　修治（東京・ニコン電子） 桜田　豊治（神奈川・日産自動車） 鈴木　勝美（愛知・三菱電機） 清水　義雄（大阪・大阪実連理事長） 月原　　朗（地区推薦・三洋電機） 池田　信孝（会長推薦・NTT東京）
理　事	岡　　明弘（北海道・道実連理事長） 二浦　紀重（宮城・東北大学） 石橋　康幸（千葉・富士電機） 丹藤　勇一（東京・ヨネックス） 内田　淳吉（東京・コニカ） 細谷　　清（神奈川・関東自工） 牧野　光男（富山・高岡市役所） 太田　博之（石川・金沢市役所） 武田　正雄（愛知・豊田自動織機） 山口　　香（三重・富士電機） 佐藤　武人（京都・オムロン） 北野　公男（大阪・大阪ガス） 瀬川　欽也（兵庫・三菱重工） 星野　義昭（東京・NTT東京） 小林　正人（東京・東京簡易・保険局） 庄司　俊介（神奈川・東芝）
監　事	佐藤　忠男（埼玉・日研化学） 西原　四郎（滋賀・大津市役所）
事務局	本多　修治（東海・ニコン電子）

4．日本実連を支えた人々　過去の表彰者一覧

年度	特別功労賞	功労賞	技能賞	感謝状
昭和40年 (1965) 北九州市	靭　勉（初代会長） 森友徳兵衛（日バ理事長） （以上連盟創設の功労）		横井文子（琴平電鉄） （女子単3年連続優勝）	
昭和41年 (1966) 大阪市			トヨタ自動車工業（愛知） （団体男子3年連続優勝）	
昭和42年 (1967) 勝山市			琴平電鉄（香川） （団体女子3年連続優勝） 三沢英二（北九州市役所） （40歳男子単2年連続優勝）	
昭和44年 (1969) 釜石市			小宮好雄、上野明美 （トヨタ自工） （混合複3年連続優勝） 遠藤啓治（日本鋼管） （30歳男子単3年連続優勝）	
昭和45年 (1970) 高松市		野口利行（高松市役所） （20回大会主管の功労） 溝淵宏二（国際電電） （10年以上本連盟役員）		
昭和46年 (1971) 鹿児島			小島一平（ヨネヤマラケット） （一般男子単3年連続優勝）	
昭和47年 (1972) 茂原市	山田哲三（副会長） （永年本連盟役員の功労）	横井初夫（常務理事） 池田芳麻（常務理事） （以上10年以上本連盟役員）	浜中　誠（丸善石油松山） （40歳男子単3年連続優勝）	
昭和48年 (1973) [illegible]市		[illegible]事長） 吉田健一郎（和歌山県実連理事長） （以上永年県連盟役員） 佐藤忠男（本連盟監事） （永年本連盟の会計監査） 川上洋一（不二越） （全日実大会10回以上出場）	[illegible]徳・大野幸雄 （十條製紙） （33歳男子複連続優勝）	
昭和49年 (1974) 松阪市		今　武一（前理事長）	木間順次（トヨタ自工） （一般男子単3年連続優勝） 堺　栄一（河崎） （混合複3年連続優勝） 湯木博恵（河崎） （一般女子単4年連続優勝） （混合複3年連続優勝）	
昭和50年 (1975) 高岡市			横井虎男（クラレ西条） 谷口金夫（クラレ西条） （40歳以上複3年連続優勝）	
昭和51年 (1976) 藤沢市	河合　糺（神奈川） （日本実連発足の功労）			

4．日本実連を支えた人々　過去の表彰者一覧

年度	功労賞（団体の部） （15回以上出場）	功労賞（個人の部－選手） （10回以上出場）
昭和49年 (1974)	住友化学工業㈱菊本　（愛媛）	片上逸志（愛媛・住友化学・菊本）　吉田　昇（兵庫・大日日本電線） 岡本武利（岡山・岡山市役所）　豚座一利（兵庫・大日日本電線） 藤井英雄（岡山・岡山市役所）　堺　栄一（東京都・河崎） 黒崎二男（東京都・北辰電機）
昭和50年 (1975)	電電近畿　（大阪）	永原昌雄（富山・不二越）　横岡忠幸（香川・高松市役所） 尾崎惟信（兵庫・三菱電機神戸）
昭和51年 (1976)	丸善石油㈱松山　（愛媛） 高松市役所　（香川） 三菱自動車工業㈱京都　（京都）	鈴木勝之（神奈川・三菱重工業横浜）　虻江　優（岡山・三井造船玉野） 吉田邦男（神奈川・日立製作所戸塚）　芳上一男（岡山・三井造船玉野） 梶谷将人（福井・福井銀行）　上野輝治（岡山・三井造船玉野）
昭和52年 (1977)	㈱不二越　（富山）	佐藤幸男（神奈川・日本石油）　福井達雄（京都・三菱自工京都） 京屋孝治（神奈川・日本石油）　戸沢正雄（京都・三菱自工京都） 河村博之（富山・高岡市役所）　石津正明（京都・三菱自工京都） 関村順治（富山・高岡市役所）　高宮梵之助（京都・三菱自工京都） 中山邦夫（富山・高岡市役所）
昭和53年 (1978)	大日日本電線㈱尼崎　（兵庫） 三菱電機㈱伊丹製作所　（兵庫） ㈱北辰電機　（東京都） ㈱島津製作所　（京都）	谷本庄一（香川・高松市役所） 田中貞夫（長崎・三菱重工長崎造船所） 増井孝夫（三重・三菱化成四日市） 和田正高（京都・島津製作所）
昭和54年 (1979)		若林　登（京都・島津製作所）　鈴木健二（東京都・電電東京） 白井規久夫（京都・海自舞鶴）　中野和雄（長崎・三菱重工長崎造船） 米沢和男（富山・高岡市役所）　辻　優（長崎・三菱重工長崎造船） 宮林照男（富山・高岡市役所）　長松保男（長崎・三菱電機長崎） 畑　栄進（富山・不二越）　塩飽　初（兵庫・新日鉄広畑） 友金利一（兵庫・神戸製鋼尼崎）　平松重吉（兵庫・新日鉄広畑）
昭和55年 (1980)	横浜市役所　（神奈川） 三菱重工業㈱横浜造船所（神奈川）	瀬野俊策（京都・海自舞鶴）　竹原　茂（大阪・電電近畿） 白井幸夫（京都・海自舞鶴）　木村敏男（北海道・電電北海道） 三上隆康（栃木・富士重工宇都宮）
昭和56年 (1981)	新日本製鉄㈱名古屋製作所（愛知） ㈱日立製作所戸塚工場　（神奈川） 三井造船㈱玉野事業所　（岡山）	田丸勝巳（岡山・三井造船玉野）　小林信行（三重・三菱化成四日市） 藤原　航（岡山・三井造船玉野）　伊藤正巳（三重・三菱化成四日市） 松井　一（岡山・三井造船玉野）　斉藤　満（神奈川・日本石油根岸） 佐薙　勲（愛媛・住友化学愛媛）
昭和57年 (1982)	日本石油・根岸製油所　（神奈川） 高松琴平電鉄　（香川） 百十四銀行　（香川） 三菱化成工業四日市　（三重） カワサキラケット　（東京都） 大津市役所　（滋賀）	泉　信夫（神奈川・日石根岸）　島田　稔（東京都・東京都庁） 弾正原義春（香川・香川県庁）　堀越　進（東京都・北辰電機） 池田信孝（東京都・NTT東京）　堺　栄一（東京都・カワサキ） 栂野尾昌一（東京都・ヨネックス）　湯木博恵（東京都・カワサキ） 大原政義（東京都・東京都庁）　山口　香（三重・富士電機三重） 竹俣　明（東京都・東京都庁）　後藤俊彦（三重・富士電機三重） 竹内洋雅（愛媛・丸善石油松山）　田中　勇（栃木・富士重工宇都宮）
昭和58年 (1983)	高岡市役所　（富山） 横浜市役所　（神奈川）	高橋　清（神奈川・関東自工）　林　芳広（石川・金沢市役所） 桜田豊治（神奈川・日産自横浜）　山下敏行（石川・金沢市役所） 今泉　勉（富山・高岡市役所）　太田博之（石川・金沢市役所） 牧野光男（富山・高岡市役所）　川村道厚（京都・海自・舞鶴） 八川修一（富山・不二越）　田野栄敏（京都・海自・舞鶴） 下田　勲（三重・富士電機三重）　栂野尾悦子（ヨネックス） 米田幸生（石川・金沢市役所）　赤塚正三（北海道・NTT北海道）
昭和59年 (1984)	富士重工業（群馬） 松下電器産業（大阪）	阿部正行（東京・横河北辰電機）　滝　正孝（静岡・富士フイルム） 遠藤好男（北海道・NTT北海道）　井出裕雄（静岡・富士フイルム） 渡辺晃一（群馬・富士重工群馬）　西島知彦（静岡・富士フイルム） 米田　守（群馬・三菱電機群馬）　森川広美（三重・富士電機三重） 滝本和大（千葉・丸善石油千葉）　遠藤美智子（神奈川・関東自工） 尾崎幹雄（東京都・NTT東京）

4．日本実連を支えた人々　過去の表彰者一覧

年度	功労賞（団体の部） （15回以上出場）	功労賞（個人の部－選手） （10回以上出場）	
昭和60年 （1985）	関東自動車工業　（神奈川） 海上自衛隊・舞鶴　（京都）	高橋幸治郎（神奈川・いすゞ川崎） 手塚利男（神奈川・いすゞ川崎） 増永秀則（福井・福井市役所） 山本敏彦（福井・福井市役所） 嶋田伸行（福井・福井市役所） 高野貞男（群馬・富士重群馬） 町田守正（静岡・本州製紙富士） 川原崎仁（静岡・富士フイルム） 諏訪部豊（静岡・富士フイルム）	山田好男（北海道・札鉄） 山本晴通（北海道・札鉄） 金子英司（神奈川・横浜市役所） 平　敏司（神奈川・横浜市役所） 斉藤英昭（神奈川・横浜市役所） 坂　素彦（神奈川・横浜市役所） 藤田茂樹（埼玉・本田技研狭山） 入間秀哲（東京・東京トヨペット） 吉岡直彦（静岡・富士フイルム）
昭和61年 （1986）	コスモ石油・千葉製油所　（千葉） 本州製紙・富士工場　（静岡） 福井市役所　（福井） NTT・北海道　（北海道） 東京都庁　（東京都） 名古屋鉄道　（愛知） 三菱重工業・名古屋　（愛知）	高藤哲岳（京都・松風） 徳田　進（京都・松風） 伊佐恒範（京都・松風） 深谷幸雄（京都・松風）	後藤　勝（東京・東京都庁） 小林賢治（東京・東京都庁） 古明地正邦（東京・東京簡保） 今井茂満（東京・学研） 土田証雄（東京・NTT東京）
昭和62年 （1987）	日立製作所・水戸　（茨城） 阪急電鉄　（大阪） 香川県庁　（香川） 富士フイルム・富士宮　（静岡） 豊田自動織機製作所　（愛知）	篠尾幸孝（北海道・NTT北海道） 寺田　繁（福島・富士通会津） 早川　博（茨城・日立水戸） 菅野　孝（茨城・日立水戸） 湯沢雄一（栃木・栃木県庁） 古沢元浩（栃木・栃木県庁） 鈴木　武（栃木・栃木県庁） 石渡輝己（神奈川・日石根岸） 古野章二（東京都・東京簡保） 藤本規夫（三重・富士電機三重） [illegible] 小山光男（香川・香川県庁）	加藤保利（愛知・名鉄） 天野良彦（愛知・新日鉄名古屋） 佐々木秀一（愛知・新日鉄名古屋） 山西友幸（愛知・新日鉄名古屋） 林　甚代（愛知・新日鉄名古屋） 伊藤雅昭（愛知・NTT東海） 中川紀嗣（愛知・NTT東海） 伊藤正昭（愛知・NTT東海） 水谷悦郎（愛知・NTT東海） 松波　謙（愛知・三菱重工名古屋） 沢田正大（愛知・三菱重工名古屋） 武田正雄（愛知・豊田自動織機）
昭和63年 （1988）	金沢市役所　（石川） 新日本製鉄・広畑　（兵庫） ヨネックス　（東京）	丸山勝美（山形・鶴岡市役所） 渡辺正光（福島・富士通会津） 大髭輝雄（東京都・KDD） 藤平　守（東京都・KDD） 青木一夫（神奈川・富士通川崎） 森　　隆（和歌山・住友化工）	和久谷富章（大阪・コスモ石油堺） 楠戸春則（大阪・コスモ石油堺） 穂谷真弘（大阪・コスモ石油堺） 片岡正之（兵庫・新日鉄広畑） 横山真二（兵庫・新日鉄広畑）
平成元年 （1989）		山本　清（岡山・三井造船玉野） 藤原道弘（岡山・川崎製鉄水島） 石原泰造（東京都・東京電力） 橋本　栄（東京都・東京電力） 高崎厚生（北海道・札幌市役所） 米山孝二（北海道・NTT北海道） 岩田好夫（埼玉・本田技研狭山） 馬場良一（埼玉・パイオニア所沢） 浅利章悦（千葉・コスモ石油千葉） 佐藤一男（千葉・コスモMPC） 斉藤和則（青森・弘前市役所） 福田良治（長崎・三菱重工長崎） 旭実喜雄（愛知・三菱重名古屋） 青木マチ子（福島・富士通会津）	船木真司（愛知・三菱重工名古屋） 大野　寛（岐阜・岐阜県庁） 浅野人美（岐阜・岐阜県庁） 高橋伸治（岐阜・岐阜県庁） 田口伸治（岐阜・岐阜県庁） 北野公男（大阪・大阪ガス） 西野幸男（大阪・大阪ガス） 秋庭一生（山形・鶴岡市役所） 上原正明（山形・鶴岡市役所） 真田昭良（山形・鶴岡市役所） 田所光男（宮城・NTT東北） 平向一郎（茨城・日立化成） 杉原好一（福島・富士通会津）

4．日本実連を支えた人々　過去の表彰者一覧

年度	功労賞（団体の部） （15回以上出場）	功労賞（個人の部－選手） （10回以上出場）
平成２年 (1990) 神戸市		中居功治（群馬・富士重工群馬） 竹内康夫（群馬・富士重工群馬） 田中　徹（神奈川・東京電力） 甘粕完治（神奈川・日立戸塚） 芹沢英彦（静岡・ジャトコ） 後藤和之（静岡・ジャトコ） 池田光宏（静岡・富士フイルム） 宮原　一（福井・福井市役所） 青山忠雄（愛知・三菱重工名航） 竹井宣夫（京都・三菱自工京都） 冨田健一（滋賀・日本IBM野州） 安達喜兼（広島・三菱電機福山） 安達恵吉（広島・三菱電機福山） 厚川　勇（東京・東京電力） 岩間　源（東京・東京電力） 大塚千賀子（東京・学研） 橋本敏邦（東京・KDD）
平成３年 (1991) 仙台市	本田技研狭山　（埼玉） 松下電器大阪　（大阪） 東京簡易保険　（東京）	梅沢和則（茨城・住友金属鹿島） 牧野　勉（茨城・動燃東海） 大八木正（栃木・日産自動車栃木） 和久光男（栃木・栃木県庁） 鈴木洋一（埼玉・パイオニア所沢） 澤辺孝夫（埼玉・パイオニア所沢） 阿部哲夫（千葉・新日鐵君津） 吉田　寛（千葉・新日鐵君津） 大村正信（石川・金沢市役所） 谷島助男（石川・NTT北陸） 武井弘征（静岡・富士フイルム） 納所久夫（愛知・新日鐵名古屋） 岩渕信司（愛知・豊田織機） 井沢　広（愛知・名古屋鉄道） 井上　龍（愛知・名古屋鉄道） 林　久男（愛知・名古屋鉄道） 佐々木正司（京都・三菱自工京都） 冨田章夫（大阪・NTT関西） 山川正一（大阪・松下電器大阪） 高野幹男（北海・小樽市役所） 阿部幸夫（北海・小樽市役所） 東田朋巳（北海・小樽市役所） 目黒清則（北海・小樽市役所） 高橋　進（北海・JR北海道） 清野徹也（福島・富士通会津） 中沢睦夫（東京・東京簡易保険） 高山秀子（神奈川・日立戸塚） 根本道夫（神奈川・横浜市役所）
平成４年 (1992) 広島市	川崎製鉄水島　（岡山） 日立化成工業　（茨城） NTT東海　（愛知）	若林邦任（岡山・三井造船玉野） 斉藤敬一郎（愛知・名古屋鉄道） 坪井英之（愛知・新日鐵名古屋） 梅林信幸（和歌山・住金和歌山） 北山洋一（和歌山・住金和歌山） 西山祥一（和歌山・住金和歌山） 角南行治（大阪・三洋電機大東） 岩崎正彦（大阪・三洋電機大東） 田中真平（大阪・大阪ガス） 高野美子（茨城・日立化成） 狩野秀一（茨城・日立水戸） 寺尾　豊（京都・三菱自工京都） 菅原又男（千葉・新日鐵君津） 岡下俊次（香川・香川県庁） 加納義之（岐阜・岐阜県庁） 高野　徹（東京・東京電力） 内田　修（東京・東京電力）
平成５年 (1993) 高岡市	住友金属鹿島　（茨城） 不二越　（石川） 富士通川崎　（神奈川） 東京トヨペット　（東京）	七崎悦範（北海・JR北海道） 松村徳市（北海・JR北海道） 松岡　誠（北海・JR北海道） 中平正幸（北海・札幌市役所） 渋井敏紀（北海・札幌市役所） 中村義則（北海・札幌市役所） 丸山清春（群馬・富士重工） 日比野伸昭（愛知・豊田工機） 土田信也（愛知・豊田工機） 白田直人（愛知・新日鐵名古屋） 毛利達彦（石川・金沢市役所） 橘川光孝（東京・東京トヨペット） 丹藤勇一（東京・ヨネックス）
平成６年 (1994) 福岡市	住友金属和歌山　（和歌山） 鶴岡市役所　（山形） 宇部興産　（山口） 富士重工三重　（三重）	三根　哲（長崎・三菱重工長崎） 江坂敏郎（長崎・三菱重工長崎） 竹永　学（長崎・三菱重工長崎） 中角好男（大阪・松下電器大阪） 早水栄治（大阪・大阪ガス） 乳井重雄（和歌山・住友金属） 松浦竹典（岐阜・三洋電機岐阜） 坂井外喜男（石川・NTT北陸） 浜谷安裕（石川・NTT北陸） 広岡輝男（兵庫・新日鐵広畑） 山本　勝（兵庫・大和製衡） 藤本純一（兵庫・大和製衡） 黒田真孝（兵庫・大和製衡） 井上　昇（京都・島津製作所） 内田智子（三重・富士電機三重） 小林英毅（三重・富士電機三重） 後藤正志（神奈川・富士通川崎） 秋山昌博（神奈川・日立情通） 東　正也（愛知・豊田工機） 平林則明（東京・航空宇宙研） 楯　篤志（東京・航空宇宙研） 重松まゆみ（東京・東京都庁） 笹林朋子（東京・東京都庁） 星　徹（福島・富士通会津） 加藤安史（宮城・NTT東北）

4．日本実連を支えた人々

過去の表彰者一覧

年度	功労賞（団体の部） （15回以上出場）	功労賞（個人の部－選手） （10回以上出場）	
平成７年 (1995) 札幌市	大阪ガス　（大阪） 日本製紙岩国工場　（山口）	伊藤雅弘（北海道・NTT北海道） 藤川歳之（北海道・小樽市役所） 徳満康浩（北海道・小樽市役所） 韮沢伸幸（宮城・NTT東北） 本田克博（福島・富士通会津若松） 笠井孝之（神奈川・日産自動車） 入江久夫（神奈川・日産自動車） 細谷　昇（神奈川・関東自動車工業）	土田英紀（神奈川・NEC相模原） 岡部憲昌（石川・北國銀行） 中川　健（三重・日本電装） 宮崎庄一（大阪・松下電器大阪） 山口昭彦（大阪・松下電器大阪） 高橋良明（山口・日本製紙・岩国） 多田慧子（福井・福井市役所） 峰登志郎（愛知・豊田工機）

5．大会の概観　　第１回（昭和27年）東京大会



▲第１回東京大会（昭和27年２月）
男子団体優勝十條製紙・[illegible]　　工場関係者

朝　日　新　聞　第２４０７２号

神奈川版

本県勢、決勝に敗退

実業団バドミントン

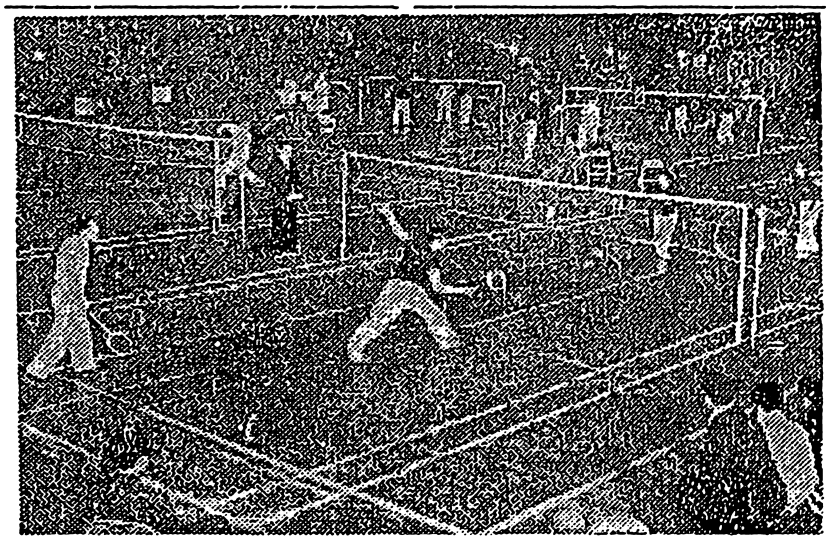
第二回全日本実業団バドミントン大会は十五日午後雨日に引続き横浜市中区のフライヤージムで開かれ、熱戦をくりひろげたが、本県代表チームは男子も女子も順当に決勝戦で倒敗し、男女とも前年度の優勝チームが連勝した。本県関係の成績次の通り。

▽男子団決勝
ナルトスポーツ　3―0　三菱長崎造船
（神奈川）　（長崎）
十条製紙伏木工場　3―1　日産自動車
（富山）　（神奈川）

▽同決勝
十条製紙伏木工場　3―1　ナルトスポーツ

▽同三位決定戦
日産自動車　3―2　三菱長崎造船

▽女子決勝
トヨタ自動車（愛知）　2―1　日本コロムビア（神奈川）



バドミントンの試合

▲昭和28年（1953年）２月16日朝日新聞

昭和28年（1953年）２月16日讀賣新聞▼

讀　賣　新　聞　昭和２８年２月１６日

十条製紙が連覇

実業団バドミントン　女子はトヨタ

第二回全日本実業団バドミントン選手権大会最終日は十五日午前十時半から横浜フライヤー・ジムで行われ男子は十条製紙、女子はトヨタ自動車がそれぞれ二連覇。

▽男子団決勝
十条製紙　3―1　日産自動車
（富山）　（神奈川）
ナルト・スポーツ（神奈川）　3―0　三菱造船（長崎）

▽三位決定戦
日産自動車　3―2　三菱造船

▽決勝
十条製紙　3―2　ナルト・スポーツ
○沼　15―9　15―9　秋　元
○清　水　15―9　15―9　秋　元
佐・野　12―15　14―18　岡　○

○的　谷　15―2　15―3　井　上
○的　谷　15―5　15―3　井　上
○佐　野　15―3　15―3　秋　元
宮　下　12―15　13―18　相　馬　○

▽女子三位決定戦
日産化学　3―0　新潟鉄工所

▽決勝
トヨタ自動車　2―1　コロムビア
保　田　3―11　10―12　筒　川　○
○伊与田　11―0　11―1　奥　谷
保　田　15―2　15―10　筒　川
○伊与田

長崎日日新聞　昭和29年2月15日　（月曜日）

2日間の熱闘譜に終止符

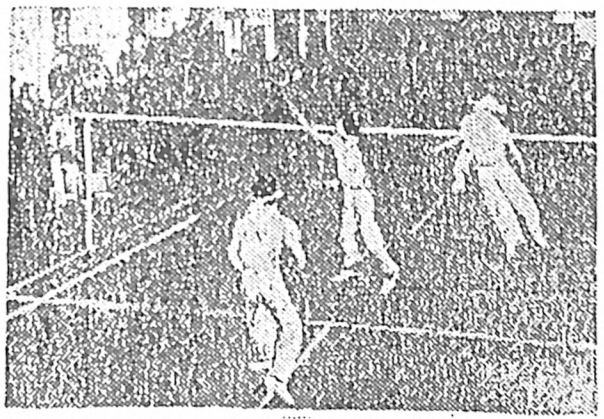
全日本實業團バドミントン選手權

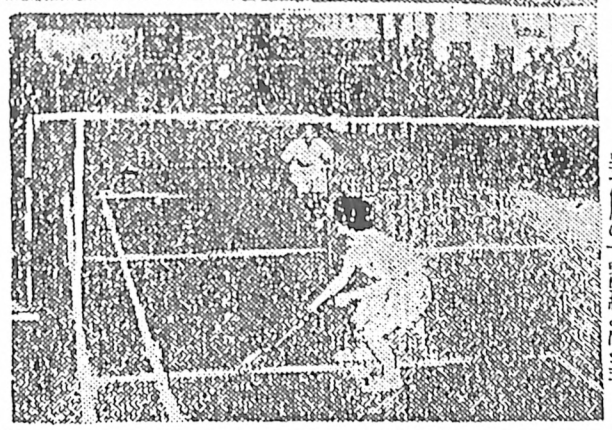
男十條製紙 女トヨタ 二連覇

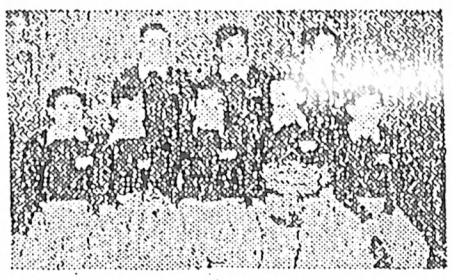
三菱造船 準優勝で惜敗す

全国十五都道府県の精鋭二百余を集めて本社後援のもとに長崎市で開かれた第三回全日本実業団バドミントン選手権大会は郷土県の期待空しく、期待の三菱造船も準優勝に敗退、結局予想通り男子は前回県の十条製紙伏木工場、女子は静岡県のトヨタ自動車が優勝、それぞれ三年連続の優勝をなしとげ十四日午後四時すぎ二日間にわたる熱闘譜に終止符をうった。

大会第二日は十四日午前九時半から長崎市勝山小学校体育館で勝戦をつづけられ、息詰る熱戦を展開したが湿気不振で三面打球をのぞみ、十条一日個はこれまた2―2となつたが、湿水の為闘で十条工場の四チーム、女子は日本コロンビアとトヨタ自動車の間で栄冠を目指し熱戦をくりひろげた。男子部決勝日産―三菱造船は2―2の末法勝敗の力半は最後の混戦が全日本女子一位荒川のソンマンチーム日本コロンビヤを破つてそれぞれ三たび優勝大杯を獲得した。











杯、賞状授与が行われ、指田大会委員長から〝力だけに頼りすぎている感が強く、今後一そう技術の練磨にはげんで欲しい〟旨の激励、さらに加藤大会副会長から閉会のあいさつがあり、多次の成果をあげて全国実業団大会の幕を閉じた。成績次の通り。

＝女子三位決定戦＝

三菱造船 2復1―0 1―0 長崎市役所

＝優勝戦＝

トヨタ 2―1 日本コロムビア

（田与保田） 2―1 （荒川小林）

（保田与田） 0―2 荒川小林

伊与田 2―0 小林

＝男子準決勝＝

日産自動車 3復1―1 1―2 2―1 三菱造船

荒井 1―2 江戸水谷

三好 2―0 高成地 高野

荒井 2―0 江戸

酒井 0―2 成瀬

三好 2―0 高野

十条製紙 3復1―1 1―2 2―1 日産自動車

＝三位決定戦＝

三菱造船 3復1―1 1―2 2―1 日産自動車

＝優勝戦＝

十条製紙 3―0 日産自動車

工・宮下 2―1 鈎谷・佐野

荒井 2―0 酒井

鈎谷 2―0 酒井

昭和29年（1954年）２月15日長崎日日新聞▲

中部日本新聞　昭和30年3月22日

男子は日本鋼管
女子仙台郵政局が初優勝

全日本実業団バドミントン

本社後援、第四回全日本実業団バドミントン選手権大会第二日は二十一日午前九時から名古屋市金山体育館で男女準決勝、三位決定、決勝の計八試合を挙行。男子は準決勝で昨年度の勝者十条製紙（伏木工場（富山）が日本鋼管鶴見造船所（神奈川）に敗れるという大番狂わせがあり、結局決勝では地元のトヨタ自動車（愛知）と日本鋼管の対戦となり、日本鋼管が3―0と若さにものをいわせて押切り初優勝した。

一方女子では予想どおり日本コロムビア（神奈川）と仙台郵政局（宮城）が決勝戦に進出、好試合をくりひろげたが激戦のすえ、仙台郵政局が勝ち初優勝、本社賞は日本鋼管、仙台郵政局の両チームが獲得した。

◇女子準決勝
仙台郵政局 2（単1―0 複1―0）0 十条紙伏木
川崎コロムビア 2（単1―0 複1―0）0 秋田営林局

◇同三位決定
秋田営林局 2（単1―1 複1―0）1 十条紙伏木

◇同決勝
仙台郵政局 2―1 川崎コロムビア

西堀 15 15 9 12 1 大川
佐藤 6 10 12 15 2 荒川
3 15 11 4 0

○西堀 2 11 11 2 1 大川
○谷 津 2 11 11 4 3 0 荒川

◇男子準決勝
トヨタ自動車 3（単1―1 複2―0）1 日産自動車
日鋼管鶴見 3（単2―1 複1―1）2 十条紙伏木

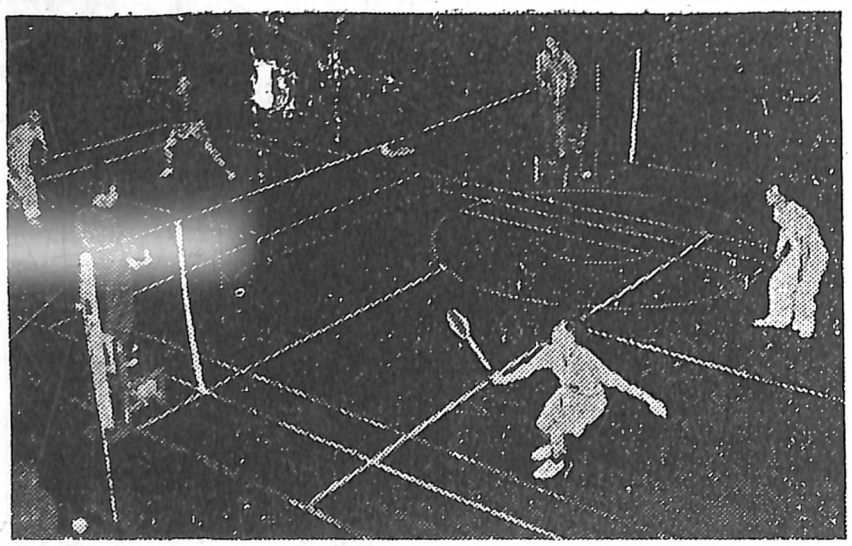
◇同三位決定戦
十条紙伏木 3（単2―0 複1―1）1 日産自動車

◇同決勝
日本鋼管 3―0 トヨタ自動車

○佐藤 治 2 15 14 15 7 3
遠藤 2 15 13 17 1 上羽
15 13 17 1 8 岩月

○砥石 2 15 18 13 0 深津
佐藤 2 15 21 0 山城

◇男子は準決勝で優勝候補とみられた十条伏木が日本鋼管に敗れたがこの一戦は事実上の決勝戦であった。複は1―1、単が1―1のタイスコアとなり、ここで砥石（日鋼）と清水（十条伏木）が顔を合せ、セットオールに持込むという好ゲームだったが清水が全く疲れ、若い砥石の制勝するところとなった。鋼管は決勝でトヨタをおさえ初優勝を飾ったが、勝因は若さとチームワークである。地元のトヨタも決勝進出は上出来で岩月、上羽の好ペアの活躍が光っていた。



男子決勝、トヨタ自動車×日本鋼管㊦ダブルス第二セットの熱戦

注）競技者の服装及びネットのはり方に注目当時の服装、会場設営の状況がうかがえる。ポストがサイドライン上でないので、ネットから白テープがさげてある。

昭和30年（1955年）3月22日中部日本新聞▲

富山新聞　昭和31年3月12日（月曜日）　（2）

十年来の快挙 三連覇く躍進 日本精工

前年優勝 日鋼鶴見を一蹴

女子優勝はコロムビア

5 全日本実業団

最終日

日本バドミントン協会、富山県、高岡市両教育委員会主催、第五回全日本実業団バドミントン選手権大会第二百は十一日高岡市岡部中学で、場内に満ちた約一千名の観衆が注目のうちに試合を進め、男子は予想通り前年優勝の日本鋼管鶴見（神奈川）と地元十条製紙伏木（富山）の決勝戦となったが、十条荒木、品川組のファイトある試合で女子ルスは1―1の同点に持込み、シングルスに連勝6―1で昨年の雪辱を遂げ、四度目の優勝を飾った。女子は過去四年連続六勝の日本コロムビア（神奈川）が仙台郵政局（宮城）を2―0のストレートで破り、初の栄冠を勝ち取った。

◇女子準決勝
荒川・大川（コロムビア神奈川）2―0トヨタ自動車（愛知）
高木・大沢（大川）2―0十条製紙伏木（富山）
仙台郵政局（宮城）・四日市（四日市）2―0佐川・山口（佐川急便）
◇同三位決定戦
トヨタ自動車（愛知）・高木・大沢2―0十条伏木（富山）・山口
佐川急便・山口2―0仙台郵政局（宮城）
◇同決勝
荒川・大川（コロムビア神奈川）2―0高木・大沢（トヨタ自動車愛知）

◇女子準決勝
コロムビア（神奈川）・荒川・大川2―0仙台郵政局（宮城）・四日市（四日市）
△男子準々決勝
日本鋼管鶴見（神奈川）・岡山（岡山）3―2三菱造船（長崎）・札幌鉄道局（北海道）
十条伏木（富山）・荒木・品川3―0トヨタ自動車（愛知）・多賀（多賀）
◇同準決勝
日本鋼管鶴見（神奈川）・岡山（岡山）3―2十条伏木（富山）・荒木・品川
コロムビア（神奈川）・荒川・大川2―0トヨタ自動車（愛知）・上羽（上羽）

◇同三位決定戦
トヨタ自動車（愛知）・上羽・月2―1三菱造船（長崎）・前田・永
十条伏木（富山）・荒木・品川2―0札幌鉄道局（北海道）・多賀・川
◇同決勝
日本鋼管鶴見（神奈川）・岡山（岡山）3―2コロムビア（神奈川）・荒川・大川

遂に雪辱なれり

十条伏木へすし詰めの応援団

◇…第一日は二会場だったが、この日は岡部中学だけのうえ日曜日とあって、場内は身動きもできず選手の通路もなくなる有様で、ついに女子決勝戦の進行途中で第二、第四コートをつぶして観覧席にあてた。このため、一時中断された女子決勝は大会開始以来、四年間次勝を続けてきた日本コロムビア（神奈川）が雪辱の悲願を遂成して優勝、相抱いてうれし泣きする。選手は会場内特設の高岡電報電話局出張所に郷土へ優勝を知らせる電報を打つためかけつけた。

◇…男子優勝の十条製紙伏木工場は地元だけに応援団が続々つめかけ、今度得点となったら万歳

新人品川の善戦に感謝

清水十条伏木チーム監督談　ダブルスに日本鋼管鶴見のベストワン佐治・砥石組に負けたときは非常に苦戦になると思ったが、つづく試合に荒木を助けた新人品川が善戦したことにより形勢を転じて優勝できた。昨年シングルスに負け越したので、技術的にスピードのあるプレーを心がけ、練習をつづけた結果によるもので、うれしいの一言につきる。

▲昭和31年（1956年）3月12日富山新聞

県バドミントン界にインパクト

香川県実業団バドミントン連盟
元・副会長　谷本庄一

大会の概要

第6回全日本実業団バドミントン選手権大会は、昭和32年3月9日午前9時に開会し、2日間にわたる熱戦が繰り広げられた。

当時、木造体育館としては西日本随一と言われた高松市体育館に、男子27チーム、女子9チームの強豪が勢揃いした。男子の部では、優勝候補の十條製紙が圧倒的な強さを発揮し相手チームを完封して勝ち進む。準々決勝では地元の高松専門店協会を、準決勝では三菱長崎造船所をいずれも3－0で連破。決勝では日本鋼管が執拗に食い下がり、勝ち点2を奪ったものの、結局は王座を守った十條製紙が二連覇（通算5回）を果たした。

一方女子の部では、岡山市役所が接戦の末、トヨタ自動車を制して初優勝を飾った。香川県の善通寺市役所は、初戦で岐阜県庁と対戦し、善戦したものの1－2と惜敗。

男女合わせて地元からは、香川県庁、高松市役所などの8チームが出場したが、高松専門店協会がベスト8に駒を進めたのが精一杯の結果となった。しかし、全国の実業団選手の見事なプレーやスポーツマンシップを目のあたりにして、地元のバドミントン愛好者たちにとっては学ぶ点の多い大会となった。

開催の経緯

高松市におけるバドミントンの歴史は古い。終戦後駐留米軍人によって、競技が紹介され普及されたため、県下で初めてバドミントンが伝えられた土地であるとも言われている。このため、当初からバドミントンに親しむ者は多くまた熱心な指導者の下に愛好者は増え続け、現在に至っている。

このため、昭和25年に香川県バドミントン協会を設立して以来、第1回西日本バドミントン大会（昭和26年）を始め、毎年のように全国レベルの大会を、香川県内で行ってきた経緯があった。

それだけでなく、高松市では昭和31年に近接15町村を含併し、20万都市として新しく発足した。第6回全日実大会は、これを記念して招致した大会でもあった。

また、会場となった高松市体育館は、昭和24年に市民のスポーツの場として改装されており、各種室内スポーツ関係者の間では、大きな大会の会場として欠かせない場となっていた。この会場は市の中心部に位置し、市役所や中央球場に隣接、練習用コート（高校体育館）や選手宿舎にも徒歩で数分の距離にあった。しかも、中央道路沿いにあったため交通の便がよかった上、高松でにぎやかな商店街にも近く、選手はもちろんのこと会場を訪れる人たちの間でも好評だった。

このように立地条件がよいことから、本部では各選手たちが徒歩で会場に通えるように旅館の手配をするのにそれほどの苦労は要しなかった。ただ、今日と同様食事や料金等の待遇面で差がでないよう気を配る必要があった。

終わりに

参加した県下の実業団選手は、日本のトップにつながる全国の選手たちの、ハイレベルのプレーに目をみはるとともに学ぶところが多かった。本大会の後、参加したクラブチームはそれぞれの発展を通じて香川県下の実業団の充実を図るとともに、連盟組織の確立に努めようとしたのである。

というのは、当時はまだ日本実業団バドミントン連盟もなく（昭和36年創立）、大会出場の規定にあいまいな部分もあったようだ。このため、選手名簿の中にも、同行の士といったチーム名がいくつか記されている。裏を返せば、そういったことに頓着しない大らかな時代であったともいえよう。

また、参加しているチームを県別に見ても、北海道・宮崎・新潟・山形・富山・神奈川・埼玉・愛知・岐阜・京都・兵庫・岡山・広島・徳島・愛媛・長崎というように、東北地方と瀬戸内沿岸の一部地域に偏っていることがわかる。実業団の大会とはいえ、バドミントンがまだまだ全国的な広がりを見せていなかったのだろう。

いくつかの問題点を解消し、徐々に組織化していこうと努めてきた結果、昭和38年香川県実業団連盟を設立するに至った。

一方、香川県協会は、創立以来数々の全国大会の運営に直接的、間接的に携わってきた。協会もそれを支える市民県民も、これら全国レベルの大会を経験してきたことにより、バドミントンに対する意識が大きく変化したといっても過言ではない。

選手においてはもちろんのこと、その成果は翌年の第7回実業団大会からの女子の活躍、高校総体女子の5連覇（昭和31年～35年）や国民体育大会の活躍などに如実に現われてきた。そういう意味においても、誠に意義深い大会開催であったといえよう。

秩父宮妃杯が下賜

岐阜県バドミントン協会
会長　大竹健司
（当時　県協会常務理事）

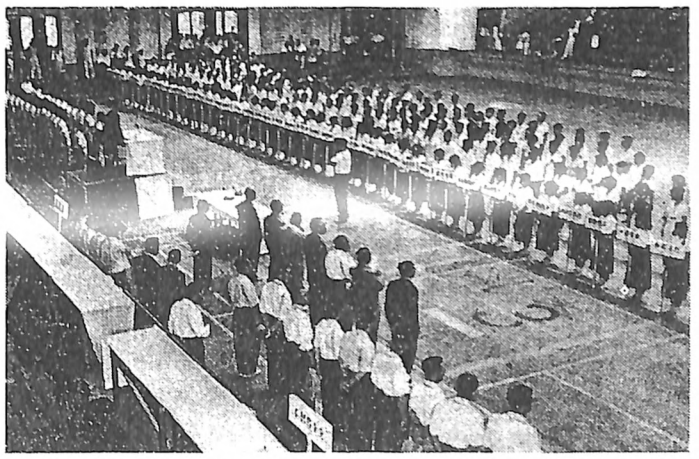
第７回全日本実業団バドミントン選手権大会は、県バドミントン協会創立10周年事業として当時まだ未熟な組織体制の中で、それこそ総力を挙げて開催した初めての全国大会であった。特筆すべきことは此の大会に本田弘敏日バ会長と加藤義孝岐阜県協会会長の格別の肝入りで、秩父宮妃杯が下賜されたことである。

大会当日は折悪しく台風９号の影響もあってファンの出足は悪かったが、全国から集った男子36チーム女子17チーム約200余名の選手は元気いっぱい色とりどりの軽快なユニホームで、午前８時半からの入場式に参加した。岐阜商業高校ブラスバンドの吹奏する行進曲「大通りを行く」にのって、岐阜高校女生徒のかかげるプラカードを先頭に前年度優勝の男子優勝の十條製紙伏木（富山）、同女子優勝の岡山市役所ら各地代表が、力一杯岐阜市民センターコートを一周し正面に整列した。

国旗、大会の掲揚のあと秩父宮妃殿下のお言葉を熊本副知事が朗読、本田弘敏大会会長の挨拶、松尾岐阜市長、山本県教育長、加藤義孝県バドミントン協会長らの祝辞、ついで「勇者は還りぬ」のマーチに合せて優勝杯の返還があり、全参加選手を代表して地元川崎航空松岡竜三選手が「スポーツマンらしく正々堂々と戦う」と宣誓、塚原錫雄審判長（本部）の注意で式を閉じ、同10時から競技を開始した。第一日目は男子３回戦、女子は準々決勝まで行なわれた。地元勢はよく頑張り、男子勢がベスト８に３チームも残ったのはこの大会が始めであったと記録されている。３回戦でシードチームの三菱長崎造船所（長崎）と岐阜県庁の試合は熱戦につぐ熱戦で35度を越える暑さの中、最終シングルス、フルセットで勝負に決着がついたのは実に深夜11時であった。当時はコートのラインは白チョークで書いていたので競技役員の会場委員の諸君の帰宅は夜１時を越えていたが、地元チームの健斗に気持ちよく作業ができたと報告されている。

２日目は台風一過後の晴天と、初日の地元チームの健斗が新聞で大きく報道されたこともあって観衆が大変多くなり、熱気が溢れてきた反面、試合進行中フレームショット（フレームで打つとアウト）の判定で苦労した。試合の方は男子は予想通り十條製紙伏木工場（富山）と日本鋼管鶴見造船所（神奈川）の優勝争いとなり、接戦のすえ十條製紙が三年連続、六度目の優勝を成し遂げた。

この試合は、複１対１で決勝争いとなったシングルスに鋼管のエース佐治豊選手が十條の新鋭品川則之選手の頑張りに思わぬ敗戦を招いたのが決定打となったが、実業団チームの決勝らしく古豪新鋭それぞれ特徴を生かし、味のある熱戦は本当に見ごたえがあり、全国レベルのバドミントンを見る機会の少なかった岐阜県バドミントン界に強烈なインパクトを与えてくれました。特に女子で前年度優勝チームの岡山市役所チームを２対０と、初出場で優勝を堂々と勝ち取った秋山経理事務所（香川）の横井キヌエ、井上桂子両選手は、とても高校を出たばかりの選手とは思えぬ風格さえ感じられ、後年、横井選手が世界選手権の中心選手として活躍されたことも宣べなるかなと、今更ながらそのときの印象がまぶたに焼き付いている。不慣れなものばかりが、ずいぶん早い時期から宿泊手配・会場施設や審判訓練等々チームワークよろしく、一生懸命苦労した思い出と共に本部からご指導に見えた矢ヶ崎進氏や塚原錫雄氏を囲んで楽しく歓談した一刻を懐かしく思い出します。



本田会長のあいさつ　岐阜市民センターに勢ぞろいした全国二百八十名の選手団

熱戦の火ブタ切る
全日本実業団バドミントン選手権大会
力強く入場式

昭和32年８月25日付岐阜タイムス

北海道新聞　昭和33年7月26日（土曜日）

十条伏木七度目の勝利
女子は森岡経理が連勝

全日本実業団バドミントン　第三日

第八回全日本実業団バドミントン選手権大会第三日は廿五日午前九時から札幌中島スポーツセンターで団体男女決勝まで行った。女子は昨年、団優勝の森岡経理事務所（香川）と岡山市役所（岡山）の間で行われたが、森岡経理事務所横井、山下のコンビよく2―0で岡山を降し、二連勝をとげた。また男子は十条製紙伏木工場（富山）が四連勝、七度目のタイトルを握った。なお二十六日は午前九時から男女個人戦が行われる。



男子団体優勝の十条製紙伏木工場チーム

【男子】▽団体準決勝
日鋼鶴見造船（神奈川）3（単1―0、複2―0）0 岡山市役所（岡山）
十条製紙伏木工場（富山）3（単2―0、複1―1）1 札幌鉄道（北海道）
荒木川品（岡山）2（15―15、15―10、4―0）0 鈴木（鹿児島）
隅沢野佐（岡山）0（16―18、14―17、15―12、0―2）2 品川倉敷レイヨン（岡山）

【女子】▽団体三、四位戦
大野（非公開）2（15―13、15―6、0）0 川倉敷レイヨン（岡山）
荒木（岡山）2（17―14、15―10、0）0 飯倉（非公開）
岡山市役所（岡山）3（単1―1、複2―0）0 札幌鉄道（北海道）
▽決勝
十条製紙伏木工場（富山）3（単2―1、複1―1、2）2 日鋼鶴見造船（神奈川）

荒木川品（岡山）2（15―5、15―10、0）0 鈴木佐治（岡山）
隅沢野佐（岡山）1（10―15、14―18、15―7、2）2 小野藤佐（岡山）
荒木（岡山）2（15―4、15―5、0）0 鈴木（鹿児島）
品川（岡山）0（9―15、12―5、2）2 佐藤（岡山）
隅沢（岡山）2（15―11、18―16、0）0 佐治（岡山）
【女子】▽団体三、四位戦
日本コロムビア（神奈川）2（単1―0、複1―0、0）0 日綿実業（北海道）
岡山市役所（岡山）2（単1―0、複1―0、0）0 森岡経理事務所（香川）
▽決勝
森岡経理事務所（香川）2（単1―1、複1―0、2）1 日綿実業（北海道）

横川（岡山）2（11―11、11―2、0）光本（岡山）
横山下（岡山）2（15―6、6―15、15―7、1）光本田（岡山）

男子は十条製紙伏木工場（富山）女子は森岡経理事務所（香川）が昨年に続いて優勝をとげたが、やはり、両チームともその実力からいって当然の結果であった。とくに女子の森岡経理事務所は横井、山下という全日本シードプレーヤーをそろえて一回戦から決勝までストレート勝というあざやかな勝ちぶりであった。

二位の岡山市役所はスタミナの点では森岡とは互角に戦えたが、プレーが若く、結局、森岡のペースにのせられた形となった。本道代表の日綿実業は村本、平野のコンビがよく、堂々決勝で第三シードのトヨタ（岡山）を破って準決勝に勝ち進んだのは上出来といえよう。男子の十条製紙は持ちゴマが豊富なうえに、チームワークのよさは参加チーム随一であった。荒木、品川を中心としたプレーは、試合経験の豊富さを物語るもので、この調子でゆけばまだまだ連勝の可能性がある。

二位の日鋼鶴見は昨年よりいくぶん充実してきたが、試合かけ引きにやや難があり、この点が研究されれば優勝も夢ではない。札鉄はとし入った新人の加入、島らが予想外に健闘して三位となったが、まだプレーが若く、どことなくもろい。もう一人選手が補充されれば、まだまだ強くなるチームだろう。総じて各チームのレベルが昨年より上がり、攻防のフォーメーションも相当細かくなってきているのが目立った。（阿部）

昭和33年（1958年）7月26日北海道新聞▲

善通寺市制施行５周年事業の大会

香川県実業団バドミントン連盟
元・理事　横井キヌエ

大会の概要

第９回全日本実業団バドミントン選手権大会は、昭和34年８月21日から24日の４日間、善通寺市立体育館（現在の善通寺西中学校体育館）と県立善通寺第一高校体育館の二会場で開幕、熱戦の火ぶたが切られた。

試合に先立ち、21日朝８時から第一会場の市立体育館に参加50チーム（男子39・女子11）350人の選手が集まり、同市立西中学女子生徒のもつプラカードを先頭に、国鉄多度津工場のブラスバンドに合わせて入場行進。

琴平参宮電鉄の宮川ツヤ子選手が力強く宣誓、大会の幕をあけた。

男子の部では、優勝候補の十條製紙（富山県）が圧倒的な強さを発揮し相手チームを完封で勝ち進み５年連続優勝（通算８回）を飾った。香川県勢は高松専門店が３回戦まで進出したのが最高だった。

一方、女子の部では、地元の森岡経理事務所が新鋭の高岡市役所（富山県）に２対１で敗れ、惜しくも三連覇の夢は消えた。個人戦では、森岡経理事務所の筆者が単に優勝、複も山下久子選手と組んで優勝、昨年に続き単・複ともに二連覇することが出来ました。

善通寺大会は、小さい町ながら関係役員の一致団結で全国の一流選手を迎える事が出来、良くまとまった大会となりました。



開催の経緯

善通寺におけるバドミントンの歴史は、北野友美先生の御尽力により、善通寺第一高等学校にバドミントン部が創設されたことから始まります。

創部３年目には、第３回全日本高等学校選手権大会（昭和27年）が善通寺で開催され、団体戦、準優勝の偉業を達成。翌年の第８回国民体育大会（昭和28年・善通寺）にも、準優勝を果たして、地元を大いに喜ばせたものです。

このような背景と善通寺市制施行５周年を迎えるということもあり、その記念として第９回実業団大会が開催された。当時は、スポーツ人口の少ないせいもあり、スポーツに対する企業としての理解とか、取組み方は、難しいものがありました。

また、会場は、木造の中学校体育館が主会場となり、竣工間もない善通寺一高体育館が第二会場でした。距離的にも近く便利が良かったと思います。

宿舎の件では、弘法大師の門前町ですので旅館が比較的多く心配はなかったようです。食事（メニュー）、料金、待遇面では旅館組合と主催者側との話し合いにより、スムーズにいきました。

終わりに

前年の大会より参加チーム、人数が増え、日本のトップレベルのプレーを目の前にして香川県の一般の観客、先輩、高校生や中学生にとって、充分満足出来た大会となったと思います。

特に善通寺一高と中学生達の部員にとっては、大きな励みとなり、プレーの目標もつかんだことでしょう。この大会の成果は、その後のインター杯５年連続優勝や国民体育大会や実業団大会での輝かしい成績として残っています。

また、当時はまだ大会出場チームの規定にあいまいな部分もあり、監督会議の席上で問題になったようだ。（同行の士といったチーム名）このことは、そういったことに頓着しない大らかな時代であったともいえるでしょう。

いくつかの問題点を解消し、徐々に組織化して行こうと努めてきた結果、昭和36年に日本実業団連盟が設立されました。



◀十條製紙９回大会男子の部優勝

中部日本新聞　昭和36年1月16日

女子団体戦男子団体戦とも富山勢

十条製紙は六連破

高岡市役所も二連勝

実業団バドミントン選手権第二日

中部日本新聞社と日本バドミントン協会主催の秩父宮妃殿下賜杯第十回全日本実業団バドミントン選手権大会（兼第三回全日本社会人バドミントン選手権大会）第二日は、十五日午前十時から名古屋市金山体育館で、引き続き男女団体戦決勝まで計二十四試合施行なった。女子は日本コロムビアが連々決勝で不二越に敗れる番狂わせがあり、決勝は強豪高岡市役所（富山）と新鋭帝国石油（秋田）の対戦となった。高岡は第一試合のダブルスに敗れ苦戦だったが、続くシングルスで見事に反撃、逆転の2勝をあげ前回に続き団体二連勝を飾った。

一方男子は優勝候補十条製紙伏木（富山）と電電東京が決勝で顔を合わせた。十条はダブルスで2勝のあと、シングルスで大野が健闘、第二セット18―14の接戦に電電北島を下して通算九度目、六連勝をかざった。なお十六日の第三日からは、引きつづき個人戦が行なわれる。

【女子】▽準々決勝
高岡市役所（富山）2（複1―0 単1―0）0日本軽金属（静岡）
岡山市役所（岡山）2（複1―0 単1―1）1電電東京
帝国石油（秋田）2（複1―0 単1―0）0トヨタ自動車（愛知）
不二越（富山）2（複0―1 単2―0）1日本コロムビア（神奈川）

▽準決勝
高岡市役所 2（複1―0 単1―0）0岡山市役所
帝国石油 2（複1―0 単1―0）0不二越

▽三位決定戦
岡山市役所 2（複1―0 単1―1）1不二越

▽決勝
高岡市役所 2（複0―1 単2―0）1帝国石油

【男子】▽三回戦
十条製紙伏木（富山）3―0 三菱日本重工横浜造船（神奈川）
日研化学（埼玉）3―2 三菱長崎造船（長崎）
いすゞ自動車（神奈川）3―0 丸善石油（和歌山）
電電近畿（大阪）3―2 住友化学新居浜（愛媛）
日鋼鶴見造船（神奈川）3―1 大阪国際電報局（大阪）
不二越（富山）3―1 三菱電機（静岡）
電電東京 4―1 日鋼川鉄（神奈川）
札幌鉄道局 3―0 島津製作所（京都）

▽準々決勝
十条製紙伏木 3（複1―0 単2―0）0日研化学
いすゞ自動車 3（複1―0 単2―0）0近畿電電
日鋼鶴見造船 3（複1―1 単2―1）2不二越
電電東京 3（複1―1 単2―1）2札幌鉄道局

▽準決勝
十条製紙伏木 3（複2―0 単1―0）0いすゞ自動車
電電東京 3（複1―1 単2―1）2日鋼鶴見造船

▽三位決定戦
日鋼鶴見造船 3（複2―0 単1―0）0いすゞ自動車

▽決勝
十条製紙伏木 3（複2―0 単1―0）0電電東京
○大野 2（15―8 15―14）0北島
○品川 2（15―6 15―8）0富沢多賀川村
○荒木 2（15―10 12―15 15―8）1北島 貝戸

▲昭和36年（1961年）1月16日中部日本新聞



富山勢が五種目に圧勝

光る高島・中島（高岡）の活躍

第十回全日本実業団選手権、第三回社会人選手権と二つのバドミントン選手権大会は十七日個人戦初を最後に幕を閉じた。女子では高岡市役所の高島、中島ペアが団体個人組、複と全種目に優勝、男子は十条製紙伏木が団体、個人複に優勝と、男子組を残して残る五種目に富山勢が圧勝という輝かしい成績を残した。昨年倉本団体に続き合優勝した富山勢としては、あらたに実業団タイトルを加えて名実ともに〝バドミントン富山〟の名をここにうちたてたものといえよう。

女子の高岡市役所は完全優勝したが各種目ともに勝つべくして勝ったというところだ。団体戦では準決勝の対岡山市役所戦までは全部ストレート、わずか1決勝で帝国石油に1ポイントを与えただけという出来だった。もちろん決勝は第二シードで優勝したが、準決勝で中島選手とあうシードの不運から両選手の全力をつくした決勝を見られなかったのは残念だった。

一方、シングルスは高岡選手が初のダブルスに敗れたのはなんといっても精手である。しかし日ごろの練習のたまもの、高島、中島両選手の落ちついた自信から残る体戦でこの大会十回のうち九回の優勝というものすごい成績で勝利をおさめた。荒木主将をはじめ、扇沢、大野、山田、江守とまんべんない堅実な陣容を誇し、文句なしの完全勝利であった。とくに若手の大野の進境がいちじるしい活躍をみせていた。団体決勝の帝電戦で練習不足、コンディションの調


ダブルス優勝の十条製紙チーム前列左から山田、品川、荒木、扇沢、後列大野、清水、江守の各選手

さっそくこの弱点を強化、準決勝の有末、三原組（電電東京）のストレートを切り抜け、文句なしに勝利を収めたのはさすが。

個人戦にはいってはダブルスで


㊀男子ダブルス決勝戦1大野・荒木（十条）×北島・目戸（電電東京）　㊁㊁男子シングルス優勝の杉田選手（神奈川・湘南中）　㊁㊁女子ダブルス優勝の中島・高島（高岡市役所）



研究課題を持っている。

いずれにせよ、富山勢のこの男女にわたる活躍は、昨年来の大型が各種目ともに勝つべくして勝ったというところだ。団体戦では準決勝の対岡山市役所戦までは全部東京をストレートで破るまで不敗の成績を残したのは立派である。個人戦ではダブルスで荒木、大野組が優勝を手にしたのはこれも当然のもの。シングルスでは十条伏木の最有力の大野が優勝したベテラン杉田（横浜湘南中）に敗れたのが手痛かった。

大野選手が〝今年こそは杉田さんを破るチャンスだと思っていたが、まだ未熟でした。完全優勝は一年おあずけです〟というようにいま一歩、体力とテクニックの研究が残されている。

いずれにせよ、富山勢のこの男女にわたる活躍は、昨年来の大型の十分ゆきとどかないという中から生み出されたものだけに、一段と立派なものといえよう。（吉田光）

前日のスコア

【女子】▽ダブルス準決勝

高島・中島（高岡市役所）2（15―7、15―6）1 有本・三原（電電東京）

高島・中島（高岡市役所）2（15―6、15―5）0 浅岸・永谷（トヨタ自）

高島・中島（高岡市役所）2（15―3、15―9）0 根岸・浅野（横浜湘南中）

▽決勝

高島・中島（高岡市役所）2（12―10、11―1）1 中島・高島（高岡市役所）

▽準決勝

横山・根岸（高岡市役所）2（12―9、11―6）1 掘野尾・山田（笹石狄）

高島・中島（高岡市役所）2（11―9、11―3）1 根岸・福本（百十四銀行）

高島・中島（高岡市役所）2（11―4、11―6）0 掘野尾・山田（不二越）

【男子】

▽シングルス準々決勝

松王（大阪合組）2（15―6、15―3）0 品川（十条伏木）

扇沢（十条伏木）2（2―0、不戦勝）0 永井（三菱）

▽決勝

扇沢（十条伏木）2（15―6、15―3）0 永井（三菱）

▽シングルス準々決勝

掘野尾・山田（不二越）2（11―5、11―5）0 大川（コロムビア）

横山（笹石狄）2（12―11、9―6）0 有本（電電東京）

中島（高岡市役所）2（11―9、5―11、3―1）1 福本（百十四銀行）

高島・中島（高岡市役所）2（11―1、11―4）0 根岸（岡山市役所）

▽準決勝

横山・根岸（高岡市役所）2（12―9、11―6）1 掘野尾・山田（笹石狄）

高島・中島（高岡市役所）2（11―2、11―0）1 中島・高島（高岡市役所）

▽決勝

高島・中島（高岡市役所）2（11―1、11―4）0 横山・根岸（高岡市役所）

▽三位決定戦

扇沢・品川（十条伏木）2（15―6、15―3）0 松王（大阪合組）

▽男子ダブルス決勝

江戸・中野（長崎）2（15―6、15―6）0 品川・扇沢（十条伏木）

▽準決勝

江戸・中野（長崎）2（15―6、15―6）0 品川・扇沢（十条伏木）

永井・扇沢（三菱）2（15―6、15―3）0 小松（フェザーシン）

▽決勝

永井・扇沢（三菱）2（15―6、15―3）0 扇沢（十条伏木）

▽シングルス準々決勝

杉田（湘南中）2（15―6、15―9）1 山田（十条伏木）

永井・扇沢（三菱）2（15―6、15―3）0 扇沢（十条伏木）

▽準決勝

杉田（湘南中）2（15―6、15―9）1 北島（電電東京）

▽三位決定戦

杉田・小松（湘南中・フェザーシン）2（15―6、15―9）1 北島・目戸（電電東京）

▽決勝

杉田・小松（湘南中・フェザーシン）2（15―6、15―9）1 山田・品川（十条伏木）

▽三位決定戦

杉田・小松（湘南中・フェザーシン）2（15―6、15―9）1 北島・目戸（電電東京）

▽決勝

小松（フェザーシン）2（15―9、15―9）1 山田（十条伏木）

▽準決勝

小松（フェザーシン）2（15―9、15―9）1 山田（十条伏木）

▽決勝

小松（フェザーシン）2（15―9、15―9）1 山田（十条伏木）

▽三位決定戦

杉田・小松（湘南中・フェザーシン）2（15―6、15―9）1 北島・目戸（電電東京）

▽準決勝

杉田・小松（湘南中・フェザーシン）2（15―6、15―9）1 北島・目戸（電電東京）

▽決勝

杉田・小松（湘南中・フェザーシン）2（15―6、15―9）1 山田・品川

5．大会の概観

第11回（昭和36年）倉敷大会



第11回　倉敷大会男子団体
優勝　十條製紙・伏木（清水　正）
２位　電電東京（高橋　章）
３位　札鉄（渋井　明）



個人戦の表彰



左より　清水、江守、荒木、扇沢、大野、品川、山田

第11回　倉敷大会（昭和36年）優勝　十條製紙伏木

昭和37年5月18日（金曜日）　新日本スポーツ

花ひらく実業団

—第12回実業団選手権大会総評—

バドミントン

大会の開催地熊本では、熊本城を中心に[illegible]の真最中、やや予想外の暑さを肌に感じつつ五日間の熊本大会が開かれた。

今年の大会を見て感じたことは、まずこの大会が名の通り「実業団大会」になつたということである。昨年頃から一流選手の参加出場でやや活気を呈して来たものの何か特別参加の感じがしないでもなかつたが、今年はそれが完全に姿をなし、質的な向上がはつきりと認められるに至つたと思う。まさに長年の努力が実つて花が咲いたという所である。

「実業団」◇…男子…◇

十条製紙が惜々決勝で小宮のいるトヨタ自動車の闘志の前に崩れたら十条黄金時代のピリオドを打たれた訳だが、この試合は十条の完全な小宮に対する策略過剰で負けてしまつたといえる。それがダブルスを落とし、ファーストシングルでトヨタの岩居が闘志で拾いまくり、負けてもともとの気楽な試合が終盤にも十条の小野を[illegible]焦らせ、実力的に二枚も三枚も上の小野が何をもつているのかわからぬ様な試合運びで敗れてしまい、セカンドシングルトヨタ小宮が十条のエース大坪をゆうゆう降して遂に十条は八連覇の夢を破られた。

団体戦のむずかしさは、ダブルスの活用と、シングルにおけるエースの使い方のコンビネイションにあるのだが、この点トヨタ自動車の対十条作戦と時の十二分の働きが一致して因縁と思われた十条の壁を見事打破してしまつたといえる。恐らくあの場合、小宮がセカンドシングル以外の所に出ていたらトヨタは十条に勝てなかつた筈である。十条に望ましいことは「[illegible]技術」だけで自己の技量を上達させようという考えからここらあたりで戦術についての新しい研究が必要ではないだろうか。オーソドックスということもだが今、現代戦法は変つたところに進んでいることを知るべきである。

大会前より十条と共に優勝の呼び声が高かつた電々東京は井門、高田の新加入がやはり大きな戦力となつていた。大学時代一流大会の場数を踏み可成りの戦績を作りこの競技界において名を通している両名のプレイは一本筋が通つていてさすがである。高田がやや精彩がなかつたが、主将星野を助けた功績は大きいといわねばならないし、井門の安定した活動力も見逃せぬ所だつた。惜々決勝までは問題とすることなく決勝で札幌鉄道管理局と対戦したが、札鉄の鉄井、平沢が元気なくあつさり決勝に進出。一方十条を破り勢いに乗つて日本鋼管も破つたトヨタ自動車は決勝で電々東京に喰い下がりを見せたものの星野、高田組、井門、貝戸組の壁には歯がたたずわずかにファーストシングルで小宮がポイントをあげたのが精一杯の所で三対一で遂に電々東京は初優勝を遂げた。

この他本大会で注目されたチームに国際電々大阪、保土ケ谷化学文祥社があつた。

酒井の粘りある

好プレイ印象に残る

—女子戦—

桜井がすつかり調子をあげ、オールジャパン第一位の畑山、木村を攻略したことが起因となり、強敵寺石秋田を破り、電々東京を降し決勝に進出した四平電鉄の活躍は目覚ましく、一方予想通り桜、酒井の金森商店が殆んどワンサイドゲームをもつて圧勝。決勝戦は桜井の対金森勢に対する活躍如何となつた。ダブルスで森と組んだ桜井が相手の桜をケイカイする余り酒井のストップレシーブ・クロスカットの決め手の処理に迷つて結果を先じ、ダブルスを落としたのが結果的にまずく、シングルで桜のスマッシュを完全にキャッチ、正確なドロップを多発して桜を泳がせ、ハイクリヤーとあわせて完全にゆさぶつた桜井の完勝があつたものの酒井が桜をじつくり攻めてラストマッチを握り、金森商店の初優勝が決まつた。

女子で今年注目されたチームはトヨタ自動車である。技術に政木の進歩は著しく程で林もレシーブに強味さを増したので攻め手を覚えれば女子も来年から二W、三Sの団体戦になるからトヨタは大いに期待出来そうなチームとなるだろう。電々東京は杉木、三原が相変らず消極的で受身のプレイに徹し過ぎるのが欠点の様だ。だから前に落ちる球に弱く、攻撃球もよく見逃してしまう様なことになる。やはり改めなくしては勝負には勝てないことを研究する必要がある。

・優勝の原動力になつた桜が手首を痛めてスマッシュに威力がなかつたのがもの淋しく、逆に酒井の粘りある好プレイが印象に残つた（竹尾記）

小宮の研究熱心実る

教導者に頼り過ぎる女子

【個人戦】若手川からベテランまでの各種目の中から印象に残つたものを拾つてみることにする。

永井、片石、坂埴、小田、松王といつたシード選手がほとんどキケンした中とはいえ一段と光彩を放つたのは優勝した小宮である。強力な武器であるスマッシュをほとんど使用することなく多彩な球を配してコーナーワークよろしく前試合を展開した小宮はここである試合での進歩への手掛りを実験したといえるだろうし、その絶えざる研究心を称賛したい。

二番手に岡崎を挙げたいが、相当不足がショットにミスが多く、まるた技の本命は先の先と思える前々

が多いのがまた楽しみでもある。電々星野の大会における好技は特別に値する。特にダブルスプレイはある程度完成された手本といえるようなよいプレイを見せたし、岡崎との準決勝でも妙に味のある配球を示していた。惜しいことに若い力がないのが致命的で、岡崎に試合をリードしながら勝負に負けたかつこうとなつたが、星野のプレイは心して見る場合非常に参考になる点が多いことを記しておく。

杉田が四回戦で大野に敗れたのは何としても大野の粘り勝ちといえるだろうし、大野の対杉田作が図に当たつたともいえる。

成年で優勝した桜勝毛利、杉栄ての研究の勝利は相手不足というより本人の精進の賜である。

女子を眺めてみると、桜が手首の故障で精彩を欠き、杉田が上手いプレイを示したが技術が未熟なく勝ち進めず、桜山がキメの定まを突かれて桜井に惨敗した。その桜井が惨敗しく当たり、足もよく動いて攻めこまれてもバランスが崩れず各ショツトが計画通りに入つてミスがほとんどなく、決勝での対桜戦でも桜が攻め負けしたような結果となつた。

一般に女子選手にいえることは基本打球のマスターが未熟なまま、ていないうちに、あれこれ細い手を多用し過ぎることと、相手の弱点だからといつて弱点ばかりに球を集め過ぎるという最も初歩クラスの陥りやすい欠点を打破出来ていないということである。これは女子選手の自ら考え克服してゆこうとするゲーム内容に対する自覚精神の欠除にあるといえる。コーチに習ね、教わることは悪いことではないが、あまりにも教導者の考えに頼ろうとする甘い考え方が自分自身を骨抜きにしていることで困難な局面に直面した時にどうしたらよいか自ら決断することが出来ず、ずるずると試合の局面を打開出来ず負けてしまう例が多々あり過ぎることは一考を要する問題だと思う。

桜井が充分に自らの活路を見出したのは桜井が自ら身につけた基本打球の完全な応用でしかなく（桜井はハイクリヤーとドロップショツトだけしか使用していない）これから工夫して使用しただけで優勝しているのを忘れがちな点のことである。全女子選手はすべて確実な基本ショツトを身につけ脚力を養成することに呼応する必要がある。スマッシュが強力であるカットが素晴らしいといはれる選手が試合になるとミスを重ねる。どうも[illegible]が悪いと考える。これがあたり前の考えのような見方だろうか、実はそうではないのだ。完全な状態でのショツトなら定まるのだが、球筋が変つてしまつているのに気がつかずに、自分はカットが上手いし、強力だからと思つて何でも苦るしくなると無理な状態からでもその十八番の筈のカットを使用する。それがミスを誘発するのだということをこの際考えていただければこの総評の役割を果したことになる。（日本バドミントン協会競技委員竹尾敏広）

実業団の部

▼男子団体決勝

トヨタ自動車（愛知）3—2日本鋼管鶴見（神奈川）

電々東京（東京）3—0札幌鉄道管理局（北海道）

▽同三位決定戦

日本鋼管3—1札幌鉄道

▽同決勝

電々東京3｛単1—1、複2—0｝1トヨタ自動車

▽ダブルス

星野・高田 2｛15—9、15—0｝0 小宮・多賀

井門・貝戸 2｛15—7、15—4｝0 佐藤・岩居

▽シングルス

星野 0｛10—15、8—15｝2 小宮

高田 2｛15—11、17—16｝0 岩居

▼女子団体決勝

四平電鉄（香川）2—0電々東京（東京）

金森商店（富山）2—0トヨタ自動車（愛知）

▽同三位決定戦

電々東京2—1トヨタ自動車

▽同決勝

金森商店2｛単1—1、複1—0｝1四平電鉄

▽ダブルス

桜・酒井 2｛15—11、15—4｝0 森・桜井

▽シングルス

桜 0｛4—11、10—11｝2 桜井

酒井 2｛11—4、5—11、11—1｝1 森

▼社会人の部

▼一般男子単決勝

小宮（トヨタ自動車）2｛15—2、15—1｝0 阿部（コロムビア）

▽同複決勝

星野・高田（電々東京）2｛15—2、15—4｝0 杉田・岡部（港南中・コロムビア）

▽一般女子単決勝

桜井（四平電鉄）2｛11—6、11—6｝0 桜（金森商店）

▽同複決勝

桜・酒井（金森商店）2｛15—5、15—2｝0 木村・畑山（寺石秋田）

▽30才以上男子単決勝

毛利（山陽学園）2｛15—8、15—7｝0 本郷（熊本大付属）

▽同複決勝

毛利・上山（山陽学園）2｛15—6、15—9｝0 松本・本郷（熊本郵政局・熊本大付属）

▽40才以上男子単決勝

伊藤（熊女大）2｛15—4、15—4｝0 小林（香川）

▽同複決勝

伊藤・小田（熊女大・熊町ク）2｛15—5、17—16、9—15｝1 菊地・堀田（日立・三和KK）

▽50才以上男子単決勝

藤井（日立自）2｛15—5、15—3｝0 東（日立自動車）

▽同複決勝

東・藤井（日立自動車）

▽混合複決勝

小宮・武本（トヨタ自動車）2｛15—12、15—12、12—15｝1 杉田・杉田（港南中・コロムビア）

▲昭和37年（1962年）5月18日新日本スポーツ

5．大会の概観

第13回（昭和38年）新潟大会

新潟県実業団バドミントン連盟
理事長　有本　健

- 翌年（昭和39年）の新潟国体のリハーサルも兼ねた全日実大会が新潟市から西40kmの金物の町、三條市で６月５日～９日の５日間行なわれた。
- 翌年の同時期に新潟国体があり、国体終了の１週間後６月16日新潟市は震度６の大地震にあったわけです。
- 参加都道府県は25、国体戦参加チーム男子56女子19、参加選手445名、役員50名、新潟県は男子12チーム、女子２チームの参加で１～３回戦止りであった。
- 昭和38年１月新潟県実連が正式に設立され、初代会長に新潟市長の渡辺浩太郎が就任し、第13回全日実大会と39年新潟国体にむけ、万全の体制作りに入った。
- 地元三条市では初めての全国大会で500人の選手役員を受け入れるに当り、地元が笑われないようにしようと全市あげて、町内清掃と歓迎パレード等大会気分を盛り上げていた。
- 戦績はほぼ展望通りであったが、男子団体トヨタ自動車の優勝、小宮好雄（トヨタ）の団体、単、複、ミックスの優勝がダントツの成績で当分動かぬ小宮の王座と評された。
- ５日間を通して見た受け入れ体制は十二分に国体を開催出来るもの。宿泊関係もよかった。採光は充分とは言えなかった。工夫で直る。
- 審判の判定で二、三トラブルがあったが、審判団も立派だった。
- PR面では駅や市内に成績掲示板を立てたり、観戦を呼びかける車等今まではなかった事だった。



新潟日報

あす晴れの舞台に

一三条の歓迎隊の小学生一

実業団バド大会へ最後の仕上げ

昭和38年６月４日付新潟日報



▲第13回大会男子団体優勝トヨタ自動車チーム

主管開催を糧に役員育った

愛媛県実業団バドミントン連盟
会長　浜中　誠

第14回全日本実業団バドミントン選手権大会は、全国各地から67チーム、500人の選手を集め、1月15日から5日間にわたり松山市内の三つの会場に分かれて熱戦が繰り広げられた。

この大会は愛媛で開催される最初の全国バドミントン大会ということもあり、地元松山市は盛り上がり、愛媛新聞はじめ各紙はスポーツ面の半分をさいて写真入りで熱戦の模様を連日伝えていた。

この大会を引き受けたのは、開催二年前でした。

愛媛で開催する初めての全国大会ということで、限られた時間に、何をすればよいのか当初は暗中模索の状態でした。

当時県下の加盟団体は三つしかない状態で、本当にやり遂げられるか、いささか不安がありました。

最初に手掛けたのは、大会運営の人材確保の意味も含めて、県下の加盟チームを増やすことでした。努力の甲斐あって五団体が新たに加わったのである。

人材が確保出来た所で、大会運営のノウハウを知るべく、電電大阪の池田芳麻氏に何回か松山までご足労願い指導を受けました。

補助金、観光パンフレットの提供、お土産品等の協力の必要から県庁、市役所、体育協会と折衝し協力要請をしました。この折衝を続けている内に、大会主管のため体制作りの一環として、県バドミントン協会の人事について指導を受け、早速県バドミントン協会の総会を招集し、内1名議員を新会長に選出し、全国大会に向けた人事の構成に取り組むことになった。僅かな時間の人事の入替えには気苦労が絶えず言葉に言い尽くせないものがありました。とにかく県庁・市役所・体協などの協力関係と県協会、県実連の大会受入れの体制が出来あがり、大会成功に向けてスタートを切ることが出来ました。

振り返ってみますと、よくもこんな状態で厚かましくも、全国大会を誘致したものと恥ずかしくなります。

その後は大会準備のため愛車のスクーターで東奔西走する毎日でした。今だから言えますが会社も無断外出数十回、有給休暇40日もとった程でした。この大会開催にかけた情熱は素晴らしいものがあったと我ながら関心しています。

大会前夜松山は80年振りの大雪に見回れ積雪30センチ、私は慣れない雪道をスクーターで走り、大会を前に焦る気持ちもあってか幾度か転倒し、ついに車の下敷きとなり助け出される始末となりました。今では笑い話になっていますが大変なことでした。

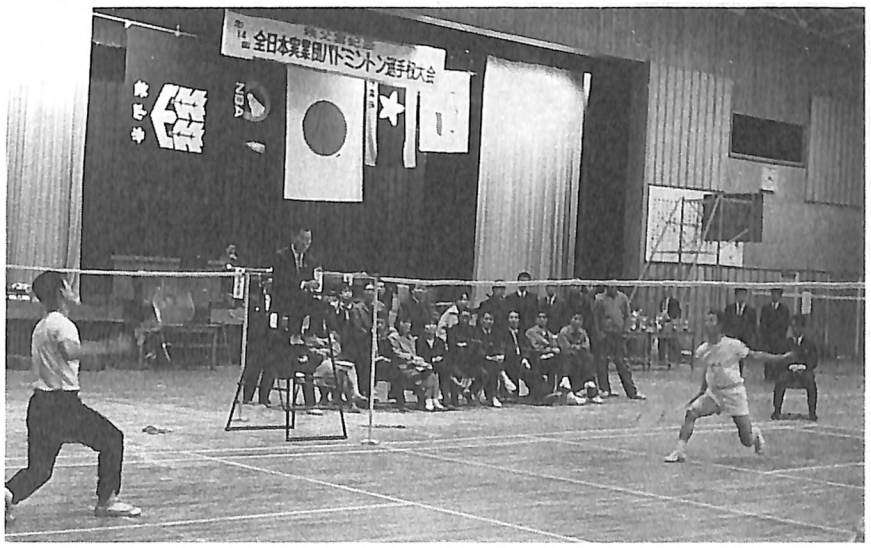
お蔭さまで大会は無事終了しました。

ところが、また新たな問題が起きていた。一つは決算して発覚したのですが、会計担当者の使い込みという不祥事。どうやら飲み屋の借金返済に当てたようですぐ親を呼び対処を求めた。結果は田畑を売って即刻返金してくれたようである。二つ目はこの大会の2万円余りの赤字額である。(当時の大会参加料：団体の部1500円　個人の部150円)これについては県バドミントン協会は5年掛かりでやっと赤字を解消した。

結局大会は準備に二年、事後処理に五年の計七年かかったことになる。

しかし、こうした苦労も初めての経験であったからの事であり、その後はこの経験を糧としてスムーズな大会運営をこなしてくれている。

その後30年の間に立派な後輩達が育ち、全国大会を五年に一度の割りで開催してくれている。



5．大会の概観　　第15回（昭和40年）北九州大会



故 秩父宮妃殿下ご臨席の開会式



開会式　優勝杯返還〈高松琴平電鉄横井選手〉



優勝のトヨタ自工チーム



男子団体優勝・女子準優勝　トヨタ自工チーム



女子優勝　高松琴平電鉄チーム

突然の指名でヤッつけ仕事

大阪府実業団バドミントン連盟
副会長　池田芳麻
（当時　理事長）

主管引き受けの動機

昭和40年６月13日当時の日本実連理事長、増井益二氏（故人）より「来年度予定の北海道から大会返上の申し出があり困っている。是非大阪で開催して欲しい」との要請電話が入ったが、急なことでもあり、「少し考えてみたい」と回答を保留した。当時大阪実連は毎年赤字財政でありそれどころではなかった。

それから僅か４日後、北九州市での「日本実連総会」の場で「候補地は大阪」との理事長発言が飛び出し驚ろいたものの、日本実連執行部の立場を考えれば「多少の無理は止むを得ない」と判断し、「本部の強い後押し」を條件に７月７日に主管を受諾した。

資金調達

主管に伴う収入予算は120万円。内訳は補助金と参加料で47万円、残73万円は主管の調達を必要と考えられたので、

㋑　支出は極力押える。審判員以外の役員は無報酬、宿泊は他府県からの役員以外一切しない等の実行。

㋺　万止むを得ない場合以外の接待の禁止。

（注：期間中接待費は僅か２万円の支出で終っている。）

㋩　プログラム広告の多数募集

と目標したものの揺籃期のバド大会でもあり、仲々広告も集らず、さりとて20才～30才台ばかりの関係役員がどれほどカンバッて頑張った処で知れており「本当に金が集まるだろうか」と、頭の痛い毎日であった。

この窮状を見兼ねられたのか、当時日本実連副会長であられた大日日本電線KK会長の山田哲三氏より私の上司である当時の近畿電気通信局長井田勝三氏に話しが届き、同局長よりも「協力」を約されると共に、山田氏からは「資金集めの際は当社秘書課員も応援させても良い」との思いがけないご高配には、正に飛び上る思いであった。

役員確保

当時の大阪協会は幼なく関係役員も限られて居るため、「個人戦併催」の全実大会に必要な動員は期待出来ない状況の為、前年の昭和40年に結成した「近畿実連」（理事長は私であった）の協力を求め積極的なご支援を頂くことが出来た。

これは恐らく「全日実大会のブロック主管」の最初であろうと考えている。

宿舎手配

当時、大阪市内の宿泊施設はお粗末なものであり、加えて選手の宿泊料が１泊２食で２～３千円程度というので本当に弱った。

幸い五大都市体育大会の関係から、天王寺区の「新宿旅館」の紹介があり、ここを中心に約500名近くの宿舎確保が出来た時の嬉しさは今でも忘れられない。

ただ残念なのは「低料金」の為、サービスが今一つで、そのことで「宿泊の取り消し続出」となり、結果「新宿」側からクレームが出され、期待した広告料も頂けず困った。又派遣役員の一部が宿泊料等未払いのまま帰郷され、地元が止むなく支払った悲しい想い出が残っている。

開会式について

なにしろ総数500名近い人々を一堂に集めての入場行進の指揮等、これまで行った実連役員等皆無で、これればかりは教職員の方にお願いする以外になしと、当時大阪協会理事長の宮脇正晴氏に全権委任、自由に演出をお願いしたところ、宝来敏夫、岸田幸雄、松山（現平方）昌子各協会常務理事各氏と共々見事な開会式をして頂くことが出来た。特に松山先生の勤務先である薫英高校の女生徒70人のプラカードマンの動員、「大阪市音楽団50人音楽演奏のご協力は何より嬉しいことであった。この方々への御礼が「プログラム１冊と、参加記念バッヂ１ヶ」という薄謝で終ったことは、今ではとても考えられない有り難いことだった。

競技関係

男子団体準決勝戦で電電大阪が高野・中川という主力選手抜きで優勝候補のトヨタ自動車に対し敗戦、三位決定戦では札幌鉄道管理局に対し、準決で欠場の高野・中川をフル活動せしめ、３位の座を手中にした。札鉄チームより電電大阪の監督であった私にきびしいご批判があった。これは作戦でも何でもなく、実は電電大阪の主力選手であった高野君の持病が悪化したため、準決勝戦の時間を利用し病院で治療、次の三位決定戦に痛みをこらえて出場したというのが真相なのである。

財政問題

その頃「バドミントン」と申しても殆んど話が通じないスポーツであったので、広告依頼に行っても「部数に比し高過ぎる」と敬遠される始末で、本当に困った。

第16回大会プログラムを見ると「掲載広告総数が13、

しかもスポーツ業者以外からでは僅かに4件、しかもその4社中3社は大阪実連常務理事の勤務先と云う有り様、前述した山田副会長や井田局長のご好意から頂くことの出来た「名刺広告17件」(その合計金額は13件の業者広告金額を上廻った)分の収入が無ければ……と思うと今でも恐ろしくなる。

しかし、それでも大会決算処理のため当時の私の年間ボーナスが無くなり、淋しい思いをしたことは忘れられない。

忘れ得ぬこと

大会使用球問題がある。

これは今でも、いやバドミントンに関係する限り私には絶対に忘れられないことがある。

当時の使用球は大会要項に記載されず、後日の日本協会々議で決定されその後会員に通知される仕組みであったが、その指定に洩れた会社の役員と、当時の日本代表選手でもある同社々員の2名が大阪にまで来られ、私に対し「使用球指定と納入業者との関係」を詳細に説明され、「良い品質のものでも協会役員との密接な関係の無い為に除外されて本当に悔やしい。今は唯大阪の俠気に期待する以外に無い。主管として良い品を選手に提供するのは悪るいことではない筈だと切々と訴えられた。

当時の私は大阪協会役員とは云え、どちらかと申せば競技に熱中して居り、そのような事情にトンと暗く、「良い品を提供しておかしな役員を見返してやろう」とばかり、一存でこの話しを了解、日本協会発表銘柄にX社製品を加え大会使用球とした。

ところがこれが後日日本協会で大きく取り上げられ、私と当時の大阪協会理事長の青木昭二氏が、日本協会総会に呼ばれ事情説明をさされるまでになり、結果私が「口頭謝罪」をする破目になったにもかかわらず、X社からは一片の連絡すらなく、そのまま今日に致っている。X社絶不信になったのはそれからである。

歴史小話

バドミントンの略史及び我国バドミントン界の現況
(第4回世界女子選手権(ユ杯)東京大会(1966年)プログラムより)

昔、インドのボンペイ州プーナ（Poona）で発生したこのゲームは、駐在の英国士官によって1873年頃英国に伝わり、グロウスター州（Glouceter shire）のバドミントン村で本格的な競技となった。バドミントンと云う名称はその地名をとって名付けられたものである。

バドミントンの国際連盟はロンドンに本部を持ち1934年創設で、現在50ヶ国の加盟国で成立している（略称ＩＢＦ）。日本バドミントン協会（略称ＮＢＡ）は昭和27年（1952年）にＩＢＦに加盟している。ＩＢＦはバドミントンに関する最高の統轄団体である。

バドミントンは、テニス、卓球等と共にオリンピック種目にはなっていないが、アジア競技大会種目になっている。各国で夫々個人選手権大会を開いているが、中でも本年で第54回を迎えた全英バドミントン選手権大会〔ウエンブレー・WEMBLEY〕は個人の世界選手権とみなされている事は、テニスのウインブルドンと同様である。又アジア地域はアジア選手権大会〔個人戦〕を開催している。

日本での歴史は、新しい競技と思われている割合に、その伝来は古く、大正初期（1910年代）には道具が渡来している事からも判明している。

ラインを引いてプレーが行われるようになったのは昭和5年（1932年）頃のことで、横浜や神戸等外国人と親密な地域にこれを見ることが出来る。昭和10年頃には横浜ＹＭＣＡ体育部が中心でクラブが出来て、外人クラブとの対戦が記録されている。

昭和14年（1939年）から大学生のプレーヤーが生れ、昭和17年（1942年）に慶応義塾大学で初めての学生のみによるバドミントン部が生れた。

日本バドミントン協会（ＮＢＡ）は昭和21年（1946）創設され、23年（1948）に日本体育協会に加盟し、現在46都道府県バドミントン協会及び沖縄バドミントン協会の47支部を持ち、之を10のブロックに分けて掌理している。又全国連盟として、全日本学生バドミントン連盟、日本実業団バドミントン連盟、日本教職員バドミントン連盟を持って、職域別に横の連絡が形成され、選手の登録数も10,000人を数えている。この他関連団体として、全国高等学校体育連盟バドミントン部がある。ＮＢＡ主催の年次大会は全日本綜合(個人)、全日本実業団(団体・個人)、全日本大学学生(団体・個人)、全日本教職員(個人)、全国高校（団体・個人)、全日本社会人（個人）の各選手権大会のほか、国民体育大会バドミントン競技会の7大会である。

日本バドミントン協会理事長　森友徳兵衛

第17回全日本実業団選手権―福井大会

6月24日～28日
・福井県勝山市
・勝山合同体育館
　勝山中学体育館

北は北海道，南は九州から
近来稀れに見る実力伯仲

95チーム（男子団体 67 / 女子団体 28）総勢650名参加……戦国ムードの大会模様

歓迎一色に盛りあげる勝山市

◎歓迎のことば

勝山市長　山内　謹

今般，秩父宮妃賜，労働大臣杯，第17回全日本実業団バドミントン選手権大会が，全国最高水準をいく650名におよぶ選手各位を勝山市にお迎えして開催されますことは，私の最も光栄とし，喜びにたえないものであります。

当市は白山山麓の一盆地でありまして，清澄なる緑の中の空気と，九頭竜の清流との盆地における試合は，選手諸氏におかれましても，さぞかし，健全な精神とスポーツの場ではなかろうかと推察申し上げるものであります。

どうか日頃練磨されました力を遺憾なく発揮され，敗れても悔のない立派な成果を期待するものであります。

終りに気候不順の折柄，健康には十分ご留意下さいますようお祈りして，ご挨拶といたします。

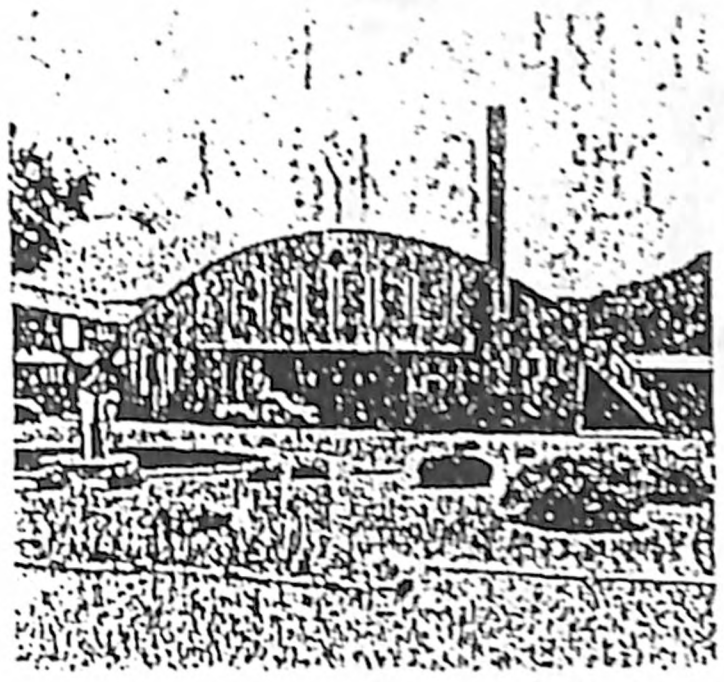
◎準備OK!!

当勝山市は第23回国民体育大会バドミントン競技大会の会場でありますので，第17回全日本実業団バドミントン選手権大会の諸準備に関しましても，あくまで福井国体のリハーサルという考えの基に準備を進めました。

当大会の準備に際し，県バドミントン協会，県実業団バドミントン連盟，福井県，勝山市の各関係諸団体の関係者によって実行委員会を組織し，そのもとに業務を推進しております。

650名の選手がご出場される訳でございますので諸問題も多く抱えております。例えば，宿舎の問題，会場の問題等々，審判員も機会ある度に講習会，練習会を開催しております。とにもかくにも本大会の運営に万全を期すよう努力いたしました。

何卒関係各位のご支援と，ご理解を賜りますようお願い致します。



準備なった勝山中学体育館

◎特別企画

本大会では初めてと思われるものですが，福井国体のリハーサルとの意味で団体戦の全試合の競技記録を各チームにお渡しする様準備しました。

予め，各チームの袋を準備し，各競技終了毎に記録用紙を複写し，袋の中へ一枚づつ入れるという方法です。今までの本大会では自チームと関係ある試合結果しか分りませんでしたが，今大会では袋の中をみれば全試合の競技結果が分るというものです。　　　　（大会事務局）

▲昭和42年（1967年）6月25日発行
日本バドミントン協会会報
NBA第11巻2号より

日本スポーツ　昭和42年7月10日（月曜日）（4）

トヨタ自、王座まもる
全日本実業団バド選手権

第17回全日本実業団バドミントン選手権大会は6月23日から28日まで福井県勝山市で行われた。

今大会は初勝のトヨタ自動車に初出場のヨネヤマラケットがどこまで迫るかが興味の中心であったが、ジャカルタでのトマス杯戦から帰国したばかりの、秋山、小島選手（ヨネヤマ）は疲労気味だったかトヨタ自動車の誇る、小宮、坂垣安沢選手の厚い壁を破ることができなかった。

大会中は審判のミス・ジャッジが多く、試合ごとにトラブルを起こしていたことは、これから地方で行う大きな試合時には考え直さなければならない問題である。

▽男子団体決勝戦
トヨタ自動車（愛知）3（複2－0 単1－[illegible]）ヨネヤマラケット（東京）

▼男子団体三位決定戦
伍々東京（東京）3（複2－[illegible] 単1－[illegible]）0 十条製紙（伏木）

▼女子団体三位決定戦
トヨタ自工（愛知）3－2 東邦レース（埼玉）

▽女子団体決勝
高松琴平電鉄（香川）3（単1－0 複2－0）0 電電東京（東京）
横井・渡辺 15－11 15－3 有木・日木
畑川・山本 15－7 15－2 叶内・岡部
横井 11－2 11－1 有木
（琴平電鉄は4連勝）

▼男子単三位決定戦
安沢（トヨタ） キケン 堺（河崎ラケット）

▽男子単決勝
秋山（ヨネヤマラケット） 5－15 15－5 15－7 板垣（トヨタ自動車）

▽女子単三位決定戦
畑川（琴電） 2－0 加賀谷（敷紡）

▽女子単決勝
横井（琴平電鉄） 11－5 6－11 11－4 佐々木（東邦レース）

▼男子複三位決定戦
長谷川・安沢（トヨタ） 2－0 田上・垣野（伍々東京）

▽一般男子複決勝
秋山・小島（ヨネヤマラケット） 15－10 15－13 小宮・板垣（トヨタ自工）

▼女子複三位決定戦
叶内・岡部（伍々東京） 2－[illegible] 武田・大塚（トヨタ）

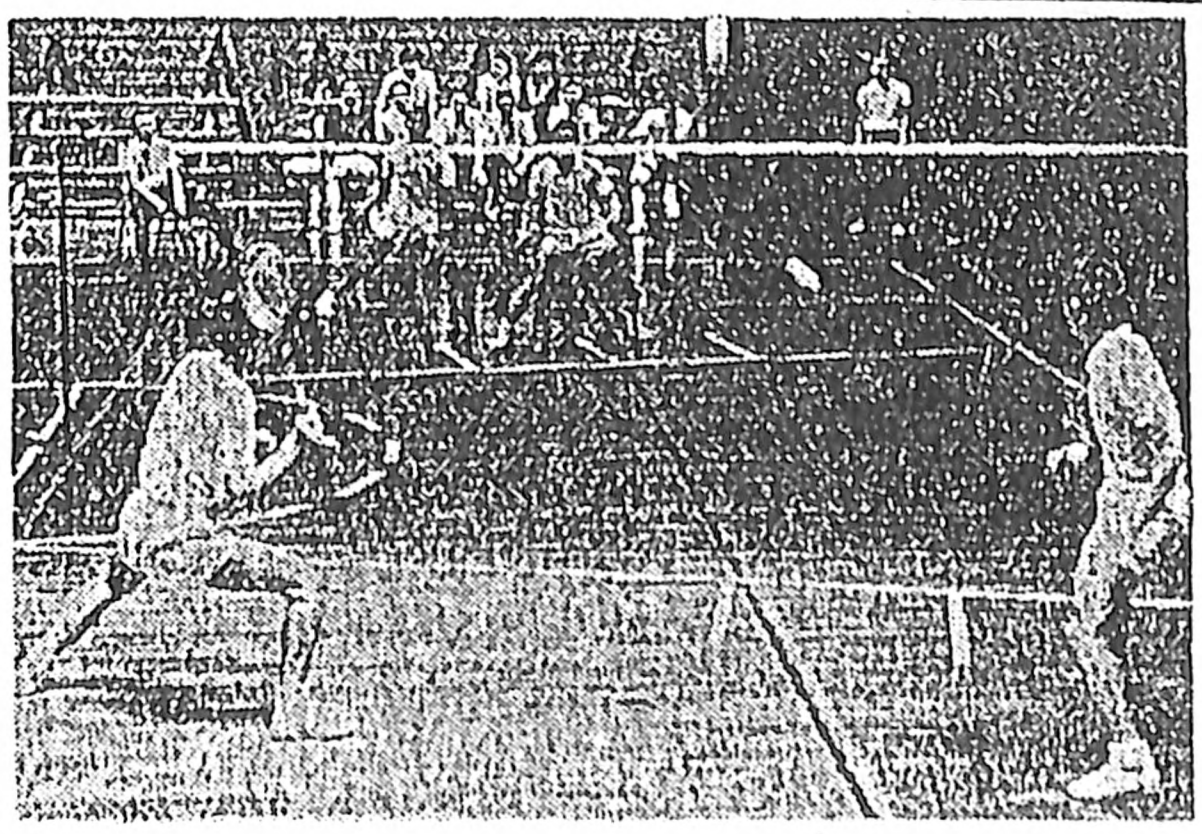
▽女子複決勝
横井・渡辺（琴平電鉄） 15－8 15－4 有木・日下（電電東京）

▽混合三位決定戦
田上・叶内（電電東京） 2－0 鈴木・有木（電電東京）

▽同決勝
小宮・上野山（トヨタ自工） 15－12 15－4 板垣・太田（トヨタ自工）

▽30歳以上男子単決勝
辻（日本鋼管） 15－12 15－2 武村（国際電電）

▽40歳以上男子単決勝
越智（住友化学） 7－15 15－7 15－3 森脇（国際電電）



（鈴木・高林組対児島・柳野尾組戦＝手前）

昭和42年（1967年）7月10日▶
日本スポーツ

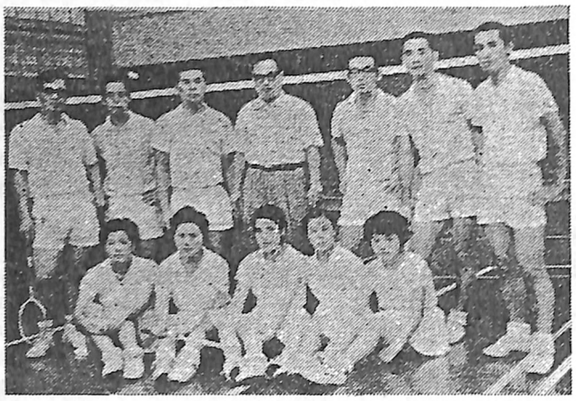
電々東京初優勝

＝実業団女子バド＝

北辰電機を降し

小宮、上野組 三年連続優勝

◇全日本実業団バドミントン選手権第三日（24日・諫早市）
◇団体戦
▽女子決勝
電電東京 3（申2―1 留1―1）2 北辰電機（東京）
（電電東京は初優勝）
◇個人戦
▽一般男子ダブルス決勝
小宮（トヨタ自動車）
坂垣 2（15―8 16―18 16―17 0）1 鈴木 星野（電電東京）
（小宮、坂垣組は三年ぶり四度目の優勝）
▽一般女子ダブルス決勝
上野（トヨタ自動車）
大田 2（15―8 16―18 8―16 0）1 有木 中（電電東京）
（上野、大田組は初優勝）
◇第二日（諫早市体育館ほか）
◇団体戦男子決勝
トヨタ自動車 3―0 高岡市役所
電電東京 3―0 名古屋鉄道
▽決勝
トヨタ自動車 3―0 電電東京
◇団体女子V決勝
北辰電機 3―1 東邦レース
電電東京 3―1 百十四銀行
◇第十八回全日本実業団バドミントン選手権最終日（28日・諫早市体育館）
▽一般男子シングルス準決勝
小宮（トヨタ自動車）2―1 星野（電電東京）
高山（北辰電機）2―0 中本（名古屋鉄道）
田中（電電東京）2―1 長谷川 原村（トヨタ自動車）
太坂（トヨタ自動車）2―1 堀口 羽田（名古屋鉄道）
▽同準決勝
上小野 2（15―6 15―7 7―15 15―1）1 太坂 田垣
上野 2―1 高山 本橋
坂田 2―1 有田 水上
▽同決勝
小宮 2（15―13 15―4）0 上野
▽一般女子シングルス準決勝
佐々木（東邦レーヨン）2―0 山本（電電東京）
田中（北辰電機）2―0 橋本（電電東京）
▽同決勝
小島 2（15―13 15―4）0 永井
（小島は初優勝）
▽三十歳以上シングルス決勝
遊喜（日本鋼管）2（17―15 15―12 15―14）1 青木（日本鋼管）
（遊喜は3連勝）
▽四十歳以上シングルス決勝
中島（大村市役所）2（15―13 15―9 15―5）0 三沢（北九州市役所）
（中島は初優勝）
▽一般男子シングルス準決勝
小島（ヨネヤマラケット）2―0 鈴木（電電東京）
宮永（明治生命）2―1 渡辺（横浜市役所）
▽同決勝
佐々木 2（11―15 11―7 18―0）1 高橋
（佐々木は初優勝）
▽三十歳以上シングルス決勝
遊喜（日本鋼管）2（17―15 15―12 15―14）1 青木（日本鋼管）
（遊喜は3連勝）
▽四十歳以上シングルス決勝
中島（大村市役所）2（15―13 15―9 15―5）0 三沢（北九州市役所）
（中島は初優勝）



（初優勝に輝やく電々東京女子）

▲昭和43年（1968年）6月28日新日本スポーツ

歴史小話　紅毛雑話（第18回諫早大会プログラムより）

○　羽子板竝羽根

黒坊の弄（もてあそ）びなり。西洋館にて閑暇なる時は、遣羽子（やりはごま）越つきて遊ぶとなり。羽子板を「ラケット」といふ。羽根を「ウーラング」といふ。図形の如し。

ウーラング之図

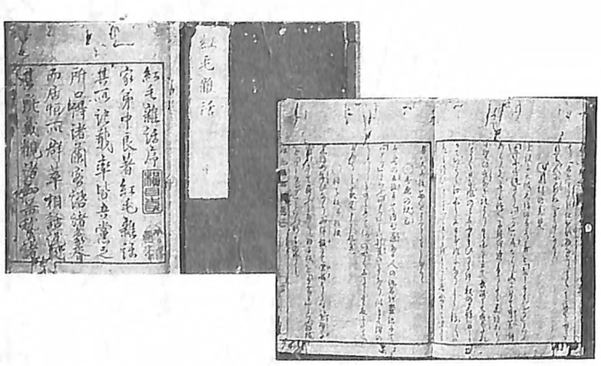
大さ図の如し羽根は揚弓の矢羽の如き五色の染羽なり下の袋は白き革にて包み中は「キヨルク」という朽木なり蹴鞠の如く作りたり革の合目の上へ赤き毛織の笹縁（ささへりを）越十文字に置たり

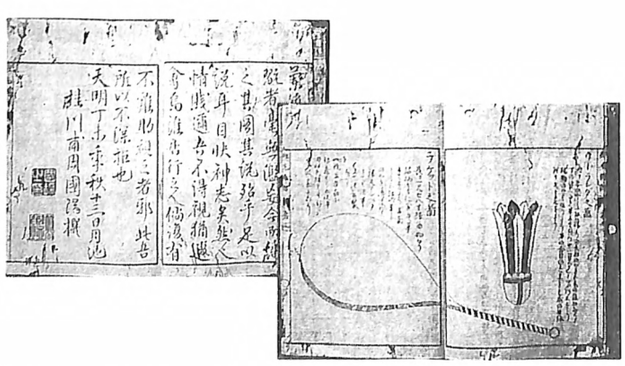
ラケット之図

長さ一尺七、八寸（約51センチ～54センチ）縁（へり）は曲者なり縁柄ともに金唐革（きんからがわ）にて巻たり両面とも三弦の革の如き薄皮にて張り又※アンペラにても張革にて張は古製なり

此玩器吾家に珍蔵せる物先年田村元雄先生へおくる今彼家にあり

※　アンペラとは多年草で茎をむしろに編んだもので、帆や日よけなどに用い、また砂糖、茶、塩、生糸などの包装用にする





「紅毛雑話」（長崎市博物館所蔵）は、森島中良（江戸の人）1754～1808年）が編集しその兄桂川国端が天明七年（1787年）に刊行したもので、徳川鎖国時代の唯一の門戸であった長崎出島に来航した紅毛人（オランダ人）の風習や奇談、更に蘭書にのせられた珍説などを収録したもので、外国事情を絵入りで紹介した珍書として当時もてはやされたらしい。

之は五巻よりなりその第一巻に下記の事が記されているのをたまたま当県協会員が発見したので貴重な資料と思いこゝに転載する次第です。

岩手国体リハーサル大会

岩手県バドミントン協会
副会長　佐々木隆夫
（当時　理事長）

大会の概要

- **日程**　6月28日～7月2日　5日間
- **会場**　岩手県釜石市
  第1会場　釜石製鉄所小川体育館（8コート）
  第2会場　岩手県立釜石南高校体育館（6コート）
- **参加者**　団体　男子62　女子27
  個人　一般男子　単125　複66
  一般女子　〃 67　複36
  30才男　〃 43　複22
  40才男　〃 28　〃 9
  混合複　〃 19
  合計約1200名

第19回大会は、昭和45年開催の岩手国体リハーサル大会として、前年の全日本社会人大会に引き続き開催された。この当時は、国体開催予定県は、リハーサルとして、二つの全国規模大会開催が、日本バドミントン協会の方針とされていた。社会人大会はともかく、実業団大会のようなマンモス大会は、全国大会の開催経験がなく、又、県実業団連盟組織のない当県としては、かなり厳しい試練でもあった。

岩手県バドミントン協会、釜石市国民体育大会実行委員会並びに主構成が釜石製鉄所バドミントン部の市バドミントン協会が主体となって、開催準備にあたった。

大会運営上、最も困難だったのが財政面と、運営能力であった。釜石市が、総予算320万円中200万円を出してくれ、前年の社会人大会の経験と近県の応援、特に相場清一・布引修二・板垣隆房氏には全面的にご指導をいただいた。

全日本実連の並木萬次郎氏には、何回も足を運んでいただいたし、当時カワサキラケットの堺氏、ヨネヤマラケットの米山氏には、選手強化でご指導いただき感謝にたえないところであった。大会における県チームの成績は、今いちであったが、この経験が翌年の国民体育大会の成功と、総合優勝に結びついたと思っている。男子団体は、トヨタ自動車の7連勝、女子もトヨタ自動車とのアベック優勝、男子単は小島一平選手の連勝など全国トップクラスの活躍で大会を盛り上げた。主会場の釜石製鉄体育館は、新日本製鉄の前身富士製鉄で、鉄鋼景気の時期で、今の鉄冷えと較べて今昔の感がする。

大会時にタクシーに乗ったところ、運ちゃんに「大会を見て、小島一平選手のファンになった」とか、お世話になった日本実連の並木氏をたずねて東京新宿の電電公社（現NTT）に行き、一晩、酒をごちそうになったことなど25年前の想い出は書ききれないものがある。

地元選手の記録をのせていただき、想い出の一頁としたい。



釜石駅前の大会掲示板

●男子団体

① 釜石製鉄　5－0　中部電力（愛知）
② 〃　2－3　日本石油（神奈川）

釜石製鉄：吉田寛・伊藤博・及川好・高橋道夫／高橋利之・斉藤謙一・熊谷徹／浅利金一・堀切誠一・本多三郎

●団体女子

① 釜石製鉄　2－3　沖電気（東京）

釜石製鉄：小坂英子・勝山志美子／及川貞子・菊池悦子

●男子単

① 鬼柳（盛鉄）　0－2　府岡（福井銀行）
② 細野（盛鉄）　0－2　鈴木（三菱造船）
③ 金原（金電）　1－2　樋口（名鉄）

●男子複

③ 金原 伊藤（金電）　1－2　春武 宮原（日田市役所）
③ 吉田 高橋（釜鉄）　1－2　末広 河添（宇部興産）

●30単

③ 佐々木（盛岡市役所）　0－2　淵上（北九市役所）

●30複

② 佐々木 浅沼（盛岡市役所）　0－2　尾崎 大平（三菱電機神戸）

●40複

準決 千田 兼平（盛鉄）　0－2　井原 松永（国鉄後藤）

和歌山大会に代って開催
敗者審判制が話題呼ぶ

香川県実業団バドミントン連盟
理事長　東条義昭

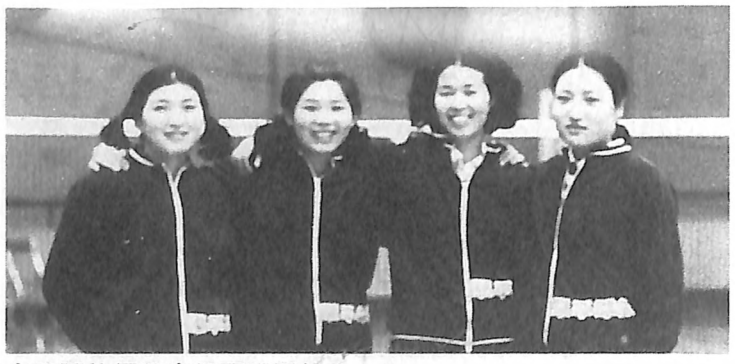
大会の概要

２月１日から６日間、県立体育館と高松市体育館（現在中央公園となっている場所にあった木造の旧体育館）の二会場で全国93事業所から男女約600名の選手が参加、団体・単複・年令別・混合などに栄光を懸けて開催された。開会式はプラカードを持つ高松女商生徒の先導で堂々と入場行進、一列横隊に整列し、琴電バドミントン部の山本真江選手が「大会の規約を尊重し、バドミントン競技の栄光とチームの名誉のため、真のスポーツマン精神をもって競技することを誓います」と宣誓、大会の幕をあけた。

本大会が香川県で開かれたのは、第６回（高松市）第９回（善通寺市）に次いで実に11年ぶりの開催。

戦前の予想では、男子団体は、前年優勝のトヨタ自工（愛知）実力ナンバーワンの小島を有するヨネヤマラケット（東京）あたりが順当に勝ち進み、ダークホース的存在は電電東京である。女子は、県勢の百十四銀行は同じゾーンにトヨタ自工（愛知）、三菱自工（京都）の強豪がいるが決して勝てない相手ではないようだ。高松琴平電鉄も２回戦で優勝候補の豊田自動織機（愛知）との対戦が苦しいが勝ち進むようだと県勢同志の優勝戦も夢ではないと評していた。

試合の結果、男子は接戦のすえヨネヤマラケットが、トヨタ自工を下し、女子は地元の高松琴平電鉄が三菱自工京都を破り３年ぶりに〝日本一の座〟につき通算５度目の優勝を遂げた。



女子団体優勝高松琴平電鉄チーム
左より、薗浦孝子、井上るり子、山本真江、細川泰子

個人戦では琴電の山本真江選手が単準優勝、複も細川泰子選手と組んで準優勝の成績を残した。また百十四銀行の山本みどり選手がベスト４まで進出した活躍も立派だった。高松大会の開催は申し分の無い大会で、大成功に終ったといえる。

開催までに

昭和45年の秋に、増井益二氏（元日本実業団連盟理事長）並木萬次郎氏（日本実業団連盟副理事長）の両氏が来高し、「第20回大会を和歌山市で開催することになっていたが団体準備にかかわる不祥事があり中止」となった。突然で申し訳ないが時間的にもあまりなく、高松と和歌山だと全国から参加するにも距離的にあまり違わないから何とか協力願えないかとの説得があった。これを受けて県実業団連盟としては琴平電鉄、高松市役所、百十四銀行等の部長、監督を召集し検討した結果、審判員の確保が難しさから、**敗者審判員制**を採ることを条件に開催することになり、その旨を伝えると並木氏より「みんなの大会であるから開催していただけるだけでも有り難い、協力しましょう」との返事をいただき本大会を開催することが出来た。

役員全員が、県協会＝実業団連盟みたいなものであったので、４～５名で大会の準備から運営までやることが出来た。多少のドタバタが有ったがそれもご愛嬌だと思う。

想い出事項

- 経費節減と緊急の場合に備えて、宿泊施設がある県立体育館で寝泊まりし、次の日の打合せ、その日に使ったシャトルの整理、試合結果の整理と夜おそくまで追われ休む時間もあまりなく、また２月の寒さが身にこたえた。
- 選手コーナーは県立体育館の中では、物品販売は原則禁止。メーカーのコーナーは前例がなく、再三再四のお願いと、選手サービスということでなんとか了解を得て、体育館の入口に設けることが出来ました。
- プログラムの表紙をどのようにするか、悩んだあげく、源平餅の吉岡本舗がお土産の包み紙に那須与一が描かれており、それの使用をお願いに行き、快く承諾して下さいましたときはホッとした。

終わりに

突然の大会にも関わらず本大会の最大の成果は、何といっても心が通い有った少人数でやった事がかえってチームワークを生むことになり何事にもスムーズに出来たことで自信がついた。

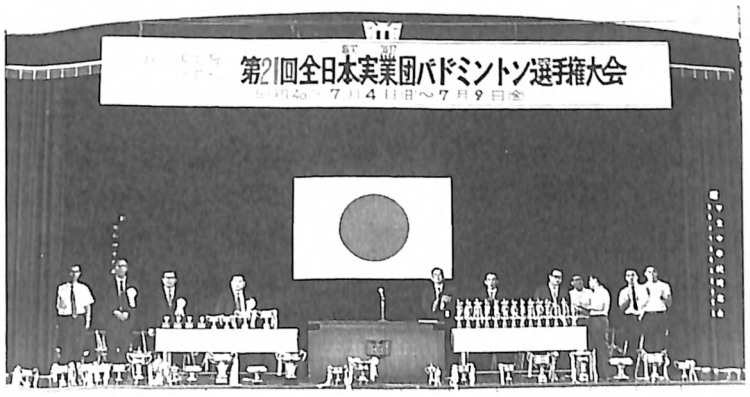
しかし、この大会が増井・並木両氏が来高して、話しを持ち込まなければ、全国大会を開催することなど夢のまた夢であっただろう。苦しかったけれども一生忘れる事の出来ない大会の一つである。

全国大会の開催を経験したことは選手はもちろんのこと、役員にとっても意義深い大会であったといえる。

一旦主管開催辞退しての開催

鹿児島県バドミントン連盟
丸山嘉久
（当時の理事長）

昭和47年に行なわれた第27回国体鹿児島大会のリハーサル大会として実施されたが、鹿児島県バドミントン協会では全日本実業団バドミントン大会の規模の大きさとそれに伴なう予算が高額のため、国体のリハーサル大会としては引き受けがたいとして日本実業団バドミントン連盟に辞退したい旨を申し出たところ、当時の理事長並木萬次郎氏が２回に亘り来鹿され、運営についての懇切丁寧な解説指導と鹿児島県国体事務局への運営費補助申請の口添えがあって、鹿児島県バドミントン協会としても実施に向かって決断をした。しかし男女計92チーム、選手630人の参加があり、国体会場として予定していた県立南高校の６面では消化が困難であったので、鹿児島県体育館の８面をも使用し２会場での運営となった。最終日だけが県体育館１会場となった。



この大会の要項、プログラム、試合経過等がほとんどなくなっており、わずかに当時の南日本新聞の記事に発見できたのでこれにより概観をまとめることにしたい。はなはだ貧弱な内容であるがお許しを願いたい。

先ず開会前の予想では次のように予想されたようである。

男子団体戦

過去７年連続優勝の実績を持つトヨタ自動車工業（愛知）が、学生ナンバーワンの本間（中大）の加入で優勝不動。これに続くのが電電東京、河崎ラケット（東京）。

女子団体戦

本命なし。琴平電鉄（香川）、三菱自動車京都（京都）、トヨタ自動車工業（愛知）、三菱電気伊丹（兵庫）などがトップグループで混戦状態。

男子個人戦

シングルスのナンバーワン小島選手（ヨネヤマラケット）がカナダの招待試合に渡米して不参加のため、本命なき激戦。

130名参加のシングルスは本間（トヨタ自工）、鈴木（電電東京）、池田（同）、今泉（高岡市役所）がベスト４に顔を揃えそう。

ダブルスは69組の出場。鈴木・池田組（電電東京）に本間・松島組（トヨタ自工）が追い、残りは混戦。

女子個人戦

シングルスは湯木博江（河崎ラケット）と相沢マチ子（ヨネヤマラケット）の両国際級選手の争い。

試合の結果

男子団体戦の決勝は大会３日目の７月６日に行なわれ予想通りトヨタ自工（愛知）－電電東京（東京）の対戦となり３－１でトヨタ自工が勝ち２年振り９回目の優勝を遂げた。女子団体の記録が欠落しているが百十四銀行（香川）優勝。この３日目は女子複が行なわれ工藤・紺野（豊田織機）と湯木・鈴木（河崎ラケット）が勝ちのこり最終日の９日に決勝を争うことになった。

大会４日目の７月７日は男子一般ダブルス決勝が行なわれ、河村・今泉（高岡市役所）が２－０で堺・平井（河崎ラケット）を破って初優勝。

一方女子シングルスではシード組が順調に勝ち相沢と湯木が久し振りに実業団大会で最終日に決勝を争うことになった。大会５日目は混合ダブルス決勝が行なわれ堺・湯木（河崎ラケット）が２－１で池田・阿久津（電電東京）を下した。

大会最終日の７月９日に行なわれた決勝は次の通り。

男子シングルス

本間（トヨタ自工）　２－０　今泉（高岡市役所）

30代シングルス

川上（不二越）　２－０　大野（十條製紙伏木）

40代シングルス

浜中（丸善石油松山）　２－０　片平（長崎市役所）

女子シングルス

湯木（河崎ラケット）　２－０　相沢（ヨネヤマラケット）

女子ダブルス

湯木・鈴木（河崎ラケット）　２－０　工藤・紺野（豊田織機）

試合終了後引き続き行なわれた閉会式では、成績発表の後11種目の優勝チームにそれぞれ優勝杯が授与され、６日間にわたる熱戦の幕を閉じた。

若潮国体開催ムードの中で

千葉県実業団バドミントン連盟
元・理事長　石橋康幸

昭和44年に、千葉県での国体（若潮国体）の開催が決定し、昭和45年にはバドミントン競技の会場は茂原地区となった。

県協会の活動もすべて国体に向けての姿勢で取り組むこととなった。

県実業団連盟としても、県協会と歩調を合わせながら、大会設営に向けての体制作りを開始したのもこの時期であった。

県内では、いままでこのような大きな大会開催の経験が無く、公認審判員の資格審査会を開催し、3級公認審判員の資格者を確保するなど、又県内の主要な大会には競技役員・審判員を派遣してそのレベルアップを図っていった。

国体開催決定後、県内での主要な大会、県民体育大会などを茂原地区で開催するなどして、地元関係者との交流を深めるなど地元と一体となり体制作りに力を入れていった。

会場も茂原高校体育館と長生高校体育館（建築）の2会場に決定し、地元茂原市と連絡会を設置するなどして、設備面を含め、検討事項や問題点を取り出しその改善策を検討、一つ一つを確実に潰していき着々とその体制作りが進められていった。

交通機関、宿泊施設が頭の痛い所であった。

千葉駅から約30分、東京駅からも快速電車で一時間強と電車の本数もかなり出ていたが乗り継ぎが多い点であった。

宿泊施設も大会会場、練習会場との交通の便が悪いという点であった。

昭和45年に、若潮国体のリハーサル大会の第一弾として第13回全日本社会人選手権大会を千葉市弁天町の県体育館で開催された。

県協会主催の過去の大会のなかでもっとも規模が大きく参加選手も752名といままでにない選手団を受入れた。

各役員は、この大会に備え着実に準備したので各人の役割を確実にその責務を全うし、大きな大会の設営に自信を深めていった。

第22回全日実大会が若潮国体のリハーサル大会としての開催が決った。

県実業団連盟としても主催県として全日実大会へ向けて、県大会への参加事業所の拡大やチームの強化について話合い理解を得るとともに、強力な新人の獲得について参加事業所にお願いし、チームのレベルアップを図っていった。

昭和47年を迎え、若潮国体もあと500日たらずに迫り、国体ムードは盛り上がりを見せていた。

このムードに乗り若潮国体のリハーサル大会の第二弾として第22回全日実大会の開催の年であった。

当連盟も役員改選を行ない体制の強化を図った。

県実業団連盟会長に林孝衛（茂原市選出県会議員）、理事長の高久重剛（日立茂原）、事務局長に亀田年邦（日立茂原）と組織の強化を図り、全日実大会へ向けて最後の詰めに入っていった。

第22回全日実大会は、9月12日から17日の6日間、35の都道府県より監督、選手859名、大会役員、競技役員約140名を配しての大会となった。

大会は、12日17時よりの茂原市民会館で開会式をかわきりに茂原高校体育館・長生高校体育館2会場で5日間の熱戦が繰りひろげられた。

競技日程は、13、14日の団体戦（男・女）、14日よりの個人戦一般男女単・複、30才男子単・複、40才単・複、混合複で行われた。

コート面数も少ない点も有り、連日9時、10時と接戦が繰り広げられタイムテーブルより遅れが生じた。

上位に勝ち残った選手は2、3種目掛け持ちでの出場が多くインターバルもそこそこの試合になった。

特にデビュー浅く若さ一杯の河崎ラケットの湯木選手などはフル出場の格好となり、本部でも苦慮しながらの進行になったが、彼女の気力・体力又精神力には、役員全員が感激し脱帽した。

本県も、開催県と言うことで、団体戦は8事業所（新日鐵君津、丸善石油、船橋市役所、日本建鉄、古河電工、三井造船、大日本インキ、日立茂原）個人戦に1事業所（富士電機）と過去最大の選手団を送りこんだ。

戦績は今一歩、全国の壁の厚さを知らされた大会でもあった。

各チーム共地元の利を生かし健闘、熱戦を展開しており開催県としての面目を保った。

大会設営にしても、交通面や宿泊施設についても地元茂原市の絶大な協力を得るなかで、県協会、実業団連盟、が一丸となって当たり当初の計画通りに実現することが出来成功裡に終わることが出来た。

このことは、翌年開催の若潮国体設営の自信へと繋がることを確信し大会は終わった。

茨城国体に自信をつけた

日立製作所・水戸
早川　博

昭和40年代後半、すでに昭和49年に茨城国体開催が決まっており、バドミントン競技は石岡市で開催することになった。

しかし県内バドミントン界の状況は、実業団チームが10チーム程度、高校は女子高が十数校、男子高にいたっては団体戦ができるチームは皆無の状態であった。幸いにも、茨城大学でバドミントンが熱心に行なわれており、その卒業生が先生として県内の高校や中学で指導者として活躍を始めていた頃であった。

いよいよ国体準備が始まり、バドミントン競技の開催地となった石岡市を中心とした動きとなり、高校男子は石岡一高、高校女子は石岡二高が強化の中心となった。

国体を迎えるにあたり茨城県バドミントン協会役員の若返りをはかり、当時（昭和47年）29才の加藤寛治（茨大出）をバドミントン協会の理事長に選出した。

昭和48年に石岡市で国体リハーサル大会として、第23回全日本実業団大会を開催した。県協会の役員もまだ実業団の人達が中心で各チームの主力選手が役員の中心を占めていた状況であった。そのため選手と強化指導、更に大会準備を並行して進めており、１人何役もの大変な状況であったが、皆意気に燃えて一生懸命であった。

このような若い県協会役員を全面的にバックアップしていただいたのが石岡市の市長はじめ、石岡市の国体バドミントン関係者であり、特に国体事務局長の金山氏は、持前の実行力で地元役員の養成から、大会準備、大会運営にいたる全ての面でリーダシップを発揮していただき、大会の成功へと導いていただいた。

更に、日本実業団バドミントン連盟からは並木萬次郎氏が毎週、週末には石岡においでいただき、１つひとつ御指導をいただき、着々と準備が進んで行った。

並木氏は当時をふりかえり、金山氏の大変な熱意と仕事ぶりを大いに称賛されている。

各方面から心配された大会運営については、特に審判員を地元でという熱意から、数十名の地元審判員を養成動員して、大会をスムーズに運営した事は、全国の役員の間でも話題になった。

また、この大会は団体戦、個人戦があった時代で、特に団体戦は夜遅くまで試合が続くことが有名であったが、今回の大会も例外ではなく、第１日目の最終試合が夜の11時近くになり、急遽宿舎への選手輸送のための臨時バスを調達することになったが、なかなか調達できないさわぎとなり、役員の方々に夜遅くまで御苦労をおかけした。

県内チームの活躍は、前年日立水戸チームがベスト８に入賞しているので期待されていたが、初戦敗退となってしまった。

しかし、翌年の国体をひかえて大会運営がスムーズに出来たと評価もいただいたという事で、地元石岡市、茨城県協会、茨城県実業団連盟等々、関係者に大きな自信となった大会であった。

歴史小話　バドミントンの名称の歴史的考察

1870年頃の話である。

イングランドのグロスターシャー州（現エーボン）ボーフォート公爵の邸宅、バドミントンハウスでホームパーティが開かれていた。ところがその日はひどい嵐、集った客たちは庭へも出られず、暇をもてあましていた。たまたま客の中にインドから帰ったばかりの英国陸軍の将校がいて“プーナ”の話を始めた。

プーナというのは、インドのボンベイ州の町の名で、1820年代からこの地方に親しまれていた一種の“羽根つき”のことで、このゲームはインド国内に広まり、ゲームの名も発祥地の町の名を取って“プーナ”と呼ばれていた。そこでは、最初のルールが作りあげられていたのである。

嵐に閉じ籠められすっかり退屈していた人達は、プーナの話にひかれ『とにかくやってみよう』ということになった。将校は早速、シャンペンのコルク栓に鷲ペンの羽根をびっしりと植えこみ、糸でくくって即製のシャトルを作り、ホールに糸を張ってネットにし、玩具のラケットで打ち合った。すぐに人々はゲームに熱中し、新しいゲームのおもしろさにとりつかれたのである。こうして、ボーフォート公爵のサマーセット家の競技となり、バドミントンが生まれたのである。

この話は、どこまで真実性があるかわからないが、競技の名称のバドミントンは、バドミントンハウスから生まれたのであると、はっきりはしている。しかし、このゲームがこのようにドラマティックに突然うまれたのではなく、基になる“羽根つき”は各国・各地方にある。古代ギリシャや中国、シャム、日本、勿論インドやイギリス各地でも行われていた。ラケットについても現在のものと違い、木や皮張り、また直接手や足を使って行なったものもある。特に、17世紀になるとヨーロッパでは、バドルドアー（ｂａｔｔｌｅｄｏｒｅ）とか、はねつき遊び（ｊｅｗ　ｄｅ　ｖａｌａｎｔ）、フェザーボール（ｆｅａｔｈｅｒ　ｂａｌｌ）とかの名称で盛んに遊ばれるようになってきた。

イギリスなどでは、各地の各クラブで独自のルールを作って競技していた。次第にそのクラブ間の交流試合を行うようになると、コートの大きさに共通性がないため、遠征するチームは明らかに不利だった。大きさばかりでなく形も長方形から砂時計形、後ろの壁も使うスカッシュ形と、いろいろあったようである。また試合は、シングルスは利己的なものとみなされ敬遠されていた。それではダブルスだけかと思われるだろうが、トリプルス（３人）やクワドルプルス（４人）なども行った。

そこでルールを統一する必要性が起こり、1893年、ハンプシャーのサウスシーで会合が開かれ、統一的な規則に賛成した14のクラブの代表によって、必然的にバドミントン協会が設立されたのである。協会にはなかなか加入しないクラブが多かったが、その後バドミントンは確実に前進していったのである。

（元　日本バドミントン協会
指導委員会委員長　里見光徳）

オイルショックで大会予算狂う

三重県バドミントン協会
副会長　伊豆　晃
（当時理事長）

昭和45年に、第30回国民体育大会三重大会（昭和50年）が内定しました。それまで10年間県協会の執行部から遠ざかっていた所、再びお呼びがかかり県バドミントン協会の事務局を司ることになりました。

バドミントン競技の会場は松阪市、そのリハーサル大会として全日本実業団選手権大会が誘致されたのです。このことが、三重県バドミントン協会が苦難の道を辿ることになったのです。待っていたのは、昭和48年に全国高校総合体育大会が三重県で開催されることになって居り、バドミントン競技の会場が四日市市に予定されていて、そのリハーサル大会が昭和47年に全日本社会人選手権大会でした。よく考えてみると４年間連続で全国大会を開催しなければならないと言うことです。丁度経済的にも高度成長期でもあり、何がしかの補助金も付くであろうから余り心配はいらないと思いましたが、問題はスタッフが揃うのか、ということでした。大都市で開催するのであれば人材も豊富ですが、三重県のような弱小県では大変なことです。その為急がれたのは県協会組織の再編成でした。この時期に幸いにも県内実業団チームの若い人達が実業団連盟を創ることで努力しており、県協会事務局もそのお手伝いをして、結果は立派な連盟を発足させたことが、実業団選手権大会の運営に大きな貢献をすることになったのです。

第24回全日本実業団大会は今迄にない大勢の参加数でした。一般男子団体数101チーム、女子団体数37チーム、選手総数100名。個人戦もそれに続いて沢山の参加数があり、４会場24コートを用意しました。当時の松阪市では８面以上の体育館の必要もなかったので、会場は総べて６面のコートでした。会場が４会場の為、国民体育大会同様に巡回バスも用意しました。タイムテーブルは団体戦１時間45分、個人戦50分で組みましたが、夜の10時を越す試合があったり、混合では他の会場から選手を特別に送ったりして大会運営が混乱した事を今でも苦い経験として残って居ります。

参加者で特筆出来るのは、男子単でトヨタの本間順次選手、女子単では河崎の湯木選手が四連覇がかかりそれを見事果されたことです。その他ではヨネヤマの竹中・相沢組が女子複で初優勝し、この頃から彼女等が台頭して来た頃です。また開催県で面目を保ったのは三菱化成四日市の増井孝夫選手が30才単で優勝したことです。

この大会の参加者が男子団体で100チーム、参加者全員が1000名を越えて来るようでは、今後この大会を受ける県では大変なことになると思いました。いずれは軌道修正がなされなければならないと思いました。

四年続けて全国大会を開催することになり、予算面ではどうにか乗り切れると判断していましたが、この大会で思わぬ出来事がおこりました。それはオイルショックでした。1000円程度のラインテープが倍近くに値上がりするなど色々な物品の値上がりがあり、中でも看板の値段が予算を大きく狂わしました。平均して当初予算の５割程度オーバーしてしまいました。これについては、県協会の会長を始め会員の皆さんの努力で早く回復しましたが、３年間ぐらいは後遺症が残りました。

その他大会運営で気懸かりであったのは、宿泊関係でした。食事については統一したものの旅館の種類が三つあったことです。料亭が組織する組合、ビジネス客が利用する新しい組合、俗に言われる連れ込み旅館組合の三種類でした。連れ込み旅館については其れとなく連れ込み宿であると分かりにくい宿を用意し足りない所は、切り札として競輪選手の宿舎を用意しました。総数45軒でした。参加者の皆様には色々な所へ泊まって頂きましたので、それなりの想い出が残られたことでしょう。ご迷惑をお掛けした所は陳謝致します。

最後に余談になりますが、大会の主会場は当初松阪市に国体用として体育館の建設を要請していたが、予算がないということで県立松阪高校に新体育館を建設することになり昭和47年春に峻工し、これが当てられた。同校には体育館があったにも拘らずテニスコート６面を潰しての建設であった。
その後松阪市は何かの補助金がついたのか立派な市立体育館を昭和48年に峻工した。このことについては県バドミントン協会には何も連絡がなかった訳ですから全日実大会には市立体育館は利用しないことで進めました。その後市当局から国体の主会場には使用して欲しいとの申入れがありましたが断った経緯がありました。

このように、この全日実大会は後にも先にもない大規模な大会であっただけに、県バドミントン協会としては、その組織が一段と強化され第30回国民体育大会も無事運営させて頂くことが出来ました。有難度うご座居ました。

最後に日本実業団連盟の益々のご発展を祈念して大会の思い出と致します。

第25回全日本実業団バドミントン大会入賞者

種別＼順位	1	2	3	5
男子団体	高岡市役所 （富　山）	電電東京 （東　京）	電電北海道 （北海道） トヨタ自工 （愛　知）	電電近畿（大　阪） 河崎ラケット（東　京） ヨネックススポーツ（東　京） スワロー化研（大　阪）
女子団体	河崎ラケット （東　京）	電電東京 （東　京）	ヨネックススポーツ （東　京） 旭光学益子 （栃　木）	地崎工業（北海道） トヨタ自工（愛　知） 高松琴平電鉄（香　川） 百十四銀行（香　川）
男子単	銭谷欽治 （河　崎）	本間順次 （トヨタ自工）	栂野尾昌一 （ヨネックス） 池田信孝 （電電東京）	堂谷内　均（津田駒） 田所光男（電電東京） 今泉　勉（高岡市役所） 飯野佳孝（ヨネックス）
女子単	湯木博恵 （河　崎）	石崎茂子 （電電東京）	相沢マチ子 （ヨネックス） 竹中悦子 （ヨネックス）	石原英子（高松琴平電鉄） 柴山きよ子（河　崎） 沼能久子（旭光学益子） 池田美加（河　崎）
30歳単	鈴木勝之 （三菱重工横浜）	渡辺直人 （横浜市役所）	吉田邦男 （日立戸塚） 増井孝夫 （三菱化成四日市）	星野義昭（電電東京） 窪田恵三（甲府市役所） 春武俊一（日田市役所） 大野幸雄（十条製紙伏木）
40歳単	山田正弘 （新日鉄）	浜中　誠 （丸善石油松山）	中島泰二 （大村市役所） 小林忠信 （三菱電機神戸）	吉田　昇（大日日本電線） 片山修治（電電近畿） 林　辰夫（スワロー化研） 油井秀男（新日鉄名古屋）
男子複	栂野尾昌一 飯野佳孝	本間順次 谷口寛	河村博之・今泉勉 （高岡市役所） 関村順治・牧野光男 （高岡市役所）	木村・遠藤（電電北海道） 米原・米沢（高岡市役所） 松島・松島（トヨタ自工） [illegible]・田所（電電東京）
女子複	湯木博恵 池田美加 （河　崎）	相沢マチ子 竹中悦子 （ヨネックス）	藤井由美子・沼能久子 （旭光学益子） 川東秀美・山口豊子 （百十四銀行）	宮内・布上（トヨタ自工） 遠藤・高野（地崎工業） 田所・石原（高松琴平電鉄） 我妻・陣内（ヨネックス）
30歳複	春武俊一 宮原秀三 （日田市役所）	川上洋一 氷原昌雄 （不二越）	鈴木蕃・島田稔 （東京都庁） 星野義昭・森谷喜久男 （電電東京）	小松・藤井（岡山市役所） 窪田・田中（甲府市役所） 堺　・大野（十条製紙伏木） 鈴木・倉田（三菱重工横浜）
40歳複	横井虎男 谷口金夫 （クラレ西条）	尾崎惟信 大平和三 （三菱電機神戸）	吉田　昇・山田達也 （大日日本電線） 梅枝孝之・森田俊明 （国立舞鶴病院）	池田・片山（電電近畿） 高木・竹島（日本曹達高岡） 上口・伊藤（東京簡保） 井原・佐々木（国鉄後藤）
混合複	平井克英 柴山きよ子 （河　崎）	飯野佳孝 相沢マチ子 （ヨネックス）	栂野尾昌一・竹中悦子 （ヨネックス） 今井茂満・池田美加 （河　崎）	田所・今田（電電東京） 堺　・湯木（河　崎） 池田・石崎（電電東京） 松島保・宮内（トヨタ自工）

ユニフォーム背面にチーム名採用 初のテレビ放映

神奈川県実業団バドミントン連盟
理事長　京屋孝治

第26回大会は、6月25日～30日の6日間、神奈川県藤沢市で開催されましたが、第2回（昭和28年）大会の開催から23年も経過しており、当時の役員も全員交替しており、始めて開催するのと同じでした。

24回大会までは国体のリハーサル大会で、会場、資金、役員、輸送など、地元役所の事務局が、仕事として準備できたと思いますが、25回大会からは国体のリハーサル大会を廃止し、実業団連盟独自で開催することになった。

県協会・実業団連盟の役員は、仕事の合間に大会準備を行うため、苦労の連続でした。特に資金面では、あるメーカーから、他の企業の広告を出さないなら、1社で必要経費を出すと交渉され、当時の理事長が話しに乗ったが、直前になって出来なくなったと言われ、広告費を集めるのに苦労しました。それ以来神奈川県は、そのメーカーの用品は使わなくなった時代もありました。

26回大会では、**ユニフォーム背面にチーム名**を義務付けましたが、字の大きさ色等を何種類も作り、それを会社の選手に付けて、一番見やすく判りやすい寸法を選ぶのにも時間がかかりました。背面にチーム名を記入するのは、用具規定に抵触するため、大会要項が日本協会の総会審議で拒否されるかと心配していましたが、総会が選手登録の件で紛糾し、各種の大会要項は一括で異議なしで通過した経緯にあります。あの紛糾がなかったら背面は数年先に伸びたと思っています。

ただ、他連盟より、ユニフォームに金がかかる等、若干のクレームがありましたが、その連盟もすぐに背面を取入れていました。

開催地の藤沢市の選手宿泊場所は、景勝の地「江ノ島」付近の旅館組合にお願いしたが、夜間は暴走族のオートバイ騒音に悩まされたチームも多少あったと聞いております。今現在では、旅館はほとんどなくなり、マンションや、ホテルに変わっており、昔の面影はありません。

開会式で使用した秩父宮記念体育館には、ステージがないため、選手の入場行進の先導役を努めた、鵠沼女子高校生のバトン演技が見えないと後方の選手より声があり、体育館に選手が座り込んで入場式を行ったことが、思い出されます。

この大会では、実業団大会始めての試みとして、大会前に東京の会館で報道関係者を集めて、記者発表を行ったことと、決勝戦を**テレビ放映**したことが、印象に残っております。特にテレビ放映は、現地の民放テレビがバドミントン競技を始めて撮影したため、撮影対象の女子決勝の試合終了後、男子が試合を行っているのにもかかわらず照明を落とし、会場内が急に暗くなり、選手・役員から大クレームがついた。

この頃は、団体戦と個人戦を行っていた時代で、前2日間で団体戦、後の3日間で個人戦を行うという、選手にとっても役員にとっても厳しいスケジュールであった。特に団体戦の初日でベスト16まで決める必要があり、コート面数を27面用意したが、6回転させたコートも半数近くあったため、体育館の終了時刻午後8時を過ぎても行った試合が何試合かあった。後片付けを終えて役員が帰ってきたのは、夜11時過ぎの会場もあった。

また、東京の隣ということもあって、個人戦の参加選手が多く、30才・40才・混合複を団体戦の2日目から行うなど、タイムテーブルのやり繰りも大変だった。

試合では、この大会が初出場の、大阪のサントリー女子チームが、初出場初優勝という快挙を成し遂げた。一般男子単では、地元のRS元町の小島選手が決勝まで進出したが、当時の河崎ラケットの銭谷選手に惜しくも破れ、準優勝で終わった。一般女子単は、河崎ラケットの湯木選手の6連覇となった。また、30才単の横浜市役所・渡辺選手および40才単の日本鋼管・遠藤選手の活躍により、開催地での地元優勝者を出すことができた。

私も、当時31才という若さで大会を引き受け、県協会役員諸先輩のアドバイスを受けながら、また、日本実業団バドミントン連盟役員のご協力を得て、大会を無事終了することができましたが、自分にとっては、貴重な体験となりました。

あの大会から、20年経過し、選手のレベルも向上していると思われますが、国際大会等での活躍する選手がいなくなっている原因は何か？と、最近はつくづく感じます。特に試合中のスタミナ切れがよく見受けられます。

日本実連はバドミントン界のトップ集団として、今後の活躍を期待したい。

団体戦は大阪で、個人戦は京都で開催

京都府実業団バドミントン連盟
会長代行　野村嘉明
（当時理事長）

昭和40年代の後半に入って日本実連の加盟事業所数が急増するとともに全日本実業団大会の参加数も急増し、全日実大会がマンモス化の傾向にあった。

選手にとっては団体戦と個人戦に出場すると一週間の大会参加となり、連戦で健康管理に又長期職場離脱と問題が深刻となって来た。個人戦の廃止論が浮上したのもこの頃であった。

開催地にとっては、公営の体育館を一週間確保するということは当時の体育館事情から至難なことであり、会場取得、役員の動員、費用増大による資金調達等々が問題となり、開催地誘致が難行していた頃であった。

日本実連の執行部としては、必然的に大会規模をどのように縮小するか検討に入っていたが、中々思い切った対策も立たず、従来の流れの中で、府県別出場割当数を変更するのみの対応で大会は継続していた。

第27回大会は関西で開催ということが執行部の要望で、このマンモス大会をどのような形で受けるか、当時常務理事の大阪の池田芳麻氏と京都の私が主体となって近畿実連で検討することになった。

結果として表向きは近畿実連主管として、役員の動員、資金調達等のバックアップ体制をとり、実質的には大阪が団体戦を京都が個人戦を主管することとなった。

複数県で大会を主管することは、全日実大会史上はじめてのことであった。

これで会場取得及び役員動員問題は解決されたが、特に役員については、一部の役員は大阪、京都の２地区の準備にたずさわったが、ほとんどの役員は大会日数が従来の六日間が三日間に半減し、役員の負担の軽減は大きかった。

選手の方には前半の団体戦は大阪に宿舎をとり、後半の個人戦は京都に宿舎を移すという若干迷惑をかけたが、京都の土地柄もあって差程苦情もなく、気分一新の形で受け入れられたことは幸いであった。

団体戦第三日目の準決勝、決勝を有料入場としたが、全日実大会初の試みであった。

これも内容的に日本バドミントン界最高の試合である所から、広く一般の注目を喚起するとともに資金の潤いを計る目的で急拠新企画の採用となった。

結果は予想以上の来場者で、その上女子は地元サントリーの２連勝、男子は河崎ラケットが複２失点後、単で３点とるという逆転で東京電電を倒し初優勝で盛り上り成功であった。

ちなみに有料入場者数1000名、その他500名計1500名の観客であった。

選手の輸送について、京都では宿舎・会場間の交通機関が不便であったので自衛隊の協力（加盟チームであったことより）で、会場連絡バスを運行したところ、利用者も多く選手の交通費の節約、地理不安の解消、コンディション作り等に一役果すことが出来た。

又従来の大会では選手、役員の交流は大会会場内においてのみであったが、団体戦（大阪）から個人戦（京都）への切換えの区切りとして、交歓会を開いた所、120名余の参加で選手、役員の交歓の夕が盛大に過ごせ、従来にない親睦交流の場がもて好評であった。

大会の記録面では団体戦については前記のとおりであったが、個人戦では常勝の湯木博恵選手が新鋭徳田敦子（サントリー）に敗れたことは本大会の大きな話題となった。

徳田選手はチーム優勝、女子単、女子複に優勝し三冠を獲得した。

銭谷欽二（河崎ラケット）選手は男子単に優勝し三連勝、栂野尾昌一、飯野佳孝（ヨネックス）組は男子複に三連勝、その他30才男子単渡辺直人（横浜市役所）、40才男子単遠藤啓治（日本鋼管）が二連勝した。

競技面においては、この年はユニフォームのカラー（エリ、袖等に）化が大幅に採用された年でもあった。従来ユニフォームのカラーについて色々と論議を呼んでいたが、どれ程着用されるか注目されたが、ややPR不足で目測では３～４％の着用に留まった。

本大会の組合せにシード制を採用し好評であった。特に団体戦上位に進出したチームの選手のほとんどが、個人戦において大シードされており、個人戦第一日目が休養日となりコンディション作りによかったようである。又実力下位の選手は当初対等の試合が出来ることも好評であった。

肝じんの大会収支は、近畿実連主管と近実登録事業所数×６千円の基準で各支部へ資金調達の目標額とし、予定額を確保したことは財政上大きな効果を上げた。

広告料調達不足、諸経費の予想以上の膨大等で苦肉の策で実施した有料入場の実施は、これらの穴埋めを果し、かろうじて赤字会計をまぬがれた。

二府での開催は結果として人的面では、有効であったが、経理面では双方にお互いの遠慮、けん制があり思い切った施策がとれなかったことは残念であった。

地区ブロック支援の大会として

大阪府実業団バドミントン連盟
副会長　池田芳麻
（当時理事長）

主管を引き受けた動機

(1)　第16回大会を夢中で主管したが、極端な準備不足の故もあり関係者全員に非常にご迷惑をおかけしたことは事実で、全く後味の悪るい限りであった。

是非次の機会には気持ち良く、すっきりと運営したいと考えていた時、日本実連より話しがあったこと。

(2)　16回大会の「役員確保」のところで少し触れたが、本大会をブロック単位で運営すれば種々な面で大きなメリットが生じないだろうかと、以前から考えていたので、試策的に第27回大会を近畿ブロック全体で運営することに関し、執行部の意向打診したところ、了承が得られたこと等から引き受けた。

重点項目と施策

(1)　近実連盟の協力体制を整えるため、各府県連盟代表者会議をしばしば開催、相互の意識そつうを期すと共に、資金、要員及び実施会場選定等重要事項の整備を計り、多くの成果が得られた。

特に競技会場と共に「実施種目」については、ブロック主催といっても精々２つの府県程度でしか開催し得ないこともあり、多くの意見が出されたが、最終的には「団体戦は大阪、個人戦は京都」と決定し、他の県実連はこれらの成功に向け応分の協力を致すこととなった。

（注）、当初は「個人戦は兵庫」であったが、兵庫の都合から51年７月頃京都に変更された。

(2)　財源確保手段の一つとしてブロック内各実業団連盟と、大阪実連加盟全事業所に一定額の「挙出金額」を定め実現に努めた。

(3)　大阪府下公立スポーツ施設が不充分なため、参加数に見合うコートが不足するので、松下電器枚方体育館の借用を考えたが、体育館は主として部内関係者と地域住民に開放されて居り、斯様な大会への開放の例も無く、借用許可が中々出なかった。

この為、サントリーの岸取締役を通して松下電器の遊津重役（故人）にお願いし、やうやく会場の確保が出来た。

開会式について

私自身の経験から、蒸し暑い６月、40°C近くに昇る館内で立ちっ放しの開会式々全くご免で、今回は冷房設備のある会場で、椅子席による開催を考えた。

勿論入場行進も無し。これで選手も役員も楽しく開会式が出来るだろうと考えた。このことは良かったのだが、当日は思いがけない大雨に見舞われ、切角のアイデアも若干色褪せたのが残念であった。

競技について

(1)　一番印象に深いのは、サントリーチーム二年連続優勝である。昨年チームを結成し、ノンプロ的なチームがバドミントンに生れたことは、わが国バドミントン競技会に一大衝撃を与えたことは間違いなく、以後日本のバドミントン界変革に重要な役割りを与え続けている。

(2)　団体決勝の行なわれる大会２日目の観客入場を有料とした。

このことは実に大切な出来事と考えている。

当初、有料化の話しが出た時には「出来る筈が無い」と信じなかったが、サントリーの斉藤氏より「わが国バド界の最高レベルの競技を観るのに有料は当然、十分価値の有るものを無料としていることこそ問題」と強力なご意見に加え「当社も積極的に観客動員に努力する」とのお約束もあり、清水の舞台から飛ぶ思いで迎えた当日の朝、入場券発売所前に並ばれた多数の方々を拝見した時の安堵感は今でも忘れられない。

このことが、後々日本リーグ観客動員への自信となった。

(3)　昨年に引続きＴＶ放映を導入したバドミントンの放映は近畿地区でははじめてのことであった。勿論メーン放送ではなく「近畿ＴＶ」というローカル放送では有ったが、それにしても実業団バド大会にとっては、画期的なことと考えている。

財政問題

(1)　一番有り難かったのは、近畿実連加盟各組織が打ち合せに見合う資金を持ち寄って下さったことである。（約75万円）

(2)　決勝日を有料としたことにより、サントリー、電電等を含む地元企業からの観客動員が成功、約90万円近くの入場料、及び大会プログラムの販売、記念バッチや記念のピン等の販売による約21万円も大きい収入であった。

(3)　これらの他に、ＴＶ放映料や、プロ広告数の増加等もあり、当初支出予算に対し70万円程度の支出増があったにもかかわらず、少額（約10万円弱）とは云え黒字決算をみた。

忘れ得ぬこと

(1)　繰り返えすようだが、「ブロックが責任を持つ運

営」である。これがうまく行くなら、全実大会開催はそう難事ではない。

この方法を成功させる最大のポイントは、「黒字、赤字にかかわらず、大会開催に携わった度合を明確にし、それに相当する負担を引き受ける体制の確立」に尽きると考えている。

(2) 第16回大会時での宿舎手配の不手際を深く反省し、今回は大実連所属の大阪ＫＤＤチームを宿舎専担とし、団体戦期間中における宿舎予約、配舎、宿舎での受付から弁当、夕食等一切のお世話をさせて頂いた結果、大きなアクシデントも無く終了することが出来た。

しかし後日の反省会では、このような作業はやはりエージェント一任が最適でＫＤＤとしては「ゲームも見られず大変だった。二度としたく無い」と悔やむことしきりで、私としても大変耳が痛い思いをした。

歴史小話

企業ランキング　（１９９３年）

１従業員数　（人）		２経常利益　（億円）		３広告宣伝費　（100万円）	
順位　社　名		順位　社　名		順位　社　名	
１☆日本電信電話	215 629	１☆トヨタ自動車	2 864	１☆花王	47 338
２☆東日本旅客鉄道	79 679	２☆東京電力	1 599	２☆松下電器産業	40 134
３☆日立製作所	79 389	３☆富士写真フイルム	1 261	３☆トヨタ自動車	35 991
４☆東芝	74 558	４　清水建設	1 198	４　資生堂	34 495
５☆トヨタ自動車	73 046	５☆三菱重工業	1 192	５☆本田技研工業	32 374
６☆富士通	54 091	６　任天堂	1 150	６　アサヒビール	32 182
７　日本通運	52 743	７　関西電力	1 104	７　サッポロビール	30 708
８☆日産自動車	51 398	８☆日本電信電話	1 094	８☆日本電気	30 655
９☆ヤマト運輸	50 444	９☆東日本旅客鉄道	1 015	９☆三菱自動車工業	30 363
１０☆三菱電機	49 842	１０　三和銀行	896	１０☆日本電信電話	28 375
１１☆松下電器産業	48 369	１１　セブン・イレブン	881	１１☆日産自動車	26 154
１２☆三菱重工業	44 304	１２　イトーヨーカ堂	820	１２☆日立製作所	25 140
１３☆日本電気	42 287	１３☆中部電力	809	１３☆麒麟麦酒	24 294
１４☆日本電装	41 996	１４　三共	803	１４　ダイエー	23 710
１５☆東京電力	41 967	１５　九州電力	798	１５☆ライオン	23 534
１６☆新日本製鐵	34 619	１６　大日本印刷	797	１８☆東京電力	22 760
１７☆本田技研工業	31 036	１９☆麒麟麦酒	769	１９☆東芝	22 495
１８☆マツダ	29 161	２６☆日立製作所	718	２１☆シャープ	21 780
１９☆三菱自動車工業	28 678	２８☆松下電器産業	638	２３☆富士写真フイルム	18 184
２０☆三洋電機	28 535	３４☆東芝	537	２５☆松下電工	18 000

注１：対象は全国上場企業　１，３は金融機関を除く。
注２：本データはいずれも「日本経済新聞」及び小学館発行データパル抜粋による。
注３：☆印は過去に全日本実業団バドミントン選手権大会に出場した企業を示す。

男子団体　電電東京が5度目　シングルスで奮起
女子団体　サントリーが3連勝　谷・秋本が殊勲

夏の到来を告げる第28回全日本実業団バドミントン選手権大会が、6月13日の開会式を皮切りに、18日までの6日間のうだるような暑さの中、東京・駒沢体育館、駒沢球技場、世田谷区立体育館、江東区スポーツ会館の4会場で行なわれた。

団体は、男子は優勝候補の一角、電電東京が通算5度目の優勝に輝き、女子は質量ともに豊富なサントリーが、圧倒的な強さで3連勝を飾った。

男子単は、本命視されていた銭谷（カワサキ）が辻（ヨネックス）に敗れる波乱が起こり、瀕死の状態から浮かび上がった土田が初優勝。

女子単は、湯木（カワサキ）、徳田（サントリー）をファイナルゲームの末に降した近藤（カワサキ）が、若くも初の王座についた。

男子複は、大砲2門を揃えた栂野尾・飯野組（ヨネックス）が、しぶとく粘る今泉・牧野組（高岡市役所）を突き放して4連覇を果たした。

女子複も、全英チャンピオンの徳田・高田組（サントリー）が、今田・米倉組（電電東京）に1ゲームを取られただけの完勝で貫禄を示し2連勝。

混合複は、昨年の実業団、全日本の二冠を制し進境著しい日下・牛田組（百十四銀行）が、さながら無人の境を行く試合ぶりでこれも昨年に引き続き2連勝を飾った。

30歳以上単は、4年連続の顔合わせとなったが、スピードに勝る渡辺（横浜市役所）が、疲れの見えた鈴木（三菱重工横浜）を振り切って3年連続優勝。

30歳以上複は、エネルギッシュに打ちまくった森谷・早野組（電電東京）の2連勝。

40歳以上単は、高橋（いすゞ自動車）が、遠藤（日本鋼管）の3連覇を阻止して初優勝を飾り、複は岡崎・館谷組（日本火災七尾）が、昨年と同じく伊藤・鬼頭組（電電東海）を決勝で降して2年連続優勝を果たした。

▽男子団体準々決勝
河崎ラケット 3－1 関東自工
ヨネックス 3－0 スワロー化研
電電東京 3－0 電電北海道
高岡市役所 3－0 トヨタ自工

▽同準決勝
ヨネックス 3－0 河崎ラケット
栂野尾・飯野 2（15－4、15－5）0 今井・斉藤
大場・辻 2（9－15、15－7、15－11）1 銭谷・中井
飯野 2（15－11、18－14）0 斉藤
電電東京 3－2 高岡市役所
池田・尾崎 2（17－15、15－1）0 米沢・米原
田所・土田 2（15－3、15－6）0 今泉・牧野
尾崎 0（8－15、3－15）2 米沢
土田 0（11－15、9－15）2 今泉
池田 2（15－10、15－9）0 牧野

▽同決勝
電電東京 3－1 ヨネックス
池田・尾崎 1（8－15、15－11、3－15）2 栂野尾・飯野
田所・土田 2（18－13、15－11）0 大場・辻
尾崎 2（15－11、5－15、17－15）1 栂野尾
土田 2（15－4、15－11）0 飯野
（電電東京は通算5度目）

▽女子団体準々決勝
サントリー 3－0 関東自工
高松琴平電鉄 3－2 ヨネックス
旭光学 3－0 百十四銀行
河崎ラケット 3－2 電電東京

▽同準決勝
サントリー 3－1 高松琴平電鉄
徳田・高田 2（15－3、15－2）0 田所・石原
谷・秋本 2（15－6、15－8）0 平井・山田
東海林 1（9－11、11－7、5－11）2 石原
徳田 2（11－1、11－1）0 平井
河崎ラケット 3－0 旭光学
近藤・渡辺 2（15－9、15－6）0 日山・増山
湯木・千葉 2（15－4、13－18、15－8）1 沼能・日向野

▽同決勝
サントリー 3－1 河崎ラケット
近藤 2（11－5、11－3）0 日山
徳田・高田 2（15－2、15－5）0 近藤・渡辺
谷・秋本 2（17－14、17－14）0 湯木・千葉
高田 1（10－12、11－6、6－11）2 近藤
徳田 2（11－0、11－0）0 千葉
（サントリーは3連勝3度目）

男子は、電電東京、ヨネックス、河崎ラケットが優劣つけ難い3強を形成していたが、昨年の覇者河崎ラケットは、準々決勝の対関東自工戦で、中井が右足首捻挫というアクシデントに見舞われヨネックスに敗れ去った。

中井が完調ならば、と思わせるオーダーだっただけに、この思わぬ事故が河崎ラケットの命取りになった。

電電東京対高岡市役所の準決勝では、土田が復活した今泉の技巧と体力の前に敗れるという破綻を来したが、最終シングルスでベテラン池田の頑張りに救われた。

久し振りに冴えを見せた今泉は、土田のスマッシュを苦もなくレシーブし、すぐに逆襲に転じる体の切れが抜群で、往年のプレー復活の感があった。「オーバーワークと思うほど走り込んだ」と本人が漏らすように、脚の筋肉が盛り上がり、昨年の不振が信じられない充実ぶりだった。

決勝の電電東京対ヨネックスは、シングルスに分のあるヨネックス有利と思われたが、栂野尾が苦手尾崎に当たる不運で、野望達成はならなかった。

尾崎は決勝戦というプレッシャーに耐え、分岐点になるシングルスに勝ち、久々に勝利の立役者となった。

電電東京の優勝は、弱点と思われていたシングルスに、ベテランが奮起し、互いの穴をカバーし合う"好循環"が生まれたことだろう。

ヨネックスは、十分優勝できる陣容を持ちながら、肝心の決勝で栂野尾が、相性の悪い尾崎と当って、団体優勝の難しさを実証した。

女子は、サントリーのまったくの独壇場であり、対抗馬と見られた河崎ラケットも、湯木・千葉組の予想外の敗戦に、興味半減の決勝戦となった。

湯木・千葉組は、2ゲームともゲームポイントを握りながら、谷・秋本の追撃につかまったのはいただけない。

最終シングルスの湯木の勝利は、ほぼ固かっただけに、このダブルスの一戦がすべてだった。

サントリーにしてみれば、最悪のオーダーだったが、谷・秋本の殊勲でこれを切り抜けたことは、勢いに乗ったチームの恐さというものをまざまざと見せつけた一番だった。

▽男子単準々決勝
辻 2（15－10、15－5）0 銭谷
栂野尾 2（11－15、15－4、15－3）1 日下
飯野 2（6－15、15－3、15－1）1 笠井
土田 2（3－15、15－9、15－11）1 今泉

▽同準決勝
辻 2（15－12、15－2）0 栂野尾
土田 2（15－1、15－6）0 飯野

▽同決勝
土田 2（15－2、15－10）0 辻
（土田は初優勝）

▽男子複準々決勝
栂野尾・飯野 2（15－6、18－13）0 米沢・米原
池田・尾崎 2（15－13、15－7）0 木村・遠藤
田所・土田 2（18－17、15－5）0 大場・辻
今泉・牧野 2（15－7、15－4）0 笠井・高橋

▽同準決勝
栂野尾・飯野 2（15－12、15－6）0 池田・尾崎
今泉・牧野 2（15－12、15－11）0 田所・土田

▽同決勝
栂野尾・飯野 2（16－17、15－6、15－9）1 今泉・牧野
（栂野尾・飯野組は4連勝4度目）

▽女子単準々決勝
徳田 2（11－2、11－1）0 東海林
米倉 2（11－5、11－4）0 秋本
近藤 2（11－5、11－7）0 高田
湯木 2（11－8、11－8）0 西尾

男子複　栂野尾・飯野組堂々の4連勝　今泉・牧野組の追撃及ばず
女子複　徳田・高田組自信の完勝　全英優勝の貫禄示す

男子単　土田苦闘の初栄冠　本命銭谷は辻に完敗
女子単　近藤が初陣を飾る　湯木・徳田に気力勝ち

▽準決勝
徳田2（11—3 11—3）0米倉
近藤2（11—6 12—10 10—12）1湯木

▽同決勝
近藤2（12—11 11—3 6—11）1徳田
（近藤は初優勝）

▽女子複準々決勝
徳田2（15—1 15—4 16—17）1今田
高田2　米倉
石原2（15—7 15—3）0沼能
田所　日向野

▽同準決勝
湯木2（15—5 15—1 3—15）1平井
千葉　山田
飯野2（17—14 15—8）0秋谷
植野　本

▽同決勝
徳田2（15—2 15—0）0石原
高田2　田所
湯木2（15—11 13—18 15—8）1飯野
千葉　植野

▽混合複準々決勝
日下2（15—2 15—0）0田児
牛田　福原
古明地2（15—2 15—11）0早川
亀田　賢
西野2（15—3 15—9）0鎌田
飯野　石田
宮崎2（15—5 15—7）0中野
西尾　本
（日下・牛田組は2連勝2度目）

▽同決勝
徳田2（15—1 15—7）0湯木
高田　千葉
（徳田・高田組は2連勝2度目）

▽同準決勝
日下2（15—8 15—5）0古明地
牛田　亀山
宮崎2（15—7 15—8）0西野
西尾　飯野
（日下・牛田組は2連勝2度目）

▽同決勝
日下2（15—5 17—15）0宮崎
牛田　西尾

▽30歳以上単準決勝
渡辺2（15—7 15—0）0山本
鈴木2（15—10 15—7）0馬場

▽同決勝
渡辺2（15—10 15—8）0鈴木
（渡辺は3連勝3度目）

▽30歳以上複準決勝
森谷2（15—12 15—11）0竹俣
星野　馬場
春武2（15—5 15—6）0藤原
宮原　上野

▽同決勝
森谷2（15—10 15—9）0春武
星野　宮原
（森谷・星野組は2連勝2度目）

▽40歳以上単準決勝
遠藤2（15—11 15—9）0伊藤
高橋2（15—2 15—11）0堺

▽同決勝
高橋2（15—9 15—6）0遠藤
（高橋は初優勝）

▽40歳以上複準決勝
岡崎2（15—13 15—17 18—13）0遠藤
飴谷　榎森
伊藤2（15—3 14—17）0溝渕
鬼頭　武林

▽同決勝
岡崎2（15—8 15—5）0伊藤
飴谷　鬼頭
（岡崎・飴谷組は2連勝2度目）

個人戦一番のハイライトは、男子シングルス準々決勝、全日本チャンピオンを破った辻の活躍に尽きる。

辻は長身を利した、高い打点からの逆クロススマッシュ、逆クロスカットに威力を発揮、反撃に出ようとする銭谷の芽をことごとく摘み取るようにノータッチとなるエースを放ち、精神的な焦りを誘って完勝した。

銭谷は、攻勢に出ようとするネット前からの“おっつけ”を、辻の長いリーチでストップされ、時にはダブルス的なバックスマッシュ気味のリターンに面食らい、なす術がなかった。

辻が「銭谷さんのスマッシュはコースがわかるから恐くなかった」というように、余裕も十分だったのだろう。

それにしても、優勝はしたものの団体戦で敗れた土田といい、個人戦の銭谷といい、トマス杯の主力メンバーがこんな状態では心もとない。

一時のような、爆発的なスマッシュが影をひそめたこの頃、かつての秋山、小島のような正確無比なクリアー、カットを、いち早く身につけなければ、世界の上位進出は、ただの絵空事に終わってしまうだろう。

優勝した土田も、決勝へ進むまでに、鈴木裕（三条機械）、今泉に第1ゲームを先行され、苦戦の連続だった。

しかし、不調ながらも何とか勝つという、シードの真骨頂を見せはしたものの、あまりにポカが多いというのも考えものである。

急成長の辻、復調今泉が今年の活躍を約束するはずだったのに比べ、ベスト8連続谷口（トヨタ自工）が不振が起って練習不足だった」ため精彩がなかった。腰を完治させてもらいたい。

男子ダブルスの柯・飯野組の4連勝は、段違いの破壊力からして順当か。

今泉・牧野組も驚異的な粘りを発揮したが、結局は一の差がモノをいった格好。

女子シングルスは、全力を欠く湯木をファイナルムの末破った近藤が、疲労の濃い徳田を劇的に降して初優勝に輝いた。

第1ゲームを先取した土田は、第2ゲームに入ると、相手の執拗なバック側へのクリー、反撃に手を焼き、スタミナを札させてアッサリと奪てる作戦。

ファイナルゲームに突入した徳田だったが、不得手の、の奥をつかれ、存分に力を、す、近藤の気力溢れるゲー、に押し切られてしまった。

近藤の勝因は、何とも徳田の弱点をついたプレント。

肩や脚の故障から、ー、低迷していた近藤に、ポイントごとに声が出ていたのは、「まだ本当に治っていない」というが、明かるい兆しか。

注目を集めたのが東海林（とうかいりん）文子選手。

サントリーにあって地味な存在だったにもかかわらず、着実に力をつけ、ユ杯メンバーの植野を破ったことは特筆に値いする。

女子には数少ないサウスポーという利点を生かせば、シングルスプレーヤーとして特異な存在になるだろう。

女子ダブルスは、全英チャンピオンの実績通り、徳田・高田組の独り舞台。

守備主体だったプレーが、高田のスマッシュ力の進歩により、幅広く攻撃できる“攻め”の型が随所に見られた。

唯一の接戦となった今田・米倉戦も第1ゲームまで。相手の球筋に慣れると一方的な強さを見せた。

決勝のスコアでもわかるように、当分の間、この2人の天下は続きそうである。

混合ダブルスも、日下・牛田組の完勝だった。

牛田が前衛、日下が後衛というパターンを持っており、なかなか生半可なローテーションでは崩すのは困難だろう。

日下は、シングルスでも遠藤を破り、ベスト8入りを果たし目下絶好調の気配だった。

混合複　日下・牛田組磐石の守り　安定感十分の2連勝

▲本記事はバドミントン界No,105〈1978年7月号〉より

▼本記事はバドミントン界No.118、1979年8月号より

男子団体ヨネックス9年ぶり2度目の優勝
最後まで主力を温存させた大場・後藤の活躍が勝因の第1。

第29回全日本実業団バドミントン選手権大会は、6月22日から27日まで、岡山市、倉敷市で開催されました。

例年のことながら、連日30度を超す酷暑の中、各選手は団体戦に個人戦に熱戦を繰り広げました。

団体戦は、男子はヨネックスが9年ぶり2度目、女子はサントリーが4年連続優勝を飾り、男子シングルスは銭谷が2年ぶり4度目、ダブルスは池田・尾崎組が初のタイトル、女子シングルスは湯木が3年ぶり7度目、ダブルスは徳田・高田組が3連勝に輝きました。

年齢別では、30歳以上シングルスに渡辺が4連勝、同ダブルスは渡辺・金子組が初優勝、40歳以上シングルスは高橋が2年連続、同ダブルスは川岡・河野組が初優勝を飾りました。

▼男子団体5回戦

電電東京（東京） 3－0 川崎製鉄水島（岡山）
関東自工（神奈川） 3－0 松下電機（大阪）
電電北海道（北海道） 3－0 日本自動変速機（静岡）
カワサキ（東京） 3－0 住友金属（和歌山）
高岡市役所（富山） 3－0 横浜市役所（神奈川）
電電近畿（大阪） 3－0 スワロー化研（大阪）
トヨタ自工（愛知） 3－0 三菱電機長崎（長崎）
ヨネックス（東京） 3－0 三井造船玉野（岡山）

▼同準々決勝

電電東京 3－0 関東自工
カワサキ 3－0 電電北海道
高岡市役所 3－0 電電近畿
ヨネックス 3－0 トヨタ自工

▼同準決勝

電電東京 3－0 カワサキ
田所・土田 2（15－10、15－9）0 今井・斉藤
池田・尾崎 2（15－6、15－6）0 銭谷・角田
田所 2（15－12、15－1）0 斉藤

ヨネックス 3－0 高岡市役所
辻・長谷川 2（17－16、15－5）0 今泉・米沢
栂野尾・飯野 2（15－3、15－12）0 関村・牧野
長谷川 2（15－2、15－13）0 米沢

▼同決勝

ヨネックス 3－2 電電東京
栂野尾・飯野 1（15－11、10－15、14－17）2 池田・尾崎
辻・長谷川 2（15－7、7－15、15－11）1 田所・土田
飯野 2（15－8、15－13）0 尾崎
辻 0（3－15、1－15）2 土田
長谷川 2（15－10、15－4）0 田所
（ヨネックスは9年ぶり2度目）

ヨネックスが、新鋭長谷川の加入でぐっと戦力アップした上に、大場、後藤の見事な援護射撃により、持ち駒の豊富さを充分に生かして、実に9年ぶり、2度目の優勝を果たした。

決勝は、どうしてもダブルスで2勝を挙げたい電電東京が、まず池田・尾崎組の奮闘で、栂野尾・飯野組に競り勝ち、幸先の良いスタートを切った。

しかし、新コンビの辻・長谷川組は、ファイナルゲーム、7－10の劣勢を逆転、田所・土田組から1時間にわたる熱戦をもぎとり、問題の雌雄を決す一戦、飯野対尾崎の第1シングルスを迎えた。

飯野は、コンディションの調整に失敗したのか、この日はダブルスからあの強力なスマッシュが見られず苦戦を強いられていたが、尾崎との第2ゲームでその原因と思われるフクラハギのけいれんに見舞われた。

第1ゲームを先取したものの、第2ゲーム9オールあたりから、飯野はしきりに屈伸運動を繰り返し悲愴な表情。

ラリーが続くことを恐れる飯野は、スマッシュとネットプレーに冴えを見せ、13－11とリードをするが、尾崎も飯野の捨て身のスマッシュを拾って、13オールに持ち込んだ。

このゲームを落とせば、飯野の敗北は衆目の一致するところ、ムードは尾崎に傾きかけた。

しかし、飯野はセッティングを拒み短期決戦の構え。

ピッコをひきながらも、スマッシュとヘアピンに頼った攻撃に徹し、うまく尾崎のミスを誘って、まさに満身創痍（そうい）の勝利であった。

第2シングルスの、土田の楽勝を見れば、電電東京にとっては痛恨の一敗。

単純にゲームを観戦すれば、なぜもっとラリーを続け、四隅を突かなかったのか、尾崎の戦法に疑問は多い。

しかし、尾崎の心中を察するなら、一概な判定を下してしまうのは、また酷なことかも知れない。

今にも倒れる寸前の相手に対して、尾崎は真っ向からの勝負を挑みたかったのではないか、正面から正々堂々と戦って勝利を握りたかったのではないか、そして降りかかる団体戦優勝のプレッシャー。

飯野が開き直った歯切れを見せたのと対照的に、尾崎には幾重にも重なる心理的な葛藤（かっとう）があったのではないか……。

一番過酷といわれる実業団ならでは、体力の限界に近づけば近づくほど現われる、プレーヤーの心理劇を見せてくれた。

この試合の、飯野の体力が限界だったとするなら、やはり陰の立役者として、大場・後藤組の活躍を忘れてはならない。

準々決勝までの3試合に全勝し、チームの負担を軽くしたことが最後の飯野の頑張りを引き出したのである。

女子団体はサントリーの4回連続優勝
4回連続優勝は琴電の記録に並ぶ偉業だが、
興味は記録の更新か？
対抗馬の台頭か？

▼女子団体準々決勝

サントリー 3－0 百十四銀行
ヨネックス 3－0 旭光学益子
電電東京 3－1 琴平電鉄
カワサキ 3－0 関東自工

▼同準決勝

サントリー 3－0 ヨネックス
徳田・高田 2（15－6、15－0）0 飯野・土田
谷・秋本 2（15－6、15－7）0 関根・大塚
東海林 2（11－9、11－2）0 大塚

カワサキ 3－1 電電東京
湯木・千葉 2（15－8、13－15、15－4）1 米倉・三田
近藤・渡辺 2（15－1、15－2）0 坂林・桜井
千葉 1（11－7、2－11、打切り）1 米倉
近藤 2（11－1、11－4）0 三田

▼同決勝

サントリー 3－1 カワサキ
徳田・高田 2（15－6、18－16）0 湯木・千葉
谷・秋本 2（10－15、15－11、15－9）1 近藤・渡辺
東海林 0（8－11、6－11）2 湯木
徳田 2（11－2、11－1）0 近藤
（サントリーは4連勝4度目）

創部以来、負け知らずの快進撃を続けるサントリーに、"待った"をかけるのはどのチームか、興味はその一点に絞られていた。

が、勢いに乗るサントリーは、初戦からまったく危なげなくストレートで勝ち進み、3年連続チャンピオンの貫禄を示して決勝進出を決めた。

一方、カワサキは地元出身の湯木、近藤を軸に、これも余力を残して決勝へ駒を進めた。

3年連続の対戦となった決勝だったが、戦前の予想に反して近藤が思わぬ不振。

不動のオーダーのサントリーに対し、カワサキはシングルスで逆転の望みを託し、徳田に近藤を配したが、これが近藤のスランプにより、あっけない幕切れとなった。

サントリーの勝因は、徳田、高田の活躍もさることながら、ダブルスの谷・秋本組の充実、シングルスの東海林の成長が特筆される。

谷・秋本組は、従来の粘り強さとともに、ここ一本のコンセントレーションが素晴らしく、気力あふれんばかりの試合ぶりだった。

東海林も、力強さ、試合の駆け引きでたくましさを増し、今や完全にサントリーで徳田に次ぐ2番手として、貴重なシングルスプレーヤーとなった。

女子は、第8シードまでが順当に準々決勝へ勝ち進んだが、不運だったのは百十四銀行。

ファイター・牛田が、東海林から第1ゲームを奪い、一矢を報いるかと思われたが、突然の肉離れのため棄権を余儀なくされたのは、不運としかいいようがない。

個人戦でも、波乱の目となる要素が十分だっただけに残念。

ベテラン健在を示したのが東条文子（旧性横井）。

琴平電鉄を率いて2勝を挙げ、かつてのチャンピオンの片鱗を見せてくれた。

新鋭では、三田（電電東京、藤園女学園出身）のはつらつとした動きが印象的、米倉と組んだダブルスは、今後大いに楽しみである。

男子単優勝銭谷欽治2年ぶり4度目
昨年の敗戦を糧に成長した銭谷。
脂の乗りきった土田。

▼男子シングルス準々決勝
土　田2（15―6 15―11）0日　下
椚野尾2（17―14 15―6）0今　泉
銭　谷2（15―0 15―4）0飯　野
辻　2（15―5 15―13）0米

▼同準決勝
土　田2（11―15 15―4 15―7）1椚野尾
銭　谷2（15―6 15―2）0辻

▼同決勝
銭　谷2（17―18 15―3 15―1）1土　田
（銭谷は2年ぶり4度目）

男子シングルスは、全般にベテラン勢が活躍、ベスト8入りで日下（百十四銀行）が長谷川（ヨネックス）を、今泉（高岡市役所）が尾崎（電電東京）を、降して勝ち上がった。

日下対長谷川は、長谷川が一発の力に頼って単調な攻撃になるのに対し、日下は丁寧によく拾ってから逆襲、特に左右からのクロススマッシュが、長谷川の逆モーションとなった。

長谷川も、ファイナルゲームの3―13からよく挽回したが、時すでに遅く社会人のスタートをベスト16で終ってしまった。

今泉対尾崎は、例によって今泉が得意のカット戦法としぶとい粘りを見せ、スチールラケットに替えて威力を増した尾崎のスマッシュを封じたかっこう、柔よく剛を制した一番だった。

そして、ベテランの中で最も光ったのは、今年32歳になる椚野尾。

初戦から、宮崎（サントリー）の食い下がりに会い苦しいスタートを切ったが、谷口（トヨタ自工）戦、今泉戦と尻上がりに調子を取り戻し、団体、個人戦ダブルスの汚名をそそいだ。

準決勝の土田戦では、第1ゲーム見事なフォアからのストレートスマッシュ、確実なクリアーで先取し、あわやと思わせた。

この日の、椚野尾の体力、意気込みから、ファイナルゲームも予断を許さなかったが、「ラブ・オール」のコール直後、土田のサービスをストレートスマッシュで決めたと思ったのを、「アウト」と判定されガックリ。

このあたりから、椚野尾のスマッシュがめっきり少なくなり、同時に集中力を欠いてきたようだった。

「自信があるんだ」と、口の中でつぶやきながらプレーを続行したものの、これが微妙な影響を与えたのかも知れない。

昨年の覇者・土田は、椚野尾戦こそファイナルゲームに持ち込まれたものの、団体戦から通じて安定した力を発揮して決勝へ進出した。

一方、昨年唯一の敗戦をこの実業団で記録した銭谷は、慎重の上にも慎重を期した戦いぶり。

準々決勝の飯野戦、準決勝の辻戦を、完璧な試合運びで一蹴して、これまた勇躍決勝へ勝ち上がった。

第1ゲームは、互いに強烈なスマッシュを打ち合って、一進一退の攻防が激しく続いたが、攻撃一本に徹した土田が僅かにまさって先取。

しかし、ダブルス2試合を消化した土田は、第1ゲームでスタミナを使い切って、第2ゲームからは、なす術なく、「第1ゲームは打ち過ぎて失敗したので、第2ゲームは相手を回していく作戦に切り替えた」（銭谷選手談）という術中にはまって力尽きた。

銭谷は、好調さに溺れることなく試合の流れを的確に読み取り、第1ゲームこそ落としたがまずは会心か。

これからも、心技体ともに脂の乗ってきた両者の、雌雄を決する戦いが日毎に熟化しそうである。

女子単は湯木博恵3年ぶり7度目の優勝
湯木の充実ぶり、米倉の進境だけがやけに目立った。

▼女子シングルス準々決勝
近　藤2（5―11 11―4 11―3）1谷
米　倉2（11―4 11―4 11―3）0千　葉
湯　木2（7―11 11―4 11―3）1東海林
徳　田2（11―1 11―1）0秋　本

▼同準決勝
米　倉2（11―5 11―8）0近　藤
湯　木2（11―3 11―4）0徳　田

▼同決勝
湯　木2（5―11 11―5 11―3）1米　倉
（湯木は3年ぶり7度目）

うだるような連日の暑さで、次第に動作が緩慢になっていく選手、目に見えて集中力を失っていく選手、その中で積極的にコートへ出て調整に励んでいた2人が、決勝へ進出した湯木、米倉の両選手であった。

湯木は、個人戦のエントリーをシングルス一本に絞った余裕からか、米倉は、伸び盛りの意欲からか、とにかく2人からはシングルスを制する覇気が流れていた。

試合は、まず若い米倉がリード。

速いクリアーと力強いスマッシュを組み合わせ、スピードで押しまくり、第1ゲームを先取。

しかし、「うちの子はスロースターターだから、きっと勝ってくれるだろうと思って、安心して見ていました」（湯木選手のお母さん談）の言葉どおり、落ち着いた湯木は、前後左右へ丹念にゆさぶりをかけて、若い米倉のアセリを誘い出し、第2ゲーム0―4から一気に逆転。

湯木の丁寧な配球は、ミスを誘発させると同時に、米倉のスタミナを吸い取るように、追いつめていく。

ファイナルゲームの湯木は、完全に全盛時のもの。

スタミナを奪い取った後から、ゆっくりと得点して、偉大な記録へまた新しい1ページを加えた。

敗れたとはいえ、米倉も持ち味のスピード攻撃を駆使して善戦、徳田、近藤が低迷している"ポスト湯木"の担い手となるだろう。

「肩の荷を降ろしてあげて、バドミントンを楽しませてやりたい」（湯木選手のお母さん談）だろうが、現状ではまだまだそれを許さないようである。

また、ここでもサントリーは、ベスト16の7人、ベスト8の4人を占め、層の厚さは年々増していく一方である。

僅かに8シードを破ったのは、千葉1人。

小さな山から勝ち抜いて、4試合目に高田と対戦し、ファイナルの長い試合の末、8入りを果たした。

体力、気力ともにまだまだ充分にやれそうである。

男子複　池田信孝・尾崎幹雄組が初優勝

▼男子ダブルス準々決勝
木村 遠藤 2 (15—15 15—13 5) 0 山本 坂本
田所 辻 2 (15—10 15—9) 0 今泉 牧野
池田 尾崎 2 (15—5 15—9) 0 銭谷 角田
田所 土田 2 (15—10 15—8 10—15) 1 大場 後藤

▼同準決勝
田所 土田 2 (15—6 15—9) 0 木村 遠藤
池田 尾崎 2 (18—13 15—7) 0 辻 長谷川

▼同決勝
池田 尾崎 2 (15—10 10—15 17—14) 1 田所 土田

（池田・尾崎組は初優勝）

戦前から優勝候補の筆頭に挙げられ、大会5連覇を目指していた梅野尾・飯野（ヨネックス）組が、早くも4回戦で山本・坂本（トヨタ自工）組に敗れ、番狂わせとなった。

前日の団体戦で消耗し切った飯野にまったく精彩なく、山本・坂本組の殊勲もあるが、コンディション調整に失敗した梅野尾組といえよう。

山本・坂本組は、巧者山本と若い坂本が積極的に攻撃を仕掛け、果敢に打ちまくって梅野尾組に反撃の糸口を与えなかった。

相手のコンディションが不充分だったとはいえ、勝ちは勝ち、この実績が自信につながれば、今後の活躍も夢ではないだろう。

この山本組を破って、ベスト4へ進出したのが木村・遠藤組。安定したレシーブ力を基盤に、冷静な試合運びはさすがベテランの域か。

欲をいえば、遠藤のスマッシュ力に往年の切れ味が戻れば一層の期待が持てるはず。

梅野尾組が姿を消したことで、一躍クローズアップされたのが辻・長谷川（ヨネックス）組のトマス・カップ若手コンビ。

両者とも、長身からの爆発的なスマッシュ力が売り物なだけに、団体戦でも田所・土田（ヨネックス）組を陰した実績から、個人戦でも優勝争いに加わることは必至と思われた。

予想通り、順調に勝ち進んだ辻組は、準々決勝で昨年準優勝の北陸の雄、今泉・牧野（高岡市役所）組を「練習不足だった」（今泉談）とはいえ、ストレートに破って実力の片鱗を見せた。

勢いに乗る若手コンビは、準決勝でこの大会初優勝に意地を見せる電電東京の古豪、池田・尾崎組と激突した。

しかし、辻・長谷川組は緊張のためやや硬さがみえ、スマッシュのバックアウトが多く自滅、第2ゲームはリードを保って先に13点を取ってファイナルゲームにもつれこむかと思われたが、大事な場面でジャッジミスなど凡ミスを重ねて、惜しくも決勝進出はならなかった。

池田・尾崎組は、例によって池田の巧リードと、スチールラケットに替えた尾崎のスマッシュがよく噛み合い、特に決勝戦では尾崎が抜群の当たりを見せ、念願の初優勝を飾った。

惜しくも優勝はならなかったが、田所・土田組もこれに優るとも劣らぬ好調さで大激戦を演じた。

女子複　徳田敦子・高田幹子組が3連勝

▼女子ダブルス準々決勝
徳田 高田 2 (15—18 15—10 15) 0 米倉 三田
関根 大塚 2 (15—3 15—2) 0 東海林 原口
平井 山田 2 (8—15 15—8 15—12) 1 近藤 渡辺
谷 秋本 2 (15—2 15—10) 0 日向野 山田

▼同準決勝
徳田 高田 2 (15—10 15—14) 0 関根 大塚
谷 秋本 2 (15—10 15—11) 0 平井 山田

▼同決勝
徳田 高田 2 (15—5 15—4) 0 谷 秋本

（徳田・高田組は3連勝3度目）

準々決勝に進出した8組のペアのうち、米倉・三田（電電東京）、東海林・原口（サントリー）、関根・大塚（ヨネックス）のフレッシュ・ペアが注目を集めた。

三田は米倉と同じ藤園女子出身、原口は四条畷出身で二年生のときのインターハイ・チャンピオン。そして関根・大塚はいうまでもなく日体大卒の名コンビ＝インカレ・チャンピオン。

米倉のスピード感あふれる攻撃型プレーに劣らぬ積極的なバドミントンを展開した三田だったが、準々決勝の徳田・高田の壁は厚かった。

第1ゲームこそ13オールのセッティングにもつれたが、第2ゲームは10本どまりのストレート負けだった。

そして、フレッシュコンビ同士の対決となった関根・大塚×東海林・原口の一戦は、関根・大塚がインカレ・チャンピオンの実力を見せつけた。やはり原口は、高校時代からのダブルスにおけるキャリア不足が否めなかった。

平井・山田が近藤・渡辺をファイナルゲームの末、破った一戦は見ごたえがあった。この試合、近藤・渡辺は出足よく15—8で第1ゲームを先取。このままストレート勝ちかと思われたが、第2ゲームに入るや、平井組は近藤組の攻撃を徹底的に拾いまくった。それが近藤・渡辺のあせりを誘い、15—8でファイナルへと勝負はもち込まれた。

そのファイナルゲームでも、平井・山田の調子は衰えず、15—12で突き離した。

準決勝に進出したサントリー勢は、団体戦の勢いをそのまま発揮し、そろって決勝へ勝ちあがった。

関根・大塚は徳田・高田の牙城にせまったが、団体戦からの連戦で疲労の色濃く、惜しくも決勝進出はならなかった。

手の内を知りつくした同士の対戦のためか、決勝ではまったく盛上りが見られず、低調な内容であった。

谷・秋本にもう一つ気迫を持って徳田・高田に立ち向う姿勢がほしかった。特に谷・秋本は準決勝までの各試合が、すばらしい内容であっただけに……。

今年の奮起に期待したい。

（原以外にこれといった強敵とよべる―していなかったとはいえ、徳田・高田の三連勝は立派の一語に尽きる。

30歳単　渡辺直人4連勝　同複　渡辺直人・金子英司組初優勝
40歳単　高橋幸次郎2連勝　同複　川岡智・河野耕司組初優勝

▼30歳以上シングルス準決勝
渡辺 2 (15—7 15—3) 0 芳上
鈴木 2 (15—1 15—0) 0 山本

▼同決勝
渡辺 2 (15—11 15—1) 0 鈴木

（渡辺は4連勝4度目）

▼30歳以上ダブルス準決勝
渡辺 金子 2 (15—3 15—2) 0 京屋 佐藤
芳上 藤原 2 (15—4 15—6) 0 大原 竹俣

▼同決勝
渡辺 金子 2 (12—15 15—6 15—5) 1 芳上 藤原

（渡辺・金子組は初優勝）

▼40歳以上シングルス準決勝
高橋 2 (15—3 15—2) 0 木山
遠藤 2 (15—5 15—5) 0 岡崎

▼同決勝
高橋 2 (15—2 7—15 15—4) 1 遠藤

（高橋は2年連続2度目）

▼40歳以上ダブルス準決勝
川岡 河野 2 (10—15 15—12 15—10) 1 岡崎 飴谷
遠藤 榎森 2 (15—18 15—7 17—14) 1 伊藤 鬼頭

▼同決勝
川岡 河野 2 (15—10 15—11) 0 遠藤 榎森

（川岡・河野組は初優勝）

市民体育館の峻工記念大会

新居浜市バドミントン協会
副会長　瀧山一甫

招　致

当新居浜地区では、従来よりバドミントン競技が、住友化学を中心に企業と新居浜高等工業専門学校で、非常に盛んでありました。競技人口は、僅か人口13万の街ですのに500人を超えていました。(現在はその3倍以上）しかし、中学・高校が殆どやっていないのでそのレベルは低く、高年齢層のみが全国大会で通用する有様でした。丁度53年に我々待望の市民体育館が峻工しましたが、最初の設計ではバドミントンコートは10面の予定でした。しかし、当協会会長片上進(高専教授)の強い要請で12コートに変更されました。メインの体育館が出来たので、全国大会を誘致したいということになり、全種目の中から全日本実業団バドミントン大会に白羽の矢が立ち、愛媛県実業団連盟の浜中理事長（当時）を通じて本部に働きかけました。

決　定

当時本部では第30回の記念事業に何か催しをという事だった様ですが何分田舎の事とてそれは出来かねると申し上げ了承してもらいました。要項を作るに当たって市並びに教育委員会が共催でないと体育館や他の市の施設を無料にする訳にはいかないし、その他の援助も充分な事が出来ないといわれ、無理をお願いして共催にしてもらいました。

準　備

一年前に準備委員会を発足させ組織作り工程表のマニュアルを作成しました。これは大会終了後人変貴重がられあちこちからわけてほしいといわれました。まず高度な競技を学びたく当時の最強チーム、サントリーさんを招き審判、線審等の訓練を行いました。お金の方もまだ各企業にゆとりがある頃でしたので、何とか集められました。協会員へは、お金を出すか、時間を出すか、知恵を出すか三っつの内一つを出し合って成功させようといったのがうまく作動し気持ちのよい大会になりました。

大　会

この大会が団体と個人を合わせ行った最後の大会ではなかったかと思いますが、市民体育館をメインに、住友化学、住友重機、新居浜高専の四会場に分かれました。各会場とも家庭婦人連盟の皆様の献身的協力でスムーズに運営され、又ご婦人達の心からのホスピタリティで、選手の皆様と心の通う大会が実行できたと少々自惚れております。大会終了後家庭婦人連盟に実業団連盟本部より感謝状と楯を贈られたのにはびっくりし、それを機会に新居浜オープン家庭婦人大会が生まれ、本年で15回となり益々盛んになっております。



歓迎レセプション新居浜市チョウサおどり

後　記

当時としては全日本総合選手権に次いでレベルの高い大会でしたから、その素晴らしいプレーに目を見張り、バドミントン競技の面白さとチーム同志の勝負にかける意気に大きなインパクトを与えられました。これをきっかけとして、ユーバーチームの合宿や、日中大会、日韓大会と国際大会も開催する事が出来る様になりました。今後もいろいろな大会を催す事になろうかと思いますが、全日実大会を行った賜もので、改めて感謝致しますと共に、いつ迄もよい雰囲気である全日実大会であります様願っております。尚この大会で全国の多勢の実業団連盟の皆様とお知り合いになれましたのも大きな成果の一つです。

ユ杯大会が割込み急拠会期延長

愛知県実業団バドミントン連盟
副会長　油井秀男

第31回全日本実業団名古屋大会は主会場を愛知県体育館として名古屋市体育館、知多市体育館、一宮市産業体育館の４会場で開催された。

本大会を以て団体戦、個人戦の試合を最後とし第32回東京大会より団体戦のみ試合となるため個人戦に多くの参加者となりました。

しかし本大会開催迄に難かしい問題を抱えておりながら連盟役員が一生懸命に取り組んだ姿が思い出されます。

開催決定まで

本大会は52年頃より名古屋市おいて開催の意向打診があったが県実業団連盟が未組織であり辞退していた。

しかし愛知県下事業所の登録数が日本実業団連盟の中でも上位にありながら県内組織がなく実業団チームより連盟設立が盛り上がり昭和54年７月に発足しました。

連盟発足当時は組織運営と財政面の強化に力点を置きました。併せて第31回全日本名古屋大会に向けて検討に入りました。

大会計画書作成にあたって当時名古屋市に於いてオリンピック開催の話があり事前デモンストレーション大会があれば県体育館の優先利用等を考慮しながら作成しました。その為市内にとどめず市外にも会場を確保しました。

特に日程、各会場間の距離、宿泊、交通の便を詳細に詰め日本実業団連盟に提出し承認をえてスタートしておりましたが軌道にのったやさき大変な難題が出ました。

第９回世界女子バドミントン選手権（ユーバ杯）が東京、名古屋で開催される事になった。日程は昭和56年５月26日～27日と計画が発表されました。

我々の第31回全日本実業団名古屋大会の事前準備段階期間と重複する、県内主催の主力は実業団連盟所属役員が多く占めており、ユーバ杯の大会成功に向けて日程を７月開催を考えたが、大相撲名古屋場所もあり９月に変更を余儀なくされました。

その時何故第９回世界女子バドミントン選手権（ユーバ杯）がいつ決定したのか、いろいろ事情があるにせよ、無計画の日本協会に怒りを発しました。

組織人として、決定されれば社会人の一員として良識の我々実業団連盟は、ユーバ杯名古屋大会にむけて取り組みました。この大会を成功させた一員でもあると自負しています。

ユーバ杯の大会終了後直ちに頭を切り換えて全日実大会に向けて始動した。トヨタ自動車の好意で社員研修室に役員全員が集まり各分野毎に取り組んだ当時の姿が思い出されます。

運営について

大会は団体戦のタイムテーブルが２時間で試合の消化が無理で大幅に遅延しました。

愛知県体育館においての、女子団体戦決勝において18時から翌日の弓道大会の準備が予定されており、これの開始時間を延ばしてくれるようお願いしたが聞き入れられず、弓道連盟役員といざこざがあり、特に女子決勝はヨネックス対三洋電機の試合は猛烈な試合となり体育館の閉館間際迄でした。

当時我々役員として本当に申し訳なく前代未聞の大会となりトンカチ、ノコギリ音の中で試合をさせて役員一同涙を流した。これも言い訳になるが６月開催が９月の変更後のつめの甘さを反省しました。

本大会開催の中で色々と問題点が提起されましたが、その解決の意力が以後の連盟、運営に生かされていると確信しています。





一味違った大会に変革

東京都実業団バドミントン連盟
副会長　松浪鋭四郎

第32回全日本実業団東京大会は東京都立川市民体育館において６月16日から20日にかけて史上最大当時の参加規模を誇る186チームの参加のもと盛大に行われた。

従来の大会は同じ会場で団体戦の後、個人戦が行われていたが今回からは団体戦のみの大会となった。このため前年の日本実連総会で東京大会が決定されてから団体戦だけの第１回大会となるため「これが全日本実業団選手権大会のモデルだ」という大会にするため企画段階で検討することが多く実施までに非常に時間がかかった。

従来の大会とは一味違った大会とするために、

①会場の一本化（複数の会場は避ける）
②組合せのオープン化
③ふれあい広場の設営
④１回戦からの得点表示
⑤１回戦からのコートマットの使用
⑥洗濯機・乾燥機の設置サービス
⑦プログラムへ参加全チームの紹介ページを作る
⑧開会式のイベント化
⑨選手輸送用専用バスの運行
⑩テレビ放映等

以上のような企画を検討し、大会経費を概算すると参加費が１チーム10万円ぐらいになり（従来は団体の部３万円、個人の部１種目3,500円であった）日本実連の名古屋理事会に提案したが、各理事からは個人戦の参加費がなくなり財政的に苦しいのは解るがいくらなんでも高すぎるとして東京以外の理事全員の反対となり６万円に抑えられた。さらに日本協会と日本実連の話し合いによりバドミントンでそんな高額な参加費は許可出来ないということでさらに引き下げられて５万円となるなど経費面で非常に苦しい出発となった。主管の東京都実連としては、今さら大会を返上することは出来ないし、なんとか全部の企画を実現するため広告、賛助金集めに当時の東京実連上島会長を初め、宮永理事長以下全員で走り回ったが、残念ながら全ての企画を実現出来るだけの資金を集めることが出来ず何項目かの企画を削ることとなったのは返す返すも残念であった。

この大会のために新宿に事務所を借り（この事務所が日本実連と日本リーグの事務所として現在も機能しているのは喜ばしい限りである）具体的な準備に入った。幸い立川市の好意により16面の体育館が全期間中借りることが出来るようになったが、体育館の観客席が少ないのと体育館内および周辺部に食堂・喫茶がないため苦肉の策として大きなテントを作り、その中で軽食を出せないかということから「ふれあい広場」ができ上がった。中では軽食・喫茶だけでなく大会グッズの販売、業者売店、選手同士、および選手とファンとのコミュニケーションの場となり事務局もびっくりするほどの好評であった。しかし、夜間に浮浪者に入り込まれ、嫌な匂いのする置き土産を残されるなど夜間の管理が大変だった。組合せは従来日本実連の常務理事会が作成したものを日本バドミントン協会競技委員会の承認を得るという形で行われていたが、年々の参加数の増大で、日本実連の常務理事会の組合せは、徹夜作業が慣例となっており、毎回その改善が問題となっていた。

そこで、シードチーム以外のチームの組合せをオープンにして公開抽選で出来ないかということで実施に向けて日本実連の理事会の承認は取ったが、現実にやるとなるとどうすればいいのか、担当者は相当頭を悩ませた。全国高校野球の公開抽選会を参考に全国を数ブロックに分け、同じブロックは１回戦では対戦しないようにするなどいろいろ考えた。当日は会場に大きなチーム名を掲げる板を準備し、代表者の抽選により枠が決まったチームから順番にチーム名札をかけるようにしたところ、チーム枠が決まる度に「ウォー」ということなどよめきが起こり全部の組合せが決まるまで長時間かかったが公開抽選会は非常に盛り上がった。しかしプログラム作成者は大変で組合せの欄が空白のプログラムを配付し、抽選会が終了すると同時に組合せを印刷し、各チームに配るというような離れ業を演じることとなった。この方法が現在もバドのあらゆる大会に採用されていることは当時の関係者として感無量である。

高額の参加費を取るのだからプログラムに会社ＰＲでもなんでも参加全チームのチーム紹介記事を載せてはどうかということで事前に用紙を全参加チームに配布して紹介記事の原稿を依頼したが、今までになかった企画のため原稿の集まりが悪く印刷業者、担当者泣かせとなった。しかしこの企画が現在も続いていることは喜ばしいことである。

試合では、男子電電東京がヨネックスにダブルスを２つ取りながらシングルスで２つを取られ、最後のシングルスまでもつれこむ苦戦を強いられたが２連勝を

5．大会の概観　　第32回（昭和57年度）東京大会

果たして７回目の優勝を飾った。

女子では、ユ杯メンバーの河本(旧姓近藤)、高田を入れ少数精鋭で臨むノーシードの松本組（岡山）が抽選でどこのブロックに入るのか、シードチームからは戦々恐々注目されていたが三洋電機のブロックに入り、優勝候補の一角に入っていた三洋電機を打ち破りベスト８に進出する一波乱もあったが、順調にサントリーが２年ぶり６度目の栄冠に輝いた。

最後に従来の団体戦と、個人戦を同じ日程で行ってきたのを団体戦のみに絞る最初の大会として開催され、関係者一同企画段階で非常に苦労した。しかし、この東京大会のいろんな企画がその後の全日本実業団大会に取り入れられているのをみて、以降の全日本実業団大会の発展に少しは寄与したのではないかと関係者一同自負しているところである。



◀選手広場外観

▼選手広場内観





▲ユニフォーム洗濯用として洗濯機を設置



▲同ドライヤー



▲おみやげ売場

写真はいずれもバドミントンマガジン提供

参加選手に感動を与えたい！

北海道実業団バドミントン連盟
副理事長　平山三城

大会の概要

第33回全日本実業団バドミントン選手権大会は、昭和58年６月22日（水）～26日（日）の５日間、札幌中島体育センター別館をメイーン会場として、札幌市北区体育館・札幌中央体育館の３会場での開催であった。

男子105チーム、女子57チームの計162チーム。約1200名の選手が参加しての熱戦が展開された。

試合結果は、男子が池田信孝監督が率いるＮＴＴ東京が、決戦で粘るヨネックスを３対１で下し、３年連続８度目の優勝。３位は高岡市役所、トヨタ自動車。５位は富士フイルム、札幌鉄道管理局、鶴岡市役所、カワサキラケットであった。

女子の優勝は、サントリーが陣内貴美子などの活躍で、河本小織（旧姓、近藤）の頑張りで決勝まで勝ち上がった、松本組岡山をストレートで退けて２年連続７回目の優勝。３位はノーシードから勝ち上がった日本楽器と北田スミ子のいる三洋電機の２チームが入った。５位はトヨタ自動車、カワサキラケット、日本電装、ヨネックスであった。

一方、地元の出場チームは、男子が札幌市交通局電車事業所、釧路市役所、札幌鉄道管理局、真駒内自衛隊、小樽市役所、山陽国策パルプ旭川、札幌市役所、電電北海道の８チーム。女子は地崎工業の１チームであった。最も活躍が期待されていた男子の電電北海道が、ベスト８入りで鶴岡市役所に敗れ、地元ファンをガッカリさせた[illegible]崎厚生の活躍で、昨年５位の大津市役所を４回戦で３対１で敗って、ベスト８入りして５位と健闘した。

なお、女子は唯一の出場となった地崎工業は、和田美津子などが頑張ったが、準優勝の松本組岡山に３回戦で破れベスト16どまりであった。

開催までに

札幌での開催は、８回大会以来25年振りの開催であった。当時の北海道実連理事長であった、伊勢氏が理事長に就任して10年目の大事業であった。当時の伊勢理事長は北見市での勤務と言うこともあり、北見からの遠隔操作と重要な会議などは、頻繁に札幌に足を運んでもらうと言うことで大変であった。

大会の開催は決まったが、まず、当面の運営資金の調達をどうするのか。取り敢えず銀行から当面の運転資金を借受けることとして、伊勢理事長と銀行に出向き頭を下げたが、最終的には土地を担保に、50万円を借りての不安なスタートとなった。銀行を出てから、たかが50万円を借りるのに、銀行でかなり待たされあげくの果てに、土地を担保に入れて50万円借りるなら、あまり頭を下げなくても良かった……つい、愚痴が出た。

事務局の設置等

札幌にまだ雪が残っている３月に大会事務局を、当時の道実連副会長であった宮永氏の好意により、同氏所有のビルの地下室に設置した。ビルの通用口に「第33回全日本実業団バドミントン選手権大会事務局」の看板を揚げさせてもらい、事務局員には、現在の道協会の顔である山口菊枝さんに強引にお願いし、アシスタントに堀川真由美さん。そして、事務局用として机を２個入れての本格的な事務局のスタートであった。

確かに、事務局は窓のない狭い場所であったが、札幌市の中心地（大通東３丁目）に事務局を構えれたことは、スタッフとして大きな喜びを感じたことを思い出す。準備は、山口さんの豊富な経験と山口さんのバドミントンサークルの皆さんの協力により、少ないスタッフであったが割りあいスムーズであったように思う。

大会準備

伊勢理事長が北見市勤務と言うことで、忙しい中かなりの回数、札幌に足を運んでもらった。（片道約５時間はかなりたいへんであったと改めて思う。）後は、電話でのやり取りが続いたが、進捗状況が見えず伊勢理事長もかなり気をもんだ時期が続いていたようである。伊勢理事長のトレードマークの笑顔が消えた時期がかなり続いた。

伊勢理事長の大会開催方針は、全日本実業団大会はただの試合であってはならない。全国の参加チームに取っては、年に一回のお祭りである！我々は演出家でなければならない！札幌大会に参加した選手や役員に感動を与えたい！初夏の北海道を楽しんでいただけるお手伝いをしたい！……勿論、大会運営が一番大切である。

そこで、試合の合間に選手や役員が交流できるようにしたいと言うことで、メイーン会場の札幌中島体育センター前に「ふれあい広場」を作る。開会式・閉会式は華やかな中にも北海道らしさを盛り込むと言う指示であった。（それに伴う資金集め等も必要となり大変な仕事が増えたと当時は感じた。）また、参加者の負担を軽くするために航空券の大幅割引の実施・宿泊するホテルの内容チェック（特に、食事のチェック）更に、

千歳空港やＪＲ主要駅への歓迎アーチ等の設置・札幌までのアクセスの案内所の設置等、上げればきりがない。当時の道連盟事務局長の中瀬氏と夜遅くまで準備に追われたことを思い出す。

思い出事項

◦「ふれあい広場」
- 開会式前にふれあい広場での開場式テープカット
- 大会期間中、北海道ではめずらしく長雨が続き、気温も低くリラ冷え。
- 事務局の製作による大会記念タイピン売れ行き不振。（液晶で評判良かったが？）

◦「開会式」
- 横路知事を始めとす錚々たるメンバーが出席しての開会式
- アトラクションは、登別市観光協会の熊舞
- ブラスバンドは、陸上自衛隊北部方面音楽隊
- プラカードは、札幌南高校・札幌静修高校・札幌大谷高校・札幌北星高校
- バトントワラーは、札幌静修高校バトントワラーチーム

◦「記念品」
- 木製のアイヌ民族の壁掛け

◦「その他」
- 大会に合わせて道連盟シンボルマークを作る。
- 大会用ポスターの評判が大変良かった。（電電北海道、遠藤選手の腕の写真を使用）
- 連盟のシンボルマーク入りの役員用トレーナーを作成。
- 開会式後、札幌パークホテルでの盛大なレセプション
- 大会期間中に大会本部となったホテルアカシで、泊り込んでの毎晩繰り広げられる懇親会
- 抽選会用ボードと各コートでの得点板を手作り（道教職連盟の笹森先生が製作）

終わりに

我々、道実連役員としては、25年ぶりの全国大会開催であり、この様な大きな大会の経験者が一人もいない中での開催で不安であったが、何としても全国に恥ずかしくない大会にしたい。少しでも参加者に喜んでいただきたいと言う気持ちでがむしゃらに突っ走った、アット言う間の大会期間であった。

伊勢理事長の強い指導力と全日本実連役員の皆様と北海道協会・道教職連盟・道家庭婦人連盟、そして地元の札幌協会の皆さんなど多くの方々に支えられての大成功な大会であったと思う。この大会の運営に携わった一人として、無事に大会を終えた喜びを、大会終了後もしばらく味わっていたことを懐かしく思い出す。



▲ふれあい広場テープカット

名誉挽回の主管大会

大阪府実業団バドミントン連盟
副会長　池田芳麻
（当時理事長）

主管引き受けの動機

過去二回の全日実大会を主管開催したものの、16回大会は「やっつけ仕事」に近い運営、27回大会では切角の意気込みにも拘わらず「ブロック主管構想」が時期尚早であったのか、或いは「何か基本的な欠陥」が内在していたのか判らないが、十二分な成果が得られず、はがゆい運営に終わっていたので、これらの反省を含め今一度すっきりとした大会主管をしてみたいとの考えがあったこと。

当時、私は大阪協会理事長をも兼ねていたところから、これまでのように「大阪実連単独」での主管でなく、協会総力の協力をも得られ易い立場にあり、役員動員には十分な余力を持ち対応が出来る状況下にあった。

加えて自分自身、電電公社（当時の名称）勤続30年を越えて居り、そろそろ退職を考える時期にあり、企業引退は即実業団離れである者の立場として、第34回大会主管は実業団最後の仕事として受け止める決意に燃えた。

幸い勤務内容も近畿電気通信局第一建築部調査役という窓際族で、比較的に時間の余裕と、仕事がらみもあり多くの知人、特に広告が頂けそうな人々もあり、大会財政に幾らかのお役にも立ち得る見通しもあったことなどである。



重点項目と達成状況

前の23回大会の経験から、松下電器体育館の借用による会場確保を早期に取り組み、松下電器バドミントンチームの強力な後押しと、27回大会使用の前例もあって今回はスムーズに借用許可が得られ、加えて大阪市立中央体育館、東淀川体育館の借用も早期に借用メドが立ち、万全を期すことが出来た。

過去２回の主管と異なり、「可能な限り財政の充実」をはかることとし、総数120社に及ぶ企業に広告依頼すると共に、選手広場のアーチ広告、会場内パネル広告、有料入場券の企業割り当て購入依頼等、多くの施策を実施、それなりの成果を得た。

一番頭を痛めたのが、「選手広場設営」にかかる会場予定地域の借用許可問題であった。この構想は第32回大会時から参加料大巾値上げの見返り的なものとして、以後毎年設営されて居たものであるが、会場内に物品販売の場が設けられるところから、公設体育館内での許可が得られず、苦心の策として会場周辺の広場に仮設テントによる設営を理解して頂き、漸く実現の運びとなったが、降雨対策が取れず「どうか降らないで…」と祈る気持ちであった。

宿舎、食事、交通輸送関係については、知人からキリスト教関係のエージェントである「Ｊ．Ｃ．Ａ．サービス」の紹介を得、これに一切を委任すると共に、同社内に「連絡事務所」を設置することが出来、関係方面との連絡が十分果たし得たことは大変重要な事項であったと考えている。

開会式について

これが私の最後の主管大会と考え「大会々長の出席」を執行部に強硬に申し入れたが、やはり実現せず、恒例の「代理出席」に終わったのは本当に遺憾の極みであった。

数ある全国大会で、主催側のトップが殆ど出席しない大会は極めてめずらしいものである。（それ程全日実バドミントン大会の[illegible]が低いとトップは考えているのだろうか、一度尋ねてみたい。）

苦心の末、不満足ながらも相互交流の場としての「選手広場」も設営出来たことでもあり、今回は集合形式で挙行、式後私の知人が主導している「大阪民踊連盟250名」の好意による演舞を披露することが出来た。

競技関係

女子団体準決勝戦で当時メキメキと売り出し中であった〝三洋電機チーム〟が、常勝〝サントリーチーム〟と対戦、〝三洋電機〟の全国初制覇が一年延びたことが印象に残っている。

財政問題

過去２回の主管にあっては、少なからぬ赤字を負担して来たものだったが、今回は思い切った施策と、「必要経費の払い戻し設置」等のこともあり、約80万円ばかりの収入増が見られ、関係各位に申しわけが立った。（注：この金額の使途については後で述べる。）

忘れ得ぬこと

何と言っても「公開組み合せ会運営」のことである。この方法は第32回大会より取り入れられたものの、実施後未だ十分な経験もなく、従って「試行錯誤の段階」でもあり、担当責任者となられた故御前龍雄副理事長（当時）等は第33回大会（札幌大会）の現状を視察されると共に、幾度も幾度も予行されたものである。

幸い本番では大過無く終了、関係者一同胸をなで下ろした思いであった。

余談であるが、この組み合せ会の空気を柔らげるため、偶然知り得た関西落語家の新弟子お二人に、当日の司会を依頼（最低の薄謝で…）したところ、前日になって師匠から「プロとして安売りするな」ときびしいお叱りの為司会を止めたいと申し出られ、最小の金額で了解して頂いた想い出がある。

ちなみにこのお二人共、只今では立派なタレントとして夫々にお弟子さんが居られるそうである。

次には大阪実連役員各位の成長である。これまで二回の大会にあっては、理事長である私の全面的なリードによる行動であったものが、今回はそれらの経験を活かしての創意工夫が生まれ、その集大成による大会運営が成し得られた。このことは今後における大切な糧になったと考えている。

第34回大会運営にあって最大の汚点は，大会プログラムに掲載された参加各チームの「企業標識の一部」に誤りが生じたことである。

この原因はいろいろと有るにしても、事前チェックを十分にさえすれば問題なくクリヤー出来るもので、原稿の集まり具合と、印刷時間との関連が有ったとは言え、主管としては申し開らきの出来ぬミスと考えている。

参加チームは勿論、これらを持ちかえられた関係各位に対し、慚愧に耐えないものと、今でも赤面の思いである。

最後は、34回大会での黒字約80万円ばかりの使途のことである。

私共役員は選出されたからと言っても、必要な経費すらその殆どが自己支弁である。時にはその上に勤務を犠牲にしてでも、与えられた任務は全うしなければならないことが多々生じている。

しかし、私達はそれでも大好きな「バドミントン」をしているから、これらもあまり苦にならない。

しかし反面、ご家庭、特に奥様、子供さんに与える影響は大なるものが有ると考えられる。故に私達役員が今回このような大きな仕事を為し得ることが出来た、と言う影にはご家庭のご理解と忍耐の結果と考え、深く感謝を致さなくてはならないし、今回だけにとどまらず、今後共そのご協力を得なければ組織維持も何時かは困難になる。と私は常々反省してはいるものの、平常はままならぬ財政の為、何も出来ないのが現実である。

今回初めて（大阪実連は創立以来連綿として赤字か、よくて三桁単位の黒字決算中であった）得ることが出来た金額の使途については、本来なら全関係者の合意を得る要のあるものではあろうが、理事長専断での措置として、役員の行動実績に比例した配分により、直接各ご家庭宛「礼状」と共に送付し、さっぱりと使ってしまった。勿論この行為は「越権行為」に当たるかも知れない。が勘弁して頂くこととした。

したがって今回も収支は又もや０である。

35回記念大会として開催

神奈川県実業団バドミントン連盟
理事長　京屋孝治

10年振り、神奈川県では３回目の全日実大会である。大会は、６月19日～23日までの５日間、藤沢市秋葉台文化体育館の開館一周年記念を兼ねて、また、日本実業団バドミントン選手権大会の35回を記念して、オープン参加のシニアの個人戦も行った。

個人戦を廃止してからＯＢ選手の大会参加の機会がなく、強い要望が出されており、シニア個人戦の開催には本当に喜んでいただいた。試合終了後は、昔の好敵手と酒場で盃を交え、懇親の場ができたとの話しを聞いてホットしました。

この大会では、費用集めも大変であったが、アトラクションの出し物を何にするか、迷った。前年の大阪が、年よりの踊りで、選手はガッカリしていたようでしたので、神奈川はどうするか、何回も話合い、第１候補「県警音楽隊」、第２候補「関東学院音楽隊」、第３候補「米軍海軍音楽隊」など、スマートで若者向きの候補を選び、その中から５候補に絞り、第１候補から順に交渉を始めた。

当時の県警音楽隊・カラーガード隊は、日本の警察の中でもトップクラスであり、大会のアトラクションに相応しいと確信し、交渉を始めたが、第一声が「スポーツ団体等の要請は全て断っております。」だった。これで引き下がったらダメだ。何かいい手はないか、いろいろと対策を練った。

警察音楽隊の活動を友達の警察官に聞き、相手の条件に合うよう交渉した方がよいと考えられ、その条件を満[illegible]大と考えた。その条件とは、交通安全等の活動に関するもの、青少年の健全育成に関するもの等、通常の警察業務の啓蒙・啓発に関するものであった。

これではスポーツ団体の入る余地はないと思ったが、なんでもよいから条件を満足させようと、考えた結果、「全日実大会へ出場する選手は、各地域において、職場スポーツをやりながら、地域の子供達にもバドミントンを指導し、この子供達の健全育成・非行防止に大いに協力している選手が大部分です。この選手のために是非ご協力お願いしたい。」と、再三再四担当者と折衝し、やっと了解を取った。

私の仕事がら、警察・消防とは会う機会が多く、たまたま、その担当者と会った時に、後にも先にもスポーツ団体に出場したのはあれだけです。あの時はうまく乗せられました。でも始めて参加した音楽隊・カラーガード隊も喜んでいました。と言われ、ホットしたことが、懐かしく思い出されます。

また、参加記念品にも大いに悩んだ。神奈川県郷土の特産には、どの様な物があるか、いろいろ調べたが、記念品に相応しい物はなく、結局アクリル板のバックタックに決定した。そこで参加選手・役員一人一人の氏名を彫って渡すか、そのまま渡すか非常に迷ったが、この際貰った人が喜んで後々まで使用できるよう彫ることに決めた。

しかし、その後が大変で、参加選手の申込み終了と同時に名簿を工芸店に渡し、出来上がった物を準備委員会でチェックすることになった。申込書に記入された氏名は、楷書で読みやすい字もあれば、崩されて読みにくい字や、全然分からない字もあり参加チームへの確認、再度作成など工芸店に渡すまでに時間がかかった。その後は、出来上がった物の氏名のチェックである。氏名を彫ったため、チーム毎に、間違わないで入れないと、とんでもないことになるため、チームへの袋と、氏名を何回もチェックしたため、開会式前日まで、袋詰めに追われた。おかげで、氏名の記入ミスは２～３名であった。約2,000人分彫って２～３名ですので大成功であった。参加選手から、お土産にしたいから氏名を彫って送ってもらいたいとの要望があり、大会終了後購入者に送った。

役員のＴシャツも、手伝っていただいた役員だけに配布するだけで、1,000枚より作らなかったが、選手から是非売って欲しい旨話があり、残っていた約200枚を売った経緯があります。

この藤沢大会の開会式に㈶日本バドミントン協会の桜内会長が急に出席することが決まり、開会式終了後のレセプションを急遽体育館の食堂で、大会役員と行ったことも良き思い出として残っています。

終わりに

この大会を開催するには、体育館および宿泊施設の確保が第一条件である。神奈川県内には多数の体育館施設・宿泊施設があるが、同じ市内での確保が難しい状況にある。現在の大会規模ではコート面数が約30～35面必要になり、12面×２＋10面の体育館がなければ出来ない。

今現在の規模がよいのか、20面前後で開催できる規模に縮小するのか、大会の運営方法を変えて行くのか、検討する時期にきていると思われます。

心の通った運営目指して

京都府実業団バドミントン連盟
元・理事長　野村嘉明

京都府は昭和58年に京都国体（二巡目初回の大会）の開催を決定後、「'63京都国体」を目指し各種イベントの誘致、開催が盛んであり、また奨励されていた。

われわれも府民のバドミントンへの関心を高め普及、振興を図るとともに、競技力の向上、役員の養成を目的として「第36回全日本実業団バドミントン選手権大会」の誘致に動くこととした。

一方立川大会で個人戦の廃止に伴い参加料の値上げの条件に大会の資質の向上を図るべく、組合せ抽選会の実施、選手広場の設置、ＰＲ活動等が打ち出されていたが、その後札幌、大阪、藤沢と大会を経過したが、会場問題、資金難等でこれらの取組も薄れつゝあり、京都としては引き受ける以上はこれを是正すると共に何か今後の大会に継続して行くものを考え出さねばという思いもあって誘致を決意した。

さて、大会を主管するに当たり、運営費の確保は大丈夫かということが、どこでやられるとしても一番の問題である。

第27回大会の経験もあり、主管開催の自信は自分としては持ってはいた。一度「大会事務局業務代行」をエイジェントに頼んでみてはという意向もあり、見積をとることにした。結果は2000万円の回答であった。

当時参加料収入見込みは900万円であり、補助金・広告料収入1100万円が必要となる。これはとても調達が無理というこで、あきらめ、直ちに自力による運営に切り換え、予算編成にとり組んだが経費を切り詰めても1600万円が大会経費となり、参加料の値上げ申請をしなければその開催は困難ということになり、その分析に取りかゝった。

その結果参加料は昭和57年度より四年間据え置かれており、日本実連の一般会計の財源となっている運営資金（参加料の一部がこれに充当される）の値上げしなければという状況にあった。

①運営資金の値上げ　2000円　②物価上昇率（総理府統計調査による）6.6%　3300円　③広告料調達難をカバーする費用　1000円　④参加賞が現状では充分なものが出来ない現状をカバーする費用　500円×10名＝5000円　⑤36回大会会場借用費が先催県より約52万円高い2800円／チーム　⑥値上げ要素合計14600円

という分析結果がまとまり日本実連総会に提案し参加料１万円値上げが承認され、185万円の予算確保が出来、ひとまず補助金・広告料の軽減が出来た。

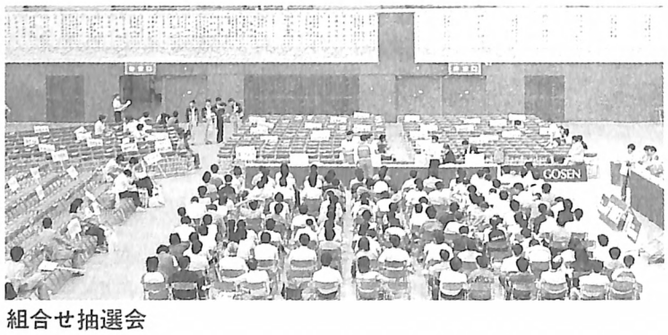
それでも総予算中参加料収入は67.7%（1130万円）、補助金9.6%（180万円）、広告料18.5%（300万円）となり、まだ中々の困難が予想されたがやって行かざるを得なかった。

府協会永末会長、府実連西村会長に実状を説明し、両会長の紹介状をもって広告料調達に奔走する日が続いた。これに加え当時日本実連の事務局の木場成男氏がNTT関係の広告を10件余集めて下さったのは、予想外で有難かった。幸い補助金・広告料とも略予算額を確保出来、これで経費節減にしつゝ、努力すればやって行ける見通しがついた。この時はなんともいえない内々の喜びを感じた。

私自信は過去殆どの大会に参加し、各開催地のご苦労、良い点、悪い点、改革点等は理解していたが、主管するに当たっては中心となって働いて欲しい人材を早速に選考し、この方々に藤沢大会を視察してもらい少しでも全日実大会を実感し新しい対処をしてもらう事とした。

視察員には夫々に調査事項を与え、レポートの提出を要請した。その結果に基づき「心の通う運営」の企画に着手した。

組合せ抽選会　チームの名札が小さく大勢の参加選手に見てもらう状況にないことから、幅30cm、長さ150cmのチーム名札とし、高校野球の組合せ抽選会を思わせるものとした。これを体育館二階から吊るし、一階に客席を設置するとことにし、遠くからも見ることが可能とした。



組合せ抽選会

選手広場の設置　立川大会からの約束事であり是非実現したかった。幸いにも当連盟の会員の瀬野俊策（海自・舞鶴）君が過去の全日実大会に参加する度に開催地でのスケッチをここ十年余続けており、その絵50点ばかりを「日本の四季」という題目で「瀬野俊策作品展」として展示して欲しいという申出があり、これの採用を即決定した。しかし問題は会場であった。

漸く大会会場の府立体育館の許可を得、体育館の通路をロビー風にして、この絵を展示し、土産物店、京都国体紹介コーナー、京都案内コーナー（ＪＲ指定券宿舎、弁当、宅急便、タクシーの手配等）、実連コーナー（大会記録のサービス）、支部連盟の資料交換（支部連盟の資料交換）、大会記念品の販売、ドリンクコーナー（スポーツドリンク、抹茶のサービス）、ランドリーコーナー、用具メーカ展示コーナー等を揃え、設置した。

抹茶サービスは家婦連の協力で実行し中々の好評を得た、瀬野君の絵も開催地の懐かしい風景を表現し参加選手の心を和らげた。



宿舎問題　は質の向上にあった。過去安い料金での宿泊が出来るということが優先していたため、選手に気分よく大会に参加して貰うに値しない設備の宿が見受けられ、これの改善に努めた。

京都は観光地であり、その種類、数、には事欠かなかったが、藤田観光に宿舎の斡旋の一切を任せた所一流ホテルが利口な料金で宿泊することが出来た。

会場問題　コートは30面近く必要ということで府立体育館（14面）京都市体育館（12面）で消化する予定で計画していたが、京都国体を前に京都市体育館が昭和61年度改装工事にかかるという情報が入り、これの代案を建て開催承認を得るという苦しいスタートであったが幸い改装工事はこの大会後の実施となりほっとした。

この体育館の距離は４kmばかりあり、その上市バスの連絡が悪い所からＪＴＢの斡旋で会場間連絡バスを設け、選手・役員の移動の便を図った。

開会式について　は各開催地とも入場行進にはじまりアトラクションまで２時間を要するので、いつもその運営に頭を悩ましているが、京都大会もこの運用にかなりの議論がかわされた。迷った結果入場行進なし、着席形を採用することとし、組合せ抽選会、開会式、アトラクションの流れをこの座席で実行する設営とした。


アトラクション「六斉念仏」

アトラクションはコーラス（少女合唱団による全国の民謡を北から南へ）、京都伝統民族芸能である「六斉念仏」（太鼓を叩いて獅子が踊躍する念仏）を実行した。

審判員の養成　京都国体の為にも審判員の養成を必要としており、極力積極的に審判の実戦経験をさすべく取組み出場選手協力審判制（一般にいう敗者審判制）は線審のみとし、主審、サービスジャッジは主管サイドで実施することにした。

先催県にない取組で実行した。

競技会報告書の内容について　懸案としていたのでこのことにも手を加えることとした。

従来の報告書は全く競技記録のみで、これでは後日大会を知ろうと思っても大会の模様が不明となってしまうのが現実であった所から、大会回顧、記念写真、競技記録、選手変更、大会報告事項（大会参加状況、役員動員状況、開会式の模様、参加賞、記念品、競技会場、協力団体等々）、次回大会申し送り事項という内容に改善し、保存版とした。

この様式がその後の大会に受け継がれていっていることは、私も満足であります。

われわれにとって幾ら立派な大会を実行しても大会報告書のない大会は「無」となってしまいます。

このことを大会主管者は肝に銘じこれは受け継いで行って頂けば有り難いです。

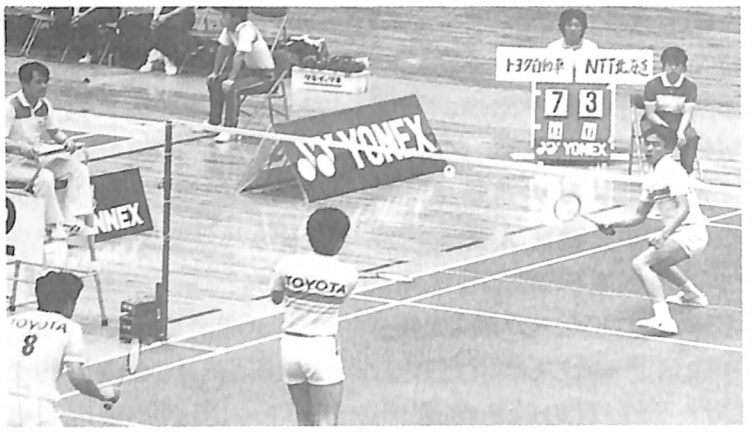
大会はお蔭様で会期中雨もなく無事終了する事が出来、心配していた大会運営費は赤字を出すことなく終える事が出来た。ささやかな余剰金で、府実連のリーグ戦大会の優勝杯が老朽化しており、全日実大会開催記念と刻し、これを更新し全日実大会開催記念とした。

大会事務局を担当した者として、大会の成功は今もなお大会関係各位、競技役員の協力の賜物と感謝の気

持ちで一杯です。

いつもながら努力と苦労が大きい程後の感動は大きい。大会後のご苦労さん会で交わす酒の味、皆の笑顔には満足感と幸せ感が満ち、格別の感動があった。

この大会で府実連の役員達の一つの目標に向って一致協力努力を重ねた結果がもたらした深い感動でありました。役員各位がこの大会で大きな自身と、結束力を固めたことは大きな収穫となり「京都国体」へと繋がった。



京都大会男子団体準決勝トヨタ自動車対NTT北海道

歴史小話

物価変動　（ラケット、シャトルコック他）

西暦（年号）	大学卒男初任給月額（円）	シャトルコック 水鳥（円／打）	シャトルコック 陸鳥（円／打）	ラケット選手用（円）	国立大学授業料（円／年）	米（13.5 kg）（円／月）	ビール（633mℓ壜）（円）
1955 昭和30年	10,100 (100)		450 (4.5)	800～1000 (7.9～9.9)	7,000 (5.8)	1,620 (16.0)	125 (1.23)
1960 昭和35年	13,100 (100)		450 (3.4)	1000 ～2000 (7.6～15.3)	10,000 (6.4)	1,350 (10.3)	125 (0.95)
1965 昭和40年	16,400 (100)	900 ～1200 (6.4)	500 (3.1)	3000 ～5000 (18.3 ～30.5	15,000 (7.6)	1,755 (10.7)	115 (0.70)
1970 昭和45年	36,700 (100)	1200～2000 (4.4)	800 (2.2)	3000 ～5000 (8.2～13.6)	15,000 (3.4)	2,498 (6.8)	130 (0.35)
1975 昭和50年	83,600 (100)	2900～3800 (4.0)	2200 (2.6)	3000 ～5300 (3.6～6.3)	40,000 (4.0)	4,388 (5.2)	170 (0.20)
1980 昭和55年	114,500 (100)	3900～4900 (3.8)		3500 ～9500 (3.1～8.3)	180,000 (13.1)	5,940 (5.2)	230 (0.20)
1985 昭和60年	140,000 (100)	3900～4400 (3.0)		9000～16000 (6.4～11.4)	250,000 (14.9)	7,088 (5.1)	310 (0.22)
1990 平成 2年	169,900 (100)	3900～4400 (2.4)		9000～18000 (5.3～10.6)	340,000 (16.7)	7,290 (4.3)	315 (0.18)
1993 平成 5年	190,300 (100)	3700～4200 (2.1)		9900～22000 (5.2～11.6)	400,000 (17.5)	7,560 (4.0)	315 (0.16)

注１：初任給は労働省「賃金構造基本統計調査」他による。
注２：シャトルコック、ラケット以外の物価は総務庁統計局「小売物価統計」による。（東京都区部の年平均価格）
注３：米は１日３合として１カ月分13.5kgを注２により換算した価格。
注４：（　）内数字は各年の大学卒男子の初任給を100 とした指数を示す。
授業料は月額に換算し指数化してある。
注５：シャトルコック、ラケットの価格は1975, 1980 年は日本バドミントン協会検定品価格による。
1985～1993年はバドミントンショップイチムラ（京都）の小売価格による。その他は手持ち実績資料による。

《解説》
シャトルコックは昭和40年以降給料比は下がっているが、ラケットは新製品がでる節目ごとに高くなっている傾向がある。
米は昭和30年までは食糧難の影響で高価であったことを示している。
授業料を初任給と比較するのは妥当ではないが最近かなり給料に占める割合は上がっていることが判る。
ビールの価格の指数はこの40年ほゞ変動がない。

31回大会の反省を生かして

愛知県実業団バドミントン連盟
副会長　油井秀男

第37回全日本実業団名古屋大会は前回の31回大会の開催場所が市外の体育館で行い選手の皆さんに不便を感じさせたため名古屋市内で開催する事としました。

日程　6月3日～7日
会場　愛知県体育館　メイン会場
　　名古屋市露橋スポーツセンター
　　名古屋市枇杷島スポーツセンター

開催する上で特に準備段階より31回（昭和57年）の反省にたって会場確保、運営を初め緻密な計画で行いました。

会場確保の段階から県協会主導型の前回を県実連主導型として行いました。特に31回大会の会場トラブルが脳裏に焼きついており、会場利用日を各競技団体に協力要請を行い心良く受入れられました。

競技、運営について36回（京都）大会に視察した実行委員より素晴らしく充実した大会であった事が報告され大いに参考にして行くことにしました。

しかし京都大会で好評だった選手コーナーの設置について愛知県体育館メイン会場の予定が公園条例に抵触する事が判りテントの設営、掲示物、飲食等の禁止のため断念しました。

それに変わるものとして代案も最終的には条例に阻まれ実現出来ず残念でした。

運営については前回開催31回大会の団体、個人戦の内団体戦のみであり競技の進行も順調に進みました。

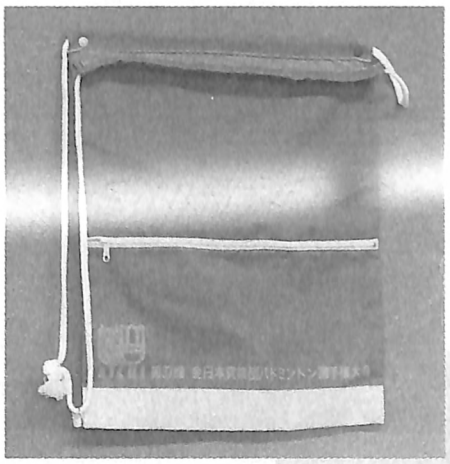
大会の戦績は男子ではNTT東京（東京）が7年連続12回目、女子三洋電機（大阪）が3年連続3回目と、やはり他チームから一歩ぬきん出た強さで優勝を飾りました。全体的には新鋭の台頭とベテランの頑張りが随所にみられ見応えのある熱戦が見られました。

ナショナルチームのメンバーのほとんどが参加しており、この高度なプレーを小中高生に見せたいところから決勝を日曜日に設定し各種大会毎にPRに奔走した結果大勢の観客を集め地元のバドミントン愛好者に感銘を与えた大会と思っております。

観客の応援で、わが愛知勢は男子のトヨタ自動車、女子のトヨタ自動車と日本電装がベスト8位進出で地元として大いに盛り上がった大会でした。

大会運営も前回と違い団体戦のみでタイムテーブルを若干のオーバーで終わり、別にトラブルも無く無事終了し、全員が開催してよかったと、終わって大いに美酒に酔ったことを思い出しております。


▲37回大会表彰式　男子優勝NTT東京


◀大会参加記念用具袋

大会記念Tシャツ▶



5．大会の概観　第38回（昭和63年）金沢大会

石川県実業団バドミントン連盟
理事長　安江勉

大会の概要

金沢大会は、6月15日に開会式、翌16日から19日まで金沢市総合体育館を中心に3会場で開催されました。

男子128チーム、女子64チームが参加した本大会は、結果的には男子は西山選手（当時日本チャンピオン）など5人のナショナルメンバーを抱えたＮＴＴ東京が八連覇、女子は女王北田選手を中心とする三洋電機の四連覇と順当なものでした。しかし、男子の第2シードのヨネックスをノーシードの日本電装が初戦で破り、勢いに乗り準優勝に輝いたのを始め、第3シードのＮＴＴ北海道が、これまた初戦で同郷のＪＲ北海道に敗れるなど、波乱含みで始まった大会でもありました。

地元としては、北国銀行が初めて、男女アベックベスト16に入った他、県勢としてこれまた初めて、金沢市役所が大接戦の上ベスト8に入賞しました。成績の上では、大会を開催する側から申し分の無い大成功の大会であったといえます。

中国選手の登録問題

本大会は、バドミントン界に初めて国際化の波を感じさせたときでもありました。あるチームが、世界のトップレベルにある中国選手2名を大会に参加させたいという異例なもので、日本協会を巻き込んですったもんだの上、結局は登録の不備ということで実現しませんでした。

プログラムのメンバーの印刷をどうするかで気をもんだもので、一つ間違えば国際問題かと、事務局としては大変荷が重いことでありました。

開催までに

昭和66年に石川国体（平成3年）の開催が決定していました。県実業団連盟としては、国体よりレベルの高い試合を地元のファンに見せたい。組織の充実を図りたい。そんな意識が、国体開催を前にして持ち上がりました。

何分にも総勢1,800人のマンモス大会ですので、経験のない石川県で果たしてできるのかどうかということは率直な疑問でありました。

一方で、昭和56年に19チームで県内実業団リーグを創設し、昭和61年には開催チームも35チーム、本大会開催時の昭和63年度には41チームに膨れ上がり、本大会を開催する組織の土壌も少しづつ、出来上がってきていたことも誘致要因の大きな要素でありました。

想い出の事項

毎日、深夜までに及ぶ打合せ、準備で事務局員はくたくたで、今でももう二度とやりたくないと漏らすものもいる始末であります。以下、想い出に残る事を列記してみます。

・開会式

入場行進が整理員のお陰で大変厳粛に、整然と行われたこと。

・選手コーナー

公営施設の中では、物品販売は原則禁止。総合体育館でも、メーカーのコーナーは前例が無く、再三再四のお願いと、選手サービスということでなんとか了解を得ました。

・役員の夕食

大会2日目、思いの他試合が長引き、急遽体育館前の寿司屋に飛び込みました。注文の数の多さに驚かれましたが、なんとか協力して頂きました。

・ジャンボ組合せカード

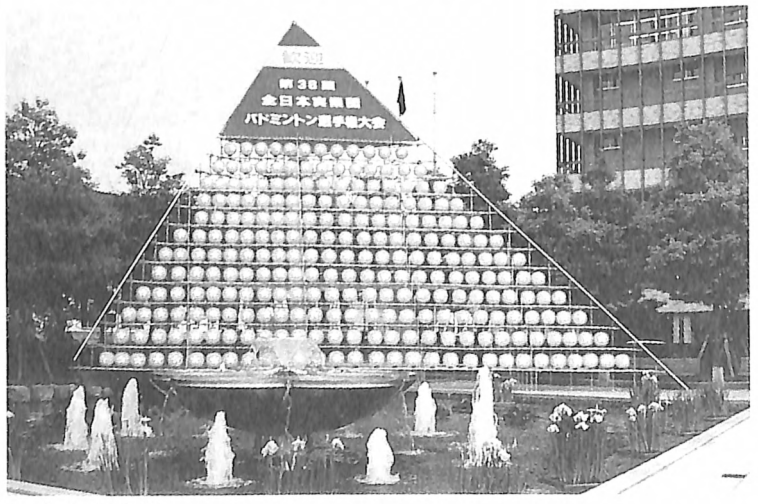
体育館一杯に張り出した全チームのチームカード。汗と涙の結晶です。

・テレビ中継

ローカルではあるが、石川・富山向けに中継録画を実施。放映のカメラの関係で、コートマットの位置や、開会式の位置を急遽変更され、係員には辛い思いをさせました。大会にとって、なんの収益にもならないので、普及という面を考えなければ、できればやらない方が良かったかもしれません。

・軽食コーナー

赤字で閉鎖されていた施設を、大会期間中だけ料亭の協力を得て再開。選手の憩いの場を作ることができました。電気料とか、什器備品の扱いとか細かい面倒もいくつかありました。



▲大会広告塔

・広告塔

市役所前にジャンボな大会の広告等を設置。実は前日まで開催されていた百万石祭の広告等をちゃっかり転用したものです。文字を張替ただけでしたが、夜は提灯に灯が燈りなかなかきれいでした。記念撮影をされたチームもあったのではないでしょうか。

終わりに

本大会の最大の成果は、何といっても連盟の組織が確立したことであります。それまで県内の実業団リーグは充実しつつあったものの、やはり「井の中の蛙」的存在であったと思います。日本のトップにつながる本大会を見て、ましてや、大会運営に携わることで自分たちのチームをきっと見直したことでありましょう。

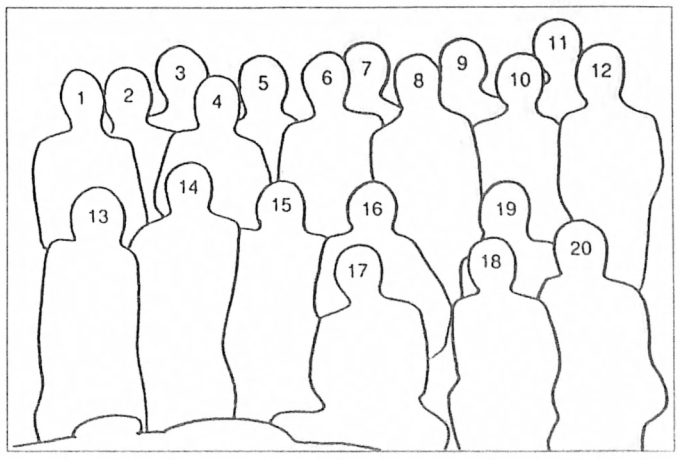
しかし、今後こういったマンモス大会を開催することができる都市が限定されて来るのではないか懸念します。普及という面もありましょうが、トップレベルの大会を維持しながらも、もう少し大会をスリムにする必要性を感じます。そして、どんな小さな町でも開催されるようになれば、かえって普及という点で貢献できるのではないかと考えます。

お産の苦しみを忘れた頃、母親はもう一人子供が欲しくなると聞きます。大会運営に苦労した頃がなつかしく思ったとき、もう一度開催してみたいな、今はそう思います。



▲当時の大会役員

1. 鈴木
2. 堀
3. 森谷
4. 奈良坂
5. 井上
6. 伊勢
7. 庄司
8. 油井
9. 河村
10. 月原
11. 浜谷
12. 宮入
13. 安江
14. 京屋
15. 並木
16. 藤原
17. 東
18. 太田
19. 野村
20. 幸野



5．大会の概観　　第39回（平成元年）岡山大会



大会歓迎広告塔（岡山駅前）

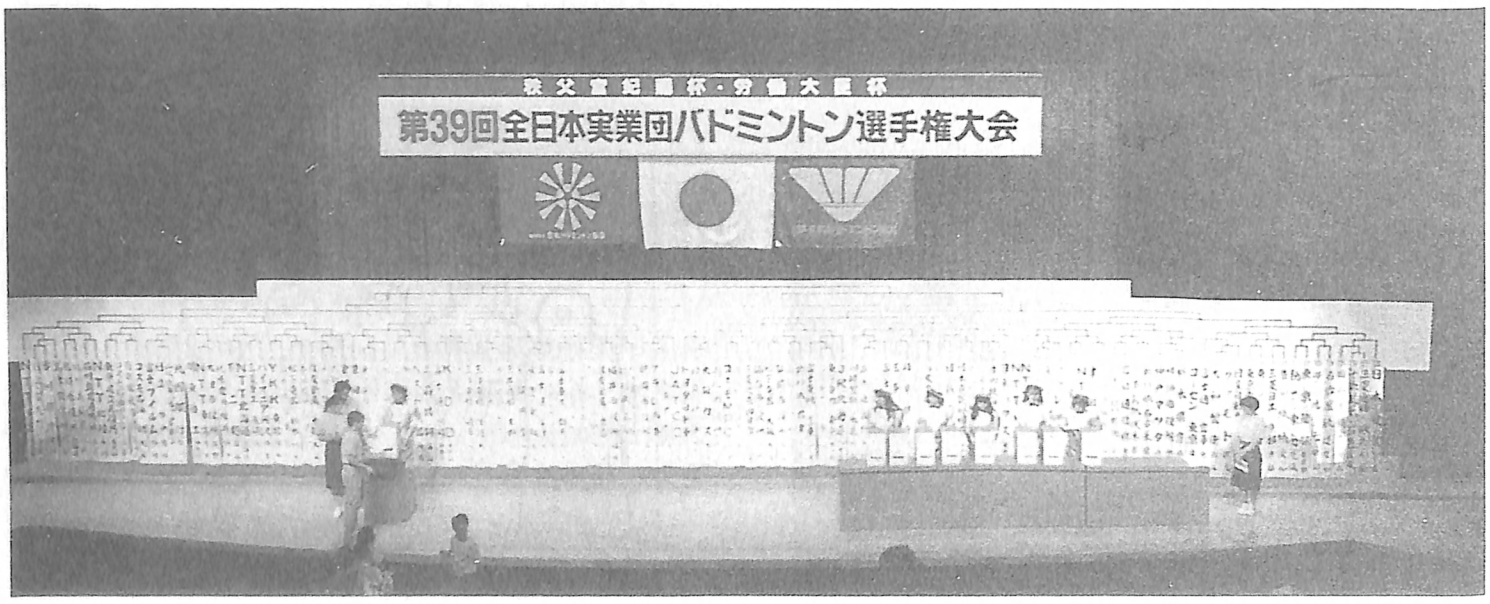


開会式後のアトラクション



大会記念Ｔシャツ

組み合せ抽選会



40回記念大会として開催

兵庫県実業団バドミントン連盟
理事長　北義一

第40回全日本実業団バドミントン選手権大会は、平成２年６月13日(火)16時、神戸ポートアイランドホールに櫻内(財)日本バドミントン協会会長、貝原兵庫県知事、笹山神戸市長他多くの来賓のご臨席のもと、各都道府県代表、男子132チーム、女子77チームの役員選手が参加して開会式で幕が切って落とされた。

思い起こせば、昭和62年の名古屋大会（第37回）で非公式ではあるが神戸大会開催要請の打診があった。それまでも、近畿地区開催要請時には必ずといって神戸開催の話はあったが、兵庫実連の実力から開催に自信がなかったので断り続けてきたが、今回の40回大会は記念大会でもあり、又、兵庫実連創立25周年にもあたるので、大会開催には大義名分もたち、その点では開催可能な条件は揃っていた。が、しかし、運営経費の問題、５日間に及ぶ大会役員の動員問題については、解決の糸口さえも見えず頭を抱え込んだものである。兵庫県協会は，国内大会、国際大会を含め単発的なビッグイヴェントは過去に幾度か経験をしてはきたが、運営そのものは、そのほとんどが関係連盟であり、協会主管の場合でも実連主体型でやってきたので、均一バランス型方式を採用したことは一度としてなかった。この方式は、外見にはあたかも総力を結集しているように見えるが、利害が絡み、ドロドロしてくると力が半減する危険性を有しているので採用するには勇気が必要である。しかし、皮肉にもそのチャンスが訪れるのである。

、カップ・シャハンオープン'82を神戸に於てプロモートするにあたり、従来運営方式を詳細に分析した結果は全てに不可能とでた。では、どのような施策を図れば開催可能となるかを模索したところ次の施策が不可欠であると判断した。その施策とは、各連盟が持つ得意性を最大限に活用するということである。当り前といえば当り前のことであるが、例えば、集金能力が低い連盟に一律負担を掛けても結果が判っているので、その連盟には金銭的負担無しにし、陰の力に徹してもらう、このことが結果的に最小の資源投入で最大の付加価値が得られ、波及高価として競争の原理が働き好結果が得られると読んだのである。結果は苦しみの連続であったが、一応の成果を得ることができた。この「兵庫方式」は、昭和63年３月に宝塚市で開催された、第16回全国高校選抜選手大会、同年８月の高校総体・第39回全国高校選手権大会（変形ではあったが）にも採択し、全ての機能が良く回転し、高い評価にと繋がったと自負している。第40回大会も、この「兵庫方式」が県協会で機関決定されなければ、実業団連盟の25周年記念事業であるといえども開催するに至らなかったと思う。



櫻内義雄大会名誉会長による乾杯

このような難問題を解決しつつ、又、持ったまま第40回全日本実業団バドミントン選手権記念大会は、６月13日、神戸ポートアイランドホールに於いて開会式を行った。当日は天候にも恵まれ、過去最多の参加チームが参集し開会式は記念大会にふさわしく、華やかな中にも整然と進行して行ったのである。翌14日と15日の競技は、神戸ポートアイランドホール、神戸市立中央体育館、川崎重工体育館、16日、17日の競技と17日の閉会式は神戸中央体育館で行われ、大きな事故もなく無事終了した。

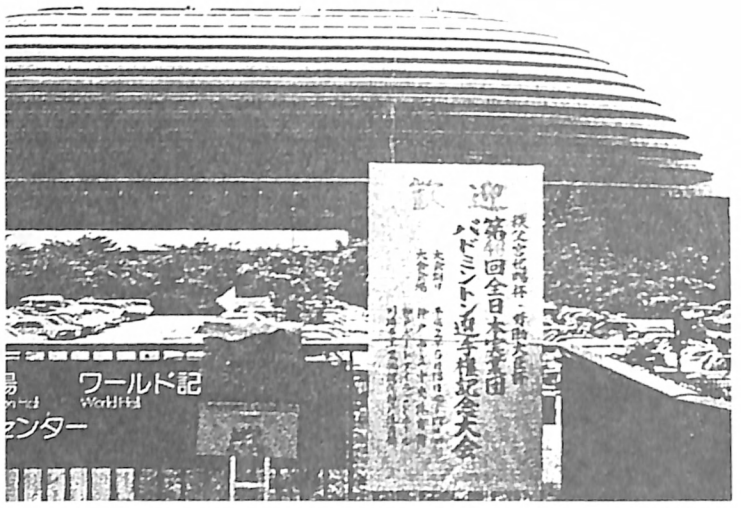
結果は、男子はＮＴＴ東京、女子はサントリーが優勝した。

「戦い終わって日が暮れて……」兵者どもが去った後は侘しいものである。そして、この大会を通じて感じたことは（神戸大会だけかもしれないが？）鮮明に出た人間模様のコントラストである。創る苦しみを理解出来ず、最初から最後迄不平不満を言って去った人、「大会開催ご苦労様、神戸大会は私の一生の思い出となります」と涙ながらに言って去った人、どの大会でもある光景ではあるが、前者に指導的立場にある人が多かったのは、企業人の大会としては非常に残念であり、今後の大会運営の方法に一考を投じたと思う。特に休みを取ってまで、大会運営の陰の力となってくれた兵庫県協会所属の高・中体連の先生・生徒の冷めた目を忘れることができない。

5．大会の概観

しかし、数々の難関を乗り越えて行われた神戸大会は、終了と共に兵庫県内に波及的効果をもたらしたのも事実である。実業団チームも増加したし、社会人クラブも激増した。又、大学生、高・中学生等のジュニア選手が国内最高のプレーを観戦できたことによって、選手としての将来に夢ができ、人生観にも影響を及ぼしたことと思う。そして県内の競技力向上にも良い刺激を与えてくれたことには、大会を開催して良かったと思った。が、やはり、総経費で約150万円もの赤字決算を受けた時は、目の前が真っ黒になったものである。だから大会終了後のあらゆる機会でこの大会の贅肉の多さ、開催地経費負担の低減を早急に解決すべきであると訴えたが、赤字になることが信じられないと思っている人が多く、ついに、最近まで話題にもならなかったことは誠に残念である。

最後に、赤字こそ出したが、協会自体が火の玉のように燃え、結束力が発揮された大会運営であったので、他の大会と比べても、優れこそすれ見劣りのする大会ではなかったと自負している。





▲40回大会女子の部優勝サントリー



▲40回大会男子の部優勝NTT東京

22年振りの東北での開催

宮城県実業団バドミントン連盟
総務委員長　田副恒徳

東北で２回目の開催となった第41回仙台大会は、全日本実業団バドミントン選手権大会が、久しく東北で開催されていないという背景のもとに、東北での開催が強く望まれていた時期の平成元年度に宮城県での開催打診があり、当連盟は勿論のこと県協会とも協議を重ね、県全体で取り組むことを確認し、宮城県での開催の意志を固めた。

全国大会規模の大会運営は初めてのことでもあり、早速６名からなる実行委員会を組織し、岡山大会の視察を初めとして、名古屋大会の運営状況についてご指導を受けるなどして、種々検討を行い平成２年度に日本実連に正式に大会運営計画書を提出し承認をいただき、22年ぶりに東北での開催が実現することになった。

開催決定後は、実行委員会の組織を拡大し、役員一丸となって会場の確保、諸計画の検討や運営経費の捻出に奔放し、平成３年１月13日には関係者50人が集まり、事務所開きを盛大に行い、全員で大会の成功を誓い合った。以後、勤めの終わった夜間や休日は事務所に集まり、準備にあたった。大会が迫ってくるにつけその回数も多くなり、また夜おそくまで準備に追われるようになり、バドミントン、バドミントンで明け暮れる日々となった。

杜の都仙台での開催となった41回大会は、全国各都道府県の代表216チーム（男子132チーム、女子84チーム）、選手役員約2,500人が集い、６月12日から16日までの５日間開催された。

開会式等の[illegible]館した多目的のホールで、従来と違った座席に座った形での開会式となった。ここで苦慮したのが、選手の入場行進の実施であったが、ステージの上を行進するという例年にない形でおこなったことは、仙台大会の一つの特色ともなったと思っている。



競技会場の設定にあたっては、選手の健康管理や疲労度を考慮して、試合が遅くまでかかるような時間の設定は避けることを前提に考え、会場は散在した感があるがコート40面を確保し大会に望んだ。その結果、極端に遅い時間まで試合が延びることもなくスムーズな進行ができた。

競技は、仙台市体育館を主会場として、県スポーツセンター、仙台市泉体育館、仙台市勤労者体育館の４会場で行われ連日熱戦が展開された。日本のトッププレーヤーが揃ったこの大会を県内の多くのバドミントン愛好者が観戦できました。その意味でも宮城県での開催は意義のあるものであった。

大会は、県協会や県実連の役員は勿論のこと、社会人連盟、家庭婦人連盟、実業団連盟の会員を動員して運営役員を組織し、運営にあたった。

色々な不安や問題を抱えながら準備に取り組んできた第41回全日本実業団バドミントン選手権大会は、各方面からのご指導やご協力、ご支援をいただき無事に幕を閉じることができました。役員一同、大事を成しおえた満足感と感激で一杯でした。後日開かれた反省会には、運営役員全員が集い大会の成功を心から喜びあったものです。

この大会のために約２年にわたり諸準備に取り組んできて、大会期間中はその疲れもピークに達していたようでした。無事大会の幕が開き、その安堵感からか関係書類の入ったカバンを紛失してしまいました。翌[illegible]無残な車でひかれこわれたカバンがありました。駐車場で自分の車に積むのを忘れ、自分の車でひいてしまったようです。また車の鍵をなくした役員がおりましたが、翌朝来てみると駐車場にエンジンのかかっている自分の車があったという出来事もあり、いまでは当時の笑いばなしになっています。

41回大会の開催により、当連盟の組織も一段と強化された。また、２年後の平成５年度には、待望の東北実業団バドミントン連盟が結成されました。これも22年ぶりに東北で開催された同大会の成果の一つではないかと考えております。

終わりに41回大会の開催に際して、ご協力をいただきました各都道府県の実業団連盟に厚く御礼を申し上げます。

アジア大会のリハーサル大会

広島県実業団バドミントン連盟
事務局　加土孝博

第42回全日本実業団バドミントン選手権大会は、平成４年６月17日から21日の５日間、広島市サンプラザを主会場に男子134チーム、女子88チームの史上最多の222チームの参加のもと開催された。

競技会場はサンプラザのほか、３会場を使用して行われたが、各会場とも施設が新しく、また、宿泊施設からそう遠くない場所に位置していたため、選手にとってはプレーしやすい大会ではなかったかと思います。

本大会を誘致するにあたり、中央のバドミントン関係者の間では、「広島での開催は無理ではないか。」との話があったようである。これというのも、バドミントン競技に関しては、広島県は後進県であり、全国レベルの大会の開催経験も少なく、また、有名選手を輩出していないことなどから、組織力及び観客動員等に関して大会運営が危ぶまれたものと思います。

平成３年の全日本シニア選手権大会を開催しているが、事実、中央との交流は少なく、専ら地方大会の開催が主であった。

しかしながら、広島県バドミントン協会としては、本大会の後、平成６年にはアジア大会、平成７年全日本社会人大会、平成８年国民体育大会の開催をひかえ、本大会の運営が、今後の試金石となる事から、是非とも本大会を成功させなければならない事態であった。

その一つの理由として、本大会が第12回アジア競技大会のリハーサル大会として認定されたためでもある。

本大会の運営については、実業団の大会ということもあり、広島県実業団バドミントン連盟の事務局でもある㈱海洋電子工業・広島事業所を中心に作業を進めていくこととなったが、なにぶん実業団自体のチームも少なく、大会運営の組織作りには広島県協会を中心に、各市協会、家庭婦人連盟、高体連、中体連の協力が不可欠であった。

資金面については、プログラムへの広告依頼と合わせて、広島市アジア組織委員会からアジア競技大会のリハーサル大会としての補助金により、なんとかクリアーできることとなった。

このアジア競技大会・バドミントン競技のリハーサル大会は、平成６年10月広島市で開催されるアジア競技大会のバドミントン競技の開催に際して、大会運営を広島県バドミントン協会が委託を受け、大会がスムーズに運営されるよう、組織力の強化のため、日本実業団大会が認定されたものである。

このアジア競技大会の運営の見返りとして、実業団大会の費用の一部を補助金として交付を受けたものであり、おのずと行政からの諸々の要求があったのも事実である。

本大会の準備のため、サンプラザの大会々場近くに、県協会長の協力を得て、事務所を構えて作業を行ったが、大会が近づくにつれて、てんや、わんやの忙しさであった。

本大会では，競技が４会場に分かれたため、大会運営を会場ごとに各市協会に委ねる方式をとったが、大きな混乱もなく終了することができ、この方法も一つの成果であった。　競技運営もさることながら、監督会議、開会式、レセプション等の進行についても心配していたが、皆様方の協力により、無事終了することができた。

しかしながら、レセプションの会場で、宴も終了するころ、他県の役員から「宴会場のステージバックのバドミントンの文字がバトミントン」になっているよ」と言われたときにはなんとも言えない恥ずかしさを感じたものであった。

それ以後はバドミントンの文字には十分注意するようになったものである。

本大会も、大きなトラブル等もなく、最終日の決勝戦をむかえ、男女とも接戦のすえ、ＮＴＴ東京が優勝し、大会史上２度目のアベック優勝となった。ＮＴＴ東京女子は、24年ぶりの優勝であった。

今大会で得た競技運営の組織力は、大会終了後、次の目標のアジア競技大会の運営に向けて大きな力となった。

平成６年10月開催されたアジア競技大会では、世界のトップ選手が参加して熱戦が繰り広げられた。

この大会においても、実業団大会で経験した運営能力をフルに発揮して、無事大会を終了することができた。

現在、次の目標である平成７年の全日本社会人大会、平成８年の国民体育大会に向けて準備されているところである。

しかしながら、競技運営の面ばかりでなく、今後は広島県内のバドミントン競技力向上のため、実業団チームの強化をはかって行きたいと思っている。

このためにも、今後ますます全日本実業団選手権大会が発展していくことが必要であり、また広島県としても努力していくこととしたい。

逆転発想の開会式

富山県実業団バドミントン連盟
理事長　牧野光男

大会誘致について

富山県で全日本実業団バドミントン選手権大会が開催されたのは、1956年（昭和31年）の第５回大会、1975年（昭和50年）の第25回大会、そして1993年（平成５年）の第43回大会とほぼ20年に１回の割合で開催している。

地元チームの話で恐縮ではありますが、第５回大会では、十條製紙伏木工場（現日本製紙伏木工場）この大会以降破竹の７連勝の皮切り大会となり、第25回大会では、高岡市役所男子チームが1972年（昭和47年）の茂原市大会以来２度目の優勝と、地元チームにとっては非常にげんの良い富山県での大会であった。第43回大会誘致については、県内で特にバドミントン競技に力を注いでいる地元の有力企業である三協アルミの体育館が建設される、との情報があり、その完工記念大会に開催してはどうか、という県実業団連盟の意向もあり昭和64年頃に日本実業団連盟に開催申請したのである。しかしながら、開催年近くになり日本全土を襲ったバブルの崩壊があり、それまで当てにしていたこの体育館の建設が大きくずれ込むことになったのである。あわてたのは、大会実行委員会である、最低36面のコートを確保するためには、どうすればよいか等々協議が繰り返されたのである。最終的には過去例の無い高岡市を中心とする新湊市、小杉町にまたがる２市１町で合同開催するという話がまとまったのである。

運営・スタッフ・会場設営等について

運営面・スタッフについては、富山県は昔からバド王国として全国にその名を轟かせた地であり、現在でも、往年の優秀な？プレイヤーや企業が沢山あり、また日本リーグも連続で16回開催している実績もありあまり心配はなかった。会場設営等については、日本各地から来県される選手の皆様に納得のいく会場で精一杯の試合をして頂こうを合言葉に四会場全てがメイーン会場となるよう設営に努力した。

開会式・組合せ抽選会場について

関係スタッフ全員が選手経験者であったため、選手の立場を十分考慮した大会を目指した。それらの中で20年間選手生活を続けて一番閉口したのは長い長い時間をかけた開会式というセレモニーである。選手の入場行進から来賓各位のご挨拶等場合によっては３時間以上の開会式もあったと記憶している。富山県大会はそれらを払拭し逆転の発想で選手を座らせ、大会役員の皆様に行進していただいた。（大会役員の皆様には大変失礼を致しました。）これによって開会式と組合せ抽選会で要した時間が１時間と少々で終了した。また、組合せ抽選会は、いままでは監督（コーチ・代表者）が行って来ましたが、選手の皆さんと一緒に出来ればもっと楽しい？組合せ抽選会になるのでは、また何回も抽選しないで１回で、しかも公平に出来る方法をスタッフ全員が知恵を出し考案されたのが高岡方式であります。参加された当時の選手の皆さんは一番良く覚えておられると思います。



組合せ抽選会

終りに

1993年（平成５年）の第43回大会（高岡市・新湊市・小杉町）は全国でも有名な越中万葉のふるさと高岡を主会場として新湊市・小杉町で開催したところ、全国各地から男女229チームの参加をいただき、役員・選手も2,383名と過去最大の大会規模となりました。これもひとえに各チームの皆様が富山県の大会ならどんなことがあってもいかにゃあかんがいちゃ？という温かいご支援とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。また、この大会開催に絶大なるご支援・ご協力いただきました高岡市・新湊市・小杉町と各企業ならびに大会関係者に改めて感謝申し上げます。

急遽の大会打診にあわてる

福岡県実業団バドミントン連盟
理事長　坂田雄二

第44回全日本実業団バドミントン選手権大会が平成６年６月15日から19日の５日間、黒田節で有名な黒田五十二万石の城下町福岡市で全国各地から男子133チーム、女子78チーム合計211チームの役員、選手約2000名を迎え、福岡市民体育館を主会場にして、福岡市内４会場で盛大に開催されました。

福岡県で開催されるのは昭和40年度に第15回北九州大会を北九州で開催して以来、実に29年振りのことで福岡市で開催されるのは初めてのことでした。

福岡開催に当って、当初北海道で開催の話が持ち上がっていましたが、都合により北海道開催が見送りとなり、急遽福岡市に打診がありました。福岡県実業団連盟としては、福岡県実業団バドミントン連盟が平成５年４月に発足した直後でもあり、また日本経済はバブルがはじけて景気の後退の中、各企業とも人員削減、広告費カット等のリストラが進み、暗いニュースが多く、大会開催の状況は決してよくありませんでした。また、福岡市は政令都市でありながら、体育施設は決して十分でなく、福岡市開催については、時期尚早との意見が多く、開催時期としては1995年８月に福岡市で開催される大学生のスポーツ祭典ユニバーシアードが終わった翌年の1996年第46回大会ならば誘致してもよいとの考えでした。しかし、福岡県バドミントン協会が開催の意向を表明した為福岡市での開催が事実上決定致しました。

早速、第44回全日本実業団バドミントン選手権大会開催実行委員会組織を作り、会長１名、副会長２名、事務局長１名、事務局次長２名、それに専門部の総務委員長、競技委員長、財務委員長、広報委員長を各１名づつ選出し、各委員長の下に委員を数名付け、各専門部毎に計画、進捗状況の確認、問題解決等の打ち合わせを重ねていきました。事務局はベスト電器研修センターの一室を借りて女性専従員を張り付けました。

大会開催に向けて一番頭を痛めたのが運営資金をどうやって捻出するかでした。約2,800万円の運営資金の内、大会参加料はその50％強で、残りの約1,400万円相当をどのように調達するか、大変苦労しましたが、福岡県実業団バドミントン連盟会長北田葆光氏（ベスト電器代表取締役社長）、及び福岡県バドミントン協会会長四島司氏（福岡シティ銀行頭取）、両氏のご尽力により財政面の問題は解消されました。４月になると最後の追い込みに入り、最終チェックで、毎夜遅くまで打ち合わせが行われ、深夜12時を回ることも度々でした。

選手への記念品も種々検討が行われ、福岡を象徴するもの、しかも思いでとして残るものとして博多人形に決定し、バドミントンラケットを持った童子を博多人形師に特注して製作してもらいました。

さて、大会初日、薄曇りのまずまずの天気、開会式のリハーサル、打ち合わせも数回行って、開会式に望みました。一部不手際があったものの、無事開会式も終わり、スタッフ一同ホッと一安心致しました。大会４日目に入って、折しも福岡は梅雨期と言うこともあって雨が降りだし、役員、選手の皆様にはご不便をおかけしました。ちなみに、その後福岡地区は1959年の福岡大渇水以来の水不足となり、半年たった現在も同じ状態が続いています。その為、あと１～２年開催時期が遅れていたら、役員選手の方々には大変ご迷惑をおかけしたことになっていたでしょう。

大会は４日間にわたり、熱戦が繰り広げられ、特に、地元福岡のベスト電器男子チームが準々決勝で今大会準優勝の日本ユニシスチームにマッチポイントを取り、もう一歩のところまで追い詰めましたが、最後は経験の差が出て競り負け３対２で惜敗しましたが、会場は大いに盛り上がり地元バドミントン愛好者を大いに喜ばせました。又、同じくベスト電器女子チームも準々決勝で王者サントリーと対戦し敗れはしたものの、そのさわやかな戦いぶりは目を引きました。九州のＹＫＫ男子チームは戦前の予想通り台風の目となり、４回戦で日本リーグ１部のＮＴＴ北海道チームを破り、ベスト８に入るなど大いに健闘しました。同じく九州のＮＥＣ九州女子チームは本大会準優勝のＮＴＴ東京チーム相手に、ほぼ勝利を手中に収めるところまでいきましたが、勝ちを意識して結局３対２で惜敗。

優勝は男子チームは優勝候補本命と目されていたＮＴＴ東京が予想通り、危なげない試合運びで14年連続優勝をし、本大会もＮＴＴ東京を脅かすチームは現れませんでした。女子チームは総合力と層の厚さを誇るサントリーチームが決勝でＮＴＴ東京チームを３対２で破り、２年連続13回目の優勝を成し遂げました。

大会を振り返って、数々の難問題をクリアーして開催した福岡大会は終了とともに、福岡県内に数多くのバドミントンファンを増やし、またバドミントン愛好者にバドミントン競技の魅力を更に増幅させたと言えます。

前回大会の経験を生かして大成功

北海道実業団バドミントン連盟
副理事長　平山三城

大会の概要

第45回全日本実業団バドミントン選手権大会は、きらめく光と風に心揺れる、さわやかな札幌の初夏に12年振りに、札幌中島体育センター別館を主会場として、札幌市北区体育館・札幌市豊平区体育館・札幌市白石区体育館の４会場を使い、平成７年６月21日(水)～25日（日）の期間で開催された。

男子134チーム、女子74チームの計208チーム。選手、役員総勢3000余名の参加のもと盛大に開催され、男子は、ＮＴＴ東京が15年連続20回目の優勝。女子はサントリーが３年連続14回目の優勝で幕を閉じた。

男子の試合内容としては、強豪チームがほぼ順当に勝ち上がったと言う感じであった。準決勝の２試合はＮＴＴ東京とトナミ運輸、日本ユニシスとＮＴＴ関西の間で行われ、ＮＴＴ東京と日本ユニシスがそれぞれストレート勝ちで、決勝進出した。決勝は日本ユニシスの徐彪が第一シングルスで上げた１ポイントのみで、ＮＴＴ東京が余裕の優勝と言った感じであった。

一方、女子の試合内容は、シードチームのトヨタ自動車と地元での活躍が期待されたＮＴＴ北海道がともに初戦敗退する等の波瀾な幕開けであった。特に、活躍した東北電力新潟が４回戦で、昨年３位のヨネックスを３対１で下し、準決勝まで勝ち上がりベスト４に入った。他に、北都銀行とベスト電器を破ったコスモ石油がベスト８に入る健闘が光った。準決勝は、サントリーと東北電力新潟の[illegible]対戦で、サントリーが[illegible]シングルスで、サントリーから１ポイントを上げる活躍があったが３対１でサントリーが決勝に進出。もう一つの準決勝は、ＮＴＴ東京と三洋電機の間で激しい戦いとはなったが、最後のシングルスでＮＴＴ東京のエース松尾知美が粘る山田裕美をストレートで退け決勝進出を決めた。決勝は、圧倒的な強さを見せ付けてサントリーがストレートで優勝を決めた。

開催までに

札幌での開催は、33回大会以来12年振りの開催であった。前回の大会に携わった道実連の役員が殆ど残っていたため、前回の第33回大会とは比べものにならない程、精神的には楽だったと思う。まず、全日本実連の常務理事であり現在の道実連の副会長である伊勢武氏から、昨年の開催地である福岡大会での資料の入手により、どれくらいの予算が必要か、いろんな資料をいただき非常に参考となった。福岡大会の関係者の皆さんにこの場を借りて感謝します。

それと、長年に亘り道実連の会長であった宇野眞平氏が死去されてから空白であった会長を早急に決めて、体制を整えることが急務であった。当時、何人かの候補者がおられた中、ＪＲ北海道の常務取締役でかっての札鉄の黄金時代を築いたメンバーの一人である青山繁樹氏に強引にお願いして、引き受けていただいた。また、予算から言って大会参加料を上げていただかないと大変な経費負担となることから引き受ける条件として，全日本実連に大会参加料を上げていただくよう伊勢副会長にお願いし、実現したことは大きな一歩であった。今後、引き受ける開催地に対しても大きな要素の一つとなるであろう。

資金の目途がたたないでスタートした前回とはおおきな違いであり、特に、前回の反省から当面の運転資金を、道実連事務局長の渋井敏紀氏が、毎年の運営費のなかから工面して、大会用としてある程度確保していたことも大きかった。

開催に向けた体制作りと、道協会を初めとする関係団体への協賛のお願いに、道実連理事長である岡明弘氏自ら勢力的に回った。一方、資金面の調達には、伊勢副会長を中心に協賛会社をアタックし、それを今回の財務部長の道実連中村常務理事が資金調達に駆けずり回る二人三脚と言った感じで、頭の下がる思いであった。

事務局の設置等

事務局の開設は、予定よりかなり遅れたが会長の青山繁樹氏の好意により、札幌市の中心地（札幌市東区北６条東４丁目　ＮＥ６・４ビル４Ｆ）で、新しいビルの４Ｆに設置。スペースも広く明るい事務局であり、前回の33回大会の暗い事務局とはえらい違いであった。事務局員には、道家庭婦人連盟所属の渡辺由美子さんと浅越美枝子さんにお願いした。渡辺さん浅越さんは、豊富なバドミントン経験と几帳面な仕事振りで、ボリュームのある仕事を計画的にこなしてくれた。それと事務局のスペースもかなり広かったので、殆どの打合せ会議を事務局で行うことのできたことも、一体感を持ちながら準備が出来た大きな要素であったと思う。改めて、すばらしい事務局の場所を提供していただいた青山会長のご好意に感謝しながらの事務局のスタートであった。

大会準備等

阪神大震災があって、近畿勢のチームの参加が少なくなるのではないか心配であった。具体的な大会準備

は、役員の年齢も高くなっているので、少しでも軽減するため、イベント会社に委託することで準備を進めた。また、主会場を、老朽化が目立っている札幌中島体育センターでは、全国の選手を迎えるには問題ないか。札幌真駒内屋内競技場の方が良いのではないか色々意見が分かれたが、総合的に判断して、今回も札幌中島体育センターで開催することとした。その主会場にコートマットを敷くため、全道からの使用できるコートマットの確認、開会式の入場行進はどうするか、アトラクション、組み合わせ抽選会、大会レセプション等をどうするかとなかなか決まらない状況であったが、あと大会まで２ヵ月を残す頃から、各担当ごとに具体的な作業が見えてきた。大会本部を初め、大会レセプション等も主会場前のホテルアカシヤでやることで決定し、道実連の常務理事の中瀬氏と中平氏を中心に、具体的な準備が進められて行った。

大会の前日は、お互いの担当に分かれて最終チェックしたが、プラカードの色が違う。組み合わせ看板のトーナメント表が違っているなどパニック状態であった。一方、競技班はコートマットがうまく敷くことが出来ず、夜遅くまで会場づくりに汗をかいていた。

最終日を有料で見せることとしたことも、今大会の大きなポイントであったと思う。最終日は多くのファンが日本のトッププレーヤーの試合を見に会場に足を運んでくれたことも大成功の一つだったと思う。

終わりに

伊勢副会長が開催要請を受けて約３年間いろいろと紆余曲折があったが、一年後にアトランタ・オリンピックが迫っている時期での開催であり、日本のトッププレーヤーが何人か出られないのではないか。阪神大震災で被害にみまわれた阪神地区の何チームかは、参加出来ないのではないか、バブルが弾けて、広告収入が思ったように集まらないのではないか、色々と心配したが、関係団体の支援と協力に支えられ、少ないスタッフであったが岡明弘理事長のもとチームワークと情熱で乗り切り、素晴らしい大会であったと関係した役員として自負している。

開会式に思っても見ない事件が発生した。それは、函館空港でのハイジャック事件である。開会式前に号外が配られ、新聞を食い入るように見ている選手の姿が翌日の新聞に載った。また、心配する出場チームの会社からかなりの数の問い合わせが、事務局にも寄せられたことも今としては思い出の一つだ。

大会が進むにつれて、岡理事長と道実連の事務局長である渋井敏紀氏が少し笑顔が出てきたことが、今までの苦労を物語っていると感じた。また、我々道実連の役員として、伊勢氏が全日本実連副理事長へ就任したことも嬉しい出来事であった。最後に、事務局を担当してくれた家婦連の渡辺さんと浅越さんの頑張りに、この場を借りてお礼言いたい。本当に有り難う！



▲45回男子の部優勝ＮＴＴ東京



▲45回女子の部優勝サントリー





バドミントンは生涯スポーツ

上羽　家秀
（元トヨタ自動車）

太平洋戦争が終わった昭和20年の暮、愛知県のトヨタ自動車に入社して間もなくバドミントンと出会い、部員となりましたが、二軍と言うか下手は下手同志でと言った状態が暫く続きました。漸く一軍の仲間入りをして初めて県内の大会にダブルスで参加しましたが、相手の顔が右向くとシャトルは逆に左に来る。ラケットを大きく振り上げると小さく、小さな構えから大きく頭の上を抜かれると言った具合で完敗でした。けれども、この競技ほどテクニックとしてのダマしを使うスポーツも他の比でないことを痛感しました。

その後、昭和25年春に愛知県の県民大会で当時私共の監督で酒巻和男さん（太平洋戦争の初め真珠湾攻撃で捕虜一号となった人）とダブルスを組んで第３位となったのが初めての入賞でした。

同年秋に名古屋で第５回国体があり私はまだ数年後まで選手としての出場待ちでしたが役員で当時国内最高の試合を目前で見ることが出来ました。それは東京と神奈川の優勝戦のダブルスで、東京が国内[illegible]は有名な岡、相馬組でした。試合の内容も見事でしたが、試合前に当時シャトルは試合検定球なるものはまだなく、対戦双方が２～３個をロングサービスのように打って、どの球で行うかを互いに決める方法が採られていましたが、岡さんは必ず自分で選ばず相手チームに決めさせていたのが印象的でした。流石（サスガ）に国内No.１の方でした。

その後昭和27年春、東京で第１回実業団大会が行われることになり、初めての企業単位の団体戦でした。当時トヨタの女子は既に全国でも知られていましたが男子は全く無名でした。どこまで戦えるかとのことで参加しました。試合は２ダブルスと３シングルスで行われ、私共は予想外に大した苦戦もなく優勝戦まで来てしまいました。その相手は十條製紙伏木工場で当時富山県の国体選手がそのままのメンバーのように思いました。しかも数日前より神奈川の岡淳一さんをコーチに招いて練習をしたそうです。岡さんの話では中でも清水さんが最強とのことでした。当方は駒不足でダブルス、シングルス兼用でフル出場です。初めの２ダブルスは完敗し、続いて第１シングルスに私が出たら相手は、なんと清水さんです。この方は可成の長身で、私は１m60未満の小男、これではとても勝負にならないと思いつゝコートに入りました。ところがどう勝手が違ったのか２セットで私が勝ってしまいました。次の第２シングルスの十條は釣谷さん。この方は全日本大会でベスト４に入ったことのある人です。当方の蟹君が苦戦及ばず準優勝となりました。

更に３年後の第４回大会は地方名古屋で催され、第１回同様順当に勝ち進んだのですが、準決勝で神奈川の日産自動車との対戦で私は第１ダブルスに出て１セットは僅差で勝ち、２セット目は10点を過ぎた頃より膠着状態となり、チェンジサーブの応酬で13：11、僅かにリードで当



昭和31年１月東海バドミントン大会優勝記念の筆者

方サービスの時、相手がヘアピンでこちらコートの左前に落ちて来たシャトルを私が片膝をついて下から右に掬(スク)ったらシャトルは斜めクロスにネットすれすれに飛んで相手コートの左端に落ち、マッチポイントになったシーンを今だに鮮明に記憶しています。この試合を漸く勝って優勝戦は神奈川の日本鋼管との対戦となり、私の第１ダブルスは３セットで敗れ、第２ダブルスも及ばず、続いて第一シングルスの岩目君も３セットの末敗戦となり、この時も準優勝となった次第です。以上が実業団大会の記録です。

その後勤務の都合で私は大阪トヨペットと言うトヨタ直系のディラーに移り関西に来ました。職務多忙で約20年間に渡って全くラケットを持つ機会がなく、齢50を過ぎた頃、再びカムバックとまでは無理ですが，どうにか若い人達と現在までレクリエーションとしてプレーを楽しんでいます。平成７年５月に古希を迎えますが今後どこまで出来るか挑戦してみます。

終わりに私共の初期の頃と比べて現在は先ず、ルールが多少変更され、例えばレシーブの時にジャンプや、ショートサービスラインより前で打てばフォルトでしたが、このルールが無くなってダブルスのサービスが困難になりました。またネットインサービスやフレームショットの扱も色々変りました。用具も木製ラケットからスチール、グラス、カーボン系等となり、重量も軽くなりました。ガットも鯨やシルク等からナイロン、シープ等になり、技術面では打たれたスマッシュをカットで返すよりもクリヤーで返すのが主流のようです。特にダブルス戦ではコンビネーションと共にスマッシュの威力が勝負のような気がします。バドミントン人口は今後更に広がりを見せることでしょう。

益々の発展と共にハイレベルの方々の一層のご活躍を願っております。

〈上羽家秀の主な競技歴とプロフィール〉

元トヨタ自工所属で同社バドミントン部創設時のメンバー。全日実大会には第１回から第５回まで出場され第２回、第４回大会の準優勝に貢献された。

現在は定年退職され、バドミントンを生涯スポーツとし大阪府で活動しておられます。現住所は大阪府島本町

国際大会で通じる選手に

杉田(大川)良子
(元日本コロムビア)

1954年、当時、女子バドミントン界の花形でいらっしゃった荒川とみ子さん、小林歌子さんのお誘いを受け、日本コロムビアに入社、実業団の世界に参加させていただきました。その頃は巷で大きなバッグを持っていると「中に何が入っているんですか？楽器ですか？、えっバドミントン？何ですそれっ？」と言う問いかけを度々受けた時代で、バドミントンを知っている人は、ほんの僅かだったように思います。でも会社の中では違っていました。バドミントンと言うと、みんな一目置いてくれ、がんばってねーと言う応援のまなざしで接してもらえました。それは、全日本チャンピオンだった荒川さんが礎となり、全日実第１回大会から３年連続準優勝と言う輝かしい記録を続けておられる最中だったからでした。それだけ社内の注目を集めていたのです。そんなご苦労も知らず、当時の私はただ楽しくやらせていただいていたように思います。第５回大会、寒い高岡でしたが、優勝の素的な想い出を下さって荒川さんは引退されてしまい、そのあとはほんとうにお若くして他界してしまわれました。あのテクニカルなプレー、流れるようなフットワークは笑顔と共に忘れる事はできません。小林さんと二人になってしまい、まずは部員を増やしたいと、就職してくれそうな県内の高校生プレーヤーに声をかけたり、人事部所属の特権を生かして入社申込書の趣味＝バドミントンと言う文字を捜してはアタッ

6．全日本実業団選手権大会の思い出　　わたしと全日実大会

クしてみたりして仲間を集めました。記録に載るまでの実績を残すことはできませんでしたが、それなりに神奈川県のトップの座で大会参加の想い出を続けることはできました。会社に体育館が無く、今のようなスポーツセンターも無く、練習は他社にお邪魔して一緒にさせてもらったり、社員食堂のイス、テーブルを片寄せて早朝トレーニングをしたり、今思えば、みんな良くやったなーとなつかしく想い出されます。オイルショックの影響で会社の状態が悪くなり、バドミントンどころじゃない！と言う時も何とかバドミントンをやりたい、みんなに応援してもらいたいと仕事も雑用でもみんな一途にがんばったあの純な気持のまとまりがとても素的だったと思います。結局は経費削減、希望退職とそんな仲間もみんな去って行ってしまいました。バドミントンができなくなったら会社を辞めようと決めていた自分は仕事の責任上、残ることになっていましたが、その上、勤務地も遠くなり、今日こそ練習ができそうだと勇んでも体育館に着くと、あと30分も無いわと言う状態でしたが、そんな時ほどシャトルを打てる事が幸せに思えた事はありませんでした。



日本コロムビア小林歌子さんと筆者（右）（昭和36年）

〈杉田（旧姓大川）良子の主な競技歴とプロフィール〉

昭和11年生。神奈川県出身。関東学院高時代にバドミントンを始め卒業後日本コロムビアに入社。昭和55年まで同社バドミントン部に所属。全日本実業団大会では日本コロムビアのエースとして第４回大会準優勝、第５回大会優勝に貢献、全日本総合大会ではＳ29年単、Ｓ29、31年複に優勝。又全日本社会人大会では第３回大会男子単優勝のご主人と第１回より現在（第39回）まで連続出場ときいています。

今でもこんな思いをして、それでも好きなバドミントンを続けて、がんばっている方々も沢山おられると思います。

会社の応援も得られ、恵まれた環境でバドミントンができる実業団の皆さん、そんな幸せに甘えず、もっともっと高い目標と意識を持って、日本のバドミントン競技の向上のため、今、発奮していただきたいのです。

ここまでバドミントンが知られるようになったのは、諸先輩が外国と戦って勝ってくれたからだと思いませんか、今年のジャパンオープンを見ても日本は勝てない！切角日本で国際レベルの大会が開催されるのだから、勝ってアピールする絶好のチャンスではありませんか、全日本総合で息切れてしまわないで、もっと世界に目標を合わせて、勝とうとして下さい。外国選手に勝って、こんなに魅力のあるバドミントン競技を「やるスポーツ」の域から「見せるスポーツ」の域まで大きく育て、ますます愛好者を増やして行けるようご活躍を期待しています。



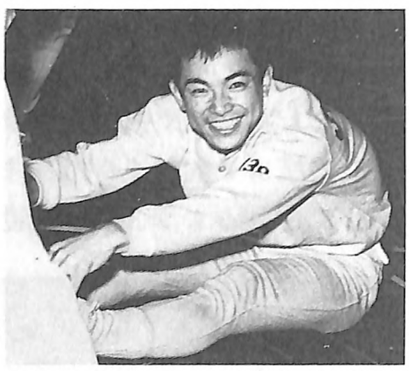
第11回全日本実業団大会での小林・大川組

職場のバックアップが支えに

小宮　好雄
（元トヨタ自動車）

その差13kg。この数字は昭和37年に、私が初めて全日本実業団選手権に出場した時と現在の体重差である。今の私には「バドミントン選手だった」イメージはどこにもない、ふつうのデブおじさんそのものである。（職場の女性評）

昨年末に本原稿を依頼されたが、30年前を想い出すのも面倒だし、パスすることにした。最近、何気なく執筆予定者リストが目にとまり考え直した。理由はリストの中でトヨタマンが自分だけだったからである。今でも子供や孫に「トヨタは強かったのだ」といってる仲間たちへの応援歌になればと書くことにした。


昭和37年８月アジア大会参加帰途バンコックで親善試合時の筆者

バドミントンと自分との関係は「人生そのもの」といってよい。昭和30年代半ばでは、大手メーカーでバドミントンを思う存分やらせてもらえる会社はなかった。大学３年からいろいろあたってみた。横浜の大手自動車メーカーに打診しても空振りとなっていた矢先、トヨタから「受けてみないか」と誘われた。横浜で生まれ育った私にはトヨタの本社がどこにあるかさえ知らなかった。

愛知県豊田市の本社へ行き、バドミントン部の人たちと話をし、即座に「お願いします」と返事をした。幸いにも入社することが出来た。

その後30有余年トヨタの生活が続き、今は東京モーターショーの主催者である自動車工業振興会で旗を振っている。バドミントンとの関わりがなければ、これまでの仕事や生活はない。その決め手となったのは「人」である。

バドミントンをこよなく愛する仲間たち。子供が生まれてからプレーを始めて国体選手になった人、練習後のビールがうまいからプレーを続ける人、工場の通路に線を引き、そこでバドミントンを身体で覚えた人たち。汗のにおい、油のにおいが抜けきらないメンバーが部員だった。

入社したら男女両チームの練習は全て任せるといわれ、早速張り切って取り組んだ。失敗の連続である。当時、最もハードな練習で知られた学校の練習を30歳すぎた人や、女子にも一律に強いたのだから当然のことのように故障者が出る。会社の医者にもしかられた。「女性の身体は男性と異なるのだからよく考えろ」と。ひとつひとつの失敗がよい勉強になったが、やらされる方はたまったものではない。それでも全員がえらそうに指導する新入社員によくついてきてくれた。

当時のトヨタは男子より女子の方が強く、男子チームは大会に出ても早々に会場を去るという状況であった。入社が内定した昭和36年に倉敷へ応援に行ったが、女子チームだけしか残っていなかった記憶がある。男子は負けると大会出場旅費を山分けし、所定の出社日まで観光地巡りが通例だったとのこと。

私の初出場は昭和37年熊本大会だった。運良く決勝まで残り、当時の電電東京に負けるべくして負けた。私のパートナーは養成工出身のK君（18歳）だった。彼は大会初出場のうえ、試合経験も少なく大変緊張してしまい震えていたのを覚えている。相手は学生時代からよく知っている選手で、集中的にK君が狙われていた。惨めな負け方だったが、これも勝負の厳しさと納得した。結果としては準優勝だったが、まさかそこまで勝てるとは思っていなかったため、優勝したような気分であり、社内関係者も喜んでくれた。

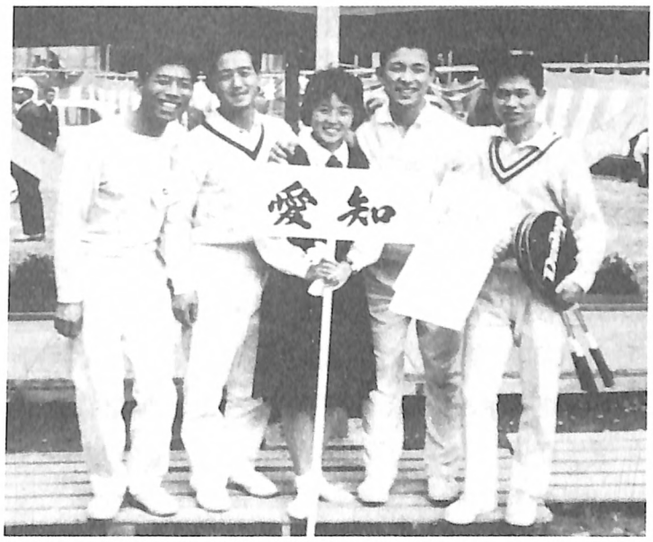
いつもは観光旅行に行っているメンバーも試合会場に最終日まで残っていることについては

文句はなかった。勝つことはよいことだと感じていたようである。その大会からチームとして団体戦が終了するまで禁酒にしようと申し合わせた。大会出場するだけでなく、「勝つ」ことに向けベクトルが合ってきた。

翌年は板垣善憲選手が入社しその後続いて有力選手が入り、連勝することができたが、この仲間は今でもゴルフ会をやったり、バドミントン部の総会で旧交を温めたりしている。最近の大会には顔を出していないが、当時は出場チーム間でコートを離れれば高校時代の延長のような雰囲気だった。また、夫々のチームで特製ドリンクを作り会場でふるまったりしていたのも想い出す。私自身は団体戦の緊張感が好きだった。学生時代からリーグ戦、インカレと団体戦は大いに燃えた。それだけに実業団の大会で優勝したときは「会社に威張って帰れるな」と気分が高揚したものである。

30歳まで現役を続けられたのは、好きだったからではなく、クラブの先輩たちや職場のパートナーの人たちの温かい支援があったからだとしみじみ感じている。新入社員の年は年間で4ヶ月会社を留守にしたが、仕事仲間がカバーしてくれた。

勝って帰った時に職場の仲間が「お帰りなさい。よかったね」と笑顔で迎えてくれるのが、何よりの励みであった。



昭和39年6月新潟国体優勝記念
左より、北田監督、岩后選手、筆者、板垣選手

〈小宮好雄の主な競技歴とプロフィール〉

関東学院六浦中－高－立教大－トヨタ自工

インタハイ	昭和32年男子単、複優勝
インカレ	昭和34年男子単優勝 昭和33～36年男子複4回連続優勝
全日実	昭和38～44年男子団体の部トヨタ自工7連続優勝に主力メンバーとして活躍 一般男子複、昭和40、43年優勝、昭和41、42年準優勝 混合複は昭和41～43年3回連続優勝
全日社会人	昭和37、38年一般男子単で連続優勝、昭和38年一般男子複優勝
国際大会	昭和38(1963)年日本人として初めて全英選手権に出場、単ベスト8。同年、第6回トマス杯大会日本代表として活躍

常にベスト8をめざして

喜多　昭夫
(現三菱重工㈱長崎造船所
バドミントン部部長)



わが、三菱重工長崎造船所バドミントン部は、全日本実業団大会と共に育ち、歩んで来たと言っても過言ではない。

チームは、先輩達の伝統を受け継ぎ、常に”全日本実業団大会ベスト8”を目標とし、それを達成する為に、部員一丸となり、絶えざる練磨により輝かしい足跡を残してまいりました。

わがチームの選手は、中卒の素人を技術学校（三菱の養成工）で先輩達が、ラケットの握り方、素振りを教え、選手として成長していった。

私が、16才でバドミントンを始めた当時は、練習も専用の練習場はなく、昭和36年頃までは、柔道、剣道専用の瀬ノ脇道場と言う所で練習を重ねていった。

この道場の片方1面で、道場特有の天井は低く、コートサイドと壁の間は、50ｃｍ位のコートで、”天井の梁の間を通してのサービス、ハイクリアーの練習をしていたが、その梁を通すの

6．全日本実業団選手権大会の思い出　　わたしと全日実大会

が難関中の難関で、ラリーが長く続かず、単発的な練習、試合しか出来ない状態であったので、大会出場でのロングサービス、ハイクリアーは、わがチームの奇問であった。

練習は、一般部員と一緒で、一面を共用使用の為、なかなかコートに入れないので、毎日、毎日が屋外で、ランニングと素振り、フットワークの繰り返しで、技術学校（３年）卒業時は、大半が試合にあまり出場することなく辞めて、２～３人位が残るのという状況であった。

又、その卒業生も職場の環境（出張、二交替勤務）で、継続して部活動を続けるのが、困難であった。

わがチームの大会出場の誇りは、第１回東京大会より昨年開催の第45回札幌大会までの連続出場（ベスト４＝４回、ベスト８＝７回、ベスト16＝３回）と、全員が自分達で教え、育て、自前の選手として出場していたことである。

しかし、チームの技術は中央チームと比べると２～３年以上は遅れ、ハイバックハンドの打法の時などは、大会でその打法を見て、長崎へ帰って来てからその練習を積み重ねて次の大会へ望めば、他チームはそれ以上の打法を使っているのが現状であった。

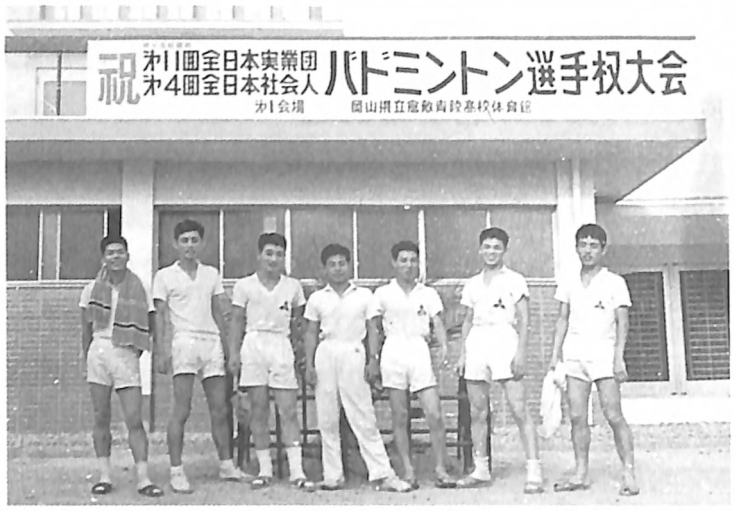
又、当時の日本ランキング上位の小宮好雄選手、板垣善憲選手、星野忠男選手、秋山真男選手、小島一平選手、堺栄一選手、宮永武司選手達のプレーを真近かに見ることにより、自らのプレーを磨いて上達していった。

そして、当時の大会出場はJRを利用していたが、寝台車は到底考えられず、夜行列車を利用し、その必需品として板の持参があった。

その利用法は、列車の座席と座席に板を渡して２段式の寝台を作り、睡眠をとった。

又、列車到着後は、下車駅の付近に置いて大会終了後はその板を持ち帰って次の大会へ備えていた。

私も、第11回倉敷大会より第23回石岡大会まで監督、選手として出場し、ベスト８＝４回、ベスト16＝３回の成績を収めることが出来た。



第11回全日本実業団大会（倉敷）より右から３番目が筆者

第18回諫早大会は、地元の開催で特に印象に残る大会であった。

この大会は、国民体育大会のリハーサルとして実施された。

私も役員、監督、選手として出場し、地元諫早市を初め皆さんの御協力を経て、全国の選手を迎えて立派な大会を開催することが出来た。

又、チームも順調に勝ち進み、”ベスト８”をかけ、宿敵”日本鋼管鶴見造船所”と対戦、２対２のタイスコアーで、勝敗は最後の第３シングルスへ持ち込まれた。

接戦の末、勝利の女神は、我チームへ微笑みベスト８に残ることが出来たことは、大満足の大会であった。

現在、わがチームは２、３回戦で敗退しているが、今後も全日本実業団大会に連続出場することにより、自から益々心技共に充実した修練を積み、技を磨いて成長して、いつか全日本実業団で、”三菱重工長崎”の復活を願い、私も微力ながらバドミントン発展の為に、寄与して行きたいと思います。

〈喜多昭夫の主な競技歴とプロフィール〉

三菱重工長崎造船所所属。全日実大会は第14回大会より選手として、第18回～23回大会は監督として活躍

長崎造船所は第１回全日実大会より全回連続出場のチームであり昭和43年以降は監督、バドミントン部長として後輩の指導につとめておられます。

又第二代目長崎実連理事長として昭和37年～昭和49年の間活躍されました。

打倒トヨタ自工果せず残念

鈴木　幸春
（元・電電東京）



私が昭和27年聖学院中学に入学したとき、生涯楽しめるスポーツをやってみたいと思い当時アメリカンフットボールと共に全国レベルにあったバドミントン部に入り、どうせやるなら「全国を目指そう」と思ったのがバドミントンを始めた動機であった。

高校生になってからは、先輩であり全日本チャンピオンの望月、力石、永井先輩等から厳しい指導を受ける毎日が続いた。

高校３年のインターハイでは山形南高校の板垣善憲君と団体戦を戦い敗れたが、翌年立教大学に入学後は同僚として、卒業後は実業団選手権大会での対戦相手として、毎日のように苦敗を喫することになる板垣君との出合いであった。

立教大学に入ってからは、永井、並木、板垣（兄）、小宮各先輩らの下で板垣君と同僚としてのスタートを切り苦楽を共にしたのである。当時の社会環境は大学を卒業したあとバドミントンを充分にやれる状況ではなく、会社自体がバドミントンを理解し、受け入れてくれる企業は少数であったように思う。

私は卒業してからも実に続けたいと思っていたところ、電電東京から誘いを受け、幸いにして社会人として思う存分バドミントンができる環境ができた訳である。

電電東京では、大学の時は対戦相手であった法政大学の星野、井門さん等とチームの一員としてプレーすることになった。

一方実業団選手権大会で好敵手として対戦することになったトヨタ自動車には大学の小宮先輩、板垣君が在籍し、以来数年にわたって挑戦しては退けられる対戦が始まったのである。

電電東京では10年間バドミントンで頑張ろうと思い、最初は選手として、後には監督として思いどおり10年間でピリオドを打つことになり、厳しかった練習のこと、試合で敗れ悔し涙を流したこと等色々思い出はあるが、常に思い出されるのは、10年間の実業団の大会で決勝戦まで進んだのは７回であり、そのうち６回は小宮、板垣選手を擁するトヨタ自動車に挑戦しすべて退けられたことである。



電電東京も選手の層は豊富であったが、トヨタ自動車に比べ、絶対的なポイントゲッターに欠けていたことが、最後の３ポイント目につながらず、常に準優勝に甘んじる結果になったのだとつくづく思われる。

幸いにして７回目の決勝進出を果たした石岡大会に於いて、小島選手を擁したヨネヤマラケット（現ヨネックス）と対戦し、私としては10年目にして初の優勝を果たすことができたが、この優勝もトヨタ自動車と対戦してのものであったなら、喜びも更に倍加したであったろうと思っている。

ここ数年は勝つことにこだわり、日々厳しい練習に明け暮れた昔と異り、趣味としてシニアの大会に出場しているが、かって実業団で対戦した選手と会う機会もあり、一言二言言葉を交わすことで、昔対戦した試合が昨日のように思い出され、バドミントンをやっていて良かったなと、つくづく思う此の頃である。

〈鈴木幸春の主な競技歴とプロフィール〉

東京の聖学院高校時代インターハイ団体３位、立教大学時代に１年先輩の小宮好雄（トヨタ自工）選手と組んでインカレ複・優勝、１年後輩の東条義昭（琴平電鉄）と組んで1963年全日本総合優勝、卒後電電東京で活躍し４代監督として、第23回全日本実業団で２回目の優勝を飾る。

通算20回目の出場を果して

東条フミ子
（高松琴平電鉄・元ユ杯選手）



私と全日実大会の出合いは、善通寺市で第９回大会が開催された高校２年の時でした。姉（横井キヌエ）が地元森岡経理事務所から三連覇を目指しての出場と、全国各地から日本を代表する選手が参加するということで、善通寺一高の部員と一緒にドキドキしながら応援にかけつけた。バドミントンを始めて一年目の私でしたが佐藤芳朗さん、杉田博さん、大川良子（現杉田良子）さん等のハイレベルな技術を目前で観戦し、なんと奥の深い激しい競技だろうと思いました。そして大会の雰囲気に感動し卒業後も実業団チームでプレーを続け全国大会に出場したい！と秘かに夢を描きました。

結局姉は単複は制覇したものの、団体は連覇ならず２位に甘んじました。なぜか悔しくて涙がこみあげました。

高校３年でインターハイ団体、単に優勝した私は県外就職の３名と別れ、地元の企業高松琴平電鉄へ入社、その年はメンバーが揃わず全日実大会に出場出来なかったが、翌年３名の補強で団体戦に初出場し、いきなり準優勝、次の年も２位、３年目でようやく団体初優勝が実現しました。ここまでやれるとは思わずまるで夢のようでした。

それを機に後輩の育成、毎日の練習の計画、年長者としての責任と自覚に悩みながらも、対処しクリアする喜びも味わいながら松山大会３冠、北九州大会３冠、大阪大会２冠、勝山大会３冠と団体４連勝が達成できました。

この記録はサントリーにこそ破られたが、地元選手のみの地方の実業団チームにとっては誇れる戦績だと思います。

当時の大会日程は、１日、２日目は団体戦、３日目は複、４日目は単、５日目は単複の準決勝と決勝が行われる。最後まで勝ち残るには十分な体力と気力と精神的緊張感が要求される。それに耐え得るだけの鍛練を積み重ねられた当時の自分を振り返ると、「よく頑張ったなぁ」と感心する。また私がここまで頑張れたのは、富山の橘さん、熊本の秋山さん、善通寺一高の先輩田島さん、後輩の森さん、それに善通寺一高インターハイ４連覇の立役者一級上の有木さんを含む４選手の存在があったからです。高校生の時は先輩に一勝も出来なかったが、いつか先輩の様に全国で活躍できる選手になりたい！との目標が持てた事です。それと寒さに弱い私は夏の大会が大好きだったから、この実業団大会や団体にはより以上の力が発揮できた様に思います。おかげで全国各地はもとより当時では珍しい外国旅行もでき、その土地の珍しいものや、あたたかい心情等に触れることが出来たことは今の私の大きな財産となっており、子供達にも「目標をつくり努力すれば達成できるよ！」ガンバレと声援を送っている。

勝山大会を最後に退社し結婚。育児に追われ、スポーツと無縁だった時期が十年余り続いていたが、低迷した時期があり第29回大会より主人と二人三脚で若い選手と“勝利”を目指してまた高松琴平電鉄にお世話になっています。

恥ずかしながら第45回大会で通算20回目の出場を果たすことになり、最年長で出場する事になる。今も週３回の練習を欠かさず行っており、これからもバドミントンと末長くつき合っていきたいと思っています。



高松琴平電鉄のチームメイトと。向って左端が筆者（15回大会）



▲右端が筆者（16回大会）

〈東条（旧姓横井）フミ子の主な競技歴とプロフィール〉
香川県出身　善通寺一高－高松琴平電鉄
インターハイ　昭和56年女子単優勝
全日実大会　昭和40～42年一般女子単優勝
昭和40、42年一般女子複優勝
昭和39～42年女子団体の部高松琴平電鉄４年連続優勝に主力選手として活躍。その後も本大会に通算20回出場、女子選手としては最多出場
全日本総合　昭和37年一般女子単優勝
昭和38年一般女子複優勝
第４回ユ杯大会　（昭和41年）に日本代表として出場。日本の優勝に貢献。
姉の横井キヌエさん、ご主人の義昭さんも共に元日本チャンピオンで正にバドミントン一家です。

熊本大会の思い出

伊藤　基記
（元日本協会常務理事）

第12回全日本実業団（確か団体戦）・社会人（確か個人戦）バドミントン選手権大会は現存の熊本市水前寺体育館（昭和33年９月１日開館：東京の芝のスポーツセンターを移設した体育館）で昭和37年（1962年）４月28日～５月３日に開催されたと記憶しています。

全日本実業団大会35周年記念誌の原稿依頼がありましてここ数カ月探し続けましたが、プログラムもスコアも見当たりません。(熊本県の理事長を退いたのが20年前になります。)

今回の記念誌編集委員長の並木萬次郎さんには、日本バドミントン協会在任中大変お世話になりながら、大変申し訳ないと存じております。

私自身の試合の記憶だけでお許しください。

私は社会人の壮年の部でシングルス・ダブルスで優勝しております。シングルスは楽勝（失礼！）でしたが、ダブルスはサバイバルゲームになりました。

伊藤・小田組（熊本）VS・菊地・権田組（東京）の対戦となり、第一ゲームを東京が取り、第二ゲームも東京がマッチポイントを握り、もう駄目かと思った時熊本のリターンがオンライン、東京がそれを見逃し、そこから熊本が勢いづき第二ゲームを奇跡的に取り、ファイナルゲームはさらに勢いづいた熊本が調子を落とした東京を下し、熊本２－１東京というスコアで優勝できました。

このような崖淵に追い込まれた試合でしたので、今でも鮮明に覚えています。当時の私はテクニック零、唯ぶん殴るだけで汗顔ものです。

成年の部では岡山の毛利先生が故山上さんと組まれて、シングルス・ダブルスとも優勝されたと記憶しています。

団体戦の方は結果の記録もなく、申し訳ありません。

私ももう半年で80歳となります。高齢に免じてお許しください。

今後の日本実業団バドミントン連盟の益々のご発展と大会に関与された方々のご健康を熊本から祈っております。



〈伊藤基記の主な競技歴とプロフィール〉
熊本県出身　大正４年生元熊本女子大教授　昭和29～49年の間熊本県協会理事長をつとめられ、特に昭和40年代に全国でも早期にジュニアー育成を手がけられその後多くの優秀な選手が熊本から輩出する基盤をつくりあげられた。日本バドミントン協会常務理事としてもＳ30～40年代に活躍された。一方自ら競技会にも出場され全日本社会人大会の40歳以上単で第７、第８回大会で優勝されている。現在81歳（平成８年）

優勝に思いを残して

永井かおり
（三菱自動車・京都）



小学校時代からソフトボールが大好きで、中学に入学すれば当然ソフトボール部に入るつもりでいたのですが、残念ながらクラブがまだ設立されてなく、友達について入ったのがバドミントン部で、始めるきっかけとなりました。

顧問で熱心な指導者、幸堀俊雄先生に出会い、基本をしっかりと教えてもらったのが後年の成績や選手生活を長く続けられたと振り返り感謝しております。

表題の全日実大会での思い出は特に二つあります。まず、一つは高校卒業後、三菱自動車工業（当時は三菱重工）に入社、体育館はなく練習場所には苦労しましたが、社会人になっての５年目第19回全日実大会（昭和44）年が岩手県の釜石市で開催されました。毎年出場しているものの、今まで実績も残せず情けない思いをしていた私でしたが、この大会では団体８位、複３位、単２位と自分でもびっくりする程の成績を残すことが出来ました。特に単での決勝戦ではトヨタ自動車の太田節子さんと対戦、太田さんが、各セットとも後半にポイントを連取し、11－５、11－７で敗退いたしました。

以前から精神的なもろさ、スタミナ不足、球に対する執着心が足りない、私の欠点の出た決勝戦でもありました。この大会のトヨタ自動車は、女子の部で団体、個人（単・複）優勝と完全制覇で強いチームだったと記憶しています。このトヨタとは団体の準々決勝でも対戦し、接戦の末惜しくも敗けており、優勝した相手だけに惜しい試合でもありました。お互い自動車メーカーで、会社としても競争相手であっただけに、一番悔しい思いをしたのは当時の監督、岡本宏也氏だったと思います。監督の気も知らないで、この成績で喜んでいたのは私だけだったかも知れません。いつの間にか私の年齢で、全日実大会に出場している人も少なくなり、年齢的、体力的に多少不安を感じて始めていた私は、昭和45年の春に退部も考えましたがクラブの事情もあって、もう一年がんばることにしました。

クラブを続けたことにより、二つ目のうれしい思い出が出来ました。それは第20回全日実大会のことで、栗林公園、屋島で有名な四国高松市で昭和46年２月に開催されました。この大会で現役を最後とし、悔いが残らない様にがんばりたいと思っていた私は、団体、複、混合の三種目に出場、団体では対戦相手にも恵まれ、念願の決勝まで駒を進める事が出来ました。準々決勝では地元の百十四銀行、準決勝では昨年の大会で惨敗しているトヨタ自動車と再度の対戦となり、今年こそはと試合前から雪辱戦に燃えていた私は、後輩達の活躍もあって複１－１、単２－１の大接戦の末、３対２で勝つことが出来ました。しかし接戦の連続で既にスタミナを使いはたしていた私達は、決勝では試合をするのがようやくという感じで、その上相手は名門で強豪の琴平電鉄しかも地元の為、大変な応援の中、試合をすることになりました。私達が優勝するには単に不安があるため複を二つ共取らないことには道はありませんでした。実力的にもすべて一枚上の相手でしたから、負けて元々とがんばってはみたのですが、やはり予想通り複は１－１、単は２－０の３対１で内容的にも完敗でした。しかし準優勝は、私達にとっては大変な喜びで、私としても最後の試合で複３位、一番望んでいた団体で準優勝と満足のいく結果で、一緒に戦ったチームのメンバー、山下三枝子、岡崎繁子、永井むつみ、に感謝して現役を終えることができました。一年前に退部せずによかったと……。

6．全日本実業団選手権大会の思い出　わたしと全日実大会

最近は昔の仲間に誘われて、年に数回羽根つき程度で楽しんでいますが、コートの中に居るより、外でおしゃべりしている時間の方が長く、運動不足解消にもなりません。

バドミントンは私の青春時代のよき思い出で、人との出会い、悔しかった事、うれしかった事と人生の貯金がいっぱいあります。試合としては団体、個人といずれもベストの成績を残した、最後の二年間の全日実大会が、一番心に残っております。

当時の全日本実業団大会は、団体が複2単3の試合であった為、選手も最低4名を必要とし多くの人数で参加出来たことも楽しみの一つでもありました。この思い出を書くことで忘れかけていた25年もの前のことを、資料を見ながら懐かしく思い出すことが出来ました。

紙面を借りまして、この機会を与えてくださった関係者の方にお礼申し上げます。ありがとうございました。



第20回全日実大会にて団体準優勝。当時のメンバーと私
左から岡崎繁子、山下三枝子、筆者、永井むつみ

〈永井かおりの主な競技歴とプロフィール〉

京都出身　成安女子高－三菱自工・京都
第20回全日実(高松)大会、三菱自工京都準優勝にチームエースとして活躍、個人戦の部では第19回、第20回全日実大会女子複にて三位入賞。
第24回(長崎)国民体育大会において京都府代表選手として活躍。3位入賞。

ご恩返えしに若手の育成に努力

銭谷　欽治
(三洋電機監督)



まず初めに、日本実連が35周年を迎えられるにあたり、一言御祝いを申し上げ[illegible]ドミントン界はオリンピック正式種目にもなり、国内外ともに公式スポーツ種目として認知されるに至り、国内のライバルスポーツと比較してもまだまだマイナースポーツの域を出ていないとは言え、各企業チームが本格的に強化に乗り出すなど日本実連主催の全日本実業団大会が果たしてきた役割は今日の日本バドミントン界発展の中心だと誰もが認めている事ではないでしょうか。

35周年を記念して初めて大会に参加した当時を想い出しながら、感謝と御祝いの気持ち新たに増々の発展をお祈り申し上げます。本当におめでとうございます。

僕が、初めての全日本実業団大会に参加した高岡大会（昭和50年）では、開会式でのアトラクションから参加規模までやはり企業チームの大会は随分と盛大だなぁと驚いたものです。当時は団体・個人戦（単・複・Mix）があり、体力的にかなり厳しい大会で個人戦の最後は体力と気力の勝負でした。僕は決勝で本間さん（トヨタ自動車）と対戦、その当時、本間さんはトマス杯等で大活躍していた先輩ゆえ胸を借りるつもりで戦いましたが、本間さんは練習不足だったのか、ストレートで勝ち初優勝を飾る事ができました。その当時は天下のトヨタ自動車で仕事優先は当然で練習不足だったんだろうなぁと思ったものでした。当時のカワサキラケットの先輩達からは仕事とバドの両立等いろいろ学ばせてもらいました。

明日、個人戦の最終日をひかえてまじめに早く就寝したい僕の気持ちを察してか襖一枚隔てた部屋で朝まで麻雀とミーティングに精を出し

6．全日本実業団選手権大会の思い出　　わたしと全日実大会

ていた先輩達からは喧噪の中でも熟睡する術を教えてもらい、実業団とは何か、こんなものと言うか、大人のチームと言うか、物事に動じないたくましさみたいなものを感じたものです。その当時では、大学四年に全日本チャンピオンとなり入社した僕にとって練習環境では恵まれていました。いやそう思っていたと言った方が、正しいかもしれません。ラケットメーカでしたのでシャトルはふんだんにあります。しかし、練習相手と体育館は自分で確保する必要がありました。勿論時間も調整しなくてはいけません。そして練習後はたいてい後輩達が主でしたので食事を御馳走するアフターケアも必要でした。高岡大会以来、計６回のシングルス優勝を飾る事ができたのも、現在の選手達が中々経験できないそういった貴重な経験によるものと感謝できる年代になりました。

名古屋大会では、個人戦のある最後の年となり優勝カップが永久保存できるとあって是非とも勝ちたいと思って臨んだ大会でした。

運良くカップを手にする事ができ、現在自宅に飾り、数多くの先輩達が築いてきた実績に汗と感動を感じています。

現在、三洋電機女子チームの監督として又全日本女子コーチとして本格的に指導に携わる事のできる立場を考えますとその当時とは隔世の感がします。企業チームとして本格的にバドミントンを強化するチームも男女ともに増え環境面では、僕の活躍した当時とは雲泥の差と言えます。仕事との両立からスタートできた僕自身、全日本実業団大会からいろいろな事を学び、バドミントンへのエネルギーとなり現在に至っています。



実連を通して諸先輩方が築いてこられた、実績、発展を今度は僕達が専門にバドミントンに取り組める環境に甘んじる事なく、ここ10～12年来実力低下の日本バドミントン界を支える選手育成を図り、特にユーバー杯においては世界のトップとして君臨した実績を忘れず、若い選手達に実連大会の流れと使命を教え続けていきたいと思うこの頃です。又男子においても、秋山さん小島さんといった先輩が世界トッププレーヤーとして活躍した当時をよく検証し何とか世界で通用する選手育成の実現をプレーヤー経験者としても切に願うものです。最後になりましたが、全日本実業団連盟を陰ながら支えていただいているのは、各企業のバドミントンに対する理解は言うに及ばず、又㈶日本協会の役員の方々も勿論の事、一方僕を含め数多くの選手をジュニアの頃から育成していただいた、中体連、高体連学生連盟等、各連盟関係の指導者と現在では、社会体育クラブの熱心な指導者の方々の御陰だという事も忘れてはならない事と思います。

そう言った方々の情熱の延長線上にあるという事をよく認識し、ジュニア育成からトップまでの過程を大切に何とか日本バドミントン界発展に寄与できる事を願いながらバドミントンに携わっていきたいと思っています。

〈銭谷欽治の主な競技歴とプロフィール〉

石川県出身　大聖高－中央大－カワサキラケット－三洋電機

インタハイ	昭和45年男子単２位
インカレ	昭和48、49年男子単連続優勝 昭和48年男子複３位、昭和49年男子複２位
全日実	昭和48年男子複３位、昭和49年男子複２位 昭和50～56年25回～27回３連続優勝、29回～31回３連続優勝
全日社会人	昭和50～56年25回～27回３連続優勝、29回～31回３連続優勝
全日本総合	昭和51、54、55、58年一般男子単優勝
国際大会	昭和51、54、55、58年一般男子単優勝 一般男子単優勝（昭和49、51～54年） 日本代表として活躍、その他の国際大会でも日本のエースとして活躍 第12回トマス杯大会（1982年） 日本ナショナルチームのコーチとして活躍中

現在は三洋電機の監督として

全日実大会は体力との戦いでした

新沼ひろ映
（元・湯木博恵）

日本実業団バドミントン連盟35周年記念誌刊行おめでとうございます。

実業団の思い出というと、試合数がとても多くて、団体戦では、ダブルス、シングルと、フル回転の出場で、それに個人戦の全てにエントリーして、決勝戦まで20数試合出場で、最後は体力の勝負でした。

社名を背中のユニホームに背負っているので、かなり力が入って、それだけに使命に燃えて頑張れたのかも知れません、まさに殺人的大会と言っていた選手の方もおりましたが、すべての種目に上位戦迄出られた当時の選手の方々ならば同感だったと思います。

30回大会の折だと思いましたが、プレーイング監督として出場した時、オーダーを間違って提出し、ご迷惑をお掛けした事もありました。決勝か準決勝かで私があがっていたのかも知れません。

全日実大会のもう一つの思い出は、第33回札幌大会の折ベスト８入りを狙ったヤマハとカワサキ戦のこと。カワサキチームのエースとして、わたしはシングルスとダブルスで２ポイントは是非とる積りでした。高岸とのダブルスも好調で、第１ゲーム13－５とリードした時だった。突然「バリ」という感じで膝に痛みが走り、カクーンと力が入らなくなった。そのゲームは「あと２ポイントだから…」と、何とか我慢して終わったものの、チェンジエンドの際歩けない。





膝の痛みは激しくなり立っていることさえ出来なくなってしまった。その試合は当然棄権。そしてカワサキは負けとなった。

すぐに帰京して入院治療に専念した。ヨーロッパでアキレス腱を切った経験もあり、もう選手生命も終わりかという心配をした。

治療後膝がよく曲がらない状態であったが、我慢してコートに立った。

自分の後を継いでくれるはっきりした後継者が育っていないことも、コートを去りきれない理由になっていたが、プレーを続けられる間はやり続けようという気持ちがそうさしそれからしばらくコートに立ちました。

全日本実業団大会は、全国各地から参加選手が多く、いろいろな方々にお会い出来て楽しい試合を持てた思い出も多々あります、大会も終わって地方へいった時など、「あら〝この方たち何処かで会ったような！」という選手の人達も多く、仕事もやりやすく、お世話にもなりました。

ともかく私は、海外の試合も多く、大変忙しかった事を思い出します、最近は、試合に出場することも、見る機会もなくすごしております。

終わりに、これからも日本実業団バドミントン連盟がさらに発展される事をお祈り致します。

〈湯木博恵の主な競技歴とプロフィール〉

インターハイ	昭和41年（高3）女子単優勝、複2位。
インカレ	昭和42～45年女子単4回連続優勝、昭和43年複優勝。
全日実大会	昭和46～52年一般女子単6回連続優勝、昭和54，55年一般女子単に優勝しこの種目通算8回優勝。また一般女子複3回、混合複5回優勝。
全日本社会人大会	昭和46～50年一般女子複5回連続優勝、昭和48～54年一般女子単7回連続優勝、昭和56年も優勝し通算8回優勝。
全日本総合大会	昭和44年女子単優勝、昭和47～50年5回連続女子単優勝、通算6回優勝。女子複は4回優勝。
全英大会	女子単4回、女子複1回優勝。
デンマーク大会	女子単3回、女子複1回優勝。
ユ杯(世界女子選手権)大会	昭和44年5回大会から4回連続出場し、日本チームの中心選手として活躍、3回の優勝に貢献した。

上記のよう国内、国際舞台において輝かしい戦績を残し、バドミントンの女王と称えられた。山陽女子高（岡山）　日本女子体育大　カワサキラケット
日本スポーツ賞３回、朝日スポーツ賞２回、日本バドミントン協会技能賞６回受賞。
昭和53年には文部省体育局から特別コーチに任命された。
昭和61年歌手新沼謙二さんと結婚し、現在２児のママさんである。

6．全日本実業団選手権大会の思い出　わたしと全日実大会

強いプレッシャーを感じる大会

芝(北田)スミ子
(元・三洋電機)



引退して早や７年になろうとしています。昨年４月に結婚し、今年４月(今月)には出産を控え、我が子をこの手に抱く日を指おり数える毎日です。私が初めて実業団大会に出場したのは、第32回大会(立川市)でした。短大を卒業して、社会人として勝つ事を義務づけられるプレッシャーにつぶされそうになりながら、個人戦とは違うチームの一員で、会社の名前が出る団体戦の大会と言う事で、会社の期待も大きいながらも、第32回～第34回までは、優勝できませんでした。しかし、翌年の第35回大会（藤沢市)で、チームの総合力が大きく花開きました。

一番記憶に残っているのは、決勝のサントリー戦で、私と冨田（現・花田）さんの第一ダブルスが、高峰（現・宮本）さんと星さん組に勝ち、１－０とリード、次く、第２ダブルスで、河村先輩、・清水さん（現ベスト電機）と菊地さん、西村さんとが大接戦を繰り広げ、ファイナルセットに縺れこみ、12オールとなった時に、清水さんが、大きなプレッシャーと疲労で、全身ケイレンを起こし、一時はキケンになるのではないかと言う所まできていたのです。しかし、河村先輩の経験豊かなリードと清水さんの強い精神力で、その場を脱出し、私の第一シングルスにつなげてくれたのです。バドミントンと言うスポーツは、個人スポーツと思われがちですが、役割や、責任を、一人一人が果たす事で、他の団体スポーツと同じ様に、チームワークや友情が生まれてくるものです。過去三回の試合で、屈辱を味わっているのですから、清水さんの為にも、勝つしかない一念で、コートに入った記憶があります。団体戦で勝った喜びは、個人戦で勝った時よりも、又違った嬉しさがあります。企業でやっている以上、まず、団体戦を制し、そして個人戦も制する、そんな気持ちがありましたから、団体を取るまでは、バドミントンも三洋もやめられないものと考えて月原氏が監督を就かれ、私自身も、より一段向上をすることを誓いました。引退するまでのこの大会は、負ける事なく終わる事ができましたが、何か強いプレッシャーを感じる大会であり、又、反面チームの友情を深める機会の場となりました。最後に、日本実業団バドミントン連盟が35周年を迎えるに当たり、連盟の増々の発展と、今後の大会の成功を願い、御祝申し上げます。



〈芝(旧姓北田)スミ子の主な競技歴とプロフィール〉

大阪府大東市出身　四條畷学園中－高－短大－三洋電機

インターハイ	昭和52、53年女子複連続優勝
インカレ	昭和55、56年女子単、複連続優勝
全日本総合	昭和55～63年の間女子単８回優勝（内３連勝と５連勝をしている）昭和55年は学生選手での優勝
全日実	昭和60～63年の三洋電機の４回連続優勝に主力選手として活躍
全日社会人	昭和57～62年女子単５回優勝
国際大会	第10～12回ユ杯大会に日本代表として活躍。その他の国際大会にも世界のトップクラスの選手として活躍。ソウル五輪（エキシビション）では銅メダルに輝いた。

平成２年朝日スポーツ賞受賞。現在１児のママ。現住所は東京都。

7．座談会 (1)

1．創草期を顧みて
（当時の監督・選手）

開催日：平成６年９月25～26日
会　場：日本石油伊豆山荘

出席者（敬称略・順不同）

横井　初夫	日本実連副会長 元日研化学選手
清水　　正	元十條製紙伏木監督・選手
相場　清一	元帝国石油監督・選手
多賀　順一	元トヨタ自動車監督・選手
野村　嘉明	元島津製作所監督・選手
並木萬次郎	日本実連副理事長 元電電東京監督
佐藤　忠男	元日研化学選手

記録
星野　義昭　　京屋　孝治

司会　お忙しいところ、お集まりいただき有り難うございます。


並木萬次郎

二年後に日本実業団の35周年記念大会を開催するに決まりまして、創立当時の昔のことを皆さんに分かってもらうと同時に過去の記録を残すことを目的に、記念誌編集委員会が発足しました。

今日は、その中の企画の一環として、日本実業団連盟の創立時について皆さんに話し合ってもらいたいと思います。皆様方の他に、日本鋼管の遠藤氏、三菱造船長崎の高野氏、札幌鉄道管理局の青山氏も出席の予定でしたが都合により出席できなく残念に思っております。

きょうは、皆さんの昔話を十分に話していただきたいと思います。

横井　正式に実業団連盟主催の大会になる前の試合に参加したが、どういう資格で参加したのかな。

野村　あの頃は、希望があれば登録して参加できたと思いますね。

並木　招請状を各都道府県と企業宛てに要項と一緒に出して、出場してもらっていたので、各都道府県代表という資格ではなかった。


横井　初夫

横井　もうすっかり古い事で忘れたけれど斉藤健太郎氏が役員で、日研化学が最初に出場した試合に僕も選手で出場したが、十條製紙伏木の試合を見て、世の中に「こんなに強いチームがあるかな」と思ってびっくりした。僕らはまだ遊びだったなー。あのときは雪が降って寒かった。（第５回高岡大会のこと）

野村　私も高岡の試合から参加しているが雪国の雰囲気を十分味わわせてもらった（３月10／11日開催）

並木　第１回大会の印象として、トヨタ自動車の酒巻和男監督が、第２次世界大戦ハワイ真珠湾攻撃の特殊潜航艇の生き残りとして、バドミントンとは別に新聞で大々的に報道されていましたね。

相場　酒巻さんはその前から全日本の30才以上の試合に出ていまして、長野県で試合を行った事がありますよ。今もお元気ですか。

多賀　現在も元気で頑張っております。第10回の愛知大会で、総務副委員長を努めていました。

終戦直後南方帰りの方に習う

清水　私どもがバドミントンを始めたのは昭和23年でしたな。会社の厚生主任の藤井さんという方が、戦時中シンガポールで、現地の人と一緒になってやって覚えたバドミントンを、終戦後十條伏木に着任されてから

7．座談会 (1)

みんなに教えたからですね。

着任後たまたま、高岡市内のスポーツ店でバドミントンの道具を売ってましたので、それは珍しいというので、やってみようと買ってきまして、昼休みに工場内に縄を張ってやり始めたのが最初ですね。そのうち、小学校の体育館を借りてもやりました。

相場　私も終戦はスマトラでしたが、シンガポールに半年いた時にバドミントンを覚えた。昭和19年頃であったと思います。秋田で始めたのは、教育委員会が東京から大学生をよんで講習会を開催してからです。

清水　十條も、富山県の教育委員会主催のバドミントン大会に出場して優勝してしまった。それでやってみようと、最初に出場したのが昭和23年に神田YMCAで開催された第1回全日本選手権大会でした。

横井　日研化学の3代目の社長もインドネシアにいたのかな。その時は工場で技師長になっていて俺がバドミントンを教えてやると言って、私どもにバドミントンを教えてくれましたね。


清水　正

清水　私どもに、最初に教えてくれた人達は、大東亜戦争で南方に行った方々が現地で覚えて（遊んで）、終戦後、各企業で遊びでやりはじめたのがきっかけなようです。

野村　京都の上原さん（元日バ常務理事）もマレーシアで覚えてきたようですよ。

並木　戦前でやっていたのは、横浜のYMCA、慶応大学など一部の人達でしたからね。

野村　結局、終戦と同時に南方から持ち帰った人と、横浜のYMCAが中心になってやった人が、今のバドミントンの基礎になっていますね。

並木　電電東京は、最初、東京電気通信局バドミントン部として、昭和28年に創立されました。

清水　電電東京は、第8回札幌大会が始めてですよね。

野村　大会の参加状況を見ると、東京の参加が非常に遅いんですね。第7回から出ていますが、何かあったんですかね。

清水　第1回大会のプログラムを見ますと一番多く参加しているのは神奈川県の7チームで、これは理解できるが、宮城県が6チームも参加しているが、どうしてこんなに出れたのかな。

トヨタ自動車も第1回目から出場しているが、取組は早かったのですか。

多賀　早くないですよ。私が入社した昭和23年の三年前からやっていたが、選手の半分以上はテニスの選手でした。


多賀　順一

私も入社した時、社内大会があり、それから始めましたが、練習場は小学校校舎を潰した体育館で床はコンクリート、運動靴が月に一足必要な場所や、会社の組み立てラインの広い所で縄を引いてネット代りにしやっていました。

清水　第3回大会の大会要綱の参加資格には、「都道府県バドミントン協会の加盟団体にして、本部協会に個人登録を完了した者」とある。第4回も同じすね。その頃の参加料は男子1,000円、女子500円ですね。

今は、いくらですか。

全日実大会最初は陸鳥球

野村　今は男女とも6万円です。物価も違うけど、その時のシャトルコックが、幾らしたか比較するのもおもしろいですね。

（当時陸鳥シャトル1ダース600円、現在水鳥シャトル1ダース4,400円約7倍）

並木　日本のシャトルはニワトリの羽根で非常に安かった。

7．座談会 (1)

野村　日本協会が始めて水鳥の羽根を使ったのは、昭和40年の第14回大会からですよ。

並木　強引に水鳥にしたが、物がなくて皆に怒られたよ。羽根がなくて練習ができないんだもの。

相場　あの頃はRSLのシャトルが全盛の時代で、あのシャトルは良かった。この頃から水鳥が使われ始めましたね。

多賀　トヨタはRSLを早い時期に使いました。小宮好雄（トヨタ七連覇の中心選手）が来た時は、ニワトリの羽根では３発位打つとバラバラになり、それでは「RSLを使った方が良い」と言うことで変えました。

並木　シャトルでは、小宮選手らが一番苦労している。日本の練習ではニワトリの羽根で、外国へ行くと水鳥の羽根でギャップが大きかった。

野村　昭和26年に公認１級シャトル１ダースが600円。もちろんニワトリだと思います。シャトルもさることながら、ラケットもオール木製で、強いスマッシュを打つとすぐ折れましたね。竹のラケットもありましたね。


野村　嘉明

清水さんは、高岡市役所の監督の名前になっておりますが、会社を替わられたんですか。

清水　所属は替わっておりません。同じ大会会場に行くのですから、高岡市役所に頼まれたんでしょうね。

第３回、第４回の宿泊条件ですが、１泊３食付き550円程度（米、寝まき持参）この頃は大会に米を持って行ったんですね。

宿泊条件には米持参

相場　米は多く持って行った記憶があります。秋田は米の本場ですから。

清水　第１回大会の写真がありますが、これは国民体育館ですね。第２回は横浜のフライヤ・ジム。第３回は長崎の小学校の体育館ですね。

横井　この写真は貴重ですね。この時代は第一カメラが高いですから。写真そのものが貴重ですね。値打ち物ですな。

清水　古い資料は結構あるのですが、第４回だけがないんです。

並木　第９回の善通寺大会を思い出して欲しいんですが、いろいろ問題があって午前１時位まで会議が紛糾して、（出場資格問題他）結論として実業団連盟を作ろうと気運が盛り上がった。

この時に、参加申し込みをすでに終えていた高松商店街チームと岡山教員クラブを棄権にしてしまった。

野村　この大会では森岡会計事務所（女子選手）は黒いパンツ（ブルマー）で試合をやっていたのが印象的だった。高校でやっていたそのままであった。

女子は１複２単で、一人強い選手がいて複を勝つと優勝してしまい、あまりおもしろくはなかった。これでは団体戦といえないということで後年男子同様２複３単となる。

昔はプログラムのチーム名の間違いが多かった。この頃は企業名を知らない学校の先生（日本協会役員）が、適当に作っていた感がある。あまり間違いが多いので、実業団が作ろうということになった。

相場　札幌の大会では、東北から参加したのは２チームなのに、１回戦で当てたりする組合せでひどかった。

今の抽選方式は非常に良いですね。終りまで監督は冷々して見ているみたいですが、昔は組み合わせが大変なことでしたね。


佐藤　忠男

並木　個人戦があった時は、組合せは２～３日掛り

7．座談会 (1)

ましたね。今だから言えるけど、大阪が参加申し込みを忘れていて、大阪の分だけ空けて抽選したこともありました。

横井　僕は、第５回大会の高岡の試合に初めて選手で参加したが、30才の時かな、楽しかったネ。その時はダブルスに出場して勝ったんだけど、２才年上のパートナーが試合中オタオタして、尻を蹴飛ばしたな（笑いワハハハ）ずいぶん気が若かったんですネ。

野村　僕も第５回大会の高岡が最初です。ずいぶん寒い時でした。十條製紙さんのプレーを見た時は、本当に気高いものを見たという感じでした。大会期間中、上位チームの対戦を最後まで観戦しバドミントンを学んで帰ったのが最初の参加です。

横井　あの頃は、楽しかったですネ。

相場　僕は帝国石油の監督をしていたが、名古屋大会２位、倉敷大会で１位になったが、その時に、決勝で負けるのも１回戦で負けるのも、負けは負けと言われたけど、あれだけは今でも忘れませんネ。


相場　清一

野村　その、名古屋の決勝の相手は、高岡市役所ですネ。

多賀　高岡市役所は強かったですね。

相場　ダブルスは勝ったんです。これは勝てるかと思ったが、ところが横山選手は以外と雰囲気に弱くて、負けてから後で聞くと、「あそこに並んでいるカップを見たら、勝ったらあれを全部持っていくのは大変と思った」と言っていた。

あの子は、ユーバー杯でも活躍しましたけど、私に言わせると、プレッシャーに弱かった。

十條製紙10回優勝の陰に科学的練習

野村　十條製紙さんは７連勝を含む10回の優勝という輝かしい偉業を遂げておられますが、特別の練習でもやっておられたのですか。

清水　練習は毎日やりました。選手には毎日その日の反省をさせ、夫々に課題を持たせ、その欠点の是正を目指した練習を部員が協力して行った。例えばネット前に落ちるショットがうまく拾えなければそれを克服する練習を、またスマッシュが決らねばそれに適した練習といった具合にして欠点の少ない選手作りをした積みあげが良い結果になったのかな。

野村　当時にしては中々理にかなった科学的練習をしておられたのですね。さすがです。

並木　皆さん、本日はどうもありがとうございました。創立当時の話、戦後の苦るしい時に始めたバドミントンの話など、貴重なお話を聞かせていただきました。これからも実業団を発展させていかなければなりませんが、今後ともご支援宜しくお願いします。と同時に皆さんのご健勝を祈念して、この座談会を終了させていただきます。



7．座談会 (2)

2．現大会を振返って
（第45回大会参加監督・選手）

開催日：平成８年６月21日
会　場：札幌市ホテルアカシヤ

出席者　（敬称略・順不同）
司会　並木萬次郎　日本実連副理事長
　　記念誌編集委員会委員長
　西原　四郎　大津市役所元選手
　滝　　正孝　富士フイルム監督
　北野　公男　大阪ガス監督
　弾正原義春　香川県庁監督
　寺田　　繁　富士通会津選手
　高橋　　清　関東自動車元選手
　早川　　博　日立・水戸監督
記念誌編集委員会
副委員長　野村　嘉明
委　　員　黒崎　二男　　京屋　孝治
（記録）星野　義昭　　幸野　邦昭

司会　第45回全日本実業団大会の開会式前のあわただしい折りにお集まり頂き申し訳ございません。

来年は35周年記念大会として東京大会を開催しますが、日本実業団連盟としては画期的な記念大会ということで、ご存じのとおり皆さん方からお金を集めて35周年記念誌を制作することになり、編集委員会のもと制作に取り組んでいるところです。既に２回の座談会を開催してOBの方々に過去の思い出について語っていただきました。今回は思い出話に併せてこれからの日本実連のあり方を話していただきたいと思います。

野村副委員長からレジメをお手元に配っていただいていますが、忌憚のないお話をお願い致します。

まず自己紹介からやりましょう。

私は記念誌編集委員会委員長の並木です。

35年間全ての全日本実業団大会を見てきています。古いばかりで何も出来ていませんが、そういう並木です。

野村　副委員長の野村です。住まいは京都です。９年前の京都大会で当時皆様とお会いしており、懐かしいお顔を拝見し、本日は有意義な時間を過ごせるのではないかと思っています。

ここの一部の方には原稿をお願いしご無理を申し上げています。目下35周年にふさわしい記念誌を作るべく努力しています。よろしく。

黒崎　黒崎です。実業団大会に携わったのは第14回松山大会からです。1964年から1981年の名古屋大会までなんです。所属は北辰電機でしたがその後会社も変わり実連とも縁遠くなっていたのですが、今回35周年記念誌を発行するにあたり手伝って欲しいということで、微力ながらお手伝いしております。

懐かしい人に会えることに併せて懐かしいお話が聞けることと何よりも有り難く思っています。

星野　電電東京の星野です。実連の役員は第28回の東京（駒沢体育館）大会からズーットやらせてもらっています。体育館の中で大パーティをやったのは後にも先にもこの大会だけですね。今回は編集委員としてお手伝いしています。よろしく。

幸野　編集委員の幸せを呼ぶ幸野です。プレーは松山大会から始めました。旧丸善石油の所属でその後千葉へ転勤になりまして現在はコスモMPCです。

西原　滋賀県大津市役所の西原です。20歳から実業団大会に出場しています。確か勝山大会からと記憶しています。あんなに太い男がよくやっているなという定評やったそうです。


西原　四郎

7．座談会 (2)

一昨年から何の因果か分かりませんが近畿ブロックから監事をせいと言うことで、今回の改選であと二年間やれということで監事をやらせてもらっております。

北野　大阪ガスの北野です。選手としては実業団大会で目立った活躍をしている訳ではありませんが、私が初めて実業団大会に参加したのは第20回高松大会からで、七、八回くらいは１回戦で敗退する弱いチームでしたが、一、二名の強い選手が入ってきてある程度結果を残せるようになりました。


北野　公男

私自身としては何とか目立つ所ということで、目立つ所というと審判の座が有りましたので、何とか審判資格をとり、全日本総合とかジャパンオープンに呼んでいただき、決勝なんかの審判をやらせて貰っています。決勝審判をやらせていただく関係でテレビに何回か映りまして、それがバドミントンをやっていて良かったなと思っています。(爆笑)

弾正原　香川県庁の難しい名前のダンジョウバラです。僕も西原さんと同じ22年生まれ48歳です。

バドミントンは県庁に入ってから一生懸命やり遂げてここまで来られたというのが現状です。

茂原大会から今回まで24回目です。今回は監督ですが、仲間が怪我でもしたら出ようかなと思っています。仲間とか仕事に恵まれたのか今でも週３回練習をやっています。若い人に言うんですが「強くなるより長くやれ」と。やはり人を知り、いい仲間をよけい作ることが大切ですね。

滝　富士フイルムの滝です。私はバドミントンは初心者からズーット続けています。今年は大台の50歳になりました。実業団大会は第21回鹿児島大会からデビューしましたがダラダラ現在に至っています。ご存じのように平成15年の国体が静岡になりまして、富士宮市でバドミントン競技が開催されますので、これから忙しくなります。

寺田　福島の寺田です。高校を卒業して地元の富士通会津若松に就職致しました。その後本社（東京）へ転勤しまして、ここにおられる高橋さん、小島一平さん、宮川さん(河崎ラケット)、横浜市役所の渡辺さんらと一緒に練習して、強くなったという想いがあります。昔は実業団大会は団体戦と個人戦もありましたが、今思い出すとようあそこまで団体戦もやって、個人戦もやりましたよね。若い選手には、自慢じゃないけど団体戦もやって個人戦もやったんだぞと話しています。

今年は福島国体で成年男子の監督になって強化の方に携わっており、毎日仕事をやっていない状態です。職場に戻ったら机がないかなと不安です。(爆笑)ここまでこれたのも会社のバックアップと仲間の方々が理解してくれたお蔭と感謝しております。

高橋　関東自工の高橋です。私は実業団大会は第23回の石岡大会から参加し、今年で23回目になります。私は実業団で育てられ強くなったと自負しております。実業団大会は団体戦の日本一を決める大会であり、それに向かって励んで来ました。

一番思い出に残るのは尾崎・池田組(NTT東京）に勝ったことです。忘れもしない立川大会です。

くじ運悪く「１番」を引いてしまいNTT東京の下に入ってしまったんですよね。関東自工が２：１とリードして会場は異様な雰囲気になっていたんですが、最終のシングルの私まで来たらダメだと思っていたら来ましてね、土田に１本しか取れず終わってしまった。(爆笑)最近シニアの大会に昔

7．座談会 (2)

の選手が出てくるようになりましたよね。実業団もシニア大会を企画すればおもしろいのではないでしょうか。

早川　日立水戸の早川です。実業団大会との出会いは日立に就職しバドミントン部を作ってからですが、ここにおられる並木さんに指導してもらい、第16回大阪大会から参加しております。過去においてはベスト８が最高ですが、最近は１、２回戦がやっとのチームです。高校時代の同期に秋山（元全日本チャンピオン）がいまして、ここにいる星野さんも国体に出場しており、新潟は強いナなんて言っていました。茨城県はバドミントンでは後進県でしたので、自分で実業団連盟を作りました。今までバドミントン普及のためにいろんなことをやって来ました。


早川　博

司会　皆さんの自己紹介を聞いていますと、さすが職場のミスターバドミントンが今日集まっている感じがします。高橋さんのチームも、滝さんのチームも２日目はいつも夜の10時ころまで試合をやっていたことがありましたね。役員も飯を食えないワ、暇はへるワで大変でしたが、試合をやっている選手はもっと大変でしたよね。

全日本実業団大会と地方大会との関係について何かありませんか。

参加チームが多すぎるので、地方ブロックの代表で全日本実業団大会をやったらどうかという意見もありますがね。

野村　私は役員時代から、県から地区そして全日本へとピラミッド型の大会運営方針を主張してきたが財源面で対策が立たず、実現を果たせなかった。

西原　全日本実業団大会へ参加すると有名な選手とお手会わせ出来、誇りがもてて地方へ帰ると頑張れるので、この大会はこのままでいいと思いますが。将来的にも魅力ある大会にするために役員会でも議論しているところです。理事の役割分担、地方支部と執行部との関係は何処にあるべきか考える必要があると思います。

北野　大阪実業団連盟は65チームありますが、話題にのるチームは３チーム位で、あとは１、２回戦がやっとのチームがほとんどです。意識の上でも上位と下位のギャップは大きいですね。

滝　　ベスト５位に入った時、日本リーグに入る権利が出来たと言われましたが、参加料が100万円以上もかかるので会社が許してくれなかったですよ。

日本リーグはNTTさんには申し訳ありまんがNTT東京、北海道、関西、東北と４チームもエントリーしているので面白味がなく、新鮮さがありませんよね。

マスコミへのPR不足

寺田　ベスト16に入ったことがあり、日本リーグに誘れた事がありましたが、一ヵ月も会社を休めないことと、参加料が高いという問題がありました。

上の方から金は出してもいいがマスコミに何も出て来ないし、スポーツ欄でも取扱が小さく宣伝効果がないと言われました。

地方大会との関連ということですが、東北実業団大会で団体戦をやっていますが全日本のブロック予選にはなっていません。

全日本チャンピオンを目指すには日本リーグもあり、個人的には今のままでいいのではないかと思います。

滝　　運営面から財源の確保とマスコミへのPRの大切さは分かります。私はマスコミへのPRは選手自身がやるよう教えています。バドミン


滝　正孝

7．座談会 (2)

トンだけでなく他のスポーツでも強くなって職場の仲間から可愛がられ、スポーツは何と凄いと言われるように自分を位置づけろと部員に教えているんですよ。

弾正原　企業は実業団大会でなければお金も旅費も出してくれないですよ。従って出場枠の制限はありますが１チームでも多く全日実大会へ出場させたいですね。香川県では出たいチームは沢山あります。

司会　高橋さんの所は、グループ企業大会が盛んですよね。

リストラで実連も運営厳しくなりそう…。

高橋　トヨタグループ大会も今年度を以て終わりとなりました。やはり諸般の事情がありまして。(爆笑)

自動車産業は対米輸出摩擦の影響により、現地生産が進んでいましてね。リストラで大変なんですよ。今は各企業とも体力勝負の時期ですので固定費の削除を考えています。クラブもしかり、全日本でベスト16に入らないと予算が削られるんですよ。

日本実連も先を見ると運営が厳しくなってくるのではないでしょうか。

滝　バドミントンは人気がないと一流選手達も人気が上がるよう努力しなければね。

監督の考え方が間違っているチームもあります。

我々は競技場を与えてくれればいい等とのたまわっている。開会式にも出ない選手がいますが全員が揃ったユニホームで参加して入場行進もきちんとやらないといけませんよね。

黒崎　バドミントンはきちんとしたユニホーム姿で試合をやり、清々しいものだとう印象が欲しい。

本来なら手本になる選手がやらねばならない。選手は分かっているのかいないのか。全日本はきちっとしているが地方大会は赤を着たり、黒を着たり、てんでばらばら。自分達でレベルを下げている。

司会　現在の実業団大会は220チーム、2000人集まるという大会についてどう思いますか。こんな膨大な大会はバドミントンだけです。

読売の小林記者は、いいじゃないですか、この大会くらいやんなさいよと言っていましたがね。お祭りでもなんでもやんなさいよと言われそのままズーット来ています。

日本実業団連盟に対しての希望、意見はありませんか。

早川　今の大会についてですか。出来れば二つくらいにレベルの差をつけてもいいのではないでしょうか。

野村　私は日本リーグ創設時、日本リーグの下に実業団リーグを何部か作り、その下には地区大会を勝ち抜いて来たチームによるトーナメント戦の大会を設け、その各部間は入替え戦をやって行く形を提案しましたが受入れられませんでした。

弾正原　この大会は上下の差がずいぶんありますが、強いチームとぶつかる楽しみもある、こういう大会があってもいいじゃないですか。

司会　聞くところによると、全日本に通じない大会には出場出来ないという事業所もかなりあるようですがそこら辺が大会形式変更の難しいところですね。


高橋　清

高橋　うちらは日本リーグ２部に一生懸命チャレンジしているのですが、少し問題になっているのは、全日本実業団大会でベスト16に入ったら日本リーグ入りの権利があるということでしたが、昨年から話が違って来た。都道府県の推薦チームが入れるとか、話が変わってきた。

自己申告制の大会はどう

寺田　会社は結果しか見ない。全日本実業団大

会は腕に自信のあるチームはこの大会に出場し、次のクラスでいいやというチームは、レベルの低い部へ出場するようにしても面白い。自己申告制にしたらいいのではないでしょうか。

滝　都市対抗野球のように地区から代表で全日本実業団大会に出場するべきだと思います。

それから、参加料が高いのがネックですね。

チームは金の面で苦労している。又大会中選手は自分でコントロールして体調を整えているので練習会場は要らないのではないかと思います。

他にも節約出来るところがあると思います。出来る限り切り詰めて、その分参加料を安くして欲しい。

全日本大会は選手自身が盛り上げるべきであり、一流選手はお膳立てされた舞台に上がるだけでなく開会式にも揃ったユニホームで全員参加すべきですね。一流選手で開会式に出ない者がいると聞きますが残念なことです。

弾正原　香川県の野口さん（元日本実連常務理事）が役員の頃は、選手の服装について厳しかった。

短パンでやらないと途中で棄権扱いとなる程実業団は厳しく、協会は甘かった。

全日実大会は変革期にある

寺田　先に申し上げた自己申告制もよいが、企業にとってみれば、1部、2部に分けてもベスト8に入った方がよいと思う。

西原　全日本実業団の上が日本リーグという考えになるのかな。こういう変革期を迎えているかもしれませんね。又全日本大会はいろいろの開催地へ行く楽しみもありますね。

寺田　東北実業団大会はブロックに分けてやっています。日本リーグは1、2、3部に分けたらいいのではないでしょうか。入替え戦もやって上へ上がるようにしておく。この大会の決勝は是非テレビ放映するようにしたらどうですか。

今はママさんのバドミントンは盛んで観てくれる層も広いと思います。

北野　大阪も門戸を開放して、多くのチームを出場させたいが、全日本大会は無制限の出場枠とするわけにはゆかないし、また中身のない大会となっても困りますし、皆様の話を聞いて思ったのですが、1部は実力のあるチーム、2部は全日実大会にだけ出たいチームに分けてやっていいのではないか。

弾正原　この大会が変革する事ができ出場枠が増えれば、香川県でも出場したいチームが沢山ある。

是非クリヤーして欲しい。出来れば1回戦は同じレベルのチームとあたりたいというのが地方の希望と思います。

滝　ずばり全日本の名を生かして規模を小さくしないようにして、都道府県代表のチームでやってもらいたい。

寺田　福島県ではバドミントンといえば富士通と知られているが、帰ってきて全日本へ出て来たんだよというPRがないんです。これからの全日本のあり方はアピール度を強くしなければならないと思います。トップとの差が出ている現状では、何しに全日本に参加しているか分からない。


寺田　繁

高橋　皆さんが言ったように、あとはアピールが問題であり、何らかの方法でアピールして欲しいですね。マスコミに対するアピールが大切ですよね。

野村　PRの一番は、世界に通用する選手が出さえすれば、自然とマスコミはついて来ますよ。

7．座談会 ⑵

司会　最近はPRが極めて悪い。以前は日本体協の中にバドミントン部会がありまして、体協の中の体育館で記者と親睦のバドミントンを開催したり、全日実大会、日本リーグ開催前には、東京と関西同時開催で、大会のみどころ、大会資料をもって大会を紹介していました。記者の方は資料を貰うと書かなくてはということになります。

野村　この事は、大会本部に義務付ける必要があります。日本実連執行部も反省を要します。

みんなでPR活動を

滝　　静岡でも我々の方から記事となる資料を提供しています。〇〇チームに凄い美人がいますとか、スコートでやるとか言いますとマスコミも飛びついてくる。(爆笑)

京屋　神奈川県も去年から神奈川新聞へ記録をFAXするようにした。今大会も来る前に新聞社へ連絡を入れてきまして、神奈川県のチームの結果は全て載るようになっています。

弾正原　香川県も同様です。全実大会の結果もFAXで送るようにしています。本部は勿論のこと各県も頑張る必要がありますね。



弾正原義春

野村　この大会は優秀な選手を抱えているのだから、是非ともやって行かねばならんよね。

司会　それでは時間も予定より大分過ぎましたので、話は尽きませんが、この辺で座談会をお開きにしたいと思います。

貴重な意見有り難うございました。

明日からの大会のご活躍を祈ります。



7．座談会 ⑶

3．日本実連の運営を顧みて
（日本実連役員（元・現））

開催日：平成７年２月20～21日
会　場：日本石油伊豆山荘

出席者（敬称略・順不同）
横井　初夫（元日研化学選手）
日本実連副会長
並木萬次郎（元電電東京監督）
日本実連副理事長
池田　芳麻（元日本実連常務理事）
大阪府実連副会長
中山　邦夫（元日本実連常務理事）
富山県実連会長
野村　嘉明（元日本実連副理事長）
京都府実連会長代理
京屋　孝治（神奈川県実連理事長）
日本実連常務理事
油井　秀男（愛知県実連理事長）
日本実連副理事長
古田　　崇（ＮＴＴ東京部長）
日本実連副理事長

（記録）
星野　義昭、黒崎　二男、幸野　邦昭

司会（並木）　お忙しいところ、お集まりいただき有り難うございます。


並木萬次郎

日本実業団の35周年記念誌をつくるということで、本日皆さんに集まっていただきました。

既に第一回目の座談会で、実連の創立期について話してもらいましたので、本日は運営面での思い出話をまじえながら、実業団連盟が、これから発展していくためには、どうしたら良いのか、忌憚なくお話をしていただきたいと思います。最初に池田さんからお願いします。

池田　６年前にＮＴＴを退職しまして、今は短大の体育の先生をしています。

昭和33年頃から大阪実業団に関わったが、34年の善通寺大会の帰りに並木さんが大阪に立寄り、その時にこういう連盟があり、全国組織を考えているけど、大阪も入ってみないかと言われ、日本実連があることをこの時に知り、日本実連には36年に加盟し、全国大会に大阪からも出場するようになりました。

思い出すのは、中山さん、宮永さん達と夜遅くまで話し合ったことなど、沢山ありますが、旨くまとめられません。

大阪は、今まで３回の全国大会をやりましたが、27回大会では、150万円位の総予算だった。今や２千万円、実業団の大会は、どこまで大きくなっていくのだろうか心配になってきた。

中山　第５回の高岡大会が、地元開催であり、そこに顔を出したのがキッカケですね。

十條製紙の清水さんに誘われて、高岡市役所に入ってからやるようになったが、９回の善通寺大会から、女子が参加し、翌年の名古屋大会と２回優勝してしまった。女子は１複２単の時です。

第11回の倉敷大会で並木さんと出会い、その後役員として仕事することになった。そのうちに皆さんとともに、実業団連盟に力を付けようと頑張ってきました。

電電東京の理事長および並木総務のもとで、頑張ってこれたのは大変なことだが立派な連盟になってきたと思う。昔はよく喧嘩して、話し合いが夜遅くまでやったもんだが、今思えばそれが良かったのではないかと思っている。

並木　日本協会の内部では、当初バドミントンは個人戦で、団体戦を行うのは邪道だとの

7．座談会 (3)

声が強く、実連を応援してくれた森友氏でさえ、そこは譲らなかった。

企業（実業団）がやるからには、しょうがないと言ってはいたがね。

水鳥の使用も実業団が最初で、松山の大会から使ったが、いずれにしてもいろいろな面で、突っ走って、突っ走ってきた感がありますね。

中山　バドミントンメーカーの皆さんには大変お世話になりましたね。びっくりしたのは実業団で優勝したら、たしかに金の無いチームであったが、シャトルコックやラケットが只でくるので、これは優勝しなければ駄目だと思った。

池田　16回大会の時、米山ラケット（現在ヨネックス）のシャトルは、指定球ではなかったが、良いシャトルだから選手の皆さんに使ってもらえばと思って、４種類の指定球シャトルの他に米山のシャトルを大阪の大会で使用したところ、日本協会に連絡してなかったので大問題となった。日本協会の総会で事情説明して謝罪したことがありました。援護は全然なかった。

バドミントンが人生であり、やっていなかったら、まるっきり違った人生を送っていたかな。

実連の財政基盤の確立を!!

並木　この辺で話題をかえて、日本実連の財政問題を話してもらいましょうか。

池田　日本実連の今の組織では、どう考えても基金は溜まらない。

中山　いや、そうじゃない。儲けようとしないからだ。日本実連は吸い上げようとしているだけで、開催地とイーブンで儲けなければ駄目だ。

京屋　以前、実業団連盟の財政基盤を強固なものにするため、常務理事会に提案し皆が納得していたにも関わらず、提案直前の常務理事会で一人の反対で提出しなかった経緯があり、それ以降全然提案されていない。

（現在事業所登録のみであるがこれに加えて個人登録料300円／人／年徴収を提案）

池田　実業団の今の大会のようでは、儲からない。参加する企業が負担をするとか、参加料だけですませるシステムであれば別だが、そうすると参加料が高くなる。

油井　実連組織の一般財政は、今大変であり、今回の総会でもメスを入れていくことを考えている。大会開催地は比較的プラスになっているが、吸い上げることはできないので、実連は分担金だけで運営しているのが現状である。

並木　大会がいくら発展しても、実連本部に基金を蓄えるシステムになっていない。登録費だけである。

中山　富山県では、毎年日本リーグをやっているが、観客を多く入れて、そこで選手強化の費用を捻出している。

並木　日本リーグも途中で運営方法を変えて、赤字にならないようにしたので成り立っているが、各チームの負担は大きい。

池田　実連が中心になって作った日本リーグ組織によって収益が上がるシステムが判ったが、今更、実連が日本リーグを抱え込んでやることはできない。

中山　日本リーグは日本協会が主催しているが実際の運営はどこがやっている。

野村　実連と東京都の役員でやっている。財政には危機感がある。

横井　私も財政には非常に危機感を持っている。実業団大会は、２千万円以上かかる。参加料も企業負担、広告料も企業負担、つきつめれば企業丸抱えで行っている。


横井　初夫

日本リーグも、今は儲かっているが開催

地にできるだけ、儲けなさいと言っている。しかし、心配なのは参加チームの企業負担が１千万円位かかっているため、現在の経済情勢では参加をやめたと言いかねない。そのため、企業の負担も減らす必要もある。

たしかに、役員の方も替わったし、考え方も変わってきている。そのなかで一番大事なのは、実業団は企業の集まった組織ですから、本来なら一番力を持ってよいはずだが、残念ながらそうなっていない。

池田　日本リーグの収益は主管協会へ入っている。実業団連盟には何も入っていない。実連の現状の組織では、どうやって収益を上げるかは難しい。

中山　実連の大会は、絶対赤字にしないようやっているはずで、各支部連盟は収益を上げている。しかし、実連本部にはなにも入ってこない。

野村　実連本部に基金を残す方法は、現状では大会の開催権料を貰うか、以前京屋理事が提案した個人登録料を納めるか、二つの方法より無いと思う。


野村　嘉明

池田　方法は、何の当てもなく大会をやってくれ、開催地で収益を上げてくれ、どうぞ、どうぞでは、いくら論議してもしょうがない。

油井　開催地に手を加えるか、連盟は方向性だけを指示するのか話は出ている。今までは大会を開催するのに開催地にお願いしてやっていたが、最近は立候補しているので、開催権料も考えていく必要がある。

横井　実業団の行事は、全国大会一つだろう。大会規模が２千万円位の経費で、そこからの収益は、たいした事がないだろう。

個人戦復活を再考するか

中山　40年間という歴史を踏まえて、次のステップへ階段を昇らにゃいけん。それでは何をするのか、まず実連の財政基盤を強くしないと駄目だ。それを作るには、負担金を取るか、事業をやって収益をあげるよりない。

それと、実業団だけ、個人戦が取組めないのは非常に問題がある。実業団から全日本総合大会へ選手を出せないのはおかしい。検討の余地がある。

池田　今の組織で、今の大会を運営しているだけでは難しい。実連本部が主催して何等かの冠大会を開催することも検討する必要がある。

中山　出来ないという前提で話を進めるといつまでも出来ない。前向きに提案された事には真剣に討議し前向きに取組んでもらいたい。

全日実大会の形体を考える時期

野村　どうしたらやれるかと言う事で、昔から掻き回（提案）してきたが、変わらなかった。

個人戦をやるとしたら、地区大会の上位入賞者を集めてでないと、膨大な大会になるし、また、権威もなくなる。昔からピラミッド化を言っているが、なかなか同意してもらえなく、今日に至っている。

全日本大会に150チームも集まっているのはおかしい。各地区大会の結果が繋がるようでなければいけない。


油井　秀男

油井　各地区ブロック大会をやっていないところもあるので、それをやらせるのが前提で、その中から選出してもらうことも考える必要がある。

池田　先にやれるところはやってもらう。出来ないところは外してしまう。

並木　なぜブロック大会ができないのかと言うと、全日本大会へ出場するのとブロック大

7．座談会 (3)

会へ出場する費用が同じくらいかかり、二度も経費を出すことが難しいところもある。

中山　個人戦をやるには、今の団体戦の選出方法では駄目で、ブロックから選ぶか、各都道府県代表とするのか、常務理事会で検討してもらいたい。

野村　個人戦が廃止になったのは、大会規模が大きくなり、期間が長くなることでクレームがついただけで、良い時期を選んで団体戦と別にやれば、出来ると思う。

油井　もしやるとしたら、出場する選手の制限枠を圧縮しなければいけないと考えている。選手の健康管理の問題も考慮する必要がある。団体戦で上位に勝ち進むチームの選手は、個人戦でも出てくるので、続けては無理と思っているので、分離するか、続けてやるかは検討の余地がある。

中山　選手の健康管理は、非常に難しいが本当に考えてもらいたい。

池田　大阪には、日本リーグ参加チームが３チームあるが、もし実連や、地元協会の大会に出場しなくても、日本リーグや、全日本大会へ出られるシステムなら、選手の健康管理、スケジュール調整から、地元の大会へは出たくないと言うのが本音です。それ程ハードなスケジュールです。

野村　この様に、全部出場させているのはバドミントンだけです。昔から僕は日本リーグメンバーは最初から外すべきだと言っているけど聞いてくれない。

池田　選手、監督、企業の意識が変わってきている。日本実連の大会に出るよりも、日本リーグと総合選手権に出ることに意義を感じており、実業団大会に対する意識が低下していると感じられる。昔と反対になっている。

それと、この様な意識を持っているチームと、全日本実業団大会だけを楽しみに出てくるチームとが一緒に大会を行っているところに問題がある。

中山　ナショナルチームのメンバーの大半が、実連に所属している。彼等は社会人大会、実業団大会、日本リーグ大会等の各種大会の他に、ナショナルチームの合宿が頻繁に行われており、その面でも選手の健康管理を考えてやらなければ、環境の良い人は勝っていけるが、それ以外は大変だ。

池田　日本一の大会にするのであれば、参加料も高くなるのも当然。その代わり厳しい制約がなければ駄目や。昔、野村君が言っていたように、ブロック大会で選ぶ方法が最適で、今はその時期になったと思う。それが無理なら各都道府県での優勝者とするか、２位とか３位とか、一定のレベルでないと参加できない権威のあるものにしなければ、選手も張合いがない。

個人戦をやっていないから、実業団大会で優勝しても総合選手権に出場できない。その結果、選手は社会人大会にウエイトを置いている。大きな組織で、個人戦を行なっていないのは実業団だけである。

いろいろ改革する時期である。

油井　今まで、本部の委員会活動の動きがとれていなかった。NTT東京さんに依存してきたが、脱皮しなければいけないと思っている。一つの企業にしわ寄せをかけるときではない。

池田　全日本大会に、実連常務理事がダーと１週間も、大会期間中行っているが本当に要請があって行くなら一人か、二人で十分だろう。後は行かんでも地元組織が出来るだろう。そしたら、それに掛かる経費も使わなくて済むし、それを保留し基金に組入れていけるだろう。本部も、もっと常務理事会で真剣に論議してもらいたい。

野村　最近の常務理事さんは、皆さんおとなしいようですな。あまり建設的な意見はないと聞きますが。

7．座談会 (3)

京屋　常務理事の人数が、最近は多くなったが、会議といっても中身の薄い現状の問題だけで、折角遠くから集まってもらっても、突っ込んだ話し合いがほとんどない。


京屋　孝治

野村　常務理事さんは常に問題意識を持って次代に向けて新提案をドシドシ出して欲しい。次代へ向けて新提案と論議を期待する。

中山　私も聞いているが、つまらない話で時間を使っているらしいですな。泊まり込んでの話合いもないらしいし。

横井　皆さんがおっしゃった一つは、今の大会の質を高めるということ。以前、団体戦のチームを減らすことを提案したが、猛烈な反対を受けた。実業団の発足が職場のスポーツの励みになるよう、なるべく沢山のチームを出場させることを、当初の目的としたのも事実である。

今でも出場数を増やせと言うのがいたがね、そういうのを変えて、質を高めるには、どうしても今の団体戦の形を変える必要がある。それと皆さんが言っているように、個人戦を何らかの形で復活させる必要がある。

いずれにしても、団体戦そのものが福岡大会では200チームを越えているし、選手も２千人でしょう。何らかの手を打たないといけない時期に来ている。直ぐには結論は出ないと思うが常務理事会で検討してもらいたい。

油井　先ほど言いましたように、提案するには、３年前位に言わなければならない。今回35周年という行事が終わって丁度よい切れ目になります。

財政の基盤の問題、チームの出場制限枠の問題等を検討する時期と思っている。先ほどから出ているご意見、提言を参考にやっていかなければいけないと思っている。

中山　組織についても問題がある。現在は日本実連と各都道府県連盟が直接結び付き、各ブロックの理事が、都道府県連盟の意見を集約しているところはない。現実には各ブロックがあるわけだから、組織の流れとしてもおかしいし問題である。

並木　問題は連盟の財政基盤で、登録費で賄っている限りは難しい。今現在は各支部連盟で登録が７団体増すごとに１団体が大会に参加できるシステムになっている。このシステムがあるから登録する団体の数も増えてきた。

100団体の連盟と、数チームの連盟の登録で、大会参加数を同じにしたら各支部連盟とも、登録団体数を減らしてくると思う。そうしたら、財政基盤が完全になくなる。

横井　その議論がでたから、今まで怖くて手を付けられなかったんだろう。

並木　結局、７団体で１団体の参加システムを変えることはできなかった。


中山　邦夫

中山　その考えでは、絶対駄目や。財政基盤が弱いんではなしに、現状の金額でやっているから、こういう事になっているわけで、例えば参加料をアップするとか、対策を考える必要がある。金がないからと言って、参加チームを多く集める方法は財政基盤の立直しと一緒に改善していく時期にきている。

皆の合意でなくとも、多数決で決めていく事も必要。

野村　昔、議論して潰れた事も、今、実ってきている、形になって表れてきているのは喜ばしいことです。日本リーグだって最初に計画したときは、コテンパンに叩かれたじゃないですか。

しかし、今は立派に成功して続いている。

7．座談会 (3)

並木　日本リーグの実連主催に反対したのは、財政基盤の関係で、赤字になったら出来ないので反対したが、現実は儲かってしまった。

野村　あの時の反対がなければ、日本実業団リーグになっていたかな、実業団選手権大会を止めると言ったので皆に反対されたが、あれは、大会の形態を変えようということがよく伝わらなかった。

並木　実業団選手権大会を、優勝大会に変更する案もでたが、それでは権威がなくなって参加チームが企業から出にくくなる心配もあった。

池田　昭和50年から54～5年までは、この論議は不毛の論議であって、理想論であった。


池田　芳麻

今、このまま全日本実業団大会をやっていけば、どこまで広がるか分からない。そんな大会をいつまでも続けることはナンセンスである。それなら、10年前の論議にもう一度目を向けるという時期になってきたのが、35周年と言うことや。

こういう問題を常務理事の皆さんに真剣に考えてもらい、それを説得する時間と熱意があれば成功すると思う。やっぱり論議を重ねて、３年、５年先の目標に向けての発想が我々にも欠けていたと感じる。

横井　今後は、常務理事会で良く検討してもらえば、いいんじゃないですか。

油井　皆さんが言われた貴重なご意見、提言を今後の活動に活かしていきたいと思います。

並木　最後になりましたが、今後ともご支援ご協力宜しくお願いします。本日はご苦労様でした。



日本実業団バトミントン連盟
副会長　宮永　武司

●用具の発達がプレーをどう変えたか？

1850年頃に始まったと言われるバドミントン競技もすでに140年以上の期間を経て今や全世界でポピュラーなスポーツとして幅広く行われるようになりました。この間、ラケットはオールウッドからスチールシャフト、そしてオールスチール、アルミ、カーボン、チタンと近年では目まぐるしく変化して来ています。ガットについても鯨からシープ、合成繊維となっています。さらに服装についても男女とも動きがスピーディになるにつれてもの凄い変りようですし、カラフルにもなって来ています。また、シューズなどもバドミントン専用のものが出来ています。それにコートさえもコンクリート、木の床からゴムのマットが使用されるようになって来ました。もち論、シャトルについても質はぐんと良くなり丈夫になっていますし、とくに我が国では陸鳥（鶏）から水鳥（鳶鳥）への移行はプレーも大幅に変化をもたらした事はいう迄もありません。

さて、この様な用具の変化がバドミントンプレーにどの様な影響を与えているのでしょうか？　まずもってラケットの変化が与えたものが一番大きいでしょう。戦後でみてもオールウッドの頃は、はじめは160グラム前後でしたし、シャフトのしなりにも限界があった訳で、スマッシュを取ってみても全力でどちらかというと肩の力の強さが求められたのです。正確な打点でインパクトが得られないと威力のある打球が打てず、レシーブについても少しでも遅くなると不利になりました。

現在の90グラムを切るぐらいのラケットにあっても正確な打点は要求される訳ですが、ラケット自体の反撥力をうまく利用する事によりリターンそのものは容易になっています。しかし、ラケットの軽量化により振りはより鋭くなってシャトルのスピードは、スマッシュ等では時速350kmを超えるといわれます。したがって、強靱な脚力と瞬発力を要求され、ウッドラケット当時に較べるととくにバックハンドはより威力のある打球となって来ています。また、男子のシングルスにおいてはロングハイサービスばかりでなく、ショートサービスが多用される傾向にあります。これは、スマッシュのスピードアップによるサーバーの不利を少しでもカバーするためです。ダブルスにおいてもトップアンドバックでなくローテーションも自由自在、ペアによっては隙あれば直ちに二人で攻撃に移れるようになって来ました。

これもレシーブ力アップに伴ないより強力な攻撃が求められるのと中間ボールに飛びついて叩きつぶすためです。それと甘い攻撃は直ちに強力なレシーブによって攻守が入れ変ってしまうからです。また、もう一つ忘れてならないのはネットプレーです。一見、何の変わりもない様ですが、トッププレイヤー同士の闘いは相当なウエイトでネット際のプレーが勝負を決めるようになっています。その際、ラケットの軽量化と反撥力が大きく影響を与えているのです。瞬間のネットアタック、思い切ったヘアピン、そして正確なバックバウンダリーラインへのリターン等どれをとってもラケットの変化がプレーを変えて来ています。さて、一寸角度を変えてみましょう。それは女子のプレーです。ウッド当時は女子にとっては不可能とも思われたバックハンドのスマッシュ、リターンエースも奪える程のレシーブ、思い切ったネットへのダッシュとよりスピーディになった事です。現在の女子プレイヤーのスピードは昔の男子顔負けのスピードとテクニックが見られる様になりました。

これはまさしくラケット軽量化と質の進歩によるものでしょう。いずれにしてもラケットの発達はプレーをより速く、強力なものにした訳でトレーニング（筋力等の）や練習にしても重点がらさに研究開発されてくる事と思います。

●ヨーロッパとアジアのバドミントン

良くヨーロッパスタイル、アジアスタイル等の言葉を耳にしますが、そこにはどんな違いがあるのでしょう。これは多分に歴史的なものと気候風土から来るものとがあるのだと思えます。しかしながら近年はそれ

それのスタイルが混り合って新しい型のバドミントンが形成されつつあるといった方が正確かもしれません。これにも用具の進歩が影響を与えているのではないでしょうか。歴史的に一応みて行くと、イングランドを中心に北欧で盛んなバドミントンはクラブを一つの単位として社交的な要素を多く含んで発展して来たのがヨーロッパのバドミントンでした。したがって、老若男女が一緒に楽しむ事を主体とし、もち論室内でそれも寒い季節の娯楽として盛んになって来た訳です。いきおいダブルス、混合ダブルスが大変発達し、シングルスについてもテクニックが極めて重視され、あっと驚くようなテクニックが求められたのです。勝負も大切ですが、より素晴らしいテクニックを駆使しての勝利を求めてプレーは続けられました。男子のトップシングルス等でもどちらかというと基本に忠実なハイクリアー、正確なスマッシュ、流れる様なフットワークを生かして〝きれいな〟バドミントンといえましょう。

一方、アジア諸国のバドミントンはどうでしょう。これには若干変遷があったり、歴史的にみて違いがあるために一つだけに限定するのは困難があります。全盛期のマレーシア(当時はマラヤ)、ソネビル、タンヨーホク時代のインドネシア第一期黄金時代のプレーはスピードにおいてヨーロッパスタイルに大して勝っていたものの本質的にはそれ程違いがなかったと思われます。それは、マラヤの選手もソネビル等もヨーロッパに在住したり、練習相手もヨーロッパプレイヤーであったからと思います。でも、マラヤもインドネシアの全盛時代も勝負に対する執念だけはもの凄く、ヨーロッパの社交的なものからははるかに離れた競技スポーツとしてのバドミントンでした。そして、ハルトノ、チュンチュン、クリスチャン等が活躍したインドネシアの第二期黄金時代、候加昌、湯仙虎、陳王娘等を擁して世界中をうならせた中国のプレーはスピードが増しただけでなく、よりパワフルなものへと発展して行くのです。

ここで忘れてならないのが、日本女子陣の大活躍です。1966年初参加でユーバー杯を制した我が先輩達、中山、湯木、相沢、竹中等のプレーは華麗でヨーロッパスタイルともいえたでしょうし、反面スピードもありアジアスタイルの勝負に徹した面も持ち合わせて全盛時代を築いていたのです。

現在では、男子においてインドネシアが第三期黄金時代を迎え、とくに、シングルスでは世界のランキングトップ10のうち絶えず5人以上を占めており、スピードはもち論のこと、強靭な体力と精神力をもって新しいバドミントンの時代をリードしています。

また、前回のバルセロナ大会からは、いよいよバドミントンがオリンピック種目になった事により、世界中の国々が今迄以上に力を入れ始めました。もち論、インドネシアは男女ともシングルスを制し、国を挙げてのお祭り騒ぎとなり、今年のアトランタ大会でも連覇を狙っています。ただ、朴柱奉、金文秀に代表される韓国パワーの爆発力と華麗なるテクニックは、往年のデンマーク、コペロ・ハンセン組を彷彿させるものがありました。でも、さすがインドネシア、ダブルスでもスバグジャ、マイナキーと云うエースペアの登場で今回のオリンピックは単複とも優位に立っています。一方、女子では、残念ながら日本の凋落のあと、韓国、中国、インドネシアのアジア3国の猛烈な主導権争いが続いており、そのプレーぶりも三者三様とは云え、いずれも女子とは思えぬ程の力強いリターンとその粘り強さは、他の国々を寄せつけません。ただ、そろそろ、アトランタ大会を機に、アメリカをはじめ、本家イギリス以下、デンマーク、オランダ等のヨーロッパ各国も実力をつけており虎視坦々と王座奪回を目指している。最後に我が日本の男女ともの復活を願っている事は云う迄もない。

〈宮永武司の主な競技歴とプロフィール〉

慶大－明治生命保険相互会社
現日本実業団バドミントン連盟副会長

インカレ	昭和37年男子単優勝
全日実大会	昭和43年一般男子単準優勝
全日社会人	昭和39、40年一般男子単、複2回連続優勝
全日本総合	昭和37、39年一般男子単優勝
	昭和39～41年一般男子複3回連続優勝
国際大会	昭和42年第7回トマス杯大会日本代表選手として活躍

現役引退後も豊富な現役体験を生かし日本協会及び日本実連の常務理事、東京都実連会長、東京都協会副会長としても活躍

第三回全日本實業團バドミントン選手權大會要項

一、主　催　日本バドミントン協會

二、後　援　長崎勞働省
長崎縣
長崎市
長崎縣・市敎育委員會
長崎縣・市体育協會
長崎商工會議所
長崎民友新聞社
長崎縣バドミントン協會

三、主　管　長崎縣バドミントン協會

四、開催地　長崎市南小學校（コート六面）

五、會　場　勝山、新興善兩小學校（コート六面）

六、期　日　昭和二十九年二月十三日（土）十四日（日）午前九時より

七、參加資格　各都道府縣バドミントン協會加盟團体にして本部協會へ個人登錄濟の者（除クラブチーム）

八、出場單位團体　團体對抗

九、實施要項　(1)　競技規則　日本バドミントン協會二十八年度競技規則
(2)　種　目　男子　單　三　複　二
女子　單　二　複　一
(3)　參加人員　一團体につき
男子（四名以上七名以內）
女子（二名以上四名以內）
但し(イ)男女共補欠一名を認める
(ロ)參加人員事故により男子三名以下女子一名のみの參加の場合は失格する

十、參加料　一團体（一チーム）男子　千圓　女子　五百圓
各都道府縣協會を通じ參加料を添えて申込の事

十一、申込方法　別紙申込書により昭和二十九年一月十五日迄必着の事

十二、申込期日

十三、申込先　松浦運動具店內
東京都千代田區神田駿河台
日本体育協會內　日本バドミントン協會宛　一通送付の事

十四、表　彰　優勝團体には優勝杯、賞狀賞品授與する
二位、三位には賞狀賞品、參加者には參加章を授與する

十五、使用シャトル　昭和二十八年度日本バドミントン協會公認シャトルコック

十六、備　考　1. チーム編成は同一事業所、官廳內で編成する
2. (イ)選手資格は大會期日第一日目より六ヶ月以前に採用され、引續き勤務せるもの
(ロ)晝間學生及び生徒で夜間だけ勤務してゐる者は資格がない
夜間學生及び生徒で日本協會主催の全日本、學生、大學、高校選手權大會に出場したものは資格がない。
3. 宿泊希望の方は申込と同時に確定人員を明記の上お申込み下さい。
料金　一泊三食　五百五十圓程度（米、寢卷持參）なるも備考欄に希望金額を參考迄に記入して下さい。

秩父宮妃賜杯　労働大臣杯

第十三回　全日本実業団バドミントン選手権大会要項

1　主　　催　日本バドミントン協会・日本実業団バドミントン連盟
2　後　　援　新潟県・新潟県教育委員会・新潟県体育協会・三条市・三条市教育委員会
3　主　　管　労働省・新潟日報社
4　開 催 地　新潟県バドミントン協会・新潟県実業団バドミントン連盟
5　会　　場　新潟県三条市
　　県立三条高等学校体育館・市立三条小学校体育館・市立第三中学校体育館
6　期　　日　昭和三十八年六月五日～六月九日
7　種　　別　(イ)　男子団体対抗
　　(ロ)　女子団体対抗
　　(ハ)　男子一般単（年令制限なし）
　　(ニ)　〃　一般単（　〃　）
　　(ホ)　女子一般単（　〃　）
　　(ヘ)　〃　複（　〃　）
　　(ト)　混　成　複（　〃　）
　　(チ)　三十才以上単〔大会第一日に於てその年令以上の者（満才）〕
　　(リ)　〃　複〔　〃　〕
　　(ヌ)　四十才以上単〔　〃　〕
　　(ル)　〃　複〔　〃　〕
8　団体編成　(イ)　男女各監督・コーチ・マネージャー・各一名以内、選手四～七名（監督・コーチ・その他が選手を兼ねる場合は選手の七名以内に入れて下さい。）
　　(ロ)　男女各団体は同一都道府県の同一事務所に勤務するもので編成、同一事務所・官庁・会社等で支所・工場が分散している場合、それが同一都道府県内に所在するものは同一事務所・官庁・会社として編成してよい。
9　実施要項　(イ)　競技規則　日本バドミントン協会現行競技規則に依る。
　　(ロ)　試合方法　各種別共トーナメントにより優勝決定。三位決定戦実施。
　　(ハ)　団体戦　左記試合をその順序により行う。
　　男女各二複三単。但し団体戦は欠員を生じ一チーム三名以内となった場合は失格とする。
　　(ニ)　試合球　昭和三十八年度日本バドミントン協会検定合格球。
　　(ホ)　組合せ　主催者及び主管に一任のこと。
10　参加資格　(イ)　所属団体チームが大会申込締切日迄に日本バドミントン連盟に昭和三十八年度の加盟完了したもの。
　　(ロ)　日本バドミントン協会に昭和三十八年度会員登録を完了しているもの。
　　(ハ)　昭和三十八年四月一日以降引続き、その事業所に勤続するものでなければならない。
　　(ニ)　前項(ハ)によるもので各種別とも、日本実業団バドミントン連盟・各都道府県支部連盟の認めた代表であること。（団体戦・個人戦共各地方支部代表数は別表による。）
11　参加料とその納入方法　(イ)　団体戦　一チーム　一千五百円
　　(ロ)　個人戦　一人一種目　一百五十円（単複別個とする）
　　(ハ)　外国派遣積立金　規定により本大会に申込と同時に参加選手一名につき百円納入のこと。
　　(ニ)　右(イ)、(ロ)、(ハ)の内訳を同封別紙、参加料外派金納入表に記入し、申込書（副）と同時に納入のこと。
12　申込期日　昭和三十八年五月十日必着（郵送、持参の他、受付けない。）
　　(注)　申込後の選手の変更は認めない。但し団体対抗戦出場選手の変更ある場合は、監督会議までに主管事務局まで届出ること。
　　以後の変更は認めない。
13　申込方法　同封所定の申込用紙正副控の三通を複写の上、正副を都道府県支部連盟会長捺印の上一括提出のこと。
14　申込場所　(イ)　正は東京都港区芝琴平町日本ガス協会ビル内　日本実業団バドミントン連盟宛
　　(ロ)　副は新潟県三条市二ノ町三条市役所内　第十三回全日本実業団バドミントン選手権大会準備委員会事務局宛
15　表　　彰　(イ)　団体優勝チームに秩父宮妃賜杯・労働大臣杯・協会々長杯・連盟会長杯・を授与。
　　(ロ)　個人各種別優勝者に連盟会長杯を、一位～三位まで表彰状授与。
　　(ハ)　参加者全員に参加賞授与。
16　宿　　泊　宿泊希望者は別紙宿泊申込書に記入の上、参加申込と同時に提出のこと。
　　(注)　個人戦のみ出場者は各都道府県支部連盟で一括して申込むこと。
17　そ の 他　六月四日　午後一時～三時まで理事会
　　午後三時～四時三十分まで監督、代表者会議　予定
　　午後四時三十分～六時まで実業団連盟総会
18　大会日程

日＼時間	8:00	8:30	9:00	13:00	15:00	15:30	16:30	18:00	20:00
6月4日				理事会					
6月5日		開会式	団体戦（男女）試合開始			監督代表者会議	総会		
6月6日	団体戦試合開始							団体戦（男女）試合終了	
6月7日	個人戦試合開始								
6月8日	個人戦試合開始								
6月9日	個人戦試合開始				男女個人戦終了閉会式				

注：この大会より個人戦の部が追加となった。

9. 全日本実業団バドミントン選手権大会要項　第27回大会

秩父宮妃賜杯　労働大臣杯

第２７回全日本実業団バドミントン選手権大会要項

1.	主催	日本バドミントン協会　日本実業団バドミントン連盟
2.	後援	労働省、大阪府、京都府、大阪市、京都市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、京都府教育委員会 京都市教育委員会、近畿バドミントン協会、朝日新聞社（申請中）
3.	主管	大阪バドミントン協会　大阪府実業団バドミントン連盟　京都府バドミントン協会 京都府実業団バドミントン連盟　近畿実業団バドミントン連盟
4.	開催地	大阪　京都
5.	会場	大阪市中央体育館、大阪市立東淀川体育館、松下電器体育館(枚方市)、京都市体育館、京都府立体育館
6.	期日	昭和５２年６月１７日（金）～６月２２日（水）　６日間
7.	種目	(1) 男子団体対抗　(7) ３０才以上男子単（大会第１日においてその年令以下のもの） (2) 女子団体対抗　(8) ３０才以上男子複（　〃　） (3) 男子一般単（年令制限なし）　(9) ４０才以上男子単（　〃　） (4) 男子一般複（　〃　）　(10) ４０才以上男子複（　〃　） (5) 女子一般単（　〃　）　(11) 混合複（年令制限なし） (6) 女子一般複（　〃　） ※出場選手は１人　単　複　混合の２種目以内とし二世代の出場は不可とする。
8.	団体編成	(1) 男女監督、マネージャー各１名以内　選手４～７名、マネージャーが選手を兼ねる場合は選手の７名以内とする。 (2) 男女各団体は、同一都道府県の同一事務所に勤務するもので編成、同一事務所、官庁、会社等で支所・工場が分散している場合、それが同一都道府県に所在するものは同一事務所又は、官庁、会社と編成してよい。
9.	競技規則	日本バドミントン協会現行競技規則ならびに日本バドミントン協会運営規定による。
10.	試合方法	各種目ともトーナメントにより優勝決定（３位決定戦は行わない） 男女共団体戦は２複３単とし、複から行なう。 （ただし、欠員を生じ３名以内となつた場合は失格とする）
11.	シャトル及びネット	昭和５２年度日本バドミントン協会検定合格シャトル及びネット
12.	参加資格	(1) 所属団体チームが昭和５２年４月３０日までに日本実業団バドミントン連盟に昭和５２年度の加盟を完了したもの。 (2) 日本バドミントン協会昭和５２年度会員登録を完了したもの。(５２年５月７日まで完了しよもの) (3) 昭和５２年４月１日以降引続きその事業所に勤務しているもの。 (4) 前３項によるもので各種目とも日本実業団バドミントン連盟及各都道府県支部連盟の認[illegible]であること。 (5) A 参加[illegible]過、[illegible]数は日本実業団バドミントン連盟より指定された数とする。 B 前回第２６回全日本実業団バドミントン選手権大会において、団体及び個人の第８位までは（男子一般単を除く各種目）推薦出場とし、男子一般単は第１６位まで推薦出場とする。 （ただし、本大会出場資格を有するものに限る）
13.	参加料とその納入方法	(1) 団体戦　１チーム　２５,０００円 (2) 個人戦　１人１種目　２,０００円 (3) 国際交流資金積立金規定により本大会申込みと同時に参加選手１名につき２００円納入する。 (4) 上記(1)(2)(3)の内訳を同封別紙の参加料、国際交流資金納入表に記入し、申込書（副）と同時に納入のこと。 (5) 参加料は都道府県一括のうえ、銀行振込みのこと。 （第一勧業銀行　京都支店　口座番号　４７３－１２８７２７４） 第２７回全日本実業団バドミントン選手権大会事務局宛
14.	申込期日	昭和５２年５月１０日（火）必着のこと。 （注）申込後の選手の変更は認めない。ただし、団体対抗戦出場選手に変更のある場合には、総会開始までに主管事務局へ届出ること。それ以後の変更は認めない。
15.	申込方法及び場所	同封所定の申込用紙、正・副・控の３通を複写の上、正・副を都道府県協会会長及び支部連盟会長捺印のうえ、都道府県別に一括提出のこと。 (1) 正は、〒106 東京都港区六本木１－４－３０　第２５森ビル　東京電気通信局資材部気付 日本実業団バドミントン連盟あて (2) 副は、〒543 大阪市天王寺区味原町６　大一スポーツＫＫ内（TEL 06-768-2321～４） 第２７回全日本実業団バドミントン選手権大会事務局あて

9. 全日本実業団バドミントン選手権大会要項　第27回大会

16. 表彰　(1) 団体優勝チームに、秩父宮妃賜杯、労働大臣杯、協会長杯、連盟会長杯（以上持廻り杯）を授与。１位～５位まで表彰状授与。
(2) 個人戦各種目優勝者に連盟会長杯を授与。１位～３位までに表彰状授与
(3) 表彰式は各種目ごとに終了後コート内にて行う。

17. 宿泊　希望チームは別紙宿泊申込用紙に所定事項を記入のうえ参加申込みと同時に提出のこと。（正・副とも大会開催事務局あて）

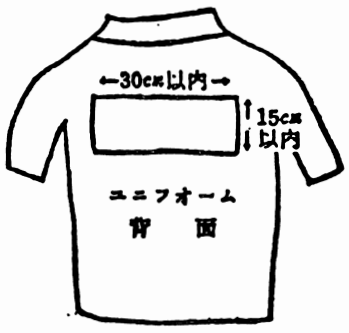
18. 各種会議
６月１７日（金）　９：００～１２：００　日本実業団バドミントン連盟常務理事会（国民会館）
１２：００～１４：００　日本実業団バドミントン連盟理事会　（〃）
１４：３０～１５：３０　第２７回大会監督会議　（〃）
１５：３０～１６：３０　日本実業団バドミントン連盟総会　（〃）
１７：００～１９：００　第２７回全日本実業団バドミントン選手権大会開会式（〃）
６月１８日（土）　団体戦
６月１９日（日）　団体戦　（大阪）
１８：３０～２０：３０　レセプション（ホリデイ イン キヨウト）（京都）
６月２０日（月）　個人戦
６月２１日（火）　個人戦　（京都）
６月２２日（水）　個人戦

19. その他　(1) 団体戦（男・女）優勝チームは、全日本総合バドミントン選手権大会（団体の部）に出場する資格を有する。
(2) 組合せは大シード制をとる
(3) レセプションについては別紙参照のこと。
(4) 開会式関係
イ）式場は、社団法人国民会館（大阪市東区大手前町２　TEL ０６－９４１－２４２３）で実施しますので、役員選手は定刻までに入場のこと。
ロ）開会式の服装は上衣はできるかぎりトレーニングウエアーを着用のこと。

競技者着衣背面へのチーム名明示について

第２７回全日本実業団バドミントン選手権大会参加選手の着衣（ユニフォーム）背面には必ず大会参加申込チーム名又は略称チーム名を入れる（アマチヤー規則に違反しないこと）こと。（本年は、持参ユニホームのうち最低１枚だけには背面にチーム名を入れてあれば、他のユニホームにはチーム名が入つていなくとも認められるが、第２８回大会以降は、すべてのユニホームにチーム名が必要となります）

字体の型式	大会参加申込チーム名、又は略称チーム名
字体の大きさ	横３０㎝、縦１５㎝以内とする。
字体の着色	自由とする。
明示か所範囲寸法	下図のとおり。



注：背面ネーム採用は第26回大会からであったが、26回大会の要項がないため、第27回大会を掲載した。

9. 全日本実業団バドミントン選手権大会要項　第32回大会

秩父宮妃賜杯・労働大臣杯
第32回全日本実業団バドミントン選手権大会要項

1.	主催	日本バドミントン協会，日本実業団バドミントン連盟
2.	後援	労働省，東京都，立川市，立川市教育委員会
3.	主管	東京都バドミントン協会，日本実業団バドミントン連盟東京都支部，立川市バドミントン協会
4.	開催地	立川市
5.	会場	立川市市民体育館
6.	期日	昭和57年6月16日（水）～20日（日）
7.	種目	(1) 男子団体対抗　(2) 女子団体対抗
8.	団体編成	(1) チームは監督・マネジャー各1名，選手は4～7名で編成する。 監督・マネジャーが選手を兼ねる場合は，選手の7名以内に入れる。 もし選手に欠員が生じ，3名以内となった場合は失格となる。 (2) 団体編成は，同一都道府県の同一事業所に勤務する者で編成する。 同一事業所・官庁・会社等で支所・工場が分散している場合，それが同じ都道府県に所在するものは，同一事業所又は，官庁，会社とみなす。 (3) 同一事業所で複数チームの出場は認めない。
9.	競技規則	日本バドミントン協会現行競技規則ならびに日本バドミントン協会大会運営規定による。
10.	試合方法等	(1) トーナメント戦により優勝を決定する。3位決定戦は行わない。 (2) 試合方法は2複3単とし，複より行う。
11.	シャトルおよびネット	昭和57年度日本バドミントン協会検定合格品を使用する。 シャトルは，トーナメント，サンバタキング，エリートトップ，スワニーゴールド
12.	参加資格	(1) 出場チームは，昭和57年4月末日までに日本実業団バドミントン連盟に昭和57年度加盟を完了したもの。 (2) 出場選手は，昭和57年5月15日までに57年度日本バドミントン協会会員登録を完了した者で，昭和57年4月1日以降引続きその事業所に勤務しているもの (3) 前項に記載によるもので，日本実業団バドミントン連盟および各都道府県支部連盟の認めた代表であること。 (4) 出場チーム数は日本実業団バドミントン連盟が指定した数とする。 (5) シードチームは第31回全日本実業団バドミントン選手権大会において，男子第16位，女子第8位までのチームとする。 (6) 監督・マネジャーおよび選手を変更する場合は，氏名を記入し各都道府県協会長又は，連盟会長が認印したものを監督会議開始までに主管事務局まで届出ることとする。
13.	組合せ	組合せは監督会議の席上で公開抽選により決定する。（シードチームを除く）
14.	参加料	1チーム5万円とする。
15.	参加料の納入方法	(1) 参加料納入表に必要事項を記入し，都道府県バドミントン協会会長印および支部連盟会長印捺印の上，申込書と同時に添付し，送付するこの。 (2) 参加料は，都道府県支部連盟一括の上，銀行振込みのこと。 振込先：三菱銀行青山支店　普通口座　133－0174901 第32回全日本実業団バドミントン選手権大会事務局　宛
16.	申込期日	昭和57年5月15日（土）必着のこと（期日厳守）

注：この大会より個人戦廃止となりまた参加料が値上りとなった。

9. 全日本実業団バドミントン選手権大会要項　第32回大会

17. 申込方法および場所　第32回全日本実業団バドミントン選手権大会申込書に必要事項を記入，正・副を都道府県協会会長印および支部連盟会長印を捺印の上都道府県支部連盟別に一括して申込むこと。

(1) 正：〒106　東京都港区六本木1－4－30　第25森ビル
東京電気通信局資材部　気付
日本実業団バドミントン連盟　宛

(2) 副：〒160　東京都新宿区西新宿7－22－37　ストーク西新宿福屋ビル401
第32回全日本実業団バドミントン選手権大会事務局　宛

(3) 控：申込みチーム又は申込都道府県の控とする。

18. 表彰　(1) 優勝チームに秩父宮妃賜杯，労働大臣杯，日本バドミントン協会会長杯，日本実業団バドミントン連盟会長杯（以上持廻り）を授与する。

(2) 優勝，準優勝，3位までに表彰状を授与する。

(3) 表彰式は全試合終了後コート内で行う。

19. 宿泊　宿泊斡旋を希望するチームは，別紙宿泊申込み用紙に必要事項を記入し，参加申込みと同時に正・副2通を大会開催事務局宛送付のこと。

20. 各種会議

日本実業団バドミントン連盟	常務理事会	16日	10：00～11：00
〃	理事会	〃	11：00～12：00
〃	総会	〃	13：00～13：30
	代表者・監督会議	〃	14：00～16：00

：いずれも場所は立川市市民体育館　〒190　立川市泉町786－11　TEL 0425（36）6711

21. 組合せ　組合せは監督会議の席上，抽選で行います。
各チーム監督は必ず出席して下さい。

22. 競技　6月16日（水）　09：00～15：00　練習日（到着順）
18：30　開会式

6月17日（木）　第1回戦

6月18日（金）　第2・3回戦

6月19日（土）　第4回戦・準々決勝

6月20日（日）　準決勝・決勝
閉会式

22. その他

ユニフォーム：本大会の出場選手のユニフォームは次の通りとする。

① 昭和57年度日本バドミントン協会用具委員会が推せんしたものを限度とする。

② ユニフォームの背面には必ずチーム名を入れる。

＊ 字体の大きさ　横30 cm　縦15 cm 以内。

＊ 字体の色　（自由とする。）

秩父宮妃賜杯・労働大臣杯

第４５回全日本実業団バドミントン選手権大会要項

（１）　主　　催　　（財）日本バドミントン協会、日本実業団バドミントン連盟

（２）　主　　管　　北海道バドミントン協会、北海道実業団バドミントン連盟、札幌バドミントン協会

（３）　後　　援　　労働省、北海道、札幌市、北海道教育委員会、札幌市教育委員会
（財）北海道体育協会、（財）札幌市体育連盟

（４）　期　　日　　平成７年６月２１日（水）～　２５日（日）まで

（５）　開 催 地　　北海道札幌市

（６）　会　　場　　札幌中島体育センター別館、札幌市北区体育館、札幌市白石区体育館、札幌市豊平区体育館

（７）　種　　別　　男子団体戦、女子団体戦

（８）　団体編成　　（1）チームは監督・マネージャー各１名、選手は４～８名で編成す
監督・マネージャーが選手を兼ねる場合は、選手の８名以内に　る。
もし、選手に欠員が生じ、３名以内になった場合は失格とする
（2）団体編成は、同一都道府県の同一事業所に勤務する者で編成す
同一事業所とは、官庁・会社等で支所・工場が分散している場　それが同じ都道府県に所在するものは、同一事業所とみなす。
（3）同一事業所で複数チームの出場は認めない。

（９）　競技規則　　現行（財）日本バドミントン協会競技規則並びに（財）日本バドミ　ン協会大会運営規定による

（10）　試合方法　　（1）・トーナメント戦により優勝を決定する。３位決定戦は行わな
（2）・試合は２複３単とし、複より行う。

（11）　使用器具　　平成７年度（財）日本バドミントン協会検定合格器具を使用する。
使用シャトル　　別途通知する

（12）　参加資格　　（1）出場チームは、平成７年４月３０日までに、日本実業団バドミ　ン連盟に平成７年度の加盟を完了したチーム。
（2）出場選手は、平成７年４月３０日までに（財）日本バドミントン協会会員登録している者で、平成７年４月１日以降引続きその事業所に勤務している者。
（3）前(1)（2）による者で日本実業団バドミントン連盟・各都道府県　ミントン協会及び各支部連盟の認めた代表であること。
（4）出場チームは、日本実業団バドミントン連盟が指定した数とする
（5）推薦出場チームは、第４４回全日本実業団バドミントン選手権大会　おいて、男女共ベスト８までのチームとする。
（6）監督・マネージャー及び選手を変更する場合は、氏名を記入し、各都道府県協会会長印及び各支部連盟会長印を押印したものを、監督会議開始までに主管事務局　で届け出ることとする。
（7）次の各項に該当するものは出場できない。
ア．臨時雇用員（アルバイト等）
イ．学生生徒（夜学生生徒を除く）
但し、夜学生については全日本学生バドミントン連盟会員及び会員であった者のうち、引き続き学生であるもの。
ウ．日本における在住期間が２年に満たない、日本国籍以外（外国人）　選手。

（13）　組 合 せ　　組合せは、シードチームは除き、公開抽選により決定する。

（14）　参 加 料　　１チーム　８０，０００円

（15）　参加料の納入方法　　（1）参加料納入表に必要事項を記入し、都道府県バドミントン協会会長印及び支部連盟会長印押印の上、申込書に添付し、送付すること。
（2）参加料は、都道府県支部連盟一括の上、銀行振込のこと。
振込先　：銀行名・口座名　：北海道拓殖銀行・札幌市役所支店・第４５回全日本実業団バドミントン選手権大会・事務局長　岡　明弘
口 座 番 号　：１８５・３０８０４５８

（16）　申込期日　　平成７年４月２８日（金）必着のこと。（期日厳守）

（17）　申込方法及び場所　　第４５回全日本実業団バドミントン選手権大会申込書に必要事項を記入し、都道府県協会会長印及び支部連盟会長印押印の上、都道府県支部連盟一括で下記に申し込むこと。
（1）正：〒１６０　東京都新宿区西新宿７－２２－３７　ストーク西新宿福星ビル４０１
日本実業団バドミントン連盟　宛
☎０３－３３６５－２７８５
（2）副：〒０６０　札幌市東区北６条東４丁目１番地４　ＮＥ6.4 ビル４Ｆ
第４５回全日本実業団バドミントン大会事務局宛
（3）控：申込みチーム又は申込み都道府県の控えとする。

（18）　表　　彰　　（1）優勝チームに秩父宮妃賜杯・労働大臣杯・（財）日本バドミントン協会会長杯
日本実業団バドミントン連盟会長杯（以上持ち回り）を授与する。
（2）優勝、準優勝及び５位までのチームに表彰状を授与する。
なお、１位から３位までの選手に表彰メダルを授与する。

（19）　宿　　泊　　宿泊斡旋を希望するチームは、別紙宿泊申込書に必要事項を記入し、参加申込みと同時に正副を大会事務局宿泊係（〒０６０　札幌市中央区北６条西４丁目ＪＲ北海道旅行センター札幌支店第４５回全日本実業団バドミントン大会宿泊係）まで送付すること。

（20）　各種会議及び場所

理 事 会	６月２０日（火）PM 5:00 ～PM 7:00	（ホテルアカシア）
常務理事会	６月２１日（水）AM 9:00 ～AM10:00	（　同　　上　）
総　　会	６月２１日（水）AM10:00 ～AM11:00	（　同　　上　）
代表者・監督会議	６月２１日（水）AM11:00 ～AM12:00	（　同　　上　）
組合抽選会	６月２１日（水）PM 1:00 ～PM 3:00	（札幌中島体育センター別館）

ホテルアカシヤ住所：　札幌市中央区南１２条西１丁目２－２０　　電話　011-521-5211

（21）　競技日程

開 会 式	６月２１日（水）PM 3:00 ～PM 5:00	（札幌中島体育センター別館）
競　　技	６月２２日（木）AM 9:00 ～PM 7:00	（（６）の各会場　）
〃	６月２３日（金）AM 9:00 ～PM 7:00	（　同　　上　）
〃	６月２４日（土）AM 9:00 ～PM 5:00	（札幌中島体育センター別館）
競技・閉会式	６月２５日（日）AM 9:00 ～PM 5:00	（札幌中島体育センター別館）

（22）　事 務 局　　〒０６０　札幌市東区北６条東４丁目１番地４　ＮＥ6.4 ビル　４Ｆ
第４５回全日本実業団バドミントン選手権大会事務局
☎　011-721-5191
FAX　011-721-5192

（23）　そ の 他　　（1）競技の服装は白または平成７年度（財）日本バドミントン協会甲種審査合格品とし、上着背面中央には、チーム名のみ明示すること。
明示のない選手は失格とする。
※　表示の範囲　　横３０ｃｍ　　縦１５ｃｍ　以内
※　文字の色　　自由
（2）詳細問い合わせについて
大会諸事項　・　大会事務局へＦＡＸで、緊急を要するもののみ電話とする。
（3）各体育館の住所

中島体育センター別館：	札幌市中央区中島公園１－５	☎０１１－５１２－８６９１
札幌市白石区体育館　：	札幌市白石区南郷６丁目北	☎０１１－８６１－４０１４
札幌市北区体育館　：	札幌市北区新琴似８条２丁目	☎０１１－７６３－１５２２
札幌市豊平区体育館　：	札幌市豊平区月寒東2-20-4-15	☎０１１－８５５－０７９１

10. 日本実業団バドミントン連盟年度登録状況

年度別登録事業所数

都道府県	年度	昭和																		平成						
		46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7
	大会回数	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
北海道		15	17	15	15	15	15	15	15	15	15	20	20	20	20	21	21	21	21	21	21	28	28	28	28	28
青森		1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	2	2	9	8	7	7	7	7	7	7	3	2	2
岩手		2	1	2	2	2	1	2	2	3	3	7	5	7	7	7	2	1	2	2	2	5	2	0	0	1
宮城		0	1	0	0	1	0	0	0	11	14	13	16	41	41	39	42	41	36	38	35	35	34	37	36	36
秋田		1	1	1	3	3	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
山形		0	0	0	0	0	0	0	0	10	10	10	10	8	8	8	8	8	8	7	7	8	9	7	7	7
福島		0	0	0	1	1	4	4	3	3	5	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
茨城		7	7	7	15	15	15	14	14	14	14	16	16	14	14	14	14	14	14	14	14	14	16	14	14	14
栃木		2	2	2	10	10	18	22	25	23	22	23	14	5	5	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
群馬		2	5	2	4	4	7	9	11	12	13	14	15	14	14	17	15	14	14	14	14	14	14	14	14	14
埼玉		7	6	7	22	22	22	22	22	22	22	22	22	18	18	19	19	14	19	15	14	16	16	16	21	21
千葉		9	8	9	10	10	15	15	22	22	22	18	18	15	15	14	17	17	15	15	22	23	23	21	21	28
東京都		41	15	41	52	52	61	67	71	69	70	75	78	86	86	84	84	84	84	84	88	98	98	98	98	98
神奈川		26	22	26	35	35	30	37	37	43	51	50	49	49	49	48	50	49	44	46	46	53	55	52	52	50
山梨		0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新潟		3	1	3	2	2	5	6	0	5	5	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	14	7	7	7
長野		7	2	7	2	2	10	7	7	6	3	6	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
富山		10	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	14	14	21	21	21	21	21	21	21
石川		2	2	2	6	6	7	8	7	7	7	7	14	18	18	21	22	22	25	22	22	24	21	21	21	21
福井		2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	1	1	1	1	1	7	7	7	7	7	7	7	7	7
静岡		5	5	5	10	10	10	10	10	7	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
愛知		37	24	37	41	41	38	38	42	42	45	45	45	45	45	50	49	49	50	49	49	49	49	49	49	49
三重		12	12	12	15	15	22	34	33	32	31	31	32	34	34	34	35	38	39	38	38	39	37	37	39	39
岐阜		2	2	2	1	1	7	8	8	8	9	9	8	7	7	7	7	7	7	3	7	7	7	7	7	7
滋賀		2	2	2	6	6	8	9	10	9	9	9	10	7	7	7	7	8	8	8	9	9	10	11	7	7
京都		10	10	10	10	10	12	17	22	22	22	22	22	22	24	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
大阪		35	34	35	35	35	44	44	52	52	52	50	50	50	50	50	50	61	62	60	56	60	35	35	39	65
兵庫		25	25	25	26	26	25	33	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	30	30	35	35
奈良		0	0	0	4	4	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	2	0	2	2
和歌山		6	5	6	6	6	5	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	9	8	4	5	5	5	5	5	0
鳥取										4	5	7	8	8	8	8	7	8	10	8	8	7	7	0	14	7
島根		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
岡山		2	2	2	3	3	10	8	10	12	21	15	14	14	14	15	15	15	15	15	15	15	14	14	14	14
広島		4	2	4	2	2	5	4	4	8	8	12	14	8	8	7	7	7	7	7	7	9	14	14	14	15
山口		2	2	2	4	4	5	5	7	8	8	10	9	8	8	8	8	8	7	7	8	8	9	9	9	9
香川		4	4	4	6	6	7	7	7	4	7	8	15	15	15	15	15	15	15	8	9	8	9	9	9	9
徳島		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛媛		6	6	6	5	5	7	7	7	7	7	7	4	2	2	2	2	2	1	1	1	0	0	3	3	4
高知		1	1	1	1	1	1	2	2	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
福岡		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	2	2	2	2	2	1	1	19	19	22
佐賀		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
長崎		3	3	3	3	3	8	8	11	7	7	7	7	7	7	7	8	3	3	1	1	7	1	14	14	14
熊本		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	2	2	2
大分		0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宮崎		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鹿児島		2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
沖縄		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
登録数計		303	244	303	374	375	442	490	515	538	573	594	597	606	608	638	639	652	652	633	645	686	674	681	703	728
都道府県登録数		34	35	34	37	38	34	35	33	35	36	37	34	35	35	36	36	37	38	39	39	37	37	36	39	39

11. 全日本実業団バドミントン選手権大会参加状況

回	年度	開催地	団体戦		個人戦											参加選手数（男/女）	参加料（円）	
			男子	女子	MS	MD	LS	LD	30 S	30D	40S	40D	50S	50D	MIX		団体の部	個人の部
1	1952	東京都	24	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	191 (152/39)	男1,000 女 500	—
2	1953	横浜市	24	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	173 (152/21)	男1,000 女 500	—
3	1954	長崎市	24	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	175 (155/20)	男1,000 女 500	—
4	1955	名古屋市	24	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	197 (151/46)	男1,000 女 500	—
5	1956	高岡市	29	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	228 (186/42)	男1,000 女 500	—
6	1957	高松市	28	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	203 (170/33)	男1,000 女 500	—
7	1957	岐阜市	36	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	259 (208/51)	男1,000 女 500	—
8	1958	札幌市	23	16	82	35	30	15	—	—	—	—	—	—	—	188 (149/39)	男1,000 女 500	150
9	1959	善通寺市	43	12	139	68	23	12	—	—	—	—	—	—	—	320 (281/39)	男1,000 女 500	150
10	1960	名古屋市	38	16	159	81	29	15	—	—	—	—	—	—	—	331 (278/53)	男1,500 女1,000	150
11	1961	倉敷市	42	17	123	64	42	22	23	14	20	8	5	3	19	464 (388/76)	男1,500 女1,000	150
12	1962	熊本市	38	18	113	60	43	21	17	11	13	7	—	—	17	396 (317/79)	男1,500 女1,000	150
13	1963	三条市	56	19	111	59	44	24	22	11	9	4	—	—	12	483 (385/98)	1,500	150
14	1964	松山市	50	17	111	58	49	28	29	12	9	2	—	—	22	465 (361/104)	3,500	200
15	1965	北九州市	40	18	96	53	67	34	31	12	7	4	—	—	18	410 (304/106)	3,500	200
16	1966	大阪市	61	20	135	71	73	40	48	27	19	10	—	—	32	611 (475/136)	3,500	200
17	1967	勝山市	67	28	120	69	77	47	36	19	16	7	—	—	20	657 (491/166)	3,500	200
18	1968	諫早市	68	28	112	55	69	38	41	19	23	12	—	—	23	648 (480/168)	3,500	200
19	1969	釜石市	62	27	125	66	67	36	43	22	28	9	—	—	19	626 (473/153)	3,500	300
20	1970	高松市	66	17	96	54	55	33	26	38	28	13	—	—	18	588 (475/113)	5,000	500
21	1971	鹿児島市	69	22	113	69	82	40	34	20	23	9	—	—	31	625 (476/149)	5,000	500
22	1972	茂原市	87	32	148	89	94	54	48	27	34	17	—	—	30	859 (651/208)	5,000	500
23	1973	石岡市	86	33	128	77	87	48	49	23	24	11	—	—	31	569 (437/132)	5,000	500
24	1974	松阪市	102	38	156	87	106	65	69	37	28	12	—	—	35	1003 (769/234)	7,000	500
25	1975	高岡市	107	47	144	100	105	67	70	33	30	16	—	—	45	1097 (807/290)	15,000	1,000
26	1976	藤沢市	117	44	117	77	81	54	54	40	33	14	—	—	37	1156 (8[illegible]/271)	[illegible]	1,500
27	1977	大阪市	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	88	[illegible]	59	45	35	18	—	—	30	[illegible]10 (859/351)	25,000	2,000
28	1978	東京都	93	44	79	68	56	48	50	36	34	17	—	—	25	1070 (773/297)	25,000	2,000
29	1979	岡山市 倉敷市	101	40	92	76	63	54	56	43	30	18	—	—	—	1077 (804/273)	25,000	2,000
30	1980	新居浜市	101	44	85	73	70	63	68	47	37	20	—	—	—	1140 (809/331)	25,000	3,000
31	1981	名古屋市	113	63	120	101	102	85	34	56	49	26	—	—	—	1392 (957/435)	30,000	3,500
32	1982	立川市	124	62												1200 (835/445)	50,000	—
33	1983	札幌市	105	57												1226 (802/424)	50,000	—
34	1984	大阪市	116	66												1439 (960/479)	50,000	—
35	1985	藤沢市	122	62												1602 (1134/468)	50,000	—
36	1986	京都市	120	69												1686 (1220/466)	60,000	—
37	1987	名古屋市	114	66												1539 (1013/526)	60,000	—
38	1988	金沢市	128	64												1888 (1300/588)	60,000	—
39	1989	岡山市	128	68												1709 (1235/504)	60,000	—
40	1990	神戸市	132	77												1890 (1221/669)	注3 65,000	—
41	1991	仙台市	132	84												2155 (1227/928)	60,000	—
42	1992	広島市	134	88												2134 (1227/837)	60,000	—
43	1993	高岡市	142	87												2383 (1539/844)	60,000	—
44	1994	福岡市	133	78												1447 (971/476)	60,000	—
45	1995	札幌市	134	74												1315 (877/438)	80,000	—

注１．第８回～第12回大会は全日本社会人大会（個人戦）を併催以後の個人戦は日本実連の個人戦となる。

注２．第32回大会より個人戦を廃止し以後団体戦のみとなる。

注３．40回記念大会は事業費を含む。

日本実業団バドミントン連盟
加盟都道府県連盟のあゆみ



北海道実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和32年４月１日　　■ 加盟年月日　昭和37年

■ 略　年　表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和22年		○札幌バドミントン協会設立（４月）
昭和23年		○北海道バドミントン協会設立準備委員会 ○北海道体育協会に札幌協会が北海道バドミントン協会の名称で加盟 ○日本バドミントン協会に加盟（４月）
昭和24年		○第２回全日本バドミントン大会初出場 （２月４日横浜ＹＭＣＡ） ○北海道バドミントン協会設立（４月）
昭和26年	○第１回全道実業団バドミントン選手権大会 （主催　北海バドミントン協会 共催　北海道タイムス社 後援　北海道経営者協会） ○初代会長　山田良秀(北海道電力社長)　初代理事長　佐藤　保就任(道協会々長)	○開催地　芦別市　参加チーム男子11女子４ 参加料　男子　700円　女子　400円 男子６団体　三井芦別・札幌郵政・道庁 道新・北炭平和・北大（11チーム） 女子３団体　三井芦別・札幌郵政・道庁 （４チーム）（10月６～７日） ○第４回国民体育大会からバドミントンが正式種目となる
昭和27年	○第２回全道実業団バドミントン選手権大会	○開催地　札幌市　　東　高校体育館 男子　北大・道新・三井芦別・北電 女子　三井芦別・道新 （以後毎年実施して現在も続いている）
昭和28年	○第３回全日本実業団バドミントン選手権大会(長崎市）三井芦別チーム初参加	○札鉄バドミントン部創部
昭和30年	○第５回全道実業団バドミントン選手権大会 団体戦の外に個人戦も種目を新設	○開催地釧路市　札鉄バドミントン部初優勝(11月19～20日)
昭和31年		○第１回全道社会人バドミントン選手権大会開催
昭和32年	○北海道実業団バドミントン連盟設立 第二代目会長　西野　金助(札幌工高校長)　第二代目理事長　奈良岡健三	○役員は北海道バドミントン協会役員が兼任
昭和33年	○第８回全日本実業団バドミントン選手権大会主管開催 主管　北海道バドミントン協会 北海道実業団バドミントン連盟	○開催地　札幌市 団体戦の外に個人戦も種目に入る 札鉄　団体３位入賞 ○佐藤　　保、荒島　敏幸(北海道協会)が特別功労賞受賞
昭和34年	○第三代目会長　高田　富与(札幌市長)　第３代目理事長　田中荘三郎	○札鉄バドミントン部　　準優勝
昭和35年		○佐藤保が日本バドミントン協会功労賞受賞
昭和36年	○第11回全日本実業団バドミントン選手権大会にて札鉄３位入賞（倉敷市）	
昭和38年	○第四代目会長　地崎　宇三郎（地崎商事社長）が就任	
昭和40年	○第15回全日本実業団バドミントン選手権大会(北九州市）男子団体にて札鉄が第３位入賞	

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和41年	○第16回全道実業団バドミントン選手権大会開催	○札鉄が昭和30年より12年連続優勝 ○地崎商事バドミントン部創部
昭和42年	○第17回全道実業団バドミントン選手権大会開催	○毎年10月開催を4月に早めた 開催地　札幌市　地崎商事が初優勝 （4月29～30日）45年まで4連勝 ○電電札幌バドミントン部創部
	○第五代目会長に山口日出夫(地崎商事社長)、第四代目理事長に荒島　敏幸が就任	○役員は北海道バドミントン協会兼任から 実業団バドミントン連盟専任役員となる
昭和44年		○北海道バドミントン協会20周年表彰 札幌鉄道管理局・地崎商事・西本秀一郎 青山繁樹・岡　明弘・小向利威・渋井　明
昭和45年	○第20回全日本実業団バドミントン選手権大会 ○第六代目会長に岩沢　　靖(HTB社長)、第五代目理事長に青山　繁樹が就任	○札鉄渋井　明が30歳単準優勝
昭和46年	○第21回全道実業団バドミントン選手権大会	○電電札幌が優勝
昭和47年	○第七代目会長に宇野　真平(道会議長)、第六代目理事長に渋井　明(札鉄)が就任	○電電札幌が電電北海道と改名
昭和48年	○第七代目理事長に伊勢　武(電電北海道)が就任	○連盟登録チーム(男子15チーム　女子10チーム)
昭和49年	○第24回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体にて電電北海道3位入賞 ○第17回全日本社会人バドミントン選手権大会男子単にて遠藤好男（電電北海道）準優勝	
昭和50年	○第25回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体にて電電北海道3位入賞 ○第18回全日本社会人バドミントン選手権大会	○木村（電電北海道）高野（地崎商事）が混合　複にて3位入賞
昭和53年	○第21回全日本社会人バドミントン選手権大会	○木村・遠藤(電電北海道)が男子複3位入賞
昭和54年	○第22回全日本社会人バドミントン選手権大会 ○札鉄が日本実業団バドミントン連盟　功労賞受賞	○木村・遠藤(電電北海道)が男子複3位入賞 ○北海道バドミントン協会30周年表彰 電電北海道・奈良岡健三・田中荘一郎・ 山口日出夫・伊勢　武・中村富光・ 木村敏男
昭和55年	○第30回全日本実業団バドミントン選手権大会	○電電北海道　赤塚正三（男子30単）優勝 札　鉄　　山本晴通（男子30単）2位 ○日本リーグに電電北海道　初参加
昭和56年	○第31回全日本実業団バドミントン選手権大会 ○第24回全日本社会人バドミントン選手権大会(7月 登別市) 主管 北海道[illegible]協会 北海道実業団バドミントン連盟 ○木村敏男(電電北海道)が日本実業団バドミントン連盟　功労賞受賞	○電電北海道　赤塚・木村（男子30複）優勝 ○赤塚（電電北海道）岡本（地崎商事）が男子30歳複3位入賞
昭和58年	○第33回全日本実業団バドミントン選手権大会主管開催(6月 札幌市) ○遠藤好男(電電北海道)が日本実業団バドミントン連盟　功労賞受賞	○参加者2,500名男子170チーム女子100チーム
昭和60年	○山田好明、山本晴通(札鉄)が日本実業団バドミントン連盟　功労賞受賞	○電電北海道がＮＴＴ北海道に改名 （ＮＴＴ北海道日本リーグ3位）
昭和61年	○第36回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体にて3位入賞 ○第29回全日本社会人バドミントン選手権大会 ○NTT北海道が日本実業団バドミントン連盟　功労賞受賞	○伊藤雅弘(ＮＴＴ北海道)が男子単3位入賞 （ＮＴＴ北海道日本リーグ3位）
昭和62年	○第37回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体にてNTT北海道3位入賞	○ＮＴＴ北海道　男子団体　3位入賞
	○篠尾幸孝（NTT北海道）が日本実業団バドミントン連盟　功労賞受賞	○札鉄バドミントン部がＪＲ北海道バドミントン部に改名

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和63年	○第31回全日本社会人バドミントン選手権大会（９月 登別市） ○宇野真平会長が日本実業団バドミントン連盟特別功労賞、伊勢武理事長が同功労賞受賞	○伊藤雅弘（ＮＴＴ北海道）が男子単３位入賞
平成元年	○第32回全日本社会人バドミントン選手権大会	○伊藤雅弘（ＮＴＴ北海道）が男子単３位入賞
平成元年		○第44回国民体育大会　（北海道） 開催地　登別市　北海道　総合準優勝 （９月18～21日）
平成２年	○第33回全日本社会人バドミントン選手権大会	○伊藤雅弘（ＮＴＴ北海道）が男子単３位入賞
平成３年	○第41回全日本実業団バドミントン選手権大会	○ＮＴＴ北海道男子団体準優勝
	○第34回全日本社会人バドミントン選手権大会	○伊藤雅弘（ＮＴＴ北海道）が男子単３位入賞 ○ＮＴＴ北海道が日本リーグ準優勝
	○日本実業団バドミントン連盟功労賞左記９名が受賞	○中平正幸・渋井　敏紀・中村義則・松岡　誠・七崎　悦範・高野　幹男・阿部　幸夫・東田　朋巳・目黒　清則
平成４年	○第42回全日本実業団バドミントン選手権大会 ○第八代目会長　青山茂樹、第八代目理事長　岡明弘が就任	○ＮＴＴ北海道が男子団体　３位入賞
平成６年	○第44回全道実業団バドミントン選手権大会	○ＮＴＴ北海道が男子46年より24連勝
平成７年	○第45回全日本実業団バドミントン選手権大会主管開催（６月　札幌市）	

■活動の状況

☆登録事業所数　49（男30，女19）　（平成６年度）

☆登録人員　　510（男290，女220）（平成６年度）

☆年次大会

４月　全日本実業団北海道予選会兼団体選手権大会

９月　全道社会人選手権大会（個人戦）

■今後の課題

（１）競技力の向上と登録者の増員

（２）日本リーグへの参加

（文責　岡明弘　小向利威）

青森県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和59年12月15日

■ 加盟年月日　昭和59年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和47年		○第22回全日本実業団選手権大会に三菱製紙八戸チームが初参加（９月） 以後24回大会まで３年連続出場す
昭和56年		○第31回全日本実業団選手権大会青森県予選大会（４月弘前市） 弘前市役所、三菱製紙八戸が参加決定
昭和57年		○第32回全日本実業団選手権大会青森県予選大会（４月弘前市）
昭和58年		○第１回東北実業団大会兼第33回全日本大会県予選会（４月八戸市） ○第１回東北実業団選手権大会男子の部にて三菱製紙八戸が初優勝（４月秋田市）
昭和59年	○青森県実業団バドミントン連盟設立 初代会長岡本勝光（和幸商会）、初代理事長小山内信一（弘前市市役所）が就任（12月15日） ○第１回青森県実業団バドミントン選手権大会（12月16日東奥義塾）	○第２回東北実業団大会兼第34会全日本大会県予選会（４月弘前市） ○参加チームは弘前市役所ＡＢ、弘前市農協、弘前大学ＡＢ、青森県庁、青森ナショナル、黒石市役所、東奥義塾教員、和幸商会の10チームが参加し弘前市役所Ａが初優勝
昭和60年	○第３回東北大会兼第35回全日本大会予選会で男子が弘前市役所、女子は和幸商会が初優勝（４月14日東奥義塾） ○第２回青森県実業団大会からリーグ戦とする１部三菱製紙八戸、２部自衛隊弘前、３部青森市民病院が初優勝（12月４日青森工業高校）	○第３回東北大会で女子団体にて和幸商会が準優勝（４月秋田市） ○第35回全日本大会に女子の部に和幸商会が初参加
昭和61年		○第４回東北大会で男子団体にて弘前市役所が準優勝す（４月鶴岡市）
昭和62年	○第二代目理事長に森山忠雄（弘前市農協）が就任（４月）	
昭和63年	○第６回東北実業団大会を主管開催（４月23、24日弘前市民体育館） ○第５回青森県実業団大会で弘前市役所が一部にて３回連続優勝（12月４日青森工業高校）	
平成６年	○第12回東北実業団大会を主管開催（４月22～24弘前市民体育館）	

■活動の現況

☆登録事業所数　７（平成５年度）

☆登録人員　56（平成５年度）
（男子のみ）

☆年次大会
県選手権大会（秋）と予選大会（春）の２回

■今後の課題

①後継者不足（選手及び役員）

②競技力強化

（文責　森山忠雄）

岩手県バドミントン協会

■ 設立年月日　県連盟の設立はなく、岩手県バドミントン協会として活動しているので、実業団チームの動きをまとめる。

年　次	主　要　事　項
昭和29年以前	不明
昭和30～35年	○釜石製鉄所が実業団大会で6連勝・盛鉄局・盛岡市役所が参加
昭和36年	○正式に実業団選手権大会として発足　昭和44年迄釜石製鉄が9年連続優勝
	○遠野市役所・日鉄鉱業釜石・興産銀行・盛岡鉄道管理局が参加するがチームは少なかった。
昭和44年	○釜石製鉄所が全国大会に初参加
昭和45年	○岩手国体のため県大会は中止
昭和46年	○参加チーム少なく大会成立せず
昭和47年以降	○47年から53年まで新日鉄釜石が7年連続優勝し、その後盛岡鉄道管理局が54年に県内初制覇し56年から58年まで3年連続優勝したが、その後県内大会への参加チームが少なく中止となる年が多く、現在県内の企業チームは富士通岩手と寺岡製作所岩手の男子チームのみである。

秋田県実業団バドミントン連盟

■ **設立年月日**　昭和58年4月1日

■ **歴代会長**

初代　松橋　藤吉　（昭和58年～昭和59年）
二代　鈴木　辰雄　（昭和60年～現在）

■ **歴代理事長**

初代　加賀谷武夫　（昭和58年～昭和59年）
二代　荒川龍一郎　（昭和60年　　）
三代　村越　　稔　（昭和61年～昭和62年）
四代　相庭　洋二　（昭和63年～平成元年）
五代　泉屋　謙一　（平成2年～平成3年）
六代　斎藤　和憲　（平成4年～平成5年）
七代　斉藤　永吉　（平成6年～現　　在）

■ **加盟年月日**　昭和36年7月

■ **登録事業所数**　2（平成6年度）

■ **登録人員**　20（平成6年度）

■ **主催年次大会**

県実連年次大会なし
県協会年次大会参加にて活動

■ **主管大会**（実績）

1.第1回東北実業団バドミントン選手権大会開催
2.第2回東北実業団バドミントン選手権大会開催
3.第3回東北実業団バドミントン選手権大会開催
4.第10回東北実業団バドミントン選手権大会開催

（文責：斉藤　永吉）



宮城県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和42年４月23日　　■ 加盟年月日　昭和53年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和23年		○宮城県バドミントン協会設立（６月６日）
昭和28年	○第３回全日本実業団バドミントン選手権大会女子の部にて仙台郵政局優勝（名古屋市）	○メンバー　谷津京子、西堀富美子、佐藤範子、栗山栄子
昭和29年	○第４回全日本実業団バドミントン選手権大会女子の部にて仙台郵政局準優勝（高岡市）	○メンバー　谷津京子、西堀富美子、佐藤範子
昭和42年	○宮城県実業団バドミントン連盟設立 初代副会長（会長職）に会田高陽（東北大学）、市川八郎（簡易保険局）、初代理事長に氏家勇（防衛施設局）が就任（４月23日）	○設立時の加盟団体 自衛隊、東北大学、七十七銀行、ソニー、通産局、税務大学、簡易保険局、電通局、東北金属、明電舎、十條製紙、郵政局、丸光、防衛施設局以上の14団体
	○第１回宮城県実業団バドミントン連盟団体リーグ戦大会３部制で開催（５月21日自衛隊体育館）	○12チーム参加
昭和42年	○第１回宮城県実業団バドミントン連盟個人選手権大会開催（７月９日東北工業大学）	○男子２部制、女子１部制の単、複
昭和43年	○第１回宮城県実業団バドミントン連盟団体選手権大会開催（３月18日東北大学） ○初代会長に会田高陽、二代目理事長に千葉信次(自衛隊）が就任（４月）	
昭和46年	○宮城県実業団バドミントン連盟団体リーグ戦大会女子の部開催（５月14日）	
昭和48年	○三代目理事長に氏家　勇（防衛施設局）が就任（４月） ○連盟団体リーグ戦大会を春季、秋季、冬季団体リーグ戦に名称変更	
昭和50年	○宮城県実業団バドミントン連盟個人選手権大会４部制となる（９月23日）	○青年、成年、壮年、女子の部
昭和51年	○宮城県実業団バドミントン連盟団体リーグ戦８部制となる（６月13日自衛隊）	○参加チームは32チーム
昭和52年	○宮城県実業団バドミントン連盟10周年記念記録誌発刊（昭和42年度～昭和51年度）及び記念パーティー（52年４月９日）	○登録団体及びチーム数：27団体、32チーム
昭和53年	○四代目理事長に奈良坂孝（東北大学）が就任（４月） ○春季、秋季、冬季団体リーグ戦を団体リーグ戦に改名し、年５回開催	
昭和54年	○初心者及び女子大会（複）開催	
昭和56年	○第31回全日本実業団バドミントン選手権大会個人戦壮年複の部で明石　誠・三浦紀重組（東北大学）準優勝（９月名古屋）	
昭和58年	○個人選手権大会をシングル選手権大会とダブルス選手権大会に分離	○第１回東北実業団バドミントン選手権大会開催（４月秋田市）
昭和59年	○宮城県実業団バドミントン連盟団体リーグ戦10部制となる（４月） ○第２回東北実業団バドミントン選手権大会にNTT東北と迫リコー初参加（秋田市）	○参加チーム数は58チーム

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和60年	○第３回東北実業団バドミントン選手権大会男子の部にてＮＴＴ東北が初優勝（４月秋田市）	
昭和62年	○第５回東北実業団バドミントン選手権大会を主管開催（４月25日～26日多賀城）	
	○宮城県実業団バドミントン連盟20周年記念大会開催（９月６日仙台市体育館）	○登録団体41、チーム数60
昭和63年	○第38回全日本実業団バドミントン選手権大会男子の部にてＮＴＴ東北第５位（金沢）	
平成元年	○第39回全日本実業団バドミントン選手権大会男子の部にてＮＴＴ東北第４位（岡山）	
	○第７回東北実業団バドミントン選手権大会男子の部でＮＴＴ東北が５年連続優勝（４月会津若松市）	
	○ＮＴＴ東北日本リーグに昇格	
平成２年	○第８回東北実業団バドミントン選手権大会女子の部にて七十七銀行初優勝（山形県）	
平成３年	○第41回全日本実業団バドミントン選手権大会を主管開催（６月12日～16日、仙台市体育館他３会場）	○参加チーム216チーム（男子132チーム、女子84チーム）
平成４年	○二代目会長に佐藤巳代治就任（４月）	
平成５年	○東北実業団バドミントン連盟設立、初代会長に佐藤巳代治（宮城県）、初代理事長に奈良坂孝（宮城県）が就任（４月23日）	○事務局宮城県実業団バドミントン連盟
	○ＮＴＴ東北が東北実業団バドミントン連盟栄光賞受賞	
平成６年	○第12回東北実業団バドミントン選手権大会男子の部でＮＴＴ東北が４年連続優勝 ＮＴＴ東北が東北実業団バドミントン連盟功労賞受賞	

■活動の現況

☆登録事業数　36（平成６年度）

☆登録人員　562（平成６年度）

☆年次大会

・団体リーグ戦年５回開催

６チーム編成の10部制で年５回開催。
内１回５部以上を２複１単で実施、その他は３複で実施

・選手権大会

日本実業団大会予選会及び東北実業団大会の選考をかね２複３単で実施

■　今後の課題

☆競技力の向上

☆女子チームの育成拡大

☆次期役員体制の確立

（文責　田副恒徳）

山形県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　平成３年２月２日　　■ 加盟年月日　平成３年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和24年		○山形県バドミントン協会設立
昭和54年	○第１回山形県実業団バドミントン選手権大会開催	
昭和58年	○第１回東北実業団バドミントン選手権大会男子団体にて山形銀行が準優勝（秋田市） ○第33回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体にて鶴岡市役所が５位入賞（札幌市）	○メンバー（鶴岡市役所：小林保夫監督、真田昭良、上原正明、秋庭一生、丸山勝美、佐藤茂、佐藤茂巳、大川利男）
昭和59年	○第２回東北実業団バドミントン選手権大会男子団体にて鶴岡市役所が優勝、女子団体にて山形銀行が準優勝（秋田市）	○メンバー（鶴岡市役所：小林保夫監督、真田昭良、上原正明、秋庭一生、丸山勝美、佐藤茂、佐藤茂巳、大川利男）
昭和61年	○第４回東北実業団バドミントン選手権大会女子団体にて、でん六が準優勝（山形県鶴岡市）	
昭和62年	○第５回東北実業団バドミントン選手権大会女子団体にて、でん六が優勝、男子団体において鶴岡市役所が準優勝（宮城県多賀城市）	○メンバー（でん六：伊藤洋一監督、田中真由美、丹野弘美、東海林文子、伊藤礼子、長瀬時子）
昭和63年	○第６回東北実業団バドミントン選手権大会女子団体にて、でん六が２年連続優勝男子団体にてNTT山形が準優勝（青森県弘前市）	○メンバー（でん六：伊藤洋一監督、田中真由美、丹野弘美、東海林文子、伊藤礼子、長瀬時子、木村郁子、磯夕子）
平成元年	○第７回東北実業団バドミントン選手権大会女子団体にて、でん六が準優勝、男子団体においてNTT山形が準優勝（福島県会津若松市）	
平成２年	○第８回東北実業団バドミントン選手権大会男子団体にてNTT山形が優勝、女子団体にて、でん六が準優勝（山形県山辺町）	○メンバー（NTT山形：岡田寿紀監督、小中英智、高橋則一、中島修、寺島剛志、鈴木尚、岡田寿紀）
平成３年	○山形県実業団バドミントン連盟設立 ○初代会長に泉良三（NTT山形）初代理事長に浅海憲夫（NTT山形）が就任（２月２日） ○第13回山形県実業団バドミントン選手権大会開催（３月31日、鶴岡市体育館）	○設立時の加盟チーム：NTT山形、山形銀行、山形日本電気㈱、でん六、日立米沢電子、鶴岡市役所、山形ケンウッド、山形県庁、松下電器以上９団体 ○参加チーム＊男子：NTT山形、鶴岡市役所、山形日本電気、山形銀行、日立米沢電子、山形ケンウッド、＊女子：山形日本電気、でん六、山形ケンウッド、鶴岡市役所
平成４年	○二代目会長に佐藤英明（NTT山形）が就任 ○二代目理事長に富山公雄（NTT山形）が就任	
平成５年	○三代目会長に竹内昌燎（山形ケンウッド）三代目理事長に小林保夫（鶴岡市役所）が就任	

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
平成６年	○東北実業団バドミントン連盟設立にともない、同連盟に加盟（４月23日） ○東北実業団連盟表彰規定により、鶴岡市役所が功労賞を受賞（４月23日、塩釜市） ○第11回東北実業団バドミントン選手権大会女子団体にて、NEC山形が優勝、男子団体にてNTT山形が９回大会以後連続の準優勝（宮城県塩釜市） ○第16回山形県実業団バドミントン選手権大会に、２部大会を併設（４月３日、米沢市） ○第12回東北実業団バドミントン選手権大会女子団体にて、NEC山形が２年連続優勝（青森県弘前市） ○第１回山形県実業団バドミントンリーグ戦を開催（10月16日、山形県営体育館）	○メンバー（大場和博監督、近藤美知子、秋場奈美、鹿野今日子、中山万由美、隈部友紀子、片山美希） ○メンバー（大場和博監督、近藤美知子、秋場奈美、鹿野今日子、中山万由美、隈部友紀子、片山美希） ○参加チーム 男子：NTT山形、でん六、東北電力山形、荘内病院、ニノミヤ電機、山形銀行、山形ケンウッド、 女子：山形ケンウッド、米沢市役所

■活動の現況

☆登録事業所数　９（平成６年度）

☆年次大会

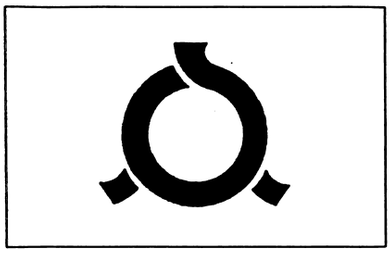
山形県実業団バドミントン選手権大会

山形県実業団バドミントンリーグ戦

■　今後の課題

登録事業所の増加と競技力の向上を目ざしている

（文責　伊原千佳子）



福島県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和49年４月１日　　■ 加盟年月日　昭和49年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和22年		○福島県バドミントン協会設立（４月）
昭和23年		○若松バドミントン協会設立
昭和29年		○若松バドミントン協会を会津バドミントン協会に改称
昭和49年	○福島県実業団バドミントン連盟設立 初代会長木村久恵（三菱電機・郡山）、初代理事長徳田卓郎（呉羽化学）が就任	○設立時の加盟チーム 三菱電機・郡山、呉羽化学、日本化成、福島県庁、東京電力、若松市役所、三菱製紙・白河、福島高専、富士通・会津、以上９団体
	○第24回全日本実業団バドミントン選手権大会初参加　（６月25～30日三重県松坂市）	○男子団体戦、個人戦に富士通・会津が参加
昭和50年	○第１回福島県実業団バドミントン選手権大会開催（３月29～30日富士通㈱会津工場）	○参加チームは、男子団体：富士通・会津、三菱電機・郡山、三菱製紙・白河、若松市役所、日本化成、福島県庁、東京電力、呉羽化学、福島高専、以上９チームトーナメント戦、及び個人戦 女子団体：富士通・会津、三菱電機・郡山、三菱製紙・白河、以上３チームトーナメント戦、及び個人戦 以降毎年実施している
昭和53年	○第二代目会長に大塚良次（日本化成）が就任	
昭和55年		○県協会表彰優秀選手賞を富士通・会津女子チームが受賞
昭和58年	○第１回東北実業団バドミントン選手権大会女子団体の部で、富士通・会津が準優勝 （[illegible]秋田市）	○メンバー 監督：寺田繁、選手：青木マチ子、玉木孝子、寺田浩子、三浦旨子
昭和59年	○県実業団大会10年連続出場者表彰	○受賞者　青木マチ子（富士通・会津）以下数名（詳細不明）
	○第34回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体の部で、富士通・会津がベスト16入り（６月13～17日大阪市）	○メンバー 監督：塚越厚生、選手：寺田繁、渡辺正光、杉原好一、清野徹也、結城富雄、星　徹
昭和60年	○第３回東北実業団バドミントン選手権大会男子団体の部で、富士通・会津が準優勝、女子団体の部で、富士通・会津が第３位（４月28～29日秋田市）	○男子チームメンバー 監督：塚越厚生、選手：寺田繁、渡辺正光、杉原好一、清野徹也、本多克博、岩崎三良 ○女子チームメンバー 監督：塚越厚生、選手：青木マチ子、上野久仁子、金田晴美、菊地美香、長谷川加代子
	○第35回全日本実業団バドミントン選手権大会男子35歳以上複の部で吉田邦男（日立テレコム）・古館信義（日本化成）組が優勝 男子団体の部で、富士通・会津が２年連続ベスト16入り（６月19～23日藤沢市）	○メンバー 監督：塚越厚生、選手：寺田繁、渡辺正光、杉原好一、清野徹也、星　徹、本多克博 ○県協会表彰優秀選手賞を古館信義（日本化成）が受賞

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和61年	○第二代目理事長に山本智夫（テレコム機器）が就任	○県協会表彰優秀選手賞を寺田繁（富士通・会津）が受賞
昭和62年	○寺田繁（富士通・会津）が日本実業団連盟表彰功労賞（全日本大会10年以上出場）を受賞	○県協会表彰特別優秀選手賞を寺田繁（富士通・会津）が受賞
昭和63年	○渡辺正光（富士通・会津）が日本実業団連盟表彰功労賞（全日本大会10年以上出場）を受賞	○県協会表彰優秀選手賞を渡辺正光（富士通・会津）が受賞 ○県協会表彰優秀指導者賞を古館信義（日本化成）が受賞
平成元年	○県実業団大会10年以上出場者表彰（第15回県実業団大会） ○第７回東北実業団バドミントン選手権大会を本県会津若松市にて開催（４月22～23日） ○杉原好一・青木マチ子（富士通・会津）、平向一郎（日本化成）が日本実業団連盟表彰功労賞（全日本大会10年以上出場）を受賞	○受賞者　青木昭弘（富士通・会津）以下数名（詳細不明） ○男子団体戦　富士通・会津、リズム工機、東京電力・福島、日本化成の４チームが参加 女子団体戦　富士通・会津が参加
平成２年	○第８回東北実業団バドミントン選手権大会男子団体の部で、富士通・会津が第３位（４月21～22日山形県山辺町）	○メンバー 監督：青木昭弘、選手：寺田繁、渡辺正光、清野徹也、星　徹、本多克博、西潟昌利、上野孝
平成３年	○第三代理事長に塚越厚生（富士通・会津）が就任 ○清野徹也（富士通・会津）が日本実業団連盟表彰功労賞（全日本大会10年以上出場）を受賞	○東北バドミントン連盟表彰優秀選手賞受賞　寺田繁（富士通・会津）
平成４年	○第三代会長に徳田卓郎（呉羽化学）が就任 ○故　大塚良次前会長が県実業団連盟表彰功労賞を受賞 ○寺田繁（富士通・会津）が県実業団連盟表彰特別優秀選手賞（県大会青年Ｉ部単10年連続優勝）を受賞	○県協会表彰特別優秀選手賞を渡辺正光（富士通・会津）が受賞
平成５年		○東北実業団バドミントン連盟発足
平成６年	○県実業団連盟創立20周年・記念祝賀パーティー開催（４月８日本県いわき市） ○古館信義（日本化成）が県実業団連盟表彰功労賞を受賞 ○県実業団大会10年以上出場者表彰（第20回県実業団記念大会） ○東北実業団連盟表彰功労賞（東北大会10回以上出場） ○第12回東北実業団バドミントン選手権大会男子団体の部で、富士通・会津若松が第３位（４月22～24日青森県弘前市）	○受賞者　赤津和雄、小野利彦（呉羽化学）以下12名 ○受賞者　富士通・会津若松　男女チーム ○メンバー 監督：寺田繁、選手：寺田繁、西潟昌利、藤田幸一、長谷川淳哉、五十嵐敏幸、佐藤勝司、佐々木貴吉、小椋博幸

■活動の現況

☆登録事業所数　7　（平成６年度）

☆登録人員　116（男107、女９）（平成６年度）

☆年次大会：団体戦、個人戦とも年１回。同一日に行っている。

☆平成６年に当連盟創立20周年を迎え、記念祝賀パーティー開催及び連盟設立からの記録、選手の思い出等をまとめた記念誌を発刊。

■　今後の課題

参加者の増加や競技レベルの向上により、団体戦、個人戦を２日間で開催実施することが難しい状況になってきており、試合形式、日程等具体案を持ち寄って検討中である。

（文責　渡辺正光）

茨城県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和44年４月

■ 加盟年月日　昭和44年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和28年		○茨城県バドミントン協会設立 茨城県庁の野中正稔、小口誠、杉原一男、北村幹郎の方々の尽力により設立 会長：江幡保、理事長：野中正稔
昭和40年	○日立水戸が、電電東京の並木萬次郎氏より指導を受け、全日本実業団大会への出場を薦められた	
昭和41年	○第16回全日本実業団大会（於：大阪）に、日立水戸チームが初出場一回戦日本鋼管に敗退	○茨城県実業団連盟が発足しておらず、茨城県バドミントン協会の推薦で出場
昭和44年	○茨城県実業団バドミントン連盟設立 初代会長に額賀修氏が就任した 日立水戸、動燃東海、原研東海、日立電線日高、三菱油化、茨城県庁の６チームでスタートした	○日立水戸の石坂文男、早川博が中心となって、連盟設立に尽力した 理事長制は取らず、加盟企業が１年毎に幹事を持ち廻り、幹事企業が理事長役を受け持つ方式としたこの方式は、平成７年の現在まで引き継がれている
昭和45年	○住友金属鹿島、航空自衛隊百里チームが加盟した	
昭和46年	○日立化成チームが加盟 ○住友金属鹿島チームが第21回全日本実業団大会（於：鹿児島市）初出場	
昭和47年	○第22回全日本実業団大会（於：茂原市）で、日立水戸チーム団体戦ベスト８に入賞	○日本電装を破り、ベスト８へ。準々優勝で河崎ラケットに敗退 メンバー：早川博、福田喜代志、菅野孝、和田講一
昭和48年	○第23回全日本実業団大会を茨城県石岡市で、国体のリハーサル大会として開催 ○二代目会長に阿久津順一氏が就任	○バドミントンの後進県である茨城県での開催は、各方面より危ぶむ声があったが県協会、県実連、地元石岡市が一体となって審判員や役員の養成に全力を上げた結果、大会は立派に運営できた。
昭和49年	○茨城県実業団加盟チームも、17チームになる ○第24回全日本実業団大会（松阪市）で、日立水戸ベスト16。	○茨城国体開催（於：石岡市） ○日立水戸はその後、27回大会までベスト16確保
昭和50年	○茨城県より第25回全日本実業団大会（高岡市）へ住友金属鹿島女子が初出場	○住友金属チームはベスト16に入り、その後、34回大会までベスト16確保 ○全国高校総体（水戸市）を開催
昭和58年	○第33回全日本実業団大会（札幌市）で住友金属男子チーム、ベスト16	
昭和63年	○三代目会長に手塚克彦氏就任	

■活動の現状

☆登録事業所数　14（平成６年度）

☆年次大会

全日本実業団大会県予選会 …… ４月

県実業団個人戦 ……11月、２月

■　今後の課題

(1)登録事業所数を増加させること。

(2)(1)を実現させるための大会内容の充実。

級別団体戦、シニア大会等の工夫をしていく事が課題である。

（文責：日立水戸　早川　　博）

栃木県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和47年10月１日　　■ 加盟年月日　昭和46年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和46年	○第21回全日本実業団大会（鹿児島大会）に栃木県として初出場	○男：富士重工宇都宮　監督　永山、 選手　霜山・大島・田中・三上・川上・高橋
昭和47年	○第22回全日本実業団大会（茂原大会）に男女各１チームが出場　女子初出場 この大会で初出場の旭光学栃木がベスト８入りし全国の注目を浴びる ○栃木県実業団バドミントン連盟設立 初代会長　富永静吾（旭光学常務）、初代理事長　永山隆（富士重工）就任（10月１日）	○男：富士重工宇都宮 女：旭光学栃木　監督　藤田、 選手　藤田・大貫・近藤・竹田・広沢 〝女子旭光学栃木のベスト８入りを期に一気に実業団連盟の発足気運が高まる〟
昭和48年	○栃木県実業団バド連盟への勧誘に奔走	
昭和49年	○第23回全日本実業団大会（石岡大会）に男女各１チームが出場 ○第１回栃木県実業団バド選手権大会を開催	○男：富士重工宇都宮 女：旭光学栃木ベスト８ ○３月初旬（団体、個人戦）旭光学体育館
昭和50年	○第24回全日本実業団大会（松阪大会）に男２、女１チームが出場 ○第25回全日本実業団大会（高岡大会）に男４、女２チームが出場 女子団体で旭光学栃木　３位、女子個複で藤井、沼能組（旭光学）３位	○男：富士重工宇都宮、いすず自動車栃木 女：旭光学栃木ベスト８（初） ○男：富士重工宇都宮、いすず自動車栃木、アイワ栃木（初）、河内町役場（初） 女：旭光学栃木３位、日産自動車栃木（初） 上位入賞で栃木県バドを全国に知らしめた
昭和51年	○第26回全日本実業団大会（藤沢県大会）に男５、女２チームが出場 最多チーム（計７チーム）の出場となった 昨年３位の女子旭光学栃木準々決勝で敗退 ○第20回カナダ[illegible]藤井・沼能組（旭光学）の出場が決定	○男：富士重工宇都宮、いすず自動車栃木、河内町役場、旭光学栃木（初）、日産自動車栃木 女：旭光学栃木ベスト８、日産自動車栃木 ○S51．12．１～４（カナダトロント） 試合結果　複３位入賞で凱戦
昭和52年	○第27回全日本実業団大会（大阪京都大会）に男３、女２チームが出場 女子旭光学栃木がベスト４に返り咲く	○男：富士重工宇都宮、旭光学栃木、栃木県庁（初） 女：旭光学栃木３位、日産自動車栃木
昭和53年	○第28回全日本実業団大会（東京都大会）に男４、女２チームが出場 女子旭光学栃木２年連続ベスト４に入る	○男：栃木県庁、旭光学栃木、いすず自動車栃木、河内町役場 女：旭光学栃木３位、日産自動車栃木
昭和54年	○第29回全日本実業団大会（岡山大会）に男４、女２チームが出場	○男：富士重工宇都宮、栃木県庁、旭光学栃木、いすず自動車栃木 女：旭光学栃木ベスト８、日産自動車栃木
昭和55年	○第30回全日本実業団大会（新居浜大会）に男２、女２チームが出場	○男：富士重工宇都宮、栃木県庁 女：旭光学栃木ベスト８、日産自動車栃木
昭和56年	○第31回全日本実業団大会（愛知県大会）に男３、女２チームが出場する、男子30歳単で三上（富士重工）ベスト８に入る	○男：富士重工宇都宮、栃木県庁、日産自動車栃木 女：旭光学栃木ベスト８、日産自動車栃木
昭和57年	○第32回全日本実業団大会（東京都大会）に男４、女３チームが出場 この年初めて女子が３チーム出場となる 旭光学栃木女子ベスト８成らず。	○男：富士重工宇都宮、栃木県庁、日産自動車栃木、河内町役場 女：旭光学栃木、日産自動車栃木、松下電器栃木

年次	主要事項	関連事項
昭和58年	○二代目会長　保坂俊一（関東自動車）、副会長　保田誠一（宇都宮市役所）が就任（4月1日） ○第33回全日本実業団大会（札幌大会）に男2、女1チームが出場 女子旭光学栃木の連続出場途切れる	○全日本実業団大会の個人戦廃止に伴い栃木県実業団大会も団体、個人戦を実施時期を別に設定し行う 4月団体、2月個人 ○男：富士重工宇都宮、日産自動車栃木 女：日産自動車栃木
昭和59年	○第34回全日本実業団大会（大阪大会）に男2、女1チームが出場	○男：日産自動車栃木、栃木県庁 女：日産自動車栃木ベスト16
昭和60年	○第35回全日本実業団大会（藤沢大会）に男2、女1チームが出場	○男：日産自動車栃木、栃木県庁 女：日産自動車栃木ベスト16
昭和61年	○第36回全日本実業団大会（京都大会）に男3、女1チームが出場	○男：日産自動車栃木、栃木県庁、松下電器栃木 女：日産自動車栃木ベスト16
昭和62年	○第37回全日本実業団大会（名古屋大会）に男3、女1チームが出場	○男：日産自動車栃木、栃木県庁、松下電器栃木 女：日産自動車栃木
昭和63年	○第38回全日本実業団大会（金沢県大会）に男3、女1チームが出場	○男：日産自動車栃木、栃木県庁、松下電器栃木 女：日産自動車栃木
平成元年	○第39回全日本実業団大会（岡山大会）に男3、女1チームが出場	○男：日産自動車栃木、栃木県庁、松下電器栃木 女：日産自動車栃木
平成2年	○第40回全日本実業団大会（神戸大会）に男3、女2チームが出場	○男：日産自動車栃木、栃木県庁、松下電器栃木 女：日産自動車栃木、富士通小山（初）
平成3年	○第41回全日本実業団大会（仙台大会）に男3、女1チームが出場 ○男子日産自動車栃木が日本リーグ（2部）に挑戦（入れ替え戦に勝利）見事念願達成	○男：日産自動車栃木ベスト16、松下電器栃木、栃木県庁 女：日産自動車栃木ベスト16
平成4年	○第42回全日本実業団大会（広島大会）に男2、女1チームが出場	○男：日産自動車栃木ベスト16、栃木県庁 女：日産自動車栃木
平成5年	○第43回全日本実業団大会（高岡大会）に男3、女3チームが出場 ○男子日産自動車栃木が日本リーグ（2部）から降格（入れ替え戦で敗退）	○男：日産自動車栃木、栃木県庁、松下電器栃木 女：日産自動車栃木、栃木県庁（初）、松下電器栃木
平成6年	○第44回全日本実業団大会（福岡大会）に男2、女1チームが出場	○男：日産自動車栃木、松下電器栃木 女：日産自動車栃木

■活動の現況

☆登録事業所数　14　　（平成6年度）

☆登録人員　105（男87、女18）（平成6年度）

☆　主催年次大会の開催

4月初旬　全日本実業団バド大会栃木県予選会（団体戦：上位はリーグ戦）

6月初旬　全日本実業団バドミントン選手権大会出場チームの強化練習会

9月下旬　前期リーグ戦の開催（4チーム×6ブロック）

2月初旬　栃木県実業団バドミントン選手権大会個人戦（単、複）1～3部シニアの部

3月初旬　後期リーグ戦の開催（前期リーグと同じ）

■　今後の課題

1．栃木県実業団バドミントン競技力の向上

栃木県国体以降競技力は年々低下傾向を辿っている、近年高校、大学と進むものの卒業後の就職先（受入先）が少なく優秀な人材が地元へ帰ってこない。

2．女子の登録人員の増加について

家庭婦人の登録は多い（600名）ものの一般女子も前項同様の状況である。

3．実業団、社会人連盟の別組織化の必要性

（文責　富士重工　三上隆康）

群馬県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和37年５月13日　　■ 加盟年月日　昭和37年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和24年		○群馬県バドミントン協会設立（９月）
昭和31年	○実業団バドミントン普及大会第一回大会開催(前橋市立女子高校)	○男子11チーム、女子８チームが参加 男子２複３単、女子１複２単の団体戦形式
昭和33年	○第８回全日本実業団バドミントン選手権大会初参加（札幌）	○富士重工業　男子が参加
昭和34年	○普及大会を年２回開催	
昭和37年	○群馬県実業団バドミントン連盟設立 初代会長に日野貞夫、副会長　小林芳蔵、初代理事長に下山昇が就任（５月13日） ○連盟事業として正式に春・秋２回の選手権大会開催（試合形式２複３単）	○設立時の参加チーム 三ツ葉電機、桐生電報電話局、群馬県庁、富士重工業、東京三洋電気、太陽誘電、沖電気、小林段ボール、菱電気器、朝倉染布、三共電気　以上11団体
昭和38年	○小林芳蔵副会長が、日本バドミントン協会功労賞受賞	
昭和41年	○二代目副会長に上田敬次、岡崎敬一、 二代目理事長に土田登が就任	
昭和45年	○春秋の試合形式を１複２単に変更し全日本実業団選手権大会の県予選会（２複３単）を別途開催	
昭和46年	○三代目理事長に面川富が就任 ○日野貞夫会長が日本バドミントン協会功労賞受賞	
昭和50年	○四代目理事長に土田登が就任	
昭和52年	○神沢暁が日本バドミントン協会理事就任 ○五代目理事長に千葉元衛が就任	
昭和54年	○第一回群馬県実業団バドミントンリーグ戦大会（２複１単）開催（町民体育館）	
	○六代目理事長に志村勝巳が就任	
昭和56年	○七代目理事長に神沢暁が就任	
昭和57年	○第１回群馬県実業団バドミントン個人戦大会開催（富士重工体育館）	
昭和58年		○第38回国民体育大会（赤城国体）開催（桐生市）
昭和59年	○第１回群馬県実業団バドミントンフェスティバル大会開催（富士重工体育館）	

■ 活動の現況

☆　登録事業所数　14　（平成６年度）

☆　登録人員　201（男157、女44）（平成６年度）

☆　年次大会（年５回開催）

団体の部

・全日実大会県予選大会（４月・２複３単）
・春季大会（５月・級別・１複２単）
・リーグ戦大会（９月・級別・２複１単）

個人の部

・個人戦大会（４月・級別・複、単）
・フェスティバル大会（12月・級別・複、混合）

■ 今後の課題

①登録事業所数の増加及び女子登録者数の増加
②各大会の活性化



全日実大会県予選出場のメンバ(平成７年４月)

（文責　島田正志）



埼玉県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和37年４月14日　　■ 加盟年月日　昭和37年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和27年		○埼玉県バドミントン協会設立（４月１日）
昭和30年	○第４回全日本実業団バドミントン選手権大会県予選会男子団体　日研化学優勝（１月）	
昭和31年	○第５回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体　日研化学初参加（３月高岡）	
昭和36年	○第10回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体　日研化学５位（１月名古屋）	
	○第11回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体　日研化学５位（７月倉敷）	
昭和37年	○埼玉県実業団バドミントン連盟設立 初代会長に大岡増二郎（日研化学）、同理事長に藤沢重彰（日研化学）が就任（４月14日）	○設立時の加盟チーム　12チーム　217名 大宮市役所、兼松羊毛、川上研究所、国際電電小室受信所、国際電電福岡受信所、埼玉県庁、田辺製薬、日研化学、藤倉ゴム、三菱金属、村田製作所、明治乳業
	○埼玉県実業団バドミントン連盟発足記念兼第１回バドミントン選手権大会（７月15日　川口市立西体育館）	○団体戦（３複） 男子16チーム、女子３チーム参加
昭和40年	○第15回全日本実業団バドミントン選手権大会女子団体　東邦レース４位、一般女子複　佐々木フミ・中川美枝子（東邦レース）５位（６月北九州）	
昭和41年	○第16回全日本実業団バドミントン選手権大会女子団体　東邦レース３位、一般女子複　佐々木フミ・児玉キョウ子（東邦レース）３位（６月大阪）	
昭和42年	○第17回全日本実業団バドミントン選手権大会一般女子単　佐々木フミ（東邦レース）準優勝（６月勝山）	○第22回埼玉国体バドミントン競技（10月23日～26日越谷市立体育館）10月23日昭和天皇・皇后両陛下ご観戦された
	○埼玉県実業団バドミントンリーグ発足（12月３日大宮県営体育館）	
昭和43年	○二代目理事長に椿山雄久（日研化学）が就任（４月）	
	○第18回全日本実業団バドミントン選手権大会女子団体　東邦レース３位、一般女子単　佐々木フミ（東邦レース）優勝（６月諫早）	
昭和44年	○二代目会長に藤沢重彰（日研化学）が就任（12月）	
昭和46年	○第20回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体　日研化学、第５回高岡大会以来15年連続出場（１月高松）	
	○三代目会長に清水幸巳（東洋インキ）、同理事長に佐藤吉彦（東洋インキ）が就任（４月１日）	
昭和48年	○四代目会長に大須田良作（埼玉県庁）、同理事長に吉成素彦（埼玉県庁）が就任（11月18日）	
昭和50年	○第１回埼玉県実業団バドミントン大会・レクリエーションの部（個人戦）（４月13日・20日・27日大宮県営体育館）	

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和52年	○第１回埼玉県実業団バドミントン団体選手権大会（２月20日上尾運動公園体育館） ○五代目会長に富張武次（埼玉県庁）が就任（４月） ○六代目会長に富山武司（サンケン電気）５代目理事長に田中忠義（サンケン電気）が就任（11月）	○知事杯贈られた ○埼玉県実業団バドミントンリーグ戦の再編 Ａリーグ（２複３単）、Ｂリーグ（３複）、女子リーグ（２複１単）
昭和54年	○七代目会長に狭山野口日出夫（本田技研）、六代目理事長に藤田茂樹（本田技研狭山）が就任（11月７日）	
昭和55年		○第２回バドミントン日本リーグ　上尾大会（12月14日上尾運動公園体育館） 参加チーム：男子　電電東京、全日本学生選抜・女子　河崎ラケット、三洋電機
昭和56年	○八代目会長に鈴木勤（パイオニア所沢）が就任（11月）	○第３回バドミントン日本リーグ　上尾大会（11月29日上尾運動公園体育館） 参加チーム：男子　ヨネックス、電電北海道・女子　カワサキ、サントリー
昭和58年	○第１回埼玉県実業団バドミントン個人選手権大会（３月６日上尾運動公園体育館）	
昭和59年	○第34回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体　サンケン電気第17回勝山大会以来通算15回出場（６月大阪）	
昭和60年	○第35回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体　本田技研狭山第24回松阪大会以来12年連続出場（６月藤沢）	
平成３年	○第41回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体　パイオニア所沢第31回名古屋大会以来11年連続出場（６月仙台）	○第13回バドミントン日本リーグ　越谷大会（11月30・12月１日越谷市民体育館） 参加チーム：男子　NTT北海道、北国銀行、NTT関西、トナミ運輸、トヨタ自動車、NTT東京、日本電装、NTT東北・女子　サントリー、三協アルミ、ヤマハ、NTT東京、ヨネックス、九州日本電気、ベスト電器、三洋電機
平成５年	○第43回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体　埼玉県庁第23回石岡大会以来通算10回出場（６月高岡）	○第15回バドミントン日本リーグ　久喜大会（11月７日久喜市総合体育館） 参加チーム：男子　日本ユニシス、トヨタ自動車・女子　三協アルミ、NEC相模原
平成６年	○９代目会長に吉成素彦が就任（４月） ○第44回全日本実業団バドミントン選手権大会男子団体　本田技研狭山第24回松阪大会以来通算19回	

■活動の現況

☆登録事業所数　21　　（平成６年度）

☆登録人員　　172（男146、女26）（平成６年度）

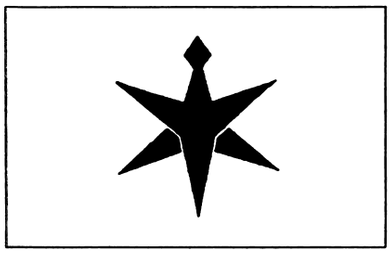
☆年次大会

全日本実業団バドミントン選手権大会県予選会
埼玉県実業団バドミントン大会春季リーグ戦
埼玉県実業団バドミントン大会秋季リーグ戦
埼玉県実業団バドミントン団体選手権大会
埼玉県実業団バドミントン個人選手権大会
埼玉県実業団バドミントンシングルス大会
埼玉県実業団バドミントンシニアダブルス大会

■今後の課題

①年次大会内容の見直し②登録数減少化に対する歯止め策と要員確保③女子登録数の増強　④安定した事業運営（人・資金）

（文責　藤田茂樹・吉成素彦）



千葉県実業団バドミントン連盟

■ 創立年月日　昭和34年４月１日　　■ 加盟年月日　昭和37年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和23年		○千葉県バドミントン協会設立
昭和34年	○千葉県実業団バドミントン連盟創設 初代会長に佐久間正夫（兼県協会会長）、初代理事長に亀井忠（兼県協会理事長）が就任	
昭和35年	○第１回県実業団春季大会兼全日実大会県予選会を開催	
昭和36年		
昭和37年	○二代目会長に滝口進（県議会議員）、二代目理事長に松永修巳（船橋市役所）が就任	
昭和38年	○第１回県実業団秋期大会兼県総合選手権大会県予選会を開催	
昭和39年		○前理事長亀井忠（自営業）逝く
昭和40年		
昭和41年		
昭和42年		
昭和43年	○会長滝口進（県議会議員）が県協会会長兼務となる	
昭和44年		○千葉国体（若潮国体）昭和48開催が決定した
昭和45年		
昭和46年		
昭和47年	○三代目会長に林孝衛（県会議員）、三代目理事長に高久重剛（日立茂原）が就任 ○第22回全日本実業団選手権大会を第28回国民体育大会のリハーサル大会として主管開催（９月12～17日茂原市）	
昭和48年		○第28回国民体育大会（若潮国体）開催（10月14～19日茂原市）
昭和49年		
昭和50年	○四代目理事長に梶田博義（丸善石油）が就任	○前会長滝口進（県議会議員）逝く
昭和51年	○四代目会長に須田勝勇（県会議員）が県協会会長兼任で就任 ○第１回県実業団個人戦兼全日実大会県予選会を開催	

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和52年	○五代目理事長に岩堀武（日立精機）が就任	
昭和53年	○六代目理事長に幸野邦昭（丸善石油）が就任	
昭和54年		
昭和55年		
昭和56年	○七代目理事長に峯元一匡（ピークスポーツ）が就任	
昭和57年		
昭和58年	○八代目理事長に石橋康幸（富士電機）が就任	
昭和59年	○個人戦大会兼全日実大会予選会を廃止	
昭和60年		
昭和61年		
昭和62年		
昭和63年		
平成元年	○秋期大会の一部、二部制を７部制とし、入替戦方式を廃止した	○連盟事務局を輪番制に変更した
平成２年		
平成３年	○五代目会長に高橋重夫（兼県協会会長）が就任	
平成４年	○平成10年の全日実大会開催を内定	
平成５年		○全日実高岡大会に西本勝（日立習志野）を視察員で派遣
平成６年		

■活動の現況

☆登録事業所数　21（平成６年度）

☆登録人員　　262（平成６年度）

☆主催年[illegible]

現在開催している大会は、春・秋の２回で全て団体戦である。

春季大会は、全日実大会の県予選会を兼ねて開催。

秋季大会は、１部～７部の各部のリーグ戦にて開催。

■　今後の課題

参加チームは年々増加して来ており、男子においては過去最高のチーム数となった。女子については、増加はしているものの５～６チームと絶対数が少ないので、いかに参加チームを増やしていくかが課題の一つである。年２回の主催大会開催であるが、近年大会会場の確保がかなり厳しくなって来ており、開催の時期の検討及び大会会場確保[illegible]

第48回全日実大会主管開催に向けて、技術力の向上、審判・役員の育成等を当面の課題として取り組みつつあるが、財源関係等も含め組織力を挙げて推進して行かねばならない。

（文責　石橋康幸）



東京都実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和48年７月１日　　■ 加盟年月日　昭和48年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和22年		○東京都バドミントン協会設立
昭和27年	○第１回全日本実業団バドミントン選手権大会(東京都) 男子０チーム、女子１チーム参加	
昭和48年	○東京都実業団バドミントン連盟設立 初代会長に戸川正悟(明治生命)が就任、初代理事長に宮永武司（明治生命）が就任 連盟規約施行（７月１日）	○設立時の加盟チーム数 男子39チーム、女子15チーム
	○第23回全日本実業団バドミントン選手権大会(石岡市) 男子12チーム、女子７チーム参加	○(男子団体戦)優勝：電電東京、準優勝：ヨネヤマラケット、第３位：河崎ラケット工業 (女子団体戦)優勝：ヨネヤマラケット、第３位：電電東京
	○第１回東京都実業団バドミントン連盟リーグ戦(秋季大会)	○以後毎年（春季／秋季）２回実施している
昭和49年	○第24回全日本実業団バドミントン選手権大会(松阪市) 男子17チーム、女子８チーム参加	○（男子団体戦）優勝：電電東京 (女子団体戦)優勝：河崎ラケット工業、準優勝：電電東京、第３位：ヨネックススポーツ
昭和50年	○第25回全日本実業団バドミントン選手権大会(高岡市) 男子20チーム、女子10チーム参加	○（男子団体戦）準優勝：電電東京 (女子団体戦)優勝：河崎ラケット工業、準優勝：電電東京、第３位：ヨネックススポーツ
昭和51年	○第26回全日本実業団バドミントン選手権大会(藤沢市) 男子22チーム、女子９チーム参加	○（男子団体戦）優勝：電電東京 （女子団体戦）準優勝：ヨネックススポーツ
昭和52年	○第27回全日本実業団バドミントン選手権大会(大阪市・京都市) 男子18チーム、女子10チーム参加	○(男子団体戦)優勝：河崎ラケット、準優勝：電電東京、第３位：ヨネックススポーツ (女子団体戦)準優勝：河崎ラケット、第３位：ヨネックススポーツ
昭和53年	○第１回東京都実業団バドミントン連盟個人戦（２月）	○以後毎年１回実施となる
	○第28回全日本実業団バドミントン選手権大会(東京都）開催 男子15チーム、女子11チーム参加	○(男子団体戦)優勝：電電東京、準優勝：ヨネックス、第３位：河崎ラケット （女子団体戦）準優勝：河崎ラケット
昭和54年	○二代会長上島保（明治生命）が就任（５月） ○第29回全日本実業団バドミントン選手権大会(岡山市) 男子15チーム、女子８チーム参加	○(男子団体戦)優勝：ヨネックス、準優勝：電電東京 （女子団体戦）準優勝：河崎ラケット
昭和55年	○第30回全日本実業団バドミントン選手権大会(新居浜市) 男子13チーム、女子10チーム参加	○(男子団体戦)優勝：ヨネックス、第３位：河崎ラケット、電電東京 （女子団体戦）準優勝：河崎ラケット
昭和56年	○第31回全日本実業団バドミントン選手権大会(名古屋市) 男子18チーム、女子９チーム参加	○(男子団体戦)優勝：電電東京、第３位：カワサキラケット、ヨネックス (女子団体戦)優勝：ヨネックス、第３位：カワサキラケット

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和57年	○第32回全日本実業団バドミントン選手権大会(立川市) 主管開催 男子21チーム、女子10チーム参加	○(男子団体戦)優勝：電電東京、準優勝：ヨネックス、第3位：カワサキラケット (女子団体戦)準優勝：ヨネックス、第3位：カワサキラケット
昭和58年	○三代会長に廣田敏秀(東京トヨペット)、二代理事長に松浪鋭四郎(KDD)就任(5月21日) ○連盟創立10周年記念紙発行(5月21日) ○第33回全日本実業団バドミントン選手権大会(札幌市) 男子15チーム、女子10チーム参加	○(男子団体戦)優勝：電電東京、準優勝：ヨネックス
昭和59年	○第34回全日本実業団バドミントン選手権大会(大阪市) 男子16チーム、女子12チーム参加	○(男子団体戦)優勝：電電東京、準優勝：ヨネックス (女子団体戦)準優勝：ヨネックス
昭和60年	○第35回全日本実業団バドミントン選手権大会(藤沢市) 男子15チーム、女子9チーム参加	○(男子団体戦)優勝：NTT東京、第3位：ヨネックス (女子団体戦)第3位：ヨネックス、NTT東京
昭和61年	○第36回全日本実業団バドミントン選手権大会(京都市) 男子15チーム、女子9チーム参加	○(男子団体戦)優勝：NTT東京、第3位：ヨネックス (女子団体戦)第3位：ヨネックス、NTT東京
昭和62年	○四代会長に宮永武司(明治生命)が就任、三代理事長に森谷喜久男(NTT)就任(6月13日) ○第37回全日本実業団バドミントン選手権大会(名古屋市) 男子15チーム、女子11チーム参加	○(男子団体戦)優勝：NTT東京、準優勝：ヨネックス ○(女子団体戦)準優勝：NTT東京、第3位：ヨネックス
昭和63年	○第38回全日本実業団バドミントン選手権大会(金沢市) 男子15チーム、女子9チーム参加	○(男子団体戦)優勝：NTT東京 (女子団体戦)準優勝：ヨネックス、第3位：NTT東京
平成元年	○四代理事長に今井茂満(学研→ブリジストン)が就任(6月7日) ○第39回全日本実業団バドミントン選手権大会(岡山市) 男子15チーム、女子8チーム参加	○(男子団体戦)優勝：NTT東京 ○(女子団体戦)第3位：ヨネックス
平成2年	○東京都実業団バドミントン連盟規約改正(リーグ戦ブロック割り改正) ○第40回全日本実業団バドミントン選手権大会(神戸市) 男子14チーム、女子9チーム参加	○(男子団体戦)優勝：NTT東京 (女子団体戦)準優勝：ヨネックス
平成3年	○第41回全日本実業団バドミントン選手権大会(仙台市) 男子14チーム、女子10チーム参加	○(男子団体戦)優勝：NTT東京 (女子団体戦)準優勝：ヨネックス、第3位：NTT東京
平成4年	○第42回全日本実業団バドミントン選手権大会(広島市) 男子17チーム、女子11チーム参加	○(男子団体戦)優勝：NTT東京 (女子団体戦)優勝：NTT東京、第3位：ヨネックス
平成5年	○第1回東京都実業団バドミントン連盟団体戦(3月) ○第43回全日本実業団バドミントン選手権大会(高岡市) 男子17チーム、女子10チーム参加	○以後毎年1回実施している ○(男子団体戦)優勝：NTT東京、第3位：日本ユニシス (女子団体戦)準優勝：NTT東京、第3位：ヨネックス
平成6年	○第44回全日本実業団バドミントン選手権大会(福岡市) 男子18チーム、女子11チーム参加	○(男子団体戦)優勝：NTT東京、準優勝：日本ユニシス (女子団体戦)準優勝：NTT東京、第3位：ヨネックス
平成7年	○第45回全日本実業団バドミントン選手権大会(札幌市) 男子17チーム、女子12チーム参加	○(男子団体戦)優勝：NTT東京、準優勝：日本ユニシス (女子団体戦)準優勝：NTT東京

■　活動の現況

☆登録事業所数　99　　(平成６年度)

☆登録人員　　1316（男1024、女292）(平成６年度)

☆主催年次大会の開催

リーグ戦春季大会（５月～６月）

リーグ戦秋季大会（９月～10月）

個人戦大会（１月）

団体戦大会（２月）

全日本実業団選手権大会予選会（３月）

■　今後の課題

当連盟チームひいては日本のバドミントンのレベルアップを図るため、以下の２点を今後の目標とする。

〈主催年次大会のスムーズな運営〉

リーグ割り、試合の運営体制等の改善を進め、当連盟全体のレベルアップを図り、しかも各チームが楽しくプレイができるようにする。

〈全国大会、国際大会の定期的な開催〉

東京都協会とともに数多くの大会開催の経験を重ね、必要な経験者、審判資格者の育成等を図り、東京都において定期的に全国大会、国際大会の開催ができるような体制をつくる。

また、大会開催時の観客動員数増加の方法を積極的に実行し、バドミントンのさらなる普及・振興を推進する。

（文責　目黒仁一）





神奈川県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和24年　月　　■ 加盟年月日　昭和37年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和15年		○神奈川県バドミントン協会設立（５月）、横浜YMCAが中心になって創立された
昭和21年		○本県役員が中心となって、日本バドミントン協会が創立された
昭和24年	○神奈川県実業団バドミントン連盟設立 （会長、理事長、事務局は加盟各団体の持回りで、昭和47年まで毎年交替で実施）	○持回りのため過去の記録が残っていない
昭和27年	○第１回全日本実業団バドミントン選手権大会へ初参加（男子24チーム中７チーム、女子13チーム中３チーム）	○男子：ナルトスポーツ（３位）、東芝柳町工場、石川島織機、昭和電線電纜、日産自動車（３位）、日立戸塚、日本発条 女子：ナルトスポーツ、日本コロムビア（準優勝）、東芝柳町工場
昭和28年	○第２回全日本実業団バドミントン選手権大会を開催（２月14、15日、フライヤジム）	○男子：ナルトスポーツ（準優勝）、日産自動車（３位） 女子：日本コロムビア（準優勝）
昭和29年	○第３回全日本実業団バドミントン選手権大会	○男子：日産自動車（準優勝）、日本鋼管鶴見造船所（４位） 女子：日本コロムビア（準優勝）
昭和30年	○第４回全日本実業団バドミントン選手権大会の男子の部にて日本鋼管鶴見造船所が初優勝（神奈川県唯一の男子団体優勝）	○メンバー　監督：菊間昭治、選手：菅原伸夫、佐藤昌久、佐治豊、遠藤啓治、崎尾元、砥石勤、小野光美、鈴木富春 男子：日産自動車（４位） 女子：日本コロムビア（準優勝）
昭和31年	○第５回全日本実業団バドミントン選手権大会の女子の部にて日本コロムビアが初優勝（神奈川県唯一の女子団体優勝）	○メンバー　監督：伊東隆文、選手：小林歌子、[illegible] 男子：日本鋼管鶴見造船所（準優勝）
昭和32年	○第６回全日本実業団選手権大会	○男子：日本鋼管鶴見造船所（準優勝）
昭和33年	○第７回全日本実業団バドミントン選手権大会	○男子：日本鋼管鶴見造船所（準優勝）、いすゞ自動車鶴見（４位） 女子：日本コロムビア（３位）
昭和34年	○第８回全日本実業団バドミントン選手権大会	○男子：日本鋼管鶴見造船所（準優勝） 女子：日本コロムビア（３位）
昭和35年	○第９回全日本実業団バドミントン選手権大会	○男子：日本鋼管鶴見造船所（４位） 女子：日本コロムビア（３位）
昭和36年	○第10回全日本実業団バドミントン選手権大会	○男子：日本鋼管鶴見造船所（３位）、いすゞ自動車鶴見（４位）
昭和37年	○第11回全日本実業団選手権大会	○男子：日本鋼管鶴見造船所（４位）
昭和38年	○第12回全日本実業団選手権大会	○男子：日本鋼管鶴見造船所（３位）
昭和41年	○第１回神奈川県実業団連盟神奈川リーグ大会開催（各企業体育館）	○参加：男子２部、女子１部
	○第16回全日本実業団バドミントン選手権大会	○30才男子単：遠藤啓治（日本鋼管）が初優勝
昭和42年	○第17回全日本実業団バドミントン選手権大会	○30才男単優勝：遠藤啓治（日本鋼管） 30才男複優勝：遠藤啓治・佐治豊（日本鋼管）

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和43年	○第18回全日本実業団バドミントン選手権大会にて横浜市役所が初のベスト８、遠藤啓治（日本鋼管）が３連勝	○30才男単優勝：遠藤啓治（日本鋼管） 30才男複優勝：遠藤啓治・青木昇（日本鋼管）
昭和44年	○第19回全日本実業団バドミントン選手権大会	○男子単準優勝：渡辺直人（横浜市役所） 30才男単優勝：遠藤啓治（日本鋼管）
昭和45年	○第20回全日本実業団バドミントン選手権	○30才男単優勝：小山包博（神奈川県庁）
昭和47年	○会長、理事長、事務局の持回り廃止 初代会長に大山茂（横浜市役所）、初代理事長に土方充（横浜市役所）が就任	
昭和48年	○第23回全日本実業団バドミントン選手権大会にて関東自動車工業が初のベスト８	○30才男単優勝：吉田邦男（日立戸塚）
昭和49年	○第24回全日本実業団バドミントン選手権大会にて三菱重工横浜が初のベスト８	○30才男単準優勝：鈴木勝之（三菱横浜）
昭和50年	○二代理事長に内堀毅（横浜市役所）が就任 ○第25回全日本実業団選手権大会	○30才男単優勝：鈴木勝之（三菱横浜）
昭和51年	○第26回全日本実業団選手権大会を主管開催（６月25～30日、藤沢市） 地元開催で関東自動車工業が５位入賞	○ユニフォーム背面にチーム名入れ実施 女子団体戦決勝をテレビ初放映 30才男単優勝：渡辺直人（横浜市役所）
昭和52年	○第27回全日本実業団バドミントン選手権大会に、男子：関東自動車工業が５位入賞	○30才男単優勝：渡辺直人（横浜市役所） 30才男単準優勝：鈴木勝之（三菱横浜）
昭和53年	○第28回全日本実業団バドミントン選手権大会に、男子：関東自動車工業が５位入賞 ○三代理事長に井上忠久（関東自工）が就任	○30才男単優勝：渡辺直人（横浜市役所） 30才男単準優勝：鈴木勝之（三菱横浜） ○30才男単優勝：渡辺直人（横浜市役所）
昭和54年	○第29回全日本実業団バドミントン選手権大会に、男子：関東自動車工業が５位入賞 ○県実業団連盟30周年記念行事開催（９月30日）	30才男単準優勝：鈴木勝之（三菱横浜） 30才男複優勝：渡辺・金子（横浜市役所）
昭和55年	○第30回全日本実業団バドミントン選手権大会にて男子：関東自動車工業が５位入賞	○30才男複優勝：渡辺・金子（横浜市役所）
昭和56年	○第二代会長に増村栄一（三菱横浜）、第四代理事長に京屋孝治（日本石油）が就任	
昭和60年	○第35回全日本実業団選手権大会を主管開催会を開催（６月19～23日、藤沢市）	○第35回記念大会として、30才以上（70才）、35才以上（80才）のオープン大会実施
昭和62年	○第37回全日本実業団選手権大会	○男子：関東自動車工業（５位）
平成元年	○実業団連盟40周年記念行事開催	○第10回日本リーグ開催（11月３日）大和市
平成３年	○第三代会長に太田恵（NEC相模原）が就任	
平成４年	○神奈川県実業団連盟神奈川リーグ大会運営方法の変更	○参加　男子：88チーム、女子：11チーム

■　活動の現況

☆登録事業所数　52　　（平成６年度）

☆登録人員　　807（男743、女64）（平成６年度）

☆主催年次大会の開催

団体戦　選手権大会（トーナメント）
　　リーグ戦大会（男子11部89チーム、
　　女子２部10チーム）

個人戦　選手権大会（トーナメント）
　　創立記念大会（親睦大会）

連盟主催の大会は、以上の４回であるが、県協会・各市・区・町協会の大会も多く、試合を増やすのはなかなか難しい。

■　今後の課題

①参加団体のレベルアップ。特に常時ベスト８に入賞し、日本リーグ１部で活躍できるチームの養成。

②個人戦大会の参加選手の大幅増加

③全国大会が開催できる役員の強化養成、資金の確保。

（文責　京屋孝治）

新潟県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和38年１月

■ 加盟年月日　昭和38年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和24年		○新潟県バドミントン協会設立（２月）
昭和31年	○第１回新潟県知事杯争奪兼全日本実業団バドミントン選手権大会新潟県予選会開催	○県協会主催にて開催、その後毎年開催（現在40回大会である）昭和38年からは県実連主催となる
昭和38年	○新潟県実業団バドミントン連盟設立 初代会長に渡辺浩太郎（現新潟市長）が就任、初代理事長に佐藤臣一（北越製紙）が就任（１月）	
	○第13回全日本実業団バドミントン選手権大会主管開催（三条市６月５日～９日）	○個人戦は全日本社会大会（個人戦）を兼ねていたがこの回より日本実連の個人戦とし始まる
	○日本実業団バドミントン連盟に加盟	
昭和42年	○第二代目会長に米山稔（ヨネックス社長）が就任、第二代目理事長に川谷貞夫（日本石油）が就任	
昭和49年	○第３回北信越実業団バドミントン選手権大会主管開催（５月　新潟市）	○男子　優勝　高岡市役所（富山） 女子　優勝　不二越（富山）
昭和54年	○第８回北信越実業団バドミントン選手権大会主管開催（５月　新潟市）	○男子　優勝　高岡市役所（富山） 女子　優勝　新潟NTN（新潟）
昭和56年	○第三代目理事長に有木健（三菱金属）が就任	
昭和59年	○第13回北信越実業団バドミントン選手権大会主管開催（５月　新潟市）	○男子　優勝　高岡市役所（富山） 女子　優勝　北国銀行（石川）
平成元年	○第18回北信越実業団バドミントン選手権大会主管開催（５月　燕市）	○男子　優勝　北国銀行（石川） 女子　優勝　三協アルミ（富山）
平成６年	○第23回北信越実業団バドミントン選手権大会主管開催（５月　新潟市）	○男子　優勝　トナミ運輸（富山） 女子　優勝　三協アルミ（富山）

■ 活動状況

☆登録事業所数　11

☆登録人員　　73（男66、女７）（平成６年度）

☆年次大会

団体戦　知事杯争奪兼全日実大会県予選大会

個人戦　県協会主催大会に参加

創設期から現在にかけて登録事業所数は７～14で県内では三菱金属の通算10勝、三条機械の通算10勝、北信越大会では新潟NTN（女）の通算５回優勝等があるが、全日本の壁は厚く三条機械のベスト16（平成元年）

■ 今後の課題

①登録数の増加、②競技力強化、③地元高校卒、大学卒の県内企業、官公庁への受入態勢作り、④若手役員による組織作り

（文責　有本健）

富山県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和42年３月５日　　■ 加盟年月日　昭和42年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和24年		○富山県バドミントン協会設立（４月）
昭和27年	○第１回全日本実業団選手権大会（東京都）男子団体において十條製紙伏木が優勝	○メンバー：石上実、清水正、筆谷浩二、工粂夫、宮下芳一、釣谷友一、佐野善次郎、正村慎一郎
昭和28年	○第２回全日本実業団選手権大会（横浜市）男子団体にて十條製紙伏木が連続優勝	（注）以下優勝メンバーは別掲の入賞記録参照
昭和29年	○第３回全日本実業団選手権大会（長崎市）男子団体にて十條製紙伏木が３年連続優勝	
昭和31年	○第13回国民体育大会（昭和33年）のリハーサル大会として、第５回全日本実業団選手権大会を高岡市で主管開催、男子団体にて十條製紙伏木が優勝	○十條製紙伏木は２年振り２度目の優勝
昭和32年	○第６回全日本実業団選手権大会（高松市）男子団体にて十條製紙伏木が優勝	○十條製紙伏木は２年連続５度目の優勝
	○第７回全日本実業団選手権大会（岐阜市）男子団体にて十條製紙伏木が優勝	○十條製紙伏木は３年連続６度目の優勝
昭和33年	○第８回全日本実業団選手権大会（札幌市）男子団体にて十條製紙伏木が優勝	○十條製紙伏木は４年連続７度目の優勝 ○第13回国民体育大会バドミントン競技が高岡市で開催された
昭和34年	○第９回全日本実業団選手権大会（善通寺市）男子団体にて十條製紙伏木が優勝、女子団体にて高岡市役所が優勝し男女アベック優勝を達成	○十條製紙伏木は５年連続８度目の優勝、高岡市役所（女）は初優勝
昭和35年	○第10回全日本実業団選手権大会（名古屋市）男子団体にて十條製紙伏木が６年連続９度目の優勝、女子団体にても高岡市役所が２年連続２度目の優勝	○第３回全日本社会人選手権大会（名古屋市）でつぎの本県の選手が優勝した 一般男子複：荒木亥久男・大野幸雄組（十條製紙伏木）、一般女子単：高島洋子（高岡市役所）、一般女子複：高島洋子・中島玲子組（高岡市役所）、50歳男子複：松田龍一・宮地次吉組（金沢医大・おだけや運動具店） ○第15回国民体育大会（菊地市）にて富山県は男女総合（天皇杯）優勝、女子総合（皇后杯）にも優勝（成年女子１位、高校女子１位）
昭和36年	○第11回全日本実業団選手権大会（倉敷市）男子団体にて十條製紙伏木が７年連続10度目の優勝	○日本実業団バドミントン連盟創立 ○第４回全日本社会人選手権大会（倉敷市）で一般女子単に橘美智子（般若鉄工）が優勝 ○第16回国民体育大会（象潟町）にて富山県成年女子が２年連続優勝
昭和37年	○第12回全日本実業団選手権大会（熊本市）女子団体にて金森藤平商店が優勝	○第５回全日本社会人選手権大会（熊本市）一般女子複にて橘美智子・酒井美智子組優勝 ○第17回国民体育大会（倉敷市）にて富山県男女総合（天皇杯）優勝（２度目）また女子総合（皇后杯）優勝（２度目）
昭和39年		○第15回全国高校選手権大会（京都市）男子団体にて富山商業高（不破裕、高林弘則、池田信孝、村井吉

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
		雄、寺前信之、中坪邦雄、寺島清、栂野尾昌一)男子複は高林弘則・池田信孝組が優勝
昭和40年		○第16回全国高校選手権大会(熊本市)男子団体にて富山商業高(不破裕、栂野尾昌一、寺前信之、中坪邦雄、寺島清、井上憲明、中島秀雄)が優勝、男子単は栂野尾昌一、男子複は栂野尾昌一・寺前信之組が優勝、富山商業は三冠王を達成
昭和42年	○富山県実業団バドミントン連盟設立 初代会長に村尾和夫(十條製紙伏木)、初代理事長に中山邦夫(高岡市役所)が就任(3月5日) ○第17回全日本実業団選手権大会(勝山市)30歳男子複にて堺三徳・大木幸雄組(十條製紙伏木)が優勝	○第22回国民体育大会(越谷市)にて富山県は教員男子、高校男子の部で優勝
昭和43年	○第18回全日本実業団選手権大会(諫早市)30歳男子複にて堺三徳・大木幸雄組(十條製紙伏木)が2年連続優勝	○第23回国民体育大会(勝山市)にて富山県は高校男子の部で優勝
昭和44年	○第19回全日本実業団選手権大会(釜石市)30歳男子複にて堺三徳・大木幸雄組(十條製紙伏木)が3年連続優勝	○第20回全国高校選手権大会(桐生市)男子単にて尾崎幹雄(富山商高)、男子複において尾崎幹雄・中川達次組が優勝
昭和45年	○二代目会長に橋本正弘(日曹高岡)が就任 ○第20回全日本実業団選手権大会(高松市)30歳男子複にて堺三徳・大木幸雄組(十條製紙伏木)が4年連続4度目の優勝	
昭和46年	○第21回全日本実業団選手権大会(鹿児島市)にて一般男子複の河村博之・今泉勉組(高岡市役所)、30歳男子単の川上洋一(不二越)、30歳男子複の堺三徳・大野幸雄(十條製紙伏木)が優勝	○堺・大野組は5年連続5度目の優勝
昭和47年	○第22回全日本実業団選手権大会(茂原市)男子団体にて高岡市役所が初優勝 30歳男子単　川上洋一(不二越)が優勝、30歳男子複の堺三徳・大野幸雄組(十條製紙伏木)が優勝	○川上洋一は2年連続優勝、堺・大野組は6年連続6度目の優勝 ○北信越実業団バドミントン連盟設立(6月) 会長は開催県の実連会長とする 初代理事長は河村博之(高岡市役所)が就任
昭和48年	○第1回北信越実業団選手権大会を高岡市にて開催 男子団体で高岡市役所が優勝	○第16回全日本社会人選手権大会(佐賀市)一般男子複にて今泉勉・牧野光男組(高岡市役所)、30歳男子単の河上洋一(不二越)、30歳男子複の川上洋一・遠藤啓治組(不二越・日本鋼管)が優勝 ○第28回国民体育大会(茂原市)高校男子の部にて富[illegible]優勝
昭和49年	○三代目会長に本間俊三(日曹高岡)が就任、副会長に橋本正弘(日曹高岡)が就任	○第17回全日本社会人選手権大会(浪岡町)一般男子単にて今泉勉(高岡市役所)が優勝
昭和50年	○第25回全日本実業団選手権大会を主管開催 男子団体にて高岡市役所が3年振り2度目の優勝	
昭和51年		○昭和50年度全日本総合団体選手権大会(東京都)男子の部にて高岡市役所が優勝 ○第19回全日本社会人選手権大会(宮崎市)一般男子複にて今泉勉・牧野光男組(高岡市役所)が3年振り2度目の優勝
昭和52年	○四代目会長に橋本正弘(日曹高岡)が就任 ○第6回北信越実業団選手権大会(高岡市)男子団体にて高岡市役所が6連勝	
昭和53年	○五代目会長に中山邦夫(高岡市役所)、二代目理事長に河村博之(高岡市役所)が就任	○第21回全日本社会人選手権大会(大津市)一般男子複にて今泉勉・牧野光男組(高岡市役所)が2年振り3度目の優勝
昭和54年		○第1回日本リーグ高岡大会を開催(12月)、高岡市役所出場
昭和55年	○第30回全日本実業団選手権大会(新居浜市)40歳男子単の大野幸雄(十條製紙伏木)、40歳男子複の堺	○富山県バドミントン協会創立30周年記念式典(高岡富士観光ホテル)を挙行

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和56年	三徳・大野幸雄組（十條製紙伏木）が優勝	○第35回国民体育大会（真岡市）男女総合（天皇杯）に富山県は18年振り３度目の優勝、成年男子の部優勝（河村博之、今泉勉、米正隆、二上敏博） ○第２回日本リーグ高岡大会開催（12月） ○第36回国民体育大会（大津市）にて富山県は成年男子の部（河村博之、今泉勉、米正隆、林加永）で優勝（２年連続２度目） ○第３回日本リーグ高岡大会開催（12月）（以後平成８年まで毎年日本リーグ高岡大会開催）
昭和57年	○第11回北信越実業団選手権大会（高岡市）男子団体の部で高岡市役所が11連勝、女子団体の部で不二越が優勝	○第25回全日本社会人選手権大会（桐生市）40歳複で大野幸雄・清水芳隆組（十條製紙伏木・高岡女高教員）が優勝
昭和62年	○第16回北信越実業団選手権大会（高岡市）男子団体の部で三晶技研が初優勝、女子団体の部で三協アルミが３連勝	○第42回国民体育大会（沖縄市）にて富山県は女子総合（皇后杯）優勝（25年振り３度目）成年女子優勝（河合昭博、今川真理子、大谷鶴美、伏喜由美子）
昭和63年		○第43回国民体育大会（長岡京市）にて富山県は成年女子（河合昭博、今川真理子、大谷鶴美、伏喜由美子）で優勝（２年連続４度目）
平成３年		○第８回全日本シニア選手権大会（広島市）50歳男子複で大野幸雄、樋沢寛二組（十條製紙伏木）が優勝
平成４年	○第21回北信越実業団選手権大会（高岡市）女子団体で三協アルミが８連勝、男子団体でトナミ運輸が２連勝	○第47回国民体育大会（新庄市）成年女子の部で富山県（河合昭博、大堀麻紀、佐々木忍、野々村美春）が優勝 ○バルセロナオリンピックに本山秀昭（トナミ運輸）が日本代表として出場
平成５年	○第43回全日本実業団選手権大会主管開催（高岡市、新湊市、小杉町）（６月）	

■　活動の現況

☆登録事業所数　21　　（平成７年度）

☆登録人員　　260（男210、女50）（平成７年度）

☆年次大会

団体戦大会（１部、２部）トーナメント戦、
（全国大会予選を兼ねる）

個人戦大会（単、複、混合複）

■　今後の課題

(1)男女登録事業所数の増加

(2)県内実業団リーグの結成

(3)競技力の強化

（文責　牧野光男）

石川県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和36年４月１日　　■ 加盟年月日　昭和37年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和36年	○石川県実業団バドミントン連盟設立（４月）	
昭和45年	○石川県実業団バドミントン連盟規約制定 初代会長に大友佐泰（石川プレート）、初代理事長に中田吉明（倉庫精練）が就任	
	○第１回石川県実業団選手権大会開催（個人戦）	
昭和47年	○第１回北信越実業団選手権大会参加	
昭和49年	○第３回北信越実業団で津田駒工業が男女とも準優勝	
昭和50年	○第４回北信越実業団選手権大会を主管開催	
昭和51年	○二代目会長に谷口一夫（マイハウス）が就任	
昭和52年	○第６回北信越実業団大会男子の部で金沢市役所が準優勝	○金沢市役所は以後今日まで７回準優勝
昭和54年	○第１回県民サークル大会を開催（松任市）	○事業所対抗とクラブチーム対抗
昭和55年	○第９回北信越実業団選手権大会を主管開催	
昭和56年	○石川県実業団バドミントンリーグを創設	○男子１部Ａ、Ｂリーグ　２部リーグ
昭和57年	○実業団リーグに女子の部設置	○女子の部６チーム
昭和59年	○第13回北信越実業団で北國銀行女子が初優勝	
昭和60年	○二代目理事長に安江勉（津田駒工業）が就任	
	○福井リーグとの定期戦を創設	○福井県と交互開催
	○全日本総合選手権で毛利達彦（金沢市役所）・彼島佳子（北国銀行）が混合複で準優勝、毛利がシングルスベスト８	
	○第14回北信越実業団選手権大会を主管開催（５月）	
昭和62年	○団体戦を男女共に２部制とする	
昭和63年	○第38回全日本実業団選手権大会を主管開催（６月15～19日金沢市総合体育館ほか） 金沢市役所男子が県勢初のベスト８	○開会式に於いて大友佐泰元会長が日本協会顕賛賞を受賞 ○メンバー　毛利達彦、田村稔、山下敏行、林芳広、太村正信、庄田秀実
	○第17回北信越実業団選手権男子の部で北國銀行が初優勝	
平成２年	○リーグの名称を実業団バドミントン石川県リーグと改める	
	○クイーンズサーキット　三協－北國シリーズ開催（４月27～29日金沢市中央体育館）	○北國銀行と三協アルミが共同主管
	○第19回北信越実業団選手権大会を主管開催（５月）	
平成３年	○三代目会長に大門重樹（北國銀行）が就任 谷口前会長は顧問に、副会長に畠山丈治（NTT北陸）が就任	
	○石川県実業団リーグ10年の歩みを刊行	○ジャパンオープンに毛利達彦（金沢市役所）、山本明彦（北國銀行）、中尾仁美（北國銀行）の３選手が出場（１月）
	○全日本実業団選手権大会で北國銀行男子が初のベスト８	○リーグ開会式において第１回大会より連続参加チームを表彰

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
平成４年		○第46回国民体育大会で石川県が総合優勝（10月13～16日　美川町総合スポーツセンタ） 実連関係出場メンバー 成年男子　毛利達彦（金沢市役所）、羽田義仁（北國銀行）、崎田健一（北國銀行） 成年女子　中尾仁美（北國銀行） ○北國銀行男子が日本リーグ１部に昇格 ○第14回日本リーグを主管開催(11月23日　金沢市総合体育館)、北國銀行男子チームが出場 ○メンバー　羽田義仁、崎田健一、山本明彦、西島弘幸、藤島誠孝、武田修、小池田基
平成６年	○全日本実業団選手権大会で北國銀行が４年連続ベスト８	
平成７年	○第24回北信越実業団選手権大会を主管開催（５月13、14日　金沢市総合体育館）	○第17回日本リーグを主管開催(11月23日　松任市文化体育館)

■　活動の現況

☆登録事業所数　21　　(平成６年度)

☆登録人員　　320（男285、女35）(平成６年度)

☆年次大会

リーグ戦前期　総当たり　５月～７月

リーグ戦後期　総当たり　９月～10月

入れ替え戦　上下部各２チーム

リーグ編成　男子６部、女子２部

■　今後の課題

①女子登録事業所数の増加

②競技レベルの向上

③リーグ運営の改革

☆平成７年度リーグ編成

男子１部　北國銀行、NTT北陸Ａ、金沢市役所、福島印刷Ａ、ゴーセン北陸、松下電器液晶

２部　ハセガワスポーツ、津田駒Ａ、コマツＡ、NTT北陸Ｂ、北陸電力Ａ、JR西日本金沢

３部　金大職員Ａ、北陸郵政Ａ、小松電子、松任市役所、日野車体、石川県庁Ａ

４部　金大職員Ｂ、北陸電力Ｂ、NTT北陸Ｃ、石川県庁Ｂ、津田駒Ｂ、金沢市役所Ｂ

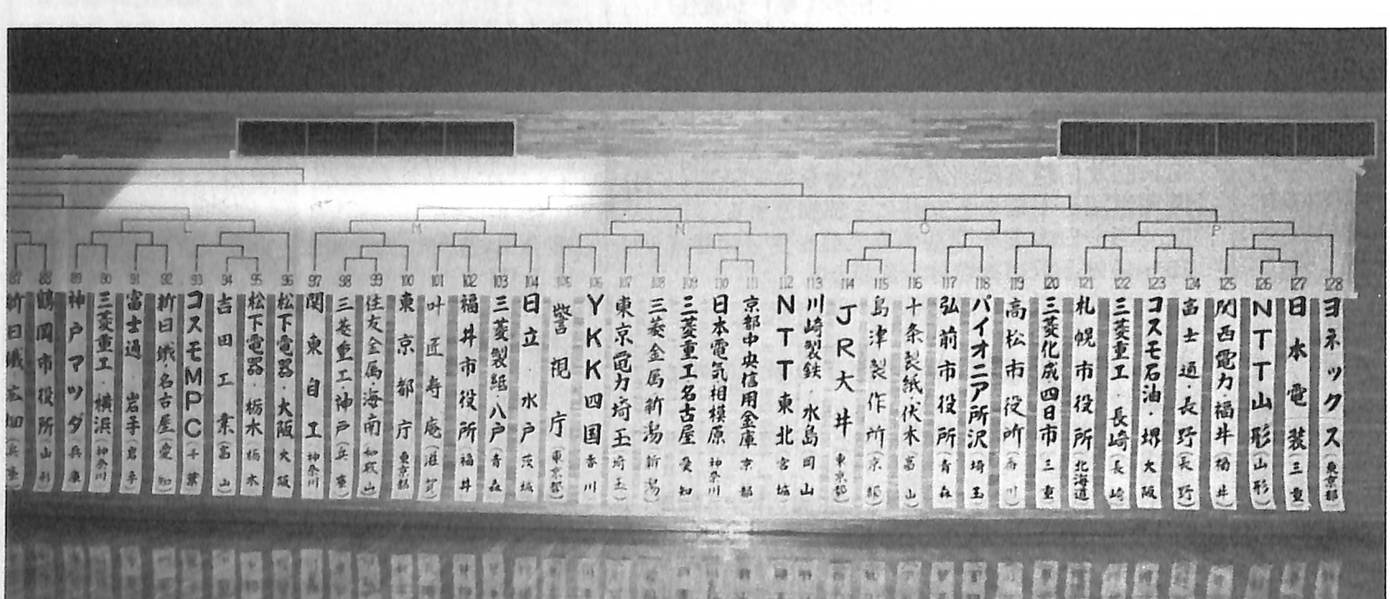
５部　コマツＢ、金大職員Ｃ、北陸電力Ｃ、高桑美術印刷、ナルックス、福島印刷Ｂ

６部　加賀東芝、金大職員Ｄ、北陸郵政Ｂ、津田駒Ｃ

女子１部　北國銀行Ａ、北國銀行Ｂ

２部　津田駒工業、北陸電力、倉庫精錬

（文責　安江勉）



第38回全日実（金沢）大会の抽せん会組合せ

岐阜県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和52年４月17日

■ 加盟年月日　昭和52年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和29年	○第３回全日本実業団バドミントン選手権大会(長崎市）初参加	○川崎製鉄岐阜製作所が参加
昭和30年	○第４回全日実大会（名古屋市）	○岐阜県庁、川崎航空機岐阜製作所が参加
昭和31年	○第５回全日実大会(高岡市)岐阜県庁男子ベスト８	○岐阜県庁(男女)、中部電力岐阜支店、岐阜市役所、岐阜洋裁研究所（女）が参加
昭和32年	○第６回全日実大会（高松市）県庁男女ベスト８	○岐阜県庁（男女)、岐阜市役所が参加
昭和32年	○第７回全日実大会(岐阜市)全日本実大会を主管開催（県協会創立10周年記念事業）（８月24～25日岐阜市民センター） 岐阜県庁男子、川崎航空機工業、岐阜信用金庫以上３チームベスト８ ○岐阜県庁、川崎航空機工業、岐阜信用金庫が岐阜市体育協会優秀選手賞受賞（11月３日）	○川崎航空機工業、岐阜市役所、岐阜信用金庫、岐阜県庁（男女)、振興造機大垣工場、日本合成化学大垣工場、岐阜洋裁(女)、大垣紡績(女)、岐阜洋裁（女）が参加
昭和33年	○第１回岐阜県実業団バドミントン選手権大会開催（５月25日） （旧）岐阜県職域対抗バドミントン大会	
	○第８回全日実大会（札幌市）	○岐阜県庁（男女）が参加
昭和34年	○第９回全日実大会（善通寺市）	○岐阜市役所、岐阜トヨタ（個人戦）が参加
昭和36年	○第10回全日実大会（名古屋市）	○岐阜市役所（男女)、岐阜県庁が参加
昭和36年	○第11回全日実大会（倉敷市）	○岐阜県庁（男女)、岐阜市役所（男女）参加
昭和37年	○第12回全日実大会（熊本市）	○岐阜県庁（男女）が参加
昭和40年	○第15回全日実大会（北九州市）	○岐阜商工信用組合が参加
昭和43年	○第18回全日実大会（諫早市）	○特殊製紙岐阜が参加
昭和44年	○第19回全日実大[illegible]	[illegible]が参加
昭和46年	○第20回全日実大会（高松市）	○大洋紡績（個人戦）が参加
昭和46年	○第21回全日実大会（鹿児島市）	○川島紡績㈱（個人戦）が参加
昭和47年	○第22回全日実大会（茂原市）	○岐阜県庁、加藤鉄工が参加
昭和49年	○第24回全日実大会（松阪市）	○川重岐阜が参加
昭和50年	○第25回全日実大会（高岡市）	○岐阜県庁、川崎重工岐阜工場が参加
昭和51年	○第26回全日実大会（藤沢市）	○川崎重工岐阜（男女)、岐阜県庁が参加
昭和52年	○岐阜県実業団連盟設立　初代会長に神谷一三、初代理事長に大野寛が就任（４月17日）	
	○第27回全日実大会（大阪市・京都市）	○多治見市役所、三菱電機中津川、三井金属神岡(女)が参加
昭和53年	○第28回全日実大会（東京都）	○多治見市役所、三菱電機中津川、岐阜県庁が参加
昭和54年	○第29回全日実大会（倉敷市）	○岐阜県庁、三菱電機中津川が参加
昭和55年	○第30回全日実大会（新居浜市）	○三菱電機中津川、岐阜県庁、東邦レーヨン(女)が参加
昭和56年	○第31回全日実大会（名古屋市）	○三洋電機岐阜、三菱電機中津川、岐阜県庁（個人戦)、川崎重工（女）が参加
昭和57年	○第32回全日実大会（立川市）	○三洋電機岐阜、多治見市役所、川崎重工(女)が参加
昭和58年	○第33回全日実大会（札幌市）	○三洋電機岐阜（男女)、岐阜県庁が参加

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和59年	○第34回全日実大会（大阪市）	○多治見市役所、三洋電機岐阜（男女）が参加
昭和60年	○第35回全日実大会（藤沢市）	○三洋電機岐阜（男女）、多治見市役所が参加
昭和61年	○第36回全日実大会（京都市）	○岐阜県庁、三洋電機岐阜（男女）が参加
昭和62年	○第二代目理事長に松岡龍三が就任	
	○第37回全日実大会（名古屋市）	○岐阜県庁、三洋電機岐阜（男女）が参加
昭和63年	○第38回全日実大会（金沢市）	○岐阜県庁、三洋電機岐阜が参加
平成元年	○第39回全日実大会（岡山市）	○岐阜県庁、三洋電機岐阜、川崎重工業岐阜（女）が参加
	○大野寛、浅野人美、高橋伸治、田口伸治（以上県庁）日本実連功労賞受賞	
平成２年	○第40回全日実大会（神戸市）	○岐阜県庁、三洋電機岐阜（女）が参加
平成３年	○第41回全日実大会（仙台市）	○多治見市役所、三洋電機岐阜（女）、航空自衛隊岐阜、川崎重工岐阜（女）が参加
平成４年	○第三代目理事長に高橋伸治が就任	
	○第42回全日実大会（広島市）	○三洋電機岐阜（男女）、岐阜県庁、川崎重工業岐阜（女）が参加
	○加納義之（県庁）日本実連功労賞受賞	
平成５年	○第43回全日実大会（高岡市）	○丸杉金属興業（男女）、三洋電機岐阜（男女）が参加
平成６年	○第二代目会長に大竹健司が就任	
	○第44回（福岡市）	○丸杉金属興業（男女）、三洋電機岐阜（男女）が参加
	○松浦竹典（三洋）日本実連功労賞受賞	
平成７年	○第45回全日実大会（札幌市）	○三洋電機岐阜（男女）、丸杉金属興業（男女）が参加



県庁バドミントン部が
岐阜市体育協会から優
秀選手賞受賞(32.11.３)

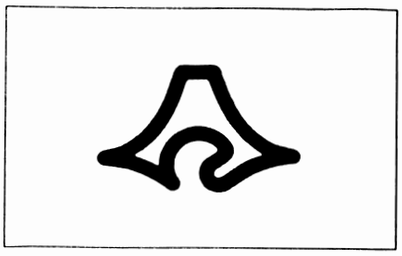
■　歴代会長
初代　神谷一三（昭和52年４月～平成６年）
二代　大竹健司（平成６年４月～）

■　歴代理事長
初代　大野　寛(岐阜県庁)（昭和52年４月～昭和62年）
二代　松岡龍三(川崎重工)（昭和62年４月～平成４年）
三代　高橋伸治（岐阜県庁）（平成４年４月～）

■　活動の現況
☆登録事業所数　７（平成６年度）
☆登録人員　　59（平成６年度）
☆年次大会
　実業団選手権大会（団体戦）開催

■　今後の課題
①登録事業所数の増加
②女子登録者の増加
③競技力の向上

（文責　高橋伸治）



静岡県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和33年4月1日

■ 加盟年月日　昭和37年4月

年次	主要事項	関連事項
昭和24年		○静岡県バドミントン協会設立、日本バドミントン協会に加盟。初代理事長：塩川甫
昭和30年	○第5回全日本実業団大会（高岡市）に本州製紙（男子）が初出場	○メンバー：岡　徹・杉沢正義・佐野行正・内田兼義・町田守正
昭和33年	○静岡県実業団バドミントン連盟設立 ○第1回静岡県実業団大会（団体）を開催	○会長：影山隆亮（富士市役所）、理事長：町田守正（本州製紙）が就任
昭和36年	○第6回東海実業団大会男子の部にて本州製紙が初優勝	○メンバー：岡　徹・杉沢正義・佐野行正・内田兼義
昭和43年	○第18回全日本実業団大会（諫早市）に本州製紙（女子）が初出場	○メンバー：森野秀子・渡辺正子・風岡敏子・木内とし子
昭和46年	○第21回全日本実業団大会（鹿児島市）に富士フイルム（男子）が全国大会に初出場	○メンバー：滝正孝・川原崎仁・諏訪部豊・井出裕雄
昭和49年	○第19回東海実業団大会男子の部で富士市役所が初優勝	○メンバー：平野孝雄・笠井憲一・菅沼友明・笠井好美・古郡文博・増田錠一・鳥居恒雄
昭和51年	○第21回東海実業団大会男子の部で富士フイルムが初優勝	○メンバー：滝正孝・西島知彦・井出裕雄・池田光宏・川原崎仁・諏訪部豊・吉岡直彦
昭和56年	○第26回東海実業団大会男子の部で富士フイルムが優勝	○メンバー：滝正孝・西島知彦・井出裕雄・池田光宏・川原崎仁・吉岡直彦・武井弘征
昭和57年	○第27回東海実業団大会女子の部で日本楽器が初優勝	○メンバー：彼島佳子・川島直子・原田純子・山本美津子・小池かおり・飯野裕子
昭和58年	○第28回東海実業団大会女子の部で日本楽器が優勝	○メンバー：山本美津子・白松千加子・松嶋由美・太田真由美・川島・彼島・原田
	○第33回全日本実業団大会（北海道）男子の部で富士フイル[illegible]	○メンバー：滝正孝・西島知彦・井出裕雄・池田光宏・[illegible]
	女子の部で日本楽器が3位に初入賞	○メンバー：山本美津子・川島直子・原田純子・彼島佳子・太田真由美・白松千加子・松島由美
昭和59年	○第34回全日本実業団大会（大阪市）男子の部でジャトコが5位に初入賞	○メンバー：後藤和之・芹沢英彦・土屋仁・関野勉・中田茂・村松三郎・鈴木朗典
	○日本実業団連盟より個人功労賞受賞	○滝正孝・西島知彦・井出裕雄（以上富士フイルム） ○町田守正（本州製紙）、川原崎仁、諏訪部豊、吉岡正彦（以上富士フィルム）
昭和60年	○第35回全日本実業団大会（神奈川）ジャトコ（男）、日本楽器（女）とも5位入賞	
昭和61年	○二代目理事長に滝正孝（富士フイルム）が就任 ○第36回全日本実業団大会（京都市）	○ジャトコ（男）、日本楽器（女）とも5位入賞
	○日本実業団連盟より本州製紙・藤が団体功労賞受賞	
昭和62年	○第1回静岡県実業団大会（複の部）を開催	○男子優勝：井出・池田（富士フイルム）、女子優勝：伊代野・渡辺（富士通沼津）
	○日本実業団連盟より富士フイルム富士宮団体功労賞受賞	
	○第37回全日本実業団大会（名古屋市）女子の部で日本楽器5位入賞	
昭和63年	○第33回東海実業団大会にてヤマハが優勝	○～第39回大会（平成6年）まで連続優勝中

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
平成元年	○第38回全日本実業団大会（金沢市）男子の部でジャトコが３位初入賞 ○第39回全日本実業団大会（岡山市）女子の部でヤマハ（S63社名変更）が３位入賞、男子の部でジャトコが５位入賞	○メンバー：後藤和之・芹沢英彦・関野強・吉野智昭・住吉勇人・坂上隆広・中田茂 ○ヤマハメンバー：笠原千夏子・金丸陽子・横手智江美・中田裕子・山田美紀・平野智子・林矢須子・山内美奈子
平成２年	○第40回全日本実業団大会（神戸市）女子の部でヤマハが３位入賞、男子の部でジャトコが５位入賞 ○日本実業団連盟より芹沢英彦、後藤和之（以上ジャトコ）池田光宏（富士フィルム）が個人功労賞受賞	
平成３年	○日本実業団連盟より武井弘武（富士フィルム）が個人功労賞受賞 ○第41回全日本実業団大会（仙台市）女子の部でヤマハ３位入賞	
平成４年	○第42回全日本実業団大会（広島市）女子の部でヤマハ３位入賞	
平成５年	○第43回全日本実業団大会（高岡市）女子の部でヤマハ３位入賞	
平成６年	○第44回全日本実業団大会（福岡市）女子の部でヤマハが５位入賞	

■　活動の現状

☆登録事業所　10（平成６年度）

☆登録人員　　80（平成６年度）

☆主催年次大会の開催

１．静岡県実業団バドミントン選手権大会（兼、全日本実業団大会・予選会）

２．静岡県実業団バドミントン選手権大会（複の部）



滝正隆氏（左）と町田守正氏

町田氏（本州製紙）は初代連盟理事長で現在は連盟副会長、また静岡県バドミントン協会の理事長を５期務める。

現役時代は特に「本州製紙」女子部監督を務め、県下女子チームとして初めて全国大会出場に導いた。

滝氏は昭和61年より二代目理事長に就任、現在は「富士フイルム」チームの部長のかたわら県協会の副理事長として町田氏を補佐している。現役としても〝全日本実業団大会〟５位入賞や〝東海実業団大会〟優勝２回、〝中部日本大会〟単・複優勝を経験し、今なおプレーにひたしむ。

■　今後の課題

年々バドミントン人口は確実に増加してきている。特に初心者や家庭婦人層はその例外ではなく、各所でクラブチームの誕生を見ている。しかし企業チーム（実業団）となると人数の制限やレベルの違い等でなかなかチーム結成までに至っていない。

県協会への個人登録はあるものの企業別の把握がなされていないのが現状である。

また実業団連盟に限らず、県のバド協会組織そのものが、県下に幅広く組織されておらず他県に比べて一歩遅れを感ずる。

当面の課題は、静岡県バドミントン協会の組織見直しと分担化の必要性を感ずる。

（文責　川原崎　仁）

愛知県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和54年10月28日　　■ 加盟年月日　昭和37年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和23年		○愛知県バドミントン協会設立（２月）
昭和27年	○第１回全日本実業団バドミントン選手権大会にトヨタ自動車（男、女）が初出場 男子準優勝、女子優勝（２月）	
昭和30年	○第４回全日本実業団バドミントン選手権大会、名古屋市にて県協会主管開催（２月）	
昭和34年	○第１回愛知県実業団バドミントン選手権大会、（県協会主管開催）（２月）	○参加チーム数　男子(21チーム)、女子(９チーム)、リーグ戦方式で実施
昭和36年	○第10回全日本実業団バドミントン選手権大会、名古屋市にて県協会主管開催（１月）	○日本実業団バドミントン連盟設立（７月）
昭和44年	○トヨタ自動車(男子)全日本実業団大会で７連勝達成（第13回～第19回大会）	
昭和46年	○第13回愛知県実業団バドミントン選手権大会より前期、後期の年２回実施となる	○平日、夜間も実施
昭和48年	○第17回愛知県実業団バドミントン選手権大会より出場資格を変更しクラブチームの出場可となる	○参加チーム数　男子(61チーム)、女子(29チーム)
昭和51年	○第23回愛知県実業団バドミントン選手権大会より出場資格を変更	○クラブチームを分離
昭和54年	○愛知県実業団バドミントン連盟設立準備委員会発足（４月）	○設立の趣旨 これまで協会のもとで活動していたが、日本実業団連盟の事業所登録数も上位にありながら県内組織がなく、加盟事業所の要請による
	初代会長　深津豊(トヨタ自動車)、初代副会長　速水正昭（名古屋鉄道）、初代理事長　油井秀男（新日鉄名古屋）が就任した	○加盟事業所数　48
昭和55年	○第31回全日本実業団バドミントン選手権大会開催実行準備委員会発足	
昭和56年	○第31回全日本実業団バドミントン選手権大会主管開催	○期日９月10日（木）～９月15日（火） 会場　愛知県体育館、名古屋市体育館、知多市体育館、一宮市産業体育館
昭和56年	○連盟発足５周年記念誌「足跡」刊行	
昭和60年	○第37回全日本実業団バドミントン選手権大会開催実行準備委員会発足（４月）	○連盟発足の経緯、各事業所チームの紹介、過去の県内及び県外大会の記録を纏める
昭和62年	○第37回全日本実業団バドミントン選手権大会主管開催	○期日６月３日～６月７日（日） 会場　愛知県体育館、名古屋市露橋スポーツセンター、名古屋市枇杷島スポーツセンター
平成元年	○連盟発足10周年記念大会開催	○名古屋市総合体育館レンボーホールに於いて記念式典を開催 ○昭和57年度以降の県内大会及び県外の記録集を刊行

■　活動の現況
☆登録事業所数　49　　（平成６年度）
☆登録人員　　710（男540、女170）（平成６年度）
☆主催年次大会の開催
団体は、リーグ戦大会　前期、後期(男子11部、女子３部）と個人戦（混合複のみ）で競う
☆トヨタ自動車（男、女共）は第１回全日実大会より第46回まで連続出場中
■　今後の課題
①加盟事業所数の増加
②女子登録数の増加
（文責　油井秀男）



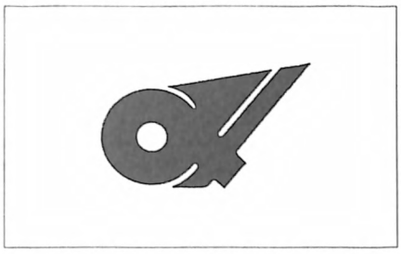
連盟発足５周年記念誌の表紙
主に過去の大会戦績を纏めた

滋賀県実業団バドミントン連盟

■　設立年月日　昭和38年４月１日
■　歴代会長
初代　榎本　彦次　（昭和38年～昭和41年）
二代　正岡吉三郎　（昭和42年～昭和49年）
三代　栗本藤四郎　（昭和50年～現　　在）

■　歴代理事長
初代　安沢　良夫　（昭和38年～昭和41年）
二代　久保　　宏　（昭和42年～昭和49年）
三代　佐藤　　賢　（昭和50年～現　　在）

■　加盟年月日　　昭和42年４月
■　登録事業所数　７事業所
■　登録人員　　96人
■　主催年次大会
１．県実業団バドミントン選手権大会兼全日本実業団バドミントン選手権大会県予選
２．近畿実業団バドミントン選手権大会県予選



三重県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和46年４月１日　　■ 加盟年月日　昭和42年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和37年	○三重県バドミントン協会実業団部として発足	○三重県バドミントン協会組織の１団体として発足
昭和38年	○第７回東海実業団バドミントン選手権大会初参加（２月３日名古屋市金山体育館） ○第１回三重県実業団バドミントン選手権大会開催　男子５チーム、女子３チーム参加（３月10日津市高茶屋病院体育館）	○三重県実業団として初参加、参加チームは三菱化成 メンバー：増井孝夫、町下汎史、森正美、山本寛 ○参加チームは三菱化成、本田技研、神鋼電機、呉羽紡績、横浜ゴム、東亜紡績 以後毎年実施し、トーナメント戦が昭和45年まで続いた
昭和42年	○日本実業団バドミントン連盟に加盟 ○第17回全日本実業団バドミントン選手権大会個人戦に初参加（６月24日～28日福井県勝山市）	○三重県バドミントン協会兼務団体として加盟 ○三重県として個人戦初参加 メンバー：増井孝夫、小林悟（三菱化成）
昭和43年	○第18回全日本実業団バドミントン選手権大会団体戦に初参加（６月22日～26日長崎県諫早市）	○三重県として団体戦初参加 メンバー：三菱化成（増井孝夫、小林悟、吉原洋、穂積邦男）
昭和46年	○三重県実業団バドミントン連盟設立 初代会長に中尾武（富士電機）、初代理事長に安藤勲（富士電機）が就任 ○県実業団選手権大会が春季、秋季、２回のリーグ戦となる 男子は１部、２部、女子は１部	
昭和48年	○第二代目会長に小川史朗（三菱油化）、第二代目理事長に古川幸一（三菱油化）が就任	
昭和49年	○第24回全日本実業団バドミントン選手権大会を主管開催（６月25日～30日松阪市） 男子30才以上単の部増井孝夫（三菱化成）が優勝	○三重県から三菱化成、三菱油化、本田技研、神鋼電機、富士電機、松下電工伊勢が参加
昭和50年	○第30回国民体育大会（三重国体）開催	○バドミントン競技：10月26日～31日、松阪高校体育
昭和51年	○第三代目会長に金森正（富士電機）、第三代目理事長に増井孝夫（三菱化成）が就任 ○連盟組織、大会の見直し、規約改定等を実施 ○実業団の大会をリーグ戦（春季、秋季）、トーナメント戦（兼全日本実業団大会予戦）の年３回とした	○リーグ戦：男子６部、女子３部　50チーム参加
昭和52年	○三重県実業団バドミントン春季、秋季リーグ戦大会を前期、後期リーグ戦大会に改名	○前期リーグ戦を６月下旬～７月上旬、後期 ○リーグ戦を11月下旬～12月上旬に定着化
昭和55年	○第25回東海実業団バドミントン選手権大会を主管開催（10月５日四日市中央緑地体育館）	○男子の部：三菱化成、三菱油化、本田技研、富士電機　女子の部：日東電工、富士電機、本田技研が参加
昭和56年	○第１回三重県実業団バドミントン個人戦選手権大会を開催（３月15日、22日富士電機体育館）	○各級別大会、以後毎年実施中
昭和63年	○第38回全日本実業団バドミントン選手権大会男子の部で日本電装が準優勝（６月15日～19日金沢市） ○日本電装日本リーグ入替戦で優勝、日本リーグ入りとなる	○メンバーは片岡泰、西川勉、福田実、常山兼二、中川智史、須藤憲一、内富進、磯部昌弘 ○７月16日、17日大阪箕面市　メンバーは上記に同じ
平成元年	○第34回東海実業団バドミントン選手権大会男子の部で日本電装が優勝（４月22日、23日富士宮市）	○三重県として初優勝、メンバーは片岡泰、須藤憲一、西川勉、福田実、中川健、常山兼二、磯部昌弘

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
	○第39回全日本実業団バドミントン選手権大会男子の部で日本電装が準優勝（6月14日～18日岡山市）	○メンバーは片岡泰、須藤憲一、西川勉、福田実、中川健、常山兼二、喜岡泰弘、磯部昌弘
	○第11回日本リーグ主管開催(11月23日四日市中央緑地体育館)	○男子の部：日本電装対NTT関西 女子の部：サントリー対三協アルミ
平成2年	○第35回東海実業団バドミントン選手権大会男子の部で日本電装が2年連続優勝(4月21日、22日各務原市)	○メンバーは中川健、西川勉、常山兼二、山内一志、磯部昌弘、喜岡泰弘、奥田貴士、坂崎守
	○第40回全日本実業団バドミントン選手権大会男子の部で日本電装が3位入賞（6月13日～17日神戸市）	○メンバーは上記に同じ
平成3年	○第36回東海実業団バドミントン選手権大会男子の部で日本電装が3年連続優勝(4月20日、21日露橋スポーツセンター)	○メンバーは中川健、西川勉、常山兼二、山内一志、磯部昌弘、喜岡泰弘、坂崎守、奥田貴士
	○第41回全日本実業団バドミントン選手権大会男子の部で日本電装が3位入賞（6月12日～16日仙台市）	○メンバーは上記に同じ
平成4年	○第37回東海実業団バドミントン選手権大会男子の部で日本電装が準優勝(4月20日、21日露橋スポーツセンター)	○メンバーは中川健、山内一志、磯部昌弘、渡辺亮、宇野忠男、片岡泰
平成5年	○第38回東海実業団バドミントン選手権大会男子の部で日本電装が優勝(4月17日、18日露橋スポーツセンター)	○メンバーは中川健、山内一志、磯部昌弘、渡辺亮、宇野忠男、片岡泰

■　活動の現況

☆登録事業所数　39　（平成6年度）

☆登録人員　583（男517、女66）（平成6年度）

☆年次大会

- 団体戦の部は、リーグ戦大会前期、後期(男子11部、女子2部)と団体選手権大会(トーナメント)の3回。
- 個人戦の部は級別（14種目）1回開催。
- 普及活動
  地域バドミントン普及の一環として県内実業団上級選手による指導者講習会を年1回開催。

■　今後の課題

①若手選手の競技力強化②女子登録チームの増加③次期役員の養成

（文責　増井孝夫）



京都府実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和30年６月28日　　■ 加盟年月日　昭和37年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和24年		○京都府バドミントン協会設立（５月）
昭和30年	○京都府実業団バドミントン連盟設立 顧問（初代会長職）佐藤勝郎（府協会長）、初代理事長　上田平雄（西京クラブ）が就任（６月28日） ○連盟結成記念大会（７月１日紫野高校） ○第１回京都府実業団バドミントン優勝大会開催（９月18日八条中学）	○設立時の加盟チーム 川島織物、京都地方貯金局、東レ山科、島津製作所本社、島津製作所三条、平安クラブ、西京クラブ以上７団体 ○参加チームは貯金局、東レ山科、川島織物、島津三条、島津本社、西京ク以上６チームリーグ戦　女子は個人戦とした
昭和31年	○第５回近畿実業団バドミントン選手権大会を主管（２月17日紫野高校） ○第５回全日本実業団バドミントン選手権大会初参加（３月10、11日高岡市） ○第１回京都府実業団バドミントン個人選手権大会開催（４月22日洛南中） ○第１回京都府実業団バドミントン新人大会開催(11月18日西ノ京中)	○主催近畿バドミントン協会、主管京都府バドミントン協会 京都府実業団としては初参加 ○島津本社、島津三条、島津女子が参加
昭和32年	○第６回近畿実業団選手権大会男子の部にて島津製作所、女子の部京都大丸が共に準優勝（３月３日神戸YMCA）	
昭和33年	○初代会長に山川常七、第二代目埋事長に増尾忠雄（宝酒造）が就任 ○第１回京滋実業団定期戦実施	○以後毎年実施し昭和38年まで続いた
昭和34年	○顧問（会長職）佐藤勝郎（川島織物）、第三代目理事長　中沢誠次（川島織物）が就任 ○第１回京都府実業団バドミントン団体選手権大会開催（10月25日峰ケ岡中） ○第８回近畿実業団選手権大会女子の部にて松下電子工業が初優勝（11月29日京都伏見高校）	○トーナメント戦 ○メンバー：宮美佐子、松田純子、隅谷恵美子、八木妙子
昭和35年	○第１回京都府実業団バドミントン級別個人選手権大会を開催（２月14日蜂ケ岡中）	
昭和36年	○第二代目会長佐藤勝郎、第四代目理事長に北中勇（貯金局）が就任	
昭和37年	○第11回近畿実業団選手権大会男子の部にて新三菱重工・京都が準優勝、女子の部にて松下電子工業が四回連続優勝（11月３日大阪府立体育館）	○メンバー：新三菱重(秋山真一、北村稀一、山崎功、戸沢正雄、石田清、石原敦、中尾政実)、松下電子（宮美佐子、水谷英子、岩本良子）
昭和38年	○第五代目理事長に矢田直宏（松下電子）が就任 ○第12回近畿実業団選手権大会にて松下電子工業男子は初優勝、女子は五回連続優勝	○近畿実業団バドミントン連盟設立 ○メンバー：男子(足立明、森晃一、山本正彦、吉田茂、新明栄次、山下善昭、大滝武和)、女子（宮美佐子、水谷英子、岩本良子、尾崎梅子、宮川桂子）
昭和39年	○第六代目理事長に北中勇（貯金局）が再任された ○第１回知事杯争奪京都府実業団バドミントン個人選手権大会を開催（７月19日綾部市民センタ）	○知事杯は男子単、女子単に贈られた

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和41年	○第14回近畿実業団選手権大会女子の部にて三菱重工・京都が初優勝（1月29、30日大阪府立体育館）	○メンバー：永井かおり、大八木いと枝、浜中妙子、平塚雅子
昭和42年	○第七代目理事長に野村嘉明（島津製作所）が就任	
昭和43年	○実連要覧№1（規約編）№2（年度編）発刊（7月1日）	
昭和44年	○連盟要覧№3発刊（3月30日） ○第三代目会長に榊田喜四夫（京都信用金庫）が就任 ○第18回近畿実業団選手権大会女子の部にて三菱重工・京都が5年連続優勝（11月2、3日京都市体育館）	○連盟発足15周年記念記録編（昭和30～44年度競技記録） ○メンバー：永井かおり、山下三枝子、岡崎繁子、永井むつみ、小林フサ子
昭和46年	○第20回全日本実業団選手権大会女子の部にて三菱自工・京都が準優勝（2月1～6日高松市） ○連盟要覧№4発刊（9月1日）	○メンバー：永井かおり、山下三枝子、岡崎繁子、永井むつみ、小林フサ子 ○昭和45年度競技記録付
昭和50年	○優勝大会をリーグ戦大会に改名	○優勝大会は第36回で終り
昭和51年	○榊田会長が会長を辞退されたので京都協会会長永末英一会長が本連盟会長兼務となる ○連盟要覧№5発刊	○昭和46～50年競技記録付
昭和52年	○第27回全日本実業団バドミントン選手権大会を大阪府と共同主管（6月17～19日大阪中央、松下電器枚方、東淀川各体育館）	○京都はレセプションと個人戦を主管（6月20～22日府立体育館、京都市体育館）
昭和53年	○第五代目会長に西村清次（京都中央信用金庫）が就任	
昭和54年		○第1回日本リーグ開催（12／8～1／13東京、京都、高岡、高崎、大阪）
昭和55年	○第2回日本リーグ予選会主管開催（10月5日島津製作所体育館）	○参加チーム：電電北海道、関東自工、滋賀選抜の3チーム、電電北海道が日本リーグ入
昭和58年	○連盟要覧№6発刊（5月29日）	○昭和51～57年競技記録付
昭和61年	○第36回全日本実業団選手権大会を主管開催（6月13～17日府立体育館、京都市体育館）	
昭和62年	○第八代目理事長に佐藤武人（立石電器）が就任、副会長に野村嘉明、川本末夫が就任 ○連盟要覧№7発刊（4月18日）	○昭和58～61年度競技記録付
昭和63年	○野村嘉明副会長が㈶日本バドミントン協会特別功労賞受賞（10月）	○第43回国民体育大会（京都国体）開催（10月15～19日長岡京市）
平成4年	○連盟要覧№8発刊（12月25日）	○昭和62～平成3年度競技記録付
平成7年	○西村清次会長が勇退され会長代行に野村嘉明が就任（3月31日）	

■　活動の現況

☆登録事業所数　32　　（平成6年度）

☆登録人員　　468（男416、女52）（平成6年度）

☆年次大会は団体の部は、リーグ戦大会前期、後期（男子9部、女子2部）と団体選手権大会（トーナメント）の3回。個人戦の部は、前期、後期、知事杯争奪大会の個人選手権大会とシニア大会の4大会。いずれも級別にて競う。

また、表彰規定により通年成績を得点化しランキング表彰を実施している。

3～5年毎に登録名簿、規約、競技記録等をまとめ要覧とし現在8号まで発刊した。

■　今後の課題

①女子登録数の増加②競技力強化③次代の役員の養成

（文責　野村嘉明）

大阪府実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和33年３月31日　　■ 加盟年月日　昭和37年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和33年	○大阪府実業団バドミントン連盟設立 初代会長　春日弘（大阪金属工業）、初代副会長尾崎弘（電電）、宮崎平（大阪スポーツ工業）、初代理事長　尾上忠文（国際電電）が就任	○設立時の加盟チーム 堂島クラブ（NTT関西）、大阪金属工業（ダイキン大阪）、国際電電（KDD）、藤沢薬品、大阪高等裁判所、専売公社茨木、タッタ電線、大阪スポーツ工業（ゴーセン）、大阪電気、日本コンベアー以上10団体
	○第１回団体選手権大会（トーナメント戦）を開催（５月25日アベノYMCA）	○男子（１～３部）25チーム、女子３チームが参加
	○第１回個人選手権大会開催（７月19～20日電電体育館）	○参加者はMS－46人、LS－15人、MD－32組、LD－12組、MIX－12組
	○第二代目理事長に池田芳麻（電電）が就任（７月）	
昭和34年	○第８回近畿実業団バドミントン選手権大会で大阪合繊が男子優勝、女子準優勝	○11月29日京都伏見高校にて開催
昭和37年	○日本実業団バドミントン連盟に加盟	
	○第１回団体リーグ戦大会（１月14日、２月４日大阪府立体育会館別館）	○男子（１～３部）20チーム、女子６チームが参加　現在のリーグ戦の原点となる
	○副会長　宮崎平（大阪スポーツ工業）辞任	
	○第二代目会長高井大次郎（電電）、副会長に尾崎弘が就任	
昭和38年	○第１回バドミントン講習会開催（２月12日大阪府立体育会館別館）	○参加者男女共で40名
	○第３回日韓親善バドミントン競技大会開催（９月18日電電体育館）	○大阪バドミントン協会主催
昭和39年	[illegible]会館別館）	[illegible]ム参加
昭和40年	○近畿実業団バドミントン連盟に加盟	
	○第13回近畿実業団バドミントン選手権大会男子の部で電電大阪が初優勝（２月14日兵庫県）	○電電大阪（電電近畿）は以後第22回大会まで10連覇又第24回大会から第32回大会まで９連覇と輝かしい戦績を残した
	○第三代目会長に沖田幸治（電電）が就任	
昭和41年	○第四代目会長に横井元治（電電）が就任	
	○団体選手権大会、団体リーグ戦大会を春・秋季リーグ戦に変更して新たに発足	○団体戦のクラス編成は男子が１～４部、女子は１部のみ
	○第16回全日本実業団バドミントン選手権大会を主管（６月25日～29日大阪市立中央体育館）男子団体で電電近畿が３位入賞	○男子団体61チーム、女子団体20チームが参加
昭和44年	○春・秋季リーグ戦を前・後期リーグ戦に改名し、これに会長杯リーグ戦と個人選手権大会を加え現在の年間行事が確立された	○団体戦のクラス編成は男子が１～５部、女子は１～２部となる
昭和45年	○第５五代目会長に清水照彦（清水医院）が就任、副会長　尾崎弘、理事長　池田芳麻	
昭和48年	○クラブチーム11チームが退会し、社会人連盟へ移籍	○大阪府社会人バドミントン連盟結成
昭和49年	○会長杯争奪リーグ戦大会を連盟結成15周年記念大会として実施（８月４日～10月22日中央体育館・府	○男子は１～６部で40チーム、女子は１～２部で11チームが参加　電電近畿、KDD、ダイキン淀川が

年次	主要事項	関連事項
	立体育会館別館)	功労賞を受賞
昭和51年	○第26回全日本実業団選手権大会女子の部でサントリーが初優勝（6月25日～30日藤沢市）	○サントリーは以後第30回大会（昭和55年）まで5連覇又第44回大会(平成6年)までに通算13回の優勝、3回の準優勝に輝いた
昭和52年	○第27回全日本実業団バドミントン選手権大会を主管（6月17日～22日大阪市立中央体育館他）女子団体でサントリーが2連勝	○団体戦は大阪府、個人戦は京都府で開催 男子団体99チーム、女子団体51チームが参加
昭和55年	○第六代目会長に植田義明（日本電通）が就任	○清水照彦会長は名誉会長に就任
昭和58年	○会長杯争奪リーグ戦大会を連盟結成25周年記念大会として実施(12月18日～2月12日松下スポーツセンター、東淀川他) ○「連盟シンボルマーク」と「連盟旗」が決まる	○男子は1～10部で94チーム、女子は1～3部で22チームが参加　阪急電鉄、松下電工、住友金属大阪、松下電子部品が功労賞を受賞　清水照彦、尾崎弘、池田芳麻が特別功労賞を受賞
昭和59年	○第34回全日本実業団バドミントン選手権大会を主管（6月13日～17日大阪市立中央体育館他）女子団体でサントリーが2度目のV3を達成、三洋電機も第3位に入賞	○男子団体110チーム、女子団体66チームが参加
昭和60年	○第35回全日本実業団選手権大会女子の部で三洋電機が初優勝、サントリーも準優勝に入賞（6月19日～23日藤沢市）	○三洋電機は以後第38回大会（昭和63年）までに4連覇を達成
昭和61年	○連盟機関誌「大実連」創刊号（1月）を発刊、以後17号(平成2年1月)迄満4年間3ヵ月毎に発行(都合により現在休刊中)	○記事中「おとなりさん」と題して東京都、富山県、愛知県、北海道、神奈川県、香川県、岡山県、京都府、宮城県、和歌山県、石川県、兵庫県、三重県、千葉県、埼玉県、静岡県、滋賀県の「各連盟便り」を掲載
昭和62年	○副会長（理事長兼務）に池田芳麻（NTT関西）が就任	
昭和63年	○連盟結成30周年記念行事として「喜びの集い」（1月24日於住友金属㈱社員クラブ）を開催し「連盟結成30周年記念誌」を発行 清水照彦、尾崎弘、池田芳麻が特別功労賞を受賞	○感謝状贈呈　㈱ゴーセン、大一スポーツ㈱、特別功労賞（団体）NTT関西、国際電電、ダイキン淀川、住友生命、大日本製薬、日立桜島、南区役所、松下電器、塩野義製薬
	○北田スミ子(三洋電機)ソウルオリンピック(リハーサル大会）で銅メダルを獲得	○個人選手権大会を「北田選手オリンピック参加記念大会」として開催（8月6日東淀川）
平成2年	○第40回全日本実業団選手権大会男子の部でNTT関西準優勝、女子の部でサントリー優勝（6月13日～17日神戸市）	○NTT関西は第42回大会（平成4年）にも松井峰生監督のもとで準優勝
平成4年	○第40回近畿実業団選手権記念大会（2月22日～23日奈良県田原本町中央体育館） 植田義明、清水義雄、御前龍雄が特別功労賞を受賞	○男子の部でNTT関西が22回目の優勝、女子の部でサントリーが4回目の優勝、三洋電機が準優勝
平成5年	○第七代目会長に尾崎弘、副会長に池田芳麻(東大阪短大)第三代目理事長に清水義雄(高圧ガス保安協会）が就任	○清水照彦名誉会長は顧問に、植田義明会長は名誉会長に就任

■ 活動の現況

☆登録事業所数　65　（平成7年度）

☆登録人員　1,011（男794、女217）（平成7年度）

☆年次大会は、団体の部は前期・後期・会長杯リーグ戦（男子11部、女子3部）の3回。個人の部は選手権大会（級別）、初級者大会、ミックス大会等その年の状況を考慮して実施。また、表彰規定により総会時(例年殆ど全事業所が出席する)団体及び個人を対象として表彰を行っている。

（文責　清水義雄）

兵庫県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和40年４月１日　　■ 加盟年月日　昭和40年４月１日

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和25年		○兵庫県バドミントン協会設立（７月）
昭和40年	○兵庫県実業団バドミントン連盟設立 初代会長に国富佳寿郎（三菱電機）、初代理事長に木下登喜彦（神戸地裁）が就任（４月１日付）	○設立時の加盟チーム（22団体） 神戸地裁、神戸製鋼尼崎、古河電工、川崎製鉄、大日電線、大阪チタニューム、兵庫県庁、神戸市役所、川崎重工神戸、住友金属尼崎、塩野義製薬、神戸鋳鉄、生糸検査所、山本商会、台糖、神戸工業、三菱電機伊丹、三菱電機神戸、川崎汽船、川西倉庫 ※男女別登録団体含む
	○第１回兵庫県実業団バドミントン春季リーグ戦開催 ○日本実業団バドミントン連盟に加盟	○上記チームが参加
昭和42年	○第二代理事長に小川雄三(大日日本電線)が就任(４月１日付)	
昭和43年	○第二代会長に加藤徳元（三菱電機）が就任（４月１日付）	
昭和45年	○第三代理事長に北義一（三菱電機伊丹）が就任（４月１日付） ○第20回全日本実業団選手権大会女子複で池田・篠山組（三菱電機伊丹）が優勝 ○第19回近畿実業団選手権大会女子の部で三菱電機伊丹が優勝（２回目）	○三菱電機伊丹（女子）の初優勝は第13回大会（昭和39年）であった
昭和46年	○第21回全日本実業団選手権大会30才単で粟　守(古河電工）が優勝 ○第20回近畿実業団選手権大会女子の部で三菱電機	
昭和47年	○第６回世界女子選手権大会（ユーバー杯）に柴山きよ子（三菱電機伊丹）が出場 ○第22回全日本実業団選手権大会女子団体戦で三菱電機伊丹が初優勝	○日本は３回目の優勝 ○出場メンバー 監督・荻野一夫、選手・福永久弐子、柴山きよ子、高崎弘子、大場照美、尼崎初子、牧野睦美
昭和48年	○第三代会長に永井卓也（三菱電機）が就任（４月１日付） ○国民体育大会10回出場表彰・友金利一（神戸製鋼所） ○第22回近畿実業団選手権大会女子の部で三菱電機伊丹が優勝（４回目）	
昭和49年	○全日本実業団選手権大会10年連続出場表彰・吉田昇、豚座一利（大日日本電線） ○第23回近畿実業団選手権大会女子の部で三菱電機伊丹が優勝（５回目）	
昭和50年	○第四代会長に武田光雄（三菱電機）が就任（４月１日付） ○第24回近畿実業団選手権大会女子の部で三菱電機伊丹が優勝（６回目）	

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和53年	○第５代会長に伊藤利朗（三菱電機）が就任（４月１日付）	
昭和54年	○第６代会長に岡久雄（三菱電機）が就任（４月１日付） ○全日本実業団選手権大会10年連続出場表彰・塩飽初、平松重吉（新日本製鉄）	
昭和61年	○第７代会長に伊藤利朗（三菱電機）が就任（４月１日）	
昭和62年	○第36回近畿実業団選手権大会女子の部で三菱電機伊丹が優勝（７回目）	
昭和63年	○全日本実業団選手権大会10回連続出場表彰・片岡正之、横山真二（新日本製鉄）	
平成１年	○第８代会長に谷口一郎（三菱電機）が就任（４月１日付） ○第38回近畿実業団選手権大会女子の部で三菱電機伊丹が優勝（８回目）	
平成２年	○第40回全日本実業団選手権記念大会を神戸で開催（神戸市立中央体育館他） 参加チーム：男子132チーム、女子77チーム	○兵庫県実業団連盟創立25周年記念行事としても誘致した 兵庫県の参加チーム 男子・大和製衡、三菱電機伊丹、三菱電機、神戸新日鉄広畑、大阪チタニウム、神戸マツダ、関西熱化学、三菱重工神戸、神戸市役所、新明和工業、神戸製鋼 女子・三菱電機、三菱電機神戸、大阪チタニウム、神戸市役所、三菱重工神戸
	○第39回近畿実業団選手権大会男子・大和製衡、女子・三菱電機（９回目）が優勝	
平成３年	○第８回全日本シニア選手権大会男子40才の部単優勝・塩飽初（新日本製鉄広畑） ○第１回近畿実業団リーグで男子・大和製衡、女子・三菱電機が初優勝	
平成４年	○第２回近畿実業団リーグで男子・大和製衡、女子・三菱電機がＶ２達成	
平成５年	○第９代会長に大前繁雄（大前学園）が就任（４月１日付） ○第42回近畿実業団選手権大会女子の部で三菱電機が優勝（10回目）	

■　活動の現状

☆登録事業所数　36（男子27、女子９）（平成５年度）
☆登録人員　　494（男子449、女子45）（平成５年度）
☆年次大会（平成５年度現在）
　春季リーグ戦（団体）
　秋季リーグ戦（団体）
　選手権大会（個人）

■　今後の課題

(1)500名以上の登録人数増加対策
(2)役員の若返り及び強化
(3)年次事業の活性化

（文責　北義一）

奈良県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和42年３月26日

■ 加盟年月日　昭和41年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和25年		○奈良県バドミントン協会設立（10月）
昭和41年	○日本実業団バドミントン連盟に加盟	
昭和42年	○奈良県実業団バドミントン連盟設立 連盟規約制定、初代会長　藤田庸右、初代理事長田中孝雄が就任（３月26日） ○第１回個人選手権大会開催（奈良商工高校体育館） ○第１回春季個人選手権大会開催（正強高校体育館）	○設立時の加盟チーム
昭和43年	○第16回近畿実業団選手権大会主管（１月奈良県立橿原体育館） ○第１回秋季個人選手権大会開催（正強高校体育館） ○第１回リーグ戦大会開催（田原本町立体育館）	
昭和47年	○第21回近畿実業団選手権大会主管（12月奈良市立中央体育館）	
昭和49年	○第二代目理事長に井田吉昭（奈良市役所）が就任 ○実連加盟事業所が少なく実活動不可能となり実連主催大会一時中止とし、県協会主催大会に参加することとした 実連組織はそのまま継続の形をとる	
昭和54年	○第三代目理事長に樋木八洲夫（奈良日本永業）が就任 ○第28回近畿実業団選手権大会主管（11月奈良市立中央体育館）	
昭和56年	○長期に亙る事業休止後、再発足の代表者会議開催し、第１回秋季大会（団体）を開催	○第39回国民体育大会（わかくさ国体）開催（奈良・[illegible]）
昭和59年	○第二代目会長に松尾良行（県協会副会長）、第四代目理事長に平敏明（生駒市役所）が就任 ○以後春季、秋季大会（団体）を開催	
昭和61年	○第35回近畿実業団選手権大会主管（11月田原本町中央体育館）	
平成２年	○個人選手権大会再開	
平成４年	○第40回近畿実業団選手権大会記念大会主管（２月田原本町中央体育館）	

■ 活動の現況

☆登録事業所数　２（平成６年度）

☆登録人員　　14（平成６年度）

☆年次大会は春季大会（団体）、秋季大会（団体）、個人選手権大会（社会人クラブと併開催）

■ 今後の課題

多数ある事業所の理解を得つつ登録数の増加、選手の競技力の向上、各種大会への参加、役員の養成等々を行って行きたい。

（文責　平　敏明）

和歌山県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和38年４月

■ 加盟年月日　昭和36年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和24年		○和歌山県バドミントン協会設立
昭和33年	○第７回近畿実業団バドミントン選手権大会に東亜燃料が初出場し準優勝（男子の部）	
昭和34年	○第８回近畿実業団バドミントン選手権大会に東亜燃料が準優勝（男子の部） ○第９回全日本実業団バドミントン選手権大会初参加（善通寺）	
昭和35年	○第９回近畿実業団バドミントン選手権大会を開催男子の部で丸善石油下津が優勝、女子の部で丸善石油下津が準優勝	○参加チームは東亜燃料、和歌山市役所
昭和38年	○和歌山県実業団バドミントン連盟設立（初代会長職）岡本善飢右衛門（県協会会長）、初代理事長に永広利之が就任 ○第12回近畿実業団バドミントン選手権大会男子の部で新宮市役所が準優勝	
昭和40年	○第二代目理事長に泰　敬が就任	
昭和41年	○第三代目理事長に宮崎熊が就任	
昭和43年	○三代目会長に野島一翁、四代目理事長に吉田健次郎が就任	
昭和44年	○第18回近畿実業団バドミントン選手権大会にて住友金属和歌山が準優勝（男子の部）	
昭和45年		○国体リハーサル大会の全日実大会返上（湯浅町の補助金搾取事件のため） ○和歌山国体開催（湯浅町）
昭和46年	○[illegible]	
	○第20回近畿実業団バドミントン選手権大会男子の部にて住友金属和歌山が準優勝	
昭和47年	○第21回近畿実業団バドミントン選手権大会にて住友金属和歌山が男女共準優勝	
昭和50年	○第24回近畿実業団バドミントン選手権大会男子の部にて住友金属和歌山が準優勝（男子の部）	
昭和51年	○第25回近畿実業団バドミントン選手権大会にて住友金属和歌山が男女共準優勝	
昭和53年	○第27回近畿実業団バドミントン選手権大会男子の部にて住友金属和歌山が初優勝	
昭和54年	○五代目会長に坂口常博が就任	
昭和56年	○第30回近畿実業団バドミントン選手権大会男子の部にて住友金属和歌山が準優勝（男子の部）	
昭和59年	○第33回近畿実業団バドミントン選手権大会女子の部にて住友金属和歌山が優勝、男子の部では住友化工が準優勝	
昭和60年	○第34回近畿実業団バドミントン選手権大会女子の部にて住友金属和歌山が準優勝	
昭和61年	○第35回近畿実業団バドミントン選手権大会男子の部	

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
	にて住友金属和歌山が準優勝	
昭和62年	○五代理事長に友松泰男が就任	
昭和63年	○第37回近畿実業団バドミントン選手権大会男子の部	
	にて住友金属和歌山が準優勝	
平成元年	○六代目会長に平松茂人が就任	
平成２年	○六代目理事長に土田行夫が就任	
平成５年	○七代目会長に山下良一が就任	
平成６年	○八代目会長に岡沢亨が就任	
	○八代目理事長に北山洋二が就任	

■　活動の現況

☆登録事業所数　5（平成６年度）

☆登録人員　　40（平成６年度）

☆主催年次大会は、全日本実業団バドミントン選手権大会県予選、春季リーグ大会及び秋季リーグ大会開催

（文責　北山洋二）

島根県実業団バドミントン連盟

■　設立年月日　平成５年４月１日

■　歴代会長

初代　斉藤　和男　（平成５年～平成６年）

二代　三谷　惣一　（平成７年～現　　在）

■　歴代理事長

初代　和田　英昭　（平成５年～平成６年）

二代　星野実智代　（平成７年～現　　在）

■　加盟年月日　平成５年４月

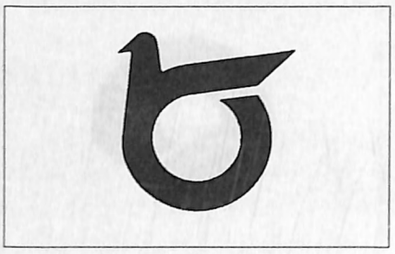
■　登録事業所数　1（平成６年度）

■　登録人数　　4（平成６年度）

■　主催年次大会

登録数少なく県実の年次主催大会なし。活動は県協会大会及び事業に参加している。

（文責：安部　多加）



鳥取県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和48年４月１日

■ 加盟年月日　昭和37年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和30年代	○未組織（県協会長が代行）全国実業団大会には意欲的に参加	○初参加はヒシクラ醤油KK（倉吉市）、国鉄後藤工場クラブが連続出場
昭和40年代	○前半は組織的に整備できず、県秋季総合選手県大会に兼ねての開催にとどまる	○30年～40年代　会長　中尾喬一代行、理事長　井原平八郎、事務局　佐々木義政
昭和45年		○第１回中国実業団大会（倉吉市）で開催
昭和48年	○鳥取県実業団バドミントン連盟設立 初代会長に安田徳郎、理事長に岡昭徳、事務局に宮本良博が就任	○第５回中国実業団大会（米子市）で開催 男子４チーム、女子１チーム参加
	○第１回鳥取県実業団大会（倉吉市）開催 男子８チーム、女子３チーム参加	○優勝　男子：国鉄後藤工場（初）、 女子：日本パルプ米子（初）
昭和49年	○第２回鳥取県実業団大会（倉吉市）開催 男子９チーム、女子６チーム参加	○優勝　男子：鳥取市農協（初）、 女子：鳥取三洋電機（初）
	○第24回全日本実業団（三重県松坂）に高真、倉本、浅井、松永、井原が参加	○40Ｓ　浅井譲、40Ｄ　松永・浅井、40Ｄ　井原・佐々木が夫々三位入賞
昭和50年	○鳥取県実業団連盟規約の制定、組織、役員の拡充整備に着手	
	○第３回鳥取県実業団大会（倉吉市）開催 男子８チーム、女子６チーム参加、個人戦も行った	○優勝　男子：日本パルプ米子（初）、女子：日本パルプ米子
昭和51年	○第４回鳥取県実業団大会（倉吉市）開催	○優勝　男子：日本パルプ米子Ａ、女子：日本パルプ
	○第26回全日本実業団大会（藤沢市）男子団体に日本パルプ、個人戦に高真・安部・木村・松永・佐々木・井原・田村の７名参加	○第８回中国実業団大会（福山市）開催 男子団体に日本パルプ米子、国鉄後藤参加　日本パルプ米子：初のベスト８
昭和52年	○第５回鳥取県実業団大会（大栄町）開催 男子10チーム、女子２チームの参加	○優勝　男子：日本パルプ米子（３年連続）、女子：鳥取三洋電機（２回目）
	○第27回全日本実業団大会（大阪・京都）男子団体に日本パルプ、女子団体に鳥取三洋、個人戦に10名が参加	○第９回中国実業団大会（倉敷市）開催 日本パルプが出場、２年連続ベスト８
昭和53年	○第６回鳥取県実業団大会（大栄町） 男子９チーム、女子２チームが参加	○優勝　男子：国鉄後藤工場（２回目）、女子：鳥取三洋電機（２年連続）
	○第28回全日本実業団大会（東京都）大栄町役場が初出場、60年わかとり国体へ向けて始動	○第10回中国実業団大会（鳥取市）開催 男子４チーム出場　初出場大栄町役場・日本パルプ米子ともに２回戦進出
		○今大会より試合球の相互持ち寄り方式の採用
昭和54年	○二代目会長に井上正典が就任、二代目理事長に岩垣毅、事務局に杉川弘行が就任	○優勝　男子12チーム、女子３チーム参加　男子一部：王子製紙米子、男子二部：鳥取三洋電機Ａ、女子：鳥取三洋電機
	○第７回鳥取県実業団大会（大栄町）開催 男子団体の部に一部二部制を導入	○中国実業団連盟総会（松江市）開催 副会長　井上正典、副理事長　佐々木義政、理事岩垣毅が就任
	○鳥取県市町村職員球技大会にバドミントンを３年ごとに開催　第１回（倉吉市）は溝口町が優勝	○第11回中国実業団大会（松江市）開催 男子４チーム出場
昭和55年	○第８回鳥取県実業団大会（大栄町）開催	○優勝　男子一部：国鉄後藤工場Ａ（３回目）、

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
	男子一部４チーム、男子二部12チーム、女子４チーム	男子二部：鳥取三洋電機Ａ（２連勝）、 女　　子：鳥取三洋電機Ａ（４連勝）
	○第30回全日本実業団大会（新居浜市）	○男子団体戦に大栄町、個人戦８名出場
	○第１回市町村職員対抗大会（大栄町）開催 ８チーム参加、倉吉市役所が優勝	○第12回中国実業団大会（下関市）開催 男子３チーム、女子１チーム出場
	○第１回実業団秋季大会（大栄町）を開催	○個人戦男女単複に76名が参加した
昭和56年	○第９回鳥取県実業団大会（大栄町）開催 男子一部４チーム、男子二部13チーム、女子９チームの過去最高の参加を得た	○優勝　男子一部：王子製紙米子Ａ（５回目）、 男子二部：国鉄米子（初）、 女　　子：倉吉市役所（初）
	○第31回全日本実業団大会（名古屋市）男子団体に王子製紙米子、女子団体に倉吉市役所、個人戦には８名参加	○第13回中国実業団大会（島根県大東町）くにびき国体リハーサル大会として開催 男子６チーム、女子２チーム参加　わかとり国体及びリハーサル大会開催に向けて参考になった
	○第２回県市町村職員対抗大会開催 ４市町村が参加、倉吉市役所連続優勝	
	○第２回県実業団秋季大会（大栄町）開催 男女単複個人戦に95名参加	
昭和57年	○男子の部三部を新設し、三部制になり、更に発展充実なる。事務局に飯田光男が就任	○優勝　男子一部：国鉄米子（初優勝）、 男子二部：山陰アシックス（初優勝）、 男子三部：倉吉市農協（初優勝）、 女　　子：鳥取三洋電機Ａ（６度目）
	○第32回全日本実業団大会（東京都）に男子は王子製紙・山陰アシックス、女子は鳥取三洋電機が出場、いずれも２回戦敗退	
昭和58年	○県実業団女子の部に、一部・二部制を導入	○第15回中国実業団大会（広島市）９／25 男子５・女子３チーム参加　王子製紙米子・鳥取三洋電機２回戦進出
	○第33回全日本実業団（札幌市）男子は山陰アシックス・王子製紙米子、女子は鳥取三洋電機が出場	
昭和59年	○第12回鳥取県実業団大会 男子24チーム、女子９チーム参加	○優勝　男子一部：山陰アシックス（２年連続）、 男子二部：国鉄後藤工場（通算４度）、 男子三部：倉吉市役所（初）、 女子一部：鳥取三洋電機Ａ（８度目）
昭和60年	○第40回国民体育大会（わかとり国体）大栄町開催 鳥取県総合４位入賞、成年男子：４位、少年男子：４位、成年女子：５位	○中国実業団連盟総会（大栄町）開催 会長　井上正典、理事長　岩垣毅、事務局　飯田光男が就任
昭和62年	○三代目会長に竹歳邦安が就任	○中国実業団連盟会長に竹歳邦安氏を選出
平成元年	○四代目会長に田中平三、理事長に安部一夫、事務局に安岡浩志が就任	○中国実業団連盟総会（米子市）開催 会長　米山幸太郎、理事長　鷲見育亮、事務局　坂根敬幸が就任
	○第39回全日本実業団大会（岡山）で男子はNTT鳥取　３回戦進出、鳥取三洋電機１回戦敗退	○女子　鳥取三洋電機：３回戦進出、山陰アシックス：２回戦進出
平成４年		○第24回中国実業団大会　平成４年５月宇部市にて開催 鳥取三洋電機　初優勝なる（女子団体戦）
平成６年	○五代目会長に米山幸太郎が就任、理事長に鷲見育亮、副理事長に佐々木英人・松下泰司、事務局に小谷清史が就任	

■　活動の状況

☆登録事業所数　13（男子13、女子５）（平成６年度）

☆登録人員　　115（男89、女26）　　（平成６年度）

☆年次大会（平成５年迄）

春の団体戦（男子３部制、女子２部制）

秋の個人戦（男子３部制、女子３部制）

平成６年から秋の大会は男女混成団体戦に変更

平成７年度からは春と同一の男女別団体戦に変更し、より活動の活発化に向けて奮闘

■　今後の課題

①女子参加チームの増加対策

②実業団大会の将来展望をいかに構築するか

③体制の整備

（文責　鷲見育亮）

岡山県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和50年４月１日
■ 歴代会長
初代　山田録二郎　（昭和50年～現　　在）

■ 歴代理事長
初代　虻江　　優　（昭和50年～昭和56年）
二代　岡本　武利　（昭和56年～昭和63年）
三代　藤原　　航　（昭和63年～現　　在）

■ 加盟年月日　　昭和37年４月
■ 登録事業所数　14（平成６年度）
■ 登録人員　　130（平成６年度）

■ 主催年次大会
1.岡山県実業団バドミントン選手権大会
兼　全日本実業団バドミントン選手権大会県予選会
2.前期岡山県実業団バドミントン選手権大会（個人の部）
3.後期岡山県実業団バドミントン選手権大会（個人の部）

（文責：藤原　　航）

山口県実業団バドミントン連盟

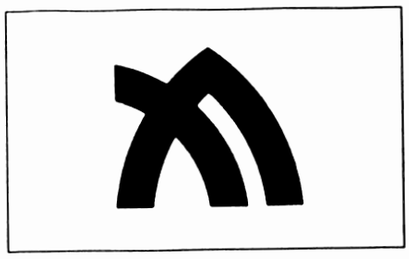
■ 設立年月日　昭和51年４月１日
■ 歴代会長
初代　永岡　得三　（昭和51年～昭和57年）
二代　西村　栄時　（昭和57年～昭和59年）
三代　升守　一典　（昭和59年～昭和61年）
四代　岩田　　整　（昭和61年～昭和63年）
五代　笠井　　明　（昭和63年～平成３年）
六代　広重　市郎　（平成３年～現　　在）

■ 歴代理事長
初代　松村　哲幸　（昭和51年～昭和57年）
二代　末岡　通典　（昭和57年～昭和59年）
三代　善本　公志　（昭和59年～昭和61年）
四代　三原　一郎　（昭和61年～昭和63年）
五代　末廣　秀樹　（昭和63年～現　　在）

■ 加盟年月日　　昭和51年４月
■ 登録事業所数　９（平成６年度）
■ 登録人員　　102（平成６年度）

■ 主催年次大会
1.全日本実業団バドミントン選手権大会県予選会
2.山口県実業団バドミントン選手権大会

（文責：末廣　秀樹）



香川県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和38年２月24日　　■ 加盟年月日　昭和38年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和25年		○香川県バドミントン協会設立（４月１日）
昭和27年		○第１回全日本実業団選手権大会（２月東京） 団体男子２Ｄ３ｓ女子１Ｄ２ｓ
昭和32年	○第６回全日本実業団選手権大会を高松市で開催（３月９，10日）	○参加チーム：善通寺市役所、香川食料㈱、中央パン、高松地方簡易保険局、高松専門店協会、高松市役所、香川県庁、香川県教職員
昭和32年	○第７回全日本実業団選手権大会女子の部で森岡経理事務所が初参加、初出場で優勝（８月岐阜市）	
昭和33年	○第８回全日本実業団選手権大会女子の部で森岡経理事務所が２年連続優勝（７月札幌市）	○メンバー：井上桂子、横井キヌエ、森岡貴美子 ○メンバー：横井キヌエ、山下久子 個人戦は女子単優勝　横井キヌエ、女子複優勝　横井キヌエ・山下久子（森岡経理）、女子複準優勝　田島外茂子・宮川ツヤ子（琴平参宮）、横井キヌエは三冠獲得
昭和34年	○第９回全日本実業団選手権大会女子の部で森岡経理事務所が準優勝（８月善通寺市）	○メンバー：横井キヌエ、山下久子 個人戦単優勝横井キヌエ、複優勝横井キヌエ・山下久子（森岡経理）
昭和36年	○第11回大会で日本実業団バドミントン連盟創立（７月倉敷市）	
昭和37年	○第12回全日本実業団選手権大会女子の部で高松琴平電鉄が初出場で準優勝（４月熊本市）	○メンバー：横井文子、森久子、宮武範子、山下由子（女子団体２ｗ３ｓとなる） 横井文子（琴電）が女子単で優勝 ○全日本社会人大会併開催終り
昭和38年	○第13回全日本実業団選手権大会女子の部で高松琴平電鉄が準優勝、横井文子(琴電)が女子単で優勝、横井文子・森久子（琴電）が女子複で優勝（６月三条市） ○香川県実業団連盟設立（４月）	○メンバー：田島外茂子、横井文子、森久子、宮武範子、山下由子、渡辺百合子 ○実業団大会個人戦開始 ○設立時の加盟チーム：高松市役所、高松琴平電鉄、高松簡易保険局ほか
昭和39年	○第１回四国実業団大会開催（２月高松市） ○第14回全日本実業団選手権大会女子の部で高松琴平電鉄が優勝、横井文子(琴電)が個人戦女子単で優勝、森久子（琴電）が同準優勝、横井文子・森久子（琴電）が女子複で優勝、田島外茂子・宮武範子（琴電）が同準優勝（１月松山市）	○メンバー：田島外茂子、横井文子、森久子、宮武範子、山下由子、渡辺百合子　横井文子(琴電)三冠獲得
昭和40年	○第15回全日本実業団選手権大会女子の部で高松琴平電鉄が優勝、横井文子(琴電)が個人戦女子単で優勝、横井文子・森久子(琴電)が女子複で優勝（６月北九州市）	○メンバー：横井文子、森久子、渡辺百合子、清水照美 横井文子（琴電）は二年連続三冠獲得
昭和41年	○第16回全日本実業団選手権大会女子の部で高松琴平電鉄が優勝、横井文子(琴電)が個人戦単で優勝（６月大阪市）	○メンバー：横井文子、渡辺百合子、宮武範子、清水照美、山本真江、細川泰子
昭和42年	○第17回全日本実業団選手権大会女子の部で高松琴	○メンバー：横井文子、渡辺百合子、宮武範子、山本

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
	平電鉄が優勝、横井文子が個人戦女子単で優勝、横井文子・渡辺百合子（琴電）が女子複で優勝（6月勝山市）	真江、細川泰子 団体高松琴平電鉄4年連続優勝、横井文子女子単5年連続優勝、3回目の三冠獲得
昭和45年	○第20回全日本実業団選手権大会女子の部で高松琴平電鉄が優勝（通算5度目の優勝）、山本真江が個人戦女子単で準優勝、山本真江・細川泰子（琴電）が女子複で準優勝（1月高松市）	○メンバー：山本真江、細川泰子、井上るり子、園浦孝子 ○敗者審判制を採用する
昭和46年	○第21回全日本実業団選手権大会女子の部で百十四銀行が優勝（7月鹿児島市）	○メンバー：山本みどり、福本幸子、小西幸代、赤沢ひろこ、大坪恵美子、森清美、大西順子
昭和47年	○第22回全日本実業団選手権大会女子の部で複準優勝　井上るり子・園浦孝子（琴電）（9月茂原市）	
昭和48年	○第23回全日本実業団選手権大会女子の部で百十四銀行が準優勝（7月石岡市）	○メンバー：川東秀美、森清美、石井マリ子、安藤清子、山内房子、長尾弥生、山口豊子
昭和52年	○第27回全日本実業団選手権大会混合複で日下昇、牛田真由美（百十四銀行）が優勝（6月大阪市）	
昭和53年	○第28回全日本実業団選手権大会混合複で日下昇、牛田真由美（百十四銀行）が2年連続優勝（6月東京都）	
昭和54年	○第29回全日本実業団選手権大会で混合複廃止となる（6月岡山市）	
昭和57年	○第32回全日本実業団選手権大会で個人戦廃止となる（6月立川市）	
平成2年		○バドミントン日本リーグ2部に百十四銀行が参加（H2．11）
平成5年		○第48回国民体育大会（東四国国体）開催（10月25日～28日坂出市）

■　活動の状況

☆登録事業所数　9（平成6年度）

☆登録人員　　157（平成6年度）

☆主催年次大会の開催

1．全日本実業団大会県予選会　団体戦1部

2．春季実業団大会　団体戦・個人戦2部3部

3．秋季実業団大会　団体戦・個人戦2部3部

4．四国実業団大会（4年毎）団体戦・個人戦

☆歴代会長

初代　中村静夫（昭和38．4～昭和43．3）

二代　西本成吾（昭和44．　～昭和50．5）

[illegible]

四代　中村朔之介（昭和60．5～平成4．6）

五代　千田穣一（平成4．6～現在）

☆歴代理事長

初代　穐山正雄（昭和38．4～昭和44．）（県協会理事長兼務）

二代　谷本庄一（昭和45．4～昭和52．）（実連副会長兼務）

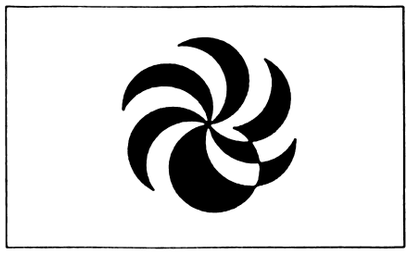
三代　東条義昭（昭和53．4～現在）

■　今後の課題

①企業の登録数の増加および登録人員の増加

②時代の役員養成

（文責　東条義昭）



愛媛県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和28年４月　　■ 加盟年月日　昭和36年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和26年		○愛媛県バドミントン協会設立（昭和26年）
昭和28年	○愛媛県実業団バドミントン連盟設立 初代会長　中西月龍 初代理事長　西本義行が就任（４月） 参加チーム、電通・県庁・裁判所の３チームによる愛媛県大会を開催	
昭和31年	○第１回愛媛県実業団バドミントン選手権大会開催。（参加チームに丸善石油・愛媛大学が加わり５チームと成る。）	
昭和35年	○二代目理事長に浜中誠が就任(以後昭和56年まで在任)（４月）	
昭和36年	○日本実業団バドミントン連盟に加盟 ○第11回全日本実業団バドミントン選手権大会へ初参加	
昭和38年	○二代目会長に俊成薫が就任 ○日本実業団バドミントン連盟理事に浜中誠就任(以後昭和56年まで在任)	
昭和39年	○第14回全日本実業団バドミントン選手権大会を主管開催（１月松山市）	
昭和40年	○愛媛県実業団バドミントン連盟加盟チーム８チームとなる。	○丸善石油・住友化学・クラレ西条・愛媛県庁・愛媛大学・住友アルミ・松下寿電子・ノーガタック
昭和46年	○浜中誠理事長が日本実業団バドミントン連盟より功労賞受賞（２月）	
昭和47年	○[illegible]連盟より技能賞受賞（40代単３年連続優勝）（９月）	○第23回全日本学生選手権大会を松山で開催
昭和50年		○全日本選手団女子合宿を西条で行う（２月）
昭和53年	○四国実業団バドミントン選手権大会で丸善石油が５年連続優勝（第11回～第16回）	
昭和54年	○横井虎男・谷口金夫が日本実業団バドミントン連盟より技能賞受賞（40代複３年連続優勝）	
昭和55年	○第30回全日本実業団バドミントン選手権大会を主管開催（６月新居浜市）	
昭和56年	○横井虎男・谷口金夫が全日本実業団バドミントン選手権大会で40代複５年連続優勝	
昭和57年	○三代目理事長に横井虎男就任	○日本リーグを松山で開催（昭和58年） ○日本リーグを今治で開催（昭和62年） ○日本リーグを松山で開催（昭和62年） ○第３回全日本シニア選手権大会を松山で開催(昭和61年) ○第１回全日本混合ダブルス選手権大会を西条で開催（平成２年）

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
平成５年	○三代目会長に浜中誠・四代目理事長に石井健一就任	○第21回全国スポーツレクレーション大会を松山で開催（平成元年） ○全日本対中国対抗戦を新居浜で開催（平成４年）

■活動の現況

☆登録事業所数 7　　（平成６年度）

☆登録人数　　82（男子78、女子４）（平成６年度）

☆年次大会

平成６年度までは年一回団体戦・個人戦を階級別にトーナメントにて競っている。平成７年度からは、春に団体戦、秋に個人戦を行う予定。

■今後の課題

①登録事業所数の拡大　②女子登録数の増加

③年次大会の充実

（文責　石井健一）

福岡県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　平成５年４月１日

■ 加盟年月日　平成５年４月

■ 略年表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
平成５年	○福岡県実業団バドミントン連盟設立（４月１日） 初代会長　北田葆光（ベスト電器バドミントンオーナー）、初代理事長　坂田雄二（ベスト電器）が就任（４月１日）	○設立時の加盟チーム ＜男子チーム＞ベスト電器、福岡市役所、JR九州、月星化成、アポロ電子、TOTO、JR西日本福岡、福岡県庁、豊前市役所、北九州市役所、西日本銀行、三井東圧、福岡シティ銀行、JR貨物九州支社、住友金属、三菱化成、吉松歯科、日産自動車、アリヨシスポーツ＜女子チーム＞ベスト電器、吉松歯科、福岡シティ銀行、福岡市役所、三菱化成
	○第１回福岡県実業団バドミントン選手権（リーグ戦）大会 男子６，７部（７月25日　穎田町体育館） 男子３，４，５部（８月１日　水巻町体育館） 男子１，２部、女子（８月29日　苅田日産体育館） ○第15回バドミントン日本リーグ２部大会開催（11月福岡市立体育館）	
平成６年	○第１回福岡県実業団バドミントン選手権トーナメント大会（福岡県実業団バドミントン連盟発足を記念しての第１回記念大会） （１月23日　福岡市立城南体育館）	○男子優勝－ベスト電器 女子優勝－ベスト電器
	○第44回全日本実業団バドミントン選手権大会 （６月15～19日　福岡市民体育館他３会場）	○地元参加チームは、男子はベスト電器、福岡市役所、西日本銀行、福岡シティ銀行、北九州市役所の５チーム、女子はベスト電器 ベスト電器は男女とも第５位入賞
	○第２回[illegible]戦）大会 男子３，４，５部（７月24日　柳川市民体育館） 男子１，２部、女子（８月７日　久留米市総合スポーツセンタ） 男子６，７部（８月28日　柳川市民体育館）	○'94バドミントン・クイーズサーキット福岡ベスト電器シリーズ開催（10月　福岡市立西体育館）
	○第２回福岡県実業団バドミントン選手権トーナメント大会（10月16日　福岡市立城南体育館）	○男子優勝－ベスト電器 女子優勝－ベスト電器

■ 活動の状況

☆登録事業所数　19（男子19、女子５）（平成６年度）

☆登録人員　292（男子247、女子45）（平成６年度）

☆年次大会

団体の部

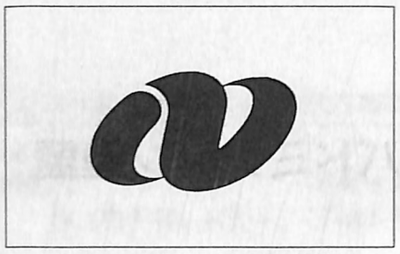
・リーグ戦大会（１～７部）

・トーナメント大会

■ 今後の課題

①九州実業団バドミントン連盟結成②登録数の増加、特に女子チームの増加③バドミントン競技の指導及び普及④技術向上の為の研修並びに講習会を実施⑤指導者の養成及び組織の強化。

（文責　坂田雄二）



長崎県実業団バドミントン連盟

■ 設立年月日　昭和27年４月１日　　■ 加盟年月日　昭和37年４月

■ 略　年　表

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
昭和24年		○長崎県バドミントン協会設立（４月）（初代会長斉藤義雄、理事長高野末雄）
昭和27年	○長崎県実業団バドミントン連盟設立（４月）初代会長に斉藤義雄(県協会々長)、初代理事長に高野末男（西日本重工長崎造船）が就任 ○第１回全日本実業団選手権に西日本重工長崎造船所が初参加　ベスト８入賞 ○二代目会長に加藤　錦（県教職員）が就任	○第１回全九州職域対抗大会(大分)にて西日本重工長崎造船所が優勝
昭和28年	○第２回全日本実（横浜）大会で 西日本重工長崎造船所　ベスト４入賞	
昭和29年	○第３回全日本実業団バドミントン選手権大会を長崎県協会主管にて開催 西日本重工長崎造船所　３位入賞（２月）	
昭和30年	○第４回全日実（名古屋）大会で 西日本重工長崎造船所　ベスト８入賞	○第１回全九州実業団大会（大分） 西日本重工長崎造船所　優　勝
昭和31年	○第５回全日実（高岡）大会で 西日本重工長崎造船所　ベスト４入賞	○第２回全九州実業団大会（熊本） 西日本重工長崎造船所　優　勝
昭和32年	○第６回全日実（高松）大会で 西日本重工長崎造船所　ベスト４入賞	
昭和33年	○第８回全日実（札幌）大会で 西日本重工長崎造船所　ベスト８入賞	
昭和35年		○第６回全九州実業団大会（小倉） 西日本重工長崎造船所　優　勝
昭和37年	○二代目理事長に喜多昭夫 （西日本重工長崎造船所）が就任	○第８回全九州実業団大会（久留米） 西日本重工長崎造船所　優　勝
昭和38年	○三代目会長に荒木　実（親和銀行）が就任 第13回全日実（三条）大会で 西日本重工長崎造船所　ベスト４入賞	○第９回全九州実業団大会（長崎） 西日本重工長崎造船所　優　勝
昭和39年	○二代目理事長に喜多昭夫（三菱重工長崎造船）が就任 ○第14回全日実（松山）大会で 三菱重工長崎造船所　ベスト８入賞	
昭和40年	○第15回全日実（北九州）大会で 三菱重工長崎造船所　ベスト８入賞	
昭和41年		○第12回全九州実業団大会（琉球） 三菱重工長崎造船所　優　勝
昭和43年	○第18回全日実（長崎）大会で 三菱重工長崎造船所　ベスト８入賞	○第14回全九州実業団大会（大分） 三菱重工長崎造船所　優　勝
昭和44年	○第19回全日実（釜石）大会で 三菱重工長崎造船所　ベスト８入賞	○第15回全九州実業団大会（宮崎） 三菱重工長崎造船所　準優勝
昭和45年		○第16回全九州実業団大会（久留米） 三菱重工長崎造船所　準優勝
昭和46年		○第17回全九州実業団大会（熊本）

年　次	主　要　事　項	関　連　事　項
		三菱重工長崎造船所　優　勝
昭和47年		○第18回全九州実業団大会（長崎）
		（男子）三菱重工長崎造船所　優　勝
		（女子）三菱電機長崎製作所　優　勝
昭和48年		○第19回全九州実業団大会（長崎）
		（男子）三菱重工長崎造船所　優　勝
		（女子）三菱電機長崎製作所　優　勝
昭和49年	○四代目会長に横尾秀夫（市会議員）が就任	○第20回全九州実業団大会（鹿児島）
		三菱電機長崎製作所　男女共に準優勝
昭和50年	○三代目理事長に田中貞夫（三菱重工）が就任	○第21回全九州実業団大会（熊本）
		三菱重工長崎造船所　準優勝
昭和51年		○第22回全九州実業団大会（鹿児島）
		三菱電機長崎製作所　優　勝
昭和52年		○第23回全九州実業団大会（宮崎）
		三菱重工長崎造船所　準優勝
昭和53年		○第24回全九州実業団大会（熊本）
		三菱重工長崎造船所　優　勝
昭和54年		○第25回全九州実業団大会（長崎）
		三菱重工長崎造船所　優　勝
		三菱電機長崎製作所　準優勝
昭和55年		○第26回全九州実業団大会（北九州）
		三菱重工長崎造船所　準優勝
昭和56年		○第27回全九州実業団大会（熊本）
		長崎市役所　優　勝
		三菱重工長崎造船所　準優勝
昭和57年		○第28回全九州実業団大会（大分）
		長崎市役所　優　勝
昭和58年	○五代目会長に一ノ瀬秀人（親和銀行）が就任	○第29回全九州実業団大会（福岡）
		長崎市役所　優　勝
		三菱重工長崎造船所　準優勝
昭和59年		○第30回全九州実業団大会（長崎）
		三菱重工長崎造船所　準優勝
昭和60年		○第31回全九州実業団大会（長崎）
		三菱重工長崎造船所　準優勝
昭和61年	○六代目会長に鈴田正武（県会議員）が就任	
平成２年	○七代目会長に久間文章（衆議院議員）が就任	○第36回全九州実業団大会（熊本）
		三菱重工長崎造船所　準優勝

■　活動の状況

☆　登録事業所数　14（平成６年度）

☆　登録人員　　200（平成６年度）

			10名
三菱重工業㈱長崎造船所	30名	長崎県庁	10名
三菱電機　㈱長崎製作所	30名	長崎菱電テクニカルサービス	10名
日本ビソー㈱長崎製作所	20名	菱工エンジニアリング	10名
長崎市役所	20名	（有）鶴洋電機	10名
長崎菱重エンジニアリング	10名	内外岩田実業㈱	10名
諫早市役所	10名	大東エンジニアリング	10名
大村市役所	10名	長崎設計	

☆主催年次大会の開催

毎年３月にリーグ戦大会開催　諫早市体育館

■今後の課題

加盟チームの加入推進

加盟チームのレベルアップ

女子チームの強化

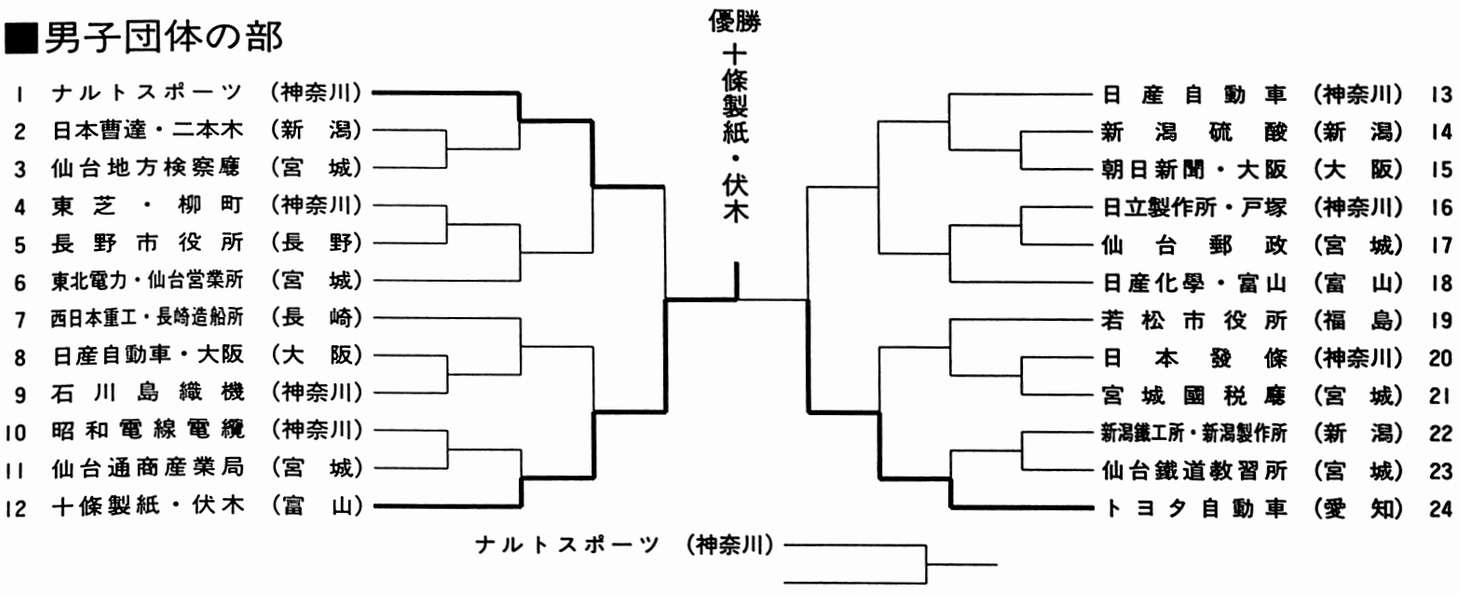
日本実業団バドミントン連盟
記録

1.全日本実業団バドミントン選手権大会記録（第1回～第45回）
2.過去の栄冠
（1）全日本実業団バドミントン選手権大会
（2）全日本総合バドミントン選手権大会
（3）全日本社会人バドミントン選手権大会
（4）日本リーグ
（5）全日本実業団対全日本学生バドミントン団体対抗戦
（6）トマス杯・ユーバー杯大会

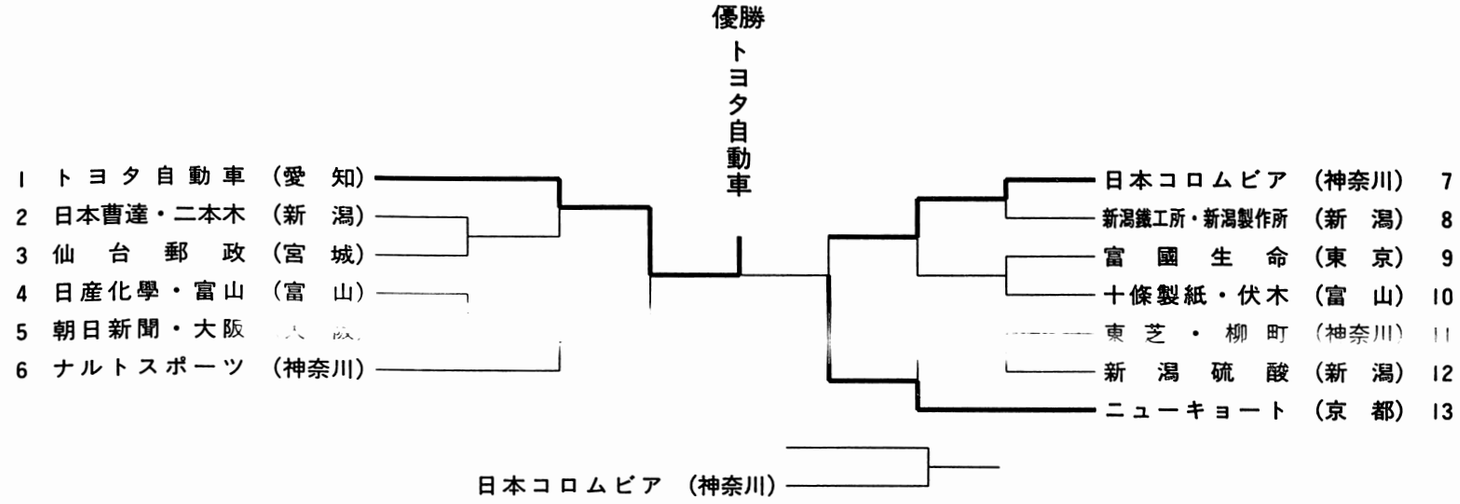
第1回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1952年(昭和27年)2月16,17日
開 催 地：東京都神田
会　　場：国民体育館

■男子団体の部



■女子団体の部



■出場選手名簿

（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
宮城	仙臺地方檢察廳	早坂　正	臼井　明・小川昭弐・柘植忠佳・柴崎晃次・千葉正壽・早坂　正・櫻井　勇
	仙臺通商産業局	瀬野　尾秩	瀬野尾秩・佐藤左太郎・寺島　稔・安達三郎・針生次男・木村武善
	仙臺鐵道教習所	蒔田　修	畑中虎勝・蒔田　修・福島重夫・大岡次郎・清野太郎・菊池勇治・林實木造
愛知	トヨタ自動車	酒巻　和男	上羽家秀・岩月眞平・小池鏡市・蟹　和男・貝本　暁・中井義行・酒巻和男
富山	十條製紙・伏木	石上　實	清水　正・筆谷浩仁・工　粂夫・宮下芳一・釣谷友一・佐野善次郎・正村愼一郎
福島	若松市役所	渡邊　宏	渡邊　宏・鈴木忠三・小林幸市・伊藤和夫
富山	日産化學・富山	中村峯三郎	見波安治・石野清浩・河上重信・下田保雄・林　辰夫・中川豊和・砂山信之
神奈川	日産自動車	権田　正一	権田正一・宮岡源二・菊地貫能・鈴木秀雄・大籔實夫・三好清一・田中佐之助
	石川島織機	渡邊　利長	渡邊利長・中山義信・廣田稔夫・籾山敏男・石渡惣司・齋藤壽夫・増田慶八郎
宮城	東北電力・仙臺營業所	山田　義人	山田義人・瀬戸寅男・相原　授・佐々木孝・千葉武雄・島田松郎・菅野寅夫
神奈川	日立製作所・戸塚	廣田　一夫	廣田一夫・東　長年・野上忠義・石田　進・古澤速男・杉崎登志男・山本眞吉
大阪	日産自動車・大阪	櫻井　保男	櫻井保男・森田幸之・降井欽一・眞下　高・大友安雄
新潟	日本曹達・二本木	宮澤　高嶺	村越　修・長野龜四郎・古住俊夫・松井正夫・宮澤高嶺
大阪	朝日新聞・大阪	藤村　岩男	藤村岩男・明石三郎・石川　隆・木谷義雄・岡田秀彦・石渡俊一・上村添次郎
新潟	新潟硫酸	熊倉　一郎	熊倉一郎・吉原善男・早川正吾・坂上昭五
	新潟鐵工所・新潟製作所	渡邊平一郎	樋口信三郎・及川和男・中川　暁・田中　悟・本間浦太郎・塩谷文治・有本　健
長崎	西日本重工・長崎造船所	甲斐　晃	甲斐　晃・成清　進・高野末雄・馬場榮一・老松幹雄・平　政雄・鈴田健太郎
神奈川	東芝・柳町	鳥居塚直彌	森田三郎・高橋　榮・三枝囲治・多中藤五良・田中　勤・蒲生松次
	昭和電線電纜	山岸　廣	渡邊和助・山岸　廣・由比　演・氏家早雄・諸川　湊・坂本利春・伊藤哲夫
	日本發條	杉本　好繁	林　芳雄・多田喜一・森　誠・岩崎一郎・西村　宏・田中博夫・川村　昇
	ナルトスポーツ	秋元　義男	岡　淳一・秋元幾男・井上正春・井尻常雄・脇養次郎・髙山　保
宮城	仙臺郵政		
	宮城縣國税廳		
長野	長野市役所	青木　重衛	宮川　清・小池淳美・森山清十・青木重衛・北澤忠雄

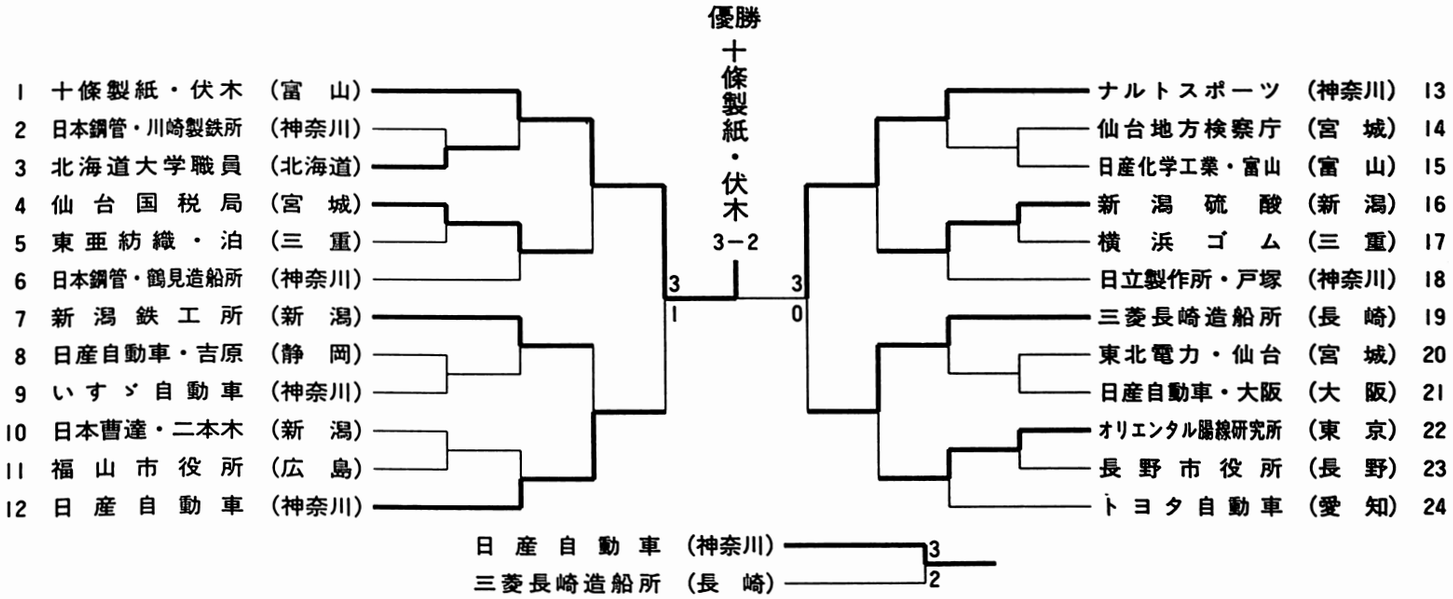
（女子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
京都	[illegible]	[illegible]	[illegible]島　信・岸本廣子
愛知	トヨタ自動車	酒巻　和男	保田久子・伊與田照子・山本満子・吉永千代子
富山	十條製紙・伏木	石上　實	笹井照子・野村弘子
	日産化學・富山	中村峯三郎	田島桂子・福島美智子
大阪	朝日新聞・大阪	藤村　岩男	水野露子・古田良子・紀山絹子・古田和子
新潟	日本曹達・二本木	宮澤　高嶺	五十嵐桂子・博田しう子
	新潟硫酸	熊倉　一郎	田中葉子・中野美代
	新潟鐵工所・新潟製作所	渡邊平一郎	五十嵐和子・大野ミキ子・岡　一二三・入山富子
神奈川	ナルトスポーツ	秋元　幾男	小林歌子・岡　廣子・白鳥靜江・岡田時子
	東芝・柳町	鳥居塚直彌	北澤エツ子・松原君代・大崎美代子・加藤信子
	日本コロムビア	荒川とみ子	奥谷喬代・荒川とみ子
東京	富國生命	深川　富基	内山タマノ・五島慶子・勝又智子
宮城	仙臺郵政		

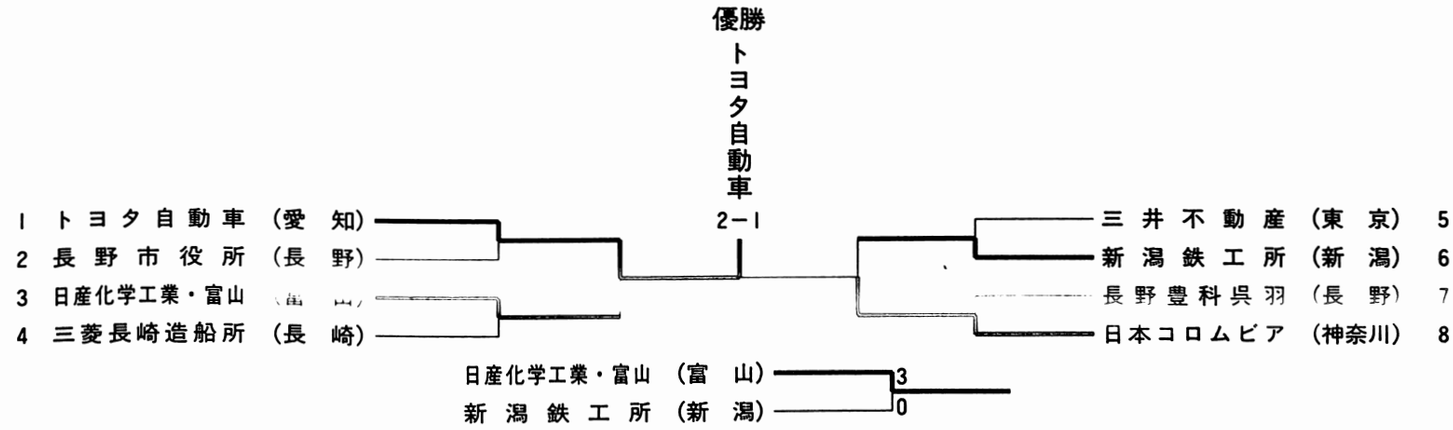
第2回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1953年(昭和28年)2月14,15日
開 催 地：神奈川県横濱市
会　　場：フライヤージム

■男子団体の部



■女子団体の部



■出場選手名簿

（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	三井鉱山	西野　泉三	
宮城	仙台地方検察庁	早坂　正	早坂　正・桜井　勇・臼井　明・小川昭弐・柴崎晃次・安海敏男・千葉正寿・柘植忠佳
	仙台国税局	長崎　侠也	長崎侠也・木幡信俊・斎藤久夫・屋代　弘・石垣　白・柴原　佐・竹花政夫・吉田二彦
	東北電力・仙台	瀬戸　寅男	瀬戸寅男・相原　授・佐々木孝・千葉武雄・佐藤清孝・島田松郎・阿部正夫・菅野寅夫
東京	オリエンタル腸線研究所	伊藤　隆一	大谷直次・佐藤　昭・松村撥一・松村五十六
神奈川	ナルトスポーツ	秋元　幾男	岡　淳一・秋元幾男・相馬万吉・井上正春・脇袋次郎
	日産自動車	権田　正一	権田正一・宮岡源二・菊地貫能・鈴木秀夫・三好清一・荒井孝彦・田中佐之助・酒井隆雄
	いすゞ自動車	矢ヶ崎　進	矢ヶ崎進・塚原錫雄・山本　明・長田弘光・桐ヶ谷達雄・山田義忠
	日立製作所・戸塚	石田　進	東　長年・広田一夫・野上忠義・石田　進・古沢速男・杉崎登志夫・山本貞吉
	日本鋼管・川崎製鉄所	本田　正男	本田正男・菊池真一・新井昭寿・丸島常隆・鈴木　保・小指好敏・近藤金治郎
	日本鋼管・鶴見造船所	小山　昭治	小山昭治・崎尾　元・犬山　昂・菅原伸夫・田中　潔・国技良資・砥石　勤・武井喜一
新潟	新潟鉄工所	及川　和男	及川和男・中川　暁・田中　悟・本間浦太郎・山本　宏・瀬川利雄
	新潟硫酸	熊倉　一郎	熊倉一郎・吉原善男・早川正吾・土谷茂己・南場克司
	日本曹達・二本木	宮沢　高嶺	松井正夫・和田省司・村越　修・佐藤亀四郎・吉尾武志・宮沢高嶺
富山	十條製紙・伏木	正村慎一郎	正村慎一郎・清水　正・筆谷浩仁・工　粂夫・宮下芳一・釣谷友一・佐野善次郎
	日産化学・富山	見波　安治	石野清孝・河上重信・林　辰夫・下田保雄・中川豊和・広瀬幸夫・砂山信之・見波安治
長野	長野市役所	青木　重衛	青木重衛・小池淳美・北沢忠雄・森山清十・宮川　清・横山　達
静岡	日産自動車・吉原	篠原　虎雄	篠原虎雄・斎藤芳雄・山本正信・佐藤尚夫・太田万吉・中村省吾
愛知	トヨタ自動車	酒巻　和男	岩月真平・上羽家秀・小池鉱市・中井義行・酒巻和男・山城智徳・中村信男・深津　豊
三重	東亜紡織・泊	大日方　彰	大日方彰・植村孝次・山岸　仁・久保田隆光・林　昭雄・金森　進
	横浜ゴム・三重	伊村　勇	伊村　勇・西口徳一・山中道雄・高山定雄・山際　登・野呂広美・間宮　治・山本　篤
大阪	日産自動車・大阪	桜井　保男	降井欽一・真下　高・大友安雄・桜井保男
広島	福山市役所	橋本　角市	坂本　武・安倍淳美・桜井　豊・今川清茂・橋本角市
長崎	三菱長崎造船所	成清　進	成清　進・高野末雄・老松幹雄・平　政雄・水谷泰典・蒲地一男・江戸昭八郎・馬場栄一

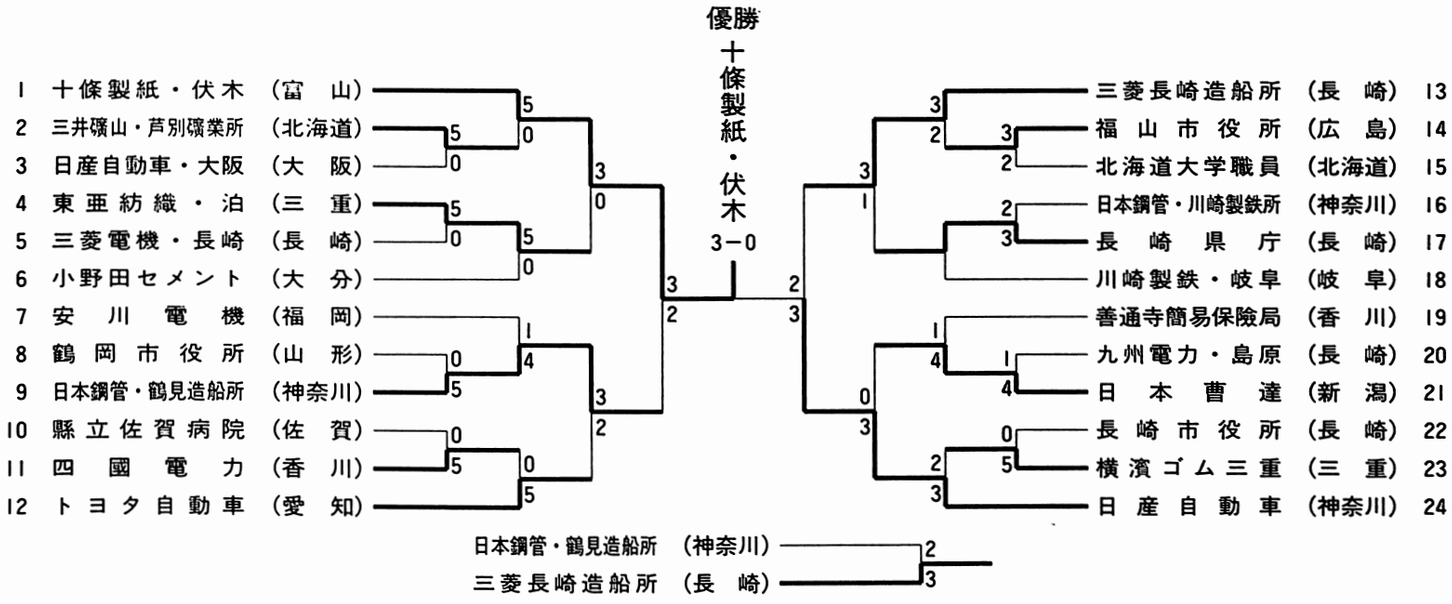
（女子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
東京	[illegible]自動車	太村健一郎	田村知江子・横須賀栄子
神奈川	日本コロムビア	中野　一夫	荒川とみ子・奥谷喬代
新潟	新潟鉄工所	及川　和男	入山富子・前川恵津子・大野キミ子
富山	日産化学・富山	見波　安治	田島桂子・斎藤幸子・見波明枝・藤岡美智子・福島美智子
長野	長野市役所	青木　重衛	檀原　暢・宮原美津子
	長野豊科呉羽		（メンバー不明）
愛知	トヨタ自動車	酒巻　和男	保田久子・伊与田照子・山内登美子・藤井宜子
長崎	三菱長崎造船所	成清　進	成清広子・池田栄美子・川原玉枝

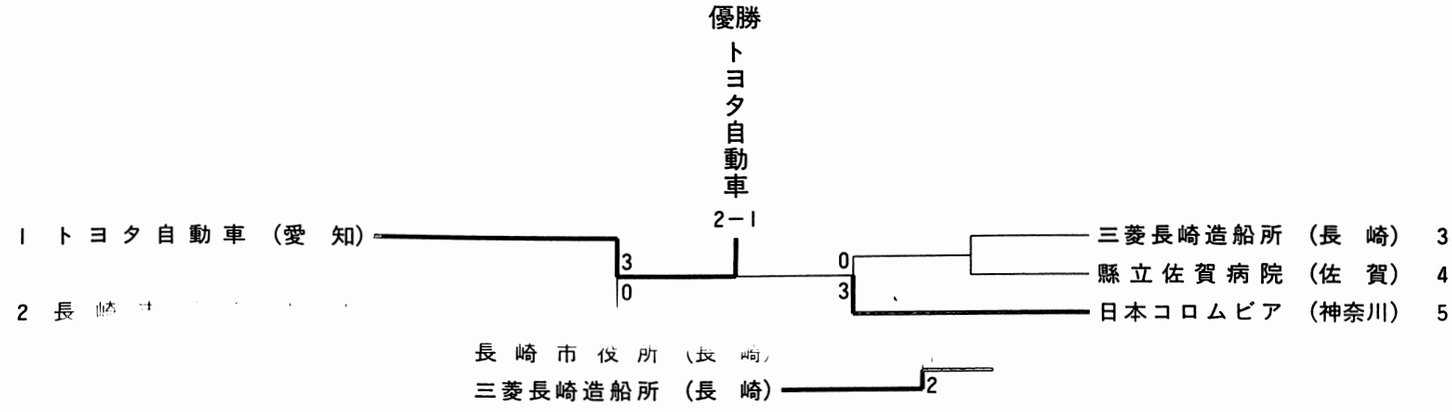
第3回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1954年(昭和29年)2月13,14日
開 催 地：長崎縣長崎市
会　　場：勝山小學校講堂、新興善小學校講堂

■男子団体の部



■女子団体の部



■出場選手名簿

（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	三井砿山・芦別砿業所	西野　泉三	西野泉三・斉藤高正・水上敏郎・宝喜文雄・小林保雄・鈴木道広
	北海道大学職員	石川　雅夫	木元和博・河野日出丸・小林幸夫市・平塚和雄・奈良岡健三・石川雅夫
神奈川	日産自動車	加藤　国雄	鈴木秀雄・菊地貫能・荒井孝彦・三好清一・酒井隆夫・宮岡源二
	日本鋼管・鶴見造船所	小山　昭治	小山昭治・菅原伸夫・崎尾　元・犬山　昴・佐治　豊・砥石　勤・国枝良資・佐藤昌久
	日本鋼管・川崎製鉄所	本田　正男	本田正男・菊池真一・新井昭新・丸島常隆・小池貞宣・井上次雄・鈴木　保
新潟	日本曹達・二本木	宮沢　高嶺	宮沢高嶺・村越　修・佐藤亀四郎・松井正男・島田　勉
富山	十條製紙・伏木	石上　実	石上　実・清水　正・工　粂夫・宮下芳一・筆谷浩仁・釣谷友一・佐野善次郎・荒木亥久男
愛知	トヨタ自動車	小池　鉱一	小池鉱一・上羽家秀・岩月真平・中井義行・深津　豊・山城智徳・多賀純一・蟹　和男
岐阜	川崎製鉄・岐阜	松田　博一	松岡竜三・吉田元彦・山田　優・巌后晃照
三重	東亜紡織・泊	大日　方彰	大日方彰・植村孝次・山岸　仁・久保田隆司・林　昭雄・金森　進
	横浜ゴム・三重	伊村　勇	伊村　勇・西口徳一・山際　登・山中道雄・間宮　治・間宮義秋・高山定雄
大阪	日産自動車・大阪	桜井　保男	桜井保男・降井欽一・森田幸三・大友安雄・村上剛三・広田豊久・寒川宇八郎・真下　高
香川	四国電力	森脇　哲	森脇　哲・三木二郎・岡部健一・町田勤一・出来正雄・仲内定夫・門田敏夫
	善通寺簡易保険局	合田口正春	合田口正春・山地茂樹・大前義和・亀山典吉・内田正昭
山形	鶴岡市役所	松浦　隆	宮川　清・加藤　惇・高橋貞雄・佐藤究士・山路勝彦
広島	福山市役所	安倍　淳美	安倍淳美・桜井　虎・坂本　武・北川康夫
福岡	安川電機	岸　正穂	岸　正穂・馬場君夫・須藤信行・遠山　励・力丸隆一・大林重行・加藤　専・福岡美佐喜
佐賀	縣立佐賀病院	福田　芳正	福田芳正・大脇勇介・村岡　淳・松隈達雄・島田正人
大分	小野田セメント		（メンバー不明）
長崎	九州電力・島原	城崎　信男	城崎信男・石河光博・佐々木三雄・狩野茂樹
	長崎県庁	平山　満	平山　満・宮本幸輝・山田卓生・執行道雄・道上千代繁・川島一夫
	長崎市役所	佐藤　俊男	石橋　巌・松尾三代松・山口忠夫・中浜伝之・林　宏・松永嘉孝・柳迫　繁・木戸忠史
	三菱長崎造船所	平　政雄	成清　進・高野末雄・水谷泰典・江戸昭八郎・手島　強・島田喜見男・鈴田武雄
	三菱電機・長崎	大串　武義	大串武義・広田忠勝・有馬利宣・末永徳博・寺田雅保・中島　栄・美藤利也

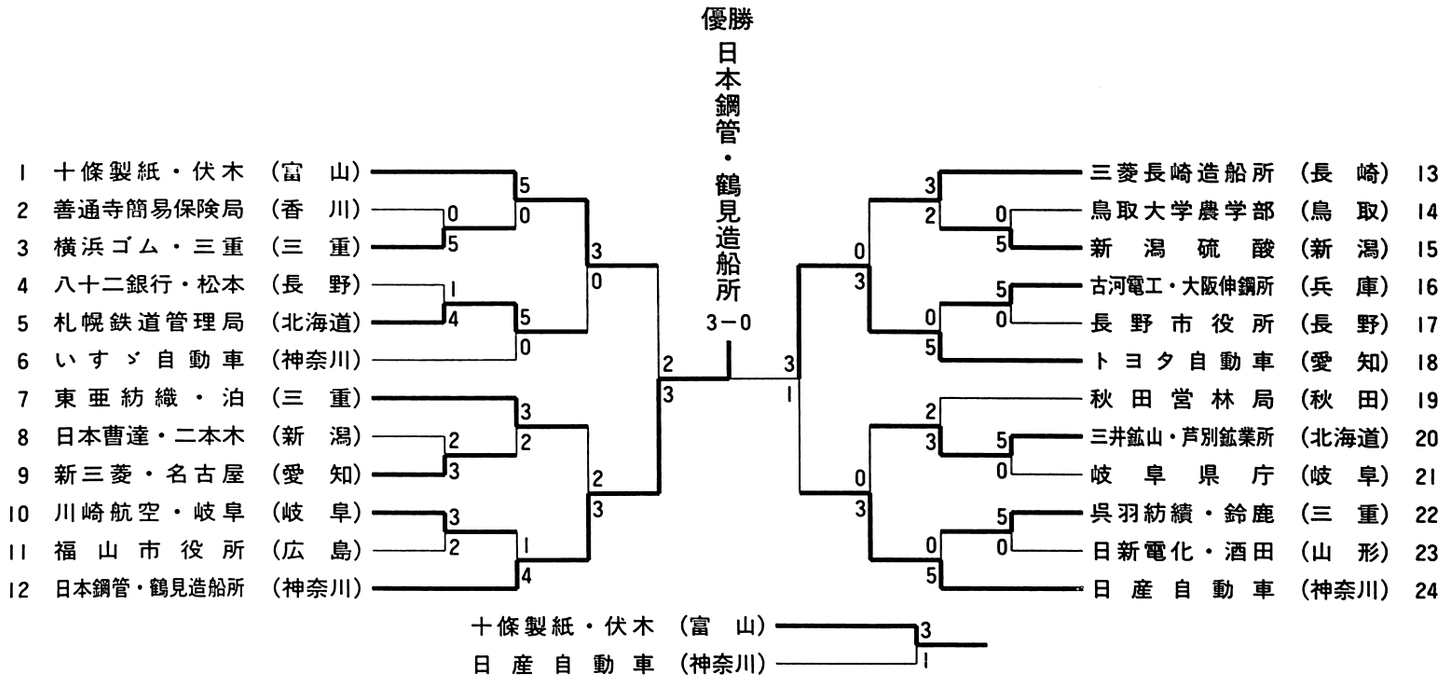
（女子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
神奈川	日本コロムビア	伊東　隆文	小林歌子・荒川とみ子
愛知	トヨタ自動車	小池　鉱一	保田久子・伊与田照子・山田雪子・水野きみ子
佐賀	縣立佐賀病院	福田　芳正	野口邦子・内田高子
長崎	長崎市役所	佐藤　俊男	光武君子・川内道子・尾上伊都子
	三菱長崎造船所	成清　進	川原玉枝・東　律子・柘植ミヤコ・早瀬ヒサヱ

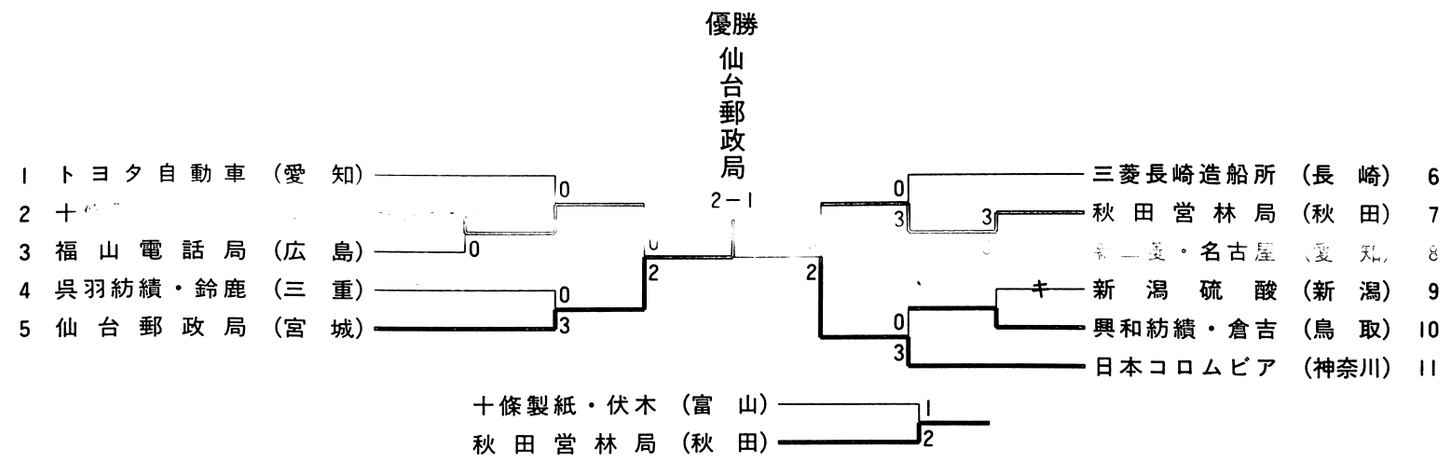
第4回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1955年(昭和30年)3月20,21日
開 催 地：愛知県名古屋市
会　　場：金山体育館

■男子団体の部



■女子団体の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	三井鉱山・芦別鉱業所	西野　泉三	西野泉三・齊藤高正・水上敏郎・小林保雄・宝喜文雄・竹内栄治
	札幌鉄道管理局	国松清太郎	牧野正春・新田　豊・井川誠一・江原寿弐・西崎　孝
秋田	秋田営林局	伊藤　亮一	鈴木康夫・藤本　弘・太田　昇・加藤志郎・伊業亮一
山形	日新電化・酒田	渋谷　吉章	渋谷吉章・吉田克俊・齊藤　博・寒河江済・奥山　昇・高橋一夫
神奈川	日本鋼管・鶴見造船所	菊間　昭治	菅原伸夫・崎尾　元・佐藤昌久・砥石　勤・佐治　豊・小野光美・遠藤啓治・鈴木富春
	日産自動車	権田　正一	権田正一・菊地貫能・三好清一・宮岡源二・高野健二
	いすゞ自動車	茨木　一雄	茨木一雄・矢ヶ崎進・塚原錫雄・山本　明・瀬川進三・長田光弘・小沢英雄・関口　潔
新潟	日本曹達・二本木	宮沢　高嶺	村越　修・佐藤亀四郎・島田　勉・松井正夫・吉尾武志・平野俊英・宮沢高嶺
	新潟硫酸	熊倉　一郎	熊倉一郎・吉原善男・早川正吾・土谷茂己・南場克司
長野	長野市役所	青木　重衛	青木重衛・宮川　清・小池淳美・北沢忠雄・小島武彦
	八十二銀行・松本		丸山修弘・森　政善・上原博男・小野塚健夫・服部正明・三村昭彦・小口　博
富山	十條製紙・伏木	小久保八郎	清水　正・工　粂夫・筆谷浩仁・釣谷友一・佐野善次郎・荒木亥久男・小久保八郎
愛知	新三菱重工・名古屋	西脇　尹	野口　勇・高島和夫・安永勝之助・加藤三郎・古橋照雄・鬼頭　進・湯沢修一・森　正
	トヨタ自動車	小池　鉱市	小池鉱市・深津　豊・上羽家秀・山城智徳・岩月真平・多賀純一・市川利治・荒川司郎
岐阜	岐阜県庁	大野　寛	天野純二・大野　寛・尾関正一・堀　完爾・堀田好雄・安田耕馬・吉田雅美
	川崎航空・岐阜	松田　博一	松岡龍二・吉田元彦・山田　優・巌后照晃
三重	東亜紡織・泊	大日方　彰	大日方彰・植村孝次・山岸　仁・久保田隆司・林　昭雄
	横浜ゴム・三重	西口　徳一	西口徳一・山中道雄・間宮　治・孫福哲生・山際　登・伊村　勇
	呉羽紡績・鈴鹿	高橋　秀嘉	高橋秀嘉・中島泰重・佐々木繁司・岡　稔
兵庫	古河電工・大阪伸銅所	寺井　弘治	井場政夫・馬塚邦彦・寺井弘治・札内三郎・堀田秀達・井上喜一・尾張孝雄・池田　治
鳥取	鳥取大学・農学部	豊口　忠雄	矢谷徳平・渡辺礼次・左田茂美・豊口忠雄
広島	福山市役所	安倍　淳美	安倍淳美・桜井　豊・坂本　武・北川康夫
香川	善通寺簡易保険局	大前　義和	山地茂樹・内田正昭・細川静夫・中山武誠・氏家五美・小宮誠次・大前義和
長崎	三菱長崎造船所	成清　進	成清　進・高野末雄・水谷泰典・江戸昭八郎・前田繁夫・平　政雄・馬場栄一

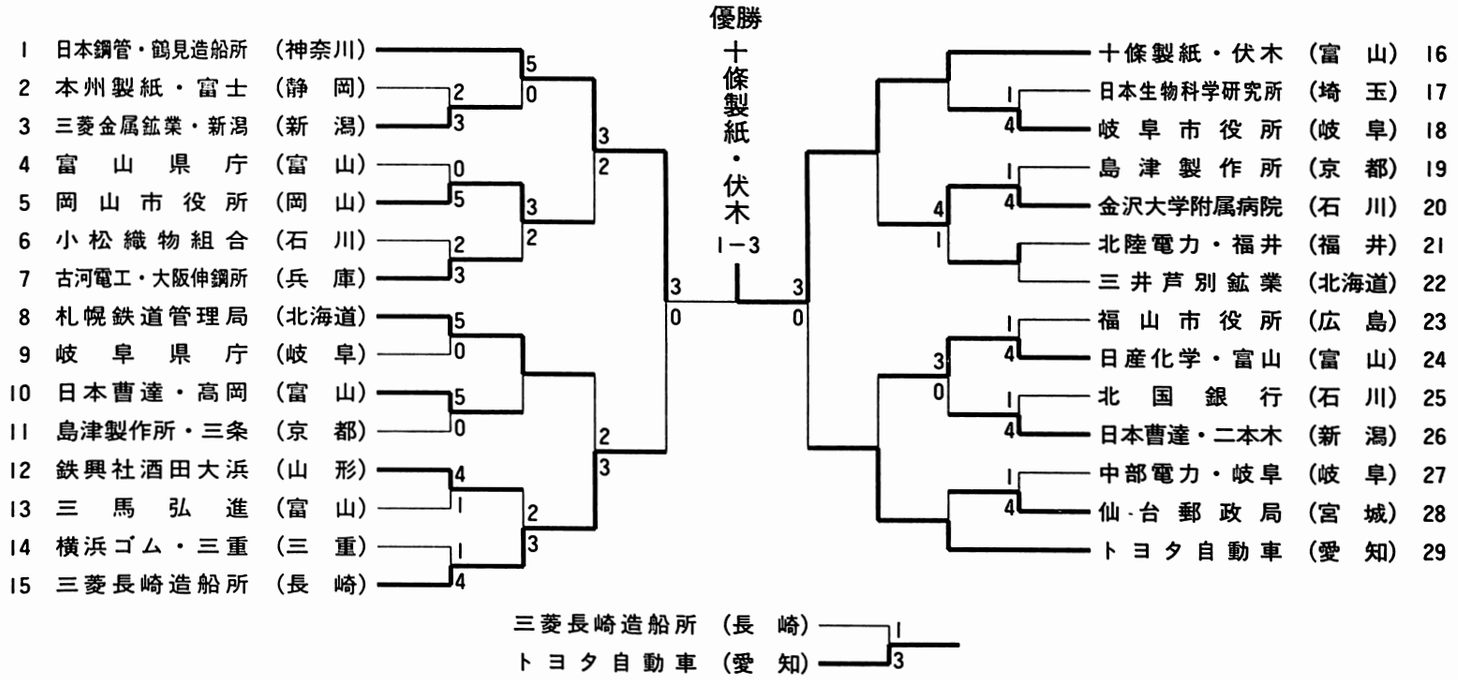
（女子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
宮城	仙台郵政局	高橋辛六郎	谷津京子・西堀富美子・佐藤範子・栗山栄子
秋田	秋田営林局	伊藤　亮一	横谷京子・菅原貞子
神奈川	日本コロムビア	伊藤　隆文	荒川とみ子・小林歌子・大川良子
新潟	新潟硫酸	熊倉　一市	田中葉子・中野美代
富山	十條製紙・伏木	小久保八郎	山口貞子・橋本　操・川口智恵子
愛知	新三菱重工・名古屋	西脇　尹	後藤範子・堀江綾子・加藤洋子・加藤まさ子・小川勝子
	トヨタ自動車	小池　鉱市	保田久子・伊与田照子・高木芳枝・鈴木綾子・中根久子
三重	呉羽紡績・鈴鹿	高橋　秀嘉	曽根原子節・波多腰美恵子・樋屋　功・望月佐賀江・古畑けさみ
鳥取	興和紡績・倉吉	植下　明	森　孝恵・谷口照枝・神田美登栄・入江博子・塚原茂子
広島	福山電話局	佐藤　和美	藤井百合子・滝宮幸子・平田京子
長崎	三菱長崎造船所	馬場　栄一	成清広子・池田栄美子・東　律子・長門知子

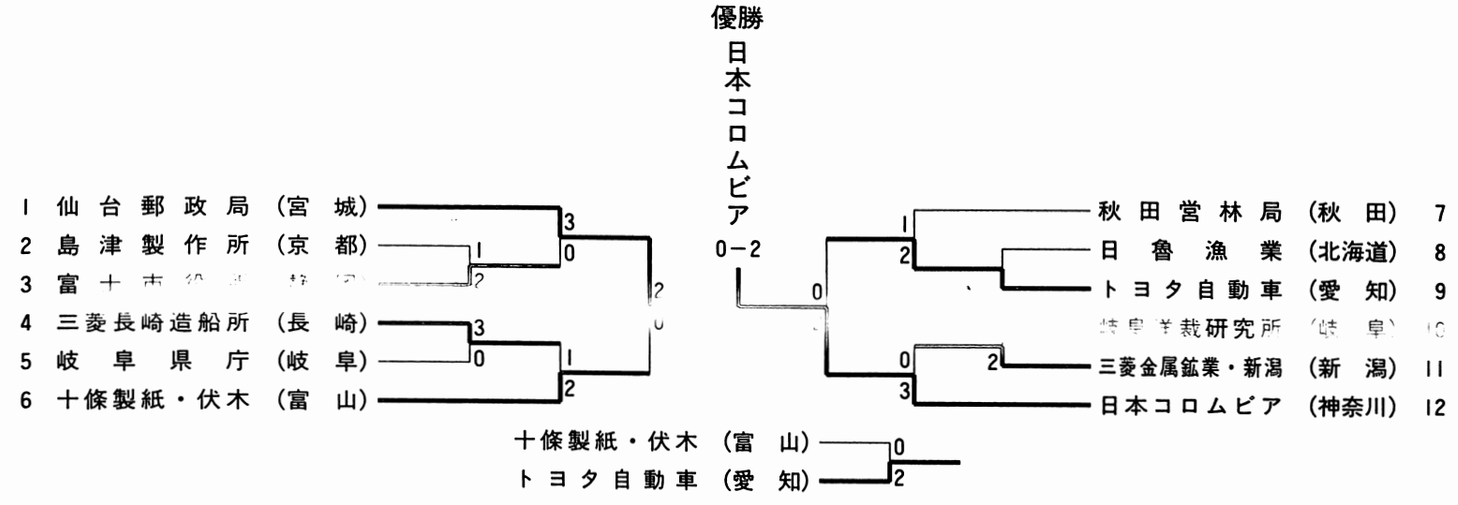
第5回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1956年(昭和31年)3月10,11日
開 催 地：富山県高岡市
会　　場：南部中学校体育館、川原小学校体育館

■男子団体の部



■女子団体の部



■出場選手名簿

(男子の部)

県 名	事 業 所 名	監 督 名	選 手 名
北海道	三井芦別鉱業	斉藤　高正	斉藤高正・水上敏郎・宝喜文雄・竹内栄治
	札幌鉄道管理局	西本秀一郎	新田　豊・井川誠一・青山繁樹・江原寿哉・牧野正春
宮 城	仙台郵政局	高橋辛六郎	松野昭夫・竹内光雄・高田栄三郎・山田養三・若生忠一・五十嵐直弘・熊谷計四郎・高橋辛六郎
山 形	鉄興社酒田大浜	小柴　悦三	小柴悦三・五十嵐国夫・高橋藤蔵・宮本二郎・斉藤昭治・淵上　止・橘　正信・栗田重八
埼 玉	日本生物科学研究所	横井　初夫	中西七郎・大林純之助・横井初夫・藤沢重彰・稲村重利・高野　平・椿山雄久・小川明彦
神奈川	日本鋼管・鶴見造船所	菊間　昭治	佐治　豊・国枝良資・小野光美・遠藤啓治・砥石　勤・佐藤昌久・鈴木富春・崎尾　元
新 潟	三菱金属鉱業・新潟	近藤　一正	近藤一忠・有本　健・樋口信三郎・須貝義男
	日本曹達・二本木	宮沢　高嶺	宮沢高嶺・村越　修・佐藤亀四郎・島田　勉・松井正夫・吉尾武志・坪野俊夫

県名	事業所名	監督名	選手名
富山	十條製紙・伏木	清水　正	清水　正・筆谷浩仁・宮下芳一・釣谷友一・佐野善次郎・荒木亥久男・品川則之・[illegible]
	日本曹達・高岡	手柴　末雄	菊川俊博・橋本正弘・小野寺治・中村吉春・広瀬敏秋・高島顕義・広瀬淳七・本永雄朔
	富山県庁	野口　文雄	野口文雄・市島　昇・畔田重義・長谷川昇・寺西　猛
	日産化学・富山	山越　康雄	河上重信・石野清孝・砂山信之・林　辰夫
	三馬弘進	長谷川三夫	長谷川三夫・北上準之助・吉田　修・茶畑光夫
石川	金沢大学附属病院	佐藤　尚夫	松田龍一・飯塚栄一・石川元一・八木　裕・長岡悟郎・佐藤尚夫・吉川静二・梅田良三
	北国銀行	藤岡　寿道	宮鍋　博・武部　睦・谷田　実・千田登志信・岡崎忠一・小村　進・藤岡寿道
	小松織物組合	小池　恵	小池　恵・鶴島吟太郎・伊藤芳雄・鈴木一雄・山本健治
福井	北陸電力・福井	竹内　典夫	竹内典夫・鎌田文雄・朝見純一・定兼保夫・前田　明・山田孝則
静岡	本州製紙・富士	望月　薫	望月　薫・岡　　徹・杉沢正義・高田辰志
愛知	トヨタ自動車	深津　豊	深津　豊・上羽家秀・山城智徳・岩月真平・多賀純一・荒川司郎・市川利治・谷沢経次
三重	横浜ゴム・三重	山中　道雄	山中道雄・孫福哲生・山際　登・大和谷治
岐阜	中部電力・岐阜	小島鉱太郎	山田隆一・武藤邦治・篠田　晋・田中　稔・松岡　孝・所　　稔
	岐阜市役所	小沢　勇	河田歳勇・下川幸夫・酒井　弘・清水敏光・宗宮久雄
	岐阜県庁	安田　耕馬	安田耕馬・吉田雅美・堀　完爾・堀田好雄・大野　寛・尾関正一・亀山多一郎
京都	島津製作所	大脇　一能	大脇一能・玉村欣也・森本　武・若山　明・加藤正且
	島津製作所・三条	住中　清	住中　清・野村嘉明・西村　薫・松岡正信・坂田邦彦・村上博一・伊藤弘明・田中健示
兵庫	古河電工・大阪伸銅所	寺井　弘治	馬場邦彦・井場政夫・井上喜一・尾張孝雄・岨　一豊・堀田秀達・札内三郎
岡山	岡山市役所	山上　周之	前田俊一・糸島康元・石原利道・水川捨夫・梶原　磐・小梶繁雄・山上周之
広島	福山市役所	桜井　豊	桜井　豊・安倍淳美・坂本　武・北川康夫
長崎	三菱長崎造船所	水谷　泰典	馬場栄一・高野末雄・水谷泰典・江戸昭八郎・前田繁夫・末永博信・中野元博

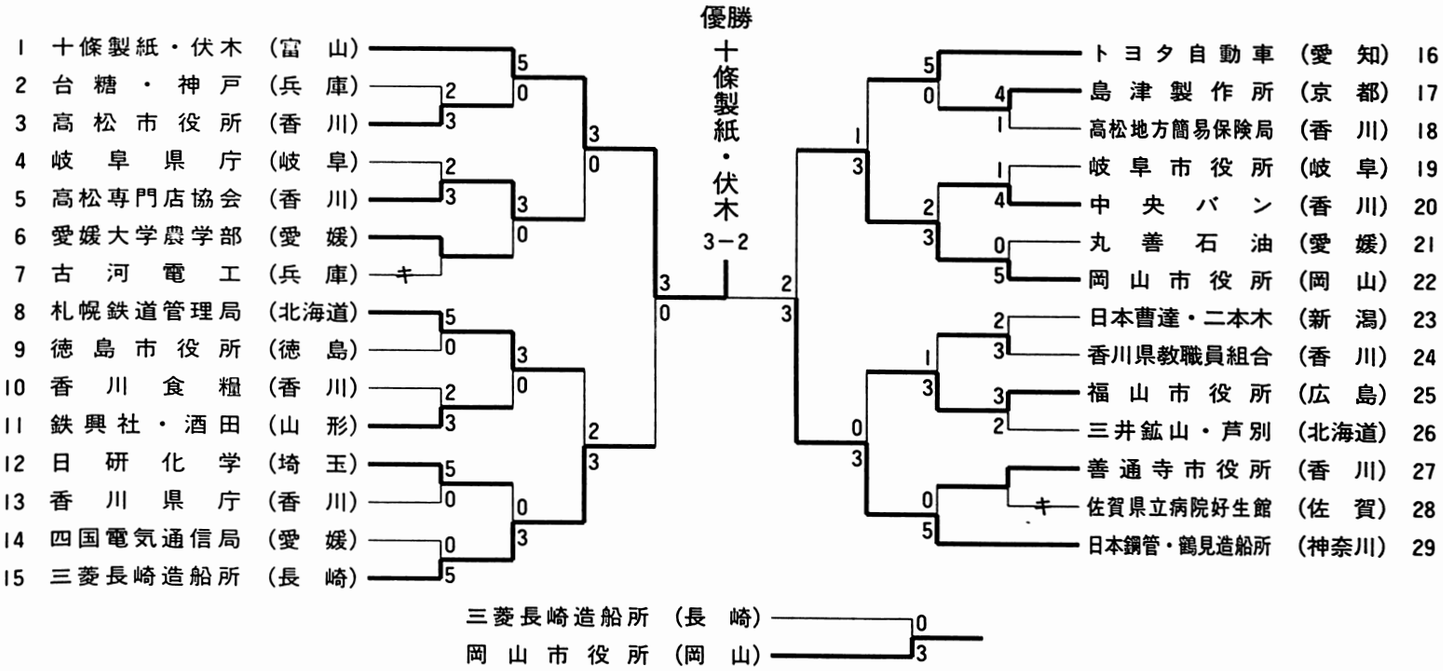
（女子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	日魯漁業	大川原善重	笹森ミエ・大泉知子
宮城	仙台郵政局	高橋辛六郎	谷津京子・佐藤範子・西堀冨美子
秋田	[illegible]	伊藤　亮一	横谷京子・菅原貞子・戸田豊栄
神奈川	日本コロムビア	伊東　隆文	小林歌子・大川良子・荒川とみ子
新潟	三菱金属鉱業・新潟	近藤　一正	板井　操・弦巻美也子・丸山蓉子・今井弘子
富山	十條製紙・伏木	清水　正	山口貞子・橋本　操・川口智恵子
静岡	富士市役所	三浦せつ子	三浦せつ子・落合歌子
愛知	トヨタ自動車	深津　豊	高木芳枝・大沢節子
岐阜	岐阜洋裁研究所	神谷　一三	太田佳子・片岡秋江・森　妙子・近藤正子
	岐阜県庁	吉田　雅美	片桐寿子・関谷冨美・神野智津子・鈴木一枝
京都	島津製作所	住中　清	横井川好・遠州絹子・小川道子・伊藤稔子
長崎	三菱長崎造船所	馬場　栄一	池田栄美子・東　律子・長門知子・川原玉枝

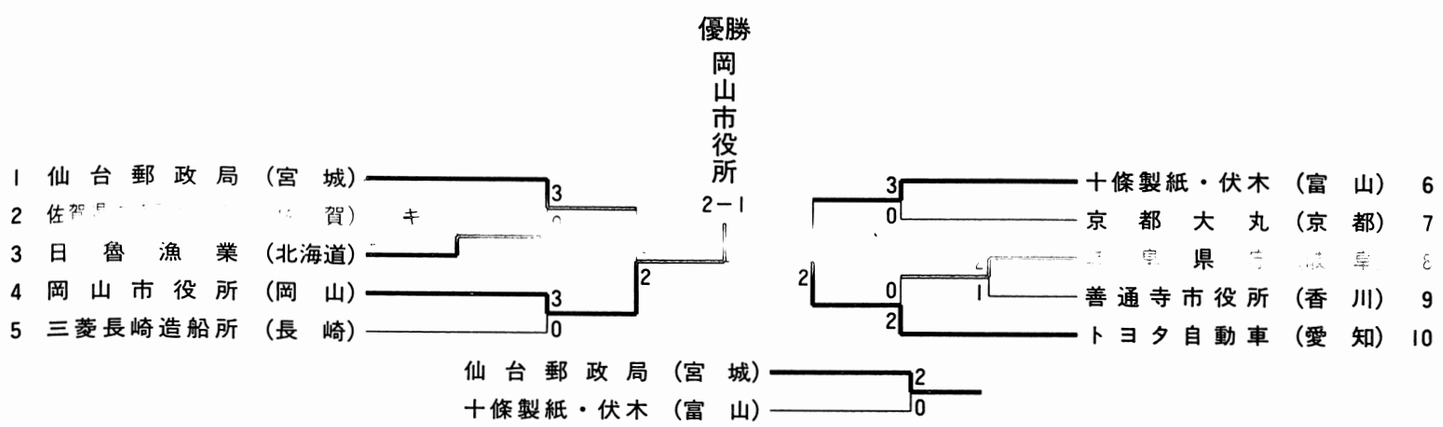
第6回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1957年(昭和32年)3月9,10日
開 催 地：香川県高松市
会　　場：高松体育館

■男子団体の部



■女子団体の部



■出場選手名簿

（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	三井鉱山・芦別	西野　泉三	西野泉三・斎藤高正・水上敏郎・竹内栄治
	札幌鉄道管理局	西本秀一郎	西本秀一郎・新田　豊・井川誠一・青山繁樹・長山森久
山形	鉄興社	小柴　悦三	小柴悦三・五十嵐国夫・淵上　止・高橋藤蔵・宮本二郎・齊藤昭治
埼玉	日研化学	藤沢　重彰	藤沢重彰・横井初夫・中西七郎・椿山雄久・稲村重利・小川明彦・高野　平
神奈川	日本鋼管・鶴見造船所	菊間　昭治	菊間昭治・佐治　豊・国枝良資・小野光美・遠藤啓治・砥石　勤・佐藤昌久・鈴木富春
新潟	日本曹達・二本木	宮沢　高嶺	宮沢高嶺・村越　修・吉尾武志・佐藤亀四郎・島田　勉・松井正夫・坪野俊夫
富山	十條製紙・伏木	清水　正	清水　正・佐野善次郎・釣谷友一・荒木亥久男・品川則之・扇沢三徳・筆谷浩仁・宮下芳一
岐阜	岐阜県庁	小林　正一	和田利雄・吉田雅美・堀田好雄・尾関正一・大野　寛・英　和夫
	岐阜市役所	小林　正一	小沢　勇・河田歳雄・酒井　弘・清水敏光・下川幸夫
愛知	トヨタ自動車	深津　豊	深津　豊・山城智徳・多賀純一・荒川司郎・谷沢経次・市川利治・木全憲司
京都	島津製作所	玉村　欣也	住中　清・大脇一能・玉村欣也・森本　武・若山　明・村上博一・加藤正旦
兵庫	台湾精糖	泉　近	泉　近・小林昭生・飯田脩二・石野昌之・野坂宣嘉・金内忠司・中村嘉克
	古河電工・大阪伸銅所	寺井　弘治	寺井弘治・井場正夫・馬塚邦彦・井上喜一・尾張孝雄
岡山	岡山市役所	崎本幸三郎	小梶繁雄・梶原　馨・水川捨夫・石原利道・前田俊一・平尾晴美
広島	福山市役所	安倍　淳美	橋本角市・安倍淳美・桜井　豊・坂本　武・北川康夫・加藤賀二
佐賀	佐賀県立病院好生舘	古賀　礼三	福田芳正・大脇勇介・村岡　淳・小林良明・凌　国雄・古賀礼三
長崎	三菱長崎造船所	水谷　泰典	水谷泰典・高野末雄・中野元博・中牟田端士・末永博信・島田宏穂・溝上　強・前田繁夫
徳島	徳島市役所	大西　正義	大西正義・東条嘉男・中山実太郎・三木恒男・新見泰志
愛媛	愛媛大学農学部	津田　信孝	新海　明・津田信孝・佐伯光一・松本泰和
	丸善石油	池内　義夫	大石　誠・池内義夫・安永英俊・加藤皓一・徳田昭和
香川	善通寺市役所	大北　良孝	大北良孝・谷畑　勝・林　保博・北岡一男・芝　勉・香川義昭
	香川食糧	山下　儀一	浅田光佳・藤井　禎・林　勲・長島美弘
	高松地方簡易保険局	大前　義和	山地茂樹・細川静雄・内田正昭・大前義和・小宮誠次
	中央パン	横山　幹雄	横山幹雄・平尾正昭・道上　茂・吉野文雄・道上定夫・納田　優・大川　明
	高松専門店協会	真鍋金治郎	真鍋金治郎・小島只芳・中北政夫・田中武夫・東条　博
	高松市役所	池上　寿宏	杉山豊生・谷本庄一・辻村栄一・遠藤　明・中西一夫・池上寿宏
	香川県庁		石岡義雄・久米千秋・土屋修一・白井　清
	香川県教職員組合	河野　誠士	細川正茂・穐山正雄・横山　習・河野誠士・笠井和夫

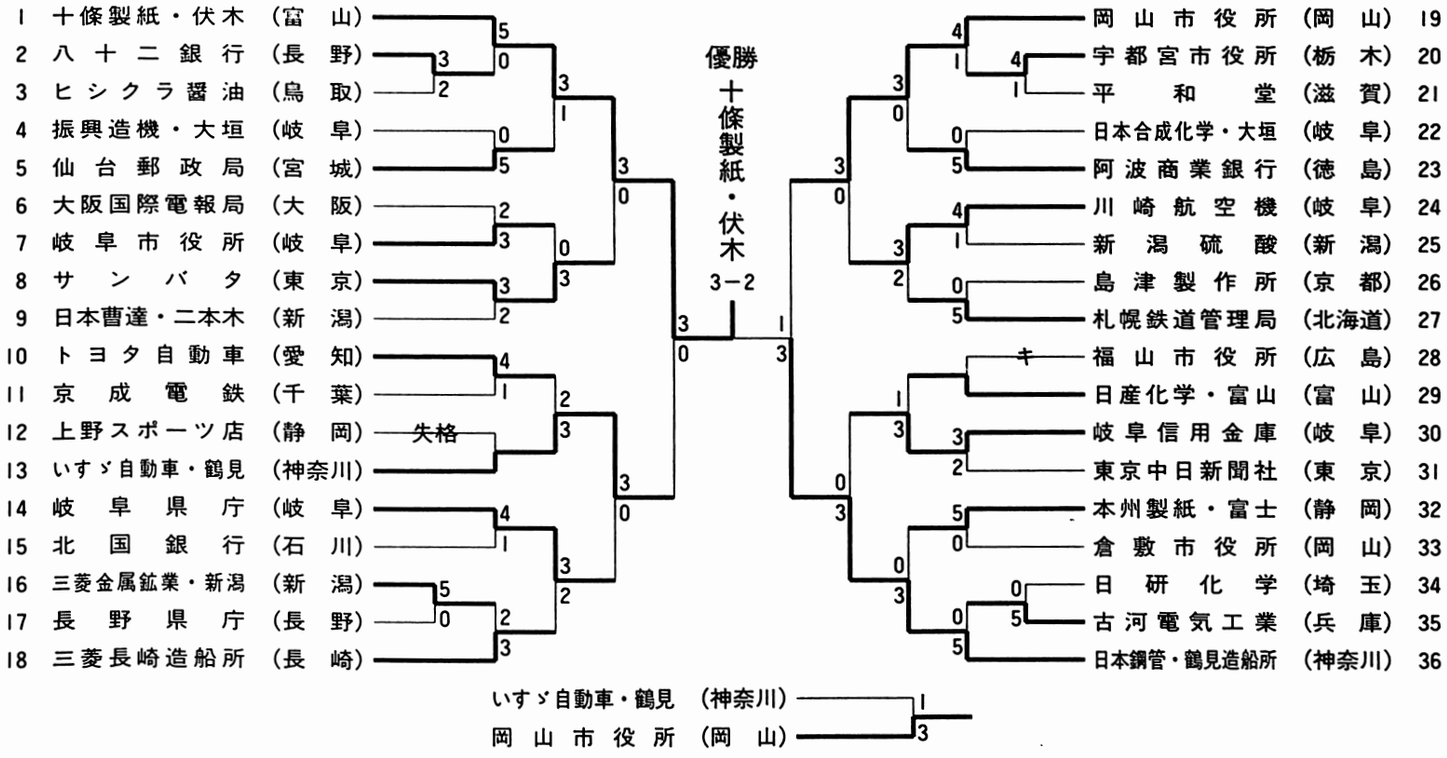
（女子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	日魯漁業	河本　啓孝	平野斐子・村本麗子
宮城	仙台郵政局	竹内　光雄	谷津京子・佐藤範子・西堀冨美子・栗山栄子
富山	十條製紙・伏木	清水　正	山口貞子・大坪愛子
岐阜	岐阜県庁	吉田　雅美	津田智子・鈴木一枝・堀口淳子・後藤千代子
愛知	トヨタ自動車	深津　豊	大沢節子・花井洋子
京都	京都大丸	池田　敏彦	田中加代子・稲田清美
岡山	岡山市役所	崎本幸三郎	権田節子・光本政子
佐賀	佐賀県立病院好生舘	福田　芳正	吉村圭子・荒木邦子・内田高子・野口邦子
長崎	三菱長崎造船所	水谷　泰典	長門知子・池田栄美子・金光順子・平田和子・松原澄子
香川	善通寺市役所	大北　良孝	吉井トヨ子・柴和美枝子

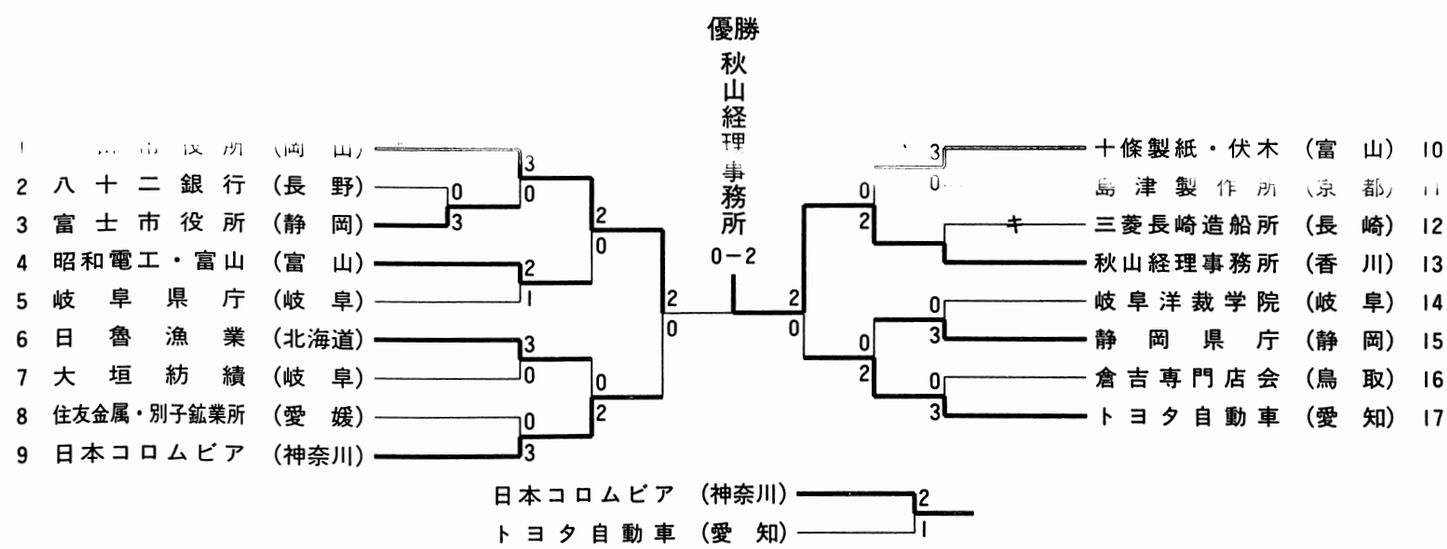
第7回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1957年(昭和32年)8月24,25日
開 催 地：岐阜県岐阜市
会　　場：岐阜市民センター

■男子団体の部



■女子団体の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	札幌鉄道管理局	西本秀一郎	新田　豊・青山繁樹・西本秀一郎・井川誠一・長山森久・笠松敏夫・熊倉昭二
宮城	仙台郵政局	高田栄三郎	高田栄三郎・松野昭夫・朝野嘉道・若生忠一・山田養三・長谷川邦夫・竹内光雄・生田仁紀
千葉	京成電鉄	及川　了介	及川了介・坂本守人・清宮慎二・青木隆夫・米倉英男
栃木	宇都宮市役所	小林　正和	小林正和・保田誠一・外園忠孝・若井慶保・福井芳男・森田利一
埼玉	日研化学	藤沢　重彰	藤沢重彰・稲村重利・有賀邦久・横井初夫・小川明彦・内藤　昭・椿山雄久
東京	東京中日新聞社	斎藤健太郎	光田　稔・福島正吉・斎藤健太郎・後藤徳行
	サンパタ	藤川　俊雄	大谷直次・山岸重孝・諸江秀一・西村嘉信・山田正也
神奈川	日本鋼管・鶴見造船所	菊間　昭治	菊間昭治・遠藤啓治・鈴木富春・国枝良資・小野光美・土佐余哉・佐治　豊・佐藤昌久
	いすゞ自動車・鶴見	二之宮　弘	長田光弘・北野次男・清水国夫・小沢英夫・岩崎篤章・関口　潔・山本　明
新潟	日本曹達・二本木	宮沢　高嶺	宮沢高嶺・島田　勉・佐藤亀四郎・村越　修・坪野俊夫・松井正夫・吉尾武志
	三菱金属・新潟	近藤　一正	有本　健・須貝義男・樋口信三郎・小林和也
	新潟硫酸	土谷　茂巳	熊倉一郎・早川正吾・南場克司・吉原善男・土谷茂巳
長野	長野県庁	泉　勇一郎	泉勇一郎・村岡　修・鶴田　尚・遠藤正巳・今井恒夫・蟹沢忠夫
	八十二銀行	久保田　実	上原博男・小野塚健夫・丸山修弘・島川裕雄
富山	十條製紙・伏木	清水　正	釣谷友一・荒木亥久男・扇沢三徳・佐野善次郎・品川則之・清水　正
	日産化学・富山	林　辰夫	林　辰夫・下田保雄・砂山信之・河上重信・清水重男
石川	北国銀行	藤岡　寿道	藤岡寿道・千田登志信・岡崎忠一・小高　博・武部　睦・小村　進
静岡	本州製紙・富士	望月　薫	望月　薫・杉沢正義・望月富弘・岡　徹・内田兼義
	上野スポーツ店	上野　忠	鈴木　篤・町田守正・丸山政巳・山口武秀・上野　忠・影山隆亮
愛知	トヨタ自動車	山城　智徳	深津　豊・荒川司郎・近藤秀雄・山城智徳・谷沢経次・多賀純一・木全憲司
滋賀	平和堂	西本　喜彦	西本武三郎・西本宗之助・安沢良夫・西本喜彦
京都	島津製作所	住中　清	住中　清・松岡正信・加藤正且・大脇一能・森本　武・村上博一・玉村欣也・若山　明
大阪	大阪国際電報局	溝淵　宏二	武村俊平・西村三郎・松浪四郎・尾上忠史・溝淵宏二・田岡新平
兵庫	古河電気	我曾部一豊	曾我部一豊・井場政夫・尾張孝雄・馬場邦彦・井上喜一・池田　治
岡山	岡山市役所	社　竹三	梶原　馨・石原利道・平尾晴美・社　竹三・水川捨夫・小梶繁雄・小林宏志・今東幸一
	倉敷市役所	小原　貞	井沢　豊・藤井義久・小川清昭・佐藤　正・竹岡武久
広島	[illegible]	[illegible]	坂本　武・安部淳美・加藤慎二・北川康夫・桜井　豊
鳥取	ヒシクラ醤油	升田　義治	石田善則・升田義治・山根陸弘・松原唯夫・西村弘志
徳島	阿波商業銀行	中山　忠男	越後禎之・山田　彰・宮本保明・西野昌明・遠藤佳之・中山忠男・吉田泰造・新居弘之
長崎	三菱長崎造船所	水谷　泰典	水谷泰典・江戸昭八郎・岩永照明・高野末雄・中野元博・寺田謙三・老松幹雄・中牟田端士
岐阜	川崎航空機	吉田　元彦	松岡龍三・堀田　実・吉田元彦・浅野有助
	岐阜市役所	河田　歳雄	酒井　弘・河田歳雄・清水敏光・下川幸夫
	岐阜県庁	和田　利雄	和田利雄・尾関正一・英　和夫・吉田雅美・大野　寛・堀田好雄・安西　保
	岐阜信用金庫	酒井　節生	高田寅男・西部　浩・川瀬孝明・酒井節生
	振興造機・大垣	馬淵　寛	西村文雄・田中忠男・桐生達男・伊藤幸男・古田　守
	日本合成化学・大垣	中島　偉臣	高橋輝雄・戸倉寿二・石井戸谷茂雄・福島　洋・川合　騰

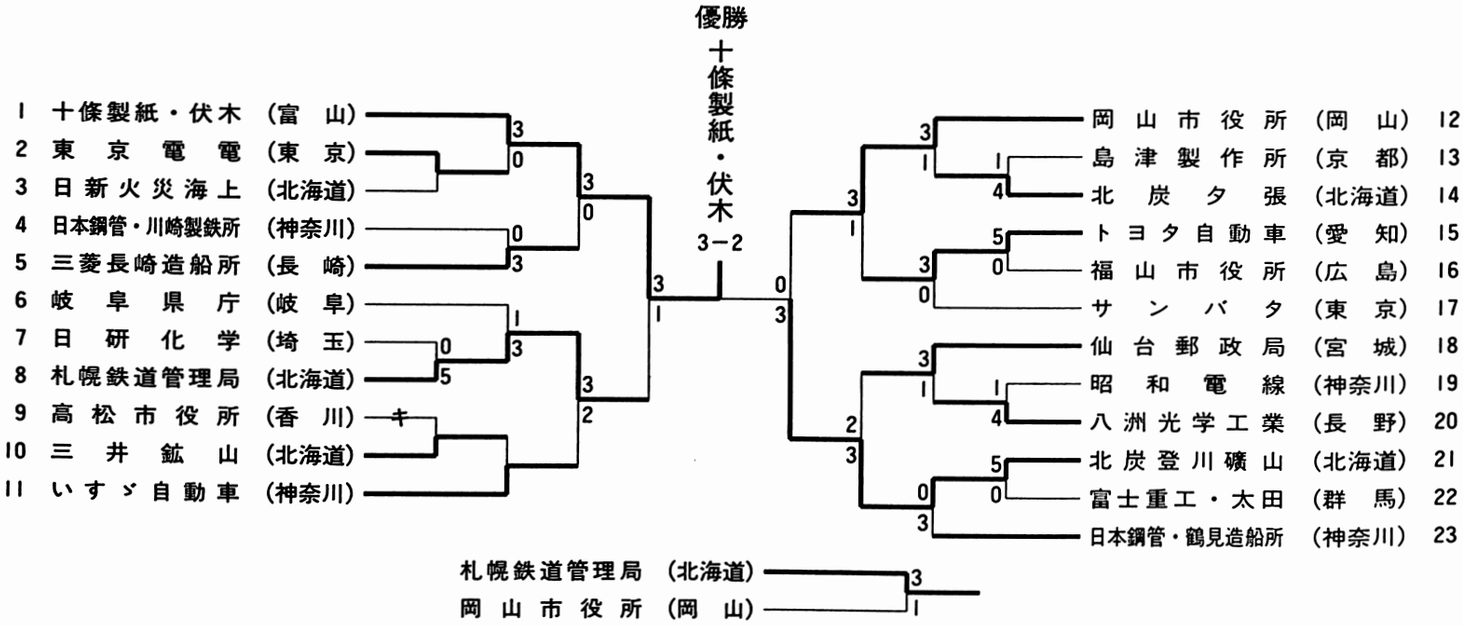
（女子の部）

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
北海道	日魯漁業	加藤辰之助	平野斐子・村本麗子
神奈川	日本コロムビア	伊東　隆文	小林歌子・大川良子・荒川トミ子
長　野	八十二銀行	久保田　実	萩野晴子・西村昭子
富　山	昭和電工・富山	市原　五郎	古井洋子・沢田征希子
	十條製紙・伏木	清水　　正	山口貞子・大坪愛子・小野久子
静　岡	静岡県庁	仁平　恵子	木村和子・仁平恵子
	富士市役所	塩川　　甫	三浦せつ子・今井フミ子
愛　知	トヨタ自動車	山城　智徳	大沢節子・花井洋子
京　都	島津製作所	野村　嘉明	伊東絹子・坂本照子
岡　山	岡山市役所	梶原　　磬	権田節子・光本政子・小林桂子
鳥　取	倉吉専門店会	小松　郁美	小松郁美・岸田溢子・三好多恵子・山本基二子
香　川	秋山経理事務所	川崎　　智	川崎　智・井上桂子・横井キヌエ・森岡喜美子
愛　媛	住友金属・別子鉱業所	山本　元旦	伊藤和代・寺沢晴代・本藤俊子・西原小夜子
長　崎	三菱長崎造船所	水谷　泰典	長門知子・松原澄子・平田和子・成清弘子・池田栄美子
岐　阜	岐阜県庁	大野　　寛	津田智子・堀口敦子・鈴木一枝・後藤千代子
	大垣紡績	若林　　宏	福島利子・赤井スミエ・腰越松野・藤田智恵子
	岐阜洋裁学院	神谷　一三	太田佳子・太田喜代子・森　妙子・野呂千恵子

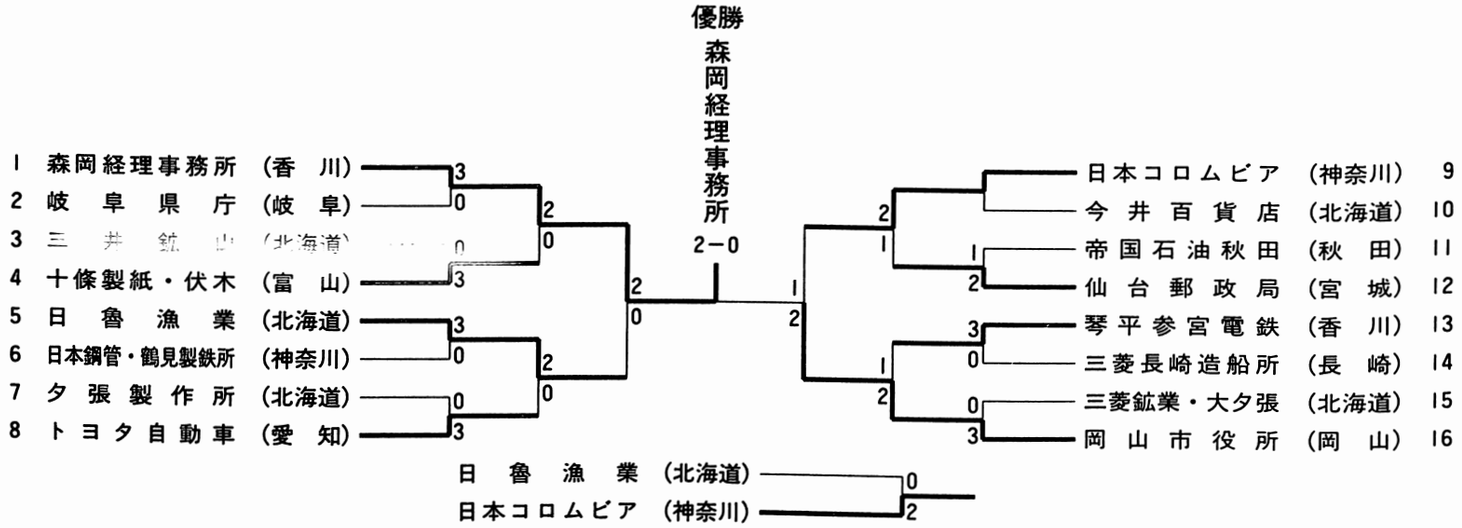
第8回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1958年(昭和33年)7月23～27日
開 催 地：北海道札幌市
会　　場：

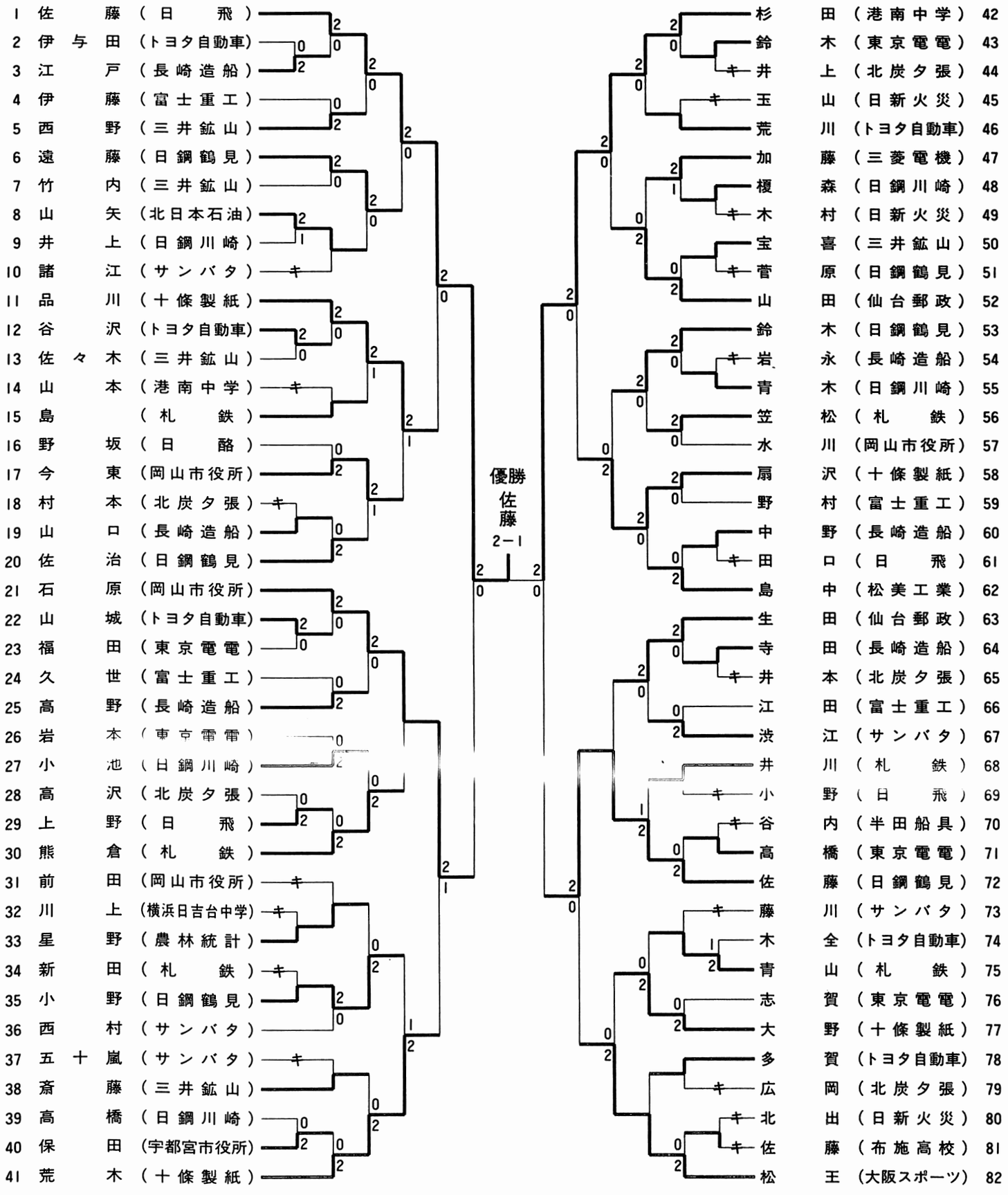
■男子団体の部



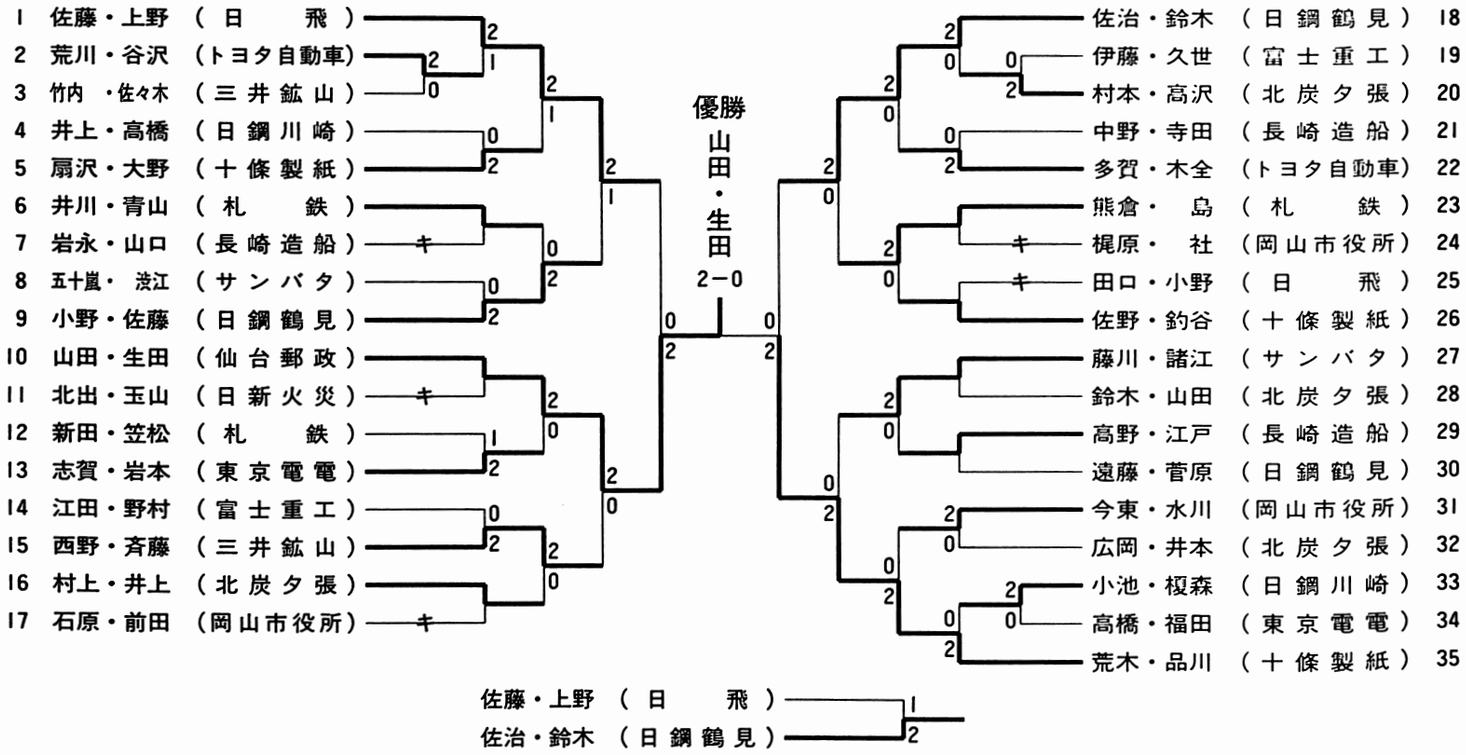
■女子団体の部



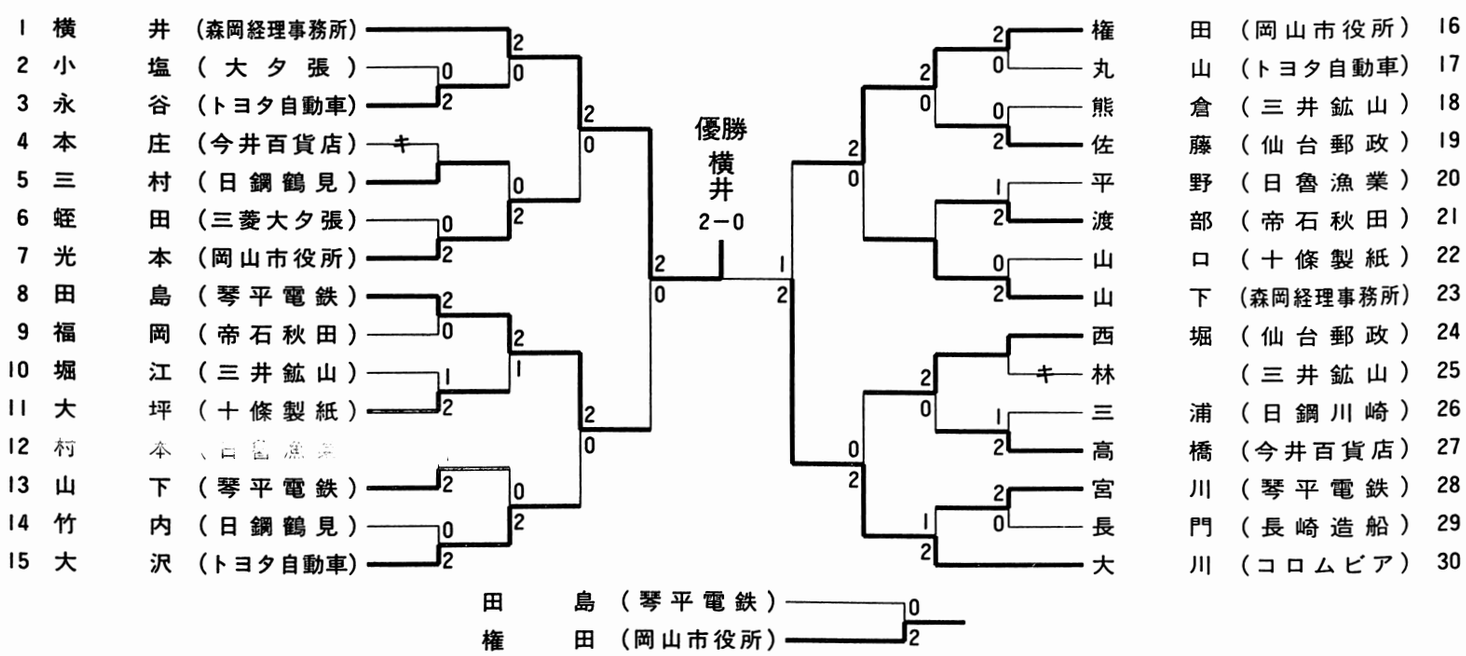
■男子単の部


1 佐藤（日飛）
2 伊与田（トヨタ自動車）
3 江戸（長崎造船）
4 伊藤（富士重工）
5 西野（三井鉱山）
6 遠藤（日鋼鶴見）
7 竹内（三井鉱山）
8 山矢（北日本石油）
9 井上（日鋼川崎）
10 諸江（サンバタ）
11 品川（十條製紙）
12 谷沢（トヨタ自動車）
13 佐々木（三井鉱山）
14 山本（港南中学）
15 島（札鉄）
16 野坂（日酪）
17 今東（岡山市役所）
18 村本（北炭夕張）
19 山口（長崎造船）
20 佐治（日鋼鶴見）
21 石原（岡山市役所）
22 山城（トヨタ自動車）
23 福田（東京電電）
24 久世（富士重工）
25 高野（長崎造船）
26 岩本（東京電電）
27 小池（日鋼川崎）
28 高沢（北炭夕張）
29 上野（日飛）
30 熊倉（札鉄）
31 前田（岡山市役所）
32 川上（横浜日吉台中学）
33 星野（農林統計）
34 新田（札鉄）
35 小野（日鋼鶴見）
36 西村（サンバタ）
37 五十嵐（サンバタ）
38 斎藤（三井鉱山）
39 高橋（日鋼川崎）
40 保田（宇都宮市役所）
41 荒木（十條製紙）
優勝
佐藤
2－1
42 杉田（港南中学）
43 鈴木（東京電電）
44 井上（北炭夕張）
45 玉山（日新火災）
46 荒川（トヨタ自動車）
47 加藤（三菱電機）
48 榎森（日鋼川崎）
49 木村（日新火災）
50 宝喜（三井鉱山）
51 菅原（日鋼鶴見）
52 山田（仙台郵政）
53 鈴木（日鋼鶴見）
54 岩永（長崎造船）
55 青木（日鋼川崎）
56 笠松（札鉄）
57 水川（岡山市役所）
58 扇沢（十條製紙）
59 野村（富士重工）
60 中野（長崎造船）
61 田口（日飛）
62 島中（松美工業）
63 生田（仙台郵政）
64 寺田（長崎造船）
65 井本（北炭夕張）
66 江田（富士重工）
67 渋江（サンバタ）
68 井川（札鉄）
69 小野（日飛）
70 谷内（半田船具）
71 高橋（東京電電）
72 佐藤（日鋼鶴見）
73 藤川（サンバタ）
74 木全（トヨタ自動車）
75 青山（札鉄）
76 志賀（東京電電）
77 大野（十條製紙）
78 多賀（トヨタ自動車）
79 広岡（北炭夕張）
80 北出（日新火災）
81 佐藤（布施高校）
82 松王（大阪スポーツ）
石原（岡山市役所）
松王（大阪スポーツ）

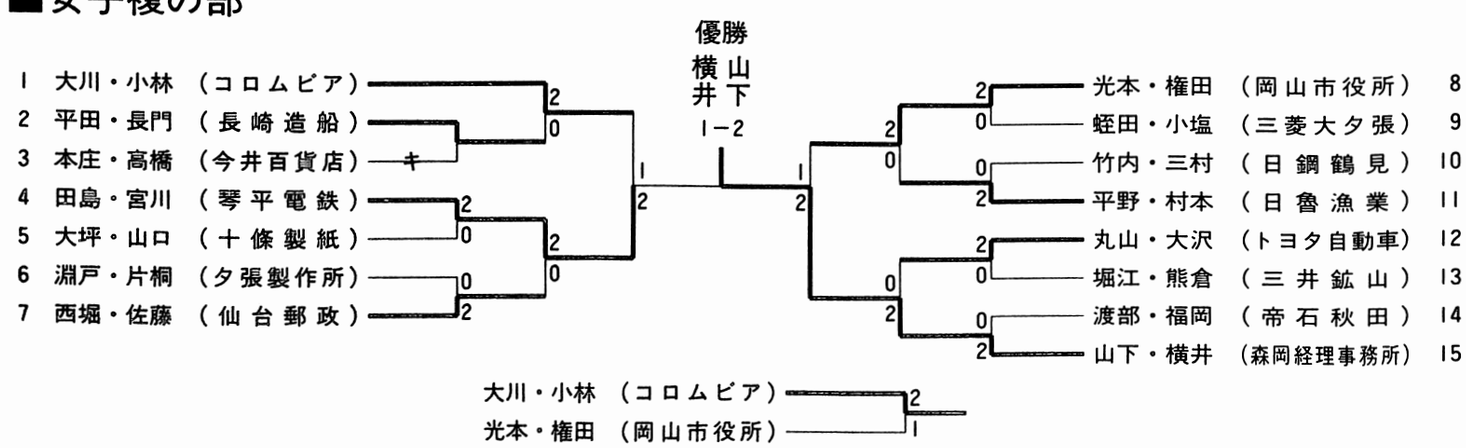
■男子複の部



■女子単の部



■女子複の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
長崎	三菱長崎造船所	高野　末雄	高野末雄・中野元博・寺田謙三・岩永照明・山口賢郎・江戸昭太郎
香川	高松市役所	栗原　芳久	杉山富雄・谷本庄市・辻村栄一・池上　任
広島	福山市役所	安倍　淳美	桜井　豊・坂本　武・安倍淳美・北川康夫・桑原輝久・加藤慎二
岡山	岡山市役所	梶原　磐	梶原　磐・前田俊一・石原利通・今東幸一・社　竹三・水川捨夫・崎本幸三郎・小梶繁雄
京都	島津製作所	大脇　一能	大脇一能・松岡正信・住中　清・加藤正旦・若山　明・森本　武・野村嘉明・佐々木庄作
岐阜	岐阜県庁	和田　利雄	吉田雅美・堀田好雄・尾関正一・安西　保・大野　寛
長野	八洲光学工業	倉科　悟	倉科　悟・伊藤博文・大代　毅・加納紀二・石田　裕
富山	十條製紙・伏木	清水　正	釣谷友一・佐野善次郎・荒木亥久男・品川則之・扇沢三徳・大野幸雄・清水　正
愛知	トヨタ自動車	山城　智徳	山城智徳・深津　豊・谷沢経次・多賀純一・荒川司郎・伊奥田勝高・木全憲司
神奈川	日本鋼管・川崎製鉄所	鈴木　保	井上次雄・小池貞宜・杈森信二・青木　昇・高橋俊一
	日本鋼管・鶴見造船所	菊間　昭治	佐治　豊・遠藤啓治・小野光美・佐藤昌久・鈴木富春・石川三郎・真壁　孝
	いすゞ自動車	原　辰雄	塚原錫雄・長田光弘・岩崎篤章・高橋幸治郎・関口　潔・谷崎　進・小沢英夫
	昭和電線	小林　東郷	林　光雄・村川修一・鈴木由男・高橋義明・岡田　弘
埼玉	日研化学	高野　平	横井初夫・内藤　昭・椿山雄久・小川明彦・稲村重利・有賀邦久・小川浅夫
東京	サンパタ	竹尾　敏広	藤川俊雄・諸江秀一・西村嘉信・五十嵐良一・渋江菊雄・山岸重孝
	東京電電	並木萬次郎	志賀正春・岩本龍一・高橋　章・福田　実・鈴木邦男
群馬	富士重工・太田	塚越　忠雄	伊藤栄二・久世隆一郎・江田道雄・野村　真
宮城	仙台郵政局	高田栄三郎	高田栄三郎・竹内光雄・松野昭夫・長谷川邦夫・山田登三・生田仁紀
北海道	北炭夕張鉱業所	村上　元道	村上元道・山田鶴治・広岡耕三・井上照夫・井本常雄・村本識光・高沢　宏・鈴木　桂
	北炭登川鑛山	片寄喜久雄	片寄喜久雄・松本正男・下山　貴・斎藤能一
	日新火災海上	北出　英一	北出英一・玉山重雄・高山　博・岩崎　実
	三井鉱山	西野　泉三	西野泉三・斎藤高正・宝喜文雄・竹内栄治・佐々木豊太郎
	札幌鉄道管理局	西本秀一郎	新田　豊・井川誠一・青山繁樹・熊倉昭二・島　辰雄・笠松敏夫
栃木	宇都宮市役所		保田誠一
神奈川	日本飛行機		佐藤芳朗・上野康吉
大阪	布施高等女学校		佐藤繁雄
神奈川	[illegible]		[illegible]・山本　剛
	横浜日吉台中学校		川上　弘
大阪	大阪スポーツ工業		松王清志
北海道	松美工業		島中貞夫
	農林統計・函館		星野嘉雄
	北日本石油		山矢　匡
	半田船具店		谷内英雄
	日本酪農機械		野坂豊三郎
	三菱電機		加藤英爾

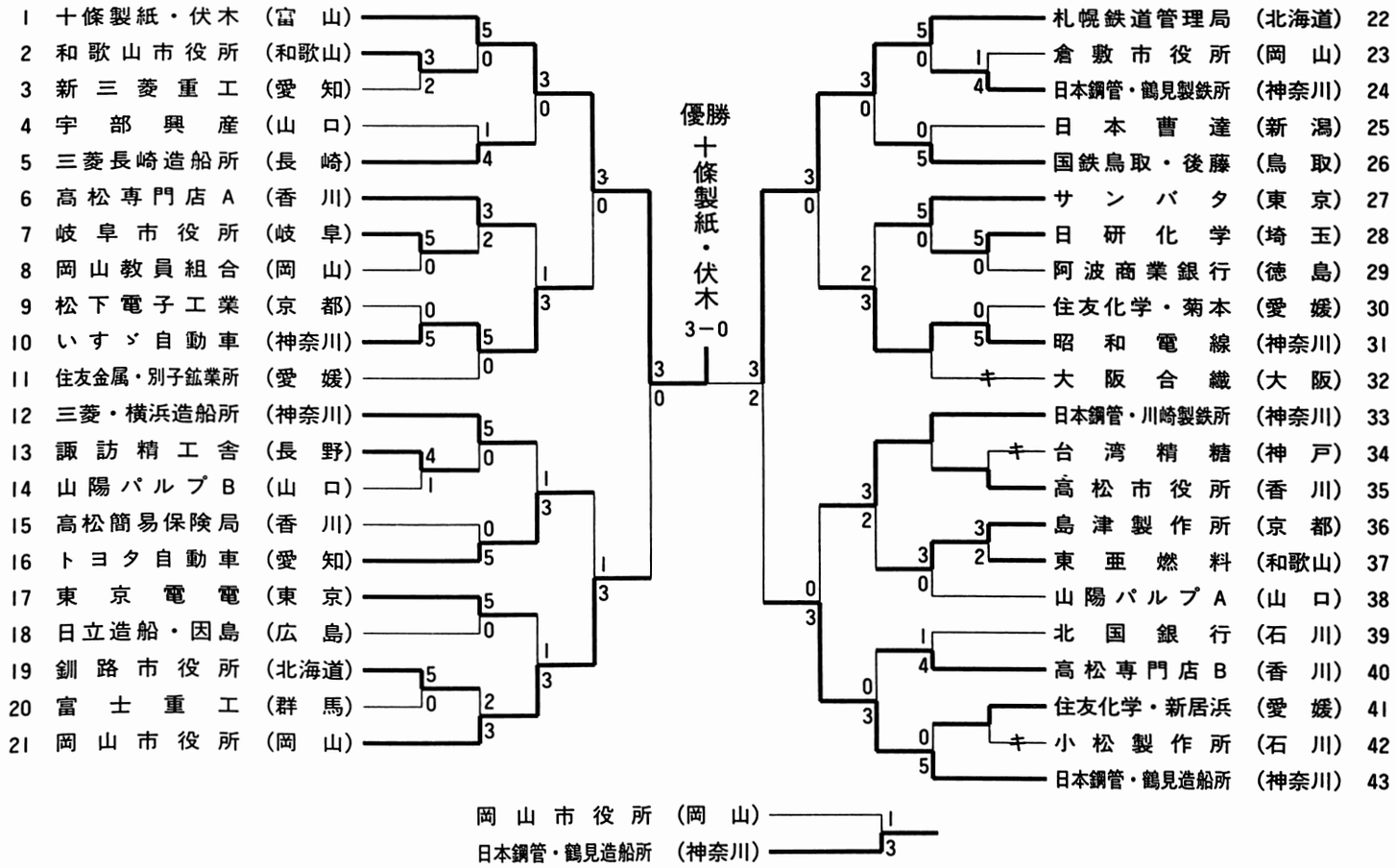
（女子の部）

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
長　崎	三菱長崎造船所	高野　末雄	長門知子・金光順子・平田れい子
香　川	森岡経理事務所	川崎　　智	横井キヌエ・山下久子
	琴平参宮電鉄	図子　新一	田島外茂子・宮川ツヤ子・山下衣子
岡　山	岡山市役所	山上　周之	権田節子・光本政子
岐　阜	岐阜県庁	和田　利雄	津田智子・堀口敦子・鈴木一枝
富　山	十條製紙・伏木	清水　　正	山口貞子・大坪愛子
愛　知	トヨタ自動車	山城　智徳	大沢節子・丸山公子・永谷初恵・花井洋子
神奈川	日本コロムビア	伊東　隆文	小林歌子・大川良子
	日本鋼管・鶴見製鉄所	有村　元棟	竹内美佐子・三村美智子・三浦安子
宮　城	仙台郵政局	高田栄三郎	西堀富美子・佐藤範子
秋　田	帝国石油・秋田	相馬　清一	渡部チエ・福岡則子
北海道	夕張製作所	菅原　克佑	片桐慶子・淵戸節子
	三菱鉱業・大夕張	池田　誠一	蛭田ヨシ・小塩芳子
	三井鉱山	西野　泉三	堀江淑子・熊倉和子・林さち子
	日魯漁業	大泉　和子	平野斐子・村本麗子
	函館今井百貨店	和田　吉共	本庄惇子・高橋玲子

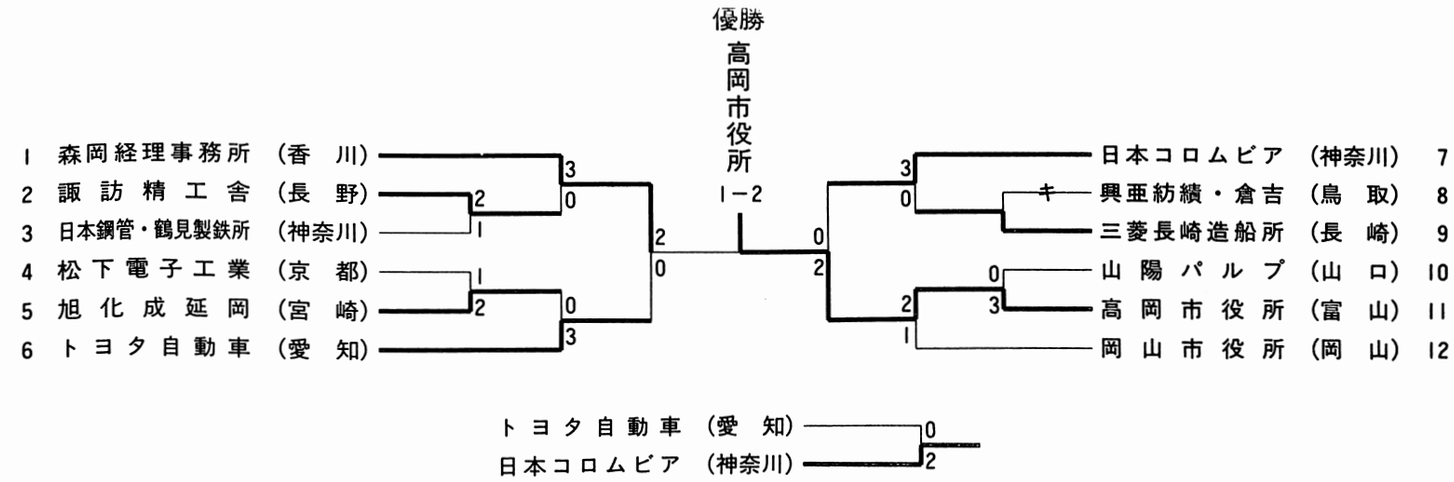
第9回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1959年(昭和34年)8月21～24日
開 催 地：香川県善通寺市
会　　場：善通寺市体育館、県立善通寺一高体育館

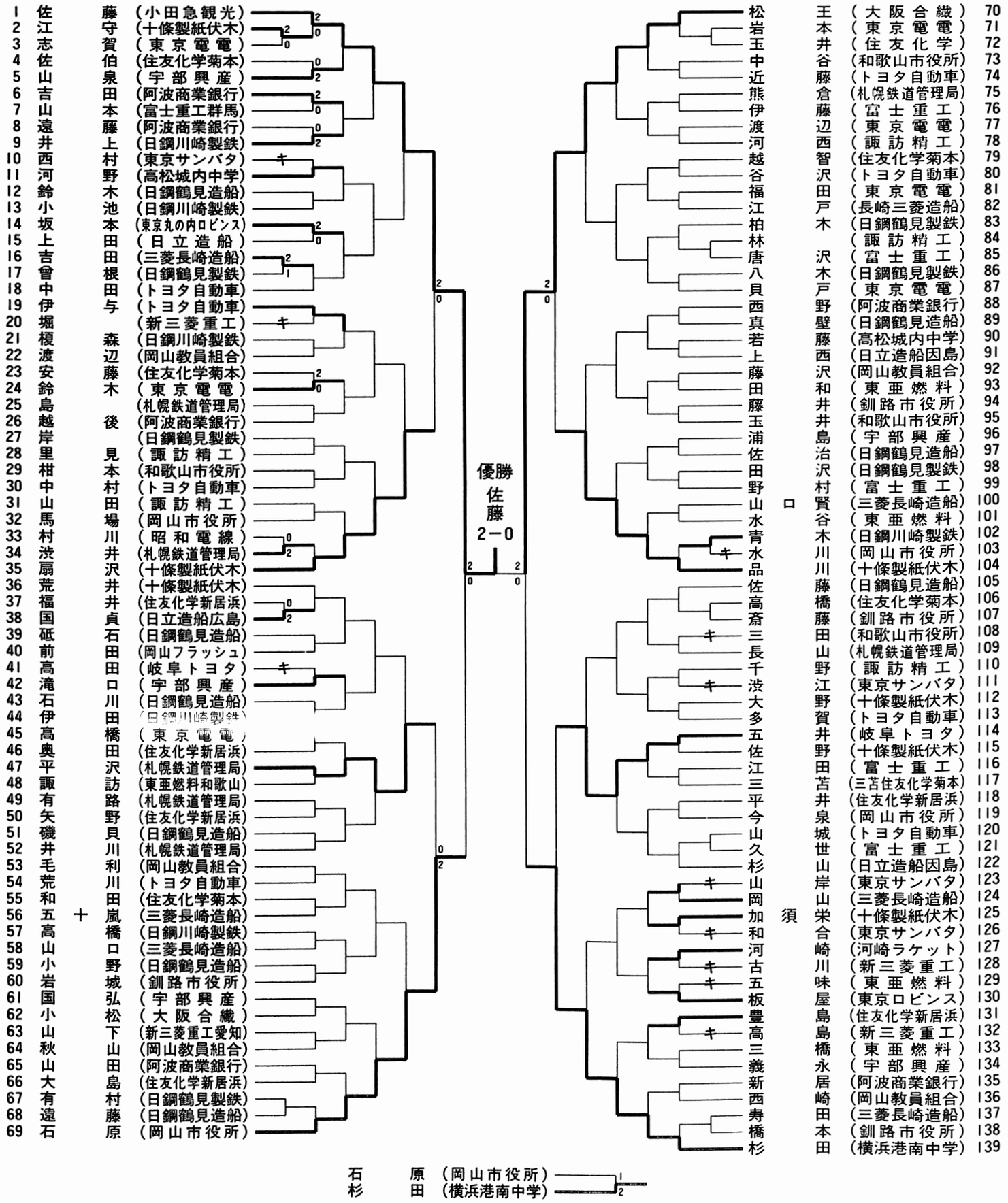
■男子団体の部



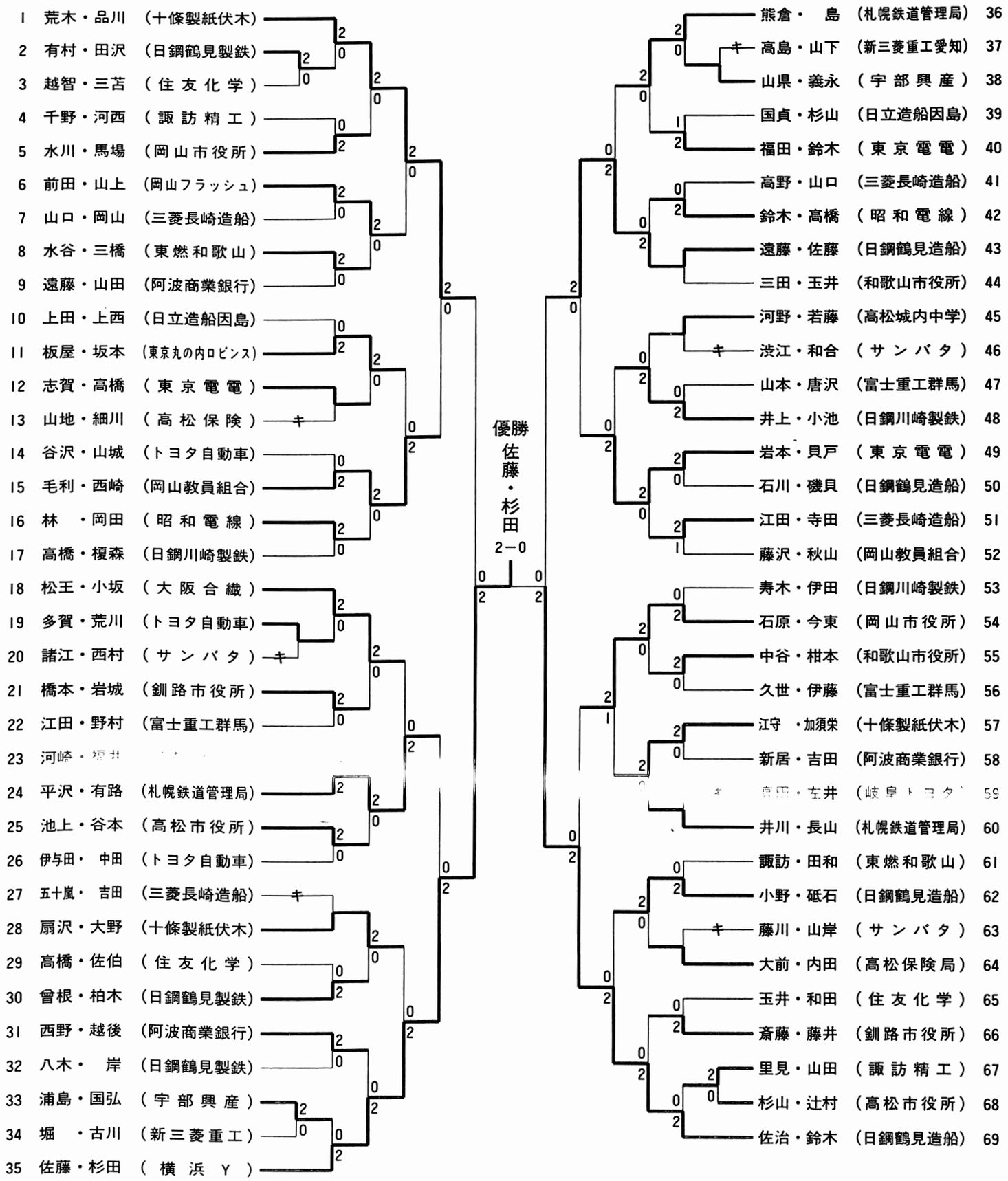
■女子団体の部



■男子単の部


1 佐藤 (小田急観光)
2 江守 (十條製紙伏木)
3 志賀 (東京電電)
4 佐伯 (住友化学菊本)
5 山泉 (宇部興産)
6 吉田 (阿波商業銀行)
7 山本 (富士重工群馬)
8 遠藤 (阿波商業銀行)
9 井上 (日鋼川崎製鉄)
10 西村 (東京サンバタ)
11 河野 (高松城内中学)
12 鈴木 (日鋼鶴見造船)
13 小池 (日鋼川崎製鉄)
14 坂本 (東京丸の内ロビンス)
15 上田 (日立造船)
16 吉田 (三菱長崎造船)
17 曾根 (日鋼鶴見製鉄)
18 中田 (トヨタ自動車)
19 伊与 (トヨタ自動車)
20 堀 (新三菱重工)
21 榎森 (日鋼川崎製鉄)
22 渡辺 (岡山教員組合)
23 安藤 (住友化学菊本)
24 鈴木 (東京電電)
25 島 (札幌鉄道管理局)
26 越後 (阿波商業銀行)
27 岸 (日鋼鶴見製鉄)
28 里見 (諏訪精工)
29 柑本 (和歌山市役所)
30 中村 (トヨタ自動車)
31 山田 (諏訪精工)
32 馬場 (岡山市役所)
33 村川 (昭和電線)
34 渋井 (札幌鉄道管理局)
35 扇沢 (十條製紙伏木)
36 荒井 (十條製紙伏木)
37 福井 (住友化学新居浜)
38 国貞 (日立造船広島)
39 砥石 (日鋼鶴見造船)
40 前田 (岡山フラッシュ)
41 高田 (岐阜トヨタ)
42 滝口 (宇部興産)
43 石川 (日鋼鶴見造船)
44 伊田 (日鋼川崎製鉄)
45 高橋 (東京電電)
46 奥田 (住友化学新居浜)
47 平沢 (札幌鉄道管理局)
48 諏訪 (東亜燃料和歌山)
49 有路 (札幌鉄道管理局)
50 矢野 (住友化学新居浜)
51 磯貝 (日鋼鶴見造船)
52 井川 (札幌鉄道管理局)
53 毛利 (岡山教員組合)
54 荒川 (トヨタ自動車)
55 和田 (住友化学菊本)
56 五十嵐 (三菱長崎造船)
57 高橋 (日鋼川崎製鉄)
58 山口 (三菱長崎造船)
59 小野 (日鋼鶴見造船)
60 岩城 (釧路市役所)
61 国弘 (宇部興産)
62 小松 (大阪合繊)
63 山下 (新三菱重工愛知)
64 秋山 (岡山教員組合)
65 大田 (阿波商業銀行)
66 有島 (住友化学新居浜)
67 遠村 (日鋼鶴見製鉄)
68 石藤 (日鋼鶴見造船)
69 原石 (岡山市役所)
優勝 佐藤 2−0
70 松王 (大阪合繊)
71 岩本 (東京電電)
72 玉井 (住友化学)
73 中谷 (和歌山市役所)
74 近藤 (トヨタ自動車)
75 熊倉 (札幌鉄道管理局)
76 伊藤 (富士重工)
77 渡辺 (東京電電)
78 河西 (諏訪精工)
79 越智 (住友化学菊本)
80 谷沢 (トヨタ自動車)
81 福田 (東京電電)
82 江戸 (長崎三菱造船)
83 柏木 (日鋼鶴見製鉄)
84 林 (諏訪精工)
85 唐沢 (富士重工)
86 八木 (日鋼鶴見製鉄)
87 貝戸 (東京電電)
88 西野 (阿波商業銀行)
89 真壁 (日鋼鶴見造船)
90 若藤 (高松城内中学)
91 上西 (日立造船因島)
92 藤沢 (岡山教員組合)
93 田西 (東亜燃料)
94 藤井 (釧路市役所)
95 玉井 (和歌山市役所)
96 浦井 (宇部興産)
97 佐島 (日鋼鶴見造船)
98 田治 (日鋼鶴見製鉄)
99 野沢 (富士重工)
100 山村 (三菱長崎造船)
101 口賢 (東亜燃料)
102 谷川 (日鋼川崎製鉄)
103 木村 (岡山市役所)
104 川井 (十條製紙伏木)
105 川島 (日鋼鶴見造船)
106 藤本 (住友化学菊本)
107 橋藤 (釧路市役所)
108 藤田 (和歌山市役所)
109 田中 (札幌鉄道管理局)
110 山口 (諏訪精工)
111 野村 (東京サンバタ)
112 江野 (十條製紙伏木)
113 賀野 (トヨタ自動車)
114 井賀 (岐阜トヨタ)
115 野井 (十條製紙伏木)
116 田野 (富士重工)
117 苫田 (三苫住友化学菊本)
118 井苫 (住友化学新居浜)
119 泉井 (岡山市役所)
120 城泉 (トヨタ自動車)
121 世城 (富士重工)
122 山世 (日立造船因島)
123 岸山 (東京サンバタ)
124 山岸 (三菱長崎造船)
125 栄山 (十條製紙伏木)
126 合栄 (東京サンバタ)
127 崎合 (河崎ラケット)
128 川崎 (新三菱重工)
129 味川 (東亜燃料)
130 屋味 (東京ロビンス)
131 島屋 (住友化学新居浜)
132 島島 (新三菱重工)
133 橋島 (東亜燃料)
134 永橋 (宇部興産)
135 居永 (阿波商業銀行)
136 崎居 (岡山教員組合)
137 田崎 (三菱長崎造船)
138 本田 (釧路市役所)
139 田本 (横浜港南中学)
須口十
石原 (岡山市役所)
杉田 (横浜港南中学)

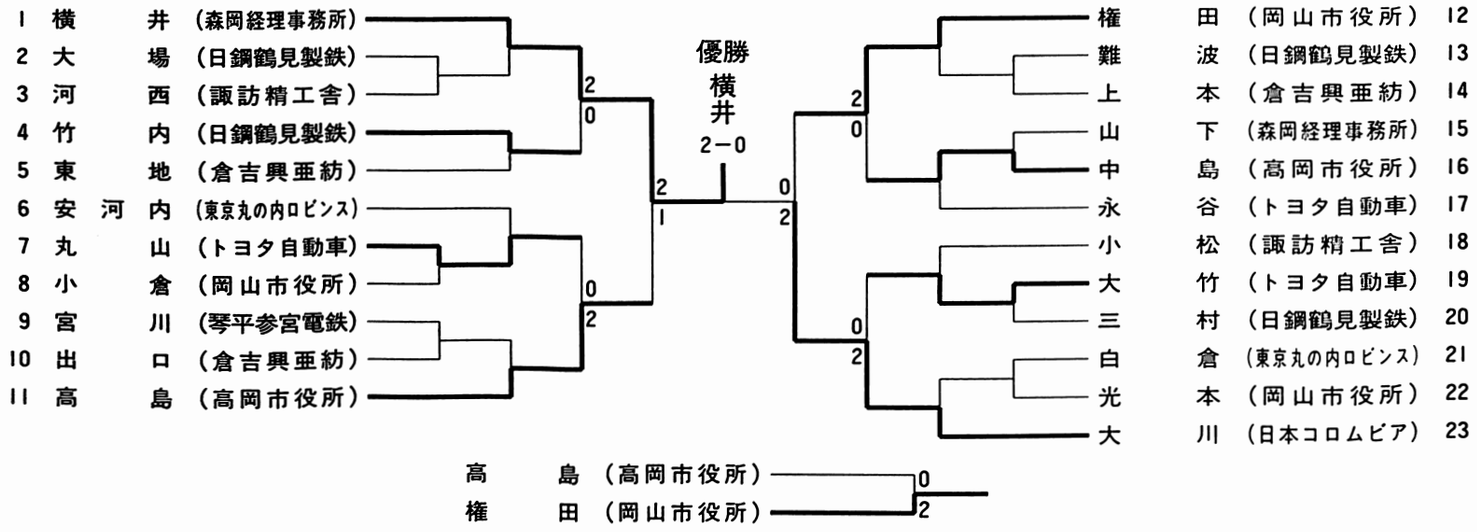
■男子複の部



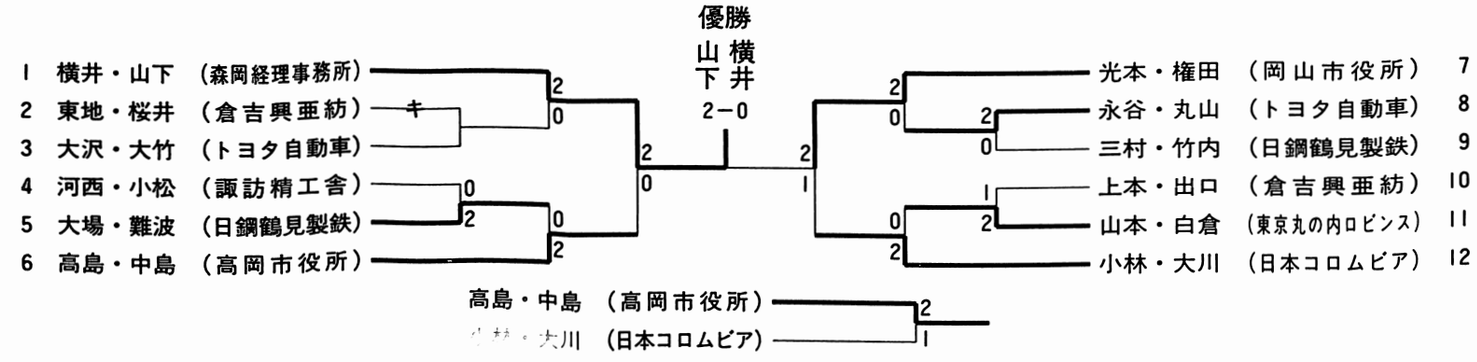
荒木・品川 (十條製紙伏木)

遠藤・佐藤 (日鋼鶴見造船)

■女子単の部


1 横 井 (森岡経理事務所)
2 大 場 (日鋼鶴見製鉄)
3 河 西 (諏訪精工舎)
4 竹 内 (日鋼鶴見製鉄)
5 東 地 (倉吉興亜紡)
6 安 河 内 (東京丸の内ロビンス)
7 丸 山 (トヨタ自動車)
8 小 倉 (岡山市役所)
9 宮 川 (琴平参宮電鉄)
10 出 口 (倉吉興亜紡)
11 高 島 (高岡市役所)
優勝
横井
2−0
権 田 (岡山市役所) 12
難 波 (日鋼鶴見製鉄) 13
上 本 (倉吉興亜紡) 14
山 下 (森岡経理事務所) 15
中 島 (高岡市役所) 16
永 谷 (トヨタ自動車) 17
小 松 (諏訪精工舎) 18
大 竹 (トヨタ自動車) 19
三 村 (日鋼鶴見製鉄) 20
白 倉 (東京丸の内ロビンス) 21
光 本 (岡山市役所) 22
大 川 (日本コロムビア) 23
高 島 (高岡市役所) 0
権 田 (岡山市役所) 2

■女子複の部


1 横井・山下 (森岡経理事務所)
2 東地・桜井 (倉吉興亜紡)
3 大沢・大竹 (トヨタ自動車)
4 河西・小松 (諏訪精工舎)
5 大場・難波 (日鋼鶴見製鉄)
6 高島・中島 (高岡市役所)
優勝
山下
横井
2−0
光本・権田 (岡山市役所) 7
永谷・丸山 (トヨタ自動車) 8
三村・竹内 (日鋼鶴見製鉄) 9
上本・出口 (倉吉興亜紡) 10
山本・白倉 (東京丸の内ロビンス) 11
小林・大川 (日本コロムビア) 12
高島・中島 (高岡市役所) 2
小林・大川 (日本コロムビア) 1

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	札幌鉄道管理局	西本秀一郎	井川誠一・長山森久・熊倉昭二・島　辰雄・平沢啓裕・有路信彦・渋井　明
	釧路市役所	米原　健児	橋本文雄・岩崎正良・齊藤英樹・本川　実・植木英郎
群馬	富士重工	徳山　勇吉	久世隆一郎・伊藤栄二・江田道雄・野村　豊・山本多門・唐沢秀亨
埼玉	日研化学	横井　初夫	横井初夫・椿山雄久・稲村重利・内藤　昭・石川二郎・井上泰平・小川明彦
東京	いすゞ自動車	小倉　信男	矢ヶ崎進・塚原錫雄・長田光弘・小沢英夫・高橋幸治郎・関口　潔
	サンパタ	竹尾　敏広	藤川俊雄・諸江秀一・西村嘉信・山岸重孝・渋江菊雄・和合紀夫
神奈川	日本鋼管・鶴見造船所	齊藤　信義	佐治　豊・遠藤啓修・小野光美・佐藤昌久・鈴木冨春・砥石　勤・石川三郎・磯貝　泰・真壁孝
	日本鋼管・鶴見製鉄所	門田　朝光	八木和夫・有村公棟・曾根光史・柏木克之・田沢浩司・岸　義晃
	日本鋼管・川崎製鉄所	井上　次雄	井上次雄・高橋俊一・榎森信二・小池貞宜・井田真一・青木　昇
	昭和電線	小林　東郷	林　光雄・村川修一・鈴木由男・高橋義明・岡田　弘・原園祥一
	三菱横浜造船所	増村　栄一	増村栄一・高橋　進・片岡弘道・上床　博
東京	東京電電	並木萬次郎	志賀正春・高橋　章・山本竜一・貝戸　肇・福田　実・鈴木邦男・渡辺勇三
新潟	日本曹達・二本木	宮沢　高嶺	宮沢高嶺・村越　修・松井正夫・島田　勉・関原三男
富山	十條製紙・伏木	清水　正	荒木亥久男・品川則之・扇沢三徳・大野幸雄・江守　清・加須栄英雄・佐野善次郎・清水　正
石川	北国銀行	藤岡　寿道	小高　博・谷田　実・千田登志信・武部　睦・岡崎忠一・堀　勇
愛知	トヨタ自動車	山城　智徳	多賀純一・荒川司郎・谷沢経次・山城智徳・伊与田勇・中田　稔・中村康衛・近藤勝寿
	新三菱重工・名古屋	野口　勇	山下一磨・高島和夫・北川元司・古川善作・堀　征一・三宅宏幸・西尾　孝
京都	島津製作所	野村　嘉明	大脇一能・松岡正信・若山　昭・村上博一・田中　優・安川和正・野村嘉明
	松下電子工業	細野　宇一	矢田直宏・足立　明・浜　司郎・松本正夫・長田一男
長野	諏訪精工舎	山田　一六	林　正明・里見良三・千野統雄・河西武徳・山田一男
岐阜	岐阜市役所	河田　歳雄	清水敏光・酒井　宏・白木康登・棚瀬峯男
和歌山	東亜燃料・和歌山	永広　利之	水谷哲雄・諏訪芳光・三橋礼仁・田和　貢・五味平吉
	和歌山市役所	中谷　正夫	中谷正夫・柑本睦男・三田徳雄・玉井武視
石川	小松製作所	吉田甚一郎	原　明弘・辰巳義清・中村　均・玉井　明・藤井信弘・浅田　稔
大阪	大阪合繊	上田　了	松王清志・小松　貫・上田　了・藤代善彦・倉重外善男
兵庫	台湾精糖	小林　昭生	小林昭生・飯田修二・石野昌之・中村喜克・谷務陽一郎
鳥取	[illegible]	[illegible]	[illegible]・福村　穂・長尾　明・柳原宣義・佐々木義政・浅井　巌・浜崎正義・松本　弘
岡山	岡山市役所	社　竹三	石原利道・今東幸[illegible]・馬場睦純・[illegible]武利
	岡山教員組合	山上　周之	毛利清志・西崎正明・藤沢更司・秋山忠明・渡辺弘美
	倉敷市役所	小原　貞	井沢　豊・小川清昭・佐藤　正・竹岡武久
広島	日立造船・因島	高橋　勇	杉山清行・上田辰男・上田正秋・国貞行弘
山口	宇部興産	滝口　善信	滝口善信・山泉保夫・浅永　保・浦島匡宏・国弘　宏
	山陽パルプA	中浜　浅吉	岡崎修身・中浜浅吉・玉木俊一・室井勝夫
	山陽パルプB	中浜　浅吉	川岡　智・長宏安彦・河野耕治・中野達雄
長崎	三菱長崎造船所	平　政雄	高野末雄・江口昭八郎・寺田謙三・山口賢朗・山口征一郎・岡山安裕・五十嵐潔・吉田　豊
愛媛	住友化学・新居浜	平井　純	平井　純・大島宗紀・豊島　進・矢野　晃・福井久男・奥田義雄・近藤忠徳
	住友化学・菊本	野崎　義之	越智勤也・三苫孝一・玉井保孝・高橋義人・佐伯　伝・和田信一・安藤　弘
	住友金属・別子鉱業所	尾崎　舜朗	尾崎舜朗・須藤晃一・川上達久・冨加見正・小野光宏
徳島	阿波商業銀行	中山　忠男	西野昌明・越後禎夫・新居　広・吉田泰三・遠藤佳之・山田　彰

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
香　川	高松専門店B	小島　只芳	真部金次郎・久保義之・田中武夫・笠井和夫
	高松専門店A	小島　只芳	小島只芳・中北政夫・東条　博・林　　勲
	高松簡易保険局	山地　茂樹	大前義和・山地茂樹・内田正和・細川静夫
	高松市役所	池上　　任	池上　任・杉山富雄・辻村栄一・谷本庄市・野口利行
岡　山	岡山フラッシュクラブ	山上　周之	前田俊一・山上周一
東　京	河崎ラケット	福井　正康	河崎一幸・福井正康
岐　阜	岐阜トヨタ	加藤　義孝	高田　忠・五井完宗
東　京	丸の内ロビンス	坪　　武	板屋　宏・坂本　光
	小田急電鉄	佐藤　芳朗	佐藤芳朗・杉田　博
香　川	高松城内中学	河野　誠士	河野誠士・若藤　勝

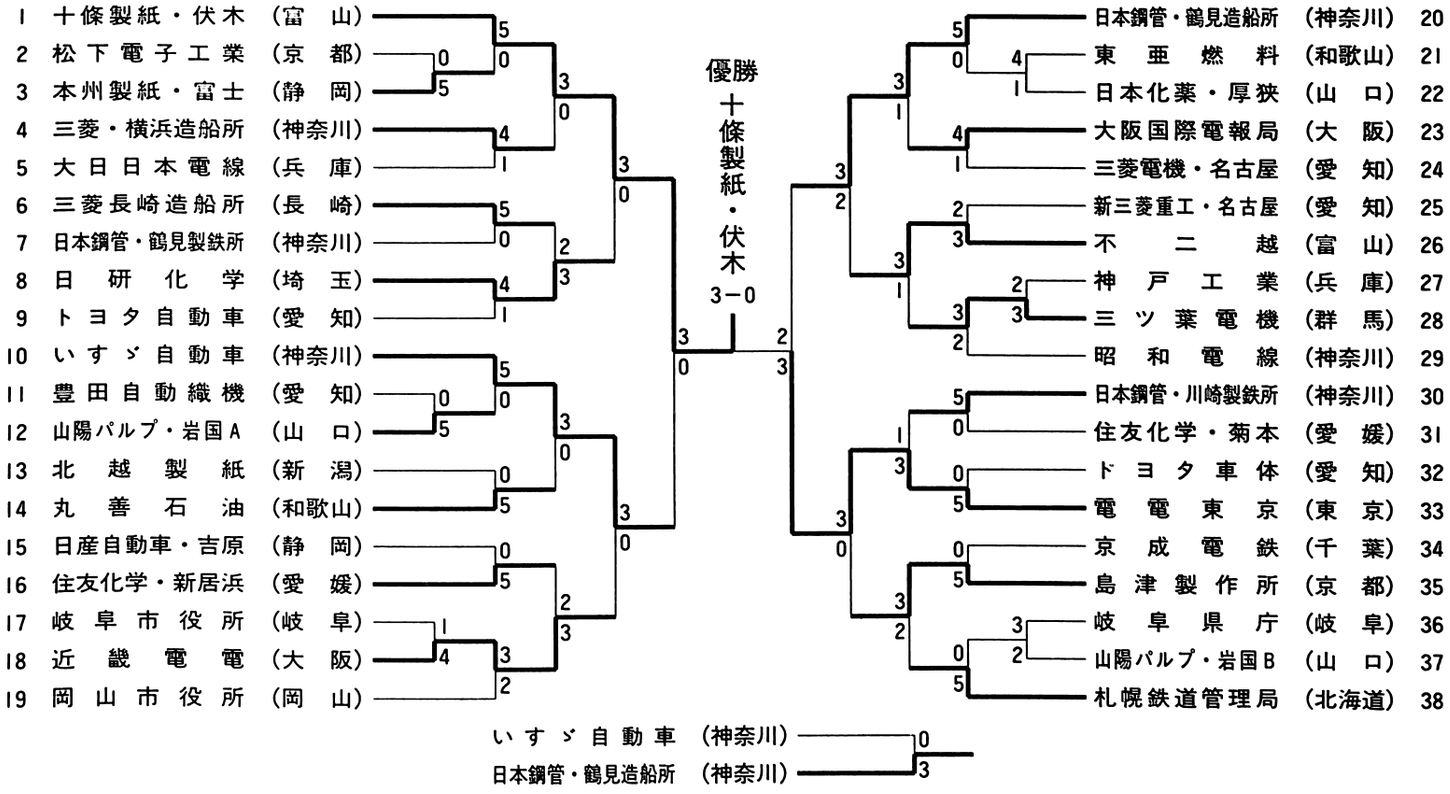
（女子の部）

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
神奈川	日本鋼管・鶴見製鉄所	門田　朝光	竹内美佐子・三村美智子・大庭花江・難波多鶴枝
	日本コロムビア	小林　歌子	小林歌子・大川良子
愛　知	トヨタ自動車	山城　智徳	大沢節子・永谷初枝・丸山公子・大竹さえ子
富　山	高岡市役所	中山　邦夫	高島洋子・中島玲子
長　野	諏訪精工舎	山田　一六	河西佳子・小松佐代子
鳥　取	興亜紡績・倉吉	川口　邦彦	上本明子・出口容子・東地泰子・桜井富美代
京　都	松下電子工業	矢田　直宏	宮美佐子・松田純子・八木好子・隅谷恵美子
岡　山	岡山市役所	小梶　繁雄	権田節子・光本政子・小倉真美子（旧姓　沢）
山　口	山陽パルプ	中浜　浅吉	市岡清子・谷本直子・佐伯富子・沖　早苗
長　崎	三菱長崎造船所	平　　政雄	大谷弘子・福田民子・宮木淑子
香　川	森岡会計事務所	川崎　　智	横井キヌエ・山下久子
宮　崎	旭化成・延岡	山敷　　駿	（メンバー不明）
東　京	東京丸の内ロビンス	坪　　武	白倉久実子・安河内栄子
香　川	琴平参宮電鉄	[illegible]	[illegible]ヤ子

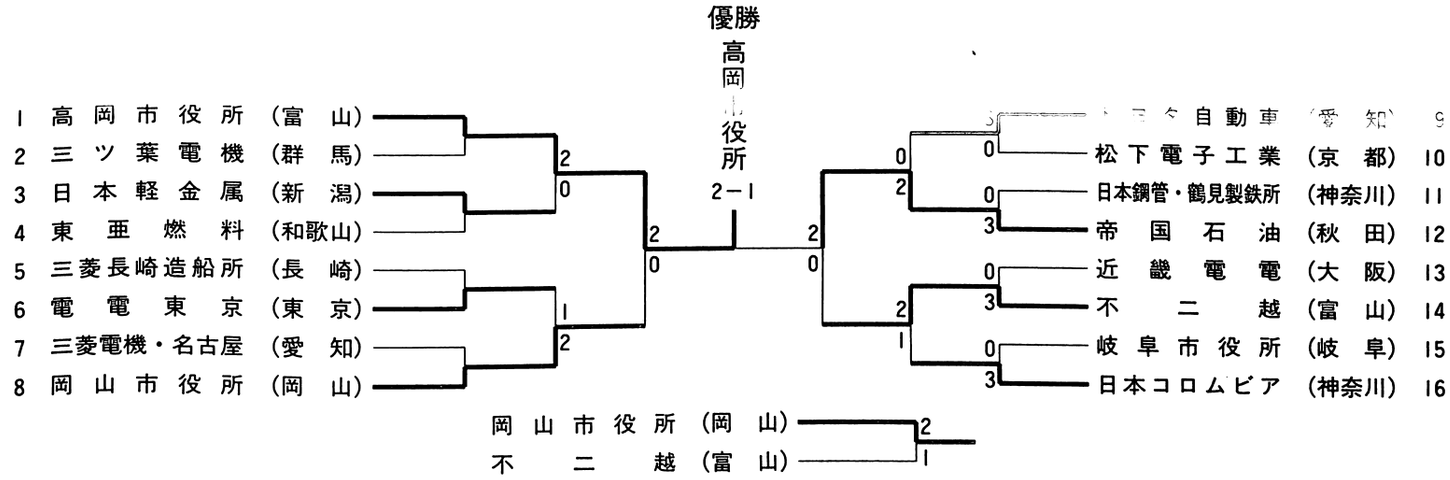
第10回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1961年(昭和36年)1月14～17日
開 催 地：愛知県名古屋市
会　　場：金山体育館

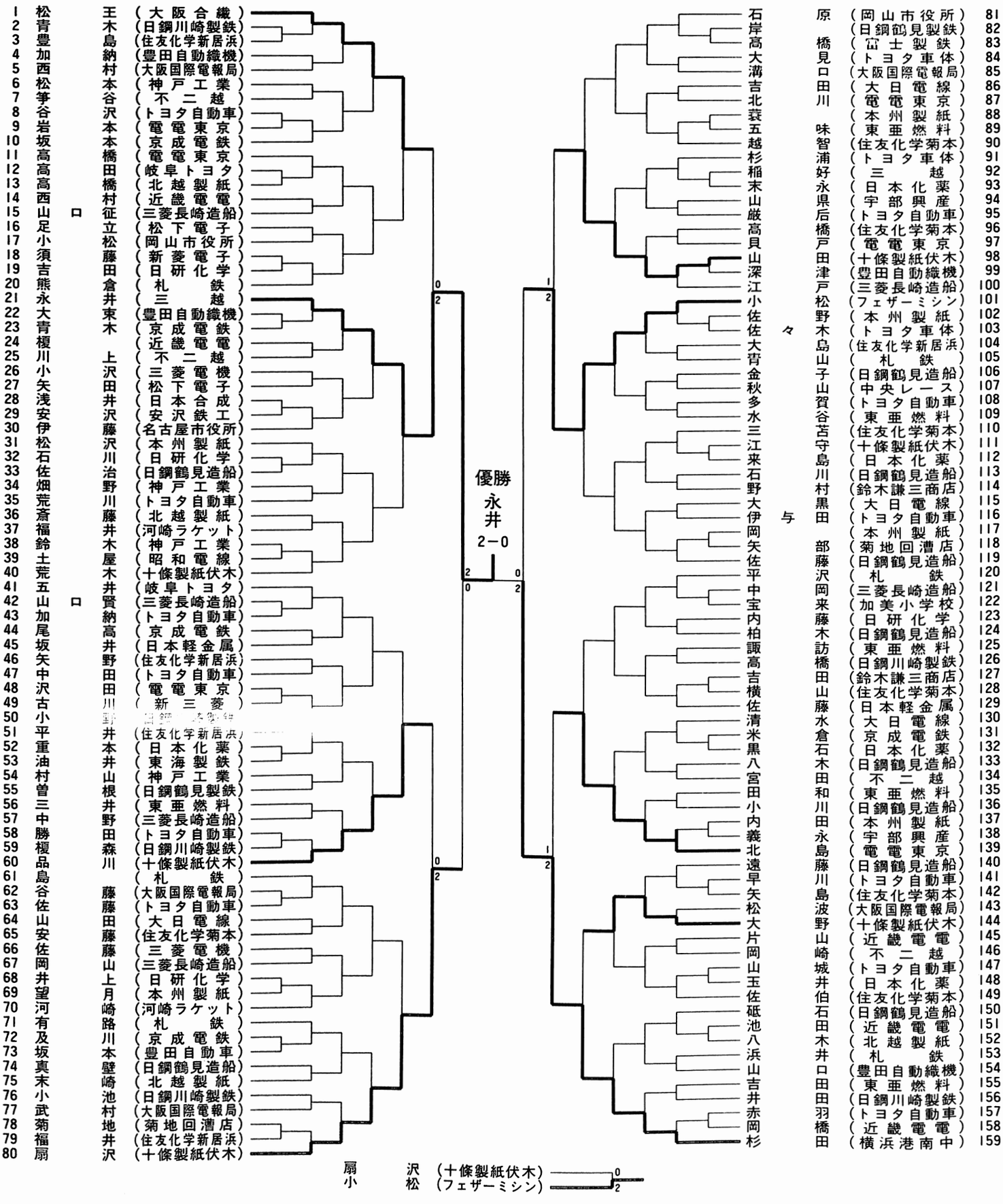
■男子団体の部



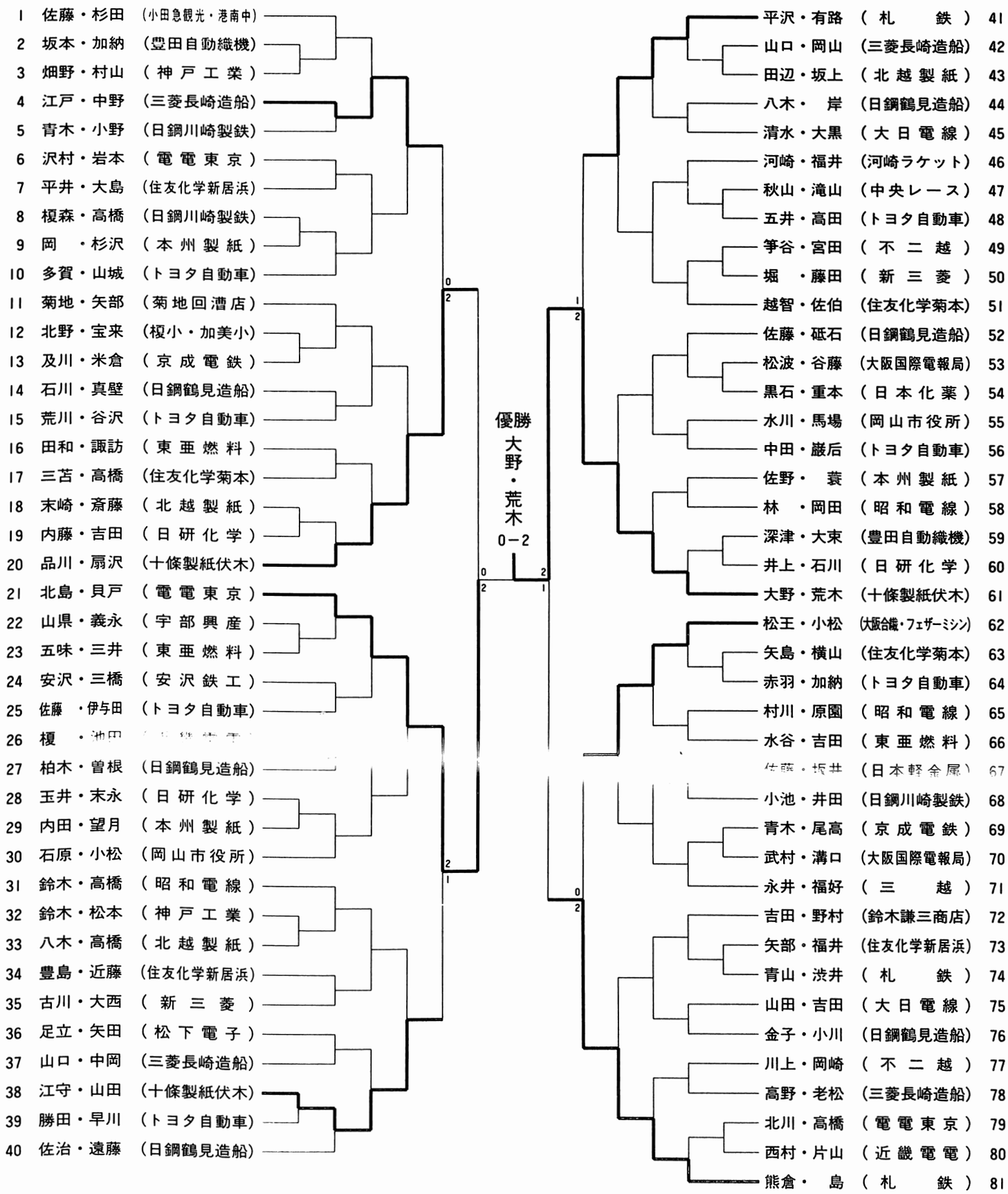
■女子団体の部



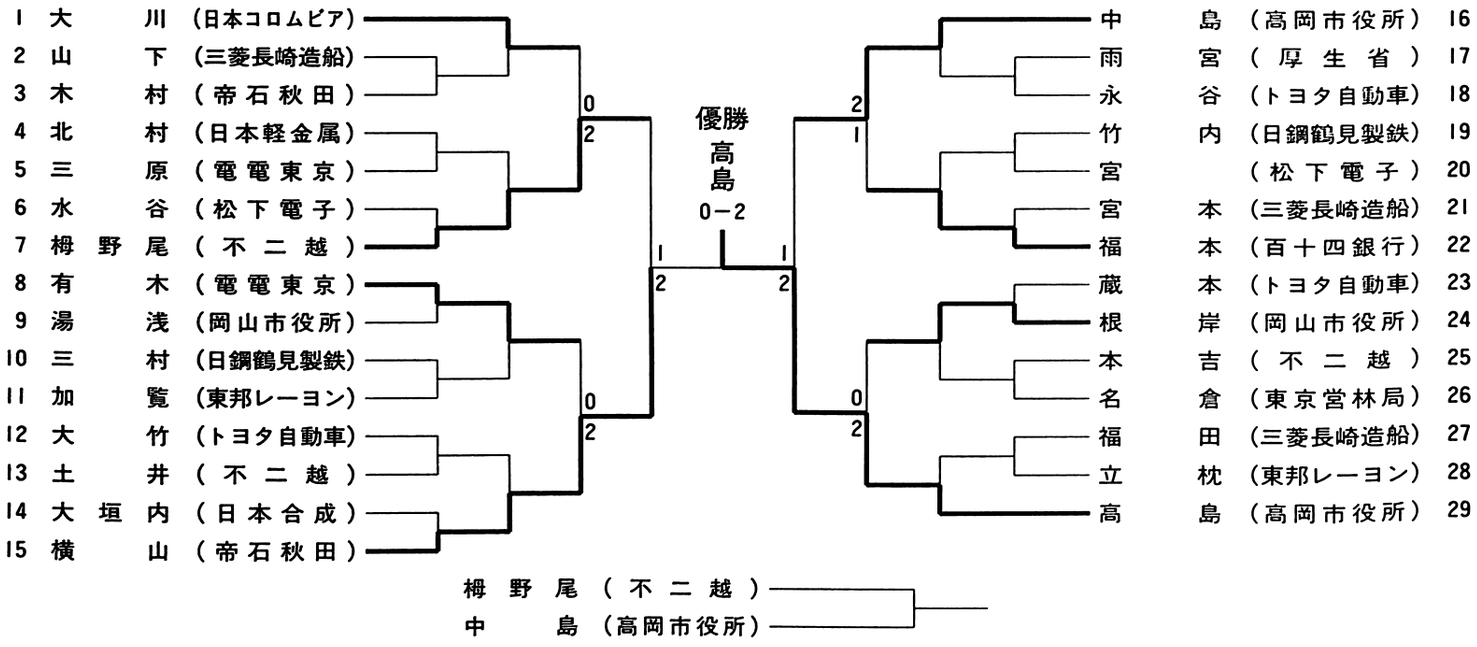
■男子単の部



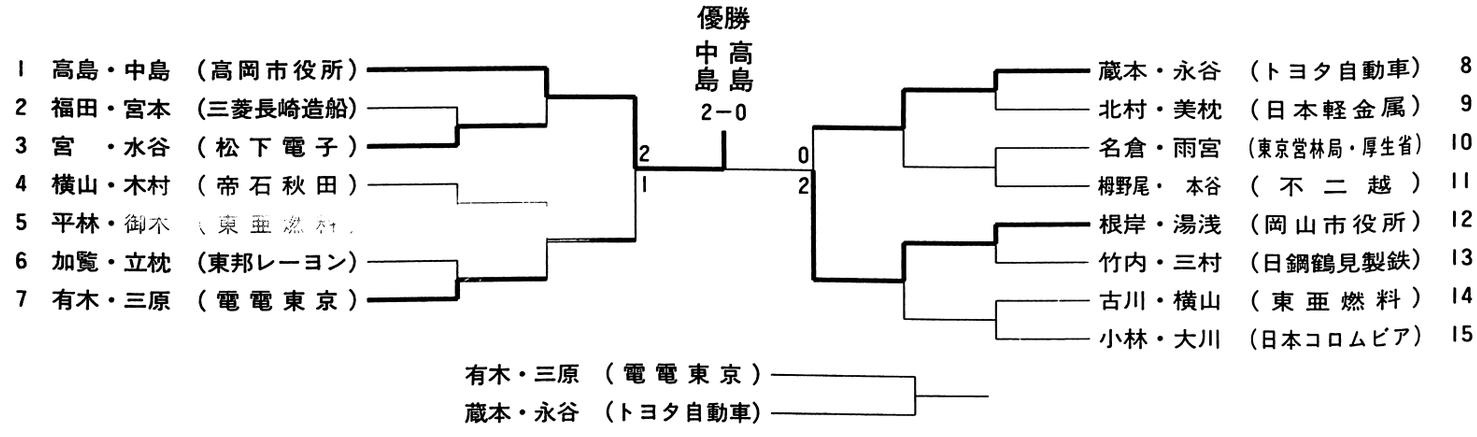
■男子複の部


1 佐藤・杉田 (小田急観光・港南中)
2 坂本・加納 (豊田自動織機)
3 畑野・村山 (神戸工業)
4 江戸・中野 (三菱長崎造船)
5 青木・小野 (日鋼川崎製鉄)
6 沢村・岩本 (電電東京)
7 平井・大島 (住友化学新居浜)
8 榎森・高橋 (日鋼川崎製鉄)
9 岡 ・杉沢 (本州製紙)
10 多賀・山城 (トヨタ自動車)
11 菊地・矢部 (菊地回漕店)
12 北野・宝来 (榎小・加美小)
13 及川・米倉 (京成電鉄)
14 石川・真壁 (日鋼鶴見造船)
15 荒川・谷沢 (トヨタ自動車)
16 田和・諏訪 (東亜燃料)
17 三苫・高橋 (住友化学菊本)
18 末崎・斎藤 (北越製紙)
19 内藤・吉田 (日研化学)
20 品川・扇沢 (十條製紙伏木)
21 北島・貝戸 (電電東京)
22 山県・義永 (宇部興産)
23 五味・三井 (東亜燃料)
24 安沢・三橋 (安沢鉄工)
25 佐藤 ・伊与田 (トヨタ自動車)
26 榎 ・池田
27 柏木・曽根 (日鋼鶴見造船)
28 玉井・末永 (日研化学)
29 内田・望月 (本州製紙)
30 石原・小松 (岡山市役所)
31 鈴木・高橋 (昭和電線)
32 鈴木・松本 (神戸工業)
33 八木・高橋 (北越製紙)
34 豊島・近藤 (住友化学新居浜)
35 古川・大西 (新三菱)
36 足立・矢田 (松下電子)
37 山口・中岡 (三菱長崎造船)
38 江守・山田 (十條製紙伏木)
39 勝田・早川 (トヨタ自動車)
40 佐治・遠藤 (日鋼鶴見造船)
優勝
大野・荒木
0−2
41 平沢・有路 (札鉄)
42 山口・岡山 (三菱長崎造船)
43 田辺・坂上 (北越製紙)
44 八木・ 岸 (日鋼鶴見造船)
45 清水・大黒 (大日電線)
46 河崎・福井 (河崎ラケット)
47 秋山・滝山 (中央レース)
48 五井・高田 (トヨタ自動車)
49 箏谷・宮田 (不二越)
50 堀 ・藤田 (新三菱)
51 越智・佐伯 (住友化学菊本)
52 佐藤・砥石 (日鋼鶴見造船)
53 松波・谷藤 (大阪国際電報局)
54 黒石・重本 (日本化薬)
55 水川・馬場 (岡山市役所)
56 中田・巌后 (トヨタ自動車)
57 佐野・ 蓑 (本州製紙)
58 林 ・岡田 (昭和電線)
59 深津・大束 (豊田自動織機)
60 井上・石川 (日研化学)
61 大野・荒木 (十條製紙伏木)
62 松王・小松 (大阪合繊・フェザーミシン)
63 矢島・横山 (住友化学菊本)
64 赤羽・加納 (トヨタ自動車)
65 村川・原園 (昭和電線)
66 水谷・吉田 (東亜燃料)
67 佐藤・坂井 (日本軽金属)
68 小池・井田 (日鋼川崎製鉄)
69 青木・尾高 (京成電鉄)
70 武村・溝口 (大阪国際電報局)
71 永井・福好 (三越)
72 吉田・野村 (鈴木謙三商店)
73 矢部・福井 (住友化学新居浜)
74 青山・渋井 (札鉄)
75 山田・吉田 (大日電線)
76 金子・小川 (日鋼鶴見造船)
77 川上・岡崎 (不二越)
78 高野・老松 (三菱長崎造船)
79 北川・高橋 (電電東京)
80 西村・片山 (近畿電電)
81 熊倉・ 島 (札鉄)
品川・扇沢 (十條製紙伏木) 2
熊倉・島 (札鉄) 0

■女子単の部


1 大川 (日本コロムビア)
2 山下 (三菱長崎造船)
3 木村 (帝石秋田)
4 北村 (日本軽金属)
5 三原 (電電東京)
6 水谷 (松下電子)
7 栂野尾 (不二越)
8 有木 (電電東京)
9 湯浅 (岡山市役所)
10 三村 (日鋼鶴見製鉄)
11 加覧 (東邦レーヨン)
12 大竹 (トヨタ自動車)
13 土井 (不二越)
14 大垣内 (日本合成)
15 横山 (帝石秋田)
優勝
高島
0−2
16 中島 (高岡市役所)
17 雨宮 (厚生省)
18 永谷 (トヨタ自動車)
19 竹内 (日鋼鶴見製鉄)
20 (松下電子)
21 宮本 (三菱長崎造船)
22 福本 (百十四銀行)
23 蔵本 (トヨタ自動車)
24 根岸 (岡山市役所)
25 本吉 (不二越)
26 名倉 (東京営林局)
27 福田 (三菱長崎造船)
28 立枕 (東邦レーヨン)
29 高島 (高岡市役所)
栂野尾 (不二越)
中島 (高岡市役所)

■女子複の部


1 高島・中島 (高岡市役所)
2 福田・宮本 (三菱長崎造船)
3 宮 ・水谷 (松下電子)
4 横山・木村 (帝石秋田)
5 平林・御木 (東亜燃料)
6 加覧・立枕 (東邦レーヨン)
7 有木・三原 (電電東京)
優勝
中島 高島
2−0
8 蔵本・永谷 (トヨタ自動車)
9 北村・美枕 (日本軽金属)
10 名倉・雨宮 (東京営林局・厚生省)
11 栂野尾・本谷 (不二越)
12 根岸・湯浅 (岡山市役所)
13 竹内・三村 (日鋼鶴見製鉄)
14 古川・横山 (東亜燃料)
15 小林・大川 (日本コロムビア)
有木・三原 (電電東京)
蔵本・永谷 (トヨタ自動車)

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	札幌鉄道管理局	西本秀一郎	青山繁樹・熊倉昭二・島　辰雄・平沢啓裕・有路信彦・渋井　明
群馬	三ツ葉電機製作所	増田　保夫	米谷外喜彦・西川　富・岡島秀治・長谷川浩三・茅野純一
埼玉	日研化学	椿山　雄久	椿山雄久・内藤　昭・石川二郎・井上泰年・吉田　司
千葉	京成電鉄	及川　了介	及川了介・青木隆夫・尾高幸男・坂本守人・米倉英男・清宮慎二・青木繁夫
東京	電電東京	並木萬次郎	高橋　章・貝戸　肇・沢村　浩・岩本竜一・喜多川広・北島克英
神奈川	日本鋼管・川崎製鉄所	鈴木　保	小池貞宣・榎森信二・青木　昇・伊田真一・高島俊一・小野吉弘
	いすゞ自動車	小倉　信男	塚原錫雄・長田光弘・高橋幸次郎・関口　潔・岩崎範章
	昭和電線	林　光雄	林　光雄・村川修一・鈴木由男・高橋義明・岡田　弘・原園祥一・土屋禎助
	日本鋼管・鶴見製鉄所	八木　和夫	八木和夫・曽根光雄・柏木克之・岸　義三
	三菱日本重工横浜造船	上杉　光芳	増村栄一・上杉光芳・高橋　進・片岡弘道・上床　博・金子幸男・三浦晴雄
	日本鋼管・鶴見造船所	菊間　昭治	遠藤啓治・佐藤昌久・砥石　勤・石川三郎・真壁　孝・金子芳美・佐治　豊・小川磊太郎
新潟	北越製紙	田辺信之助	佐藤臣一・田辺信之助・八木　博・高橋又三郎・末崎正男・坂上隆一・斉藤昭二
富山	不二越	柏　政吉	宮田栄二・川上洋一・岡崎　達・笋谷興一・岡崎利幸
	十條製紙・伏木	清水　正	荒木亥久男・品川則之・扇沢三徳・大野幸雄・江守　清・山田昭夫
静岡	日産自動車・吉原	伊藤　博	篠崎虎雄・山本正信・加藤幸男・熊井康夫・市川文男・寄持武紀
	本州製紙・富士	塚本太三郎	望月　薫・岡　徹・杉沢正義・内田兼義・望月富弘・佐野行正・簔　栄三
岐阜	岐阜市役所	河田　歳雄	清水敏光・酒井　弘・棚瀬峯男・白木康登
	岐阜県庁	和田　利雄	大野　寛・堀田好雄・尾関正一・安西　保
京都	島津製作所	藤田　博	大脇一能・松岡正信・若山　明・村上博一・田中　優・安川和正
	松下電子工業	国井　孝雄	矢田直宏・足立　明・松本正夫・新明栄次・山本良一・吉田　茂
大阪	大阪国際電報局	池田　繁雪	武村俊平・溝渕宏二・松浪鋭四郎・谷藤隆平・西村三郎・尾上忠夫
	近畿電電	池田　芳麻	池田芳麻・榎　高嗣・西村剛光・片山修治・岡橋直秀
和歌山	東亜燃料	石川　峰男	水谷哲雄・田和　貢・五味平吉・諏訪嘉治・吉田英雄・三井清孜
	丸善石油	星加　幸夫	小林延匡・杉浦敏一・前田　堅・西尾之佑・山田泰生・蓮下紬子・泰　敬・田中正一
兵庫	大日電線	小川　雄三	清水　力・大黒利明・藤田　昇・山田達也・吉田　昇・渡辺浩一
	神戸工業	畑野　正道	畑野正道・村山武彦・鈴木康祐・松本秀雄
岡山	岡山市役所	[illegible]	[illegible]・水川捨夫・馬場睦純・梶原　馨・岡本武利
山口	日本化薬・厚狭	来島　通泰	来島通泰・黒石善治・玉井勝夫・[illegible]
	山陽パルプA	長広　安彦	岡崎修身・川岡　智・玉木俊一・室井勝夫・岩本光弘
	山陽パルプB	長広　安彦	中浜浅吉・長広安彦・山本　豊・河野耕司・田原敏夫
愛媛	住友化学・新居浜	近藤　忠徳	平井　純・大島宗紀・豊島　進・矢野　晃・福井久男・近藤忠徳
	住友化学・菊本	野崎　義之	越智勤也・三苫孝一・高橋義人・佐伯　伝・矢島行雄・横山伸夫・安藤　弘
長崎	三菱長崎造船所	高野　末雄	老松幹雄・江戸昭八郎・中野元博・山口賢郎・中岡　洋・山口征一郎・岡山安祐・高野末雄
愛知	豊田自動織機	大岩　直	大東祥順・深津時彦・坂本明弘・加納　健・山口陽太郎
	トヨタ車体	茶谷　紋治	大見和彦・佐々木泰彦・杉浦猶市・岡本雅美
	三菱電機・名古屋	佐藤　泰理	杉浦　博・佐藤泰理・鈴木勝美・関口典男・小沢靖彦
	新三菱重工・名古屋	後藤　信治	藤田伸之・高島和夫・山下一磨・中野　葵・堀　征一・古川善作・大西博嗣・野口　勇
	トヨタ自動車	山城　智徳	多賀純一・荒川司郎・谷沢経次・佐藤忠史・巌后隆昭・伊与田勇・中田　稔・山城智徳

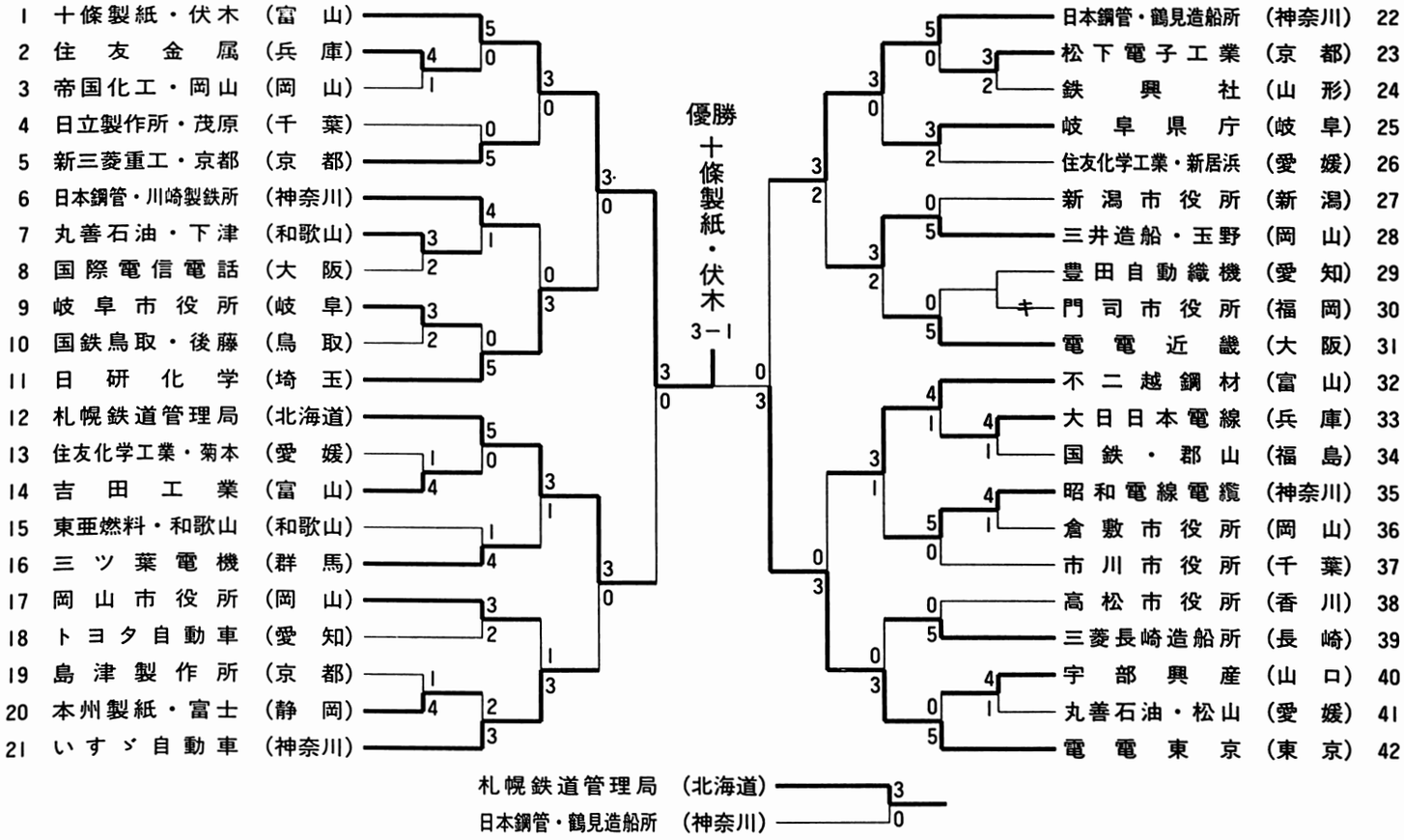
（女子の部）

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
群　馬	三ツ葉電機	増田　保夫	関口ミネ・荒井ヤス子・菊地記子
新　潟	日本軽金属	上村　　毅	美濃俊子・北村美代子
秋　田	帝国石油	相場　清一	木村政子・横山満子
富　山	不二越	柏　　政吉	下野旺子・椙野尾桂子・本吉勝子・土井順子
	高岡市役所	中山　邦夫	高島洋子・中島玲子
東　京	電電東京	並木萬次郎	内馬場和子・有木とみ子・三原弘美
神奈川	日本鋼管・鶴見製鉄所	八木　和夫	竹内美佐子・三村美智子
	日本コロムビア	伊東　隆文	小林歌子・大川良子
和歌山	東亜燃料	石川　峰男	平林　増・御木重子・古川和子・横山陽子
京　都	松下電子工業	国井　孝雄	宮美佐子・水谷英子・岡田文子
大　阪	近畿電電	池田　芳麻	伊藤貞子・西村桃代
岡　山	岡山市役所	権田　節子	根岸　純・湯浅光枝
岐　阜	岐阜市役所	清水　敏光	小野早智子・佐藤静枝
長　崎	三菱長崎造船所	高野　末雄	福田民子・宮本淑子・山下記子
愛　知	三菱電機・名古屋	小沢　靖彦	伊佐治則子・安達琴子
	トヨタ自動車	山城　智徳	永谷初恵・大竹さえ子・蔵本文子

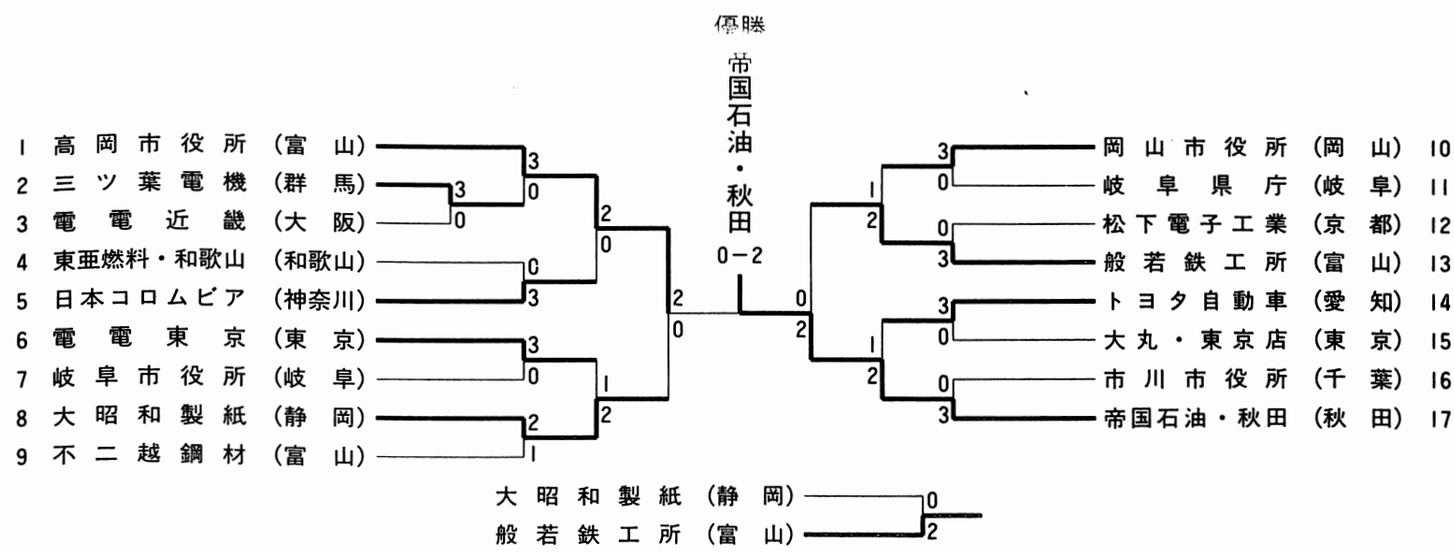
第11回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1961年(昭和36年)7月26～30日
開 催 地：岡山県倉敷市
会　　場：倉敷青陵高校体育館、
　　倉敷商業高校体育館

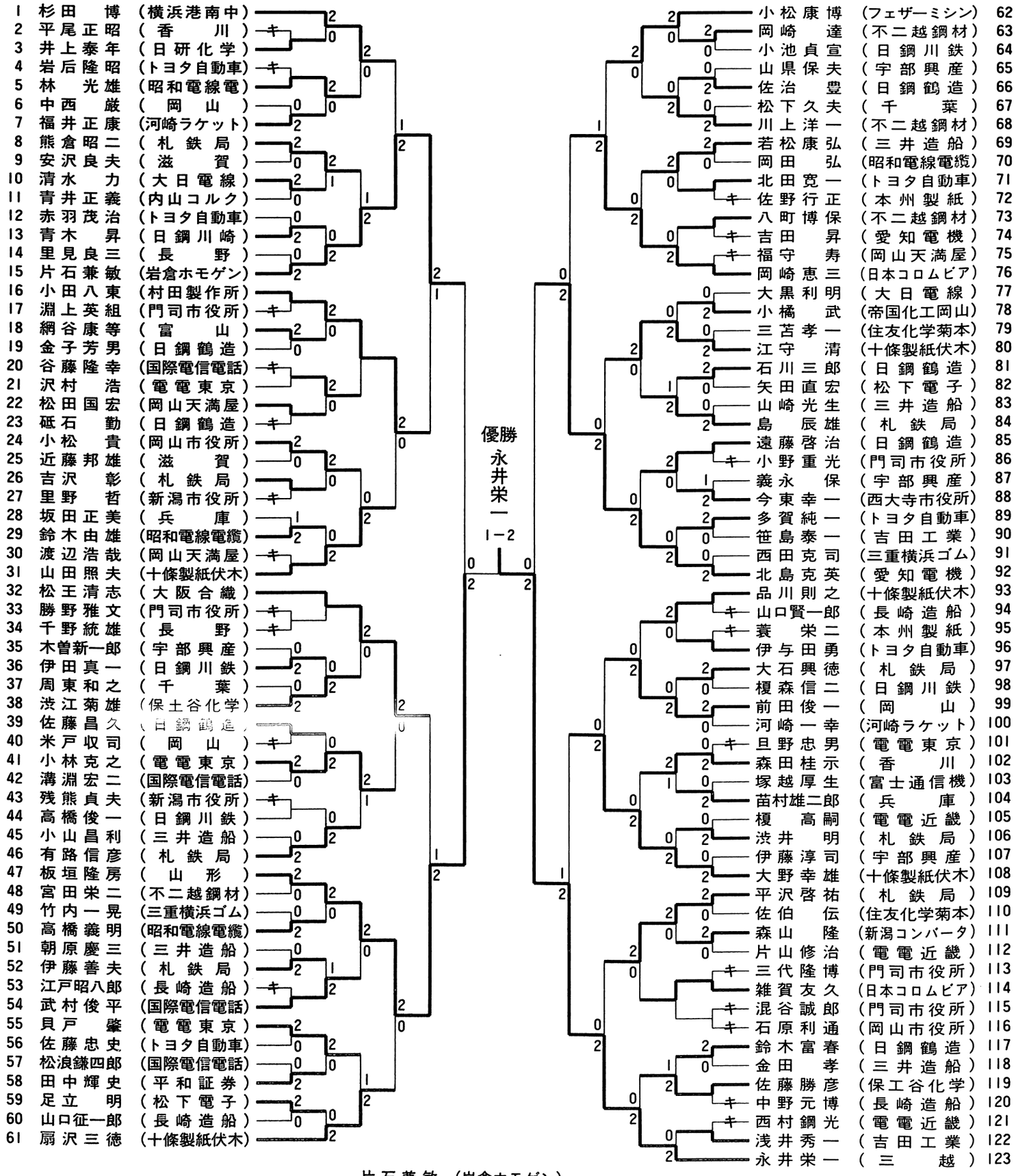
■男子団体の部



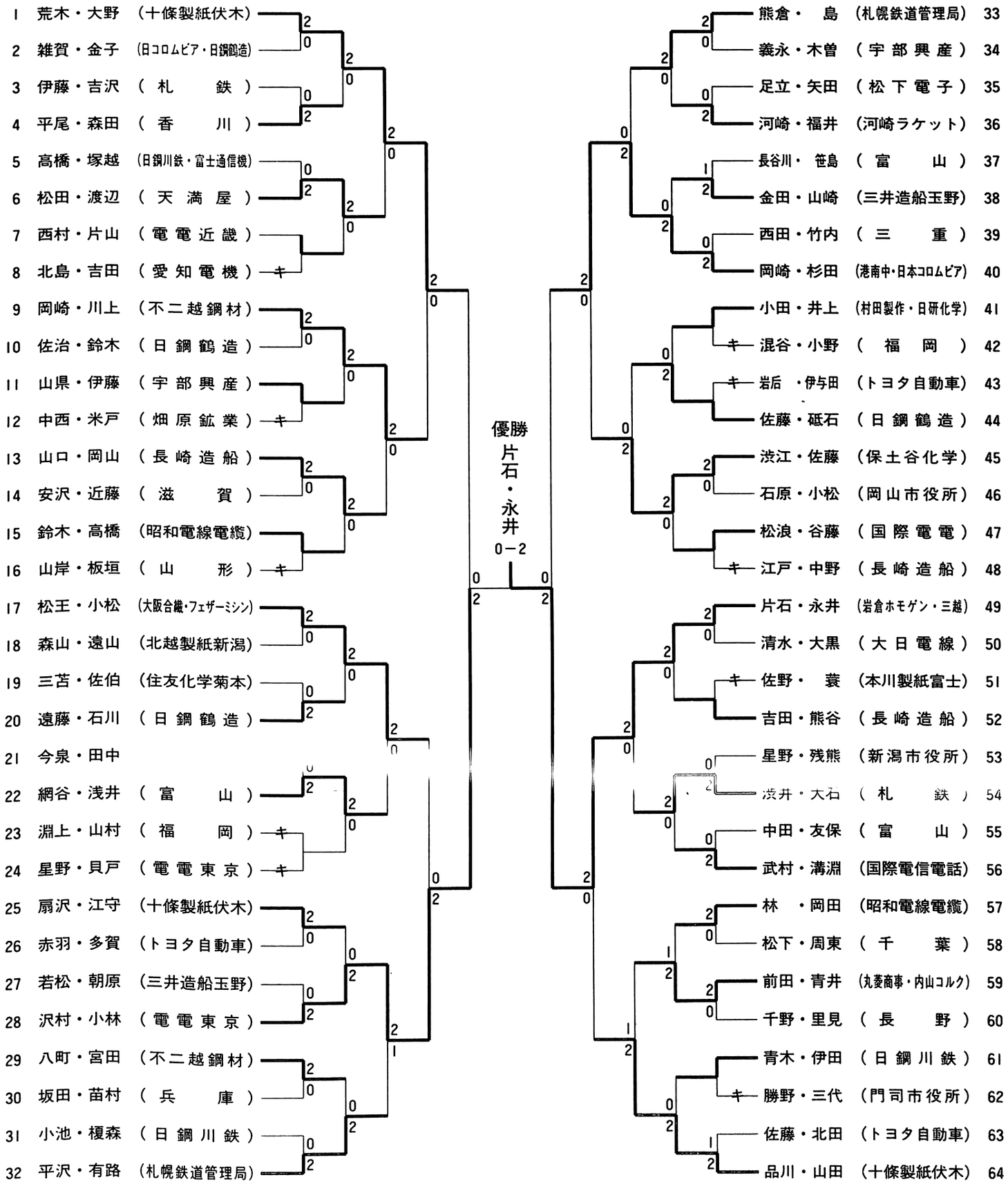
■女子団体の部



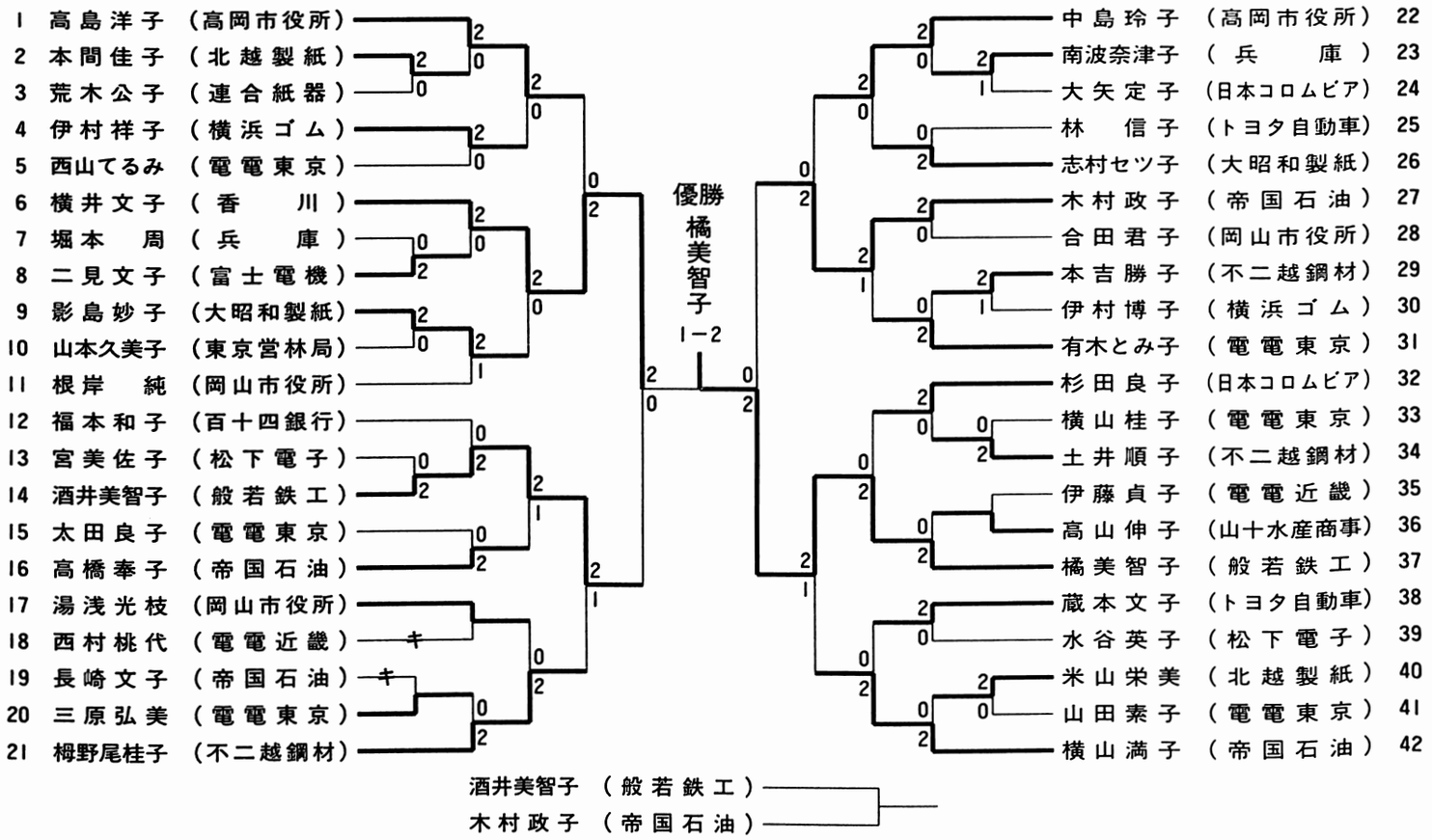
■男子単の部


1 杉田 博 (横浜港南中)
2 平尾正昭 (香川)
3 井上泰年 (日研化学)
4 岩后隆昭 (トヨタ自動車)
5 林 光雄 (昭和電線電)
6 中西 巌 (岡山)
7 福井正康 (河崎ラケット)
8 熊倉昭二 (札鉄局)
9 安沢良夫 (滋賀)
10 清水 力 (大日電線)
11 青井正義 (内山コルク)
12 赤羽茂治 (トヨタ自動車)
13 青木 昇 (日鋼川崎)
14 里見良三 (長野)
15 片石兼敏 (岩倉ホモゲン)
16 小田八東 (村田製作所)
17 淵上英組 (門司市役所)
18 網谷康等 (富山)
19 金子芳男 (日鋼鶴造)
20 谷藤隆幸 (国際電信電話)
21 沢村 浩 (電電東京)
22 松田国宏 (岡山天満屋)
23 砥石 勤 (日鋼鶴造)
24 小松 貴 (岡山市役所)
25 近藤邦雄 (滋賀)
26 吉沢 彰 (札鉄局)
27 里野 哲 (新潟市役所)
28 坂田正美 (兵庫)
29 鈴木由雄 (昭和電線電纜)
30 渡辺浩哉 (岡山天満屋)
31 山田照夫 (十條製紙伏木)
32 松王清志 (大阪合織)
33 勝野雅文 (門司市役所)
34 千野統雄 (長野)
35 木曽新一郎 (宇部興産)
36 伊田真一 (日鋼川鉄)
37 周東和之 (千葉)
38 渋江菊雄 (保土谷化学)
39 佐藤昌久 (日鋼鶴造)
40 米戸収司 (岡山)
41 小林克之 (電電東京)
42 溝淵宏二 (国際電信電話)
43 残熊貞夫 (新潟市役所)
44 高橋俊一 (日鋼川鉄)
45 小山昌利 (三井造船)
46 有路信彦 (札鉄局)
47 板垣隆房 (山形)
48 宮田栄二 (不二越鋼材)
49 竹内一晃 (三重横浜ゴム)
50 高橋義明 (昭和電線電纜)
51 朝原慶三 (三井造船)
52 伊藤善夫 (札鉄局)
53 江戸昭八郎 (長崎造船)
54 武村俊平 (国際電信電話)
55 貝戸 肇 (電電東京)
56 佐藤忠史 (トヨタ自動車)
57 松浪鎌四郎 (国際電信電話)
58 田中輝史 (平和証券)
59 足立 明 (松下電子)
60 山口征一郎 (長崎造船)
61 扇沢三徳 (十條製紙伏木)
優勝
永井栄一
1－2
62 小松康博 (フェザーミシン)
63 岡崎 達 (不二越鋼材)
64 小池貞宣 (日鋼川鉄)
65 山県保夫 (宇部興産)
66 佐治 豊 (日鋼鶴造)
67 松下久夫 (千葉)
68 川上洋一 (不二越鋼材)
69 若松康弘 (三井造船)
70 岡田 弘 (昭和電線電纜)
71 北田寛一 (トヨタ自動車)
72 佐野行正 (本州製紙)
73 八町博保 (不二越鋼材)
74 吉田 昇 (愛知電機)
75 福守 寿 (岡山天満屋)
76 岡崎恵三 (日本コロムビア)
77 大黒利明 (大日電線)
78 小橋 武 (帝国化工岡山)
79 三苫孝一 (住友化学菊本)
80 江守 清 (十條製紙伏木)
81 石川三郎 (日鋼鶴造)
82 矢田直宏 (松下電子)
83 山崎光生 (三井造船)
84 島 辰雄 (札鉄局)
85 遠藤啓治 (日鋼鶴造)
86 小野重光 (門司市役所)
87 義永 保 (宇部興産)
88 今東幸一 (西大寺市役所)
89 多賀純一 (トヨタ自動車)
90 笹島泰一 (吉田工業)
91 西田克司 (三重横浜ゴム)
92 北島克英 (愛知電機)
93 品川則之 (十條製紙伏木)
94 山口賢一郎 (長崎造船)
95 蓑 栄二 (本州製紙)
96 伊与田勇 (トヨタ自動車)
97 大石興徳 (札鉄局)
98 榎森信二 (日鋼川鉄)
99 前田俊一 (岡山)
100 河崎一幸 (河崎ラケット)
101 旦野忠男 (電電東京)
102 森田桂示 (香川)
103 塚越厚生 (富士通信機)
104 苗村雄二郎 (兵庫)
105 榎 高嗣 (電電近畿)
106 渋井 明 (札鉄局)
107 伊藤淳司 (宇部興産)
108 大野幸雄 (十條製紙伏木)
109 平沢啓祐 (札鉄局)
110 佐伯 伝 (住友化学菊本)
111 森山 隆 (新潟コンバータ)
112 片山修治 (電電近畿)
113 三代隆博 (門司市役所)
114 雑賀友久 (日本コロムビア)
115 混谷誠郎 (門司市役所)
116 石原利通 (岡山市役所)
117 鈴木富春 (日鋼鶴造)
118 金田 孝 (三井造船)
119 佐藤勝彦 (保工谷化学)
120 中野元博 (長崎造船)
121 西村鋼光 (電電近畿)
122 浅井秀一 (吉田工業)
123 永井栄一 (三越)
片石兼敏 (岩倉ホモゲン)
北島克英 (愛知電機)

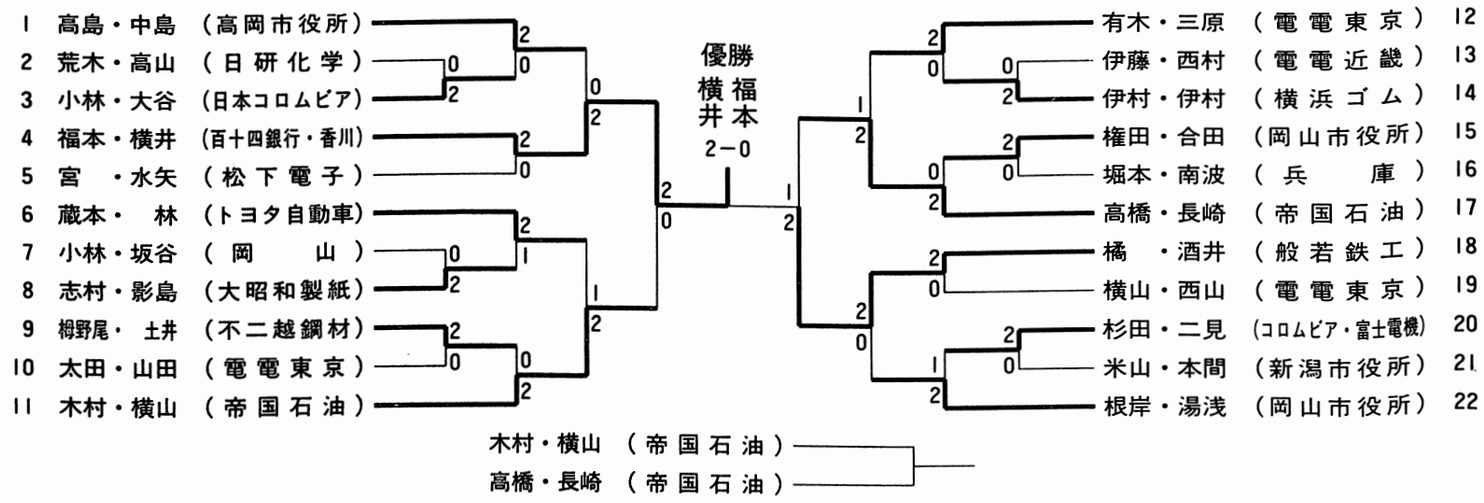
■男子複の部


1 荒木・大野 (十條製紙伏木)
2 雑賀・金子 (日コロムビア・日鋼鶴造)
3 伊藤・吉沢 (札 鉄)
4 平尾・森田 (香 川)
5 高橋・塚越 (日鋼川鉄・富士通信機)
6 松田・渡辺 (天 満 屋)
7 西村・片山 (電 電 近 畿)
8 北島・吉田 (愛 知 電 機)
9 岡崎・川上 (不二越鋼材)
10 佐治・鈴木 (日 鋼 鶴 造)
11 山県・伊藤 (宇 部 興 産)
12 中西・米戸 (畑 原 鉱 業)
13 山口・岡山 (長 崎 造 船)
14 安沢・近藤 (滋 賀)
15 鈴木・高橋 (昭和電線電纜)
16 山岸・板垣 (山 形)
17 松王・小松 (大阪合繊・フェザーミシン)
18 森山・遠山 (北越製紙新潟)
19 三苫・佐伯 (住友化学菊本)
20 遠藤・石川 (日 鋼 鶴 造)
21 今泉・田中
22 網谷・浅井 (富 山)
23 淵上・山村 (福 岡)
24 星野・貝戸 (電 電 東 京)
25 扇沢・江守 (十條製紙伏木)
26 赤羽・多賀 (トヨタ自動車)
27 若松・朝原 (三井造船玉野)
28 沢村・小林 (電 電 東 京)
29 八町・宮田 (不二越鋼材)
30 坂田・苗村 (兵 庫)
31 小池・榎森 (日 鋼 川 鉄)
32 平沢・有路 (札幌鉄道管理局)
優勝
片石・永井
0−2
33 熊倉・ 島 (札幌鉄道管理局)
34 義永・木曽 (宇 部 興 産)
35 足立・矢田 (松 下 電 子)
36 河崎・福井 (河崎ラケット)
37 長谷川・ 笹島 (富 山)
38 金田・山崎 (三井造船玉野)
39 西田・竹内 (三 重)
40 岡崎・杉田 (港南中・日本コロムビア)
41 小田・井上 (村田製作・日研化学)
42 混谷・小野 (福 岡)
43 岩后 ・伊与田 (トヨタ自動車)
44 佐藤・砥石 (日 鋼 鶴 造)
45 渋江・佐藤 (保土谷化学)
46 石原・小松 (岡山市役所)
47 松浪・谷藤 (国 際 電 電)
48 江戸・中野 (長 崎 造 船)
49 片石・永井 (岩倉ホモゲン・三越)
50 清水・大黒 (大 日 電 線)
51 佐野・ 蓑 (本川製紙富士)
52 吉田・熊谷 (長 崎 造 船)
53 星野・残熊 (新潟市役所)
54 渋井・大石 (札 鉄)
55 中田・友保 (富 山)
56 武村・溝淵 (国際電信電話)
57 林 ・岡田 (昭和電線電纜)
58 松下・周東 (千 葉)
59 前田・青井 (丸菱商事・内山コルク)
60 千野・里見 (長 野)
61 青木・伊田 (日 鋼 川 鉄)
62 勝野・三代 (門司市役所)
63 佐藤・北田 (トヨタ自動車)
64 品川・山田 (十條製紙伏木)
荒木・大野 (十條製紙伏木)
岡崎・杉田 (港南中・日本コロムビア)

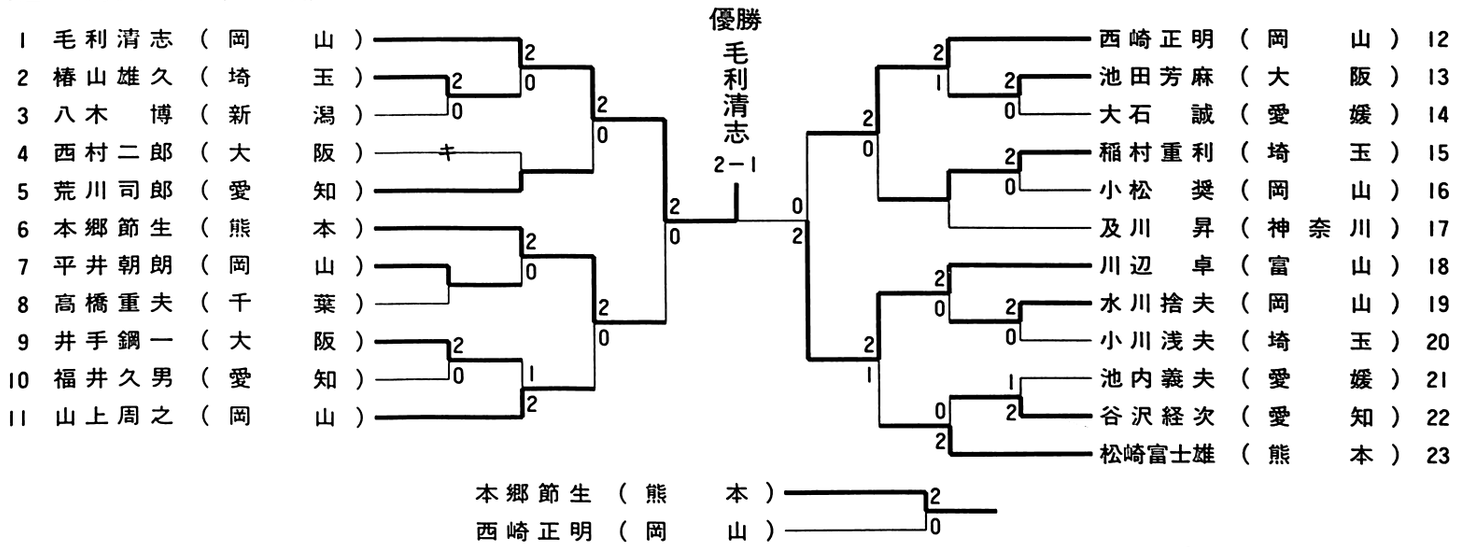
■女子単の部


1 高島洋子 (高岡市役所)
2 本間佳子 (北越製紙)
3 荒木公子 (連合紙器)
4 伊村祥子 (横浜ゴム)
5 西山てるみ (電電東京)
6 横井文子 (香川)
7 堀本周 (兵庫)
8 二見文子 (富士電機)
9 影島妙子 (大昭和製紙)
10 山本久美子 (東京営林局)
11 根岸純 (岡山市役所)
12 福本和子 (百十四銀行)
13 宮美佐子 (松下電子)
14 酒井美智子 (般若鉄工)
15 太田良子 (電電東京)
16 高橋奉子 (帝国石油)
17 湯浅光枝 (岡山市役所)
18 西村桃代 (電電近畿)
19 長崎文子 (帝国石油)
20 三原弘美 (電電東京)
21 栂野尾桂子 (不二越鋼材)
優勝
橘美智子
1−2
中島玲子 (高岡市役所) 22
南波奈津子 (兵庫) 23
大矢定子 (日本コロムビア) 24
林信子 (トヨタ自動車) 25
志村セツ子 (大昭和製紙) 26
木村政子 (帝国石油) 27
合田君子 (岡山市役所) 28
本吉勝子 (不二越鋼材) 29
伊村博子 (横浜ゴム) 30
有木とみ子 (電電東京) 31
杉田良子 (日本コロムビア) 32
横山桂子 (電電東京) 33
土井順子 (不二越鋼材) 34
伊藤貞子 (電電近畿) 35
高山伸子 (山十水産商事) 36
橘美智子 (般若鉄工) 37
蔵本文子 (トヨタ自動車) 38
水谷英子 (松下電子) 39
米山栄美 (北越製紙) 40
山田素子 (電電東京) 41
横山満子 (帝国石油) 42
酒井美智子 (般若鉄工)
木村政子 (帝国石油)

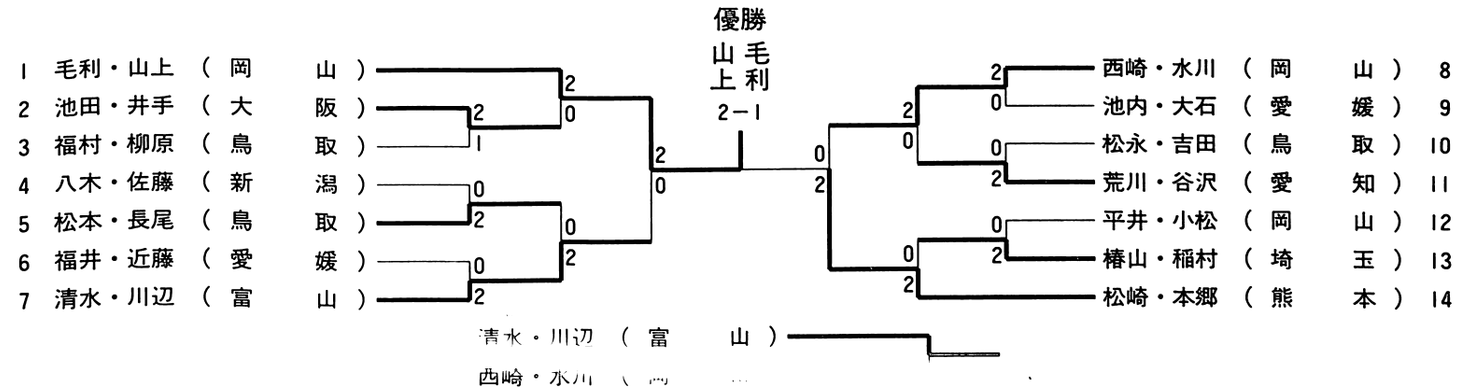
■女子複の部


1 高島・中島 (高岡市役所)
2 荒木・高山 (日研化学)
3 小林・大谷 (日本コロムビア)
4 福本・横井 (百十四銀行・香川)
5 宮 ・水矢 (松下電子)
6 蔵本・ 林 (トヨタ自動車)
7 小林・坂谷 (岡山)
8 志村・影島 (大昭和製紙)
9 栂野尾・ 土井 (不二越鋼材)
10 太田・山田 (電電東京)
11 木村・横山 (帝国石油)
優勝
横福井本
2−0
有木・三原 (電電東京) 12
伊藤・西村 (電電近畿) 13
伊村・伊村 (横浜ゴム) 14
権田・合田 (岡山市役所) 15
堀本・南波 (兵庫) 16
高橋・長崎 (帝国石油) 17
橘 ・酒井 (般若鉄工) 18
横山・西山 (電電東京) 19
杉田・二見 (コロムビア・富士電機) 20
米山・本間 (新潟市役所) 21
根岸・湯浅 (岡山市役所) 22
木村・横山 (帝国石油)
高橋・長崎 (帝国石油)

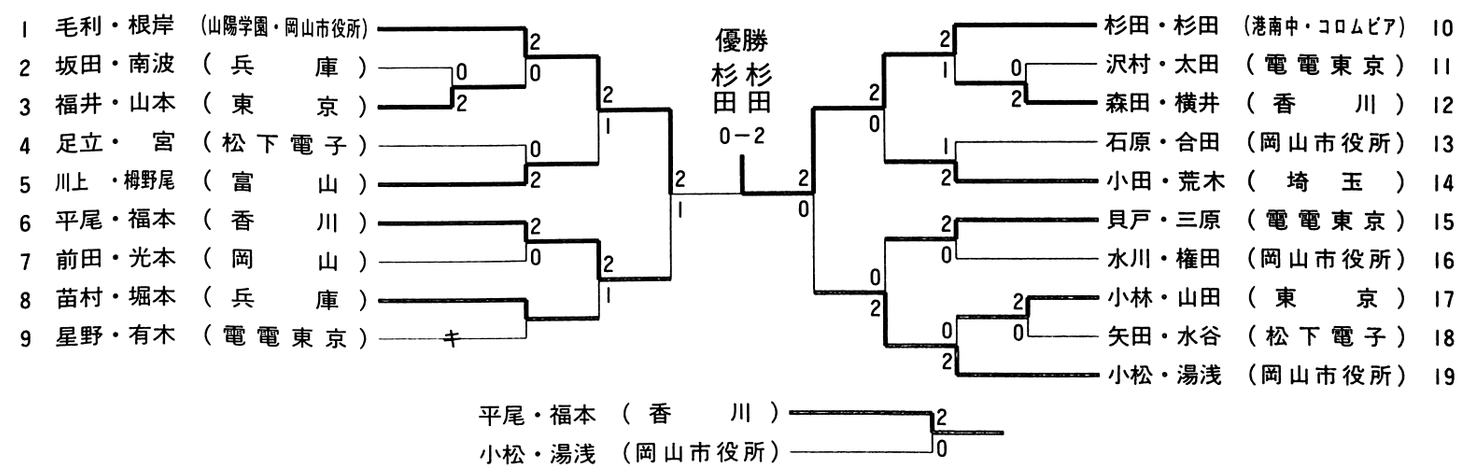
■30歳以上単の部



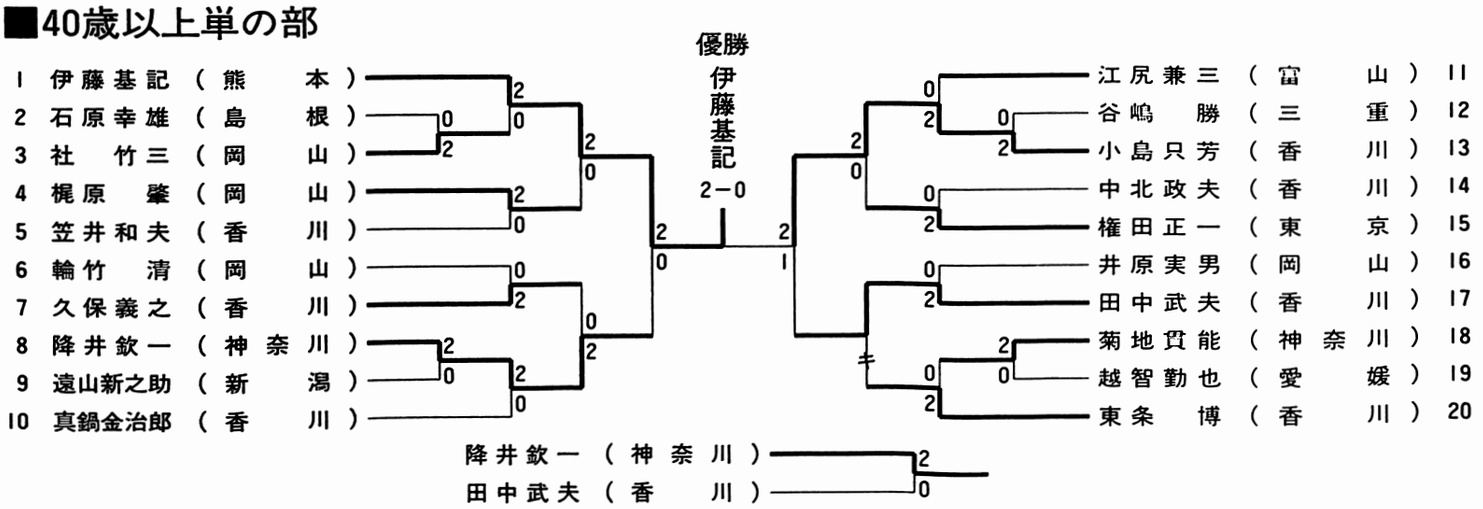
■30歳以上複の部



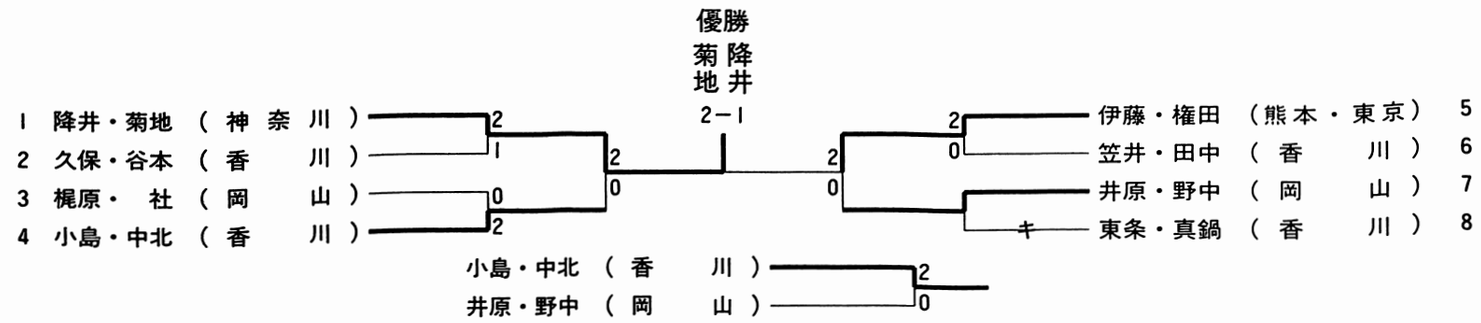
■混合複の部



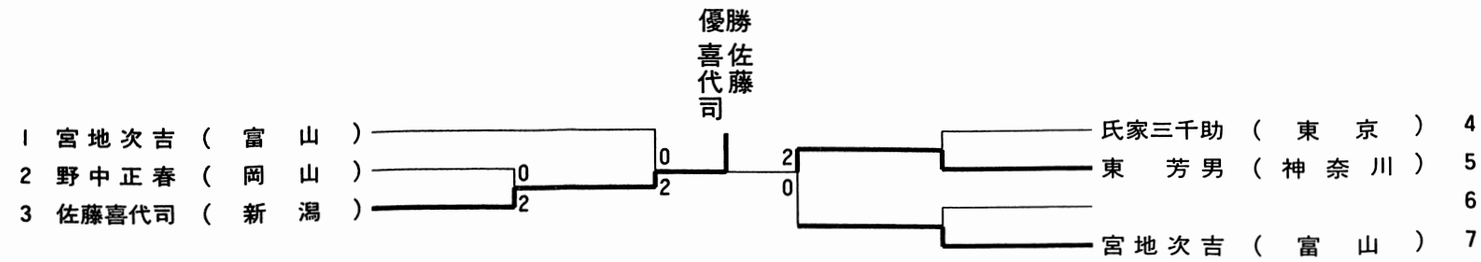
■40歳以上単の部



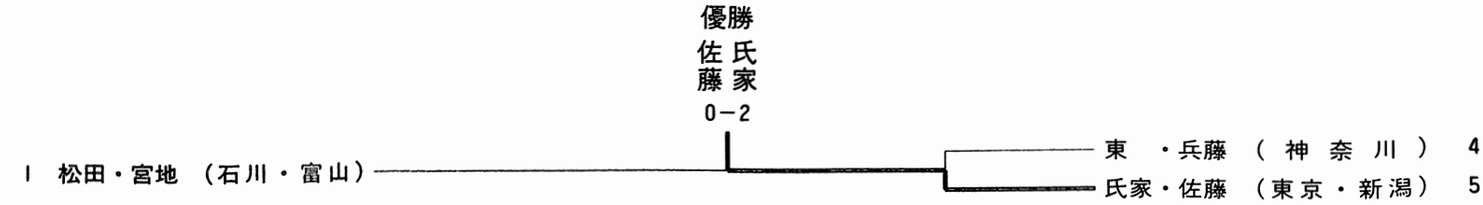
■40歳以上複の部



■50歳以上単の部



■50歳以上複の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	札幌鉄道管理局	西本秀一郎	渋井　明・熊倉昭二・島　辰雄・平沢啓裕・大石興徳・有路信彦・伊藤善夫
山形	鉄興社	小柴　悦三	高橋藤蔵・淵上　止・小柴悦三・北村　伍・岸井恒夫
福島	国鉄・郡山	松原　留吉	三本木博・矢吹幸蔵・和泉　栄・影山勝教・渡部吉人・佐藤　守・山崎貞夫
群馬	三ツ葉電機製作所	樹所　久男	面川　富・米谷外喜彦・西村順三・岡島秀治・茅野純一
埼玉	日研化学	椿山　雄久	椿山雄久・稲村重利・小川浅夫・内藤　昭・石川二郎・吉田　司・井上泰年
千葉	日立製作所・茂原	中林　和男	中林和男・木滑節夫・千葉洋昭・矢島敬司・井上文仁・北沢　勲
	市川市役所	江下　克英	松崎和夫・矢島義臣・月橋　信・斉藤幹雄・村上豊松・杉田辰雄
東京	電電東京	並木萬次郎	高橋　章・星野忠男・貝戸　肇・戸村　浩・喜多川広・小林克之
神奈川	日本鋼管・鶴見造船所	菊間　昭治	佐藤昌久・佐治　豊・遠藤啓治・砥石　勤・鈴木富春・石川三郎・金子芳男
	昭和電線	林　光雄	林　光雄・鈴木由男・岡田　弘・高橋義明
	日本鋼管・川崎製鉄所	鈴木　保	小池貞宣・高橋俊一・桜森信二・青木　昇・伊田真一・小野吉弘
	いすゞ自動車	小倉　信男	山本　明・長田光弘・高橋幸治郎・関口　潔・中丸靖元
新潟	新潟市役所	関　一雄	司山次夫・星野　哲・残熊真夫・林部　忠・豊納正名雄
富山	十條製紙・伏木	清水　正	荒木亥久男・品川則之・扇沢三徳・大野幸雄・江守　清・山田昭夫・清水　正
	吉田工業	中田　豊治	中田豊治・長谷川正巳・綱谷康等・浅井芳一・反保　勇・笹島秦一
	不二越鋼材	栢　政吉	宮田栄二・川上洋一・岡崎　達・八町博保・居島　勇
静岡	本洲製紙・富士	塚本太三郎	内田兼義・野月富弘・佐野行正・簗　栄三・野月　蕉・岡　徹・杉沢正義
愛知	トヨタ自動車	多賀　純一	佐藤忠夫・北田寛一・岩后隆昭・伊与田勇・荒川司郎・谷沢経次・赤羽茂治
	豊田自動織機	大岩　直	大束祥順・加納　健・中村高久・宮川智男・坂本明弘
岐阜	岐阜市役所	河田　歳雄	清水敏光・酒井　弘・棚瀬常男・白木康登・宮川寿美・大西　進
	岐阜県庁	和田　利雄	堀田好雄・大野　寛・尾関正一・安西　保・稲川良夫・竹中嘉甫・鈴木一正
京都	松下電子工業	国井　孝夫	矢田直宏・足立　明・松本正夫・新明栄次・吉田　茂・大滝武和・山本正彦
	島津製作所	野村　嘉明	松岡正信・大脇一能・若山　明・安川和正・田中　優・山本秦三・和田正高
	新三菱重工・京都	大志万敬寧	岡本宏也・小西康夫・北村稀一・戸沢正雄・山崎　功・船津正太郎
大阪	国際電信電話	椎原　芳雄	武村修平・溝淵宏二・松浪鋭四郎・谷藤隆幸・西村三郎
	電電近畿	山田　旭夫	池田芳麻・井手剛一・西村剛光・片山修治・榎　高嗣
兵庫	住友金属	[illegible]	中村佳正・内堀恵造・馬谷和男・谷口孝次・木村勝男
	大日日本電線	小川　雄三	藤田　昇・[illegible]
和歌山	丸善石油・下津	星加　幸夫	小林延匡・杉浦敏一・秦　敬・新名　勝・坂田正美・西尾元佑・伊藤　武
	東亜燃料・和歌山	永広　利之	水谷哲雄・三橋礼仁・諏訪嘉治・田和　貢・栗生平吉
鳥取	国鉄・後藤	松浦　茂	浅井　譲・柳原重義・松本　弘・長尾　明・福村　穂・松永泰昌・浜崎正義
山口	宇部興産	滝口　善信	山県保夫・義永　保・伊藤淳司・木曽新一郎
香川	高松市役所	池上　任	池上　任・杉山富雄・谷本庄市・辻村栄一・遠藤　孝・野口利行
愛媛	住友化学・菊本	杉本　利彦	越智勤也・三苫孝一・安藤　弘・佐伯　伝・矢島行雄・横山伸夫
	住友化学・新居浜	服部　博	福井久男・大島宗紀・前田　斉・豊島　進・矢野　晃
	丸善石油・松山	山本　光男	池内義夫・大石　誠・河野光男・白石卓夫
福岡	門司市役所	三沢　英二	山村　隆・淵上英紀・三代隆博・勝野雅文・泥谷誠一郎・小野重光・三沢英二
長崎	三菱長崎造船所	江戸昭八郎	江戸昭八郎・中野元博・山口賢朗・山口征一郎・岡山安裕・吉田　豊・熊谷克巳
岡山	三井造船・玉野	吉原　龍	若松康弘・金田　孝・朝原慶三・山崎光生・永石竹男・小山昌利
	帝国化工・岡山	太田　豊	太田　豊・丹野哲郎・今田定則・玉木　力・中島美昭・小橋　武・行司忠章
	岡山市役所	社　竹三	石原利通・小松　貴・水川捨夫・馬場睦純・梶原　磐・社　竹三・岡本武利
	倉敷市役所	高橋　勇雄	井沢　豊・佐藤　正・藤井義男・藤原　茂・米田哲二・松尾武司・竹岡武久

（女子の部）

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
秋　田	帝国石油・秋田	相場　清一	木村政子・横山満子・高橋奉子・長崎文子
千　葉	市川市役所	江下　克英	宮本房子・花見裕子
群　馬	三ツ葉電機製作所	樹所　久男	関口ミネ・新井ヤス子・菊地清子
神奈川	日本コロムビア	伊東　隆文	小林歌子・杉田良子・大矢定子
岐　阜	岐阜県庁	和田　利雄	堀口淳子・清沢文代・松野洋子
	岐阜市役所	清水　敏光	小野早智子・佐藤静枝
富　山	不二越鋼材	柏　　政吉	下野睦子・栂野尾桂子・本吉勝子・土井順子
	高岡市役所	中山　邦夫	高島洋子・中島玲子
	般若鉄工所	中谷　正次	橘美智子・酒井美知子
静　岡	大昭和製紙	河野	志村セツ子・影島妙子
愛　知	トヨタ自動車	多賀　純一	蔵本文子・林　信子
京　都	松下電子工業	国井　孝雄	宮美佐子・水谷英子・豚座節子・小林勝子
和歌山	東亜燃料・和歌山	永広　利之	御木重子・出口玲子・平林　増・横山湯子
大　阪	電電近畿	山田　明夫	伊藤貞子・西村桃代
東　京	電電東京	並木萬次郎	有木とみ・三原弘美・大田良子・山田素子
	大丸東京	飯野　泰央	飛田日出子・関根良子・高田満里子・戸田洋子
岡　山	岡山市役所	梶原　　磐	根岸　純・湯浅光枝・合田君子・権田節子

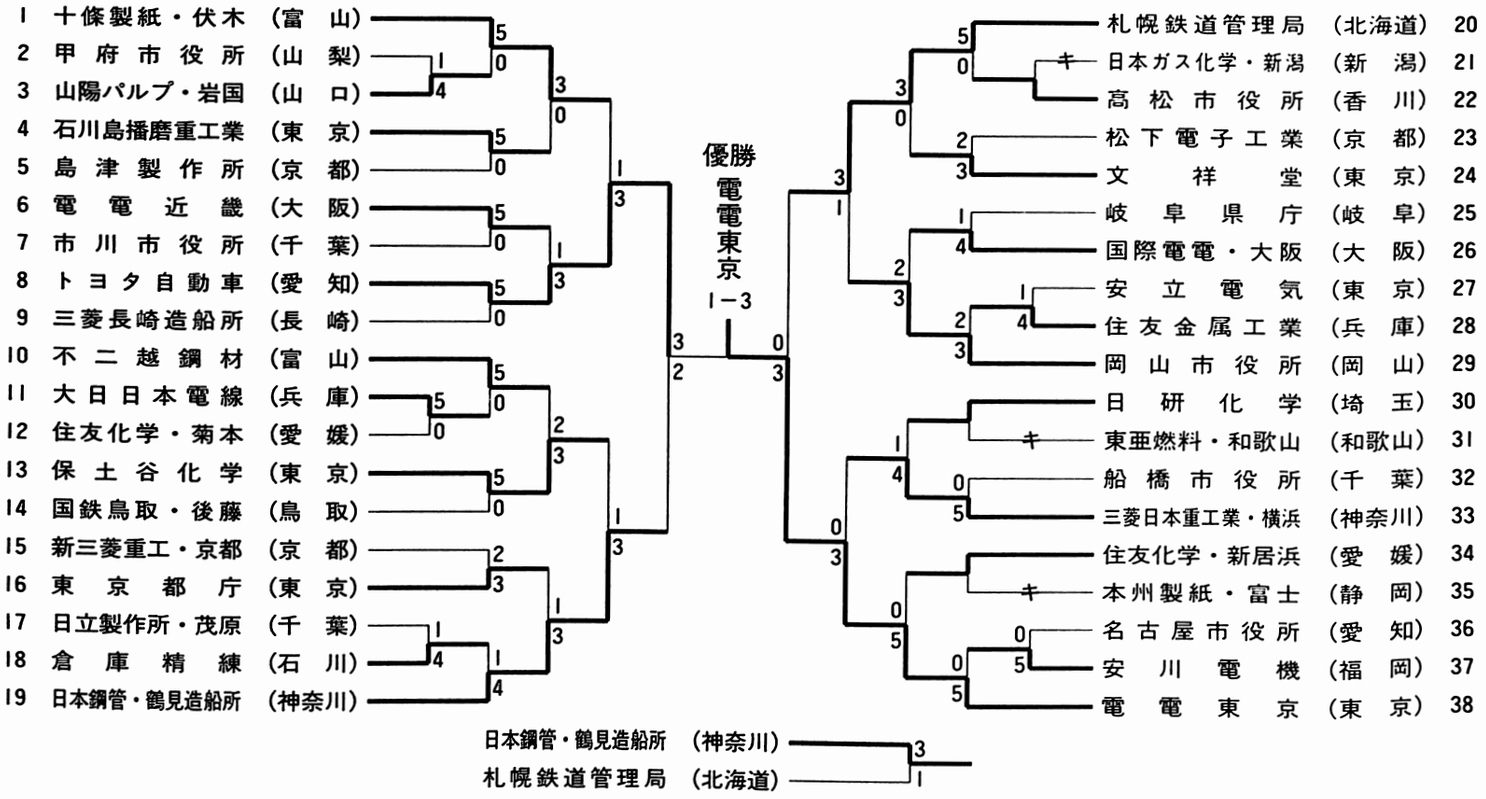
（都道府県別社会人参加選手名簿）

北海道	吉沢　彰
山　形	板垣隆房・山崎重孝
千　葉	松下久夫・周東和之・高橋重夫
埼　玉	小田八束・荒木公子・高山伸子
東京都	沢村　浩・渋江菊雄・佐藤勝彦・片石　敏・永井栄一・河崎一幸・福井正康・権田正一・氏家三千助・横山桂子・西山テルミ 山本久実子
神奈川	塚越厚生・杉田　博・岡崎恵三・雑賀友久・金子芳男・降井欽一・菊地貫能・遠山新三助・東　芳男・兵東昌彦・及川　昇・二見文子
新　潟	森山　隆・遠山新之助・佐藤喜代司・八木　博・佐藤臣一・米山栄美・本間佳子
富　山	友保　勇・江見兼三・宮地次吉・松田龍一・川辺　卓
長　野	平野統雄・里見良三
愛　知	北島克英・吉田　昇
滋　賀	安沢良夫・近藤邦雄
三　重	西田克司・竹内一晃・谷嶋　勝・伊村博子・伊村祥子
大　阪	松王清志・小松康博
兵　庫	苗村雄二郎・坂田正美・堀本　周・南波奈浪子
鳥　取	吉田啓二
島　根	石原幸雄
香　川	平尾正昭・森田桂示・東条　博・小島只芳・笠井和夫・真鍋金次郎・中北政夫・田中武夫・久保義之・福本和子・横井文子
愛　媛	近藤思徳
熊　本	伊藤基記・杉崎富士雄・本郷節生
岡　山	毛利清志・石原利通・小杉　貴・杉田国宏・渡辺浩哉・福森　寿・中西　嶺・米戸牧司・前田俊一・青井正義・今東幸一・田中輝史 小橘　武・輪竹　清・井原実男・野中正春・平井朝朗・小松　契・西崎正明・山上周之・光本政子・小林桂子・杉谷通子

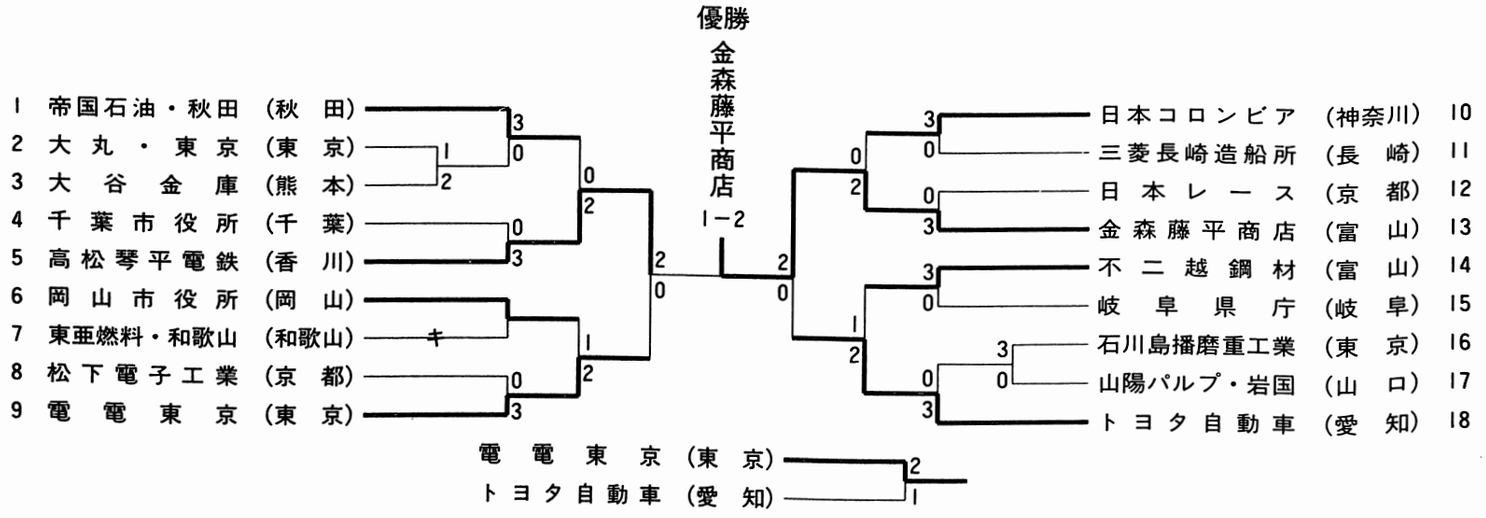
第12回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1962年(昭和37年)4月29,30日,5月1～3日
開 催 地：熊本県熊本市
会　　場：熊本市営体育館

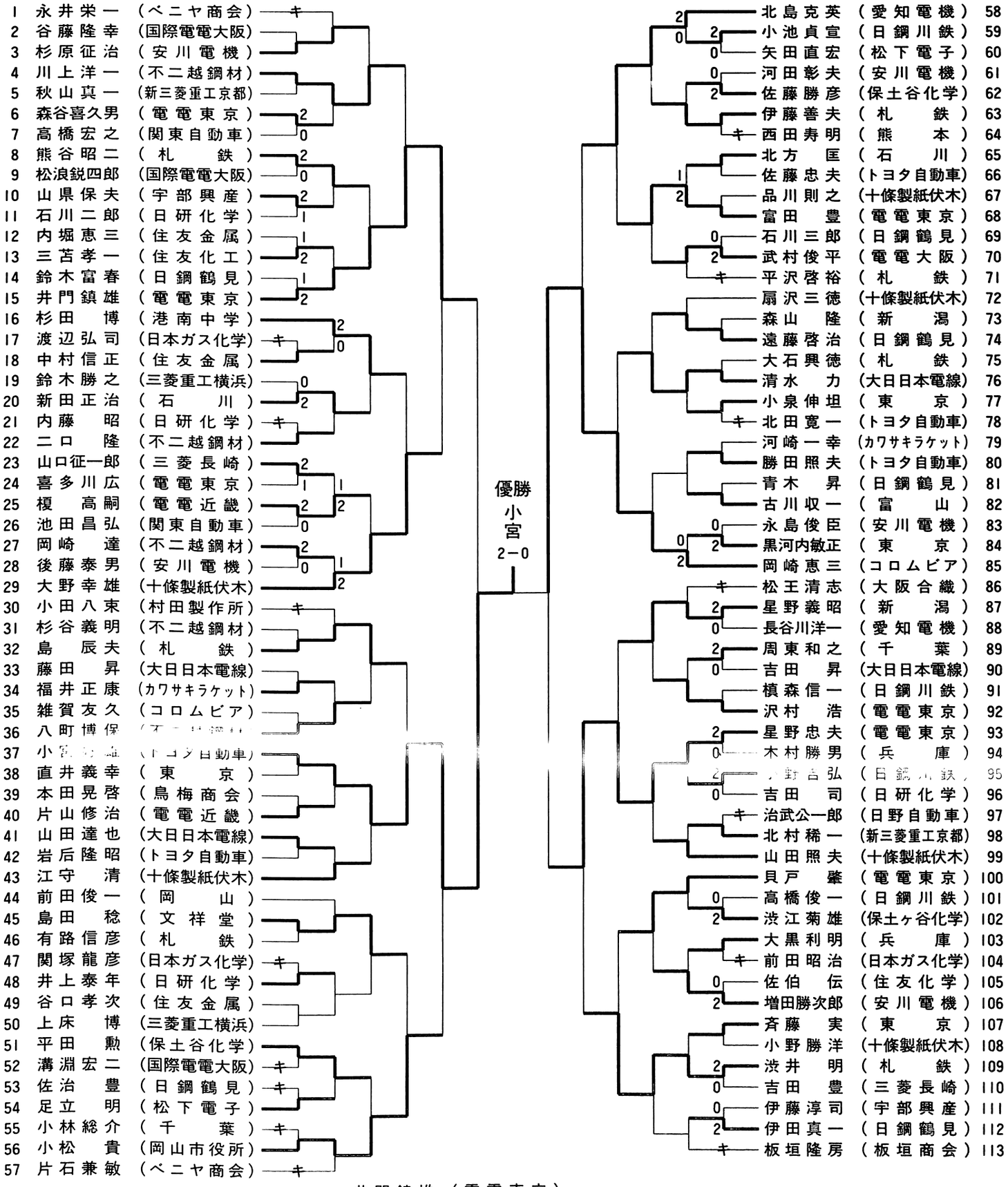
■男子団体の部



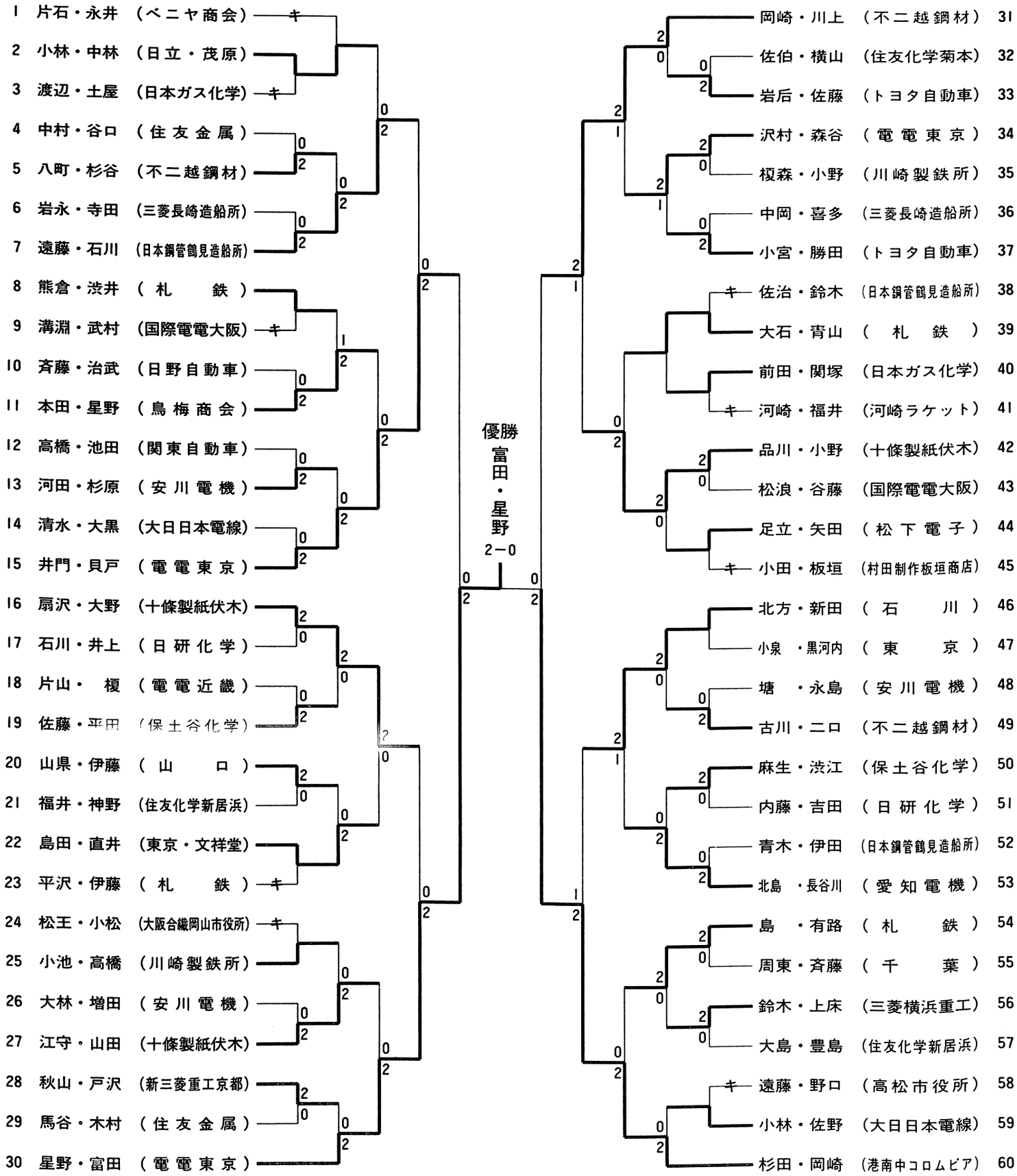
■女子団体の部



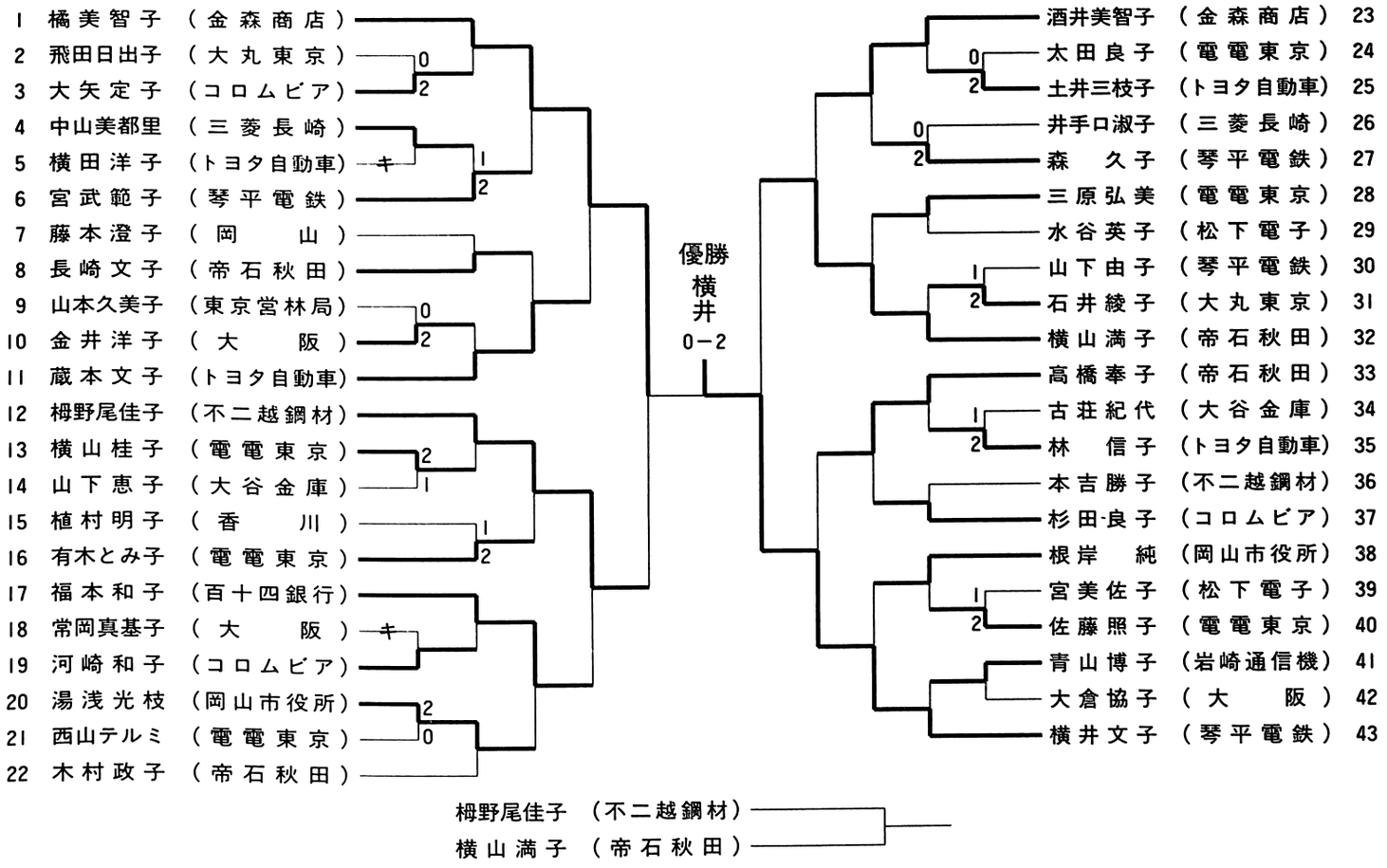
■男子単の部


1 永井栄一 (ベニヤ商会)
2 谷藤隆幸 (国際電電大阪)
3 杉原征治 (安川電機)
4 川上洋一 (不二越鋼材)
5 秋山真一 (新三菱重工京都)
6 森谷喜久男 (電電東京)
7 高橋宏之 (関東自動車)
8 熊谷昭二 (札鉄)
9 松浪鋭四郎 (国際電電大阪)
10 山県保夫 (宇部興産)
11 石川二郎 (日研化学)
12 内堀恵三 (住友金属)
13 三苫孝一 (住友化工)
14 鈴木富春 (日鋼鶴見)
15 井門鎮雄 (電電東京)
16 杉田博 (港南中学)
17 渡辺弘司 (日本ガス化学)
18 中村信正 (住友金属)
19 鈴木勝之 (三菱重工横浜)
20 新田正治 (石川)
21 内藤昭 (日研化学)
22 二口隆 (不二越鋼材)
23 山口征一郎 (三菱長崎)
24 喜多川広 (電電東京)
25 榎高嗣 (電電近畿)
26 池田昌弘 (関東自動車)
27 岡崎達 (不二越鋼材)
28 後藤泰男 (安川電機)
29 大野幸雄 (十條製紙伏木)
30 小田八束 (村田製作所)
31 杉谷義明 (不二越鋼材)
32 島辰夫 (札鉄)
33 藤田昇 (大日日本電線)
34 福井正康 (カワサキラケット)
35 雑賀友久 (コロムビア)
36 八町博保 (不二越鋼材)
37 小[illegible] (トヨタ自動車)
38 直井義幸 (東京)
39 本田晃啓 (鳥梅商会)
40 片山修治 (電電近畿)
41 山田達也 (大日日本電線)
42 岩后隆昭 (トヨタ自動車)
43 江守清 (十條製紙伏木)
44 前田俊一 (岡山)
45 島田稔 (文祥堂)
46 有路信彦 (札鉄)
47 関塚龍彦 (日本ガス化学)
48 井上泰年 (日研化学)
49 谷口孝次 (住友金属)
50 上床博 (三菱重工横浜)
51 平田勲 (保土谷化学)
52 溝淵宏二 (国際電電大阪)
53 佐治豊 (日鋼鶴見)
54 足立明 (松下電子)
55 小林総介 (千葉)
56 小松貴 (岡山市役所)
57 片石兼敏 (ベニヤ商会)
優勝
小宮
2-0
58 北島克英 (愛知電機)
59 小池貞宣 (日鋼川鉄)
60 矢田直宏 (松下電子)
61 河田彰夫 (安川電機)
62 佐藤勝彦 (保土谷化学)
63 伊藤善夫 (札鉄)
64 西田寿明 (熊本)
65 北方匡 (石川)
66 佐藤忠夫 (トヨタ自動車)
67 品川則之 (十條製紙伏木)
68 富田豊 (電電東京)
69 石川三郎 (日鋼鶴見)
70 武村俊平 (電電大阪)
71 平沢啓裕 (札鉄)
72 扇沢三徳 (十條製紙伏木)
73 森山隆 (新潟)
74 遠藤啓治 (日鋼鶴見)
75 大石興徳 (札鉄)
76 清水力 (大日日本電線)
77 小泉伸坦 (東京)
78 北田寛一 (トヨタ自動車)
79 河崎一幸 (カワサキラケット)
80 勝田照夫 (トヨタ自動車)
81 青木昇 (日鋼鶴見)
82 古川収一 (富山)
83 永島俊臣 (安川電機)
84 黒河内敏正 (東京)
85 岡崎恵三 (コロムビア)
86 松王清志 (大阪合織)
87 星野義昭 (新潟)
88 長谷川洋一 (愛知電機)
89 周東和之 (千葉)
90 吉田昇 (大日日本電線)
91 槙森信一 (日鋼川鉄)
92 沢村浩 (電電東京)
93 星野忠夫 (電電東京)
94 木村勝男 (兵庫)
95 [illegible] (日鋼川鉄)
96 吉田司 (日研化学)
97 治武公一郎 (日野自動車)
98 北村稀一 (新三菱重工京都)
99 山田照夫 (十條製紙伏木)
100 貝戸肇 (電電東京)
101 高橋俊一 (日鋼川鉄)
102 渋江菊雄 (保土ヶ谷化学)
103 大黒利明 (兵庫)
104 前田昭治 (日本ガス化学)
105 佐伯伝 (住友化学)
106 増田勝次郎 (安川電機)
107 斉藤実 (東京)
108 小野勝洋 (十條製紙伏木)
109 渋井明 (札鉄)
110 吉田豊 (三菱長崎)
111 伊藤淳司 (宇部興産)
112 伊田真一 (日鋼鶴見)
113 板垣隆房 (板垣商会)
井門鎮雄 (電電東京)
星野忠夫 (電電東京)

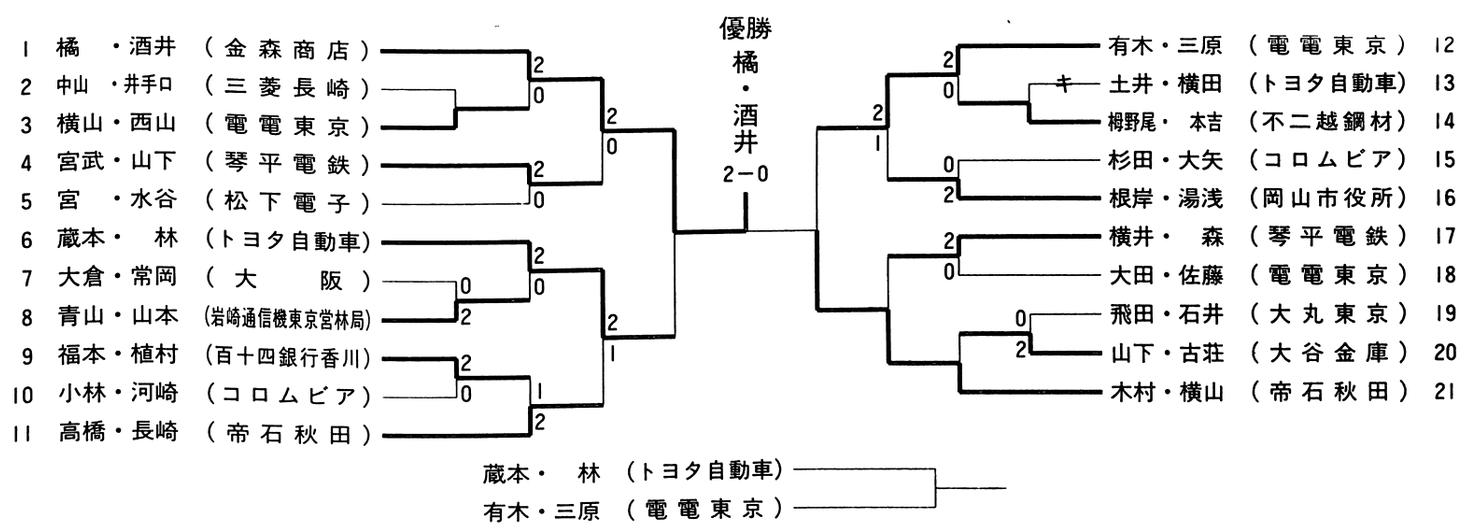
■男子複の部


1 片石・永井 （ベニヤ商会）
2 小林・中林 （日立・茂原）
3 渡辺・土屋 （日本ガス化学）
4 中村・谷口 （住友金属）
5 八町・杉谷 （不二越鋼材）
6 岩永・寺田 （三菱長崎造船所）
7 遠藤・石川 （日本鋼管鶴見造船所）
8 熊倉・渋井 （札　鉄）
9 溝淵・武村 （国際電電大阪）
10 斉藤・治武 （日野自動車）
11 本田・星野 （鳥梅商会）
12 高橋・池田 （関東自動車）
13 河田・杉原 （安川電機）
14 清水・大黒 （大日日本電線）
15 井門・貝戸 （電電東京）
16 扇沢・大野 （十條製紙伏木）
17 石川・井上 （日研化学）
18 片山・榎 （電電近畿）
19 佐藤・平田 （保土谷化学）
20 山県・伊藤 （山　口）
21 福井・神野 （住友化学新居浜）
22 島田・直井 （東京・文祥堂）
23 平沢・伊藤 （札　鉄）
24 松王・小松 （大阪合繊岡山市役所）
25 小池・高橋 （川崎製鉄所）
26 大林・増田 （安川電機）
27 江守・山田 （十條製紙伏木）
28 秋山・戸沢 （新三菱重工京都）
29 馬谷・木村 （住友金属）
30 星野・富田 （電電東京）
優勝
富田・星野
2－0
31 岡崎・川上 （不二越鋼材）
32 佐伯・横山 （住友化学菊本）
33 岩后・佐藤 （トヨタ自動車）
34 沢村・森谷 （電電東京）
35 榎森・小野 （川崎製鉄所）
36 中岡・喜多 （三菱長崎造船所）
37 小宮・勝田 （トヨタ自動車）
38 佐治・鈴木 （日本鋼管鶴見造船所）
39 大石・青山 （札　鉄）
40 前田・関塚 （日本ガス化学）
41 河崎・福井 （河崎ラケット）
42 品川・小野 （十條製紙伏木）
43 松浪・谷藤 （国際電電大阪）
44 足立・矢田 （松下電子）
45 小田・板垣 （村田制作板垣商店）
46 北方・新田 （石　川）
47 小泉・黒河内 （東　京）
48 塘・永島 （安川電機）
49 古川・二口 （不二越鋼材）
50 麻生・渋江 （保土谷化学）
51 内藤・吉田 （日研化学）
52 青木・伊田 （日本鋼管鶴見造船所）
53 北島・長谷川 （愛知電機）
54 島・有路 （札　鉄）
55 周東・斉藤 （千　葉）
56 鈴木・上床 （三菱横浜重工）
57 大島・豊島 （住友化学新居浜）
58 遠藤・野口 （高松市役所）
59 小林・佐野 （大日日本電線）
60 杉田・岡崎 （港南中コロムビア）
井門・貝戸 （電電東京）
岡崎・川上 （不二越鋼材）

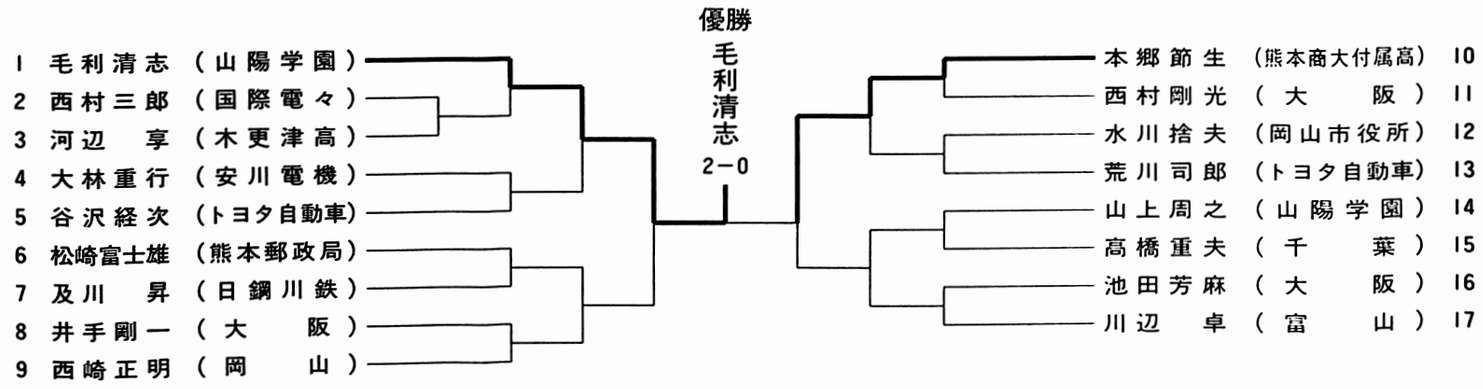
■女子単の部


1 橘美智子 (金森商店)
2 飛田日出子 (大丸東京)
3 大矢定子 (コロムビア)
4 中山美都里 (三菱長崎)
5 横田洋子 (トヨタ自動車)
6 宮武範子 (琴平電鉄)
7 藤本澄子 (岡山)
8 長崎文子 (帝石秋田)
9 山本久美子 (東京営林局)
10 金井洋子 (大阪)
11 蔵本文子 (トヨタ自動車)
12 栂野尾佳子 (不二越鋼材)
13 横山桂子 (電電東京)
14 山下恵子 (大谷金庫)
15 植村明子 (香川)
16 有木とみ子 (電電東京)
17 福本和子 (百十四銀行)
18 常岡真基子 (大阪)
19 河崎和子 (コロムビア)
20 湯浅光枝 (岡山市役所)
21 西山テルミ (電電東京)
22 木村政子 (帝石秋田)
優勝
横井
0-2
酒井美智子 (金森商店) 23
太田良子 (電電東京) 24
土井三枝子 (トヨタ自動車) 25
井手口淑子 (三菱長崎) 26
森久子 (琴平電鉄) 27
三原弘美 (電電東京) 28
水谷英子 (松下電子) 29
山下由子 (琴平電鉄) 30
石井綾子 (大丸東京) 31
横山満子 (帝石秋田) 32
高橋奉子 (帝石秋田) 33
古荘紀代 (大谷金庫) 34
林信子 (トヨタ自動車) 35
本吉勝子 (不二越鋼材) 36
杉田良子 (コロムビア) 37
根岸純 (岡山市役所) 38
宮美佐子 (松下電子) 39
佐藤照子 (電電東京) 40
青山博子 (岩崎通信機) 41
大倉協子 (大阪) 42
横井文子 (琴平電鉄) 43
栂野尾佳子 (不二越鋼材)
横山満子 (帝石秋田)

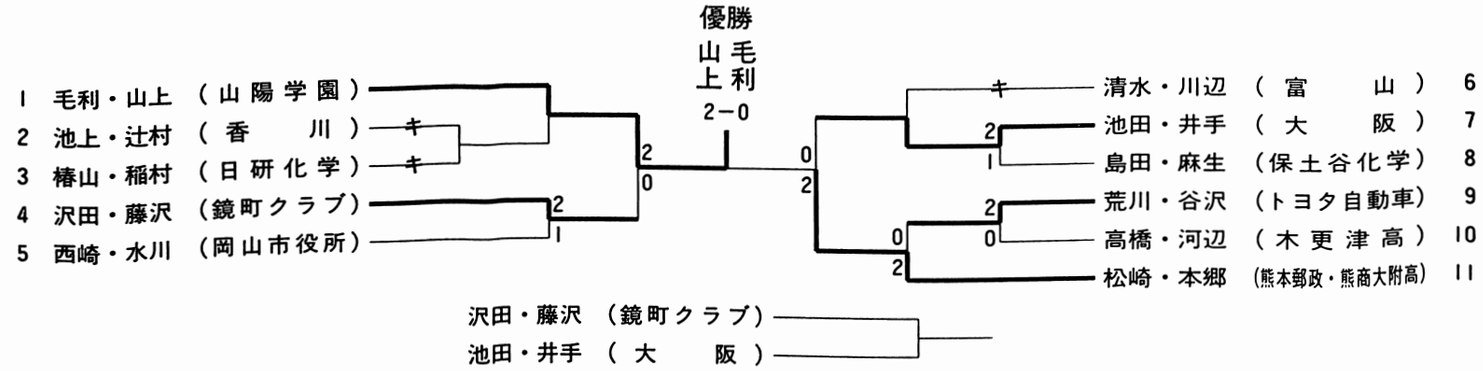
■女子複の部


1 橘・酒井 (金森商店)
2 中山・井手口 (三菱長崎)
3 横山・西山 (電電東京)
4 宮武・山下 (琴平電鉄)
5 宮・水谷 (松下電子)
6 蔵本・林 (トヨタ自動車)
7 大倉・常岡 (大阪)
8 青山・山本 (岩崎通信機東京営林局)
9 福本・植村 (百十四銀行香川)
10 小林・河崎 (コロムビア)
11 高橋・長崎 (帝石秋田)
優勝
橘・酒井
2-0
有木・三原 (電電東京) 12
土井・横田 (トヨタ自動車) 13
栂野尾・本吉 (不二越鋼材) 14
杉田・大矢 (コロムビア) 15
根岸・湯浅 (岡山市役所) 16
横井・森 (琴平電鉄) 17
大田・佐藤 (電電東京) 18
飛田・石井 (大丸東京) 19
山下・古荘 (大谷金庫) 20
木村・横山 (帝石秋田) 21
蔵本・林 (トヨタ自動車)
有木・三原 (電電東京)

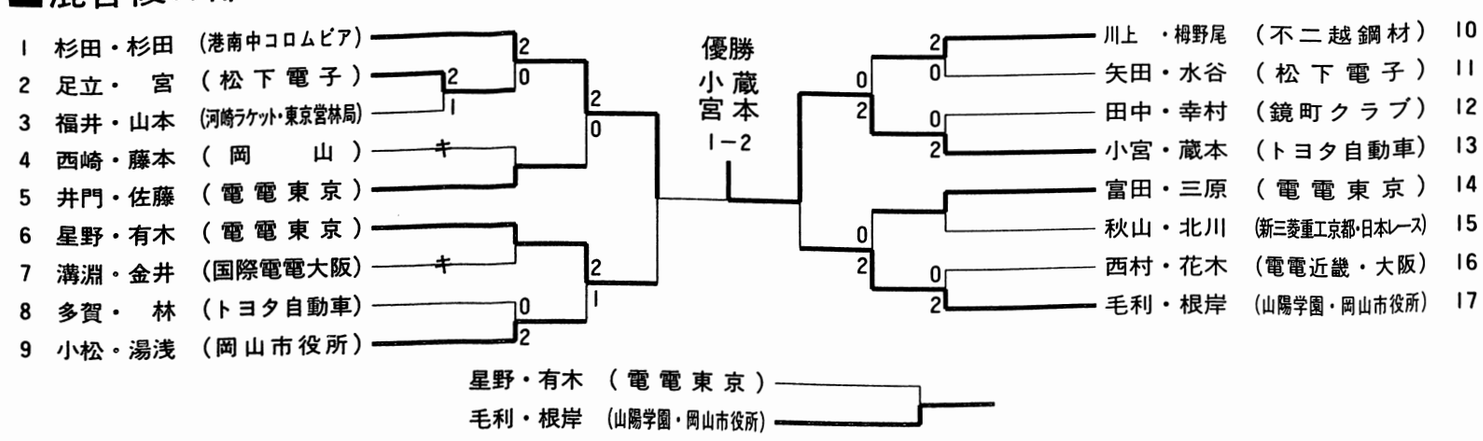
■30歳以上単の部



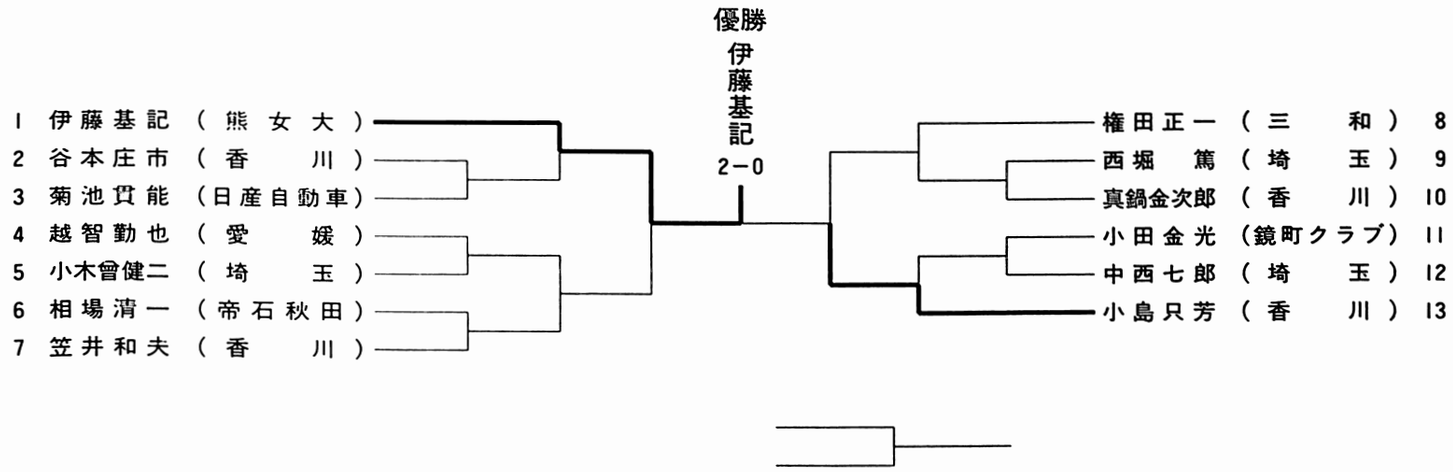
■30歳以上複の部



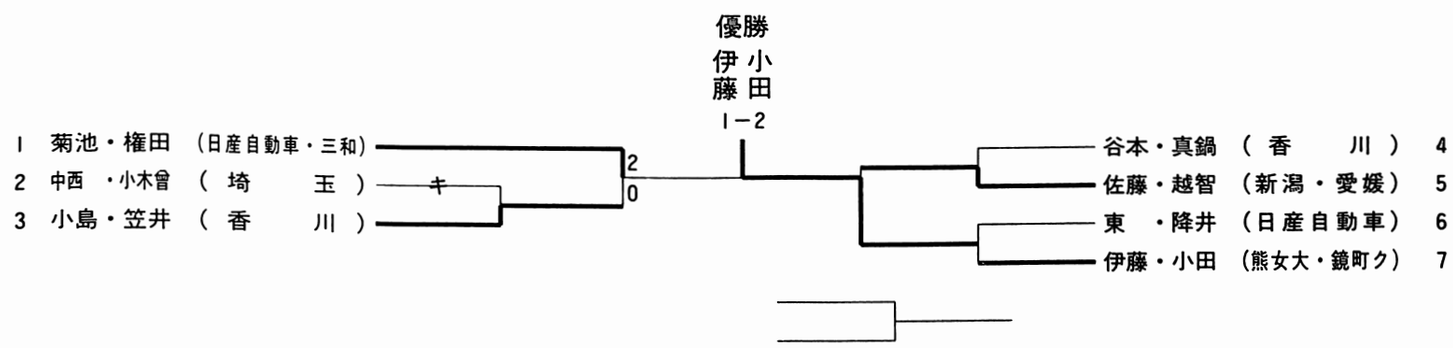
■混合複の部



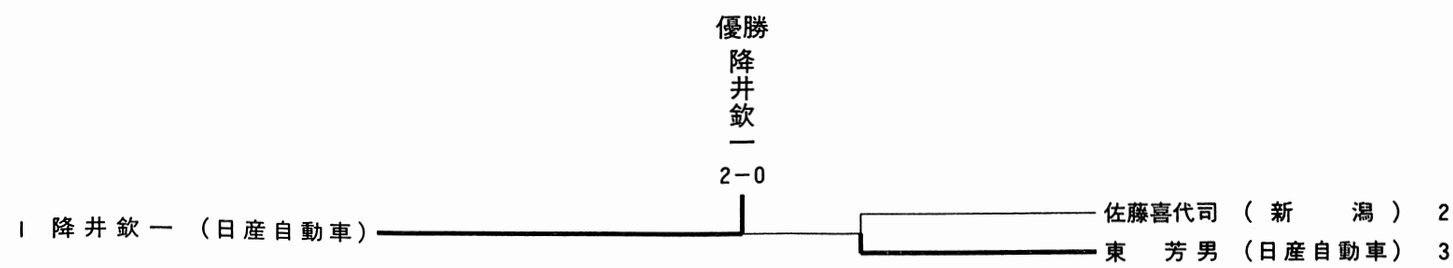
■40歳以上単の部



■40歳以上複の部



■50歳以上単の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	札幌鉄道管理局	青山　繁樹	渋井　明・熊倉昭二・平沢啓裕・伊藤善夫・島　辰夫・有路信彦・大石興産
埼玉	日研化学	椿山　雄久	椿山雄久・内藤　昭・石川二郎・吉田　司・井上泰年・稲村重利・角田　功
千葉	市川市役所	磯目　誠二	松崎和夫・磯目誠二・月橋　信・斉藤幹雄・渡辺正一
	船橋市役所	伊藤　定吉	宮下将和・西塚正太・小野尾靖二・設楽健男・中村修巳・中村　忠・田久保能久
	日立製作所・茂原	木滑　節夫	中村和夫・木滑節夫・矢島敬司・千葉洋昭・山田茂勝・村松貞夫
東京	安立電気	川田　喜一	川田喜一・村井　清・高階幸一・野坂英樹・冨井公之
	東京都庁	斉藤　圭市	三本達吉・折井富雄・佐藤和夫・藤沢真澄・斉藤信行・林　良紀・斉藤圭市
	電電東京	並木萬次郎	星野忠男・井門鎮雄・富田　豊・貝戸　肇・沢村　浩・喜多川広・森谷喜久男
	文祥堂	中山　松男	佐藤　敦・青木久俊・島田　稔・菅　正勝・中山松男
	保土谷化学	島田　貞雄	麻生了介・渋江菊雄・佐藤勝彦・平田　勲・島田貞雄
	石川島播磨重工業	高橋　　護	安部治夫・阿部　茂・平塚　順・田村政巳・原　　功・水留寿孝・徳保　勝
神奈川	日本鋼管・鶴見造船所	斉藤　信義	佐治　豊・佐藤昌久・遠藤啓治・鈴木富春・青木　昇・伊田真一・石川三郎
	三菱日本重工・横浜	上床　　博	上床　博・高橋　進・片岡弘道・鈴木勝之・倉田豊三郎・岸　賢司・金子幸男
新潟	日本ガス化学・新潟	安積　光男	前田昭治・関塚龍補・土屋　裕・渡辺弘司
富山	不二越鋼材	柏　　政吉	川上洋一・岡崎　達・八町博保・杉谷義明・古川収一・二口　隆
	十條製紙・伏木	清水　　正	荒木亥久男・品川則之・扇沢三徳・大野幸雄・江守　清・山田昭夫・小野勝洋
石川	倉庫精練	田村　祥爾	田村祥爾・上本秀男・中田吉昭・島崎　勉・永井仁澄
静岡	本州製紙・富士	塚本太三郎	岡　　徹・内田兼義・佐野行正・簑　栄三・望月富弘・町田守正
山梨	甲府市役所	佐野　秀治	佐野修治・古谷利夫・依田勝充・新津　勝
愛知	トヨタ自動車	多賀　純一	佐藤忠史・小宮好雄・岩后隆昭・勝田照夫・赤羽茂治・多賀純一
	名古屋市役所	伊藤　鉱一	伊藤鉱一・八木　博・成田寿夫・皆川英雄・木造一男・渡辺順三・渡辺恭竹
岐阜	岐阜県庁	吉田　雅美	吉田雅美・堀田好雄・大野　寛・尾関正一・安西　保・小林　改
京都	島津製作所	野村　嘉明	大脇一能・松岡正信・安川和正・田中　優・和田正高・山本泰三・大八木千之
	松下電子工業	矢田　直宏	足立　明・新明栄次・山下善昭・大滝武和・松本正夫・矢田直宏
	新三菱重工・京都	大志万敬寧	岡本宏也・秋山真一・北村稀一・戸沢正雄・山崎　功・石田　清・石原　敦
大阪	国際電電大阪	徳永　正三	武村俊平・溝淵宏二・松浪鋭四郎・谷藤隆幸・西村三郎・塚田静雄
	電電[illegible]	[illegible]	[illegible]芳麻・井出剛一・西村剛光・片山修治・榎　高嗣
兵庫	大日日本電線	渡辺　浩一	藤田　昇・大黒利明・清水　力・小林敏夫・山田達也・佐野嘉彦・吉田　昇
	住友金属工業	中村　信正	中村信正・馬谷和男・内堀恵造・木村勝男・谷口孝次
和歌山	東亜燃料・和歌山	永広　利之	水谷哲雄・田和　貢・諏訪嘉治・東畑喜昭・宮原正明・宮岡　昭
鳥取	国鉄・後藤	井原平八郎	井原平八郎・松本　弘・長尾　明・柳原重義・松永恭昌・佐々木義政・浅井　譲・浜崎正義
岡山	岡山市役所	社　　竹三	石原利通・小松　賢・水川捨夫・馬場睦純・神子戸輝雄・岡本武利
山口	山陽パルプ・岩国	岡崎　修身	川岡　智・田原敏雄・河野耕司・山本　豊・室井勝夫・岡崎修身
香川	高松市役所	池上　　任	池上　任・杉山富雄・谷本庄一・辻村栄一・遠藤　孝・野口利行
愛媛	住友化学・新居浜	近藤　忠徳	福井久男・神野恒信・星加清忠・津吉哲郎・大島宗紀・豊島　伝
	住友化学・菊本	杉本　利彦	越智勤也・三苫孝一・佐伯　伝・矢島行雄・横山伸夫
福岡	安川電機	大林　重行	大林重行・杉原征治・増田勝次郎・後藤泰男・河田彰夫・永島俊臣
長崎	三菱長崎造船所	老松　幹雄	岩永照明・寺田謙三・中岡　洋・吉田　豊・山口征一郎・岡山安祐・平野勝也

（女子の部）

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
秋　田	帝国石油・秋田	相場　清一	木村政子・横山満子・高橋奉子・長崎文子
千　葉	千葉市役所	永野　春吉	小見川陽子・屋代昌子・芦ヶ谷千代子
東　京	電電東京	並木萬次郎	有木とみ子・三原弘美・大田良子・佐藤照子
	大丸・東京	飯野　泰央	関根良子・飛田日出子・石井綾子
	石川島播磨重工業	高橋　　護	荒木陽子・柿沼孝枝・小沢英子・秋山恵子
神奈川	日本コロムビア	伊東　隆文	小林歌子・杉田良子・大矢定子・河崎和子
富　山	不二越鋼材	柏　　政吉	栂野尾桂子・本吉勝子
	金森藤平商店	島井　政雄	橘美智子・酒井美智子
愛　知	トヨタ自動車	深津　　豊	蔵本文子・林　信子・土井三枝子・横田洋子
岐　阜	岐阜県庁	吉田　雅美	松野洋子・清沢文代
京　都	日本レース	本間　修治	古森純子・由良美佐子・北川美恵子・田中和代
	松下電子工業	矢田　直宏	宮美佐子・水谷英子
和歌山	東亜燃料・和歌山	永広　利之	御木重子・横山陽子・秋月すみ子・山田美智子
岡　山	岡山市役所	崎本幸三郎	根岸　純・潟浅光枝
山　口	山陽パルプ・岩国	岡崎　修身	玉木靖子・村中マチ子
香　川	高松琴平電鉄	竹内　恭平	横井文子・森　久子・宮武範子・山下由子
熊　本	大谷金庫	益田　　隷	山下恵子・古荘紀代
長　崎	三菱長崎造船所	老松　幹雄	中山美都里・井手口淑子

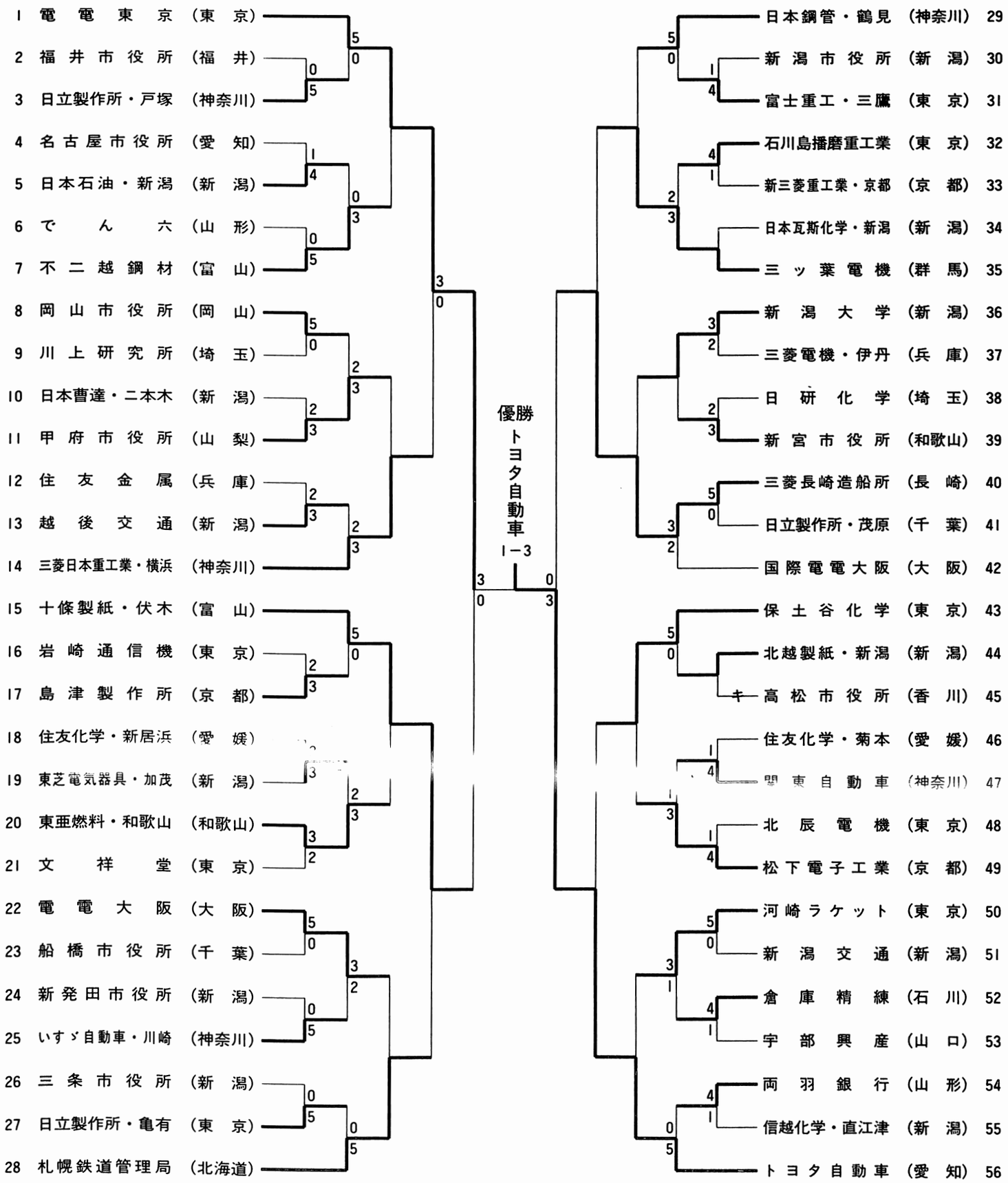
（都道府県別社会人参加選手名簿）

山　形	板垣隆房
秋　田	相場清一
千　葉	周東和之・小林総介・中林和夫・高橋重夫・河辺　亨
埼　玉	小田八束・中西七郎・小木曾健二
東　京	永井栄一・片石謙敏・斉藤　実・治武公一郎・権田正一・菊池貫能・河崎一幸・福井正康・直井義幸・小泉伸坦・黒河内敏正・青山博子 山本久美子・島田貞雄・横山桂子・西山テルミ
神奈川	岡崎恵三・雑賀友久・杉田　博・高橋宏之・池田昌弘・小池貞宣・高橋俊一・桜森信一・小野吉弘・及川　昇・菊地貫能・降井欽一 東　芳男
新　潟	本田晃啓・星野義昭・森山　隆・渡辺弘司・佐藤喜代司
富　山	川辺　卓
愛　知	北田寛一・北島克英・長谷川陽一・荒川司郎・谷沢経次
石　川	北方　匡・新田正治
大　阪	大倉協子・常岡真基子・金井洋子・花本順子
岡　山	毛利清志・松王清志・前田俊一・西崎正明・山上周之・藤本澄子
山　口	山県保夫・伊藤淳司
香　川	小島只芳・笠井和夫・谷本庄市・真鍋金次郎・福本和子・植村明子
福　岡	塘　達雄
長　崎	喜多昭夫
熊　本	伊藤基記・本郷節生・松崎富士雄・沢田昭臣・藤沢郁夫・西田寿明・小田金光・山下恵子・古庄紀代・田中　護・幸村靖子

第13回全日本実業団バドミントン選手権大会

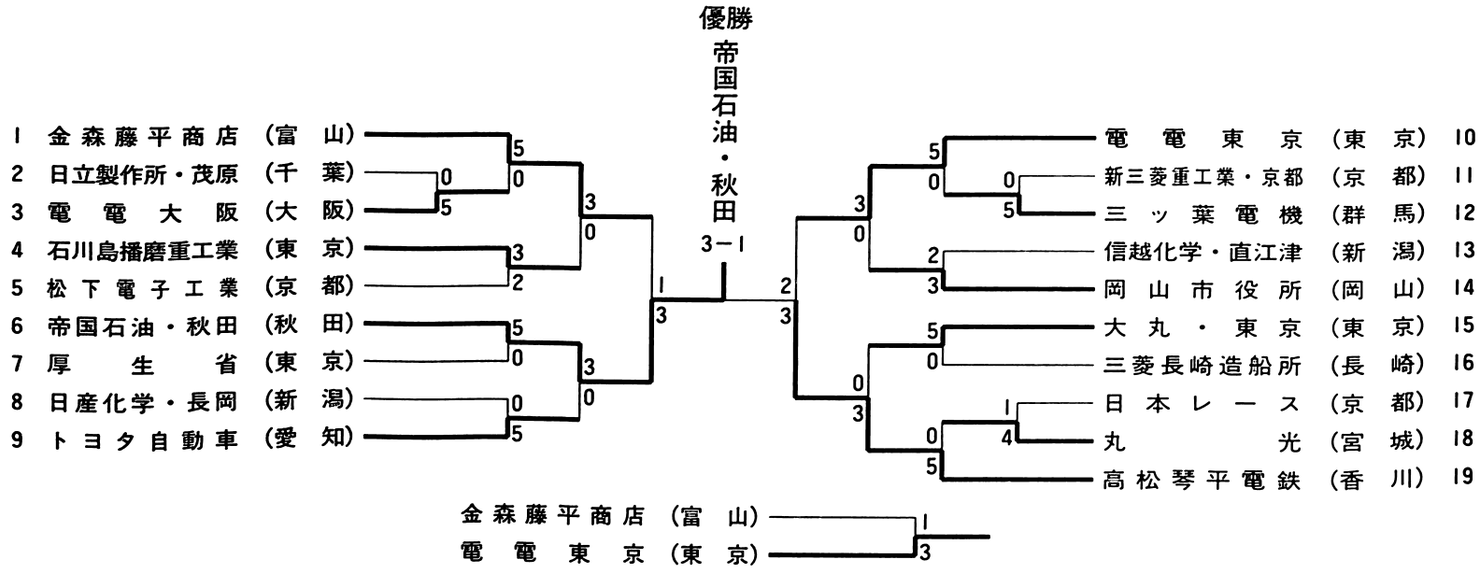
開催期日：1963年(昭和38年)6月5～9日
開 催 地：新潟県三条市
会　　場：新潟県立三条高等学校体育館、
三条市立三条小学校体育館

■男子団体の部

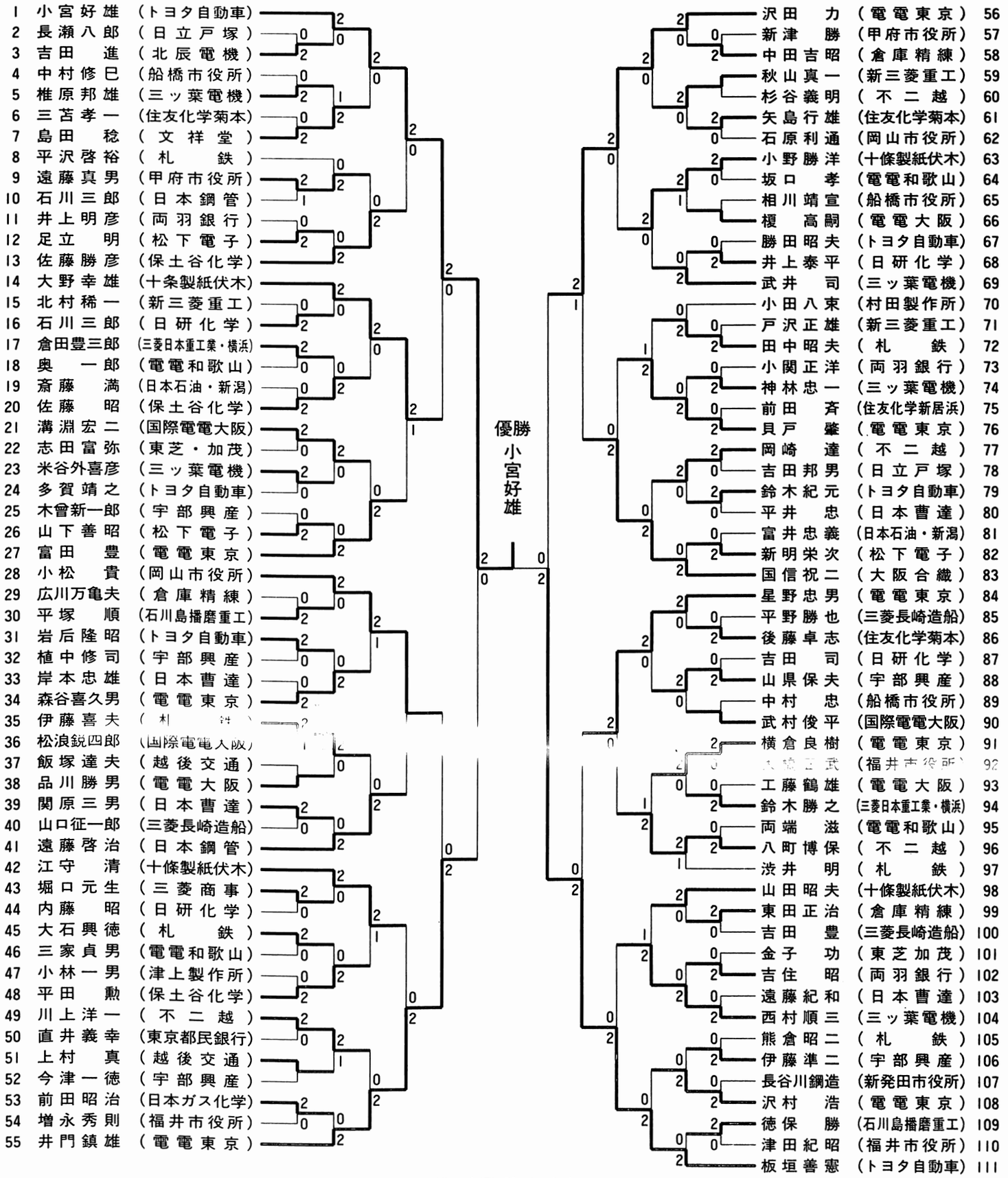


十条製紙・伏木 (富山) 3
三菱長崎造船所 (長崎) 0

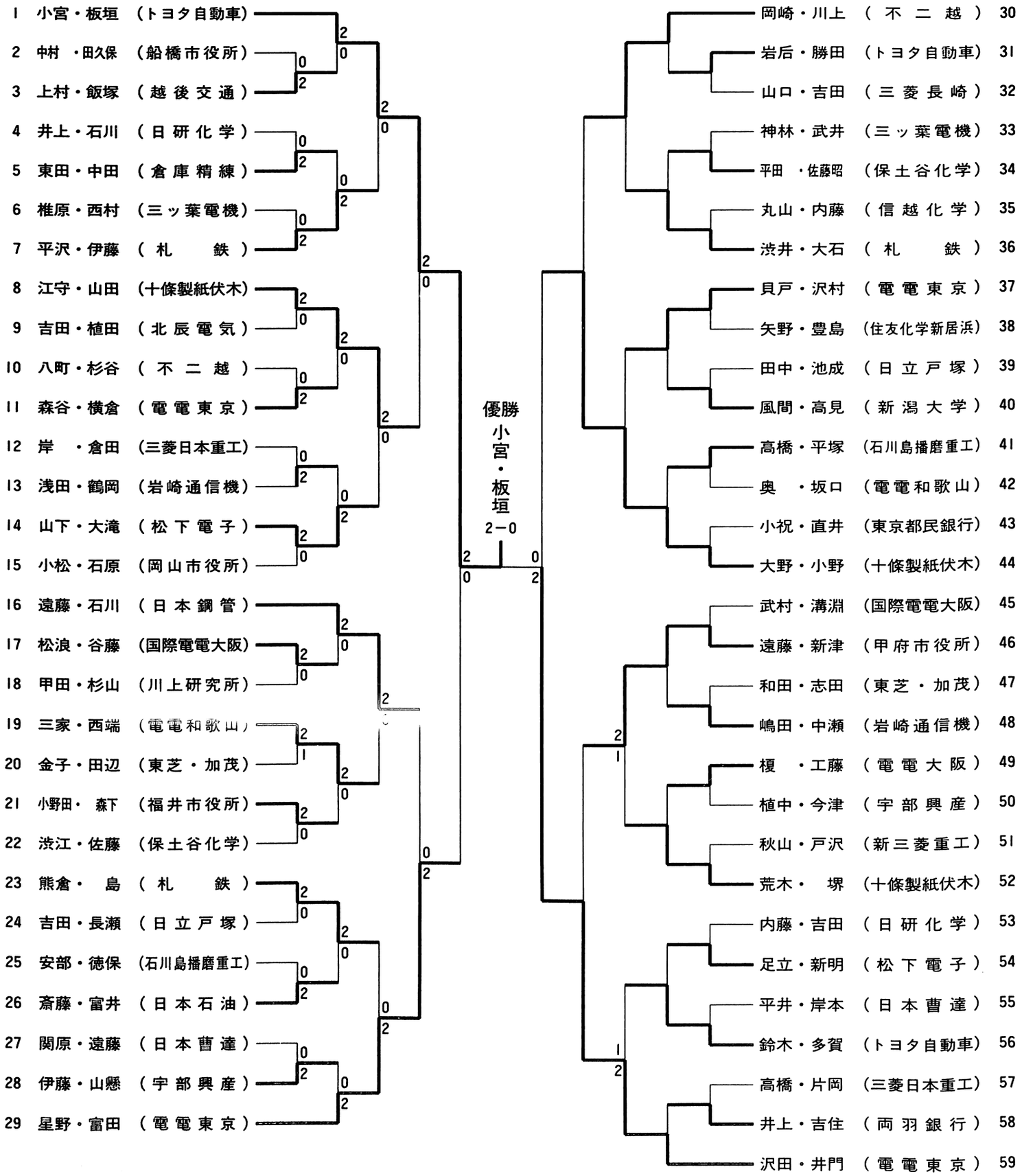
■女子団体の部


優勝
帝国石油・秋田
3－1
1 金森藤平商店 (富 山)
2 日立製作所・茂原 (千 葉)
3 電 電 大 阪 (大 阪)
4 石川島播磨重工業 (東 京)
5 松下電子工業 (京 都)
6 帝国石油・秋田 (秋 田)
7 厚 生 省 (東 京)
8 日産化学・長岡 (新 潟)
9 トヨタ自動車 (愛 知)
10 電 電 東 京 (東 京)
11 新三菱重工業・京都 (京 都)
12 三ッ葉電機 (群 馬)
13 信越化学・直江津 (新 潟)
14 岡山市役所 (岡 山)
15 大丸・東京 (東 京)
16 三菱長崎造船所 (長 崎)
17 日本レース (京 都)
18 丸 光 (宮 城)
19 高松琴平電鉄 (香 川)
金森藤平商店 (富 山)
電 電 東 京 (東 京)

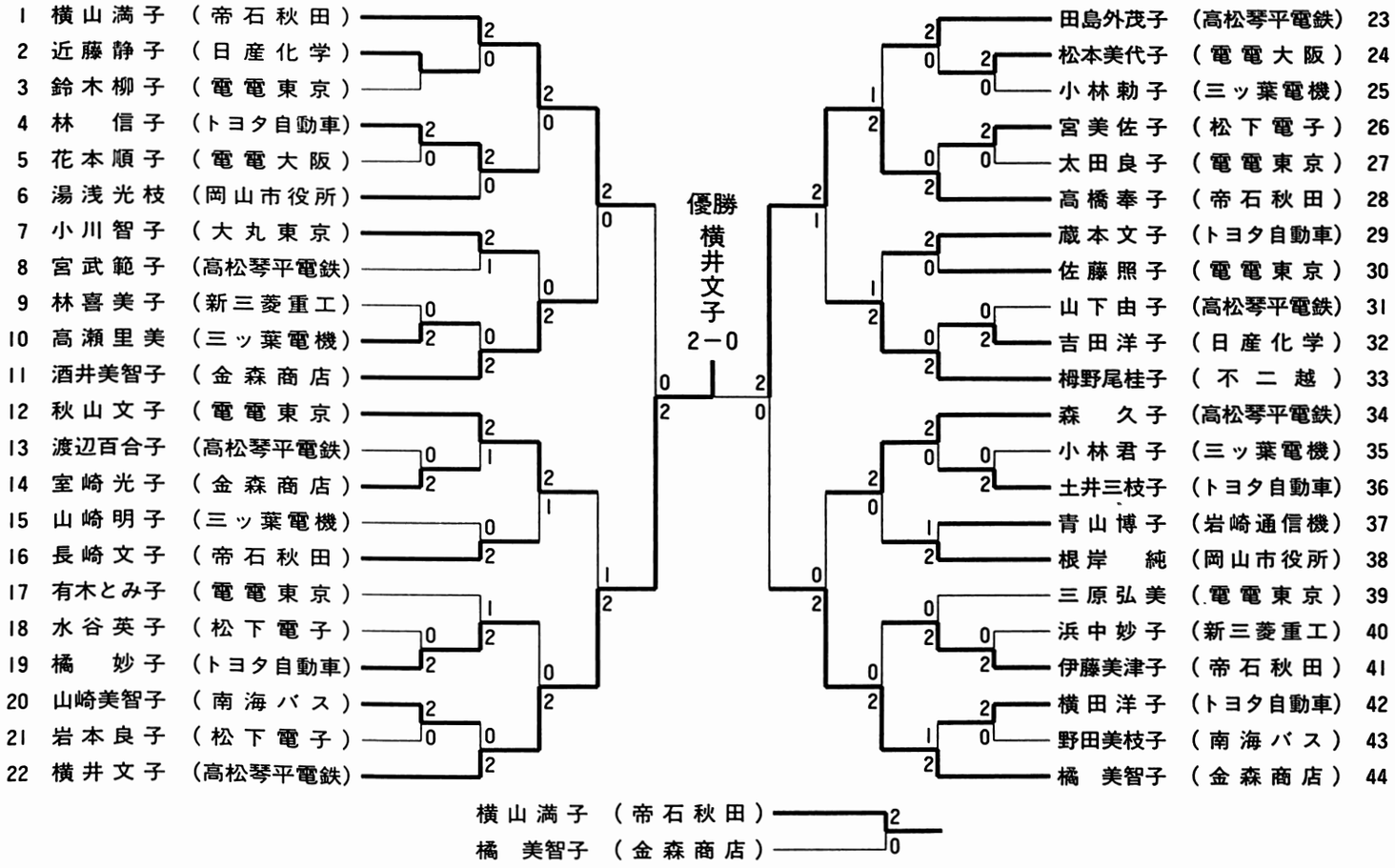
■男子単の部


1 小宮好雄 (トヨタ自動車)
2 長瀬八郎 (日立戸塚)
3 吉田 進 (北辰電機)
4 中村修巳 (船橋市役所)
5 椎原邦雄 (三ッ葉電機)
6 三苫孝一 (住友化学菊本)
7 島田 稔 (文祥堂)
8 平沢啓裕 (札 鉄)
9 遠藤真男 (甲府市役所)
10 石川三郎 (日本鋼管)
11 井上明彦 (両羽銀行)
12 足立 明 (松下電子)
13 佐藤勝彦 (保土谷化学)
14 大野幸雄 (十条製紙伏木)
15 北村稀一 (新三菱重工)
16 石川三郎 (日研化学)
17 倉田豊三郎 (三菱日本重工業・横浜)
18 奥 一郎 (電電和歌山)
19 斎藤 満 (日本石油・新潟)
20 佐藤 昭 (保土谷化学)
21 溝淵宏二 (国際電電大阪)
22 志田富弥 (東芝・加茂)
23 米谷外喜彦 (三ッ葉電機)
24 多賀靖之 (トヨタ自動車)
25 木曾新一郎 (宇部興産)
26 山下善昭 (松下電子)
27 富田 豊 (電電東京)
28 小松 貴 (岡山市役所)
29 広川万亀夫 (倉庫精練)
30 平塚 順 (石川島播磨重工)
31 岩后隆昭 (トヨタ自動車)
32 植中修司 (宇部興産)
33 岸本忠雄 (日本曹達)
34 森谷喜久男 (電電東京)
35 伊藤喜夫 (札 鉄)
36 松浪鋭四郎 (国際電電大阪)
37 飯塚達夫 (越後交通)
38 品川勝男 (電電大阪)
39 関原三男 (日本曹達)
40 山口征一郎 (三菱長崎造船)
41 遠藤啓治 (日本鋼管)
42 江守 清 (十條製紙伏木)
43 堀口元生 (三菱商事)
44 内藤 昭 (日研化学)
45 大石興徳 (札 鉄)
46 三家貞男 (電電和歌山)
47 小林一男 (津上製作所)
48 平田 勲 (保土谷化学)
49 川上洋一 (不二越)
50 直井義幸 (東京都民銀行)
51 上村 真 (越後交通)
52 今津一徳 (宇部興産)
53 前田昭治 (日本ガス化学)
54 増永秀則 (福井市役所)
55 井門鎮雄 (電電東京)
優勝 小宮好雄
56 沢田 力 (電電東京)
57 新津 勝 (甲府市役所)
58 中田吉昭 (倉庫精練)
59 秋山真一 (新三菱重工)
60 杉谷義明 (不二越)
61 矢島行雄 (住友化学菊本)
62 石原利通 (岡山市役所)
63 小野勝洋 (十條製紙伏木)
64 坂口 孝 (電電和歌山)
65 相川靖宣 (船橋市役所)
66 榎 高嗣 (電電大阪)
67 勝田昭夫 (トヨタ自動車)
68 井上泰平 (日研化学)
69 武井 司 (三ッ葉電機)
70 小田八束 (村田製作所)
71 戸沢正雄 (新三菱重工)
72 田中昭夫 (札 鉄)
73 小関正洋 (両羽銀行)
74 神林忠一 (三ッ葉電機)
75 前田 斉 (住友化学新居浜)
76 貝戸 肇 (電電東京)
77 岡崎 達 (不二越)
78 吉田邦男 (日立戸塚)
79 鈴木紀元 (トヨタ自動車)
80 平井 忠 (日本曹達)
81 富井忠義 (日本石油・新潟)
82 新明栄次 (松下電子)
83 国信祝二 (大阪合繊)
84 星野忠男 (電電東京)
85 平野勝也 (三菱長崎造船)
86 後藤卓志 (住友化学菊本)
87 吉田 司 (日研化学)
88 山県保夫 (宇部興産)
89 中村 忠 (船橋市役所)
90 武村俊平 (国際電電大阪)
91 横倉良樹 (電電東京)
92 [illegible] (福井市役所)
93 工藤鶴雄 (電電大阪)
94 鈴木勝之 (三菱日本重工業・横浜)
95 両端 滋 (電電和歌山)
96 八町博保 (不二越)
97 渋井 明 (札 鉄)
98 山田昭夫 (十條製紙伏木)
99 東田正治 (倉庫精練)
100 吉田 豊 (三菱長崎造船)
101 金子 功 (東芝加茂)
102 吉住 昭 (両羽銀行)
103 遠藤紀和 (日本曹達)
104 西村順三 (三ッ葉電機)
105 熊倉昭二 (札 鉄)
106 伊藤準二 (宇部興産)
107 長谷川鋼造 (新発田市役所)
108 沢村 浩 (電電東京)
109 徳保 勝 (石川島播磨重工)
110 津田紀昭 (福井市役所)
111 板垣善憲 (トヨタ自動車)
井門鎮雄 (電電東京)
沢田 力 (電電東京)

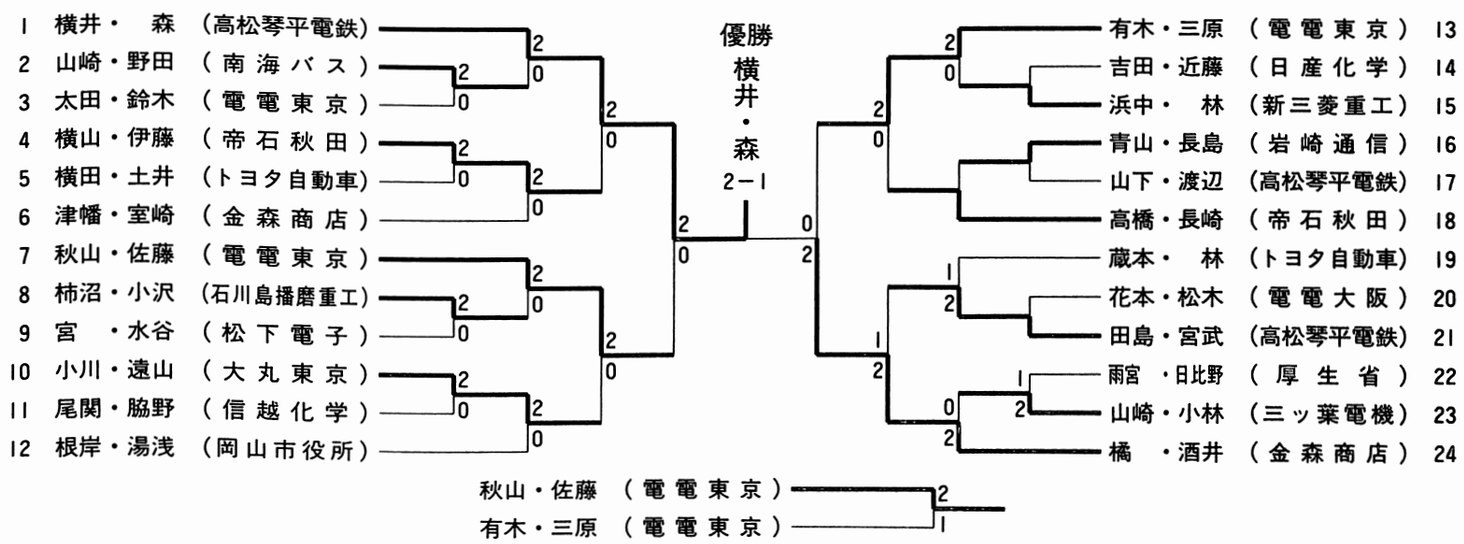
■男子複の部


1 小宮・板垣 （トヨタ自動車）
2 中村 ・田久保 （船橋市役所）
3 上村・飯塚 （越後交通）
4 井上・石川 （日研化学）
5 東田・中田 （倉庫精練）
6 椎原・西村 （三ッ葉電機）
7 平沢・伊藤 （札 鉄）
8 江守・山田 （十條製紙伏木）
9 吉田・植田 （北辰電気）
10 八町・杉谷 （不二越）
11 森谷・横倉 （電電東京）
12 岸 ・倉田 （三菱日本重工）
13 浅田・鶴岡 （岩崎通信機）
14 山下・大滝 （松下電子）
15 小松・石原 （岡山市役所）
16 遠藤・石川 （日本鋼管）
17 松浪・谷藤 （国際電電大阪）
18 甲田・杉山 （川上研究所）
19 三家・西端 （電電和歌山）
20 金子・田辺 （東芝・加茂）
21 小野田・ 森下 （福井市役所）
22 渋江・佐藤 （保土谷化学）
23 熊倉・ 島 （札 鉄）
24 吉田・長瀬 （日立戸塚）
25 安部・徳保 （石川島播磨重工）
26 斎藤・富井 （日本石油）
27 関原・遠藤 （日本曹達）
28 伊藤・山懸 （宇部興産）
29 星野・富田 （電電東京）
優勝
小宮・板垣
2－0
30 岡崎・川上 （不二越）
31 岩后・勝田 （トヨタ自動車）
32 山口・吉田 （三菱長崎）
33 神林・武井 （三ッ葉電機）
34 平田 ・佐藤昭 （保土谷化学）
35 丸山・内藤 （信越化学）
36 渋井・大石 （札 鉄）
37 貝戸・沢村 （電電東京）
38 矢野・豊島 （住友化学新居浜）
39 田中・池成 （日立戸塚）
40 風間・高見 （新潟大学）
41 高橋・平塚 （石川島播磨重工）
42 奥 ・坂口 （電電和歌山）
43 小祝・直井 （東京都民銀行）
44 大野・小野 （十條製紙伏木）
45 武村・溝淵 （国際電電大阪）
46 遠藤・新津 （甲府市役所）
47 和田・志田 （東芝・加茂）
48 嶋田・中瀬 （岩崎通信機）
49 榎 ・工藤 （電電大阪）
50 植中・今津 （宇部興産）
51 秋山・戸沢 （新三菱重工）
52 荒木・ 堺 （十條製紙伏木）
53 内藤・吉田 （日研化学）
54 足立・新明 （松下電子）
55 平井・岸本 （日本曹達）
56 鈴木・多賀 （トヨタ自動車）
57 高橋・片岡 （三菱日本重工）
58 井上・吉住 （両羽銀行）
59 沢田・井門 （電電東京）
星野・富田 （電電東京）
大野・小野 （十條製紙伏木）

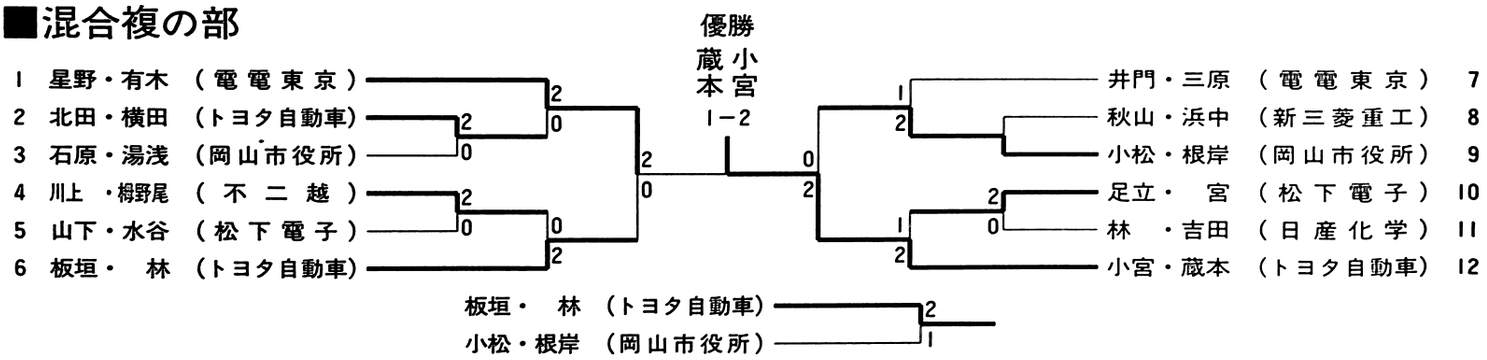
■女子単の部


1 横山満子 (帝石秋田)
2 近藤静子 (日産化学)
3 鈴木柳子 (電電東京)
4 林 信子 (トヨタ自動車)
5 花本順子 (電電大阪)
6 湯浅光枝 (岡山市役所)
7 小川智子 (大丸東京)
8 宮武範子 (高松琴平電鉄)
9 林喜美子 (新三菱重工)
10 高瀬里美 (三ッ葉電機)
11 酒井美智子 (金森商店)
12 秋山文子 (電電東京)
13 渡辺百合子 (高松琴平電鉄)
14 室崎光子 (金森商店)
15 山崎明子 (三ッ葉電機)
16 長崎文子 (帝石秋田)
17 有木とみ子 (電電東京)
18 水谷英子 (松下電子)
19 橘 妙子 (トヨタ自動車)
20 山崎美智子 (南海バス)
21 岩本良子 (松下電子)
22 横井文子 (高松琴平電鉄)
優勝
横井文子
2−0
23 田島外茂子 (高松琴平電鉄)
24 松本美代子 (電電大阪)
25 小林勅子 (三ッ葉電機)
26 宮美佐子 (松下電子)
27 太田良子 (電電東京)
28 高橋奉子 (帝石秋田)
29 蔵本文子 (トヨタ自動車)
30 佐藤照子 (電電東京)
31 山下由子 (高松琴平電鉄)
32 吉田洋子 (日産化学)
33 栂野尾桂子 (不二越)
34 森 久子 (高松琴平電鉄)
35 小林君子 (三ッ葉電機)
36 土井三枝子 (トヨタ自動車)
37 青山博子 (岩崎通信機)
38 根岸 純 (岡山市役所)
39 三原弘美 (電電東京)
40 浜中妙子 (新三菱重工)
41 伊藤美津子 (帝石秋田)
42 横田洋子 (トヨタ自動車)
43 野田美枝子 (南海バス)
44 橘 美智子 (金森商店)
横山満子 (帝石秋田)
橘 美智子 (金森商店)

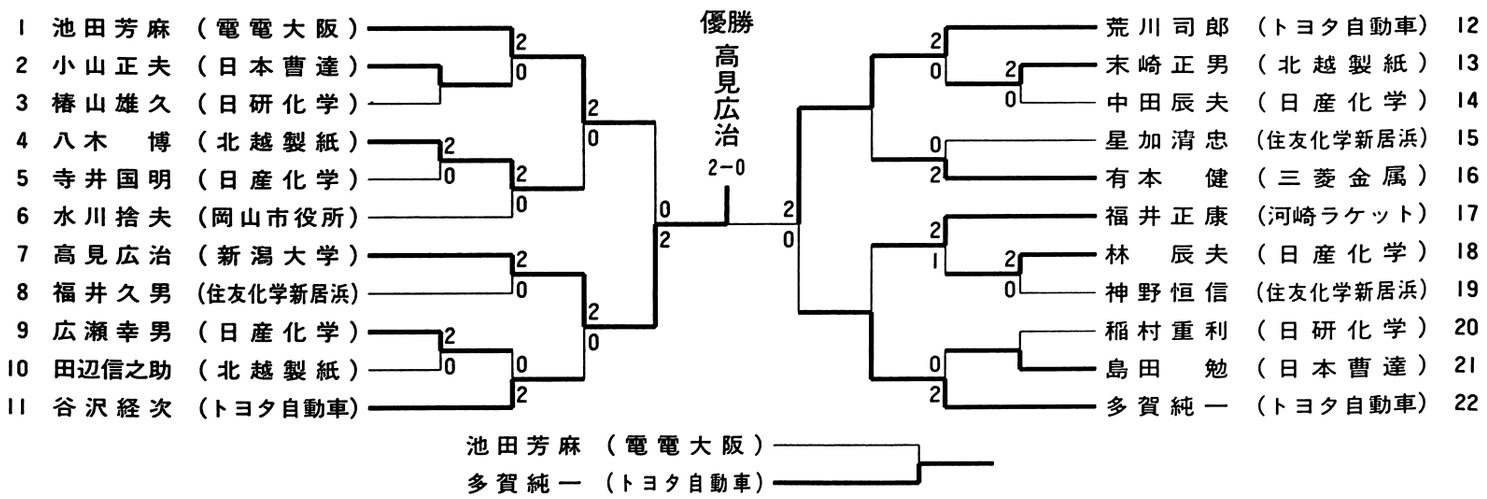
■女子複の部


1 横井・ 森 (高松琴平電鉄)
2 山崎・野田 (南海バス)
3 太田・鈴木 (電電東京)
4 横山・伊藤 (帝石秋田)
5 横田・土井 (トヨタ自動車)
6 津幡・室崎 (金森商店)
7 秋山・佐藤 (電電東京)
8 柿沼・小沢 (石川島播磨重工)
9 宮 ・水谷 (松下電子)
10 小川・遠山 (大丸東京)
11 尾関・脇野 (信越化学)
12 根岸・湯浅 (岡山市役所)
優勝
横井・森
2−1
13 有木・三原 (電電東京)
14 吉田・近藤 (日産化学)
15 浜中・ 林 (新三菱重工)
16 青山・長島 (岩崎通信)
17 山下・渡辺 (高松琴平電鉄)
18 高橋・長崎 (帝石秋田)
19 蔵本・ 林 (トヨタ自動車)
20 花本・松木 (電電大阪)
21 田島・宮武 (高松琴平電鉄)
22 雨宮 ・日比野 (厚生省)
23 山崎・小林 (三ッ葉電機)
24 橘 ・酒井 (金森商店)
秋山・佐藤 (電電東京)
有木・三原 (電電東京)

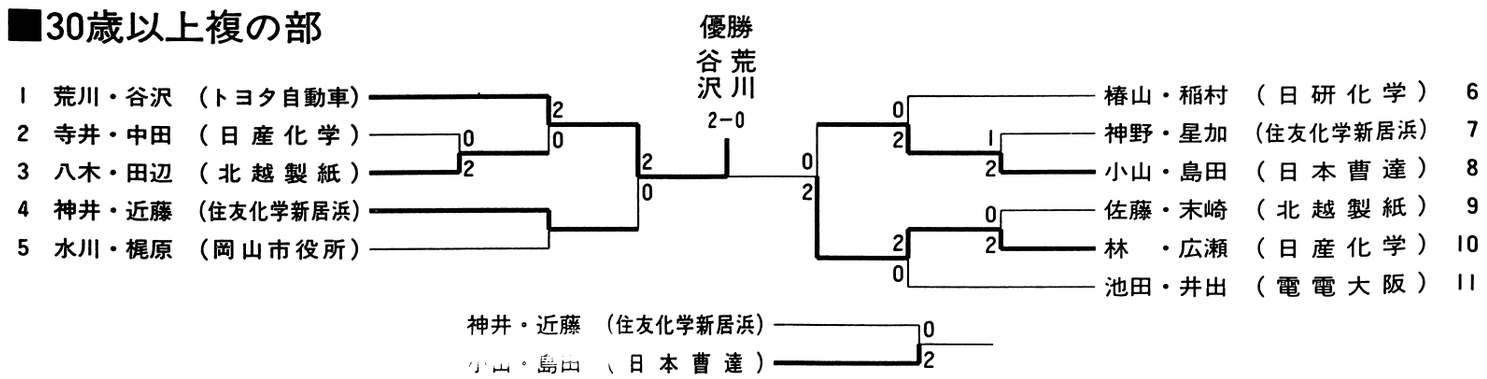
■混合複の部



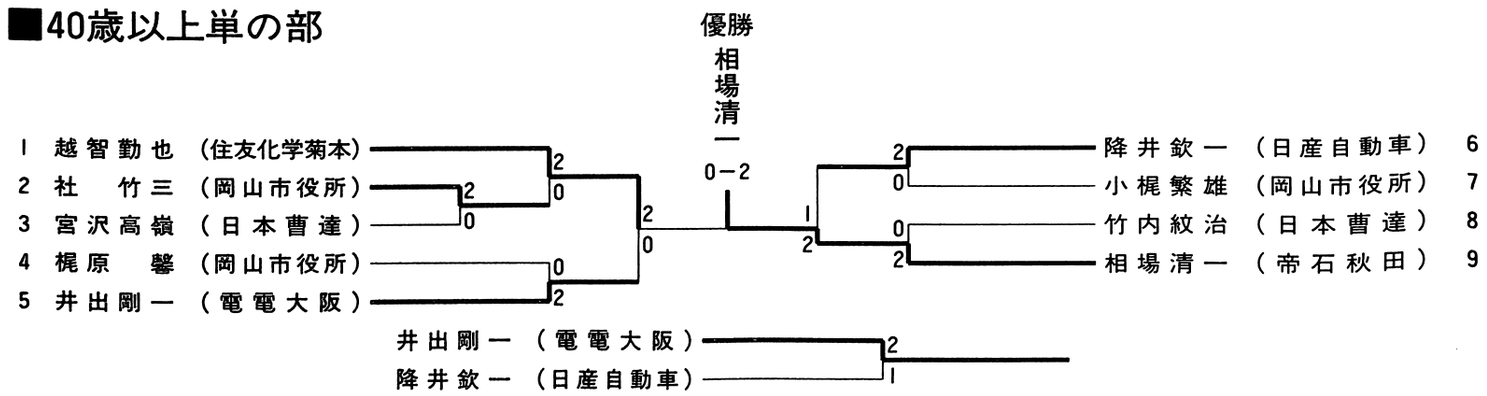
■30歳以上単の部



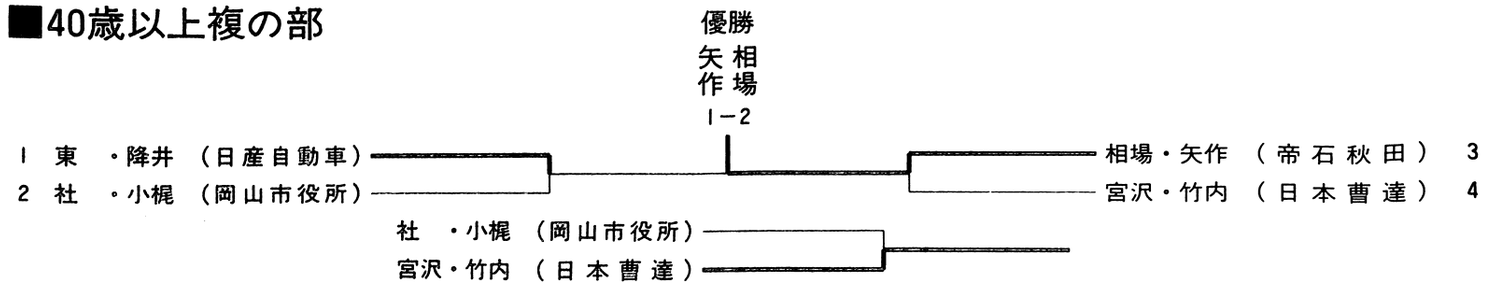
■30歳以上複の部



■40歳以上単の部



■40歳以上複の部



■出場選手名簿

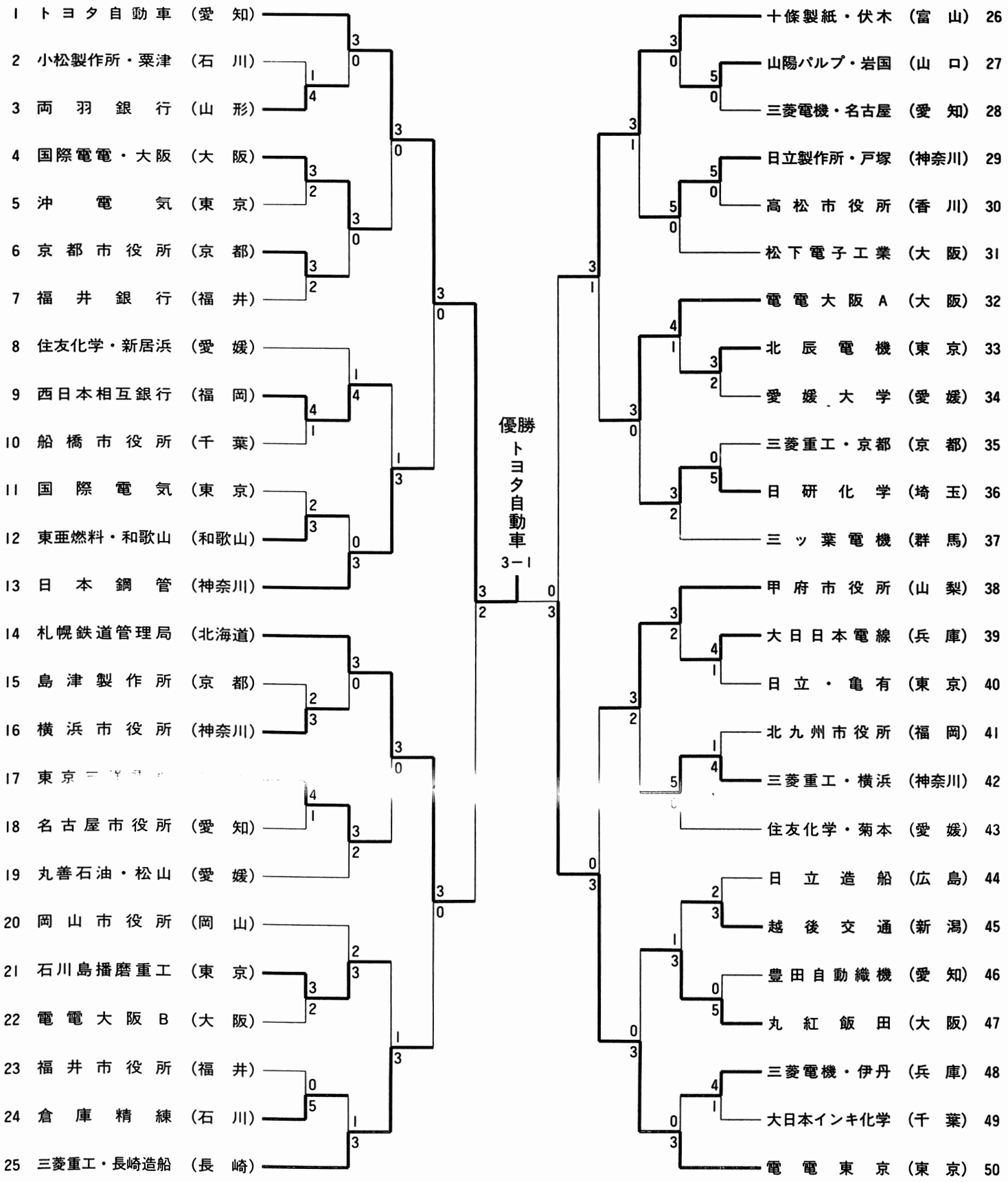
県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	札幌鉄道管理局	青山　繁樹	渋井　明・熊倉昭二・島　辰夫・平沢啓裕・大石興徳・伊藤善夫・田中昭夫
秋田	帝国石油・秋田	相場　清一	横山満子・長崎文子・高橋奉子・伊藤美津子
宮城	丸光	岡崎　功	村上恵子・佐藤一枝・高橋徳子・岩松恭子・小窪澄子・星恵美子
山形	両羽銀行	庄司　康男	茂木重蔵・渡辺勝利・井上明彦・小関正洋・高野　敦・吉住　昭・渡辺兼雄
	でん六	鈴木伝四郎	本間精一・赤城　勉・山口良典・紺野和平
富山	不二越鋼材	柏　政吉	川上洋一・栂野尾桂子・岡崎　達・八町博保・杉谷義明
	十條製紙・伏木	清水　正	堺　三徳・大野幸雄・江守　清・山田昭夫・小野勝洋・荒木亥久男
	金森藤平商店	島井　政雄	橘美智子・酒井美智子・津幡成美・室崎光子
石川	倉庫精練	田村　祥爾	中田吉昭・島崎　勉・東田盛治・山本　武・広川万亀夫
福井	福井市役所	小野田幸夫	小野田幸夫・津田紀昭・大橋正武・増永秀則・森下正三
群馬	三ツ葉電機製作所	米谷外喜彦	神林忠一・武井　司・西村順三・椎原邦雄・米谷外喜彦 山崎明子・小林君子・高瀬里美・小林勅子
埼玉	日研化学	横井　初夫	井上泰年・石川二郎・内藤　昭・吉田　司・角田　功・山口喜雄・稲村重則・横山雄久
	村田製作所		小田八束
	川上研究所	藤沢　広	藤沢　広・北条宗男・甲田克也・杉山忠造・加藤一二
東京	河崎ラケット	福井　正康	河崎一幸・堺　栄一・福井正康・橋本剛司・島田利雄・鍵和田三郎・四柳昭弘
	岩崎通信機	丸田　圭二	浅田英雄・鶴岡秀瞭・高橋敏晴・島田信一・中瀬一義・丸田圭二・青山博子・長島幸子
	電電東京	高橋　章	星野忠男・貝戸　肇・井門鎮雄・富田　豊・沢田　力・沢村　浩・森谷喜久男・横倉良樹 秋山文子・有木とみ子・三原弘美・太田良子・佐藤照子・鈴木柳子
	石川島播磨重工業	高橋　譲	平塚　順・安部治夫・宮川　洋・阿部　茂・田村政巳・徳保　勝・菅村好基・高橋　譲 荒木陽子・秋山恵子・柿沼孝枝・小沢美栄子
	北辰電機製作所	吉田　進	吉田　進・梅田耕司・北脇重康・細野敏男・笠原嘉七
	保土谷化学	麻生　了介	渋江菊雄・佐藤勝彦・平田　勲・佐藤　昭・麻生了介・大倉　満
	日立製作所・亀有	古明地治光	工藤　弘・今宮弘万・永野周一・清水孝一・鈴木勝治・有村英雄・篠崎勝太郎
	文祥堂	中山　松男	佐藤　敦・青木久俊・中山松男・保谷栄治・菅　正勝・島田　稔
	富士重工・三鷹	松野　良一	笠原　勝・豊田栄一・豊田吉男・星野善昭・水野　勉・足立孝雄・松野良一
	厚生省	雨宮　博子	雨宮博子・日比野美奈子・玉城千恵子・北沢　淳
	大丸・中[illegible]	[illegible]	[illegible]・川口節子・石井綾子・小川智子・塩山貴子・遠山洋子
	都民銀行		小祝明樹・直井義幸
千葉	船橋市役所	西塚　正太	中村修己・設楽健男・中村　忠・田久保能久・相川靖宣・鈴木圭司・長島一男
	日立製作所・茂原	高久　重剛	高久重剛・矢島敬司・木滑節夫・山田茂勝・村上義則・森澄健夫・三橋俊也 鎌田典子・加藤昌代・佐瀬良子・江川絹子・福山正子
神奈川	関東自動車工業	井上　忠久	池田昌弘・鈴木宣昭・高橋宏之・横山嘉識・井上忠久・井上和彦
	三菱日本重工・横浜	金子　幸男	高橋　進・片岡弘道・岸　賢司・倉田豊三郎・鈴木勝之・大谷栄喜・今関俊郎
	日立製作所・戸塚	田中　康之	長瀬八郎・鈴木雅勝・田中康之・吉田邦男・池成隆夫・富田健一
	日本鋼管・鶴見	佐治　豊	遠藤啓治・青木　昇・伊田真一・石川三郎・小野吉弘・佐治　豊
	いすゞ自動車・川崎	野川　和之	関口　潔・高橋幸治郎・山口芳郎・金子千秋・杉浦幸太郎
	日産自動車	東　芳男	東　芳男・降井欽一
山梨	甲府市役所	中林　昭一	古谷利夫・依田勝充・遠藤真男・新津　勝・村山一夫
愛知	トヨタ自動車	多賀　純一	小宮好雄・北田寛一・板垣善憲・岩后隆昭・勝田照夫・鈴木紀元・多賀靖之・谷沢経次 蔵本文子・林　信子・土井三枝子・横田洋子・橘　妙子
	名古屋市役所	伊藤　鉱一	伊藤鉱一・渡辺泰竹・加藤和男・皆川英雄・成田寿夫・渡辺順三

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
京　都	新三菱重工・京都	大志万敬寧	秋山真一・北村稀一・戸沢正雄・石田　清・石原　敦・福井達雄・豊田耕造 浜中妙子・林喜美子・平塚雅子・大谷泰子
	松下電子工業	矢田　直宏	足立　明・新明栄次・山下善昭・大滝武和・森　晃一・山本正彦・吉田　茂 宮美佐子・水谷英子・岩本良子・尾崎梅子
	日本レース	本間　修治	北川美恵子・野村清子・田辺正子・富江みや子
	島津製作所	野村　嘉明	安川和正・田中　優・和田正高・加藤英昭・若穂囲明・若林　登
大　阪	電電大阪	尾崎　　弘	榎　高嗣・工藤鶴雄・品川勝男・片山修治・井手剛一・池田芳麻・小川正夫 花本順子・松木美代子・宮竹久恵子・朝倉貞子
	国際電電大阪	石下　　果	溝淵宏二・武村俊平・谷藤隆幸・塚田静雄・松浪鋭四郎
	大阪合繊		国信祝二・堀口元生
和歌山	電電和歌山		三家貞男・西崎　滋・奥　一郎・坂口　孝
	南海バス		山崎美智子・野田美枝子
	新宮市役所	松村　元弘	小坂詮明・田中靖士・地蔵本武尚・貴志恒年・鈴木荘平
	東亜燃料・和歌山	永広　利之	水谷哲雄・田和　貢・東畑喜昭・宮原正明・宮岡　昭・片岡正一
兵　庫	住友金属	中村　信正	木村勝男・谷口孝次・中村信正・馬谷和男・内堀恵造・川口　守
	三菱電機・伊丹	久保　　勲	荻野一夫・久保　勲・楠　　勝・立花宏昭・古高郁夫・原田　曠
岡　山	岡山市役所	杜　　竹三	小松　広・石原利道・水川捨夫・馬場睦純・小梶繁雄・梶原　磐・杜　竹三 相賀節子・増田政子・根岸　純・湯浅光枝
山　口	宇部興産		植中修司・今津一徳・伊藤淳二・山県保夫・木曾新一
香　川	高松市役所	杉山　富雄	谷本庄一・辻村栄一・黒川　稔・野口利行・遠藤　孝・中村英彦・世羅義昭
	高松琴平電鉄	有馬　正作	田島外茂子・横井文子・森　久子・宮武範子・山下由子・渡辺百合子
愛　媛	住友化学・新居浜	近藤　忠徳	福井久男・矢野　晃・津吉哲郎・星加清忠・神野恒信・前田　斉・豊島　進・近藤忠徳
	住友化学・菊本	杉本　利彦	越智勤也・三苫孝一・矢島行雄・後藤卓志・片上逸志
長　崎	三菱長崎造船所	山口　賢朗	山口賢朗・山口征一郎・吉田　豊・平野勝也・中山美都里・久崎幸子・白井泰子・立石香津子
新　潟	新潟交通	梅沢竹太郎	市島守男・川井　毅・斎藤杵一・川崎　誠・山口修二・佐々木詔二・松原　勇
	北越製紙・新潟	佐藤　臣一	佐藤臣一・田辺信之助・八木　博・末崎　正男・高橋又三郎・坂上隆一
	日本石油・新潟	川谷　貞夫	野上邦博・斎藤　満・山崎健吾・富井忠義・野口宏治
	新潟大学	宮内正四郎	高見広治・風間　薫・横山一歩・川瀬芳夫・伊藤　勇
	[illegible]	[illegible]	昭治・関塚竜補・渡辺弘司・長井健策・高橋洋右
	新潟市役所	関　　一雄	司山次夫・星野　哲・残熊貞夫・林辺　忠・東條昭久
	越後交通	中野　　宏	井村　真・山崎明弘・飯塚達夫・坂口登志夫・近藤　博
	三条市役所	曾田　　政	名古屋悦雄・山口修身・相田幸一・丸山　進
	津上製作所		小林一男
	新発田市役所	伊藤　忠平	伊藤忠平・岡本忠三・長谷川鋼三・加藤嘉徳・寅樫幹郎・長谷川敬男
	東芝電気器具・加茂	村山　義春	和田靖治・村山義春・金子　功・志田富弥・田辺正美
	信越化学・直江津	平丸　孝二	太田　卓・布施賢一・丸山　宏・石平英夫・内藤誠也・石津　稔 尾関栄子・関川富美子・脇野一枝・坂詰幸子
	日本曹達・二本木	宮沢　高嶺	島田　勉・小山正夫・関原三男・遠藤紀和・岸本忠雄・平井　忠・宮沢高嶺・竹内紋治
	日産化学・長岡	林　　辰夫	吉田洋子・近藤静子・高橋ミヨ子・土関ツヤ子・小梶栄子・田村サチ 林　辰夫・広瀬幸男・中田辰夫・寺井国明
	三菱金属		有本　健

第14回全日本実業団バドミントン選手権大会

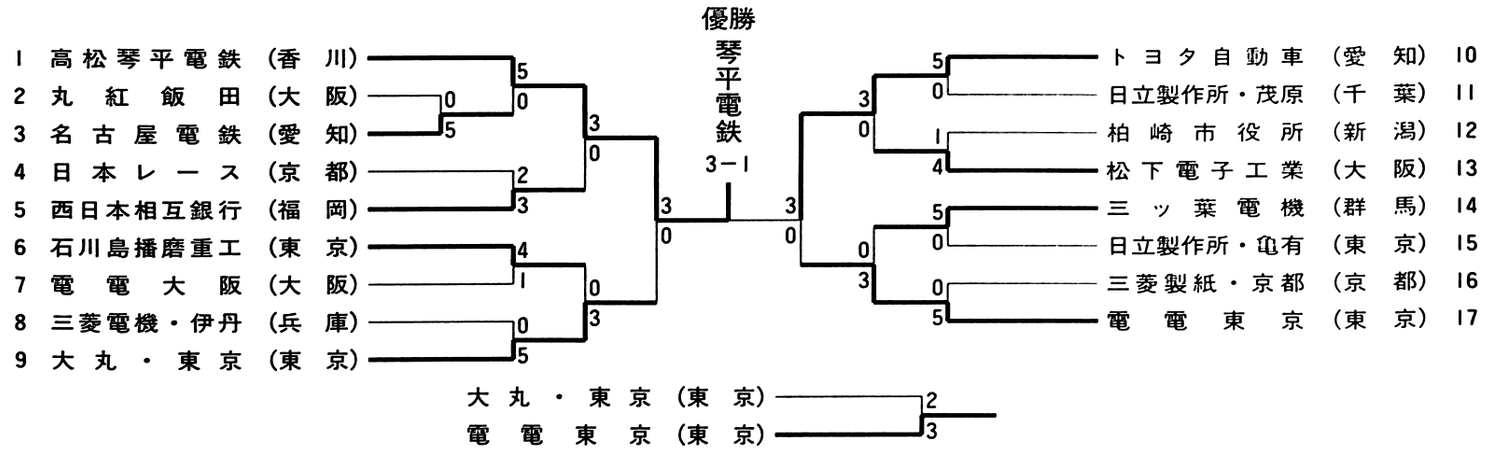
開催期日：1964年(昭和39年)1月15～19日
開 催 地：愛媛県松山市
会　　場：県立松山南高等学校体育館、市立新田高等学校体育館、株式会社松山工場体育館

■男子団体の部

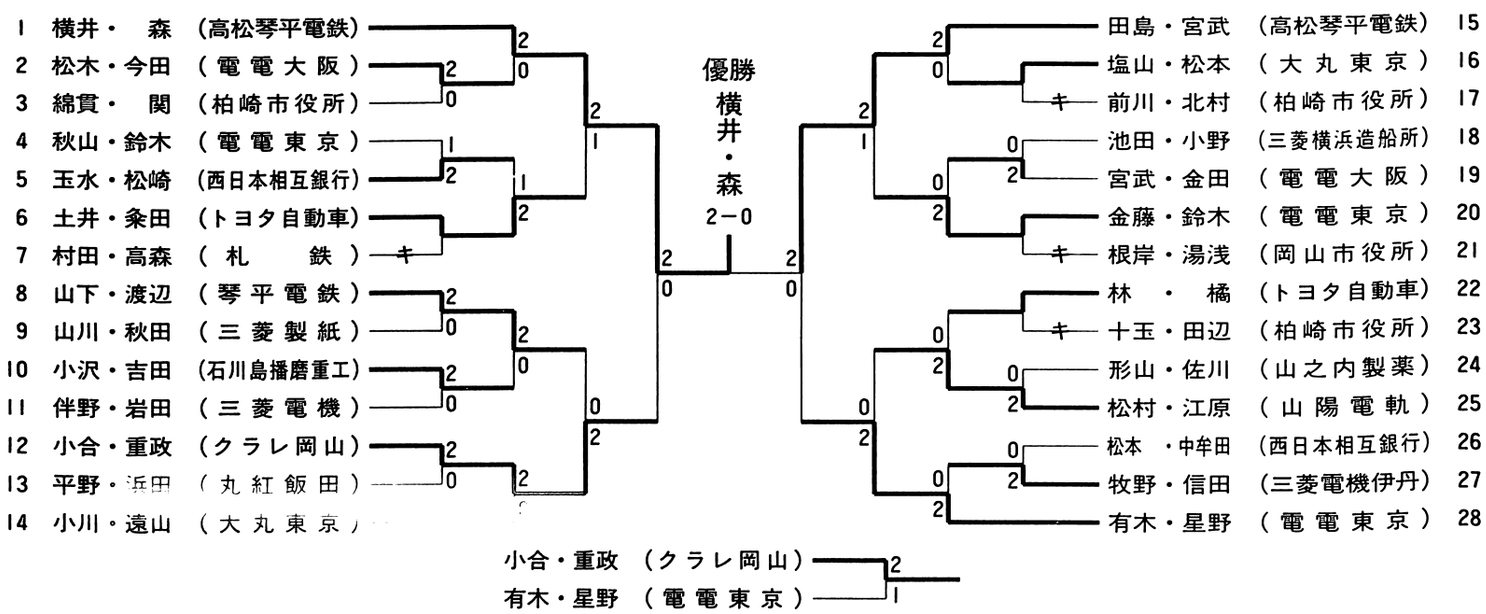


札幌鉄道管理局 (北海道)
十條製紙・伏木 (富 山)

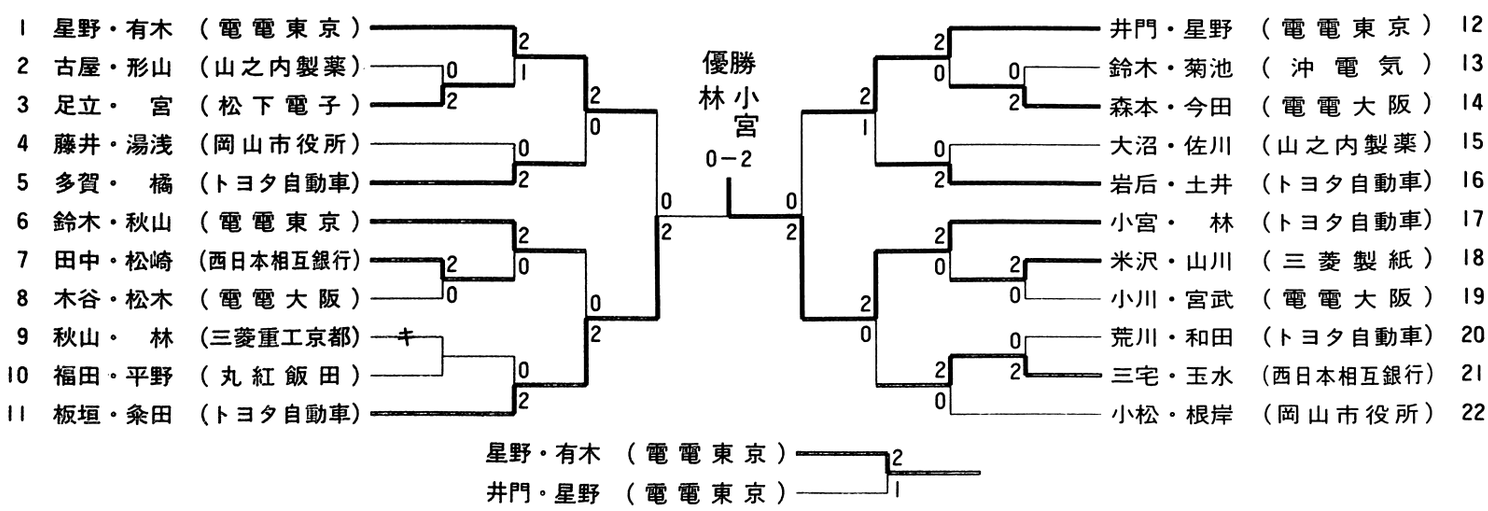
■女子団体の部



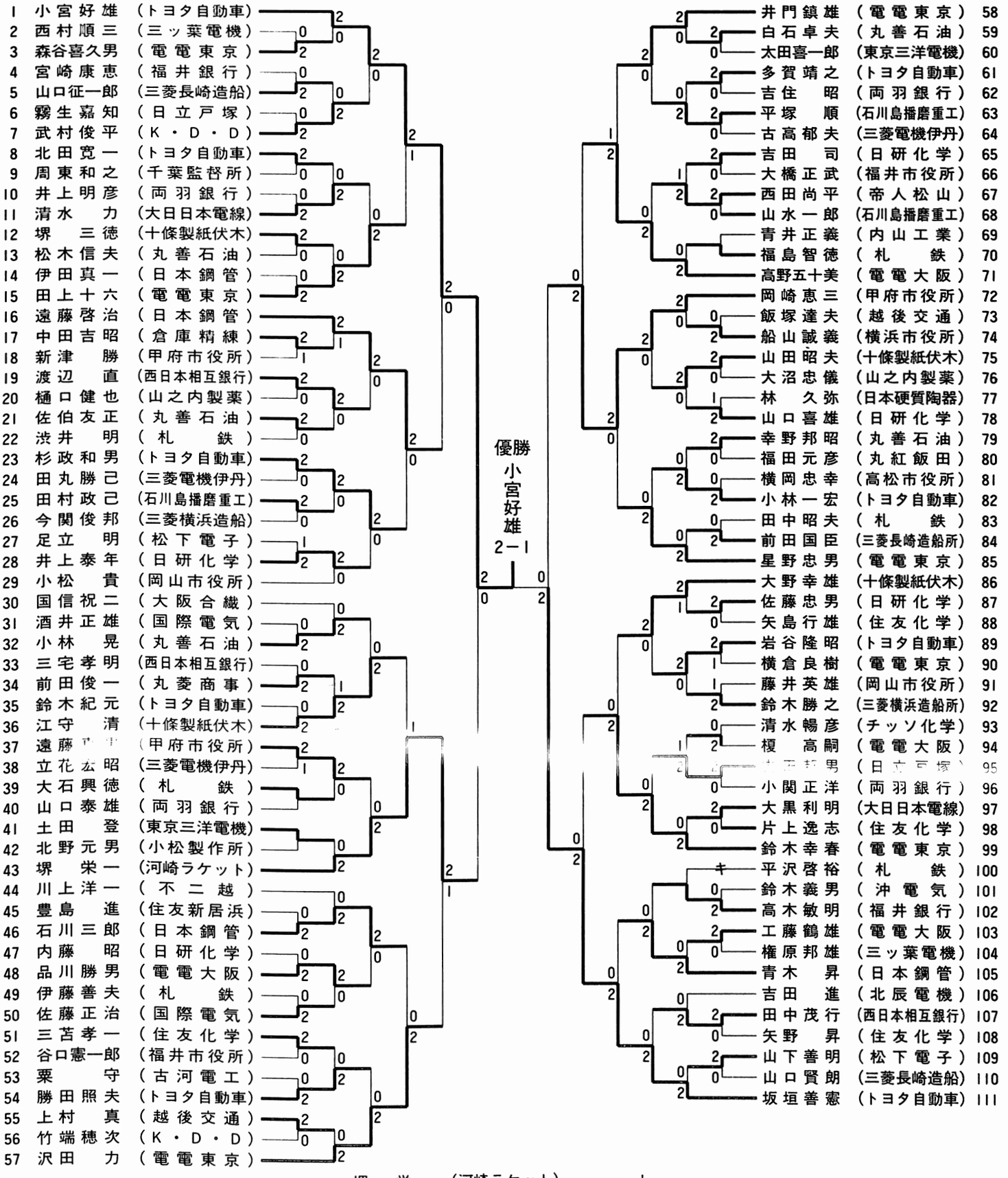
■女子複の部



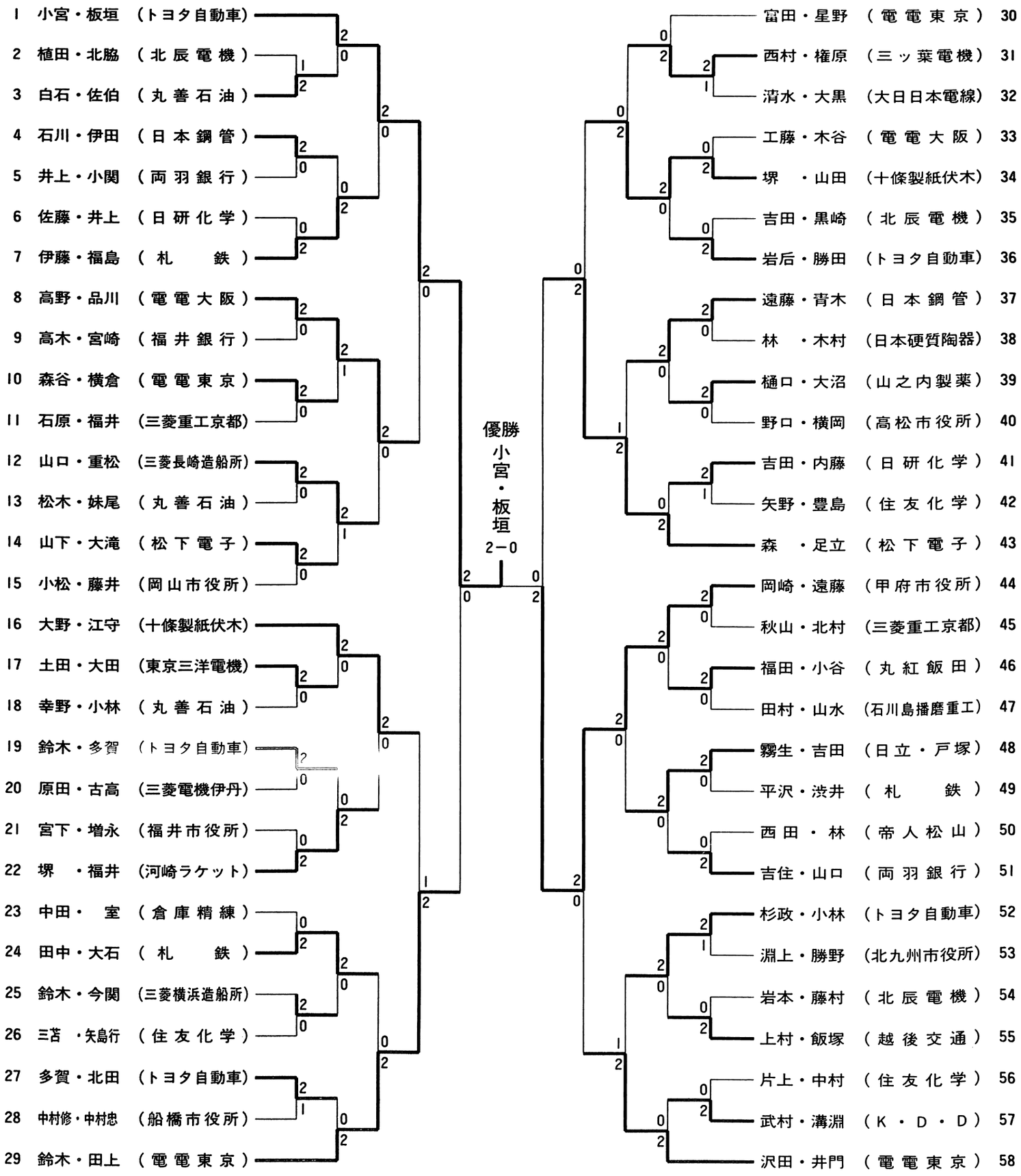
■混合複の部



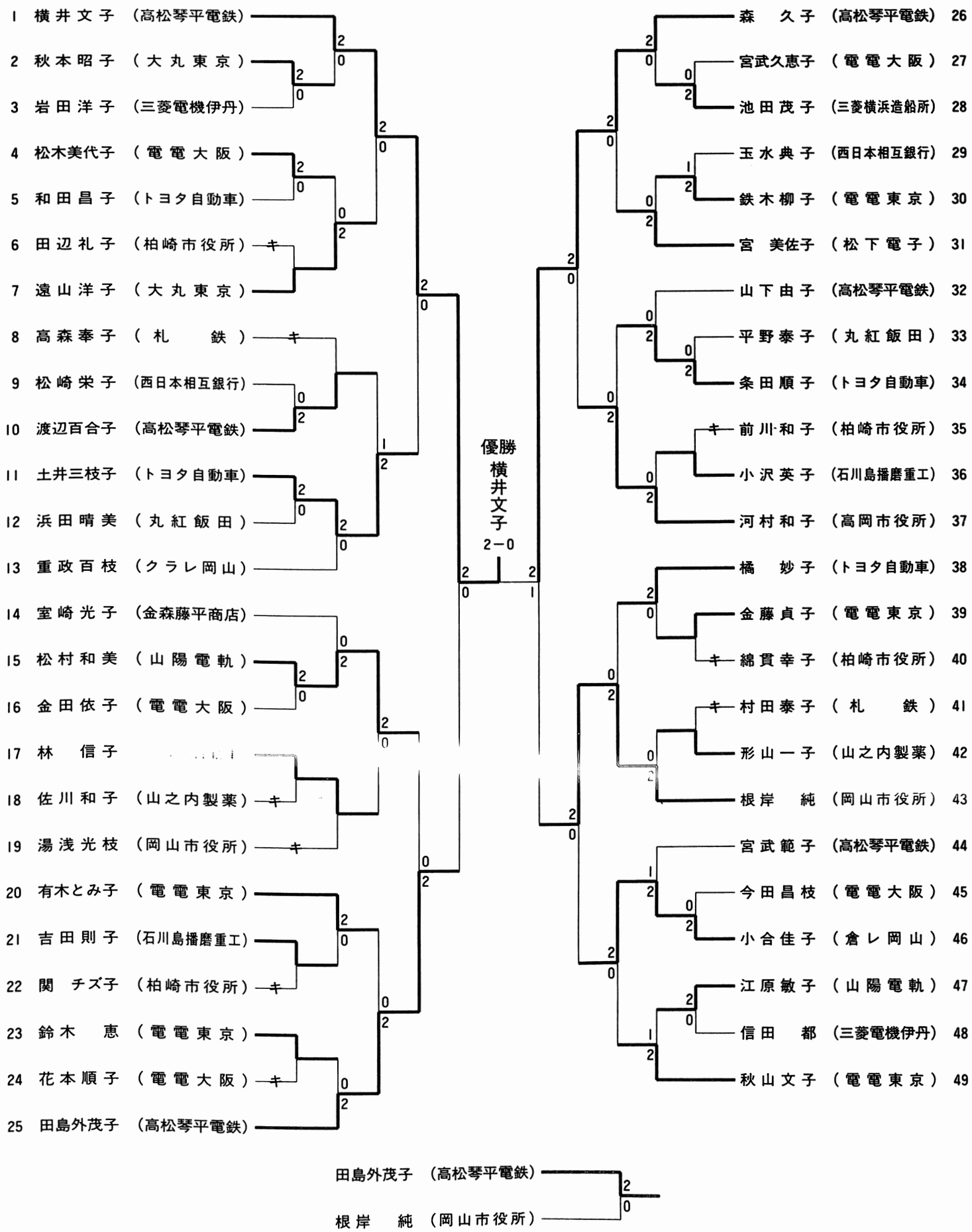
■男子単の部


1 小宮好雄 (トヨタ自動車)
2 西村順三 (三ッ葉電機)
3 森谷喜久男 (電電東京)
4 宮崎康恵 (福井銀行)
5 山口征一郎 (三菱長崎造船)
6 霧生嘉知 (日立戸塚)
7 武村俊平 (K・D・D)
8 北田寛一 (トヨタ自動車)
9 周東和之 (千葉監督所)
10 井上明彦 (両羽銀行)
11 清水力 (大日日本電線)
12 堺三徳 (十條製紙伏木)
13 松木信夫 (丸善石油)
14 伊田真一 (日本鋼管)
15 田上十六 (電電東京)
16 遠藤啓治 (日本鋼管)
17 中田吉昭 (倉庫精練)
18 新津勝 (甲府市役所)
19 渡辺直 (西日本相互銀行)
20 樋口健也 (山之内製薬)
21 佐伯友正 (丸善石油)
22 渋井明 (札鉄)
23 杉政和男 (トヨタ自動車)
24 田丸勝己 (三菱電機伊丹)
25 田村政己 (石川島播磨重工)
26 今関俊邦 (三菱横浜造船)
27 足立明 (松下電子)
28 井上泰年 (日研化学)
29 小松貴 (岡山市役所)
30 国信祝二 (大阪合繊)
31 酒井正雄 (国際電気)
32 小林晃 (丸善石油)
33 三宅孝明 (西日本相互銀行)
34 前田俊一 (丸菱商事)
35 鈴木紀元 (トヨタ自動車)
36 江守清 (十條製紙伏木)
37 遠藤[illegible] (甲府市役所)
38 立花宏昭 (三菱電機伊丹)
39 大石興徳 (札鉄)
40 山口泰雄 (両羽銀行)
41 土田登 (東京三洋電機)
42 北野元男 (小松製作所)
43 堺栄一 (河崎ラケット)
44 川上洋一 (不二越)
45 豊島進 (住友新居浜)
46 石川三郎 (日本鋼管)
47 内藤昭 (日研化学)
48 品川勝男 (電電大阪)
49 伊藤善夫 (札鉄)
50 佐藤正治 (国際電気)
51 三苫孝一 (住友化学)
52 谷口憲一郎 (福井市役所)
53 粟守 (古河電工)
54 勝田照夫 (トヨタ自動車)
55 上村真 (越後交通)
56 竹端穂次 (K・D・D)
57 沢田力 (電電東京)
優勝 小宮好雄 2－1
58 井門鎮雄 (電電東京)
59 白石卓夫 (丸善石油)
60 太田喜一郎 (東京三洋電機)
61 多賀靖之 (トヨタ自動車)
62 吉住昭 (両羽銀行)
63 平塚順 (石川島播磨重工)
64 古高郁夫 (三菱電機伊丹)
65 吉田司 (日研化学)
66 大橋正武 (福井市役所)
67 西田尚平 (帝人松山)
68 山水一郎 (石川島播磨重工)
69 青井正義 (内山工業)
70 福島智徳 (札鉄)
71 高野五十美 (電電大阪)
72 岡崎恵三 (甲府市役所)
73 飯塚達夫 (越後交通)
74 船山誠義 (横浜市役所)
75 山田昭夫 (十條製紙伏木)
76 大沼忠儀 (山之内製薬)
77 林久弥 (日本硬質陶器)
78 山口喜雄 (日研化学)
79 幸野邦昭 (丸善石油)
80 福田元彦 (丸紅飯田)
81 横岡忠幸 (高松市役所)
82 小林一宏 (トヨタ自動車)
83 田中昭夫 (札鉄)
84 前田国臣 (三菱長崎造船所)
85 星野忠男 (電電東京)
86 大野幸雄 (十條製紙伏木)
87 佐藤忠男 (日研化学)
88 矢島行雄 (住友化学)
89 岩谷隆昭 (トヨタ自動車)
90 横倉良樹 (電電東京)
91 藤井英雄 (岡山市役所)
92 鈴木勝之 (三菱横浜造船所)
93 清水暢彦 (チッソ化学)
94 榎高嗣 (電電大阪)
95 [illegible] (日立戸塚)
96 小関正洋 (両羽銀行)
97 大黒利明 (大日日本電線)
98 片上逸志 (住友化学)
99 鈴木幸春 (電電東京)
100 平沢啓裕 (札鉄)
101 鈴木義男 (沖電気)
102 高木敏明 (福井銀行)
103 工藤鶴雄 (電電大阪)
104 権原邦雄 (三ッ葉電機)
105 青木昇 (日本鋼管)
106 吉田進 (北辰電機)
107 田中茂行 (西日本相互銀行)
108 矢野昇 (住友化学)
109 山下善明 (松下電子)
110 山口賢朗 (三菱長崎造船)
111 坂垣善憲 (トヨタ自動車)
堺 栄一 (河崎ラケット)
岡崎恵三 (甲府市役所)

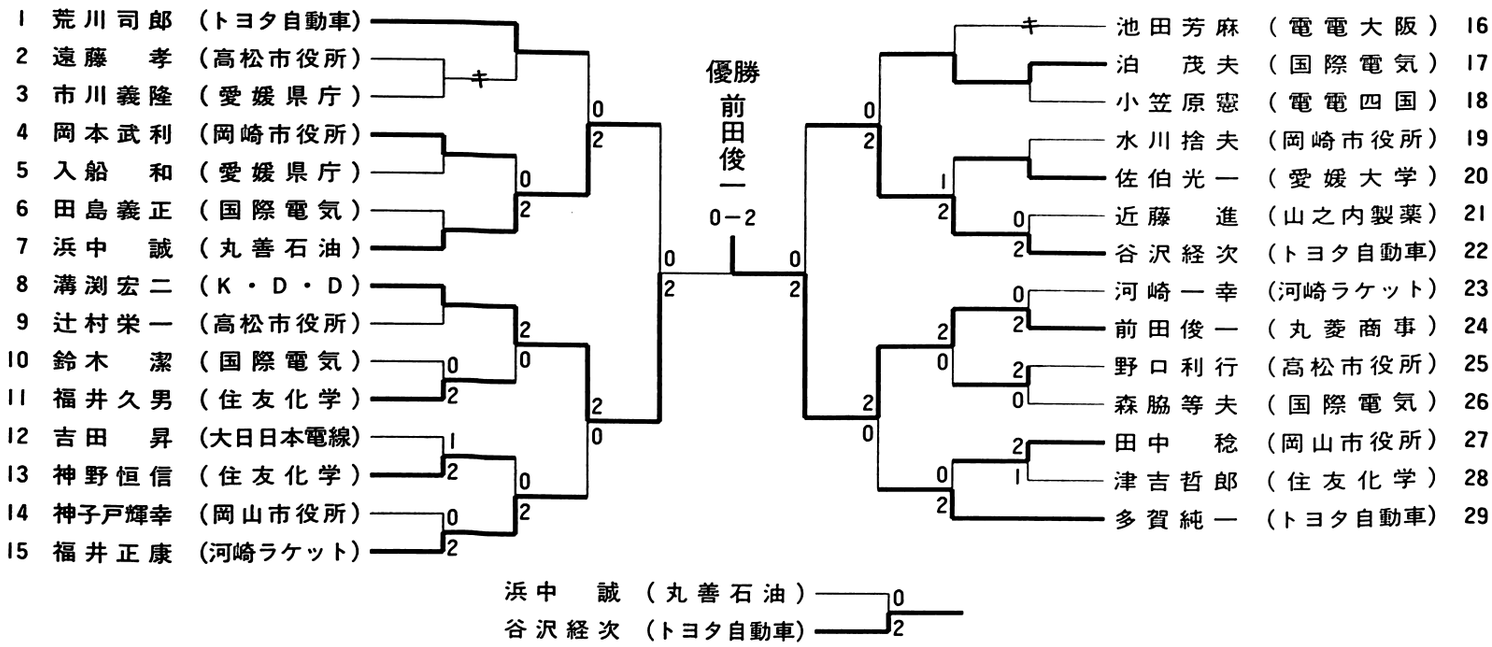
■男子複の部


1 小宮・板垣 （トヨタ自動車）
2 植田・北脇 （北辰電機）
3 白石・佐伯 （丸善石油）
4 石川・伊田 （日本鋼管）
5 井上・小関 （両羽銀行）
6 佐藤・井上 （日研化学）
7 伊藤・福島 （札　鉄）
8 高野・品川 （電電大阪）
9 高木・宮崎 （福井銀行）
10 森谷・横倉 （電電東京）
11 石原・福井 （三菱重工京都）
12 山口・重松 （三菱長崎造船所）
13 松木・妹尾 （丸善石油）
14 山下・大滝 （松下電子）
15 小松・藤井 （岡山市役所）
16 大野・江守 （十條製紙伏木）
17 土田・大田 （東京三洋電機）
18 幸野・小林 （丸善石油）
19 鈴木・多賀 （トヨタ自動車）
20 原田・古高 （三菱電機伊丹）
21 宮下・増永 （福井市役所）
22 堺　・福井 （河崎ラケット）
23 中田・　室 （倉庫精練）
24 田中・大石 （札　鉄）
25 鈴木・今関 （三菱横浜造船所）
26 三苫・矢島行 （住友化学）
27 多賀・北田 （トヨタ自動車）
28 中村修・中村忠 （船橋市役所）
29 鈴木・田上 （電電東京）
優勝 小宮・板垣 2−0
富田・星野 （電電東京） 30
西村・権原 （三ッ葉電機） 31
清水・大黒 （大日日本電線） 32
工藤・木谷 （電電大阪） 33
堺　・山田 （十條製紙伏木） 34
吉田・黒崎 （北辰電機） 35
岩后・勝田 （トヨタ自動車） 36
遠藤・青木 （日本鋼管） 37
林　・木村 （日本硬質陶器） 38
樋口・大沼 （山之内製薬） 39
野口・横岡 （高松市役所） 40
吉田・内藤 （日研化学） 41
矢野・豊島 （住友化学） 42
森　・足立 （松下電子） 43
岡崎・遠藤 （甲府市役所） 44
秋山・北村 （三菱重工京都） 45
福田・小谷 （丸紅飯田） 46
田村・山水 （石川島播磨重工） 47
霧生・吉田 （日立・戸塚） 48
平沢・渋井 （札　鉄） 49
西田・林 （帝人松山） 50
吉住・山口 （両羽銀行） 51
杉政・小林 （トヨタ自動車） 52
淵上・勝野 （北九州市役所） 53
岩本・藤村 （北辰電機） 54
上村・飯塚 （越後交通） 55
片上・中村 （住友化学） 56
武村・溝淵 （K・D・D） 57
沢田・井門 （電電東京） 58
鈴木・田上 （電電東京）
森　・足立 （松下電子）

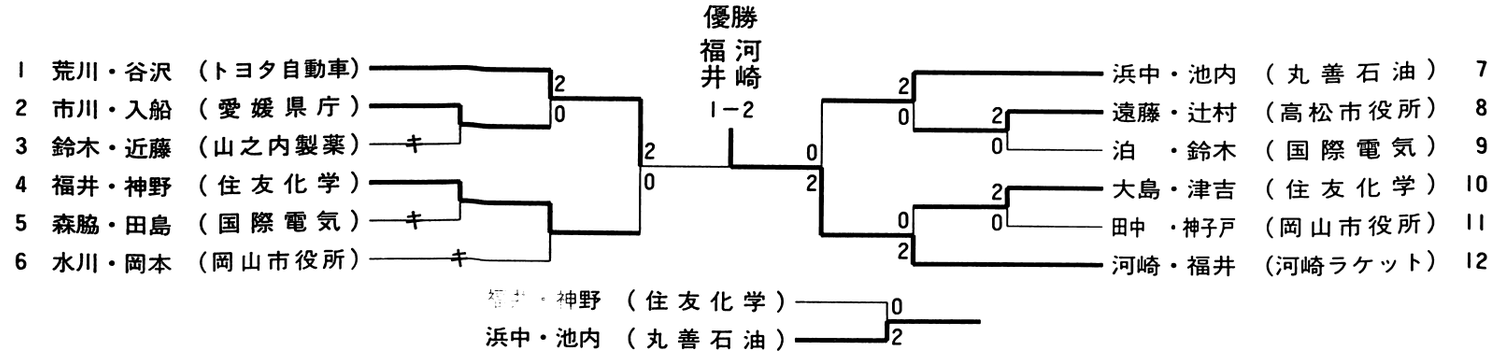
■女子単の部


1 横井文子 (高松琴平電鉄)
2 秋本昭子 (大丸東京)
3 岩田洋子 (三菱電機伊丹)
4 松木美代子 (電電大阪)
5 和田昌子 (トヨタ自動車)
6 田辺礼子 (柏崎市役所)
7 遠山洋子 (大丸東京)
8 高森奉子 (札鉄)
9 松崎栄子 (西日本相互銀行)
10 渡辺百合子 (高松琴平電鉄)
11 土井三枝子 (トヨタ自動車)
12 浜田晴美 (丸紅飯田)
13 重政百枝 (クラレ岡山)
14 室崎光子 (金森藤平商店)
15 松村和美 (山陽電軌)
16 金田依子 (電電大阪)
17 林 信子
18 佐川和子 (山之内製薬)
19 湯浅光枝 (岡山市役所)
20 有木とみ子 (電電東京)
21 吉田則子 (石川島播磨重工)
22 関 チズ子 (柏崎市役所)
23 鈴木 恵 (電電東京)
24 花本順子 (電電大阪)
25 田島外茂子 (高松琴平電鉄)
優勝
横井文子
2－0
26 森 久子 (高松琴平電鉄)
27 宮武久恵子 (電電大阪)
28 池田茂子 (三菱横浜造船所)
29 玉水典子 (西日本相互銀行)
30 鉄木柳子 (電電東京)
31 宮 美佐子 (松下電子)
32 山下由子 (高松琴平電鉄)
33 平野泰子 (丸紅飯田)
34 条田順子 (トヨタ自動車)
35 前川和子 (柏崎市役所)
36 小沢英子 (石川島播磨重工)
37 河村和子 (高岡市役所)
38 橘 妙子 (トヨタ自動車)
39 金藤貞子 (電電東京)
40 綿貫幸子 (柏崎市役所)
41 村田泰子 (札鉄)
42 形山一子 (山之内製薬)
43 根岸 純 (岡山市役所)
44 宮武範子 (高松琴平電鉄)
45 今田昌枝 (電電大阪)
46 小合佳子 (倉レ岡山)
47 江原敏子 (山陽電軌)
48 信田 都 (三菱電機伊丹)
49 秋山文子 (電電東京)
田島外茂子 (高松琴平電鉄)
根岸 純 (岡山市役所)

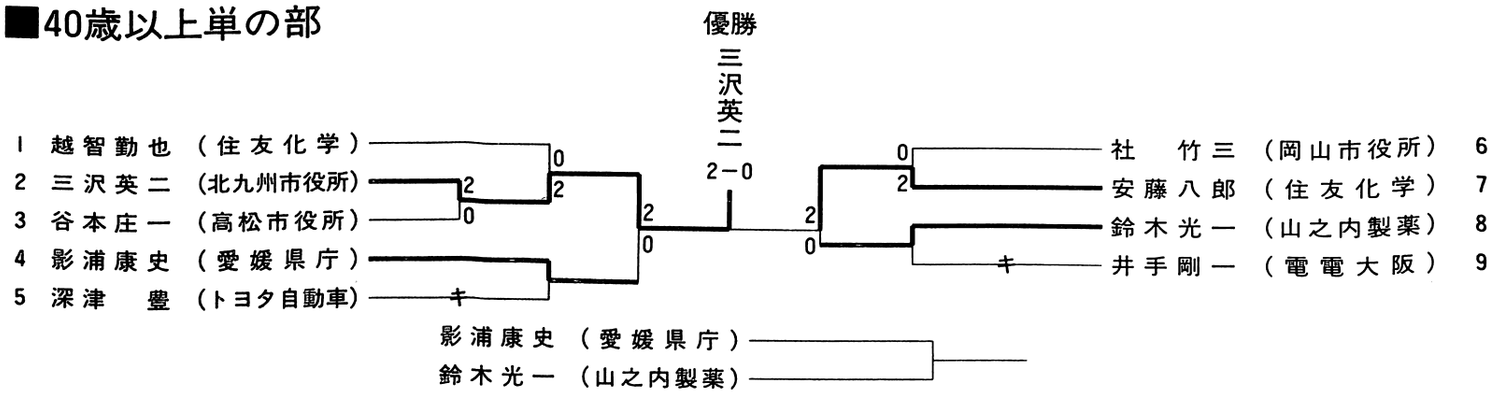
■30歳以上単の部



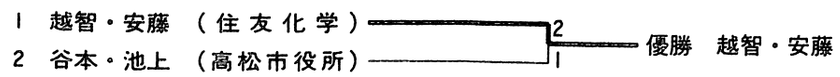
■30歳以上複の部



■40歳以上単の部



■40歳以上複の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
長崎	三菱重工・長崎造船所	島沢　優	喜多昭夫・山口賢朗・山口征一郎・吉田　豊・重松剛三・前田国臣・豊島栄二
福岡	西日本相互銀行	吉木　実	星出彦昭・田中茂行・三宅孝明・渡辺　直・福田圭吾
	北九州市役所	三沢　英二	渕上英紀・勝野雅文・遠江一彦・小野重光・三沢英二
香川	高松市役所	野口　利行	辻村栄一・遠藤　孝・谷本庄一・野口利行・横岡忠幸・池上　任・杉山富雄
山口	山陽パルプ・岩国	岡崎　修身	川岡　智・田原敏雄・河野耕司・山本　豊・室井勝夫・林　厚志・宮岡康臣
広島	日立造船	高橋　勇	大道秀夫・新庄啓三・大川嘉昭・村上省三
岡山	岡山市役所	石原　利通	小松　貴・藤井英雄・石原利通・水川捨夫・馬場睦純・梶原恒彦・滝本幸弘・前田俊一 岡本武利・田中　稔・神子戸輝幸・社　竹三
	内山工業		青井正義
	丸菱商事		前田俊一
兵庫	三菱電機・伊丹	北　義一	荻野一夫・立花宏昭・田丸勝巳・浜口博信・原田　晥・古高郁夫
	大日日本電線	小川　雄三	清水　力・大黒利明・山田達也・佐野嘉彦・豚座一利・中村邦宏・佐野義則・吉田　昇
	古河電工		粟　守
大阪	電電大阪A	池田　芳麻	杈　高嘆・高野五美・工藤鶴雄・品川勝男・水谷正美
	電電大阪B	池田　芳麻	池田芳麻・小川正夫・森本　務・井手剛一
	丸紅飯田	広瀬　勝彦	広瀬勝彦・北村修一・福田元彦・小谷祐司
	国際電電・大阪	溝渕　宏二	武村俊平・竹端捷津・森　満樹・藤井靖雄・溝渕宏二・松浪鋭四郎
	松下電子工業	矢田　直宏	山下善明・山本正彦・足立　明・森　晃一・大滝武和・吉田　茂
	大阪合繊		国信祝二
京都	京都市役所	中坊仁寿治	井上一正・中村寿男・相生正治・岡田国男・西川敬二・藤井　成・礒谷一雄
	島津製作所	野村　嘉明	田中　優・安川和正・和田正高・加藤英明・若林　登・永谷祥三・松原久雄
	三菱重工業・京都	大志万敬寧	秋山真一・北村稀一・石原　敦・戸沢正雄・福井達雄・石津正明・高宮梵之助
	三菱製紙		米沢貞義
和歌山	東亜燃料・和歌山	長広　利之	水谷哲雄・宮原正明・片岡正一・宮岡　昭・東山　勲
愛知	トヨタ自動車	深津　豊	小宮好雄・板垣義憲・岩后隆昭・勝田昭夫・鈴木紀元・杉政和男・小林一宏・多賀靖之 多賀純一・谷沢経次・荒川司郎・北田寛一・深津　豊
	三菱電機・名古屋	小沢　靖彦	小沢靖彦・鈴木勝美・佐藤泰理・長谷川征男・渡辺俊治
	名[illegible]	[illegible]	[illegible]・渡辺泰竹・水野輝彦・成田寿夫・加藤和夫・皆川英雄・渡辺順三
	豊田自動織機	林　伸太郎	上原信彦・深井忠男・武田文男・[illegible]
山梨	甲府市役所	中林　昭一	古谷利夫・依田勝充・遠藤真男・新津　勝・岡崎恵三
神奈川	横浜市役所	土方　充	船山誠義・福田耕三・高橋正宏・高橋包明・坂　元彦
	日本鋼管	佐治　豊	遠藤啓治・青木　昇・石川三郎・伊田真一・佐治　豊
	三菱重工・横浜造船所	高橋　進	上床　博・片岡弘道・高橋　進・岸　賢司・鈴木勝之・今岡俊邦・川北義正
	日立製作所・戸塚	田中　康元	田中康之・鈴木雅勝・霧生嘉知・吉田邦男・甘粕完治・新田　彬
千葉	船橋市役所	設楽　健男	中村修巳・中村　忠・田久保能久・長島一男・相川靖宣
	大日本インキ化学	内田　秀雄	内田秀雄・白井正隆・和気金治・北見恵一・三枝亮治
	木更津労基署		周東和之
	チッソ化学		清水暢彦
東京	石川島播磨重工	高橋　護	平塚　順・田村政己・高橋　護・水留寿孝・菅村好基・山水一郎
	日立・亀有	西沢　浅夫	鈴木勝治・有村英雄・篠崎勝太郎・小林正夫・沢田幹夫・鈴木雅之
	北辰電機製作所	千葉　正皓	黒崎二男・吉田　進・植田耕司・北脇重康・細野敏男・味蓼志郎・沓沢正欣・岩本務・藤村武夫
	電電東京	星野　忠男	星野忠男・井門鎮雄・富田　豊・沢田　力・鈴木幸春・田上十六・森谷喜久男・横倉良樹
	沖電気工業	堀田　実	鈴木義男・高谷　勇・田口長生・古沢　弘・坂内勝男

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
東　京	国際電気	森脇　籌夫	森脇籌夫・泊　茂夫・田島義正・酒井正雄・柳原常吉・佐藤正治・佐伯征夫・鈴木　潔
	河崎ラケット工業		堺　栄一・福井正康・河崎一幸
	山之内製薬		樋口健也・大沼忠儀・鈴木光一・近藤　進・古屋和正
埼　玉	日研化学	小川　浅夫	内藤　昭・井上泰年・石川二郎・吉田　司・角田　功・山口喜雄・佐藤忠男
群　馬	東京三洋電機	岩瀬　新午	土田　登・太田喜一郎・片倉　浩・大野考治・磯山文孝・岡崎敬一
	三ツ葉電機製作所	樹所　久男	西村順三・椎原邦雄・神林忠一・武井　司・面川　富
福　井	福井市役所	小野田幸夫	小野田幸夫・津田紀昭・大橋正武・宮下英夫・増永秀則・谷口憲一郎
	福井銀行	小鍛冶徳治	宮崎康恵・高木敏明・松下允巳・美奈見清隆
石　川	倉庫精練	田村　祥禰	中田吉昭・広川万亀夫・山本　武・納口正雪・室　　勉
	日本硬質陶器		林　久弥・木村光雄
	小松製作所・粟津	熊田　郁也	原　明弘・玉井　明・藤井信弘・杉本勝照・北野元男・長谷川久・浅田　稔
富　山	十條製紙・伏木	清水　　正	堺　三徳・大野幸雄・江守　清・山田昭夫
	不二越		川上洋一
新　潟	越後交通	小林　凡平	上村　貞・近藤　博・坂口登志雄・山崎明弘・飯塚達夫
山　形	両羽銀行	茂木　重蔵	井上明彦・高野　敦・小関正洋・吉住　昭・山口泰雄
北海道	札幌鉄道管理局	青山　繁樹	平沢啓裕・渋井　明・大石興徳・伊藤善夫・田中昭夫・福島智徳
愛　媛	愛媛大学	佐伯　光一	佐伯光一・仙波正彦・山西和行・森田照孝・新名静男
	住友化学・菊本	奥　　鶴美	野村清男・越智勤也・三苫孝一・矢島行雄・片上逸志・中村昌弘・安藤八郎
	住友化学・新居浜	近藤　忠徳	矢野　晃・豊島　進・神野恒信・福井久男・前田　斉・津吉哲郎・黒川俊宏・大島栄紀
	丸善石油・松山	池内　義夫	浜中　誠・松木信夫・白石卓夫・小林　晃・佐伯友正・妹尾与志文・幸野邦昭・池内義夫
	帝人・松山		西田尚平・林　泰彦
	電電四国		小笠原憲

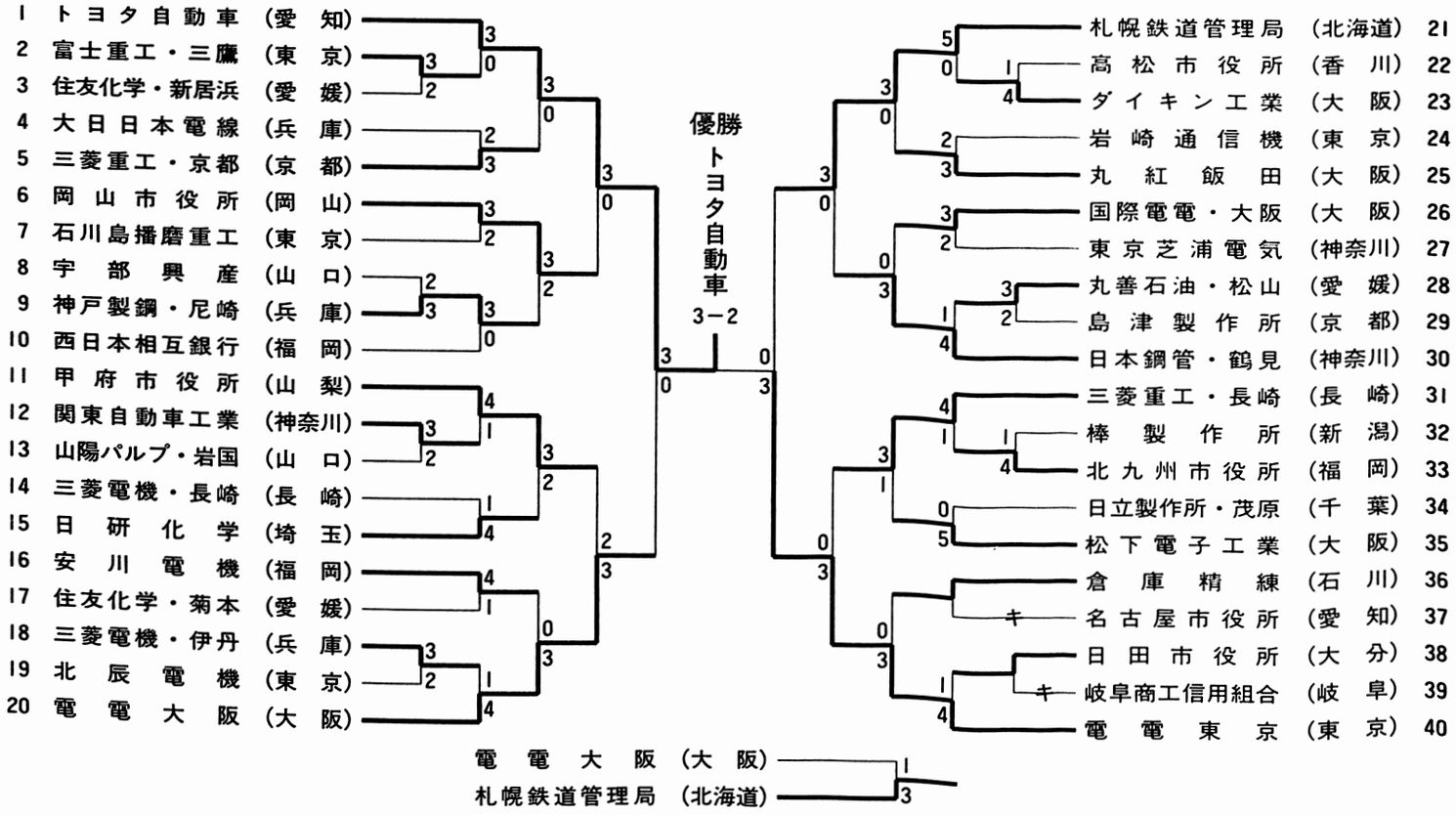
（女子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
福岡	西日本相互銀行	吉本　実	玉水典子・松崎栄子・松本貴久子・中牟田美都子
香川	高松琴平電鉄	有馬　正作	横井文子・森　久子・田島外茂子・宮武範子・山下由子・渡辺百合子
山口	山陽電軌		松村和美・江原敏子
岡山	岡山市役所		根岸　純・潟浅光枝
	倉敷レイヨン・岡山		小合佳子・重政百枝
兵庫	三菱電機・伊丹	北　義一	牧野芦子・福本一子・信田　都・伴野ヨシ子・岩田洋子
大阪	松下電子工業	矢田　直宏	宮川桂子・宮美佐子・潟浅千鶴子・吉田富子・吉井千代美
	丸紅飯田	広瀬　勝彦	平野泰子・浜田晴美・森田敦子・蛭川洋子
	電電大阪	池田　芳麻	花本順子・松木美代子・宮武久恵子・今田昌枝・金田依子
京都	日本レース	小堀　弘一	田辺正子・沖本寿美子・浅野リツ子・小崎美代子・小谷富美子
	三菱製紙・京都	武田駿之介	秋田梅枝・山川寛子・小森尹代・森川照美
	三菱重工・京都		林喜美子
愛知	トヨタ自動車	深津　豊	林　信子・土井三枝子・橘　妙子・粂田順子・和田昌代
	名古屋鉄道	後藤　守	井川ユキ子・渡辺幸子・山際トモ子・丹羽さよ子
神奈川	三菱重工・横浜		池田茂子・小野順子
千葉	日立製作所・茂原	高久　重剛	福山正子・鈴木信子・柴田芙美・佐瀬良子・江川絹子
東京	日立・亀有	西沢　浅夫	川森あい・福井光余・千葉尚慧・東田廸子・佐藤真貴子・沢田百代
	大丸・東京	飯野　秦央	遠山洋子・塩山貴子・小川智子・松本昭子
	石川島播磨重工	高橋　譲	小沢英子・秋山恵子・吉田則子・倉田芙美子
	電電東京	星野　忠男	秋山文子・有木とみ子・星野弘美・鈴木柳子・金藤貞子・鈴木　恵
	山之内製薬		形山一子・佐川和子
	沖電気工業		菊池テル子
群馬	三ツ葉電機製作所	樹所　久男	山崎明子・小林君子・高瀬里美・菊池勝子
富山	高岡市役所		河村和子
	金森藤平商店		室崎光子
新潟	柏崎市役所	中村　四郎	十玉チイ子・田辺礼子・関チズ子・綿貫幸子・前川和子・北村幸子
北海道	[illegible]		

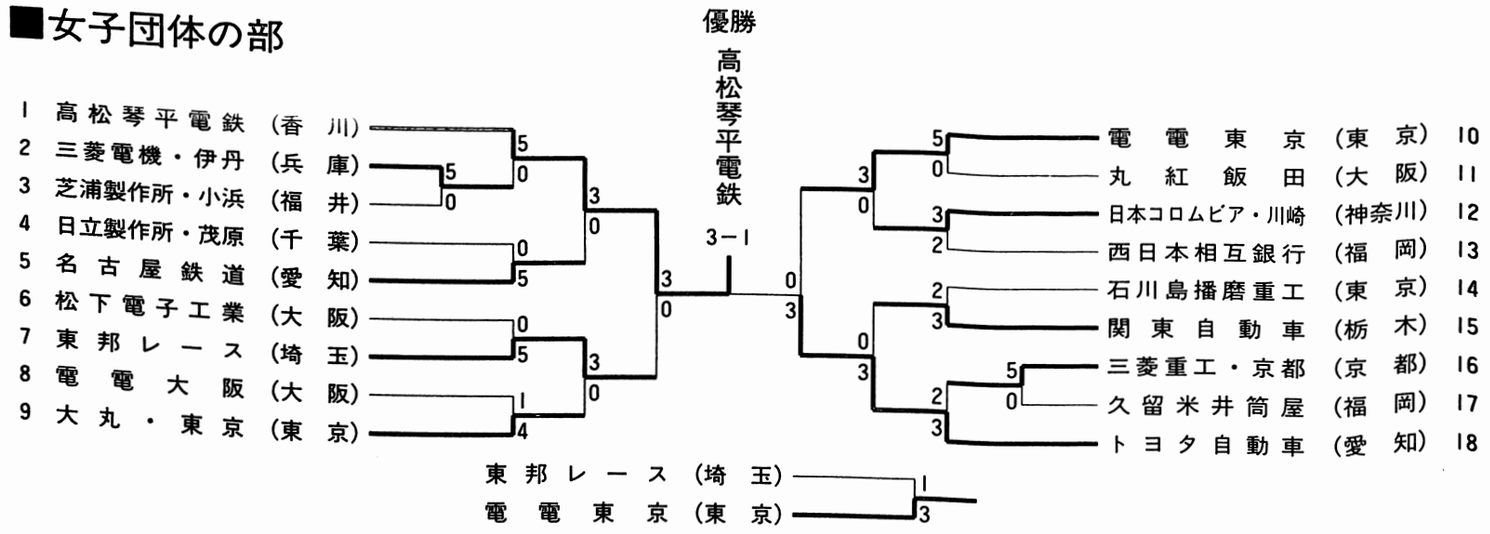
第15回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1965年(昭和40年)6月18～22日
開 催 地：福岡県北九州市
会　　場：北九州市立北九州大学体育館、
　　小倉体育館

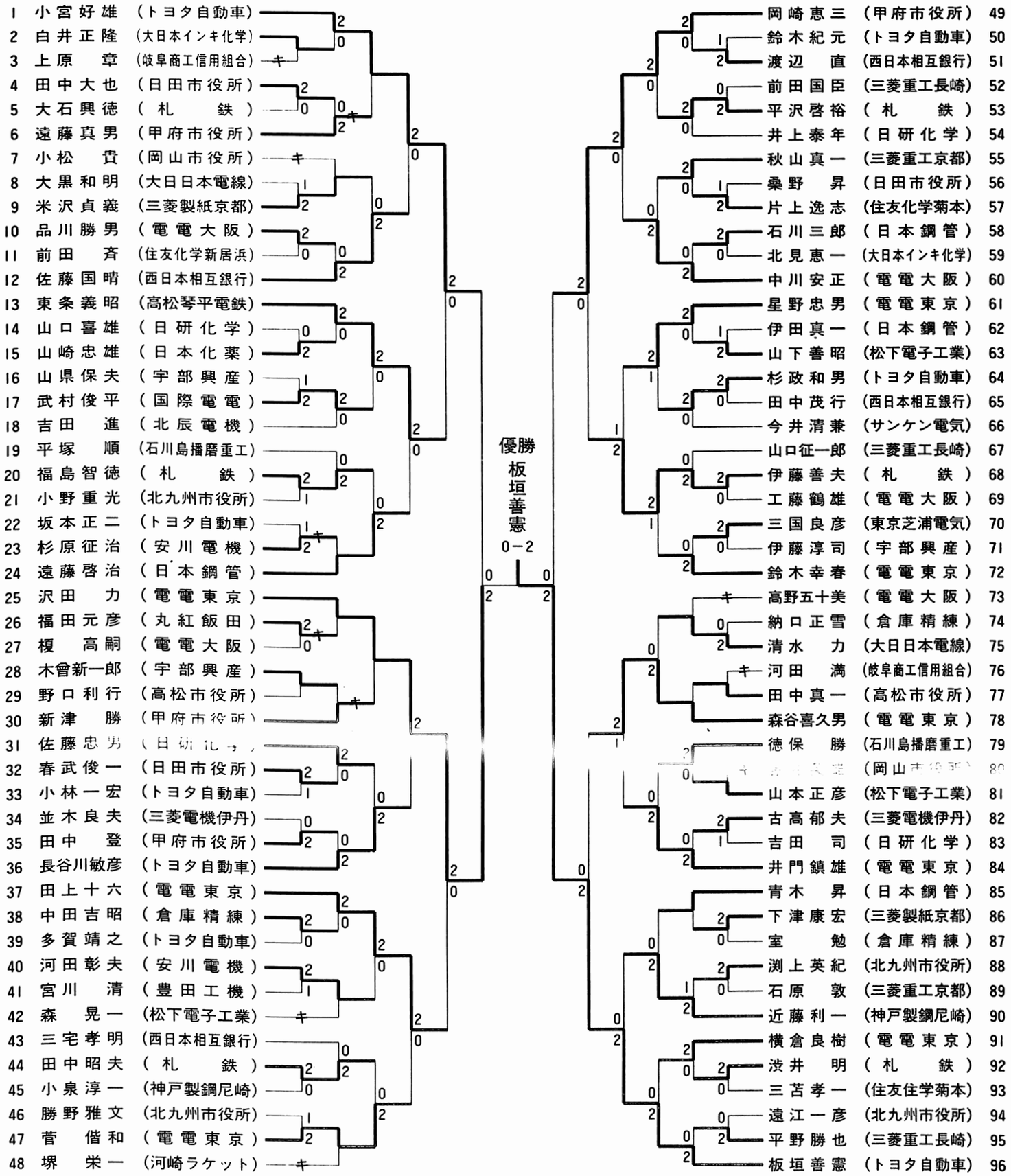
■男子団体の部



■女子団体の部

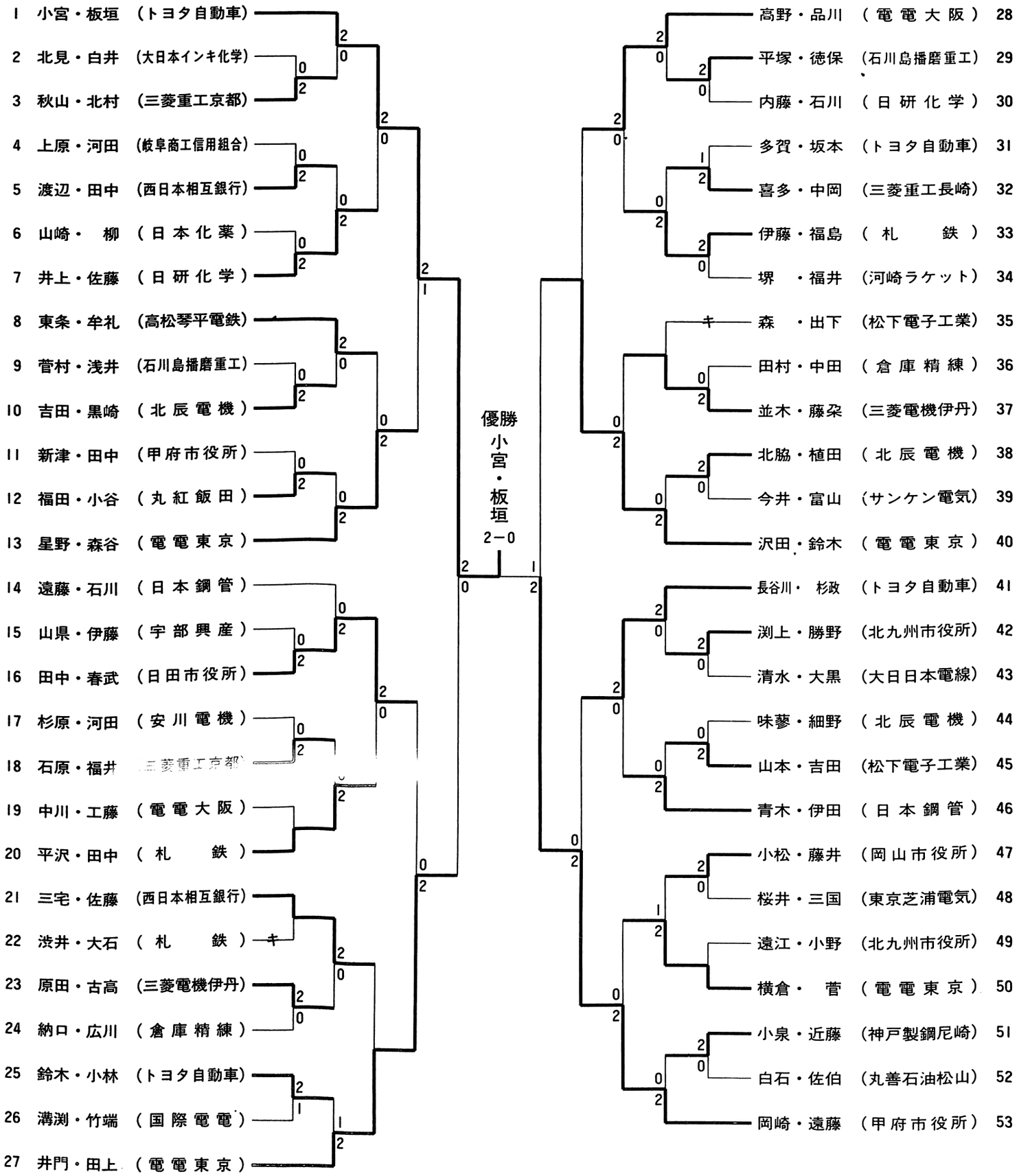


■男子単の部



小宮好雄 (トヨタ自動車) 2
岡崎恵三 (甲府市役所) 1

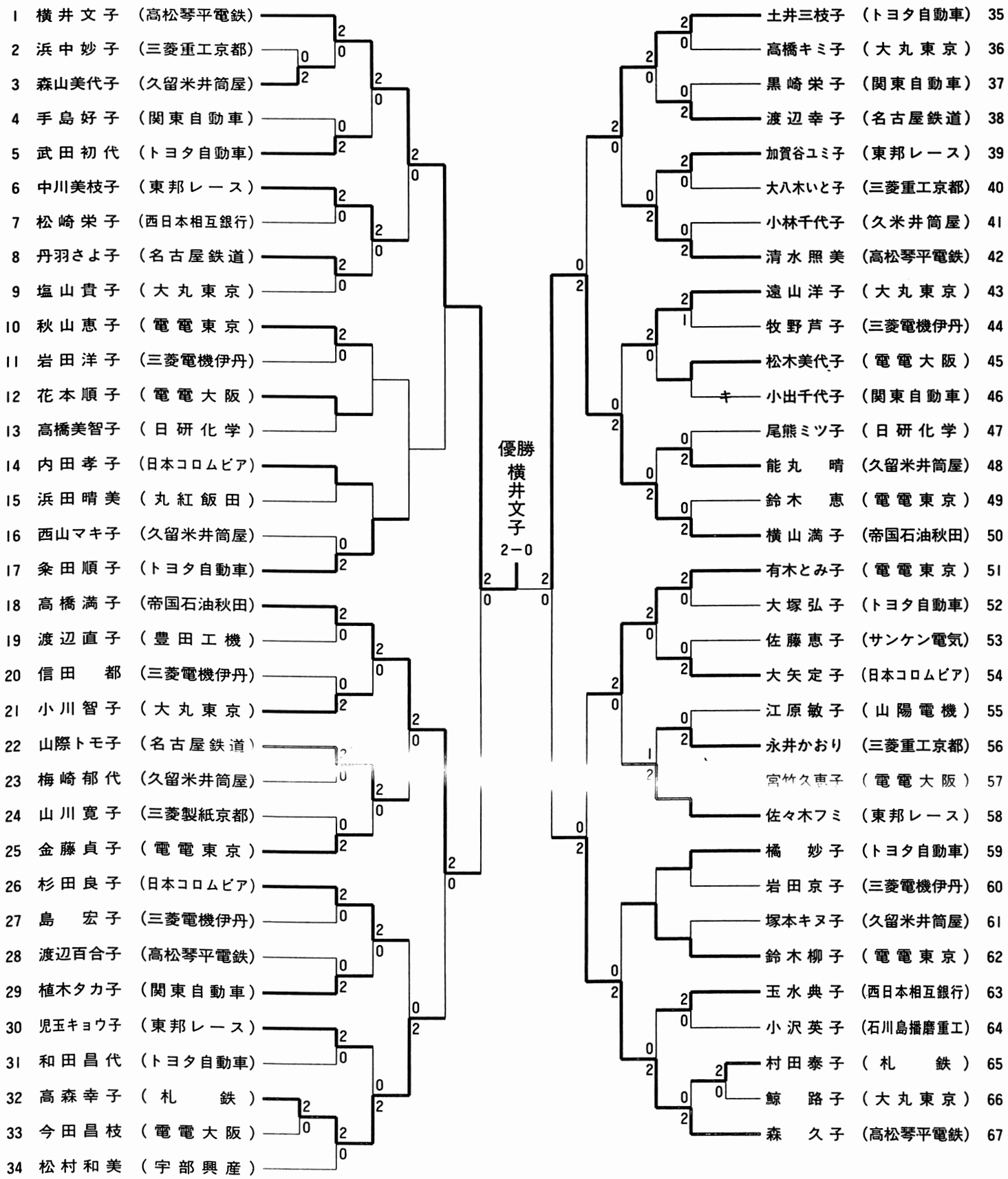
■男子複の部



井門・田上 （電電東京）

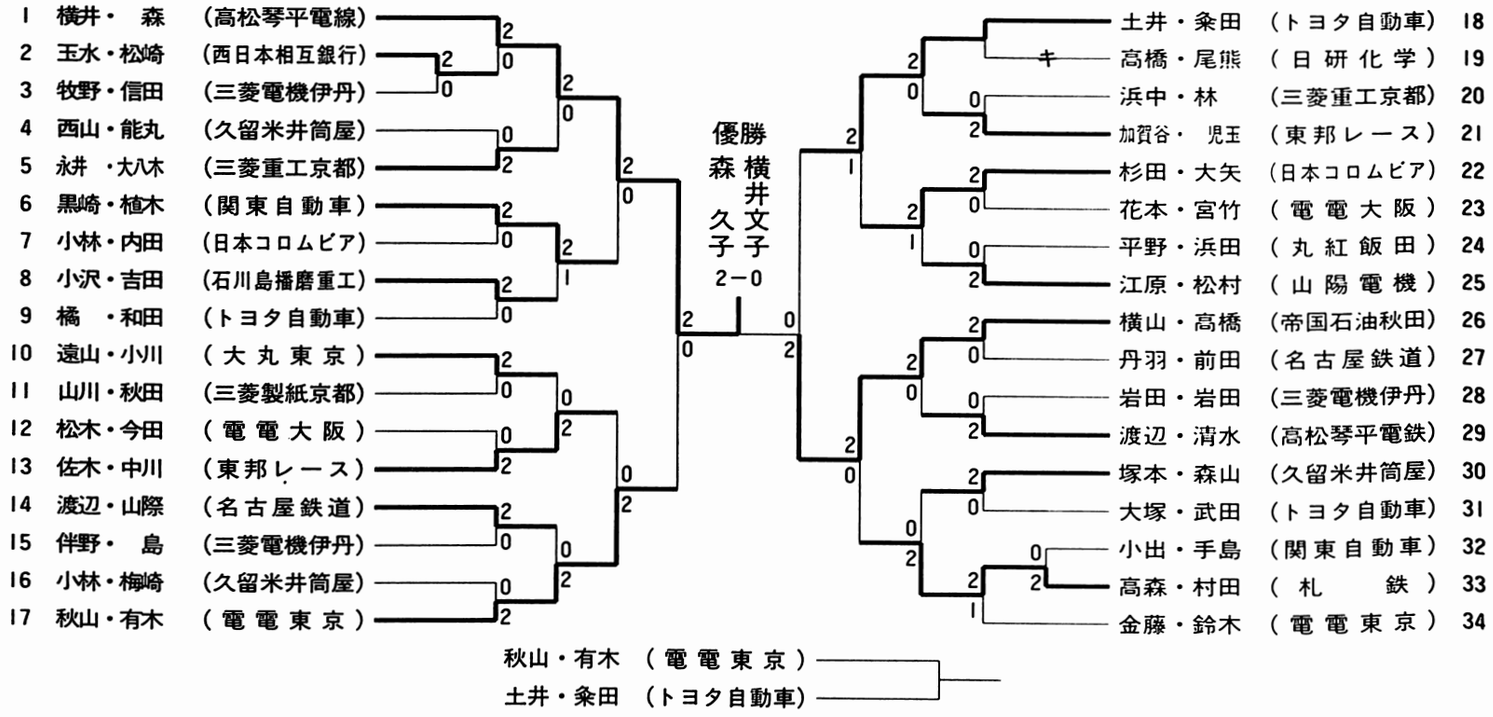
沢田・鈴木 （電電東京）

■女子単の部

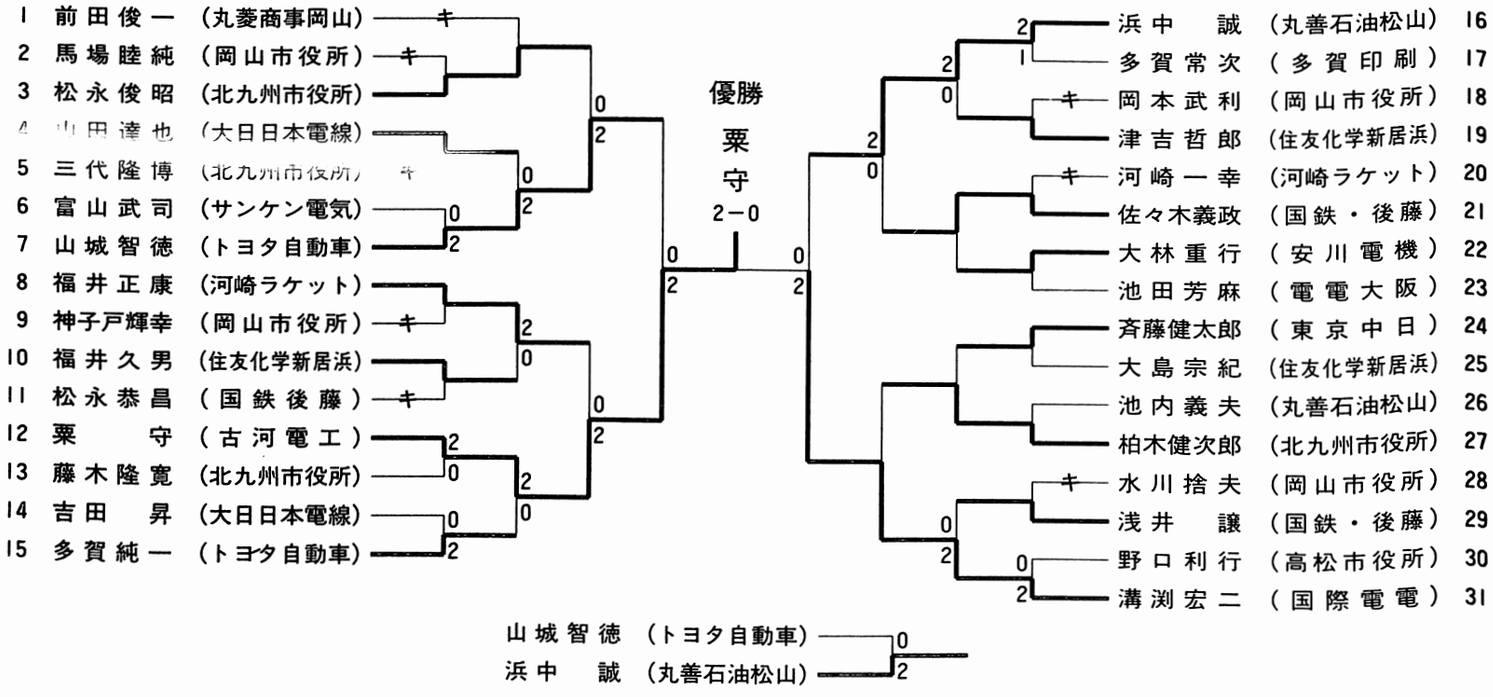


高橋満子 (帝国石油秋田) 0
森 久子 (高松琴平電鉄) 2

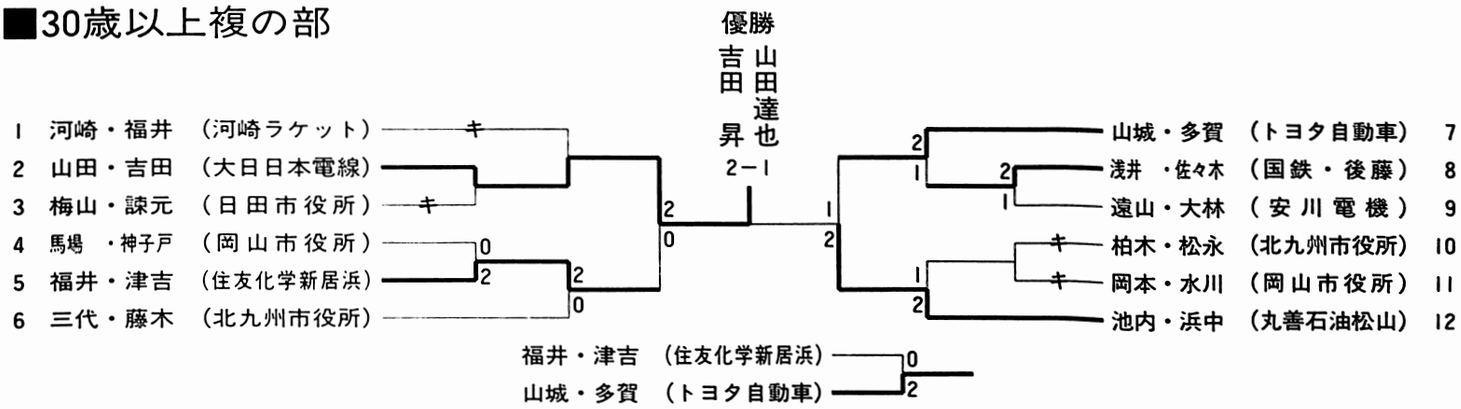
■女子複の部



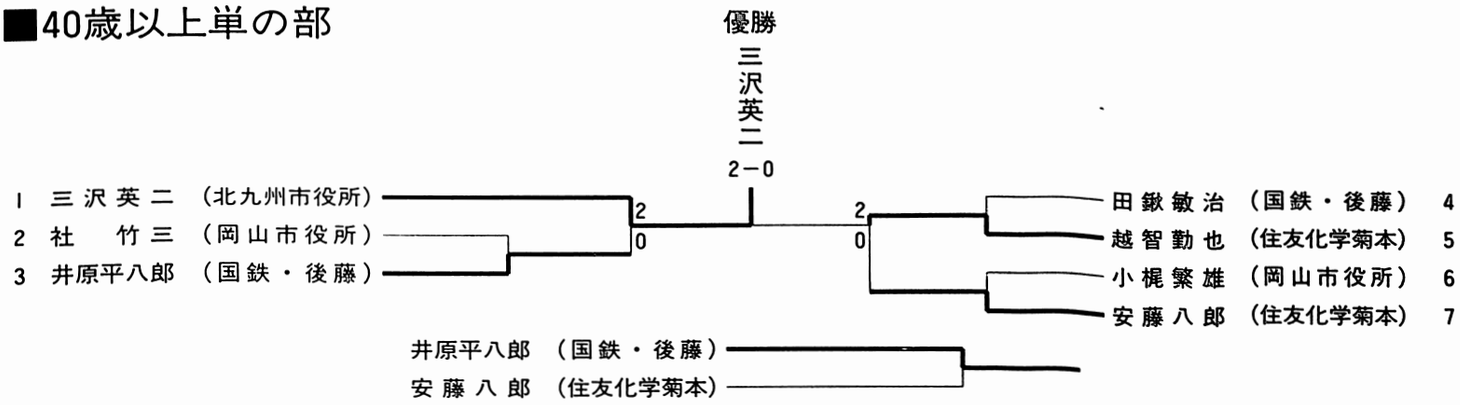
■30歳以上単の部



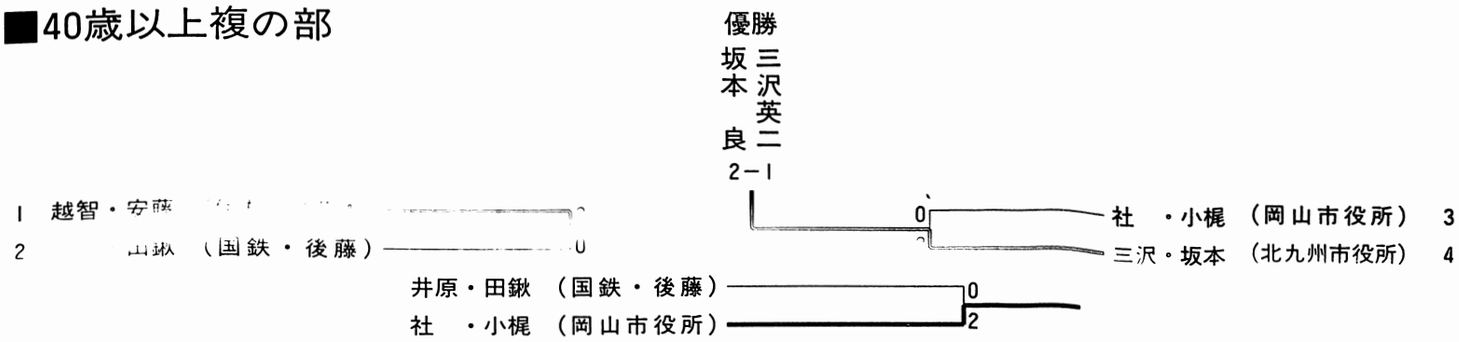
■30歳以上複の部



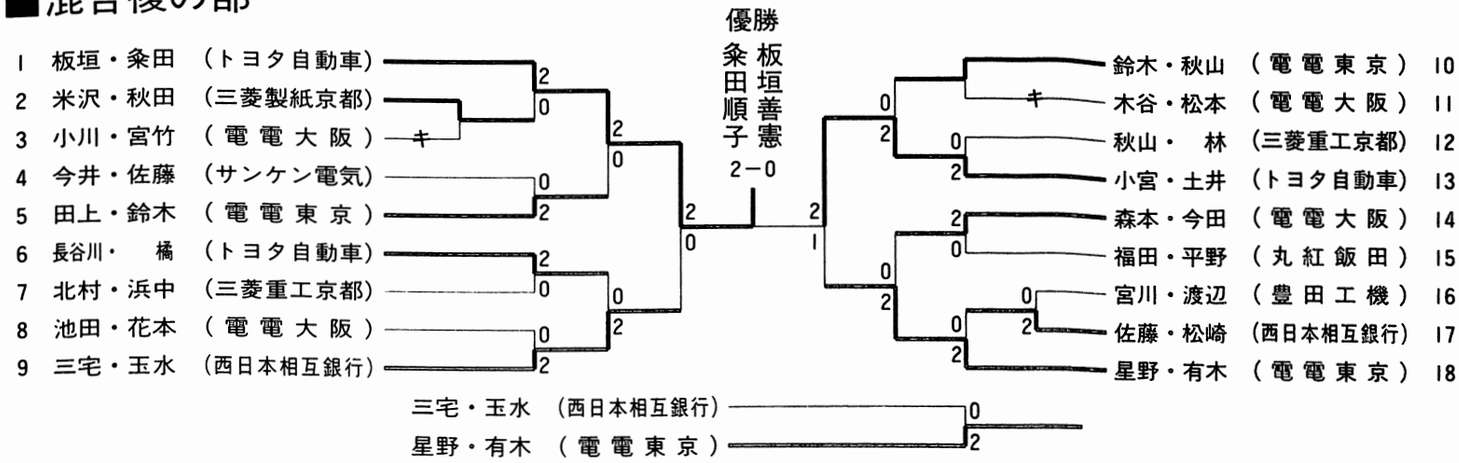
■40歳以上単の部



■40歳以上複の部



■混合複の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	札幌鉄道管理局	青山　繁樹	平沢啓裕・渋井　明・大石興徳・伊藤善夫・田中昭夫・福島智徳
新潟	捧製作所	捧　千松	捧　孝夫・小日山喜雄・捧　正夫・捧　博夫・捧　勇
山梨	甲府市役所	中林　昭一	遠藤真男・岡崎恵三・新津　勝・田中　登・村山一夫
石川	倉庫精練	田村　祥爾	田村祥爾・中田吉昭・山本　武・広川万亀夫・納口正雪・室　勉
千葉	日立製作所・茂原	川崎　和吉	川崎和吉・井上文仁・近藤　登・村上則夫・森澄健夫
	大日本インキ化学		北見恵一・白井正隆
埼玉	日研化学	小川　浅夫	内藤　昭・井上泰年・佐藤忠男・吉田　司・山口喜雄・石川二郎・角田　功
	サンケン電気		今井清兼・富山武司
東京	石川島播磨重工	高橋　誾	平塚　順・徳保　勝・菅村好基・水留寿孝・浅井秀男
	日本化薬		山崎忠雄・柳　久男
	岩崎通信機	丸田　圭二	丸田圭二・鶴岡秀瞭・高橋敏晴・島田信一・中瀬一義・宮入源治・森　宗高
	富士重工業・三鷹	松野　良一	笠原　勝・豊田栄一・足立孝雄・豊田吉男・星野善昭・古川　薫・水野　勉
	電電東京	星野　忠男	星野忠男・井門鎮雄・沢田　力・鈴木幸春・田上十六・森谷喜久男・横倉良樹・菅　偕和
	北辰電機製作所	北脇　重康	北脇重康・味蓼志郎・吉田　進・黒崎二男・植田耕司・細野敏男・藤村武夫
	中日東京		斉藤健太郎
	河崎ラケット		堺　栄一・福井正康・河崎一幸
神奈川	日本鋼管・鶴見製鉄所	岩田　三郎	遠藤啓治・青木　昇・石川三郎・伊田真一・磯貝泰史
	関東自動車工業	井上　忠久	池田昌弘・高橋宏之・鈴木宣昭・守屋孝夫・井上忠久
	東京芝浦電気	伊勢川芳長	久保川勝・桜井光雄・三国良彦・金丸賢市・山下高志・間辺安夫
岐阜	岐阜商工信用組合	田中　文一	翠　邦彦・上原　章・和田　明・河田　満
愛知	トヨタ自動車	山城　智徳	小宮好雄・板垣善憲・長谷川敏彦・鈴木紀元・杉政和男・小林一宏・多賀靖之・坂本正二 山城智徳・多賀純一
	名古屋市役所	伊藤　鉱一	加藤和男・渡辺順三・皆川英雄・水野輝彦・加藤正人・伊藤鉱一・渡辺泰竹
	豊田工機		宮川　清
京都	三菱重工業・京都	大志方敬寧	秋山真一・石原　敦・福井達雄・高宮梵之助・中尾政実・石田信行・北村稀一
	三菱製紙・京都		米沢貞義・下津康宏
	[illegible]	[illegible]	[illegible]・安川和正・田中　優・若村　登・加藤英昭・永谷祥三
大阪	松下電子工業	矢田　直宏	山下善昭・森　晃一・山本正彦・吉田　茂・畑部輝秀・落合　忍
	ダイキン工業		酒井　武・松本真一・中村昌二・中尾雄二・松岡　剛・倉田弘道・高橋正義
	丸紅飯田	村田　哲	広瀬勝彦・北村修一・福田元彦・小谷裕司
	国際電電・大阪	溝渕　宏二	武村俊平・竹端捷二・森　満樹・藤井靖雄・松浪鋭四郎・溝渕宏二
	電電大阪	池田　芳麻	榎　高嗣・高野五十美・工藤鶴雄・品川勝男・森本　務・木谷正美・小川正夫・池田芳麻 中川安正
兵庫	三菱電機・伊丹	荻野　一夫	浜口博信・立花宏昭・古高郁夫・原田　晥・並木良夫・藤朶邦彦・足立　誠
	神戸製鋼所・尼崎	青山　芳正	近藤利一・小泉淳一・森田俊治・竜円栄治・阿部一二三・栗原征夫・田中　至
	大日日本電線	小川　雄三	大黒和明・清水　力・佐野喜彦・胚座一利・山田達也・吉田　昇・中村邦宏
	古河電工		粟　守
岡山	岡山市役所	社　竹三	小松　貴・藤井英雄・馬場睦純・神子戸輝幸・岡本武利・社　竹三・小梶繁雄・大村安治 梶原恒彦・水川捨夫
	丸菱商事		前田俊一
鳥取	国鉄・後藤		井原平八郎・田鍬敏治・浅井　譲・佐々木義政・松永恭昌
山口	宇部興産	松村　哲幸	山県保夫・伊藤淳司・木曾新一郎・足立　男
	山陽パルプ・岩国	岡崎　修身	川岡　智・田原敏雄・河野耕司・山本　豊・林　厚志・宮岡康臣

県名	事業所名	監督名	選手名
香川	高松市役所	野口　利行	辻村栄一・遠藤　孝・谷本庄一・野口利行・横岡忠幸・田中真一
	琴平電鉄		東条義昭・牟礼　顕
愛媛	丸善石油・松山	池内　義夫	浜中　誠・松木信夫・白石卓夫・佐伯友正・小林　晃・妹尾与志文・幸野邦昭・池内義夫
	住友化学・新居浜	堀内　弘敏	豊島　進・福井久男・前田　斉・津吉哲郎・須山盾夫・大島宗紀・矢野　晃
	住友化学・菊本	奥　鶴美	越智勤也・三苫孝一・矢島行雄・片上逸志・中村昌弘・松井　哲・安藤八郎
大分	日田市役所	梶原　敬悟	梅山剛太郎・諫元慎一・桑野　昇・田中大也・春武俊一
長崎	三菱電機・長崎	木村俊三郎	江原　澄・山崎敏則・山市敏造・栄　信重・佐藤孝章
	三菱重工業・長崎造船所	島沢　優	喜多昭夫・中岡　洋・山口征一郎・吉田　豊・平野勝也・前田国臣・重松剛三
福岡	安川電機製作所	大林　重行	大林重行・遠山　励・杉原征治・河田彰夫・永島俊臣・百々信幸
	西日本相互銀行	吉木　実	星出秀昭・田中茂行・三宅孝明・渡辺　直・佐藤国晴
	北九州市役所	三沢　英二	三沢英二・渕上英紀・勝野雅文・遠江一彦・小野重光・藤木隆寛・坂本　良・松永俊昭 柏木健次郎・三代隆博
	多賀印刷所		多賀常次

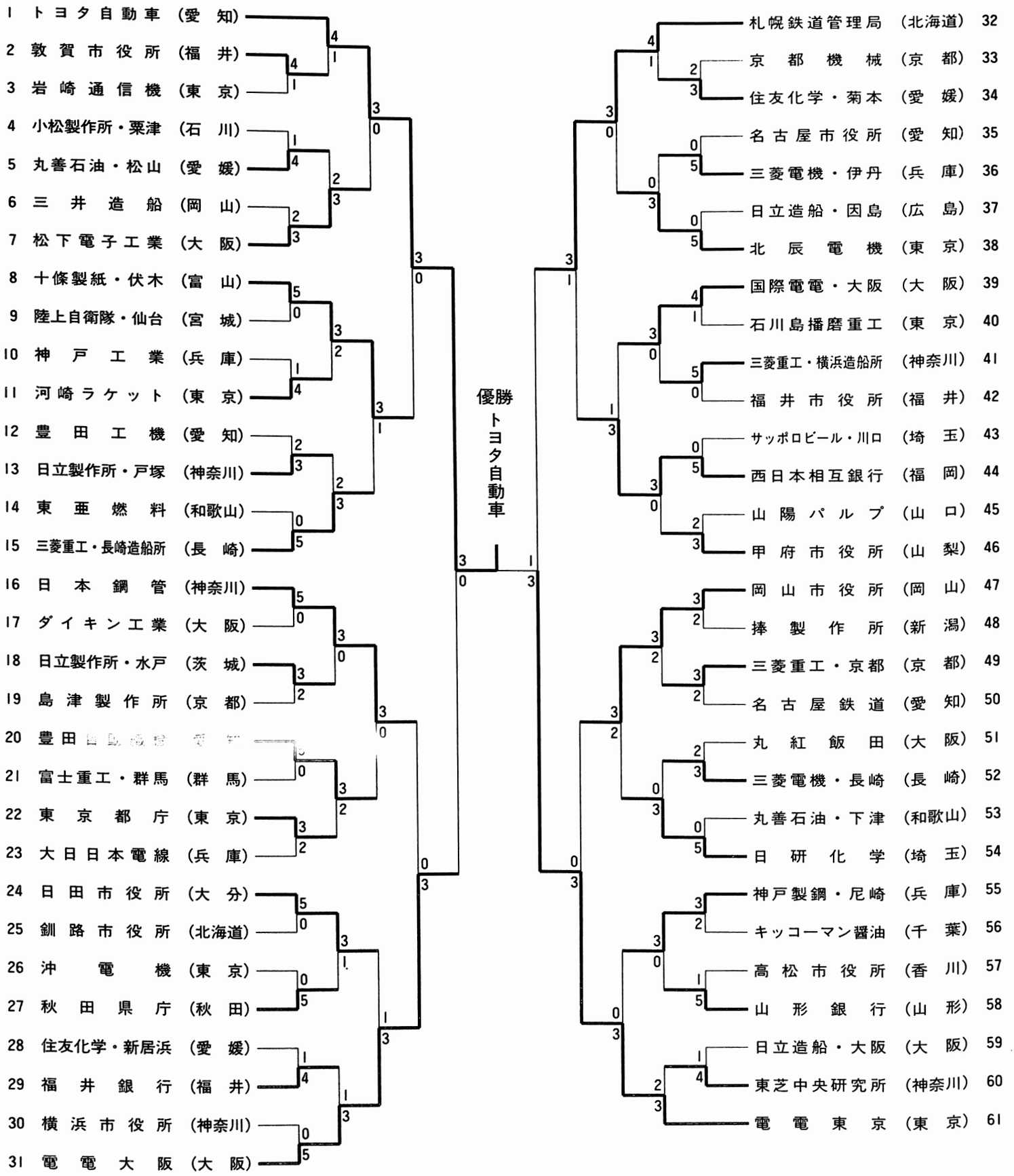
（女子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	札幌鉄道管理局		高森幸子・村田泰子
秋田	帝国石油・秋田		横山満子・高橋奉子
栃木	関東自動車	保坂　俊一	植木タカ子・手島好子・黒崎栄子・小出千代子・日向野和子
千葉	日立製作所・茂原	川崎　和吉	福山正子・柴田英美・江川絹子・鈴木美子
福井	芝浦製作所・小浜	石原　善美	長岡清子・野村雅子・芝崎加代子・倉谷潤子
埼玉	東邦レース	浅井　進一	佐々木フミ・中川美枝子・加賀谷ユミ子・児玉キョウ子
	日研化学		高橋美智子・尾熊ミツ子
	サンケン電気		佐藤恵子
東京	石川島播磨重工	高橋　護	秋山恵子・小沢英子・倉田芙美代・吉田則子
	大丸・東京	佐々木滋夫	遠山洋子・小川智子・塩山貴子・鯨　路子・高橋キミ子
	電電東京	星野　忠男	秋山文子・有木とみ子・鈴木柳子・金藤貞子・鈴木　恵
神奈川	[illegible]		[illegible]子・杉田良子・大矢定子・内田孝子
愛知	トヨタ自動車	深津　豊	土井三枝子・橘　妙子・[illegible]・林　信子
	名古屋鉄道	伊藤　義孝	渡辺幸子・山際トモ子・丹羽さよ子・前田香代子
	豊田工機		渡辺直子
京都	三菱重工・京都	秋山　真一	浜中妙子・林喜美子・永井かおり・大八木いと枝
	三菱製紙・京都		山川寛子・秋田梅枝
大阪	電電大阪	池田　芳麻	花本順子・松木美代子・宮竹久恵子・今田昌枝
	丸紅飯田	村田　哲	平野泰子・浜田晴美・森田敦子・蛭川洋子
	松下電子工業	矢田　直宏	湯浅千鶴子・吉井千代美・吉田富子・宮川桂子
兵庫	三菱電機・伊丹	北　義一	牧野芦子・信田　都・岩田洋子・伴野ヨシ子・岩田京子・島　宏子
山口	宇部興産		江原敏子・松村和美
香川	琴平電鉄	有馬　正作	横井文子・森　久子・渡辺百合子・清水照美
福岡	西日本相互銀行	吉木　実	玉水典子・松崎栄子・松本貴久子・中牟田美都子・小副川伸子
	久留米井筒屋	梶原　実	塚本キヌ子・小林千代子・能丸　晴・西山マキ子・森山美代子・梅崎郁代

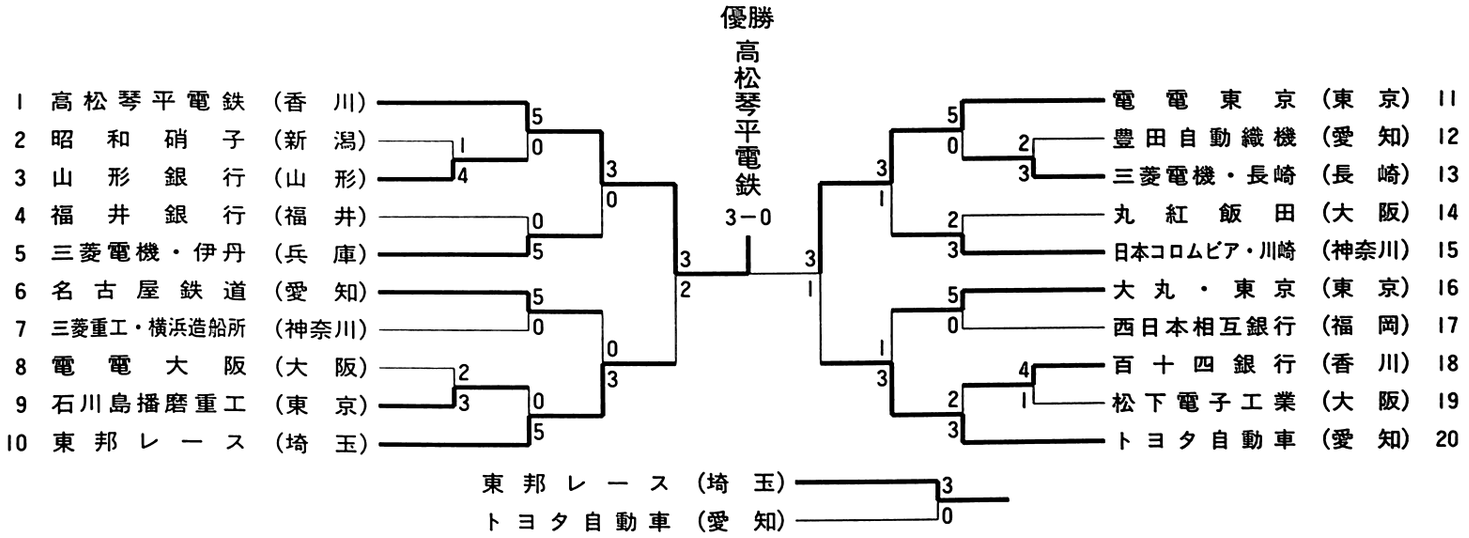
第16回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1966年(昭和41年)6月25～29日
開 催 地：大阪府大阪市
会　　場：大阪市中央体育館

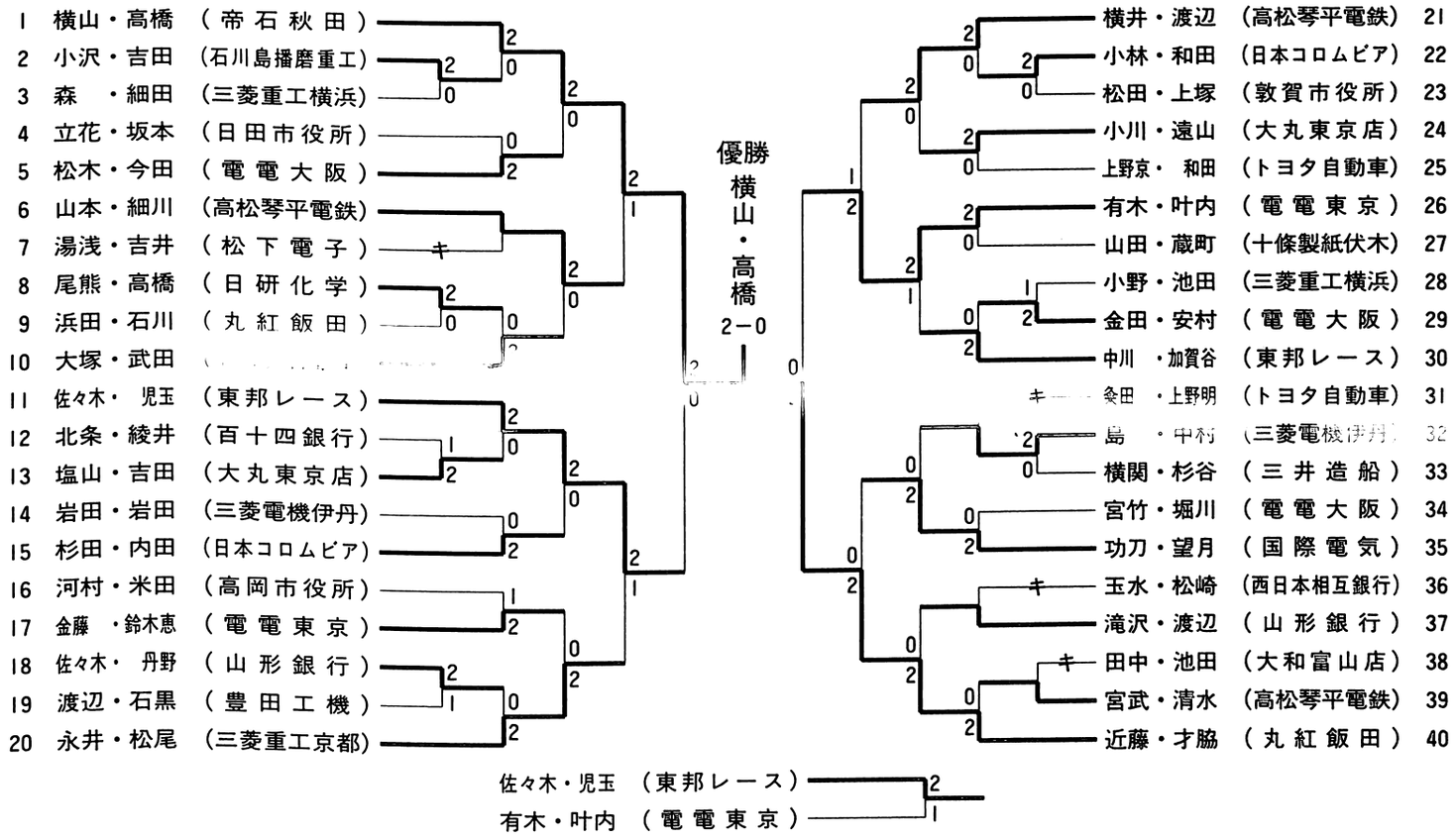
■男子団体の部



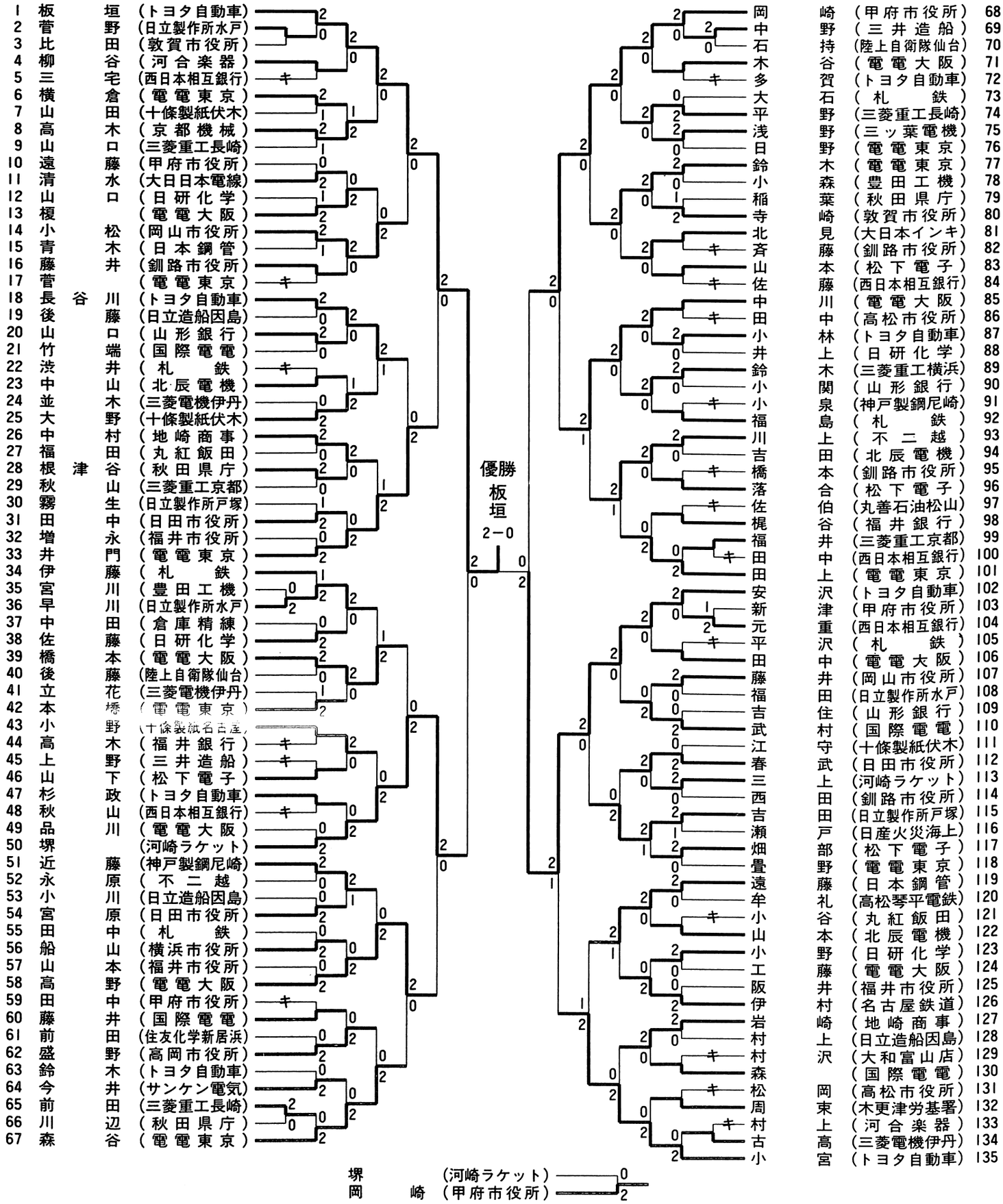
■女子団体の部



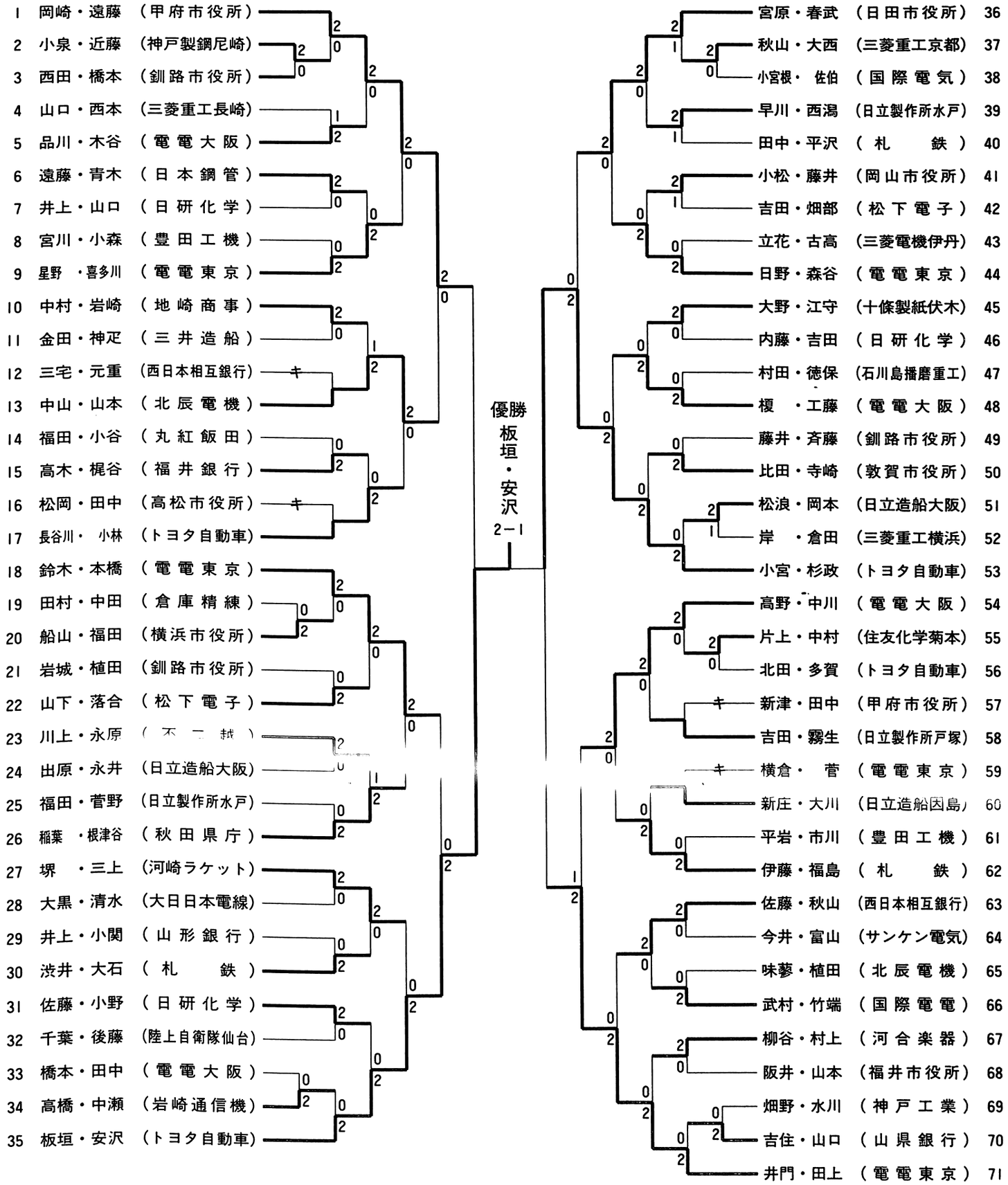
■女子複の部



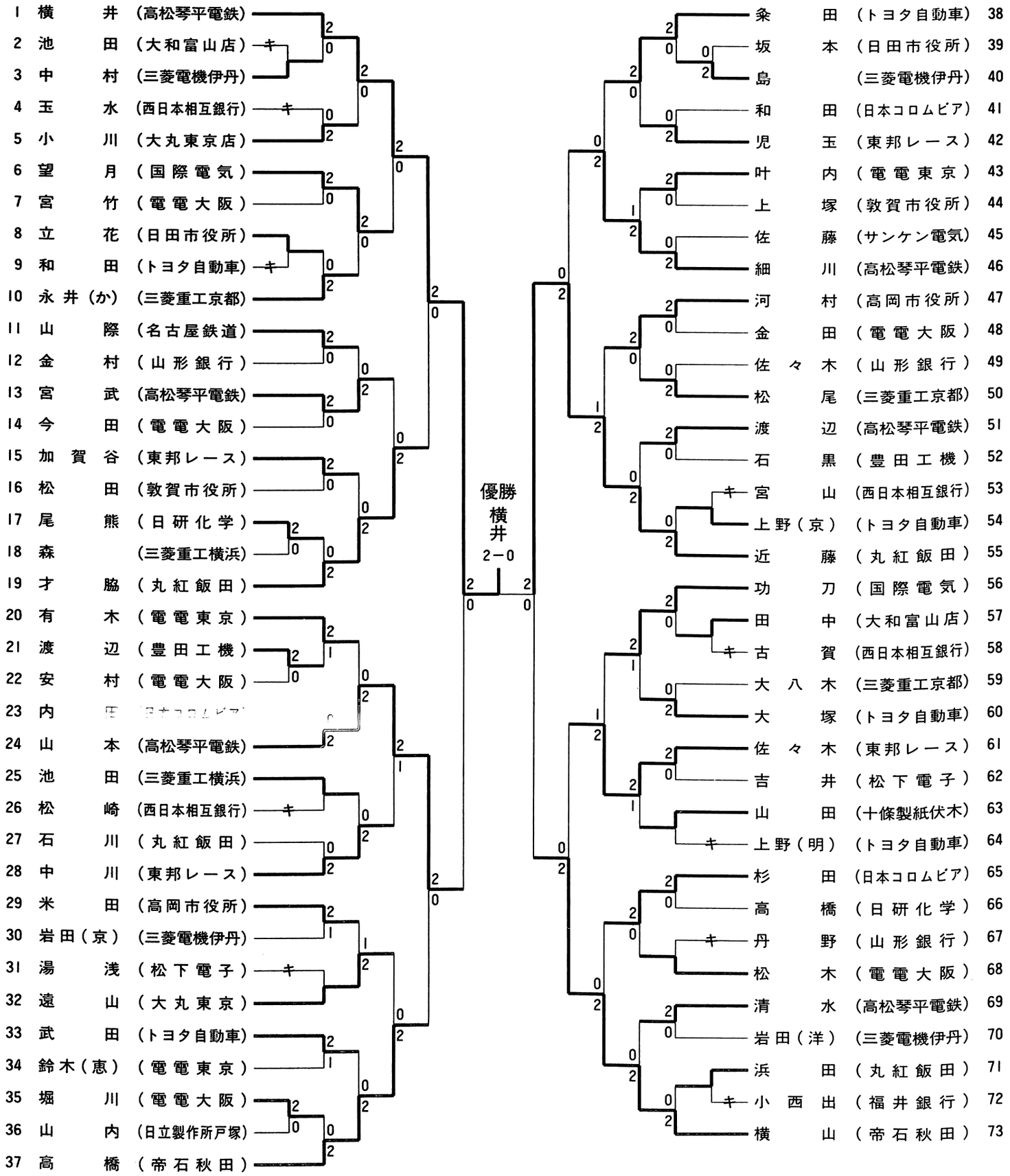
■男子単の部


1 板垣 (トヨタ自動車)
2 菅野 (日立製作所水戸)
3 比田 (敦賀市役所)
4 柳谷 (河合楽器)
5 三宅 (西日本相互銀行)
6 横倉 (電電東京)
7 山田 (十條製紙伏木)
8 高木 (京都機械)
9 山口 (三菱重工長崎)
10 遠藤 (甲府市役所)
11 清水 (大日日本電線)
12 山口 (日研化学)
13 榎本 (電電大阪)
14 小松 (岡山市役所)
15 青木 (日本鋼管)
16 藤井 (釧路市役所)
17 菅原 (電電東京)
18 長谷川 (トヨタ自動車)
19 後藤 (日立造船因島)
20 山口 (山形銀行)
21 竹端 (国際電電)
22 渋井 (札鉄)
23 中山 (北辰電機)
24 並木 (三菱電機伊丹)
25 大野 (十條製紙伏木)
26 中村 (地崎商事)
27 福田 (丸紅飯田)
28 根谷 (秋田県庁)
29 秋山 (三菱重工京都)
30 霧生 (日立製作所戸塚)
31 田中 (日田市役所)
32 増永 (福井市役所)
33 井門 (電電東京)
34 伊藤 (札鉄)
35 宮川 (豊田工機)
36 早川 (日立製作所水戸)
37 中田 (倉庫精練)
38 佐藤 (日研化学)
39 橋本 (電電大阪)
40 後藤 (陸上自衛隊仙台)
41 立花 (三菱電機伊丹)
42 本橋 (電電東京)
43 小野 (十條製紙名古屋)
44 高木 (福井銀行)
45 上野 (三井造船)
46 山下 (松下電子)
47 杉政 (トヨタ自動車)
48 秋山 (西日本相互銀行)
49 品川 (電電大阪)
50 堺 (河崎ラケット)
51 近藤 (神戸製鋼尼崎)
52 永原 (不二越)
53 小川 (日立造船因島)
54 宮原 (日田市役所)
55 田中 (札鉄)
56 船山 (横浜市役所)
57 山本 (福井市役所)
58 高野 (電電大阪)
59 田中 (甲府市役所)
60 藤井 (国際電電)
61 前田 (住友化学新居浜)
62 盛野 (高岡市役所)
63 鈴木 (トヨタ自動車)
64 今井 (サンケン電気)
65 前田 (三菱重工長崎)
66 川辺 (秋田県庁)
67 森谷 (電電東京)
優勝
板垣
2－0
岡崎 (甲府市役所) 68
中野 (三井造船) 69
石持 (陸上自衛隊仙台) 70
木谷 (電電大阪) 71
多賀 (トヨタ自動車) 72
大石 (札鉄) 73
平野 (三菱重工長崎) 74
浅野 (三ッ葉電機) 75
日野 (電電東京) 76
鈴木 (電電東京) 77
小森 (豊田工機) 78
稲葉 (秋田県庁) 79
寺崎 (敦賀市役所) 80
北見 (大日本インキ) 81
斉藤 (釧路市役所) 82
山本 (松下電子) 83
佐藤 (西日本相互銀行) 84
中川 (電電大阪) 85
田中 (高松市役所) 86
小林 (トヨタ自動車) 87
井上 (日研化学) 88
鈴木 (三菱重工横浜) 89
小関 (山形銀行) 90
稲泉 (神戸製鋼尼崎) 91
寺島 (札鉄) 92
北上 (不二越) 93
福田 (北辰電機) 94
川本 (釧路市役所) 95
吉合 (松下電子) 96
橋伯 (丸善石油松山) 97
落谷 (福井銀行) 98
佐井 (三菱重工京都) 99
梶中 (西日本相互銀行) 100
福上 (電電東京) 101
田沢 (トヨタ自動車) 102
田津 (甲府市役所) 103
安重 (西日本相互銀行) 104
新沢 (札鉄) 105
元中 (電電大阪) 106
平井 (岡山市役所) 107
田田 (日立製作所水戸) 108
藤住 (山形銀行) 109
福村 (国際電電) 110
吉守 (十條製紙伏木) 111
武武 (日田市役所) 112
江上 (河崎ラケット) 113
春田 (釧路市役所) 114
三田 (日立製作所戸塚) 115
西戸 (日産火災海上) 116
吉部 (松下電子) 117
瀬野 (電電東京) 118
畑藤 (日本鋼管) 119
畳礼 (高松琴平電鉄) 120
遠谷 (丸紅飯田) 121
牟本 (北辰電機) 122
小野 (日研化学) 123
小藤 (電電大阪) 124
工井 (福井市役所) 125
阪村 (名古屋鉄道) 126
伊崎 (地崎商事) 127
岩上 (日立造船因島) 128
村沢 (大和富山店) 129
村 (国際電電) 130
森 岡 (高松市役所) 131
松東 (木更津労基署) 132
周上 (河合楽器) 133
村高 (三菱電機伊丹) 134
古宮 (トヨタ自動車) 135
小
堺 (河崎ラケット) 0
岡崎 (甲府市役所) 2

■男子複の部

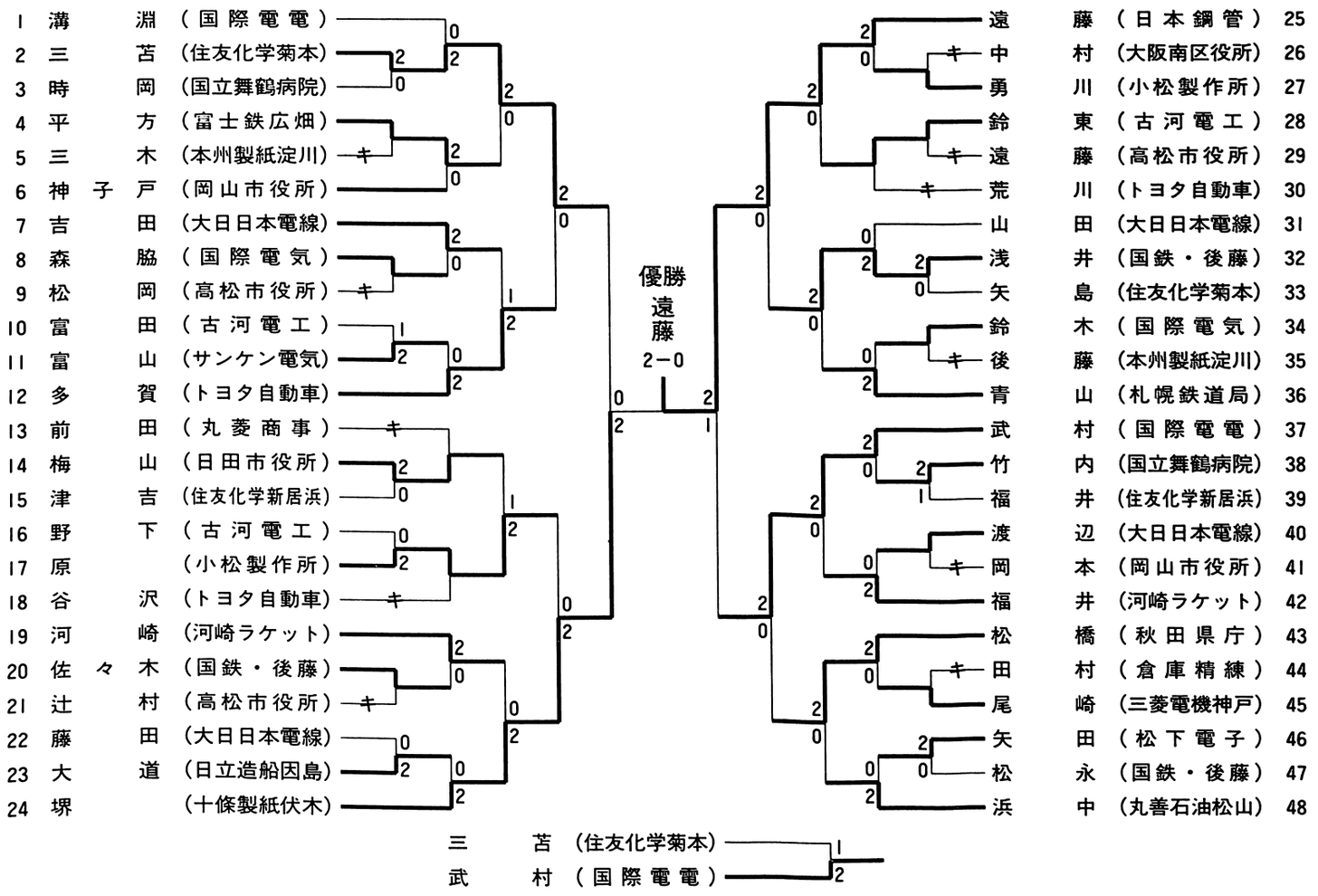

1 岡崎・遠藤 （甲府市役所）
2 小泉・近藤 （神戸製鋼尼崎）
3 西田・橋本 （釧路市役所）
4 山口・西本 （三菱重工長崎）
5 品川・木谷 （電電大阪）
6 遠藤・青木 （日本鋼管）
7 井上・山口 （日研化学）
8 宮川・小森 （豊田工機）
9 星野・喜多川 （電電東京）
10 中村・岩崎 （地崎商事）
11 金田・神疋 （三井造船）
12 三宅・元重 （西日本相互銀行）
13 中山・山本 （北辰電機）
14 福田・小谷 （丸紅飯田）
15 高木・梶谷 （福井銀行）
16 松岡・田中 （高松市役所）
17 長谷川・小林 （トヨタ自動車）
18 鈴木・本橋 （電電東京）
19 田村・中田 （倉庫精練）
20 船山・福田 （横浜市役所）
21 岩城・植田 （釧路市役所）
22 山下・落合 （松下電子）
23 川上・永原 （不二越）
24 出原・永井 （日立造船大阪）
25 福田・菅野 （日立製作所水戸）
26 稲葉・根津谷 （秋田県庁）
27 堺・三上 （河崎ラケット）
28 大黒・清水 （大日日本電線）
29 井上・小関 （山形銀行）
30 渋井・大石 （札鉄）
31 佐藤・小野 （日研化学）
32 千葉・後藤 （陸上自衛隊仙台）
33 橋本・田中 （電電大阪）
34 高橋・中瀬 （岩崎通信機）
35 板垣・安沢 （トヨタ自動車）
優勝
板垣・安沢
2－1
36 宮原・春武 （日田市役所）
37 秋山・大西 （三菱重工京都）
38 小宮根・佐伯 （国際電気）
39 早川・西潟 （日立製作所水戸）
40 田中・平沢 （札鉄）
41 小松・藤井 （岡山市役所）
42 吉田・畑部 （松下電子）
43 立花・古高 （三菱電機伊丹）
44 日野・森谷 （電電東京）
45 大野・江守 （十條製紙伏木）
46 内藤・吉田 （日研化学）
47 村田・徳保 （石川島播磨重工）
48 榎・工藤 （電電大阪）
49 藤井・斉藤 （釧路市役所）
50 比田・寺崎 （敦賀市役所）
51 松浪・岡本 （日立造船大阪）
52 岸・倉田 （三菱重工横浜）
53 小宮・杉政 （トヨタ自動車）
54 高野・中川 （電電大阪）
55 片上・中村 （住友化学菊本）
56 北田・多賀 （トヨタ自動車）
57 新津・田中 （甲府市役所）
58 吉田・霧生 （日立製作所戸塚）
59 横倉・菅 （電電東京）
60 新庄・大川 （日立造船因島）
61 平岩・市川 （豊田工機）
62 伊藤・福島 （札鉄）
63 佐藤・秋山 （西日本相互銀行）
64 今井・富山 （サンケン電気）
65 味藤・植田 （北辰電機）
66 武村・竹端 （国際電電）
67 柳谷・村上 （河合楽器）
68 阪井・山本 （福井市役所）
69 畑野・水川 （神戸工業）
70 吉住・山口 （山県銀行）
71 井門・田上 （電電東京）
井門・田上 （電電東京）
岡崎・遠藤 （甲府市役所）

■女子単の部

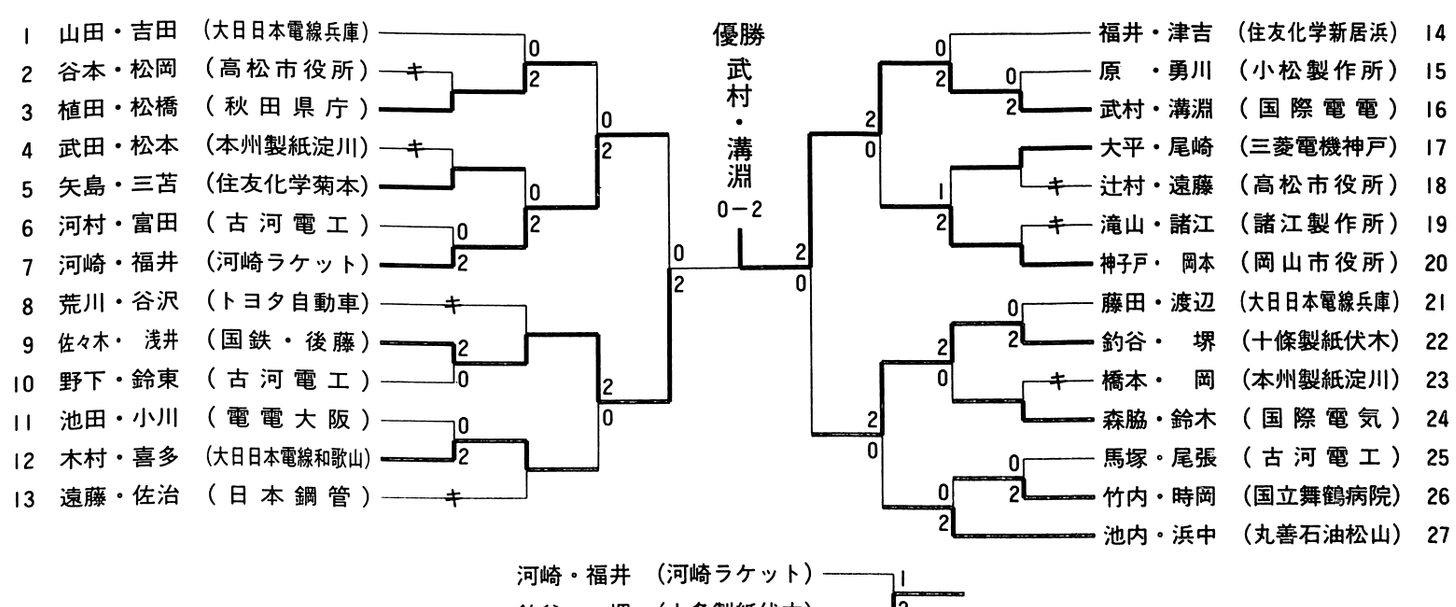


山本 (高松琴平電鉄) 0
横山 (帝石秋田) 2

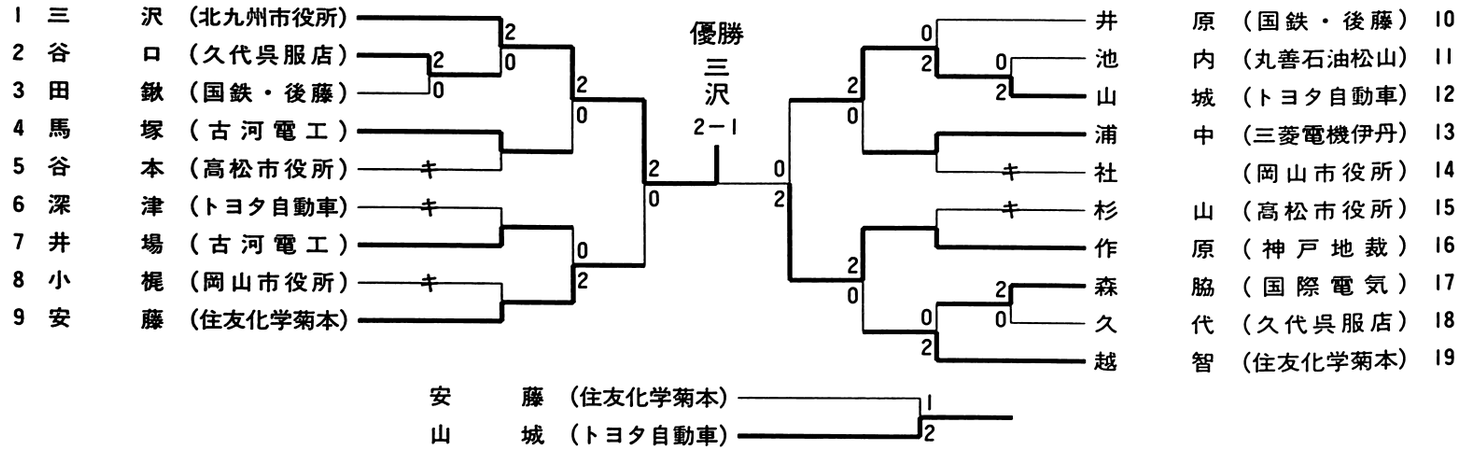
■30歳以上単の部



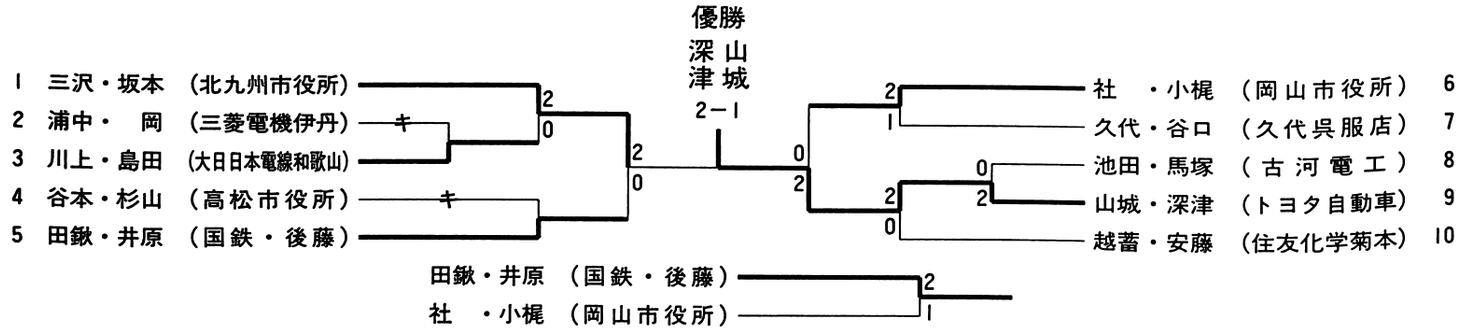
■30歳以上複の部



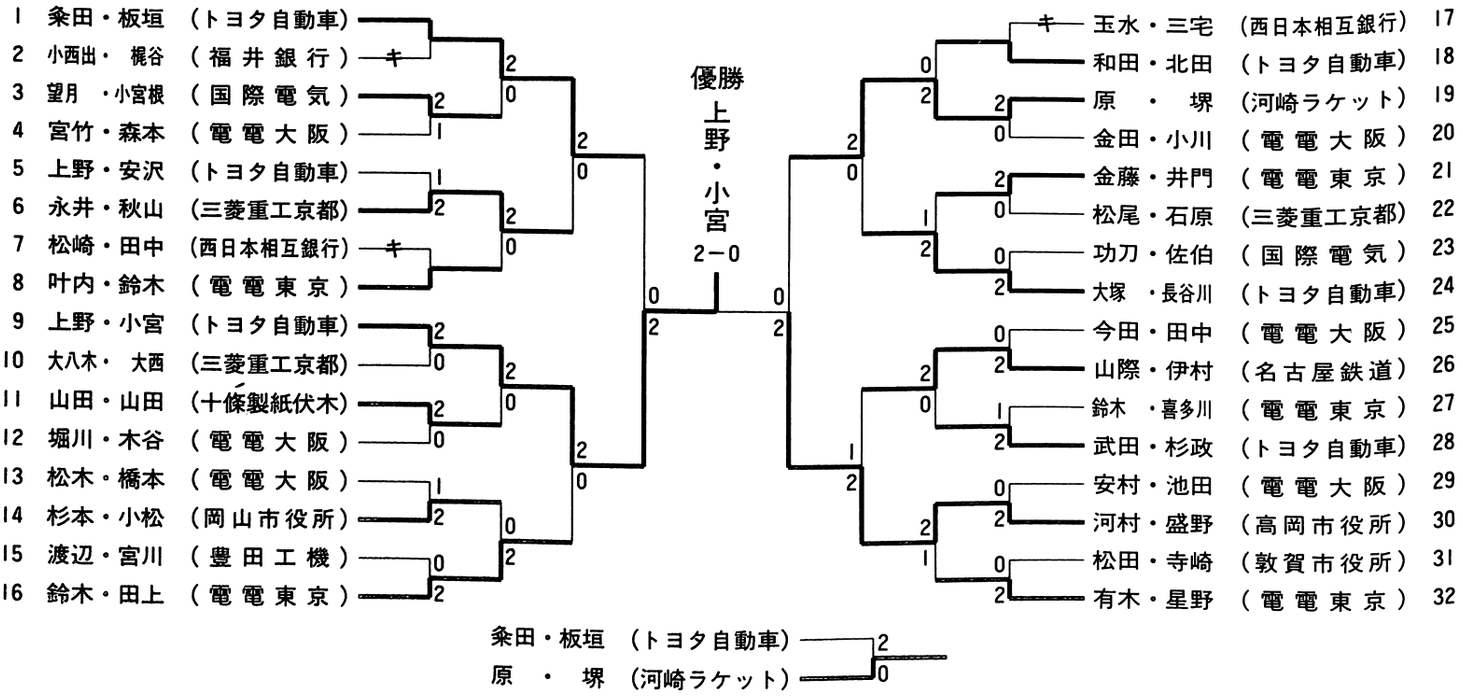
■40歳以上単の部



■40歳以上複の部



■混合複の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	釧路市役所	橋本　文雄	橋本文雄・斉藤英樹・岩城正良・藤井達也・西田昭紘・植田直治・滝山政徳
	札幌鉄道管理局	青山　繁樹	平沢啓裕・渋井　明・大石興徳・伊藤善夫・田中昭夫・福島智徳・青山繁樹
	札幌地崎商事		岩崎昭郎・中村富光
	河合楽器・苫小牧		柳谷　充・村上和己
秋　田	秋田県庁	植田　　昇	松橋　裕・川辺正勝・稲葉順二郎・根津谷礼蔵・植田　昇・吉田　昭
宮　城	陸上自衛隊・仙台	千葉　信次	千葉信次・千葉正喜・鈴木　務・後藤忠宏・石持亘一
山　形	山形銀行	庄司　康男	茂木重蔵・小関正洋・吉住　昭・渡部兼雄・山口泰雄
茨　城	日立製作所・水戸	最上　良治	早川　博・福田喜代志・菅野正勝・西潟秀男・石坂文男・越智重夫・宇和　慧
新　潟	捧製作所	捧　　千松	捧　孝夫・小日山喜雄・捧　正夫・小松繁男・捧　　勇
	日産火災海上		瀬戸正広
千　葉	キッコーマン醤油	遠藤　正春	永沢　勇・鈴木伸明・近藤久樹・島村孝一・中田佐俊
	大日本インキ		北見恵一
	木更津労基署		周東和之
群　馬	富士重工・群馬	大谷　浩男	大谷浩男・渡辺晃一・山形　武・佐藤喜則・畑　　勲
	三ツ葉電機製作所		浅野佳夫
埼　玉	サッポロビール・川口	菅原　　誠	菅原　誠・佐藤功司・荻原政明・野口祐典・向後正明
	日研化学	横井　初夫	内藤　昭・井上泰年・佐藤忠男・吉田　司・山口喜雄・小野玲穂
	サンケン電気		今井清兼　富山武司
東　京	東京都庁	斉藤　圭市	斉藤信行・折井富雄・佐藤和夫・鈴木　勇・高橋秀男・小原重信・鈴木　蕃
	電電東京	星野　忠男	星野忠男・井門鎮雄・鈴木幸春・田上十六・森谷喜久男・本橋平八・日野泰三・横倉良樹 菅　偕和・喜多川広
	沖電気工業	堀田　　実	鈴木義男・坂内勝男・佐藤彦次郎・堀田　実・田口長生
	北辰電機製作所	北脇　重康	北脇重康・味蓼志郎・植田耕司・中山広明・山本洋彦・吉田　進・黒崎二男
	岩崎通信機	丸田　圭二	高橋敏晴・島田信一・中瀬一義・森　宗高・丸田圭二
	河崎ラケット	福井　正康	河崎一幸・福井正康・堺　栄一・小林敏男・堀田邦彦・三上　勇
	石川島播磨重工	平塚　　順	水留寿孝・徳保　勝・村田俊夫・菅村好基・平塚　順・原　　功・田村正己
	国際電気		森脇篝夫・鈴木　潔・小宮根塘・佐伯正夫
神奈川	日本鋼[illegible]	[illegible]	[illegible]・青木　昇・伊田慎一・石川三郎・磯貝泰史・広中忠男・佐治　豊
	東芝・中央研究所	桜井　光夫	桜井光雄・三国良彦・山下尚志・伊藤武彦・[illegible]
	三菱重工・横浜造船所	片岡　弘道	鈴木勝之・岸　賢司・倉田豊三郎・今関俊邦・片岡弘造
	日立製作所・戸塚	田中　康之	富田健一・吉田邦男・霧生嘉知・鈴木雅勝・松本則夫・甘粕完治・間島一良
	横浜市役所	土方　　充	船山誠義・高橋正宏・福田耕三・内田久也・福士博美
山　梨	甲府市役所	古谷　利夫	古谷利夫・依田勝充・遠藤真男・岡崎恵三・新津　勝・田中　登
富　山	十條製紙・伏木	釣谷　友一	釣谷友一・堺　三徳・大野幸雄・江守　清・山田昭夫
	不二越		川上洋一・永原昌雄
	高岡市役所		盛野博之
	大和富山店		村沢吉雄
石　川	小松製作所・粟津	原　　明弘	原　明弘・勇川　隼・玉井　明・藤井信弘・北野元男・杉本勝昭
	倉庫精練		中田吉昭・田村祥弥
福　井	福井銀行	小鍛治徳治	宮崎康恵・高木敏朗・松下允巳・美奈見清隆・指岡謙治・松井新二・梶谷将人
	福井市役所	小野田幸夫	津田紀昭・大橋正武・増永秀則・阪井範行・山本敏彦
	敦賀市役所	野崎　隆夫	山本　聡・比田庄衛・寺崎由雄・坪内茂雄

県名	事業所名	監督名	選手名
愛知	名古屋市役所	上野　悌司	渡辺泰竹・加藤和男・伊藤鉱一・皆川英雄・成田寿夫・水野輝彦・渡辺順三
	トヨタ自動車	深津　豊	小宮好雄・板垣善憲・長谷川敏彦・安沢武司・杉政和男・小林一宏・多賀靖之・鈴木紀元 多賀純一・荒川司郎・谷沢経次・山城智徳・深津　豊・北田寛一
	名古屋鉄道	後藤　守	高橋勝己・伊村　隆・沢　恒忠・長屋敏明・後藤　守・伊藤勝也・伊藤昭司
	豊田自動織機	上原　信彦	西川幸男・深井忠男・武田正雄・小山　勇
	豊田工機	柘植　智博	柘植智博・宮川　清・小森敏郎・藤岡節男・佐伯外興昭・平岩文雄・市川幸二
	十條製紙・名古屋		小野勝洋
京都	三菱重工・京都	大志万敬寧	秋山真一・石原　敦・大西秀信・福井達雄・豊田耕造・高宮梵之助・石津正明
	京都機械	八木　清行	山崎実男・高木金次・田中　昭・亀井義幸
	島津製作所	野村　嘉明	和田正高・田中　優・安川和正・加藤英昭・若林　登・永谷祥三
	国立舞鶴病院		竹内　進・時岡俊幸
	久代		久代貫三郎・谷口房治
和歌山	東亜燃料	永広　利之	水谷哲雄・笹谷　猛・宮岡　昭・東山　勲・田中　務・片岡正一
	丸善石油・下津	河村　幸一	尾崎成雄・西尾元佑・橋本延行・今井勝昭・北野嘉克・宮本敬三・南村嘉男
	大日日本電線		木村隆清・喜多勝彦・川上晴夫・島田公雄
兵庫	神戸工業	畑野　正道	畑野正道・水川正彦・原野吾郎・鈴木康祐
	神戸製鋼・尼崎	斉藤　信幸	竜円栄治・小泉淳一・近藤利一・森田俊治・浜野　孝・栗原征夫・田中　至
	大日日本電線	藤田　昇	清水　力・吉田　昇・大黒利明・豚座一利・中村邦宏・佐野嘉彦・山田達也・渡辺浩一・藤田昇
	三菱電機・伊丹	荻野　一夫	立花宏昭・原田　晄・古高郁夫・並木良夫・藤朶邦彦・浜口博信・浦中朝一・岡　久雄
	富士鉄・広畑		平方　進
	三菱電機・神戸		尾崎惟信・大平和三
	神戸地方裁判所		作原好二
	古河電工		井場政夫・馬塚邦彦・富田　進・野下日出春・鈴東静美・池田　治・河村禎夫・尾張孝雄
岡山	岡山市役所	社　竹三	小松　貴・藤井英雄・大村恭三・滝本幸広・神子戸輝幸・馬場睦純・岡本武利・社　竹三
	三井造船	虻江　優	若松康弘・金田　孝・神疋和利・上野輝治・中野芳和
	丸菱商事		前田俊一
鳥取	[illegible]		渡井　譲・松永恭昌・井原平八郎・田鍬敏次・佐々木義政
広島	日立造船・因島	高橋　勇	大道秀夫・新庄啓三・村上祥三・大川嘉昭・小川賢三・後藤庄平
山口	山陽パルプ	岡崎　修身	岡崎修身・田原敏雄・川岡　智・河野耕司・室井勝夫・宮岡康臣・林　厚志・田原英夫
香川	高松市役所	杉山　富雄	辻村栄一・遠藤　孝・松岡利行・田中真一・谷本庄一・杉山富雄
	高松琴平電鉄		牟礼　顕
愛媛	丸善石油・松山	浜中　誠	浜中　誠・松木信夫・白石卓夫・佐伯友正・幸野邦昭・池内義夫・重松典正
	住友化学・新居浜	大図　敏雄	福井久男・津吉哲郎・矢野　晃・前田　斉・須山盾夫・佐々木孝・宮坂博文
	住友化学・菊本	奥　鶴美	越智勤也・三苫孝一・矢島行雄・片上逸志・中村昌弘・石田要一郎・安藤八郎
福岡	西日本相互銀行	吉木　実	田中茂行・三宅孝明・佐藤国晴・秋山晴一・元重邦博
	北九州市役所		三沢英二・坂本　良
大分	日田市役所	梶原　敬伍	田中大也・春武俊一・宮原秀三・梅山剛太郎
長崎	三菱電機・長崎	木村俊三郎	江原　澄・山崎敏則・山市敏造・栄　信重・江口忠道
	三菱重工・長崎造船所	西本　勝	喜多昭夫・中岡　洋・山口征一郎・吉田　豊・平野勝也・前田国臣・山口敏弘・西本　勝
大阪	丸紅飯田	村田　哲	北村修一・広瀬勝彦・福田元彦・小谷祐司
	ダイキン工業	吉川健太郎	酒井　武・松本真一・松岡　剛・高橋正義・倉田弘道
	国際電電・大阪	松浪鋭四郎	武村俊平・森　満樹・藤井靖雄・竹端捷次・溝淵宏二・松浪鋭四郎
	松下電子工業	大滝　武和	畑部輝秀・山下善昭・山本正彦・吉田　茂・落合　忍・村田一雄・森　晃一・矢田直宏

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
大　阪	電電大阪	森本　　務	高野五十美・桜　高嗣・中川安正・工藤鶴雄・品川勝男・木谷正美・橋本　修・田中啓文 池田芳麻・小川正夫・森本　務
	日立造船・大阪	藤本　　正	出原武雄・松浪信治・岡本文夫・永井正男・町田正人・賀戸忠春・保田康充
	本州製紙・淀川		後藤敏雄・三木　清・橋本正治・岡　　徹・武田貞信・松本　勲
	南区役所		中村　勝

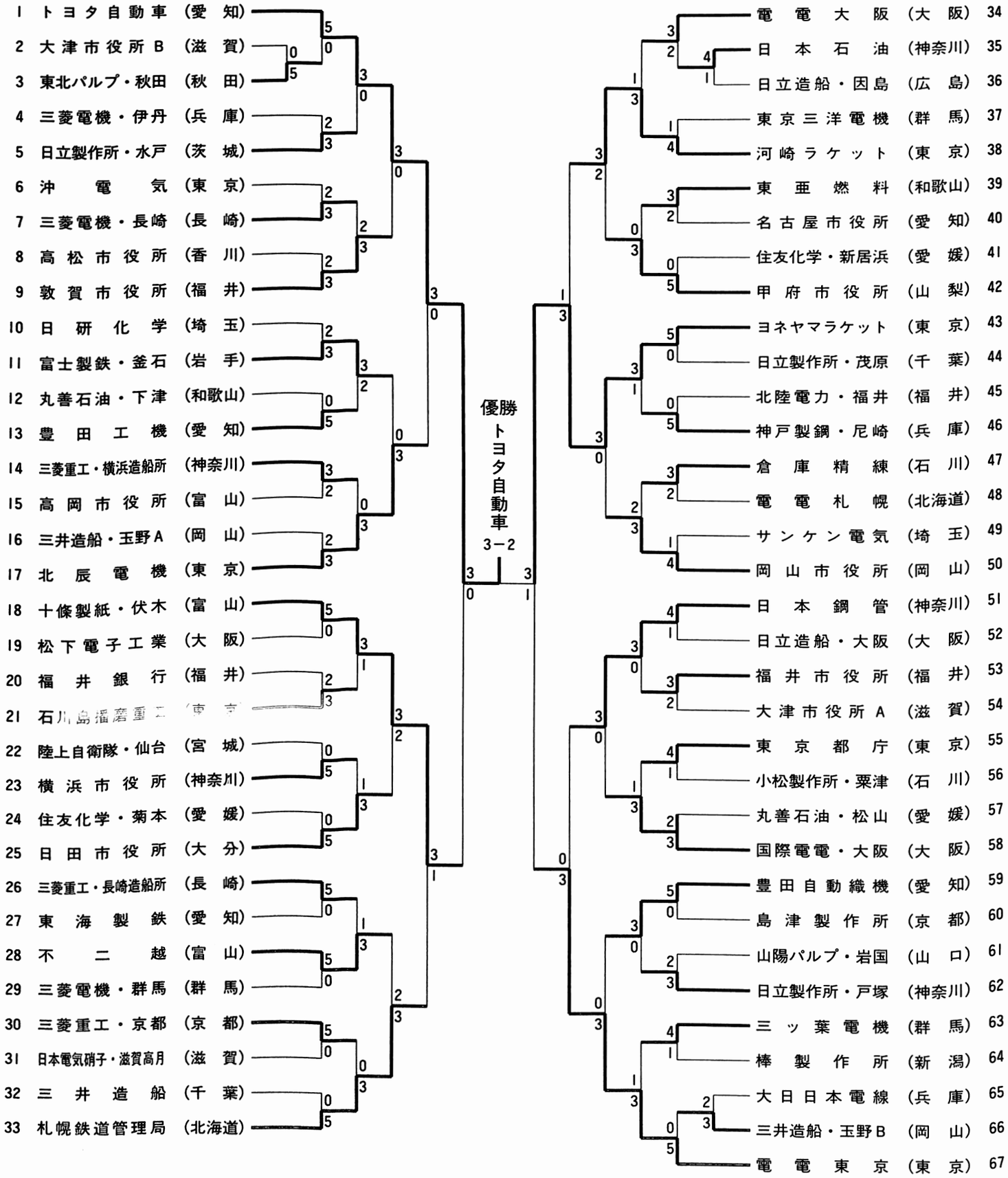
（女子の部）

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
秋　田	帝国石油		横山満子・高橋奉子
山　形	山形銀行	鈴木　シゲ	佐々木秀子・滝沢啓子・渡辺京子・金村ミサ子・丹野千枝子
新　潟	昭和硝子	三宅　啓達	小林幸子・手島美苗・鈴木マサ子・菅井千代
埼　玉	東邦レース	浅井　進一	佐々木フミ・児玉キョウ子・中川美枝子・加賀谷ユミ子
	日研化学		尾熊ミツ子・高橋美智子
	サンケン電気		佐藤恵子
東　京	石川島播磨重工	平塚　　順	小沢英子・吉田則子・倉田芙美代・秋山恵子・川崎和江
	大丸・東京	飯野　泰央	石井綾子・小川智子・遠山洋子・塩山貴子・吉田サト子
	電電東京	星野　忠男	真部文子・有木とみ子・鈴木柳子・金藤貞子・鈴木　恵・叶内瑠美子
	国際電気		功刀淑江・望月光枝
	河崎ラケット		原　則子
神奈川	日本コロムビア・川崎	伊東　隆文	小林歌子・杉田良子・大矢定子・内田孝子・和田淳子
	三菱重工・横浜造船所	金子　幸男	小野順子・池田茂子・森美和子・細田弥生・岡村　行
	日立製作所・戸塚		山内貞子
富　山	高岡市役所		河村和子・米田広子
	十條製紙・伏木		山田路子・蔵町賀津子
	大和富山店		田中俊子・池田道代
福　井	福井銀行	小鍛治徳治	小西出妙子・三上成子・橋本道子・竹林幸江・渡辺好枝
	敦賀市役所		松田竜子・上塚和子
愛　知			和田昌代・大塚弘子・武田初代・上野明美・上野京子
	豊田自動織機	上原　信彦	伊藤智子・武田恵子・浅田
	名古屋鉄道	井沢　　宏	山際トモ子・渡辺幸子・丹羽さよ子・北瀬恵美子
	豊田工機		渡辺直子・石黒恵子
京　都	三菱重工・京都		永井かおり・大八木いと枝・松尾志津
兵　庫	三菱電機・伊丹	荻野　一夫	岩田洋子・牧野芦子・岩田京子・島　宏子・中村百代
岡　山	三井造船		横関朱実・杉谷京香
	岡山市役所		杉本光枝
香　川	百十四銀行	煙草谷十三郎	福本和子・英　光子・福井和子・北条寿美子・綾井美津子
	高松琴平電鉄	有馬　正作	横井文子・渡辺百合子・宮武範子・清水照美・山本真江・細川泰子
福　岡	西日本相互銀行	吉木　　実	玉水典子・松崎栄子・古賀幸子・宮山昌子
大　分	日田市役所		立花淑子・坂本トヨ子
長　崎	三菱電機・長崎	木村俊三郎	増田光子・田部水恵・村田明美・高瀬富士代・平山信子
大　阪	丸紅飯田	村田　　哲	浜田晴美・近藤光枝・才脇妙子・石川陽子・森田敦子・入江真澄
	松下電子工業	矢田　直宏	湯浅千鶴子・吉井千代美・吉田富子・植田良子・宮美佐子
	電電大阪	森本　　務	松木美代子・宮竹久恵子・今田昌枝・堀川えい子・金田依子・安村弘子

第17回全日本実業団バドミントン選手権大会

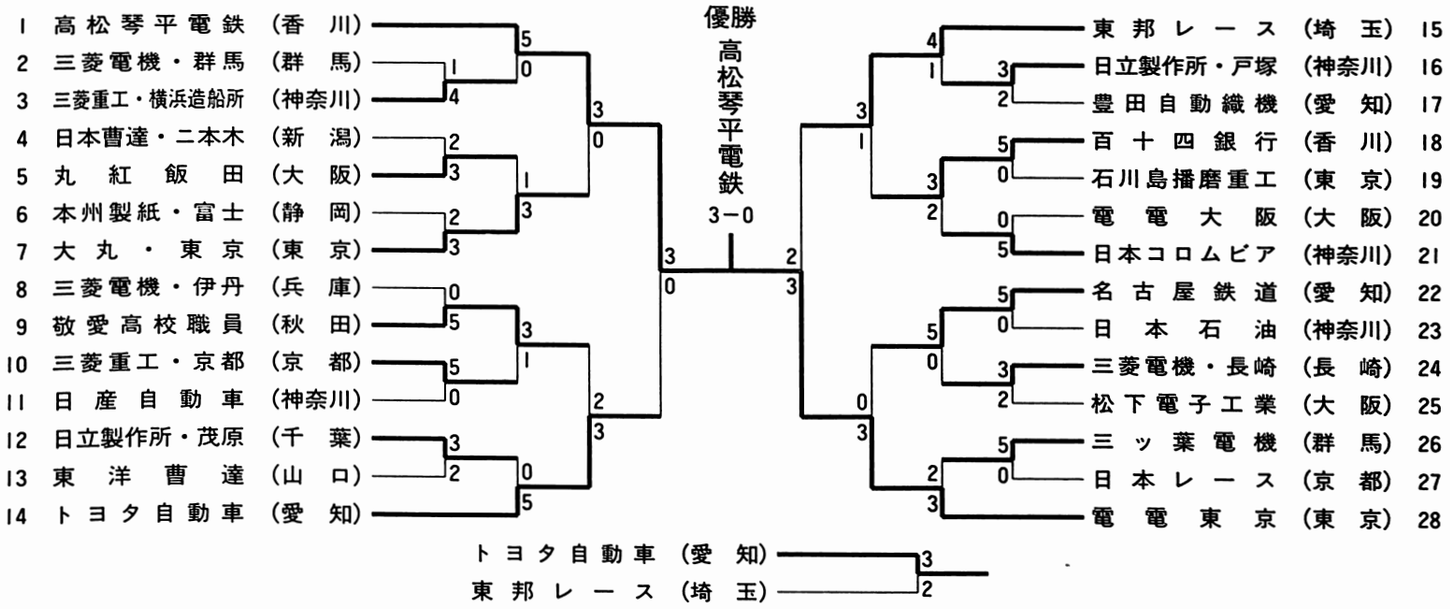
開催期日：1967年(昭和42年)6月24～28日
開 催 地：福井県勝山市
会　　場：勝山合同体育館、勝山中学校体育館、
勝山高等学校体育館

■男子団体の部

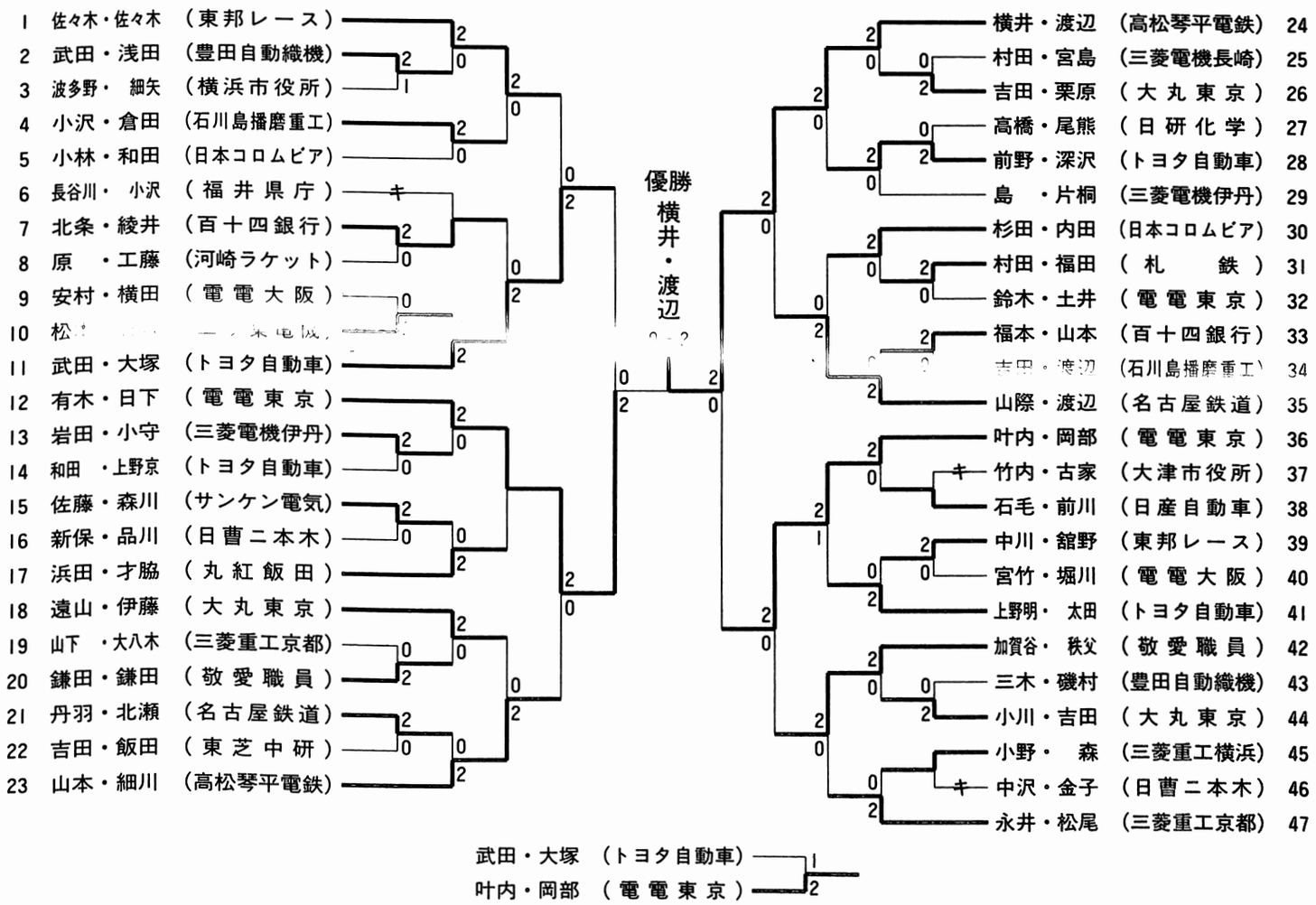


十條製紙・伏木 (富 山)
電電東京 (東 京)

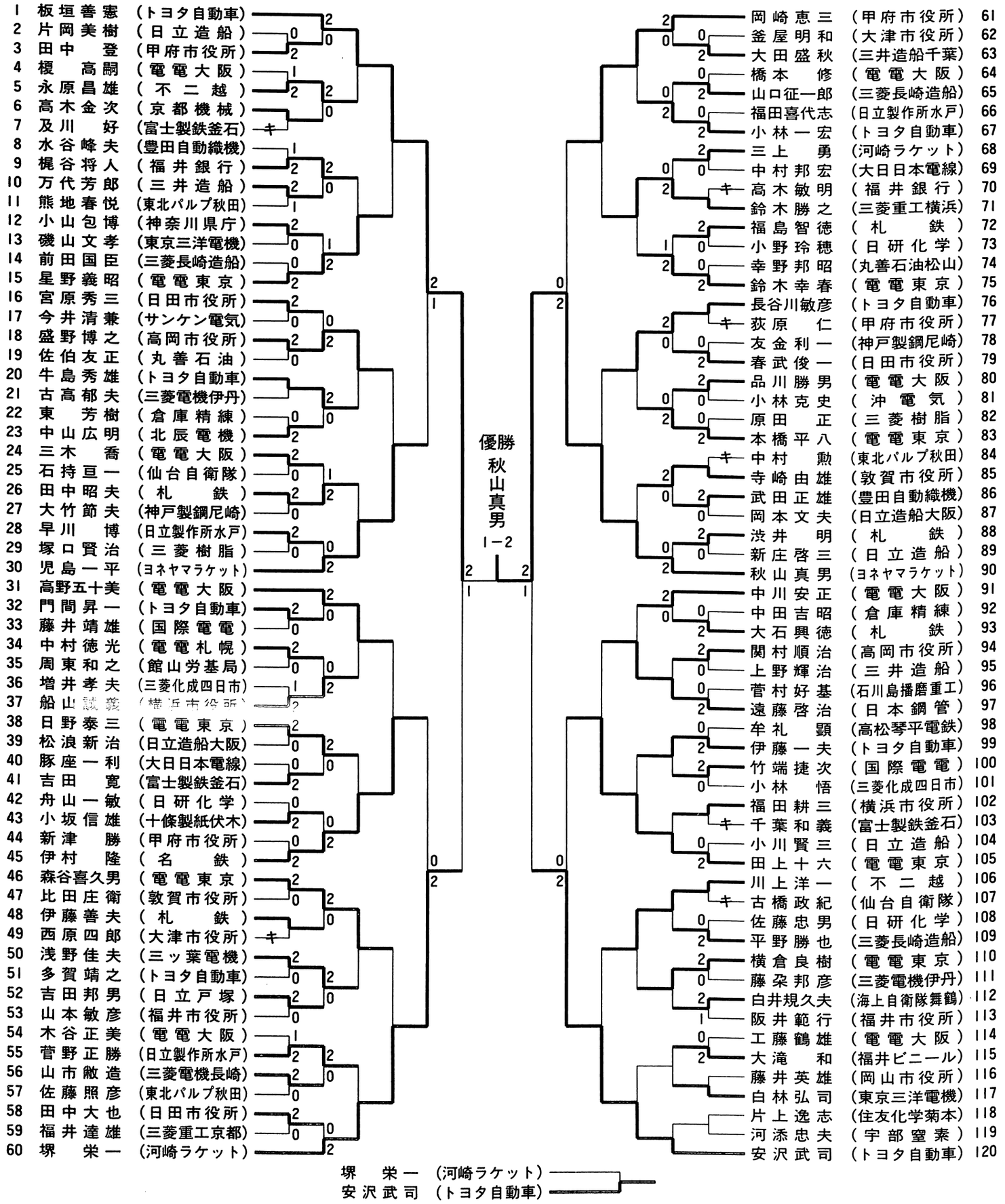
■女子団体の部



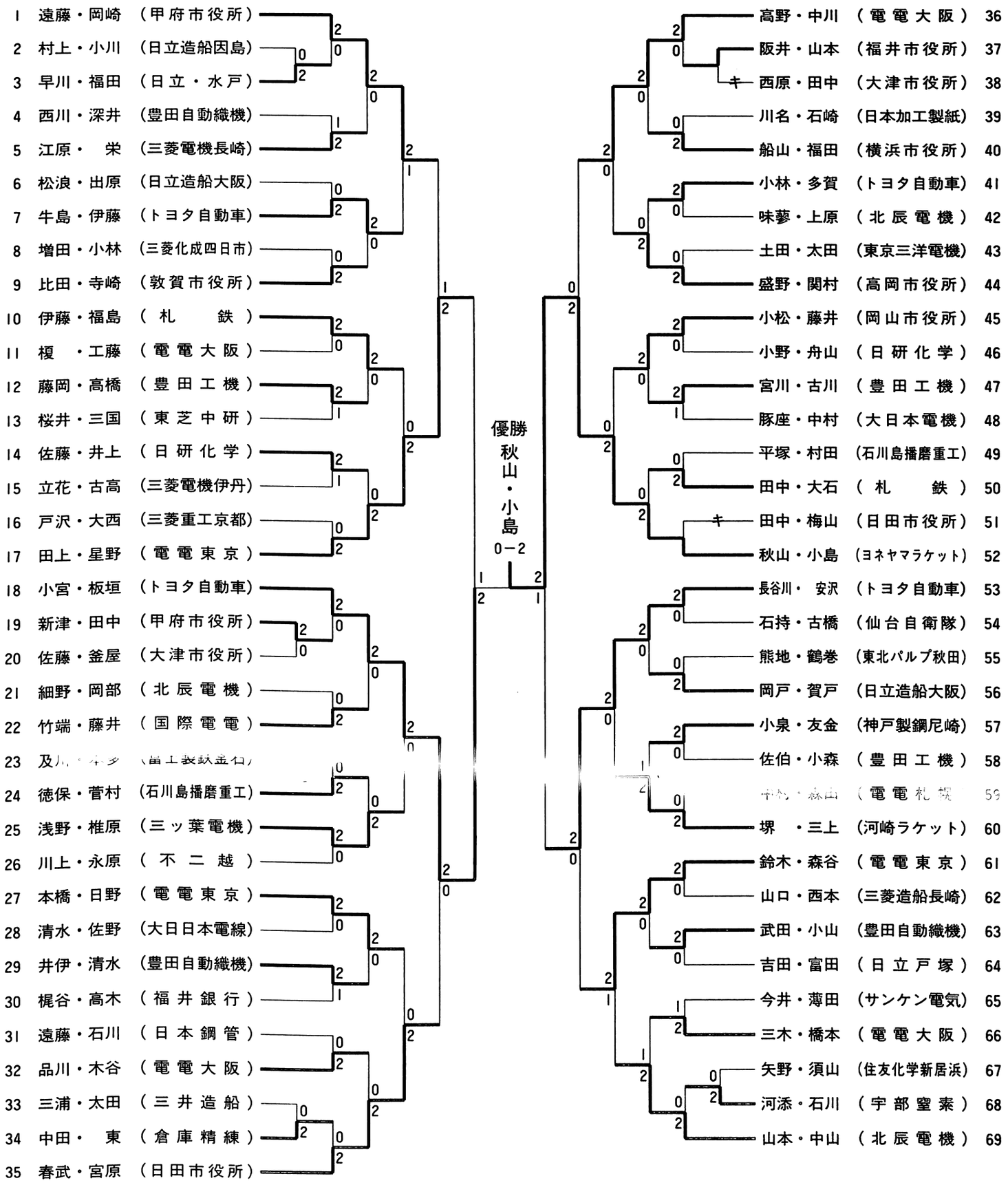
■女子複の部



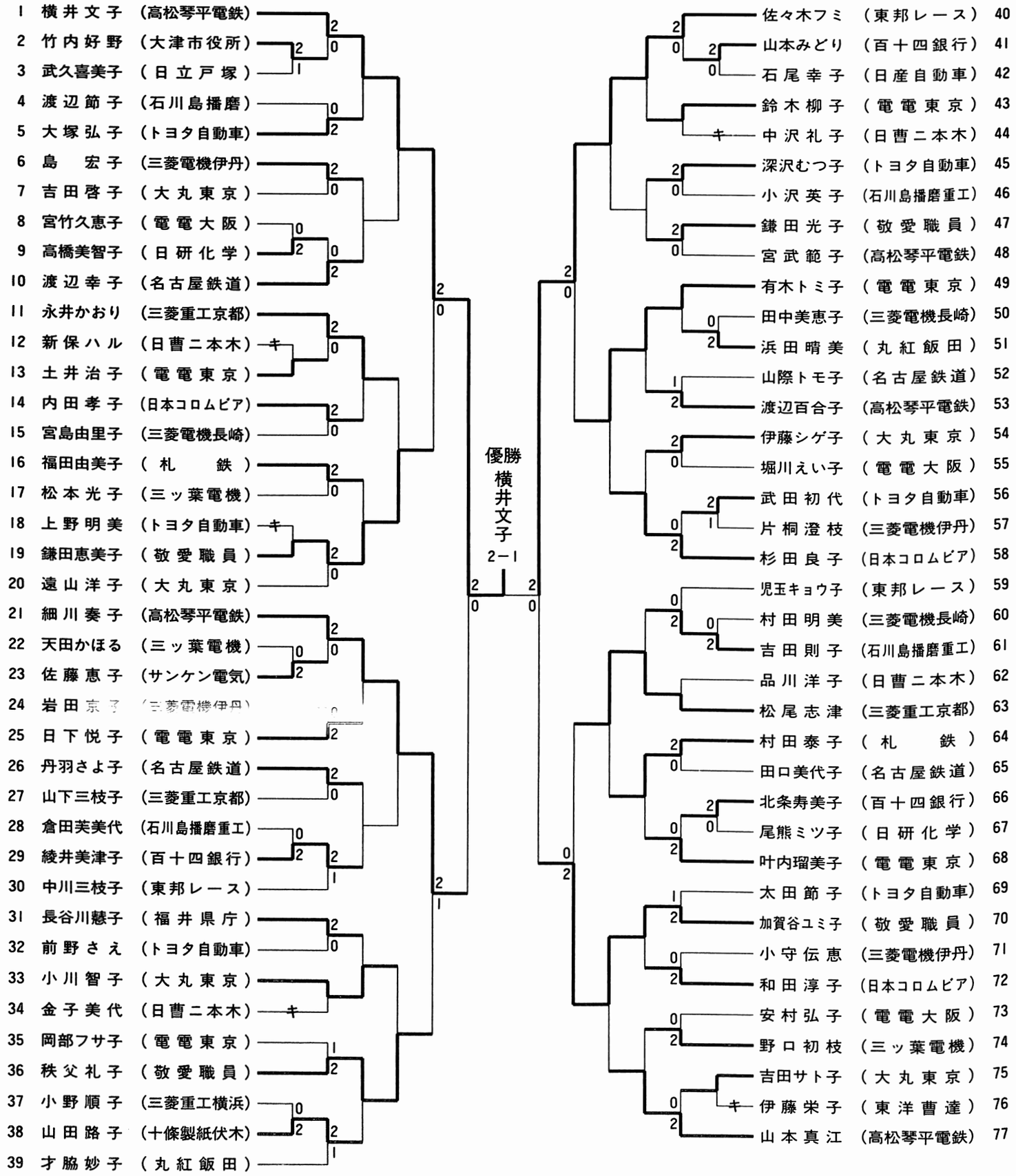
■男子単の部


1 板垣善憲 (トヨタ自動車)
2 片岡美樹 (日立造船)
3 田中 登 (甲府市役所)
4 榎 高嗣 (電電大阪)
5 永原昌雄 (不二越)
6 高木金次 (京都機械)
7 及川 好 (富士製鉄釜石)
8 水谷峰夫 (豊田自動織機)
9 梶谷将人 (福井銀行)
10 万代芳郎 (三井造船)
11 熊地春悦 (東北パルプ秋田)
12 小山包博 (神奈川県庁)
13 磯山文孝 (東京三洋電機)
14 前田国臣 (三菱長崎造船)
15 星野義昭 (電電東京)
16 宮原秀三 (日田市役所)
17 今井清兼 (サンケン電気)
18 盛野博之 (高岡市役所)
19 佐伯友正 (丸善石油)
20 牛島秀雄 (トヨタ自動車)
21 古高郁夫 (三菱電機伊丹)
22 東 芳樹 (倉庫精練)
23 中山広明 (北辰電機)
24 三木 喬 (電電大阪)
25 石持亘一 (仙台自衛隊)
26 田中昭夫 (札鉄)
27 大竹節夫 (神戸製鋼尼崎)
28 早川 博 (日立製作所水戸)
29 塚口賢治 (三菱樹脂)
30 児島一平 (ヨネヤマラケット)
31 高野五十美 (電電大阪)
32 門間昇一 (トヨタ自動車)
33 藤井靖雄 (国際電電)
34 中村徳光 (電電札幌)
35 周東和之 (館山労基局)
36 増井孝夫 (三菱化成四日市)
37 船山誠義 (横浜市役所)
38 日野泰三 (電電東京)
39 松浪新治 (日立造船大阪)
40 豚座一利 (大日日本電線)
41 吉田 寛 (富士製鉄釜石)
42 舟山一敏 (日研化学)
43 小坂信雄 (十條製紙伏木)
44 新津 勝 (甲府市役所)
45 伊村 隆 (名鉄)
46 森谷喜久男 (電電東京)
47 比田庄衛 (敦賀市役所)
48 伊藤善夫 (札鉄)
49 西原四郎 (大津市役所)
50 浅野佳夫 (三ッ葉電機)
51 多賀靖之 (トヨタ自動車)
52 吉田邦男 (日立戸塚)
53 山本敏彦 (福井市役所)
54 木谷正美 (電電大阪)
55 菅野正勝 (日立製作所水戸)
56 山市敞造 (三菱電機長崎)
57 佐藤照彦 (東北パルプ秋田)
58 田中大也 (日田市役所)
59 福井達雄 (三菱重工京都)
60 堺 栄一 (河崎ラケット)
優勝
秋山真男
1-2
61 岡崎恵三 (甲府市役所)
62 釜屋明和 (大津市役所)
63 大田盛秋 (三井造船千葉)
64 橋本 修 (電電大阪)
65 山口征一郎 (三菱長崎造船)
66 福田喜代志 (日立製作所水戸)
67 小林一宏 (トヨタ自動車)
68 三上 勇 (河崎ラケット)
69 中村邦宏 (大日日本電線)
70 高木敏明 (福井銀行)
71 鈴木勝之 (三菱重工横浜)
72 福島智徳 (札鉄)
73 小野玲穂 (日研化学)
74 幸野邦昭 (丸善石油松山)
75 鈴木幸春 (電電東京)
76 長谷川敏彦 (トヨタ自動車)
77 荻原 仁 (甲府市役所)
78 友金利一 (神戸製鋼尼崎)
79 春武俊一 (日田市役所)
80 品川勝男 (電電大阪)
81 小林克史 (沖電気)
82 原田 正 (三菱樹脂)
83 本橋平八 (電電東京)
84 中村 勲 (東北パルプ秋田)
85 寺崎由雄 (敦賀市役所)
86 武田正雄 (豊田自動織機)
87 岡本文夫 (日立造船大阪)
88 渋井 明 (札鉄)
89 新庄啓三 (日立造船)
90 秋山真男 (ヨネヤマラケット)
91 中川安正 (電電大阪)
92 中田吉昭 (倉庫精練)
93 大石興徳 (札鉄)
94 関村順治 (高岡市役所)
95 上野輝治 (三井造船)
96 菅村好基 (石川島播磨重工)
97 遠藤啓治 (日本鋼管)
98 牟礼 顕 (高松琴平電鉄)
99 伊藤一夫 (トヨタ自動車)
100 竹端捷次 (国際電電)
101 小林 悟 (三菱化成四日市)
102 福田耕三 (横浜市役所)
103 千葉和義 (富士製鉄釜石)
104 小川賢三 (日立造船)
105 田上十六 (電電東京)
106 川上洋一 (不二越)
107 古橋政紀 (仙台自衛隊)
108 佐藤忠男 (日研化学)
109 平野勝也 (三菱長崎造船)
110 横倉良樹 (電電東京)
111 藤朶邦彦 (三菱電機伊丹)
112 白井規久夫 (海上自衛隊舞鶴)
113 阪井範行 (福井市役所)
114 工藤鶴雄 (電電大阪)
115 大滝 和 (福井ビニール)
116 藤井英雄 (岡山市役所)
117 白林弘司 (東京三洋電機)
118 片上逸志 (住友化学菊本)
119 河添忠夫 (宇部窒素)
120 安沢武司 (トヨタ自動車)
堺 栄一 (河崎ラケット)
安沢武司 (トヨタ自動車)

■男子複の部

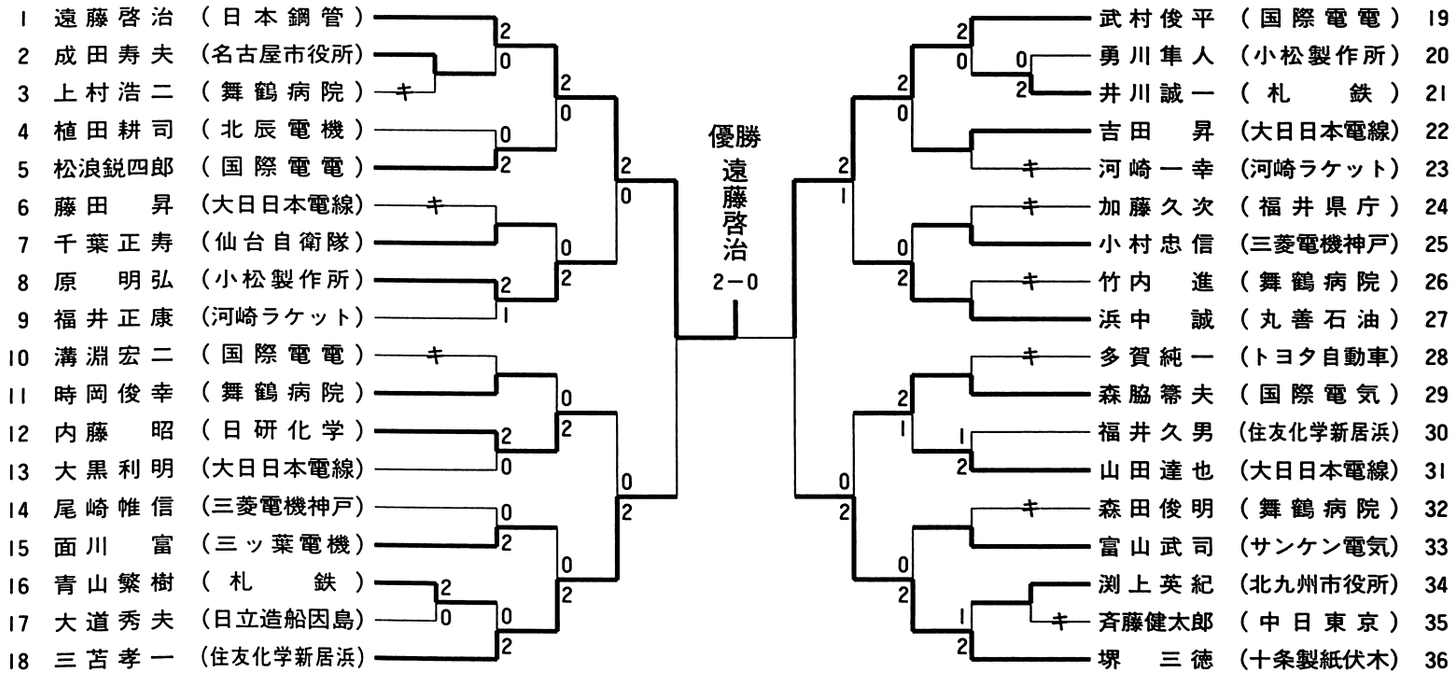

1 遠藤・岡崎 （甲府市役所）
2 村上・小川 （日立造船因島）
3 早川・福田 （日立・水戸）
4 西川・深井 （豊田自動織機）
5 江原・ 栄 （三菱電機長崎）
6 松浪・出原 （日立造船大阪）
7 牛島・伊藤 （トヨタ自動車）
8 増田・小林 （三菱化成四日市）
9 比田・寺崎 （敦賀市役所）
10 伊藤・福島 （札 鉄）
11 榎 ・工藤 （電電大阪）
12 藤岡・高橋 （豊田工機）
13 桜井・三国 （東芝中研）
14 佐藤・井上 （日研化学）
15 立花・古高 （三菱電機伊丹）
16 戸沢・大西 （三菱重工京都）
17 田上・星野 （電電東京）
18 小宮・板垣 （トヨタ自動車）
19 新津・田中 （甲府市役所）
20 佐藤・釜屋 （大津市役所）
21 細野・岡部 （北辰電機）
22 竹端・藤井 （国際電電）
23 及[illegible]
24 徳保・菅村 （石川島播磨重工）
25 浅野・椎原 （三ッ葉電機）
26 川上・永原 （不二越）
27 本橋・日野 （電電東京）
28 清水・佐野 （大日日本電線）
29 井伊・清水 （豊田自動織機）
30 梶谷・高木 （福井銀行）
31 遠藤・石川 （日本鋼管）
32 品川・木谷 （電電大阪）
33 三浦・太田 （三井造船）
34 中田・ 東 （倉庫精練）
35 春武・宮原 （日田市役所）
優勝
秋山・小島
0−2
36 高野・中川 （電電大阪）
37 阪井・山本 （福井市役所）
38 西原・田中 （大津市役所）
39 川名・石崎 （日本加工製紙）
40 船山・福田 （横浜市役所）
41 小林・多賀 （トヨタ自動車）
42 味蓼・上原 （北辰電機）
43 土田・太田 （東京三洋電機）
44 盛野・関村 （高岡市役所）
45 小松・藤井 （岡山市役所）
46 小野・舟山 （日研化学）
47 宮川・古川 （豊田工機）
48 豚座・中村 （大日本電機）
49 平塚・村田 （石川島播磨重工）
50 田中・大石 （札 鉄）
51 田中・梅山 （日田市役所）
52 秋山・小島 （ヨネヤマラケット）
53 長谷川・ 安沢 （トヨタ自動車）
54 石持・古橋 （仙台自衛隊）
55 熊地・鶴巻 （東北パルプ秋田）
56 岡戸・賀戸 （日立造船大阪）
57 小泉・友金 （神戸製鋼尼崎）
58 佐伯・小森 （豊田工機）
59 [illegible]
60 堺 ・三上 （河崎ラケット）
61 鈴木・森谷 （電電東京）
62 山口・西本 （三菱造船長崎）
63 武田・小山 （豊田自動織機）
64 吉田・富田 （日立戸塚）
65 今井・薄田 （サンケン電気）
66 三木・橋本 （電電大阪）
67 矢野・須山 （住友化学新居浜）
68 河添・石川 （宇部窒素）
69 山本・中山 （北辰電機）
田上・星野 （電電東京）
長谷川・ 安沢 （トヨタ自動車）

■女子単の部

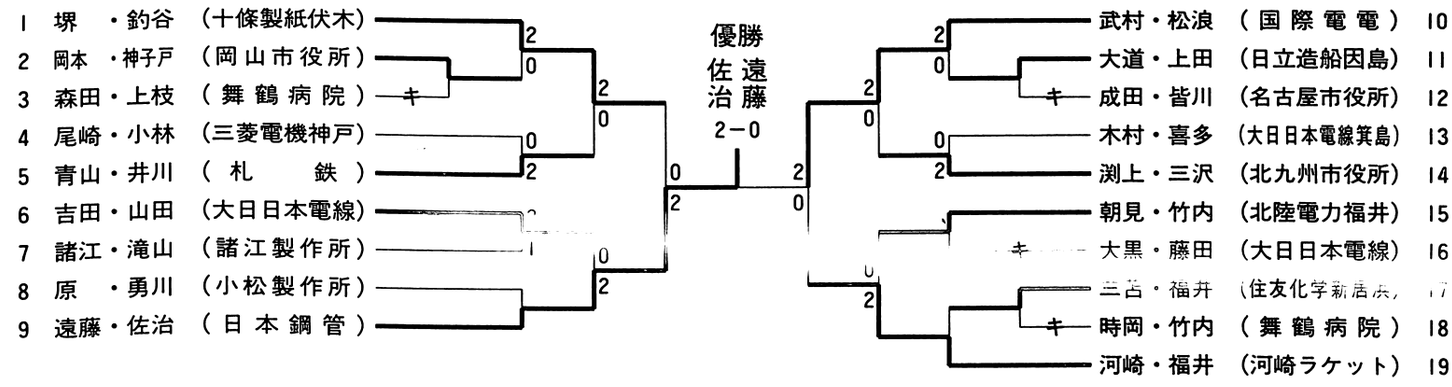


細川奏子 (高松琴平電鉄) 1
加賀谷ユミ子 (敬愛職員) 2

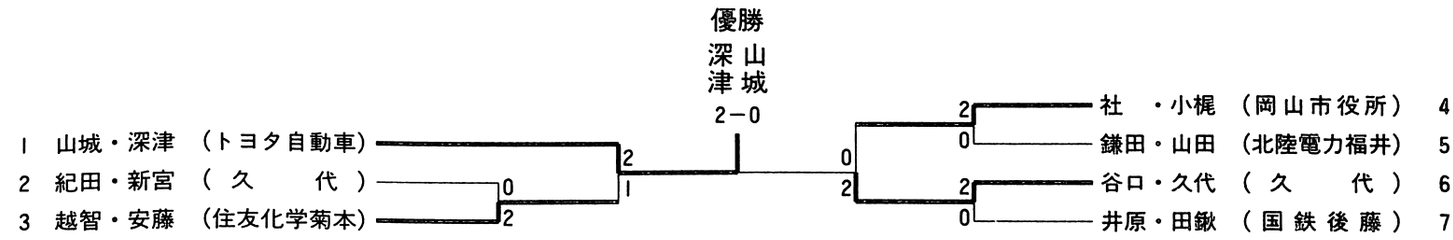
■30歳以上単の部



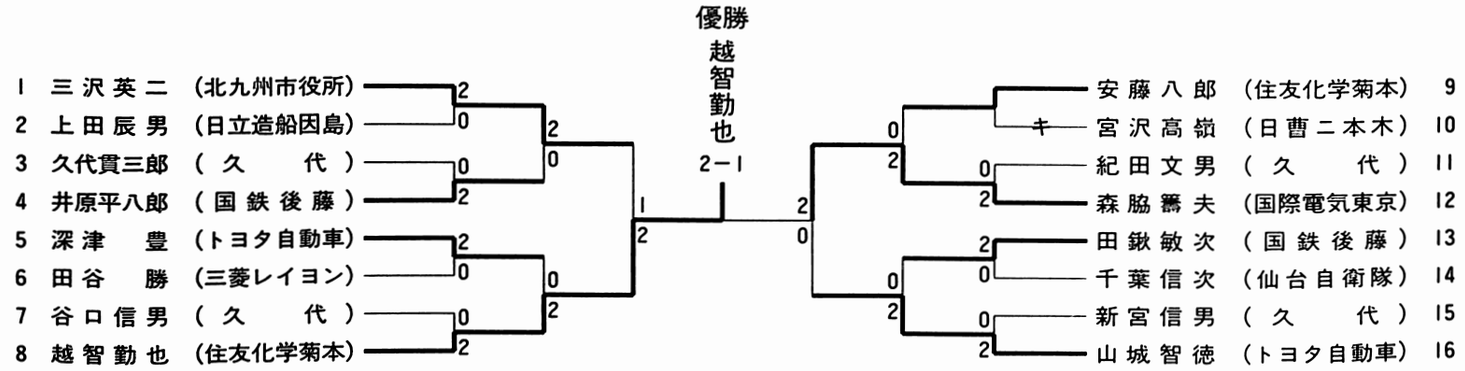
■30歳以上複の部



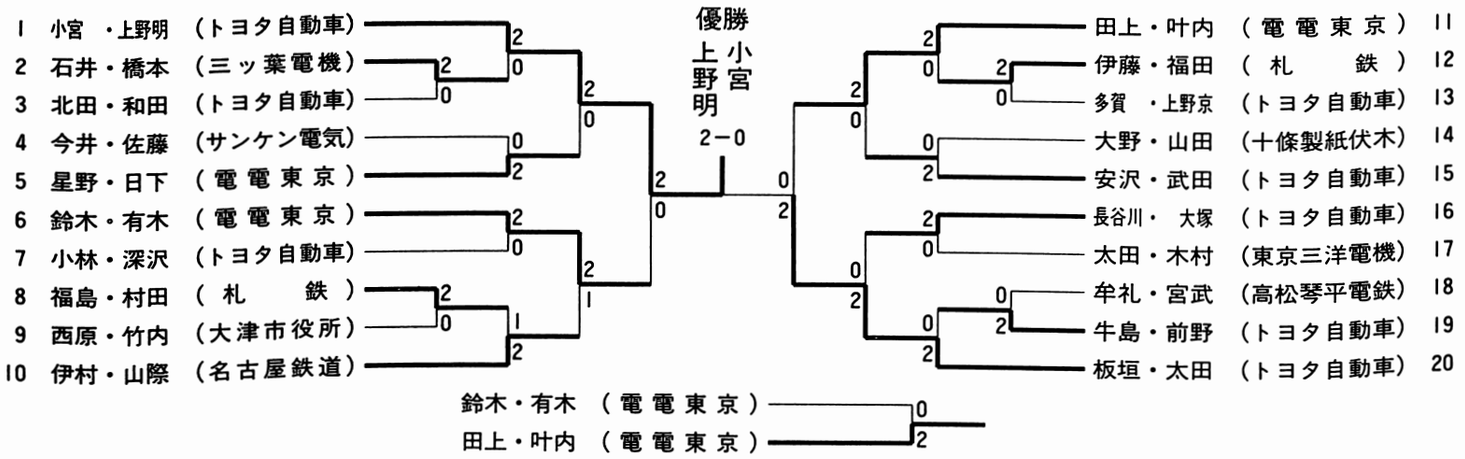
■40歳以上複の部



■40歳以上単の部



■混合複の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	札幌鉄道管理局	青山　繁樹	伊藤善夫・大石興徳・田中昭夫・福島智徳・渋井　明・青山繁樹・井川誠一
	電電札幌	江口　歳男	森田　彪・山田竜一・平野義孝・中村徳光・佐藤信次・成瀬敏夫
岩手	富士製鉄・釜石	及川　好	本多三郎・仲内定一・及川　好・堀切誠一・和田修三・吉田　寛・千葉和義
秋田	東北パルプ・秋田	橋本　健治	中村　勲・鈴木　宏・佐藤照彦・熊地春悦・鶴巻勝利・牧野慶博
宮城	陸上自衛隊・仙台	千葉　信次	千葉信次・千葉正寿・石持亘一・加藤忠義・浅海幸雄・後藤清徳・古橋政紀
茨城	日立製作所・水戸	石坂　文男	早川　博・福田喜代志・菅野正勝・西潟秀男・吉沢　昇・宇和　慧・石坂文男
群馬	東京三洋電機	岡崎　敬一	大野孝治・磯山文孝・土田　登・太田喜一郎・白林弘司・武藤政雄・家泉　博
	三菱電機・群馬	丹野　正道	小沢永一・阿久戸義昭・元木育男・栗原　弘・丹野正道
	三ツ葉電機製作所	樹所　久雄	椎原邦雄・浅野佳夫・赤羽和彦・内山　一・面川　富・石井真一
	沖電気・群馬		小林克史
埼玉	サンケン電気	富山　武司	今井清兼・都築富夫・富山武司・薄田隆衛
	日研化学	横井　初夫	内藤　昭・井上泰年・佐藤忠男・小野玲穂・舟山一敏・山口喜雄・吉田　司
千葉	日立製作所・茂原	井上　文仁	川崎和吉・近藤　登・森澄健雄・及川雅義・筒井正春・井上文仁
	三井造船	丹生谷義徳	丹生谷義徳・三浦英男・大田盛秋・大倉末広・井沢昌彦・坂井秀雄
	館山労働基準局		周東和之
山梨	甲府市役所	古谷　利夫	遠藤真男・岡崎恵三・新津　勝・田中　登・荻原　仁・古谷利夫
東京	河崎ラケット	福井　正康	堺　栄一・河崎一幸・福井正康・小林敏男・堀田邦彦・三上　勇
	沖電気工業	堀田　実	鈴木義男・田口長生・坂内勝男・佐藤彦次郎・堀田　実
	石川島播磨重工	高橋　護	原　功・平塚　順・徳保　勝・菅村好基・田中英雄・村田俊夫
	北辰電機製作所	北脇　重康	中山広明・山本洋彦・吉田　進・黒崎二男・細野敏男・岡部幸一・味蓼志郎・上原昇・植田耕司
	東京都庁	齋藤　圭市	鈴木　蕃・齊藤信行・高橋秀男・右田利宏
	ヨネヤマラケット	秋山　真男	秋山真男・小島一平・藤川俊雄・西川嘉信・篠山賢吾・米山広作
	電電東京	並木萬次郎	鈴木幸春・田上十六・星野義昭・森谷喜久男・日野泰三・本橋平八・横倉良樹
	諸江製作所		諸江秀一・滝山一甫
	日本加工製紙		川名淳夫・石崎征男
	中日東京		齊藤健太郎
	国際電気		森脇籌夫
神奈川	横浜市役所	大山　茂	加山誠義・高[illegible]・中田久也・坂　元彦・福士博美
	三菱重工・横浜造船所	鈴木　勝之	鈴木勝之・岸　賢司・倉田豊三郎・守口　茂・川北義止
	日本石油	古川　昌孝	古川昌孝・京屋孝治・長瀬正敏・齊藤　満・野口宏治・山下豊彦・佐藤幸男
	日本鋼管	佐治　豊	佐治　豊・遠藤啓治・青木　昇・伊田真一・石川三郎・竹井泰史・中俣　強
	日立製作所・戸塚	鈴木　雅勝	富田健一・吉田邦男・霧生嘉知・甘粕完治・松本則夫・長谷川雅範・間島一良
	東芝・中央研究所		桜井光雄・三国良彦
	神奈川県庁		小山包博
新潟	捧製作所	捧　千松	捧　孝夫・小日山喜雄・捧　正夫・小林繁男・捧　勇
	日本曹達・二本木		宮沢高嶺
富山	不二越	川上　洋一	川上洋一・永原昌雄・柳瀬昭二・成伯　裕
	十條製紙・伏木	釣谷　友一	釣谷友一・堺　三徳・大野幸雄・江守　清・小坂信夫
	高岡市役所	中山　邦夫	中山邦夫・盛野博之・徳田尋信・関村順治・高田政勝・谷口拓三・野村正一
石川	小松製作所・粟津	原　明弘	勇川隼人・原　明弘・玉井　明・藤井信弘・杉本勝昭・北野元男・平野英二
	倉庫精練	田村　祥弥	中田吉昭・広川万亀夫・室　勉・東　茂樹

県名	事業所名	監督名	選手名
愛知	豊田工機	白井　照政	佐伯外与昭・宮川　清・小森徹郎・藤岡節男・古川直仁・高橋英俊
	東海製鉄	新美　宣伸	沼里敬夫・西久保博明・山本卓男・金谷義雄・平松光雄・二瓶　清・奥野哲次
	豊田自動織機	上原　信彦	西川幸男・深井忠男・武田正雄・小山　勇・水谷峰夫・井伊恵治・清水満雄
	名古屋市役所	上野　悌司	加藤正人・水野輝彦・伊藤鉱一・皆川英雄・成田寿夫・渡辺順三・尾関敏教
	トヨタ自動車	深津　豊	小宮好雄・板垣善憲・長谷川敏彦・安沢武司・小林一宏・牛島秀雄・伊藤一夫・深津　豊 山城智徳・多賀純一・門間昇一・北田寛一・多賀靖之
	名古屋鉄道	伊村　隆	伊村　隆
三重	三菱化成四日市		増井孝夫・小林　悟
和歌山	大日日本電線・箕島		木村陸清・喜多勝彦
	丸善石油・下津	西尾　元祐	尾崎成雄・橋本延行・西尾元祐・箕造富章・林　保雄・南村嘉男・宮本武司
	東亜燃料	永広　利之	水谷哲雄・笹谷　猛・宮岡　昭・東山　勲・片岡正一
京都	島津製作所	野村　嘉明	加藤英昭・永谷祥三・和田正高・若林　登・上田　勉・田中　優
	三菱重工・京都	岡本　宏也	戸沢正雄・豊田耕造・石原　敦・福井達雄・大西秀信・高宮梵之助・石津正明
	国立舞鶴病院		時岡俊幸・竹内　進・森田俊明・上枝浩二
	久代		紀田文男・新宮信男・谷口房治・久代貫三郎
	京都機械		高木金次
	海上自衛隊・舞鶴		白井規久夫
大阪	国際電信電話	武村　俊平	竹端捷次・溝渕宏二・松浪鋭四郎・森　満樹・武村俊平・藤井靖雄
	日立造船・大阪	加藤　芳正	加藤芳正・賀戸忠春・出原武雄・松浪新治・岡本文夫
	松下電子工業	矢田　直宏	畑部輝秀・大橋誠治・村田一雄・近藤敏和・浜田幸雄・山本主計・吉田　茂
	電電大阪	森本　務	中川安正・高野五十美・椴　高嗣・工藤鶴雄・木谷正美・三木　喬・品川勝男・橋本　修
滋賀	大津市役所A	上田　正雄	佐藤　賢・釜屋明和・田中正民・西原四郎・青山昭司
	大津市役所B	上田　正雄	森地定尚・松井弥寿男・浅野明己・村上武史・筈井政明
	日本電気硝子・滋賀	田村　光裕	保積和行・高橋嘉成・鍋　重雄・生田　尚・伊吹　雄・臼井征郎・嘉瀬井新一
	三菱樹脂		原田　正・塚口賢治
兵庫	大日日本電線	吉田　昇	大黒利明・清水　力・豚座一利・中村邦宏・佐野義則・吉田　昇・山田達也・大黒利明・藤田昇
	神戸製鋼・尼崎	齊藤　信幸	竜円栄治・小泉淳一・友金利一・浜野　孝・栗原征夫・田中　到・大竹節夫・森田俊治
	三菱電機・伊丹	秋野　大	高橋郁夫・立花宏昭・荻野一夫・清田隼久・藤朶邦彦
	三菱電機・神戸		尾崎惟信・小林忠信
鳥取	国鉄・後藤		井原平八郎・田鍬敏次
岡山	三井造船・玉野造船所A	虻江　優	上野輝治・芳上一男・小山谷充弘・田中健二
	三井造船・玉野造船所B	明珍　勝	西村一夫・万代芳郎・氏家　徹・藤原道文
	岡山市役所	社　竹三	小松　貴・藤井英雄・岡本武利・神子戸輝幸・大村泰治・崎本明雄・佐藤晴雄・社竹三 小梶繁雄
広島	日立造船・因島	上田　辰男	大道秀夫・新庄啓三・村上祥三・小川賢三・上田辰男・片岡美樹
山口	山陽パルプ・岩国	野副　栄一	川岡　智・室井勝夫・河野耕司・林　厚志・宮岡康臣・田原英夫・長藤俊成
	宇部窒素		河添忠夫・石川好夫
	三菱レイヨン		田谷　勝
香川	高松市役所	野口　利行	横岡忠幸・田中真一・阿部正信・野口利行
	高松琴平電鉄		牟礼　顕
愛媛	住友化学・菊本	奥　鶴美	越智勤屋・安藤八郎・井村昌弘・片山逸志・岩崎　博・秋山英明・佐藤　実
	住友化学・新居浜	大国　敏雄	福井久男・須山盾夫・矢野　晃・佐々木孝・宮坂博文・三苫孝一
	丸善石油・松山	浜中　誠	幸野邦昭・白石卓夫・松木信夫・佐伯友正・谷本郁雄・日野富博・浜中　誠
福岡	北九州市役所		渕上英紀・三沢英二

県名	事業所名	監督名	選手名
長崎	三菱電機・長崎	木村俊三郎	江原　登・山崎敏則・山市敏造・栄　信重・江口忠道
	三菱重工・長崎造船所	中岡　洋	喜多昭夫・山口征一郎・吉田　豊・平野勝也・前田国臣・山口敏弘・西本　勝
大分	日田市役所	田中　大也	田中大也・春武俊一・宮原秀三・桑原　昇・梅山剛太郎
福井	福井市役所	小野田幸夫	津田紀昭・大橋正武・増永秀則・阪井範行・山本敏彦
	福井銀行	宮崎　康恵	高木敏明・梶谷将人・松下允巳・美奈見清隆・大窪常信・宮崎康恵
	敦賀市役所	野崎　隆夫	山本　聰・比田庄衛・寺崎由雄・坪内茂雄・大道　強
	北陸電力・福井	竹内　典男	白嶋　清・藤尾純一・野路健一・柳沢昭信・松倉国雄・鎌田文雄・竹内典男・山田孝則 朝見順一
	福井県庁		加藤久次
	福井ビニール		大滝　和

（女子の部）

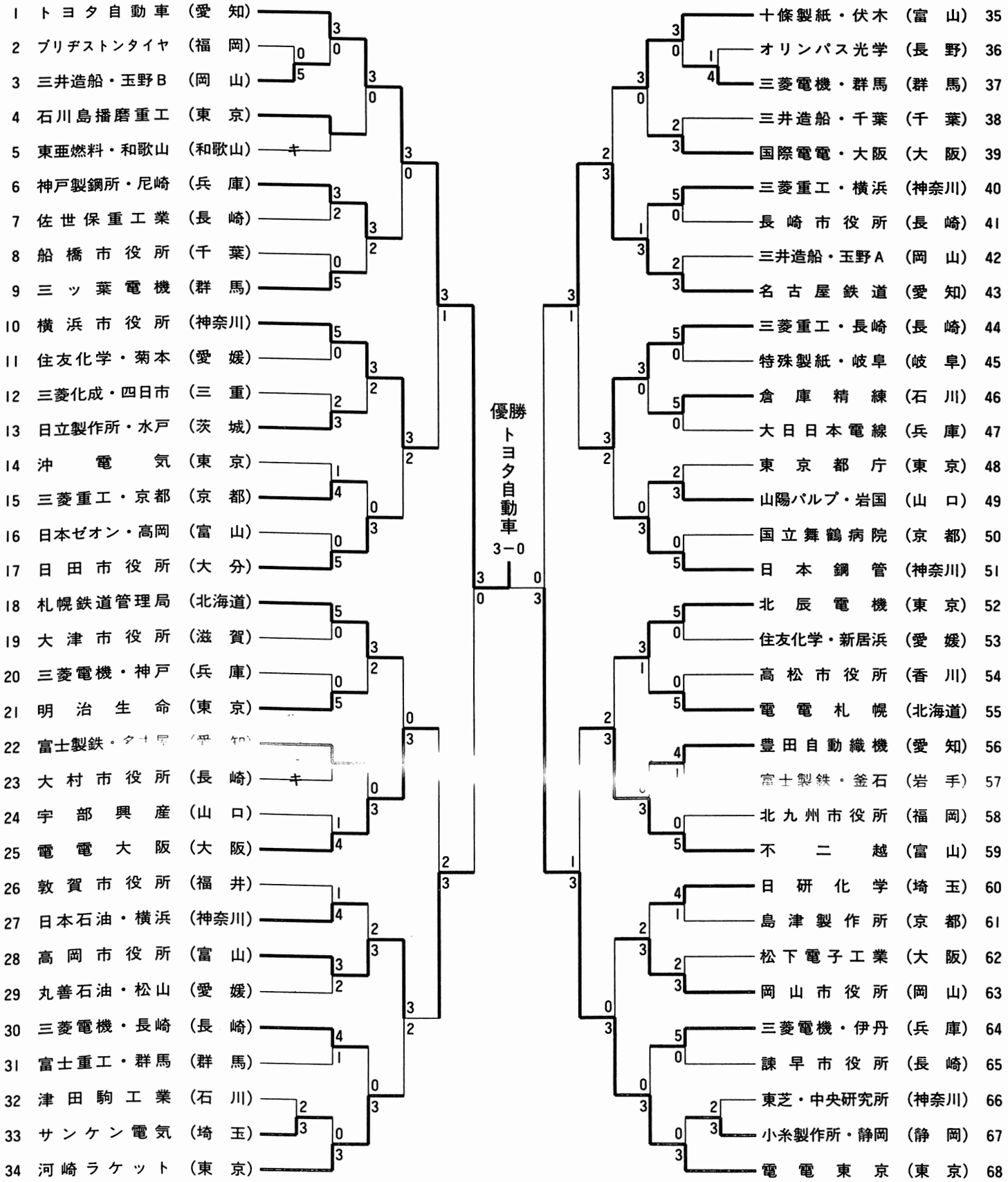
県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	札幌鉄道管理局		村田泰子・福田由美子
秋田	敬愛高校職員	脇坂　安隆	加賀谷ユミ子・秩父礼子・鎌田恵美子・鎌田光子
新潟	日本曹達・二本木	宮澤　高嶺	新保ハル・品川洋子・中沢礼子・金子美代
埼玉	東邦レース	富橋　末治	佐々木フミ・中川美枝子・児玉キョウ子・佐々木君子・舘野美津江
	サンケン電気		佐藤恵子・森川和子
	日研化学		高橋美津子・尾熊ミツ子
	河崎ラケット・埼玉		原　則子・工藤よう子
千葉	日立製作所・茂原	井上　文仁	江川絹子・恩田和子・島峰洋子・及川泰子・菊地陽子
群馬	三菱電機・群馬	丹羽　正道	杉田陽子・清水要子・森美枝子・町田幸江
	三ツ葉電機製作所	樹所　久雄	松本光子・高瀬里美・菊地勝子・野口初江・橋本和子・天田かほる
	東京三洋電機		木村美智子
東京	石川島播磨重工	高橋　護	小沢英子・倉田芙美代・吉田則子・渡辺節子
	大丸・東京	飯野　泰央	小川智子・遠山洋子・吉田サト子・伊藤シゲ子・吉田啓子・栗原茂子
	電電東京	星野　忠男	有木トミ子・叶内瑠美子・日下悦子・岡部ふさ子・土井治子・鈴木柳子
神奈川	三菱重工・横浜造船所	鈴木　勝之	小野順子・森美和子・岡村　行・細田弥生・草間久恵・森下牧子
	日本[illegible]	吉川　昌孝	今野美智子・木村裕子・高橋和子・牧田久子
	日本コロムビア	伊東　隆文	[illegible]
	日産自動車	井上　章	石毛幸子・前川智恵子・上川美智子・荒谷えみ子
	日立製作所・戸塚	鈴木　雅勝	山内貞子・武久喜美子・上野良子・小山栄子
	東芝・中央研究所		吉田智恵子・飯田恵子
	横浜市役所		波多野和子・細矢晴子
静岡	本州製紙・富士	町田　守正	岡田敏子・木内俊子・渡辺正子・森野季子
富山	十條製紙・伏木		山田路子
愛知	トヨタ自動車	深津　豊	武田初代・大塚弘子・上野京子・上野明美・前野さえ・深沢むつ子・太田節子・和田昌代
	豊田自動織機	上原　信彦	武田恵子・浅田すみ子・三木チエミ・磯村春美
	名古屋鉄道	伊村　隆	山際トモ子・渡辺幸子・丹羽さよ子・北瀬恵美子・田口美代子
京都	日本レース	長井　真緒	浅野リツ子・北原勢子・森本真由美・河崎加代子・楠由美子・高橋明子
	三菱重工・京都	岡本　宏也	永井かおり・大八木いと枝・松尾志津・山下三枝子
大阪	丸紅飯田		浜田晴美・入江真澄美・才脇妙子・石川陽子
	松下電子工業	矢田　直宏	吉井千代美・吉田富子・植田良子・伊藤香津子・山本節子
	電電大阪	小川　正夫	宮竹久恵子・堀川えい子・安村弘子・横田光恵

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
滋　賀	大津市役所		竹内好野・古家行子
兵　庫	三菱電機・伊丹	北　　義一	島　宏子・岩田京子・小守伝恵・片桐澄江
山　口	東洋曹達	渡辺　　忠	伊藤崇子・安沢典子・原田マサ江・林　節子・河村歌子
香　川	高松琴平電鉄	有馬　正作	横井文子・渡辺百合子・宮武範子・細川泰子・山本真江
	百十四銀行	播磨　泰雄	福本和子・北条寿美子・綾井美津子・山本みどり
長　崎	三菱電機・長崎	木村俊三郎	村田明美・宮村みつえ・北村栄子・田中美恵子・山下千代子・宮島由里子
福　井	福井銀行		長谷川慧子・小沢友江

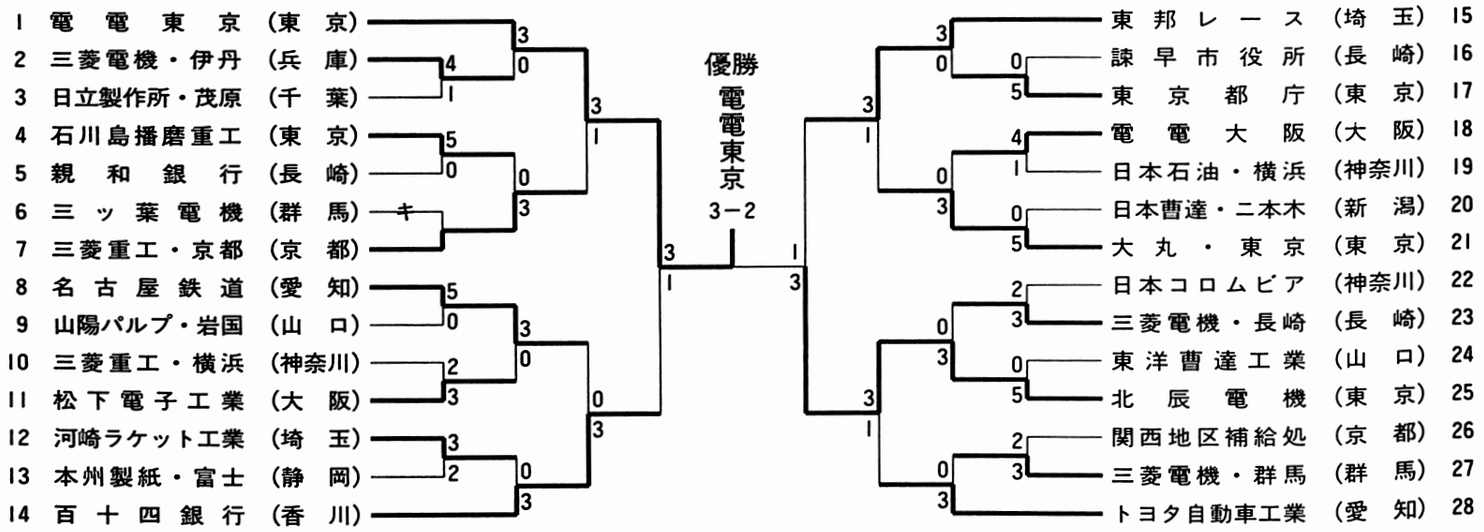
第18回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1968年(昭和43年)6月22～26日
開 催 地：長崎県諫早市
会　　場：諫早市体育館、諫早高校体育館

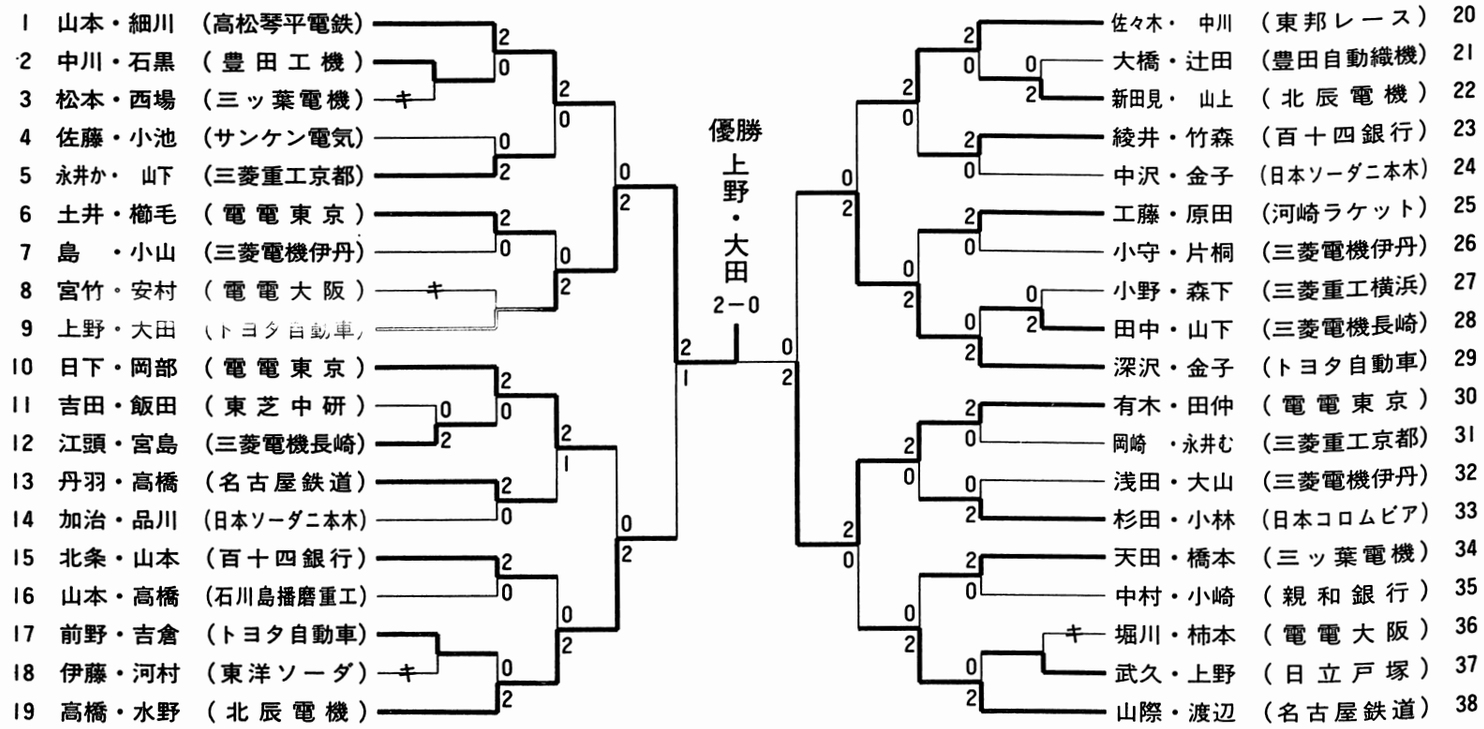
■男子団体の部



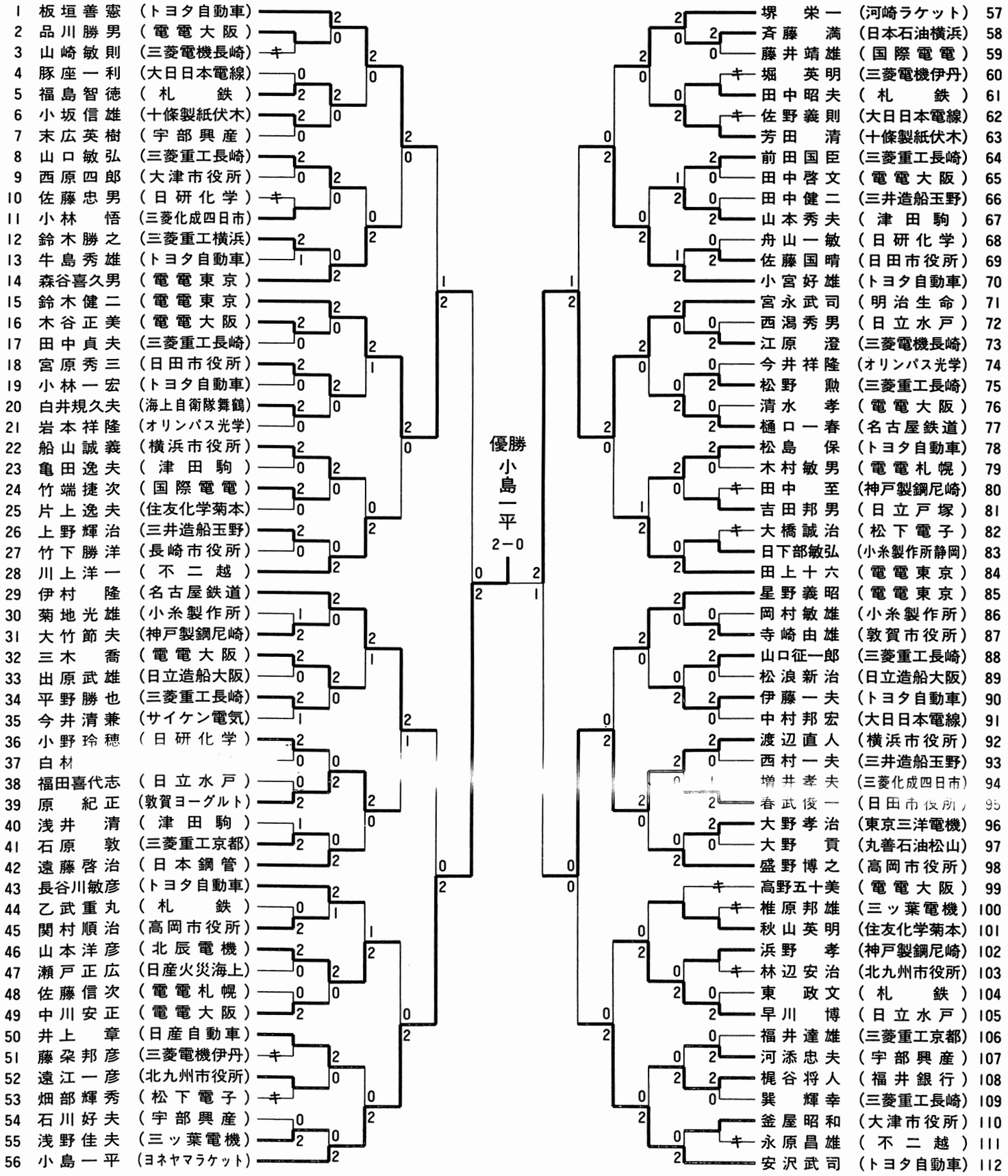
■女子団体の部



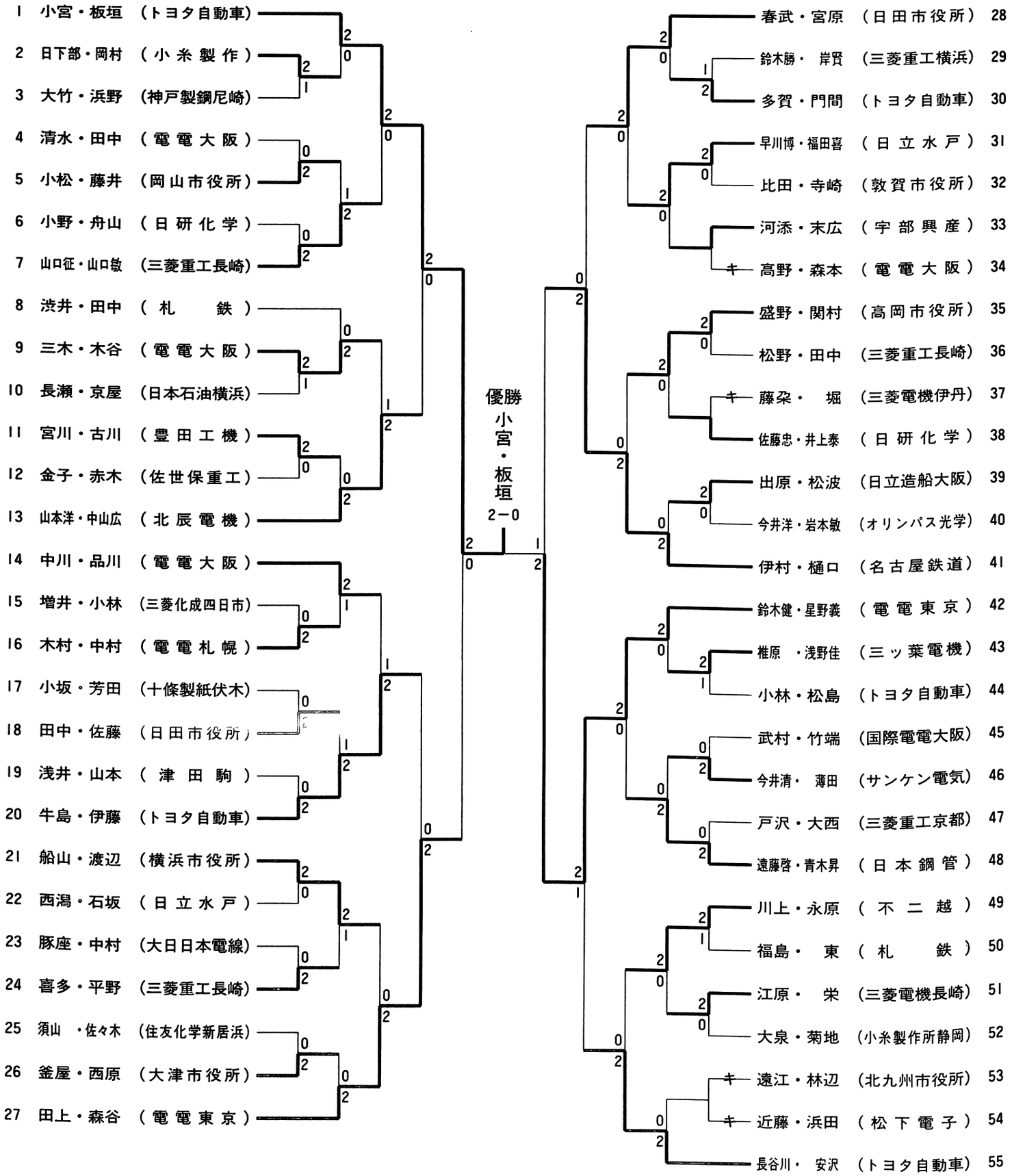
■女子複の部



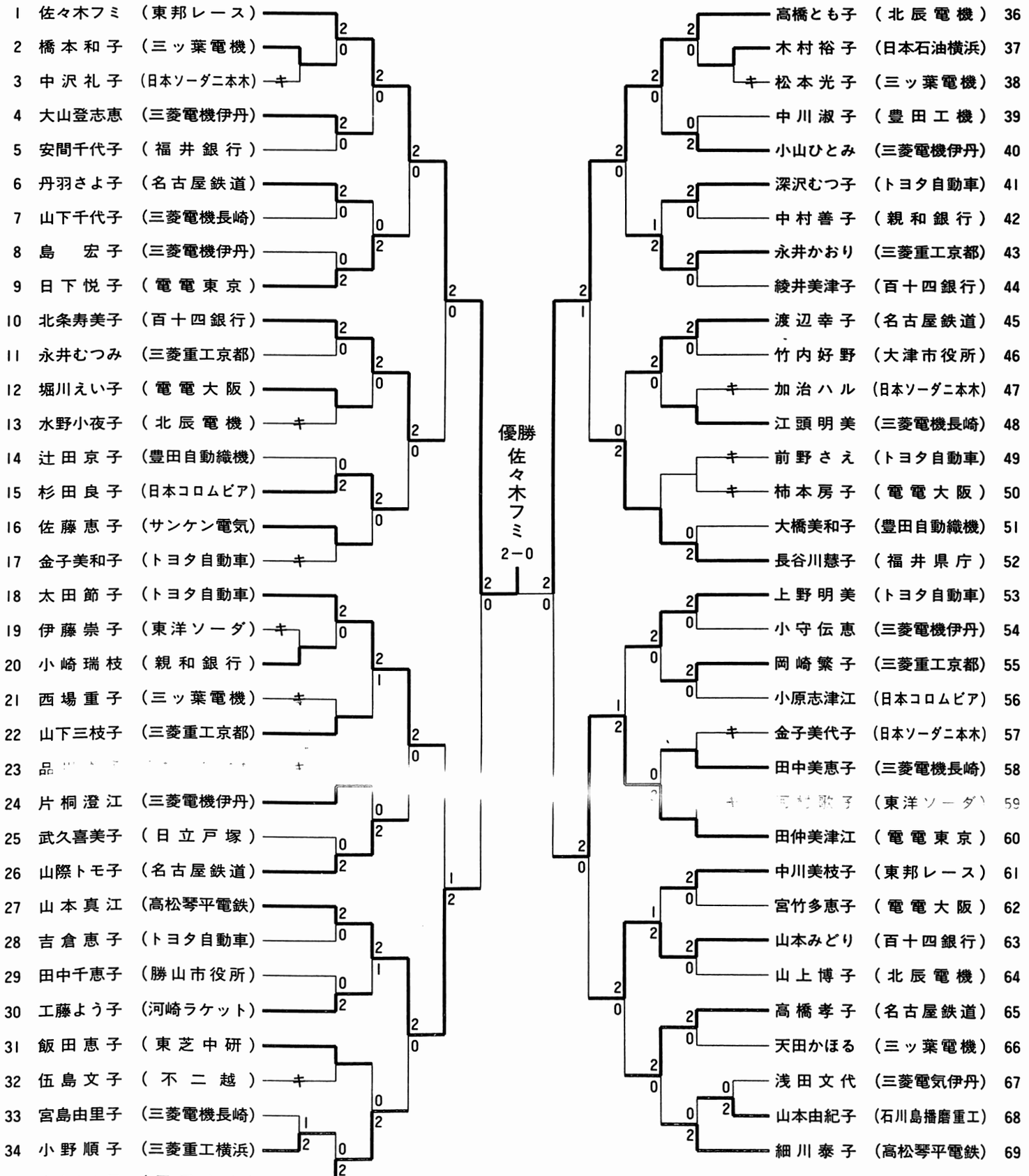
■男子単の部


1 板垣善憲 (トヨタ自動車)
2 品川勝男 (電電大阪)
3 山崎敏則 (三菱電機長崎)
4 豚座一利 (大日日本電線)
5 福島智徳 (札鉄)
6 小坂信雄 (十條製紙伏木)
7 末広英樹 (宇部興産)
8 山口敏弘 (三菱重工長崎)
9 西原四郎 (大津市役所)
10 佐藤忠男 (日研化学)
11 小林悟 (三菱化成四日市)
12 鈴木勝之 (三菱重工横浜)
13 牛島秀雄 (トヨタ自動車)
14 森谷喜久男 (電電東京)
15 鈴木健二 (電電東京)
16 木谷正美 (電電大阪)
17 田中貞夫 (三菱重工長崎)
18 宮原秀三 (日田市役所)
19 小林一宏 (トヨタ自動車)
20 白井規久夫 (海上自衛隊舞鶴)
21 岩本祥隆 (オリンパス光学)
22 船山誠義 (横浜市役所)
23 亀田逸夫 (津田駒)
24 竹端捷次 (国際電電)
25 片上逸夫 (住友化学菊本)
26 上野輝治 (三井造船玉野)
27 竹下勝洋 (長崎市役所)
28 川上洋一 (不二越)
29 伊村隆 (名古屋鉄道)
30 菊地光雄 (小糸製作所)
31 大竹節夫 (神戸製鋼尼崎)
32 三木喬 (電電大阪)
33 出原武雄 (日立造船大阪)
34 平野勝也 (三菱重工長崎)
35 今井清兼 (サイケン電気)
36 小野玲穂 (日研化学)
37 白材
38 福田喜代志 (日立水戸)
39 原紀正 (敦賀ヨーグルト)
40 浅井清 (津田駒)
41 石原敦 (三菱重工京都)
42 遠藤啓治 (日本鋼管)
43 長谷川敏彦 (トヨタ自動車)
44 乙武重丸 (札鉄)
45 関村順治 (高岡市役所)
46 山本洋彦 (北辰電機)
47 瀬戸正広 (日産火災海上)
48 佐藤信次 (電電札幌)
49 中川安正 (電電大阪)
50 井上章 (日産自動車)
51 藤朶邦彦 (三菱電機伊丹)
52 遠江一彦 (北九州市役所)
53 畑部輝秀 (松下電子)
54 石川好夫 (宇部興産)
55 浅野佳夫 (三ッ葉電機)
56 小島一平 (ヨネヤマラケット)
優勝
小島一平
2−0
57 堺栄一 (河崎ラケット)
58 斉藤満 (日本石油横浜)
59 藤井靖雄 (国際電電)
60 堀英明 (三菱電機伊丹)
61 田中昭夫 (札鉄)
62 佐野義則 (大日日本電線)
63 芳田清 (十條製紙伏木)
64 前田国臣 (三菱重工長崎)
65 田中啓文 (電電大阪)
66 田中健二 (三井造船玉野)
67 山本秀夫 (津田駒)
68 舟山一敏 (日研化学)
69 佐藤国晴 (日田市役所)
70 小宮好雄 (トヨタ自動車)
71 宮永武司 (明治生命)
72 西潟秀男 (日立水戸)
73 江原澄 (三菱電機長崎)
74 今井祥隆 (オリンパス光学)
75 松野勲 (三菱重工長崎)
76 清水孝 (電電大阪)
77 樋口一春 (名古屋鉄道)
78 松島保 (トヨタ自動車)
79 木村敏男 (電電札幌)
80 田中至 (神戸製鋼尼崎)
81 吉田邦男 (日立戸塚)
82 大橋誠治 (松下電子)
83 日下部敏弘 (小糸製作所静岡)
84 田上十六 (電電東京)
85 星野義昭 (電電東京)
86 岡村敏雄 (小糸製作所)
87 寺崎由雄 (敦賀市役所)
88 山口征一郎 (三菱重工長崎)
89 松浪新治 (日立造船大阪)
90 伊藤一夫 (トヨタ自動車)
91 中村邦宏 (大日日本電線)
92 渡辺直人 (横浜市役所)
93 西村一夫 (三井造船玉野)
94 増井孝夫 (三菱化成四日市)
95 春武俊一 (日田市役所)
96 大野孝治 (東京三洋電機)
97 大野貢 (丸善石油松山)
98 盛野博之 (高岡市役所)
99 高野五十美 (電電大阪)
100 椎原邦雄 (三ッ葉電機)
101 秋山英明 (住友化学菊本)
102 浜野孝 (神戸製鋼尼崎)
103 林辺安治 (北九州市役所)
104 東政文 (札鉄)
105 早川博 (日立水戸)
106 福井達雄 (三菱重工京都)
107 河添忠夫 (宇部興産)
108 梶谷将人 (福井銀行)
109 巽輝幸 (三菱重工長崎)
110 釜屋昭和 (大津市役所)
111 永原昌雄 (不二越)
112 安沢武司 (トヨタ自動車)

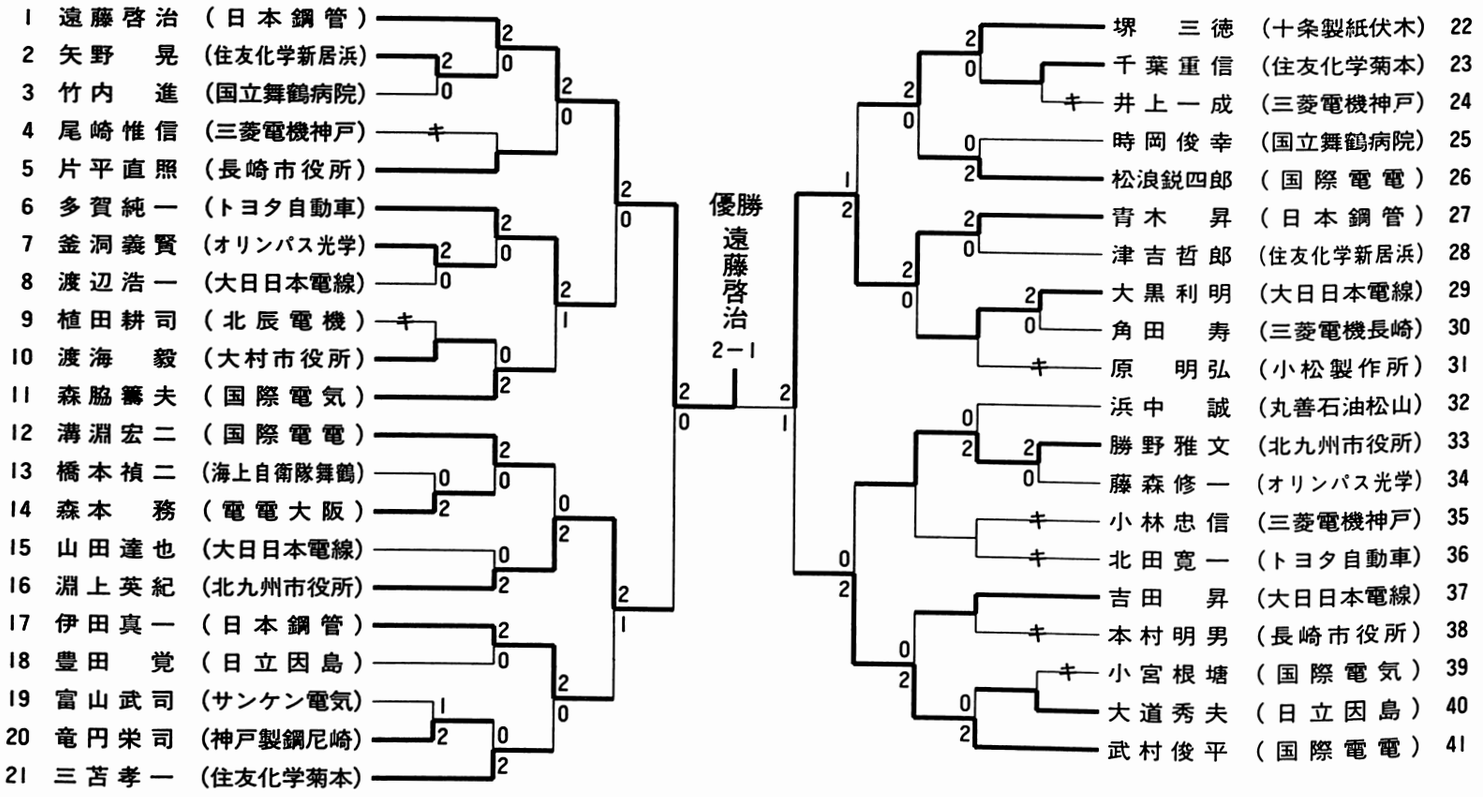
■男子複の部


1 小宮・板垣 (トヨタ自動車)
2 日下部・岡村 (小糸製作)
3 大竹・浜野 (神戸製鋼尼崎)
4 清水・田中 (電電大阪)
5 小松・藤井 (岡山市役所)
6 小野・舟山 (日研化学)
7 山口征・山口敏 (三菱重工長崎)
8 渋井・田中 (札鉄)
9 三木・木谷 (電電大阪)
10 長瀬・京屋 (日本石油横浜)
11 宮川・古川 (豊田工機)
12 金子・赤木 (佐世保重工)
13 山本洋・中山広 (北辰電機)
14 中川・品川 (電電大阪)
15 増井・小林 (三菱化成四日市)
16 木村・中村 (電電札幌)
17 小坂・芳田 (十條製紙伏木)
18 田中・佐藤 (日田市役所)
19 浅井・山本 (津田駒)
20 牛島・伊藤 (トヨタ自動車)
21 船山・渡辺 (横浜市役所)
22 西潟・石坂 (日立水戸)
23 豚座・中村 (大日日本電線)
24 喜多・平野 (三菱重工長崎)
25 須山・佐々木 (住友化学新居浜)
26 釜屋・西原 (大津市役所)
27 田上・森谷 (電電東京)
優勝
小宮・板垣
2−0
28 春武・宮原 (日田市役所)
29 鈴木勝・岸賢 (三菱重工横浜)
30 多賀・門間 (トヨタ自動車)
31 早川博・福田喜 (日立水戸)
32 比田・寺崎 (敦賀市役所)
33 河添・末広 (宇部興産)
34 キ 高野・森本 (電電大阪)
35 盛野・関村 (高岡市役所)
36 松野・田中 (三菱重工長崎)
37 キ 藤朶・堀 (三菱電機伊丹)
38 佐藤忠・井上泰 (日研化学)
39 出原・松波 (日立造船大阪)
40 今井洋・岩本敏 (オリンパス光学)
41 伊村・樋口 (名古屋鉄道)
42 鈴木健・星野義 (電電東京)
43 椎原・浅野佳 (三ッ葉電機)
44 小林・松島 (トヨタ自動車)
45 武村・竹端 (国際電電大阪)
46 今井清・薄田 (サンケン電気)
47 戸沢・大西 (三菱重工京都)
48 遠藤啓・青木昇 (日本鋼管)
49 川上・永原 (不二越)
50 福島・東 (札鉄)
51 江原・栄 (三菱電機長崎)
52 大泉・菊地 (小糸製作所静岡)
53 キ 遠江・林辺 (北九州市役所)
54 キ 近藤・浜田 (松下電子)
55 長谷川・安沢 (トヨタ自動車)

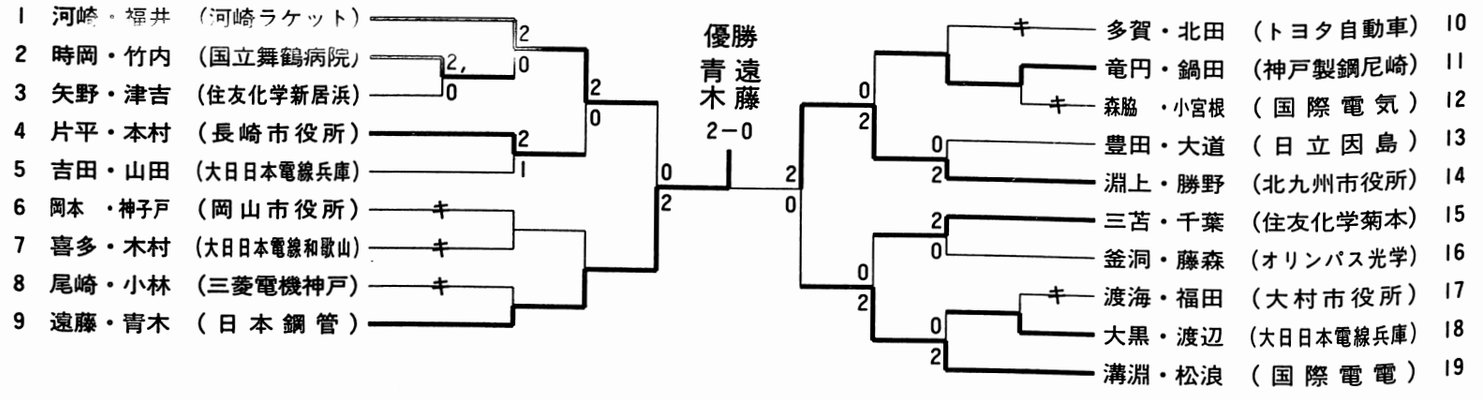
■女子単の部


1 佐々木フミ （東邦レース）
2 橋本和子 （三ッ葉電機）
3 中沢礼子 （日本ソーダニ本木）
4 大山登志恵 （三菱電機伊丹）
5 安間千代子 （福井銀行）
6 丹羽さよ子 （名古屋鉄道）
7 山下千代子 （三菱電機長崎）
8 島 宏子 （三菱電機伊丹）
9 日下悦子 （電電東京）
10 北条寿美子 （百十四銀行）
11 永井むつみ （三菱重工京都）
12 堀川えい子 （電電大阪）
13 水野小夜子 （北辰電機）
14 辻田京子 （豊田自動織機）
15 杉田良子 （日本コロムビア）
16 佐藤恵子 （サンケン電気）
17 金子美和子 （トヨタ自動車）
18 太田節子 （トヨタ自動車）
19 伊藤崇子 （東洋ソーダ）
20 小崎瑞枝 （親和銀行）
21 西場重子 （三ッ葉電機）
22 山下三枝子 （三菱重工京都）
23 品
24 片桐澄江 （三菱電機伊丹）
25 武久喜美子 （日立戸塚）
26 山際トモ子 （名古屋鉄道）
27 山本真江 （高松琴平電鉄）
28 吉倉恵子 （トヨタ自動車）
29 田中千恵子 （勝山市役所）
30 工藤よう子 （河崎ラケット）
31 飯田恵子 （東芝中研）
32 伍島文子 （不二越）
33 宮島由里子 （三菱電機長崎）
34 小野順子 （三菱重工横浜）
35 有木トミ子 （電電東京）
優勝
佐々木フミ
2－0
36 高橋とも子 （北辰電機）
37 木村裕子 （日本石油横浜）
38 松本光子 （三ッ葉電機）
39 中川淑子 （豊田工機）
40 小山ひとみ （三菱電機伊丹）
41 深沢むつ子 （トヨタ自動車）
42 中村善子 （親和銀行）
43 永井かおり （三菱重工京都）
44 綾井美津子 （百十四銀行）
45 渡辺幸子 （名古屋鉄道）
46 竹内好野 （大津市役所）
47 加治ハル （日本ソーダニ本木）
48 江頭明美 （三菱電機長崎）
49 前野さえ （トヨタ自動車）
50 柿本房子 （電電大阪）
51 大橋美和子 （豊田自動織機）
52 長谷川慧子 （福井県庁）
53 上野明美 （トヨタ自動車）
54 小守伝恵 （三菱電機伊丹）
55 岡崎繁子 （三菱重工京都）
56 小原志津江 （日本コロムビア）
57 金子美代子 （日本ソーダニ本木）
58 田中美恵子 （三菱電機長崎）
59 （東洋ソーダ）
60 田仲美津江 （電電東京）
61 中川美枝子 （東邦レース）
62 宮竹多恵子 （電電大阪）
63 山本みどり （百十四銀行）
64 山上博子 （北辰電機）
65 高橋孝子 （名古屋鉄道）
66 天田かほる （三ッ葉電機）
67 浅田文代 （三菱電気伊丹）
68 山本由紀子 （石川島播磨重工）
69 細川泰子 （高松琴平電鉄）

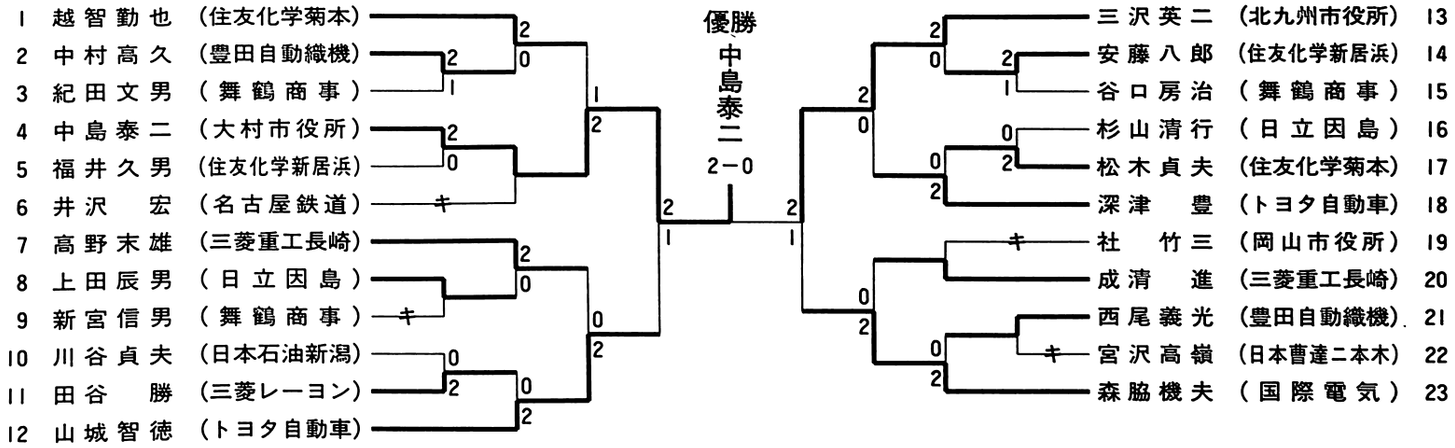
■30歳以上単の部



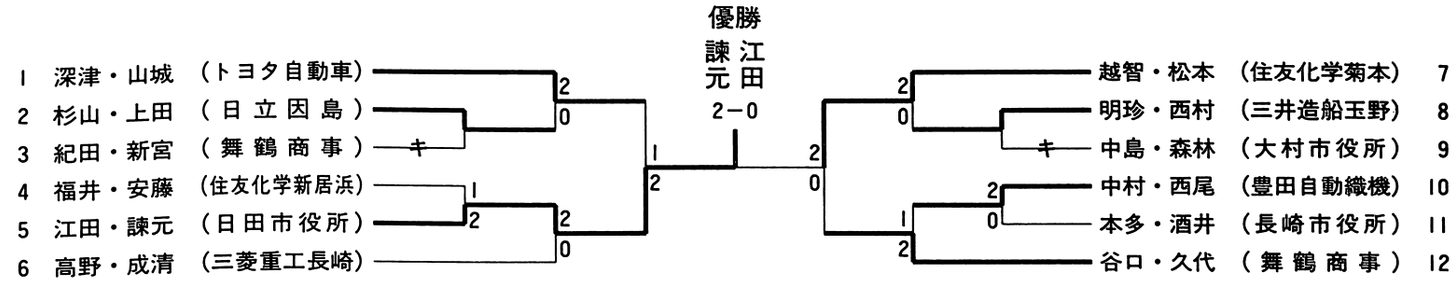
■30歳以上複の部



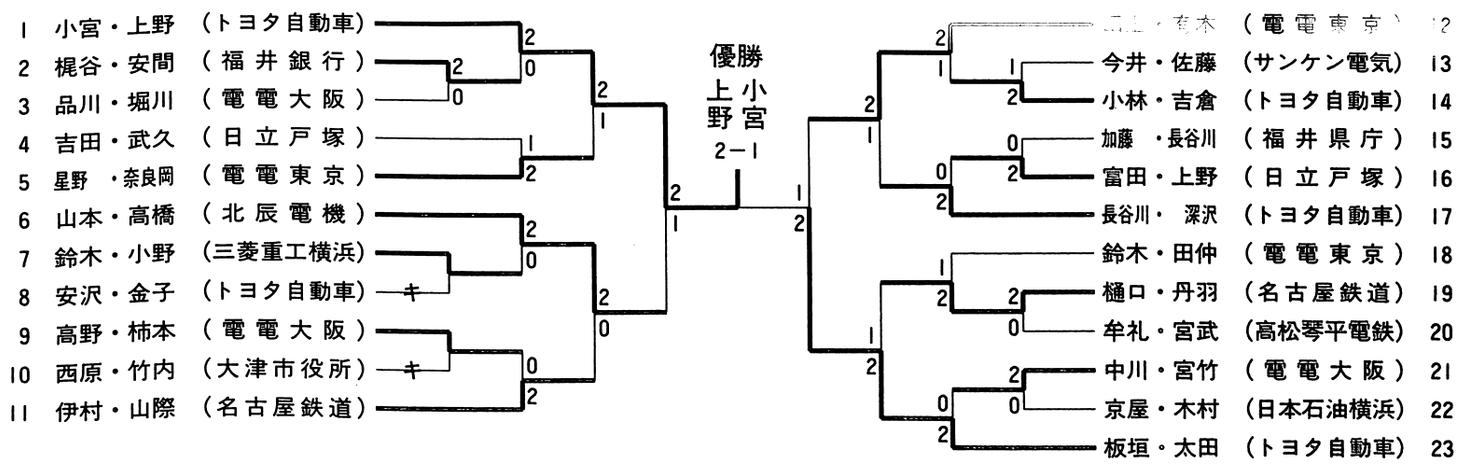
■40歳以上単の部



■40歳以上複の部



■混合複の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	札幌鉄道管理局	青山　繁樹	渋井　明・田中昭夫・福島智徳・東　政文・乙武重丸・山田　元・柴田賢治
	電電札幌	江口　歳男	森田　彪・山田竜一・平野義孝・中村徳光・佐藤信次・成瀬敏夫・木村敏男
岩手	富士製鉄・釜石	及川　好	吉田　寛・及川　好・伊藤　博・浅井金一
茨城	日立製作所・水戸	杉浦　重夫	早川　博・福田喜代志・西湯秀男・木村　進・今井勇司・石坂文男
群馬	富士重工・群馬	渡辺　晃一	大谷浩男・渡辺晃一・山形　武・三上隆康・大槻繁美
	三菱電機・群馬	高橋　恒夫	小沢永一・栗原　弘・阿久戸義昭・元木育男・千田泰男・高橋勝美
	三ツ葉電機製作所	樹所　久男	椎原邦雄・浅野佳夫・石井真一・伊師幹雄
	東京三洋電機		白林弘司・大野孝治
埼玉	サンケン電気	富山　武司	今井清兼・薄田隆衛・都築富夫・竹田建夫・富山武司
	日研化学	横井　初夫	井上泰年・佐藤忠男・小野玲穂・舟山一敏・山口喜雄・吉田　司
東京	石川島播磨重工	原　功	村田俊夫・浅井良伸・徳保　勝・菅村好基・加茂正一
	明治生命	星野　良夫	宮永武司・清水重秋・大沼新一・深谷　昭・杉本伸之・宮本興一・海保正義
	河崎ラケット	福井　正康	堺　栄一・小林敏男・福井正康・三上　勇・堀田邦彦・川津　晃・若松　進・河崎一幸
	電電東京	鈴木　幸春	鈴木幸春・田上十六・森谷喜久男・日野泰三・横倉良樹・星野義昭・鈴木健二
	東京都庁	高橋　秀男	鈴木　蕃・右田利弘・高橋秀男・久保田義典・大原政義・竹俣　明
	北辰電機製作所	植田　耕司	中山広明・山本洋彦・黒崎二男・千葉健司・細野敏男・岡部幸一・植田耕司
	沖電気工業	鈴木　義男	佐藤彦次郎・田口長生・鈴木義男・飛永勝一・古沢　弘・山本博司・佐藤邦夫
	国際電気		森脇籌夫・小宮根塘
	ヨネヤマラケット		小島一平
神奈川	日本鋼管	佐治　豊	遠藤啓治・伊田真一・青木　昇・石川三郎・三浦　力・内田　茂
	横浜市役所	土方　充	船山誠義・高橋正宏・土方　充・福田耕三・渡辺直人・福士博美
	日本石油・横浜	麻生　民次	古川昌彦・斉藤　満・長瀬正敏・京屋孝治・山下豊彦・麻生民次・小野重行
	東芝・中央研究所	福井　資夫	桜井光雄・三国良彦・山下高志・伊藤武彦・轟　勝彦・久保川勝
	三菱重工・横浜造船所	上杉　光芳	鈴木勝之・岸　賢司・倉田豊三郎・守口　茂・川北義正
	日立製作所・戸塚		吉田　邦男・富田健一
	日産自動車		井上　章
千葉	船橋市役所	田久保能久	中村　忠・相川靖宣・長島一男・渡辺正男・石渡紀雄・石井　昇・田久保能久
	三井造船・千葉造船所	丹生谷義徳	丹生谷義徳・大倉末広・太田盛秋・三浦英男・井沢昌彦・山下正明・坂井秀雄
新潟	日本石油・新潟		川谷貞夫
	日本曹達・二本木		宮沢高嶺
	日産火災海上		瀬戸正広
富山	十條製紙・伏木	堺　三徳	堺　三徳・大野幸雄・江守　清・小坂信雄・芳田　清・釣谷友一
	高岡市役所	中山　邦夫	盛野博之・関村順治・徳田尋信・谷口祐三・野村正一・中山邦夫・高田政勝
	日本ゼオン・高岡	中野　英雄	林　邦雄・北　孝春・四日信治・西川　研・荒木宗直・中野英雄
	不二越	川上　洋一	川上洋一・永原昌雄・柳瀬昭二・成伯　裕・畑　栄進・田島一正
福井	敦賀市役所	野崎　隆夫	野崎隆夫・比田庄衛・寺崎由雄・坪内茂雄
	福井銀行		梶谷将人
	敦賀ヨーグルト		原　紀征
	福井県庁		加賀久次
石川	倉庫精練	田村　祥爾	中田吉昭・室　勉・東　茂樹・村中　猛
	津田駒工業	桜木　英智	亀田逸夫・山本秀夫・浅井　清・竹内　進・荒川　弘・桜木英智
	小松製作所		原　明弘

県名	事業所名	監督名	選手名
長野	オリンパス光学	藤森　修一	釜洞義賢・今井祥隆・岩本敏男・藤森修一
静岡	小糸製作所・静岡	田村　幸一	大泉善一・日下部敏弘・菊地光雄・岡村敏雄
愛知	豊田自動織機	上原　信彦	西川幸男・深井忠男・竹田正雄・小山　勇・中村高久・西尾義光
	トヨタ自動車	深津　豊	小宮好雄・板垣善憲・長谷川敏彦・安沢武司・小林一宏・牛島秀雄・伊藤一夫・多賀靖之 門間昇一・松島　保・深津　豊・山城智徳・多賀純一・北田寛一
	名古屋鉄道	伊村　隆	伊村　隆・後藤守司・樋口一春・伊藤昭司・高橋克己・井沢　宏
	富士製鉄・名古屋	油井　秀男	沼里敬夫・西久保博明・金谷義雄・二瓶　清・山本卓男・平松光男・奥野哲次
	豊田工機		宮川　清・古川直仁
三重	三菱化成・四日市	中川　功	増井孝夫・小林　悟・吉原　洋・糸永泰典
岐阜	特殊製紙・岐阜	河合　忠夫	新名克彦・川瀬勝幸・高田文男・田中忠之
滋賀	大津市役所	上田　正雄	佐藤　賢・釜屋明和・西原四郎・田中正民・松井弥寿男
京都	三菱重工・京都	岡本　宏也	石原　敦・大西秀信・戸沢正雄・福井達雄・豊田耕三・高宮梵之助・石津正明
	島津製作所	安川　和正	加藤英和・永谷祥三・和田正高・若林　登・上田　勉・甲良洋一・奥田俊次
	国立舞鶴病院	時岡　俊幸	竹内　進・時岡俊幸・渡　敏行・池部勝美
	舞鶴商事		谷口房治・紀田文男・新宮信男・久代貫三郎
	海上自衛隊・舞鶴		白井規久夫・橋本禎二
大阪	電電大阪	高野五十美	中川安正・品川勝男・高野五十美・三木　喬・木谷正美・工藤鶴雄・清水　孝・田中啓文 森本　務
	松下電子工業	矢田　直宏	大橋誠治・畑部輝秀・近藤敏和・浜田幸雄・山本主計
	国際電信電話	武村　俊平	竹端捷次・松浪鋭四郎・溝淵宏二・武村俊平・藤井靖雄
	日立造船・大阪		出原武雄・松浪新治
和歌山	東亜燃料・和歌山	永広　利之	水谷哲雄・片岡正一・宮岡　昭・東山　勲
	大日日本電線・箕島		喜多　勝・木村隆清
兵庫	神戸製鋼所・尼崎	三好　孝行	小泉淳一・友金利一・浜野　孝・森田昌彦・田中　至・大竹節夫・森田俊治・田崎哲夫 竜円栄治・鍋田健一
	大日日本電線	吉田　昇	大黒利明・清水　力・中村邦宏・豚座一利・佐藤義則・古井一弘・佐野嘉彦・吉田　昇 山田達也・渡辺浩一
	三菱電機・伊丹	萩野　一夫	清田隼久・立花宏昭・萩野一夫・太田照雄・藤朶邦彦・堀　英明
	三菱電機・神戸	尾崎　惟信	井上一成・吉野昭文・宗重　昇・筒井清志・尾崎惟信・小林忠信
岡山	[illegible]	[illegible]	[illegible]・藤井英雄・岡本武利・神子戸輝幸・大村泰治・崎本明夫・社　竹三
	三井造船・玉野A	虻江　優	上野輝治・万代芳郎・茅上一男・山中健[illegible]
	三井造船・玉野B	金田　孝	西村一夫・森本一郎・藤原道文・氏家　徹
広島	日立造船・因島		豊田　覚・大道秀夫・杉山清行・上田辰男
山口	宇部興産	松村　哲幸	末広秀樹・河添忠夫・石川好夫・味付恭二
	山陽パルプ・岩国	川岡　智	川岡　智・宝井勝夫・林　厚志・宮岡康臣・大和田哲夫・長藤俊成・末岡通典
	三菱レーヨン		田谷　勝
香川	高松市役所	野口　利行	阿部正信・田中信一・横岡忠幸・野口利行
	高松琴平電鉄		牟礼　頭
愛媛	住友化学・新居浜	大図　敏雄	矢野　晃・津吉哲郎・須山盾夫・佐々木孝・安藤八郎・福井久男
	住友化学・菊本	薦田　常郎	越谷勤也・三若孝一・中村昌弘・片上逸志・秋山英明・岩崎　博・千葉重信・松木真夫
	丸善石油・松山	浜中　誠	浜中　誠・松木信夫・白石卓夫・佐伯友正・大野　貢・藤田峯斉
福岡	ブリヂストンタイヤ	美山　紘幸	井上和秀・美山紘幸・海上光昭・緒方正行
	北九州市役所	三沢　英二	淵上英紀・勝野雅文・遠江一彦・林辺安治・三沢英二
大分	日田市役所	桑野　昇	田中大也・春武俊一・佐藤国晴・宮原秀三・桑野　昇・江田　恵・諫元慎一

県名	事業所名	監督名	選手名
長崎	三菱重工・長崎造船所	喜多　昭夫	山口征一郎・平野勝也・前田国臣・山口敏弘・松野　勲・巽　輝幸・田中貞夫・高野末雄 成清　進
	三菱電機・長崎	角田　　寿	山市敏造・江原　澄・山崎敏則・栄　信重・江口忠道・山口正博・長松保男・角田　寿
	長崎市役所	片平　直照	本村明男・福丸定美・下田武司・片平直照・竹下勝洋・柿本修宣・本多岩根・酒井　繁
	大村市役所	松田　勝男	森林勝見・中島泰二・渡海　毅・渡海昌俊・福田安幸・黒田一彦
	佐世保重工業	伊藤　恵一	伊藤恵一・正岡弘泰・金子三朗・赤木　忠・遠藤勝義
	諫早市役所	前田　昭紀	山崎蔵男・前田昭紀・宮崎勝治・森　　誠

（女子の部）

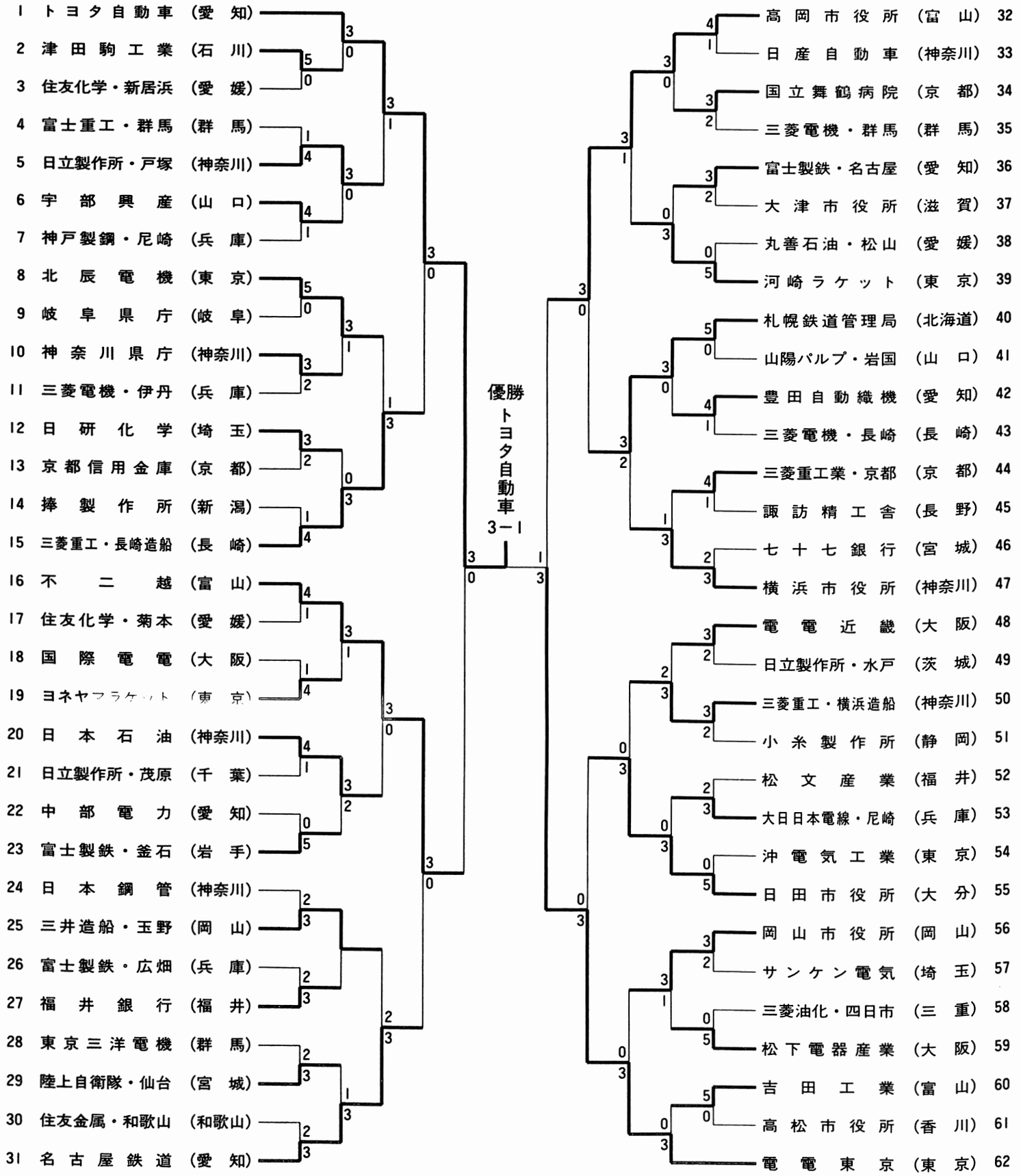
県名	事業所名	監督名	選手名
群馬	三菱電機・群馬	茂木　正弘	清水要子・杉田陽子・町田幸江・加藤泰江・正田静枝
	三ツ葉電機製作所	樹所　久男	松本光子・天田かほる・橋本和子・西場重子
埼玉	河崎ラケット	福井　正康	原　則子・工藤よう子・長田民子・原田ケイ子
	東邦レース	富橋　末治	佐々木フミ・中川美枝子・館野美津江・佐々木君子
	サンケン電気		佐藤恵子・小池たき子
東京	石川島播磨重工業	原　　功	渡辺節子・吉田則子・山本由紀子・高橋節子
	北辰電機製作所	植田　耕司	高橋とも子・水野小夜子・山上博子・新田児フミ
	電電東京	富田　　豊	有木トミ子・日下悦子・土井治子・岡部ふさ子・田仲美津江・櫛毛ミキ・奈良岡洋子
	東京都庁	高橋　秀男	中島あつ子・島田淳子・近藤あや子・星野雅子・島田律子・石毛政子・伊藤くみ子
	大丸・東京	飯野　泰史	吉田啓子・伊藤シゲ子・沖杉久子・栗原茂子
神奈川	日本コロムビア・川崎	伊東　隆文	小林歌子・杉田良子・小原志津江・塗師外茂子・宮田シズエ
	三菱重工・横浜造船所	上杉　光芳	小野順子・森美和子・岡村　行・森下牧子・藤沢順子・石津俊慧
	日本石油・横浜	麻生　民次	木村裕子・牧田久子・北川一恵・長野幸枝・石田千恵子・金子幸子・加藤礼子
	東芝・中央研究所		飯田恵子・吉田智恵子
	日立製作所・戸塚		武久喜美子・上野良子
千葉	日立製作所・茂原	近藤　　登	恩田和子・島峰洋子・菊地陽子・及川泰子・佐藤ツヤ
新潟	日本曹達・二本木	宮沢　高嶺	加治ハル・品川洋子・中沢礼子・金子美代子
富山	[illegible]		佐島文子
福井	福井県庁		長谷川慧子
	福井銀行		安間千代子
	勝山市役所		田中千恵子
静岡	本州製紙・富士	喜多沢求夫	風岡敏子・木内俊子・森野秀子・渡辺正子・山田好子・平野京子
愛知	名古屋鉄道	伊村　　隆	山際トモ子・渡辺幸子・丹羽さよ子・田口美代子・高橋孝子
	トヨタ自動車	深津　　豊	上野明美・太田節子・深沢むつ子・前野さえ・吉倉恵子・金子美和子・和田昌代
	豊田自動織機		大橋美和子・辻田京子
	豊田工機		中川淑子・石黒恵子
滋賀	大津市役所		竹内好野
京都	三菱重工・京都	岡本　宏也	永井かおり・山下三枝子・岡崎繁子・永井むつみ・松尾志津
	関西地区補給処	山下　　実	笠井弘子・小沢洋子・辻井海南宏・前田紀代子・黒田とみ子
大阪	電電大阪	高野五十美	竹宮久恵子・堀川えい子・金田依子・安村弘子・柿本房子
	松下電子工業	矢田　直宏	吉井千代美・吉田富子・植田良子・村井ふみえ
兵庫	三菱電機・伊丹	萩野　一夫	島　宏子・小守伝恵・片桐澄江・浅田文代・小山ひとみ・大山登志恵
山口	東洋曹達工業	渡辺　　忠	伊藤崇子・河村歌子・原田文枝・貞本順子
	山陽パルプ・岩国	川岡　　智	橘　明子・渡辺美枝子・山代屋伊都子・片山和子

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
香　川	百十四銀行	寺西　直一	北条寿美子・綾井美津子・山本みどり・竹森経子・北野和子
	高松琴平電鉄		山本真江・細川泰子・宮武範子
長　崎	三菱電機・長崎造船所	角田　　寿	江頭明美・宮島由里子・田中美恵子・山下千代子
	親和銀行	中村フミエ	中村フミエ・中村善子・小崎瑞恵・吉武えい子
	諫早市役所	前田　昭紀	酒井篤子・寄辺豊美・崎村美千子・井手恵美子

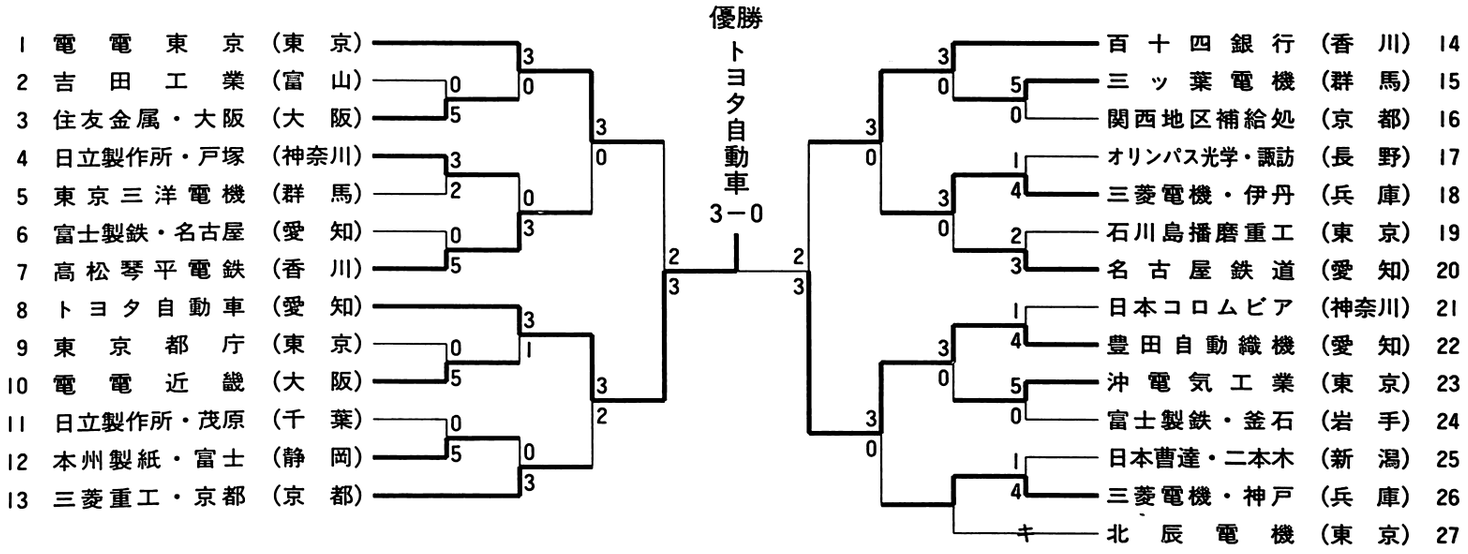
第19回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1969年(昭和44年)6月28～30日,7月1,2日
開 催 地：岩手県釜石市
会　　場：富士製鉄釜石製鉄所健康保険組合体育館
　　釜石南高校体育館

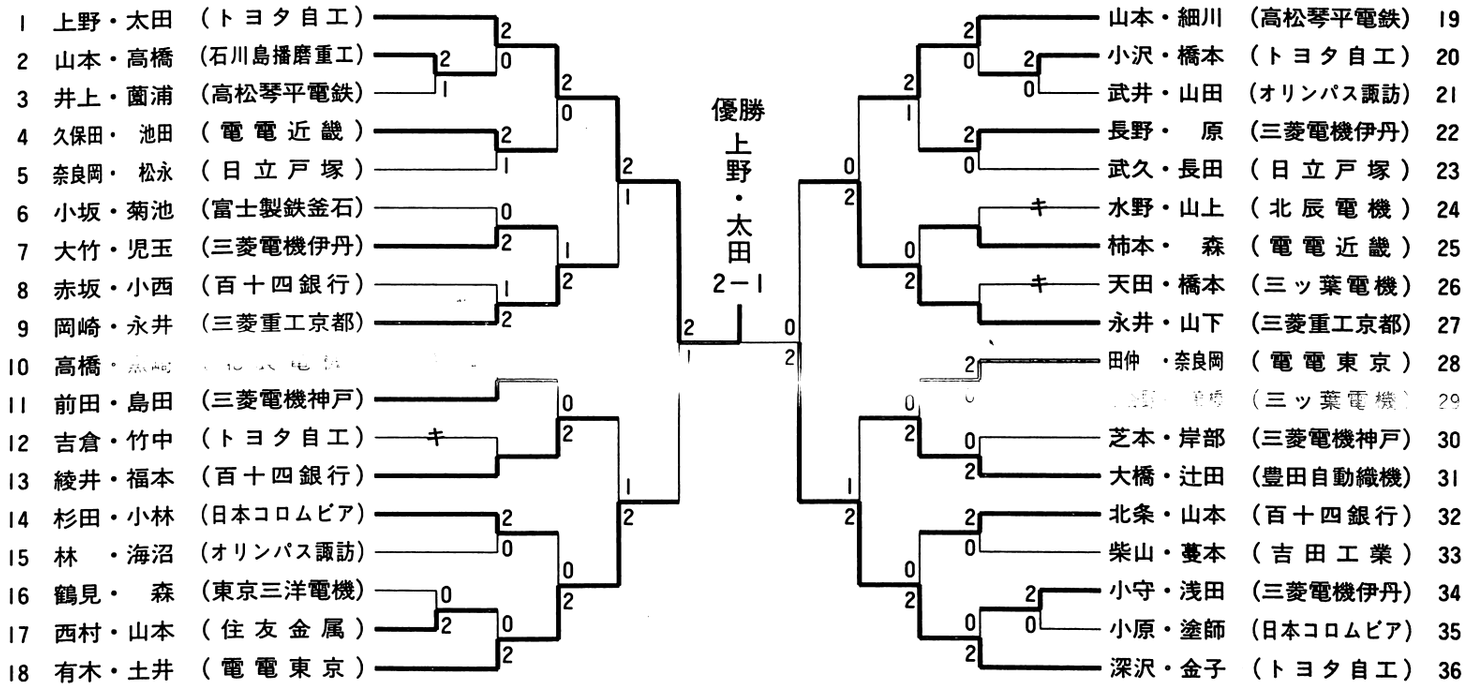
■男子団体の部



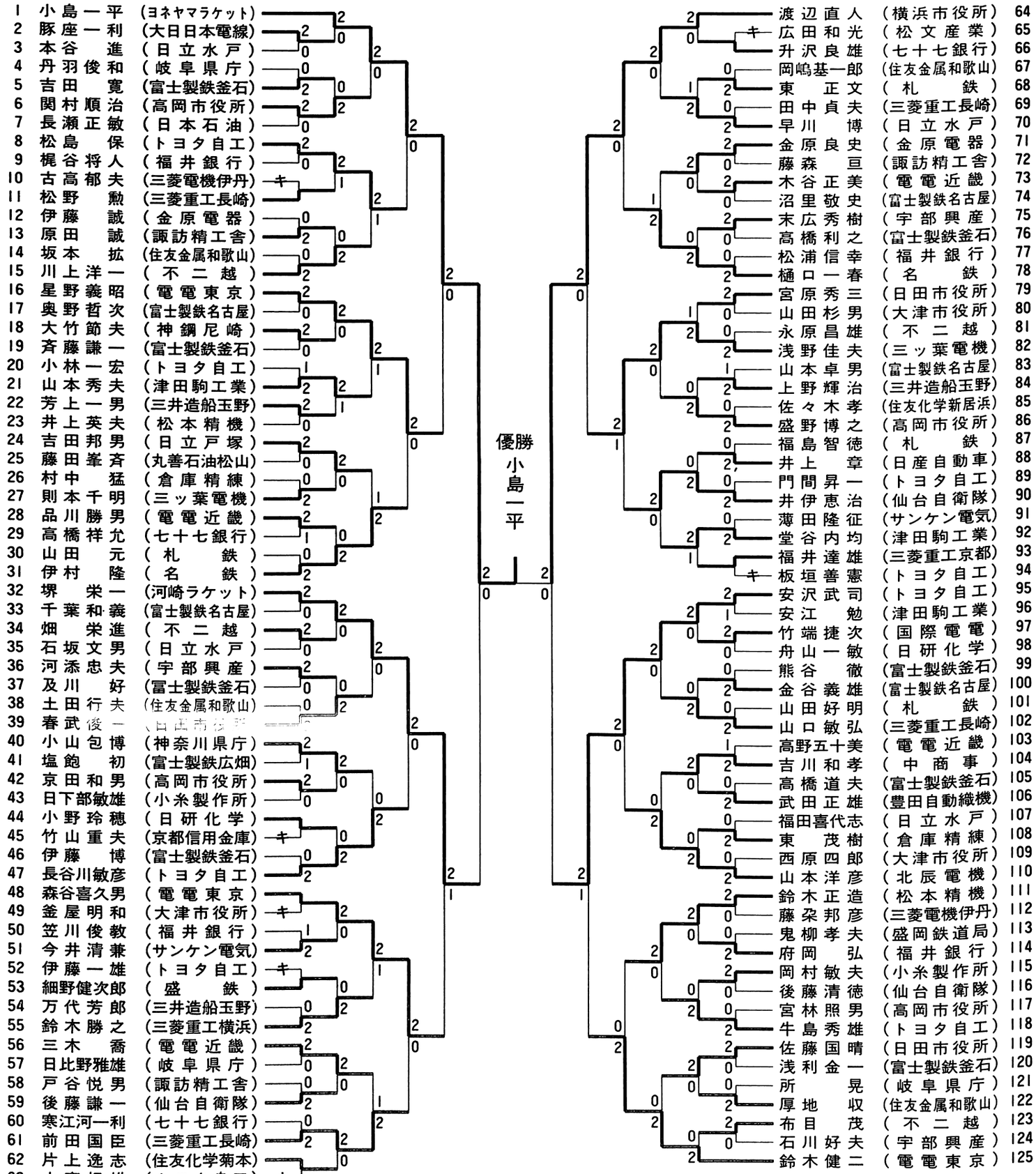
■女子団体の部



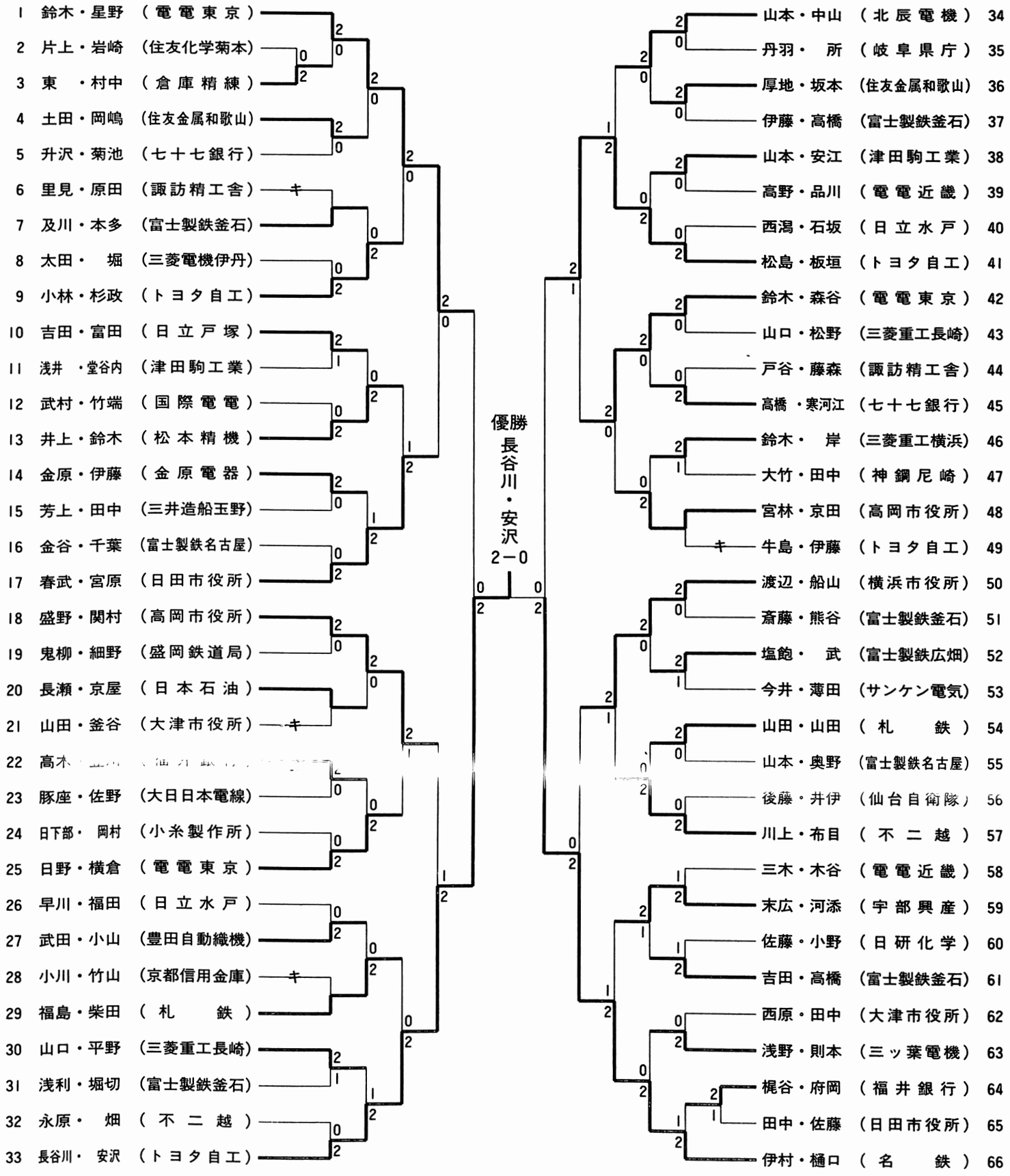
■女子複の部



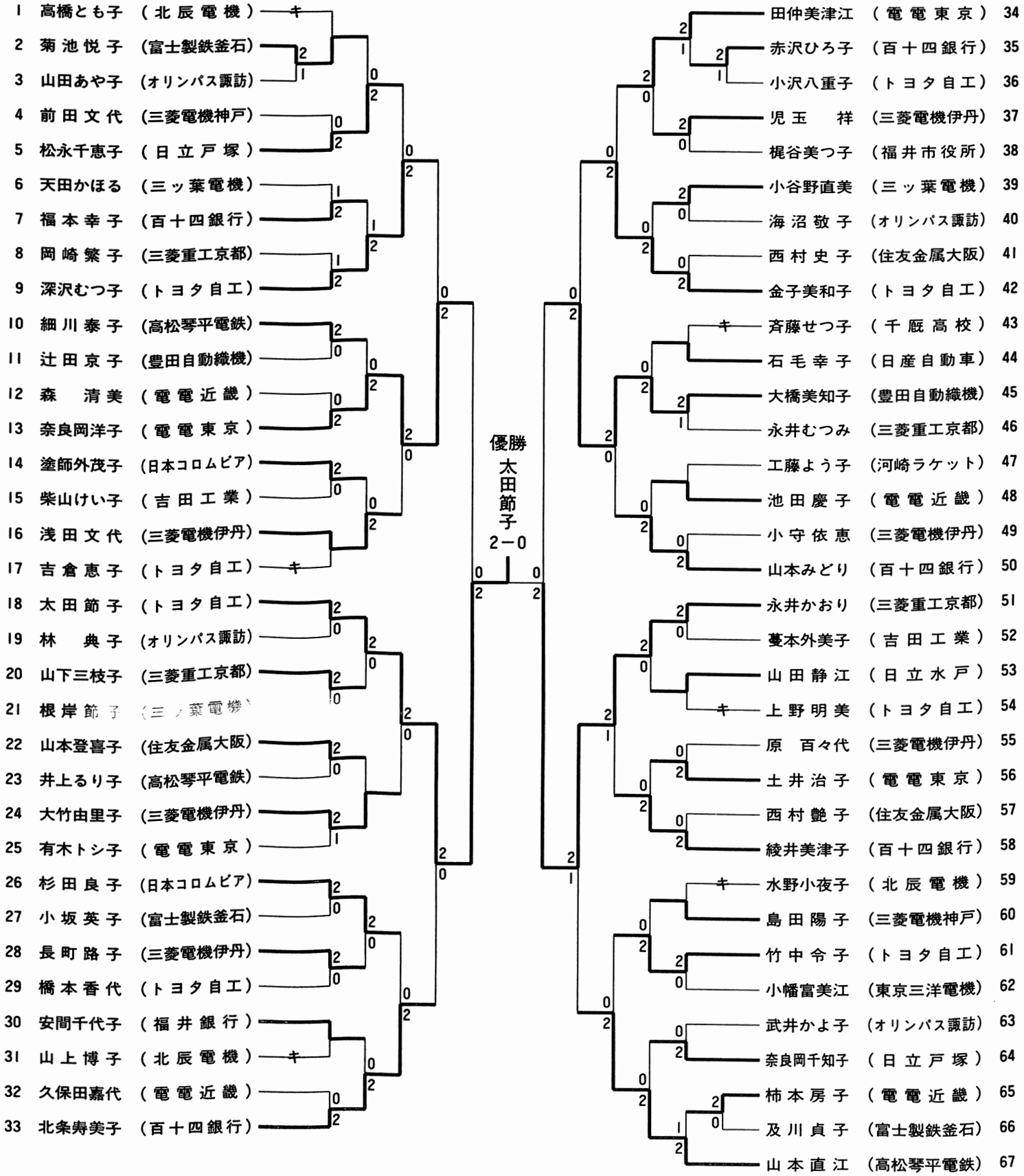
■男子単の部


1 小島一平 (ヨネヤマラケット)
2 豚座一利 (大日日本電線)
3 本谷進 (日立水戸)
4 丹羽俊和 (岐阜県庁)
5 吉田寛 (富士製鉄釜石)
6 関村順治 (高岡市役所)
7 長瀬正敏 (日本石油)
8 松島保 (トヨタ自工)
9 梶谷将人 (福井銀行)
10 古高郁夫 (三菱電機伊丹)
11 松野勲 (三菱重工長崎)
12 伊藤誠 (金原電器)
13 原田誠 (諏訪精工舎)
14 坂本拡 (住友金属和歌山)
15 川上洋一 (不二越)
16 星野義昭 (電電東京)
17 奥野哲次 (富士製鉄名古屋)
18 大竹節夫 (神鋼尼崎)
19 斉藤謙一 (富士製鉄釜石)
20 小林一宏 (トヨタ自工)
21 山本秀夫 (津田駒工業)
22 芳上一男 (三井造船玉野)
23 井上英夫 (松本精機)
24 吉田邦男 (日立戸塚)
25 藤田峯斉 (丸善石油松山)
26 村中猛 (倉庫精練)
27 則本千明 (三ッ葉電機)
28 品川勝男 (電電近畿)
29 高橋祥允 (七十七銀行)
30 山田元 (札鉄)
31 伊村隆 (名鉄)
32 堺栄一 (河崎ラケット)
33 千葉和義 (富士製鉄名古屋)
34 畑栄進 (不二越)
35 石坂文男 (日立水戸)
36 河添忠夫 (宇部興産)
37 及川好 (富士製鉄釜石)
38 土田行夫 (住友金属和歌山)
39 春武俊一 (日産自動車)
40 小山包博 (神奈川県庁)
41 塩飽初 (富士製鉄広畑)
42 京田和男 (高岡市役所)
43 日下部敏雄 (小糸製作所)
44 小野玲穂 (日研化学)
45 竹山重夫 (京都信用金庫)
46 伊藤博 (富士製鉄釜石)
47 長谷川敏彦 (トヨタ自工)
48 森谷喜久男 (電電東京)
49 釜屋明和 (大津市役所)
50 笠川俊教 (福井銀行)
51 今井清兼 (サンケン電気)
52 伊藤一雄 (トヨタ自工)
53 細野健次郎 (盛鉄)
54 万代芳郎 (三井造船玉野)
55 鈴木勝之 (三菱重工横浜)
56 三木喬 (電電近畿)
57 日比野雅雄 (岐阜県庁)
58 戸谷悦男 (諏訪精工舎)
59 後藤謙一 (仙台自衛隊)
60 寒江河一利 (七十七銀行)
61 前田国臣 (三菱重工長崎)
62 片上逸志 (住友化学菊本)
63 小宮好雄 (トヨタ自工)
優勝
小島一平
64 渡辺直人 (横浜市役所)
65 広田和光 (松文産業)
66 升沢良雄 (七十七銀行)
67 岡嶋基一郎 (住友金属和歌山)
68 東正文 (札鉄)
69 田中貞夫 (三菱重工長崎)
70 早川博 (日立水戸)
71 金原良史 (金原電器)
72 藤森亘 (諏訪精工舎)
73 木谷正美 (電電近畿)
74 沼里敬史 (富士製鉄名古屋)
75 末広秀樹 (宇部興産)
76 高橋利之 (富士製鉄釜石)
77 松浦信幸 (福井銀行)
78 樋口一春 (名鉄)
79 宮原秀三 (日田市役所)
80 山田杉男 (大津市役所)
81 永原昌雄 (不二越)
82 浅野佳夫 (三ッ葉電機)
83 山本卓男 (富士製鉄名古屋)
84 上野輝治 (三井造船玉野)
85 佐々木孝 (住友化学新居浜)
86 盛野博之 (高岡市役所)
87 福島智徳 (札鉄)
88 井上章 (日産自動車)
89 門間昇一 (トヨタ自工)
90 井伊恵治 (仙台自衛隊)
91 薄田隆征 (サンケン電気)
92 堂谷内均 (津田駒工業)
93 福井達雄 (三菱重工京都)
94 板垣善憲 (トヨタ自工)
95 安沢武司 (トヨタ自工)
96 安江勉 (津田駒工業)
97 竹端捷次 (国際電電)
98 舟山一敏 (日研化学)
99 熊谷徹 (富士製鉄釜石)
100 金谷義雄 (富士製鉄名古屋)
101 山田好明 (札鉄)
102 山口敏弘 (三菱重工長崎)
103 高野五十美 (電電近畿)
104 吉川和孝 (中商事)
105 高橋道夫 (富士製鉄釜石)
106 武田正雄 (豊田自動織機)
107 福田喜代志 (日立水戸)
108 東茂樹 (倉庫精練)
109 西原四郎 (大津市役所)
110 山本洋彦 (北辰電機)
111 鈴木正造 (松本精機)
112 藤朶邦彦 (三菱電機伊丹)
113 鬼柳孝夫 (盛岡鉄道局)
114 府岡弘 (福井銀行)
115 岡村敏夫 (小糸製作所)
116 後藤清徳 (仙台自衛隊)
117 宮林照男 (高岡市役所)
118 牛島秀雄 (トヨタ自工)
119 佐藤国晴 (日田市役所)
120 浅利金一 (富士製鉄釜石)
121 所晃 (岐阜県庁)
122 厚地収 (住友金属和歌山)
123 布目茂 (不二越)
124 石川好夫 (宇部興産)
125 鈴木健二 (電電東京)

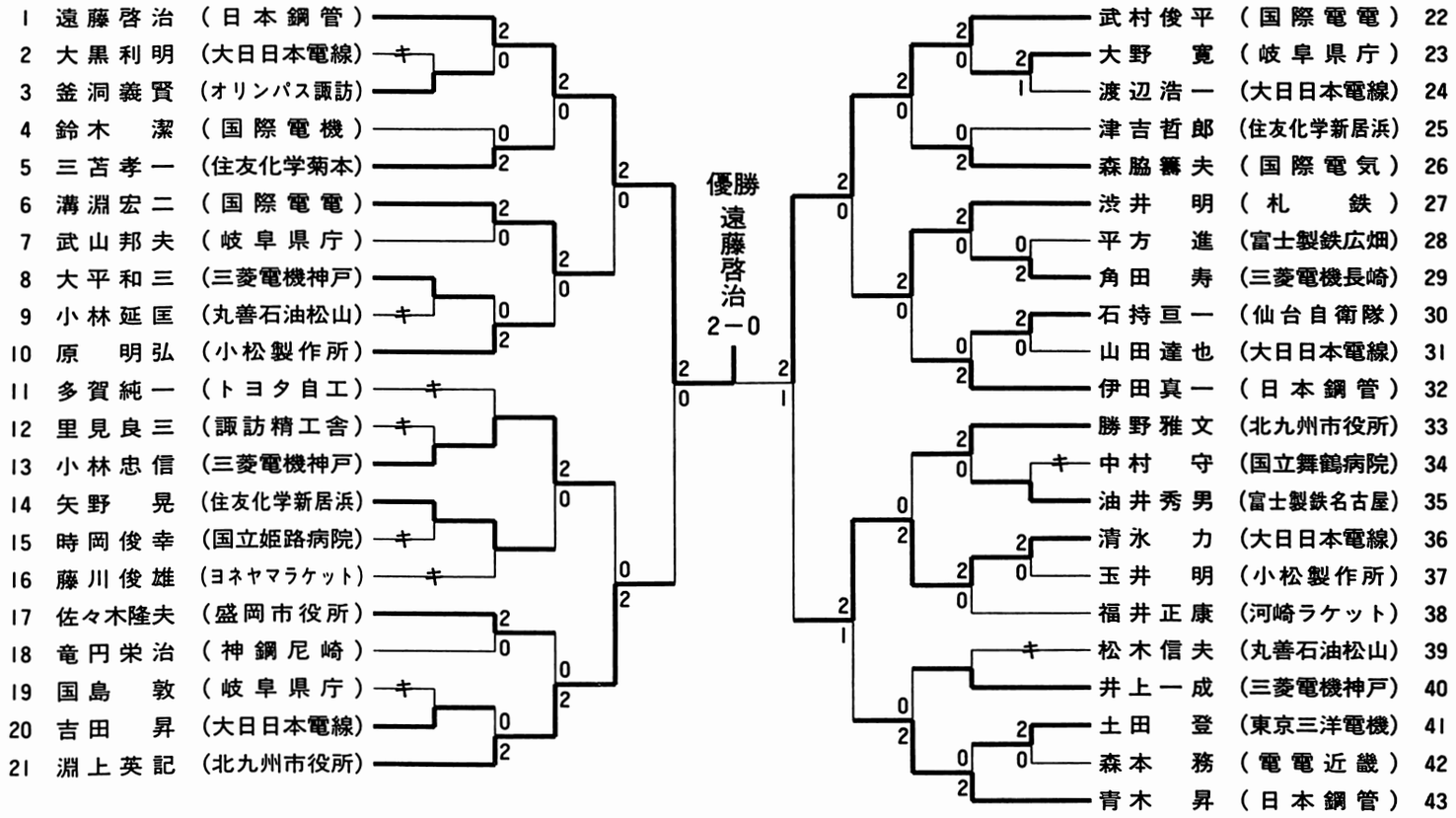
■男子複の部


1 鈴木・星野 （電電東京）
2 片上・岩崎 （住友化学菊本）
3 東 ・村中 （倉庫精練）
4 土田・岡嶋 （住友金属和歌山）
5 升沢・菊池 （七十七銀行）
6 里見・原田 （諏訪精工舎）
7 及川・本多 （富士製鉄釜石）
8 太田・ 堀 （三菱電機伊丹）
9 小林・杉政 （トヨタ自工）
10 吉田・富田 （日立戸塚）
11 浅井 ・堂谷内 （津田駒工業）
12 武村・竹端 （国際電電）
13 井上・鈴木 （松本精機）
14 金原・伊藤 （金原電器）
15 芳上・田中 （三井造船玉野）
16 金谷・千葉 （富士製鉄名古屋）
17 春武・宮原 （日田市役所）
18 盛野・関村 （高岡市役所）
19 鬼柳・細野 （盛岡鉄道局）
20 長瀬・京屋 （日本石油）
21 山田・釜谷 （大津市役所）
22 高木
23 豚座・佐野 （大日日本電線）
24 日下部・ 岡村 （小糸製作所）
25 日野・横倉 （電電東京）
26 早川・福田 （日立水戸）
27 武田・小山 （豊田自動織機）
28 小川・竹山 （京都信用金庫）
29 福島・柴田 （札 鉄）
30 山口・平野 （三菱重工長崎）
31 浅利・堀切 （富士製鉄釜石）
32 永原・ 畑 （不二越）
33 長谷川・ 安沢 （トヨタ自工）
優勝
長谷川・安沢
2－0
34 山本・中山 （北辰電機）
35 丹羽・ 所 （岐阜県庁）
36 厚地・坂本 （住友金属和歌山）
37 伊藤・高橋 （富士製鉄釜石）
38 山本・安江 （津田駒工業）
39 高野・品川 （電電近畿）
40 西潟・石坂 （日立水戸）
41 松島・板垣 （トヨタ自工）
42 鈴木・森谷 （電電東京）
43 山口・松野 （三菱重工長崎）
44 戸谷・藤森 （諏訪精工舎）
45 高橋 ・寒河江 （七十七銀行）
46 鈴木・ 岸 （三菱重工横浜）
47 大竹・田中 （神鋼尼崎）
48 宮林・京田 （高岡市役所）
49 牛島・伊藤 （トヨタ自工）
50 渡辺・船山 （横浜市役所）
51 斎藤・熊谷 （富士製鉄釜石）
52 塩飽・ 武 （富士製鉄広畑）
53 今井・薄田 （サンケン電気）
54 山田・山田 （札 鉄）
55 山本・奥野 （富士製鉄名古屋）
56 後藤・井伊 （仙台自衛隊）
57 川上・布目 （不二越）
58 三木・木谷 （電電近畿）
59 末広・河添 （宇部興産）
60 佐藤・小野 （日研化学）
61 吉田・高橋 （富士製鉄釜石）
62 西原・田中 （大津市役所）
63 浅野・則本 （三ッ葉電機）
64 梶谷・府岡 （福井銀行）
65 田中・佐藤 （日田市役所）
66 伊村・樋口 （名 鉄）

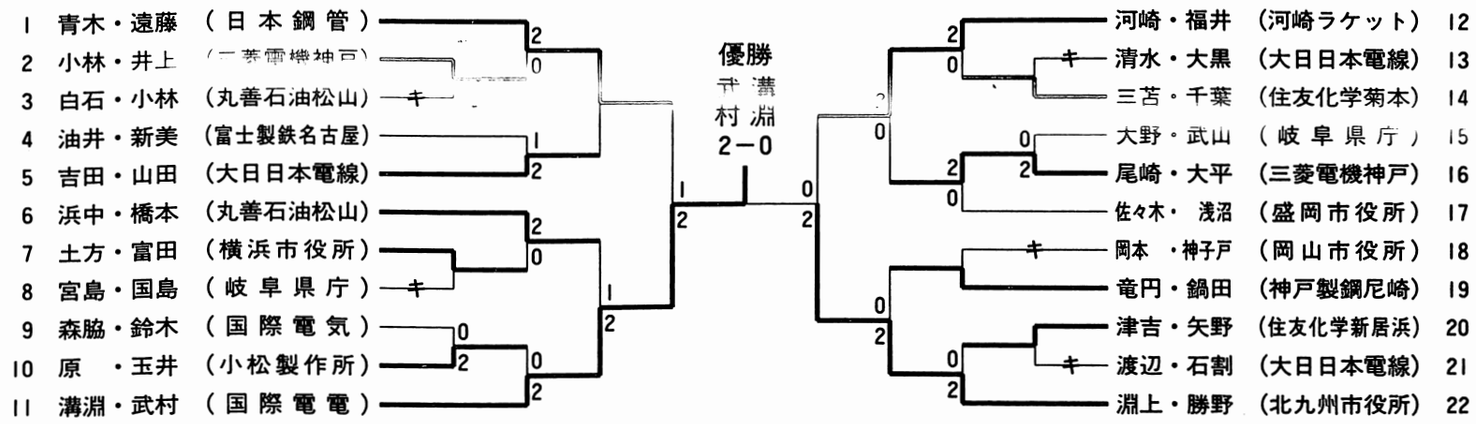
■女子単の部


1 高橋とも子 (北辰電機)
2 菊池悦子 (富士製鉄釜石)
3 山田あや子 (オリンパス諏訪)
4 前田文代 (三菱電機神戸)
5 松永千恵子 (日立戸塚)
6 天田かほる (三ッ葉電機)
7 福本幸子 (百十四銀行)
8 岡崎繁子 (三菱重工京都)
9 深沢むつ子 (トヨタ自工)
10 細川泰子 (高松琴平電鉄)
11 辻田京子 (豊田自動織機)
12 森 清美 (電電近畿)
13 奈良岡洋子 (電電東京)
14 塗師外茂子 (日本コロムビア)
15 柴山けい子 (吉田工業)
16 浅田文代 (三菱電機伊丹)
17 吉倉恵子 (トヨタ自工)
18 太田節子 (トヨタ自工)
19 林 典子 (オリンパス諏訪)
20 山下三枝子 (三菱重工京都)
21 根岸節子 (三ッ葉電機)
22 山本登喜子 (住友金属大阪)
23 井上るり子 (高松琴平電鉄)
24 大竹由里子 (三菱電機伊丹)
25 有木トシ子 (電電東京)
26 杉田良子 (日本コロムビア)
27 小坂英子 (富士製鉄釜石)
28 長町路子 (三菱電機伊丹)
29 橋本香代 (トヨタ自工)
30 安間千代子 (福井銀行)
31 山上博子 (北辰電機)
32 久保田嘉代 (電電近畿)
33 北条寿美子 (百十四銀行)
優勝
太田節子
2－0
34 田仲美津江 (電電東京)
35 赤沢ひろ子 (百十四銀行)
36 小沢八重子 (トヨタ自工)
37 児玉 祥 (三菱電機伊丹)
38 梶谷美つ子 (福井市役所)
39 小谷野直美 (三ッ葉電機)
40 海沼敬子 (オリンパス諏訪)
41 西村史子 (住友金属大阪)
42 金子美和子 (トヨタ自工)
43 斉藤せつ子 (千厩高校)
44 石毛幸子 (日産自動車)
45 大橋美知子 (豊田自動織機)
46 永井むつみ (三菱重工京都)
47 工藤よう子 (河崎ラケット)
48 池田慶子 (電電近畿)
49 小守依恵 (三菱電機伊丹)
50 山本みどり (百十四銀行)
51 永井かおり (三菱重工京都)
52 蔓本外美子 (吉田工業)
53 山田静江 (日立水戸)
54 上野明美 (トヨタ自工)
55 原 百々代 (三菱電機伊丹)
56 土井治子 (電電東京)
57 西村艶子 (住友金属大阪)
58 綾井美津子 (百十四銀行)
59 水野小夜子 (北辰電機)
60 島田陽子 (三菱電機神戸)
61 竹中令子 (トヨタ自工)
62 小幡富美江 (東京三洋電機)
63 武井かよ子 (オリンパス諏訪)
64 奈良岡千知子 (日立戸塚)
65 柿本房子 (電電近畿)
66 及川貞子 (富士製鉄釜石)
67 山本直江 (高松琴平電鉄)

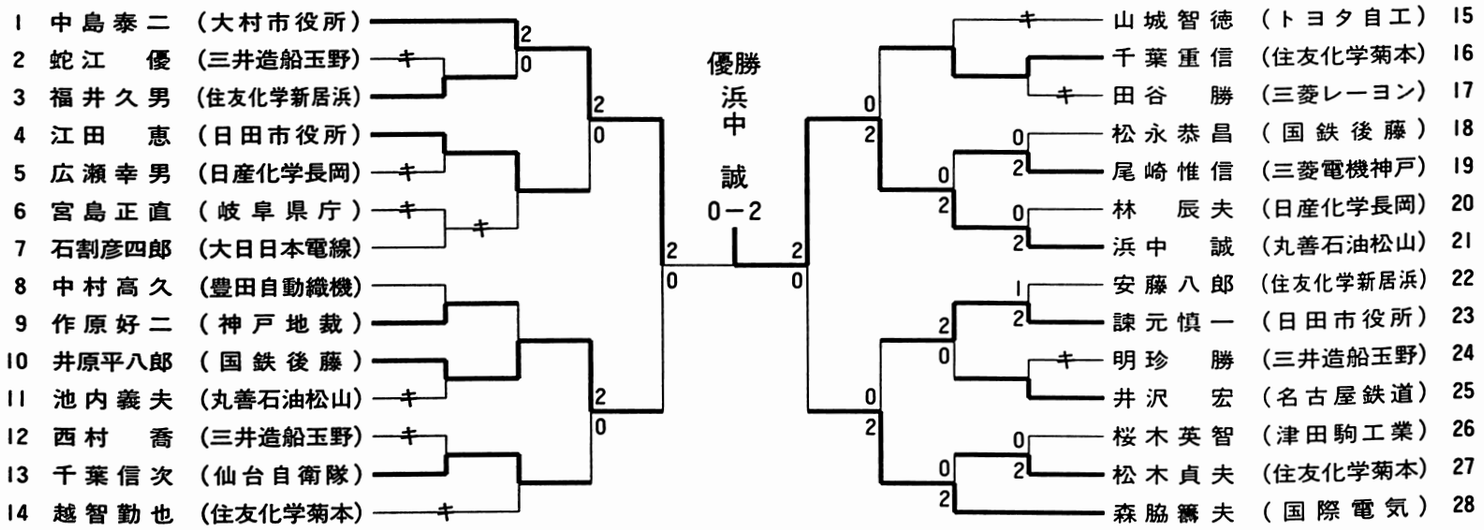
■30歳以上単の部



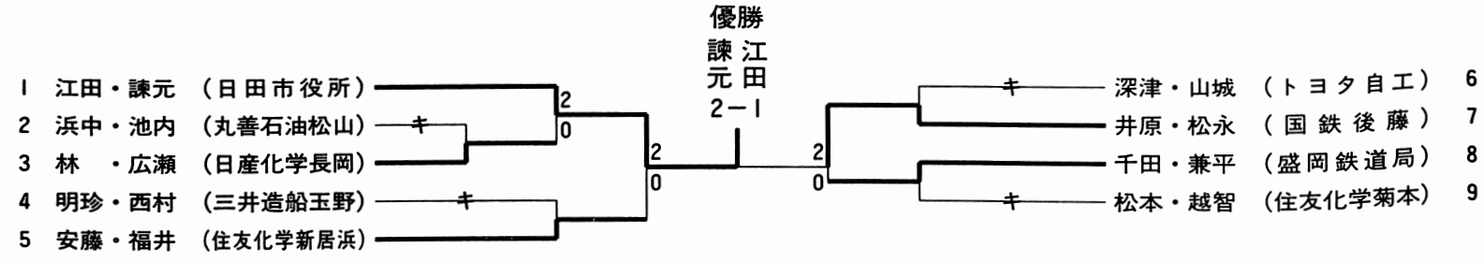
■30歳以上複の部



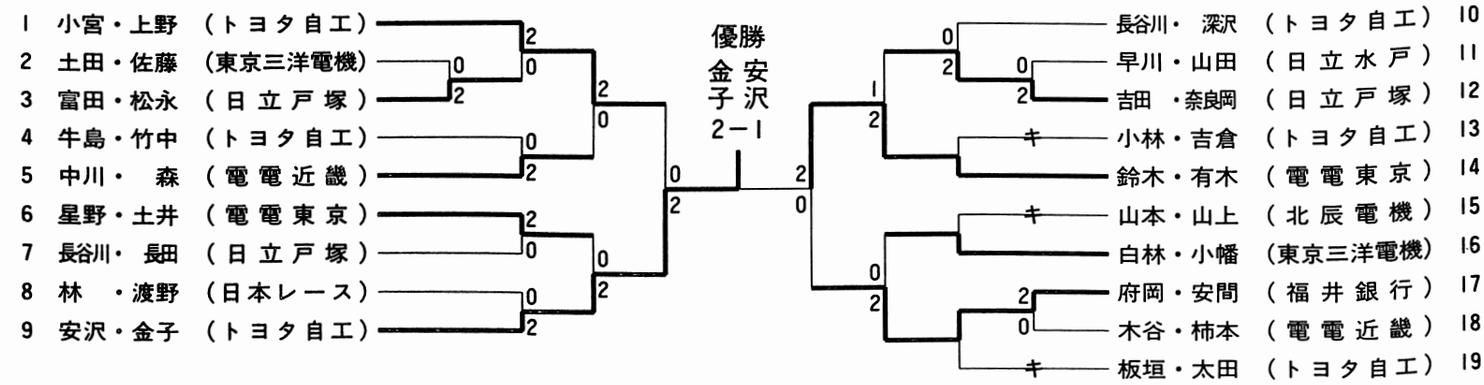
■40歳以上単の部



■40歳以上複の部



■混合複の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
大分	日田市役所	田中　大也	田中大也・春武俊一・江田　恵・諫元慎一・佐藤国晴・宮原秀三
長崎	三菱重工・長崎造船所	喜多　昭夫	山口征一郎・平野勝也・前田国臣・山口敏弘・松野　勲・田中貞夫・中野和雄・辻　優
	三菱電機・長崎	角田　寿	角田　寿・山市敞造・山崎敏則・江原　澄・山口正博・江口忠道・長松保男
	大村市役所		中島恭二
福岡	北九州市役所		淵上英紀・勝野雅文
愛媛	住友化学・新居浜	大図　敏雄	安藤八郎・津吉哲郎・矢野　晃・佐々木孝・奥村繁樹・森口幸信・福井久男
	住友化学・菊本	門田　昌三	三笘孝一・片上逸志・岩崎　博・秋山英明・守谷喜久雄・千葉重信・越智勤也・松木貞夫
	丸善石油・松山	池内　義夫	松木信夫・白石卓夫・佐伯友正・池内義夫・藤田峰斎・小林延匡・浜中　誠
香川	高松市役所	野口　利行	横岡忠幸・阿部正信・田中直一・野口利行
	中商事		吉川和孝
山口	宇部興産	木曾新一郎	木村富美男・末広秀樹・河添忠夫・石川好夫・木曾新一郎
	山陽パルプ・岩国	林　厚志	林　厚志・宮岡康臣・大和田哲夫・長藤俊成・末岡通典・切中　覚・渡辺敏夫
	三菱レーヨン		田谷　勝
岡山	岡山市役所	岡本　武利	小松　貴・藤井英雄・岡本武利・神子戸輝幸・今東幸一・社　竹三・小梶繁雄
	三井造船・玉野	虻江　優	上野輝治・芳上一男・氏家　徹・万代芳郎・田中健二・森本一郎・平田喜久夫・明珍　勝 西村　喬・蛇江　優
鳥取	国鉄・後藤		井原平八郎・松永恭昌
和歌山	住友金属・和歌山	吉田健次郎	土田行夫・厚地　収・坂本　拡・岡嶋基一郎
兵庫	神戸製鋼所・尼崎	鍋田　賢一	小泉淳一・友金利一・大竹節夫・田中　至・浜野　孝・田崎哲夫・三好孝行・来田正雄 竜丹栄治・鍋田賢一
	大日日本電線	渡辺　浩一	清水　力・大黒利明・豚座一利・中村邦宏・佐野義則・吉田　昇・山田達也・渡辺浩一 石割慶四郎
	富士製鉄・広畑	平方　進	提田富夫・塗　嘉夫・武　広二・塩飽　初・水川九洋・平松重吉・安藤佳道・平方　進
	三菱電機・伊丹	北　義一	清田隼久・藤朶邦彦・太田照雄・金井秀一・堀　英明・古高郁夫
	三菱電機・神戸		大平和三・小林忠信・井上一成・尾崎惟信
	神戸地裁		作原好二
	国立姫路病院		時岡俊幸
大阪	国際電信電話	武村　俊平	竹端捷次・溝淵宏二・武村俊平・藤井靖雄・内藤　茂
	電電近畿	池田　芳麻	三木　喬・高野五十美・森本　務・中川安正・木谷正美・品川勝男・小川正夫・牧志倫夫
	松下電子工業	大山　直弘	[illegible]
京都	京都信用金庫	小島弥太郎	小川雅輝・山田雅弘・中川安雄・森島雄二・竹山重夫・石浦泰昌・大塚昭夫
	国立舞鶴病院	竹内　進	竹内　進・池部勝美・梅枝孝之・渡　敏行・佐藤勝義・中村　守
	三菱重工業・京都	岡本　宏也	大西秀信・福井達雄・戸沢正雄・石津正明・中尾政実・山口　猛
	日本レース		林　英司
滋賀	大津市役所	佐藤　賢	佐藤　賢・釜屋明和・松井弥寿男・田中正民・西原四郎・山田杉男
三重	三菱油化・四日市	古川　幸一	古川幸一・一木弘之・服部英樹・後藤幸考・北村　保・木村英雄
岐阜	岐阜県庁	武山　邦夫	丹羽俊和・武山邦夫・大野　寛・国島　孜・所　晃・中島勝彦・杉江　勉・日比野雅雄 宮島正直
愛知	トヨタ自動車	深津　豊	安沢武司・松島　保・小宮好雄・板垣善憲・長谷川敏彦・牛島秀雄・伊藤一夫・杉政和男 小林一宏・門間昇一・多賀純一・山城智徳・深津　豊
	中部電力	原田　立	土井孝夫・夏目智司・古田一浩・椛沢嘉彦・水野久雄・小川敏嗣・服部忠夫・鈴木健弐
	富士製鉄・名古屋	沼里　敬夫	山本卓男・千葉和義・西久保博明・金谷義雄・奥野哲次・沼里敬夫・仲内定一・小川雄一郎 油井秀男・新美宣伸
	豊田自動織機	土原　信彦	武田正雄・小山　勇・正岡洋三・東　清治・新内　久・二川原勝義・中村高久
	名古屋鉄道	伊村　隆	伊村　隆・後藤　守・樋口一春・高橋克巳・井沢　宏

県名	事業所名	監督名	選手名
静岡	小糸製作所	菊地　光雄	日下部敏弘・菊地光雄・岡村敏雄・本田正夫
福井	福井銀行	立田　昭二	高木敏明・梶谷将人・府岡　弘・松浦信幸・笠川俊教
	松文産業	舟田　直次	舟田直次・郡　範男・広田和光・笠松照雄・松井　敬
石川	津田駒工業	桜木　英智	安江　勉・桜木英智・竹内　進・浅井　清・山本秀夫・堂谷内均
	倉庫精練		東　茂樹・村中　猛
	小松製作所		原　明弘・玉井　明
富山	高岡市役所	中山　邦夫	盛野博之・関村順治・徳田尋信・宮林照男・京田和男・中山邦夫・野村正一
	不二越	川上　洋一	川上洋一・永原昌雄・畑　栄進・田島一正・布目　茂・柳瀬昭二
	吉田工業	岩崎　幸一	土井　勉・四十内健二・西野敏宣・佐藤立巳・源通直樹・横森賢一・山口年二
長野	諏訪精工舎	里見　良三	里見良三・原田　豊・戸谷悦男・藤森　亘
	オリンパス・諏訪		釜洞義賢
新潟	捧製作所	捧　孝夫	捧　孝夫・小日山喜雄・捧　正夫・小林繁男・捧　勇・捧　成夫
	日産化学・長岡		林　辰夫・広瀬幸男
神奈川	三菱重工・横浜造船所	上杉　光芳	岸　賢司・守口　茂・倉田豊三郎・鈴木勝之・川北義正・平戸正治・古谷陽一
	日立製作所・戸塚	山田　宏	富田健一・吉田邦男・甘粕完治・長谷川雅範・宮田幸雄
	日産自動車	井上　章	井上　章・大村　裕・岡野隆太郎・吉浪益三・大森菊男・森田幸男・竹村芳雄
	横浜市役所	土方　充	船山誠義・高橋正宏・渡辺直人・福士博美・坂　元彦・内田久也・太田和夫・富田道也
	神奈川県庁	塚本　昌義	小山包博・池成隆夫・塚本昌義・中丸靖元・柾木　豊・今関俊郎・内山孝道
	日本石油	古川　昌孝	古川昌孝・長瀬正敏・京屋孝治・小野重行・佐藤幸男
	日本鋼管	遠藤　啓治	遠藤啓治・青木　昇・伊田真一・三浦　力・井上英機
東京	沖電気工業	佐々木三明	佐藤彦次郎・田口長生・清水忠行・山本博司・佐藤邦夫
	河崎ラケット	河崎　一幸	堺　栄一・堀田邦彦・松浦一郎・川津　晃・若松　進・日野昭人・福井正康
	電電東京	鈴木　幸春	鈴木幸春・森谷喜久男・日野泰三・横倉良樹・星野義昭・鈴木健二・山田　亨
	北辰電機製作所	中山　広明	山本洋彦・千葉健司・黒崎二男・中山広明・吉田　進
	ヨネヤマラケット	藤川　俊雄	小島一平・森田　修・藤川俊雄・米山　勇・菊地・高橋・篠田
	国[illegible]		[illegible]夫・鈴木　潔
千葉	日立製作所・茂原	森澄　健夫	森澄健夫・高久重剛・近藤　登・筒井正春・松村義広・山田広治・鈴木悦夫
埼玉	サンケン電気	富山　武司	今井清兼・薄田隆衛・富山武司・都築富夫・竹田健夫・酒井忠義
	日研化学	横井　初夫	井上泰年・佐藤忠男・小野玲穂・舟山一敏・岩崎　茂・小島達雄・吉村重和
群馬	富士重工業・群馬	大谷　浩男	渡辺晃一・山形　武・中条俊雄・大槻繁美・山口幸一・三上隆康
	東京三洋電機	岩瀬　新午	土田　登・岡崎敬一・大野孝治・白林弘司・武藤政雄・増田　充・磯山文孝・金井　孝
	三菱電機・群馬	茂木　正弘	栗原　弘・小沢永一・千田泰男・高橋勝美・阿久戸義昭・斎藤猛彦・金山利夫
	三ツ葉電機製作所		浅野佳夫・則本千明
	松本精機		井上英夫・鈴木正造
茨城	日立製作所・水戸	杉浦　重夫	早川　博・福田喜代志・西潟秀男・本谷　進・佐久間正男・石坂文男
宮城	七十七銀行	菅原　武義	須長　茂・高橋祥允・升沢良雄・菊地　茂・寒河江一利・菅原武義・安孫子博
	陸上自衛隊・仙台	千葉　信次	千葉信次・石持亘一・後藤清徳・後藤謙一・井伊恵治
北海道	札幌鉄道管理局	渋井　明	福島智徳・田中昭夫・渋井　明・東　政文・山田　元・山田好明・柴田賢治・乙武重丸
岩手	富士製鉄・釜石	及川　好	吉田　寛・伊藤　博・及川　好・高橋道夫・高橋利之・斉藤謙一・熊谷　徹・浅利金一 堀切誠一・本多三郎
	金原電器		金原良史・伊藤　誠
	盛岡市役所		佐々木隆夫・浅沼徳三
	盛岡鉄道管理局		鬼柳孝夫・細野健次郎・千田周平・兼平松太郎

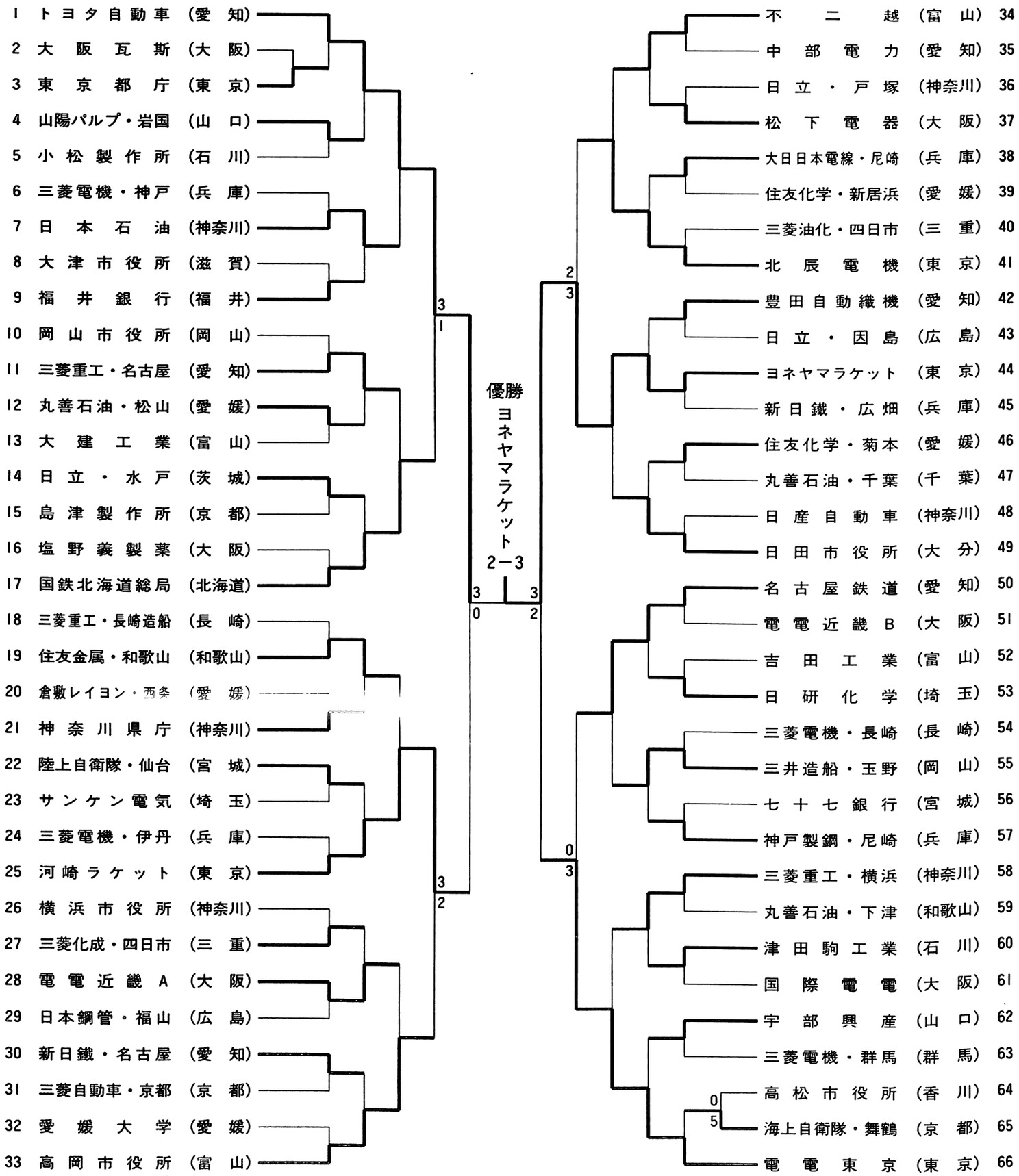
（女子の部）

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
香　川	高松琴平電鉄	東条　義昭	山本真江・細川泰子・井上るり子・薗浦孝子
	百十四銀行	柴田　隆男	北条寿美子・綾井美津子・小西幸代・山本みどり・赤沢ひろ子・福本幸子
兵　庫	三菱電機・伊丹	荻野　一夫	小守伝恵・浅田文代・大竹由里子・児玉　祥・長町路子・原百々代・島　宏子
	三菱電機・神戸	尾崎　惟信	芝本千代子・岸部光子・前田文代・島田陽子
大　阪	電電近畿	池田　芳麻	柿本房子・森　清美・久保田嘉代・池田慶子
	住友金属・大阪	菊池　　浩	西村艶子・山本登喜子・西村央子・竹平信子・高森れい子
京　都	三菱重工・京都	岡本　宏也	永井かおり・山下三枝子・岡崎繁子・永井むつみ・小林フサ子
	関西地区補給処	永井　茂芳	笠井弘子・堀端浩子・前田紀代子・丸橋律子・黒田とみ子
愛　知	名古屋鉄道	伊村　　隆	山際トモ子・丹羽さよ子・高橋孝子・小椋けい子
	豊田自動織機	上原　信彦	辻田京子・大橋美知子・工藤美佐枝・鈴木葉子
	富士製鉄・名古屋	西久保博明	太田真理子・加古律子・福田喜重子・高橋敏子・小野寺律子・菅原九二子
	トヨタ自動車	北田　寛一	上野明美・太田節子・深沢むつ子・金子美和子・吉倉恵子・竹中令子・橋本香代・前野さえ 小沢八重子
静　岡	本州製紙・富士	喜多沢求夫	森野秀子・渡辺正子・山田好子・諏訪部光世・仁藤千恵子
福　井	福井銀行		安間千代子
	福井市役所		梶谷美つ子
富　山	吉田工業	西島　宏昭	柴山けい子・菱本外美子・清水幹子・荒江美代子
長　野	オリンパス光学・諏訪	藤森　修一	武井かよ子・林　典子・海沼敬子・山田あや子
新　潟	日本曹達・二本木	島田　　勉	加治ハル・品川洋子・中沢礼子・金子美代・岩下夏江・藤井多恵子
神奈川	日立製作所・戸塚	山田　　宏	武久喜美子・長田敏子・松永千恵子・奈良岡千知子・小川恵子
	日本コロムビア・川崎	伊東　隆文	小林歌子・杉田良子・小原志津江・塗師外茂子・中村恵美子・谷夜詩江・荻野ひとみ 宮田シズ江
	日産自動車		石毛幸子
東　京	北辰電機製作所	中山　広明	高橋とも子・水野小夜子・山上博子・黒崎あけみ
	電電東京	富田　　豊	有木トミ子・日下悦子・土井治子・田仲美津江・櫛毛ミキ・奈良岡洋子
	沖電気工業	佐々木三明	佐々木美喜子・小川早苗・二瓶アイ子・佐藤夕起子
	東京都庁	斉藤　信行	島田淳子・近藤ちや子・伊藤くみ子・島田律子・中島あつ子・石毛政子
	石川島播磨重工業	原　　功	山本由紀子・高橋節子・桑原チヨ・川島信子
千　葉	日立製作[illegible]	[illegible]	[illegible]・[illegible]・[illegible]・[

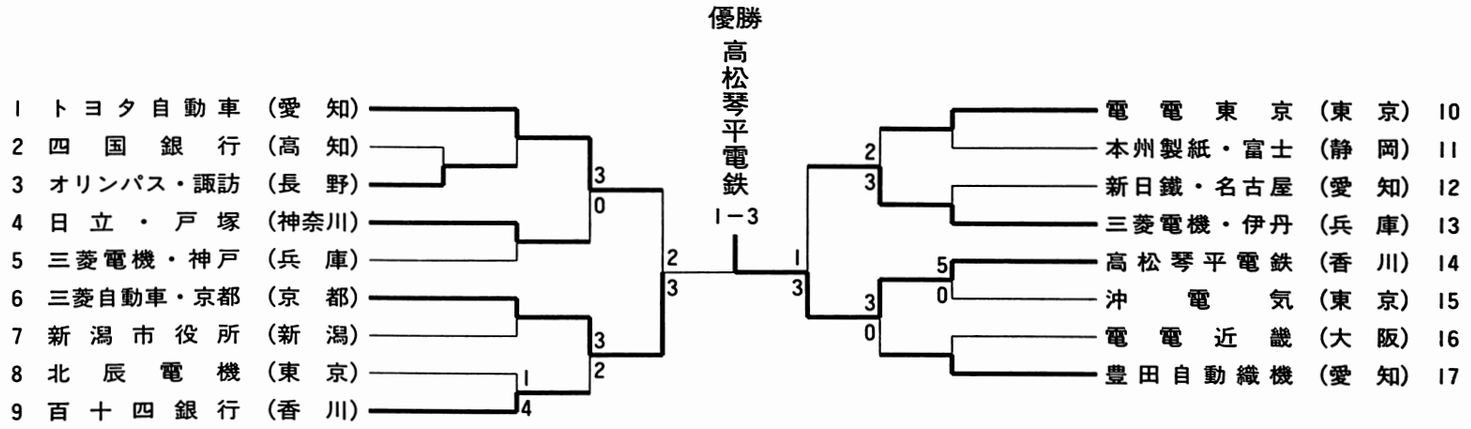
第20回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1971年(昭和46年)2月1～6日
開 催 地：香川県高松市
会　　場：香川県立体育館、高松市立体育館

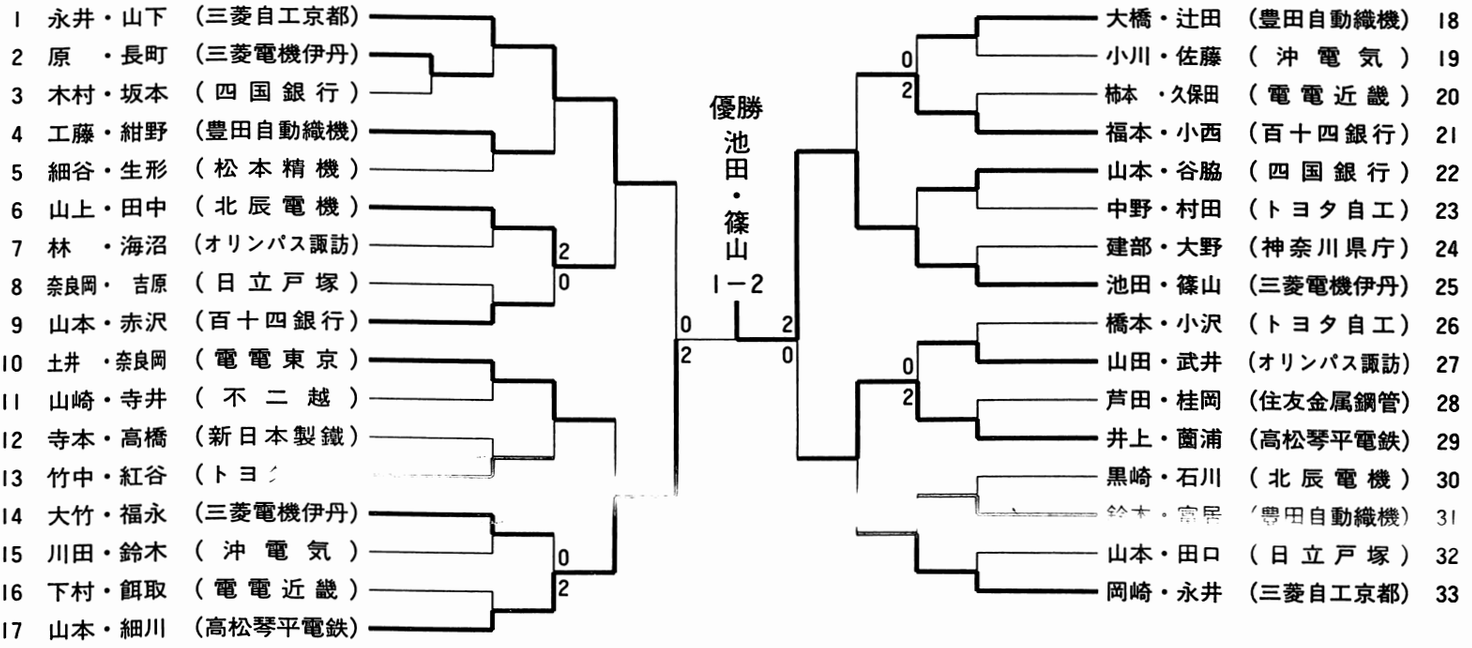
■男子団体の部



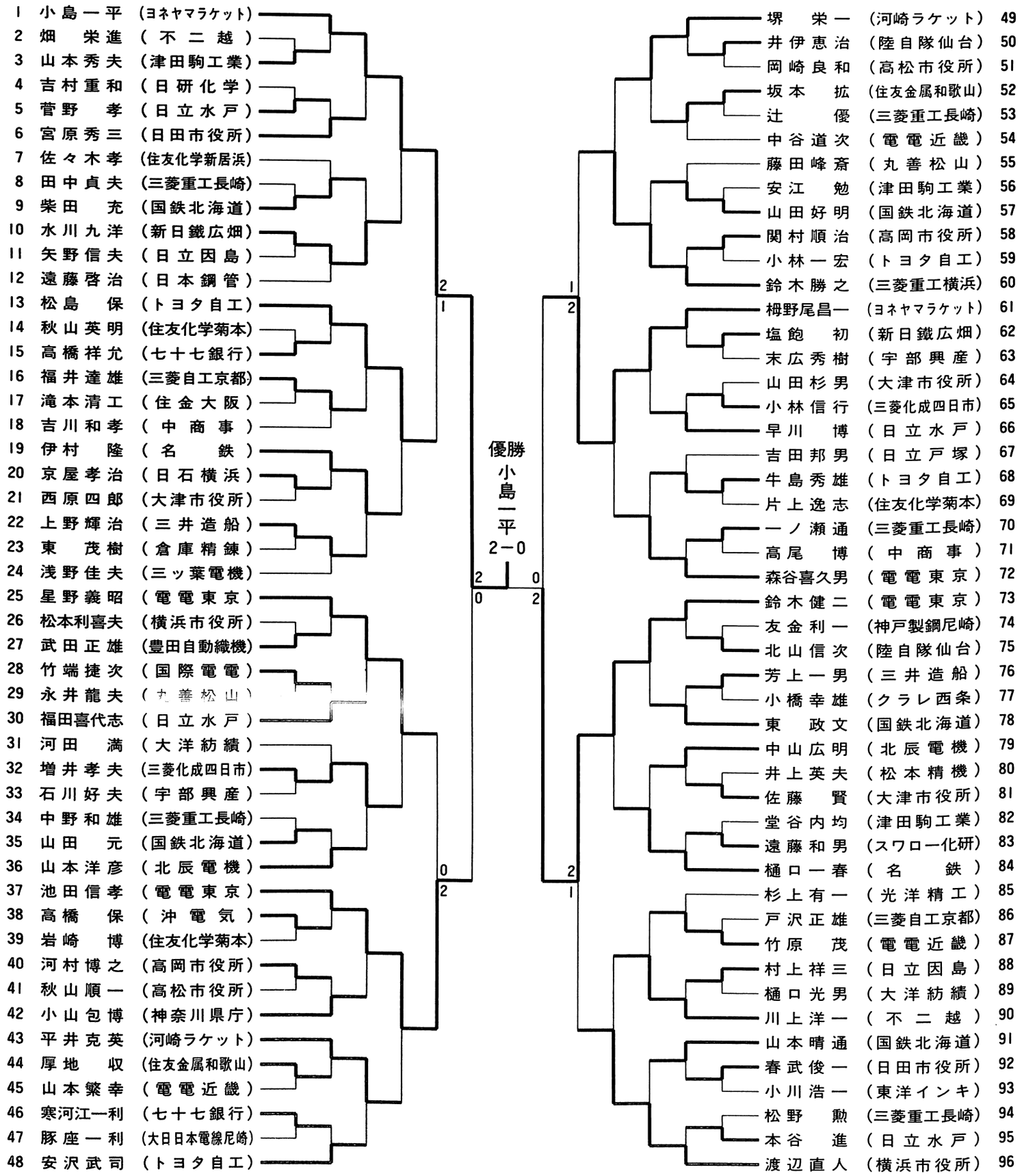
■女子団体の部



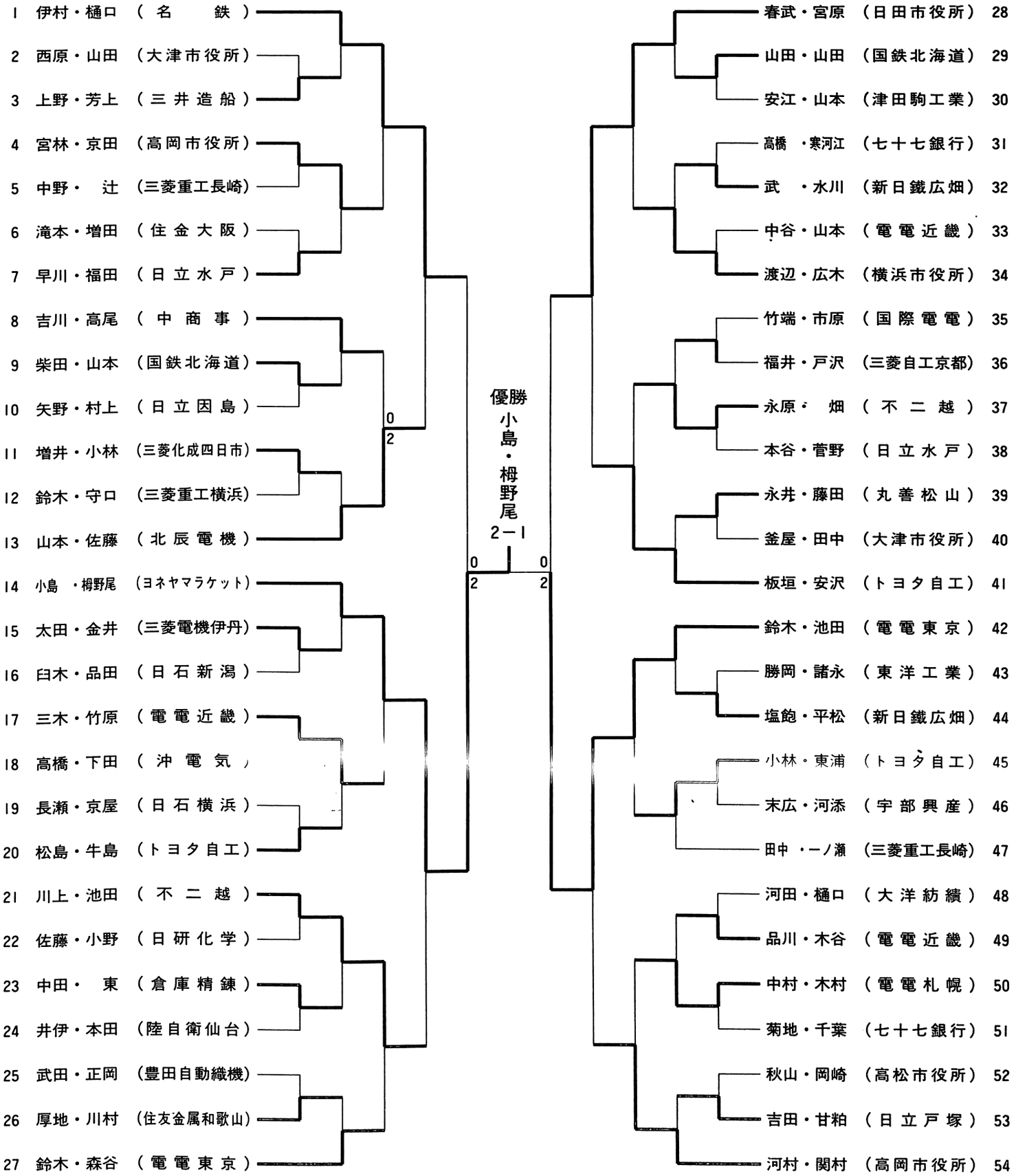
■女子複の部



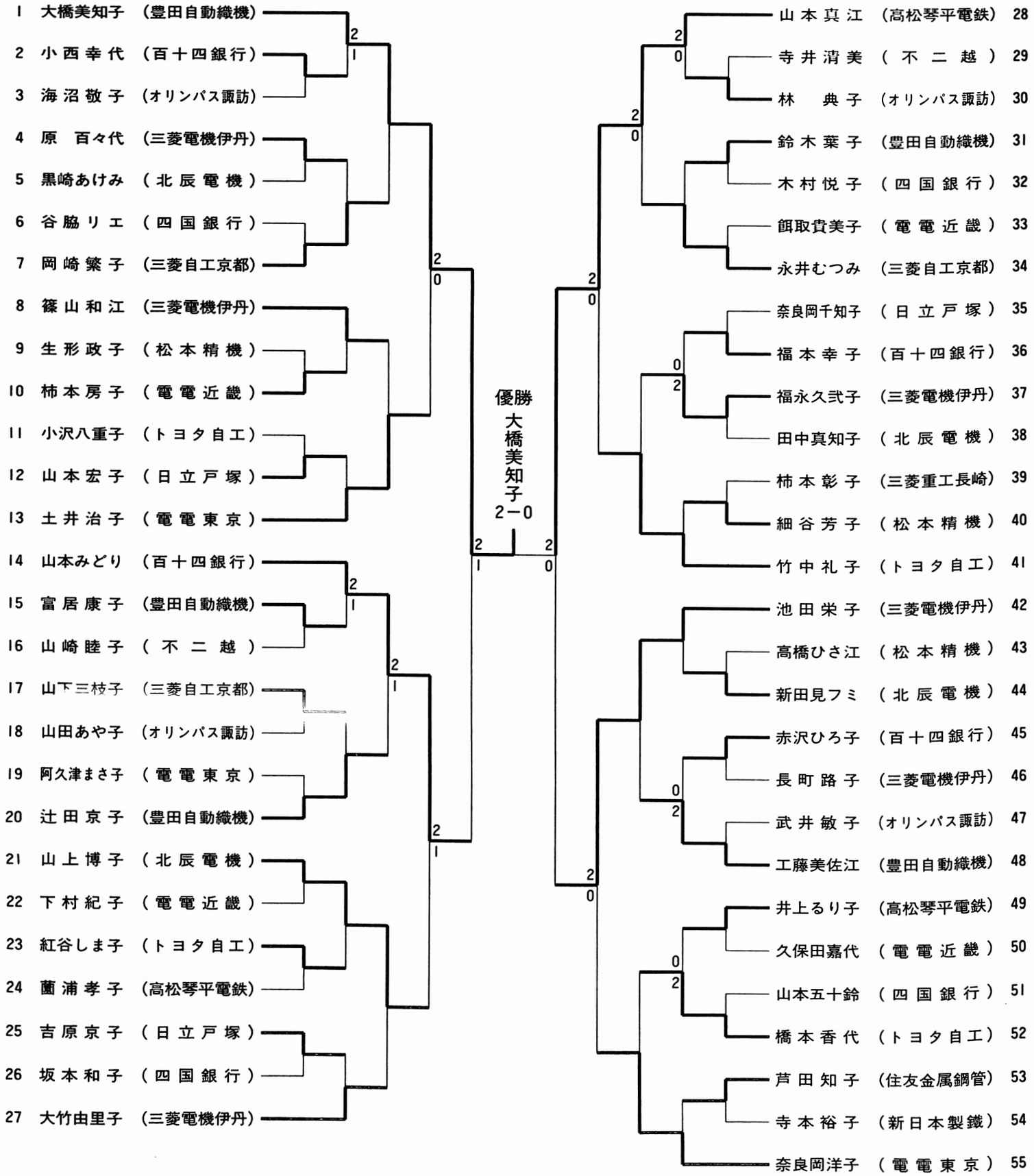
■男子単の部


1 小島一平 (ヨネヤマラケット)
2 畑 栄進 (不二越)
3 山本秀夫 (津田駒工業)
4 吉村重和 (日研化学)
5 菅野 孝 (日立水戸)
6 宮原秀三 (日田市役所)
7 佐々木孝 (住友化学新居浜)
8 田中貞夫 (三菱重工長崎)
9 柴田 充 (国鉄北海道)
10 水川九洋 (新日鐵広畑)
11 矢野信夫 (日立因島)
12 遠藤啓治 (日本鋼管)
13 松島 保 (トヨタ自工)
14 秋山英明 (住友化学菊本)
15 高橋祥允 (七十七銀行)
16 福井達雄 (三菱自工京都)
17 滝本清工 (住金大阪)
18 吉川和孝 (中商事)
19 伊村 隆 (名鉄)
20 京屋孝治 (日石横浜)
21 西原四郎 (大津市役所)
22 上野輝治 (三井造船)
23 東 茂樹 (倉庫精錬)
24 浅野佳夫 (三ッ葉電機)
25 星野義昭 (電電東京)
26 松本利喜夫 (横浜市役所)
27 武田正雄 (豊田自動織機)
28 竹端捷次 (国際電電)
29 永井龍夫 (丸善松山)
30 福田喜代志 (日立水戸)
31 河田 満 (大洋紡績)
32 増井孝夫 (三菱化成四日市)
33 石川好夫 (宇部興産)
34 中野和雄 (三菱重工長崎)
35 山田 元 (国鉄北海道)
36 山本洋彦 (北辰電機)
37 池田信孝 (電電東京)
38 高橋 保 (沖電気)
39 岩崎 博 (住友化学菊本)
40 河村博之 (高岡市役所)
41 秋山順一 (高松市役所)
42 小山包博 (神奈川県庁)
43 平井克英 (河崎ラケット)
44 厚地 収 (住友金属和歌山)
45 山本繁幸 (電電近畿)
46 寒河江一利 (七十七銀行)
47 豚座一利 (大日日本電線尼崎)
48 安沢武司 (トヨタ自工)
優勝
小島一平
2−0
49 堺 栄一 (河崎ラケット)
50 井伊恵治 (陸自隊仙台)
51 岡崎良和 (高松市役所)
52 坂本 拡 (住友金属和歌山)
53 辻 優 (三菱重工長崎)
54 中谷道次 (電電近畿)
55 藤田峰斎 (丸善松山)
56 安江 勉 (津田駒工業)
57 山田好明 (国鉄北海道)
58 関村順治 (高岡市役所)
59 小林一宏 (トヨタ自工)
60 鈴木勝之 (三菱重工横浜)
61 栂野尾昌一 (ヨネヤマラケット)
62 塩飽 初 (新日鐵広畑)
63 末広秀樹 (宇部興産)
64 山田杉男 (大津市役所)
65 小林信行 (三菱化成四日市)
66 早川 博 (日立水戸)
67 吉田邦男 (日立戸塚)
68 牛島秀雄 (トヨタ自工)
69 片上逸志 (住友化学菊本)
70 一ノ瀬通 (三菱重工長崎)
71 高尾 博 (中商事)
72 森谷喜久男 (電電東京)
73 鈴木健二 (電電東京)
74 友金利一 (神戸製鋼尼崎)
75 北山信次 (陸自隊仙台)
76 芳上一男 (三井造船)
77 小橋幸雄 (クラレ西条)
78 東 政文 (国鉄北海道)
79 中山広明 (北辰電機)
80 井上英夫 (松本精機)
81 佐藤 賢 (大津市役所)
82 堂谷内均 (津田駒工業)
83 遠藤和男 (スワロー化研)
84 樋口一春 (名鉄)
85 杉上有一 (光洋精工)
86 戸沢正雄 (三菱自工京都)
87 竹原 茂 (電電近畿)
88 村上祥三 (日立因島)
89 樋口光男 (大洋紡績)
90 川上洋一 (不二越)
91 山本晴通 (国鉄北海道)
92 春武俊一 (日田市役所)
93 小川浩一 (東洋インキ)
94 松野 勲 (三菱重工長崎)
95 本谷 進 (日立水戸)
96 渡辺直人 (横浜市役所)

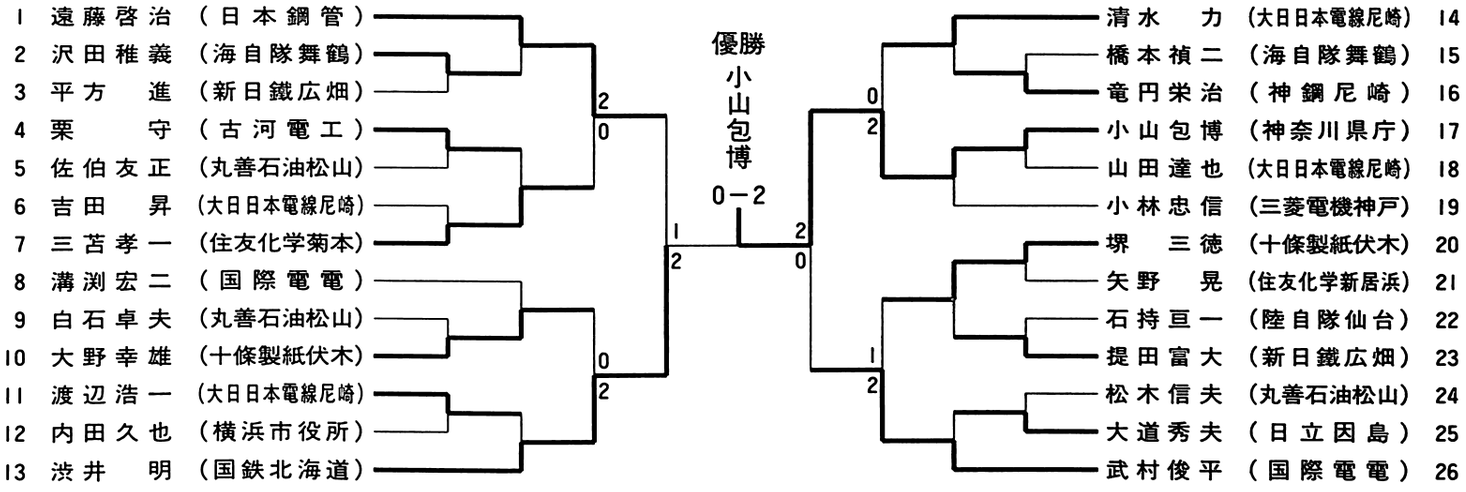
■男子複の部


1 伊村・樋口 （名 鉄）
2 西原・山田 （大津市役所）
3 上野・芳上 （三井造船）
4 宮林・京田 （高岡市役所）
5 中野・ 辻 （三菱重工長崎）
6 滝本・増田 （住金大阪）
7 早川・福田 （日立水戸）
8 吉川・高尾 （中商事）
9 柴田・山本 （国鉄北海道）
10 矢野・村上 （日立因島）
11 増井・小林 （三菱化成四日市）
12 鈴木・守口 （三菱重工横浜）
13 山本・佐藤 （北辰電機）
14 小島・栂野尾 （ヨネヤマラケット）
15 太田・金井 （三菱電機伊丹）
16 臼木・品田 （日石新潟）
17 三木・竹原 （電電近畿）
18 高橋・下田 （沖電気）
19 長瀬・京屋 （日石横浜）
20 松島・牛島 （トヨタ自工）
21 川上・池田 （不二越）
22 佐藤・小野 （日研化学）
23 中田・ 東 （倉庫精錬）
24 井伊・本田 （陸自衛仙台）
25 武田・正岡 （豊田自動織機）
26 厚地・川村 （住友金属和歌山）
27 鈴木・森谷 （電電東京）
0 2
0 2
優勝 小島・栂野尾 2－1
0 2
春武・宮原 （日田市役所） 28
山田・山田 （国鉄北海道） 29
安江・山本 （津田駒工業） 30
高橋・寒河江 （七十七銀行） 31
武 ・水川 （新日鐵広畑） 32
中谷・山本 （電電近畿） 33
渡辺・広木 （横浜市役所） 34
竹端・市原 （国際電電） 35
福井・戸沢 （三菱自工京都） 36
永原・ 畑 （不二越） 37
本谷・菅野 （日立水戸） 38
永井・藤田 （丸善松山） 39
釜屋・田中 （大津市役所） 40
板垣・安沢 （トヨタ自工） 41
鈴木・池田 （電電東京） 42
勝岡・諸永 （東洋工業） 43
塩飽・平松 （新日鐵広畑） 44
小林・東浦 （トヨタ自工） 45
末広・河添 （宇部興産） 46
田中・一ノ瀬 （三菱重工長崎） 47
河田・樋口 （大洋紡績） 48
品川・木谷 （電電近畿） 49
中村・木村 （電電札幌） 50
菊地・千葉 （七十七銀行） 51
秋山・岡崎 （高松市役所） 52
吉田・甘粕 （日立戸塚） 53
河村・関村 （高岡市役所） 54

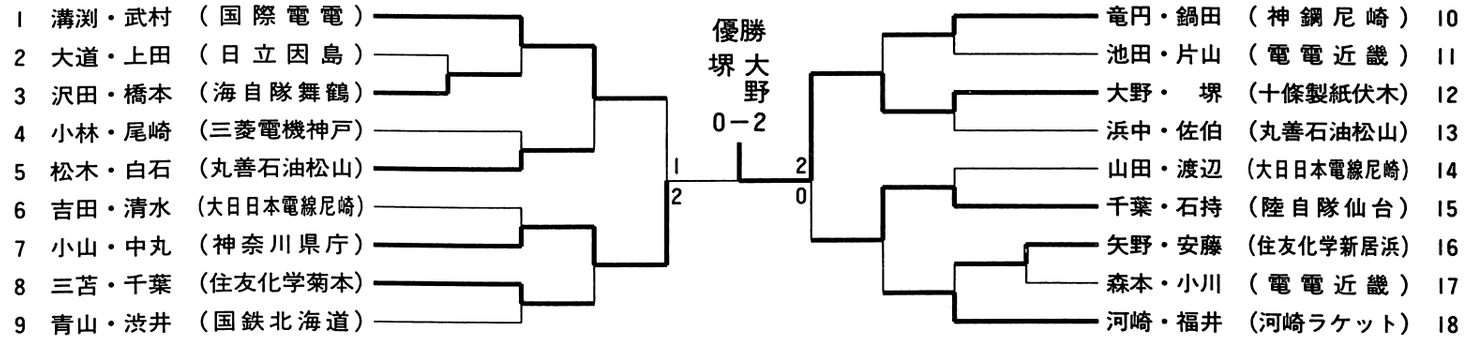
■女子単の部


1 大橋美知子 (豊田自動織機)
2 小西幸代 (百十四銀行)
3 海沼敬子 (オリンパス諏訪)
4 原 百々代 (三菱電機伊丹)
5 黒崎あけみ (北辰電機)
6 谷脇リエ (四国銀行)
7 岡崎繁子 (三菱自工京都)
8 篠山和江 (三菱電機伊丹)
9 生形政子 (松本精機)
10 柿本房子 (電電近畿)
11 小沢八重子 (トヨタ自工)
12 山本宏子 (日立戸塚)
13 土井治子 (電電東京)
14 山本みどり (百十四銀行)
15 富居康子 (豊田自動織機)
16 山崎睦子 (不二越)
17 山下三枝子 (三菱自工京都)
18 山田あや子 (オリンパス諏訪)
19 阿久津まさ子 (電電東京)
20 辻田京子 (豊田自動織機)
21 山上博子 (北辰電機)
22 下村紀子 (電電近畿)
23 紅谷しま子 (トヨタ自工)
24 薗浦孝子 (高松琴平電鉄)
25 吉原京子 (日立戸塚)
26 坂本和子 (四国銀行)
27 大竹由里子 (三菱電機伊丹)
優勝
大橋美知子
2−0
28 山本真江 (高松琴平電鉄)
29 寺井清美 (不二越)
30 林 典子 (オリンパス諏訪)
31 鈴木葉子 (豊田自動織機)
32 木村悦子 (四国銀行)
33 餌取貴美子 (電電近畿)
34 永井むつみ (三菱自工京都)
35 奈良岡千知子 (日立戸塚)
36 福本幸子 (百十四銀行)
37 福永久弐子 (三菱電機伊丹)
38 田中真知子 (北辰電機)
39 柿本彰子 (三菱重工長崎)
40 細谷芳子 (松本精機)
41 竹中礼子 (トヨタ自工)
42 池田栄子 (三菱電機伊丹)
43 高橋ひさ江 (松本精機)
44 新田見フミ (北辰電機)
45 赤沢ひろ子 (百十四銀行)
46 長町路子 (三菱電機伊丹)
47 武井敏子 (オリンパス諏訪)
48 工藤美佐江 (豊田自動織機)
49 井上るり子 (高松琴平電鉄)
50 久保田嘉代 (電電近畿)
51 山本五十鈴 (四国銀行)
52 橋本香代 (トヨタ自工)
53 芦田知子 (住友金属鋼管)
54 寺本裕子 (新日本製鐵)
55 奈良岡洋子 (電電東京)

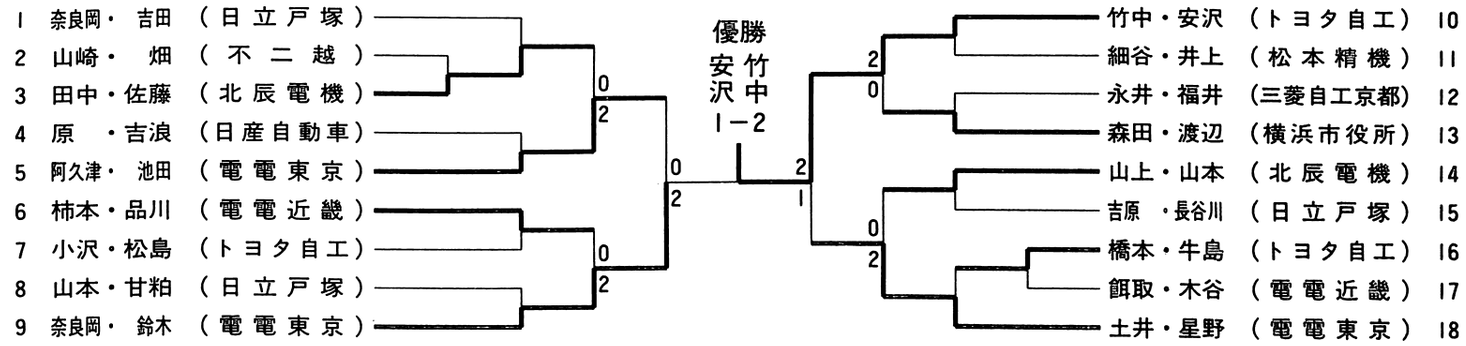
■30歳以上単の部



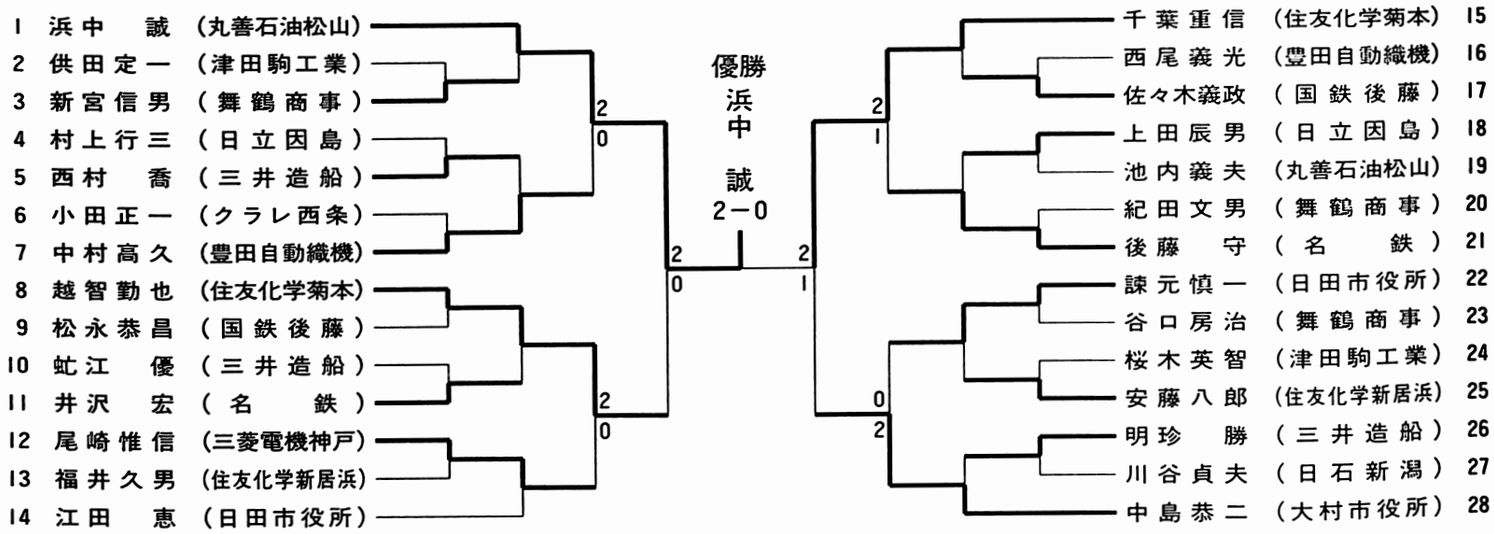
■30歳以上複の部



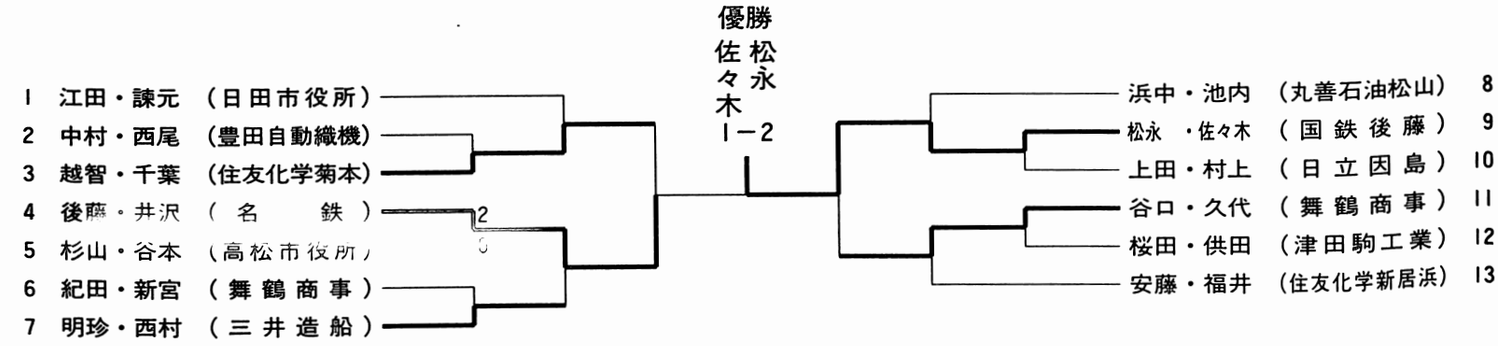
■混合複の部



■40歳以上単の部



■40歳以上複の部



■出場選手名簿

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	国鉄北海道総局	青山　繁樹	渋井　明・伊藤善夫・東　政文・山田　元・山田好明・柴田　充・山本晴通・青山繁樹
	電電札幌		中村徳光・木村敏男
宮城	陸上自衛隊・仙台	千葉　正寿	千葉正寿・石持亘一・井伊恵治・北山信次・本田辰夫・駒井広志
	七十七銀行	安孫子　博	高橋祥允・菊池　茂・寒河江一利・千葉健一・安孫子博・大場弥平・須長　茂
茨城	日立製作所・水戸	杉浦　重夫	早川　博・福田喜代志・本谷　進・越智重夫・菅野　孝・佐久間正男
群馬	三菱電機・群馬	茂木　正弘	小沢求一・阿々戸義明・高橋勝美・栗原　弘・千田泰男・佐藤兼春・米田　寿
	沖電気工業		高橋　保・下田　昇
	三ツ葉電機製作所		浅野佳夫
	松本精機		井上英夫・細谷芳子・生形政子・高橋ひさ江
埼玉	サンケン電気	今井　清兼	今井清兼・都築富夫・竹田建夫・酒井忠義・薄田隆衛・本多新佰
	日研化学	横井　初夫	佐藤忠男・小野玲穂・岩崎　茂・小島達雄・岩村重和・吉田　司
	東洋インキ		小川浩一
千葉	丸善石油・千葉	幸野　邦昭	村尾与志文・西尾元佑・伊藤富男・田中房男・大野　貢・南村嘉男・本間　実
東京	北辰電機製作所	中山　広明	山本洋彦・千葉健司・黒崎二男・吉田　進・佐藤信夫・芦田正英・中山広明 山上博子・新覗フミ・黒崎あけみ・石川容子・田中真知子
	電電東京	鈴木　幸春	鈴木幸春・森谷喜久男・星野義昭・鈴木健二・池田信孝・町田秀和・小林一行 土井治子・奈良岡洋子・阿久津まさ子・横山光子・井上トミ子
	河崎ラケット	福井　正康	堺　栄一・松浦一郎・落合孝之・平井克英・川津　晃・日野昭人・河崎一幸・福井正康
	東京都庁	佐藤　和夫	鈴木　蕃・右田利弘・竹俣　明・大原政義・岩上昭一・佐藤和夫・斉藤信行
	ヨネヤマラケット	小島　一平	小島一平・栂野尾昌一・鈴木正信・米山　勇
	沖電気工業	佐藤彦次郎	小川早苗・佐藤夕起子・二瓶アエ子・川田春子・鈴木正子
神奈川	日産自動車	上川　章	上川　章・岡野隆太郎・吉浪益三・大村　裕・大森菊男・桜田豊治・原寿加子
	横浜市役所	土方　充	渡辺直人・内田久也・広木俊一・松本利喜夫・安藤　保・福士博美・本田順治・森田祐美
	日立製作所・戸塚	吉田　邦男	吉田邦男・甘粕完治・長谷川雅範・宮田幸雄・北村敏明・平内　進 奈良岡千知子・吉原京子・山本宏子・田口省子
	神奈川県庁	中丸　靖元	小山包博・池成隆夫・今関俊邦・鳥山裕美・内山孝道・飯塚富弘・中丸靖元 建部佳代・大野則子
	日本石油	赤間　嘉幸	長瀬正敏・京屋孝治・佐藤幸男・小野重行・野瀬加寿敏・片桐信雄
	三菱重工・横浜造船所	上杉　光芳	守口　茂・鈴木勝之・岸　賢司・古谷陽一・鎌田　哲・高橋保則・倉田豊三郎
	[illegible]	[illegible]	[illegible]
	新日鐵製品技術研究所		寺本裕子・高橋京子
新潟	新潟市役所	司山　次夫	田村よし子・小山道子・渡辺富子・伊藤京子・三上素子・高田早苗・斉藤房子
	日本石油・新潟		臼木春男・品田　孝
長野	オリンパス・諏訪	中林　明義	海沼敬子・林　典子・山田あや子・武井敏子
富山	不二越	川上　洋一	川上洋一・永原昌雄・柳瀬昭二・池田政規・畑　栄進・田島一正・山崎睦子・寺井清美
	高岡市役所	中山　邦夫	河村博之・関村順治・徳田尋信・宮林照男・京田和男・中山邦夫
	大建工業・井波	奥村　元	林　昭男・松井精一・横江清隆・吉見昭夫・中田幸礼
	吉田工業	島崎　精治	島崎精治・土井　勉・横幕覧一・源通直樹・四十内健二・西野敏宣・山口年二
	十條製紙・伏木		大野幸雄・堺　三徳
石川	津田駒工業	安江　勉	安江　勉・山本秀夫・堂谷内均・浅井　清・桜木英智・供田定一
	小松製作所	原　弘明	原　明弘・玉井　明・杉本勝昭・石川順一・北　秀樹
	倉庫精練		東　茂樹・中田吉昭
福井	福井銀行	立田　昭二	高木敏明・梶谷将人・府岡　弘・松浦信幸・笠川俊教
静岡	本州製紙・富士	杉沢　正義	渡辺正子・森野秀子・鈴木あつ子・加藤悦子・細小路和恵・石川真澄・嶋　恵子

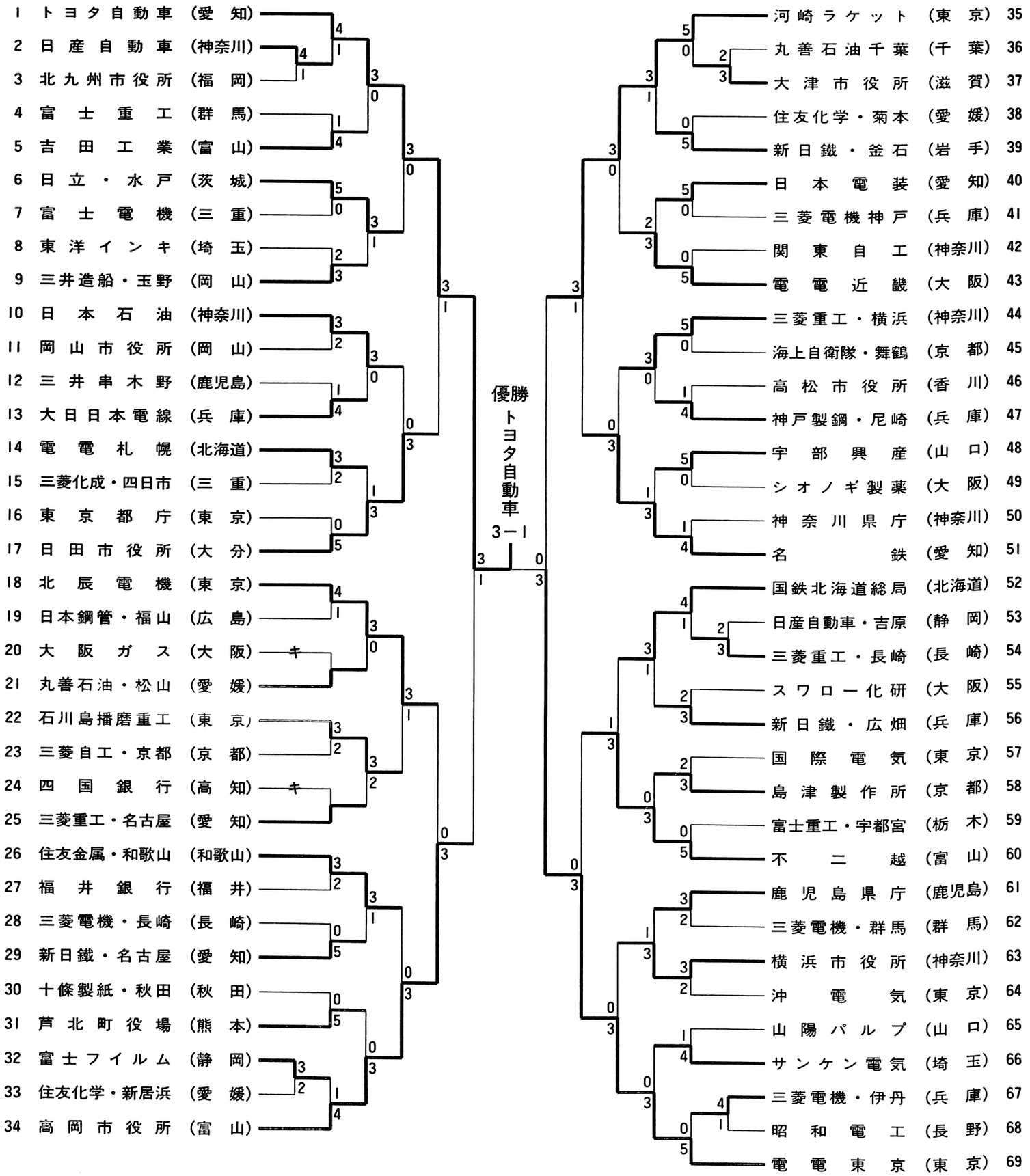
県名	事業所名	監督名	選手名
愛知	名古屋鉄道	伊村　隆	伊村　隆・後藤　守・樋口一春・高橋克己・井沢　宏
	新日鐵名古屋	沼里　敬夫	山本卓男・金谷義雄・千葉和義・奥野哲次・奥野省三・菅井　孝・津田正勝 福田喜重子・高橋敏子・小野寺律子・菅原九二子・加藤直枝
	トヨタ自動車	深津　豊	板垣善憲・安沢武司・小林一宏・牛島秀雄・松島　保・堀　幸矩・東浦修二
		多賀　純一	上野明美・小沢八重子・橋本香代・竹中礼子・紅谷しま子・中野　香・村田紺子
	豊田自動織機	上原　信彦	武田正雄・深井忠男・正岡洋三・潮　博文・中村高久・西尾義光 大橋美知子・辻田京子・工藤美佐子・鈴木葉子・冨居康子・紺野幾子
	三菱重工・名古屋	吉川　円市	加藤忠昭・松波　譲・泉　新治・小松英明・中橋友行
	中部電力	水谷　和夫	土井秀夫・水野久雄・古田一浩・杉浦恒夫・鈴木健弐・小川俊嗣・椛沢嘉彦
岐阜	大祥紡績		河田　満・樋口光男
三重	三菱化成・四日市	増井　孝夫	増井孝夫・小林　悟・吉原　洋・小林信行・高橋宗夫
	三菱油化・四日市	古川　幸一	一木弘之・服部英樹・北村　保・後藤幸孝・木村英男・大倉　忠
滋賀	大津市役所	久保　宏	佐藤　賢・釜屋明和・田中正民・西原四郎・山田杉男
京都	三菱自動車・京都	岡本　宏也	福井達雄・中尾政実・戸沢正雄・高宮梵之助・石津正明 永井かおり・山下三枝子・岡崎繁子・永井むつみ・小林フサ子
	島津製作所	田中　優	和田正高・甲良洋一・上田　勉・奥田俊次・浅野利秋・長岡喜久男
	海上自衛隊・舞鶴	田野　栄敏	橋本禎二・瀬野俊策・白井規久夫・白井幸夫・沢田雅美・田良純一・柴田　勝
	舞鶴商事		谷口房治・久代貫三郎・紀田文男・新宮信男
大阪	大阪瓦斯	鈴木　忠範	西野幸雄・吉里文雄・林　広造・北野公男・古角　彰
	電電近畿A	池田　芳麻	三木　喬・竹原　茂・品川勝男・木谷正美・山本繁幸・中谷進次・中川安正
	電電近畿B	森本　務	池田芳麻・森本　務・小川正夫・片山修治
		小川　正夫	柿本房子・久保田嘉代・下村紀子・餌取貴美子
	塩野義製薬	本摩　恒利	本摩恒利・北川忠雄・本山一郎・片山照章・妹尾健史
	国際電信電話	武村　俊平	竹端捷次・溝淵宏二・武村俊平・藤井靖雄・内藤　茂・市原正弘
	松下電器産業	近者　正善	森　晃一・中西　洸・山口　博・宮里重信・宮崎庄一・近藤敏和・山川庄一
	スワロー化研工業		遠藤和男
	住友金属・大阪		滝本清二・増田貞雄
兵庫	三菱電機・伊丹		東田照雄・金井秀一・荻野一夫・堀　英明・藤朶邦彦
		荻野　一夫	小守伝恵・池田栄子・篠山和江・大竹由里子・原百々代・長町路子・福永久弐子
	古河電工		栗　守
	三菱電機・神戸	小林　忠信	吉野昭文・吉林　昇・福土敏夫・小林忠信・尾崎惟信
		大平　和三	前田文代・島田陽子・岸部光子・芝本千代子・松尾圭子
	大日日本電線・尼崎	吉田　昇	清水　力・豚座一利・佐野義則・中村邦宏・狩集　功・中村文男・渡辺浩一・吉田　昇 山田達也
	新日鐵・広畑	平方　進	堤田富大・長谷川幸弘・塩飽　初・武　広二・水川九洋・平松重吉・平方　進
	神戸製鋼・尼崎	鍋田　賢一	小泉淳一・友金利一・田中　至・浜野　孝・来田正雄・田崎哲夫・三浦真一・鍋田賢一 龍円栄治
	住友金属鋼管		芦田知子・桂岡和子
和歌山	住友金属・和歌山	吉田健次郎	厚地　収・坂本　拡・土田行夫・川村桂司
	丸善石油・下津	尾崎　茂雄	山下延行・林　保雄・箕造富幸・志場　周・楠戸春則・穂谷真弘・宮本武司
鳥取	国鉄・後藤		松永恭昌・佐々木義政
岡山	三井造船・玉野	虻江　優	上野輝治・芳上一男・万代芳郎・田丸勝己・明珍　勝・西村　喬・金田　孝
	岡山市役所	岡本　武利	小松　貴・藤井英雄・今東幸一・崎本明雄・時末　務・社　竹三・岡本武利
広島	日立造船・因島	上田　辰男	村上祥三・矢野信夫・小川賢三・岩越　章・大道秀夫・上田辰男・村上行三
	日本鋼管・福山	曽根　光夫	曽根光夫・梶原純二・武内光春・前田　巧・伊藤健一

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
広　島	東洋工業		勝岡逸雄・諸永敏雄
山　口	宇部興産	山県　保夫	末広秀樹・河添忠夫・石川好夫・山県保夫
	山陽パルプ・岩国	林　　厚志	宮岡康臣・長藤俊成・林　厚志・末岡通典・渡辺敏夫・吉田鉄夫・兼森忠夫
愛　媛	住友化学・菊本	門田　昌三	片上逸志・岩崎　博・秋山英明・守谷喜久雄・越智勤也・千葉重信・三苫孝一
	丸善石油・松山	小林　延匡	浜中　誠・池内義夫・佐伯友正・松木信夫・白石卓夫・藤田峯斉・永井静夫
	倉敷レイヨン・西条	横井　虎男	横井虎男・吉上貞夫・小橋幸雄・谷口金夫・坂口義治・小田正一
	愛媛大学職員	村岡　見憶	佐伯光一・新名静夫・山西和行・森田照孝・河本　進
	住友化学・新居浜	矢野　　晃	佐々木孝・福井久男・安藤八郎・矢野　晃・須山盾夫・奥村繁樹・森口幸信
高　知	四国銀行	亀井　美雄	山本五十鈴・谷脇リエ・木村悦子・坂本和子
長　崎	三菱重工・長崎造船所	喜多　昭夫	田中貞夫・前田国臣・松野　勲・中野和雄・山口信行・一ノ瀬通・辻　　優・柿本彰子
	三菱電機・長崎	栄　　信重	山崎敏則・江口忠道・長松保男・山口正博・赤岩　徹・栄　信重
	大村市役所		中島泰二
大　分	日田市役所	田中　大也	春武俊一・宮原秀三・江田　恵・諫元慎一・佐藤国晴・田中大也
香　川	高松市役所	杉山　富雄	横岡忠幸・阿部正信・田中真一・岡崎良和・秋山順一・谷本庄一・野口利行・杉山富雄
	百十四銀行	柴田　隆男	山本みどり・福本幸子・赤沢ひろ子・小西幸代
	高松琴平電鉄	香西　　章	山本真江・細川泰子・井上るり子・薗浦孝子
	光洋精工・高松		杉上有一
	中商事		吉川和孝・高尾　博

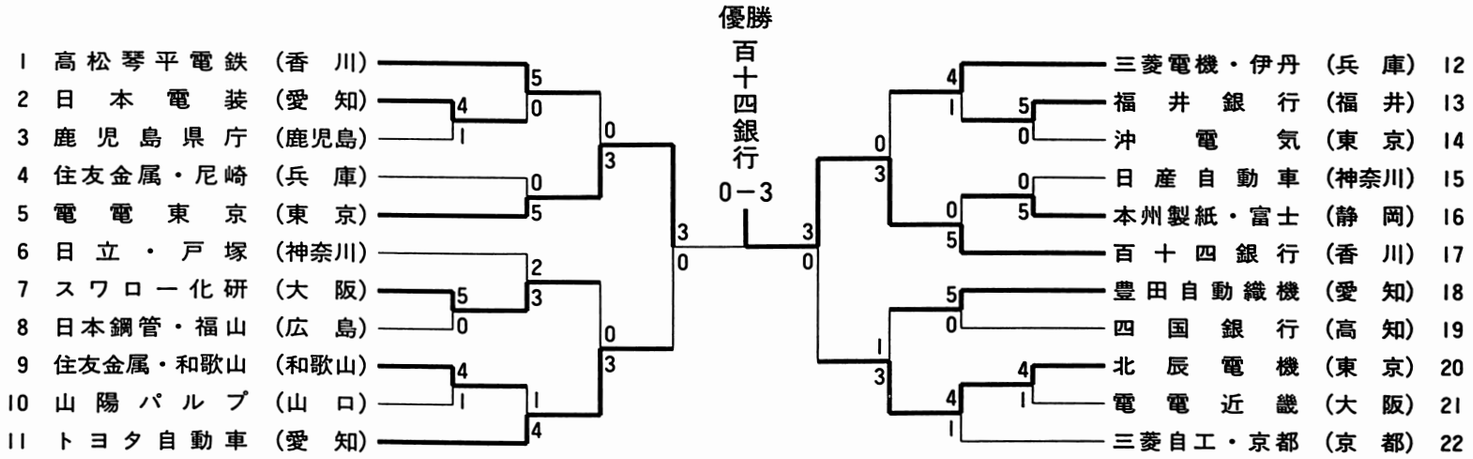
第21回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1971年(昭和46年)7月4～9日
開 催 地：鹿児島県鹿児島市
会　　場：鹿児島県立体育館
　　鹿児島南高校体育館

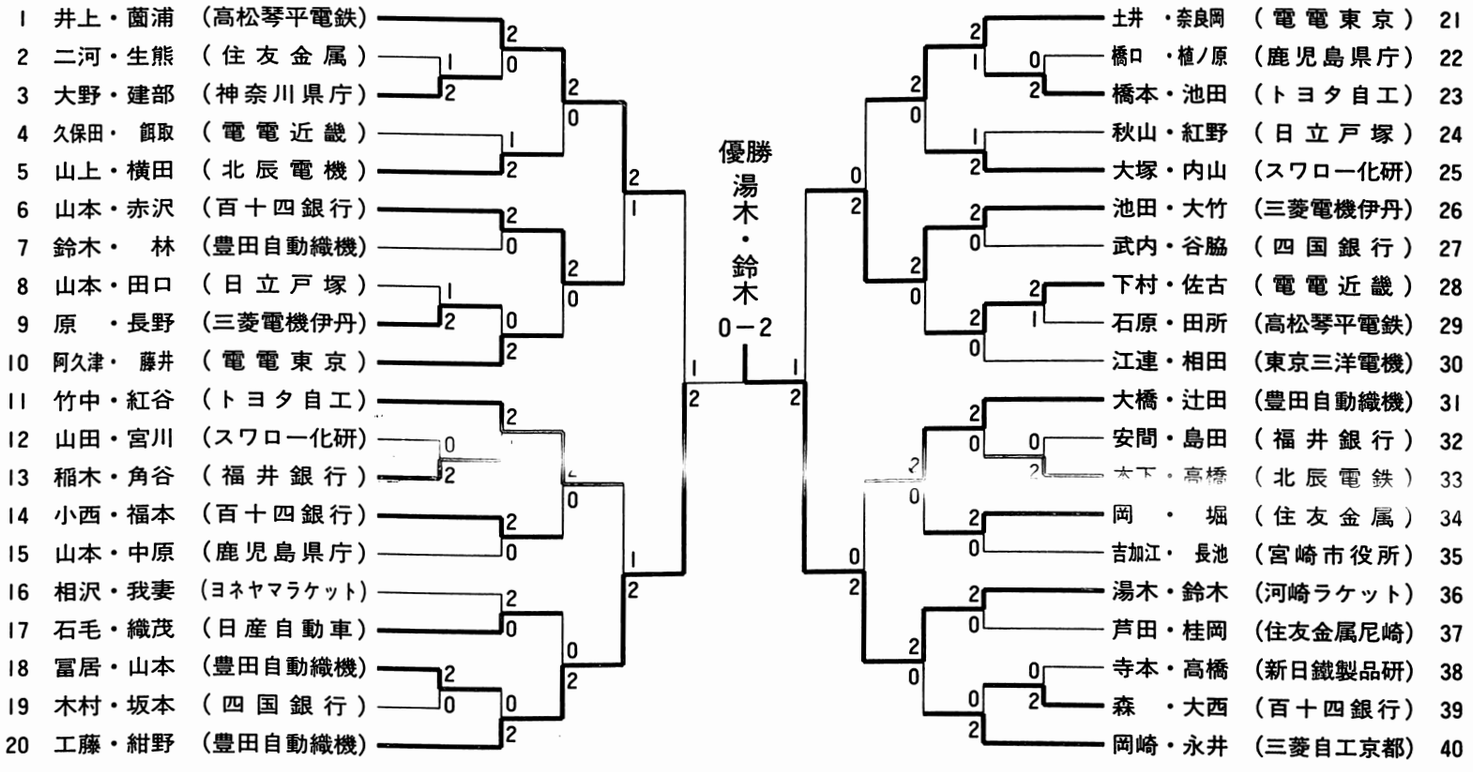
■男子団体の部



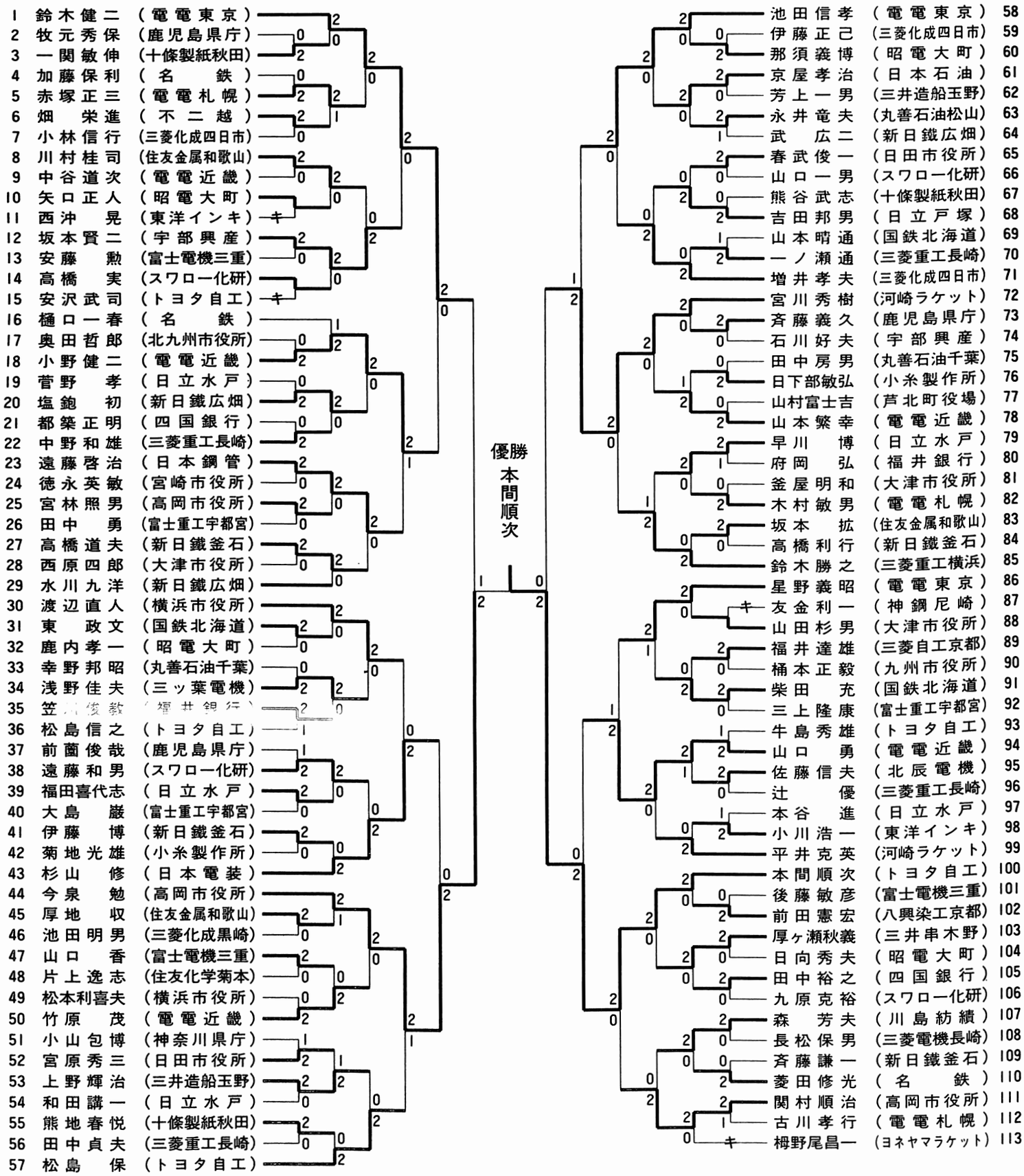
■女子団体の部



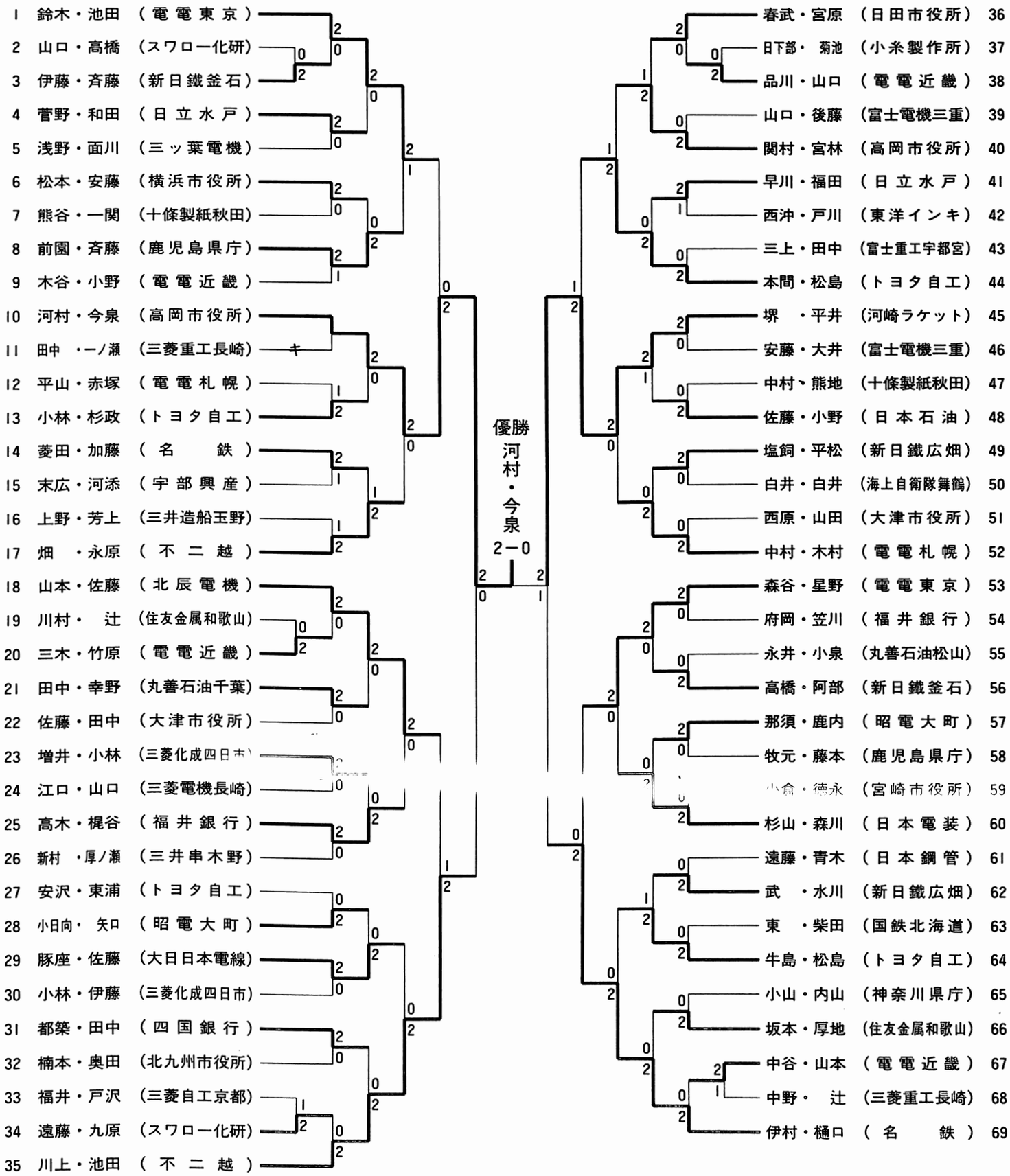
■女子複の部



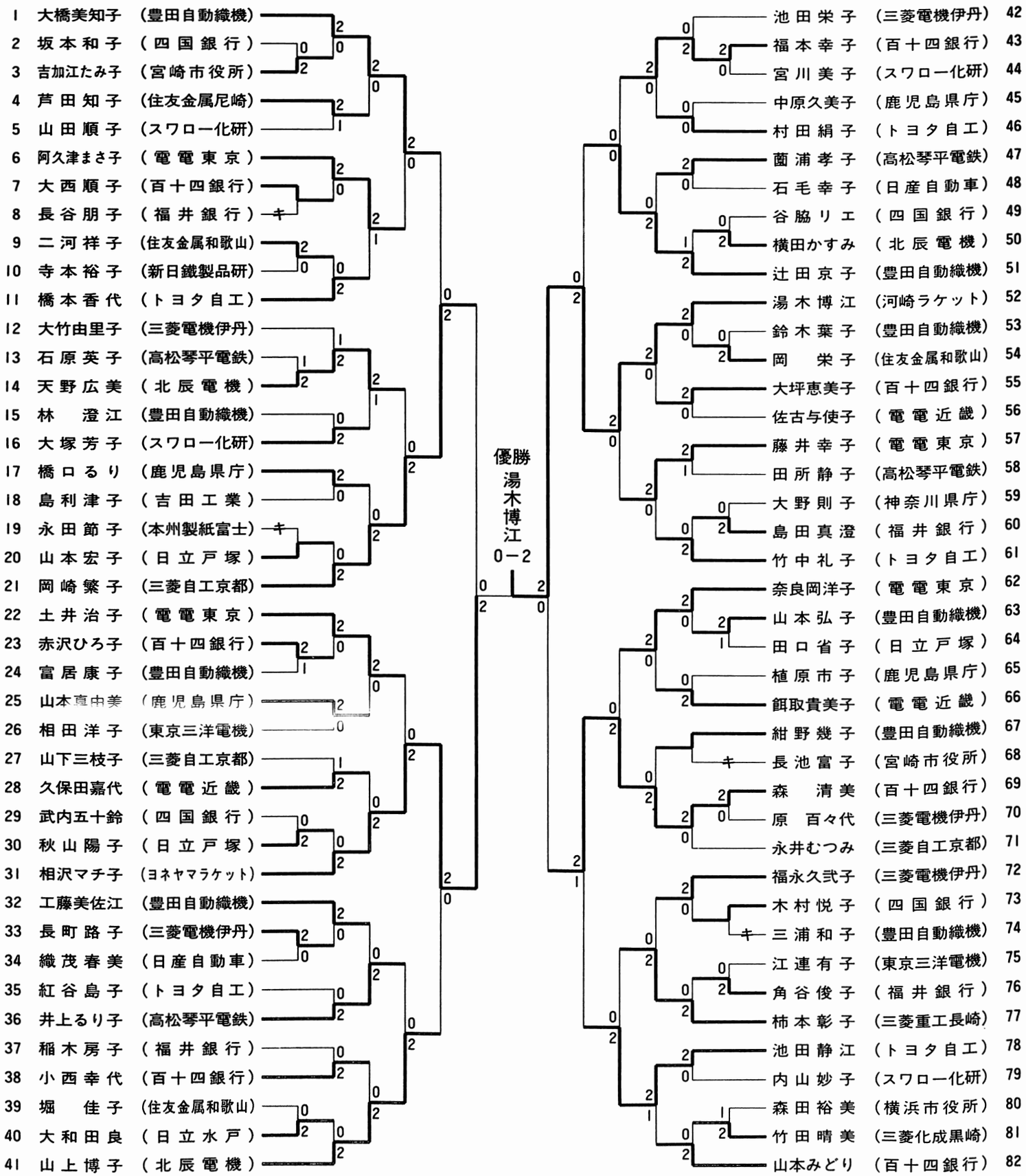
■男子単の部


1 鈴木健二 (電電東京)
2 牧元秀保 (鹿児島県庁)
3 一関敏伸 (十條製紙秋田)
4 加藤保利 (名鉄)
5 赤塚正三 (電電札幌)
6 畑栄進 (不二越)
7 小林信行 (三菱化成四日市)
8 川村桂司 (住友金属和歌山)
9 中谷道次 (電電近畿)
10 矢口正人 (昭電大町)
11 西沖晃 (東洋インキ)
12 坂本賢二 (宇部興産)
13 安藤勲 (富士電機三重)
14 高橋実 (スワロー化研)
15 安沢武司 (トヨタ自工)
16 樋口一春 (名鉄)
17 奥田哲郎 (北九州市役所)
18 小野健二 (電電近畿)
19 菅野孝 (日立水戸)
20 塩鉋初 (新日鐵広畑)
21 都築正明 (四国銀行)
22 中野和雄 (三菱重工長崎)
23 遠藤啓治 (日本鋼管)
24 徳永英敏 (宮崎市役所)
25 宮林照男 (高岡市役所)
26 田中勇 (富士重工宇都宮)
27 高橋道夫 (新日鐵釜石)
28 西原四郎 (大津市役所)
29 水川九洋 (新日鐵広畑)
30 渡辺直人 (横浜市役所)
31 東政文 (国鉄北海道)
32 鹿内孝一 (昭電大町)
33 幸野邦昭 (丸善石油千葉)
34 浅野佳夫 (三ッ葉電機)
35 笠[illegible] (福井銀行)
36 松島信之 (トヨタ自工)
37 前薗俊哉 (鹿児島県庁)
38 遠藤和男 (スワロー化研)
39 福田喜代志 (日立水戸)
40 大島巌 (富士重工宇都宮)
41 伊藤博 (新日鐵釜石)
42 菊地光雄 (小糸製作所)
43 杉山修 (日本電装)
44 今泉勉 (高岡市役所)
45 厚地収 (住友金属和歌山)
46 池田明男 (三菱化成黒崎)
47 山口香 (富士電機三重)
48 片上逸志 (住友化学菊本)
49 松本利喜夫 (横浜市役所)
50 竹原茂 (電電近畿)
51 小山包博 (神奈川県庁)
52 宮原秀三 (日田市役所)
53 上野輝治 (三井造船玉野)
54 和田講一 (日立水戸)
55 熊地春悦 (十條製紙秋田)
56 田中貞夫 (三菱重工長崎)
57 松島保 (トヨタ自工)
優勝 本間順次
58 池田信孝 (電電東京)
59 伊藤正己 (三菱化成四日市)
60 那須義博 (昭電大町)
61 京屋孝治 (日本石油)
62 芳上一男 (三井造船玉野)
63 永井竜夫 (丸善石油松山)
64 武広二 (新日鐵広畑)
65 春武俊一 (日田市役所)
66 山口一男 (スワロー化研)
67 熊谷武志 (十條製紙秋田)
68 吉田邦男 (日立戸塚)
69 山本晴通 (国鉄北海道)
70 一ノ瀬通 (三菱重工長崎)
71 増井孝夫 (三菱化成四日市)
72 宮川秀樹 (河崎ラケット)
73 斉藤義久 (鹿児島県庁)
74 石川好夫 (宇部興産)
75 田中房男 (丸善石油千葉)
76 日下部敏弘 (小糸製作所)
77 山村富士吉 (芦北町役場)
78 山本繁幸 (電電近畿)
79 早川博 (日立水戸)
80 府岡弘 (福井銀行)
81 釜屋明和 (大津市役所)
82 木村敏男 (電電札幌)
83 坂本拡 (住友金属和歌山)
84 高橋利行 (新日鐵釜石)
85 鈴木勝之 (三菱重工横浜)
86 星野義昭 (電電東京)
87 友金利一 (神鋼尼崎)
88 山田杉男 (大津市役所)
89 福井達雄 (三菱自工京都)
90 桶本正毅 (九州市役所)
91 柴田充 (国鉄北海道)
92 三上隆康 (富士重工宇都宮)
93 牛島秀雄 (トヨタ自工)
94 山口勇 (電電近畿)
95 佐藤信夫 (北辰電機)
96 辻優 (三菱重工長崎)
97 本谷進 (日立水戸)
98 小川浩一 (東洋インキ)
99 平井克英 (河崎ラケット)
100 本間順次 (トヨタ自工)
101 後藤敏彦 (富士電機三重)
102 前田憲宏 (八興染工京都)
103 厚ヶ瀬秋義 (三井串木野)
104 日向秀夫 (昭電大町)
105 田中裕之 (四国銀行)
106 九原克裕 (スワロー化研)
107 森芳夫 (川島紡績)
108 長松保男 (三菱電機長崎)
109 斉藤謙一 (新日鐵釜石)
110 菱田修光 (名鉄)
111 関村順治 (高岡市役所)
112 古川孝行 (電電札幌)
113 栂野尾昌一 (ヨネヤマラケット)

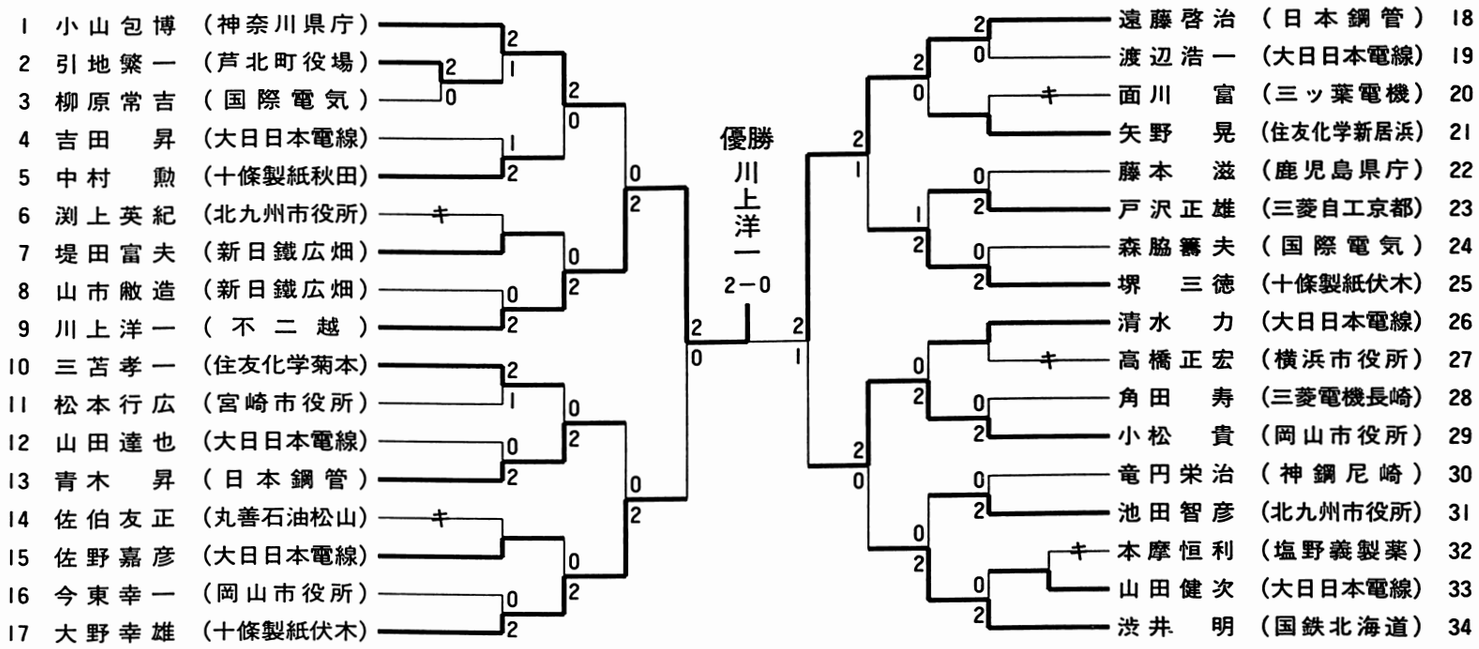
■男子複の部


1 鈴木・池田 （電電東京）
2 山口・高橋 （スワロー化研）
3 伊藤・斉藤 （新日鐵釜石）
4 菅野・和田 （日立水戸）
5 浅野・面川 （三ッ葉電機）
6 松本・安藤 （横浜市役所）
7 熊谷・一関 （十條製紙秋田）
8 前園・斉藤 （鹿児島県庁）
9 木谷・小野 （電電近畿）
10 河村・今泉 （高岡市役所）
11 田中 ・一ノ瀬 （三菱重工長崎）
12 平山・赤塚 （電電札幌）
13 小林・杉政 （トヨタ自工）
14 菱田・加藤 （名 鉄）
15 末広・河添 （宇部興産）
16 上野・芳上 （三井造船玉野）
17 畑 ・永原 （不二越）
18 山本・佐藤 （北辰電機）
19 川村・ 辻 （住友金属和歌山）
20 三木・竹原 （電電近畿）
21 田中・幸野 （丸善石油千葉）
22 佐藤・田中 （大津市役所）
23 増井・小林 （三菱化成四日市）
24 江口・山口 （三菱電機長崎）
25 高木・梶谷 （福井銀行）
26 新村 ・厚ノ瀬 （三井串木野）
27 安沢・東浦 （トヨタ自工）
28 小日向・ 矢口 （昭電大町）
29 豚座・佐藤 （大日日本電線）
30 小林・伊藤 （三菱化成四日市）
31 都築・田中 （四国銀行）
32 楠本・奥田 （北九州市役所）
33 福井・戸沢 （三菱自工京都）
34 遠藤・九原 （スワロー化研）
35 川上・池田 （不二越）
優勝
河村・今泉
2－0
36 春武・宮原 （日田市役所）
37 日下部・ 菊池 （小糸製作所）
38 品川・山口 （電電近畿）
39 山口・後藤 （富士電機三重）
40 関村・宮林 （高岡市役所）
41 早川・福田 （日立水戸）
42 西沖・戸川 （東洋インキ）
43 三上・田中 （富士重工宇都宮）
44 本間・松島 （トヨタ自工）
45 堺 ・平井 （河崎ラケット）
46 安藤・大井 （富士電機三重）
47 中村・熊地 （十條製紙秋田）
48 佐藤・小野 （日本石油）
49 塩飼・平松 （新日鐵広畑）
50 白井・白井 （海上自衛隊舞鶴）
51 西原・山田 （大津市役所）
52 中村・木村 （電電札幌）
53 森谷・星野 （電電東京）
54 府岡・笠川 （福井銀行）
55 永井・小泉 （丸善石油松山）
56 高橋・阿部 （新日鐵釜石）
57 那須・鹿内 （昭電大町）
58 牧元・藤本 （鹿児島県庁）
59 小倉・徳永 （宮崎市役所）
60 杉山・森川 （日本電装）
61 遠藤・青木 （日本鋼管）
62 武 ・水川 （新日鐵広畑）
63 東 ・柴田 （国鉄北海道）
64 牛島・松島 （トヨタ自工）
65 小山・内山 （神奈川県庁）
66 坂本・厚地 （住友金属和歌山）
67 中谷・山本 （電電近畿）
68 中野・ 辻 （三菱重工長崎）
69 伊村・樋口 （名 鉄）

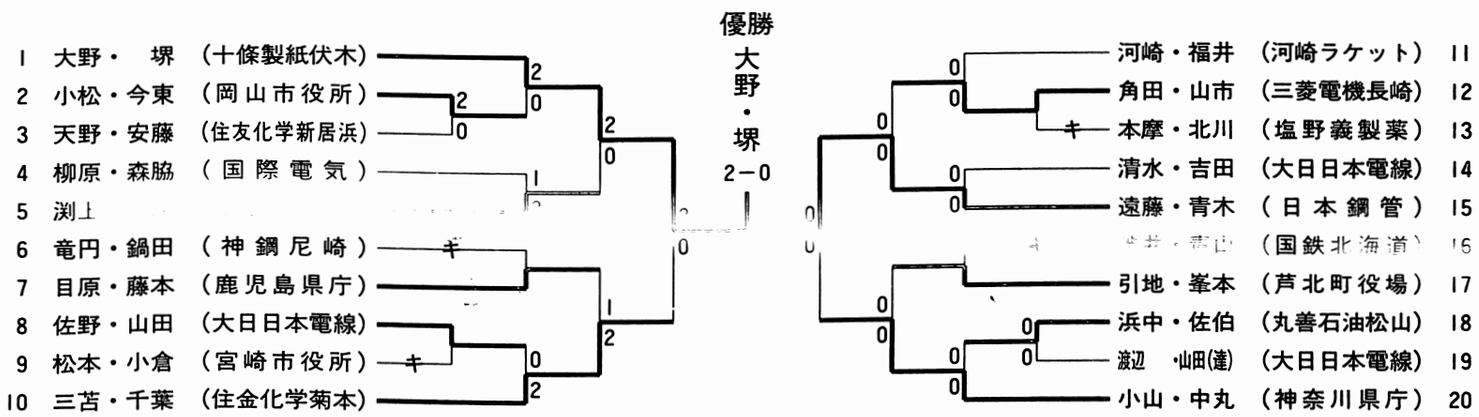
■女子単の部


1 大橋美知子 (豊田自動織機)
2 坂本和子 (四国銀行)
3 吉加江たみ子 (宮崎市役所)
4 芦田知子 (住友金属尼崎)
5 山田順子 (スワロー化研)
6 阿久津まさ子 (電電東京)
7 大西順子 (百十四銀行)
8 長谷朋子 (福井銀行) キ
9 二河祥子 (住友金属和歌山)
10 寺本裕子 (新日鐵製品研)
11 橋本香代 (トヨタ自工)
12 大竹由里子 (三菱電機伊丹)
13 石原英子 (高松琴平電鉄)
14 天野広美 (北辰電機)
15 林 澄江 (豊田自動織機)
16 大塚芳子 (スワロー化研)
17 橋口るり (鹿児島県庁)
18 島利津子 (吉田工業)
19 永田節子 (本州製紙富士) キ
20 山本宏子 (日立戸塚)
21 岡崎繁子 (三菱自工京都)
22 土井治子 (電電東京)
23 赤沢ひろ子 (百十四銀行)
24 富居康子 (豊田自動織機)
25 山本真由美 (鹿児島県庁)
26 相田洋子 (東京三洋電機)
27 山下三枝子 (三菱自工京都)
28 久保田嘉代 (電電近畿)
29 武内五十鈴 (四国銀行)
30 秋山陽子 (日立戸塚)
31 相沢マチ子 (ヨネヤマラケット)
32 工藤美佐江 (豊田自動織機)
33 長町路子 (三菱電機伊丹)
34 織茂春美 (日産自動車)
35 紅谷島子 (トヨタ自工)
36 井上るり子 (高松琴平電鉄)
37 稲木房子 (福井銀行)
38 小西幸代 (百十四銀行)
39 堀 佳子 (住友金属和歌山)
40 大和田良 (日立水戸)
41 山上博子 (北辰電機)
優勝
湯木博江
0－2
42 池田栄子 (三菱電機伊丹)
43 福本幸子 (百十四銀行)
44 宮川美子 (スワロー化研)
45 中原久美子 (鹿児島県庁)
46 村田絹子 (トヨタ自工)
47 薗浦孝子 (高松琴平電鉄)
48 石毛幸子 (日産自動車)
49 谷脇リエ (四国銀行)
50 横田かすみ (北辰電機)
51 辻田京子 (豊田自動織機)
52 湯木博江 (河崎ラケット)
53 鈴木葉子 (豊田自動織機)
54 岡 栄子 (住友金属和歌山)
55 大坪恵美子 (百十四銀行)
56 佐古与使子 (電電近畿)
57 藤井幸子 (電電東京)
58 田所静子 (高松琴平電鉄)
59 大野則子 (神奈川県庁)
60 島田真澄 (福井銀行)
61 竹中礼子 (トヨタ自工)
62 奈良岡洋子 (電電東京)
63 山本弘子 (豊田自動織機)
64 田口省子 (日立戸塚)
65 植原市子 (鹿児島県庁)
66 餌取貴美子 (電電近畿)
67 紺野幾子 (豊田自動織機)
68 長池富子 (宮崎市役所) キ
69 森 清美 (百十四銀行)
70 原 百々代 (三菱電機伊丹)
71 永井むつみ (三菱自工京都)
72 福永久弐子 (三菱電機伊丹)
73 木村悦子 (四国銀行)
74 三浦和子 (豊田自動織機) キ
75 江連有子 (東京三洋電機)
76 角谷俊子 (福井銀行)
77 柿本彰子 (三菱重工長崎)
78 池田静江 (トヨタ自工)
79 内山妙子 (スワロー化研)
80 森田裕美 (横浜市役所)
81 竹田晴美 (三菱化成黒崎)
82 山本みどり (百十四銀行)

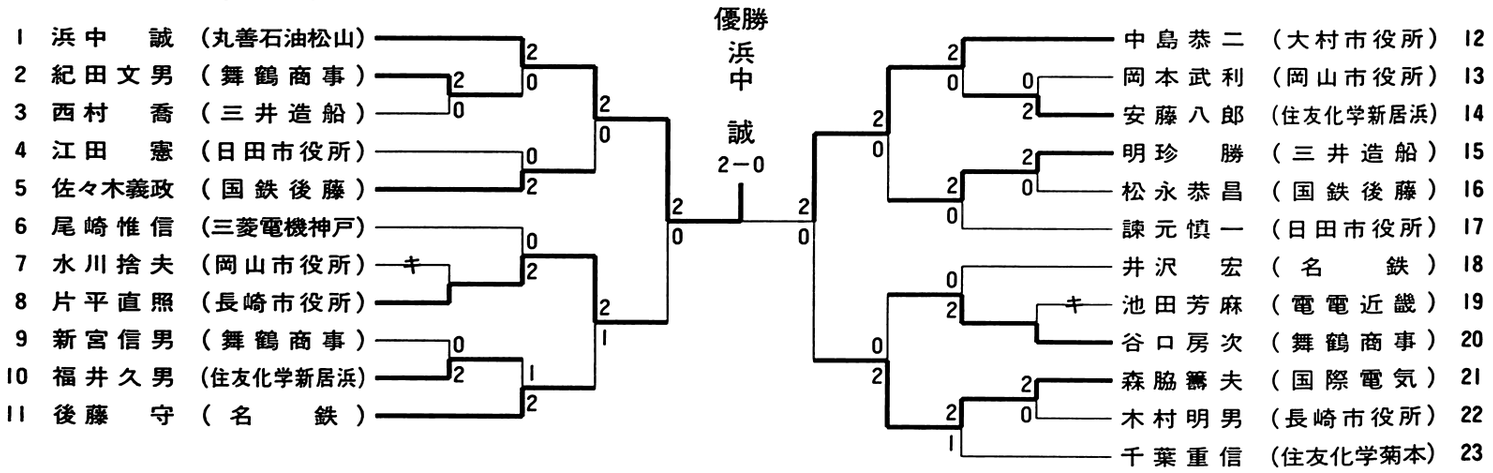
■30歳以上単の部



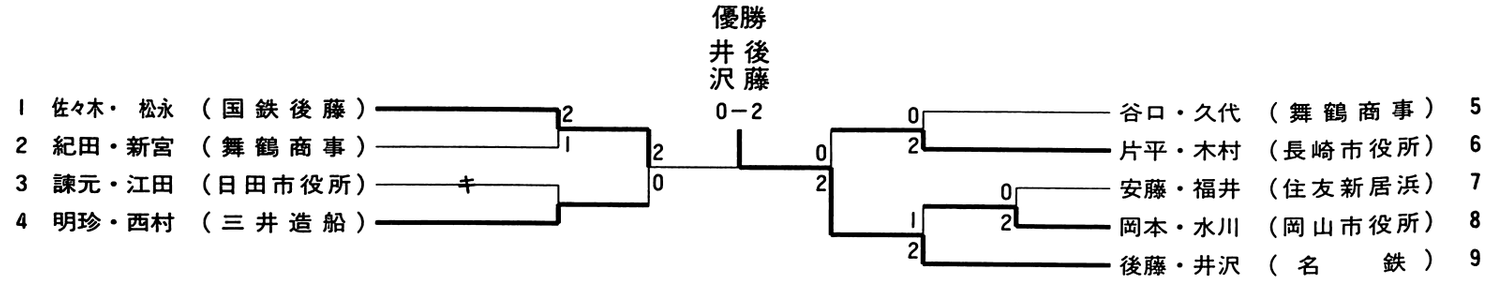
■30歳以上複の部



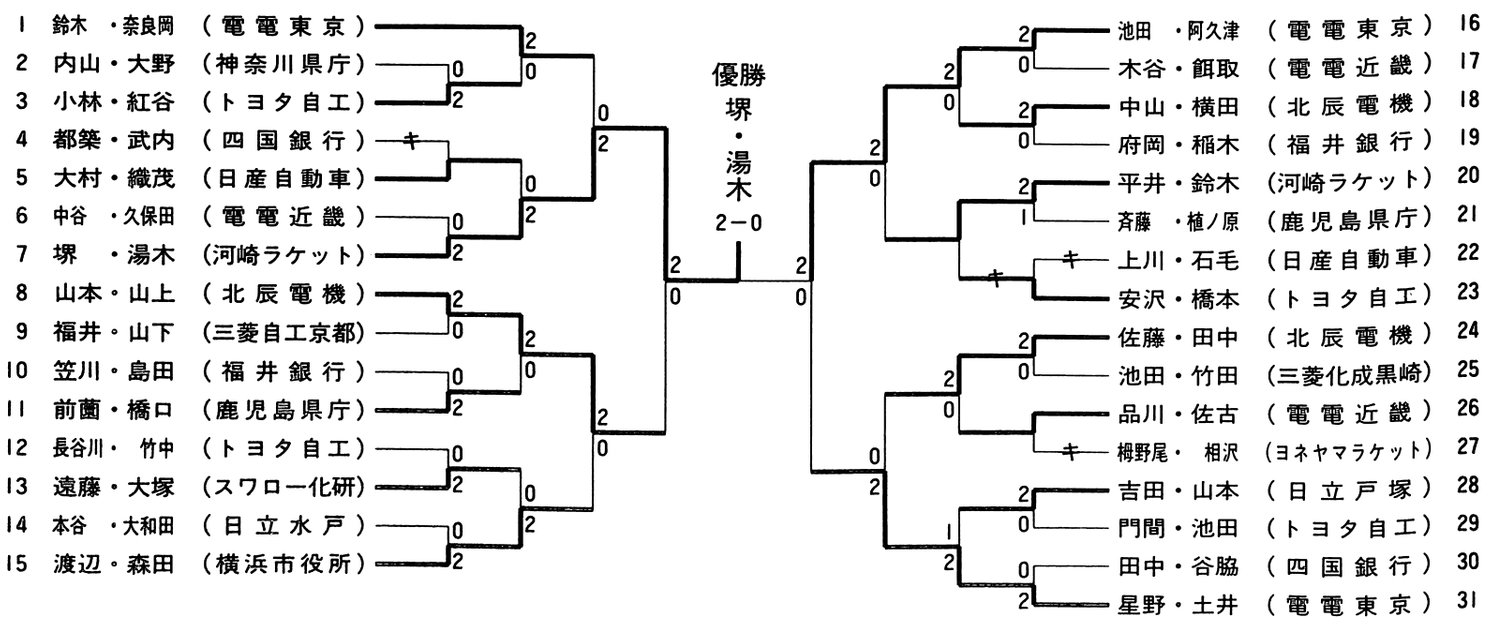
■40歳以上単の部



■40歳以上複の部



■混合複の部



■出場選手名簿

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	電電札幌	江口　才男	中村徳光・木村敏男・平山三城・赤塚正三・古川孝行・中瀬幸記・森田　彪
	国鉄・北海道	青山　繁樹	東　政文・柴田　充・山本晴通・福島智徳・渋井　明・青山繁樹・伊藤善夫
岩手	新日鐵・釜石	本多　三郎	伊藤　博・高橋道夫・高橋利行・斉藤謙一・熊谷　徹・阿部哲夫
秋田	十條製紙・秋田	橋本　健一	中村　勲・熊地春悦・熊谷武志・一関敏伸・鶴巻勝利・森川隆与・橋本幹郎
茨城	日立製作所・水戸	杉浦　重夫	早川　博・福田喜代志・本谷　進・菅野　孝・和田講一・大和田良
栃木	富士重工業・宇都宮	永山　隆	霜山　哲・三上隆康・志太政男・川上岩雄・田中　勇・大島　巌・高橋秀行
群馬	東京三洋電機	岡崎　敬一	江連有子・相田洋子
	三ツ葉電機製作所	面川　富	面川　富・浅野佳夫
	三菱電機・群馬	茂木　正弘	小沢永一・高橋勝美・阿久戸義昭・栗原　弘・千田泰男・佐藤兼春・米田　守
	富士重工・群馬	山形　武	山形　武・渡辺晃一・中条俊雄・坂口隆夫・渡辺　稔
埼玉	東洋インキ	柳沢　宏行	佐藤吉彦・西沖　晃・柳沢宏行・小川浩一・斉藤　博・原　幸一
	サンケン電気	今井　清兼	今井清兼・都築富夫・竹田建夫・薄田隆衛・酒井忠義
千葉	丸善石油・千葉	妹尾与志文	田中房男・幸野邦昭・妹尾与志文・伊藤富男・西尾元佑・南村嘉男・根本昇英
東京	石川島播磨重工	原　功	浅井良伸・村田俊夫・徳　保勝・高木　寛・岩城　勲・長田真樹
	東京都庁	佐藤　和夫	鈴木　蕃・右田利弘・竹俣　明・大原政義・岩上昭一・藤本　彰・斉藤信行
	河崎ラケット	福井　正康	堺　栄一・落合孝之・平井克英・川津　晃・日野昭人・宮川秀樹・河崎一幸・湯木博江 鈴木華子
	電電東京	鈴木　幸春	森谷喜久男・星野義昭・鈴木健二・池田信孝・町田秀和・小林一行・土井治子・鈴木幸春 奈良岡洋子・阿久津まさ子・横山光子・藤井幸子
	北辰電機製作所	中山　広明	山本洋彦・佐藤信夫・中山広明・黒崎二男・芦田正英・宗橋昌男・平手政治
		千葉　健司	山上博子・横田かすみ・木下道子・田中真知子・天野広美・高橋美江・高橋映子
	沖電気工業	田口　長生	清水忠行・山本博司・佐藤邦夫・山田善三・鎌田幸男・鈴木清一・小川早苗・佐藤夕起子 二瓶アエ子・鈴木正子・川田香子・松井裕子
	国際電気	森脇　籌夫	山口安則・城倉正博・横田和博・柳原常吉・森脇籌夫
	ヨネヤマラケット		栂野尾昌一・相沢マチ子・我妻たき子
神奈川	新日鐵・製品技研		寺本裕子・高橋京子
	関東自動車	井上　忠久	浅見　勇・高橋宏元・阿部　誠・守屋孝夫・生井　修・山崎幸男・小沢三郎
	日本鋼管		遠藤啓治・青木　昇
	横浜市役所	土方　充	渡辺直人・安藤　保・松本利喜夫・広木俊一・本田順治・平戸孝司・本田一義・高橋正宏 [illegible]
	三菱重工・横浜造船所	上杉　光芳	守口　茂・鎌出　哲・鈴木勝[illegible]・[illegible]
	日本石油	山崎三佐男	京屋孝治・小野重行・佐藤幸男・泉　信夫・竹村正敏・小泉貞夫
	神奈川県庁	中丸　靖元	小山包博・内山孝道・鳥山裕美・山本徹夫・島田友明・飯塚富弘・中丸靖元・大野則子 建部佳代
	日産自動車・横浜	大村　裕	吉浪益三・岡野隆太郎・上川　章・桜田豊治・大森菊男・竹村芳雄・大村　裕 石毛幸子・織茂春美・石井ヨネ子・大佐賀美智子
	日立製作所・戸塚	吉田　邦男	吉田邦男・山本宏子・田口省子・秋山陽子・紅野理栄・川窪弘子
長野	昭和電工・大町	那須　義博	那須義博・小日向秀夫・知　正人・鹿内孝一
静岡	本州製紙・富士	望月　富弘	森野秀子・渡辺正子・鈴木あつ子・加藤悦子・細小路和恵・石川真澄・嶋　恵子・永田節子
	富士フイルム	滝　正孝	滝　正孝・川原崎仁・井出裕雄・仲沢　豊
	日産自動車・吉原	鈴木　勝雄	大石勝信・平野哲司・酒井俊一・山本秀和・鈴木勝雄
	小糸製作所		日下部敏弘・菊地光雄
愛知	豊田自動織機	上原　信彦	大橋美知子・辻田京子・工藤美佐江・鈴木葉子・冨居康子・紺野幾子・山本弘子・林　澄江 三浦和子
	名古屋鉄道	伊村　隆	伊村　隆・樋口一春・後藤　守・菱田修光・加藤保利・井沢　宏
	新日鐵・名古屋	山本　卓男	山本卓男・金谷義男・千葉和義・奥野哲次・奥野省三・管井　孝・油井秀男

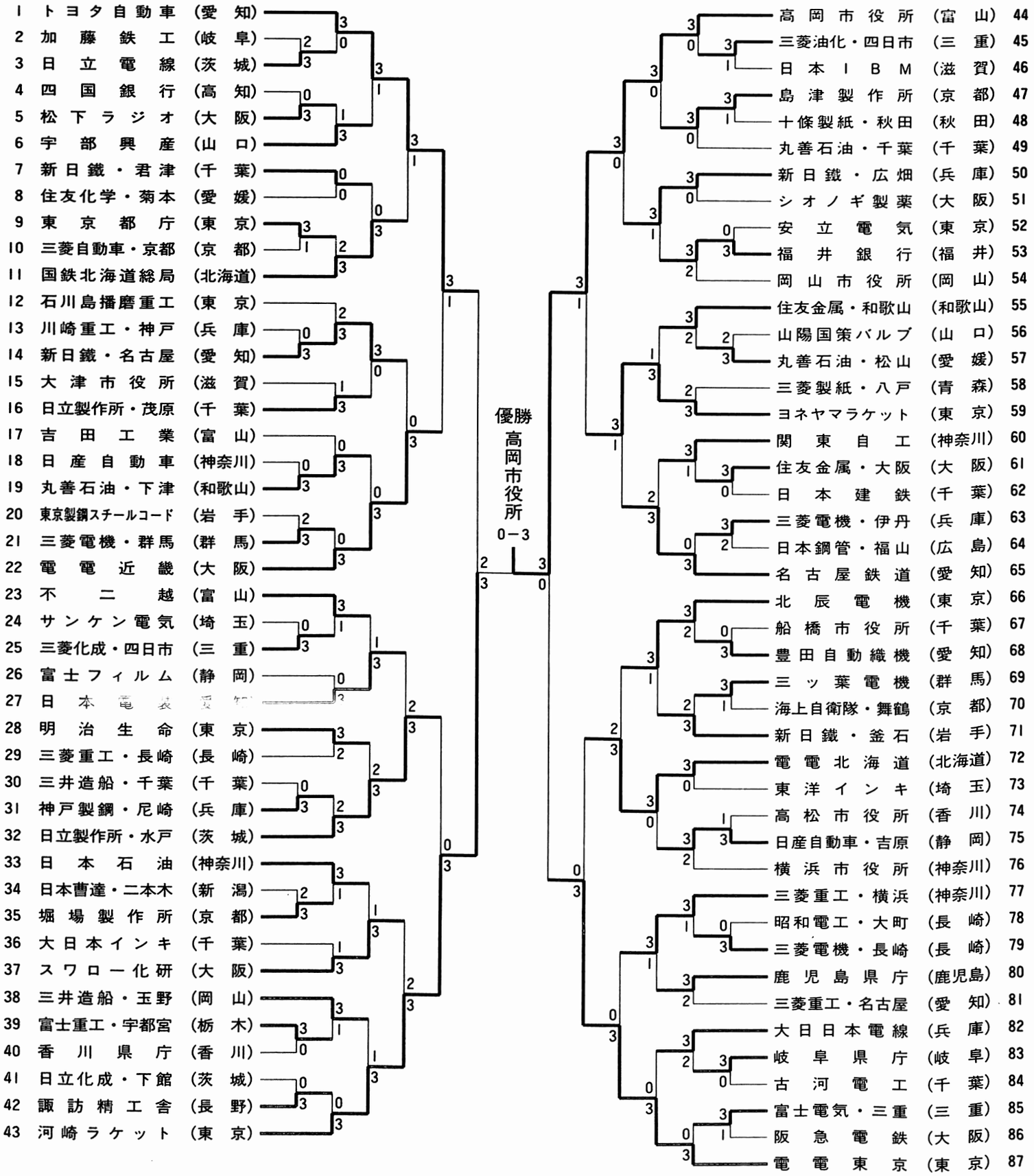
県名	事業所名	監督名	選手名
愛知	トヨタ自動車	小宮　好雄	小林一宏・牛島秀雄・板垣善憲・安沢武司・本間順次・松島　保・松島信之・東浦秀二 杉政和男・門間昇一
	トヨタ自動車	長谷川敏彦	橋本香代・紅谷島子・竹中礼子・池田静江・村田絹子・中野　香・小沢八重子
	日本電装	清水　英幸	荒井和夫・杉山　修・角　　武・森川三津夫
			竹本美千代・庄司絹子・時田恵美子・田中雅子・山崎恵子
	三菱重工・名古屋	吉川　園市	加藤忠昭・松波　譲・加藤聖和・泉　新治・中橋友行・田中健二郎
岐阜	川島紡績		森　芳夫
富山	高岡市役所	中山　邦夫	河村博之・関村順治・今泉　勉・徳田尋信・宮林照男・京田和男・中山邦夫
	不二越	川上　洋一	川上洋一・永原昌雄・池田政規・畑　栄進・入川修一
	吉田工業	島崎　精治	島崎精治・西島宏昭・土井　勉・西野敏宣・飛弾是博・山口年二・島利津子
	十條製紙・伏木	堺　　三徳	大野幸雄・堺　三徳
福井	福井銀行	立田　昭二	高木敏明・梶谷将人・府岡　弘・笠川俊教・安間千代子・稲木秀子・岡崎幸子・角谷俊子 島田真澄・長谷朋子
三重	三菱化成・四日市	増井　孝夫	増井孝夫・小林　悟・吉原　洋・小林信行・高木宗夫・伊藤正己
	富士電機・三重	安藤　　勲	山口　香・安藤　勲・大井政幸・後藤敏彦
兵庫	三菱電機・伊丹	古高　郁夫	堀　英明・古高郁夫・千原弘毅・上藤朝之・川相　隆・打上健二
		萩野　一夫	池田栄子・大竹由里子・原百々代・長町路子・福永久弐子
	新日鐵・広畑	平方　　進	堤田富大・長谷川幸弘・武　広二・塩飽　初・水川九洋・平松重吉
	三菱電機・神戸	古林　　昇	吉野昭文・古林　昇・福士敏夫・尾田憲明・岡崎　守・桜井壮一・破入正彦・尾崎惟信
	大日日本電線	吉田　　昇	吉田　昇・清水　力・豚座一利・佐野義則・狩集　功・渡辺浩一・山田達也・佐野嘉彦 山田健次
	神戸製鋼・尼崎	鍋田　賢一	小泉淳一・友金利一・田中　至・浜野　孝・来田正雄・田崎哲夫・三浦真一・竜円栄治
	住友金属・尼崎	井内　利治	芦田知子・桂岡和子・藤橋豊子・村上幸子・鍵田晴美
京都	島津製作所	安川　和正	上田　勉・和田正高・甲良洋一・奥田俊次・浅野利秋・長岡喜久男
	海上自衛隊・舞鶴	大槻　武志	橋本禎二・瀬野俊策・白井規久夫・白井幸夫・柴田　勝・川村道厚・田野博之
	三菱自動車・京都	戸沢　正雄	福井達雄・中尾政実・戸沢正雄・高宮梵之助・石津正明 山下三枝子・岡崎繁子・永井むつみ・小林フサ子
	八興染工		前田憲宏
	舞鶴商事		谷口房次・紀田文男・新宮信男・久代貫三郎
大阪	電電近畿	[illegible]	喬・品川勝男・竹原　茂・山口勇・小野健二・中谷道次・山本繁幸・木谷正美・池田芳麻
		片山　治修	柿本房子・下村紀子・久保田嘉代・餌取貴美子・佐古与吏子
	スワロー化研工業	遠藤　和男	遠藤和男・山口一男・九原克裕・高橋　実・大塚芳子・内山妙子・宮川美子・山田順子
	塩野義製薬	本摩　恒利	本摩恒利・北川忠雄・片山照章・本山一郎・妹尾健史・川田敏彦・西原義孝
滋賀	大津市役所	佐藤　　賢	佐藤　賢・釜屋明和・田中正民・西原四郎・山田杉男
和歌山	住友金属・和歌山	土田　行夫	厚地　収・坂本　拡・川村桂司・辻　満彦・土田行夫・山田富夫・岡　栄子・堀　桂子 二河祥子・生熊照子・佐々木セツ子
岡山	岡山市役所	岡村　武利	小松　貴・藤井英雄・今東幸一・社　竹三・岡村武利・崎本明雄・時末　務・水川捨夫
	三井造船・玉野	虻江　　優	上野輝治・芳上一男・田丸勝己・藤原次夫・松井　一・久保政美・明珍　勝・西村　喬
鳥取	国鉄・後藤	井原平八郎	佐々木義政・松永泰昌
広島	日本鋼管・福山	梶原　純二	梶原純二・武内光春・前田　功・伊藤健一
		須田　敬子	須田敬子・沢田直子・藤原美枝・角脇優美子
山口	山陽パルプ・岩国	林　　厚志	宮岡康臣・長藤俊成・林　厚志・末岡通典・渡辺敏夫・吉田鉄夫・兼森忠夫 渡辺美枝子・大西明子・高尾圭子・津秋二代・忍谷町子・吉本豊子
	宇部興産	山県　保夫	末広秀樹・河添忠夫・石川好夫・坂本賢二・山県保夫
香川	高松琴平電鉄	東条　義昭	井上るり子・薗浦孝子・石原英子・田所静子
	百十四銀行	柴田　隆男	山本みどり・赤沢ひろ子・福本幸子・小西幸代・大坪恵美子・森　清美・大西順子
	高松市役所	横岡　忠幸	野口利行・岡崎和良・横岡忠幸・田中真一・納田末広・安田隆行・谷本庄一

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
愛　媛	住友化学・菊本	門田　昌三	三苫孝一・片上逸志・秋山英明・守谷喜久雄・千葉重信・佐藤　勲・藤田健治
	住友化学・新居浜	大国　敏雄	安藤八郎・福井久男・矢野　晃・佐々木孝・奥村繁樹
	丸善石油・松山	浜中　　誠	白石卓夫・佐伯友正・藤田峯斉・永井龍夫・小泉敏幸・浜中　誠
高　知	四国銀行	亀井　美雄	都築正明・田中裕之・武内五十鈴・谷脇リエ・木村悦子・坂本和子
福　岡	三菱化成・黒崎		池田明男・竹田晴美
	北九州市役所	渕上　英紀	渕上英紀・原　穂美・池田智彦・桶本正毅・奥田哲朗
大　分	日田市役所	桑野　　昇	田中大也・春武俊一・佐藤国晴・宮原秀三・江田　恵・諫元慎一・小埜公明
長　崎	三菱重工・長崎造船所	喜多　昭夫	田中貞夫・中野和雄・前田国臣・山口信行・辻　　優・一ノ瀬通・末吉宏次・柿本彰子
	長崎市役所		片平直照・本村明男
	大村市役所		中島泰二
	三菱電機・長崎	山市　敞造	江口忠道・長松保男・小林正昭・山口正博・山市敞造・角田　寿
熊　本	芦北町役場	鬼塚　寿盛	馬城隆吉・峯本伸夫・引地繁一・宮本生也・宮嶋昭哲・山村冨士吉
宮　崎	宮崎市役所		徳永英敏・小倉文雄・松本行弘・吉加江たみ子・長池富子
鹿児島	鹿児島県庁	目原　克彦	前薗俊哉・斉藤義久・牧元秀保・春松忠男・藤本　滋・目原克彦・向井　優・橋口るり 植ノ原市子・山本真由美・中原久美子・前原早苗・中原美智子
	三井串木野鉱山	西野　　壱	新村国男・厚ケ瀬秋義・上白石博・石塚健一・西野　壱

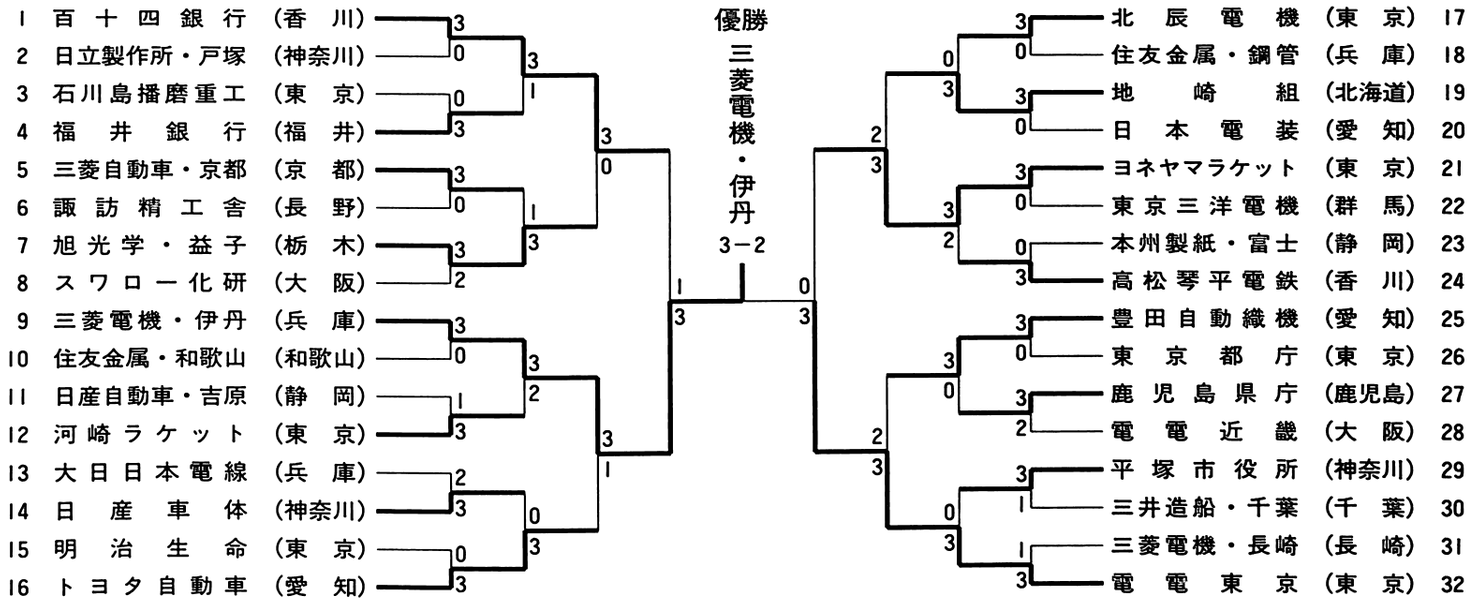
第22回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1972年(昭和47年)9月12～17日
開 催 地：千葉県茂原市
会　　場：千葉県立茂原高等学校体育館、
千葉県立長生高等学校体育館

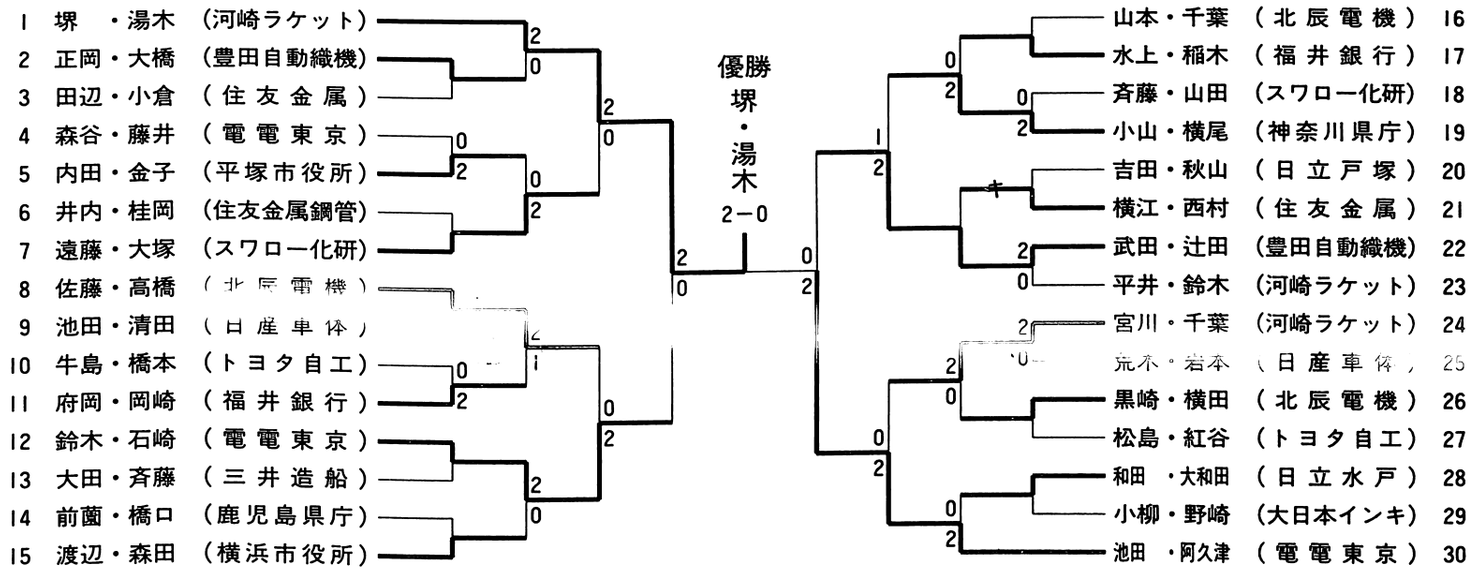
■男子団体の部



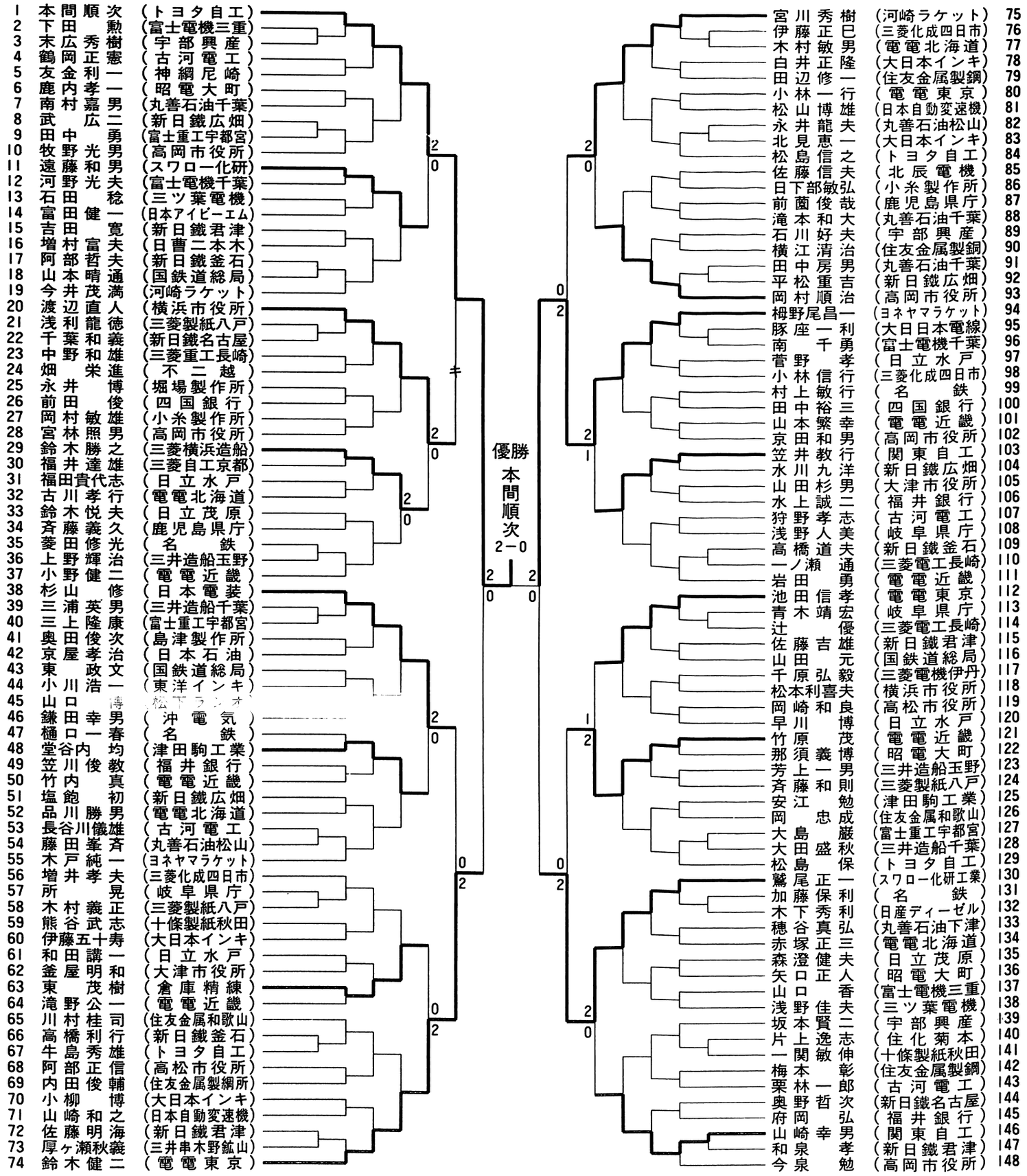
■女子団体の部



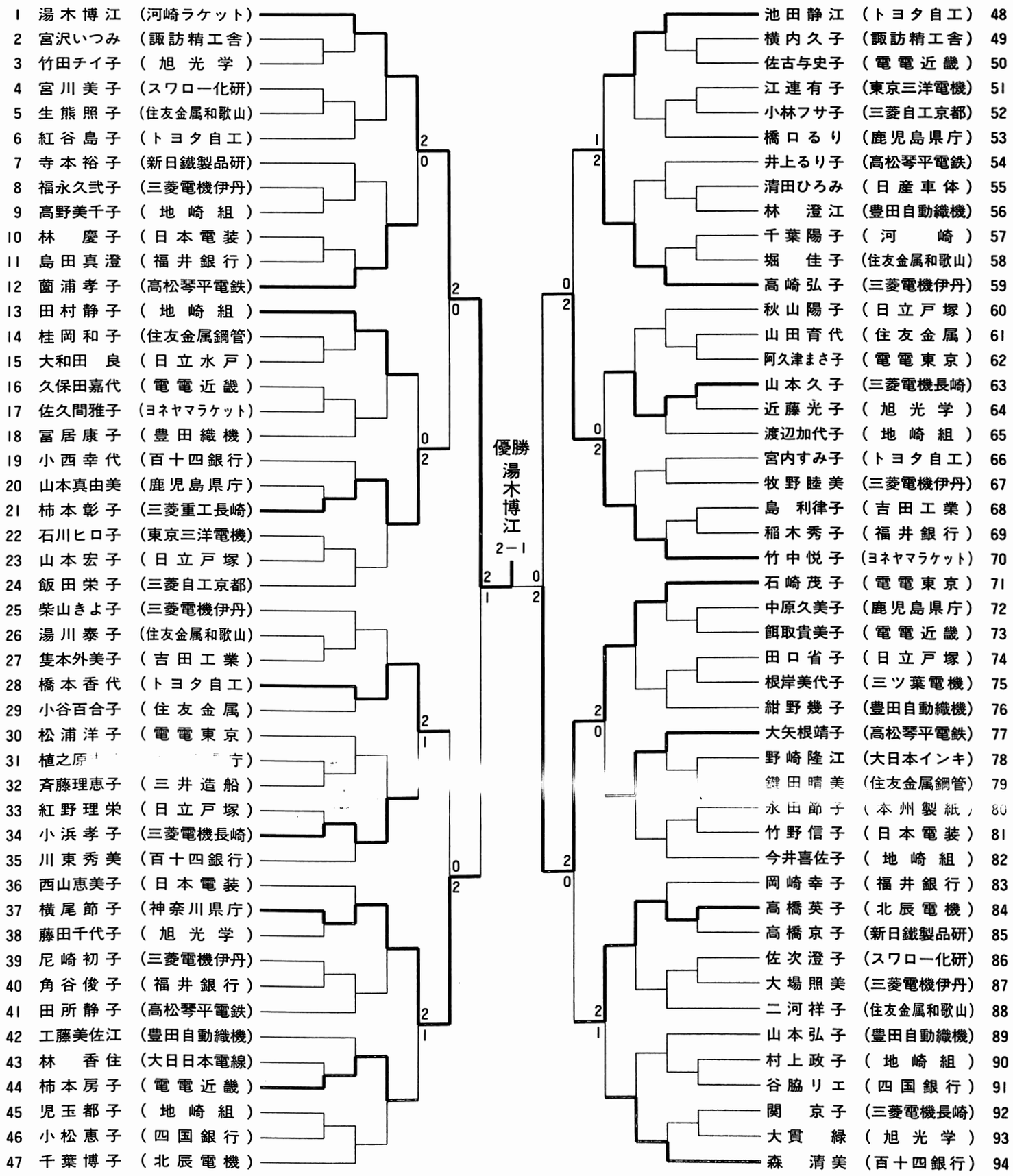
■混合複の部



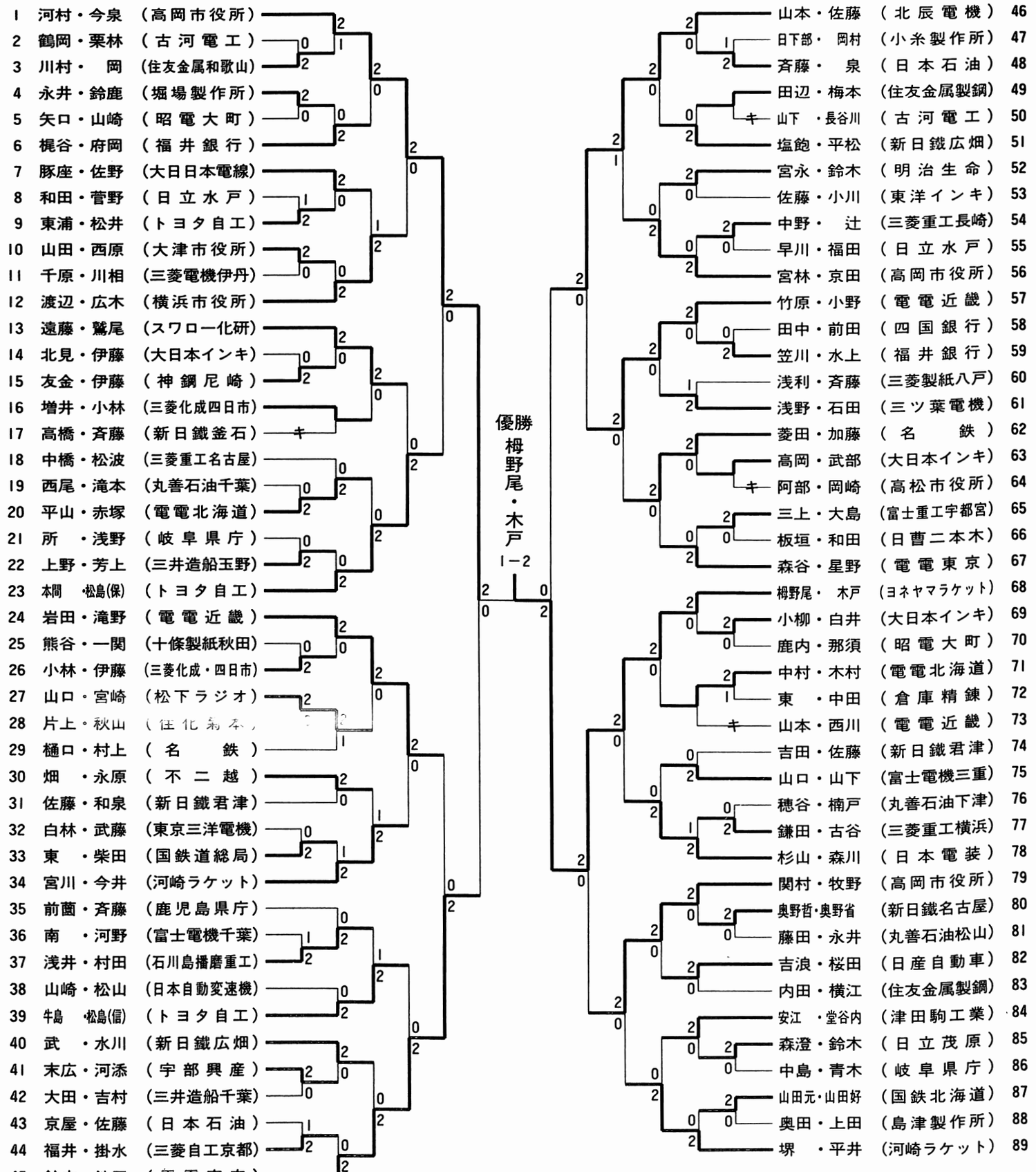
■男子単の部



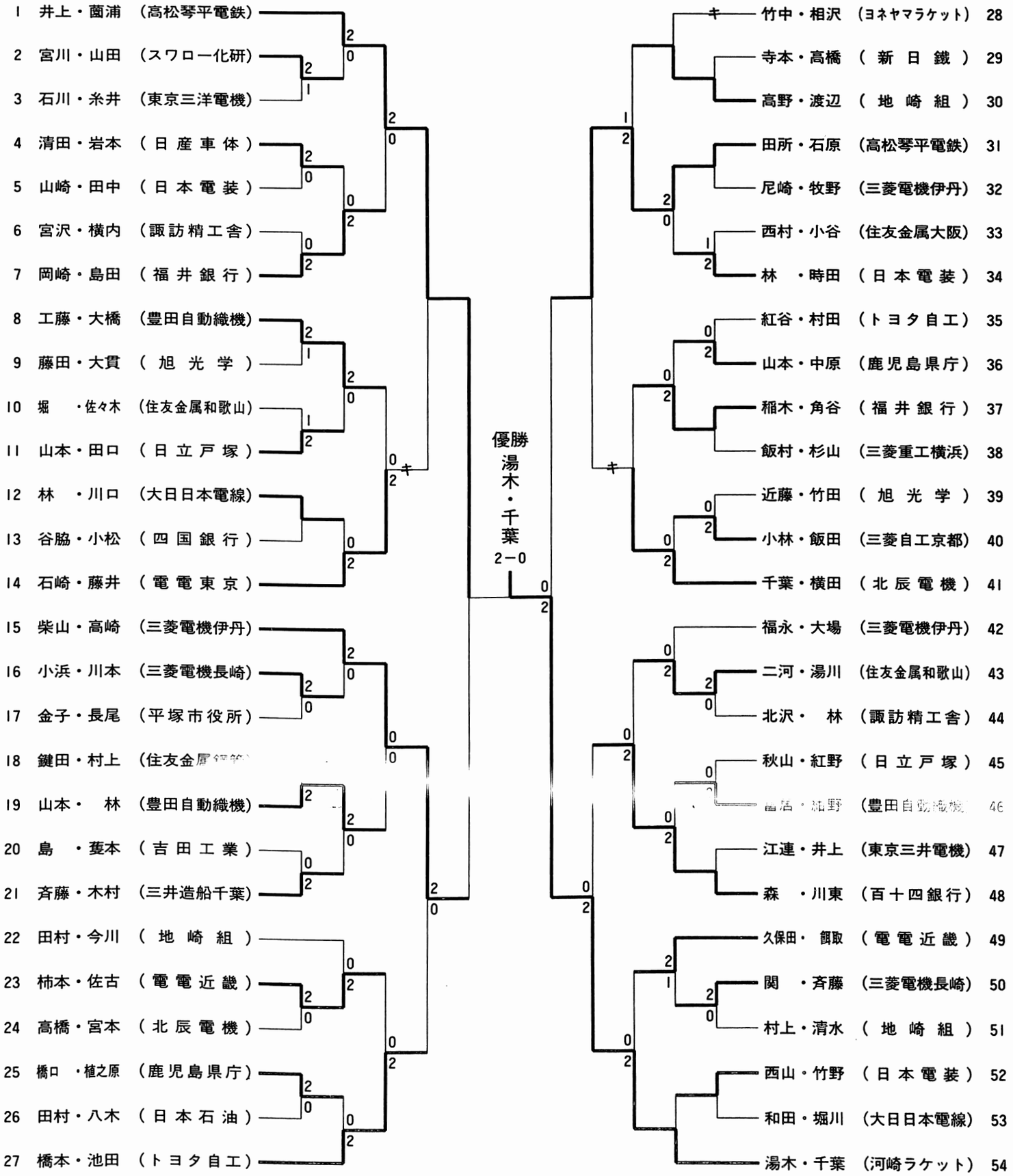
■女子単の部


1 湯木博江 (河崎ラケット)
2 宮沢いつみ (諏訪精工舎)
3 竹田チイ子 (旭 光 学)
4 宮川美子 (スワロー化研)
5 生熊照子 (住友金属和歌山)
6 紅谷島子 (トヨタ自工)
7 寺本裕子 (新日鐵製品研)
8 福永久弐子 (三菱電機伊丹)
9 高野美千子 (地 崎 組)
10 林 慶子 (日 本 電 装)
11 島田真澄 (福 井 銀 行)
12 薗浦孝子 (高松琴平電鉄)
13 田村静子 (地 崎 組)
14 桂岡和子 (住友金属鋼管)
15 大和田良 (日 立 水 戸)
16 久保田嘉代 (電 電 近 畿)
17 佐久間雅子 (ヨネヤマラケット)
18 冨居康子 (豊 田 織 機)
19 小西幸代 (百十四銀行)
20 山本真由美 (鹿児島県庁)
21 柿本彰子 (三菱重工長崎)
22 石川ヒロ子 (東京三洋電機)
23 山本宏子 (日 立 戸 塚)
24 飯田栄子 (三菱自工京都)
25 柴山きよ子 (三菱電機伊丹)
26 湯川泰子 (住友金属和歌山)
27 隻本外美子 (吉 田 工 業)
28 橋本香代 (トヨタ自工)
29 小谷百合子 (住 友 金 属)
30 松浦洋子 (電 電 東 京)
31 植之原 [illegible] 宁)
32 斉藤理恵子 (三 井 造 船)
33 紅野理栄 (日 立 戸 塚)
34 小浜孝子 (三菱電機長崎)
35 川東秀美 (百十四銀行)
36 西山恵美子 (日 本 電 装)
37 横尾節子 (神奈川県庁)
38 藤田千代子 (旭 光 学)
39 尼崎初子 (三菱電機伊丹)
40 角谷俊子 (福 井 銀 行)
41 田所静子 (高松琴平電鉄)
42 工藤美佐江 (豊田自動織機)
43 林 香住 (大日日本電線)
44 柿本房子 (電 電 近 畿)
45 児玉都子 (地 崎 組)
46 小松恵子 (四 国 銀 行)
47 千葉博子 (北 辰 電 機)
優勝
湯木博江
2－1
48 池田静江 (トヨタ自工)
49 横内久子 (諏訪精工舎)
50 佐古与史子 (電 電 近 畿)
51 江連有子 (東京三洋電機)
52 小林フサ子 (三菱自工京都)
53 橋口るり (鹿児島県庁)
54 井上るり子 (高松琴平電鉄)
55 清田ひろみ (日 産 車 体)
56 林 澄江 (豊田自動織機)
57 千葉陽子 (河 崎)
58 堀 佳子 (住友金属和歌山)
59 高崎弘子 (三菱電機伊丹)
60 秋山陽子 (日 立 戸 塚)
61 山田育代 (住 友 金 属)
62 阿久津まさ子 (電 電 東 京)
63 山本久子 (三菱電機長崎)
64 近藤光子 (旭 光 学)
65 渡辺加代子 (地 崎 組)
66 宮内すみ子 (トヨタ自工)
67 牧野睦美 (三菱電機伊丹)
68 島 利律子 (吉 田 工 業)
69 稲木秀子 (福 井 銀 行)
70 竹中悦子 (ヨネヤマラケット)
71 石崎茂子 (電 電 東 京)
72 中原久美子 (鹿児島県庁)
73 餌取貴美子 (電 電 近 畿)
74 田口省子 (日 立 戸 塚)
75 根岸美代子 (三ツ葉電機)
76 紺野幾子 (豊田自動織機)
77 大矢根靖子 (高松琴平電鉄)
78 野崎隆江 (大日本インキ)
79 [illegible]田晴美 (住友金属鋼管)
80 永田節子 (本州製紙)
81 竹野信子 (日 本 電 装)
82 今井喜佐子 (地 崎 組)
83 岡崎幸子 (福 井 銀 行)
84 高橋英子 (北 辰 電 機)
85 高橋京子 (新日鐵製品研)
86 佐次澄子 (スワロー化研)
87 大場照美 (三菱電機伊丹)
88 二河祥子 (住友金属和歌山)
89 山本弘子 (豊田自動織機)
90 村上政子 (地 崎 組)
91 谷脇リエ (四 国 銀 行)
92 関 京子 (三菱電機長崎)
93 大貫 緑 (旭 光 学)
94 森 清美 (百十四銀行)

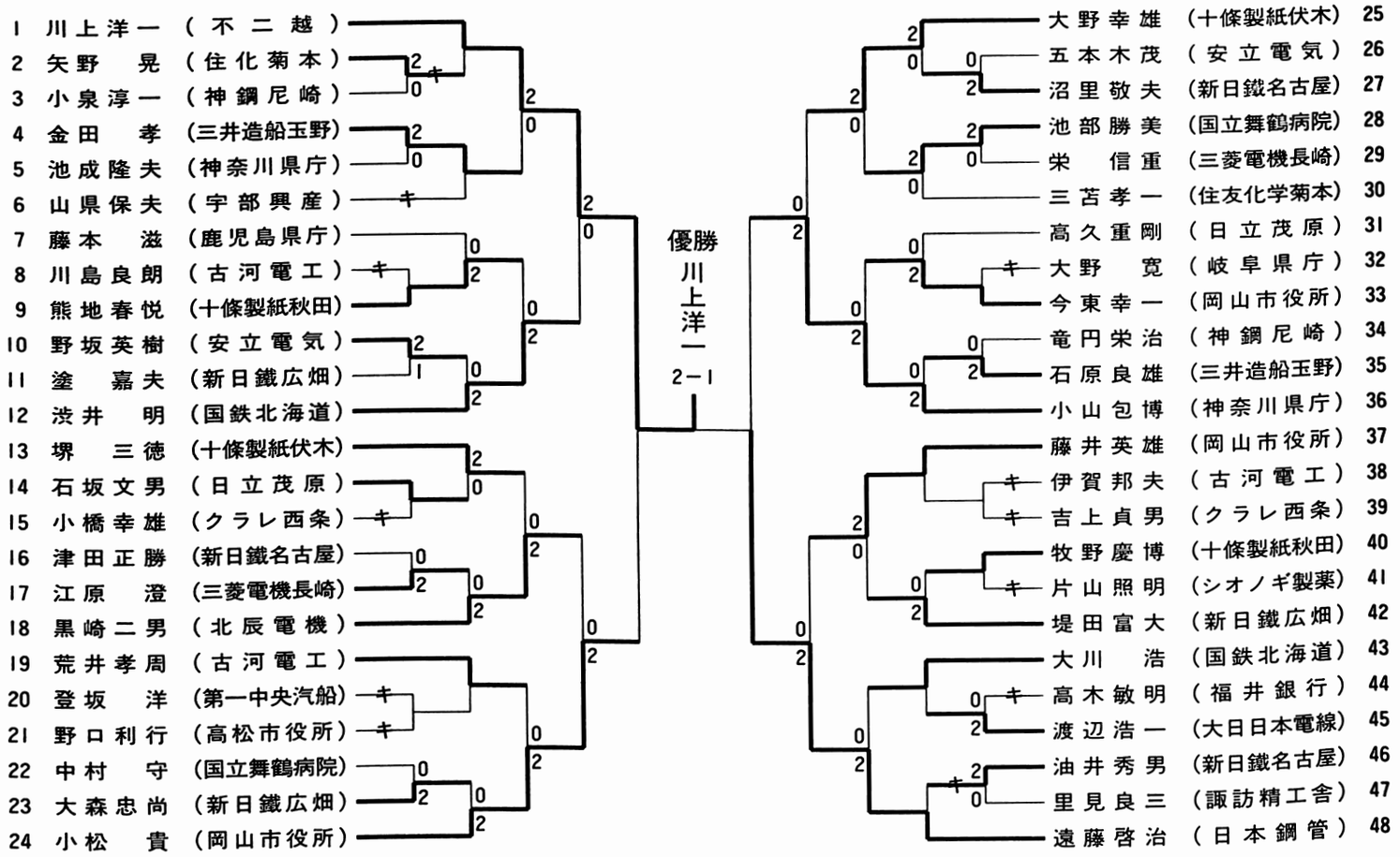
■男子複の部


1 河村・今泉 (高岡市役所)
2 鶴岡・栗林 (古河電工)
3 川村・ 岡 (住友金属和歌山)
4 永井・鈴鹿 (堀場製作所)
5 矢口・山崎 (昭電大町)
6 梶谷・府岡 (福井銀行)
7 豚座・佐野 (大日日本電線)
8 和田・菅野 (日立水戸)
9 東浦・松井 (トヨタ自工)
10 山田・西原 (大津市役所)
11 千原・川相 (三菱電機伊丹)
12 渡辺・広木 (横浜市役所)
13 遠藤・鷲尾 (スワロー化研)
14 北見・伊藤 (大日本インキ)
15 友金・伊藤 (神鋼尼崎)
16 増井・小林 (三菱化成四日市)
17 高橋・斉藤 (新日鐵釜石)
18 中橋・松波 (三菱重工名古屋)
19 西尾・滝本 (丸善石油千葉)
20 平山・赤塚 (電電北海道)
21 所 ・浅野 (岐阜県庁)
22 上野・芳上 (三井造船玉野)
23 本間 松島(保) (トヨタ自工)
24 岩田・滝野 (電電近畿)
25 熊谷・一関 (十條製紙秋田)
26 小林・伊藤 (三菱化成・四日市)
27 山口・宮崎 (松下ラジオ)
28 片上・秋山 (住化和歌)
29 樋口・村上 (名 鉄)
30 畑 ・永原 (不二越)
31 佐藤・和泉 (新日鐵君津)
32 白林・武藤 (東京三洋電機)
33 東 ・柴田 (国鉄道総局)
34 宮川・今井 (河崎ラケット)
35 前薗・斉藤 (鹿児島県庁)
36 南 ・河野 (富士電機千葉)
37 浅井・村田 (石川島播磨重工)
38 山崎・松山 (日本自動変速機)
39 牛島 松島(信) (トヨタ自工)
40 武 ・水川 (新日鐵広畑)
41 末広・河添 (宇部興産)
42 大田・吉村 (三井造船千葉)
43 京屋・佐藤 (日本石油)
44 福井・掛水 (三菱自工京都)
45 鈴木・池田 (電電東京)
優勝
栂野尾・木戸
1－2
46 山本・佐藤 (北辰電機)
47 日下部・ 岡村 (小糸製作所)
48 斉藤・ 泉 (日本石油)
49 田辺・梅本 (住友金属製鋼)
50 山下 ・長谷川 (古河電工)
51 塩飽・平松 (新日鐵広畑)
52 宮永・鈴木 (明治生命)
53 佐藤・小川 (東洋インキ)
54 中野・ 辻 (三菱重工長崎)
55 早川・福田 (日立水戸)
56 宮林・京田 (高岡市役所)
57 竹原・小野 (電電近畿)
58 田中・前田 (四国銀行)
59 笠川・水上 (福井銀行)
60 浅利・斉藤 (三菱製紙八戸)
61 浅野・石田 (三ツ葉電機)
62 菱田・加藤 (名 鉄)
63 高岡・武部 (大日本インキ)
64 阿部・岡崎 (高松市役所)
65 三上・大島 (富士重工宇都宮)
66 板垣・和田 (日曹二本木)
67 森谷・星野 (電電東京)
68 栂野尾・ 木戸 (ヨネヤマラケット)
69 小柳・白井 (大日本インキ)
70 鹿内・那須 (昭電大町)
71 中村・木村 (電電北海道)
72 東 ・中田 (倉庫精錬)
73 山本・西川 (電電近畿)
74 吉田・佐藤 (新日鐵君津)
75 山口・山下 (富士電機三重)
76 穂谷・楠戸 (丸善石油下津)
77 鎌田・古谷 (三菱重工横浜)
78 杉山・森川 (日本電装)
79 関村・牧野 (高岡市役所)
80 奥野哲・奥野省 (新日鐵名古屋)
81 藤田・永井 (丸善石油松山)
82 吉浪・桜田 (日産自動車)
83 内田・横江 (住友金属製鋼)
84 安江 ・堂谷内 (津田駒工業)
85 森澄・鈴木 (日立茂原)
86 中島・青木 (岐阜県庁)
87 山田元・山田好 (国鉄北海道)
88 奥田・上田 (島津製作所)
89 堺 ・平井 (河崎ラケット)

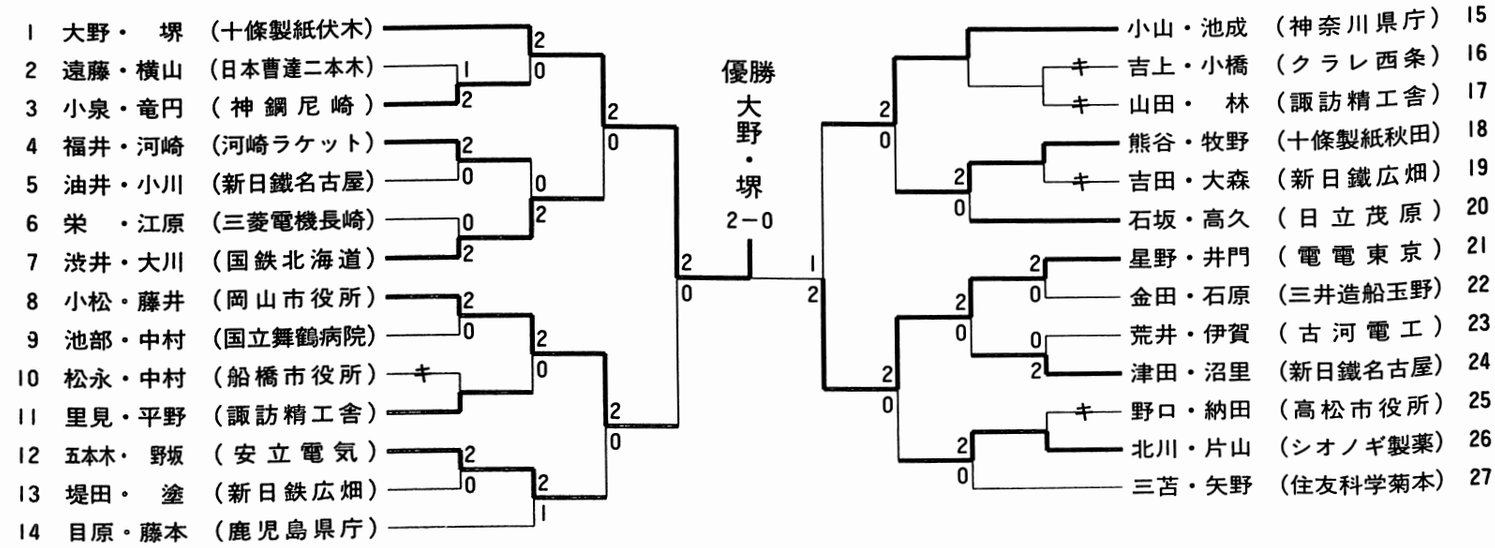
■女子複の部


1 井上・薗浦 (高松琴平電鉄)
2 宮川・山田 (スワロー化研)
3 石川・糸井 (東京三洋電機)
4 清田・岩本 (日産車体)
5 山崎・田中 (日本電装)
6 宮沢・横内 (諏訪精工舎)
7 岡崎・島田 (福井銀行)
8 工藤・大橋 (豊田自動織機)
9 藤田・大貫 (旭光学)
10 堀 ・佐々木 (住友金属和歌山)
11 山本・田口 (日立戸塚)
12 林 ・川口 (大日日本電線)
13 谷脇・小松 (四国銀行)
14 石崎・藤井 (電電東京)
15 柴山・高崎 (三菱電機伊丹)
16 小浜・川本 (三菱電機長崎)
17 金子・長尾 (平塚市役所)
18 鍵田・村上 (住友金属[illegible])
19 山本・ 林 (豊田自動織機)
20 島 ・菱本 (吉田工業)
21 斉藤・木村 (三井造船千葉)
22 田村・今川 (地崎組)
23 柿本・佐古 (電電近畿)
24 高橋・宮本 (北辰電機)
25 橋口 ・植之原 (鹿児島県庁)
26 田村・八木 (日本石油)
27 橋本・池田 (トヨタ自工)
優勝
湯木・千葉
2−0
28 竹中・相沢 (ヨネヤマラケット)
29 寺本・高橋 (新日鐵)
30 高野・渡辺 (地崎組)
31 田所・石原 (高松琴平電鉄)
32 尼崎・牧野 (三菱電機伊丹)
33 西村・小谷 (住友金属大阪)
34 林 ・時田 (日本電装)
35 紅谷・村田 (トヨタ自工)
36 山本・中原 (鹿児島県庁)
37 稲木・角谷 (福井銀行)
38 飯村・杉山 (三菱重工横浜)
39 近藤・竹田 (旭光学)
40 小林・飯田 (三菱自工京都)
41 千葉・横田 (北辰電機)
42 福永・大場 (三菱電機伊丹)
43 二河・湯川 (住友金属和歌山)
44 北沢・ 林 (諏訪精工舎)
45 秋山・紅野 (日立戸塚)
46 [illegible] (豊田自動織機)
47 江連・井上 (東京三井電機)
48 森 ・川東 (百十四銀行)
49 久保田・ 餌取 (電電近畿)
50 関 ・斉藤 (三菱電機長崎)
51 村上・清水 (地崎組)
52 西山・竹野 (日本電装)
53 和田・堀川 (大日日本電線)
54 湯木・千葉 (河崎ラケット)

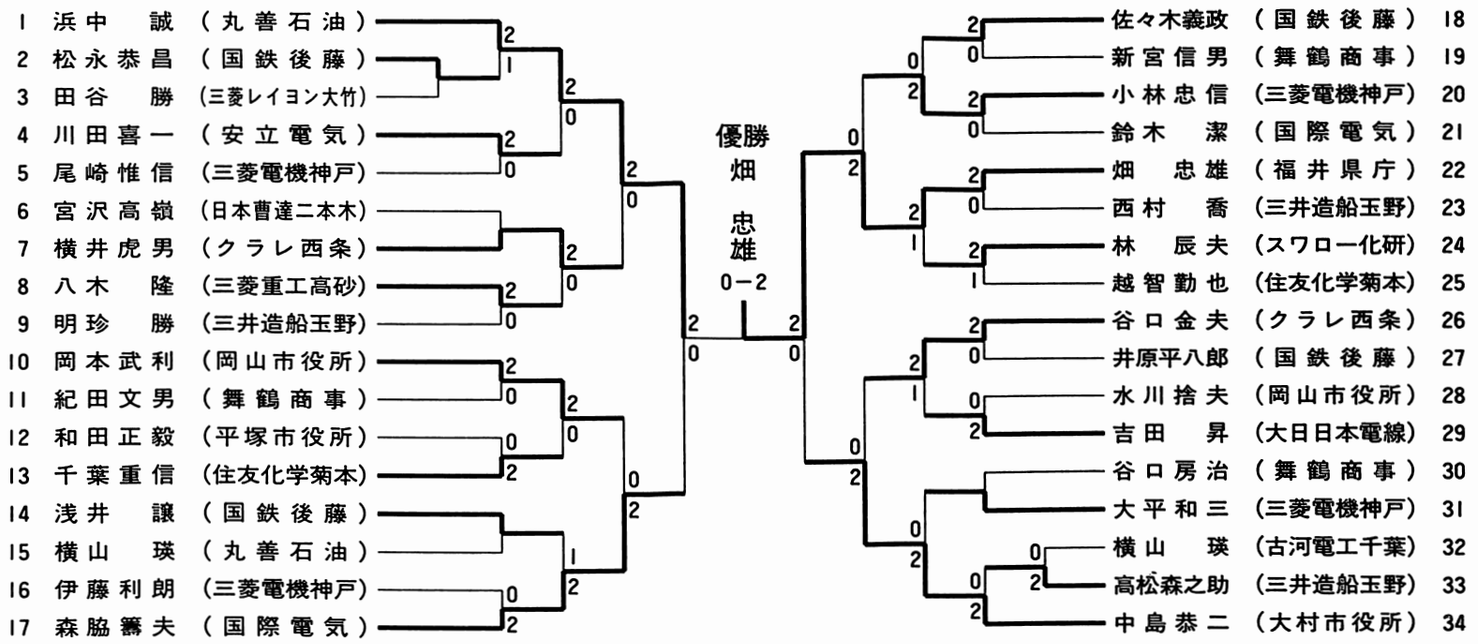
■30歳以上単の部



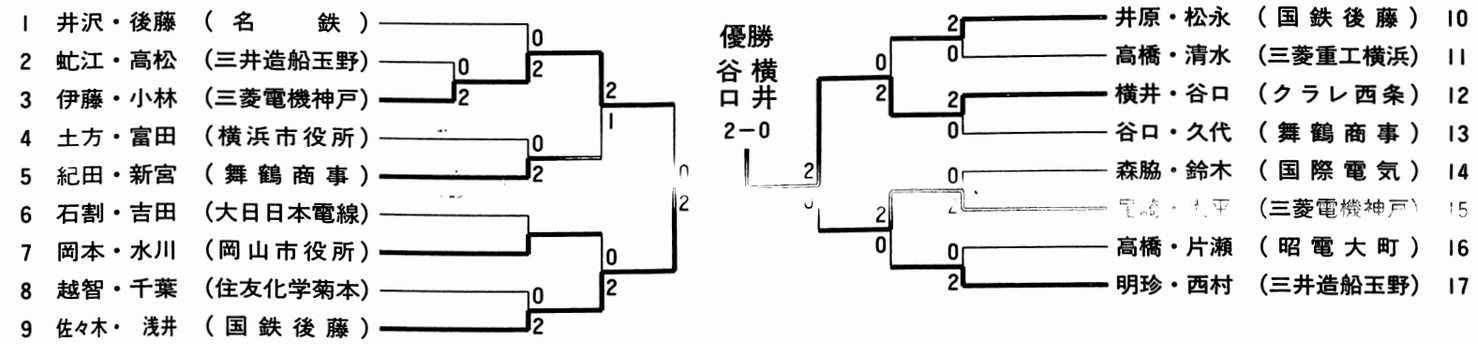
■30歳以上複の部



■40歳以上単の部



■40歳以上複の部



■出場選手名簿

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	国鉄道総局	渋井　明	東　政文・山田　元・山田好明・柴田　充・山本晴通・山田　篤・渋井　明・大川　浩
	電電北海道	森田　彪	中村徳光・木村敏男・平山三城・赤塚正三・佐藤信次・古川孝行・中瀬幸記・品川勝男
	地崎組	岩崎　昭郎	田村静子・高野美千子・清水敏子・渡辺加代子・村上政子・今川喜佐子・児玉郁子
青森	三菱製紙・八戸	平安　敏一	浅利龍徳・佐藤　彰・木村義正・斉藤和則・伊藤英文・田畑裕康・佐々木悟
岩手	新日鐵・釜石	本多　三郎	高橋道夫・高橋利行・斉藤謙一・熊谷　徹・菅原又男・金子正一・阿部哲夫
	東京鉄鋼スチールコード	及川　雅義	及川雅義・菊地　敏・笠神貞治・村田光広・伊藤　裕
秋田	十條製紙・秋田	牧野　慶博	牧野慶博・熊地春悦・熊谷武志・一関敏伸
茨城	日立化成	古新　居進	大塚富士夫・中東三嘉・塩谷彰一・上石田常治・水野　裕・千葉善夫
	日立・水戸	小原　守司	早川　博・福田喜代志・菅野　孝・和田講一・山田陽三・大和田良
	日立電線	深堀　敏夫	佐藤紘介・柳生秀樹・関　育夫・花見幸作・深堀敏夫・高橋三郎
栃木	富士重工・宇都宮	永山　隆	三上隆康・川上岩雄・田中　勇・大島　巌・高橋秀行・石沢覧三・星　正幸
	旭光学・益子	藤田千代子	藤田千代子・大貫　緑・近藤光子・竹田チイ子
群馬	三菱電機・群馬	茂木　正弘	栗原　弘・千田泰男・茂木正弘・小沢永一・高橋勝美・佐藤兼春・米田　守
	東京三洋電機	白林　弘司	白林弘司・武藤政雄・江連有子・井上小百合・糸井道子・石川ヒロ子
	三ッ葉電機製作所	面川　富	浅野佳夫・石田　稔・面川　富・山口健次郎・柳沢宜男・根岸美代子
埼玉	サンケン電気	今井　清兼	今井清兼・都築富夫・竹田健夫・蒋田隆衛・酒井忠義・小田晃博
	東洋インキ	佐藤　吉彦	小川浩一・西沖　晃・佐藤吉彦・原　幸一・村上　正
	日産ディーゼル		大下秀利
東京	北辰電機	中山　広明 千葉　健司	佐藤信夫・山本洋彦・中山広明・里崎二男・堀越　進・平年政治・明間隆三 横田かすみ・千葉博子・天野広美・高橋美江・宮本小夜子・高橋映子・田中真知子
	ヨネヤマラケット	鈴木　正造 竹中　悦子	鈴木正造・栂野尾昌一・木戸純一・森田　修・菅原　薫・米山　勇 竹中悦子・相沢マチ子・我妻たき子・佐久間雅子・高橋智恵子・中島真子
	安立電気	川田　喜一	五本木茂・野坂英樹・川田喜一・村井　清・金子孝規・富士忠比古・鈴木誠一
	沖電気		鎌田幸男
	国際電気		森脇等夫・鈴木　潔
	東京都庁	佐藤　和夫 島田　稔	竹俣　明・大原政義・岩上昭一・藤本　彰・島田　稔・福田　正 島田律子・伊藤くみ子・福好まさ子・依田ゆみ子・中田寿子
	石川島播磨重工業		戸井良伸・村田俊夫・徳保　勝・岩城　勲・高木　寛・塚本明男 田村春美・塩田みどり・佐川陽子・関根シズ江
	電電東京	鈴木　幸春	森谷喜久男・星野義昭・鈴木健二・池田信孝・町田秀和・小林一行・野本綱夫・井門鎮雄 松浦洋子・阿久津まさ子・横山光子・藤井幸子・石崎茂子・小笠原泰子・竹内恵子
	明治生命	宮永　武司	杉本伸之・中島康生・宮永武司・池　潤一・二沢一進・鈴木英夫・佐藤　賢 木庭三千子・井口佳子・牛久秀子・鈴木順子・手塚清美・福田孝子・荒井典子
	河崎ラケット	福井　正康	堺　栄一・落合孝之・平井克英・宮川秀樹・川津　晃・今井茂満・佐々木寿男・福井正康 湯木博江・鈴木華子・峰岸ひろ美・千葉陽子
	第一中央汽船		登坂　洋
千葉	新日鐵・君津	吉武　正孝	吉田　寛・佐藤吉雄・佐藤明海・和泉　孝・堀内典男
	丸善石油・千葉	西尾　元祐	田中房男・南村嘉男・幸野邦昭・西尾元祐・大野　貢・伊藤富男・滝本和大
	船橋市役所	長島　一男	石井　昇・相川靖宣・中村　忠・田久保能久・石渡紀雄・荒井敏夫・石原豊加・松永修己
	日本建鉄		八木橋征二・渡辺英毅・西田裕之・石田　徹・関口三郎
	古河電工	横山　瑛	荒井孝周・伊賀邦夫・鶴岡正憲・栗林一郎・山下正道・長谷川儀雄・狩野孝志・川島良朗 横山　瑛
	三井造船・千葉	大倉　末広 吉村　傀三	大倉末広・大田盛秋・吉村傀三・三浦英男・山下正明・佐々木公也・小林晴男 斉藤理恵子・木村宣子・須田文枝・鮎川照子・古川孝子・古川節子・工藤友子
	大日本インキ	白井　正隆	白井正隆・小柳　博・北見恵一・伊藤五十寿・富岡黎三郎・武部具文・野崎隆江
	富士電機製造・千葉		南千　勇・河野光夫
	日立・茂原	高久　重剛	高久重剛・鈴木悦夫・森澄健夫・石坂文男・田中　晃・亀田年邦・山岸和広

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
神奈川	日産自動車・横浜	大村　　裕	大村　裕・岡野隆太郎・吉浪益三・桜田豊治・竹村芳雄・上川　章・松本　薫
	日本鋼管		遠藤啓治
	神奈川県庁		小山包博・池成隆夫・横尾節子
	横浜市役所	土方　　充	安藤　保・渡辺直人・本田順治・松本利喜夫・宍戸安治・広木俊一・中野孝司・富田道也 森田裕美
	平塚市役所	和田　正毅	和田正毅・金子幸子・久保田朝子・長尾道子・瀬戸圭子
	日本石油	高橋昭二郎	斉藤　満・京屋孝治・佐藤幸男・泉　信夫・平田正己・水島弘次 田村直江・八木富佐子
	関東自工	井上　忠久	阿部　誠・高橋宏之・浅見　勇・山崎幸男・笠井教行・小沢三郎・守屋孝夫
	三菱重工・横浜造船所	高橋　　進	鎌田　哲・古谷陽一・鈴木勝之・岸　賢司・倉田豊三郎・高橋保則・末松　薫・高橋秀夫 清水　武・飯村とも子・杉山紀代美
	日立・戸塚	清水　清一	吉田邦男・田口省子・山本宏子・秋山陽子・紅野理栄・山川美智子・中島光子
	日産車体	佐草　純谷	池田信章・荒木定男・清田ひろみ・岩本玉江・広瀬恵子・真下美智子・豊留葉子・杉山圭子
	新日鐵・製品技研	山田　正弘	寺本裕子・高橋京子
長野	昭和電工・大町	高橋　武治	鹿内孝一・矢口正人・高橋武治・片瀬政幸・山崎巳良・那須義博
	諏訪精工舎	平野　統雄 里見　良三	里見良三・平野統雄・小口弘彦・原田　豊・山田一六・林　正明 北沢恵子・林　智子・吉沢幸子・佐久間京子
新潟	日本曹達・二本木	宮沢　高嶺	遠藤紀和・横山　敬・増村富夫・板垣金男・和田　清・宮沢高嶺
富山	不二越	川上　洋一	永原昌雄・池田政規・川上洋一・畑　栄進・入川修一
	高岡市役所	中山　邦夫	河村博之・今泉　勉・関村順治・牧野光男・宮林照男・京田和男・中山邦夫
	十條製紙・伏木		大野幸雄・堺　三徳
	吉田工業	島崎　精治	西島宏昭・土井　勉・西野敏宣・山口年二・古竹公三・佐藤　清 島利津子・隻本外美子
石川	津田駒工業		堂谷内均・安江　勉
	倉庫精錬・西金沢		東　茂樹・中田吉昭
福井	福井銀行	立田　昭二	高木敏明・梶谷採人・府岡　弘・笠川俊教・水上誠二 岡崎幸子・稲木秀子・角谷俊子・島田真澄・西村光代
	福井県庁		畑　忠雄
静岡	日本自動変速機		山崎和之・松山博雄
	小糸製作所		日下部敏弘・岡村敏雄
	富士フイルム・富士宮	川原崎　仁	滝　正孝・井出裕雄・西島知彦・川原崎仁・仲沢　豊
	本州製紙・富士	町田　守正	石川真澄・鳴　忠[illegible]・[illegible]・[illegible]・

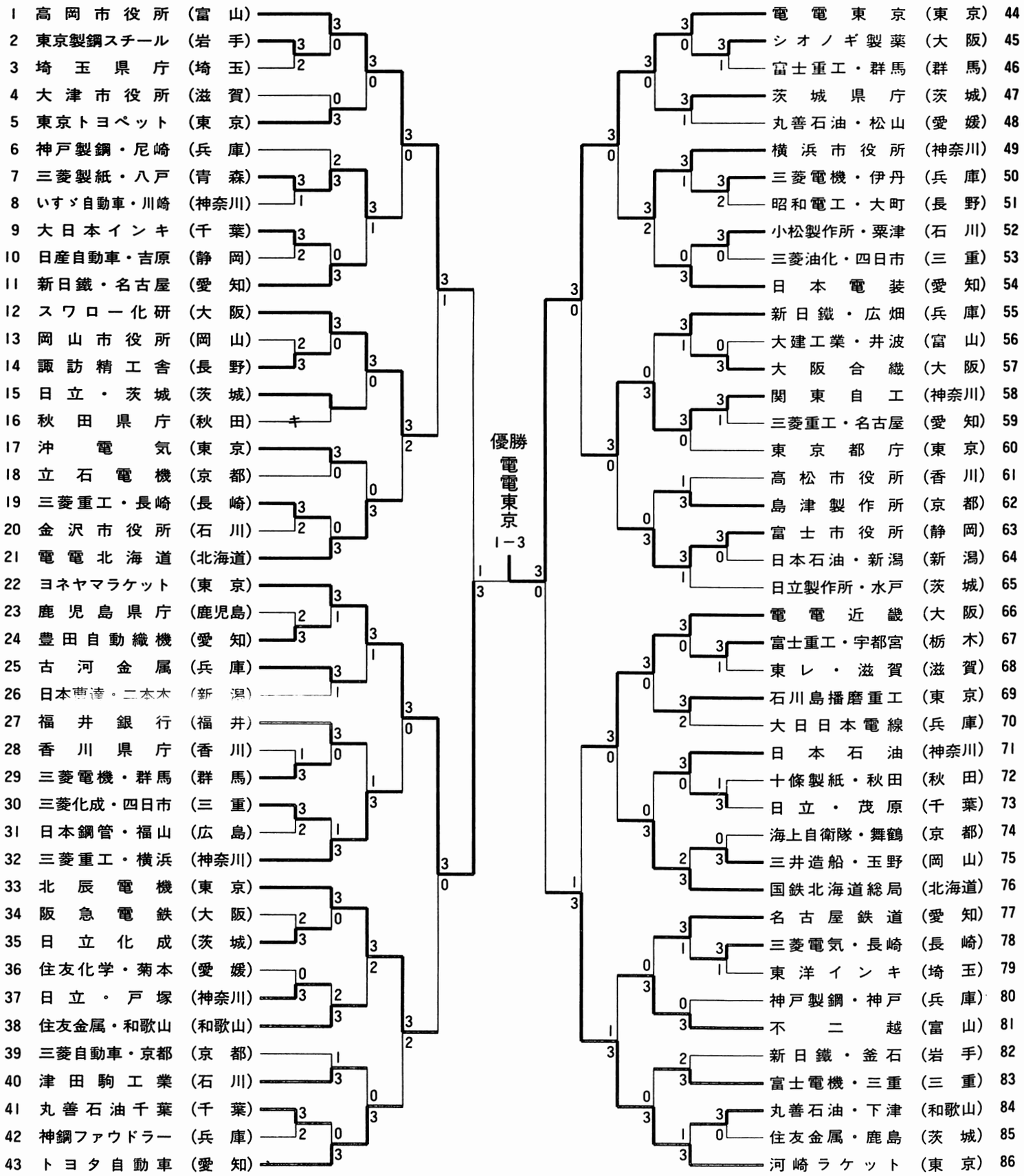
県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
愛知	日本電装	遠藤　長生	杉山　修・荒井和夫・森川律夫・城　保彦・時田恵美子・山崎恵子・田中雅子・林　慶子 西山恵美子・竹野信子
	トヨタ自動車	小宮　好雄	本間順次・牛島秀雄・松島　保・東浦秀二・松島信之・松井宏司・板垣善憲・橋本香代 紅谷島子・村田絹子・池田静江・宮内すみ子
三重	三菱化成・四日市	増井　孝夫	増井孝夫・小林　悟・吉原　洋・小林信幸・高木宗夫・伊藤正己
	三菱電機・三重	安藤　勲	安藤　勲・山口　香・後藤俊彦・下田　勲・木下　豊・古沢正博・桜井弘美
	三菱油化・四日市	古川　幸一	服部英樹・北村　保・大倉　忠・安良城雄介・鈴木正平・後藤幸孝・木村英男
滋賀	日本ＩＢＭ	富田　健一	富田健一・小原径一・石原誠・小内　茂
	大津市役所	久保　宏	釜屋明和・西原四郎・山田杉男・田中正民
岐阜	加藤鉄工	加藤　幸正	田中伸治・早川秀一・太田典之・野村博克・伊佐治　修
	岐阜県庁	中島　勝彦	中島勝彦・大野　寛・所　晃・青木靖宏・浅野人美・日比正昭
京都	舞鶴商事	紀田　文男	紀田文男・谷口房治・新宮信男・久代貫三郎
	堀場製作所	永井　博	永井　博・鈴鹿周正・野口修一・稲口秀春・山野内幸雄・吉田夏紀
	海上自衛隊・舞鶴	田野　栄敏	瀬野俊策・白井規久夫・川村道厚・白井幸夫・田野博之・鈴木敏郎・田良純一
	島津製作所	和田　正高	上田　勉・奥田俊次・和田正高・若林　登・久田高義・長岡喜久男
	国立舞鶴病院		池部勝美・中村　守
	三菱自工・京都	福井　達雄	石津正明・福井達雄・高宮梵之助・掛水一男・堤　義三・奥野　保・中尾政実 山下三枝子・飯田栄子・薗　美恵子・小林フサ子・岡崎繁子
大阪	阪急電鉄	岡田　栄	木目嘉崇・葭　孝久・野沢明雄・渋谷元己・市橋　茂・西野　進
	松下ラジオ	道弘　晴一	宮里重信・宮崎庄一・山口　博・岡　国臣・相馬英次
	シオノギ製薬	本摩　恒利	北川忠雄・片山照明・本山一郎・妹尾健史・三津山重徳・西原義孝
	電電近畿	三木　喬 木谷　正美	竹原　茂・岩田　勇・小野健二・滝野公一・山本繁幸・竹内　真・西川繁美 柿本房子・久保田嘉代・餌取貴美子・佐古与史子・小泉澄江・吉田千恵子
	スワロー化研工業	遠藤　和男	遠藤和男・鷲尾正一・山口一男・斉藤雅伸・林　辰夫 大塚芳子・内山妙子・宮川美子・山田順子・佐次澄子
兵庫	住友金属工業製鋼所	松岡　秀臣	横江清治・内田俊輔・田辺修一・梅木　彰・小谷百合子・山田育代・西村央子
	川崎重工・神戸	加藤　昌洋	井田寿幸・山本嘉一・岡本正和・福永英隆・大森　茂・加藤昌洋・松本克久
	神戸製鋼・尼崎	鍋田　賢一	友金利一・小泉淳一・田中　至・浜野　孝・来田正雄・伊藤　俊・松尾啓史・竜円栄治
	新日鐵・広畑	平方　進	堤田富大・長谷川幸弘・武　広二・塩飽初・水川九洋・平松重吉・大森忠尚・塗　嘉夫
	三菱電機・神戸		尾崎雅信・大平和三・伊藤利朗・小林忠信
	三菱重工・高砂		八木　隆
	大日日本電線・尼崎	吉田　昇	豚座一利・佐野義則・狩集　功・大野憲一・川瀬清一・吉田　昇・渡辺浩一・石割慶四郎 和田美津子・川口雄紀子・林　香住・堀川美知子・山口登茂子・森本千鶴代・黒木智子
	三菱電機・伊丹	古高　郁夫 荻野　一夫	大田照雄・千原弘毅・古高郁夫・川相　隆・上藤朝之・矢賀雅人 福永久式子・柴山さよ子・高崎弘子・大場照美・尼崎初子・牧野睦美
	住友金属鋼管	井内　利治	桂岡和子・鍵田晴美・平井幸子・村上幸子・井内利治
和歌山	丸善石油・下津	尾崎　成雄	山下延行・中道敬三・林　保雄・箕造富章・志場　周・楠戸春則・穂谷真弘
	住友金属・和歌山	吉田健次郎	川村桂司・辻　満彦・岡　忠成・辻本　進・堀　佳子・生熊照子・二河祥子・佐々木セツ子 湯川泰子
鳥取	国鉄・後藤	井原平八郎	浅井　譲・佐々木義政・井原平八郎・松永恭昌
岡山	三井造船・玉野	虻江　優	金田　孝・田丸勝己・上野輝治・芳上一男・藤原　航・万代芳郎・松井　一・石原良雄 明珍　勝・西村　喬・虻江　優・高松森之助
	岡山市役所	岡本　武利	小松　貴・藤井英雄・今東幸一・崎本明雄・時末　務・水川捨夫・岡本武利
広島	日本鋼管・福山	曽根　光夫	平松　茂・梶原純二・前田　巧・伊藤健一・田上義夫・田口吉昭・福谷武人
	三菱レーヨン・大崎		田谷　勝
山口	宇部興産	山県　保夫	末広秀樹・河添忠夫・石川好夫・坂本賢二・山県保夫
	山陽国策パルプ	林　厚志	宮岡康臣・林　厚志・末岡通典・渡辺敏夫・吉田鉄夫・下村　進・辻中公人

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
香川	高松市役所	横岡　忠幸	阿部正信・岡崎和良・横岡忠幸・田中真一・野口利幸・納田末広・谷本庄一
	香川県庁	河合　　親	真鍋　剛・野須博文・弾生原義春・樫塚勝美・山尾健一
	高松琴平電鉄	香西　　章	井上るり子・薗浦考子・田所静子・石原英子・大矢根靖子
	百十四銀行	柴田　力男	小西幸代・森　清美・川東秀美・村本玲子・安藤清子・石井マリ子・高国千鶴子
愛媛	住友化学・菊本	篠原　利光	片上逸志・三苫孝一・秋山英明・守谷喜久雄・藤田健治・矢野　晃・千葉重信・越智勤也
	丸善石油・松山	浜中　　誠	藤田峯斉・白石卓夫・永井龍夫・小泉敏幸・竹内洋雅・浜中　誠・松本信夫
	クラレ・西条	横井　虎男	横井虎男・谷口金夫
高知	四国銀行	都築　正明	都築正明・島本隆永・田中裕三・前田　俊・谷脇リエ・小松恵子
長崎	三菱重工・長崎造船所	喜多　昭夫	中野和雄・田中貞夫・山口信行・辻　優・一の瀬　通・末吉宏次・岩永文隆・柿本彰子
	大村市役所		中島泰二
	三菱電機・長崎	栄　　信重	江口忠道・長松保男・小林正明・山口正博・古田　司・栄　信重・江原　澄
鹿児島	鹿児島県庁	目原　克彦	前薗俊哉・有藤義久・牧元秀保・藤本　滋・目原克彦・橋口るり・植之原市子・山本真由美 中原久美子
	三井串木野鉱山	目原　克彦	厚ヶ瀬秋義

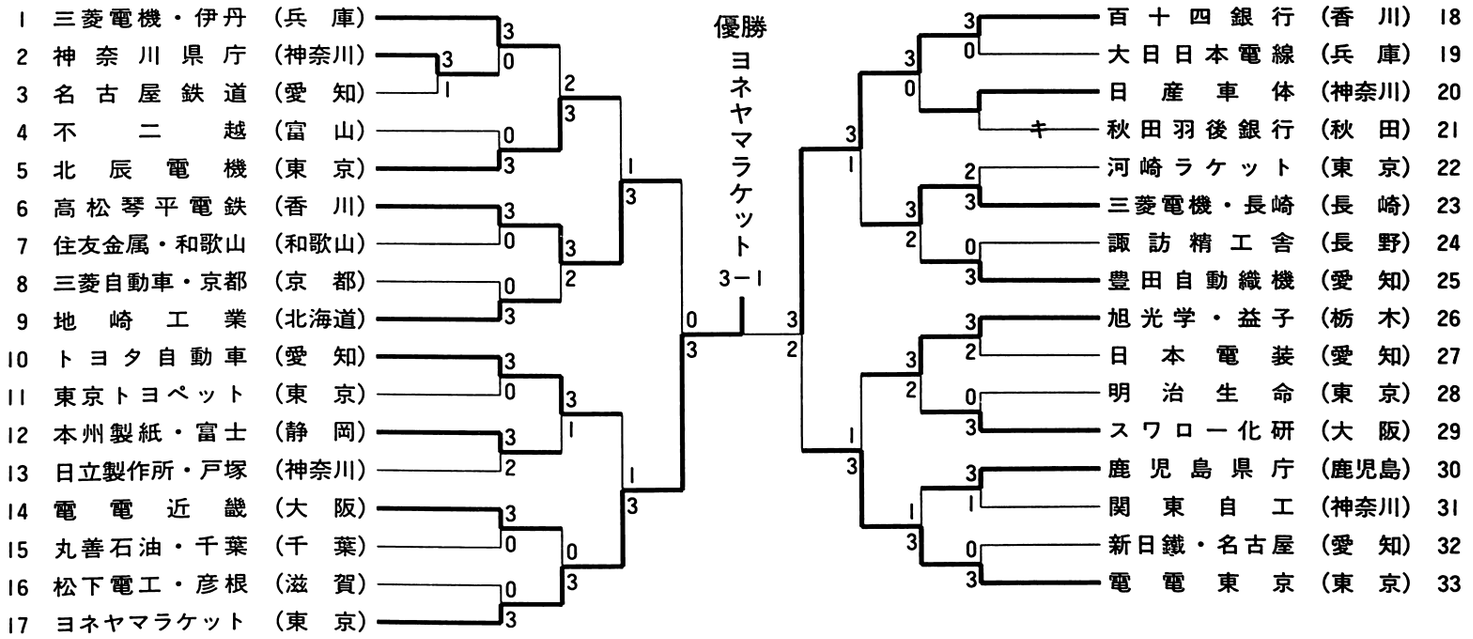
第23回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1973年(昭和48年)7月8～13日
開 催 地：茨城県石岡市
会　　場：茨城県石岡市立石岡小学校体育館
茨城県立石岡第二高等学校体育館
茨城県立石岡第一高等学校体育館

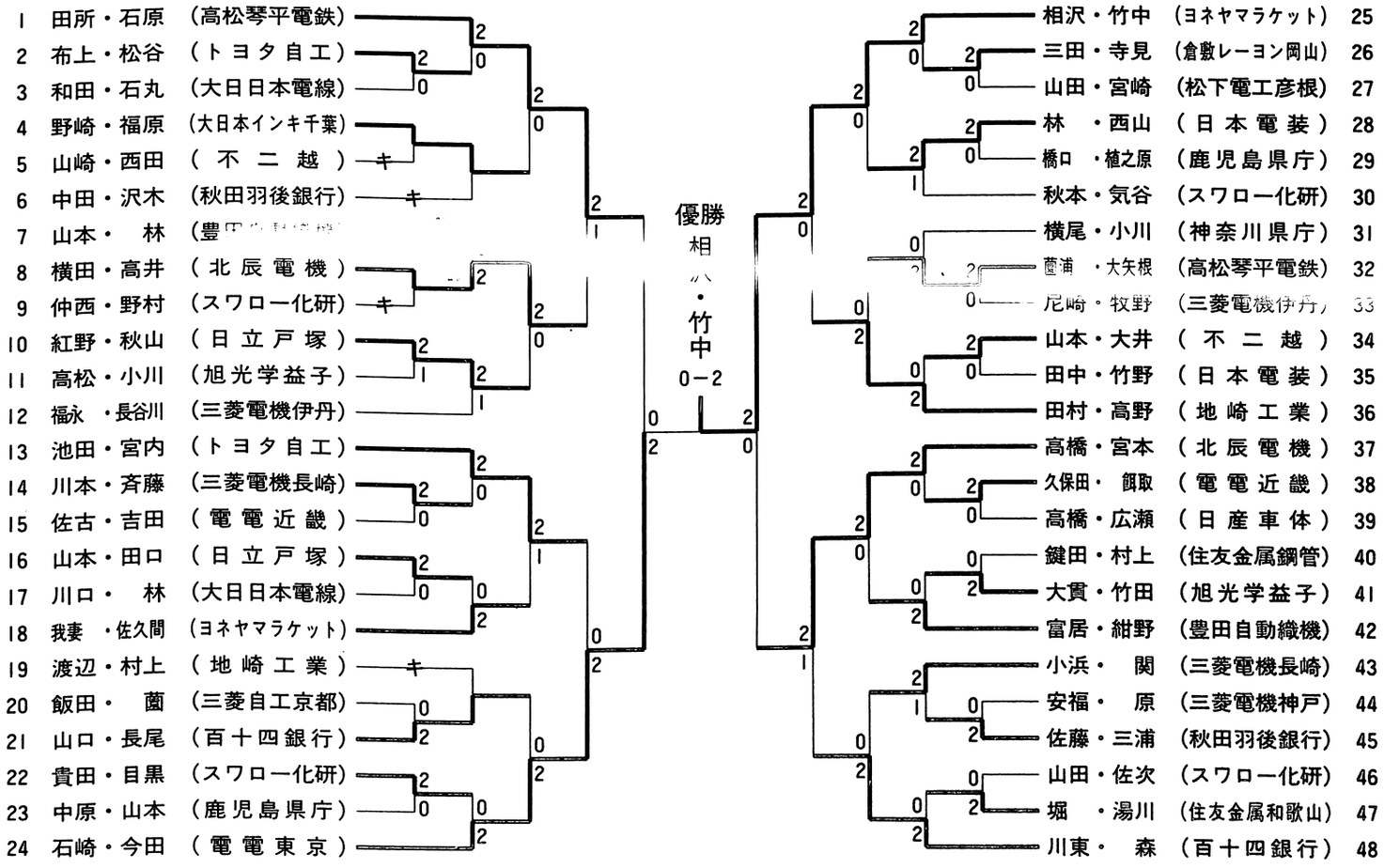
■男子団体の部



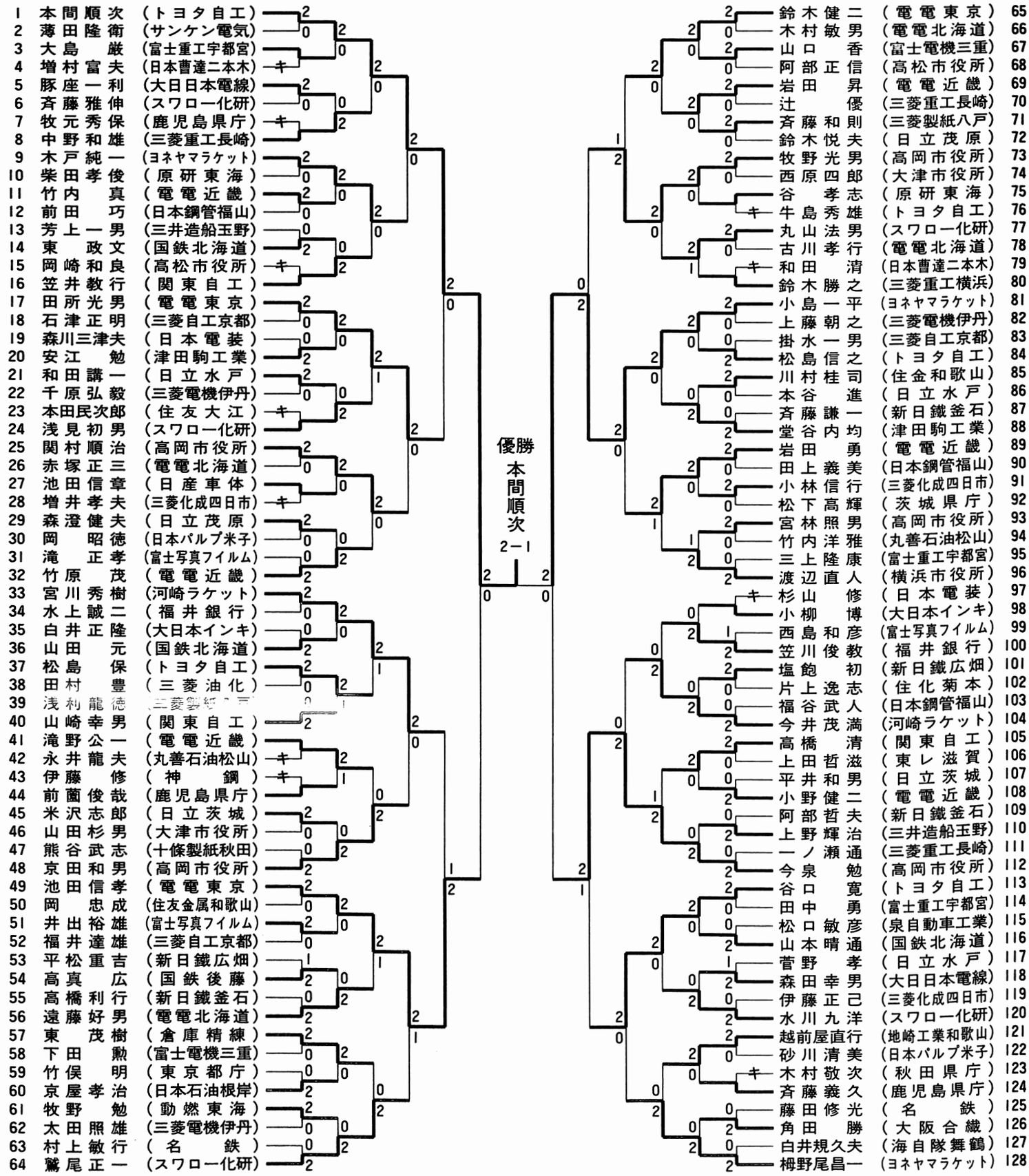
■女子団体の部



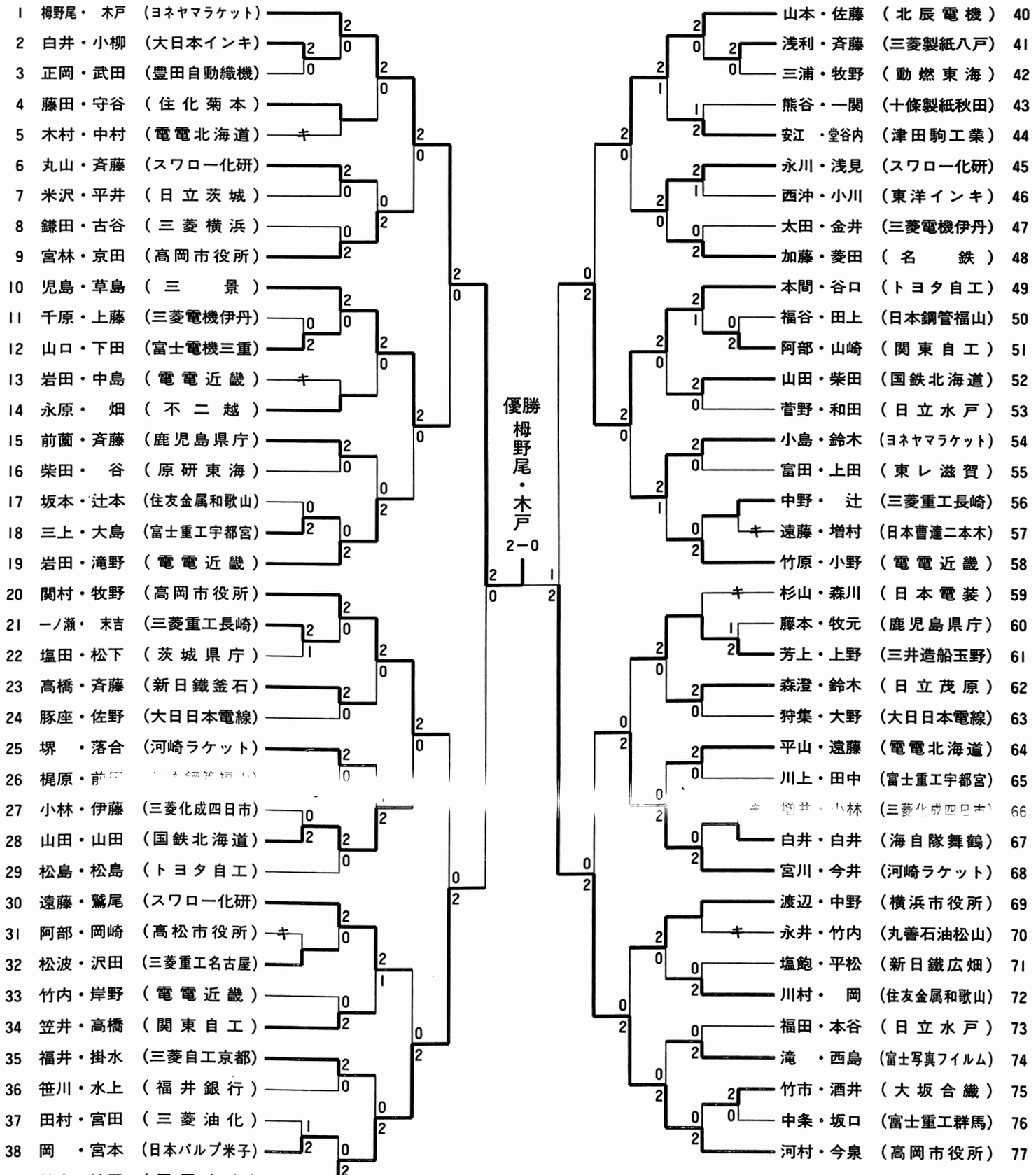
■女子複の部



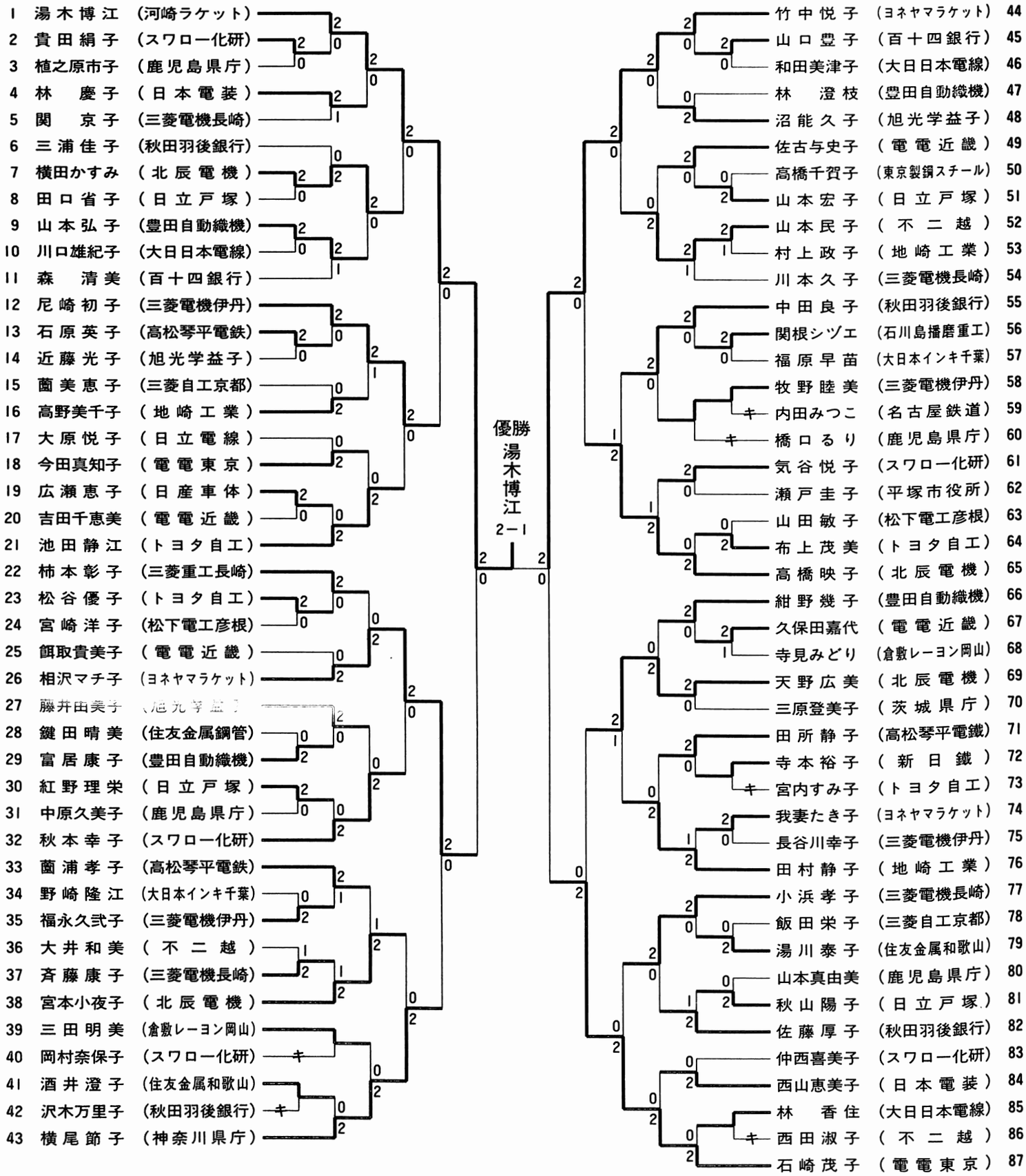
■男子単の部


1 本間順次 (トヨタ自工)
2 薄田隆衛 (サンケン電気)
3 大島 巌 (富士重工宇都宮)
4 増村富夫 (日本曹達二本木)
5 豚座一利 (大日日本電線)
6 斉藤雅伸 (スワロー化研)
7 牧元秀保 (鹿児島県庁)
8 中野和雄 (三菱重工長崎)
9 木戸純一 (ヨネヤマラケット)
10 柴田孝俊 (原研東海)
11 竹内 真 (電電近畿)
12 前田 巧 (日本鋼管福山)
13 芳上一男 (三井造船玉野)
14 東 政文 (国鉄北海道)
15 岡崎和良 (高松市役所)
16 笠井教行 (関東自工)
17 田所光男 (電電東京)
18 石津正明 (三菱自工京都)
19 森川三津夫 (日本電装)
20 安江 勉 (津田駒工業)
21 和田講一 (日立水戸)
22 千原弘毅 (三菱電機伊丹)
23 本田民次郎 (住友大江)
24 浅見初男 (スワロー化研)
25 関村順治 (高岡市役所)
26 赤塚正三 (電電北海道)
27 池田信章 (日産車体)
28 増井孝夫 (三菱化成四日市)
29 森澄健夫 (日立茂原)
30 岡 昭徳 (日本パルプ米子)
31 滝 正孝 (富士写真フイルム)
32 竹原 茂 (電電近畿)
33 宮川秀樹 (河崎ラケット)
34 水上誠二 (福井銀行)
35 白井正隆 (大日本インキ)
36 山田 元 (国鉄北海道)
37 松島 保 (トヨタ自工)
38 田村 豊 (三菱油化)
39 浅利龍徳 (三菱製紙八戸)
40 山崎幸男 (関東自工)
41 滝野公一 (電電近畿)
42 永井龍夫 (丸善石油松山)
43 伊藤 修 (神鋼)
44 前薗俊哉 (鹿児島県庁)
45 米沢志郎 (日立茨城)
46 山田杉男 (大津市役所)
47 熊谷武志 (十條製紙秋田)
48 京田和男 (高岡市役所)
49 池田信孝 (電電東京)
50 岡 忠成 (住友金属和歌山)
51 井出裕雄 (富士写真フイルム)
52 福井達雄 (三菱自工京都)
53 平松重吉 (新日鐵広畑)
54 高真 広 (国鉄後藤)
55 高橋利行 (新日鐵釜石)
56 遠藤好男 (電電北海道)
57 東 茂樹 (倉庫精練)
58 下田 勲 (富士電機三重)
59 竹俣 明 (東京都庁)
60 京屋孝治 (日本石油根岸)
61 牧野 勉 (動燃東海)
62 太田照雄 (三菱電機伊丹)
63 村上敏行 (名鉄)
64 鷲尾正一 (スワロー化研)
優勝
本間順次
2−1
65 鈴木健二 (電電東京)
66 木村敏男 (電電北海道)
67 山口 香 (富士電機三重)
68 阿部正信 (高松市役所)
69 岩田 昇 (電電近畿)
70 辻 優 (三菱重工長崎)
71 斉藤和則 (三菱製紙八戸)
72 鈴木悦夫 (日立茂原)
73 牧野光男 (高岡市役所)
74 西原郎志 (大津市役所)
75 谷 孝志 (原研東海)
76 牛島秀雄 (トヨタ自工)
77 丸山法男 (スワロー化研)
78 古川孝行 (電電北海道)
79 和田清 (日本曹達二本木)
80 鈴木勝之 (三菱重工横浜)
81 小島一平 (ヨネヤマラケット)
82 上藤朝之 (三菱電機伊丹)
83 掛水一男 (三菱自工京都)
84 松島信之 (トヨタ自工)
85 川村桂司 (住金和歌山)
86 本谷進 (日立水戸)
87 斉藤謙一 (新日鐵釜石)
88 堂内均 (津田駒工業)
89 岩田勇 (電電近畿)
90 田上義美 (日本鋼管福山)
91 小林信行 (三菱化成四日市)
92 松下輝男 (茨城県庁)
93 宮林高照 (高岡市役所)
94 竹内洋雅 (丸善石油松山)
95 三上隆康 (富士重工宇都宮)
96 渡辺直人 (横浜市役所)
97 杉山修 (日本電装)
98 小柳博 (大日本インキ)
99 西島和彦 (富士写真フイルム)
100 笠川俊教 (福井銀行)
101 塩飽初志 (新日鐵広畑)
102 片上逸人 (住化菊本)
103 福谷武志 (日本鋼管福山)
104 今井茂満 (河崎ラケット)
105 高橋清 (関東自工)
106 上田哲滋 (東レ滋賀)
107 平井和男 (日立茨城)
108 小野健二 (電電近畿)
109 阿部哲夫 (新日鐵釜石)
110 上野輝治 (三井造船玉野)
111 一ノ瀬通 (三菱重工長崎)
112 今泉勉 (高岡市役所)
113 谷口寛 (トヨタ自工)
114 田中勇 (富士重工宇都宮)
115 松口敏彦 (泉自動車工業)
116 山本晴通 (国鉄北海道)
117 菅野孝 (日立水戸)
118 森田幸男 (大日日本電線)
119 伊藤正己 (三菱化成四日市)
120 水川九洋 (スワロー化研)
121 越前屋直行 (地崎工業和歌山)
122 砂川清美 (日本パルプ米子)
123 木村敬次 (秋田県庁)
124 斉藤義久 (鹿児島県庁)
125 藤田修光 (名鉄)
126 角田勝 (大阪合繊)
127 白井規久夫 (海自隊舞鶴)
128 栂野尾昌一 (ヨネヤマラケット)

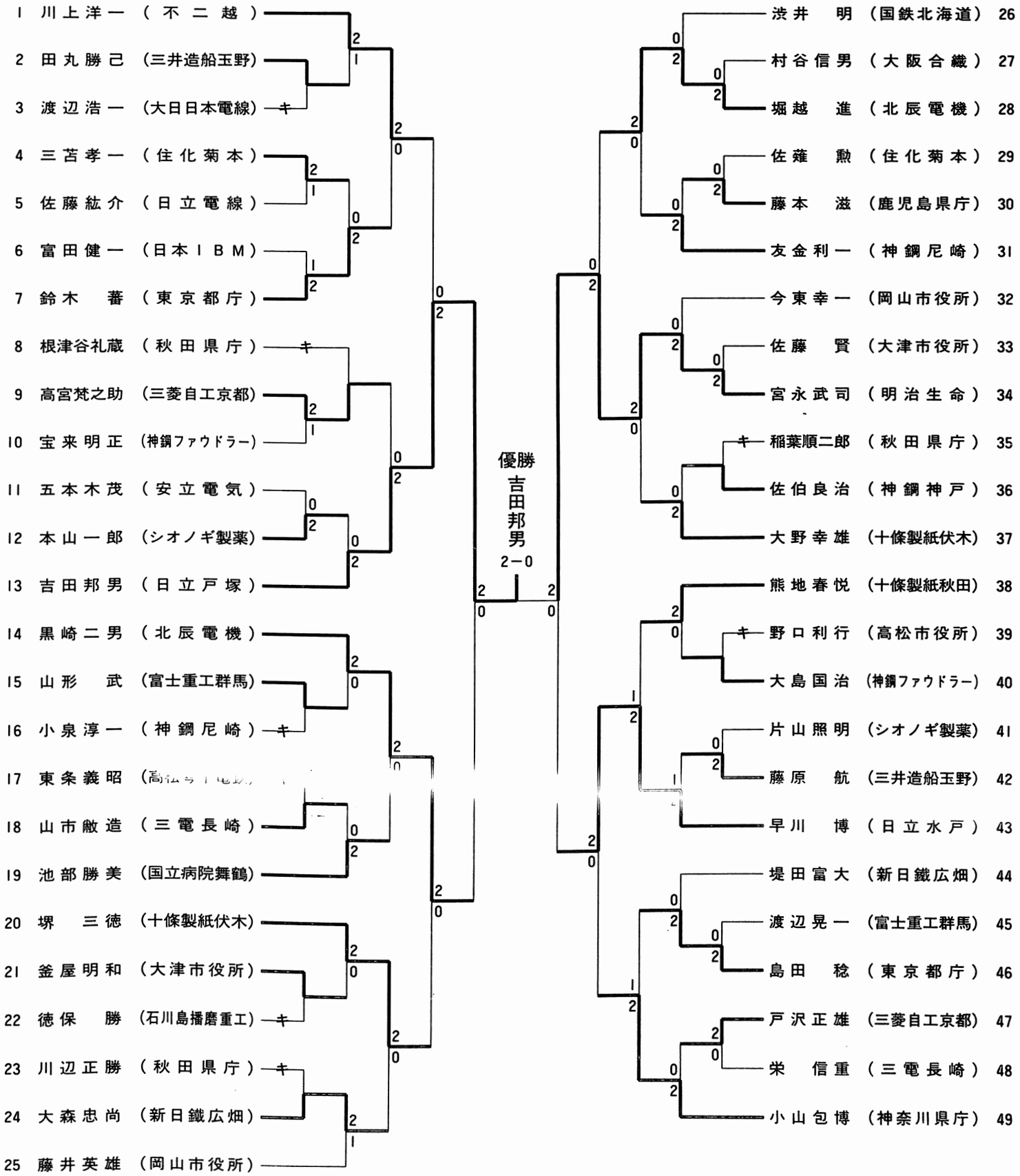
■男子複の部


1 梶野尾・ 木戸 (ヨネヤマラケット)
2 白井・小柳 (大日本インキ)
3 正岡・武田 (豊田自動織機)
4 藤田・守谷 (住 化 菊 本)
5 木村・中村 (電電北海道)
6 丸山・斉藤 (スワロー化研)
7 米沢・平井 (日 立 茨 城)
8 鎌田・古谷 (三 菱 横 浜)
9 宮林・京田 (高岡市役所)
10 児島・草島 (三 景)
11 千原・上藤 (三菱電機伊丹)
12 山口・下田 (富士電機三重)
13 岩田・中島 (電 電 近 畿)
14 永原・ 畑 (不 二 越)
15 前薗・斉藤 (鹿児島県庁)
16 柴田・ 谷 (原 研 東 海)
17 坂本・辻本 (住友金属和歌山)
18 三上・大島 (富士重工宇都宮)
19 岩田・滝野 (電 電 近 畿)
20 関村・牧野 (高岡市役所)
21 一ノ瀬・ 末吉 (三菱重工長崎)
22 塩田・松下 (茨 城 県 庁)
23 高橋・斉藤 (新日鐵釜石)
24 豚座・佐野 (大日日本電線)
25 堺 ・落合 (河崎ラケット)
26 梶原・前田 [illegible]
27 小林・伊藤 (三菱化成四日市)
28 山田・山田 (国鉄北海道)
29 松島・松島 (トヨタ自工)
30 遠藤・鷲尾 (スワロー化研)
31 阿部・岡崎 (高松市役所)
32 松波・沢田 (三菱重工名古屋)
33 竹内・岸野 (電 電 近 畿)
34 笠井・高橋 (関 東 自 工)
35 福井・掛水 (三菱自工京都)
36 笹川・水上 (福 井 銀 行)
37 田村・宮田 (三 菱 油 化)
38 岡 ・宮本 (日本パルプ米子)
39 鈴木・池田 (電 電 東 京)
優勝
梶野尾・木戸
2−0
40 山本・佐藤 (北 辰 電 機)
41 浅利・斉藤 (三菱製紙八戸)
42 三浦・牧野 (動 燃 東 海)
43 熊谷・一関 (十條製紙秋田)
44 安江 ・堂谷内 (津田駒工業)
45 永川・浅見 (スワロー化研)
46 西沖・小川 (東洋インキ)
47 太田・金井 (三菱電機伊丹)
48 加藤・菱田 (名 鉄)
49 本間・谷口 (トヨタ自工)
50 福谷・田上 (日本鋼管福山)
51 阿部・山崎 (関 東 自 工)
52 山田・柴田 (国鉄北海道)
53 菅野・和田 (日 立 水 戸)
54 小島・鈴木 (ヨネヤマラケット)
55 富田・上田 (東 レ 滋 賀)
56 中野・ 辻 (三菱重工長崎)
57 遠藤・増村 (日本曹達二本木)
58 竹原・小野 (電 電 近 畿)
59 杉山・森川 (日 本 電 装)
60 藤本・牧元 (鹿児島県庁)
61 芳上・上野 (三井造船玉野)
62 森澄・鈴木 (日 立 茂 原)
63 狩集・大野 (大日日本電線)
64 平山・遠藤 (電電北海道)
65 川上・田中 (富士重工宇都宮)
66 [illegible] (三菱化成四日市)
67 白井・白井 (海自隊舞鶴)
68 宮川・今井 (河崎ラケット)
69 渡辺・中野 (横浜市役所)
70 永井・竹内 (丸善石油松山)
71 塩飽・平松 (新日鐵広畑)
72 川村・ 岡 (住友金属和歌山)
73 福田・本谷 (日 立 水 戸)
74 滝 ・西島 (富士写真フイルム)
75 竹市・酒井 (大 坂 合 繊)
76 中条・坂口 (富士重工群馬)
77 河村・今泉 (高岡市役所)

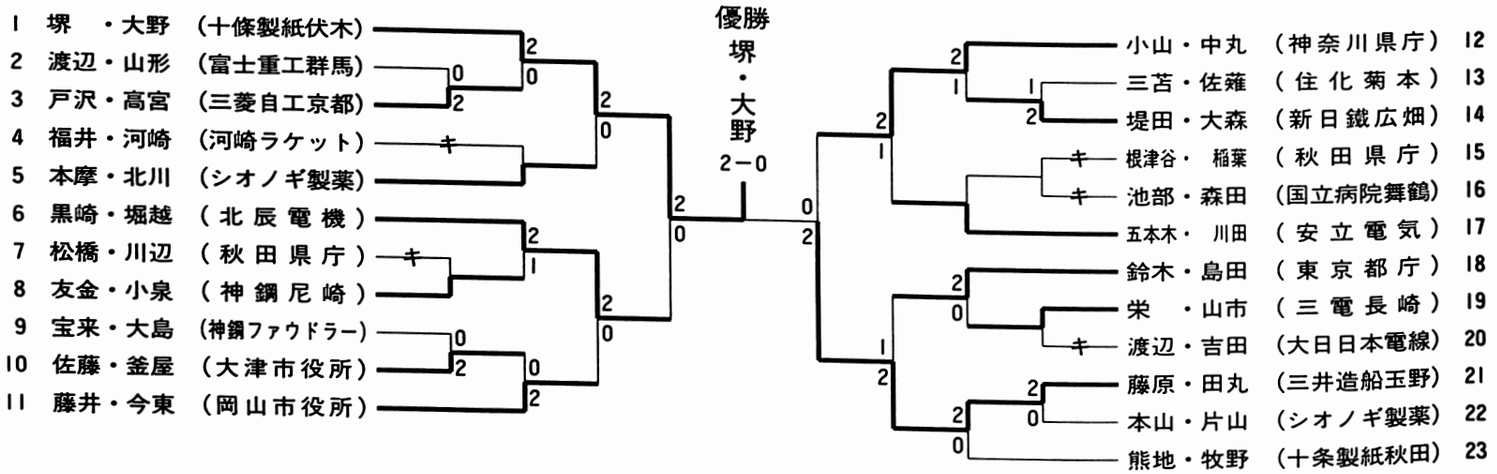
■女子単の部


1 湯木博江 (河崎ラケット)
2 貴田絹子 (スワロー化研)
3 植之原市子 (鹿児島県庁)
4 林 慶子 (日本電装)
5 関 京子 (三菱電機長崎)
6 三浦佳子 (秋田羽後銀行)
7 横田かすみ (北辰電機)
8 田口省子 (日立戸塚)
9 山本弘子 (豊田自動織機)
10 川口雄紀子 (大日日本電線)
11 森 清美 (百十四銀行)
12 尼崎初子 (三菱電機伊丹)
13 石原英子 (高松琴平電鉄)
14 近藤光子 (旭光学益子)
15 薗美恵子 (三菱自工京都)
16 高野美千子 (地崎工業)
17 大原悦子 (日立電線)
18 今田真知子 (電電東京)
19 広瀬恵子 (日産車体)
20 吉田千恵美 (電電近畿)
21 池田静江 (トヨタ自工)
22 柿本彰子 (三菱重工長崎)
23 松谷優子 (トヨタ自工)
24 宮崎洋子 (松下電工彦根)
25 餌取貴美子 (電電近畿)
26 相沢マチ子 (ヨネヤマラケット)
27 藤井由美子 (旭光学益子)
28 鍵田晴美 (住友金属鋼管)
29 富居康子 (豊田自動織機)
30 紅野理栄 (日立戸塚)
31 中原久美子 (鹿児島県庁)
32 秋本幸子 (スワロー化研)
33 薗浦孝子 (高松琴平電鉄)
34 野崎隆江 (大日本インキ千葉)
35 福永久弐子 (三菱電機伊丹)
36 大井和美 (不二越)
37 斉藤康子 (三菱電機長崎)
38 宮本小夜子 (北辰電機)
39 三田明美 (倉敷レーヨン岡山)
40 岡村奈保子 (スワロー化研)
41 酒井澄子 (住友金属和歌山)
42 沢木万里子 (秋田羽後銀行)
43 横尾節子 (神奈川県庁)
優勝
湯木博江
2－1
44 竹中悦子 (ヨネヤマラケット)
45 山口豊子 (百十四銀行)
46 和田美津子 (大日日本電線)
47 林 澄枝 (豊田自動織機)
48 沼能久子 (旭光学益子)
49 佐古与史子 (電電近畿)
50 高橋千賀子 (東京製鋼スチール)
51 山本宏子 (日立戸塚)
52 山本民子 (不二越)
53 村上政子 (地崎工業)
54 川本久子 (三菱電機長崎)
55 中田良子 (秋田羽後銀行)
56 関根シヅエ (石川島播磨重工)
57 福原早苗 (大日本インキ千葉)
58 牧野睦美 (三菱電機伊丹)
59 内田みつこ (名古屋鉄道)
60 橋口るり (鹿児島県庁)
61 気谷悦子 (スワロー化研)
62 瀬戸圭子 (平塚市役所)
63 山田敏子 (松下電工彦根)
64 布上茂美 (トヨタ自工)
65 高橋映子 (北辰電機)
66 紺野幾子 (豊田自動織機)
67 久保田嘉代 (電電近畿)
68 寺見みどり (倉敷レーヨン岡山)
69 天野広美 (北辰電機)
70 三原登美子 (茨城県庁)
71 田所静子 (高松琴平電鉄)
72 寺本裕子 (新日鐵)
73 宮内すみ子 (トヨタ自工)
74 我妻たき子 (ヨネヤマラケット)
75 長谷川幸子 (三菱電機伊丹)
76 田村静子 (地崎工業)
77 小浜孝子 (三菱電機長崎)
78 飯田栄子 (三菱自工京都)
79 湯川泰子 (住友金属和歌山)
80 山本真由美 (鹿児島県庁)
81 秋山陽子 (日立戸塚)
82 佐藤厚子 (秋田羽後銀行)
83 仲西喜美子 (スワロー化研)
84 西山恵美子 (日本電装)
85 林 香住 (大日日本電線)
86 西田淑子 (不二越)
87 石崎茂子 (電電東京)

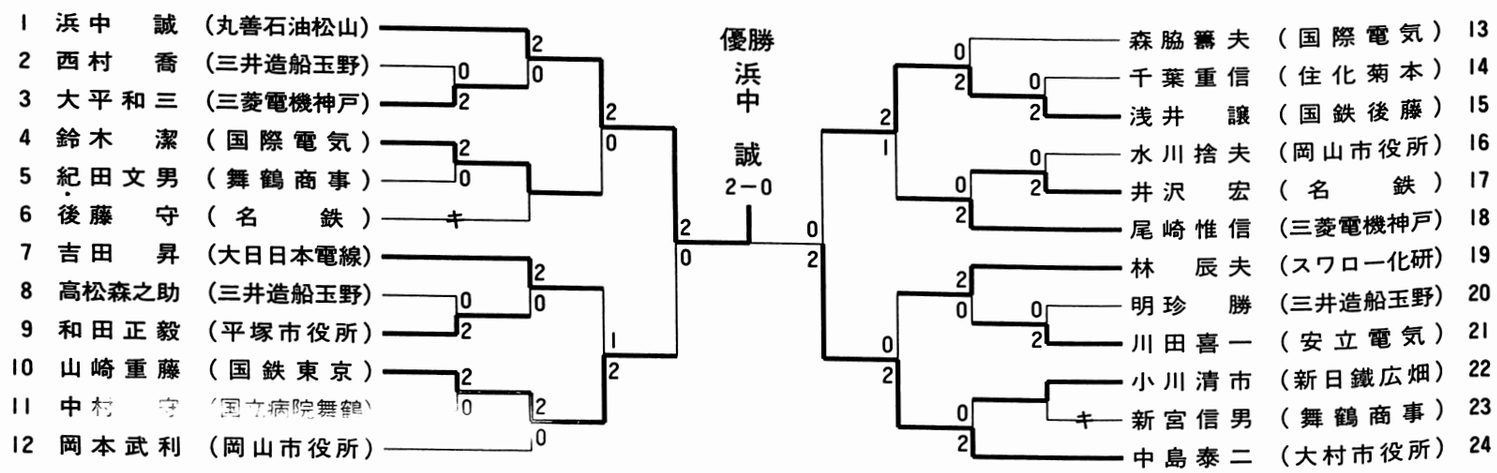
■30歳以上単の部


1 川上洋一（不二越）
2 田丸勝己（三井造船玉野）
3 渡辺浩一（大日日本電線）
4 三苫孝一（住化菊本）
5 佐藤紘介（日立電線）
6 富田健一（日本IBM）
7 鈴木 蕃（東京都庁）
8 根津谷礼蔵（秋田県庁）
9 高宮梵之助（三菱自工京都）
10 宝来明正（神鋼ファウドラー）
11 五本木茂（安立電気）
12 本山一郎（シオノギ製薬）
13 吉田邦男（日立戸塚）
14 黒崎二男（北辰電機）
15 山形 武（富士重工群馬）
16 小泉淳一（神鋼尼崎）
17 東条義昭（高松与一電設）
18 山市敞造（三電長崎）
19 池部勝美（国立病院舞鶴）
20 堺 三徳（十條製紙伏木）
21 釜屋明和（大津市役所）
22 徳保 勝（石川島播磨重工）
23 川辺正勝（秋田県庁）
24 大森忠尚（新日鐵広畑）
25 藤井英雄（岡山市役所）
優勝
吉田邦男
2−0
渋井 明（国鉄北海道） 26
村谷信男（大阪合織） 27
堀越 進（北辰電機） 28
佐薙 勲（住化菊本） 29
藤本 滋（鹿児島県庁） 30
友金利一（神鋼尼崎） 31
今東幸一（岡山市役所） 32
佐藤 賢（大津市役所） 33
宮永武司（明治生命） 34
稲葉順二郎（秋田県庁） 35
佐伯良治（神鋼神戸） 36
大野幸雄（十條製紙伏木） 37
熊地春悦（十條製紙秋田） 38
野口利行（高松市役所） 39
大島国治（神鋼ファウドラー） 40
片山照明（シオノギ製薬） 41
藤原 航（三井造船玉野） 42
早川 博（日立水戸） 43
堤田富大（新日鐵広畑） 44
渡辺晃一（富士重工群馬） 45
島田 稔（東京都庁） 46
戸沢正雄（三菱自工京都） 47
栄 信重（三電長崎） 48
小山包博（神奈川県庁） 49

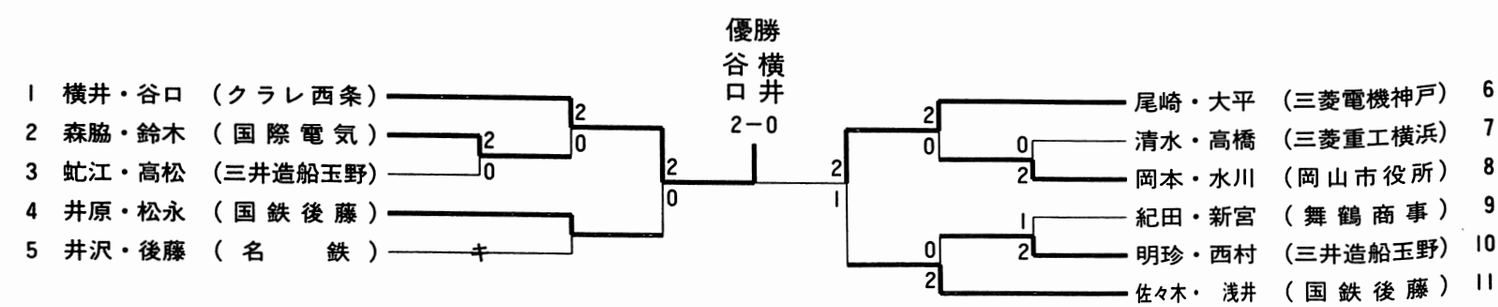
■30歳以上複の部



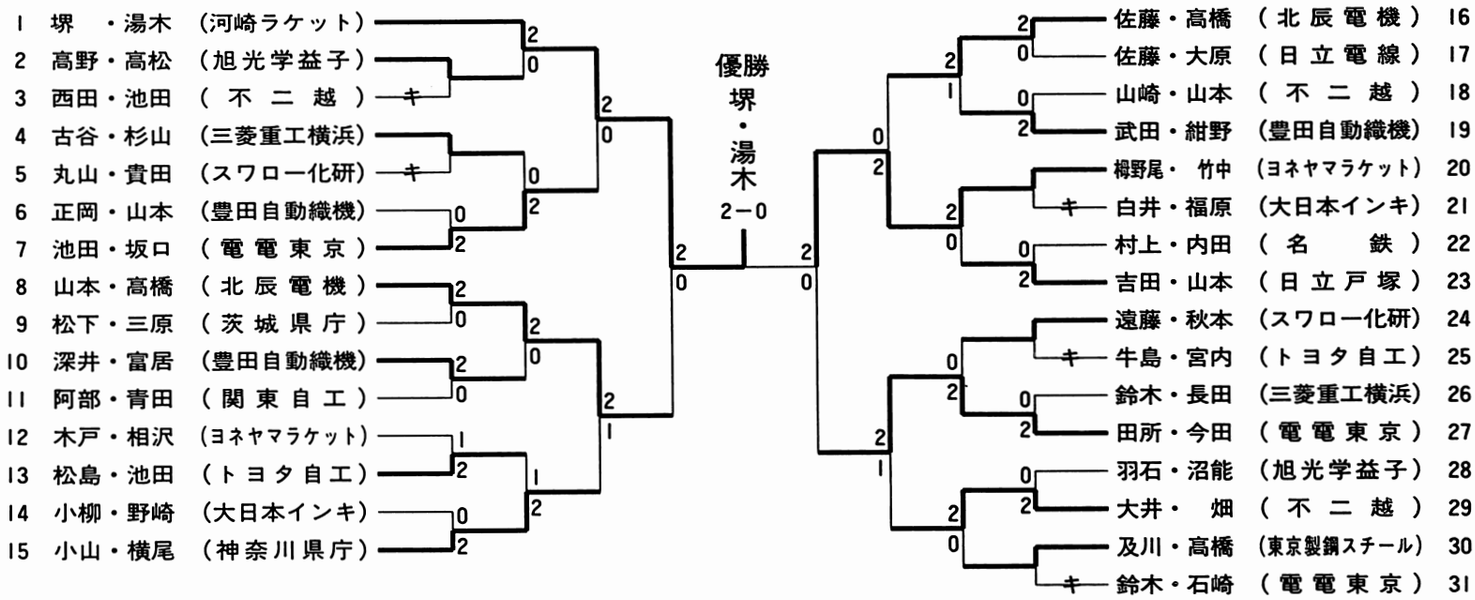
■40歳以上単の部



■40歳以上複の部



■混合複の部



(名簿続き)

県名	事業所名	監督名	選手名
香川	高松琴平電鉄	東条 義昭	東条義昭・薗浦孝子・田所静子・石原英子・大矢根靖子
	香川県庁	真鍋 剛	真鍋 剛・野須博文・弾生原義春・岡田忠己・山尾健一・木村光二・柳原泰夫
	高松市役所	横岡 忠幸	阿部正信・岡崎和良・横岡忠幸・田中真一・野口利幸
	百十四銀行	柴田 力男	川東秀美・森 清美・安藤清子・石井マリ子・山内房子・長尾弥生・山口豊子
愛媛	住友化学・菊本	篠原 利九	[illegible]・千葉重信・秋山英明・藤田健治・守谷善久雄
	丸善石油・松山	浜中 譲	藤田峯斉・竹内洋雅・永井龍夫・田中政剛・浜中 誠
	住友化学・大江		本田民次郎
	クラレ・西条		横井虎男・谷口金夫
長崎	三菱電機・長崎	栄 信重	小林正昭・長松保男・山口正博・川久保暢宏・古田 司・栄 信重・山市敏造 小浜孝子・関 京子・川本久子・斉藤康子・伊藤幸子
	三菱重工・長崎造船所	喜多 昭夫	田中貞夫・中野和雄 辻 優・一ノ瀬 通・末吉宏次・馬場重文・岩水文隆・柿本彰子
	大村市役所		中島泰二
鹿児島	鹿児島県庁	牧元 秀保	前薗俊哉・斉藤義久・牧元秀保・藤本 滋・目原克彦・春松忠男 橋口るり・植之原市子・中原久美子・山本真由美

■出場選手名簿

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	電電北海道	伊勢　武	木村敏男・山口克志・中村徳光・赤塚正三・平山三城・古川孝行・遠藤好男
	国鉄北海道総局	渋井　明	東　政文・山田　元・山田好明・柴田賢治・山本晴通・柴田　充・山田　篤・渋井　明
	地崎工業	岩崎　昭郎	田村静子・高野美千子・村上政子・渡辺加代子・児玉都子・宮越美智子
青森	三菱製紙・八戸	平安　敏一	浅利龍徳・斉藤和則・伊藤英文・田畑裕康・兼平正俊
岩手	新日鐵・釜石	本多　三郎	高橋道夫・斉藤謙一・高橋利行・熊谷　徹・金子正一・阿部哲夫・菅原又男
	東京鉄鋼スチールコード	伊藤　裕	及川雅義・菊地　敏・伊藤　裕・笠神貞治・佐々木勇雄・高橋千賀子
秋田	秋田県庁	高橋　吾郎	松橋　裕・川辺正勝・根津谷礼蔵・稲葉順二郎・木村敬次
	十條製紙・秋田	熊地　春悦	熊地春悦・牧野慶博・熊谷武志・一関敏伸
	羽後銀行	細谷　昭次	中田良子・鎌田道子・佐藤厚子・三浦佳子・沢木万里子
茨城	茨城県庁	杉原　一男	塩田章夫・松下高輝・柄沢利行・栗原一美・三原登美子
	日立化成	中束　三嘉	大塚富士夫・上石田常治・中束三嘉・水野　裕・千葉善夫・樋渡幸雄・鈴木宗和
	日立電線	深堀　敏夫	佐藤紘介・大原悦子
	住金金属・鹿島	江藤　伸	伴　順造・斉藤　勇・島林総蔵・岩堀久男・江藤　伸
	三菱油化中央研究所	横山　桂	田村　豊・宮田啓一
	日立製作所・水戸	小原　守司	早川　博・福田喜代志・本谷　進・菅野　孝・和田講一
	日立・茨城	越智　重夫	越智重夫・山田陽三・武藤信次・米沢志郎・平井和男
	原研・東海村		柴田孝俊・谷　孝志
	動燃・東海村		牧野　勉・三浦　満
栃木	旭光学・益子	羽石　武士	大貫　緑・藤井由美子・竹田チイ子・近藤光子・沼能久子・小川幸子・高松良子・羽石武士 高野久雄
	富士重工・宇都宮	永山　隆	三上隆康・川上岩雄・田中　勇・大島　巌・高橋　保・星　正行・菅谷博光
群馬	富士重工・群馬	渡辺　晃一	渡辺晃一・山形　武・中条俊雄・高田　修・坂口隆夫・青木芳明
	三菱電機・群馬	茂木　正弘	栗原　弘・千田泰男・茂木正弘・高橋勝美・小沢永一・金山利夫・米田　守
埼玉	埼玉県庁	吉成　素彦	黒須　栄・村井　直・井口　敏・宮崎　茂・内川雅博・久保田宇作・永田喜雄
	東洋インキ	西沖　晃	小川浩一・原　幸一・西沖　晃・村上　正・青木哲郎・片淵博明・今野道雄
	サンケン電気	竹田　建夫	薄田隆衛
	泉自動車工業		松口敏彦
東京	電電東京	鈴木　幸春	鈴木健二・池田信孝・町田秀和・小林一行・田所光夫・浜谷安裕・田児淳一 石崎茂子・小笠原泰子・今田真知子・坂口千恵子
	河崎ラケット	堺　栄一	落合孝之・平井克英・堺　栄一・今井茂満・宮川秀樹・佐々木寿男・角田重男・福井正康 河崎一幸・湯木博江・峰岸ひろ美・鈴木華子
	沖電気	佐藤彦次郎	佐藤邦男・鈴木清一・山本博司・池田秀美・岡部　正・板垣健二・田口政行
	東京都庁	佐藤　和夫	鈴木　蕃・島田　稔・竹俣　明・岩上昭一・大原政義・藤本　彰
	石川島播磨重工業	高橋　護	浅井良伸・村田俊夫・徳保　勝・岩城　勲・塚本明男・鼓　輝明・前沢哲雄・関根シズ江
	明治生命	宮永　武司	宮永武司・木庭三千子・荒井典子・高橋和子・青木美預子・荻野明子・佐藤歌子
	国鉄・東京	増田　稔	山崎重藤
	安立電気	五本木　茂	五本木茂・川田喜一
	東京トヨペット	飯牟礼俊英	入間秀哲・涌井保夫・茂呂文男・高岡伸幸・梅村光秀 菊地　恵・中村裕子・新楽のり子・尾熊幸子・岡島信子
	三景		児島　昇・草島正治
	国際電気		森脇等夫・鈴木　潔
	北辰電機	千葉　健司	佐藤信夫・山本洋彦・中山広明・里崎二男・堀越　進・平年政治・明間隆三 横田かすみ・天野広美・高橋美江・高橋映子・宮本小夜子・高井春美
	ヨネヤマラケット	小島　一平 竹中　悦子	小島一平・栂野尾昌一・木戸純一・鈴木正造・米山　勇・菅原　薫・千葉忠夫 竹中悦子・相沢マチ子・我妻たき子・佐久間雅子・大江京子・岩淵順子

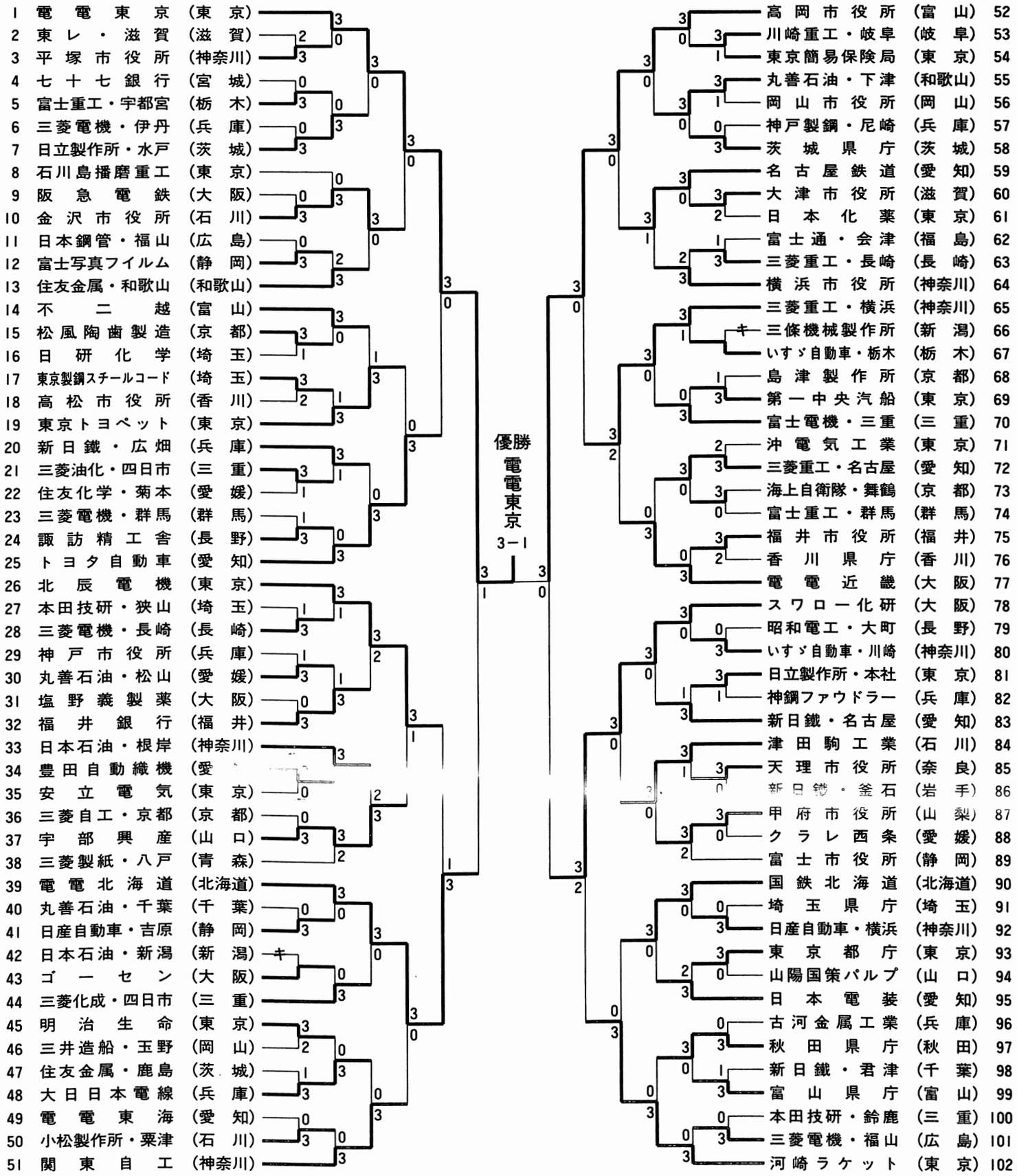
県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
千　葉	丸善石油・千葉	西尾　元祐	幸野邦昭・伊藤富男・西尾元佑・南村嘉男・相沢喜久男・本間　実・滝本和大 鈴木澄枝・今関香代子・斉藤千代子・酒井美代子
	大日本インキ	白井　正隆	白井正隆・小柳　博・北見恵一・根本昌幸・野崎隆江・福原早苗
	日立・茂原	高久　重剛	田中　晃・鈴木悦夫・森澄健夫・赤坂喜一・竹田孝彦・高久重剛・亀田年邦
神奈川	神奈川県庁	中丸　靖元	小山包博・中丸靖元・横尾節子・建部佳代・桝尾幸子・矢野柳子・小萩沢英子・小川恵子
	新日鐵・製品技研	山口　正弘	寺本裕子
	横浜市役所	安藤　　保	松本利喜夫・宍戸安治・渡辺直人・広木俊一・本田順治・本田一義・中野孝司
	平塚市役所	和田　正毅	和田正毅・瀬戸圭子
	いすゞ自動車川崎	田中　正誼	高橋幸治郎・波　博義・久保田昌元・末須清一・増山泰男・神　越武
	関東自工	味八木士郎 池田　昌弘	浅見　勇・阿部　誠・山崎幸男・笠井教行・高橋　清・渡辺英二・干場弘己 青田勢津子・吉川節子・大木さよ子・菱沼正美
	三菱重工・横浜	清水　　武	鎌田　哲・古谷陽一・鈴木勝之・岸　賢司・倉田豊三郎・高橋保則・加藤哲夫・高橋秀夫 清水　武・長田千恵子・杉山紀代美
	日立・戸塚	清水　清一	吉田邦男・甘粕完治・宮田幸雄・北村敏明・平内　進・長谷川雅範・田口省子・山本宏子 秋山陽子・紅野理栄
	日本石油	京屋　孝治	泉　信夫・佐藤幸男・斉藤　満・京屋孝治・平田正己・佐々木登・石津富夫
	日産車体	佐草　純谷	池田信章・高橋ひろみ・広瀬恵子・渡辺玉江・豊留葉子・杉山圭子
長　野	諏訪精工舎	千野　統雄	福永保人・塩川敏行・大和昭雄・千野統雄・里見良三・原田　豊・小野嘉一 永井すみ子・林　美智子・北沢恵子・林　智子・吉沢幸子
	昭和電工・大町	崎口　儀重	鹿内孝一・矢口正人・関口儀重・間島利雄・那須義博・小林英彦・栗林慶次
新　潟	日本曹達・二本木	宮沢　高嶺	遠藤紀和・横山　敬・板垣金男・増村富夫・和田　清
	日石・新潟	川谷　貞夫	臼木春男・佐藤正喜・太田正信・笠原敏男・割田良夫・中村秀夫・津金　茂
富　山	高岡市役所	中山　邦夫	河村博之・今泉　勉・関村順治・牧野光男・宮林照男・京田和男・中山邦夫
	十條製紙・伏木	堺　　三徳	堺　三徳・大野幸雄
	不二越	永原　昌雄	永原昌雄・川上洋一・畑　栄進・山崎　功・池田政規 山崎睦子・山本民子・大井和美・西田淑子・寺井清美
	大建工業・井波	林　　昭男	林　昭男・吉見昭夫・中田幸礼・山田幸雄・中村龍臣・蔦　尚孝・松井正次
石　川	津田駒工業	安井　　勉	安井　勉・堂谷内均・山本秀夫・竹鼻達夫・西念　勉
	倉庫精錬		東　茂樹
	金沢市役所	泉　　光男	泉　光男・太田博之・米田幸生・山下敏行・林　芳広
	小松製作所・粟津	坂[illegible]	[illegible]川順[illegible]・北　秀樹・滝根　進・東海　裕・原　明広
福　井	福井銀行	梶谷　将人	梶谷将人・松浦信幸・笠川俊[illegible]
静　岡	富士市役所	影山　隆亮	平野孝雄・笠井憲一・菅沼友明・笠井好美
	日産自動車・吉原	山下　秀和	酒井俊一・平野哲司・大石勝信・後藤隆弘・山本秀和
	富士写真フイルム	滝　　正孝	井出裕雄・滝　正孝・西島和彦
	本州製紙・富士	町田　守正	永田節子・石川真澄・鳴　恵子・鈴木あつ子・加藤悦子・森野秀子・渡辺正子
愛　知	新日鐵・名古屋	山本　卓男 油井　秀男	千葉和義・金谷義雄・山本卓男・奥野哲次・奥野省三・菅井　孝・仲内定一 加藤直枝・菅原九二子・中野明美・山本はるみ・内山正枝・杉山敬子
	名古屋鉄道	井沢　　宏	村上敏行・加藤保利・伊村　隆・後藤　守・井沢　宏・菱田修光 内田みつこ・堀　正子・宝力京子・迫田真由美
	トヨタ自動車	小宮　好雄	本間順次・牛島秀雄・谷口　寛・松島　保・松島信之・松井宏司・南田義正 池田静江・宮内すみ子・布上松谷・松谷優子
	三菱重工・名古屋	吉川　円一	松波　譲・沢田正夫・加藤聖和・泉　新治・中橋友行・小倉和幸・青山忠雄

県名	事業所名	監督名	選手名
愛知	日本電装	杉山　修 田中　雅子	森川三津夫・荒井和夫・杉山　修・城　保彦・竹田勝彦 林　慶子・西山恵美子・竹野信子・田中雅子・榊原文子
	豊田自動織機	深井　忠男	正岡洋三・武田正雄・山口清春・深井忠男・瀬戸口良次・榊原輝次・富居康子・紺野幾子 山本弘子・林　澄枝
三重	富士電機・三重	安藤　勲	安藤　勲・山口　香・下田　勲・服部広美・後藤俊彦・木下　豊・古沢正博
	三菱化成・四日市	増井　孝夫	増井孝夫・小林　悟・小林信行・伊藤正己・吉原　洋・高木崇夫
	三菱油化・四日市	古川　幸一	古川幸一・北村　保・大倉　忠・安良城雄介・鈴木正平・後藤幸孝
滋賀	大津市役所	久保　宏	佐藤　賢・釜屋明和・西原四郎・田中正民・山田杉男・松井弥寿男
	松下電工・彦根	谷　和男	若杉文子・山田敏子・宮崎洋子・松居輝子・真山多美子・杉田明美
	日本ＩＢＭ	富田　健一	富田健一
	東レ・滋賀	山中　保一	富田茂久・上田哲滋・野村邦夫・古川孝典・山中保一
京都	国病舞鶴	森田　俊明	池部勝美・森田俊明・中村　守
	三菱自工・京都	戸沢　正雄	福井達雄・掛水一男・戸沢正雄・高宮梵之助・石津正明・玉田高行・富永和重 飯田栄子・薗　美恵子・原　典子・鬼頭尊子
	立石電機	本多　大海	辻　道緒・佐藤武人・池内雅博・本多大海・石田昌弘・岸本修一・小柳俊三
	海上自衛隊・舞鶴	田野　栄敏	瀬野俊策・白井規久夫・白井幸夫・川村道厚・田野栄敏・田野博之
	島津製作所	和田　正高	上田　勉・長岡喜久男・中山義光・藤江正則・和田正高・甲良洋一・若林　登
	舞鶴商事	紀田　文男	紀田文男・新宮信男
大阪	大阪合繊	村谷　信男	竹市良雄・酒井　薫・村谷信男・角田　勝
	シオノギ製薬	本摩　恒利	本摩恒利・北川忠雄・片山照明・本山一郎・妹尾健史・三津山重徳・西原義孝
	電電近畿	三木　喬 木谷　正美	竹原　茂・岩田　勇・小野健二・滝野公一・岩田　昇・中島真一・竹内　真・岸野圭司 久保田嘉代・餌取貴美子・佐古与史子・吉田千恵子
	阪急電鉄	岡田　栄	葭　孝久・野沢明雄・渋谷元己・西野　進・市橋　茂
	スワロー化研工業	林　辰夫	遠藤和男・鷲尾正一・水川九洋・斉藤雅伸・丸山法男・浅見初男・林　辰夫 貴田絹子・秋本幸子・気谷悦子・仲西喜美代・野村奈保子・佐次澄子・目黒江里子・山田順子
兵庫	新日鐵・広畑	堤田　富大	塗　嘉夫・大森忠尚・長谷川幸弘・塩飽　初・平松重吉・小川清市・堤田富大
	大日日本電線	吉田　昇	豚座一利・佐野義則・狩集　功・大野憲一・森田幸男・山本健吾・小瀬清一・渡辺浩一 吉田　昇・和田美津子・川口雄紀子・林　香住・石丸真理子・加藤聖子
	神戸製鋼・尼崎	[illegible]	佐伯良治・植松虎雄・岡本五郎・矢口重夫・伊藤　修
	ファウドラー	宝来　明正	大島国沼・小林敏晴・宝来明正・千葉達夫・柴田建一・鍬田敏晴・神谷　衛
	神戸製鋼・尼崎	鍋田　賢一	浜野　孝・友金利一・小泉淳一・田中　至・来田正雄・田中紀久・森田昌彦
	住友金属鋼管	小田　清二	鍵田晴美・村上幸子
	三菱電機・伊丹	山田　直也 荻野　一夫	今井秀一・太田照雄・千原弘毅・上藤朝之・矢賀雅人・川相　隆 尼崎初子・牧野睦美・福永久式子・長谷川幸子
	古河金属工業	山口　真	粟　守・椎屋三年・上田政充・平岡敬司・角田正直・丸山和行・山口　真
	三菱電機・神戸	尾崎　惟信	尾崎惟信・大平和三・安福妙子・原美由紀
和歌山	住友金属・和歌山	吉田健次郎	川村桂司・坂本　拡・辻　満彦・岡　忠成・辻本　進 堀　佳子・湯川泰子・生熊照子・酒井澄子
	丸善石油・下津	林　保雄	山下延行・志場　周・穂谷真弘・楠戸春則・和久谷富章・上野健一・前田益孝
	地崎工業・和歌山	広野　栄一	越前屋直行
鳥取	日本パルプ・米子		岡　昭徳・砂川清美
	国鉄・後藤		高真　広・井原平八郎・松永恭昌・佐々木義政・浅井　譲
岡山	三井造船・玉野	虻江　優	藤原　航・田丸勝己・上野輝治・芳上一男・万代芳郎・松井　一・明珍　勝・西村　喬 虻江　優・高松森之助
	岡山市役所	岡本　武利	小松　貴・藤井英雄・今東幸一・崎本明雄・時末　務・岡本武利・水川捨夫
	倉敷レーヨン・岡山		三田明美・寺見みど里
広島	日本鋼管・福山	多田　稔和	多田稔和・梶原純二・前田　巧・伊藤健一・田上義夫・福谷武人・田上義美

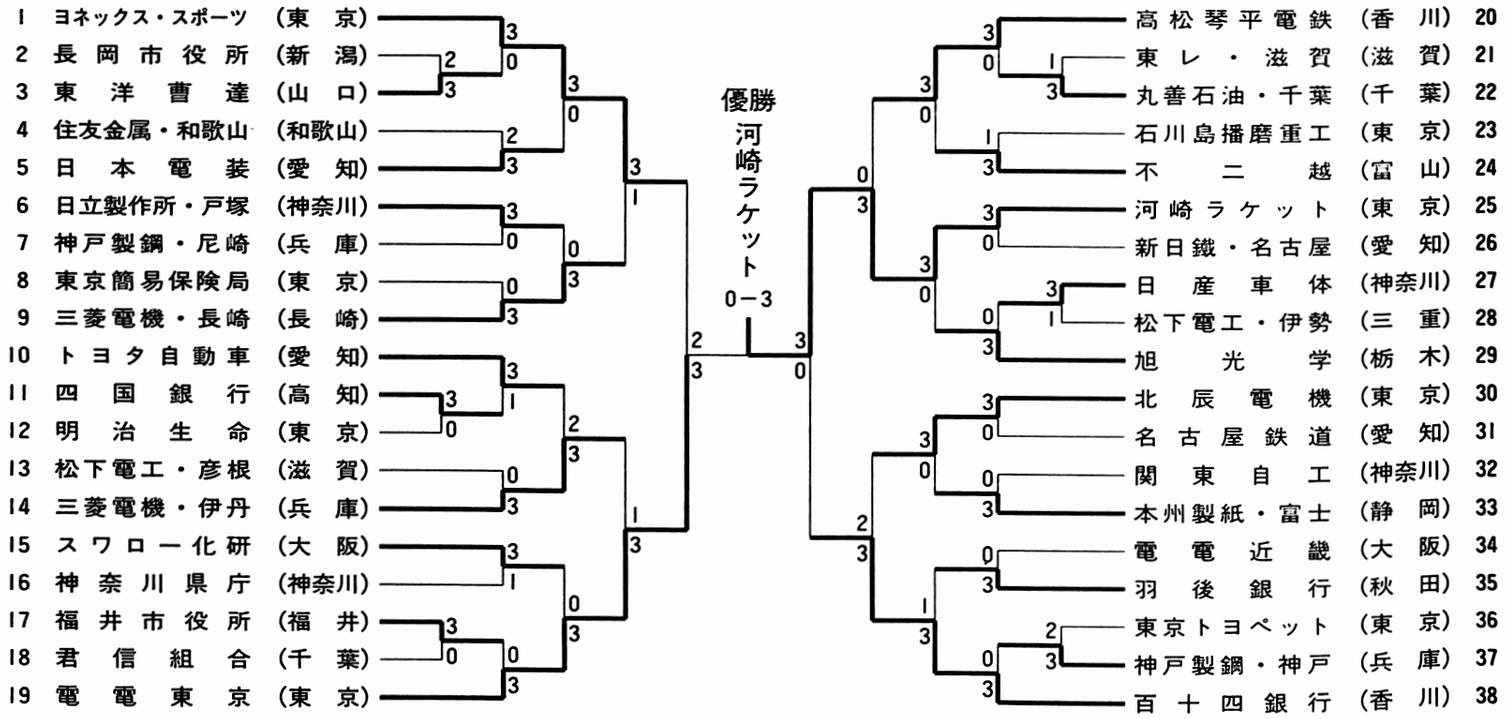
第24回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1974年(昭和49年)6月25～30日
開 催 地：三重県松坂市
会　　場：三重県立松坂高等学校体育館
三重県立松坂工業高等学校体育館
三重県松坂市立殿町中学校体育館
三重県松坂中部中学校体育館

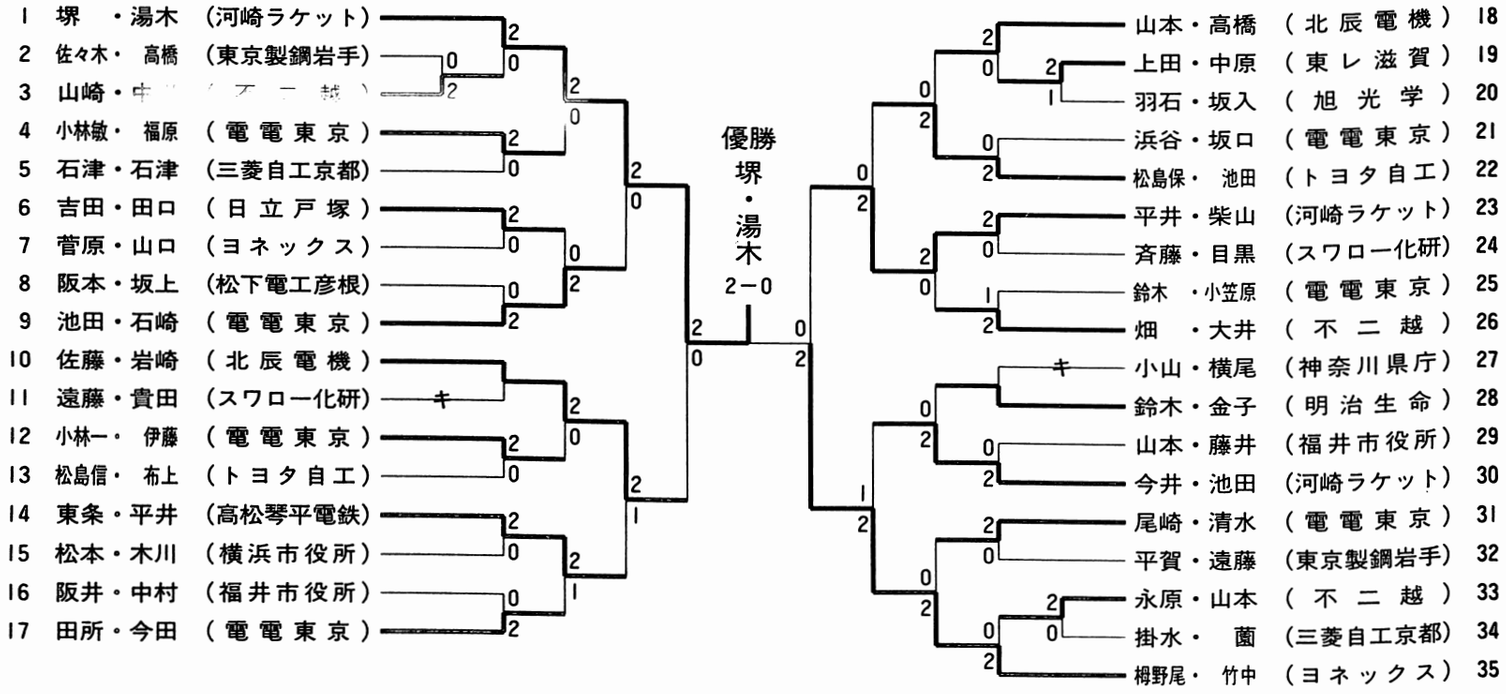
■男子団体の部



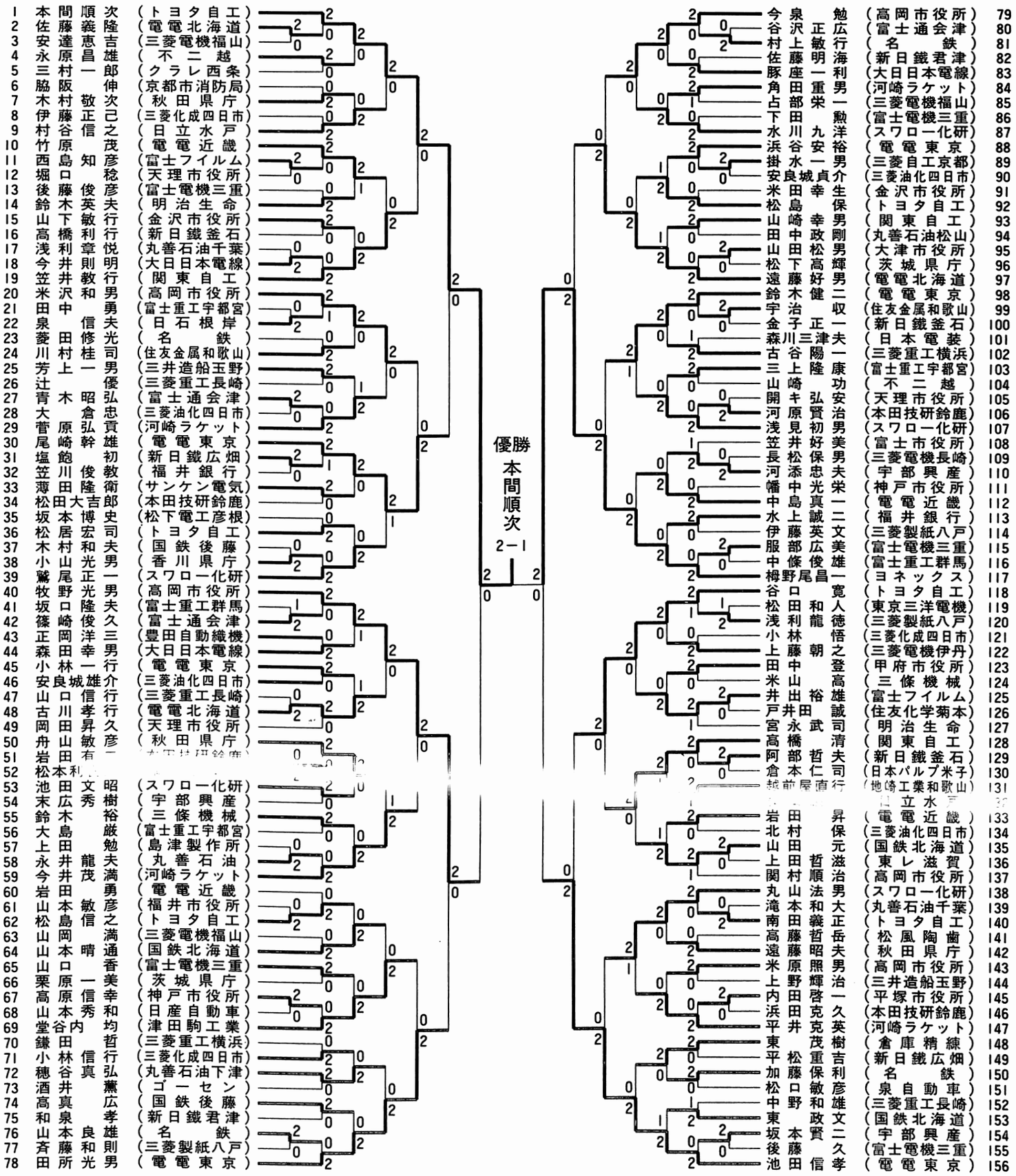
■女子団体の部



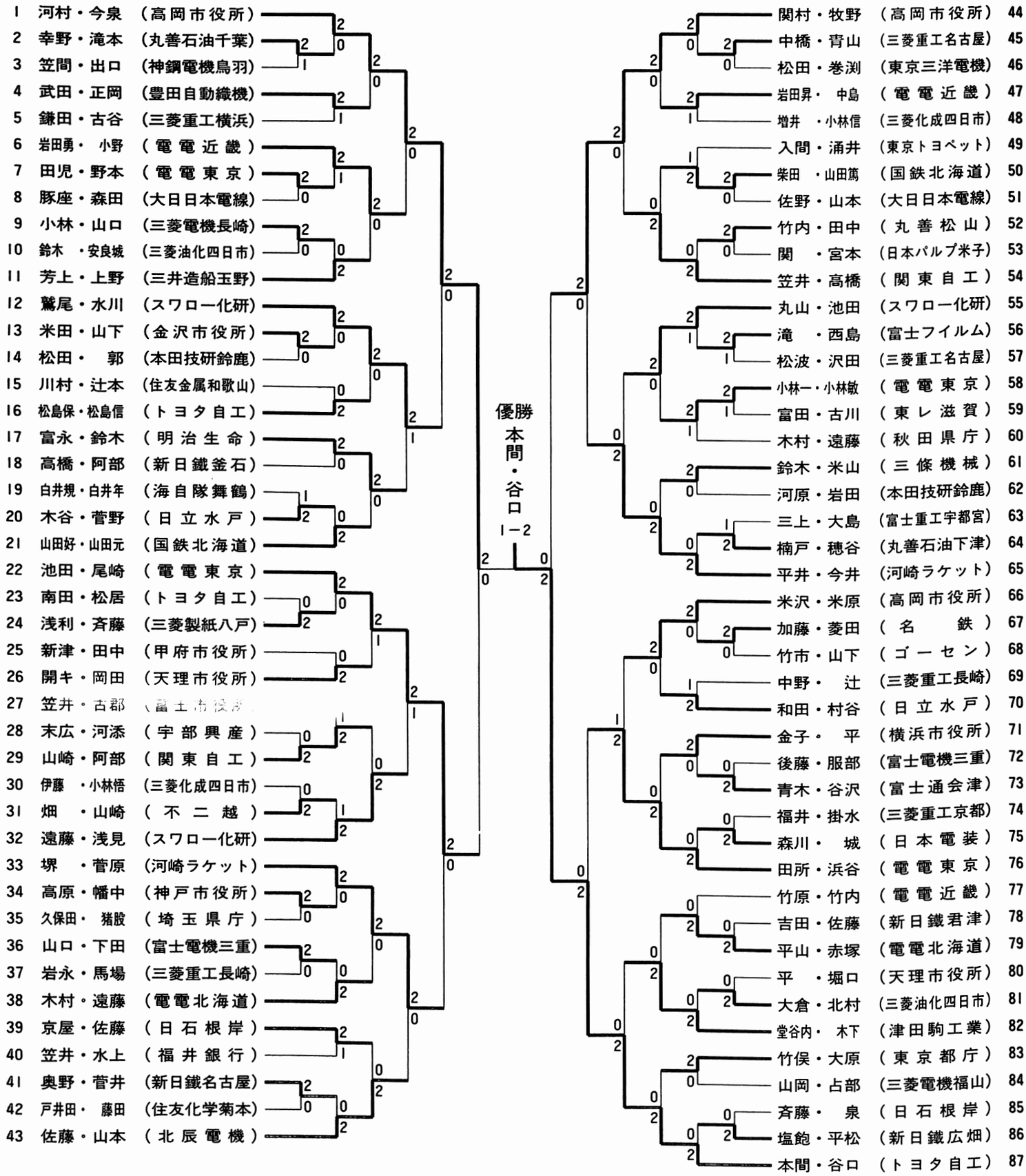
■混合複の部



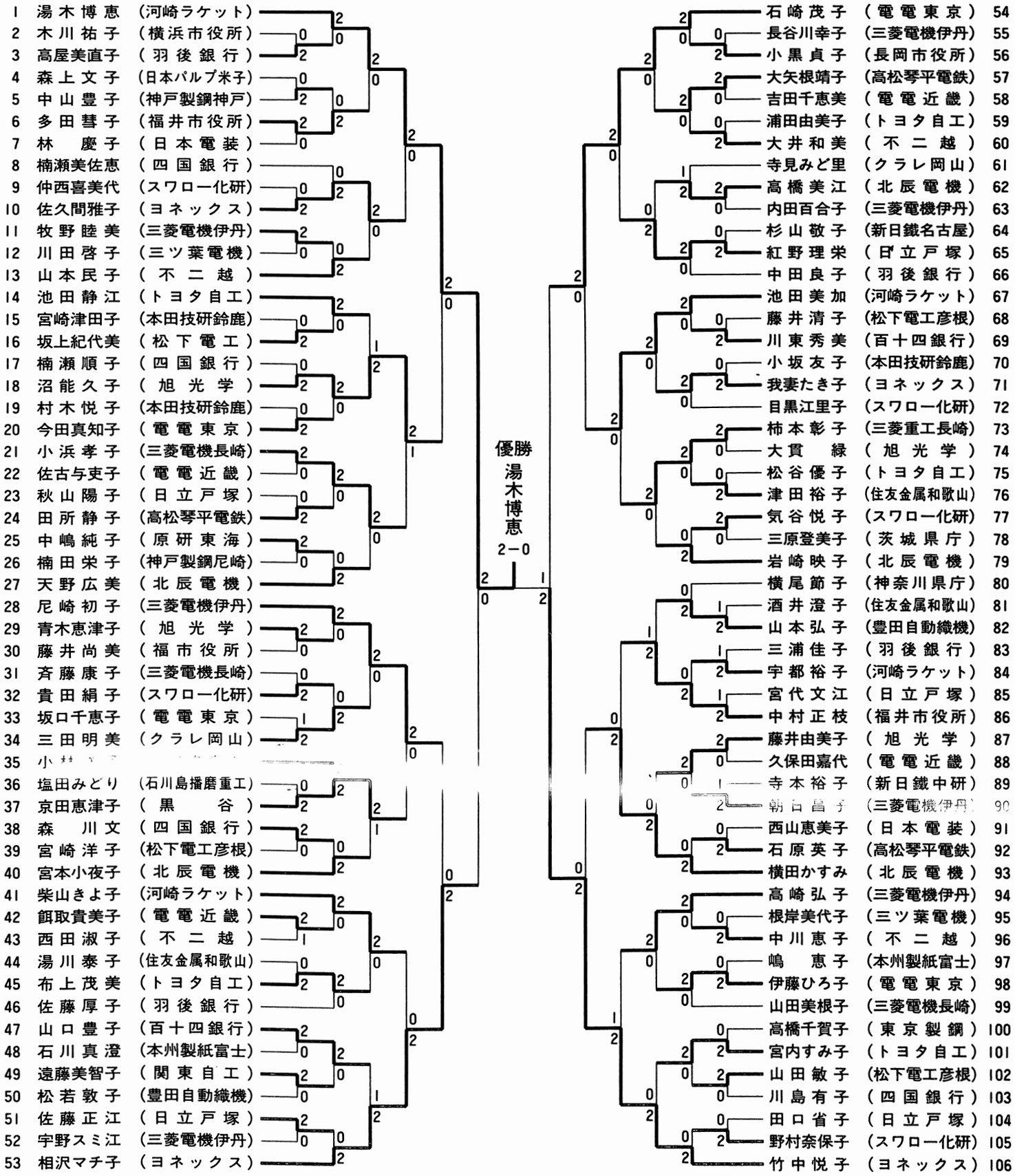
■男子単の部



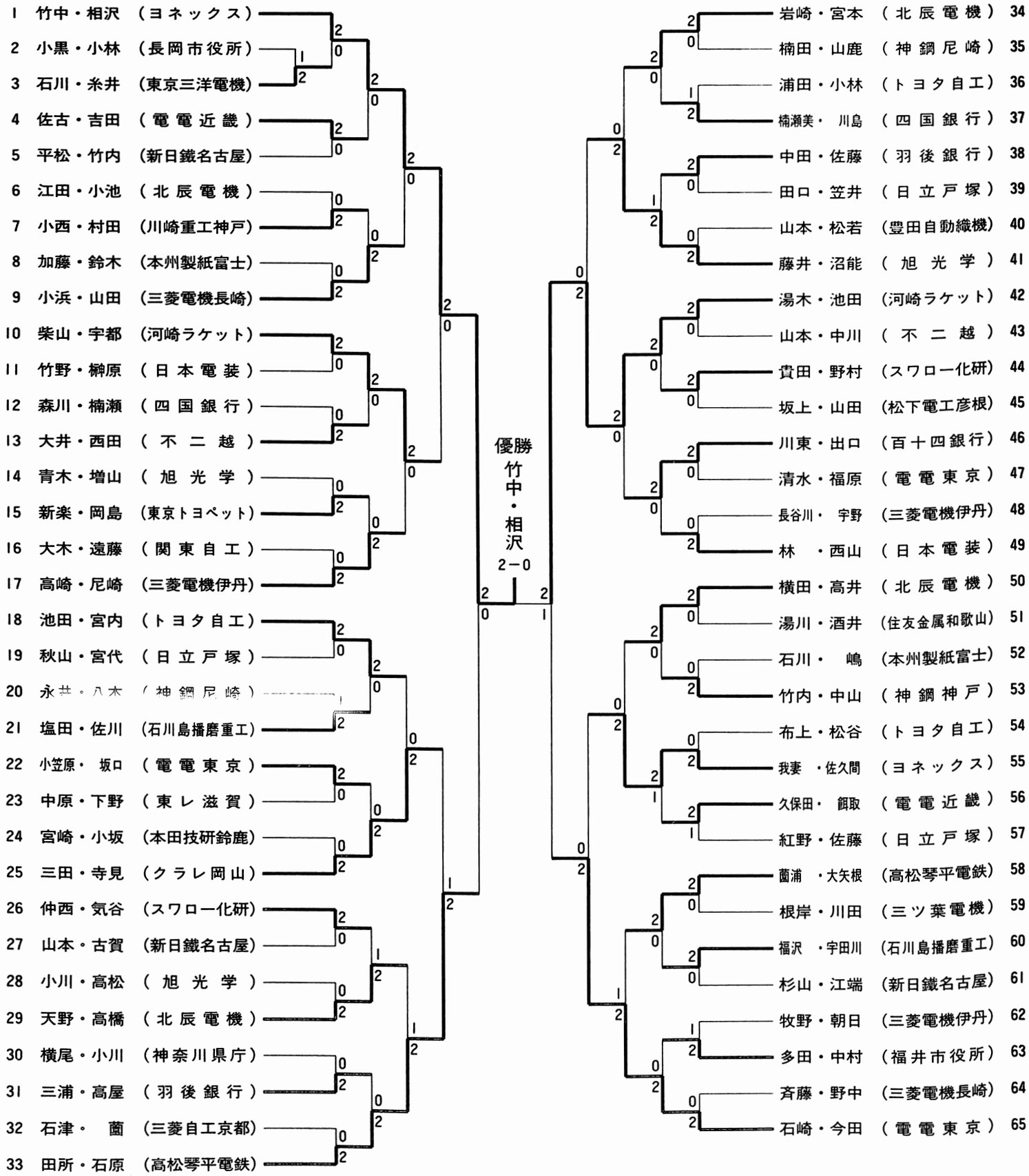
■男子複の部


1 河村・今泉 （高岡市役所）
2 幸野・滝本 （丸善石油千葉）
3 笠間・出口 （神鋼電機鳥羽）
4 武田・正岡 （豊田自動織機）
5 鎌田・古谷 （三菱重工横浜）
6 岩田勇・ 小野 （電電近畿）
7 田児・野本 （電電東京）
8 豚座・森田 （大日日本電線）
9 小林・山口 （三菱電機長崎）
10 鈴木 ・安良城 （三菱油化四日市）
11 芳上・上野 （三井造船玉野）
12 鷲尾・水川 （スワロー化研）
13 米田・山下 （金沢市役所）
14 松田・ 郭 （本田技研鈴鹿）
15 川村・辻本 （住友金属和歌山）
16 松島保・松島信 （トヨタ自工）
17 富永・鈴木 （明治生命）
18 高橋・阿部 （新日鐵釜石）
19 白井規・白井年 （海自隊舞鶴）
20 木谷・菅野 （日立水戸）
21 山田好・山田元 （国鉄北海道）
22 池田・尾崎 （電電東京）
23 南田・松居 （トヨタ自工）
24 浅利・斉藤 （三菱製紙八戸）
25 新津・田中 （甲府市役所）
26 開キ・岡田 （天理市役所）
27 笠井・古郡 （富士市役所）
28 末広・河添 （宇部興産）
29 山崎・阿部 （関東自工）
30 伊藤 ・小林悟 （三菱化成四日市）
31 畑 ・山崎 （不二越）
32 遠藤・浅見 （スワロー化研）
33 堺 ・菅原 （河崎ラケット）
34 高原・幡中 （神戸市役所）
35 久保田・ 猪股 （埼玉県庁）
36 山口・下田 （富士電機三重）
37 岩永・馬場 （三菱重工長崎）
38 木村・遠藤 （電電北海道）
39 京屋・佐藤 （日石根岸）
40 笠井・水上 （福井銀行）
41 奥野・菅井 （新日鐵名古屋）
42 戸井田・ 藤田 （住友化学菊本）
43 佐藤・山本 （北辰電機）
優勝
本間・谷口
1－2
44 関村・牧野 （高岡市役所）
45 中橋・青山 （三菱重工名古屋）
46 松田・巻渕 （東京三洋電機）
47 岩田昇・ 中島 （電電近畿）
48 増井 ・小林信 （三菱化成四日市）
49 入間・涌井 （東京トヨペット）
50 柴田 ・山田篤 （国鉄北海道）
51 佐野・山本 （大日日本電線）
52 竹内・田中 （丸善松山）
53 関 ・宮本 （日本パルプ米子）
54 笠井・高橋 （関東自工）
55 丸山・池田 （スワロー化研）
56 滝 ・西島 （富士フイルム）
57 松波・沢田 （三菱重工名古屋）
58 小林一・小林敏 （電電東京）
59 富田・古川 （東レ滋賀）
60 木村・遠藤 （秋田県庁）
61 鈴木・米山 （三條機械）
62 河原・岩田 （本田技研鈴鹿）
63 三上・大島 （富士重工宇都宮）
64 楠戸・穂谷 （丸善石油下津）
65 平井・今井 （河崎ラケット）
66 米沢・米原 （高岡市役所）
67 加藤・菱田 （名 鉄）
68 竹市・山下 （ゴーセン）
69 中野・ 辻 （三菱重工長崎）
70 和田・村谷 （日立水戸）
71 金子・ 平 （横浜市役所）
72 後藤・服部 （富士電機三重）
73 青木・谷沢 （富士通会津）
74 福井・掛水 （三菱重工京都）
75 森川・ 城 （日本電装）
76 田所・浜谷 （電電東京）
77 竹原・竹内 （電電近畿）
78 吉田・佐藤 （新日鐵君津）
79 平山・赤塚 （電電北海道）
80 平 ・堀口 （天理市役所）
81 大倉・北村 （三菱油化四日市）
82 堂谷内・ 木下 （津田駒工業）
83 竹俣・大原 （東京都庁）
84 山岡・占部 （三菱電機福山）
85 斉藤・ 泉 （日石根岸）
86 塩飽・平松 （新日鐵広畑）
87 本間・谷口 （トヨタ自工）

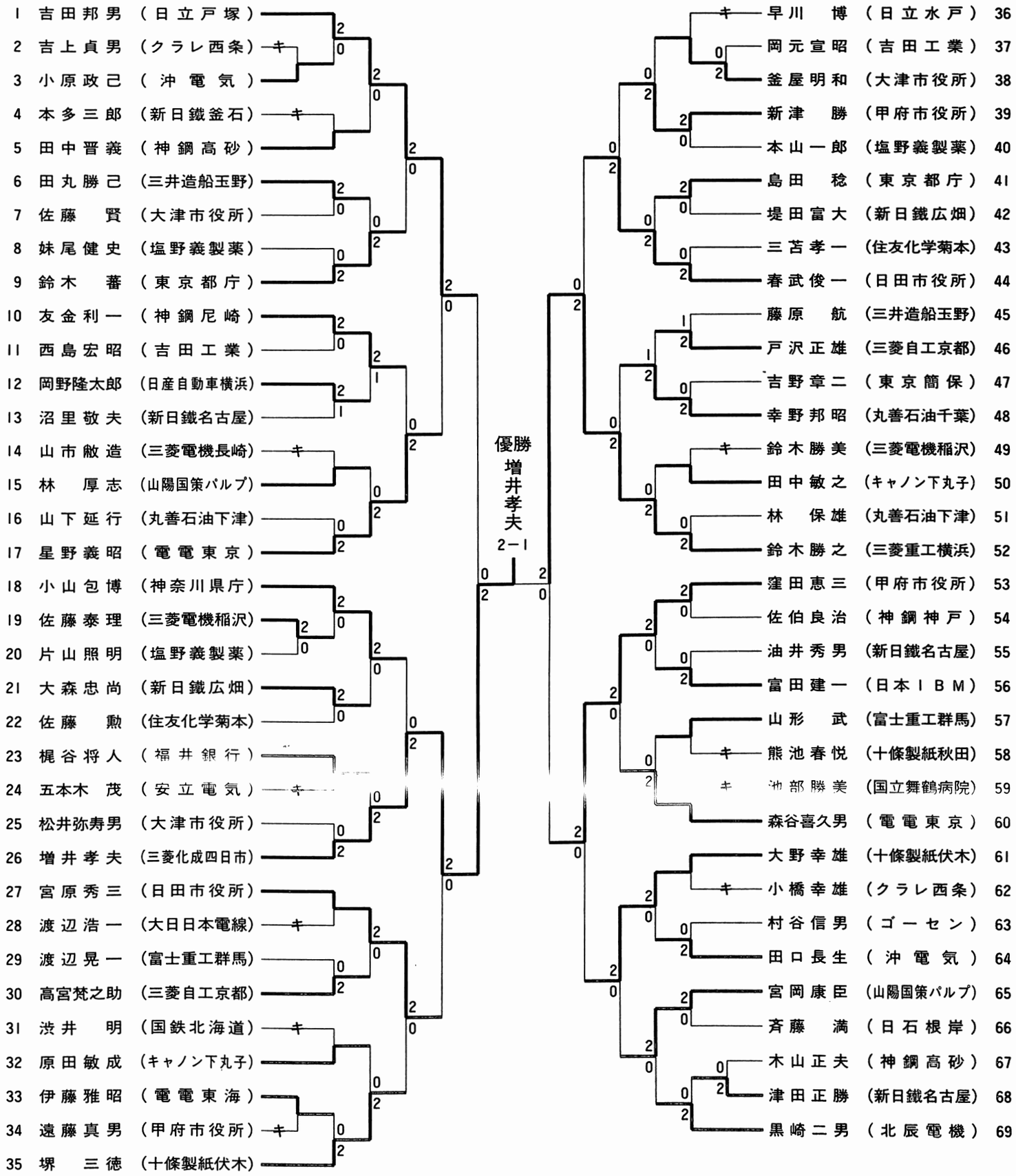
■女子単の部


1 湯木博恵 (河崎ラケット)
2 木川祐子 (横浜市役所)
3 高屋美直子 (羽後銀行)
4 森上文子 (日本パルプ米子)
5 中山豊子 (神戸製鋼神戸)
6 多田彗子 (福井市役所)
7 林 慶子 (日本電装)
8 楠瀬美佐恵 (四国銀行)
9 仲西喜美代 (スワロー化研)
10 佐久間雅子 (ヨネックス)
11 牧野睦美 (三菱電機伊丹)
12 川田啓子 (三ツ葉電機)
13 山本民子 (不二越)
14 池田静江 (トヨタ自工)
15 宮崎津田子 (本田技研鈴鹿)
16 坂上紀代美 (松下電工)
17 楠瀬順子 (四国銀行)
18 沼能久子 (旭光学)
19 村木悦子 (本田技研鈴鹿)
20 今田真知子 (電電東京)
21 小浜孝子 (三菱電機長崎)
22 佐古与吏子 (電電近畿)
23 秋山陽子 (日立戸塚)
24 田所静子 (高松琴平電鉄)
25 中嶋純子 (原研東海)
26 楠田栄子 (神戸製鋼尼崎)
27 天野広美 (北辰電機)
28 尼崎初子 (三菱電機伊丹)
29 青木恵津子 (旭光学)
30 藤井尚美 (福市役所)
31 斉藤康子 (三菱電機長崎)
32 貴田絹子 (スワロー化研)
33 坂口千恵子 (電電東京)
34 三田明美 (クラレ岡山)
35 小林
36 塩田みどり (石川島播磨重工)
37 京田恵津子 (黒谷)
38 森川文 (四国銀行)
39 宮崎洋子 (松下電工彦根)
40 宮本小夜子 (北辰電機)
41 柴山きよ子 (河崎ラケット)
42 餌取貴美子 (電電近畿)
43 西田淑子 (不二越)
44 湯川泰子 (住友金属和歌山)
45 布上茂美 (トヨタ自工)
46 佐藤厚子 (羽後銀行)
47 山口豊子 (百十四銀行)
48 石川真澄 (本州製紙富士)
49 遠藤美智子 (関東自工)
50 松若敦子 (豊田自動織機)
51 佐藤正江 (日立戸塚)
52 宇野スミ江 (三菱電機伊丹)
53 相沢マチ子 (ヨネックス)
優勝
湯木博恵
2−0
54 石崎茂子 (電電東京)
55 長谷川幸子 (三菱電機伊丹)
56 小黒貞子 (長岡市役所)
57 大矢根靖子 (高松琴平電鉄)
58 吉田千恵美 (電電近畿)
59 浦田由美子 (トヨタ自工)
60 大井和美 (不二越)
61 寺見みど里 (クラレ岡山)
62 高橋美江 (北辰電機)
63 内田百合子 (三菱電機伊丹)
64 杉山敬子 (新日鐵名古屋)
65 紅野理栄 (日立戸塚)
66 中田良子 (羽後銀行)
67 池田美加 (河崎ラケット)
68 藤井清子 (松下電工彦根)
69 川東秀美 (百十四銀行)
70 小坂友子 (本田技研鈴鹿)
71 我妻たき子 (ヨネックス)
72 目黒江里子 (スワロー化研)
73 柿本彰子 (三菱重工長崎)
74 大貫緑 (旭光学)
75 松谷優子 (トヨタ自工)
76 津田裕子 (住友金属和歌山)
77 気谷悦子 (スワロー化研)
78 三原登美子 (茨城県庁)
79 岩崎映子 (北辰電機)
80 横尾節子 (神奈川県庁)
81 酒井澄子 (住友金属和歌山)
82 山本弘子 (豊田自動織機)
83 三浦佳子 (羽後銀行)
84 宇都裕子 (河崎ラケット)
85 宮代文江 (日立戸塚)
86 中村正枝 (福井市役所)
87 藤井由美子 (旭光学)
88 久保田嘉代 (電電近畿)
89 寺本裕子 (新日鐵中研)
90 朝日昌子 (三菱電機伊丹)
91 西山恵美子 (日本電装)
92 石原英子 (高松琴平電鉄)
93 横田かすみ (北辰電機)
94 高崎弘子 (三菱電機伊丹)
95 根岸美代子 (三ツ葉電機)
96 中川恵子 (不二越)
97 嶋恵子 (本州製紙富士)
98 伊藤ひろ子 (電電東京)
99 山田美根子 (三菱電機長崎)
100 高橋千賀子 (東京製鋼)
101 宮内すみ子 (トヨタ自工)
102 山田敏子 (松下電工彦根)
103 川島有子 (四国銀行)
104 田口省子 (日立戸塚)
105 野村奈保子 (スワロー化研)
106 竹中悦子 (ヨネックス)

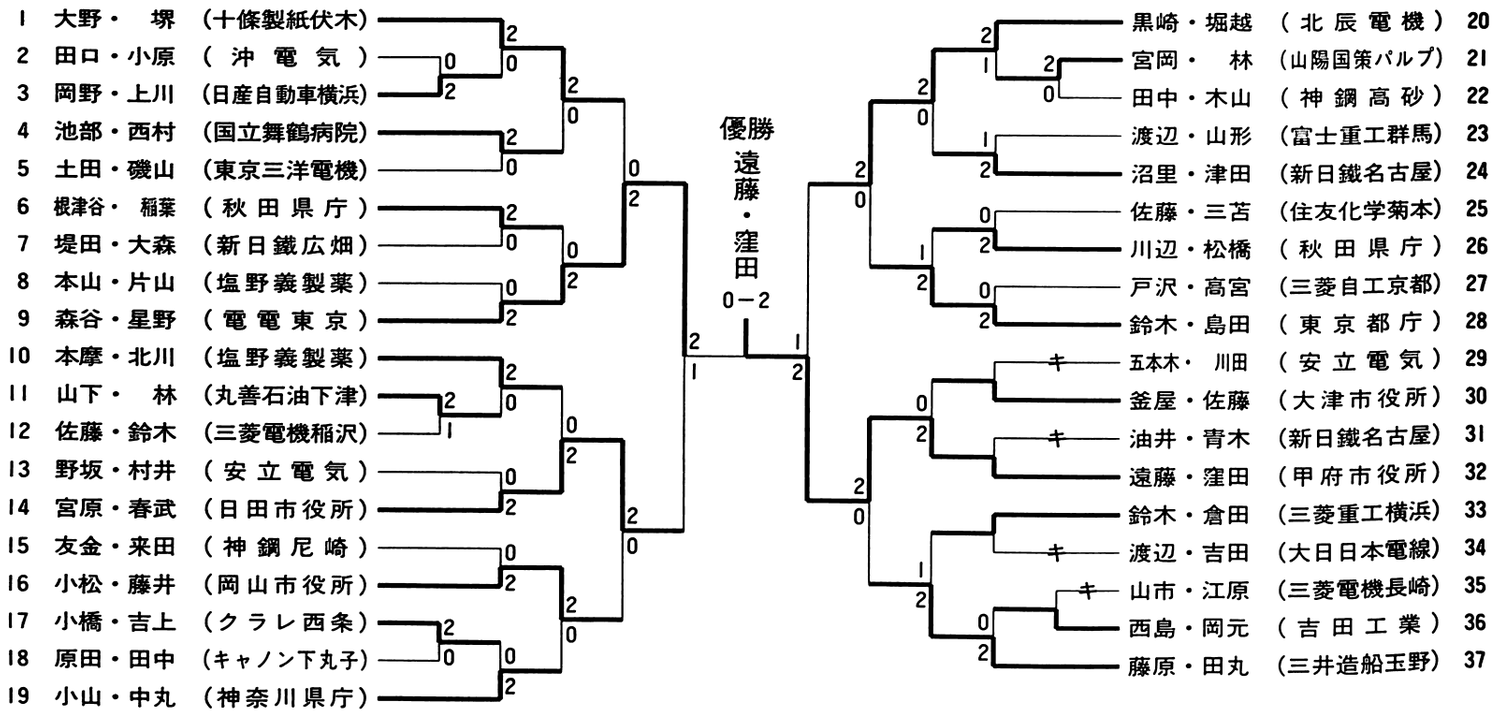
■女子複の部


1 竹中・相沢 （ヨネックス）
2 小黒・小林 （長岡市役所）
3 石川・糸井 （東京三洋電機）
4 佐古・吉田 （電電近畿）
5 平松・竹内 （新日鐵名古屋）
6 江田・小池 （北辰電機）
7 小西・村田 （川崎重工神戸）
8 加藤・鈴木 （本州製紙富士）
9 小浜・山田 （三菱電機長崎）
10 柴山・宇都 （河崎ラケット）
11 竹野・榊原 （日本電装）
12 森川・楠瀬 （四国銀行）
13 大井・西田 （不二越）
14 青木・増山 （旭光学）
15 新楽・岡島 （東京トヨペット）
16 大木・遠藤 （関東自工）
17 高崎・尼崎 （三菱電機伊丹）
18 池田・宮内 （トヨタ自工）
19 秋山・宮代 （日立戸塚）
20 永井・八木 （神鋼尼崎）
21 塩田・佐川 （石川島播磨重工）
22 小笠原・坂口 （電電東京）
23 中原・下野 （東レ滋賀）
24 宮崎・小坂 （本田技研鈴鹿）
25 三田・寺見 （クラレ岡山）
26 仲西・気谷 （スワロー化研）
27 山本・古賀 （新日鐵名古屋）
28 小川・高松 （旭光学）
29 天野・高橋 （北辰電機）
30 横尾・小川 （神奈川県庁）
31 三浦・高屋 （羽後銀行）
32 石津・薗 （三菱自工京都）
33 田所・石原 （高松琴平電鉄）
優勝
竹中・相沢
2－0
34 岩崎・宮本 （北辰電機）
35 楠田・山鹿 （神鋼尼崎）
36 浦田・小林 （トヨタ自工）
37 楠瀬美・川島 （四国銀行）
38 中田・佐藤 （羽後銀行）
39 田口・笠井 （日立戸塚）
40 山本・松若 （豊田自動織機）
41 藤井・沼能 （旭光学）
42 湯木・池田 （河崎ラケット）
43 山本・中川 （不二越）
44 貴田・野村 （スワロー化研）
45 坂上・山田 （松下電工彦根）
46 川東・出口 （百十四銀行）
47 清水・福原 （電電東京）
48 長谷川・宇野 （三菱電機伊丹）
49 林・西山 （日本電装）
50 横田・高井 （北辰電機）
51 湯川・酒井 （住友金属和歌山）
52 石川・嶋 （本州製紙富士）
53 竹内・中山 （神鋼神戸）
54 布上・松谷 （トヨタ自工）
55 我妻・佐久間 （ヨネックス）
56 久保田・餌取 （電電近畿）
57 紅野・佐藤 （日立戸塚）
58 薗浦・大矢根 （高松琴平電鉄）
59 根岸・川田 （三ツ葉電機）
60 福沢・宇田川 （石川島播磨重工）
61 杉山・江端 （新日鐵名古屋）
62 牧野・朝日 （三菱電機伊丹）
63 多田・中村 （福井市役所）
64 斉藤・野中 （三菱電機長崎）
65 石崎・今田 （電電東京）

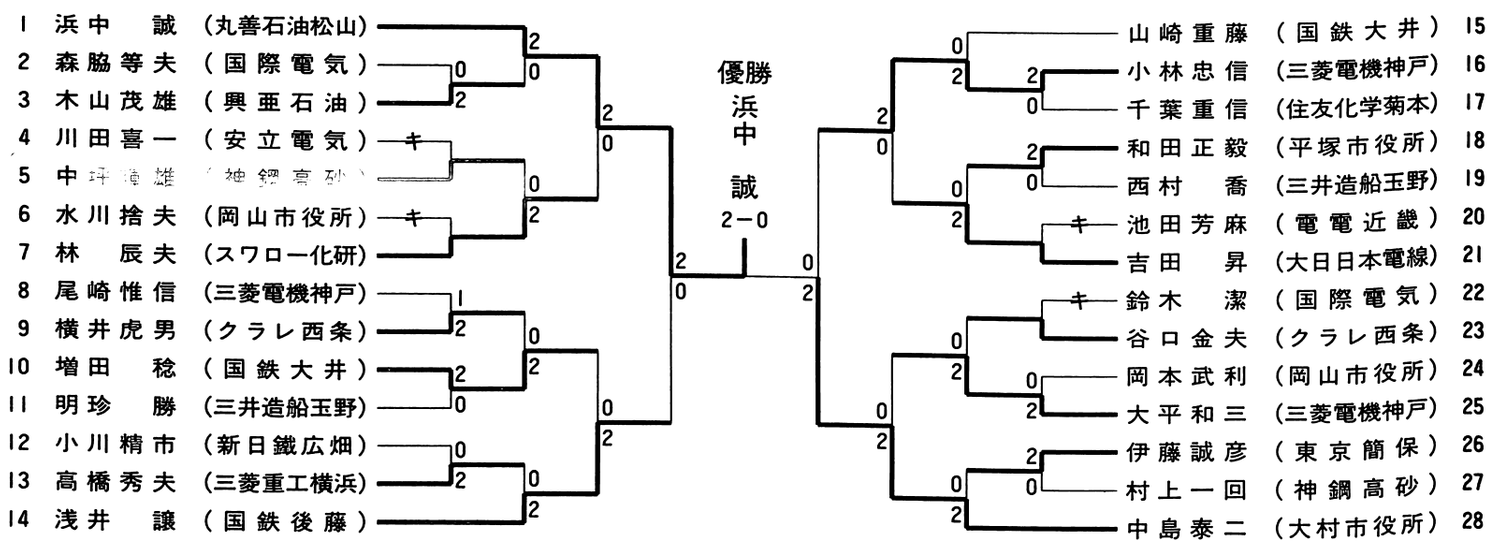
■30歳以上単の部


1 吉田邦男 (日立戸塚)
2 吉上貞男 (クラレ西条)
3 小原政己 (沖電気)
4 本多三郎 (新日鐵釜石)
5 田中晋義 (神鋼高砂)
6 田丸勝己 (三井造船玉野)
7 佐藤賢 (大津市役所)
8 妹尾健史 (塩野義製薬)
9 鈴木蕃 (東京都庁)
10 友金利一 (神鋼尼崎)
11 西島宏昭 (吉田工業)
12 岡野隆太郎 (日産自動車横浜)
13 沼里敬夫 (新日鐵名古屋)
14 山市敞造 (三菱電機長崎)
15 林厚志 (山陽国策パルプ)
16 山下延行 (丸善石油下津)
17 星野義昭 (電電東京)
18 小山包博 (神奈川県庁)
19 佐藤泰理 (三菱電機稲沢)
20 片山照明 (塩野義製薬)
21 大森忠尚 (新日鐵広畑)
22 佐藤勲 (住友化学菊本)
23 梶谷将人 (福井銀行)
24 五本木茂 (安立電気)
25 松井弥寿男 (大津市役所)
26 増井孝夫 (三菱化成四日市)
27 宮原秀三 (日田市役所)
28 渡辺浩一 (大日日本電線)
29 渡辺晃一 (富士重工群馬)
30 高宮梵之助 (三菱自工京都)
31 渋井明 (国鉄北海道)
32 原田敏成 (キャノン下丸子)
33 伊藤雅昭 (電電東海)
34 遠藤真男 (甲府市役所)
35 堺三徳 (十條製紙伏木)
優勝
増井孝夫
2-1
36 早川博 (日立水戸)
37 岡元宣昭 (吉田工業)
38 釜屋明和 (大津市役所)
39 新津勝 (甲府市役所)
40 本山一郎 (塩野義製薬)
41 島田稔 (東京都庁)
42 堤田富大 (新日鐵広畑)
43 三苫孝一 (住友化学菊本)
44 春武俊一 (日田市役所)
45 藤原航 (三井造船玉野)
46 戸沢正雄 (三菱自工京都)
47 吉野章二 (東京簡保)
48 幸野邦昭 (丸善石油千葉)
49 鈴木勝美 (三菱電機稲沢)
50 田中敏之 (キャノン下丸子)
51 林保雄 (丸善石油下津)
52 鈴木勝之 (三菱重工横浜)
53 窪田恵三 (甲府市役所)
54 佐伯良治 (神鋼神戸)
55 油井秀男 (新日鐵名古屋)
56 富田建一 (日本IBM)
57 山形武 (富士重工群馬)
58 熊池春悦 (十條製紙秋田)
59 池部勝美 (国立舞鶴病院)
60 森谷喜久男 (電電東京)
61 大野幸雄 (十條製紙伏木)
62 小橋幸雄 (クラレ西条)
63 村谷信男 (ゴーセン)
64 田口長生 (沖電気)
65 宮岡康臣 (山陽国策パルプ)
66 斉藤満 (日石根岸)
67 木山正夫 (神鋼高砂)
68 津田正勝 (新日鐵名古屋)
69 黒崎二男 (北辰電機)

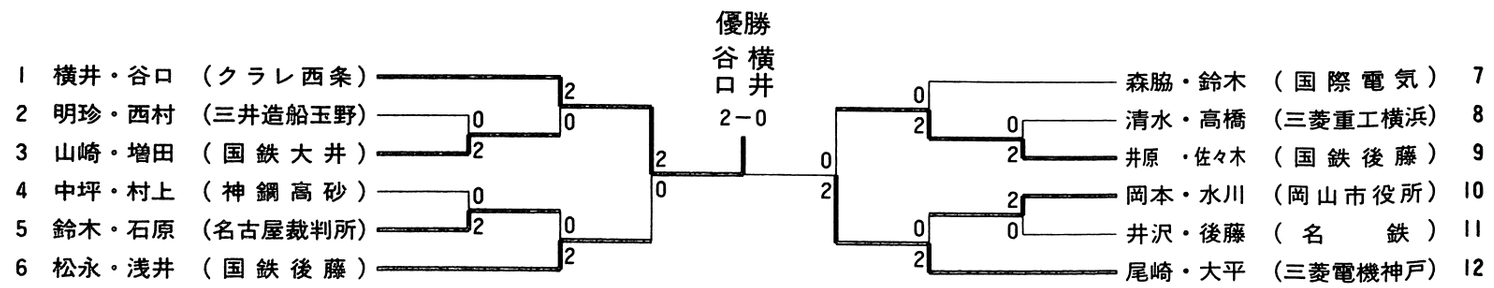
■30歳以上複の部



■40歳以上単の部



■40歳以上複の部



■出場選手名簿

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	電電北海道	伊藤　武	木村敏男・赤塚正三・平山三城・中瀬幸記・古川孝行・遠藤好男・佐藤義孝
	国鉄・北海道	渋井　明	東　政文・山田　元・山田好明・柴田　充・山本晴通・山田　篤・渋井　明
青森	三菱製紙・八戸	平安　敏一	浅利龍徳・斉藤和則・伊藤英文・佐々木寿男・佐々木悟・藤野勝治
岩手	東京製鋼スチールコード	及川　雅義	及川雅義・笠神貞治・菊地　敏・高橋隆文・佐々木勇雄・平賀清吉・高橋千賀子・遠藤房子
	新日鐵・釜石	本多　三郎	高橋利行・斉藤謙一・高橋道夫・阿部哲夫・金子正一・橋本三司・熊谷　徹・本多三郎
秋田	十條製紙・秋田		熊地春悦
	秋田県庁	高橋　吾郎	木村敬次・舟山敏彦・遠藤昭夫・根津谷礼蔵・稲葉順二郎・川辺正勝・松橋　裕
	羽後銀行	細谷　昭次	中田良子・佐藤厚子・三浦佳子・高屋美真子・佐々木久美子・藤田京子
宮城	七十七銀行	高橋　祥允	高橋祥允・菊地　茂・寒河江一利・千葉健一・菅原仁二郎・星　高明
福島	富士通・会津	金子健一郎	谷沢正広・青木昭男・佐藤昭男・篠崎俊久
茨城	日立製作所・水戸	早川　博	早川　博・本谷　進・菅野　孝・和田講一・村谷信之
	住友金属・鹿島	江藤　伸	伴　順造・斉藤　勇・島林総蔵・岩堀久男・海藤　正
	茨城県庁	渡辺　一夫	塩田章夫・松下高輝・栗原一美・柄沢利行・鈴木　守・三原登美子
	原研・東海村	伊勢　武治	中島純子
栃木	いすゞ自動車・栃木	井口　保	井口　保・石川　清・束田二三男・久保田昌之・坂田敏行
	富士重工・宇都宮	永山　隆	三上隆康・井上岩雄・大島　巌・田中　勇・舘野　実・星　正章・高橋秀行
	旭光学・益子	羽石　武士	大貫　緑・藤井由美子・沼能久子・小川幸子・高松良子・青木恵津子・増山直子・羽石武士 坂八邦子
群馬	東京三洋電機		松田和人・巻渕政智・土田　登・磯山文孝・石川ヒロ子・糸井道子
	富士重工・群馬	渡辺　晃一	渡辺晃一・山形　武・中條俊雄・坂口隆夫・高田　修・青木芳明
	三菱電機・群馬	茂木　正弘	茂木正弘・高橋勝美・小沢永一・栗原　弘・千田泰男・米田　守・金山利夫
	三ッ葉電機製作所		根岸美代子・川田啓子
山梨	甲府市役所	古谷　利夫	遠藤真男・窪田恵三・新津　勝・田中　登・古谷利夫
長野	昭和電工・大町	高橋　武治	山崎己良・問島利雄・那須義博・薄井　治・福田喜一・小林英彦
	諏訪精工舎	里見　良三	大和昭雄・福永保人・塩川敏行・千野統雄
埼玉	本田技研	古谷　利男	村石正昭・藤田茂樹・斉藤次男・中沢　均・遠藤幸宣・藤田信夫・加藤雄三
	埼玉県庁	吉成　素彦	黒須　栄・久保田宇作・宮崎　茂・内川雅博・永田喜雄・能登則男・猪股正人
	日研化学	石川　二郎	佐藤忠男・山口喜雄・吉田　司・岩崎　茂・小島達雄・吉村重和・石川二郎
	サンケン電気	酒井　忠義	薄田隆衛
	泉自動車	[illegible]	[illegible]
千葉	丸善石油・千葉	今井　勝昭 馬場　秀明	幸野邦昭・南村嘉男・本間　実・浅利章悦・菊池栄幸・滝本和人・鯨岡雅男 斉藤千代子・酒井美代子・堀切由美子・今関加代子
	新日鐵・君津	吉武　正孝	吉田　寛・佐藤吉雄・佐藤明海・和泉　孝・永井信吾
	君津信用組合	山口　進	鹿島初江・伊藤玉江・関根妙子・堀切正子
東京	安立電気	五本木　茂	鈴木誠一・山本　茂・野坂英樹・五本木茂・金子孝規・南　好雄・村井　清・川田喜一
	国鉄・大井	増田　稔	山崎重崎・増田　稔
	キャノン・下丸子	原田　敏成	原田敏成・田中敏之
	東京簡易保険局	伊藤　誠彦	沼田七郎・古明地正邦・吉野章二・武田公正・大室正治・伊藤誠彦 穐山みちゑ・大沢由子・青木フミ子・武沢ヨシ江・渡辺八重子
	日本化薬	黒石　善治	柳　久男・吉沢寛治・杉村秀夫・柳内浩司
	第一中央汽船	登坂　洋	近藤　繁・福島由明・登坂　洋・鶴丸憲四郎・谷岡応計・桑原信二・中村明夫
	日立製作所・本社	斉藤　裕之	片岡考嘉・佐倉和明・大谷正人・滝島健一・斉藤裕之・藤川光広・林　幸三
	東京都庁	鈴木　蕃	鈴木　蕃・島田　稔・竹俣　明・木原政義・岩上昭一・藤本　彰・福田　正
	北辰電機	千葉　正皓 黒崎　二男	佐藤信夫・山本洋彦・堀越　進・阿部正行・平田政治・明間隆三・堀川　誠・黒崎二男 横田かすみ・宮本小夜子・高橋美江・天野広美・宮崎映子・高井春美・江田千恵・小池節子

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
東　京	国際電気	鈴木　　潔	森脇等夫・鈴木　潔
	ヨネックス	栂野尾昌一	栂野尾昌一・竹中悦子・相沢マチ子・我妻たき子・佐久間雅子・大江京子・山口久美子 榎本紀子・箇原　薫　　橋智恵子・中島真子
	河崎ラケット	堺　　栄一	平井克英・今井茂満・堺　栄一・角田重男・菅原弘貴・川辺芳男・湯木博江・柴山きよ子 池田美加・宇都裕子・松谷京子・高坂和枝・長谷川幸枝
	東京トヨペット	飯牟礼俊英	入間秀哲・涌井保夫・余ノ木勉・茂呂文雄・長谷川吉右・高岡伸幸・新楽のり子・岡島信子 秋谷京子・藤井節子
	石川島播磨重工業	村田　俊夫	浅井良伸・村田俊夫・鼓　輝明・塚本明男・前沢哲男・新江弘美・塩田みどり・佐川陽子 関根シズ江・福沢美和子・宇田川知恵子
	沖電気	佐藤彦次郎	佐藤邦夫・鈴木清一・池田秀美・板垣健二・山本博司・岡部　正・田口政行・田口長生 小原政巳
	明治生命	宮永　武司	佐藤　賢・杉本伸文・池　潤一・二沢一進・鈴木英夫・大庭博之・宮永武司・青木美預子 佐藤歌子・金子喜久江・倉橋智美・飯塚真理子・橋口なおみ・奥　和代
	電電東京	鈴木　健二	鈴木健二・池田信孝・小林一行・小林敏行・田所光男・浜谷安裕・尼崎幹雄・田児淳一 野本綱夫・森谷喜久男・星野義昭・石崎茂子・小笠原泰子・今田真知子・坂口千恵子・清水礼子 福原友子・伊藤ひさ子
神奈川	日立・戸塚	清水　清一	吉田邦男・紅野理栄・秋山陽子・田口省子・宮代文江・佐藤正江・上田敏恵・古平君代 笠井宏子
	いすゞ自動車・川崎	田中　正誼	波　博義・米須清一・神越　武・手塚利男・佐々木孝治・佐山静治
	日産自動車・横浜	大村　　裕	桜田豊治・大村　裕・岡野隆太郎・吉浪益三・竹村芳雄・今田守司・上川　章
	日産車体	佐草　純谷	高橋ひろみ・広瀬恵子・杉山圭子・石田寿子
	横浜市役所	安藤　　保	金子英司・松本利喜夫・宍戸安治・中野孝司・平　敏司・佃　　要・斉藤英昭・木川祐子
	日石・根岸	京屋　孝治	泉　信夫・佐藤幸男・京屋孝治・斉藤　満・平田正己・佐々木登・石津富夫
	新日鐵・製品技研		寺本裕子
	神奈川県庁	中丸　靖元	小山包博・横尾節子・建部佳代・枡尾幸子・矢野柳子・小萩沢英子・小川恵子
	三菱重工・横浜	清水　　武	鎌田　哲・古谷陽一・守口　茂・高橋保則・鈴木勝之・倉田豊三郎・加藤哲夫・高橋秀夫 清水　武
	平塚市役所	三觜　嘉雄	石川正美・和田正毅・久保田清・杉崎正夫・三觜嘉雄・内田啓一・門倉政雄
	関東自工	味八木士郎	山崎幸男・笠井教行・高橋　清・浅見　勇・阿部　誠・千場弘己・飯村　進・青田勢津子 大木さよ子・遠藤美智子・猪狩和子
新　潟	三條機械製作所	松田　英夫	鈴木　祐・青木　明・池田英夫・米山　高
	長岡市役所	吉川　健二	小黒貞子・長部信子・永井より子・荒木紀子・小林桂子・杉本れい子・西山絹子
石　川	倉庫精錬	中田　吉昭	東　茂樹　　政幸・山崎巳良・那須義博
	小松製作所・栗津	原　　明宏	石川順一・北　秀樹・東　海裕・桝野泰弘・原　明宏
	金沢市役所	太田　博之	太田博之・池本和雄・米田幸生・山下敏行・林　芳広
	津田駒工業	安江　　勉	安江　勉・堂谷内均・木下一彦・竹鼻達夫・山本秀夫・寺田博人
富　山	吉田工業		西島宏昭・岡元宣昭
	十條製紙・伏木	大野　幸雄	大野幸雄・堺　三徳
	富山県庁	斉藤　俊明	斉藤俊明・水野正和・高島宗昭・西村美鶴
	高岡市役所	中山　邦夫	河村博之・今泉　勉・牧野光男・米沢和男・米原照男・中山邦夫・関村順治
	黒谷	京田恵津子	京田恵津子
	不二越	永原　昌雄	永原昌雄・畑　栄進・山崎　功・池田政規・松井秀幸・川上洋一・山本民子・大井和美 西田淑子・中川恵子
福　井	福井市役所	増永　秀則	増永秀則・阪井範行・山本敏彦・小林長博・嶋田伸行・山部敏夫・吉村清一・多田慧子 藤井尚美・中村正枝・山口千鶴子
	福井銀行	梶谷　将人	松浦信幸・笠川俊教・水上誠二
静　岡	富士市役所	影山　隆亮	平野孝雄・笠井憲一・菅沼友明・笠井好美・古都文博
	富士フイルム	滝　　正孝	西島知彦・井出裕雄・滝　正孝・仲沢豊・吉岡直彦
	日産自動車・吉原	後藤　隆弘	川口茂広・平野哲司・酒井俊一・山本秀和・望月吉広・後藤隆広
	本州製紙・富士	町田　守正	町田真澄・森野秀子・渡辺正子・鴫　恵子・鈴木あつ子・加藤悦子

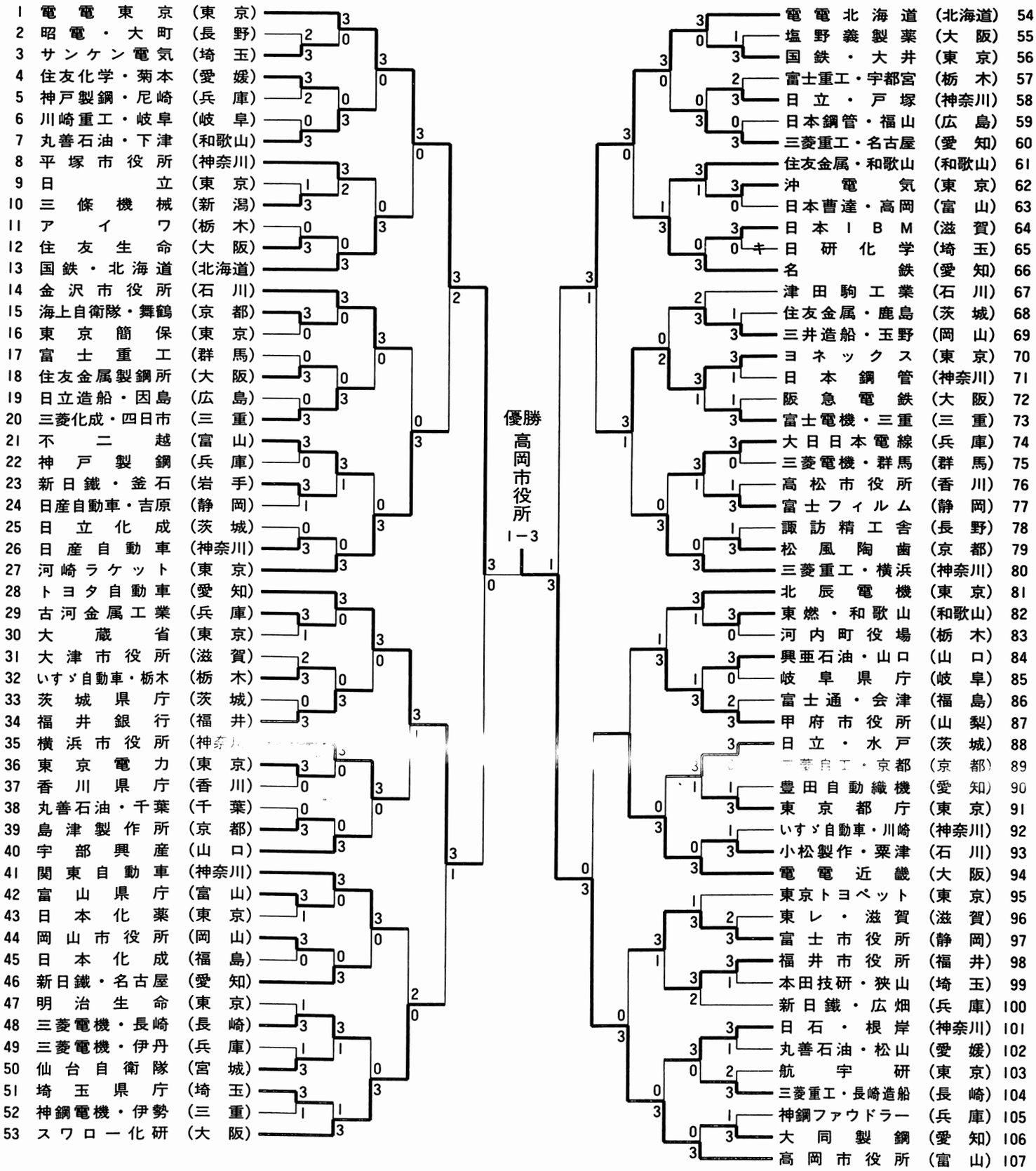
県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
愛　知	三菱電機・稲沢		佐藤泰理・鈴木勝美
	電電東海	伊藤　雅昭	伊藤雅昭・伊藤正昭・中川紀嗣・池田文彦・長江新八・水谷悦郎
	名古屋裁判所		鈴木　勇・石原　明
	三菱重工・名古屋	加藤　聖和	加藤聖和・松波　譲・沢田正夫・中橋友行・青山忠雄・小倉和幸・西村敏夫
	名古屋鉄道	井沢　　宏	村上敏行・山本良雄・加藤保利・菱田修光・三浦正司・井沢　宏・後藤　守 内田みつ子・宝力京子・迫間真由美・角みどり・小原安子
	日本電装	遠藤　長生	杉山　修・森川律夫・城　保彦・竹田勝彦子・上前茂人・橋本充実・佐野典昭 西山恵美子・林　慶子・竹野信子・榊原文子・竹内一枝
	トヨタ自動車	板垣　善憲 堀　　幸矩	本間順次・谷口　寛・松島　保・松島信之・松居宏司・南田義正・林伸一郎 池田静江・宮内すみ子・布上茂美・松谷優子・浦田由美子・小林洋子・菅俣すみ子
	新日鐵・名古屋	油井　秀男	奥野哲次・山本卓男・金谷義雄・千葉和義・奥野省三・菅井　孝・佐々木秀一・沼里敬夫 津田正勝・油井秀男・青木雄太郎 山本はるみ・杉山敬子・堺　僚子・江端幸子・竹内佐知子・古賀智子・平松順子
	豊田自動織機	上原　信彦	正岡洋三・武田正雄・・山口清春・榊原輝次・山本弘子・松若敦子
三　重	三菱油化・四日市	古川　幸一	北村　保・後藤幸孝・大倉　忠・鈴木正平・安良城雄介・安良城貞介・生川文彦
	本田技研・鈴鹿	河原　賢治	河原賢治・岩田有二・松田大吉郎・浜口克久・郭　秀裕・松田五雄 宮崎津田子・小坂友子・村木悦子
	神鋼電機		笠間　進・出口　肇
	三菱化成・四日市	増井　孝夫	増井孝夫・小林　悟・吉原　洋・小林信行・伊藤正己・諸田秀二・田中英俊
	三菱電機・三重	安藤　　勲	山口　香・後藤俊彦・古沢正博・木下　豊・下田　勲・服部広美・後藤　久
	松下電工・伊勢	上田　晴美	橋爪節子・磯部高久代・林八重子・宮本文代
岐　阜	川崎重工・岐阜	堀田　　実	高田秋男・只野　博・松岡竜三・堀田　実・大西正芳・田中充夫・石田　久
京　都	島津製作所	上田　　勉	長岡喜久男・奥田後次・上田　勉・藤江正則・甲良洋一・若林　登・高安　博
	三菱自工・京都	高宮梵之助	掛水一男・玉田高行・戸沢正雄・高宮梵之助・福井達男・石津正明・西川裕昭 石津栄子・薗美恵子
	海上自衛隊・舞鶴	田野　栄敏	瀬野俊策・白井規久夫・田野栄敏・川村道厚・白井幸夫・田野博之
	国立舞鶴病院		池部勝美・西村暉修
	松風陶歯製造	石井　英雄	徳田　進・高藤哲岳・深谷幸雄・伊佐恒雄
	京都市消防局		脇阪　伸
奈　良	天理市役所	開キ　弘安	開キ弘安・岡田昇久・平　敏明・堀口　稔
滋　賀	東レ・滋賀	山中　保一	富田茂久・上田哲滋・野村邦夫・古川孝典・古川正行・山中保一・松居静一 金沢光子・中原ゆり子・下野稲子・駒口百合子
	松下電工・彦根	谷　　和男	坂本博史・阪上紀代美・山田敏子・宮崎洋子・藤井洋子
	[illegible]	[illegible]宮田　健一	宮田健一
	大津市役所	久保　　公	[illegible]・西原四郎・山田杉男
大　阪	ゴーセン	村谷　信男	村谷信男・竹市良雄・酒井　薫・山下寿美雄
	シオノギ製薬	本摩　恒利	本摩恒利・北川忠雄・本山一郎・妹尾健史・片山照明・西原義孝・三津山重徳
	電電近畿	三木　　喬	竹原　茂・岩田　勇・小野健二・滝野公一・岩田　昇・中島真一・竹内　真・池田芳麻 久保田嘉代・餌取貴美子・佐古与吏子・吉田千恵美
	スワロー化研	林　　辰夫	遠藤和男・鷲尾正一・丸山法男・浅見初男・水川九洋・斉藤雅伸・池田文昭 貴田絹子・仲西喜美代・気谷悦子・野村奈保子・目黒江里子
	阪急電鉄	岡田　　栄	葭　孝久・野沢明雄・渋谷元己・市橋　茂・出田安隆・長沢秀信・西野　進
兵　庫	神戸製鋼・尼崎	鍋田　賢一 来田　正雄	友金利一・小泉淳一・浜野　孝・来田正雄・田中　至・田中紀久・三浦真一・永井睦子 八木鈴枝・楠田栄子・山鹿りつ子・梅田裕美・堀　滋美
	三菱重工・高砂	中坪　暉雄	田中晋義・木山正夫・中坪暉雄・村上一四
	神戸製鋼・神戸	佐伯　良治	佐伯良治・竹内恵美子・中山豊子・室井孝子・武居妙子・谷久美子
	新日鐵・広畑	堤田　富夫	小川精市・大森忠尚・塩飽　初・平松重吉・堤田富尤・長谷川幸弘
	三菱電機・伊丹	山田　直也 荻野　一夫	太田照雄・金井秀一・山田直也・堀　英明・矢賀雅人・上藤朝之 高橋弘子・高崎弘子・尼崎初子・牧野睦美・長谷川幸子・朝日昌子・内田百合子・宇野スミ江
	神戸市役所	川口　正光	宮崎　稔・並木芳顕・竹内政己・高原信幸・幡中光栄・鍋島明雄・石井　修
	古河金属工業	山口　　真	粟　　守・上田政充・椎屋三年・平岡敬治・角田正直・丸山和行・小谷勝男

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
兵　庫	三菱電機・神戸		尾崎雅信・小林忠信・大平和三
	大日日本電線・尼崎	吉田　　昇	豚座一利・佐野義則・森田幸男・山本健吾・大野憲一・狩集　功・今井則明・渡辺浩一 吉田　昇
	神鋼ファウドラー	神谷　　衛	大島国治・宝来明正・小林敏晴・柴田健一・前野正尋・鍬田敏治・千葉達夫
	川崎重工・神戸	福田　京三	小西玲子・村田悦子
和歌山	住友金属・和歌山	宇治　　収	川村桂司・坂本　抗・宇治　収・辻　満彦・辻本　進・藤崎清一・竹中良人 湯川泰子・酒井澄子・堀　佳子・津田裕子
	丸善石油・下津	林　　保雄	志場　周・楠戸春則・穂谷真弘・和久谷富章・上野健一・前田益孝・森　　隆・山下延行 林　保雄
	地崎工業・和歌山	広野　栄一	越前屋直行
鳥　取	日本パルプ・米子	安田　徳郎	倉本仁司・岡　昭徳・宮本良博・森上文子
	国鉄・後藤	井原平八郎	高真　応・木村和夫・浅井　譲・井原平八郎・佐々木義政・松永恭昌
岡　山	岡山市役所	小松　　貴	藤井英雄・今東幸一・小松　貴・崎本明雄・時末　務・岡本武利・水川捨夫
	三井造船・玉野	虻江　　優	芳上一男・藤原　航・上野輝治・田丸勝己・松井　一・毛利利夫・町田謙一・明珍　勝 西村　喬
	クラレ・岡山		三田明美・寺見みど里
山　口	山陽国策パルプ	長藤　俊成	宮岡康臣・林　厚志・長藤俊成・末田通典・吉田鉄夫・下村　進・辻中公人
	宇部興産	伊藤　淳司	伊藤淳司・末広秀樹・河添忠夫・石川好夫・坂本賢二
	興亜石油		木山茂雄
	東洋曹達	渡辺　　忠	嶋田文江・南佐代子・重永雅子・福谷弓子・石田真理子・国光悦子・中村京子
香　川	高松市役所	横岡　忠幸	阿部正信・岡崎和良・横岡忠幸・田中真一・野口利幸・西池孝博・納田未広
	香川県庁	河合　　親	真鍋　剛・野須博文・小山光男・弾正原義春・岡田忠巳・柳原泰夫
	百十四銀行	増田　照夫	川東秀美・安藤清子・石井マリ子・長尾弥生・山内房子・山口豊子・植田しげ子
	高松琴平電鉄	東条　義昭	田所静子・石原英子・薗浦孝子・大矢根靖子・平井佐代子・東条義昭
愛　媛	丸善石油・松山	森田　孝義	藤田峯斉・浜中　誠・永井龍夫・竹内洋雅・田中政剛・能田隆雄・森田孝義
	クラレ・西条	横井　虎男	吉上貞男・横井虎男・谷口金夫・小橋幸雄・三村一郎・田鍋光行
	住友化学・菊本	篠原　利光	三苫孝一・本田民次郎・戸井田誠・藤田健治・佐薙　勲・千葉重信・伊藤君男
高　知	四国銀行	田中　裕三	楠瀬美佐恵・楠瀬順子・川島有子・森川　文
大　分	日田市役所	春武　俊一	宮原秀三・春武俊一
長　崎	大村市役所	中島　泰二	中島泰二
	三菱重工・長崎造船所	田中　貞夫	中野和雄・辻　優・福田良治・山口信行・岩永文隆・馬場重文・田中貞夫・柿本彰子
	三菱電機・長崎	小林　正昭	長松保男・小林正昭・山口正博・川久保暢宏・下釜和則・吉田　司・山市敞造 小浜孝子・斉藤康子・三谷富士香・山田美根子・野中三千子

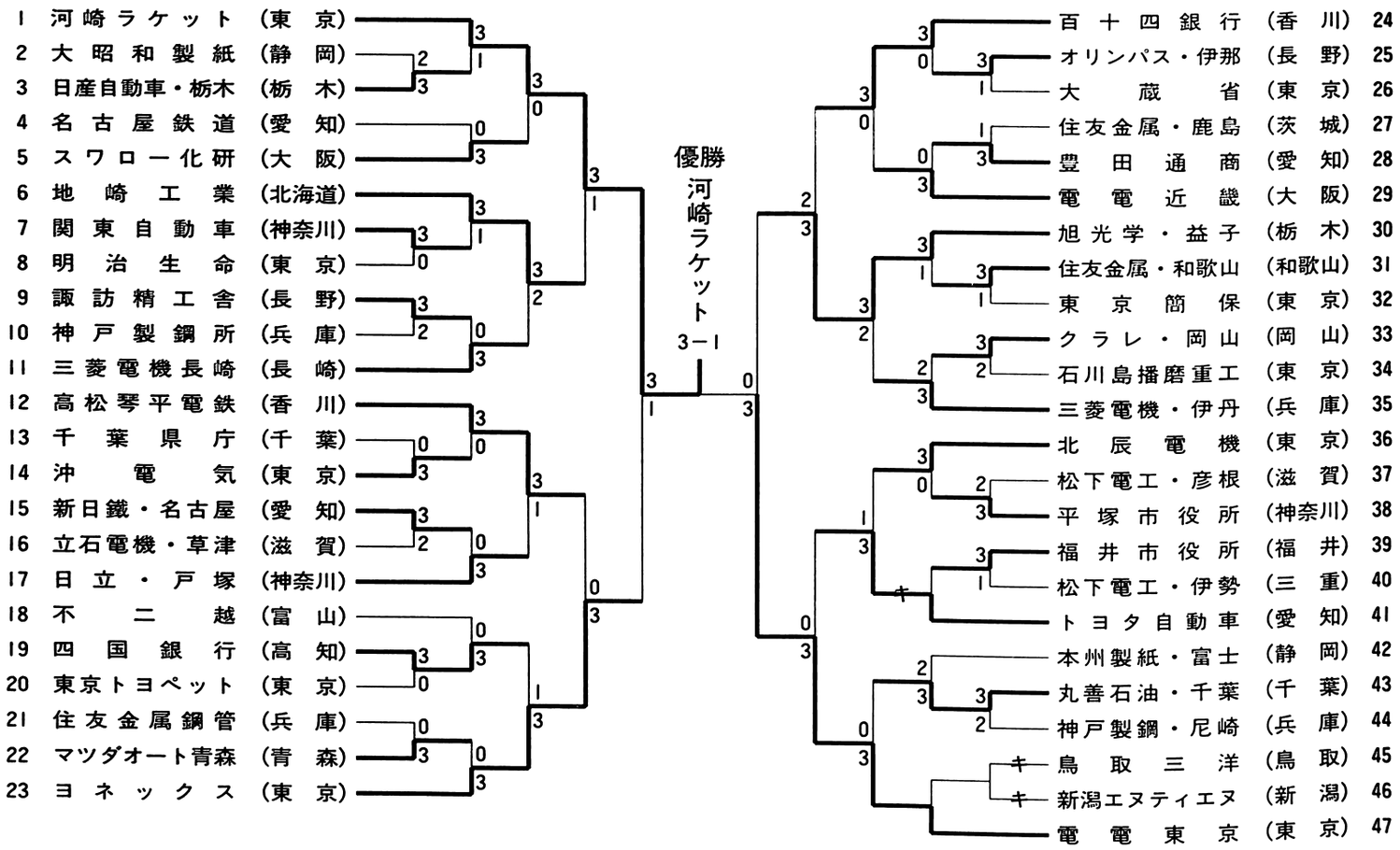
第25回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1975年(昭和50年)7月5～10日
開 催 地：富山県高岡市
会　　場：厚生年金高岡市民体育館、
日本曹達(株)高岡工場体育館、
富山県立高岡高等学校体育館、
富山県立高岡工芸高等学校体育館

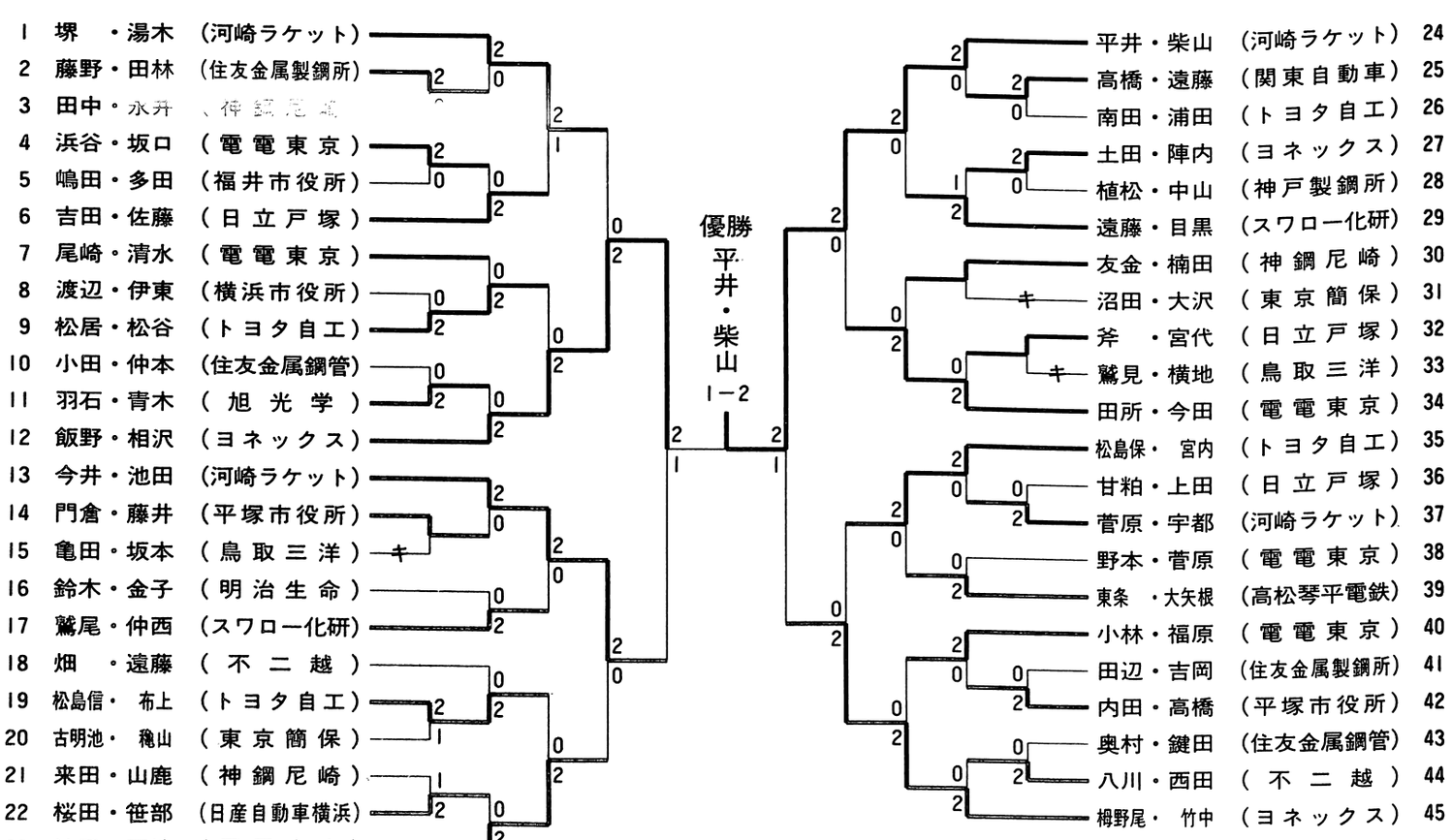
■男子団体の部



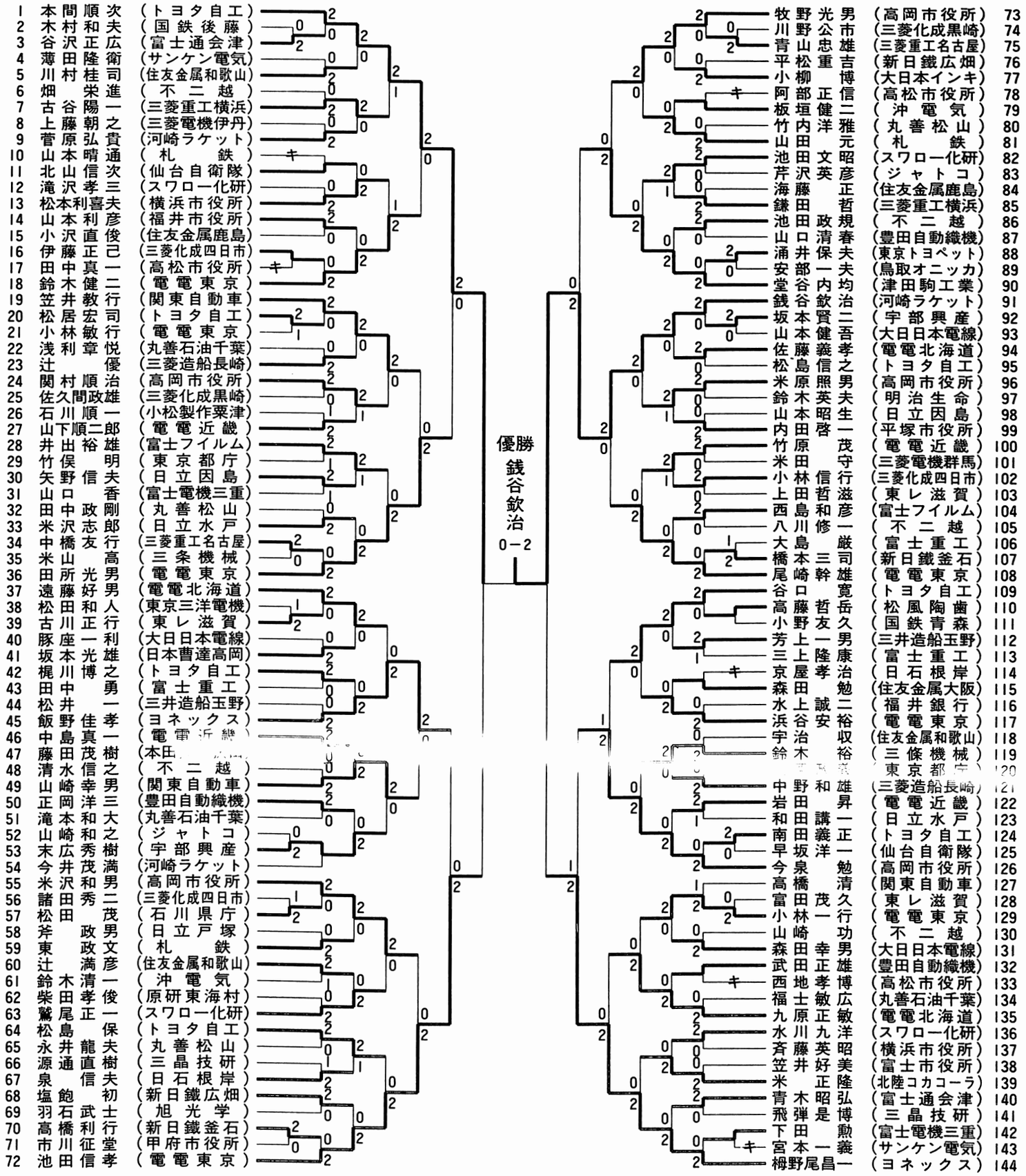
■女子団体の部



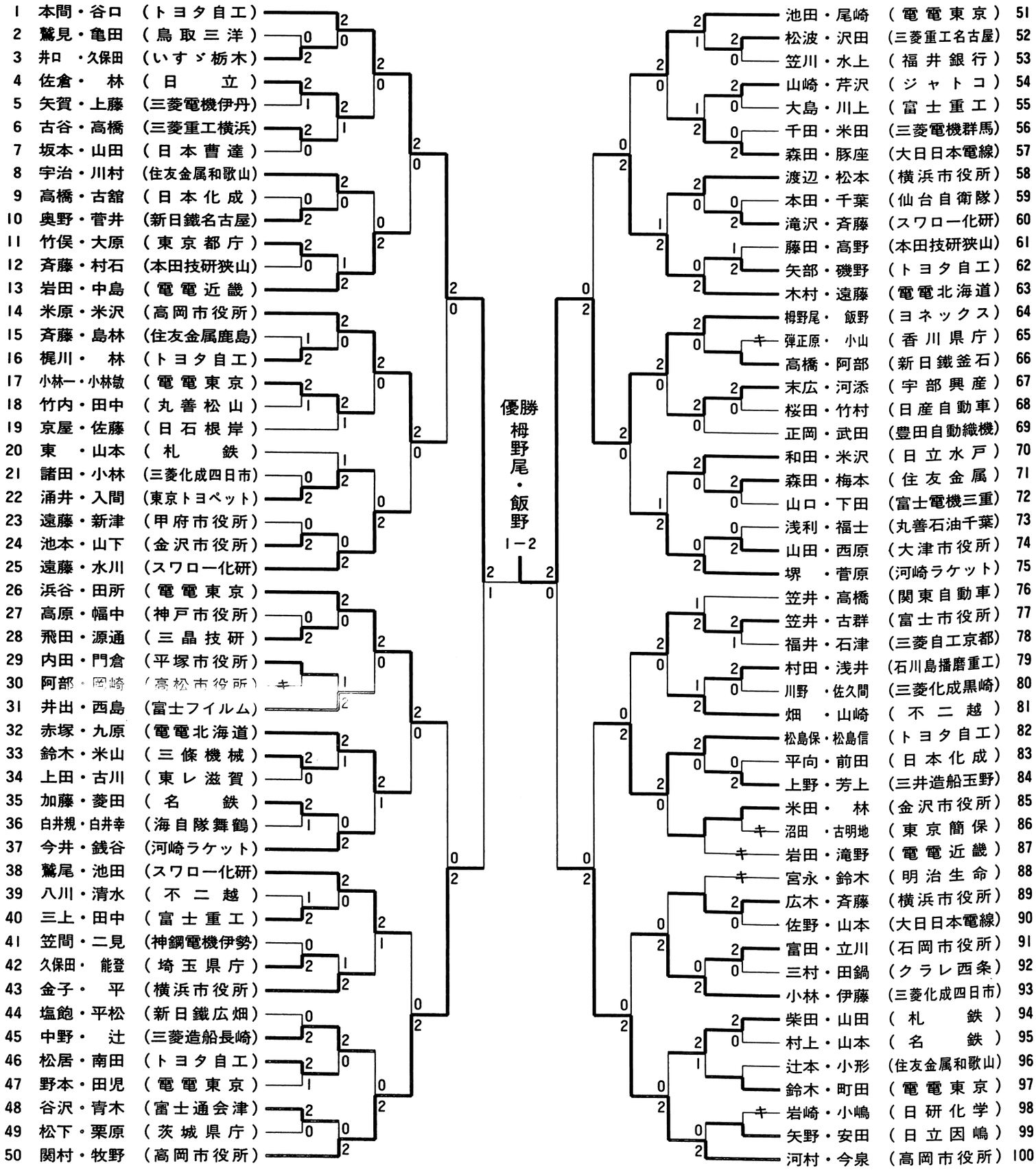
■混合複の部



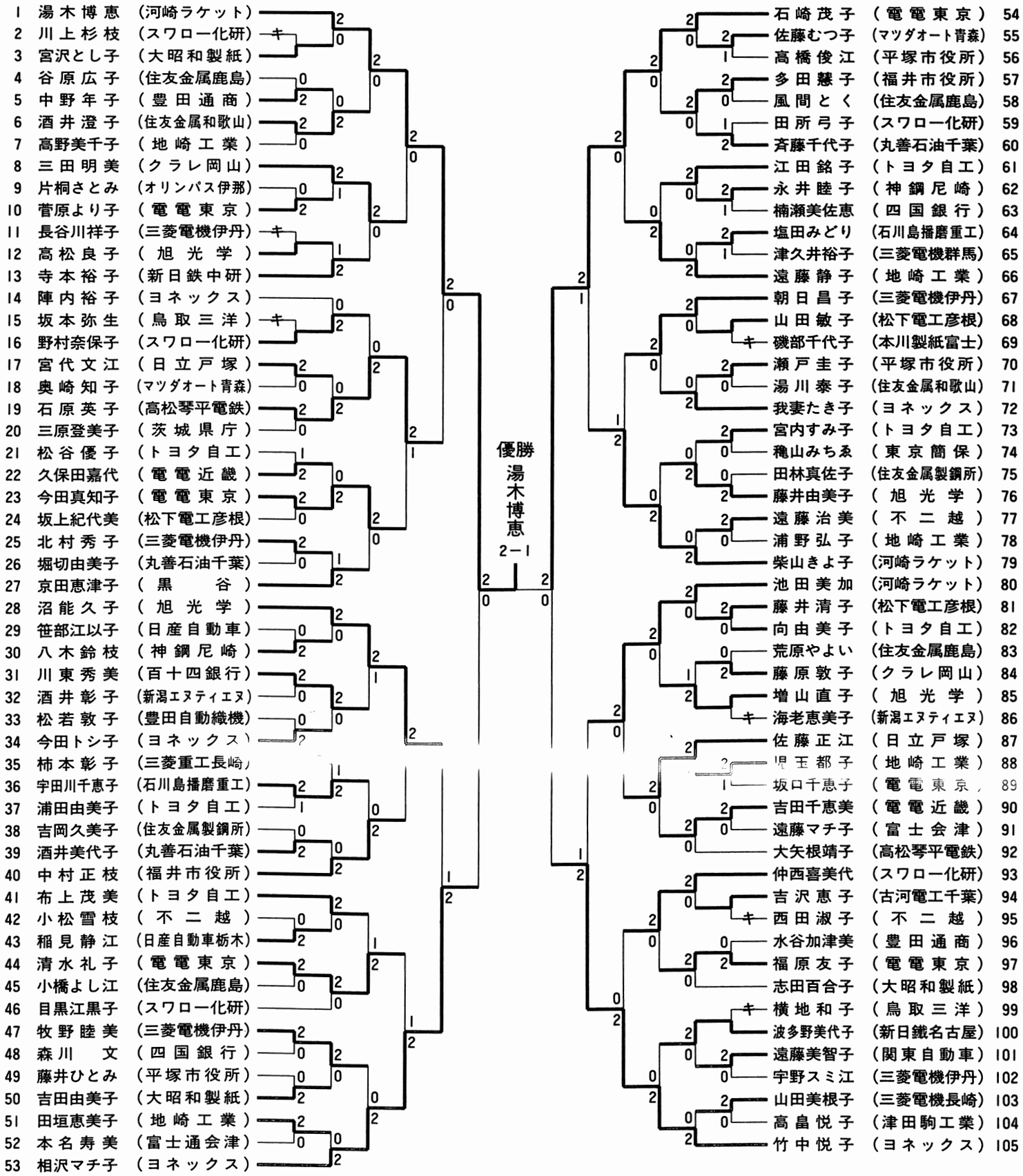
■男子単の部


1 次夫 (トヨタ自工)
2 順和正隆桂栄陽朝弘晴信孝喜夫彦俊己一二行司行悦優治雄一郎雄明夫香剛郎行高男男人行利雄之勇一孝一樹之男三大之樹満男二茂男文彦一俊一保夫樹夫初士行堂孝 (国鉄後藤)
3 間村沢田村谷藤原本山沢本本沢藤中木井居林利村久川下出俣野口中沢橋山所藤田川座本川中井野島田水崎岡本崎広井沢田田 (富士通会津)
4 本木谷薄川畑古上菅山北滝松山小伊田鈴笠松小浅辻関佐石山井竹矢山田米中米田遠松古豚坂梶田松飯中藤清山正滝山末今米諸松斧東辻鈴柴鷲松永源泉塩羽高市池 (サンケン電気)
5 (住友金属和歌山)
6 (不二越)
7 (三菱重工横浜)
8 (三菱電機伊丹)
9 (河崎ラケット)
10 (札鉄)
11 (仙台自衛隊)
12 (スワロー化研)
13 (横浜市役所)
14 (福井市役所)
15 (住友金属鹿島)
16 (三菱化成四日市)
17 (高松市役所)
18 (電電東京)
19 (関東自動車)
20 (トヨタ自工)
21 (電電東京)
22 (丸善石油千葉)
23 (三菱造船長崎)
24 (高岡市役所)
25 (三菱化成黒崎)
26 (小松製作粟津)
27 (電電近畿)
28 (富士フイルム)
29 (東京都庁)
30 (日立因島)
31 (富士電機三重)
32 (丸善松山)
33 (日立水戸)
34 (三菱重工名古屋)
35 (三条機械)
36 (電電東京)
37 (電電北海道)
38 (東京三洋電機)
39 (東レ滋賀)
40 (大日日本電線)
41 (日本曹達高岡)
42 (トヨタ自工)
43 (富士重工)
44 (三井造船玉野)
45 (ヨネックス)
46 (電電近畿)
47 (本田
48 (不二越)
49 (関東自動車)
50 (豊田自動織機)
51 (丸善石油千葉)
52 (ジャトコ)
53 (宇部興産)
54 (河崎ラケット)
55 (高岡市役所)
56 (三菱化成四日市)
57 (石川県庁)
58 (日立戸塚)
59 (札鉄)
60 (住友金属和歌山)
61 (沖電気)
62 (原研東海村)
63 (スワロー化研)
64 (トヨタ自工)
65 (丸善松山)
66 (三晶技研)
67 (日石根岸)
68 (新日鐵広畑)
69 (旭光学)
70 (新日鐵釜石)
71 (甲府市役所)
72 (電電東京)
優勝
銭谷欽治
0−2
73 男市雄吉博信二雅元昭彦正哲規春夫夫均治二吾孝之男夫生一茂守行滋彦一厳司雄寛岳久男康治勉二裕収裕 (高岡市役所)
74 光公忠重正健洋文英政清保一内欽賢健義信照英昭啓信哲和修三幹哲友一隆孝誠安和雄昇一正一勉清久行功男雄博広敏洋昭美隆弘博勲義一 (三菱化成黒崎)
75 牧野川青平小阿板竹山池芹海鎌池山涌安銭坂山佐松米鈴山内竹米小上西八大橋尾谷高小芳三京森水浜宇鈴中岩和南早今高富小山森武西福九水斉笠米青飛下宮栂 (三菱重工名古屋)
76 (新日鐵広畑)
77 (大日本インキ)
78 (高松市役所)
79 (沖電気)
80 (丸善松山)
81 (札鉄)
82 (スワロー化研)
83 (ジャトコ)
84 (住友金属鹿島)
85 (三菱重工横浜)
86 (不二越)
87 (豊田自動織機)
88 (東京トヨペット)
89 (鳥取オニッカ)
90 (津田駒工業)
91 (河崎ラケット)
92 (宇部興産)
93 (大日日本電線)
94 (電電北海道)
95 (トヨタ自工)
96 (高岡市役所)
97 (明治生命)
98 (日立因島)
99 (平塚市役所)
100 (電電近畿)
101 (三菱電機群馬)
102 (三菱化成四日市)
103 (東レ滋賀)
104 (富士フイルム)
105 (不二越)
106 (富士重工)
107 (新日鐵釜石)
108 (電電東京)
109 (トヨタ自工)
110 (松風陶歯)
111 (国鉄青森)
112 (三井造船玉野)
113 (富士重工)
114 (日石根岸)
115 (住友金属大阪)
116 (福井銀行)
117 (電電東京)
118 (住友金属和歌山)
119 (三條機械)
120 (東京都庁)
121 (三菱造船長崎)
122 (電電近畿)
123 (日立水戸)
124 (トヨタ自工)
125 (仙台自衛隊)
126 (高岡市役所)
127 (関東自動車)
128 (東レ滋賀)
129 (電電東京)
130 (不二越)
131 (大日日本電線)
132 (豊田自動織機)
133 (高松市役所)
134 (丸善石油千葉)
135 (電電北海道)
136 (スワロー化研)
137 (横浜市役所)
138 (富士市役所)
139 (北陸コカコーラ)
140 (富士通会津)
141 (三晶技研)
142 (富士電機三重)
143 (サンケン電気)
144 (ヨネックス)

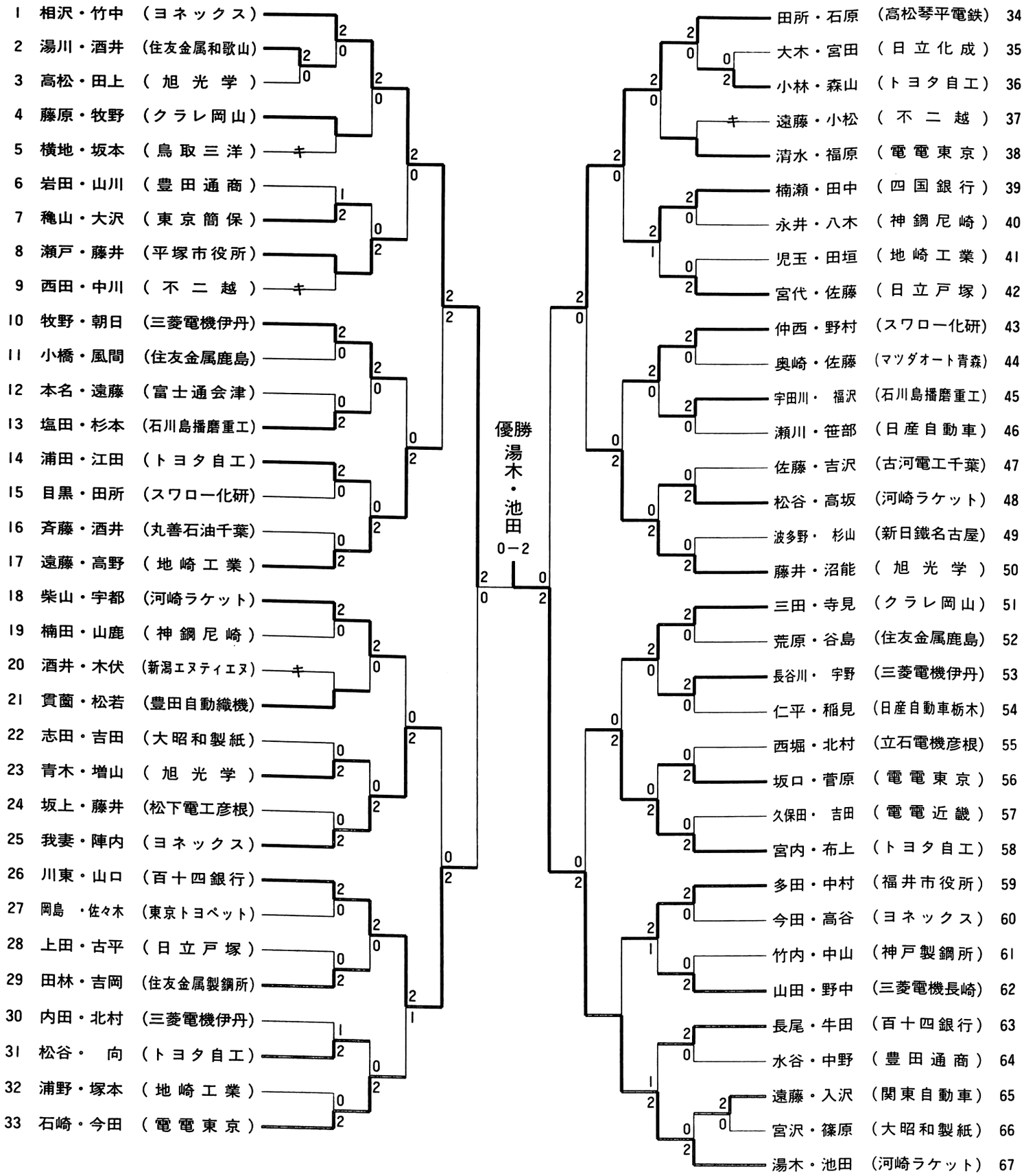
■男子複の部


1 本間・谷口 (トヨタ自工)
2 鷲見・亀田 (鳥取三洋)
3 井口・久保田 (いすゞ栃木)
4 佐倉・林 (日立)
5 矢賀・上藤 (三菱電機伊丹)
6 古谷・高橋 (三菱重工横浜)
7 坂本・山田 (日本曹達)
8 宇治・川村 (住友金属和歌山)
9 高橋・古舘 (日本化成)
10 奥野・菅井 (新日鐵名古屋)
11 竹俣・大原 (東京都庁)
12 斉藤・村石 (本田技研狭山)
13 岩田・中島 (電電近畿)
14 米原・米沢 (高岡市役所)
15 斉藤・島林 (住友金属鹿島)
16 梶川・林 (トヨタ自工)
17 小林一・小林敏 (電電東京)
18 竹内・田中 (丸善松山)
19 京屋・佐藤 (日石根岸)
20 東・山本 (札鉄)
21 諸田・小林 (三菱化成四日市)
22 涌井・入間 (東京トヨペット)
23 遠藤・新津 (甲府市役所)
24 池本・山下 (金沢市役所)
25 遠藤・水川 (スワロー化研)
26 浜谷・田所 (電電東京)
27 高原・幅中 (神戸市役所)
28 飛田・源通 (三晶技研)
29 内田・門倉 (平塚市役所)
30 阿部・岡崎 (高松市役所) キ
31 井出・西島 (富士フイルム)
32 赤塚・九原 (電電北海道)
33 鈴木・米山 (三條機械)
34 上田・古川 (東レ滋賀)
35 加藤・菱田 (名鉄)
36 白井規・白井幸 (海自隊舞鶴)
37 今井・銭谷 (河崎ラケット)
38 鷲尾・池田 (スワロー化研)
39 八川・清水 (不二越)
40 三上・田中 (富士重工)
41 笠間・二見 (神鋼電機伊勢)
42 久保田・能登 (埼玉県庁)
43 金子・平 (横浜市役所)
44 塩飽・平松 (新日鐵広畑)
45 中野・辻 (三菱造船長崎)
46 松居・南田 (トヨタ自工)
47 野本・田児 (電電東京)
48 谷沢・青木 (富士通会津)
49 松下・栗原 (茨城県庁)
50 関村・牧野 (高岡市役所)
優勝
梶野尾・飯野
1－2
51 池田・尾崎 (電電東京)
52 松波・沢田 (三菱重工名古屋)
53 笠川・水上 (福井銀行)
54 山崎・芹沢 (ジャトコ)
55 大島・川上 (富士重工)
56 千田・米田 (三菱電機群馬)
57 森田・豚座 (大日日本電線)
58 渡辺・松本 (横浜市役所)
59 本田・千葉 (仙台自衛隊)
60 滝沢・斉藤 (スワロー化研)
61 藤田・高野 (本田技研狭山)
62 矢部・磯野 (トヨタ自工)
63 木村・遠藤 (電電北海道)
64 梶野尾・飯野 (ヨネックス)
65 弾正原・小山 (香川県庁) キ
66 高橋・阿部 (新日鐵釜石)
67 末広・河添 (宇部興産)
68 桜田・竹村 (日産自動車)
69 正岡・武田 (豊田自動織機)
70 和田・米沢 (日立水戸)
71 森田・梅本 (住友金属)
72 山口・下田 (富士電機三重)
73 浅利・福士 (丸善石油千葉)
74 山田・西原 (大津市役所)
75 堺・菅原 (河崎ラケット)
76 笠井・高橋 (関東自動車)
77 笠井・古群 (富士市役所)
78 福井・石津 (三菱自工京都)
79 村田・浅井 (石川島播磨重工)
80 川野・佐久間 (三菱化成黒崎)
81 畑・山崎 (不二越)
82 松島保・松島信 (トヨタ自工)
83 平向・前田 (日本化成)
84 上野・芳上 (三井造船玉野)
85 米田・林 (金沢市役所)
86 沼田・古明地 (東京簡保) キ
87 岩田・滝野 (電電近畿) キ
88 宮永・鈴木 (明治生命) キ
89 広木・斉藤 (横浜市役所)
90 佐野・山本 (大日日本電線)
91 富田・立川 (石岡市役所)
92 三村・田鍋 (クラレ西条)
93 小林・伊藤 (三菱化成四日市)
94 柴田・山田 (札鉄)
95 村上・山本 (名鉄)
96 辻本・小形 (住友金属和歌山)
97 鈴木・町田 (電電東京)
98 岩崎・小嶋 (日研化学) キ
99 矢野・安田 (日立因嶋)
100 河村・今泉 (高岡市役所)

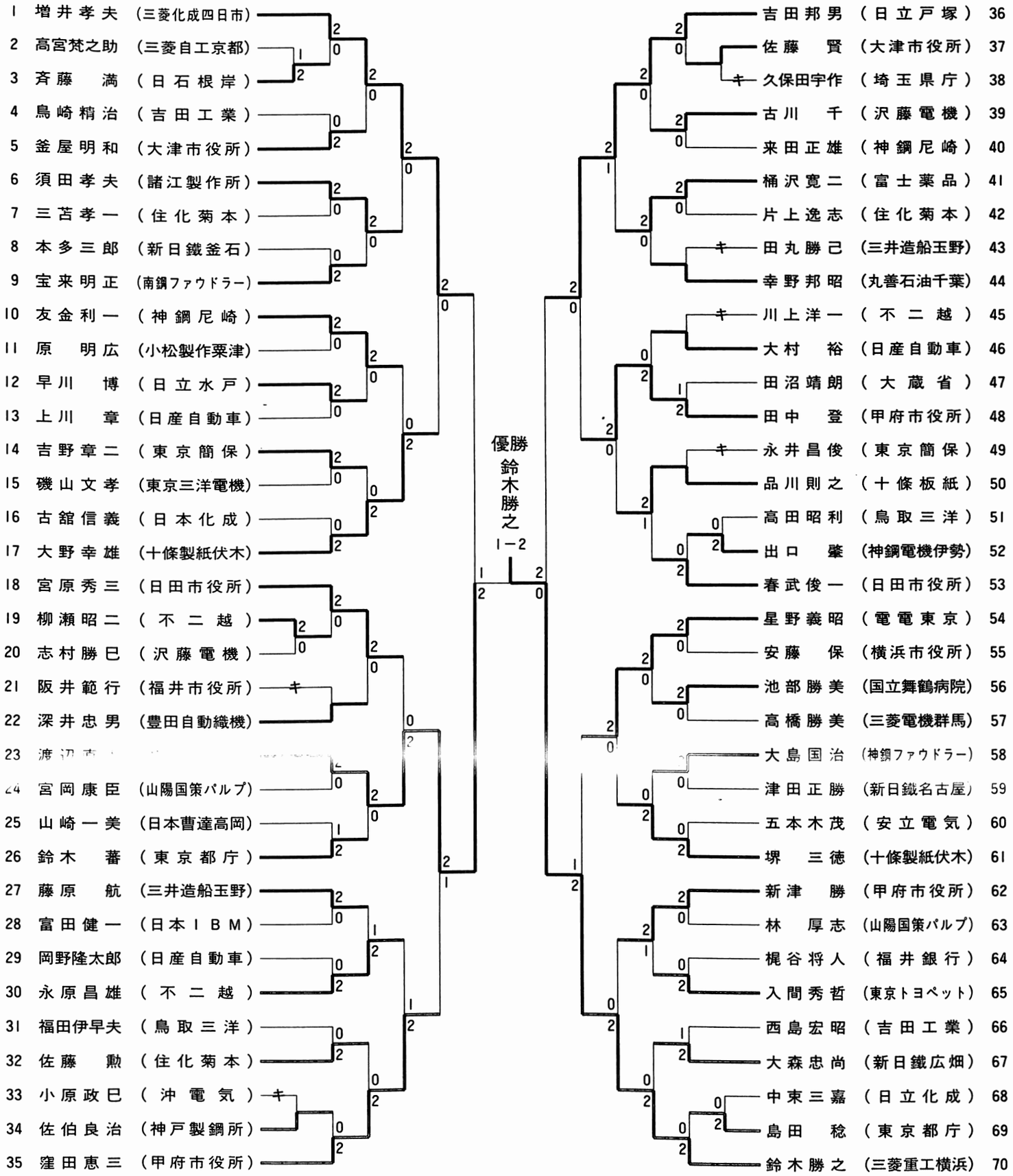
■女子単の部


1 湯木博恵 (河崎ラケット)
2 川上杉枝 (スワロー化研)
3 宮沢とし子 (大昭和製紙)
4 谷原広子 (住友金属鹿島)
5 中野年子 (豊田通商)
6 酒井澄子 (住友金属和歌山)
7 高野美千子 (地崎工業)
8 三田明美 (クラレ岡山)
9 片桐さとみ (オリンパス伊那)
10 菅原より子 (電電東京)
11 長谷川祥子 (三菱電機伊丹)
12 高松良子 (旭光学)
13 寺本裕子 (新日鉄中研)
14 陣内裕子 (ヨネックス)
15 坂本弥生 (鳥取三洋)
16 野村奈保子 (スワロー化研)
17 宮代文江 (日立戸塚)
18 奥崎知子 (マツダオート青森)
19 石原英子 (高松琴平電鉄)
20 三原登美子 (茨城県庁)
21 松谷優子 (トヨタ自工)
22 久保田嘉代 (電電近畿)
23 今田真知子 (電電東京)
24 坂上紀代美 (松下電工彦根)
25 北村秀子 (三菱電機伊丹)
26 堀切由美子 (丸善石油千葉)
27 京田恵津子 (黒谷)
28 沼能久子 (旭光学)
29 笹部江以子 (日産自動車)
30 八木鈴枝 (神鋼尼崎)
31 川東秀美 (百十四銀行)
32 酒井彰子 (新潟エヌティエヌ)
33 松若敦子 (豊田自動織機)
34 今田トシ子 (ヨネックス)
35 柿本彰子 (三菱重工長崎)
36 宇田川千恵子 (石川島播磨重工)
37 浦田由美子 (トヨタ自工)
38 吉岡久美子 (住友金属製鋼所)
39 酒井美代子 (丸善石油千葉)
40 中村正枝 (福井市役所)
41 布上茂美 (トヨタ自工)
42 小松雪枝 (不二越)
43 稲見静江 (日産自動車栃木)
44 清水礼子 (電電東京)
45 小橋よし江 (住友金属鹿島)
46 目黒江黒子 (スワロー化研)
47 牧野睦美 (三菱電機伊丹)
48 森川文 (四国銀行)
49 藤井ひとみ (平塚市役所)
50 吉田由美子 (大昭和製紙)
51 田垣恵美子 (地崎工業)
52 本名寿美 (富士通会津)
53 相沢マチ子 (ヨネックス)
優勝
湯木博恵
2－1
54 石崎茂子 (電電東京)
55 佐藤むつ子 (マツダオート青森)
56 高橋俊江 (平塚市役所)
57 多田慧子 (福井市役所)
58 風間とく (住友金属鹿島)
59 田所弓子 (スワロー化研)
60 斉藤千代子 (丸善石油千葉)
61 江田銘子 (トヨタ自工)
62 永井睦子 (神鋼尼崎)
63 楠瀬美佐恵 (四国銀行)
64 塩田みどり (石川島播磨重工)
65 津久井裕子 (三菱電機群馬)
66 遠藤静子 (地崎工業)
67 朝日昌子 (三菱電機伊丹)
68 山田敏子 (松下電工彦根)
69 磯部千代子 (本川製紙富士)
70 瀬戸圭子 (平塚市役所)
71 湯川泰子 (住友金属和歌山)
72 我妻たき子 (ヨネックス)
73 宮内すみ子 (トヨタ自工)
74 穐山みちゑ (東京簡保)
75 田林真佐子 (住友金属製鋼所)
76 藤井由美子 (旭光学)
77 遠藤治美 (不二越)
78 浦野弘子 (地崎工業)
79 柴山きよ子 (河崎ラケット)
80 池田美加 (河崎ラケット)
81 藤井清子 (松下電工彦根)
82 向由美子 (トヨタ自工)
83 荒原やよい (住友金属鹿島)
84 藤原敦子 (クラレ岡山)
85 増山直子 (旭光学)
86 海老恵美子 (新潟エヌティエヌ)
87 佐藤正江 (日立戸塚)
88 児玉都子 (地崎工業)
89 坂口千恵子 (電電東京)
90 吉田千恵美 (電電近畿)
91 遠藤マチ子 (富士会津)
92 大矢根靖子 (高松琴平電鉄)
93 仲西喜美代 (スワロー化研)
94 吉沢恵子 (古河電工千葉)
95 西田淑子 (不二越)
96 水谷加津美 (豊田通商)
97 福原友子 (電電東京)
98 志田百合子 (大昭和製紙)
99 横地和子 (鳥取三洋)
100 波多野美代子 (新日鐵名古屋)
101 遠藤美智子 (関東自動車)
102 宇野スミ江 (三菱電機伊丹)
103 山田美根子 (三菱電機長崎)
104 高畠悦子 (津田駒工業)
105 竹中悦子 (ヨネックス)

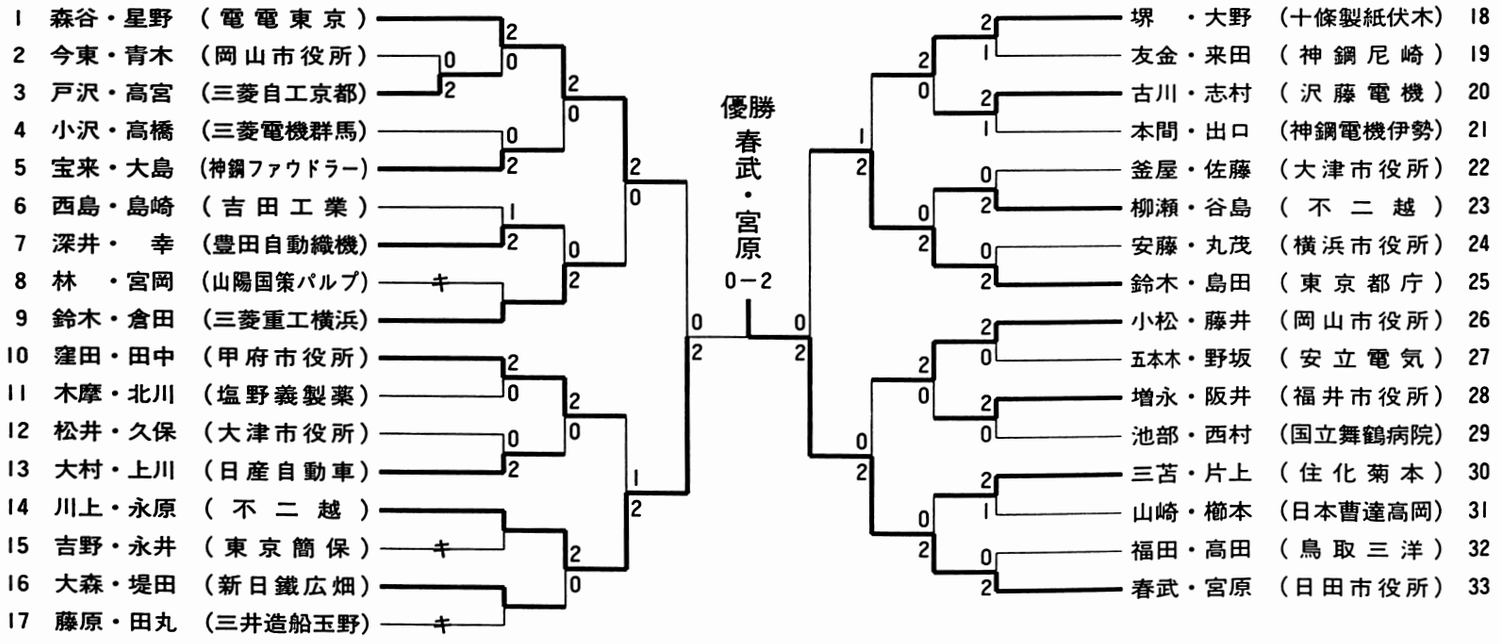
■女子複の部


1 相沢・竹中 （ヨネックス）
2 湯川・酒井 （住友金属和歌山）
3 高松・田上 （旭光学）
4 藤原・牧野 （クラレ岡山）
5 横地・坂本 （鳥取三洋）
6 岩田・山川 （豊田通商）
7 穐山・大沢 （東京簡保）
8 瀬戸・藤井 （平塚市役所）
9 西田・中川 （不二越）
10 牧野・朝日 （三菱電機伊丹）
11 小橋・風間 （住友金属鹿島）
12 本名・遠藤 （富士通会津）
13 塩田・杉本 （石川島播磨重工）
14 浦田・江田 （トヨタ自工）
15 目黒・田所 （スワロー化研）
16 斉藤・酒井 （丸善石油千葉）
17 遠藤・高野 （地崎工業）
18 柴山・宇都 （河崎ラケット）
19 楠田・山鹿 （神鋼尼崎）
20 酒井・木伏 （新潟エヌティエヌ）
21 貫薗・松若 （豊田自動織機）
22 志田・吉田 （大昭和製紙）
23 青木・増山 （旭光学）
24 坂上・藤井 （松下電工彦根）
25 我妻・陣内 （ヨネックス）
26 川東・山口 （百十四銀行）
27 岡島・佐々木 （東京トヨペット）
28 上田・古平 （日立戸塚）
29 田林・吉岡 （住友金属製鋼所）
30 内田・北村 （三菱電機伊丹）
31 松谷・向 （トヨタ自工）
32 浦野・塚本 （地崎工業）
33 石崎・今田 （電電東京）
優勝
湯木・池田
0−2
34 田所・石原 （高松琴平電鉄）
35 大木・宮田 （日立化成）
36 小林・森山 （トヨタ自工）
37 遠藤・小松 （不二越）
38 清水・福原 （電電東京）
39 楠瀬・田中 （四国銀行）
40 永井・八木 （神鋼尼崎）
41 児玉・田垣 （地崎工業）
42 宮代・佐藤 （日立戸塚）
43 仲西・野村 （スワロー化研）
44 奥崎・佐藤 （マツダオート青森）
45 宇田川・福沢 （石川島播磨重工）
46 瀬川・笹部 （日産自動車）
47 佐藤・吉沢 （古河電工千葉）
48 松谷・高坂 （河崎ラケット）
49 波多野・杉山 （新日鐵名古屋）
50 藤井・沼能 （旭光学）
51 三田・寺見 （クラレ岡山）
52 荒原・谷島 （住友金属鹿島）
53 長谷川・宇野 （三菱電機伊丹）
54 仁平・稲見 （日産自動車栃木）
55 西堀・北村 （立石電機彦根）
56 坂口・菅原 （電電東京）
57 久保田・吉田 （電電近畿）
58 宮内・布上 （トヨタ自工）
59 多田・中村 （福井市役所）
60 今田・高谷 （ヨネックス）
61 竹内・中山 （神戸製鋼所）
62 山田・野中 （三菱電機長崎）
63 長尾・牛田 （百十四銀行）
64 水谷・中野 （豊田通商）
65 遠藤・入沢 （関東自動車）
66 宮沢・篠原 （大昭和製紙）
67 湯木・池田 （河崎ラケット）

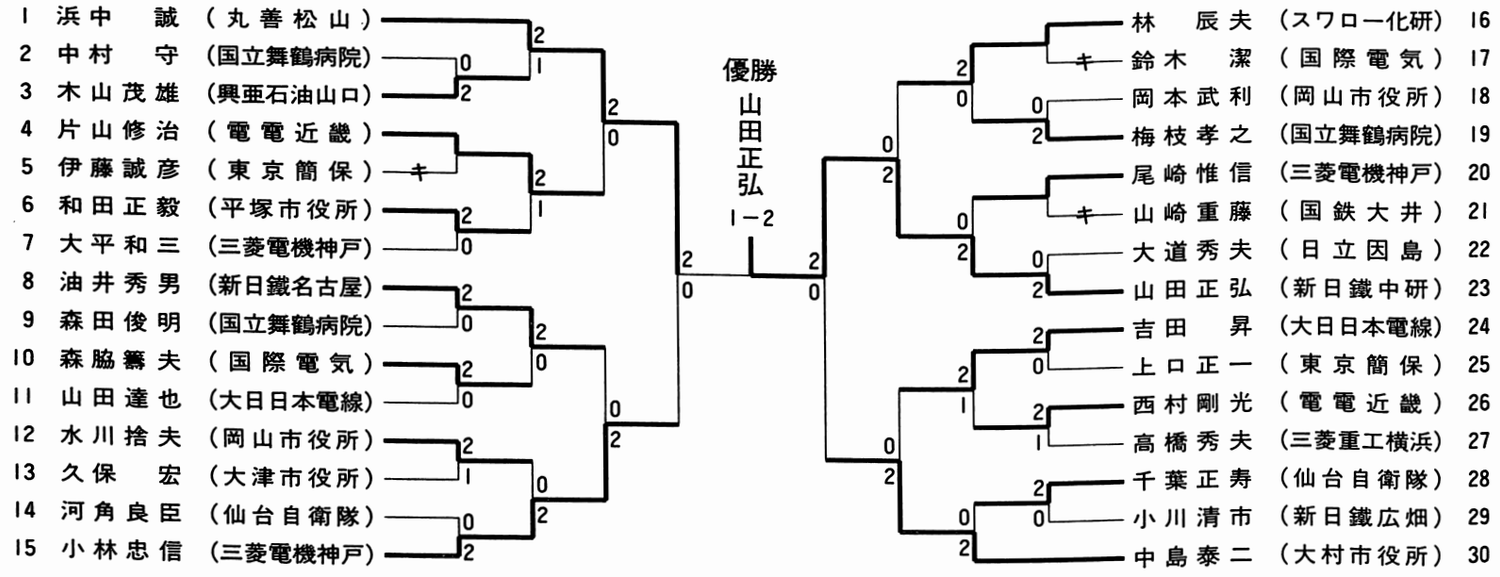
■30歳以上男子単の部


1 増井孝夫 (三菱化成四日市)
2 高宮梵之助 (三菱自工京都)
3 斉藤 満 (日石根岸)
4 鳥崎精治 (吉田工業)
5 釜屋明和 (大津市役所)
6 須田孝夫 (諸江製作所)
7 三苫孝一 (住化菊本)
8 本多三郎 (新日鐵釜石)
9 宝来明正 (南鋼ファウドラー)
10 友金利一 (神鋼尼崎)
11 原 明広 (小松製作粟津)
12 早川 博 (日立水戸)
13 上川 章 (日産自動車)
14 吉野章二 (東京簡保)
15 磯山文孝 (東京三洋電機)
16 古舘信義 (日本化成)
17 大野幸雄 (十條製紙伏木)
18 宮原秀三 (日田市役所)
19 柳瀬昭二 (不二越)
20 志村勝巳 (沢藤電機)
21 阪井範行 (福井市役所)
22 深井忠男 (豊田自動織機)
23 渡辺
24 宮岡康臣 (山陽国策パルプ)
25 山崎一美 (日本曹達高岡)
26 鈴木 蕃 (東京都庁)
27 藤原 航 (三井造船玉野)
28 富田健一 (日本IBM)
29 岡野隆太郎 (日産自動車)
30 永原昌雄 (不二越)
31 福田伊早夫 (鳥取三洋)
32 佐藤 勲 (住化菊本)
33 小原政巳 (沖電気)
34 佐伯良治 (神戸製鋼所)
35 窪田恵三 (甲府市役所)
優勝
鈴木勝之
1-2
吉田邦男 (日立戸塚) 36
佐藤 賢 (大津市役所) 37
久保田宇作 (埼玉県庁) 38
古川 千 (沢藤電機) 39
来田正雄 (神鋼尼崎) 40
桶沢寛二 (富士薬品) 41
片上逸志 (住化菊本) 42
田丸勝己 (三井造船玉野) 43
幸野邦昭 (丸善石油千葉) 44
川上洋一 (不二越) 45
大村 裕 (日産自動車) 46
田沼靖朗 (大蔵省) 47
田中 登 (甲府市役所) 48
永井昌俊 (東京簡保) 49
品川則之 (十條板紙) 50
高田昭利 (鳥取三洋) 51
出口 肇 (神鋼電機伊勢) 52
春武俊一 (日田市役所) 53
星野義昭 (電電東京) 54
安藤 保 (横浜市役所) 55
池部勝美 (国立舞鶴病院) 56
高橋勝美 (三菱電機群馬) 57
大島国治 (神鋼ファウドラー) 58
津田正勝 (新日鐵名古屋) 59
五本木茂 (安立電気) 60
堺 三徳 (十條製紙伏木) 61
新津 勝 (甲府市役所) 62
林 厚志 (山陽国策パルプ) 63
梶谷将人 (福井銀行) 64
入間秀哲 (東京トヨペット) 65
西島宏昭 (吉田工業) 66
大森忠尚 (新日鐵広畑) 67
中東三嘉 (日立化成) 68
島田 稔 (東京都庁) 69
鈴木勝之 (三菱重工横浜) 70

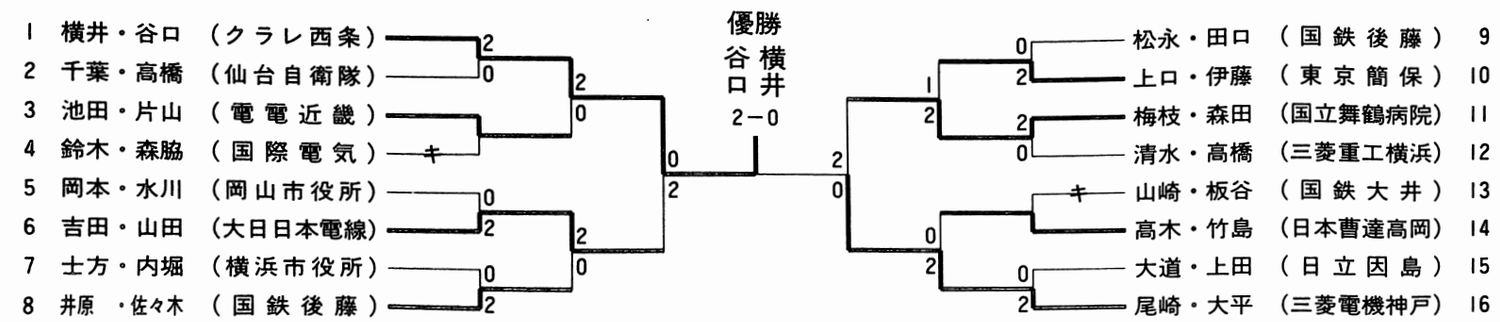
■30歳以上男子複の部



■40歳以上男子単の部



■40歳以上男子複の部



■出場選手名簿

県名	事業所名	監督名	選手名
大分	日田市役所	春武　俊一	春武俊一・宮原秀三
長崎	三菱重工・長崎造船	田中　貞夫	中野和夫・辻　優・福田良治・岩永文隆・馬場重文・田中貞夫・柿本彰子
	三菱電機・長崎	長松　保男 山口　正博	中松保男・山口正博・下釜和則・松山　清・江口　博・梅本俊規 斉藤康子・山田美根子・野中ミチ子・川上紀登美・関　京子
	大村市役所		中島恭二
福岡	三菱化成・黒崎		川野公市・佐久間政雄
山口	宇部興産	末広　秀樹	末広秀樹・河添忠夫・石川好夫・坂本賢二・吉村正則・藤原　薫
	興亜石油	木山　茂雄	田中博美・加藤英臣・木山茂雄・真柴秀実・金子隆志
	山陽国策パルプ		林　厚志・宮岡康臣
鳥取	鳥取三洋電機	鷲見　育亮	鷲見育亮・亀田弘之・福田伊早夫・高田昭利 坂本弥生・横地和子・山根里美・吉村春美・横川智恵美
	国鉄・後藤		井原平八郎・佐々木義政・松永恭冒・田口恒治・木村和夫
	鳥取オニツカ		安倍一夫
広島	日立造船・因島	上田　辰男	岩越　章・中山有司・矢野信夫・山本昭生・安田守夫・大塚良一・中村忠一・大道秀夫 上田辰男
	日本鋼管・福山	曽根　光夫	多田稔和・前田　巧・梅月　隆・南雲文彦・田上義美・福谷武人
岡山	岡山市役所	小松　貴	藤井英雄・今東光一・小松　貴・崎本明雄・青木元春・岡本武利・水川捨夫
	三井造船・玉野	虻江　優	田丸勝巳・藤原　航・上野輝治・芳上一男・松井　一・毛利利夫・町田謙一
	クラレ・岡山	田中　次郎	三田明治・寺見みど里・藤原敦子・牧野祥子・立元ふじ子
愛媛	丸善石油・松山	藤田　峰斎	永井龍夫・竹内洋雅・田中政則・能田隆雄・藤田峰斎・浜中　誠・松木信夫
	住友化学・菊本	大島　亮	片上逸志・本田民次郎・戸井田　誠・高塚俊司・大塚良兼・三苫孝一・佐藤　勲
	クラレ・西条		横井虎男・谷口金夫・三村一郎・田鍋光行
高知	四国銀行	田中　裕三	楠瀬美佐恵・森川　文・楠瀬順子・植田早世・田中由美・長井美枝
香川	高松市役所	横岡　忠幸	阿部正信・岡崎和良・田中信一・西池孝博・横岡忠幸・野口利行・谷本庄一
	香川県庁	河合　親	真鍋　剛・弾正原義春・野須博文・小山光男・英　俊次・岡田忠己・柳原泰夫
	高松琴平電鉄	東条　義昭	石原英子・田所静子・大矢根靖子・平井佐代子・山田高子・東条義昭
	百十四銀行	増田　照夫	長尾弥生・山口豊子・川原秀美・牛田真由美・片岡由美・岡本好子
兵庫	新日鐵・広畑		[illegible]・大島和則・小川清市
	大日日本電線	吉田　昇	豚座一利・森田幸男・佐野義則・山本健吾・狩集　功・大野憲一・今井則明・吉田　昇 山田達也
	三菱電機・伊丹	山田　直也 荻野　一夫	上藤朝之・矢賀雅人・入口藤男・入口弥一郎・浅岡正久・亀井義則・寺尾一秀 牧野睦美・長谷川祥子・朝日昌子・内田百合子・宇野スミエ・北村秀子
	三菱電機・神戸		尾崎惟信・大平和三・小林忠信
	神戸製鋼・神戸	佐伯　良治	植松虎雄・矢口重夫・佐伯良治・伊藤　修・岡部秀美・村尾　隆・子川芳孝 竹内恵美子・武居妙子・中山豊子・谷久美子
	神戸製鋼・尼崎	鍋田　賢一 来田　正雄	友金利一・浜野　孝・小泉淳一・来田正雄・田中　至・田中紀久・田崎哲夫・田中晋義 楠田栄子・山鹿りつ子・藤木敬子・永井睦子・八木鈴枝
	神戸市役所		高原信幸・幡中光栄
	神鋼ファウドラー	永井　敏彦	宝来明正・大島国治・柴田健一・小林敏晴・平谷常憲・鎌田敏治・千葉達夫
	古河金属工業	山口　真	粟　守・上田政充・平岡敬市・角田正直・中村　紀・椎屋三年・丸山和行
	住友金属鋼管	井内　利治	仲本恵子・吉沢郁子・阪田成美・松井恵子・鎌田晴美・大長正容・小田清二・奥村晴一
大阪	電電近畿	池田　芳麻 片山　修治	竹原　茂・岩田　勇・岩田　昇・滝野公一・中島真一・山下順二郎・小野健二・片山修治 池田芳麻・西村剛光・久保田嘉代・吉田千恵美・餌取貴美子・大門与吏子
	スワロー化研	林　辰夫	遠藤和男・鷲尾正一・水川九洋・滝沢孝三・斉藤雅伸・池田文昭・林　辰夫 仲西喜美代・野村奈保子・目黒江里子・田所了子・川上杉枝

県名	事業所名	監督名	選手名
大阪	住友金属製鋼所	三上　博敏	梅本　彰・森田　勉・田辺修一・藤野勝次・中沢　登・野村　隆・畑　嘉秀 田林真佐子・吉岡久美子
	阪急電鉄	岡田　栄	野沢明雄・渋谷元己・出田安隆・市橋　茂・長沢秀信・坂本徳治・葭　孝久
	塩野義製薬	本摩　恒則	本山一郎・妹尾健史・片山照明・西原義孝・小池正博・本摩恒則・北川忠雄
	住友生命	堀　文比古	佐藤芳朗・三宅　保・丸井広道・堀　文比古・木原　茂
	十条板紙		品川則之
京都	三菱自工・京都	石津　正明	福井達雄・石津正明・国沢正雄・高宮梵之助・西川裕明・玉田高行・富永和重
	松風陶歯	高藤　哲岳	徳田　進・深谷幸雄・高藤哲岳・森本義幸・伊佐恒範
	島津製作所	上田　勉	奥田俊次・長岡喜久男・上田　勉・藤江正則・甲良洋一・若林　登
	海上自衛隊・舞鶴	橋本　禎二	田野栄敏・瀬野俊策・川村道厚・白井規久夫・田野博之・鈴木敏郎・白井幸夫
	国立舞鶴病院		池部勝美・西村暉脩・梅枝孝之・森田俊明・中村　守
滋賀	日本ＩＢＭ	富田　健一	富田健一・石原　誠・小原径一・井上裕二・梅本一貫・金子信一
	大津市役所	久保　宏	佐藤　賢・釜屋明和・松井弥寿男・田中正民・平尾　薫・西原四郎・山田杉男・久保　宏
	東レ・滋賀	富田　茂久	上田哲滋・古川正行・富田茂久・山中保一・古川孝典
	松下電工・彦根	谷　和男	坂上紀代美・山田敏子・宮崎洋子・藤井清子
	立石電機・草津	木下　寿則	西堀喜代子・北村弘美・横井幸子・沢　絹枝・小島ことみ
和歌山	住友金属・和歌山	宇治　収	川村桂司・辻　満彦・宇治　収・辻本　進・谷口洋二・小形喜樹・上田重和 湯川泰子・酒井澄子・坂本喜和美・中村由美子
	丸善石油・下津	林　保雄	志場　周・和久谷富章・楠戸春則・穂谷真弘・上野健一・栩野康夫・森　隆
	東亜燃料・和歌山	田中　務	坂東康夫・錦織久夫・田中秀男・阿部　悟・上村一弘・芝崎泰和・足田芳親
三重	三菱化成・四日市	増井　孝夫	増井孝夫・小林信行・小林　悟・伊藤正己・諸田秀二
	富士電機・三重	安藤　勲	安藤　勲・山口　香・下田　勲・藤本規夫・木下　豊・古沢正博・後藤俊彦
	神鋼電機・伊勢	本間与紀雄	本間与紀雄・出口　肇・笠間　進・二見　博・木村正夫・前田　充・北村則夫
	松下電工・伊勢	上田　晴美	橋爪節子・磯部婦久代・林八重子・中山幸子・宮本文代
愛知	トヨタ自動車	長谷川敏彦	谷口　寛・本間順次・松下　保・松下信之・松居宏司・南田義正・梶川博之・矢部芳光 磯野雄二・林伸一郎・宮内すみ子・布上茂美・松谷優子・浦田由美子・小林洋子・江田銘子 向由美子・森山晴美
	豊田自動織機	武田　正雄	正岡洋三・武田正雄・深井忠男・山口清春・中田武良・榊原輝次・幸　克美 松若敦子・貫薗妃美子
	名古屋鉄道	井沢　宏	村上敏行・山本良雄・加藤保利・菱田修光・三浦正司・沢　昭夫 宝刀京子・迫田真由美・角みどり・小原安子・渡部栄子・横井恵子
	新日鐵・名古屋	油井　秀男	奥野哲次・山本卓男・菅井　孝・奥野省三・佐々木秀一・山口元吉・津田正勝・油井秀男 波多野美代子・杉山敬子・江端幸子・竹内佐知子
	三菱重工・名古屋	加藤　聖和	松波　譲・江田正夫・中橋友行・青山忠雄・岩田　崇
	大同製鋼	阪本　正次	阪本正次・北川利光・賢生秀隆・戸松一郎
	豊田通商	山川　好美	山川好美・岩田由美子・水谷加津美・中野年子・岩田由美子・山川好美
岐阜	岐阜県庁	宮嶋　正直	石田　貢・所　晃・掛布恭治・丹羽俊和・浅野人美・高橋伸治・田口伸治
	川崎重工・岐阜	堀田　実	只野　博・高田秋男・大西正芝・田中充夫・井崎善雄・大島辰弘・友岡幸一
静岡	富士フィルム・富士宮	吉田　真	滝　正孝・西島知彦・仲沢　豊・吉岡直彦・井出裕雄
	富士市役所	川端　忠司	平野孝雄・菅沼友明・笠井好美・古都文博・松本哲典・小川勝久
	日本自動変速機		山崎和之・芹沢英彦
	日産自動車・吉原	望月　吉広	大石勝信・平野哲司・影島俊一・山本秀和・望月吉広
	本州製紙・富士	町田　守正	永田節子・今井田真澄・笠井恵子・加藤悦子・鈴木あつ子・鈴木ひろ美・渡辺光代・磯部千代子
	大昭和製紙	金子　俊一	志田百合子・吉田由美子・宮沢とし子・篠原千鳥
福井	福井市役所	増永　秀則	増永秀則・阪井範行・山本敏彦・嶋田伸行・吉村清一・山部敏夫・佐藤信恵・多田慧子 藤井尚美・宮浦そと江・山口千鶴子・中村正枝
	福井銀行	宮崎　康恵	梶谷将人・松浦信幸・笠川俊教・水上誠二・中村幸平

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
石　川	津田駒工業	安江　　勉	安江　勉・堂谷内均・山本秀夫・竹鼻達夫・寺田博人・西念　勉・高畠悦子
	金沢市役所	太田　博之	池木和雄・泉　光男・米田幸生・林　芳広・山下敏行・山形　博・中村久雄
	小松製作所・粟津	原　　明弘	石川順一・北　秀樹・桝野泰弘・中田良明・原　明弘
	石川県庁	松田　　茂	松田　茂
	北陸コカコーラ	米　　正隆	米　正隆
新　潟	三条機械製作所	鈴木　　裕	鈴木　裕・米山　高・池田英夫・久住勝利
	新潟エヌティエヌ	本田　　務	酒井彰子・木伏丈子・海老恵美子・榊原優子
長　野	諏訪精工舎	山田　一六	里見良三・千野統雄・福永保人・塩川敏行・北沢恵子・林美智子・小泉ひとみ・細井のり子
	昭和電工・大町	那須・義博	山崎己良・薄井　治・間島利雄・那須義博・矢口正人・福田善一・小林英彦
	オリンパス・伊那	大野　忠雄	北原まゆ美・片桐さとみ・米山二三子・北原加代子・松下美知子
東　京	国際電気		鈴木　潔・森脇籌夫
	沢藤電機	渡辺　　淳	古川　千・志村勝己
	足立電気	五本木　茂	五本木茂・野坂英樹・川原喜一・金子孝則
	石川島播磨重工	村田　俊夫	村田俊夫・浅井良伸・塩田みどり・宇田川智恵子・福沢美知代・杉本悦子・佐伯昌美
	諸江製作所	久我　　優	須田孝夫・他３名
	日立製作所	上田　泰司	林　幸三・大谷正人・片岡孝嘉・佐倉和明・上田泰司・山形一志・藤川光広
	東京地方簡易保険局	永井　昌俊	沼田七郎・古明地正邦・吉野章二・武田公正・大室正治・永井昌俊・伊藤誠彦・上口正一 穐山みちえ・大沢由子・青木フミ子・武沢ヨシ江・古明地八重子
	日本化薬・王子	黒石　善治	柳　久男・吉沢寛治・杉村秀夫・柳内浩司・野崎光生
	東京電力	岡本　武明	小野田文雄・田口敏允・奥山一彦・田中一彦・上岡　泉・子守英夫・津田由広
	航空宇宙技術研究所	名越　孝行	名越孝行・楯　篤志・阿部正男・平林則則・野口正芳
	国鉄・大井	佐藤　　修	山口清奉・鈴木登美夫・佐藤・修・黒須博之・幡野富士男・松本増夫・大竹英樹・山崎重藤 板谷忠男
	東京トヨペット	飯牟礼俊英	入間秀哲・涌井保夫・茂呂文男・長谷川吉右・高橋徳美・岡島信子・藤井節子・秋谷京子 大滝育子・佐々木千鶴子
	大蔵省	佐野　昇逸	渡辺健一・福田光雄・田沼靖朗・大堀慶信・佐藤慶広・栖山良一・塚原広三 嘉数るみ・児玉裕子・中村綾子・竹内利枝・清水節子・石井京子・水野富貴子
	沖電気	佐藤彦次郎	鈴木清一・板垣健二・山田善三・池田秀美・田口長生・佐藤彦次郎・小原政己 [illegible]
	東京都庁	鈴本　　蕃	鈴木　蕃・島田　稔・竹俣　明・大原政義・藤本　彰・福田　正
	明治生命	宮永　武司	鈴木英夫・杉本伸之・佐藤　賢・服部秀昭・宮永武司 金子喜久江・倉橋智美・奥　和代・伊井君江・荻原洋子
	ヨネックス	栂野尾昌一 竹中　悦子	栂野尾昌一・土田　隆・菅原　薫・飯野佳孝・千葉忠夫・西村　修・高橋俊夫 竹中悦子・相沢マチ子・我妻たき子・陣内裕子・大江京子・今田トシ子・高谷陽子
	北辰電機	千葉　正皓 黒崎　二男	阿部正行・平手政治・山本洋彦・堀越　進・明間隆三・堀川　誠・黒崎二男 宮本小夜子・天野広美・竹田かすみ・高井春美
	河崎ラケット	堺　　栄一	堺　栄一・平井克英・今井茂満・菅原弘貴・銭谷欽治・湯木博恵・柴山きよ子・池田美加 宇都裕子・松谷京子・高坂和枝・長谷川幸枝
	電電東京	鈴木　健二	鈴木健二・池田信孝・小林一行・小林敏行・田所光男・浜谷安裕・尾崎幹雄・町田秀和 野本綱夫・田児淳一・星野義昭・森谷喜久男 石崎茂子・今田真知子・坂口千恵子・菅原より子・清水礼子・福原友子・中鉢悦子

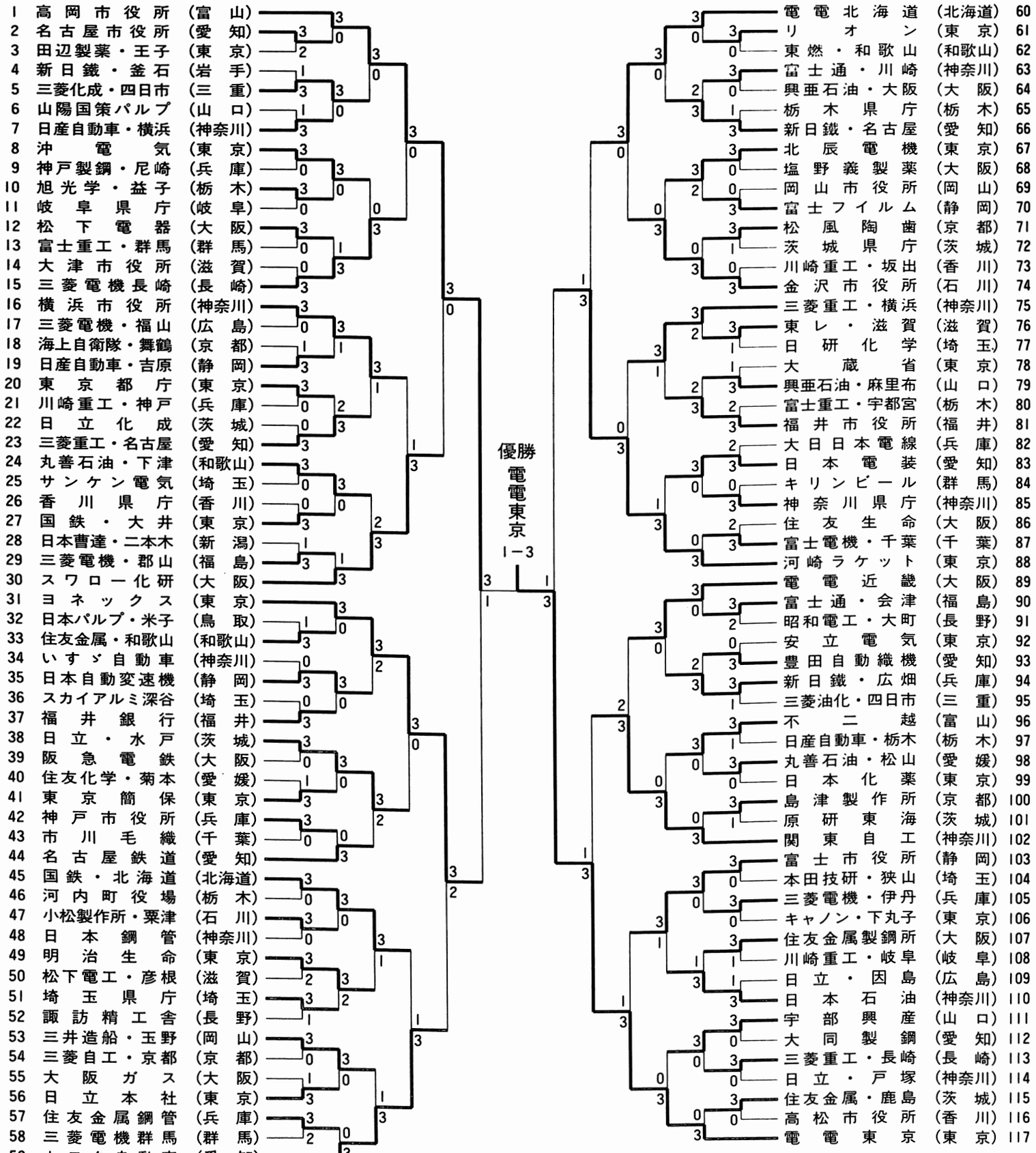
県名	事業所名	監督名	選手名
神奈川	関東自動車	山内　久雄 井上　忠久	山崎幸男・笠井教行・高橋　清・巽　康司・千場弘己・木戸　登 大木さよ子・遠藤美智子・砂川則子・入沢美奈子
	横浜市役所	安藤　保	金子英司・広木俊一・渡辺直人・松本利喜夫・平　敏司・斉藤英昭・宍戸安治・安藤　保 伊藤祐美
	三菱重工・横浜	倉田豊三郎	鎌田　哲・高橋保則・鈴木勝之・倉田豊三郎・古谷陽一・赤垣昭憲・熊谷純雄・高橋秀夫 清水　武
	日産自動車	大村　裕	桜田豊二・大村　裕・岡野隆太郎・吉浪益三・竹村芳雄・上川　章・瀬川美恵子・笹部江似子
	平塚市役所	和田　正毅	杉崎正夫・三觜嘉雄・内田啓一・門倉政雄・石川正美・和田正毅・瀬戸圭子 藤井ひとみ・高橋俊江・高井深雪
	日立・戸塚	鈴木　誠一	北村敏明・吉田邦男・甘粕美治・川瀬和利・斧　政男・宮代又江・佐藤正江・上田敏恵
	日本石油・根岸	京屋・孝治	泉　信夫・佐藤幸男・京屋孝治・斉藤　満・平田正巳・佐々木登・石津富夫
	日本鋼管・京浜	八木　和夫	八木和夫・川崎隆正・遠藤啓治・青木　昇・杈森信二・右田忠男
	いすゞ自動車	田中　正誼	波　博義・神越　武・須藤修一・佐々木孝治・手塚利雄
	新日鉄・製品研	山田　正弘	山田正弘・寺本裕子
栃木	アイワ	藤田由己男	藤田由己男・森　一夫・小堀英二・赤羽右次・横田　茂・黒崎敏男・中村　弘
	河内町役場	桜井　悦夫	桜井悦夫・斉藤幸男・橋本初男・石川信夫・鈴木悦夫
	いすゞ自動車・栃木	井口　保	井口　保・久保田昌之・石川　清・米須清一・小林重雄
	富士重工・宇都宮	永山　隆	三上隆康・川上岩雄・大島　厳・田中　勇・高橋　保・高橋秀行・星　正幸
	旭光学・益子	羽石　武士	羽石武士・藤井由美子・沼能久子・高松良子・増山直子・青木恵津子・田上恒子
	日産自動車・栃木	田中　英男	仁平美江・黒川よし子・稲見静江・塩野谷信子
茨城	住友金属・鹿島	江藤　伸	伴　順造・斉藤　勇・島林総造・小沢直俊・海藤　正 荒原やよい・小橋よし江・風間とく・谷島広子・菅谷孝子
	石岡市役所		富田　功・立川芳男
	日立・水戸	早川　博	菅野　孝・和田講一・村谷信之・米沢志郎・早川　博・福田嘉代志・本谷　進
	原研・東海村	柴田　孝俊	柴田孝俊
	茨城県庁	塩田　章夫	塩田章夫・松下高輝・栗原一美・柄沢利行・鈴木　守・三原登美子
	日立化成	中束　三嘉	大塚富士夫・水野　裕・千葉善夫・今　睦夫・佐藤信良・上石田常治・中束三嘉 大木正子・宮田文子
千葉	大日本インキ		小柳　博
	丸善石油・千葉	幸野　邦昭 南村　嘉男	浅利章悦・菊地栄幸・馬場秀明・福士敏広・滝本和大・南村嘉男・幸野邦昭 斉藤千代子・酒井美代子・堀切由美子・春日妙子
	千葉県庁	田中　正生	相沢美江子・池田記子・竹内妙子・横山和子
	古河電工・千葉	山下　正道	佐藤信子・吉沢恵子
	日研化学	石川　二郎	山口喜雄・吉田　司・岩崎　茂・小嶋幸雄・吉村重和・石川二郎
	サンケン電気	今井　清兼	薄田隆衛・田中忠義・小林洋一・小椋善代次・宮本一義・坂元・勝・竹田建夫
	本田技研・狭山	古谷　利男	藤田茂樹・斉藤次男・村石正昭・松原裕史・藤田信夫・高野博通
	埼玉県庁	吉成　素彦	黒須　栄・久保田宇作・内川雅博・宮崎　茂・永田喜雄・猪股正人・能登則男
山梨	甲府市役所	古谷　利夫	田中　登・遠藤真男・窪田恵三・新津　勝・市川征治
群馬	東京三洋電機		松田和人・磯山文孝
	富士重工	渡辺　晃一	坂口隆夫・渡辺晃一・山形　武・高田　修・高野貞男・藤井良典・青木芳明
	三菱電機・群馬	茂木　正弘	小沢永一・高橋勝美・栗原　弘・金山利夫・千田泰男・米田　守・田島文雄・津久井裕子
福島	日本化成	古舘　信義	高橋秀之・平向一郎・前田今朝美・古舘信義
	富士通・会津	金子健一郎	谷沢正広・青木昭弘・渡部信博・塚越厚生・金子健一郎・遠藤マチ子・本名寿美
宮城	仙台自衛隊	千葉　正寿	石持亘一・北山信次・早坂洋一・千葉正幸・本田辰夫・河角良臣・高橋吉雄
岩手	新日鐵・釜石	本多　三郎	高橋利行・斉藤謙一・高橋道夫・金子正一・菅井剛彦・阿部哲夫・橋本三司
青森	国鉄・青森		小野友久

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
青　森	マツダオート・青森	遠藤　靖史	奥崎知子・佐藤むつ子・工藤悦子・斉藤恵子
北海道	国鉄・北海道	渋井　　明	東　政文・山田　元・山田好明・柴田賢治・山本晴通・山田　篤・平　秋義
	電電北海道	伊勢　　武	木村敏男・赤塚正三・遠藤好男・平山三城・九原正敏・佐藤義孝・岩村重勝
	地崎工業	岩崎　昭郎	児玉郁子・遠藤静子・高野美千子・田垣恵美子・浦野弘子・塚本裕美子・浅利志子
富　山	高岡市役所	中山　邦夫	河村博之・今泉　勉・関村順治・牧野光男・米原照男・中山邦夫・米沢和男
	日本曹達・高岡	橋本　正弘	山崎一美・櫛本時陽・坂本光男・山田弘文・倉田　孝・高木孝一・中山邦夫
	不二越	永原　昌雄	畑　栄進・永原昌雄・川上洋一・八川修一・山崎　功・池田政規・清水信之・柳瀬昭二 谷島軍二・西田淑子・中川恵子・遠藤治美・小松雪枝・中川睦子
	富山県庁	中山　利昭	中山利和・鷺岡　雅・斉藤利明・大野正和・西村美鶴・高島宗昭
	三晶技研		飛弾是博・源通直樹
	十條製紙・伏木	堺　　三徳	堺　三徳・大野幸雄
	富士薬品		桶沢寛二
	吉田工業	島崎　精治	西島宏昭・島崎精治
	黒谷		京田恵津子

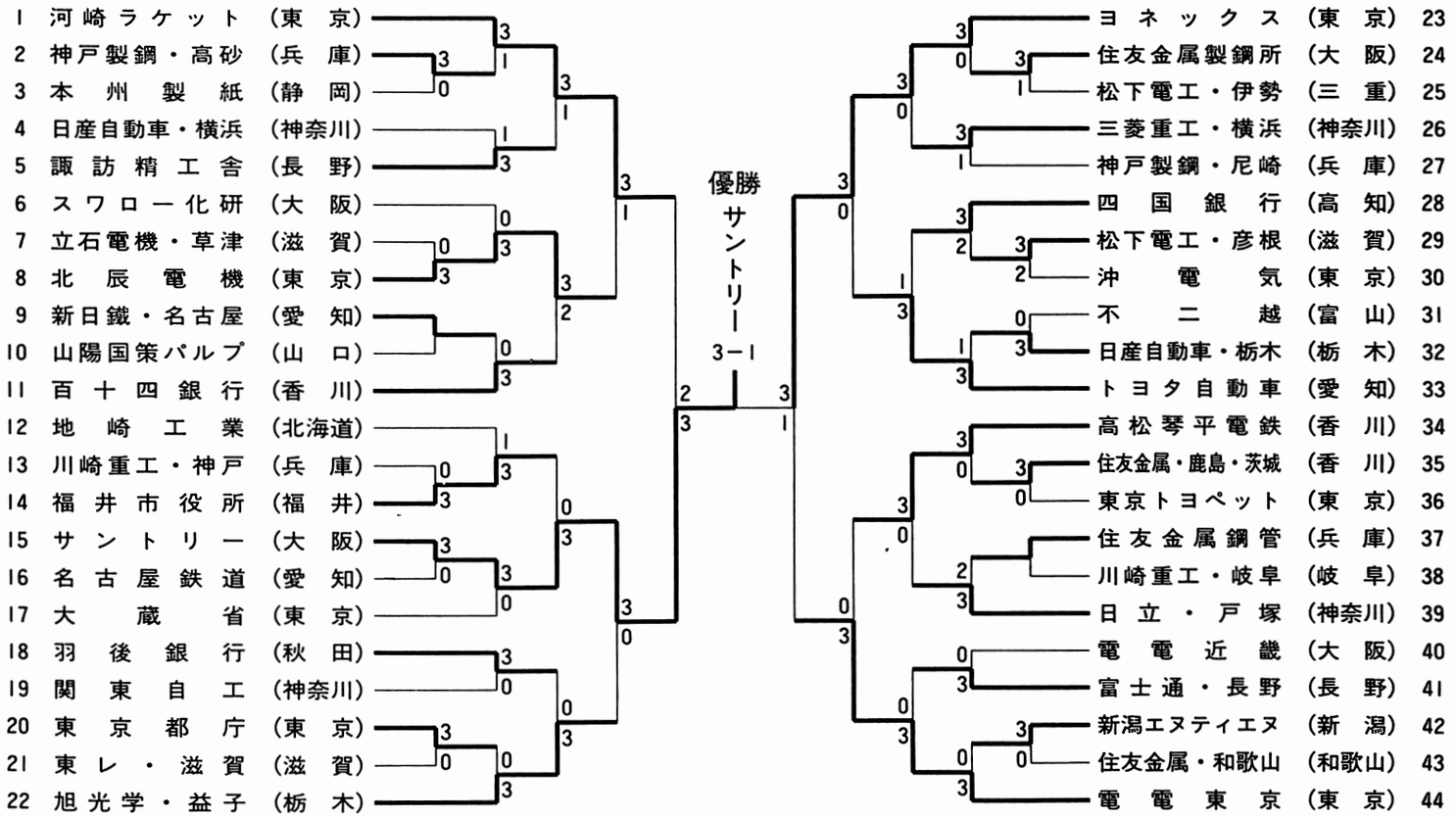
第26回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1976年(昭和51年)6月25～30日
開 催 地：神奈川県藤沢市
会　　場：藤沢市立秩父宮記念体育館、
神奈川県立スポーツセンター体育館、
三菱電機大船製作所体育館

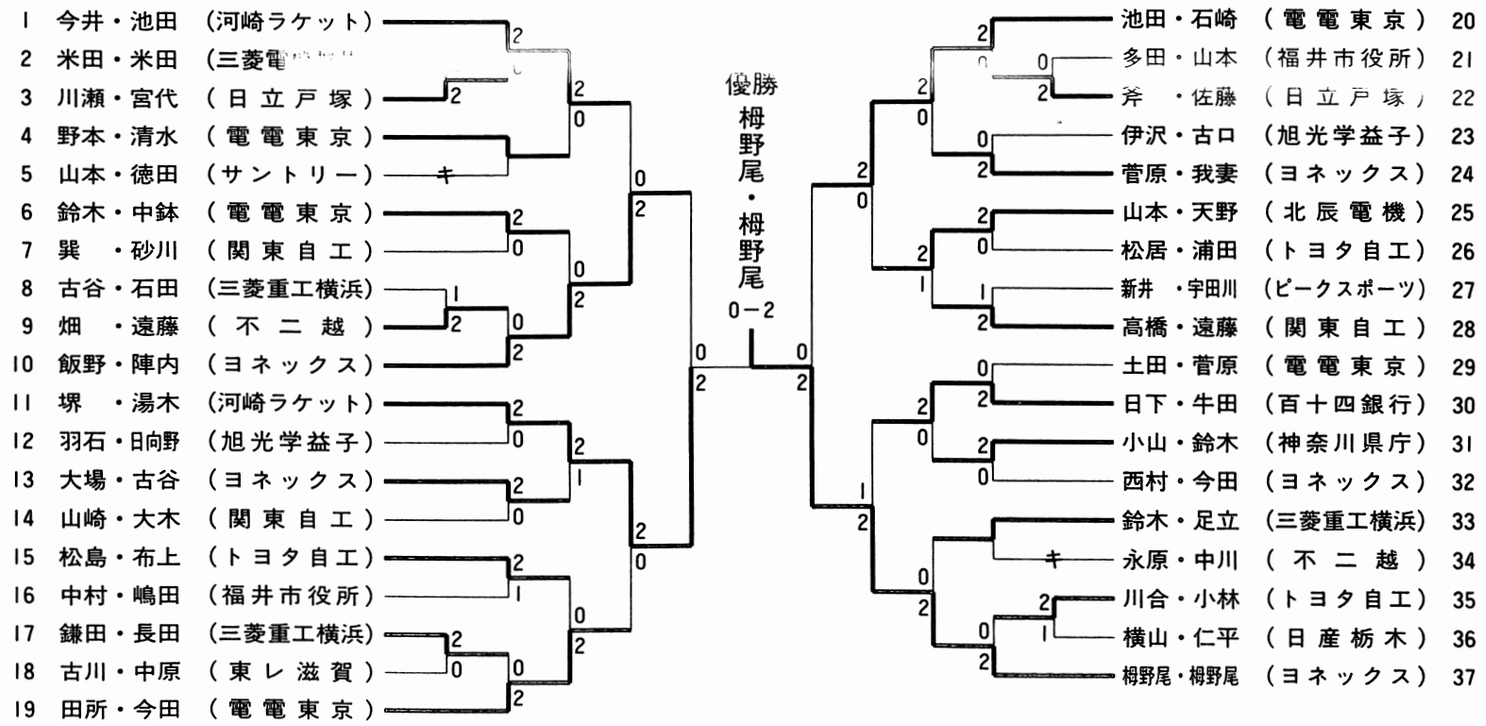
■男子団体の部



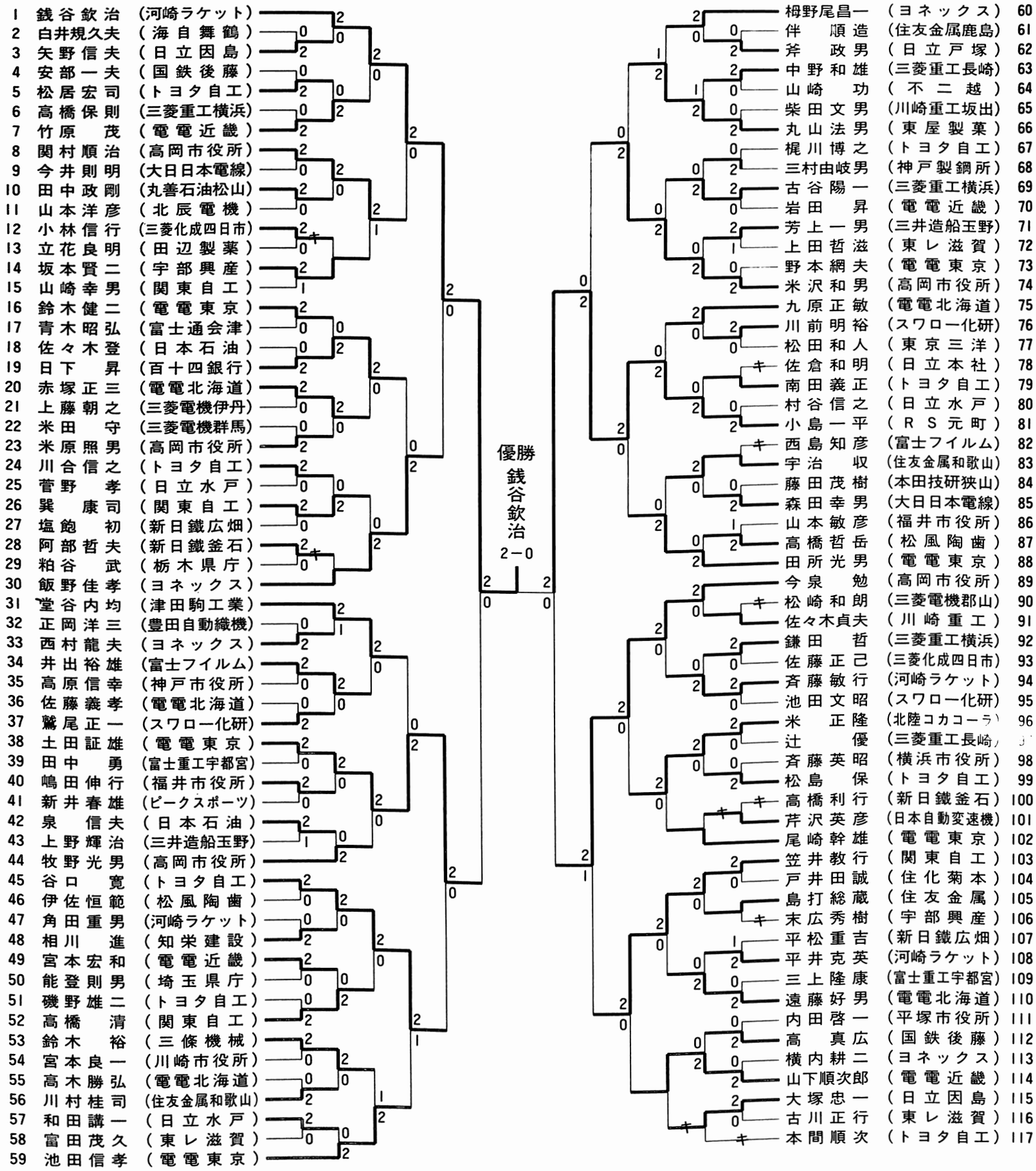
■女子団体の部



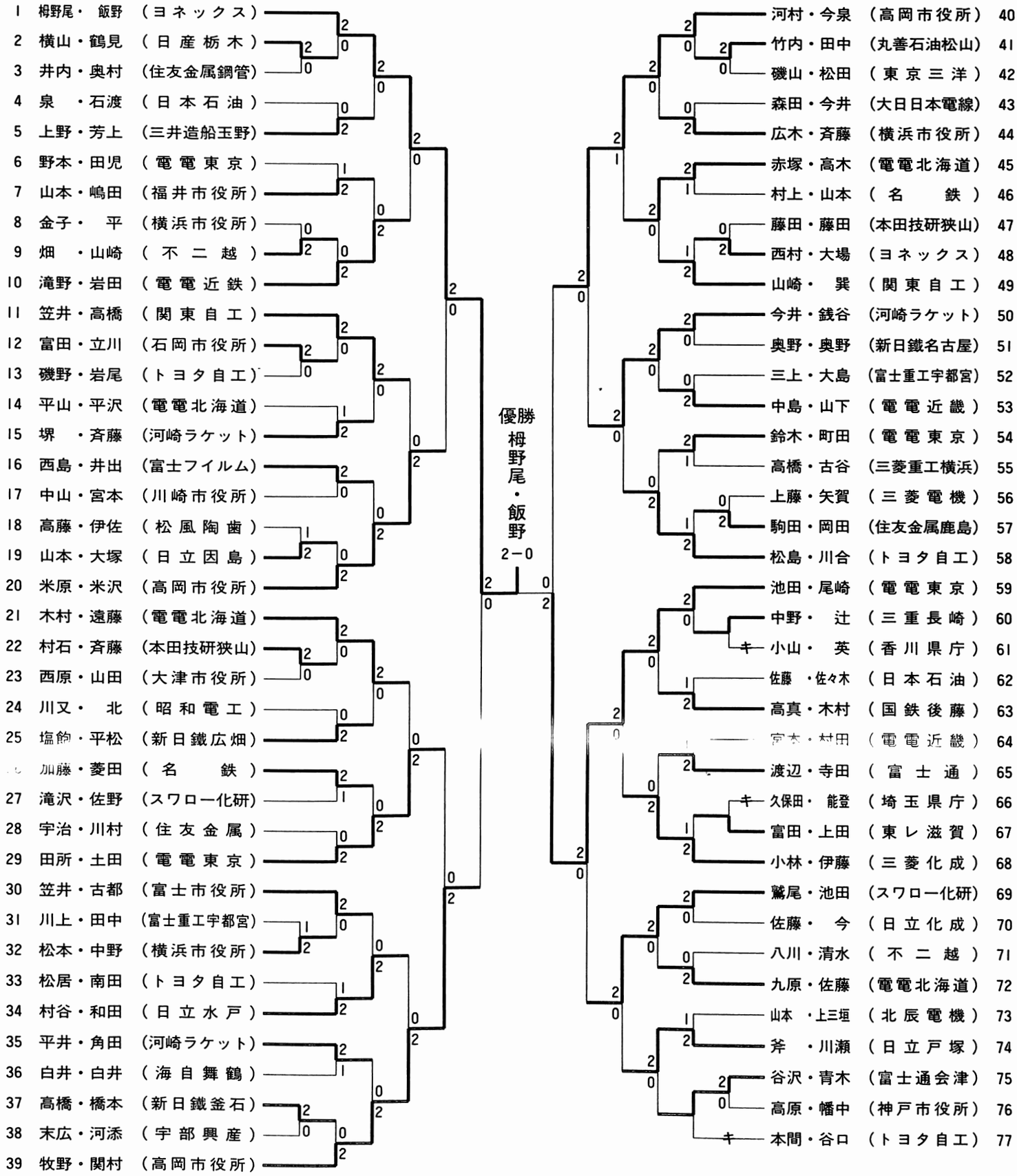
■混合複の部



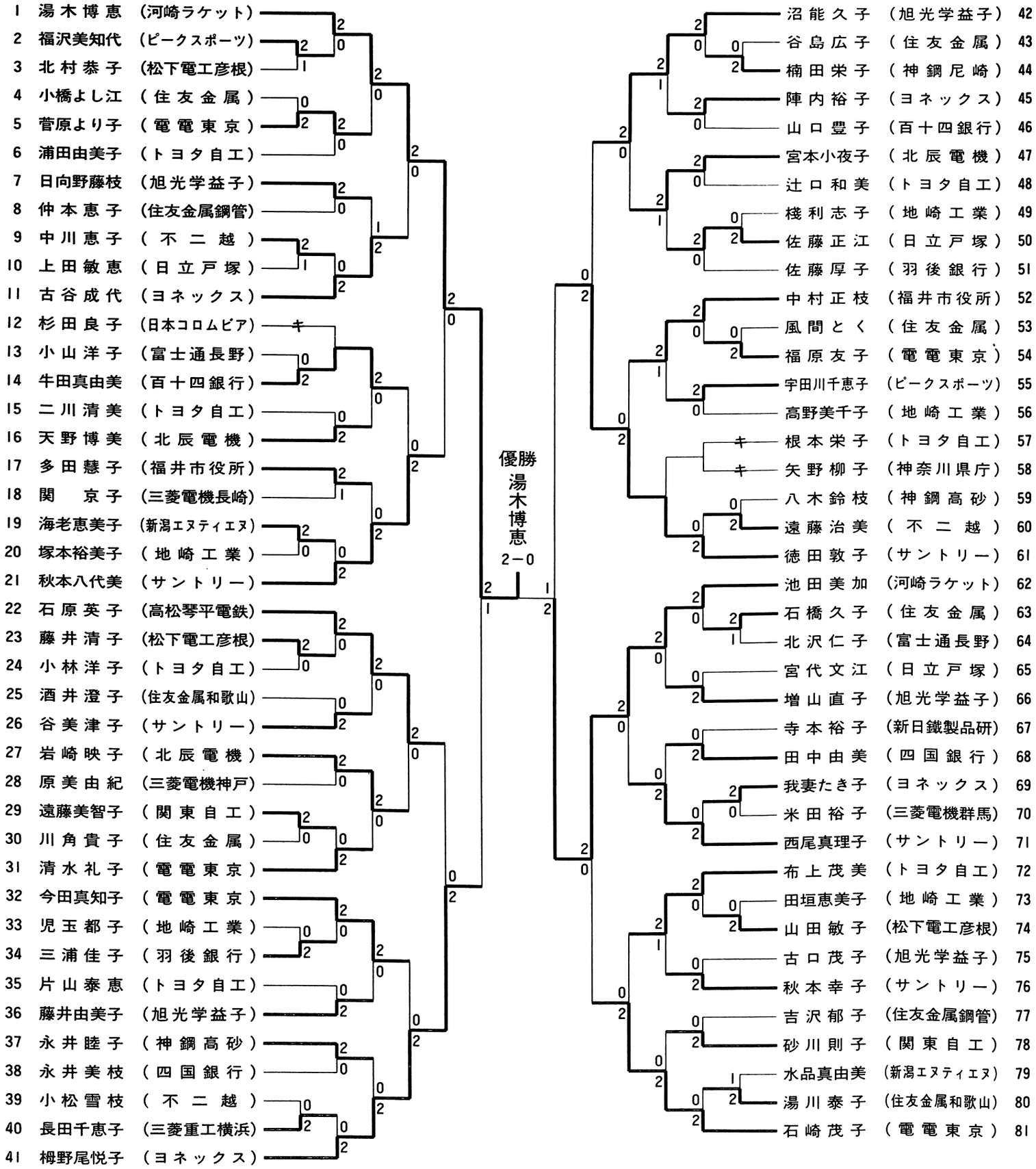
■男子単の部


1 銭谷欽治 (河崎ラケット)
2 白井規久夫 (海自舞鶴)
3 矢野信夫 (日立因島)
4 安部一夫 (国鉄後藤)
5 松居宏司 (トヨタ自工)
6 高橋保則 (三菱重工横浜)
7 竹原茂 (電電近畿)
8 関村順治 (高岡市役所)
9 今井則明 (大日日本電線)
10 田中政剛 (丸善石油松山)
11 山本洋彦 (北辰電機)
12 小林信行 (三菱化成四日市)
13 立花良明 (田辺製薬)
14 坂本賢二 (宇部興産)
15 山崎幸男 (関東自工)
16 鈴木健二 (電電東京)
17 青木昭弘 (富士通会津)
18 佐々木登 (日本石油)
19 日下昇 (百十四銀行)
20 赤塚正三 (電電北海道)
21 上藤朝之 (三菱電機伊丹)
22 米田守 (三菱電機群馬)
23 米原照男 (高岡市役所)
24 川合信之 (トヨタ自工)
25 菅野孝 (日立水戸)
26 巽康司 (関東自工)
27 塩飽初 (新日鐵広畑)
28 阿部哲夫 (新日鐵釜石)
29 粕谷武 (栃木県庁)
30 飯野佳孝 (ヨネックス)
31 堂谷内均 (津田駒工業)
32 正岡洋三 (豊田自動織機)
33 西村龍夫 (ヨネックス)
34 井出裕雄 (富士フイルム)
35 高原信幸 (神戸市役所)
36 佐藤義孝 (電電北海道)
37 鷲尾正一 (スワロー化研)
38 土田証雄 (電電東京)
39 田中勇 (富士重工宇都宮)
40 嶋田伸行 (福井市役所)
41 新井春雄 (ピークスポーツ)
42 泉信夫 (日本石油)
43 上野輝治 (三井造船玉野)
44 牧野光男 (高岡市役所)
45 谷口寛 (トヨタ自工)
46 伊佐恒範 (松風陶歯)
47 角田重男 (河崎ラケット)
48 相川進 (知栄建設)
49 宮本宏和 (電電近畿)
50 能登則男 (埼玉県庁)
51 磯野雄二 (トヨタ自工)
52 高橋清 (関東自工)
53 鈴木裕 (三條機械)
54 宮本良一 (川崎市役所)
55 高木勝弘 (電電北海道)
56 川村桂司 (住友金属和歌山)
57 和田講一 (日立水戸)
58 富田茂久 (東レ滋賀)
59 池田信孝 (電電東京)
優勝
銭谷欽治
2－0
60 栂野尾昌一 (ヨネックス)
61 伴順造 (住友金属鹿島)
62 斧政男 (日立戸塚)
63 中野和雄 (三菱重工長崎)
64 山崎功 (不二越)
65 柴田文男 (川崎重工坂出)
66 丸山法男 (東屋製菓)
67 梶川博之 (トヨタ自工)
68 三村由岐男 (神戸製鋼所)
69 古谷陽一 (三菱重工横浜)
70 岩田昇 (電電近畿)
71 芳上一男 (三井造船玉野)
72 上田哲滋 (東レ滋賀)
73 野本網夫 (電電東京)
74 米沢和男 (高岡市役所)
75 九原正敏 (電電北海道)
76 川前明裕 (スワロー化研)
77 松田和人 (東京三洋)
78 佐倉和明 (日立本社)
79 南田義正 (トヨタ自工)
80 村谷信之 (日立水戸)
81 小島一平 (RS元町)
82 西島知彦 (富士フイルム)
83 宇治収 (住友金属和歌山)
84 藤田茂樹 (本田技研狭山)
85 森田幸男 (大日日本電線)
86 山本敏彦 (福井市役所)
87 高橋哲岳 (松風陶歯)
88 田所光男 (電電東京)
89 今泉勉 (高岡市役所)
90 松崎和朗 (三菱電機郡山)
91 佐々木貞夫 (川崎重工)
92 鎌田哲 (三菱重工横浜)
93 佐藤正己 (三菱化成四日市)
94 斉藤敏行 (河崎ラケット)
95 池田文昭 (スワロー化研)
96 米正隆 (北陸コカコーラ)
97 辻優 (三菱重工長崎)
98 斉藤英昭 (横浜市役所)
99 松島保 (トヨタ自工)
100 高橋利行 (新日鐵釜石)
101 芹沢英彦 (日本自動変速機)
102 尾崎幹雄 (電電東京)
103 笠井教行 (関東自工)
104 戸井田誠 (住化菊本)
105 島打総蔵 (住友金属)
106 末広秀樹 (宇部興産)
107 平松重吉 (新日鐵広畑)
108 平井克英 (河崎ラケット)
109 三上隆康 (富士重工宇都宮)
110 遠藤好男 (電電北海道)
111 内田啓一 (平塚市役所)
112 高真広 (国鉄後藤)
113 横内耕二 (ヨネックス)
114 山下順次郎 (電電近畿)
115 大塚忠一 (日立因島)
116 古川正行 (東レ滋賀)
117 本間順次 (トヨタ自工)

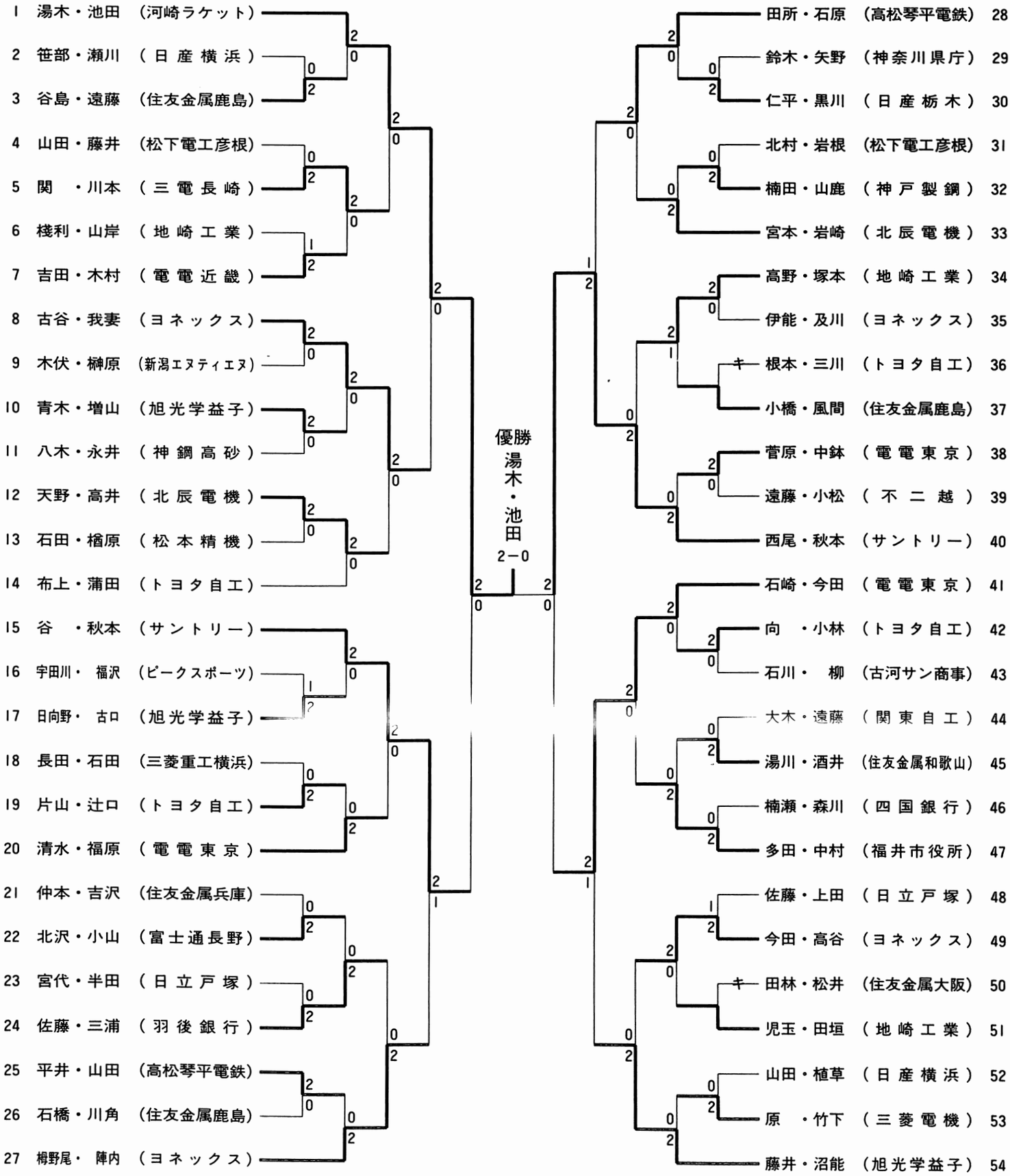
■男子複の部


1 栂野尾・飯野 （ヨネックス）
2 横山・鶴見 （日産栃木）
3 井内・奥村 （住友金属鋼管）
4 泉 ・石渡 （日本石油）
5 上野・芳上 （三井造船玉野）
6 野本・田児 （電電東京）
7 山本・嶋田 （福井市役所）
8 金子・ 平 （横浜市役所）
9 畑 ・山崎 （不二越）
10 滝野・岩田 （電電近鉄）
11 笠井・高橋 （関東自工）
12 富田・立川 （石岡市役所）
13 磯野・岩尾 （トヨタ自工）
14 平山・平沢 （電電北海道）
15 堺 ・斉藤 （河崎ラケット）
16 西島・井出 （富士フイルム）
17 中山・宮本 （川崎市役所）
18 高藤・伊佐 （松風陶歯）
19 山本・大塚 （日立因島）
20 米原・米沢 （高岡市役所）
21 木村・遠藤 （電電北海道）
22 村石・斉藤 （本田技研狭山）
23 西原・山田 （大津市役所）
24 川又・ 北 （昭和電工）
25 塩飽・平松 （新日鐵広畑）
加藤・菱田 （名 鉄）
27 滝沢・佐野 （スワロー化研）
28 宇治・川村 （住友金属）
29 田所・土田 （電電東京）
30 笠井・古都 （富士市役所）
31 川上・田中 （富士重工宇都宮）
32 松本・中野 （横浜市役所）
33 松居・南田 （トヨタ自工）
34 村谷・和田 （日立水戸）
35 平井・角田 （河崎ラケット）
36 白井・白井 （海自舞鶴）
37 高橋・橋本 （新日鐵釜石）
38 末広・河添 （宇部興産）
39 牧野・関村 （高岡市役所）
優勝
栂野尾・飯野
2−0
河村・今泉 （高岡市役所） 40
竹内・田中 （丸善石油松山） 41
磯山・松田 （東京三洋） 42
森田・今井 （大日日本電線） 43
広木・斉藤 （横浜市役所） 44
赤塚・高木 （電電北海道） 45
村上・山本 （名 鉄） 46
藤田・藤田 （本田技研狭山） 47
西村・大場 （ヨネックス） 48
山崎・ 巽 （関東自工） 49
今井・銭谷 （河崎ラケット） 50
奥野・奥野 （新日鐵名古屋） 51
三上・大島 （富士重工宇都宮） 52
中島・山下 （電電近畿） 53
鈴木・町田 （電電東京） 54
高橋・古谷 （三菱重工横浜） 55
上藤・矢賀 （三菱電機） 56
駒田・岡田 （住友金属鹿島） 57
松島・川合 （トヨタ自工） 58
池田・尾崎 （電電東京） 59
中野・ 辻 （三重長崎） 60
小山・ 英 （香川県庁） 61
佐藤 ・佐々木 （日本石油） 62
高真・木村 （国鉄後藤） 63
宮本・村田 （電電近畿） 64
渡辺・寺田 （富士通） 65
久保田・ 能登 （埼玉県庁） 66
富田・上田 （東レ滋賀） 67
小林・伊藤 （三菱化成） 68
鷲尾・池田 （スワロー化研） 69
佐藤・ 今 （日立化成） 70
八川・清水 （不二越） 71
九原・佐藤 （電電北海道） 72
山本 ・上三垣 （北辰電機） 73
斧 ・川瀬 （日立戸塚） 74
谷沢・青木 （富士通会津） 75
高原・幡中 （神戸市役所） 76
本間・谷口 （トヨタ自工） 77

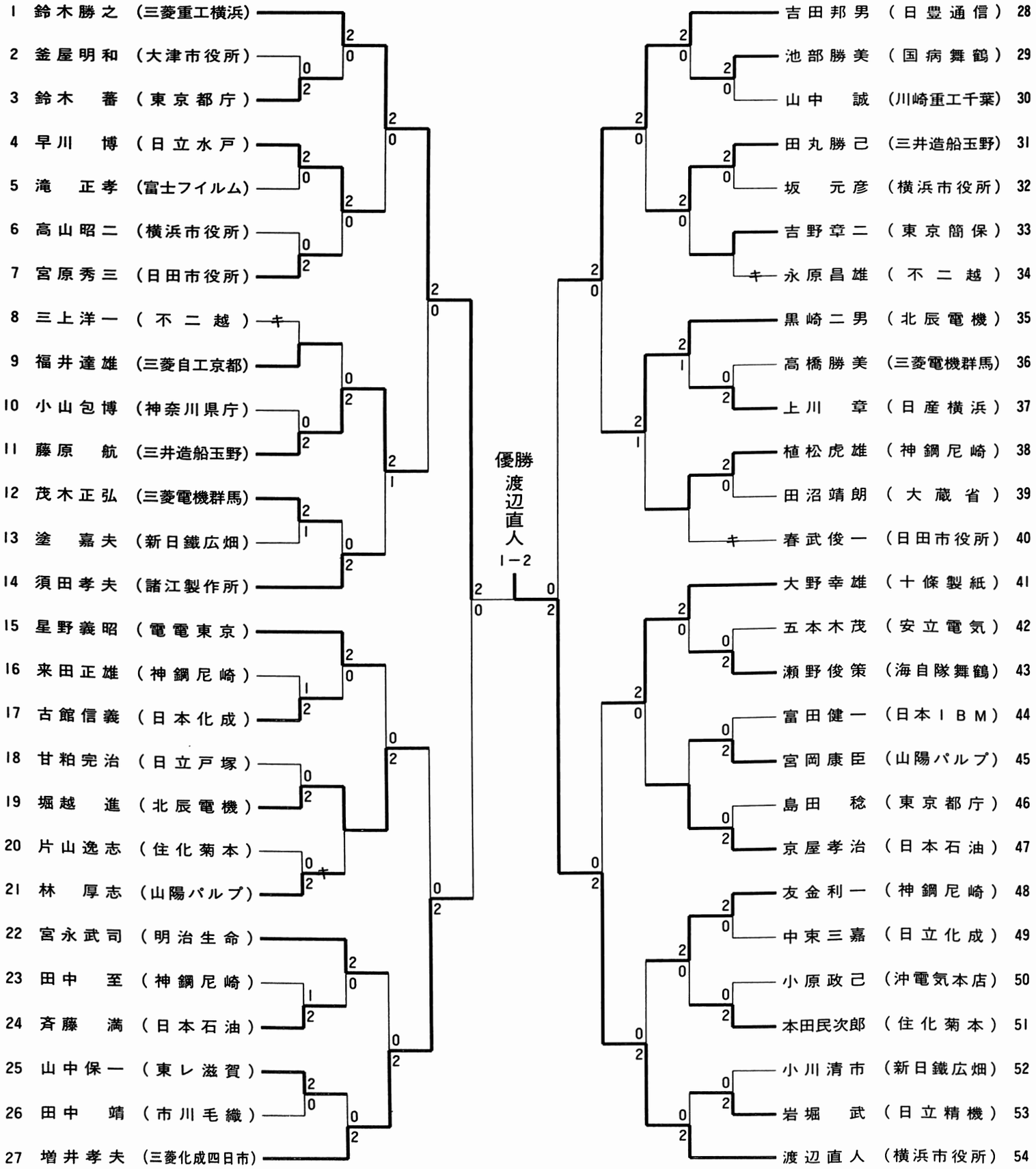
■女子単の部


1 湯木博恵 (河崎ラケット)
2 福沢美知代 (ピークスポーツ)
3 北村恭子 (松下電工彦根)
4 小橋よし江 (住友金属)
5 菅原より子 (電電東京)
6 浦田由美子 (トヨタ自工)
7 日向野藤枝 (旭光学益子)
8 仲本恵子 (住友金属鋼管)
9 中川恵子 (不二越)
10 上田敏恵 (日立戸塚)
11 古谷成代 (ヨネックス)
12 杉田良子 (日本コロムビア)
13 小山洋子 (富士通長野)
14 牛田真由美 (百十四銀行)
15 二川清美 (トヨタ自工)
16 天野博美 (北辰電機)
17 多田慧子 (福井市役所)
18 関京子 (三菱電機長崎)
19 海老恵美子 (新潟エヌティエヌ)
20 塚本裕美子 (地崎工業)
21 秋本八代美 (サントリー)
22 石原英子 (高松琴平電鉄)
23 藤井清子 (松下電工彦根)
24 小林洋子 (トヨタ自工)
25 酒井澄子 (住友金属和歌山)
26 谷美津子 (サントリー)
27 岩崎映子 (北辰電機)
28 原美由紀 (三菱電機神戸)
29 遠藤美智子 (関東自工)
30 川角貴子 (住友金属)
31 清水礼子 (電電東京)
32 今田真知子 (電電東京)
33 児玉都子 (地崎工業)
34 三浦佳子 (羽後銀行)
35 片山泰恵 (トヨタ自工)
36 藤井由美子 (旭光学益子)
37 永井睦子 (神鋼高砂)
38 永井美枝 (四国銀行)
39 小松雪枝 (不二越)
40 長田千恵子 (三菱重工横浜)
41 栂野尾悦子 (ヨネックス)
優勝
湯木博恵
2−0
42 沼能久子 (旭光学益子)
43 谷島広子 (住友金属)
44 楠田栄子 (神鋼尼崎)
45 陣内裕子 (ヨネックス)
46 山口豊子 (百十四銀行)
47 宮本小夜子 (北辰電機)
48 辻口和美 (トヨタ自工)
49 桟利志子 (地崎工業)
50 佐藤正江 (日立戸塚)
51 佐藤厚子 (羽後銀行)
52 中村正枝 (福井市役所)
53 風間とく (住友金属)
54 福原友子 (電電東京)
55 宇田川千恵子 (ピークスポーツ)
56 高野美千子 (地崎工業)
57 根本栄子 (トヨタ自工)
58 矢野柳子 (神奈川県庁)
59 八木鈴枝 (神鋼高砂)
60 遠藤治美 (不二越)
61 徳田敦子 (サントリー)
62 池田美加 (河崎ラケット)
63 石橋久子 (住友金属)
64 北沢仁子 (富士通長野)
65 宮代文江 (日立戸塚)
66 増山直子 (旭光学益子)
67 寺本裕子 (新日鐵製品研)
68 田中由美 (四国銀行)
69 我妻たき子 (ヨネックス)
70 米田裕子 (三菱電機群馬)
71 西尾真理子 (サントリー)
72 布上茂美 (トヨタ自工)
73 田垣恵美子 (地崎工業)
74 山田敏子 (松下電工彦根)
75 古口茂子 (旭光学益子)
76 秋本幸子 (サントリー)
77 吉沢郁子 (住友金属鋼管)
78 砂川則子 (関東自工)
79 水品真由美 (新潟エヌティエヌ)
80 湯川泰子 (住友金属和歌山)
81 石崎茂子 (電電東京)

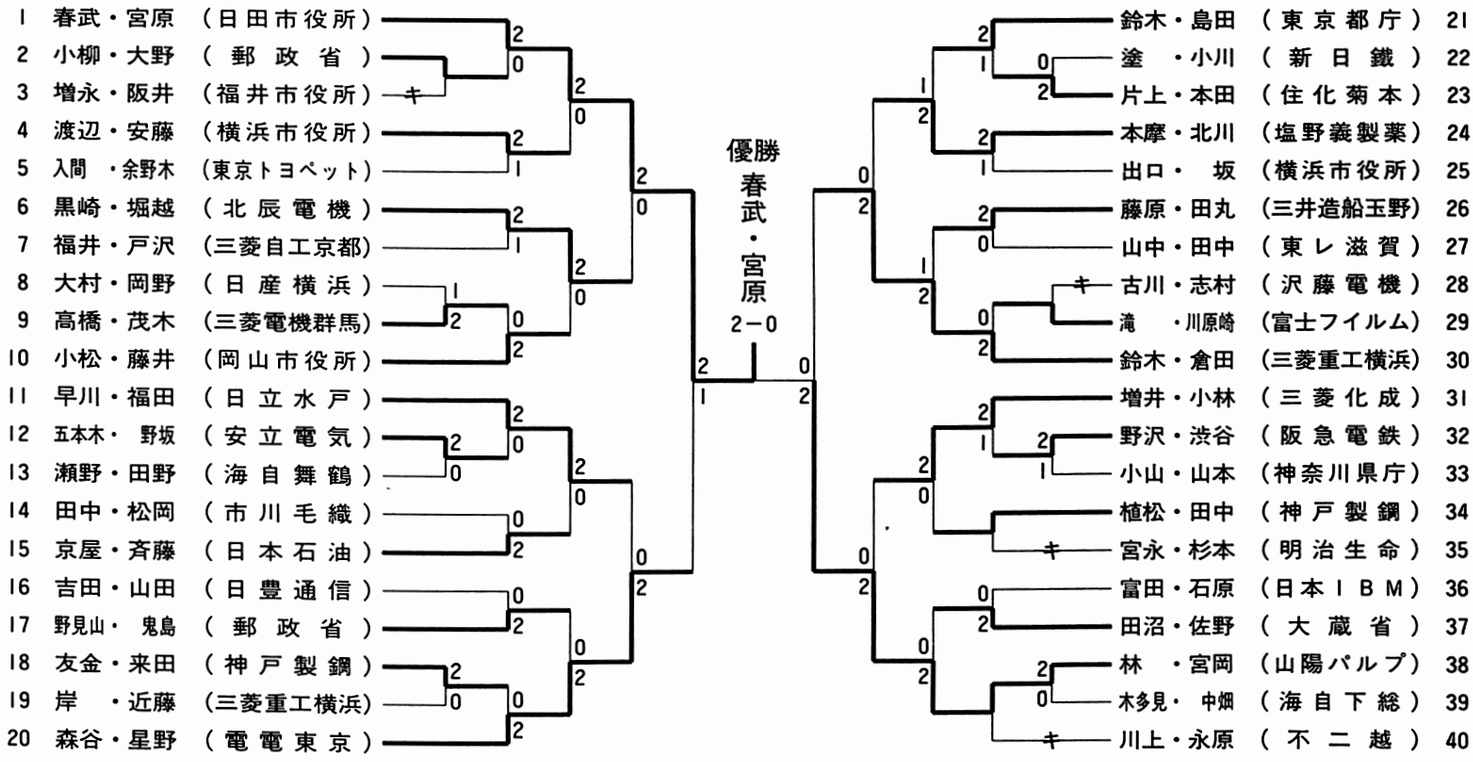
■女子複の部


1 湯木・池田 （河崎ラケット）
2 笹部・瀬川 （日産横浜）
3 谷島・遠藤 （住友金属鹿島）
4 山田・藤井 （松下電工彦根）
5 関 ・川本 （三電長崎）
6 桟利・山岸 （地崎工業）
7 吉田・木村 （電電近畿）
8 古谷・我妻 （ヨネックス）
9 木伏・榊原 （新潟エヌティエヌ）
10 青木・増山 （旭光学益子）
11 八木・永井 （神鋼高砂）
12 天野・高井 （北辰電機）
13 石田・楢原 （松本精機）
14 布上・蒲田 （トヨタ自工）
15 谷 ・秋本 （サントリー）
16 宇田川・ 福沢 （ピークスポーツ）
17 日向野・ 古口 （旭光学益子）
18 長田・石田 （三菱重工横浜）
19 片山・辻口 （トヨタ自工）
20 清水・福原 （電電東京）
21 仲本・吉沢 （住友金属兵庫）
22 北沢・小山 （富士通長野）
23 宮代・半田 （日立戸塚）
24 佐藤・三浦 （羽後銀行）
25 平井・山田 （高松琴平電鉄）
26 石橋・川角 （住友金属鹿島）
27 梅野尾・ 陣内 （ヨネックス）
優勝
湯木・池田
2－0
28 田所・石原 （高松琴平電鉄）
29 鈴木・矢野 （神奈川県庁）
30 仁平・黒川 （日産栃木）
31 北村・岩根 （松下電工彦根）
32 楠田・山鹿 （神戸製鋼）
33 宮本・岩崎 （北辰電機）
34 高野・塚本 （地崎工業）
35 伊能・及川 （ヨネックス）
36 根本・三川 （トヨタ自工）
37 小橋・風間 （住友金属鹿島）
38 菅原・中鉢 （電電東京）
39 遠藤・小松 （不二越）
40 西尾・秋本 （サントリー）
41 石崎・今田 （電電東京）
42 向 ・小林 （トヨタ自工）
43 石川・ 柳 （古河サン商事）
44 大木・遠藤 （関東自工）
45 湯川・酒井 （住友金属和歌山）
46 楠瀬・森川 （四国銀行）
47 多田・中村 （福井市役所）
48 佐藤・上田 （日立戸塚）
49 今田・高谷 （ヨネックス）
50 田林・松井 （住友金属大阪）
51 児玉・田垣 （地崎工業）
52 山田・植草 （日産横浜）
53 原 ・竹下 （三菱電機）
54 藤井・沼能 （旭光学益子）

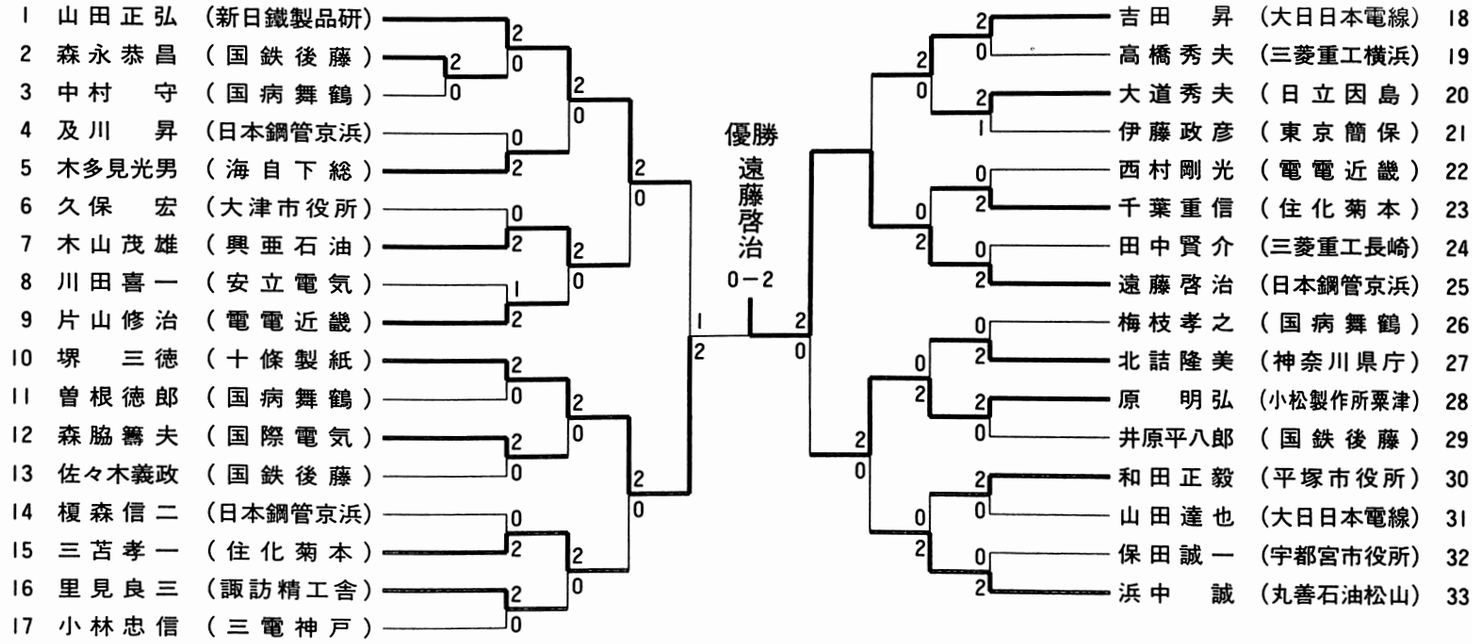
■30歳以上男子単の部


1 鈴木勝之 (三菱重工横浜)
2 釜屋明和 (大津市役所)
3 鈴木 蕃 (東京都庁)
4 早川 博 (日立水戸)
5 滝 正孝 (富士フイルム)
6 高山昭二 (横浜市役所)
7 宮原秀三 (日田市役所)
8 三上洋一 (不二越) キ
9 福井達雄 (三菱自工京都)
10 小山包博 (神奈川県庁)
11 藤原 航 (三井造船玉野)
12 茂木正弘 (三菱電機群馬)
13 塗 嘉夫 (新日鐵広畑)
14 須田孝夫 (諸江製作所)
15 星野義昭 (電電東京)
16 来田正雄 (神鋼尼崎)
17 古館信義 (日本化成)
18 甘粕完治 (日立戸塚)
19 堀越 進 (北辰電機)
20 片山逸志 (住化菊本) キ
21 林 厚志 (山陽パルプ)
22 宮永武司 (明治生命)
23 田中 至 (神鋼尼崎)
24 斉藤 満 (日本石油)
25 山中保一 (東レ滋賀)
26 田中 靖 (市川毛織)
27 増井孝夫 (三菱化成四日市)
優勝
渡辺直人
1−2
吉田邦男 (日豊通信) 28
池部勝美 (国病舞鶴) 29
山中 誠 (川崎重工千葉) 30
田丸勝己 (三井造船玉野) 31
坂 元彦 (横浜市役所) 32
吉野章二 (東京簡保) 33
永原昌雄 (不二越) キ 34
黒崎二男 (北辰電機) 35
高橋勝美 (三菱電機群馬) 36
上川 章 (日産横浜) 37
植松虎雄 (神鋼尼崎) 38
田沼靖朗 (大蔵省) 39
春武俊一 (日田市役所) キ 40
大野幸雄 (十條製紙) 41
五本木茂 (安立電気) 42
瀬野俊策 (海自隊舞鶴) 43
富田健一 (日本IBM) 44
宮岡康臣 (山陽パルプ) 45
島田 稔 (東京都庁) 46
京屋孝治 (日本石油) 47
友金利一 (神鋼尼崎) 48
中東三嘉 (日立化成) 49
小原政己 (沖電気本店) 50
本田民次郎 (住化菊本) 51
小川清市 (新日鐵広畑) 52
岩堀 武 (日立精機) 53
渡辺直人 (横浜市役所) 54

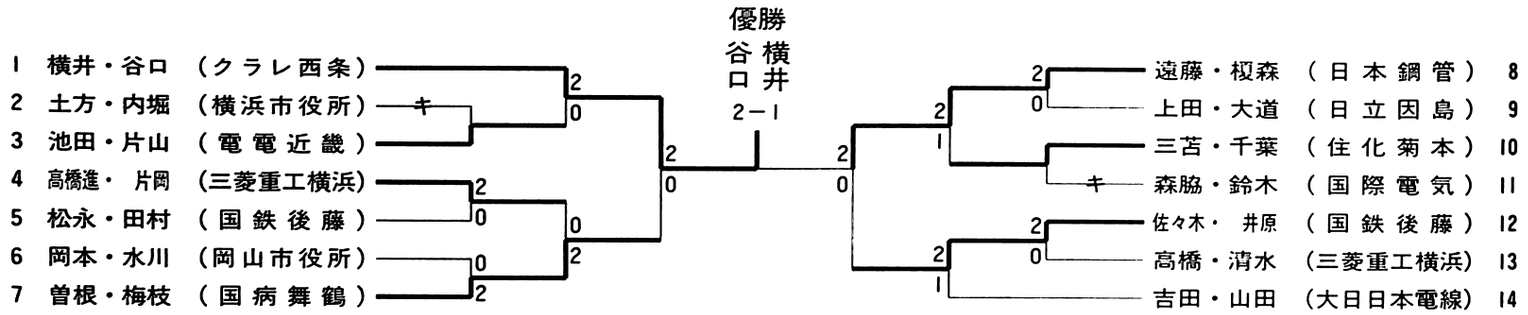
■30歳以上男子複の部



■40歳以上男子単の部



■40歳以上男子複の部



（名簿続き）

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
	神奈川県庁	塚本　昌義	小山包博・山本徹夫・北詰隆美・塚本昌義・中丸靖元・烏山裕美・平戸孝司 鈴木節子・矢野柳子
	関東自工	山内　久雄	山崎幸男・笠井教行・高橋　清・巽　康司・木戸　登・諏訪部東海夫・国府田仁 遠藤美智子・砂川則子・小松原京子・入沢三奈子・秋山洋子・大木さよ子
	昭和電工・川崎	北　　敏男	川又辰夫・北　敏男
	新日鐵・製品研	山田　正弘	山田正弘・寺本裕子
	日本石油・根岸	京屋　孝治	泉　信夫・佐藤幸男・京屋孝治・斉藤　満・佐々木登・石渡輝己・丸山則明
	日本鋼管・京浜	山木　和夫	川崎隆正・遠藤啓治・榎森信二・及川　昇・山崎一夫・八木和夫
	日産自動車・横浜	桜田　豊治	竹村芳雄・桜田豊治・大村　裕・岡野隆太郎・上川　章・高橋　始・伊藤　選・笹部江以子 瀬川美恵子・山田敦子・植草不二代・有仂由理子
	日本コロムビア	小林　歌子	杉田良子
	平塚市役所	和田　正毅	内田啓一・和田正毅
	日立・戸塚	清水　誠一	北村敏明・甘粕完治・川瀬和利・杉山富次郎・斧　政男・山内久敏 上田敏恵・半田久美子・古代文江・佐藤正江
	富士通・川崎	佐野　公紀	佐野公紀・大橋修一・渡部正光・上野己弦・古沢敏幸・寺田　繁
	三菱重工・横浜	倉田豊三郎	鎌田　哲・高橋保則・鈴木勝之・古谷陽一・熊谷純夫・山本　勝・上野　強・倉田豊三郎 岸　賢司・近藤純一・高橋　進・高橋秀夫・片岡弘道・清水　武・長田千恵子・石田菊江 北村智子・浜田洋子・足立恵子
	横浜市役所	安藤　　保	広木俊一・本田一義・金子英司・中野孝司・平　敏司・斉藤英昭・渡辺直人・安藤　保 出口庄吉・坂　元彦・土方　充・内堀　毅・高山詔二
	ラケットショップ元町	小島　一平	小島一平

■出場選手名簿

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	国鉄北海道総局	渋井　明	東　政文・山田　元・柴田賢治・山田好明・山本晴通・山田　篤・平　秋義
	電電北海道	伊勢　武	木村敏男・赤塚正三・遠藤好男・九原正敏・佐藤義孝・高木勝弘・平沢　徹・平山三城
	地崎工業	岩崎　昭郎	児玉郁子・塚本裕美子・田垣恵美子・高野美千子・桟利志子・山岸ひとみ
岩手	新日鐵・釜石	本多　三郎	高橋利行・高橋道夫・熊谷　徹・斉藤謙一・金子正一・阿部哲夫・橋本三司
秋田	羽後銀行	細谷　昭次	佐藤厚子・三浦佳子・花田隆子・安田ひめ子・沼田るり子
福島	日豊通信		吉田邦男・山田　宏
	日本化成		古舘信義
	富士通・会津	谷沢　正広	谷沢正広・青木昭弘・高橋良仁・塚越厚生・金子健一郎
	三菱電機・郡山	松崎　和郎	松崎和郎・石井勝彦・星野　勉・村越要蔵
茨城	茨城県庁	塩田　章夫	塩田章夫・松下高輝・栗原一美・宇野光義・木村泰昭
	石岡市役所	小倉　憲司	富田　功・立川芳男
	原研東海	柴田　孝俊	柴田孝俊・谷　孝志・伊勢武治・石川　正・新井　貴
	住友金属・鹿島	江藤　伸	伴　順造・斉藤　勇・島林総蔵・小沢直俊・駒田　忠・岡田常雄・金野幹保 小橋よし江・風間とく・谷島広子・川角貴子・石橋久子・遠藤幸江
	日立化成	中束　三嘉	大塚富士夫・水野　裕・千葉善夫・佐藤信良・今　睦男・中束三嘉
	日立水戸	内山　俊一	菅野　孝・和田講一・早川　博・福田喜代志・木村　進・村谷信之
群馬	古河サン商事	大江　礼謹	石川美代子・柳　一枝
	キリンビール	藤沢　英和	原田茂雄・藤沢英和・飯島　昇・北田正行・荻原　隆・伊藤達男
	東京三洋電機	岡崎　敬一	松田和人・磯山文孝
	富士重工・群馬	渡辺　晃一	坂口隆夫・中条俊雄・山形　武・渡辺晃一・高野貞男・藤井良典・高橋吉人
	松本精機	石田　智子	石田智子・檜原常子
	三菱電機・群馬	茂木　正弘	茂木正弘・小沢永一・高橋勝美・栗原　弘・米田　守・田島文雄・橋本一郎・米田裕子
栃木	旭光学・益子	羽石　武士	羽石武士・高野久雄・芦野勝己・伊沢義美・小池信一 藤井由美子・沼能久子・青木恵津子・日向野藤枝・増山直子・古口茂子・高松良子
	宇都宮市役所		保田誠一
	河内町役場	桜井　悦夫	桜井悦夫・鈴木悦夫・斉藤幸夫・石川信夫・橋本初男・饗庭幸一
	神戸製鋼所		津田崎男
	[illegible]	粕谷　武	粕谷　武・湯沢雄一・森本金一・古沢元浩・伊藤政英
	日産自動車・栃木	横山　秀雄	工藤建夫・横山秀雄・鶴見武司・田崎茂男・石沢輝雄・柳　慶樹・綱川芳郎 仁平美江・黒川よし子・稲見静江・野沢友子・塩野谷信子・今井真由美
	富士重工・宇都宮	永山　隆	霜山　哲・三上隆康・川上岩雄・田中　勇・大島　巌・星　正幸・高橋秀行
埼玉	埼玉県庁	吉成　素彦	黒須　栄・久保田宇作・内川雅博・宮崎　茂・永田喜雄・猪股正人・能登則男
	サンケン電気	今井　清兼	薄田隆衛・田中忠義・小林洋一・小椋喜代次・竹田建夫・坂元　勝・宮本一義
	スカイアルミ深谷	田形　勉	古屋雅美・木村彰男・野村文男・田形　勉・渋沢和彦・広田保輔
	田辺製薬	高橋　忠男	立花良明
	日研化学	石川　二郎	石川二郎・吉田　司・佐藤忠男・山口喜雄・吉村重和・岩崎　茂・小嶋達雄
	本田技研・狭山	古谷　利男	藤田茂樹・村石正昭・藤田信夫・斉藤次男・松原裕史・福井雅治
千葉	市川毛織	田中　靖	松岡良夫・吉野　修・田中　靖・対馬　務・上石泰寛
	川崎重工	佐々木貞夫	佐々木貞夫・山中　誠
	海上自衛隊・下総	木多見光雄	木多見光雄・中畑長治
	日立精機	岩堀　武	岩堀　武
	富士電機製造・千葉	石橋　康幸	南　千勇・進藤益夫・藤沢温夫・渡部・享・中尾伴清・石橋康幸
	ピークスポーツ	鶴野　弘	新井春雄・宇田川千恵子・福沢美知代

県名	事業所名	監督名	選手名
東京	安立電気	成木　正之	鈴木誠一・金子孝規・五本木茂・野坂英樹・南　好雄・北川守雄・太田耕貴
	沖電気本店	小原　政己	小原政己
	沖電気	佐藤彦次郎	鈴木清一・板垣健二・池田秀美・岡部　正・佐藤彦次郎・山田喜三 関　悦子・斉藤雪江・高橋初枝・沢田幸子
	大蔵省	楢山　良一	佐野昇逸・福田光雄・田沼靖朗・渡辺健一・塚原弘三・佐藤義広・楢山良一 結城富貴子・児玉裕子・町田るみ・中山綾子・清水節子・横川広子・小林優子
	河崎ラケット	堺　栄一	平井克英・今井茂満・堺　栄一・斉藤敏行・銭谷欽治・角田重易・石井幸男 湯木博恵・池田美加・宇都裕子・松谷京子・堀江厚子・安味節子・渡辺みゆき
	キヤノン・下丸子	関　幸男	関　幸夫・横田昭博・田野井正己・後藤裕二・原田敏成・水島俊明・篠田清
	国鉄・大井	佐藤　修	佐藤　修・幡野富士男・小川幹雄・秋本増夫・糟谷喜良・大竹英樹・鈴木登美夫
	国際電気	森脇　等夫	森脇篝夫・鈴木　潔
	沢藤電機	渡辺　淳	古川　千・志村勝己
	サンパタ	久我　秀	須田孝夫
	電電東京	鈴木　健二	鈴木健二・町田秀和・星野義昭・森谷喜久男・野本綱夫・池田信孝・田所光男・尾崎幹雄 田児淳一・土田証雄 清水礼子・中鉢悦子・菅原より子・石崎茂子・今田真知子・福原友子・石原保子
	東京トヨペット	入間　秀哲	入間秀哲・余野木勉 藤井節子・大滝育子・佐々木千鶴子・中村伴子・川島つや子・小宮山比沙子
	東京都庁	鈴木　藩	竹　俣明・大原政義・鈴木　藩・島田　稔・岩上昭一・藤本　彰・後藤　勝 中野いずみ・依田ゆみ子・道祖工和代・柳瀬真由美・高橋由美子
	東京地方簡易保険	永井　昌俊	沼田七郎・古明地正邦・吉野章二・石岡宏喜・狗飼　覚・武田公正・大室政治・伊藤誠彦
	東京田辺製薬・王子	鈴木　和博	永田喜久・室崎和夫・志村昭司・片山　毅・山下節夫・鈴木和博
	日本化薬・王子	黒石　善治	吉沢寛治・柳　久男・杉村秀夫・柳内浩司・野崎光生・世良数明・黒石善治
	日立・本社	林　勉	内山友夫・林　幸三・吉岡博美・佐倉和明・片岡孝嘉・上田泰司・南　俊夫
	北辰電機	千葉　正皓 黒崎　二男	阿部正行・平手政治・山本洋彦・堀越　進・堀川　誠・上三垣隆志・佐藤雅已・黒崎二男 宮本小夜子・天野広美・岩崎映子・高井春美・伊藤真弓・天谷洋子
	明治生命	宮永　武司	宮永武司・二沢一進・杉本伸之・鈴木英夫・佐藤　賢・猪又　肇・服部秀昭
	郵政省	寺内　金次	小柳成男・大野　茂・野見山正弘・鬼島悟郎
	ヨネックス	栂野尾昌一	栂野尾昌一・菅原　薫・飯野佳孝・西村竜夫・大場和博・横内耕二・西村　修 我妻たき子・栂野尾悦子・陣内裕子・古谷成代・今田トシ子・伊能悦子・及川悦子・高谷陽子
	リオン	平川　卓弘	田中　実・平川卓弘・並木信男・久幡三雄・野村利次・伊藤　明
新潟	三条機械		鈴木　裕
	東屋製菓		丸山法男
	日本曹達・二本木	横山　敬	板垣金男・増村富夫・和田　清・宮下和宏・渾川　正・竹内忠雄・横山　敬
	新潟エヌティエヌ	本田　務	木伏文子・海老恵美子・榊原優子・水品真由美
長野	昭和電工・大町	那須　義博	山崎己良・薄井　治・関口儀重・福田善一・小林英彦・間島利雄・那須義博
	諏訪精工舎	里見　良三 松井　茂	千野統雄・塩川敏行・里見良三・福永俣人・武田康嗣・北沢恵子・林美智子・小泉ひとみ 仲本美智江・細井のり子・仲本和子
	富士通・長野	飯島　陽一	小山洋子・北沢仁子・神戸優子・石川澄香
富山	十條製紙・伏木	大野　幸雄	大野幸雄・堺　三徳
	高岡市役所	中山　邦夫	河村博之・今泉　勉・関村順治・牧野光男・米原照男・米沢和男・中山邦夫
	不二越	畑　栄進	畑　栄進・永原昌雄・川上洋一・八川修一・山崎　功・清水信之 中川恵子・遠藤治美・西田淑子・小松雪枝
石川	金沢市役所	太田　博之	池本和雄・米田辛生・林　芳広・山下敏行・山形　博・中村久雄・太田博之
	小松製作所・粟津	原　明弘	石川順一・北　秀樹・桝野泰弘・米山昌彦・原　明弘
	知栄建設		相川　進
	津田駒工業		堂谷内均
	北陸コカコーラ		米正　隆

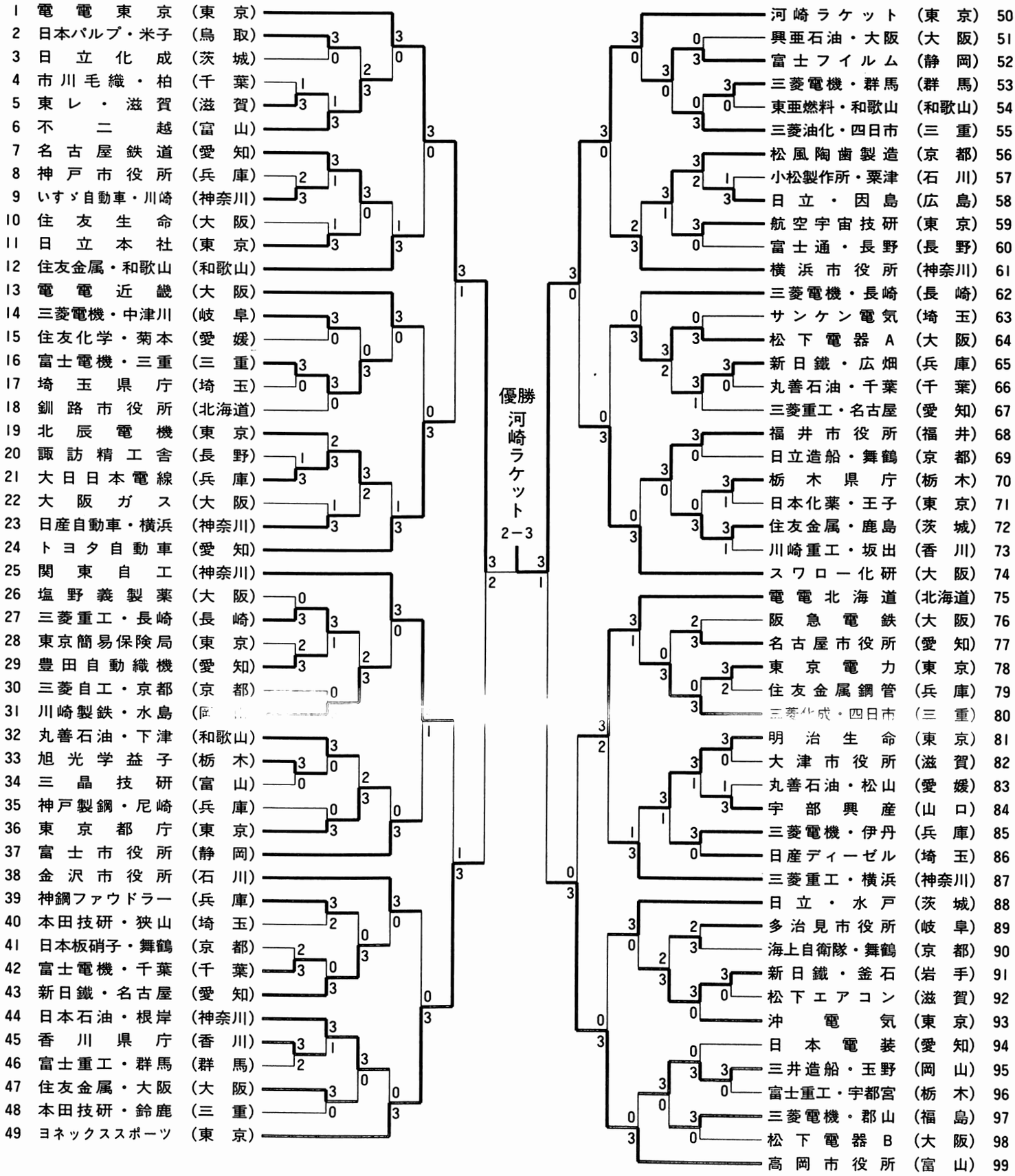
県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
福　井	福井銀行	宮崎　康恵	梶谷将人・松浦信幸・笠川俊教・水上誠二・中村幸平
	福井市役所	大橋　正武	増永秀則・山本敏彦・嶋田伸行・阪井範行・吉村清一 藤木尚美・多田慧子・宮浦そと江・中村正枝
静　岡	日本自動変速機	後藤　和之	後藤和之・佐野時男・土屋　仁・芹沢英彦
	日産自動車・吉原	荻原　照雄	望月吉広・大石勝信・平野哲司・山本秀和・若松　誠
	富士フイルム	滝　　正孝	西島知彦・井出裕雄・吉岡直彦・池田光宏・仲沢　豊・川原崎仁・滝　正孝
	富士市役所	川端　忠司	笠井憲一・平野孝雄・菅沼友明・笠井好美・古郡文博
	本州製紙	町田　守正	永田節子・鈴木あつ子・鈴木弘美・渡辺光代・磯部千代子・今井田真澄
愛　知	新日鐵・名古屋	奥野　哲次 山本　卓男	菅井　孝・奥野省三・佐々木秀一・山口元吉・天野良彦・林　甚代・奥野哲次 江端幸子・竹内佐知子・小野孝江・加古弘子
	名古屋鉄道	井沢　　宏	樋口一春・村上敏行・菱田修光・加藤保利・伊村　隆・後藤　守・井沢　宏
	三菱重工・名古屋	加藤　聖和	加藤聖和・松波　譲・沢田正夫・中橋友行・小倉和幸・西村敏夫・青山忠雄
	大同製鋼	曽我　信重	坂本正次・北川利光・戸松一郎・賢生季隆・曽我信重
	豊田織機	深井　忠男	正岡洋三・武田正雄・榊原輝次・中田武良・深井忠男
	トヨタ自動車	長谷川敏彦	谷口　寛・本間順次・松島　保・川合信之・松居宏司・南田義正・梶川博之・磯野雄二 岩尾哲郎 布上茂美・浦田由美子・小林洋子・向由美子・根木栄子・二川清美・片山泰恵・辻口和美
	名古屋市役所	渡辺　泰竹	岩井正好・平野博久・田村武満・竹下輝雄
	名古屋鉄道	村上　敏行	加藤保利・菱田修光・村上敏行・山本良雄・横井孝範 角みどり・小原安子・横井恵子・渡辺栄子・古瀬ミハル
	日本電装	森川三津夫	竹田勝彦・上前茂人・森川三津夫・佐野典明・蒲生美知雄・黒崎俊之
	三菱重工・名古屋	泉　　新治	中橋友行・松波　譲・沢田正夫・青山忠雄・岩田　崇・泉　新治
三　重	松下電工・伊勢	林　八重子	林八重子・橋爪節子・阪婦久代・中山幸子
	三菱油化・四日市	古川　幸一	北村　保・大倉　忠・後藤幸孝・安良城雄介・泉　洋二
	三菱化成・四日市	増井　孝夫	増井孝夫・小林　悟・小林信行・伊藤正己・諸田秀二・田中秀俊・市来哲郎
岐　阜	川崎重工・岐阜	堀田　　実 石博　正徳	只野　博・高田秋男・田中充夫・井崎善雄・市来光一・友岡幸一・白山秀一 翠　久子・石原敦子・石井宏子・宮内智子・近藤千津子・岡田かよ子
	岐阜県庁	田島　　孜	石田　貢・所　　晃・掛布恭治・浅野人美・高橋伸治・田口伸治・国田　貢
滋　賀	大津市役所	久保　　宏	久保　宏・釜屋明和・西原四郎・山田杉男・田中正民・山田道義
	立石電機・草津	前田　秀樹	西堀喜代子・北村弘美・白石寿美・大前光江・竹内千代美
	日本ＩＢＭ	高田　健一	高田健一・石原　誠
	東レ・滋賀	山中　保一	富田茂久・上田哲滋・山中保一・古川正行・田中　実・中原ゆう子・桑原道子・松藤ひろみ 福元とよ子・吉見康子・山本ユキ代
	松下電工・彦根	増田　信治	坂本博史・和田澄夫・増田信治・林　　繁 藤井清子・山田敏子・北村恭子・河村和美・山村美恵子・岩根善美
京　都	海上自衛隊・舞鶴	沢田　巧二	田野栄敏・瀬野俊策・川村道厚・田野博之・白井規久夫・白井幸夫
	国立病院舞鶴	西村　暉脩	池部勝美・曽根徳郎・梅枝孝之・中村　守
	島津製作所	甲良　洋一	藤江正則・長岡喜久男・上田　勉・奥田俊次・高安博正・甲良洋一・若林　登
	松風陶歯	高藤　哲岳	徳田　進・深谷幸雄・高藤哲岳・伊佐恒範
	三菱自工・京都	福井　達雄	福井達雄・戸沢正雄・高宮梵之助・石津正明・中尾政実・井爪信夫・鈴木義秋
大　阪	大阪ガス	西野　幸雄	出口　譲・北野公男・西野幸雄・荻野　勇・矢田清春・小西秀政・田中真平
	興亜石油・大阪	吾郷　裕志	吾郷裕志・井関　博・岩垣雅典・日下英明・藤野敏幸・金田満夫・南　　功
	サントリー	山本　次生	西尾真理子・秋本八代美・谷美津代・秋本幸子・徳田敦子・山本次生
	塩野義製薬	本摩　恒利	本摩恒利・北川忠雄・片山照明・妹尾健史・西原義孝
	住友生命	木村　幸雄	佐藤　芳郎・三宅　保・丸井広道・木原　茂・河本保夫
	住友金属製鋼所	三上　博敏	森田　勉・梅本　彰・田辺修一・藤野勝次・中沢　登・野村　隆 山田育代・田林真佳子・吉岡久美子・松井睦美

県名	事業所名	監督名	選手名
大阪	スワロー化研	林　辰夫	鷲尾正一・池田文昭・遠藤和男・川前明裕・滝沢孝三・佐野　弘・斉藤雅伸 野村奈保子・田所了子・山口綾美・五十嵐松美・横田美佐江
	電電近畿	池田　芳麻	竹原　茂・村田信博・滝野公一・岩田　昇・中島真一・山下順次郎・宮本宏和・片山修治 西村剛光・池田修治・吉田千恵美・木村賀津子・藤井喜志子・平野　恵・佐藤節子
	阪急電鉄	木目　嘉崇	渋谷元己・野沢明雄・木目嘉崇・市橋　茂・出田安隆・長沢秀信・下野治生
	松下電器・大阪	宮里　重信	山口　博・宮崎庄一・宮里重信・山川正一・那須哲太郎・衣斐晴比古・宮沢久男
和歌山	住友金属・和歌山	宇治　収	川村桂司・辻　満彦・宇治　収・辻本　進・谷口洋二・小形善樹・北山一成 湯川泰子・酒井澄子・坂本喜和美・河野敦子・竹田豊子・浦　和子
	東亜燃料・和歌山	田中　務	坂東康夫・上村一弘・阿部　悟・芝崎泰和・錦織久夫・宮崎末義・栗田　幹
	丸善石油・下津	林　保雄	志場　周・宮本武司・和久谷富章・楠戸春則・穂谷真弘・上野健一・森　隆
兵庫	川崎重工・神戸	福田　京三	木戸本良一・山本嘉一・井田寿幸・川上勇次・福永英隆・高橋誠二・浦島伸吾 村田悦子・小西玲子・竜井和江・井川美貴子
	神戸製鋼・尼崎	鍋田　賢一	友金　利一・浜野　孝・来田正雄・小泉淳一・田中　至・田中紀久・植松虎雄 楠田栄子・山鹿りつ子・藤本敬子・秋田昌子・吉田美智子
	神戸市役所	川口　正光	竹内政己・高原信幸・幡中光栄・並木芳顕・沢田信二・石井　修・中村洋光
	神戸製鋼・高砂	田中　晋義	八木鈴枝・永井睦子・堀　滋美・梅田裕美
	新日鐵・広畑	堤田　富大	塩飽　初・平松重吉・塗　嘉夫・藤城武美・片岡正之・小川清市
	住友金属鋼管	井内　利治	高木茂和・奥村晴一・小田清二・高木昭憲・井内利治・鈴木譲二・寺田公三 仲本恵子・吉沢郁子・松井恵子・寺薗達子・鍵田晴美・大長正容
	大日日本電線	吉田　昇	森田幸男・山田達也・佐野義則・大野憲一・今井則明・狩集　功・足立　博
	三菱電機・伊丹	山田　直也	上藤朝之・矢賀雅人・入口弥一郎・亀井義則・浅岡正久・入口藤男・寺尾一秀
	三菱電機・神戸	尾田　憲明	小林忠信・原美由紀・竹下あきの
鳥取	国鉄・後藤		高真　引・安部一夫・木村和夫・佐々木義政・松永恭昌・井原平八郎・田村周三
	日本パルプ・米子	安田　徳郎	倉本仁司・砂川清美・中尾徳義・山根富雄
岡山	岡山市役所	小松　貴	藤井英雄・今東幸一・小松　貴・崎本明雄・青木元春・岡本武利・水川捨夫
	三井造船・玉野	虻江　優	上野輝治・藤原　航・田丸勝己・芳上一男・松井　一・毛利利夫・山本　清
広島	日立・因島	上田　辰男	矢野信夫・安田守夫・山本昭生・大塚良一・中山有司・中村忠一・岩岡照明・大道秀夫
	三菱電機・福山	占部　栄一	占部栄一・山岡　満・安達恵吉・安達喜兼・木村浩之・山田進一郎・平田尋己
山口	宇部興産	末広　秀樹	末広秀樹・河添忠夫・石川好夫・坂本賢二・藤原　薫・渡辺　宏
	興亜石油	木山　茂雄	田中博美・加藤英臣・木山茂雄・真柴秀実・原　和秀・金子隆志
	山陽国策パルプ	川岡　智 河野　耕司	林　厚志・宮岡康臣・末岡通典・辻中公人・寺岡利明 柴田絹子・山本悦子・山田八千代・藤本洋子
香川	川崎重工・坂出	前川　義人	上野正博・柴田文男・中落　博・町川博俊
	香川県庁	真鍋　剛	野須博文・真鍋　剛・小山光男・英　俊次・弾生原義春・岡田忠己・森岡昌由
	高松琴平電鉄	東条　義昭	平井佐代子・田所静子・石原英子・山田高子
	高松市役所	横岡　忠幸	阿部正信・西池孝博・白井俊弘・飯原研二・田中真一・横岡忠幸・野口利行
	百十四銀行	大津　新平	日下　昇・山口豊子・牛田真由美・片岡由美・関本好子・前川加代子・渋谷茂子・金崎美保
愛媛	クラレ・西条	谷口　金夫	横井虎男・谷口金夫
	住友化学・菊本	大島　亮	片上逸志・本田民次郎・戸井田誠・伊藤君男・藤田健治・高塚俊司・福江　孝・三苫孝一 千葉重信
	丸善石油・松山	藤田　峰斎	永井龍夫・竹内洋雅・田中政剛・能田隆雄・浜中　誠・藤田峰斎・重松　等
高知	四国銀行	田中　裕三	楠瀬美佐恵・森川　文・田中由美・長井美枝
長崎	三菱重工・長崎	田中　貞夫	中野和雄・辻　優・馬場重文・福田良治・田中賢介・田中貞夫
	三菱電機・長崎	長松　保男	長松保男・下釜和則・古田　司・川久保暢宏・松山　清・江口　博・川上敏夫 川本久子・関　京子
大分	日田市役所	春武　俊一	春武俊一・宮原秀三
神奈川	安立電気	勝木　陽一	川田喜一
	いすゞ自動車・川崎	田中　正誼	波　博義・神越　武・小泉武夫・佐々木孝治・手塚利雄・菊地　修
	川崎市役所	中山　剛	宮本良一・中山　剛

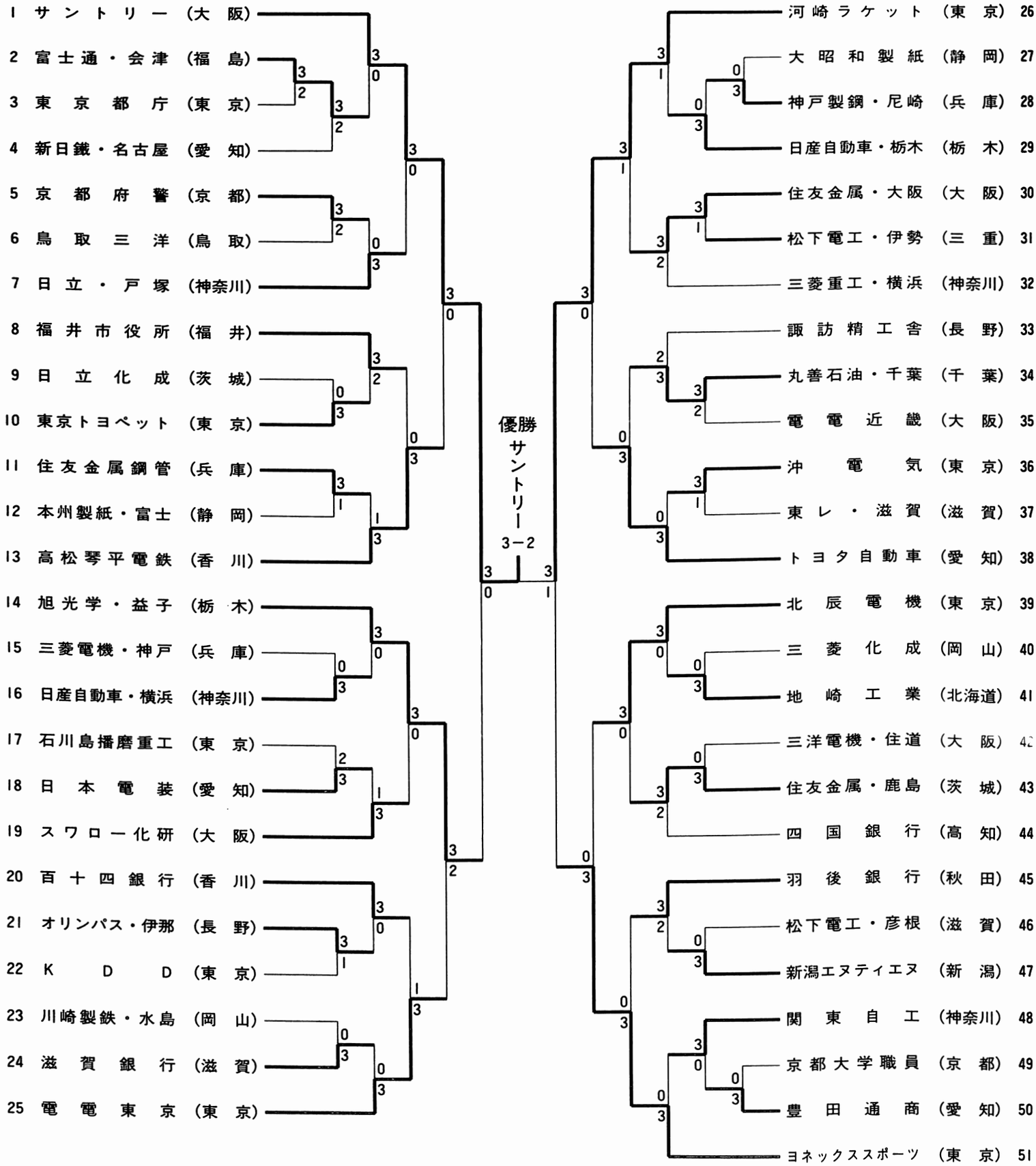
第27回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1977年(昭和52年)6月17～22日
開 催 地：大阪市、京都市
会　　場：(団体戦)大阪市中央体育館、
大阪市東淀川体育館、
松下電器枚方体育館、
(個人戦)京都府立体育館、京都市体育館

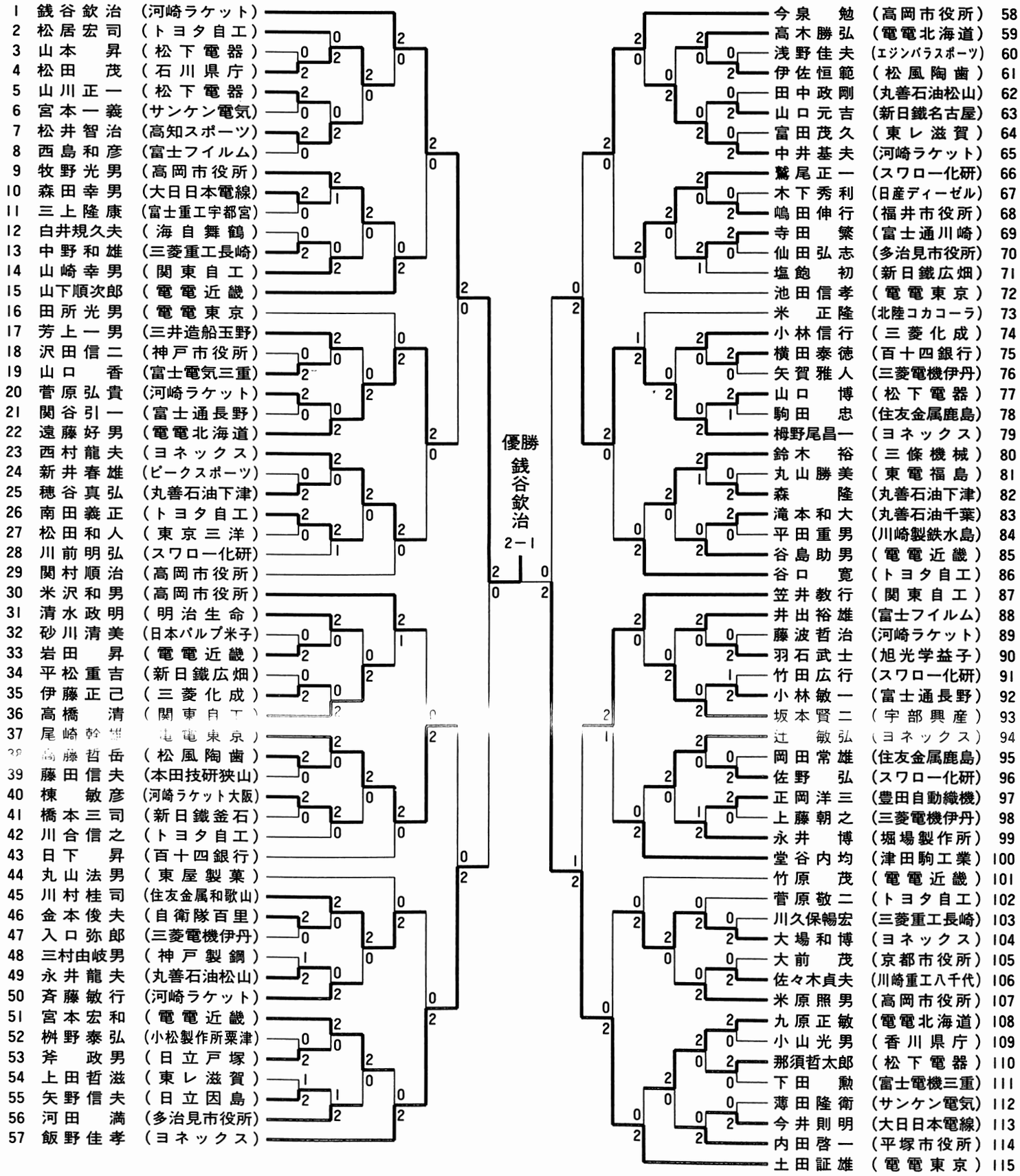
■男子団体の部



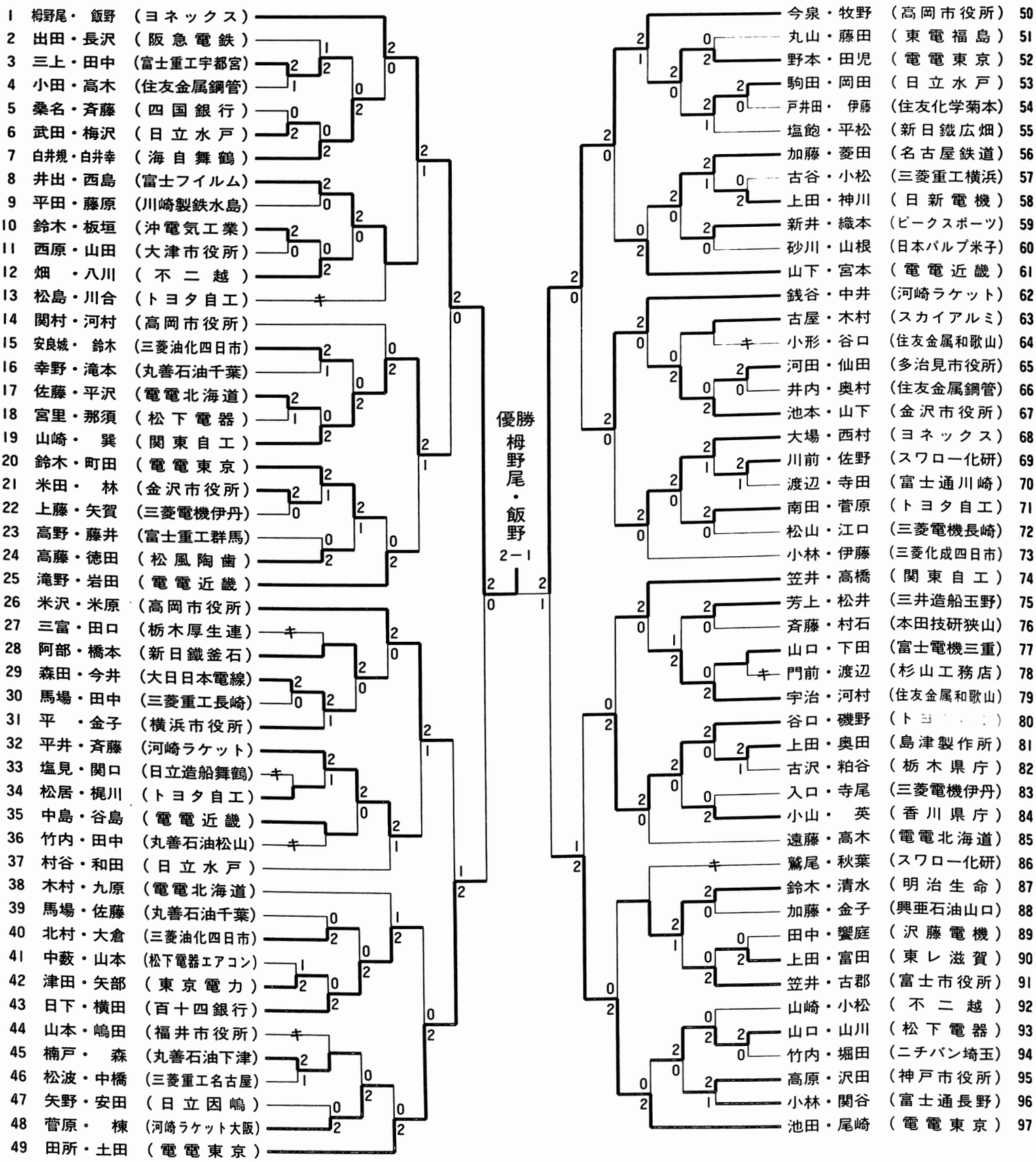
■女子団体の部


1 サントリー (大阪)
2 富士通・会津 (福島)
3 東京都庁 (東京)
4 新日鐵・名古屋 (愛知)
5 京都府警 (京都)
6 鳥取三洋 (鳥取)
7 日立・戸塚 (神奈川)
8 福井市役所 (福井)
9 日立化成 (茨城)
10 東京トヨペット (東京)
11 住友金属鋼管 (兵庫)
12 本州製紙・富士 (静岡)
13 高松琴平電鉄 (香川)
14 旭光学・益子 (栃木)
15 三菱電機・神戸 (兵庫)
16 日産自動車・横浜 (神奈川)
17 石川島播磨重工 (東京)
18 日本電装 (愛知)
19 スワロー化研 (大阪)
20 百十四銀行 (香川)
21 オリンパス・伊那 (長野)
22 KDD (東京)
23 川崎製鉄・水島 (岡山)
24 滋賀銀行 (滋賀)
25 電電東京 (東京)
優勝
サントリー
3−2
河崎ラケット (東京) 26
大昭和製紙 (静岡) 27
神戸製鋼・尼崎 (兵庫) 28
日産自動車・栃木 (栃木) 29
住友金属・大阪 (大阪) 30
松下電工・伊勢 (三重) 31
三菱重工・横浜 (神奈川) 32
諏訪精工舎 (長野) 33
丸善石油・千葉 (千葉) 34
電電近畿 (大阪) 35
沖電気 (東京) 36
東レ・滋賀 (滋賀) 37
トヨタ自動車 (愛知) 38
北辰電機 (東京) 39
三菱化成 (岡山) 40
地崎工業 (北海道) 41
三洋電機・住道 (大阪) 42
住友金属・鹿島 (茨城) 43
四国銀行 (高知) 44
羽後銀行 (秋田) 45
松下電工・彦根 (滋賀) 46
新潟エヌティエヌ (新潟) 47
関東自工 (神奈川) 48
京都大学職員 (京都) 49
豊田通商 (愛知) 50
ヨネックススポーツ (東京) 51

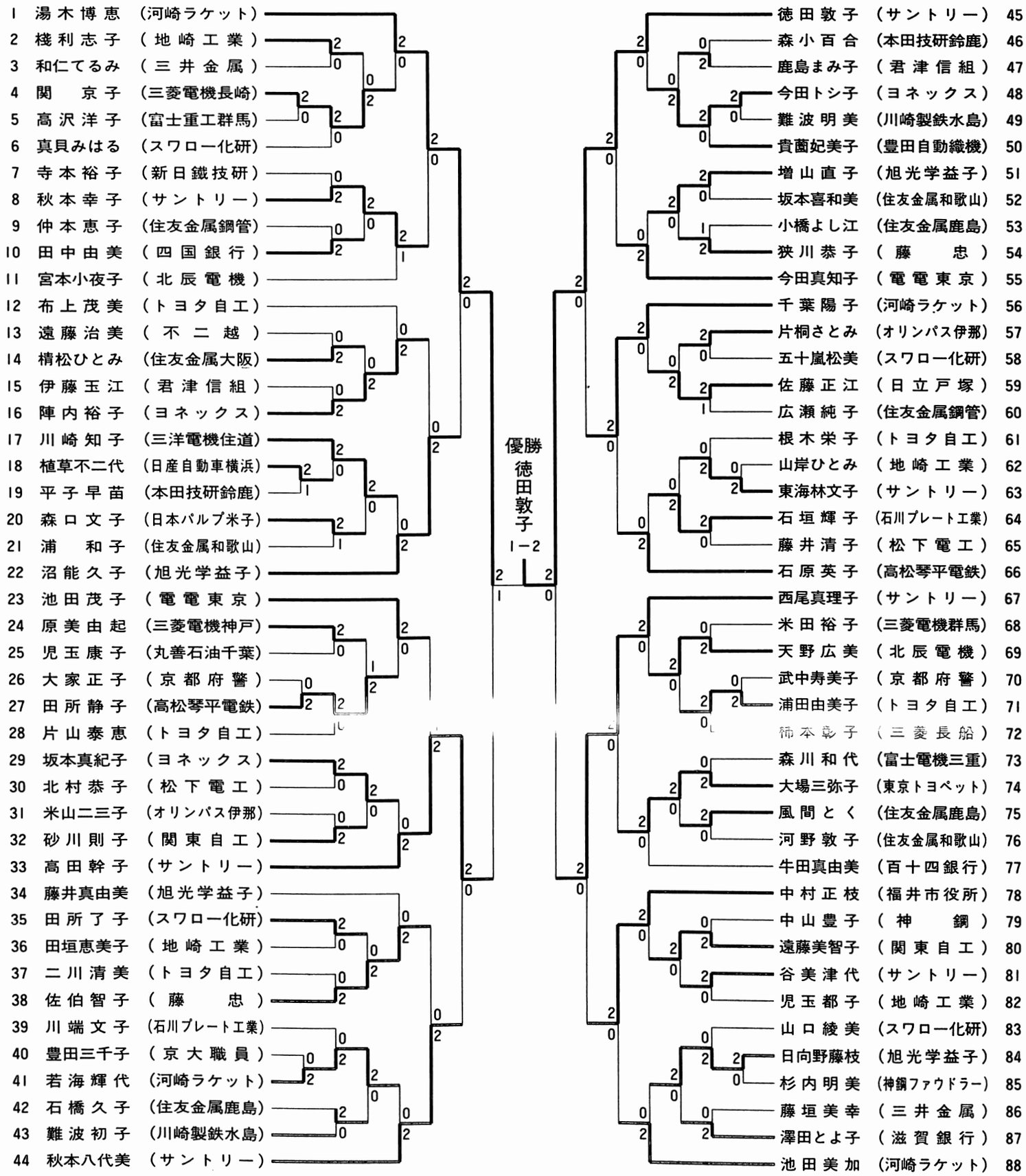
■男子単の部


1 銭谷欽治 (河崎ラケット)
2 松居宏司 (トヨタ自工)
3 山本 昇 (松下電器)
4 松田 茂 (石川県庁)
5 山川正一 (松下電器)
6 宮本一義 (サンケン電気)
7 松井智治 (高知スポーツ)
8 西島和彦 (富士フイルム)
9 牧野光男 (高岡市役所)
10 森田幸男 (大日日本電線)
11 三上隆康 (富士重工宇都宮)
12 白井規久夫 (海自舞鶴)
13 中野和雄 (三菱重工長崎)
14 山崎幸男 (関東自工)
15 山下順次郎 (電電近畿)
16 田所光男 (電電東京)
17 芳上一男 (三井造船玉野)
18 沢田信二 (神戸市役所)
19 山口 香 (富士電気三重)
20 菅原弘貴 (河崎ラケット)
21 関谷引一 (富士通長野)
22 遠藤好男 (電電北海道)
23 西村龍夫 (ヨネックス)
24 新井春雄 (ピークスポーツ)
25 穂谷真弘 (丸善石油下津)
26 南田義正 (トヨタ自工)
27 松田和人 (東京三洋)
28 川前明弘 (スワロー化研)
29 関村順治 (高岡市役所)
30 米沢和男 (高岡市役所)
31 清水政明 (明治生命)
32 砂川清美 (日本パルプ米子)
33 岩田 昇 (電電近畿)
34 平松重吉 (新日鐵広畑)
35 伊藤正己 (三菱化成)
36 高橋 清 (関東自工)
37 尾崎幹雄 (電電東京)
38 高藤哲岳 (松風陶歯)
39 藤田信夫 (本田技研狭山)
40 棟 敏彦 (河崎ラケット大阪)
41 橋本三司 (新日鐵釜石)
42 川合信之 (トヨタ自工)
43 日下 昇 (百十四銀行)
44 丸山法男 (東屋製菓)
45 川村桂司 (住友金属和歌山)
46 金本俊夫 (自衛隊百里)
47 入口弥郎 (三菱電機伊丹)
48 三村由岐男 (神戸製鋼)
49 永井龍夫 (丸善石油松山)
50 斉藤敏行 (河崎ラケット)
51 宮本宏和 (電電近畿)
52 桝野泰弘 (小松製作所粟津)
53 斧 政男 (日立戸塚)
54 上田哲滋 (東レ滋賀)
55 矢野信夫 (日立因島)
56 河田 満 (多治見市役所)
57 飯野佳孝 (ヨネックス)
優勝
銭谷欽治
2－1
58 今泉 勉 (高岡市役所)
59 高木勝弘 (電電北海道)
60 浅野佳夫 (エジンバラスポーツ)
61 伊佐恒範 (松風陶歯)
62 田中政剛 (丸善石油松山)
63 山口元吉 (新日鐵名古屋)
64 富田茂久 (東レ滋賀)
65 中井基夫 (河崎ラケット)
66 鷲尾正一 (スワロー化研)
67 木下秀利 (日産ディーゼル)
68 嶋田伸行 (福井市役所)
69 寺田 繁 (富士通川崎)
70 仙田弘志 (多治見市役所)
71 塩飽 初 (新日鐵広畑)
72 池田信孝 (電電東京)
73 米 正隆 (北陸コカコーラ)
74 小林信行 (三菱化成)
75 横田泰徳 (百十四銀行)
76 矢賀雅人 (三菱電機伊丹)
77 山口 博 (松下電器)
78 駒田 忠 (住友金属鹿島)
79 桝野尾昌一 (ヨネックス)
80 鈴木 裕 (三條機械)
81 丸山勝美 (東電福島)
82 森 隆 (丸善石油下津)
83 滝本和大 (丸善石油千葉)
84 平田重男 (川崎製鉄水島)
85 谷島助男 (電電近畿)
86 谷口 寛 (トヨタ自工)
87 笠井教行 (関東自工)
88 井出裕雄 (富士フイルム)
89 藤波哲治 (河崎ラケット)
90 羽石武士 (旭光学益子)
91 竹田広行 (スワロー化研)
92 小林敏一 (富士通長野)
93 坂本賢二 (宇部興産)
94 辻 敏弘 (ヨネックス)
95 岡田常雄 (住友金属鹿島)
96 佐野 弘 (スワロー化研)
97 正岡洋三 (豊田自動織機)
98 上藤朝之 (三菱電機伊丹)
99 永井 博 (堀場製作所)
100 堂谷内均 (津田駒工業)
101 竹原 茂 (電電近畿)
102 菅原敬二 (トヨタ自工)
103 川久保暢宏 (三菱重工長崎)
104 大場和博 (ヨネックス)
105 大前 茂 (京都市役所)
106 佐々木貞夫 (川崎重工八千代)
107 米原照男 (高岡市役所)
108 九原正敏 (電電北海道)
109 小山光男 (香川県庁)
110 那須哲太郎 (松下電器)
111 下田 勲 (富士電機三重)
112 薄田隆衛 (サンケン電気)
113 今井則明 (大日日本電線)
114 内田啓一 (平塚市役所)
115 土田証雄 (電電東京)

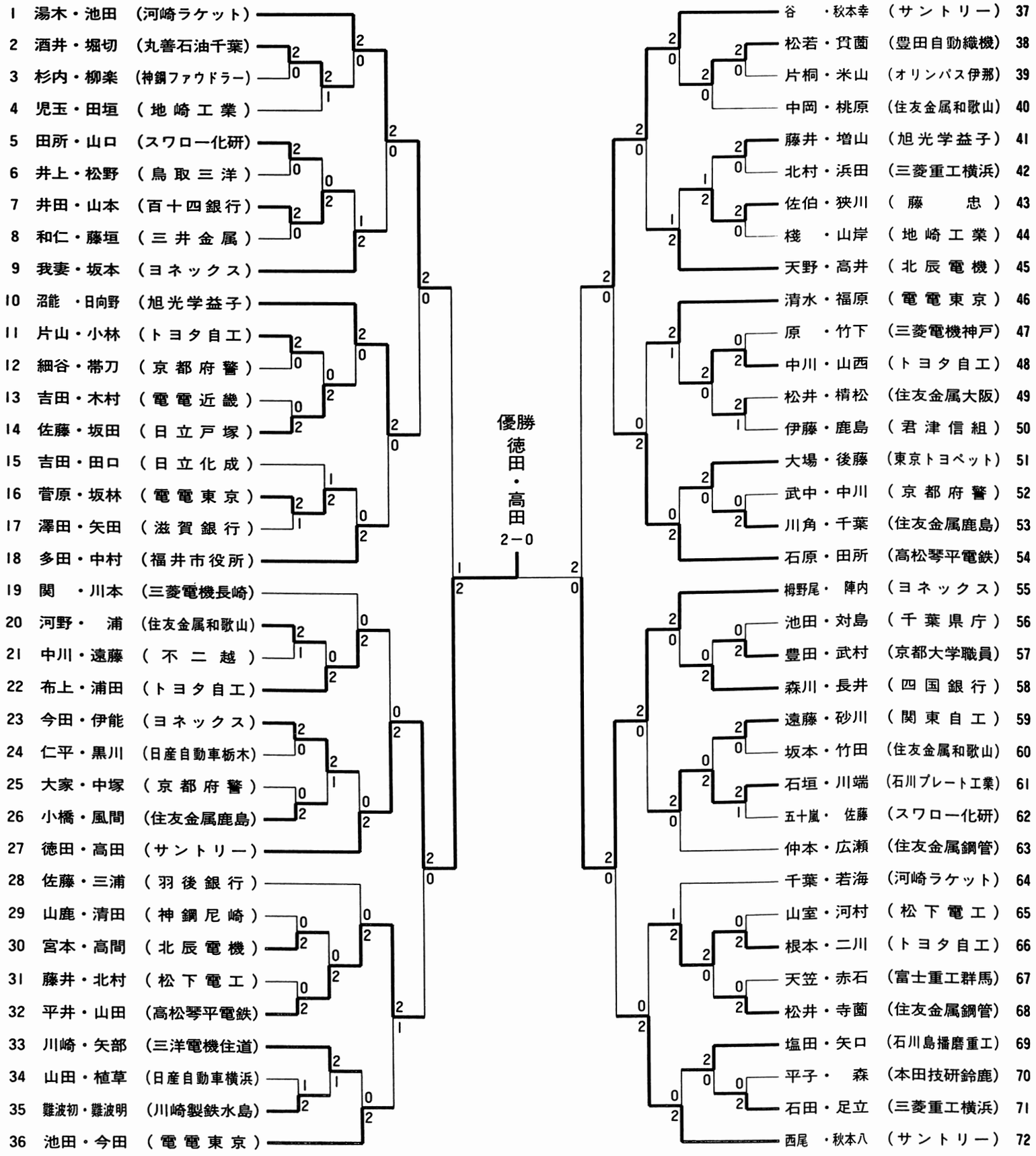
■男子複の部


1 梱野尾・ 飯野 （ヨネックス）
2 出田・長沢 （阪急電鉄）
3 三上・田中 （富士重工宇都宮）
4 小田・高木 （住友金属鋼管）
5 桑名・斉藤 （四国銀行）
6 武田・梅沢 （日立水戸）
7 白井規・白井幸 （海自舞鶴）
8 井出・西島 （富士フイルム）
9 平田・藤原 （川崎製鉄水島）
10 鈴木・板垣 （沖電気工業）
11 西原・山田 （大津市役所）
12 畑 ・八川 （不二越）
13 松島・川合 （トヨタ自工）
14 関村・河村 （高岡市役所）
15 安良城・ 鈴木 （三菱油化四日市）
16 幸野・滝本 （丸善石油千葉）
17 佐藤・平沢 （電電北海道）
18 宮里・那須 （松下電器）
19 山崎・ 巽 （関東自工）
20 鈴木・町田 （電電東京）
21 米田・ 林 （金沢市役所）
22 上藤・矢賀 （三菱電機伊丹）
23 高野・藤井 （富士重工群馬）
24 高藤・徳田 （松風陶歯）
25 滝野・岩田 （電電近畿）
26 米沢・米原 （高岡市役所）
27 三富・田口 （栃木厚生連）
28 阿部・橋本 （新日鐵釜石）
29 森田・今井 （大日日本電線）
30 馬場・田中 （三菱重工長崎）
31 平 ・金子 （横浜市役所）
32 平井・斉藤 （河崎ラケット）
33 塩見・関口 （日立造船舞鶴）
34 松居・梶川 （トヨタ自工）
35 中島・谷島 （電電近畿）
36 竹内・田中 （丸善石油松山）
37 村谷・和田 （日立水戸）
38 木村・九原 （電電北海道）
39 馬場・佐藤 （丸善石油千葉）
40 北村・大倉 （三菱油化四日市）
41 中薮・山本 （松下電器エアコン）
42 津田・矢部 （東京電力）
43 日下・横田 （百十四銀行）
44 山本・嶋田 （福井市役所）
45 楠戸・ 森 （丸善石油下津）
46 松波・中橋 （三菱重工名古屋）
47 矢野・安田 （日立因嶋）
48 菅原・ 棟 （河崎ラケット大阪）
49 田所・土田 （電電東京）
優勝
梱野尾・飯野
2－1
今泉・牧野 （高岡市役所） 50
丸山・藤田 （東電福島） 51
野本・田児 （電電東京） 52
駒田・岡田 （日立水戸） 53
戸井田・ 伊藤 （住友化学菊本） 54
塩飽・平松 （新日鐵広畑） 55
加藤・菱田 （名古屋鉄道） 56
古谷・小松 （三菱重工横浜） 57
上田・神川 （日新電機） 58
新井・織本 （ピークスポーツ） 59
砂川・山根 （日本パルプ米子） 60
山下・宮本 （電電近畿） 61
銭谷・中井 （河崎ラケット） 62
古屋・木村 （スカイアルミ） 63
小形・谷口 （住友金属和歌山） 64
河田・仙田 （多治見市役所） 65
井内・奥村 （住友金属鋼管） 66
池本・山下 （金沢市役所） 67
大場・西村 （ヨネックス） 68
川前・佐野 （スワロー化研） 69
渡辺・寺田 （富士通川崎） 70
南田・菅原 （トヨタ自工） 71
松山・江口 （三菱電機長崎） 72
小林・伊藤 （三菱化成四日市） 73
笠井・高橋 （関東自工） 74
芳上・松井 （三井造船玉野） 75
斉藤・村石 （本田技研狭山） 76
山口・下田 （富士電機三重） 77
門前・渡辺 （杉山工務店） 78
宇治・河村 （住友金属和歌山） 79
谷口・磯野 （トヨ[illegible]） 80
上田・奥田 （島津製作所） 81
古沢・粕谷 （栃木県庁） 82
入口・寺尾 （三菱電機伊丹） 83
小山・ 英 （香川県庁） 84
遠藤・高木 （電電北海道） 85
鷲尾・秋葉 （スワロー化研） 86
鈴木・清水 （明治生命） 87
加藤・金子 （興亜石油山口） 88
田中・饗庭 （沢藤電機） 89
上田・富田 （東レ滋賀） 90
笠井・古郡 （富士市役所） 91
山崎・小松 （不二越） 92
山口・山川 （松下電器） 93
竹内・堀田 （ニチバン埼玉） 94
高原・沢田 （神戸市役所） 95
小林・関谷 （富士通長野） 96
池田・尾崎 （電電東京） 97

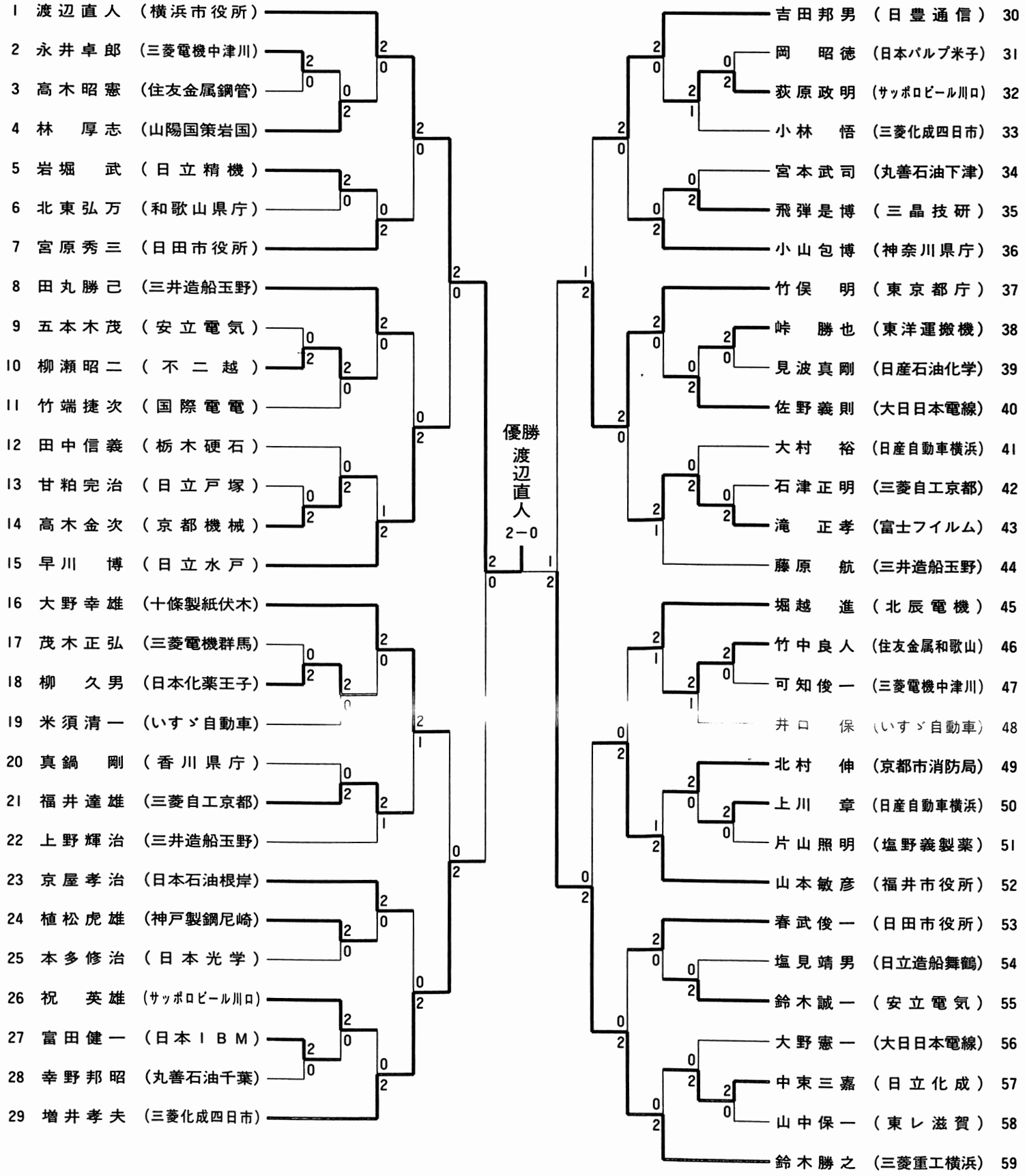
■女子単の部


1 湯木博恵 (河崎ラケット)
2 桟利志子 (地崎工業)
3 和仁てるみ (三井金属)
4 関 京子 (三菱電機長崎)
5 高沢洋子 (富士重工群馬)
6 真貝みはる (スワロー化研)
7 寺本裕子 (新日鐵技研)
8 秋本幸子 (サントリー)
9 仲本恵子 (住友金属鋼管)
10 田中由美 (四国銀行)
11 宮本小夜子 (北辰電機)
12 布上茂美 (トヨタ自工)
13 遠藤治美 (不二越)
14 楮松ひとみ (住友金属大阪)
15 伊藤玉江 (君津信組)
16 陣内裕子 (ヨネックス)
17 川崎知子 (三洋電機住道)
18 植草不二代 (日産自動車横浜)
19 平子早苗 (本田技研鈴鹿)
20 森口文子 (日本パルプ米子)
21 浦 和子 (住友金属和歌山)
22 沼能久子 (旭光学益子)
23 池田茂子 (電電東京)
24 原美由起 (三菱電機神戸)
25 児玉康子 (丸善石油千葉)
26 大家正子 (京都府警)
27 田所静子 (高松琴平電鉄)
28 片山泰恵 (トヨタ自工)
29 坂本真紀子 (ヨネックス)
30 北村恭子 (松下電工)
31 米山二三子 (オリンパス伊那)
32 砂川則子 (関東自工)
33 高田幹子 (サントリー)
34 藤井真由美 (旭光学益子)
35 田所了子 (スワロー化研)
36 田垣恵美子 (地崎工業)
37 二川清美 (トヨタ自工)
38 佐伯智子 (藤 忠)
39 川端文子 (石川プレート工業)
40 豊田三千子 (京大職員)
41 若海輝代 (河崎ラケット)
42 石橋久子 (住友金属鹿島)
43 難波初子 (川崎製鉄水島)
44 秋本八代美 (サントリー)
優勝
徳田敦子
1−2
徳田敦子 (サントリー) 45
森小百合 (本田技研鈴鹿) 46
鹿島まみ子 (君津信組) 47
今田トシ子 (ヨネックス) 48
難波明美 (川崎製鉄水島) 49
貴薗妃美子 (豊田自動織機) 50
増山直子 (旭光学益子) 51
坂本喜和美 (住友金属和歌山) 52
小橋よし江 (住友金属鹿島) 53
狭川恭子 (藤 忠) 54
今田真知子 (電電東京) 55
千葉陽子 (河崎ラケット) 56
片桐さとみ (オリンパス伊那) 57
五十嵐松美 (スワロー化研) 58
佐藤正江 (日立戸塚) 59
広瀬純子 (住友金属鋼管) 60
根木栄子 (トヨタ自工) 61
山岸ひとみ (地崎工業) 62
東海林文子 (サントリー) 63
石垣輝子 (石川プレート工業) 64
藤井清子 (松下電工) 65
石原英子 (高松琴平電鉄) 66
西尾真理子 (サントリー) 67
米田裕子 (三菱電機群馬) 68
天野広美 (北辰電機) 69
武中寿美子 (京都府警) 70
浦田由美子 (トヨタ自工) 71
柿本敬子 (三菱長船) 72
森川和代 (富士電機三重) 73
大場三弥子 (東京トヨペット) 74
風間とく (住友金属鹿島) 75
河野敦子 (住友金属和歌山) 76
牛田真由美 (百十四銀行) 77
中村正枝 (福井市役所) 78
中山豊子 (神 鋼) 79
遠藤美智子 (関東自工) 80
谷美津代 (サントリー) 81
児玉都子 (地崎工業) 82
山口綾美 (スワロー化研) 83
日向野藤枝 (旭光学益子) 84
杉内明美 (神鋼ファウドラー) 85
藤垣美幸 (三井金属) 86
澤田とよ子 (滋賀銀行) 87
池田美加 (河崎ラケット) 88

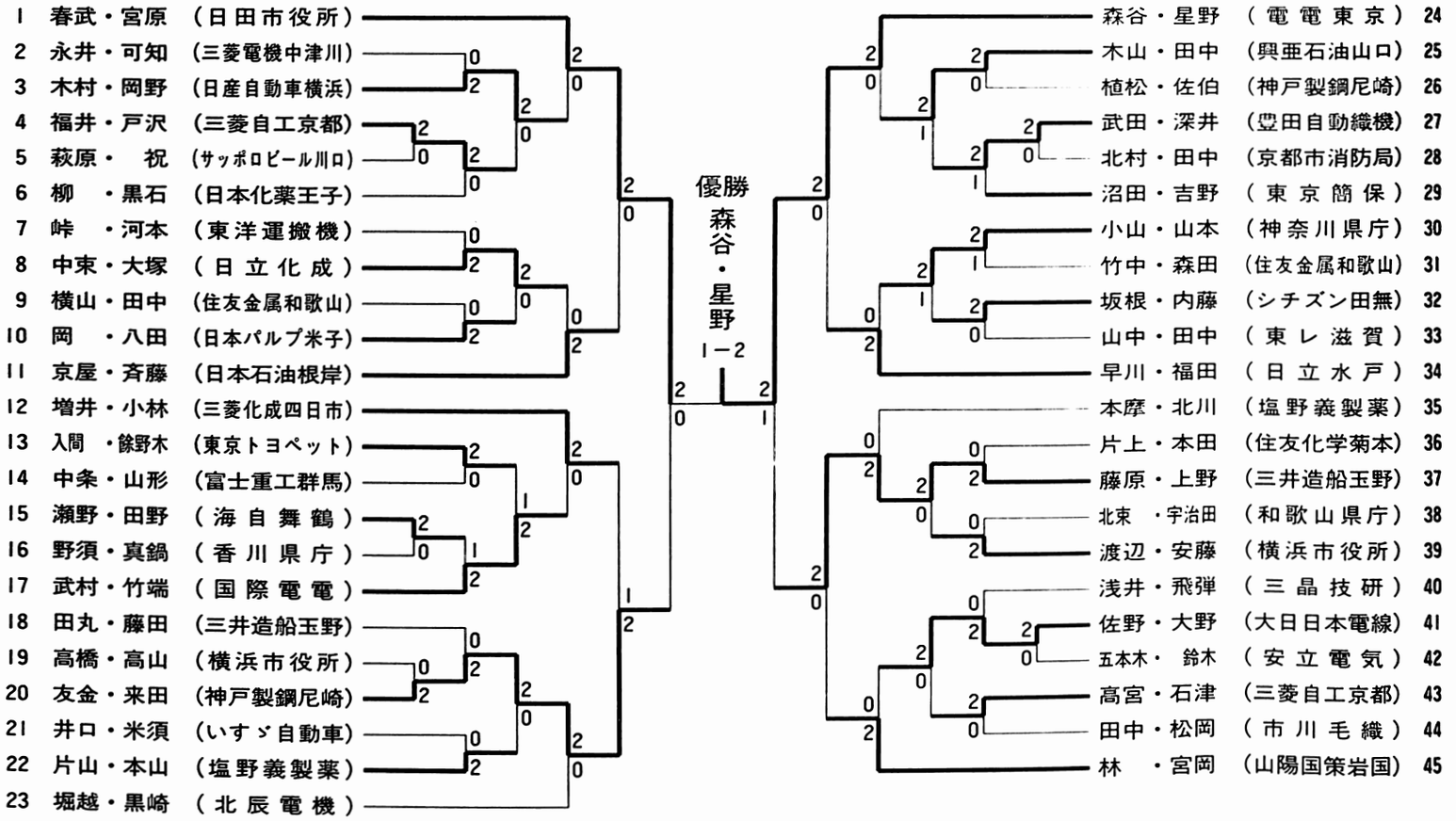
■女子複の部


1 湯木・池田 (河崎ラケット)
2 酒井・堀切 (丸善石油千葉)
3 杉内・柳楽 (神鋼ファウドラー)
4 児玉・田垣 (地崎工業)
5 田所・山口 (スワロー化研)
6 井上・松野 (鳥取三洋)
7 井田・山本 (百十四銀行)
8 和仁・藤垣 (三井金属)
9 我妻・坂本 (ヨネックス)
10 沼能・日向野 (旭光学益子)
11 片山・小林 (トヨタ自工)
12 細谷・帯刀 (京都府警)
13 吉田・木村 (電電近畿)
14 佐藤・坂田 (日立戸塚)
15 吉田・田口 (日立化成)
16 菅原・坂林 (電電東京)
17 澤田・矢田 (滋賀銀行)
18 多田・中村 (福井市役所)
19 関・川本 (三菱電機長崎)
20 河野・浦 (住友金属和歌山)
21 中川・遠藤 (不二越)
22 布上・浦田 (トヨタ自工)
23 今田・伊能 (ヨネックス)
24 仁平・黒川 (日産自動車栃木)
25 大家・中塚 (京都府警)
26 小橋・風間 (住友金属鹿島)
27 徳田・高田 (サントリー)
28 佐藤・三浦 (羽後銀行)
29 山鹿・清田 (神鋼尼崎)
30 宮本・高間 (北辰電機)
31 藤井・北村 (松下電工)
32 平井・山田 (高松琴平電鉄)
33 川崎・矢部 (三洋電機住道)
34 山田・植草 (日産自動車横浜)
35 難波初・難波明 (川崎製鉄水島)
36 池田・今田 (電電東京)
優勝
徳田・高田
2−0
谷・秋本幸 (サントリー) 37
松若・貫薗 (豊田自動織機) 38
片桐・米山 (オリンパス伊那) 39
中岡・桃原 (住友金属和歌山) 40
藤井・増山 (旭光学益子) 41
北村・浜田 (三菱重工横浜) 42
佐伯・狭川 (藤忠) 43
桟・山岸 (地崎工業) 44
天野・高井 (北辰電機) 45
清水・福原 (電電東京) 46
原・竹下 (三菱電機神戸) 47
中川・山西 (トヨタ自工) 48
松井・楢松 (住友金属大阪) 49
伊藤・鹿島 (君津信組) 50
大場・後藤 (東京トヨペット) 51
武中・中川 (京都府警) 52
川角・千葉 (住友金属鹿島) 53
石原・田所 (高松琴平電鉄) 54
栂野尾・陣内 (ヨネックス) 55
池田・対島 (千葉県庁) 56
豊田・武村 (京都大学職員) 57
森川・長井 (四国銀行) 58
遠藤・砂川 (関東自工) 59
坂本・竹田 (住友金属和歌山) 60
石垣・川端 (石川プレート工業) 61
五十嵐・佐藤 (スワロー化研) 62
仲本・広瀬 (住友金属鋼管) 63
千葉・若海 (河崎ラケット) 64
山室・河村 (松下電工) 65
根本・二川 (トヨタ自工) 66
天笠・赤石 (富士重工群馬) 67
松井・寺薗 (住友金属鋼管) 68
塩田・矢口 (石川島播磨重工) 69
平子・森 (本田技研鈴鹿) 70
石田・足立 (三菱重工横浜) 71
西尾・秋本八 (サントリー) 72

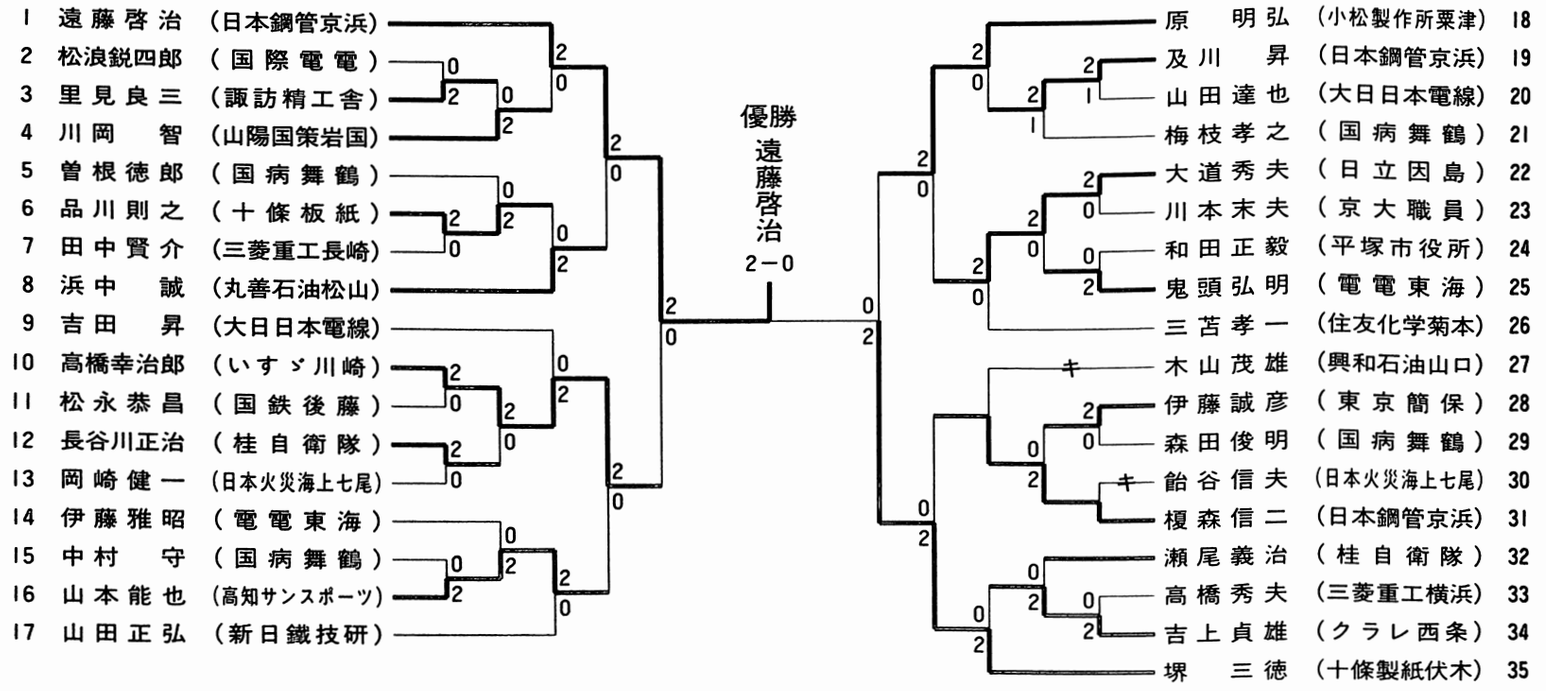
■30歳以上男子単の部


1 渡辺直人 (横浜市役所)
2 永井卓郎 (三菱電機中津川)
3 高木昭憲 (住友金属鋼管)
4 林 厚志 (山陽国策岩国)
5 岩堀 武 (日立精機)
6 北東弘万 (和歌山県庁)
7 宮原秀三 (日田市役所)
8 田丸勝己 (三井造船玉野)
9 五本木茂 (安立電気)
10 柳瀬昭二 (不二越)
11 竹端捷次 (国際電電)
12 田中信義 (栃木硬石)
13 甘粕完治 (日立戸塚)
14 高木金次 (京都機械)
15 早川 博 (日立水戸)
16 大野幸雄 (十條製紙伏木)
17 茂木正弘 (三菱電機群馬)
18 柳 久男 (日本化薬王子)
19 米須清一 (いすゞ自動車)
20 真鍋 剛 (香川県庁)
21 福井達雄 (三菱自工京都)
22 上野輝治 (三井造船玉野)
23 京屋孝治 (日本石油根岸)
24 植松虎雄 (神戸製鋼尼崎)
25 本多修治 (日本光学)
26 祝 英雄 (サッポロビール川口)
27 富田健一 (日本IBM)
28 幸野邦昭 (丸善石油千葉)
29 増井孝夫 (三菱化成四日市)
優勝
渡辺直人
2−0
30 吉田邦男 (日豊通信)
31 岡 昭徳 (日本パルプ米子)
32 荻原政明 (サッポロビール川口)
33 小林 悟 (三菱化成四日市)
34 宮本武司 (丸善石油下津)
35 飛弾是博 (三晶技研)
36 小山包博 (神奈川県庁)
37 竹俣 明 (東京都庁)
38 峠 勝也 (東洋運搬機)
39 見波真剛 (日産石油化学)
40 佐野義則 (大日日本電線)
41 大村 裕 (日産自動車横浜)
42 石津正明 (三菱自工京都)
43 滝 正孝 (富士フイルム)
44 藤原 航 (三井造船玉野)
45 堀越 進 (北辰電機)
46 竹中良人 (住友金属和歌山)
47 可知俊一 (三菱電機中津川)
48 井口 保 (いすゞ自動車)
49 北村 伸 (京都市消防局)
50 上川 章 (日産自動車横浜)
51 片山照明 (塩野義製薬)
52 山本敏彦 (福井市役所)
53 春武俊一 (日田市役所)
54 塩見靖男 (日立造船舞鶴)
55 鈴木誠一 (安立電気)
56 大野憲一 (大日日本電線)
57 中東三嘉 (日立化成)
58 山中保一 (東レ滋賀)
59 鈴木勝之 (三菱重工横浜)

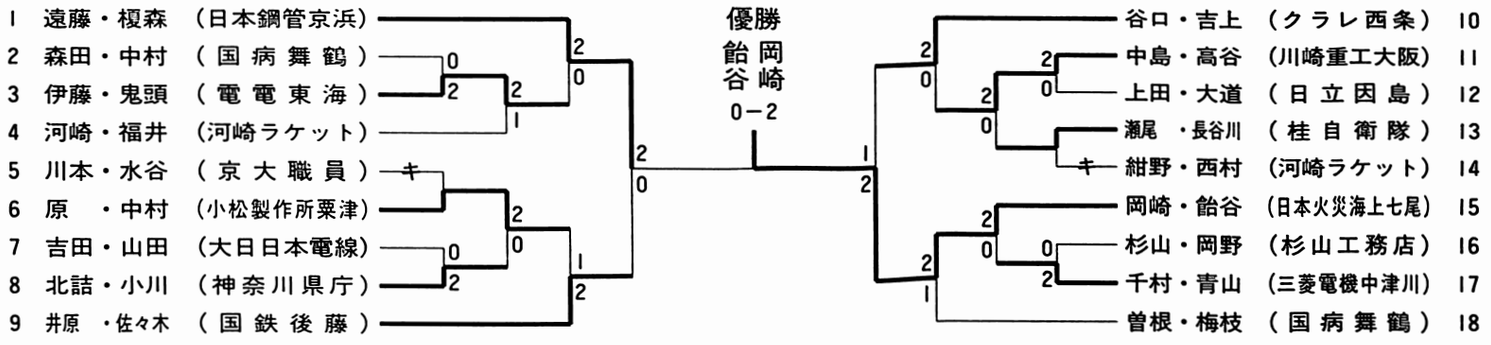
■30歳以上男子複の部



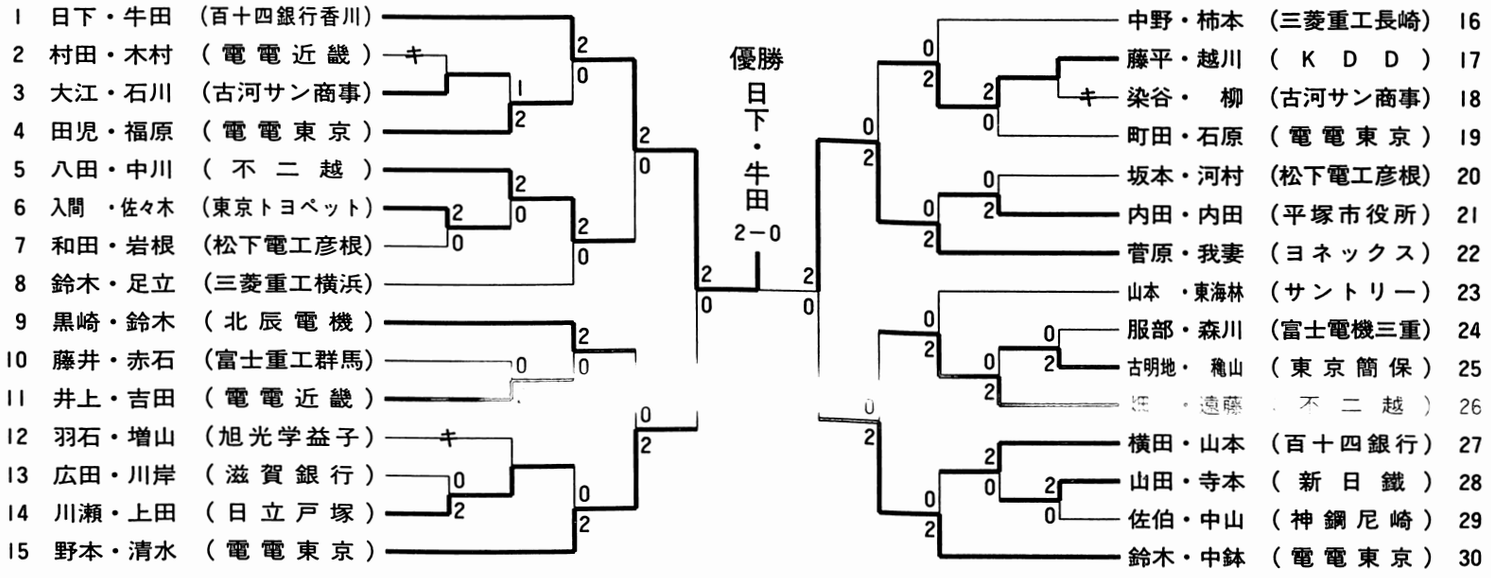
■40歳以上男子単の部



■40歳以上男子複の部



■混合複の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	釧路市役所	斉藤　英樹	藤井達也・貝塚敏勝・荒木英男・山下　茂・浅野留治・吉田茂徳・藤井範彦
	電電北海道	平山　三城	遠藤好男・九原正敏・赤塚正三・木村敏男・佐藤義孝・高木勝弘・平沢　徹
岩手	新日鐵・釜石	本多　三郎	阿部哲夫・高橋道夫・斉藤謙一・熊谷　徹・菅原又男・橋本三司
福島	三菱電機・郡山	松崎　和朗	松崎和朗・大河原貞敏・星野　勉・石井勝彦
	東京電力・福島	庄司　俊明	丸山勝美・藤田正一
	日豊通信		吉田邦男
茨城	住友金属・鹿島	江藤　伸	島林総蔵・武田富美明・駒田　忠・岡田常雄・金野幹保・梅林和則
	日立化成	中束　三嘉	大塚富士夫・千葉善夫・佐藤信良・水野　裕・中束三嘉
	日立製作所・水戸	内山　俊一	菅野　孝・和田謙一・早川　博・福田喜代志・村谷信之・阿部信幸
	古河サン商事	大江　礼謹	大江礼謹・染谷一弘
	自衛隊・百里	金本　俊夫	金本俊夫
群馬	富士重工・群馬	渡辺　晃一	中条俊雄・山形　武・渡辺晃一・坂口隆夫・高野貞男・藤井良典
	三菱電機・群馬	茂木　正弘	千田泰男・高橋勝美・栗原　弘・米田　守・田島文雄・茂木正弘・橋本一郎
	エジンバラスポーツ	井上　英夫	浅野佳夫
	澤藤電機	志村　勝己	田中　司・饗庭孝夫
	東京三洋電機	岡崎　敬一	松田和人
栃木	旭光学工業・益子	小塙　宏人	羽石武士・高野久雄・芦野勝己・伊沢義美
	栃木県庁	湯沢　雄一	湯沢雄一・古沢元浩・森本金一・伊藤政英・粕谷　武
	富士重工・宇都宮	霜山　哲	川上岩雄・霜山　哲・田中　勇・大島　巌・三上隆康・近嵐裕治・高橋秀行
	いすゞ自動車・栃木	井口　保	井口　保・米須清一
	神戸製鋼所・栃木		三村由岐男
	栃木県厚生連	三富　美晴	三富　美晴・田口正規
	栃木硬石		田中　信義
埼玉	埼玉県庁	吉成　素彦	黒須　栄・久保田宇作・宮崎　茂・内川雅博・永田喜雄・猪股正人・藤島保男
	サンケン電気	今井　清兼	薄田隆衛・田中忠義・小林洋一・小椋喜代次・宮本一義・坂元　勝・竹田建夫
	日産ディーゼル	田中　義康	木下秀利・佐藤博文・小池英安・角浜　勉・坪田紀夫・坂本正彦
	本田技研・狭山	藤田　茂樹	松原裕史・福井雅治・斉藤次男・村石正昭・大橋　正・清水宏之・藤田信夫
	サッポロビール・川口	萩原　政明	萩原政明・祝　英雄
	スカイアルミ・深谷	古屋　雅美	古屋雅美・木村彰男
	ニチバン	竹内　英明	竹内英明・堀田直人
千葉	市川毛織・柏	田中　靖	対馬　務・松岡良夫・田中　靖・上石　寛
	富士電機・千葉	石橋　康幸	南　千勇・進藤益夫・石橋康幸・藤沢温夫・中尾伴清・渡部　享
	丸善石油・千葉	植田　寿一	馬場秀明・野村康一・幸野邦昭・滝本和大・佐藤一男・岩本圭悟・高橋俊明
	川崎重工・八千代		佐々木貞夫
	日産石油化学	岡本　栄介	見波真剛
	日立精機		岩堀　武
	ピークスポーツ	峯元　一匡	新井春雄・織本富之
東京	沖電気工業	佐藤彦次郎	鈴木清一・板垣健二・山田善三・岡部　正・池田秀美・佐藤彦次郎
	河崎ラケット	堺　栄一	平井克英・斉藤敏行。銭谷欽治・中井基夫・堺　栄一・角田重男・藤波哲治・紺野義光 西村嘉信・河崎一幸。福井正康
	航空宇宙技研	名越　孝行	楯　篤志・阿部正男・平林則明・野口正芳・高梨・進・藤田敏美
	電電東京	鈴木　健二	池田信孝・田所光男・尾崎幹雄・土田証雄・町田秀和・野本綱夫・田児淳一・鈴木健二 森谷喜久男・星野義昭

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
東　京	東京地方簡易保険	永井　昌俊	沼田七郎・吉野章二・古明地正邦・武田公正・石岡宏喜・狗飼　覚・永井昌俊・伊藤誠彦
	東京電力	小野田文雄	田口敏允・小野田文雄・津田由広・石原泰造・岩間　源・生方重雄　矢部　明
	東京都庁	髙橋　秀男	竹俣　明・大原政義・島田　稔・馬場猛夫・岩上昭一・山崎　隆・福田　正
	日本化薬・王子	黒石　善治	吉沢寛治・柳　久男・杉村秀夫・柳内浩司・野崎光生・世良数明・黒石善治
	日立本社	林　　勉	内山友夫・林　幸三・佐倉和明・今　睦男・吉岡博美・佐藤幸夫・石井策馬
	北辰電機	千葉　正皓	堀越　進・上三垣隆志・中山廣明・阿部正行・佐藤雅己・中島康信・上原日出男・黒崎二男
	明治生命	宮永　武司	鈴木英夫・川上善康・山田友良・清水政明・安田伸一・渡辺信雄・服部秀昭
	ヨネックス	土田　　隆	栂野尾昌一・飯野佳孝・菅原　薫・大場和博・西村龍夫・中山謙吾・辻　敏弘
	安立電気	五本木　茂	鈴木誠一・五本木茂
	ＫＤＤ	松浪鋭四郎	松浪鋭四郎・藤平　守
	シチズン・田無	岡山　吉久	板根繁夫・内藤　旭
	杉山工務店	杉山　愿章	門前　優・渡辺秀明・杉山愿章・岡野良雄
	東京トヨペット	入間　秀哲	入間秀哲・餘野木勉
	日本光学		本多修治
神奈川	いすゞ自動車・川崎	波　　博義	波　博義佐々木孝治・小泉武夫・手塚利雄・菊地　修・髙橋幸治郎
	関東自動車	山内　久雄	山崎幸男・笠井教行・髙橋　清・巽　康司・諏訪部東海夫・栗　英剛・国府田仁
	日産自動車・横浜	桜田　豊治	桜田豊治・竹村芳雄・髙橋　始・伊藤　選・岡野隆太郎・松本　薫・照井良治・大村　裕 上川　章
	日本石油・根岸	京屋　孝治	泉　信夫・佐藤幸男・京屋孝治・佐々木登・丸山則明・斉藤　満・石渡輝己
	三菱重工・横浜造船所	鈴木　勝之	鎌田　哲・古谷陽一・髙橋保則・小松　宏・上野雅晴・山本　勝・鈴木勝之・髙橋秀夫
	横浜市役所	安藤　　保	平　敏司・斉藤英昭・渡辺直人・金子英司・中野孝司・広木俊一・松本利喜夫・髙橋正宏 髙山昭二・安藤　保
	神奈川県庁	北詰　隆美	小山包博・山本徹夫・北詰隆美・小川揚之輔
	新日鐵・技研		山田正弘
	日立製作所・戸塚	甘粕　完治	斧　政男・甘粕完治・川瀬和利
	平塚市役所	石川　正美	内田啓一・和田正毅
	富士通・川崎	[illegible]	[illegible]
	日本鋼管・京浜	八木　和夫	遠藤啓治・榎森信二・及川　昇
新　潟	東屋製菓		丸山法男
	三條機械		鈴木　裕
長　野	諏訪精工舎	千野　統雄	福永俣人・塩川敏行・里見良三・千野統雄・武田康嗣・横内隆次
	富士通・長野	飯島　陽一	小林敏一・関谷弘一・福島晃範・飯島陽一
富　山	三晶技研	浅井　秀一	飛驒是博・源通直樹・浅井秀一・関口謙一・中島　勉・松本泰長・松浦健二
	高岡市役所	中山　邦夫	今泉　勉・関村順治・牧野光男・米沢和男・米原照男・河村博之・中山邦夫
	不二越	畑　　栄進	八川修一・山崎　功・畑　栄進・清水信之・小松美樹男・井沢　清・柳瀬昭二
	十條製紙・伏木	堺　　三徳	大野幸雄・堺　三徳
石　川	金沢市役所	山本　証一	池本和雄・米田幸生・山下敏行・林　芳広・太田博之・泉　光男・山形　博
	小松製作所・粟津	原　　明弘	石川順一・北　秀樹・桝野泰弘・滝根　進・原　明弘・本　良一・中村　均
	石川県庁	中山　　厳	松田　茂
	津田駒工業	安江　　勉	堂谷内　均
	日本火災海上・七尾	岡崎　健一	岡崎健一・飴谷信夫
	北陸コカコーラ		米　正隆
福　井	福井市役所	大橋　正武	増永秀則・山本敏彦・坂井範行・嶋田伸行・吉村清一・三屋　明

県名	事業所名	監督名	選手名
静岡	富士市役所	川端　忠司	平野孝雄・笠井憲一・菅沼友明・笠井好美・古郡文雄・増田錠一
	富士フィルム	滝　正孝	滝　正孝・西島知彦・井出裕雄・池田光宏・吉岡直彦・諏訪郡豊
愛知	新日鐵・名古屋	山本　卓男	菅井　孝・山口元吉・天野良彦・林　甚代・山西友幸・家城昭夫・奥野哲次
	トヨタ自動車	長谷川敏彦	谷口　寛・本間順次・松島　保・川合信之・磯野雄二・松居宏司・菅原敬二・南田義正 梶川博之
	豊田自動織機	深井　忠男	山口清春・正岡洋三・武田正雄・深井忠男・榊原輝次・中田武良
	名古屋市役所	渡辺　泰竹	岩井正好・平野博久・田村武満・竹下輝雄・水野重秋・宮崎芳和
	名古屋鉄道	井沢　宏	加藤保利・菱田修光・村上敏行・山本良雄・横井孝範
	日本電装	森川三津夫	竹田勝彦・上前茂人・森川三津夫・佐野典明・黒崎俊之
	三菱重工・名古屋	大矢部道雄	岩田　崇・青山忠雄・中橋友行・松波　譲・加藤聖和・船木真司・米本訓和
	電電東海	伊藤　雅昭	伊藤雅昭・鬼頭弘明
岐阜	多治見市役所	大島　貞夫	万字益雄・河田　満・武知勝念・加藤　仁・今井康雄・仙田弘志・山田博文
三重	三菱電機・中津川	永井　卓郎	梶田政弘・小幡　勇・千村義夫・永井卓郎・可知俊一・小田　肇・大畑澄夫・青山千秋
	富士電機・三重	山口　香	山口　香・下田　勲・服部広美・藤本規夫・後藤俊彦・後藤　久
	本田技研・鈴鹿	小林　淳一	松田大吉郎・浜口久克・河原賢治・松田五雄・郭　秀裕・新川雅俊・朝日奈正光
	三菱化成・四日市	増井　孝夫	増井孝夫・小林　悟・小林信行・伊藤正己・田中秀俊・諸田秀二・市来哲郎
	三菱油化・四日市	古川　幸一	北村　保・大倉　忠・安良城雄介・鈴木正平・泉　洋二
鳥取	日本パルプ・米子	安田　徳郎	倉本仁司・砂川清美・中尾徳義・山根富雄・宮本良博・小野宗一・神谷昌博・岡　昭徳 八田英俊
	国鉄・後藤	井原平八郎	松永恭昌・井原平八郎・佐々木義政
岡山	川崎製鉄・水島	戸部　俊一	永井　孝・金崎敏男・森田　衛・平田重男・藤原道弘・影山　誠・北村治雄
	三井造船・水島	虻江　優	松井　一・藤原　航・田丸勝己・上野輝治・芳上一男・毛利利夫・山本　清・藤田裕司
広島	日立・因島	上田　辰男	大道秀夫・矢野信夫・岩越　章・安田守夫・中村忠一・森山　忠・岡野正志・上田辰男
山口	宇部興産	松村　哲幸	坂本賢二・藤原　薫・中村俊和・渡辺　宏・田坂義則・川原哲夫
	興亜石油山口	原　和秀	加藤英臣・金子隆志・木山茂雄・田中博美
	山陽国策パルプ	川岡　智	林　厚志　宮岡康臣・川岡　智
愛媛	住友化学・菊本	片上　逸志	片上逸志・伊藤君男・本田民次郎・福江　孝・戸井田誠・高塚俊司・三苫孝一
	丸善石油・松山	浜中　誠	永井龍夫・竹内洋雅・田中政剛・能田隆雄・浜中　誠
	クラレ西条	谷口　金夫	吉上貞雄・谷口金夫
香川	香川県庁	小山　光男	岡田忠己・野須博文・小山光男・英　俊次・弾正原義春・真鍋　剛
	川崎重工・坂出	和泉　正秀	上野正博・柴田文男・宮本博夫・松下雅彦
	百十四銀行	杉本　裕	日下　昇・横田泰徳
高知	高知サンスポーツ	山本　能也	松井智治・山本能也
	四国銀行	都築　正明	桑名嘉和・斉藤　彰
長崎	三菱重工・長崎造船所	田中　貞夫	中野和雄・馬場重文・田中貞夫・向井美弥夫・森田純一・山口　勝・福田良治・田中賢介
	三菱電機・長崎	小林　正昭	川久保鴨宏・松山　清・江口　博・川上敏夫・小林正昭・長松保男・梅本俊規
大分	日田市役所	春武　俊一	春武俊一・宮原秀三
滋賀	大津市役所	久保　宏	釜屋明和・西原四郎・山田杉男・田中正民・山田通義・平尾　薫・東川　衛
	東レ滋賀	上田　哲滋	上田哲滋・富田茂久・古川正行・田中　実・山中保一
	松下電器エアコン	中薮　高志	中薮高志・山中　卓・大西恵三・古賀澄雄・山本　昇・日村吉秀・古川光雄
	滋賀銀行	井上　三男	広田敏夫
	東洋運搬機	河本　浩	峠　勝也・河本　浩
	日本ＩＢＭ		富田健一

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
滋　賀	松下電工・彦根	増田　信治	坂本博史・和田澄夫
和歌山	住友金属・和歌山	宇治　　収	川村桂司・辻本　進・宇治　収・谷口洋二・小形善樹・野沢英雄・竹中良人・森田国広 横山勝国・田中正三郎
	東亜燃料・和歌山	田中　　務	上村一弘・阿部　悟・芝崎泰和・坂東康夫・錦織久夫・宮崎未義
	丸善石油・下津	林　　保雄	志場　周・楠戸春則・和久谷富章・穂谷真弘・上野健一・栩野康夫・森　　隆・宮本武司
	和歌山県庁	津田　充啓	北東弘万・宇治田文彦
兵　庫	神戸市役所	川口　正光	竹内政己・高原信幸・並木芳頭・幡中光栄・沢田信二・澤田秀勝・石井　修
	神戸製鋼・尼崎	田崎　哲夫	友金利一・浜野　孝・来田正雄・小泉淳一・植松虎雄・田中紀久・佐伯良治
	神鋼ファウドラー	永井　敏彦	小林敏晴・宝来明正・大島国治・鍬田敏治・神谷　衛・千葉達夫・前野正尋
	新日鐵・広畑	堤田　富大	塩飽　初・平松重吉・片岡正之・横山真二・藤城武美・山根武文
	住友金属鋼管	井内　利治	奥村晴一・高木茂和・小田清二・井内利治・高木昭憲・鈴木譲二・寺田公三
	大日日本電線	吉田　　昇	森田幸男・佐野義則・大野憲一・今井則明・山田達也・狩集　功・足立　博・吉田　昇
	三菱電機・伊丹	北　　義一	上藤朝之・矢賀雅人・浅岡正久・入口弥一郎・入口藤男・大重豊美・寺尾一秀
京　都	海上自衛隊・舞鶴	橋本　禎二	田野栄敏・瀬野俊策・川村道厚・白井規久夫・白井幸夫・鈴木敏郎・澤田巧二
	松風陶歯製造	髙藤　哲岳	高藤哲岳・徳田　進・深谷幸雄・伊佐恒範・森本義幸
	日本板硝子・舞鶴	藤原　幸夫	竹田正明・藤野外志郎・森下良雄・永谷秀之・山添文也
	日立造船・舞鶴	中江　良隆	関口善利・塩見靖男・前田　正・荒田直明
	三菱自工・京都	戸沢　正雄	石津正明・福井達雄・戸沢正雄・高宮梵之助・井爪信夫・松田政幸・上村久男
	桂自衛隊	長谷川正次	瀬尾義治・長谷川正次
	京都機械	栗田　明和	高木金次
	京都市役所	堀田　行雄	大前　茂
	京都市消防局	田中　　博	北村　伸・田中　博
	京都大学職員	石井　利和	川本末夫・水谷繁夫
	国立舞鶴病院	中田　太郎	曽根徳郎・梅枝孝之・森田俊明・中村　守
	島津製作所	上田　　勉	上田　勉・奥田俊次
	日新電機	林　　保治	上田政行・神川哲也
	堀場製作所		水井　博
大　阪	大阪ガス	西野　幸雄	出口　譲・吉里文雄・西野幸雄・北野公男・矢田清春・小西秀政・田中真平
	興亜石油・大阪	久村　幸正	吾郷裕志・藤野敏幸・岩垣雅典・日下英明・南　　功・箕畑正則
	塩野義製薬	本摩　恒利	北川忠雄・片山照明・本山一郎・妹尾健史・西原義孝・山内　晃・森　秀輔・本摩恒利
	住友金属・大阪	三上　博敏	田辺　修一・森田　勉・梅本　彰・野村　隆・藤野勝次・山口正和・中沢　登
	住友生命	丸井　広道	佐藤芳郎・丸井広道・三宅　保・木原　茂・河本保夫
	スワロー化研工業	林　　辰夫	鷲尾正一・遠藤和男・川前明裕・佐野　弘・斉藤雅伸・秋葉　弘・竹田広行
	電電近畿	竹原　　茂	滝野公一・中島真一・竹原　茂・岩田　昇・山下順次郎・宮本宏和　谷島助男・井上晴之 村田信博
	阪急電鉄	木目　嘉崇	渋谷元己・市橋　茂・出田安隆・長沢秀信・下野治生・野沢明雄・坂本徳治
	松下電器A	近者　正喜	山口　博・宮里重信・山川正一・那須哲太郎・中角好男・宮崎庄一・中西　洸
	松下電器B	近者　正善	渡辺雅仁・宮沢久男・若松伸彦・衣斐晴比古・姫野欣也・坂本洋一・仲田康英
	川崎重工・大阪	中島　伸市	中島伸市・高谷　明
	川崎ラケット・大阪	菅原　弘貴	菅原弘貴・棟　敏彦
	国際電電・大阪	溝渕　宏二	武村俊平・竹端捷次
	サントリー		山本次生
	十條製紙		品川則之

（女子の部）

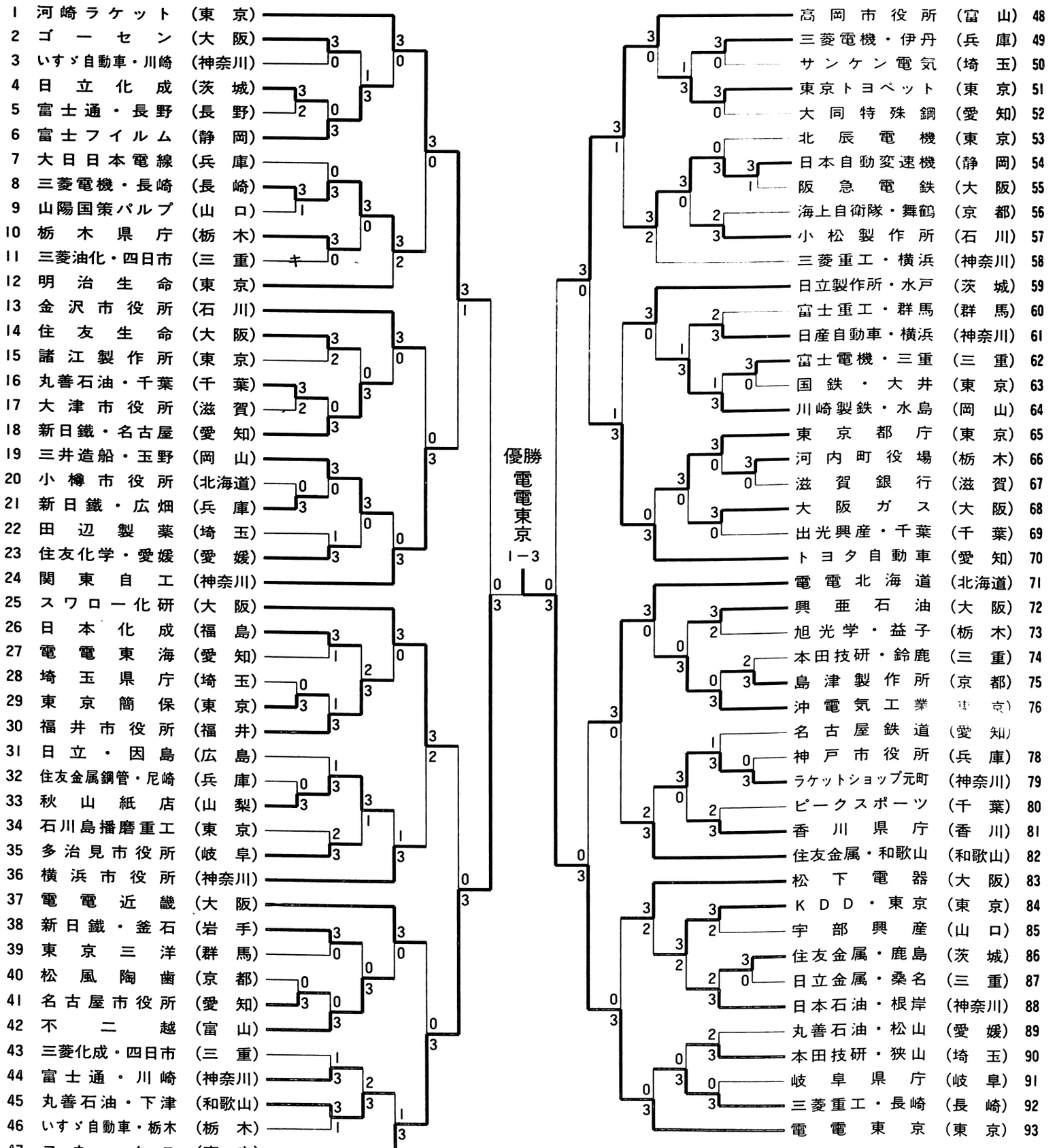
県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	地崎工業	岩崎　昭郎	児玉都子・田垣恵美子・桟利志子・山岸ひとみ
秋田	羽後銀行	細谷　昭次	佐藤厚子・三浦圭子・花田隆子・三浦憲子・菊池祐子
福島	富士通・会津	塚越　厚生	青木マチ子・斉藤陽子・山口美恵子・坂内孝子
茨城	住友金属・鹿島	江藤　伸	小橋よし江・風間とく・遠藤幸江・石橋久子・川角貴子・千葉典子
	日立化成工業	中東　三嘉	宮田文子・土屋礼子・吉田雅子・田口照代・大木正子
	古河サン商事	大江　礼謹	石川美代子・柳　一枝
群馬	富士重工・群馬	渡辺　晃一	高沢洋子・天笠宏子・赤石百合子
	三菱電機・群馬	米田　守	米田裕子
栃木	旭光学工業・益子	小塙　宏人	藤井由美子・沼能久子・日向野藤枝・増山直子
	日産自動車・栃木	田中　英男	仁平美江・塩野谷信子・黒川よし子・稲見静江・今井真由美・野沢友子
千葉	丸善石油・千葉	南村　嘉男	酒井美代子・堀切由美子・春日妙子・児玉康子
	君津信用組合	山口　進	伊藤玉江・鹿島まみ子
	千葉県庁	矢川　克三	池田記子・対馬美智子
東京	石川島播磨重工	村田　俊夫	塩田みどり・杉本悦子・佐伯昌美・矢口裕美子
	沖電気工業	佐藤彦次郎	関　悦子・斉藤雪江・高橋初江・沢田幸子・小山祐子・東方泰子
	K．D．D	松浪鋭四郎	越川美枝子・青山孝子・青木芳子・福本節子・深谷まち子・川鍋早智子
	河崎ラケット	堺　栄一	湯木博恵・池田美加・千葉陽子・若海輝代・渡辺みゆき・星八重子・渡来たか子
	電電東京	鈴木　健二	池田茂子・今田真知子・清水礼子・福原友子・中鉢悦子・石原保子・菅原より子・坂林純子
	東京都庁	馬場　猛夫	中野いづみ・依田ゆみ子・高橋由美子・矢吹せいこ・佐久間美恵子・柳瀬真由美
	東京トヨペット	入間　秀哲	中村伴子・佐々木千鶴子・大場三弥子・後藤登美子・峯岸幸子
	北辰電機	千葉　正皓	宮本小夜子・天野広美・高井春美・伊藤真弓・天谷洋子・高間裕見子・鈴木裕子
	ヨネックス・スポーツ	土田　隆	栂野尾悦子・我妻たき子・陣内裕子・今田トシ子・伊能悦子・及川悦子・坂本真紀子
	東京地方簡易保険局	永井　昌俊	穐山みちゑ
神奈川	関東自動車工業	井上　忠久	遠藤美智子・砂川則子・小松原京子・秋山洋子・西村すみ子・入澤三奈子・大木さよ子
	日産自動車・横浜	桜田　豊治	笹部江以子・瀬川美恵子・山田敦子・植草不二代
	日立製作所・戸塚	甘粕　完治	佐藤正江・上田敏恵・坂田祐子・江並みな子・半田久美子
	三菱重工横浜造船所	鈴木　勝之	石田菊江・北村智子・浜田洋子・足立恵子
	平塚市役所	石川　正美	内田明枝
	新日鐵・技研	山田　正弘	寺本祐子
新潟	新潟エヌティエヌ	本田　務	木伏文子・海老恵美子・阿部洋子・市村　静
長野	オリンパス光学伊那	大野　忠雄	片桐さとみ・米山二三子・松下美知子・北原加代子・田中美穂子
	諏訪精工舎	小口　弘彦	北沢恵子・林美智子・小泉ひとみ・細井のり子・仲本和子・名取秀美
富山	不二越	畑　栄造	遠藤治美・中川恵子
石川	石川プレート工業	大友　佐素	石垣輝子・川端文子
福井	福井市役所	大橋　正武	多田慧子・藤井尚美・宮浦そと江・中村正枝・佐藤信恵
静岡	大昭和製紙	金子　俊一	藤田美恵子・藤田和恵・内田啓子・太田恵子・吉田由美子・大石素子
	本州製紙富士	町田　守正	永田節子・鈴木弘美・渡辺光代・磯部千代子・甲田　操・戸塚真理子・鈴木あつ子
愛知	新日鐵・名古屋	二瓶　清	竹内佐知子・小野孝江・加古弘子・安藤範里子・小林和美・山田敦子
	トヨタ自動車工業	長谷川敏彦	布上茂美・浦田由美子・根本栄子・二川清美・小林洋子・片山泰恵・中川千恵子・小西百恵
	豊田自動織機	深井　忠男	貫薗妃美子・松若敦子

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
愛　知	豊田通商	豊原　洋治	水谷加津美・中野年子・木野美智子・本田亜都子
	日本電装	内藤　　悟	竹内一枝・中村初美・榊原文子・松原香純・水谷昌代
岐　阜	三井金属・神岡	佐藤　　保	和仁てるみ・藤垣美幸
三　重	松下電工・伊勢	上田　晴美	林八重子・中山幸子・辻　久代・奥野佳代
	富士電機・三重	山口　　香	森川和代
	本田技研・鈴鹿	井上　鉄也	平子早苗・森　小百合
鳥　取	鳥取三洋電機	鷲見　育亮	井上和子・松野光都・森下京子・恵美須幸恵
	日本パルプ米子	安田　徳郎	森上文子
岡　山	川崎製鉄・水島	戸部　俊一	難波初子・難波明美・難波洋子・三宅洋子・平田雅子・佐藤直美・小林敏子
	三菱化成・水島	東　　昌二	佐藤妙子・丸山文恵・若林幸恵・岡本純子・藤田由起子
香　川	高松琴平電鉄	東条　義昭	石原英子・田所静子・平井佐代子・山田高子・磯崎早余子
	百十四銀行	杉本　　裕	牛田真由美・片岡由美・関本好子・渋谷茂子・前川加代子・金崎美保・山本久美
高　知	四国銀行	都築　正明	楠瀬美佐恵・森川　文・田中由美・長井美枝・氏原有子・中山恵子
長　崎	三菱重工・長崎造船所	田中　貞夫	柿本彰子
	三菱電機・長崎	小林　正昭	関　京子・川本久子
滋　賀	滋賀銀行	井上　三男	天田佐代子・澤田とよ子・木村和美・川岸恵子・堤野栄美子・二宮真知子
	東レ・滋賀	上田　哲滋	山本ユキ代・松藤ひろみ・吉見康子・内田とみえ・加藤美津子・田中千津子・大橋真由子
	松下電工・彦根	増田　信治	藤井清子・北村恭子・岩根善美・河村和美・山室美恵子・藤井峰子・田中登子
奈　良	藤忠	藤田　庸右	佐伯智子・狭川恭子
和歌山	住友金属・和歌山	宇治　　収	河野敦子・坂本喜和子・浦　和子・竹田豊子・中岡広子・桃原京子
兵　庫	神戸製鋼所・尼崎	長田　俊孝	山鹿りつ子・清田栄子・藤木敬子・秋田昌子・吉田美智代・中山豊子
	住友金属鋼管	井内　利治	仲本恵子・松井恵子・広瀬純子・寺薗達子・樋口寿美子・林　祥子
	三菱電機・神戸	古林　　昇	原　美由紀・竹下あきの・藤原美也子・若林洋子
	神鋼ファウドラー	小林　敏晴	杉内明美・柳楽礼子
京　都	京都大学職員	石井　利和	景山勢津子・豊田三千子・武田須枝子・田口和子・梅田伸子
	京都府警	[illegible]	[illegible]・武中寿美子・細谷美[illegible]・[illegible]
大　阪	サントリー	山本　次生	西尾真理子・秋本八代美・谷美津代・秋本幸子・徳田敦子・高田幹子・東海林文子
	三洋電機・往道	月原　　朗	川崎知子・園田洋子・浜田貴久江・矢部京子
	住友金属・大阪	三上　博敏	松井睦美・楮松ひとみ・東美佐子・山田育代・西村央子
	スワロー化研工業	林　　辰夫	田所了子・五十嵐松美・山口綾美・佐藤百合子・真貝みはる
	電電近畿	片山　修治	吉田千恵美・木村賀津子・佐藤節子・藤井喜志子・平野　恵

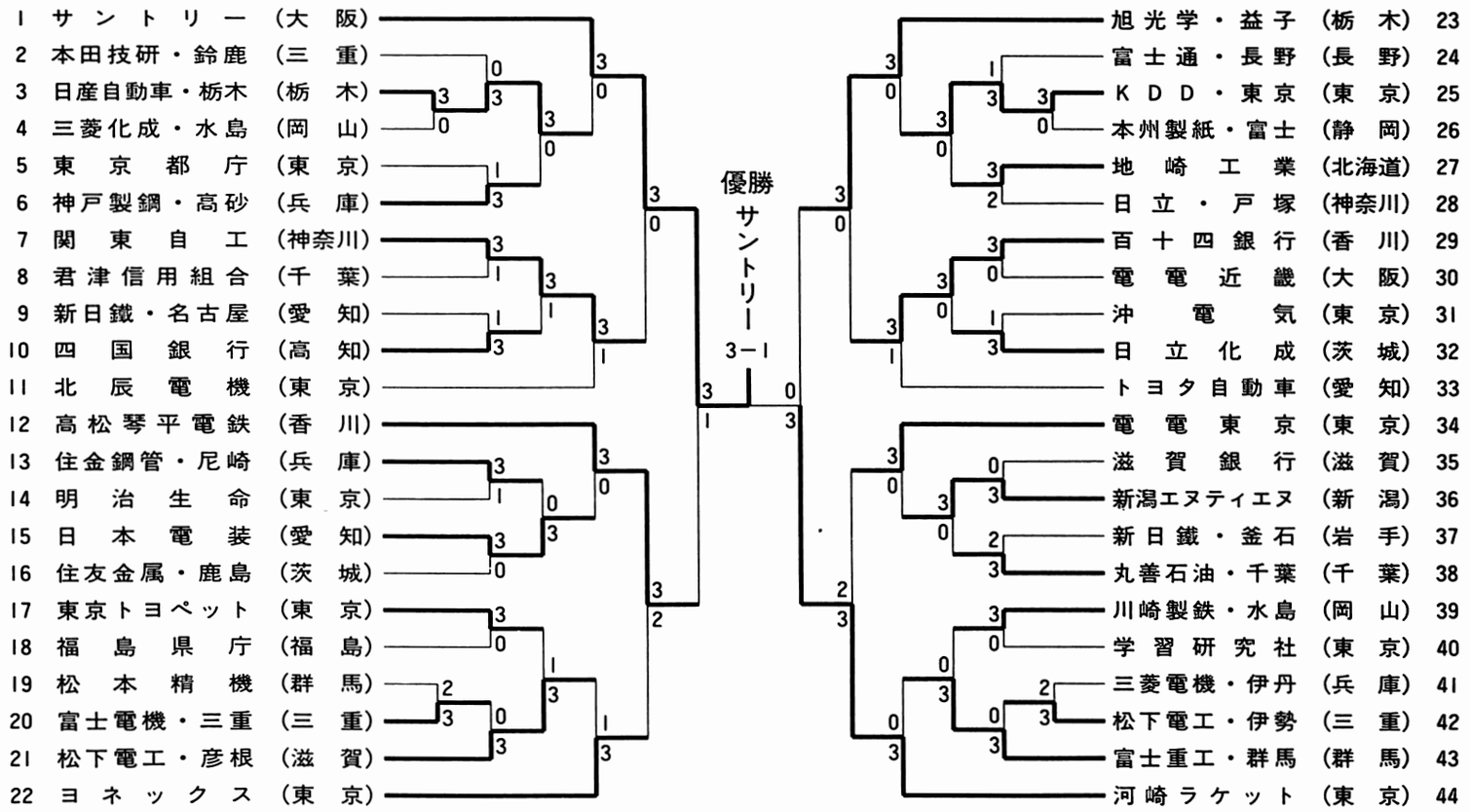
第28回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1978年(昭和53年)6月13～18日
開 催 地：東京都
会　　場：駒沢体育館、駒沢球技場、
世田谷区立体育館、江東区スポーツ会館

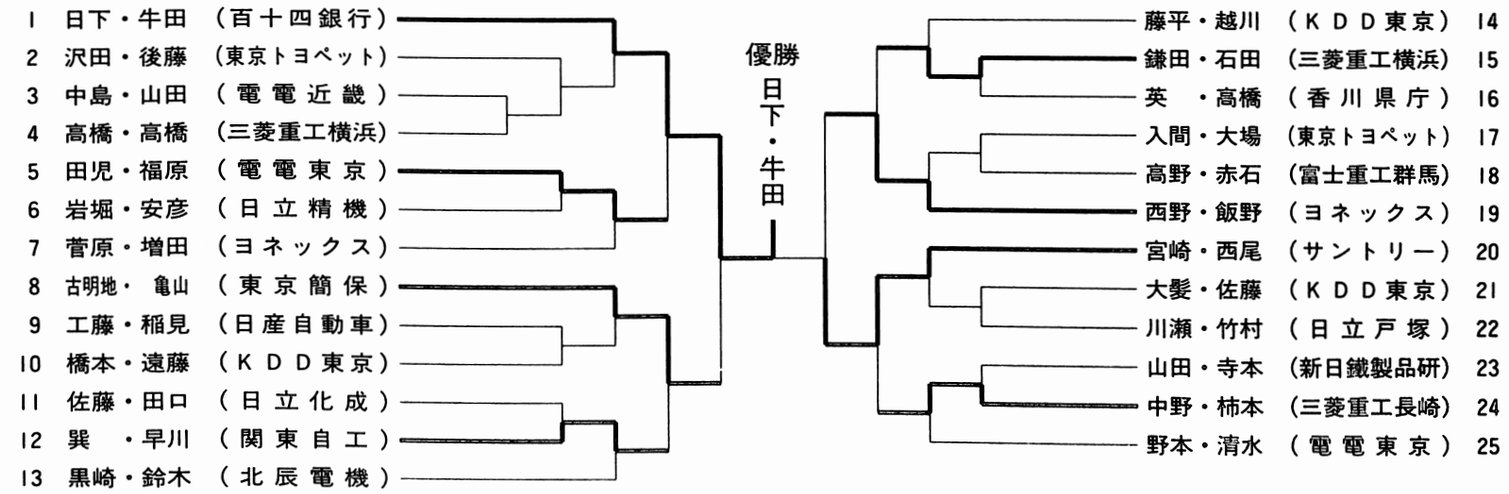
■男子団体の部



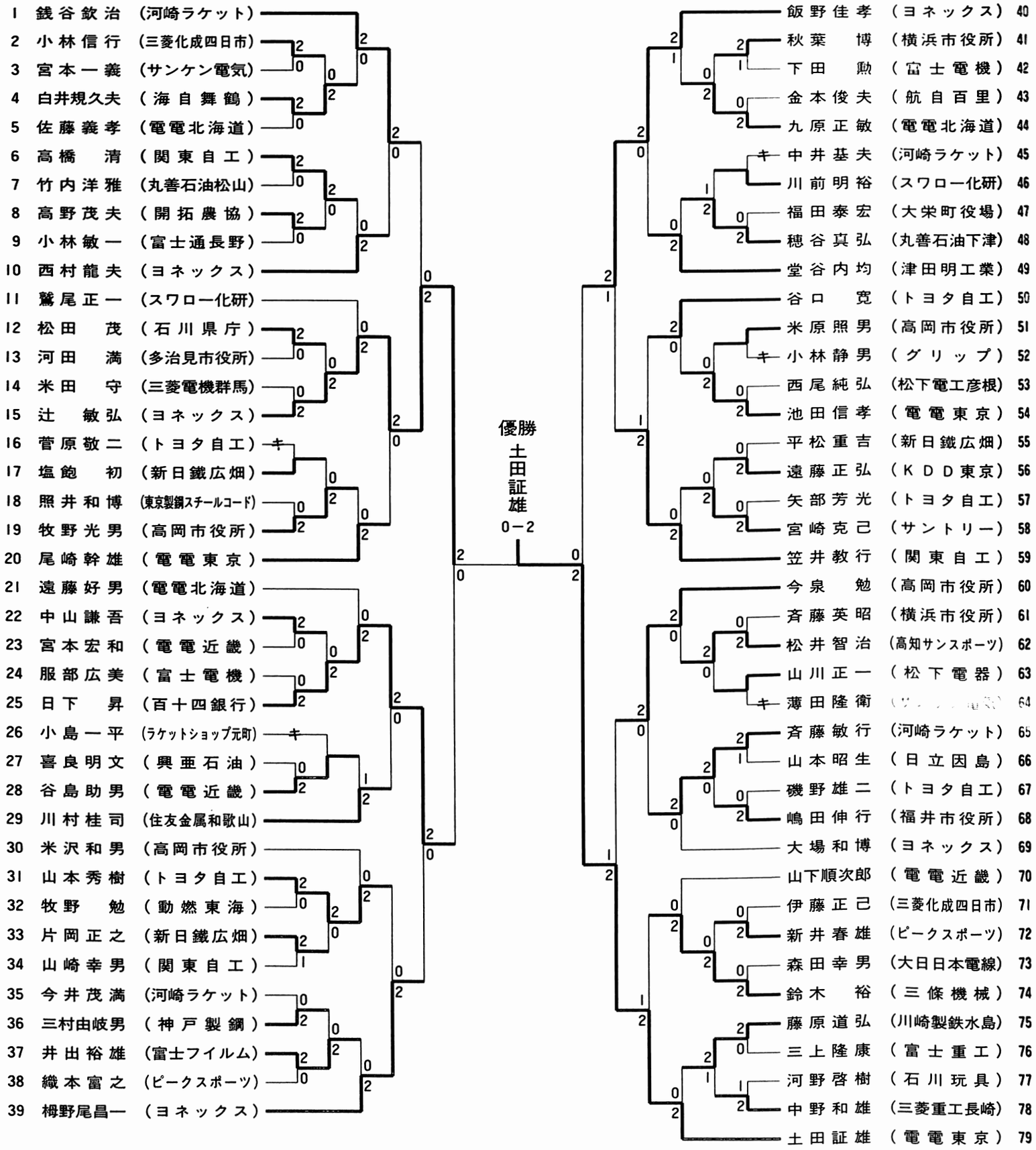
■女子団体の部



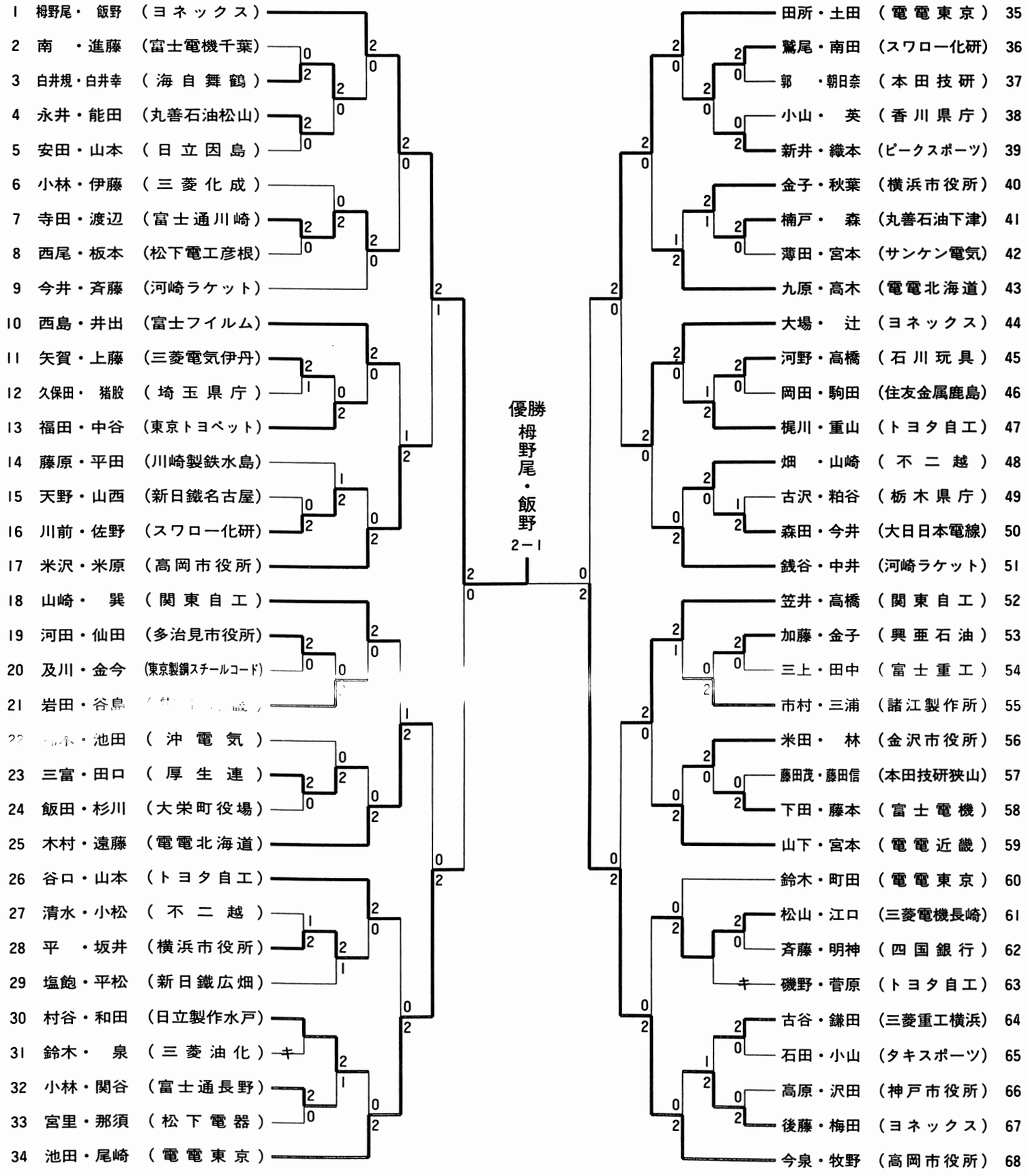
■混合複の部



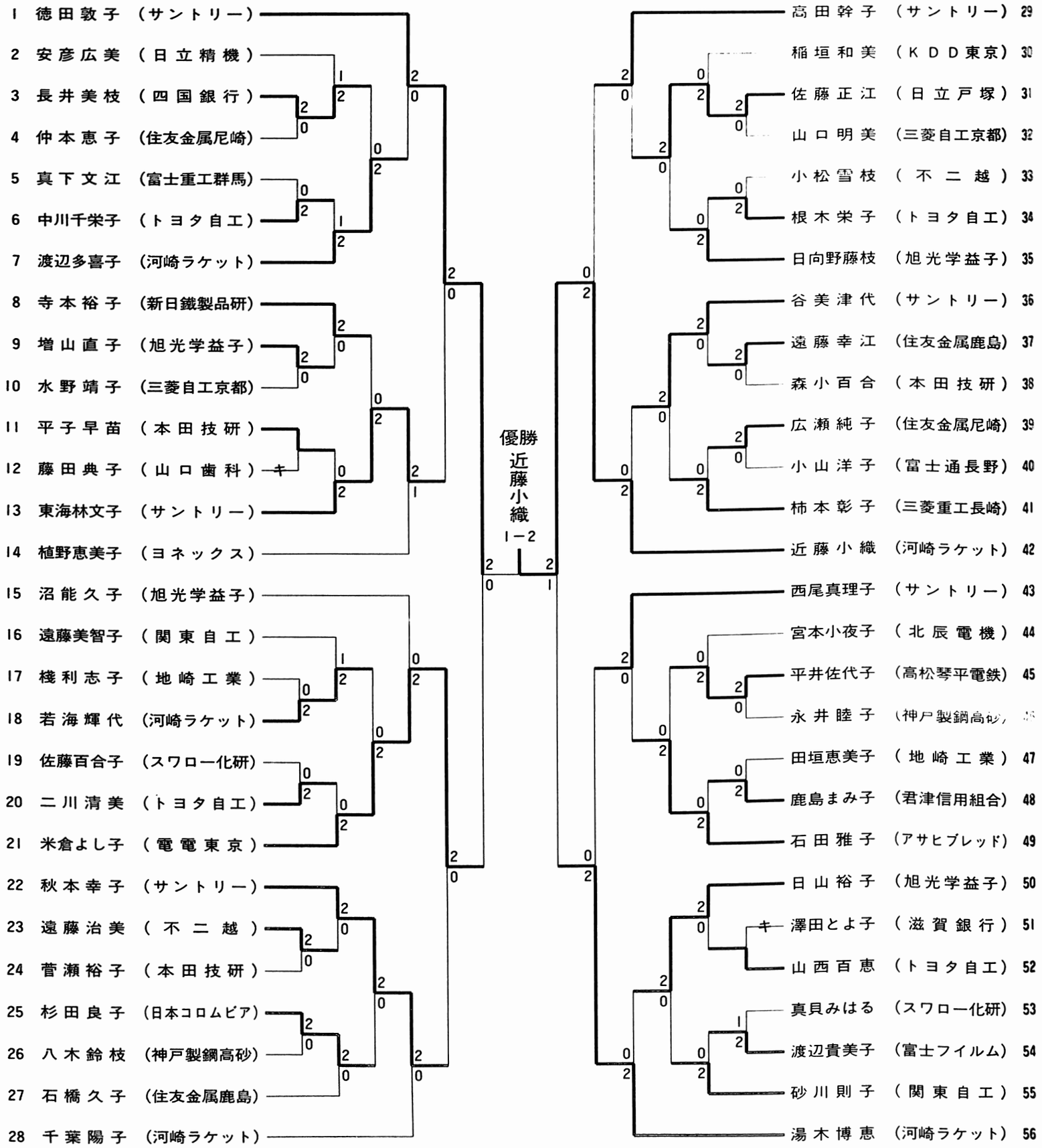
■男子単の部


1 銭谷欽治 (河崎ラケット)
2 小林信行 (三菱化成四日市)
3 宮本一義 (サンケン電気)
4 白井規久夫 (海自舞鶴)
5 佐藤義孝 (電電北海道)
6 高橋 清 (関東自工)
7 竹内洋雅 (丸善石油松山)
8 高野茂夫 (開拓農協)
9 小林敏一 (富士通長野)
10 西村龍夫 (ヨネックス)
11 鷲尾正一 (スワロー化研)
12 松田 茂 (石川県庁)
13 河田 満 (多治見市役所)
14 米田 守 (三菱電機群馬)
15 辻 敏弘 (ヨネックス)
16 菅原敬二 (トヨタ自工) キ
17 塩飽 初 (新日鐵広畑)
18 照井和博 (東京製鋼スチールコード)
19 牧野光男 (高岡市役所)
20 尾崎幹雄 (電電東京)
21 遠藤好男 (電電北海道)
22 中山謙吾 (ヨネックス)
23 宮本宏和 (電電近畿)
24 服部広美 (富士電機)
25 日下 昇 (百十四銀行)
26 小島一平 (ラケットショップ元町) キ
27 喜良明文 (興亜石油)
28 谷島助男 (電電近畿)
29 川村桂司 (住友金属和歌山)
30 米沢和男 (高岡市役所)
31 山本秀樹 (トヨタ自工)
32 牧野 勉 (動燃東海)
33 片岡正之 (新日鐵広畑)
34 山崎幸男 (関東自工)
35 今井茂満 (河崎ラケット)
36 三村由岐男 (神戸製鋼)
37 井出裕雄 (富士フイルム)
38 織本富之 (ピークスポーツ)
39 栂野尾昌一 (ヨネックス)
優勝
土田証雄
0−2
40 飯野佳孝 (ヨネックス)
41 秋葉 博 (横浜市役所)
42 下田 勲 (富士電機)
43 金本俊夫 (航自百里)
44 九原正敏 (電電北海道)
45 キ 中井基夫 (河崎ラケット)
46 川前明裕 (スワロー化研)
47 福田泰宏 (大栄町役場)
48 穂谷真弘 (丸善石油下津)
49 堂谷内均 (津田明工業)
50 谷口 寛 (トヨタ自工)
51 米原照男 (高岡市役所)
52 キ 小林静男 (グリップ)
53 西尾純弘 (松下電工彦根)
54 池田信孝 (電電東京)
55 平松重吉 (新日鐵広畑)
56 遠藤正弘 (KDD東京)
57 矢部芳光 (トヨタ自工)
58 宮崎克己 (サントリー)
59 笠井教行 (関東自工)
60 今泉 勉 (高岡市役所)
61 斉藤英昭 (横浜市役所)
62 松井智治 (高知サンスポーツ)
63 山川正一 (松下電器)
64 キ 薄田隆衛 (ソニー電気)
65 斉藤敏行 (河崎ラケット)
66 山本昭生 (日立因島)
67 磯野雄二 (トヨタ自工)
68 嶋田伸行 (福井市役所)
69 大場和博 (ヨネックス)
70 山下順次郎 (電電近畿)
71 伊藤正己 (三菱化成四日市)
72 新井春雄 (ピークスポーツ)
73 森田幸男 (大日日本電線)
74 鈴木 裕 (三條機械)
75 藤原道弘 (川崎製鉄水島)
76 三上隆康 (富士重工)
77 河野啓樹 (石川玩具)
78 中野和雄 (三菱重工長崎)
79 土田証雄 (電電東京)

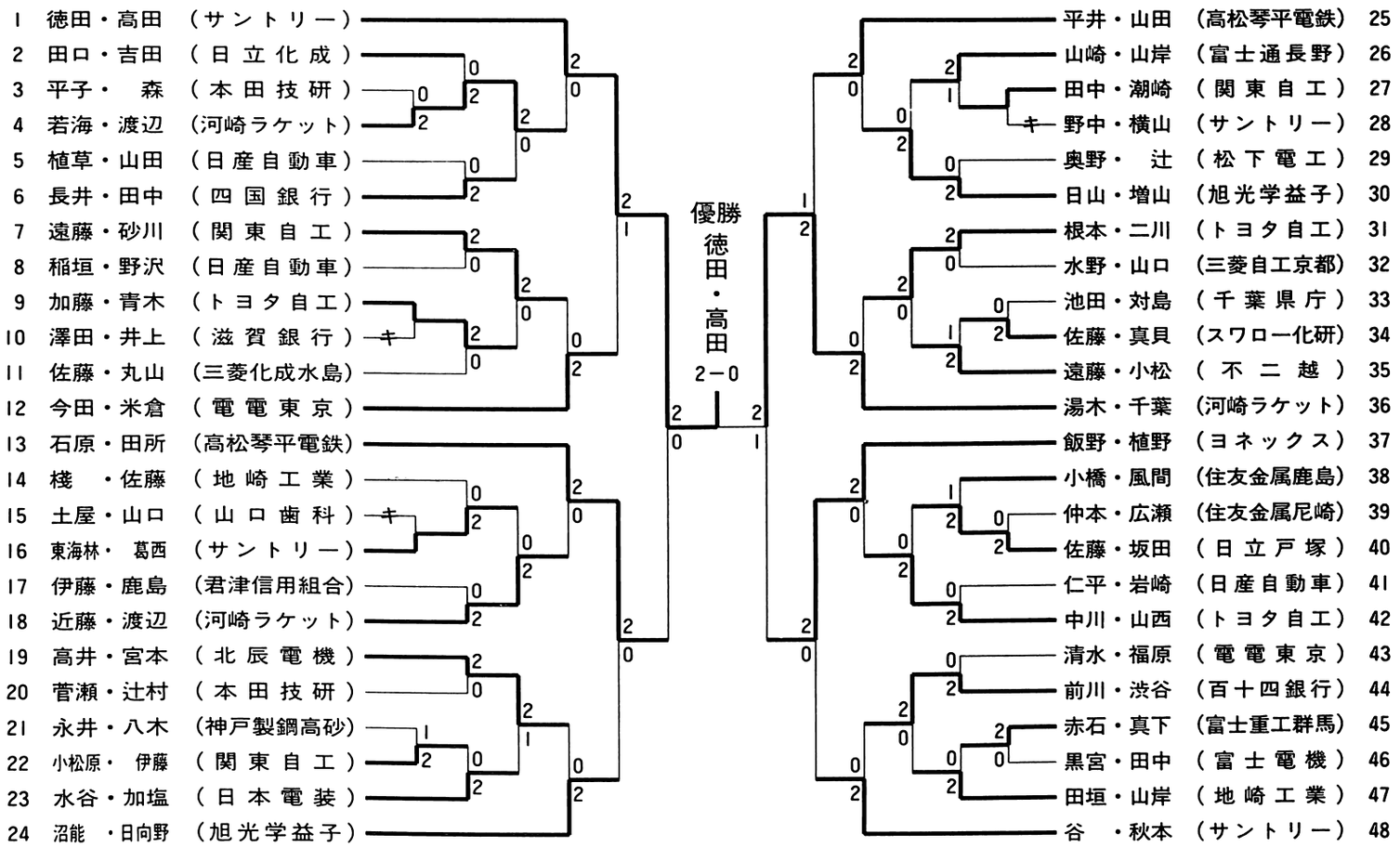
■男子複の部


1 栂野尾・ 飯野 （ヨネックス）
2 南 ・進藤 （富士電機千葉）
3 白井規・白井幸 （海自舞鶴）
4 永井・能田 （丸善石油松山）
5 安田・山本 （日立因島）
6 小林・伊藤 （三菱化成）
7 寺田・渡辺 （富士通川崎）
8 西尾・板本 （松下電工彦根）
9 今井・斉藤 （河崎ラケット）
10 西島・井出 （富士フイルム）
11 矢賀・上藤 （三菱電気伊丹）
12 久保田・ 猪股 （埼玉県庁）
13 福田・中谷 （東京トヨペット）
14 藤原・平田 （川崎製鉄水島）
15 天野・山西 （新日鐵名古屋）
16 川前・佐野 （スワロー化研）
17 米沢・米原 （高岡市役所）
18 山崎・ 巽 （関東自工）
19 河田・仙田 （多治見市役所）
20 及川・金今 （東京製鋼スチールコード）
21 岩田・谷鳥
22 池田 （沖電気）
23 三富・田口 （厚生連）
24 飯田・杉川 （大栄町役場）
25 木村・遠藤 （電電北海道）
26 谷口・山本 （トヨタ自工）
27 清水・小松 （不二越）
28 平 ・坂井 （横浜市役所）
29 塩飽・平松 （新日鐵広畑）
30 村谷・和田 （日立製作水戸）
31 鈴木・ 泉 （三菱油化）
32 小林・関谷 （富士通長野）
33 宮里・那須 （松下電器）
34 池田・尾崎 （電電東京）
優勝
栂野尾・飯野
2－1
35 田所・土田 （電電東京）
36 鷲尾・南田 （スワロー化研）
37 郭 ・朝日奈 （本田技研）
38 小山・ 英 （香川県庁）
39 新井・織本 （ピークスポーツ）
40 金子・秋葉 （横浜市役所）
41 楠戸・ 森 （丸善石油下津）
42 薄田・宮本 （サンケン電気）
43 九原・高木 （電電北海道）
44 大場・ 辻 （ヨネックス）
45 河野・高橋 （石川玩具）
46 岡田・駒田 （住友金属鹿島）
47 梶川・重山 （トヨタ自工）
48 畑 ・山崎 （不二越）
49 古沢・粕谷 （栃木県庁）
50 森田・今井 （大日日本電線）
51 銭谷・中井 （河崎ラケット）
52 笠井・高橋 （関東自工）
53 加藤・金子 （興亜石油）
54 三上・田中 （富士重工）
55 市村・三浦 （諸江製作所）
56 米田・ 林 （金沢市役所）
57 藤田茂・藤田信 （本田技研狭山）
58 下田・藤本 （富士電機）
59 山下・宮本 （電電近畿）
60 鈴木・町田 （電電東京）
61 松山・江口 （三菱電機長崎）
62 斉藤・明神 （四国銀行）
63 磯野・菅原 （トヨタ自工）
64 古谷・鎌田 （三菱重工横浜）
65 石田・小山 （タキスポーツ）
66 高原・沢田 （神戸市役所）
67 後藤・梅田 （ヨネックス）
68 今泉・牧野 （高岡市役所）

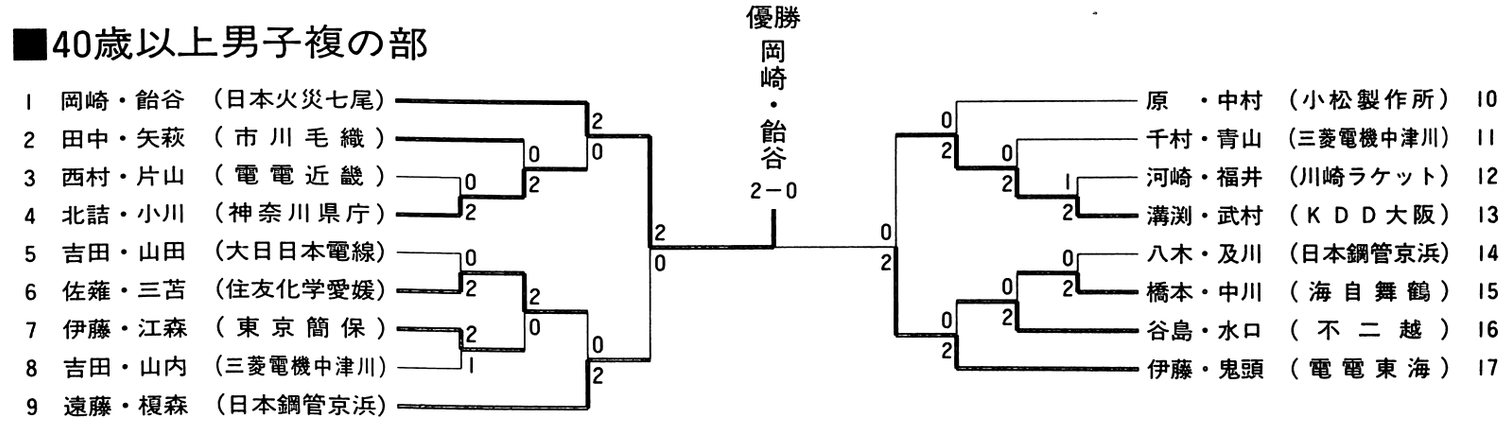
■女子単の部


1 徳田敦子 (サントリー)
2 安彦広美 (日立精機)
3 長井美枝 (四国銀行)
4 仲本恵子 (住友金属尼崎)
5 真下文江 (富士重工群馬)
6 中川千栄子 (トヨタ自工)
7 渡辺多喜子 (河崎ラケット)
8 寺本裕子 (新日鐵製品研)
9 増山直子 (旭光学益子)
10 水野靖子 (三菱自工京都)
11 平子早苗 (本田技研)
12 藤田典子 (山口歯科)
13 東海林文子 (サントリー)
14 植野恵美子 (ヨネックス)
15 沼能久子 (旭光学益子)
16 遠藤美智子 (関東自工)
17 桟利志子 (地崎工業)
18 若海輝代 (河崎ラケット)
19 佐藤百合子 (スワロー化研)
20 二川清美 (トヨタ自工)
21 米倉よし子 (電電東京)
22 秋本幸子 (サントリー)
23 遠藤治美 (不二越)
24 菅瀬裕子 (本田技研)
25 杉田良子 (日本コロムビア)
26 八木鈴枝 (神戸製鋼高砂)
27 石橋久子 (住友金属鹿島)
28 千葉陽子 (河崎ラケット)
優勝
近藤小織
1−2
29 高田幹子 (サントリー)
30 稲垣和美 (KDD東京)
31 佐藤正江 (日立戸塚)
32 山口明美 (三菱自工京都)
33 小松雪枝 (不二越)
34 根木栄子 (トヨタ自工)
35 日向野藤枝 (旭光学益子)
36 谷美津代 (サントリー)
37 遠藤幸江 (住友金属鹿島)
38 森小百合 (本田技研)
39 広瀬純子 (住友金属尼崎)
40 小山洋子 (富士通長野)
41 柿本彰子 (三菱重工長崎)
42 近藤小織 (河崎ラケット)
43 西尾真理子 (サントリー)
44 宮本小夜子 (北辰電機)
45 平井佐代子 (高松琴平電鉄)
47 田垣恵美子 (地崎工業)
48 鹿島まみ子 (君津信用組合)
49 石田雅子 (アサヒブレッド)
50 日山裕子 (旭光学益子)
51 澤田とよ子 (滋賀銀行)
52 山西百恵 (トヨタ自工)
53 真貝みはる (スワロー化研)
54 渡辺貴美子 (富士フイルム)
55 砂川則子 (関東自工)
56 湯木博恵 (河崎ラケット)

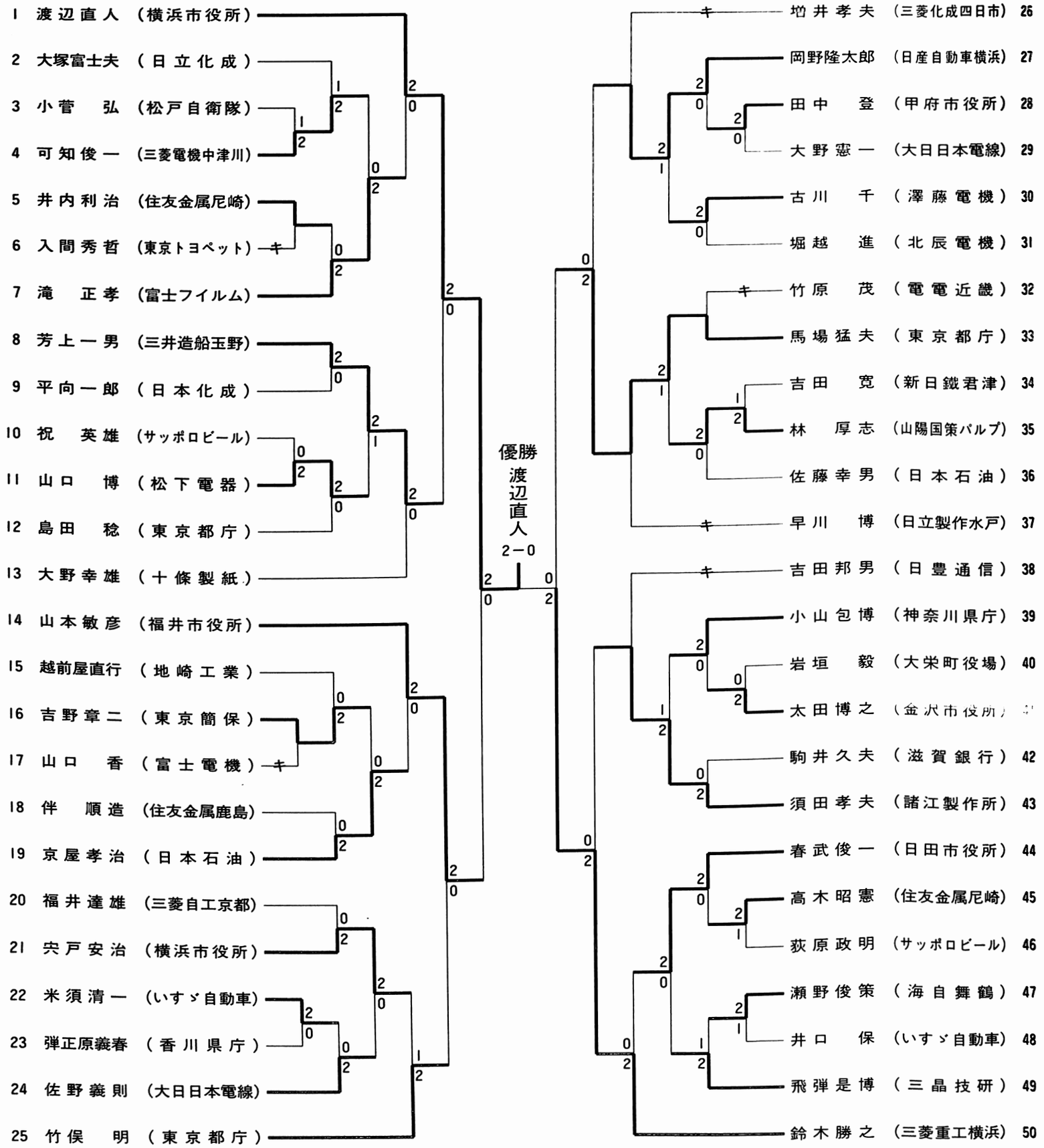
■女子複の部



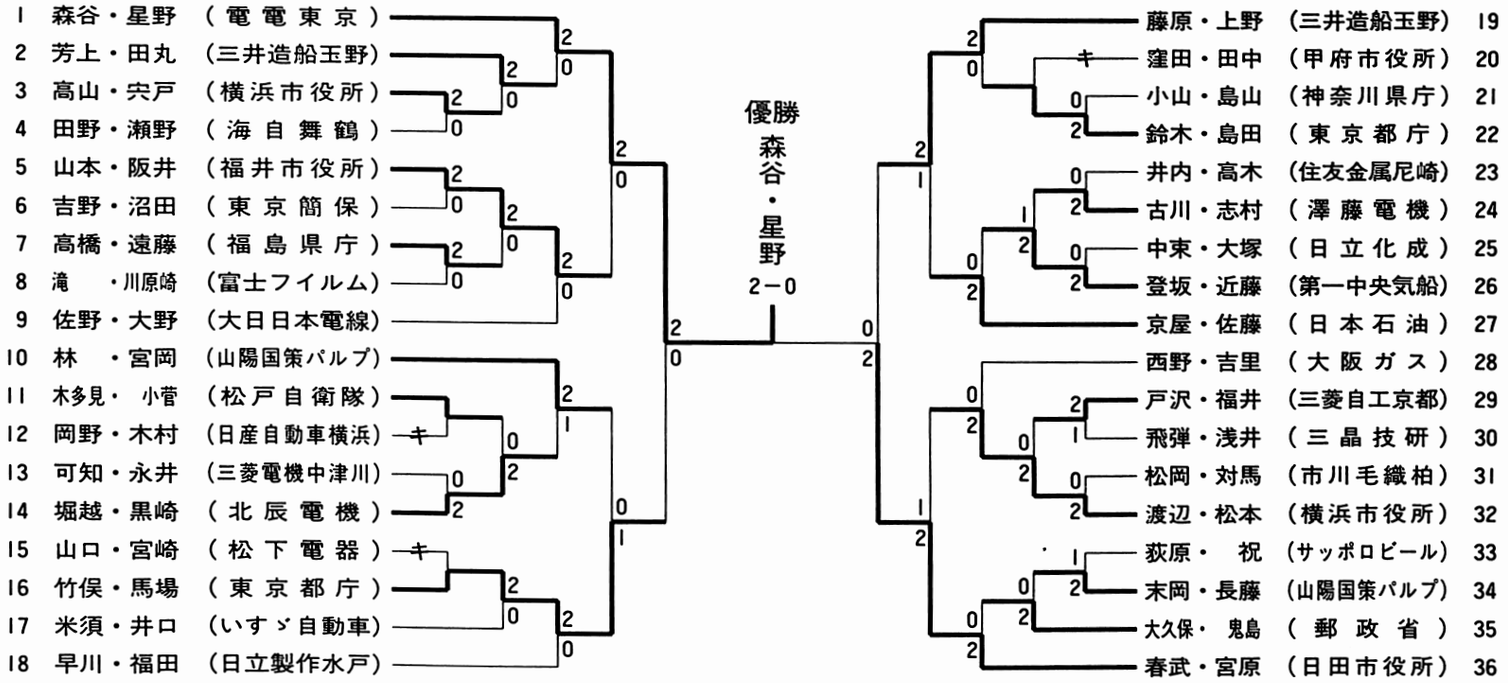
■40歳以上男子複の部



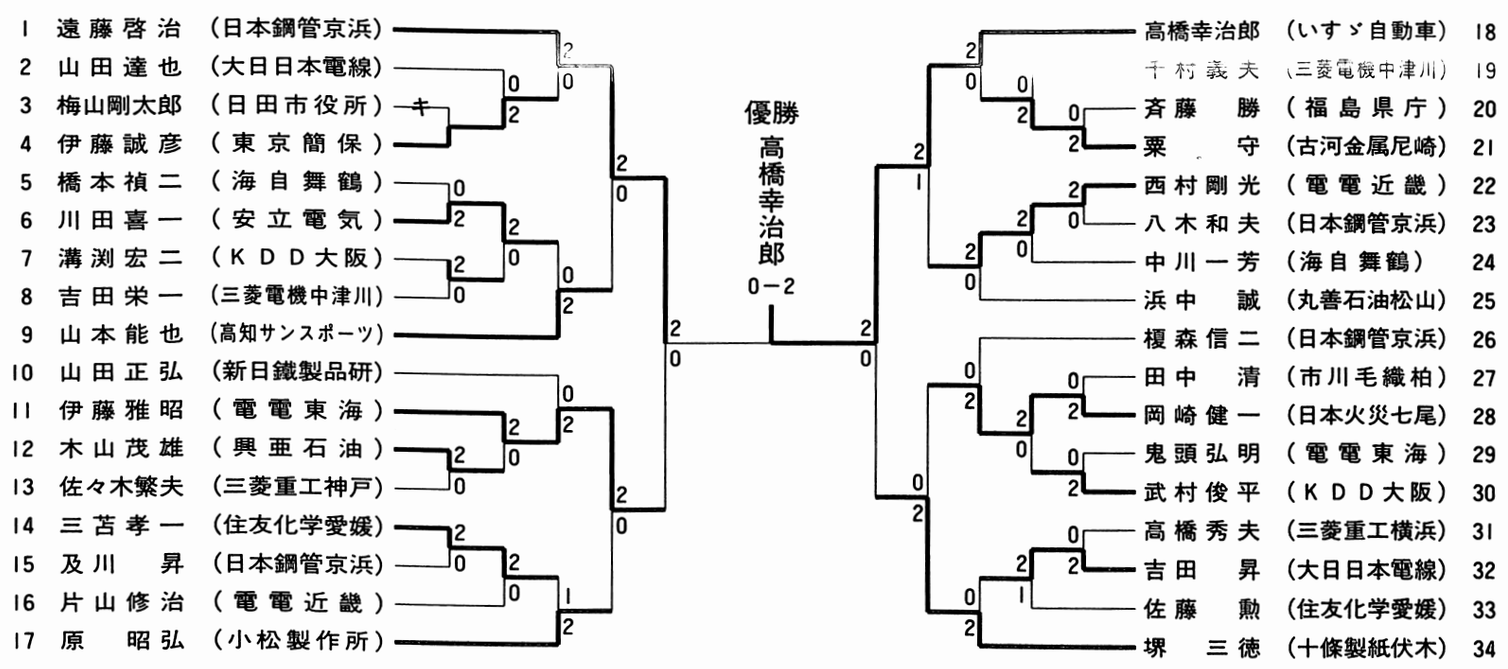
■30歳以上男子単の部


1 渡辺直人 (横浜市役所)
2 大塚富士夫 (日立化成)
3 小菅 弘 (松戸自衛隊)
4 可知俊一 (三菱電機中津川)
5 井内利治 (住友金属尼崎)
6 入間秀哲 (東京トヨペット)
7 滝 正孝 (富士フイルム)
8 芳上一男 (三井造船玉野)
9 平向一郎 (日本化成)
10 祝 英雄 (サッポロビール)
11 山口 博 (松下電器)
12 島田 稔 (東京都庁)
13 大野幸雄 (十條製紙)
14 山本敏彦 (福井市役所)
15 越前屋直行 (地崎工業)
16 吉野章二 (東京簡保)
17 山口 香 (富士電機)
18 伴 順造 (住友金属鹿島)
19 京屋孝治 (日本石油)
20 福井達雄 (三菱自工京都)
21 宍戸安治 (横浜市役所)
22 米須清一 (いすゞ自動車)
23 弾正原義春 (香川県庁)
24 佐野義則 (大日日本電線)
25 竹俣 明 (東京都庁)
優勝
渡辺直人
2−0
26 垰井孝夫 (三菱化成四日市)
27 岡野隆太郎 (日産自動車横浜)
28 田中 登 (甲府市役所)
29 大野憲一 (大日日本電線)
30 古川 千 (澤藤電機)
31 堀越 進 (北辰電機)
32 竹原 茂 (電電近畿)
33 馬場猛夫 (東京都庁)
34 吉田 寛 (新日鐵君津)
35 林 厚志 (山陽国策パルプ)
36 佐藤幸男 (日本石油)
37 早川 博 (日立製作水戸)
38 吉田邦男 (日豊通信)
39 小山包博 (神奈川県庁)
40 岩垣 毅 (大栄町役場)
41 太田博之 (金沢市役所)
42 駒井久夫 (滋賀銀行)
43 須田孝夫 (諸江製作所)
44 春武俊一 (日田市役所)
45 高木昭憲 (住友金属尼崎)
46 荻原政明 (サッポロビール)
47 瀬野俊策 (海自舞鶴)
48 井口 保 (いすゞ自動車)
49 飛弾是博 (三晶技研)
50 鈴木勝之 (三菱重工横浜)

■30歳以上男子複の部



■40歳以上男子単の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
北海道	小樽市役所	大石　　章	高野幹男・東田朋己・目黒清則・阿部幸夫・佐々木尚文・笹山時彦・藤田富雄
	電電北海道	平山　三城	遠藤好男・九原正敏・木村敏男・赤塚正三・佐藤義孝・高木勝弘・平沢　徹
	地崎工業	岩崎　昭郎	越前屋直行
岩　手	新日鐵・釜石	高橋　道夫	高橋道夫・熊谷　徹・橋本三司・二川秀幸・菅原又男・岩堀　稔
	東京製鋼スチールコード	平賀　清吉	照井和博・及川雅義・金今寿男
福　島	日本化成・小名浜	古舘　信義	古舘信義・高橋秀之・平向一郎・前田今朝美
	日豊通信・郡山		吉田邦男
	福島県庁	斉藤　　勝	斉藤　勝・高橋　清・遠藤真司
茨　城	住友金属・鹿島	伴　　順造	島林総蔵・武田富美明・駒田　忠・鶴見富美雄・岡田常雄・梅沢和則・塩谷忠秋・伴　順造
	日立化成・下館	中東　三嘉	中東三嘉・大塚富士夫・水野　裕・佐藤信良・上石田常治・田沢和幸・笹間敦夫
	日立製作所・水戸	和田　講一	和田講一・菅野　孝・早川　博・福田喜代志・村谷信之・阿部信幸
	動力炉核燃料開発事業団	三浦　　満	牧野　勉
	航空自衛隊・百里		金本俊夫
群　馬	東京三洋電機	磯山　文孝	磯山文孝・和田和人・柿沼　盈・桑島　透・遠藤好男・須田隆夫・高山明夫
	富士重工・群馬	渡辺　晃一	渡辺晃一・山形　武・中条俊雄・高野貞男・小島正和・大木利行・藤井良典
	澤藤電機	渡邊　　淳	古川　千・志村勝己
	タキスポーツ	石田　　稔	石田　稔・小山祐二
	三菱電機・群馬	茂木　正弘	米田　守
栃　木	旭光学工業・益子	小塙　宏人	羽石武士・高野久雄・伊沢義美・小池信一・田中逸男・芦野勝己
	いすゞ自動車・栃木	米須　清一	米須清一・久保田昌之・井口　保・山本　弘・田神一豊・大橋義明・小林重雄
	河内町役場	桜井　悦夫	桜井悦夫・斉藤幸夫・鈴木悦夫・橋本初男・石川信夫・黒崎一夫・荒井章雄
	栃木県庁	湯沢　雄一	湯沢雄一・森本金一・古沢元浩・伊藤政英・粕谷　武
	神戸製鋼所		三村由岐男
	富士重工・宇都宮	霜山　　哲	三上隆康・田中　勇
	栃木県厚生農協組合連合	田口　正規	三富　美晴・田口正規
	栃木開拓農協組合連合		高野　茂夫
	日産自動車・栃木		工藤　建夫
埼　玉	埼玉県庁	吉成　素彦	黒須　栄・久保田宇作・内川雅博・宮崎　茂・永田喜雄・猪股正人・金本伸郎
	サンケン電気	今井　清兼	薄田隆衛・田中忠義・小椋喜代次・坂元　勝・宮本一義・竹田建夫　小林洋一
	田辺製薬・東京	宮崎　道彦	大塚久男・鈴木辰夫・宮崎道彦・中村　透・本橋　隆・立花良明・森　哲治
	本田技研・狭山	藤田　茂樹	藤田信夫・松原裕史・藤田信夫・阿部　力・岩田好夫・清水宏之・坂口吉頼
	ラケットハウスグリップ	富橋　末治	小林静夫
	サッポロビール・川口	谷　　直人	萩原政明・祝　英雄
千　葉	出光興産・千葉	田渕　　潔	功刀謙二・高橋宏一・安江準二・松原広和・岩田彰一・小野寺裕志
	ピークスポーツ	峯元　一匡	新井春雄・織本富之・峯元一匡・鶴野　弘・鈴木啓次
	丸善石油・千葉	浅利　章悦	馬場秀明・佐藤一男・峯元一匡・上田正敏・浅利章悦・野村康一・岩本圭吾・高橋俊明
	市川毛織・柏	田中　　靖	松岡良夫・対馬　務・田中　靖・矢萩繁夫
	新日鐵・君津	吉武　正孝	吉田　寛
	富士電機・千葉	石橋　康幸	南　千勇・進藤益夫
	松戸自衛隊	本多見光男	小菅　弘・本多見光男
	日立精機		岩堀　武

県名	事業所名	監督名	選手名
神奈川	いすゞ自動車・川崎	波　博義	波　博義・佐々木孝治・小泉武夫・手塚利男・菊地　修・高橋幸治郎・田中正誼
	関東自動車	郡司　毅	笠井教行・高橋　清・山崎幸男・巽　康司・栗　英剛・小笠原　司・松本　真
	日産自動車・横浜	桜田　豊治	岡野隆太郎・高橋　始・伊藤　選・照井良治・大谷清志・牛腸丈夫・桜田豊治・大村　裕
	日本石油・根岸	京屋　孝治	泉　信夫・佐藤幸男・京屋孝治・斉藤　満・丸山則明・佐々木登・石渡輝己
	富士通・川崎	佐野　公紀	寺田　繁・篠崎俊久・渡辺正光・杉原好一・青木和夫・渡辺　誠
	三菱重工・横浜	上野　強	鎌田　哲・古谷陽一・鈴木勝之・高橋保則・熊谷純雄・山本　勝・高橋秀夫・小松　宏
	横浜市役所	高橋　正宏	平　敏司・斉藤英昭・渡辺直人・金子英司・中野孝司・秋葉　博・坂井　孝・宍戸安治 松本利喜夫・高山認二
	ラケットショップ・元町	小島　一平	小島一平・鈴木正造・宮川秀樹・永吉知彦・勝浦親次・長島啓一・中村隆吉
	安立電気		川田喜一
	神奈川県庁	北詰　隆美	小山包博・鳥山裕美・北詰隆美・小川揚之輔
	新日鐵・製品研	山田　正弘	山田正弘
	日本鋼管・京浜	八木　和夫	八木和夫・及川　昇・遠藤啓治・榎森信二
	日立製作所・戸塚	北村　敏明	川瀬和利
山梨	秋山紙店	平田　芳夫	秋山真男・平田芳夫・米山　勇・赤池　稔・飯野章仁
	甲府市役所	田中　登	田中　登・窪田恵三
新潟	三条機械		鈴木　裕
長野	富士通・長野	飯島　陽一	福島晃範・関谷弘一・飯島陽一・小林敏一・井上克彦
富山	高岡市役所	中山　邦夫	今泉　勉・関村順治・牧野光男・米沢和男・米原照男・河村博之・中山邦夫
	不二越	畑　栄進	八川修一・山崎　功・畑　栄進・清水信之・小松美樹男・井沃　清・谷島軍二・水口良一
	三晶技研	飛驒　是博	飛驒是博・浅井秀一
	十條製紙・伏木	堺　三徳	大野幸雄・堺　三徳
石川	金沢市役所	中川健一郎	米田辛生・林　芳広・池本和雄・山下敏行・山口　亮・太田博之・泉　光男
	小松製作所・粟津	原　明弘	石川順一・桝野泰弘・北　秀樹・宮越幸一・原　明弘・中村　均・本　良一
	石川県庁	中山　厳	松田　茂
	津田駒工業	安江　勉	堂谷内
	日本火災海上・七尾	飴谷　信夫	岡崎健一・飴谷信夫
福井	福井市役所	増永　秀則	山本敏彦・嶋田伸行・増永秀則・阪井範行・吉村清一・渡辺照夫
静岡	富士フィルム	滝　正孝	西島知彦・井出裕雄・吉田直彦・池田光宏・諏訪部豊・滝　正孝・川原崎仁
	日本自動変速機	佐野　時男	後藤和之・土屋　仁・芹沢英彦・関野　強・佐野時男
愛知	新日鐵・名古屋	山本　卓男	山口元吉・菅井　孝・佐々木秀一・天野良彦・林　甚代・山西友幸
	大同特殊鋼	曽我　信重	阪本正次・戸松一郎・賢生季隆・北川利光・目黒　等・谷川　武
	電電東海	渡辺　幸男	伊藤雅昭・鬼頭弘明・伊藤正昭・中川紀嗣・大江喜久雄・水谷悦郎
	トヨタ自動車	長谷川敏彦	谷口　寛・山本秀樹・梶川博之・磯野雄二・菅原敬二・重山成生・川合信之・矢部芳光
	名古屋鉄道	井沢　宏	村上敏行・加藤保利・山本良雄・菱田修光・井上　龍・柴田啄也
	名古屋市役所	原　弘	平野博久・岩井正好・山口武満・竹下輝雄・水野重秋
岐阜	岐阜県庁	石原　敏郎	浅野人美・高橋伸治・高橋秀治・田口伸治・加納義之・上野秀夫・山内　茂
	多治見市役所	大島　貞夫	万字益雄・河田　満・武知勝年・加藤　仁・仙田弘志・山田信幸
	三菱電機・中津川	千村　義夫	可知俊一・千村義夫・吉田栄一・永井卓郎・山内昌治・青山千秋
三重	日立金属・桑名	松葉　悟	松葉　悟・安達勝二・安井義彦・久富昭彦・大薮　弘
	富士電機・三重	山口　香	山口　香・下田　勲・服部広美・後藤　久・藤本規夫・後藤俊彦・藤井俊郎
	本田技研・鈴鹿	浜口　久克	松田大吉郎・郭　秀裕・河原賢治・朝日奈正光・浜口久克・新川雅俊・黒肥地一則
	三菱化成・四日市	伊藤　正己	増井孝夫・小林信行・伊藤正己・諸田秀二・田中秀俊・市来哲郎

県名	事業所名	監督名	選手名
三重	三菱油化・四日市	古川　幸一	後藤幸孝・大倉　忠・古川幸一・鈴木正平・泉　洋二
滋賀	大津市役所	久保　宏	佐藤　賢・釜屋明和・西原四郎・山田杉男・東川　衛・矢部忠司
	滋賀銀行	井上　三男	駒井久夫・内田敏樹・広田敏夫・荒木雅男・井上三男
	松下電工・彦根	増田　信治	西尾純弘・坂本博史
京都	海上自衛隊・舞鶴	橋本　禎二	田野栄敏・瀬野俊策・川村道厚・白井規久夫・白井幸夫・澤田巧二・小山良光・橋本禎二 中川一芳
	島津製作所	上田　勉	松井　修・長岡喜久男・上田　勉・奥田俊次・藤江正則・若林　登
	松風陶歯	高藤　哲岳	伊佐恒範・深谷幸雄・高橋哲岳・徳田　進
	石川玩具	河野　啓樹	河野啓樹・高橋栄一
	三菱自工・京都	戸沢　正雄	戸沢正雄・福井達雄
大阪	大阪ガス	西野　幸雄	西野幸雄・出口　譲・吉里文雄・北野公男・酒井孝志・小西秀政・田中真平
	興亜石油	久村　幸正	吾郷裕志・井関　博・藤野敏幸・日下英明・南　功・岩垣雅典
	ゴーセン	佐野　寛	桐本雅行・佐野　寛・横田利光・本石幸一・酒井　薫・角田　勝
	住友生命	香川　昇	佐藤芳郎・小池田満・丸井広道・木原　茂・河本保夫・狩野卓也・柳本和夫
	スワロー化研	林　辰夫	鷲尾正一・川前明裕・佐野　弘・南田義正・竹田広行・吉森勝之
	電電近畿	中島　真一	中島真一・岩田　昇・山下順次郎・宮本宏和・谷島助男・竹原　茂・井上晴之・西村剛光 片山修治
	阪急電鉄	木目　嘉崇	市橋　茂・出田安雄・長沢秀信・下野治生・木目嘉崇・野沢明雄・渋谷元己
	松下電器・大阪	宮里　重信	山口　博・宮里重信・宮崎庄一・中角好男・那須哲太郎・山川正一
	ＫＤＤ大阪	武村　俊平	溝渕宏二・武村俊平
	サントリー	山本　次生	宮崎克己
兵庫	神戸市役所	川口　正光	竹内政己・高原信幸・並木芳顕・幡中光栄・沢田信二・湯本忠彦・石井　修
	住友金属鋼管	井内　利治	奥村晴一・高木茂和・井内利治・高木昭憲・小田清二・鈴木譲二・寺田公三
	新日鐵・広畑	堤田　富大	平松重吉・塩飽　初・片岡正之・横山真二・塗　嘉夫・平川正義・藤城武義
	大日日本電線	吉田　昇	佐野義則・森田幸男・今井則明・大野憲一・山本健吾・狩集　功・足立　博・吉田　昇 山田達也
	三菱電機・伊丹	矢賀　雅人	矢賀雅人・上藤朝之・入口弥一郎・入口藤男・大重豊美・寺尾一秀・中岡嘉孝
	古河金属・尼崎	粟　守	粟　守
	三菱重工・神戸	瀬川　欽也	佐々木繁夫
和歌山	住友金属・和歌山	宇治　収	川村桂司・辻本　進・谷口洋二・北山一成・鳴海信二・小川　均
	丸善石油・下津	林　保雄	楠戸春則・穂谷真弘・和久谷富章・志場　周・上野健一・栩野康夫・森　隆
鳥取	大栄町役場	岩垣　毅	福田泰宏・岩垣　毅・飯田光男・杉川弘行
岡山	川崎製鉄・水島	戸部　俊一	永井　孝・金崎敏男・森田　衛・藤原道弘・平田重男・景山　誠・北村治雄
	三井造船・玉野	虻江　優	松井　一・藤原　航・田丸勝己・上野輝治・芳上一男・山本　清・三村　渉
広島	日立造船・因島	岩越　章	矢野信夫・山本昭生・安田守夫・中村忠一・岡野正志・岩越　章
山口	宇部興産	中村　俊和	中村俊和・藤原　薫・渡辺　宏・川原哲夫
	山陽国策パルプ	宮岡　康臣	林　厚志・辻中公人・宮岡康臣・末岡通典・貴船博己・寺岡利明・後藤　晃・長藤俊成
	興亜石油・麻里布	田中　博美	喜良明文・木山茂雄・加藤英臣・金子隆志
愛媛	住友化学・愛媛	戸井田　誠	戸井田誠・伊藤君男・大塚良兼・福江　孝・佐薙　勲・三苫孝一
	丸善石油・松山	永井　龍夫	永井龍夫・竹内洋雅・能田隆雄・浜中　誠・白石卓夫・松本信夫
香川	香川県庁	弾正原義春	岡田忠己・小山光男・弾正原義春・英　俊次・岡　道祐・岡本末広
	百十四銀行	杉本　裕	日下　昇
高知	高知サンスポーツ	山本　能也	松井智治・山本能也
	四国銀行	亀井　美雄	斉藤　彰・明神　功

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
長　崎	三菱重工・長崎造船所	田中　貞夫	馬場重文・辻　　俊・中野和雄・山口　勝・田中貞夫・森田純一・大坪安則
	三菱電機・長崎	長松　保男	川久保鴨宏・長松保男・梅本俊規・松山　清・江口　博・川上敏夫・久保真一
大　分	日田市役所	春武　俊一	梅山剛太郎・春武俊一・宮原秀三
東　京	石川島播磨重工	村田　俊夫	浅井良伸・村田俊夫・鼓　輝明・塚本明男・前沢哲雄・新江弘美・宮城信次
	沖電気	佐藤彦次郎	鈴木清一・板垣健二・岡部　正・池田秀美・山田善三・佐藤彦次郎・遠藤好則
	河崎ラケット	堺　　栄一	今井茂満・斉藤敏行・銭谷欽治・中井基夫・角田重男・石井幸男・堺　栄一・河崎一幸 福井正康
	ＫＤＤ東京	大髭　輝雄	大髭輝雄・遠藤正弘・竹中啓二・斉藤利昭・本間藤雄・五十嵐　正・藤平　守
	国鉄・大井	増田　　稔	鈴木登美夫・佐藤　修・大竹英樹・樽谷喜良・鵜沢秀寿・鎌田和光・榎　博久
	電電東京	鈴木　健二	池田信孝・田所光男・町田秀和・野本網夫・田児淳一・尾崎幹雄・土田証雄・鈴木健二 森谷喜久男・星野義昭
	東京簡保	永井　昌俊	吉野章二・沼田七郎・古明地正邦・石岡宏喜・狗飼　覚・中沢睦夫・武田公正・伊藤誠彦 江森光雄
	東京都庁	髙橋　秀男	竹俣　明・大原政義・島田　稔・馬場猛夫・岩上昭一・後藤　勝・小林賢治・鈴木　蕃
	東京トヨペット	入間　秀哲	福田利男・中谷明人・入間秀哲・沢田和俊・菊地　修・山野正義・茂呂文雄
	北辰電機	千葉　正皓	上三垣隆志・阿部正行・堀越　進・佐藤雅己・中島康信・上原日出男・中山廣明・黒崎二男
	明治生命	宮永　武司	川上善康・山田友良・鈴木英夫・清水政明・前田哲郎・安田伸一・服部秀昭
	諸江製作所	須田　孝夫	須田孝夫・市村栄文・遠藤嘉明・篠崎誠治・三浦　誠・平良　操・竹内康伸
	ヨネックス	土田　　隆	栂野尾昌一・飯野佳孝・大場和博・西村龍夫・辻　敏弘・中山謙吾・西野一征・後藤武信 梅田勝彦・菅原　薫
	第一中央汽船	登坂　　洋	登坂　洋・近藤　繁
	郵政省	尾島　　勲	大久保雅造・鬼島悟郎

（女子の部）

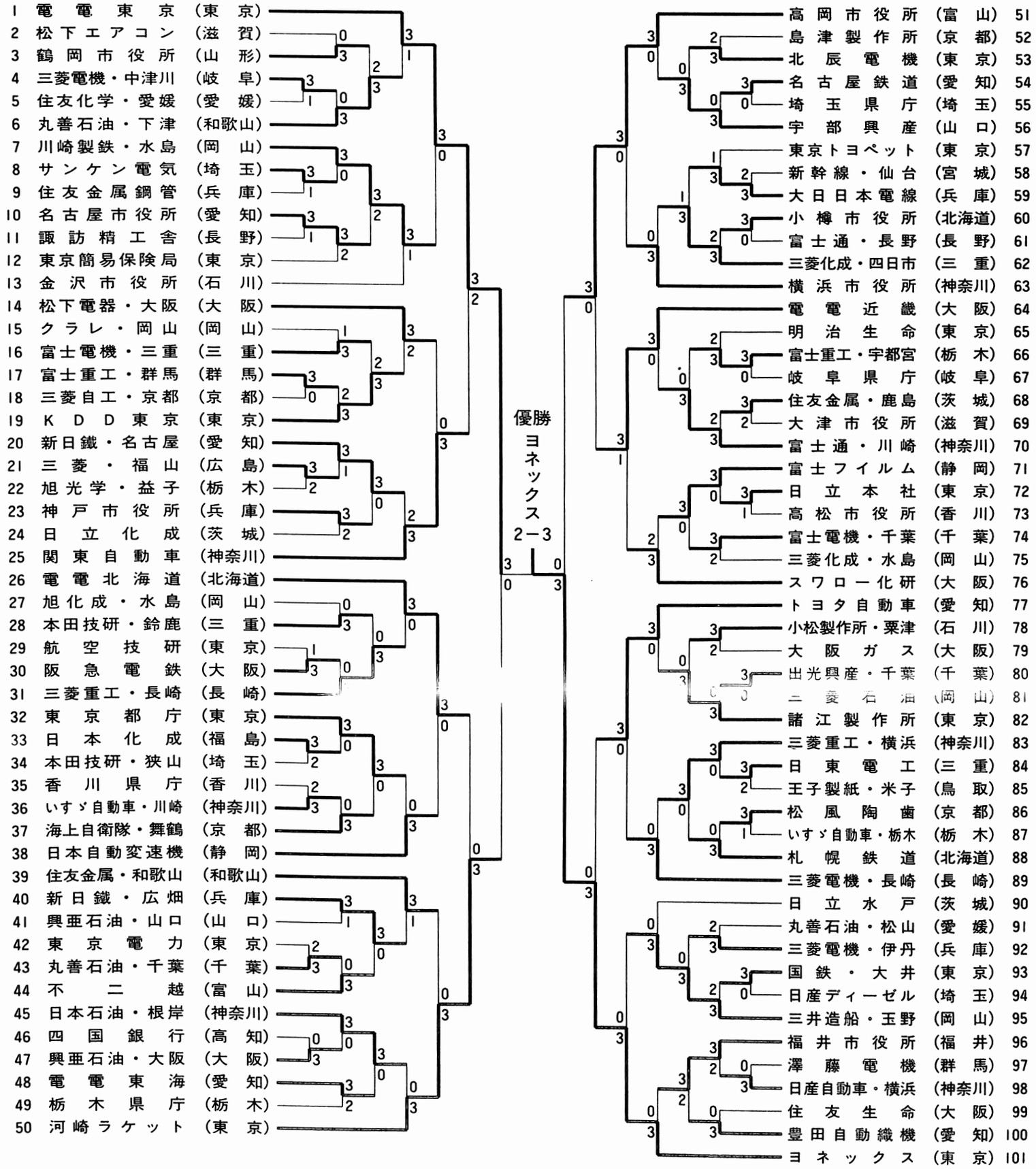
県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
北海道	地崎工業	岩崎　昭郎	田垣恵美子・桟利志子・山岸ひとみ・佐藤恵子
岩　手	新日鐵・釜石	本多　三郎	小田島節子・庄司礼子・柏館睦子・菊地文子
福　島	福島県庁	[illegible]	[illegible]・斉藤和恵
茨　城	住友金属・鹿島	伴　　順造	小橋よしえ・風間とく・遠藤幸江・石橋久子・川角貴子・千葉典子・松本葉子
	日立化成・下館	中束　三嘉	田口照代・吉田雅子・大和田妙子・坂入紀代美・宮田文子
群　馬	富士重工・群馬	江田　道雄	赤石百合子・天笠宏子・高沢洋子・真下文江
	松本精機	近藤　政子	木村智子・加藤恵美子・近藤政子・楢原常子・久保田真澄・木村智子・加藤恵美子
栃　木	旭光学・益子	小塙　宏人	沼能久子・日向野藤枝・日山裕子・増山直子・古口茂子・安藤由美子
	日産自動車・栃木	工藤　建夫	仁平美江・稲見静江・野沢友子・桜井春美・岩崎のり子・坪野谷玲子
千　葉	丸善石油・千葉	幸野　邦昭	酒井美代子・堀切由美子・児玉康子・横峯初江
	君津信用組合	佐久間政広	伊藤王江・堀切正子・関根妙子・鹿島まみ子
	千葉県庁	真下　考之	池田記子・対馬美智子
	日立精機	岩堀　　武	安彦広美
神奈川	関東自動車工業	郡司　　毅	遠藤美智子・砂川則子・小松原京子・潮崎満子・早川真澄・伊東智恵子・田中和子

県名	事業所名	監督名	選手名
神奈川	日立製作所・戸塚	甘粕　完治	佐藤正江・坂田祐子・江並なみ子・竹村仁美・板谷みつ子
	三菱重工・横浜	上野　強	石田菊江・高橋智子
	日本コロムビア		杉田良子
	新日鐵・製品研	山田　正弘	寺本裕子
	日産自動車・横浜	桜田　豊治	植草不二代・山田敦子
新潟	新潟エヌティエヌ	本田　務	海老恵美子・市村　静・阿部洋子・斉藤桂子
長野	富士通・長野	飯島　陽一	小山洋子・神戸優子・山崎美代子・山岸秀代
富山	不二越	畑　栄進	遠藤治美・小松雪枝
福井	山口歯科	山口　操	藤田典子・土屋久美子・山口　操
静岡	本州製紙・富士	町田　守正	磯部千代子・鈴木弘美・渡辺光代・甲田　操・戸塚真理子・橋本秀子・永田節子
	富士フイルム	滝　正孝	渡辺貴美子
愛知	トヨタ自動車	堀　幸矩	根木栄子・二川清美・片山泰恵・中川千栄子・小西百恵・加藤千恵子・青木はつ代
	日本電装	藤江　至	水谷昌代・松原香純・小田あさ子・加塩淳子・浜千代文子・池谷秋代
	新日鐵・名古屋	二瓶　清	加古弘子・小野孝江・安藤篤里子・浅田道子・赤木鶴代・前田初枝・竹内佐知子
三重	本田技研・鈴鹿	井上　鉄也	平子早苗・森　小百合・菅瀬裕子・辻村輝美
	松下電工・伊勢	上田　晴美	奥野佳代・中山幸子・辻　久代・小林あや子
	富士電機・三重	後藤　久	服部和代・黒宮智子・田中恵子・板倉典子・森久美代
滋賀	滋賀銀行	宇山　昌子	澤田とよ子・井上敦子・川岸恵子・三宅登記子・木村和美
	松下電工・彦根	増田　信治	藤井清子・岩根善美・河村和美・山室美恵子・藤井峰代・田中登子・苗村三五子
京都	三菱自工・京都	戸沢　正雄	水野靖子・山口明美
大阪	サントリー	山本　次生	西尾真理子・谷美津代・秋本幸子・徳田敦子・高田幹子・東海林文子・葛西明子・野中弘美 横山ナルミ
	電電近畿	片山　修治	吉田千恵美・餌取貴美子・久保田嘉代・藤井喜志子・平野　恵・野村由美子・山田節子
	スワロー化研工業	林　辰夫	佐藤百合子・真貝みはる
兵庫	住友金属鋼管	井内　利治	広瀬純子・樋口寿美子・仲本恵子・林　祥子
	神戸製鋼・高砂	岩本信太郎	永井睦子・梅田裕美・八木鈴枝・堀　滋美・西川美晴
	三菱電機・伊丹	浅岡　正久	大喜茂子・栗山美智栄・豊田文子・久保田睦美
岡山	川崎製鉄・水島	戸部　俊一	難波初子・難波明美・難波洋子・三宅洋子・小林敏子・佐藤直美・平田雅子
	三菱化成・水島	東　昌二	佐藤妙子・丸山文恵・若林幸恵・岡本純子
	アサヒプレッド	石田　雅子	石田雅子
香川	百十四銀行	杉本　裕	牛田真由美・片岡由美・前川加代子・渋谷茂子・黒川和美・北池ひとみ
	高松琴平電鉄	東条　義昭	平井佐代子・山田高子・磯崎早余子・小野尊世・山下明子・田所静子・石原英子
	香川県庁	弾正原正春	高橋幸子
高知	四国銀行	亀井　美雄	楠瀬美佐恵・森川　文・長井美枝・田中由美・中山恵子
長崎	三菱重工・長崎	田中　貞夫	柿本彰子
東京	沖電気	小原　政己	関　悦子・板垣雪江・高橋初江・小山祐子・西内裕見子
	学研	小島南海雄	藤原比佐子・白田和江・黒川恵美子・石丸恵美子・斉田由美・斉藤まゆみ・吉田智子
	ＫＤＤ東京	松浪鋭四郎	越川美枝子・稲垣和美・川鍋早智子・佐藤美幸・青山芳子・福本節子・橋本直子
	河崎ラケット	堺　栄一	湯木博恵・千葉陽子・若海輝代・渡辺みゆき・近藤小織・渡辺多喜子
	東京都庁	島田　稔	中野いずみ・山崎清子・島根圭子・大河原清江・川西須美枝・大谷昭子
	東京トヨペット	入間　秀哲	大場三弥子・佐々木千鶴子・中村伴子・峯岸幸子・後藤登美子・藤内貴美子
	電電東京	鈴木　健二	清水礼子・福原友子・今田真知子・坂林純子・米倉よし子
	北辰電機	千葉　正皓	高井春美・宮本小夜子・天谷洋子・鈴木裕子・稲田寿美
	明治生命	宮永　武司	斉藤紀子・滝沢裕子・水越純子・福井裕紀子・面来加津子・戸村久子・小森多恵
	ヨネックス	土田　隆	飯野裕子・植野恵美子・及川悦子・増田啓子・佐藤素美・中里れい子・吉田恵子
	東京簡易保険局	永井　昌俊	穐山みちる

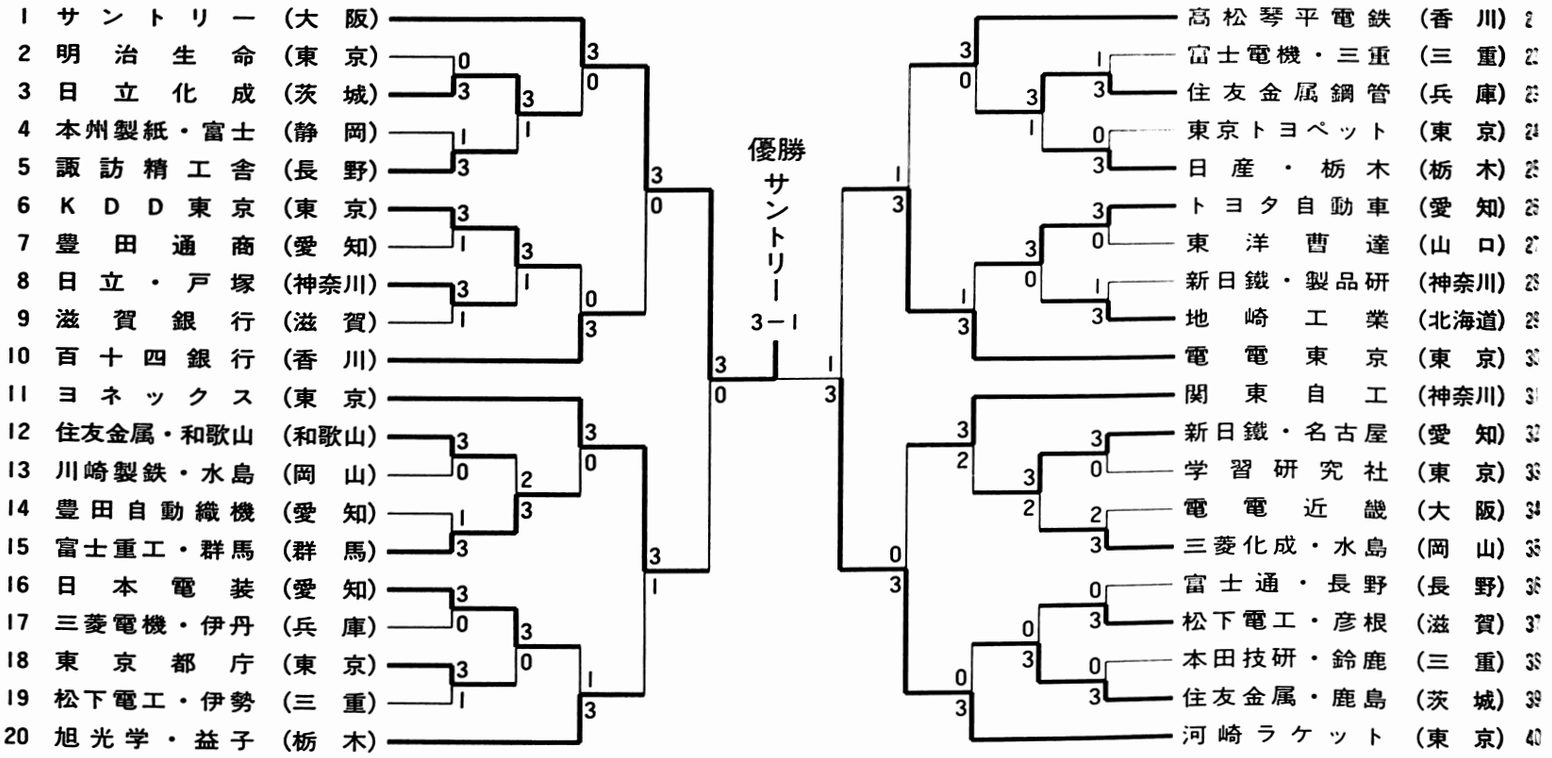
第29回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1979年(昭和54年)6月22～27日
開 催 地：岡山県岡山市、倉敷市
会　　場：岡山県体育館、倉敷市中央体育館、
川崎製鉄(株)水島体育館(岡山市民体育館)

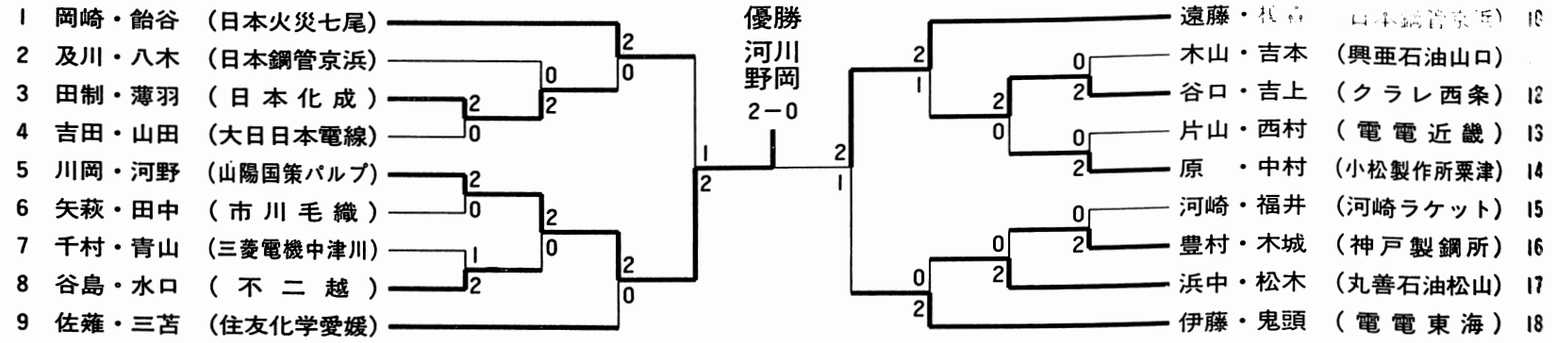
■男子団体の部



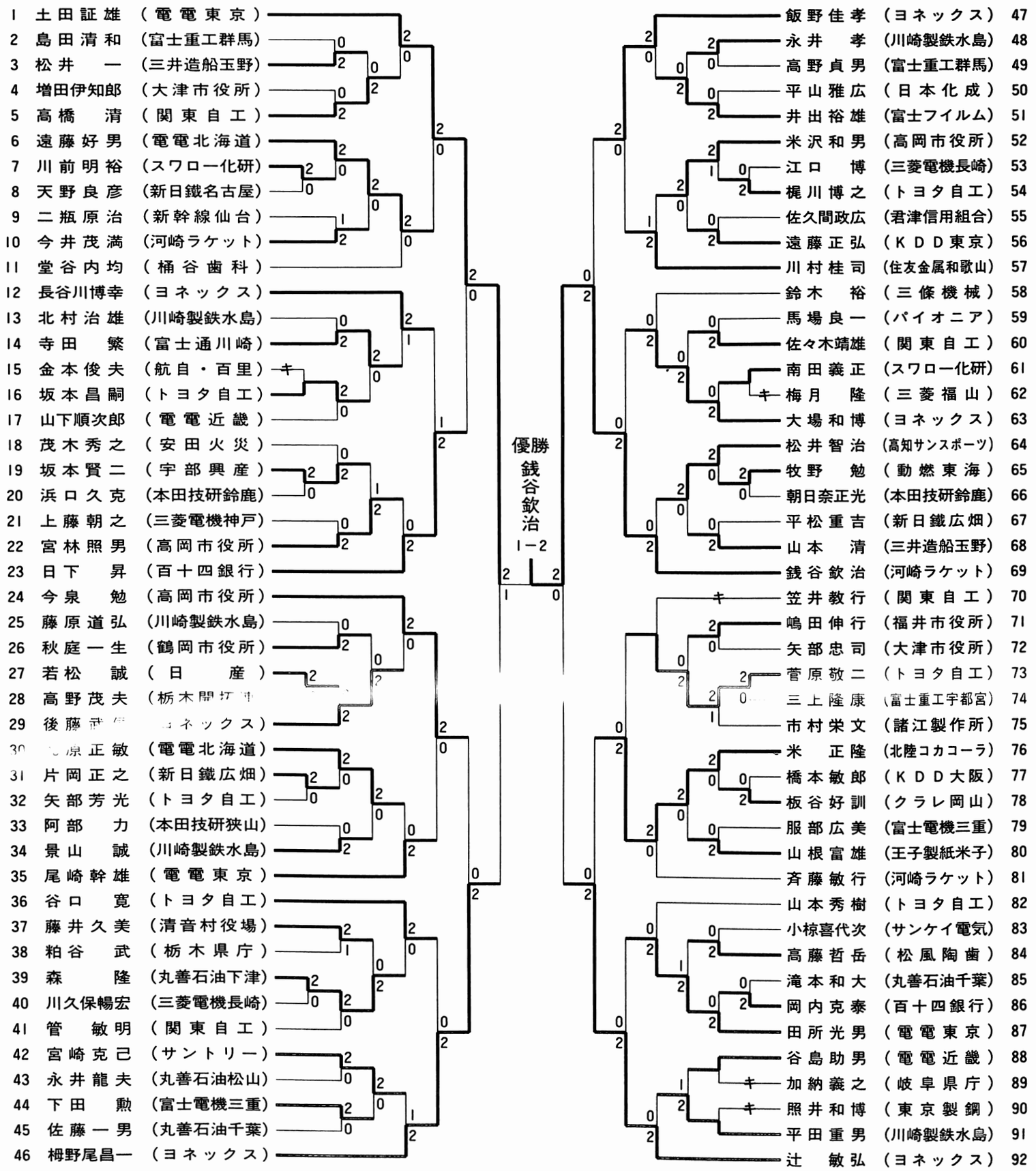
■女子団体の部



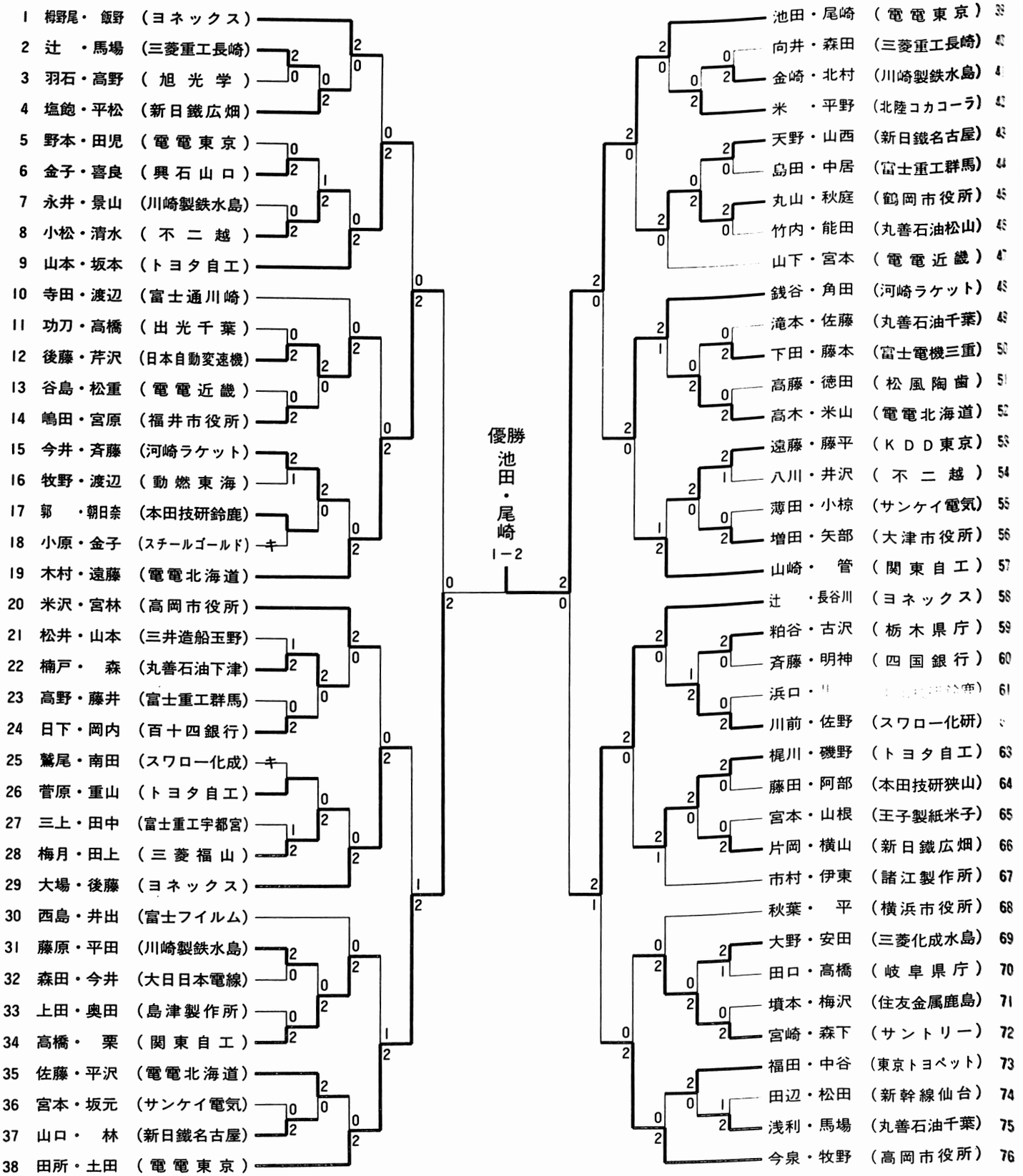
■40歳以上男子複の部



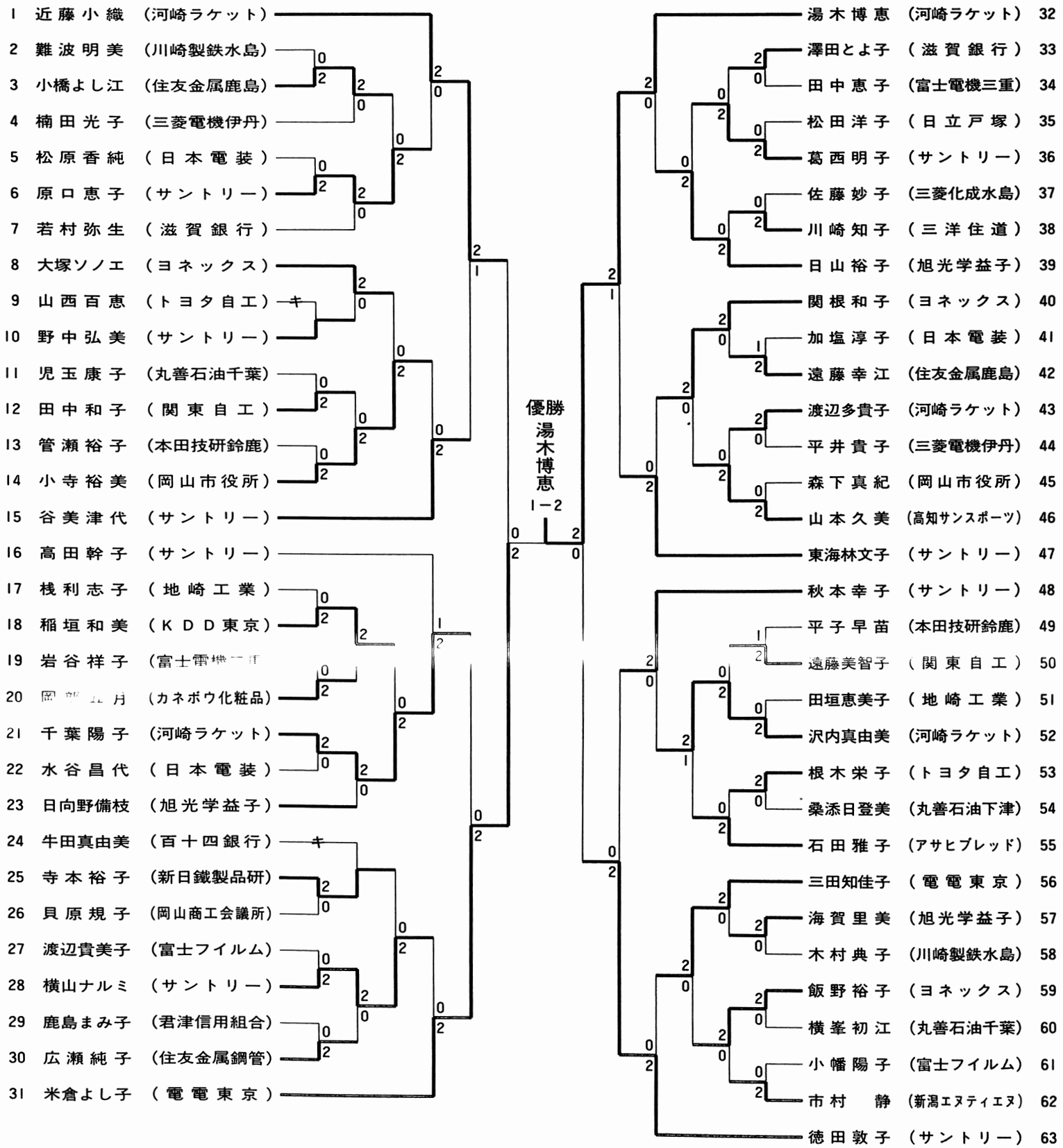
■男子単の部


1 土田証雄 (電電東京)
2 島田清和 (富士重工群馬)
3 松井 一 (三井造船玉野)
4 増田伊知郎 (大津市役所)
5 高橋 清 (関東自工)
6 遠藤好男 (電電北海道)
7 川前明裕 (スワロー化研)
8 天野良彦 (新日鐵名古屋)
9 二瓶原治 (新幹線仙台)
10 今井茂満 (河崎ラケット)
11 堂谷内均 (桶谷歯科)
12 長谷川博幸 (ヨネックス)
13 北村治雄 (川崎製鉄水島)
14 寺田 繁 (富士通川崎)
15 金本俊夫 (航自・百里)
16 坂本昌嗣 (トヨタ自工)
17 山下順次郎 (電電近畿)
18 茂木秀之 (安田火災)
19 坂本賢二 (宇部興産)
20 浜口久克 (本田技研鈴鹿)
21 上藤朝之 (三菱電機神戸)
22 宮林照男 (高岡市役所)
23 日下 昇 (百十四銀行)
24 今泉 勉 (高岡市役所)
25 藤原道弘 (川崎製鉄水島)
26 秋庭一生 (鶴岡市役所)
27 若松 誠 (日 産)
28 高野茂夫 (栃木開拓連)
29 後藤武信 (ヨネックス)
30 [illegible]原正敏 (電電北海道)
31 片岡正之 (新日鐵広畑)
32 矢部芳光 (トヨタ自工)
33 阿部 力 (本田技研狭山)
34 景山 誠 (川崎製鉄水島)
35 尾崎幹雄 (電電東京)
36 谷口 寛 (トヨタ自工)
37 藤井久美 (清音村役場)
38 粕谷 武 (栃木県庁)
39 森 隆 (丸善石油下津)
40 川久保暢宏 (三菱電機長崎)
41 管 敏明 (関東自工)
42 宮崎克己 (サントリー)
43 永井龍夫 (丸善石油松山)
44 下田 勲 (富士電機三重)
45 佐藤一男 (丸善石油千葉)
46 栂野尾昌一 (ヨネックス)
優勝
銭谷欽治
1−2
47 飯野佳孝 (ヨネックス)
48 永井 孝 (川崎製鉄水島)
49 高野貞男 (富士重工群馬)
50 平山雅広 (日本化成)
51 井出裕雄 (富士フイルム)
52 米沢和男 (高岡市役所)
53 江口 博 (三菱電機長崎)
54 梶川博之 (トヨタ自工)
55 佐久間政広 (君津信用組合)
56 遠藤正弘 (KDD東京)
57 川村桂司 (住友金属和歌山)
58 鈴木 裕 (三條機械)
59 馬場良一 (パイオニア)
60 佐々木靖雄 (関東自工)
61 南田義正 (スワロー化研)
62 梅月 隆 (三菱福山)
63 大場和博 (ヨネックス)
64 松井智治 (高知サンスポーツ)
65 牧野 勉 (動燃東海)
66 朝日奈正光 (本田技研鈴鹿)
67 平松重吉 (新日鐵広畑)
68 山本 清 (三井造船玉野)
69 銭谷欽治 (河崎ラケット)
70 笠井教行 (関東自工)
71 嶋田伸行 (福井市役所)
72 矢部忠司 (大津市役所)
73 菅原敬二 (トヨタ自工)
74 三上隆康 (富士重工宇都宮)
75 市村栄文 (諸江製作所)
76 米 正隆 (北陸コカコーラ)
77 橋本敏郎 (KDD大阪)
78 板谷好訓 (クラレ岡山)
79 服部広美 (富士電機三重)
80 山根富雄 (王子製紙米子)
81 斉藤敏行 (河崎ラケット)
82 山本秀樹 (トヨタ自工)
83 小椋喜代次 (サンケイ電気)
84 高藤哲岳 (松風陶歯)
85 滝本和大 (丸善石油千葉)
86 岡内克泰 (百十四銀行)
87 田所光男 (電電東京)
88 谷島助男 (電電近畿)
89 加納義之 (岐阜県庁)
90 照井和博 (東京製鋼)
91 平田重男 (川崎製鉄水島)
92 辻 敏弘 (ヨネックス)

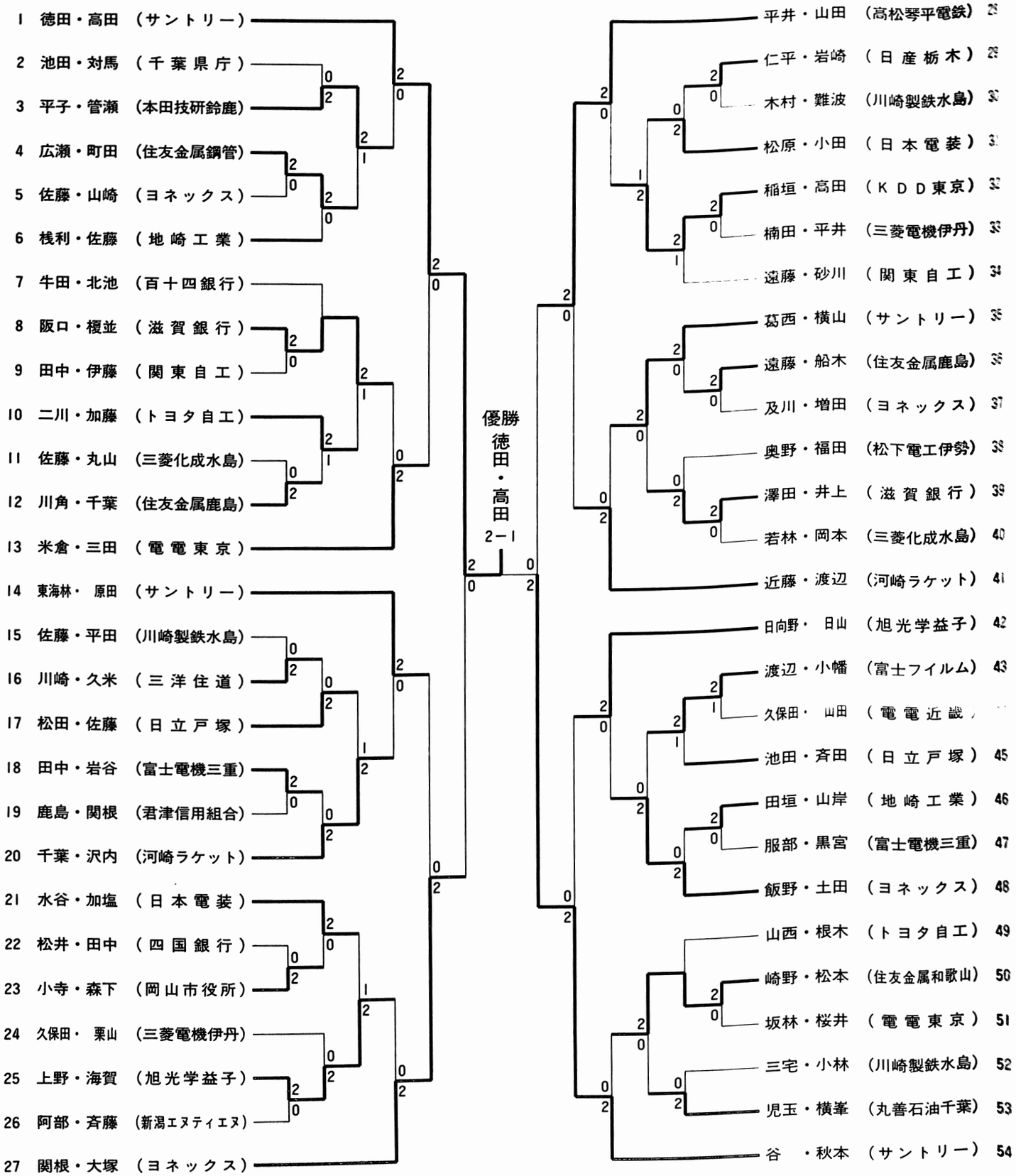
■男子複の部


1 椙野尾・飯野 (ヨネックス)
2 辻 ・馬場 (三菱重工長崎)
3 羽石・高野 (旭光学)
4 塩飽・平松 (新日鐵広畑)
5 野本・田児 (電電東京)
6 金子・喜良 (興石山口)
7 永井・景山 (川崎製鉄水島)
8 小松・清水 (不二越)
9 山本・坂本 (トヨタ自工)
10 寺田・渡辺 (富士通川崎)
11 功刀・高橋 (出光千葉)
12 後藤・芹沢 (日本自動変速機)
13 谷島・松重 (電電近畿)
14 嶋田・宮原 (福井市役所)
15 今井・斉藤 (河崎ラケット)
16 牧野・渡辺 (動燃東海)
17 郭 ・朝日奈 (本田技研鈴鹿)
18 小原・金子 (スチールゴールド)
19 木村・遠藤 (電電北海道)
20 米沢・宮林 (高岡市役所)
21 松井・山本 (三井造船玉野)
22 楠戸・ 森 (丸善石油下津)
23 高野・藤井 (富士重工群馬)
24 日下・岡内 (百十四銀行)
25 鷲尾・南田 (スワロー化成)
26 菅原・重山 (トヨタ自工)
27 三上・田中 (富士重工宇都宮)
28 梅月・田上 (三菱福山)
29 大場・後藤 (ヨネックス)
30 西島・井出 (富士フイルム)
31 藤原・平田 (川崎製鉄水島)
32 森田・今井 (大日日本電線)
33 上田・奥田 (島津製作所)
34 高橋・ 栗 (関東自工)
35 佐藤・平沢 (電電北海道)
36 宮本・坂元 (サンケイ電気)
37 山口・ 林 (新日鐵名古屋)
38 田所・土田 (電電東京)
優勝
池田・尾崎
1－2
池田・尾崎 (電電東京) 39
向井・森田 (三菱重工長崎) 40
金崎・北村 (川崎製鉄水島) 41
米 ・平野 (北陸コカコーラ) 42
天野・山西 (新日鐵名古屋) 43
島田・中居 (富士重工群馬) 44
丸山・秋庭 (鶴岡市役所) 45
竹内・能田 (丸善石油松山) 46
山下・宮本 (電電近畿) 47
銭谷・角田 (河崎ラケット) 48
滝本・佐藤 (丸善石油千葉) 49
下田・藤本 (富士電機三重) 50
高藤・徳田 (松風陶歯) 51
高木・米山 (電電北海道) 52
遠藤・藤平 (KDD東京) 53
八川・井沢 (不二越) 54
薄田・小椋 (サンケイ電気) 55
増田・矢部 (大津市役所) 56
山崎・ 管 (関東自工) 57
辻 ・長谷川 (ヨネックス) 58
粕谷・古沢 (栃木県庁) 59
斉藤・明神 (四国銀行) 60
浜口・ (61
川前・佐野 (スワロー化研)
梶川・磯野 (トヨタ自工) 63
藤田・阿部 (本田技研狭山) 64
宮本・山根 (王子製紙米子) 65
片岡・横山 (新日鐵広畑) 66
市村・伊東 (諸江製作所) 67
秋葉・ 平 (横浜市役所) 68
大野・安田 (三菱化成水島) 69
田口・高橋 (岐阜県庁) 70
墳本・梅沢 (住友金属鹿島) 71
宮崎・森下 (サントリー) 72
福田・中谷 (東京トヨペット) 73
田辺・松田 (新幹線仙台) 74
浅利・馬場 (丸善石油千葉) 75
今泉・牧野 (高岡市役所) 76

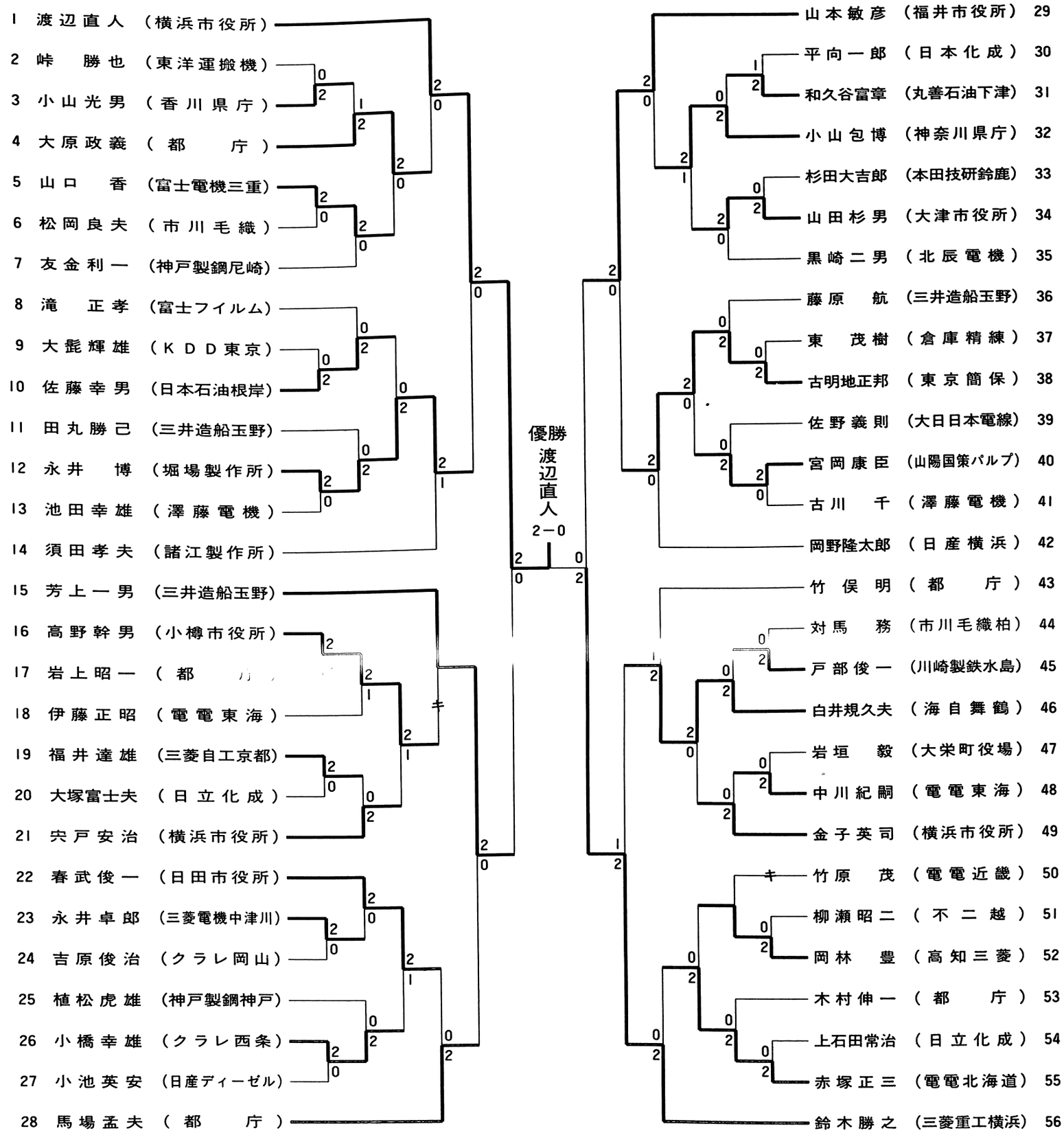
■女子単の部


1 近藤小織 (河崎ラケット)
2 難波明美 (川崎製鉄水島)
3 小橋よし江 (住友金属鹿島)
4 楠田光子 (三菱電機伊丹)
5 松原香純 (日本電装)
6 原口恵子 (サントリー)
7 若村弥生 (滋賀銀行)
8 大塚ソノエ (ヨネックス)
9 山西百恵 (トヨタ自工)
10 野中弘美 (サントリー)
11 児玉康子 (丸善石油千葉)
12 田中和子 (関東自工)
13 管瀬裕子 (本田技研鈴鹿)
14 小寺裕美 (岡山市役所)
15 谷美津代 (サントリー)
16 高田幹子 (サントリー)
17 桟利志子 (地崎工業)
18 稲垣和美 (KDD東京)
19 岩谷祥子 (富士電機三重)
20 岡部五月 (カネボウ化粧品)
21 千葉陽子 (河崎ラケット)
22 水谷昌代 (日本電装)
23 日向野備枝 (旭光学益子)
24 牛田真由美 (百十四銀行)
25 寺本裕子 (新日鐵製品研)
26 貝原規子 (岡山商工会議所)
27 渡辺貴美子 (富士フイルム)
28 横山ナルミ (サントリー)
29 鹿島まみ子 (君津信用組合)
30 広瀬純子 (住友金属鋼管)
31 米倉よし子 (電電東京)
優勝
湯木博恵
1−2
32 湯木博恵 (河崎ラケット)
33 澤田とよ子 (滋賀銀行)
34 田中恵子 (富士電機三重)
35 松田洋子 (日立戸塚)
36 葛西明子 (サントリー)
37 佐藤妙子 (三菱化成水島)
38 川崎知子 (三洋住道)
39 日山裕子 (旭光学益子)
40 関根和子 (ヨネックス)
41 加塩淳子 (日本電装)
42 遠藤幸江 (住友金属鹿島)
43 渡辺多貴子 (河崎ラケット)
44 平井貴子 (三菱電機伊丹)
45 森下真紀 (岡山市役所)
46 山本久美 (高知サンスポーツ)
47 東海林文子 (サントリー)
48 秋本幸子 (サントリー)
49 平子早苗 (本田技研鈴鹿)
50 遠藤美智子 (関東自工)
51 田垣恵美子 (地崎工業)
52 沢内真由美 (河崎ラケット)
53 根木栄子 (トヨタ自工)
54 桑添日登美 (丸善石油下津)
55 石田雅子 (アサヒブレッド)
56 三田知佳子 (電電東京)
57 海賀里美 (旭光学益子)
58 木村典子 (川崎製鉄水島)
59 飯野裕子 (ヨネックス)
60 横峯初江 (丸善石油千葉)
61 小幡陽子 (富士フイルム)
62 市村 静 (新潟エヌティエヌ)
63 徳田敦子 (サントリー)

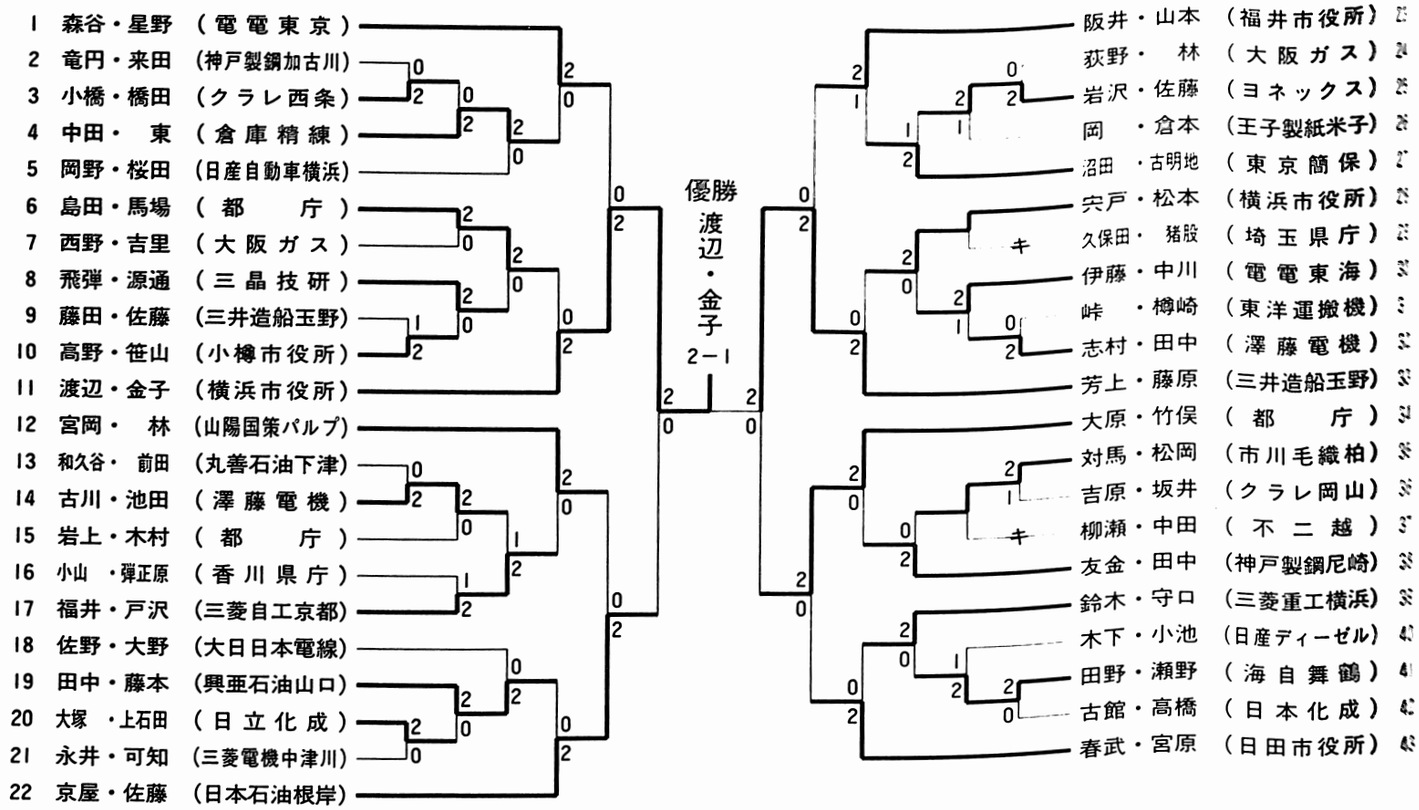
■女子複の部


1 徳田・高田 （サントリー）
2 池田・対馬 （千葉県庁）
3 平子・管瀬 （本田技研鈴鹿）
4 広瀬・町田 （住友金属鋼管）
5 佐藤・山崎 （ヨネックス）
6 桟利・佐藤 （地崎工業）
7 牛田・北池 （百十四銀行）
8 阪口・榎並 （滋賀銀行）
9 田中・伊藤 （関東自工）
10 二川・加藤 （トヨタ自工）
11 佐藤・丸山 （三菱化成水島）
12 川角・千葉 （住友金属鹿島）
13 米倉・三田 （電電東京）
14 東海林・ 原田 （サントリー）
15 佐藤・平田 （川崎製鉄水島）
16 川崎・久米 （三洋住道）
17 松田・佐藤 （日立戸塚）
18 田中・岩谷 （富士電機三重）
19 鹿島・関根 （君津信用組合）
20 千葉・沢内 （河崎ラケット）
21 水谷・加塩 （日本電装）
22 松井・田中 （四国銀行）
23 小寺・森下 （岡山市役所）
24 久保田・ 栗山 （三菱電機伊丹）
25 上野・海賀 （旭光学益子）
26 阿部・斉藤 （新潟エヌティエヌ）
27 関根・大塚 （ヨネックス）
優勝
徳田・高田
2－1
平井・山田 （高松琴平電鉄） 28
仁平・岩崎 （日産栃木） 29
木村・難波 （川崎製鉄水島） 30
松原・小田 （日本電装） 31
稲垣・高田 （KDD東京） 32
楠田・平井 （三菱電機伊丹） 33
遠藤・砂川 （関東自工） 34
葛西・横山 （サントリー） 35
遠藤・船木 （住友金属鹿島） 36
及川・増田 （ヨネックス） 37
奥野・福田 （松下電工伊勢） 38
澤田・井上 （滋賀銀行） 39
若林・岡本 （三菱化成水島） 40
近藤・渡辺 （河崎ラケット） 41
日向野・ 日山 （旭光学益子） 42
渡辺・小幡 （富士フイルム） 43
久保田・ 山田 （電電近畿） 44
池田・斉田 （日立戸塚） 45
田垣・山岸 （地崎工業） 46
服部・黒宮 （富士電機三重） 47
飯野・土田 （ヨネックス） 48
山西・根木 （トヨタ自工） 49
崎野・松本 （住友金属和歌山） 50
坂林・桜井 （電電東京） 51
三宅・小林 （川崎製鉄水島） 52
児玉・横峯 （丸善石油千葉） 53
谷 ・秋本 （サントリー） 54

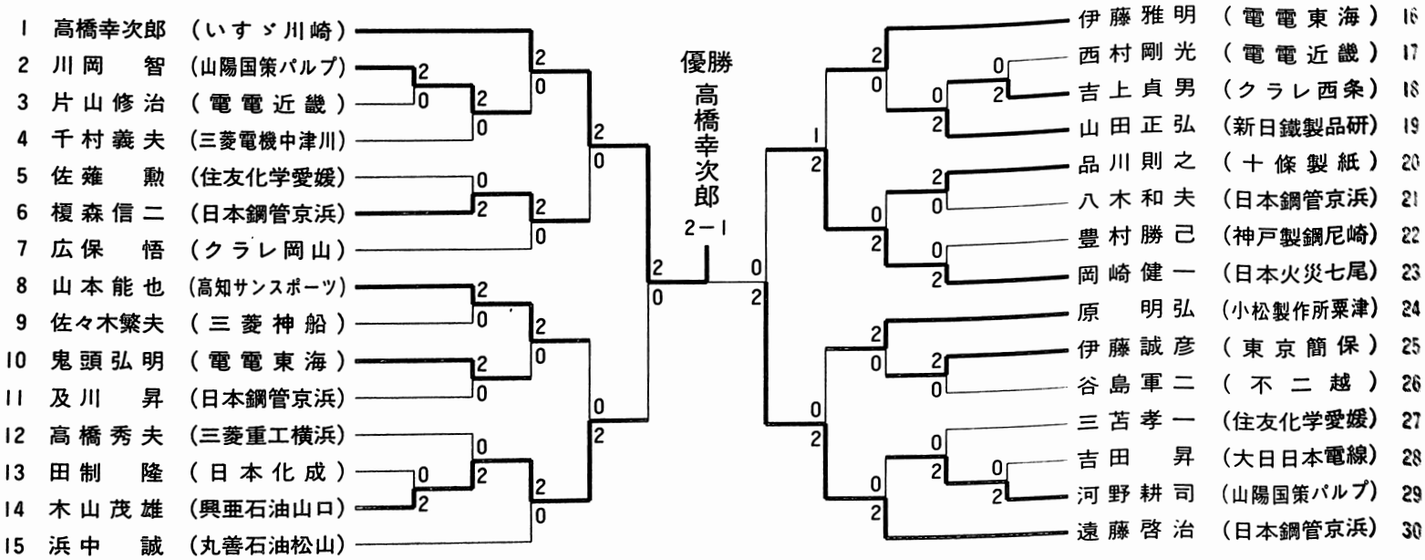
■30歳以上男子単の部


1 渡辺直人 (横浜市役所)
2 峠 勝也 (東洋運搬機)
3 小山光男 (香川県庁)
4 大原政義 (都 庁)
5 山口 香 (富士電機三重)
6 松岡良夫 (市川毛織)
7 友金利一 (神戸製鋼尼崎)
8 滝 正孝 (富士フイルム)
9 大髭輝雄 (KDD東京)
10 佐藤幸男 (日本石油根岸)
11 田丸勝己 (三井造船玉野)
12 永井 博 (堀場製作所)
13 池田幸雄 (澤藤電機)
14 須田孝夫 (諸江製作所)
15 芳上一男 (三井造船玉野)
16 高野幹男 (小樽市役所)
17 岩上昭一 (都 庁)
18 伊藤正昭 (電電東海)
19 福井達雄 (三菱自工京都)
20 大塚富士夫 (日立化成)
21 宍戸安治 (横浜市役所)
22 春武俊一 (日田市役所)
23 永井卓郎 (三菱電機中津川)
24 吉原俊治 (クラレ岡山)
25 植松虎雄 (神戸製鋼神戸)
26 小橋幸雄 (クラレ西条)
27 小池英安 (日産ディーゼル)
28 馬場孟夫 (都 庁)
優勝
渡辺直人
2−0
キ
29 山本敏彦 (福井市役所)
30 平向一郎 (日本化成)
31 和久谷富章 (丸善石油下津)
32 小山包博 (神奈川県庁)
33 杉田大吉郎 (本田技研鈴鹿)
34 山田杉男 (大津市役所)
35 黒崎二男 (北辰電機)
36 藤原 航 (三井造船玉野)
37 東 茂樹 (倉庫精練)
38 古明地正邦 (東京簡保)
39 佐野義則 (大日日本電線)
40 宮岡康臣 (山陽国策パルプ)
41 古川 千 (澤藤電機)
42 岡野隆太郎 (日産横浜)
43 竹俣 明 (都 庁)
44 対馬 務 (市川毛織柏)
45 戸部俊一 (川崎製鉄水島)
46 白井規久夫 (海自舞鶴)
47 岩垣 毅 (大栄町役場)
48 中川紀嗣 (電電東海)
49 金子英司 (横浜市役所)
50 竹原 茂 (電電近畿)
51 柳瀬昭二 (不二越)
52 岡林 豊 (高知三菱)
53 木村伸一 (都 庁)
54 上石田常治 (日立化成)
55 赤塚正三 (電電北海道)
56 鈴木勝之 (三菱重工横浜)

■30歳以上男子複の部



■40歳以上男子単の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	小樽市役所	大石　章	高野幹男・東田朋己・斉藤　裕・目黒清則・阿部幸夫・佐々木尚文・笹山時彦
	電電北海道	平山　三城	遠藤好男・九原正敏・木村敏男・高木勝弘・佐藤義孝・平沢　徹・米山孝二・赤塚正三
	札幌鉄道管理局	山田　元	山本晴通・山田　篤・山田好明・紫田賢治・平　秋義・広川幸児・高崎厚生
岩手	東京製鋼		照井和博
宮城	新幹線・仙台	福永　雅俊	吉野伸一・田中昭夫・田辺　豊・松田芳範・大沼久喜・二瓶源治・伊藤精彦
福島	日本化成	古館　信義	古館信義・高橋秀之・平向一郎・平山雅広・田制　隆・薄羽康友
茨城	住友金属・鹿島	伴　順造	武田富美明・岡田常雄・駒田　忠・墳本敏幸・鶴見富美雄・梅沢和則・塩谷忠秋
	日立化成	中東　三嘉	中東三嘉・大塚富士夫・水野　裕・田沢和幸・上石田常治・渡辺好則
	日立製作所・水戸	浜田　勇	和田講一・菅野　孝・早川　博・福田喜代志・村谷信之・阿部信幸・飯島　要
	勁燃・東海村	三浦　満	牧野　勉・渡辺健治
	航空自衛隊・百里	石塚　昭	金本俊夫
栃木	旭光学・益子	小塙　宏人	羽石武士・高野久雄・芦野勝己・小池信一・伊沢義美・田中逸馬
	いすゞ自動車・栃木	山本　弘	田神一豊・大橋義明・井口　保・山本　弘
	栃木県庁	青木　靖徳	湯沢雄一・古沢元浩・森本金一・伊藤政英・粕谷　武・土屋忠一・安藤武雄
	富士重工・宇都宮	永山　隆	三上隆康・川上岩雄・田中　勇・大島　巌・山崎一雄・高橋秀行・近嵐裕治
	栃木県開拓連		高野茂夫
群馬	富士重工・群馬	渡辺　晃一	山形　武・高野貞男・渡辺晃一・大木利行・藤井良典・島田清和・中居功治
	澤藤電機	渡辺　淳	志村勝己・古川　千・田中　司・池田幸雄・饗庭孝夫
千葉	丸善石油・千葉	浅利　章悦	馬場秀明・浅利章悦・滝本和大・佐藤一男・高橋俊明・岩本圭吾・沼田浩典
	富士電機・千葉	石橋　康幸	近藤益尾・南　千勇・藤沢温夫・中尾伴清・渡辺　亨・山田　充
	出光興産・千葉	松原　広和	功刀謙二・高橋宏一・松原広和・小野寺裕志・岩田彰一・田渕　潔
	市川毛織・柏	松岡　良夫	対馬　務・松岡良夫・矢萩繁雄・田中　靖
	君津信用組合	山口　進	佐々間政広
埼玉	埼玉県庁	吉成　素彦	久保田宇作・猪股正人・内川雅博・宮崎　茂・永田喜雄・粂　浩二・大野　弘
	サンケン電気	今井　清重	菊田勝[illegible]・[illegible]・[illegible]喜代次・[illegible]
	本田技研・狭山	藤田　茂樹	藤田茂樹・大橋　正・藤田信夫・阿部　力・岩田好夫・清水宏之・坂口吉頼
	日産ディーゼル	田中　義康	佐藤博文・木下秀利・小池英安・角浜　勉・坪田紀夫・新井　晃・勝又武志
	ヨネックス	佐藤　司	岩沢　進・佐藤　司
	パイオニア	小栗　健造	馬場良一
東京	ＫＤＤ東京	大髭　輝雄	大髭輝雄・遠藤正弘・竹中啓二・斉藤利昭・藤平　守
	明治生命	宮永　武司	川上善康・鈴木英夫・清水政明・前田哲郎・渡辺信夫・服部秀昭・宮永武司
	東京トヨペット	入間　秀哲	福田利男・中谷明人・入間秀哲・沢田和俊・杉本健郎・山野正義・菊地　修
	国鉄・大井	増田　稔	鈴木登美夫・佐藤　修・糟谷喜良・榎　博久・鎌田和光・鵜沢秀寿
	北辰電機	阿部　正行	上三垣隆志・中島康信・堀越　進・阿部正行・佐藤正己・上原日出男・黒崎二男
	東京都庁	高橋　秀男	大原正義・竹俣　明・馬場猛夫・中田洋二・小林賢治・小山真樹・後藤　勝・岩上昭一 木村伸一・島田　稔
	航空技研	名越　孝行	楯　篤志・阿部正男・平林則明・高梨　進
	諸江製作所	須田　孝夫	須田孝夫・市村栄文・篠崎誠治・三浦　誠・竹内康伸・伊藤勝之・遠藤嘉明
	東京電力	小野田文雄	石原泰造・岩間　源・矢部　明・佐野裕俊・橋本　栄
	東京簡易保険局	永井　昌俊	沼田七郎・古明地正邦・石岡宏喜・狗飼　覚・中沢睦夫・伊藤誠彦
	日立・本社	片岡　孝嘉	林　幸三・石井策馬・佐倉和明・今　睦男・藤井建次・山形一志・南　寿夫
	安田火災	山崎　和彦	茂木秀之
	電電東京	池田　信孝	池田信孝・田所光男・町田秀和・尾崎幹雄・田児淳一・野本網夫・土田証雄・森谷喜久男 星野義昭

県名	事業所名	監督名	選手名
東京	河崎ラケット	堺　栄一	今井茂満・斉藤敏行・銭谷欽治・角田重男・中井基夫・藤波哲治・辻　常雄・河崎一幸 福井正康
	ヨネックス	梅野尾昌一	梅野尾昌一・飯野佳孝・大場和博・辻　敏弘・後藤武信・長谷川博幸・梅田勝彦
神奈川	関東自動車工業	郡司　毅	高橋　清・山崎幸男・栗　英嗣・菅　敏明・佐々木靖雄・国府田仁・松本　真・笠井教行
	横浜市役所	高橋　正宏	斉藤英明・平　敏司・渡辺直人・金子英司・秋葉　博・坂井　孝・広沢昭一・宍戸安治 松本利喜夫
	三菱重工・横浜	守口　茂	高橋保則・上野　強・鈴木勝之・近藤純一・赤垣昭憲・上野雅晴・山本　勝・守口　茂 高橋秀夫
	日本石油・根岸	泉　信夫	佐藤幸男・泉　信夫・丸山則明・石津富夫・石渡輝己・野友昭夫・京屋孝治
	富士通・川崎	杉原　好一	寺田　繁・渡辺正光・篠崎俊久・青木和夫・渡辺　誠・鈴木弘之・清野徹也
	日産自動車・横浜	桜田　豊治	竹村芳郎・高橋　始・伊藤　選・照井良治・大谷清志・桜田豊治・岡野隆太郎
	いすゞ自動車・川崎	田中　正誼	佐々木孝治・手塚利男・高橋孝治郎・菊地　修・小泉武夫
	神奈川県庁		小山包博
	日本鋼管京浜	八木　和夫	遠藤啓治・榎森信二・及川　昇・八木和夫
	新日鐵・製品技研	山田　正弘	山田正弘
新潟	三條機械		鈴木　裕
長野	富士通・長野	小林　敏一	福島晃範・関谷弘一・小林敏一・宮沢昌志
	諏訪精工舎	里見　良三	武田康嗣・塩川敏行・里見良三・大和昭夫
富山	三昌技研	飛田　是博	飛田是博・源通直樹
	高岡市役所	中山　邦夫	今泉　勉・関村順治・牧野光男・宮林照男・米沢和男・川端英男・河村博之
	不二越	畑　栄進	八川修一・清水信之・畑　栄進・柳瀬昭二・小松美樹男・井沢　清・中田一利・谷島軍二 水口良一
石川	金沢市役所	大西　義則	米田幸生・林　芳弘・山下敏行・大田博之・塩谷喜宏・中村久雄・杉林正一
	小松製作所・粟津	原　明弘	石川順一・桝野泰弘・北　秀樹・宮腰幸一・水口良一・関戸隆司・原　明弘・中村　均
	桶谷歯科	桶谷　文夫	堂谷内均
	北陸コカコーラ	米　正雄	米　正雄・平野勝樹
	倉庫精錬	中田　吉昭	東　茂樹・中田吉昭
	日本火災海上・七尾	岡崎　健一	岡崎健一・飴谷信夫
福井	福井市役所	増永　秀則	増永秀則・山本敏彦・阪井範行・嶋田伸行・宮原　一
静岡	富士フィルム	滝　正孝	西島知彦・井出裕雄・吉岡直彦・池田光宏・諏訪部豊・川原崎仁・滝　正孝
	日本自動変速機	望月　一	後藤和之・芹沢英彦・望月　一・関野　強・村松三郎・鈴木朗典・鷲坂正記
	日産自動車・吉原	若松　誠	若松　誠
愛知	トヨタ自動車	長谷川敏彦	梶川博之・山本秀樹・谷口　寛・磯野雄二・菅原敬二・坂本昌嗣・重山成生
	新日鐵・名古屋	山本　卓男	山口元吉・天野良彦・林　甚代・小西友幸・佐々木秀一・菅井　孝・山本卓男
	名古屋鉄道	井沢　宏	加藤保利・井上　龍・山本良雄・加藤憲治・林　久男
	豊田自動織機	武田　正雄	榊原輝次・山口清春・正岡洋三・武田正雄・白取明人
	名古屋市役所	渡辺　泰竹	平野博久・岩井正好・山口武満・水野重秋・竹下輝雄
	電電東海	渡辺　幸男	伊藤雅昭・伊藤正昭・大江喜久雄・水谷悦郎・中川紀嗣・長江新八・鬼頭弘明
岐阜	岐阜県庁	石原　敏郎	田口伸治・高橋伸治・浅野人美・加納義之・高橋秀治・上野秀夫
	三菱電機・中津川	千村　義夫	千村義夫・永井卓郎・可知俊一・大畑澄夫・小田　肇・梶田政弘・青山千秋
三重	富士電機・三重	渋谷　良明	山口　香・下田　勲・服部広美・藤本規夫・後藤俊彦・後藤　久
	本田技研・鈴鹿	郭　秀裕	郭　秀裕・浜口久克・松田大吉郎・宮崎明彦・朝比奈正光・黒肥地一則・下村雅彦
	日東電工	門田　正彦	西村　徹・服部芳博・清原　進・小川隆志・百田康仁・山本光則・船木　孝
	三菱化成・四日市	増井　孝夫	増井孝夫・小林信行・伊藤正己・諸田秀二・田中秀俊・市来哲郎

県名	事業所名	監督名	選手名
滋賀	大津市役所	久保　宏	釜屋明和・西原四郎・山田杉男・東川　衛・山田通義・矢部忠司・増田伊知郎
	松下エアコン	中薮　高志	中薮高志・山中　卓・大西恵三・古賀澄雄・山本　昇・斉藤光治・上田　潔
	東洋運搬機	河本　浩	峠　勝也・楢崎久俊
京都	三菱自工・京都	高宮梵之助	福井達雄・西村勝美・石津正明・谷沢和彦・勝村育生・上村常夫・竹井宣夫・戸沢正雄
	島津製作所	上田　勉	高寺賢吉・東　洋一・上田　勉・長岡喜久男・奥田俊次・藤江正則・若林　登
	海上自衛隊・舞鶴	田野　栄敏	田野栄敏・瀬野俊策・白井規久夫・川村道厚・白井幸夫・小山良光・沢田巧二
	松風陶歯	高藤　哲岳	徳田　進・深谷幸雄・高藤哲岳・伊佐恒範
	堀場製作所	永井　博	永井　博
大阪	電電近畿	岩田　昇	岩田　昇・山下順次郎・宮本宏和・谷島助男・松重恵三・平野新二・中島新一・竹原　茂 片山修二・西村剛光
	スワロー化研	林　辰男	川前明裕・佐野　弘・南田義正・吉森勝之・松浦一浩・鷲尾正一
	松下電器	渡辺　雅仁	山口　博・宮崎庄一・宮里重信・山川正一・那須哲太郎・宮沢久男・樋口正幸
	大阪ガス	西野　幸雄	小西秀政・吉里文雄・田中真平・出口　譲・北野公男・酒井孝志・田村雅昭・荻野　勇 林　広造・西野幸雄
	住友生命	丸井　広道	木原　茂・河本保夫・丸井広道・佐藤芳朗・小池田　満・柳本和夫・狩野卓也
	阪急電鉄	木目　嘉崇	市橋　茂・出田安隆・長沢秀信・下野治生・蔵本英二・野沢明雄・渋谷元己
	興亜石油・大阪	井関　博	吾郷裕志・藤野敏幸・井関　博・日下英明・岩垣雅男・南　功
	サントリー	山本　次生	宮崎克巳・森下一夫
	ＫＤＤ大阪	藤井　靖雄	橋本敏郎
	十條製紙		品川則之
兵庫	新日鐵・広畑	塗　嘉夫	平松重吉・塩飽　初・片岡正之・横山真二・平川正義・堤田富夫・寺腰　広
	大日日本電線	吉田　昇	佐野義則・森田幸男・今井則明・大野恵一・山本健吾・足立　博・吉田　昇・山田達也
	三菱電機・伊丹	矢賀　雅人	入口弥一郎・矢賀雅人・寺尾一秀・中岡嘉孝・久保真一・上藤朝之
	神戸市役所	高原　信幸	高橋信幸・沢田信二・老田幸雄・安房田光男・岸本綾夫
	住友金属鋼管	井内　利治	高木茂和・鈴木譲二・高木昭憲・小田清二・寺田公三・井内利治
	神戸製鋼所	友金　利一	友金利一・植松虎雄・田中紀久・竜円栄治・来田正雄・豊村勝己・木城義明
	三菱重工・神戸	瀬川　欽也	佐々木繁夫
和歌山	住友金属・和歌山	[illegible]	[illegible]・辻本　進・小形善樹・鳴海信治・野沢英雄・小川　均
	丸善石油・下津	林　保雄	楠戸春則・穂谷真弘・志場　周・上野健一・森　隆・和久谷富章・前田益孝
鳥取	王子製紙・米子	安田　徳郎	岡　昭徳・倉本仁司・宮本良博・砂川清美・山根富雄・小野宗一・神谷昌博
	大栄町役場	田中　精一	岩垣　毅
広島	日本鋼管・福山	森谷	安達恵吉・占部栄一・山岡　満・安達喜兼・山田進一郎・平田尋己・西村定高・梅月　隆 田上義美
山口	宇部興産	末広　秀樹	末広秀樹・河添忠夫・坂本賢二・中村俊和・藤原　薫・渡辺　宏・川原哲夫
	興亜石油・山口	木山　茂雄	加藤英臣・真紫秀実・原　和秀・金子隆志・喜良明文・田中博美・木山茂雄・吉本佳弘 藤本昭男
	山陽国策パルプ	川岡　智	宮岡康臣・林　厚志・川岡　智・河野耕司
香川	香川県庁	弾正原義春	小山光男・岡田忠己・英　俊次・弾正原義春・藤沢公世・岡　道祐
	高松市役所	横岡　忠幸	松木直樹・菅原恒幸・大久保　進・木村　茂・栗田康市・中西　功・横岡忠幸
	百十四銀行	杉本　裕	日下　昇・岡内克泰
愛媛	丸善石油・松山	松本　信夫	永井龍夫・竹内洋雅・能田隆雄・浜中　誠・松本信夫
	住友化学・愛媛		戸井田　誠・片上逸志・守谷喜久雄・三苫孝一・佐薙　勲
	クラレ西条	谷口　金夫	小橋幸雄・橋本国司・吉上貞男・谷口金夫
高知	四国銀行	亀井　義雄	斉藤　彰・明神　功・桑名嘉和・島本隆康・北村明彦
	高知サンスポーツ	山本　能也	松井智治・山本能也
	高知三菱	溝渕　義信	岡林　豊

県名	事業所名	監督名	選手名
大分	三菱重工・長崎	田中　貞夫	向井美弥夫・森日純一・前田　進・馬場重文・辻　優・中野和雄・田中貞夫
	三菱電機・長崎	小林　正昭	川久保暢宏・長松保男・小林正昭・梅本俊規・松山　清・江口　博・川上敏夫
	日田市役所	春武　俊一	春武俊一・宮原秀三
岡山	三井造船・玉野	虻江　優	松井　一・藤原　航・田丸勝己・芳上一男・山本　清・毛利利夫・三村　渉・藤田裕司 佐藤省三
	川崎製鉄・水島	戸部　俊一	永井　孝・景山　誠・藤原道弘・平田重男・金崎敏男・中山睦雄・北村治雄・戸部俊一
	三菱化成・水島	東　昌二	大野　昇・小池道治・安田憲弘・前田　勇・白神達之・東　昌二
	三菱石油・水島	田中　良治	永山和男・田中良治・渡辺敦夫・北井勝義・川上耕司・高塚道男・若林秀夫
	クラレ・岡山	吉原　俊治	吉原俊治・坂井俊英・広保　悟・小河原　治・板谷好訓・奥浦屋兼治・溝口昭信
	旭化成・水島	船越　哲夫	船越哲夫・岡本正孝・阿川信幸・黒木義徳・新野　昇・中本文治・中井勝彦
	清音村役場	藤井　久美	藤井久美

（女子の部）

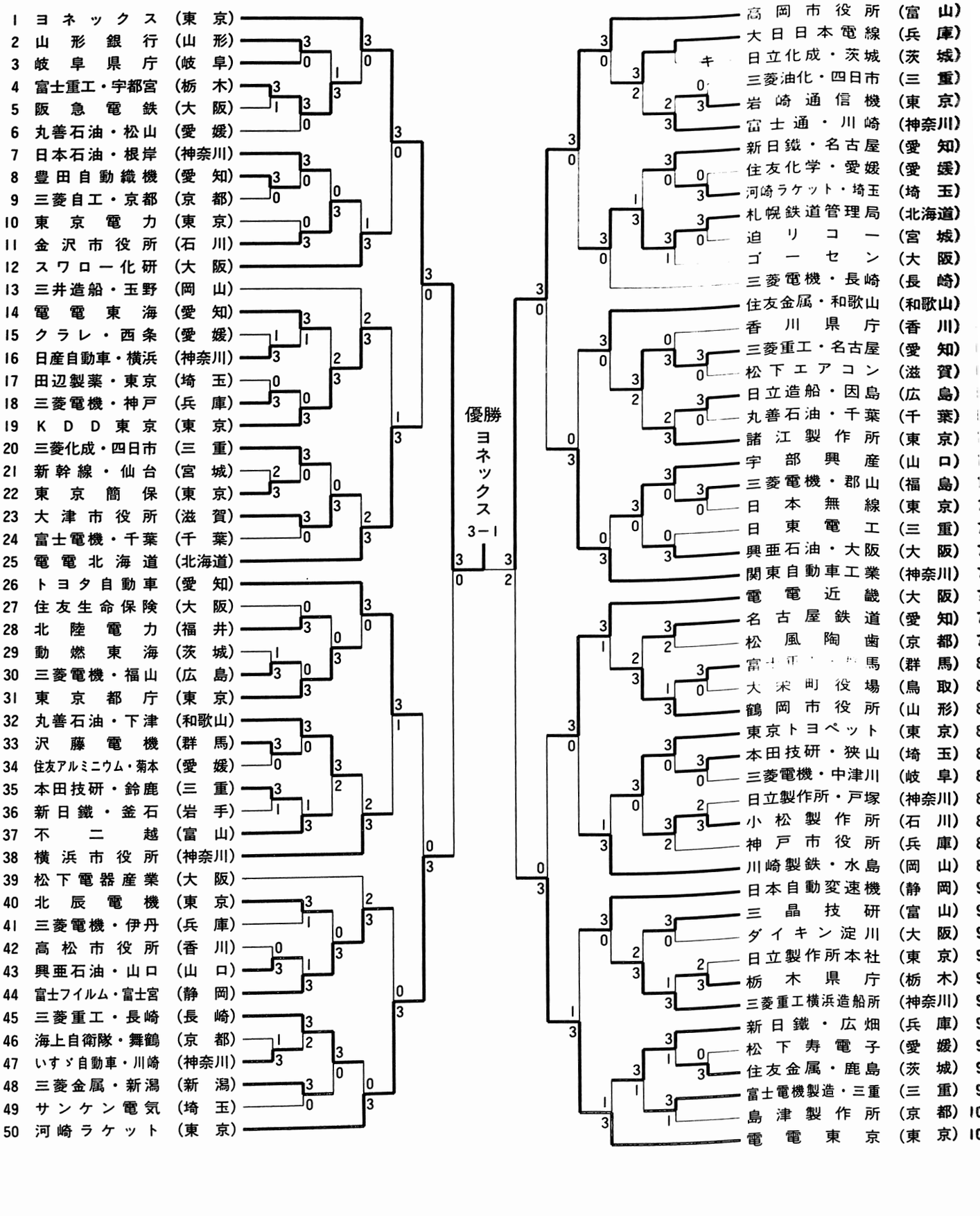
県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	地崎工業	岡本　伝	田垣恵美子・桟　利志子・山岸ひとみ・佐藤恵子
茨城	住友金属・鹿島	伴　順造	小橋よし江・風間とく・遠藤幸江・石橋久子・川角貴子・千葉典子・松本葉子・船木精子
	日立化成	中東　三嘉	田口照代・吉田雅子・大和田妙子・坂入紀代美
栃木	旭光学・益子	小塙　宏人	日向野藤枝・日山裕子・上野加代子・海賀里美・古口茂子・鈴木真弓・種村やす子
	日産・栃木	田崎　茂男	仁平美江・桜井春美・岩崎のり子・坪野谷玲子・高田圭子・塩野谷信子
群馬	富士重工・群馬	江田　道雄	赤石百合子・真下文江・高瀬富士子・石井紀子・津久井美枝
千葉	丸善石油・千葉	幸野　邦昭	児玉康子・横峯初江
	千葉県庁	真下　孝之	池田記子・対馬美智子
	君津信用組合	山口　進	鹿島まみ子・関根妙子
東京	河崎ラケット	堺　栄一	湯木博恵・千葉陽子・近藤小織・渡辺多喜子・沢内真由美・若海輝代
	ヨネックス	栂野尾悦子	栂野尾悦子・飯野裕子・土田美加・関根和子・大塚ソノエ・及川悦子・増田啓子・佐藤奈美 山崎早苗
	ＫＤＤ東京	松浪鋭四郎	稲垣和美・川鍋早智子・橋本直子・福本節子・高田玲子・佐藤美幸
	電電東京	池田　信孝	米倉よし子・坂林純子・三田知佳子・桜井千鶴子
	東京トヨペット	入間　秀哲	佐々木千鶴子・中村伴子・中村宏子・峯岸幸子・栗山優子・保谷佳子
	明治生命	川上　善康	根本雅江・斉藤紀子・面来加津子・杉山雅子・石田真由美
	学習研究社	小島南海雄	森山絹子・斉田由美・黒川恵美子・岩沢千賀子・喜多川昌子・石丸恵美子
	東京都庁	島田　稔	山崎清子・大河原清江・大谷昭子・中村真佐子
神奈川	関東自工	笠井　教行	遠藤美智子・砂川則子・潮崎満子・早川真澄・伊藤智恵子・田中和子
	日立・戸塚	甘粕　完治	佐藤正江・板尾みつ子・松田洋子・池田綾子・斉藤浩子・赤尾杉恵・草野美恵子
	新日鐵・製品研	山田　正弘	寺本裕子・並河国子・古郡礼子・弥島生子
新潟	新潟エヌティエヌ	本田　務	市村　静・阿部洋子・斉藤桂子
長野	富士通・長野	小林　敏一	山岸秀代・山崎美代子・小山洋子・畔上みゆき
	諏訪精工舎	里見　良三	小泉ひとみ・仲本和子・名取秀美・戸谷光子
静岡	本州製紙・富士	町田　守正	鈴木弘美・渡辺光代・中田　操・磯部千代子・笠井恵子・橋本秀子・戸塚真理子
	富士フィルム	滝　正孝	小幡陽子・渡辺貴美子
愛知	トヨタ自動車	川合　信之	根木栄子・二川清美・宮本深雪・加藤千恵子・青木はつ代・安田外美・柳田智佳子
	日本電装	藤江　至	水谷昌代・松原香純・加塩淳子・小田あさ子・片山りつ子・遠藤美枝子
	豊田自動織機	渡辺　康夫	佐藤明美・小川みゆき・山田浩子・黒岩和美
	豊田通商	豊原　洋治	水谷加津美・木野美智代・本田亜都子・鈴木豊子・中村孝子
	新日鐵・名古屋	二瓶　清	小野孝江・安藤範里子・浅田道子・赤木鶴代・前田初江・吉田加奈子・竹内佐知子

県　名	事　業　所　名	監　督　名	選　　手　　名
三　重	本田技研・鈴鹿	井上　欽也	平子早苗・森　小百合・管瀬裕子・辻村輝美
	富士電機・三重	後藤　　久	服部和代・田中恵子・黒宮智子・板倉典子・森　久美代・岩谷祥子
	松下電工・伊勢	上田　晴美	奥野佳代・中山幸子・小林あや子・福田恵子
滋　賀	滋賀銀行	井上　三男	澤田とよ子・井上敦子・阪口典子・杈並美佐子・若村弥生
	松下電工・彦根	増田　信治	岩根善美・山室美恵子・藤井峰代・田中澄子・北川裕子・中村恵子
大　阪	サントリー	山本　次生	秋本幸子・谷　美津代・徳田敦子・高田幹子・東海林文子・葛西明子・原口恵子・横山ナルミ 野中弘美
	電電近畿	片山　修治	吉田千恵美・久保田嘉代・藤井喜志子・古城　恵・山田節子
	三洋電機・住道	月原　　朗	川崎知子・久米恵美
兵　庫	三菱電機・伊丹	浅岡　正久	久保田睦美・栗山美智栄・楠田光子・平井貴子
	住友金属鋼管	井内　利治	広瀬純子・樋口寿美子・仲本恵子・林　洋子・町田富美
和歌山	住友金属・和歌山	宇治　　収	桃原京子・中岡広子・崎野春子・松本　恵・竹田豊子
	丸善石油・下津	林　　保雄	桑漆日登美
山　口	東洋曹達	渡辺　　忠	嶋田文江・高橋和子・竹広和美・広兼尚美・板倉鈴子
香　川	高松琴平電鉄	東条　文子	平井佐代子・山田高子・磯崎早余子・小野尊世・山下朋子・東条文子
	百十四銀行	杉本　　裕	渋谷茂子・前川加代子・牛田真由美・北池ひとみ・四宮美苗・平田伊佐子
高　知	四国銀行	亀井　義雄	松井美枝・田中由美
	高知サンスポーツ	山本　能也	山本久美
岡　山	川崎製鉄・水島	戸部　俊一	難波明美・木村典子・平田雅子・佐藤直美・三宅洋子・小林敏子・難波洋子
	三菱化成・水島	東　　昌二	佐藤妙子・丸山文恵・若林幸恵・岡本純子・川崎京子
	アサヒプレット		石田雅子
	岡山市役所		小寺裕美・森下真紀
	カネボウ		岡部五月
	岡山商工会議所		貝原規子

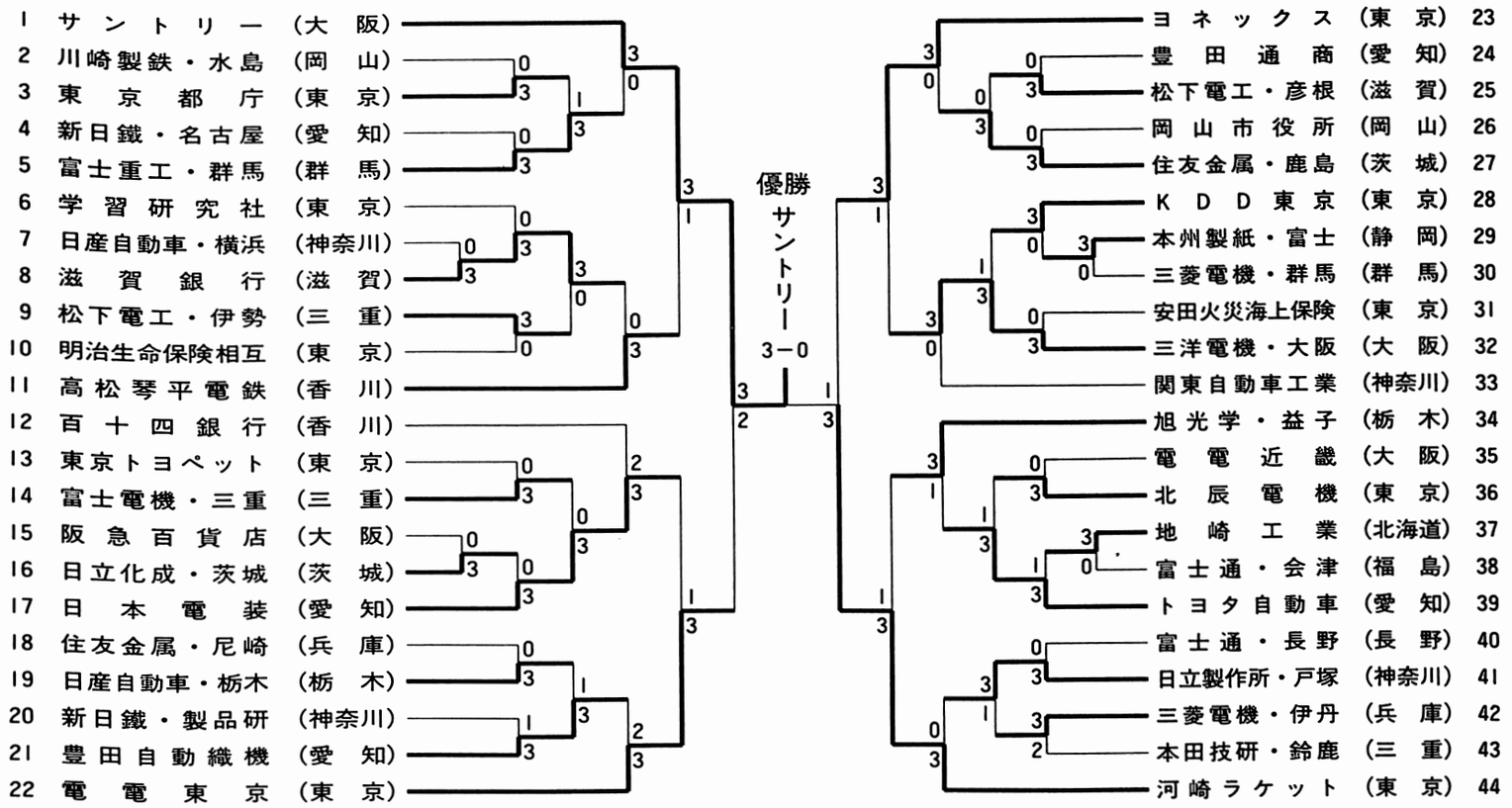
第30回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1980年(昭和55年)6月13～18日
開 催 地：愛媛県新居浜市
会　　場：新居浜市民体育館、
住友重機械工業(株)新居浜体育館
住友化学工業(株)新居浜体育館

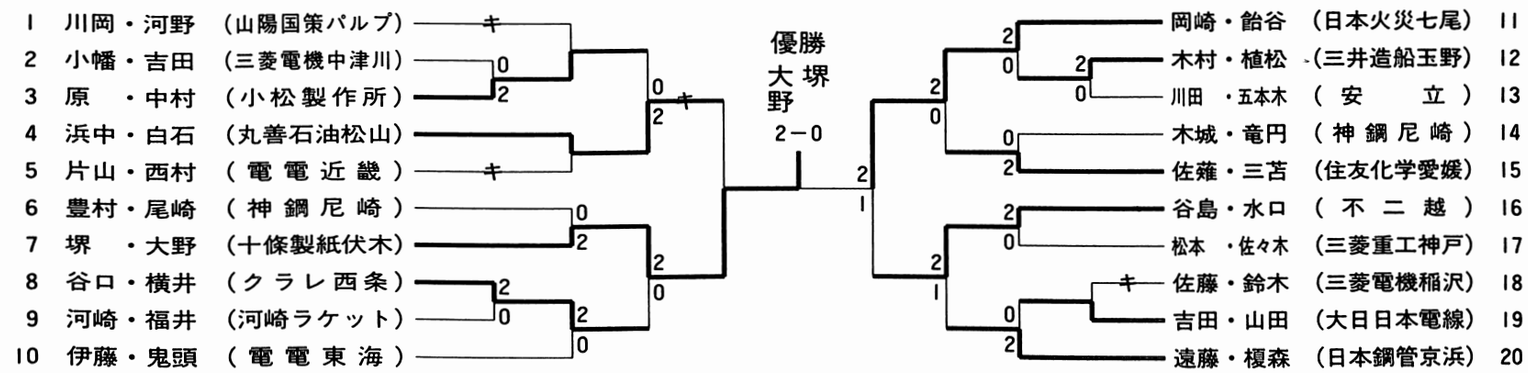
■男子団体の部



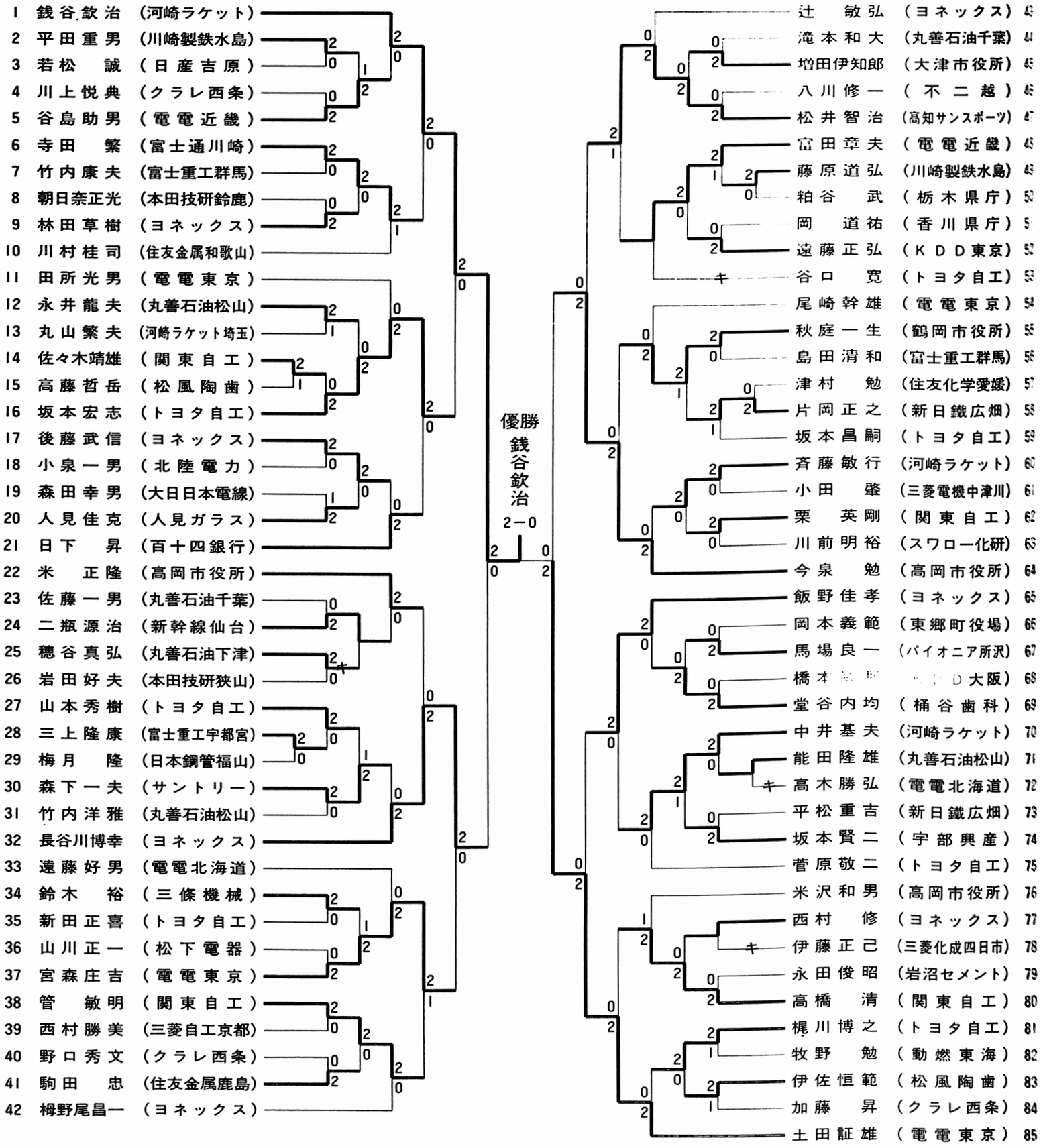
■女子団体の部



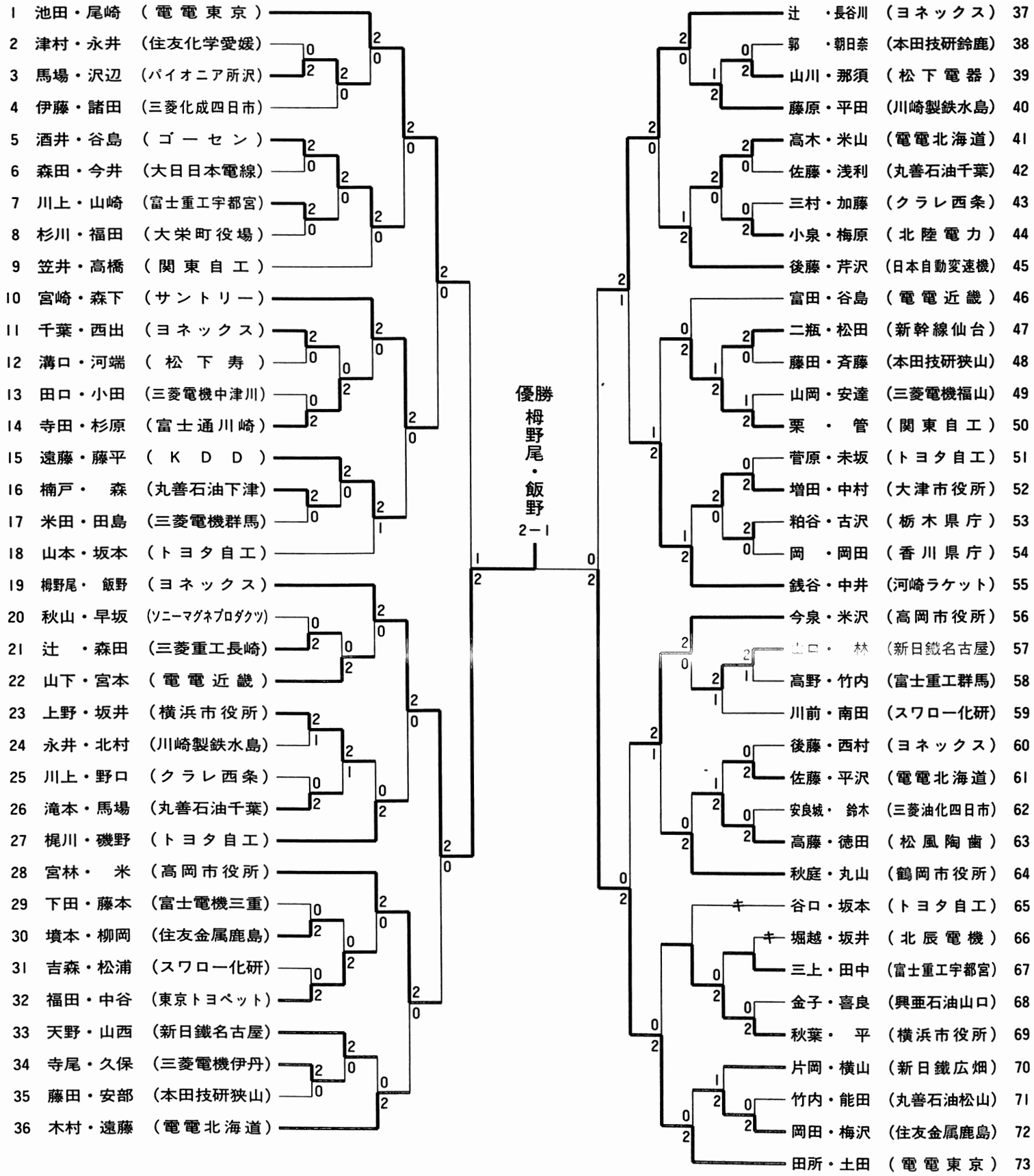
■40歳以上男子複の部



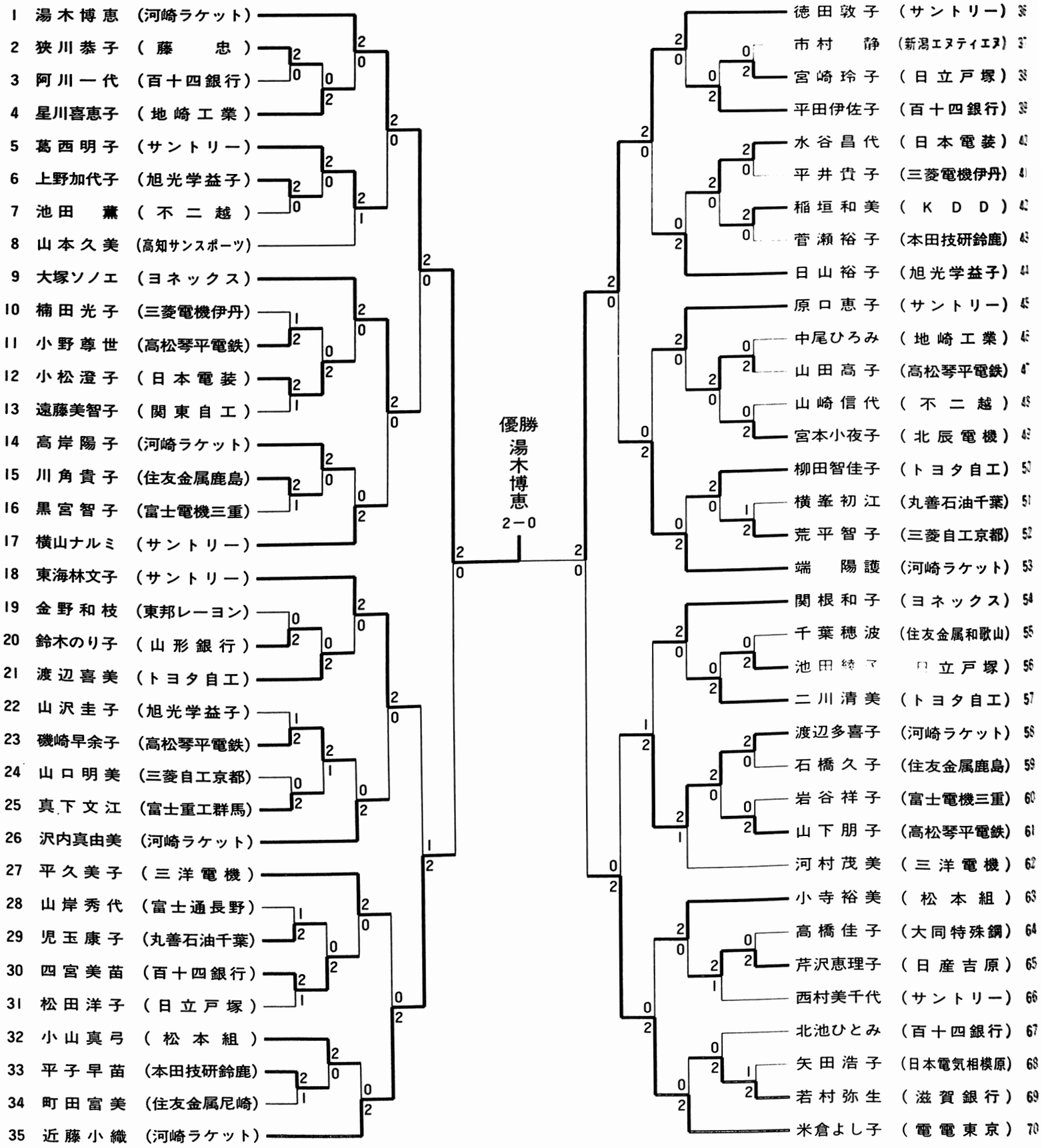
■男子単の部


1 銭谷欽治 (河崎ラケット)
2 平田重男 (川崎製鉄水島)
3 若松 誠 (日産吉原)
4 川上悦典 (クラレ西条)
5 谷島助男 (電電近畿)
6 寺田 繁 (富士通川崎)
7 竹内康夫 (富士重工群馬)
8 朝日奈正光 (本田技研鈴鹿)
9 林田草樹 (ヨネックス)
10 川村桂司 (住友金属和歌山)
11 田所光男 (電電東京)
12 永井龍夫 (丸善石油松山)
13 丸山繁夫 (河崎ラケット埼玉)
14 佐々木靖雄 (関東自工)
15 高藤哲岳 (松風陶歯)
16 坂本宏志 (トヨタ自工)
17 後藤武信 (ヨネックス)
18 小泉一男 (北陸電力)
19 森田幸男 (大日日本電線)
20 人見佳克 (人見ガラス)
21 日下 昇 (百十四銀行)
22 米 正隆 (高岡市役所)
23 佐藤一男 (丸善石油千葉)
24 二瓶源治 (新幹線仙台)
25 穂谷真弘 (丸善石油下津)
26 岩田好夫 (本田技研狭山)
27 山本秀樹 (トヨタ自工)
28 三上隆康 (富士重工宇都宮)
29 梅月 隆 (日本鋼管福山)
30 森下一夫 (サントリー)
31 竹内洋雅 (丸善石油松山)
32 長谷川博幸 (ヨネックス)
33 遠藤好男 (電電北海道)
34 鈴木 裕 (三條機械)
35 新田正喜 (トヨタ自工)
36 山川正一 (松下電器)
37 宮森庄吉 (電電東京)
38 管 敏明 (関東自工)
39 西村勝美 (三菱自工京都)
40 野口秀文 (クラレ西条)
41 駒田 忠 (住友金属鹿島)
42 栂野尾昌一 (ヨネックス)
優勝
銭谷欽治
2－0
辻 敏弘 (ヨネックス) 43
滝本和大 (丸善石油千葉) 44
増田伊知郎 (大津市役所) 45
八川修一 (不二越) 46
松井智治 (高知サンスポーツ) 47
富田章夫 (電電近畿) 48
藤原道弘 (川崎製鉄水島) 49
粕谷 武 (栃木県庁) 50
岡 道祐 (香川県庁) 51
遠藤正弘 (KDD東京) 52
谷口 寛 (トヨタ自工) 53
尾崎幹雄 (電電東京) 54
秋庭一生 (鶴岡市役所) 55
島田清和 (富士重工群馬) 56
津村 勉 (住友化学愛媛) 57
片岡正之 (新日鐵広畑) 58
坂本昌嗣 (トヨタ自工) 59
斉藤敏行 (河崎ラケット) 60
小田 肇 (三菱電機中津川) 61
栗 英剛 (関東自工) 62
川前明裕 (スワロー化研) 63
今泉 勉 (高岡市役所) 64
飯野佳孝 (ヨネックス) 65
岡本義範 (東郷町役場) 66
馬場良一 (パイオニア所沢) 67
橋[illegible] (KDD大阪) 68
堂谷内均 (桶谷歯科) 69
中井基夫 (河崎ラケット) 70
能田隆雄 (丸善石油松山) 71
高木勝弘 (電電北海道) 72
平松重吉 (新日鐵広畑) 73
坂本賢二 (宇部興産) 74
菅原敬二 (トヨタ自工) 75
米沢和男 (高岡市役所) 76
西村 修 (ヨネックス) 77
伊藤正己 (三菱化成四日市) 78
永田俊昭 (岩沼セメント) 79
高橋 清 (関東自工) 80
梶川博之 (トヨタ自工) 81
牧野 勉 (動燃東海) 82
伊佐恒範 (松風陶歯) 83
加藤 昇 (クラレ西条) 84
土田証雄 (電電東京) 85

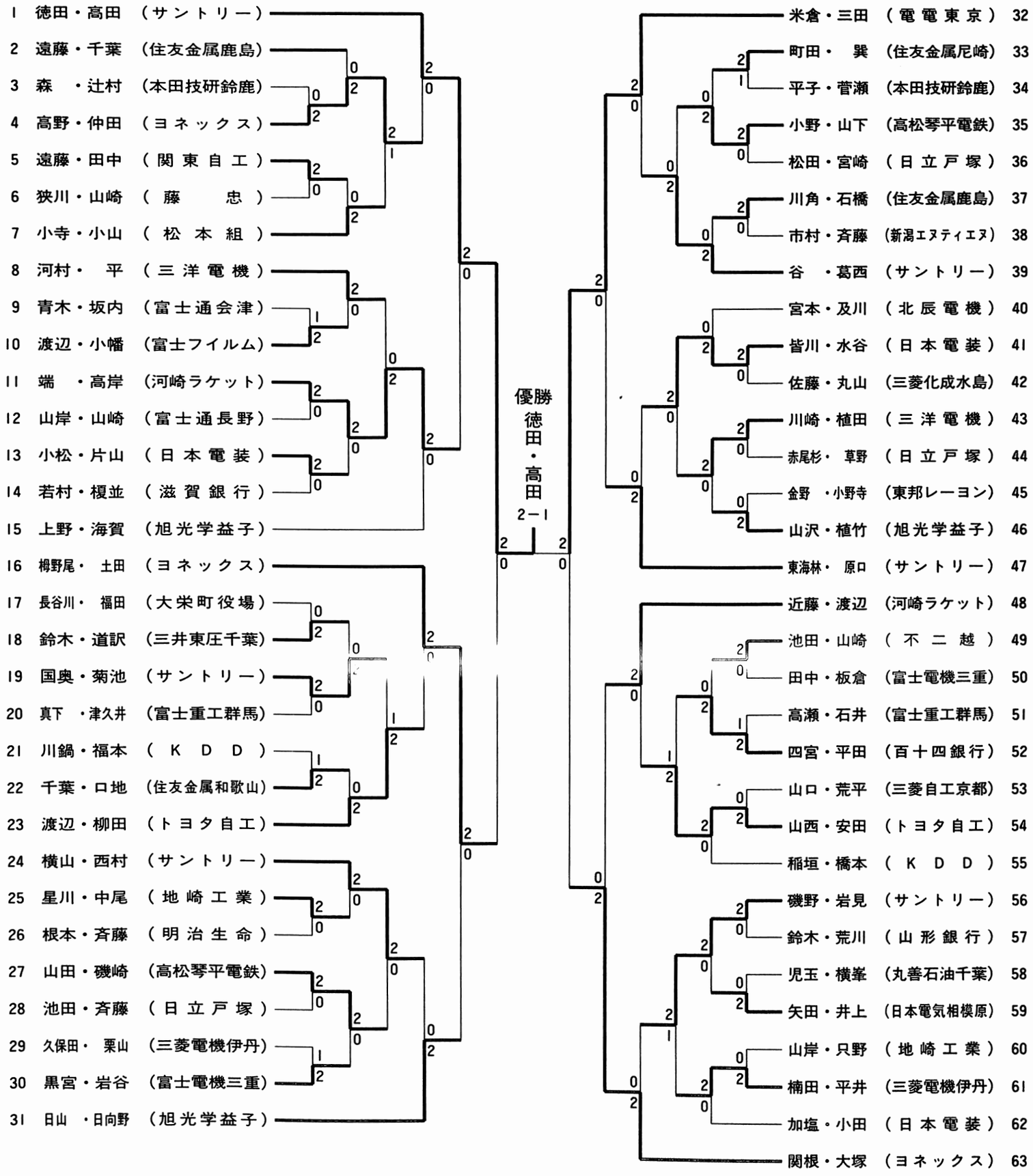
■男子複の部


1 池田・尾崎 （電電東京）
2 津村・永井 （住友化学愛媛）
3 馬場・沢辺 （パイオニア所沢）
4 伊藤・諸田 （三菱化成四日市）
5 酒井・谷島 （ゴーセン）
6 森田・今井 （大日日本電線）
7 川上・山崎 （富士重工宇都宮）
8 杉川・福田 （大栄町役場）
9 笠井・高橋 （関東自工）
10 宮崎・森下 （サントリー）
11 千葉・西出 （ヨネックス）
12 溝口・河端 （松下寿）
13 田口・小田 （三菱電機中津川）
14 寺田・杉原 （富士通川崎）
15 遠藤・藤平 （KDD）
16 楠戸・ 森 （丸善石油下津）
17 米田・田島 （三菱電機群馬）
18 山本・坂本 （トヨタ自工）
19 栂野尾・飯野 （ヨネックス）
20 秋山・早坂 （ソニーマグネプロダクツ）
21 辻 ・森田 （三菱重工長崎）
22 山下・宮本 （電電近畿）
23 上野・坂井 （横浜市役所）
24 永井・北村 （川崎製鉄水島）
25 川上・野口 （クラレ西条）
26 滝本・馬場 （丸善石油千葉）
27 梶川・磯野 （トヨタ自工）
28 宮林・ 米 （高岡市役所）
29 下田・藤本 （富士電機三重）
30 墳本・柳岡 （住友金属鹿島）
31 吉森・松浦 （スワロー化研）
32 福田・中谷 （東京トヨペット）
33 天野・山西 （新日鐵名古屋）
34 寺尾・久保 （三菱電機伊丹）
35 藤田・安部 （本田技研狭山）
36 木村・遠藤 （電電北海道）
優勝
栂野尾・飯野
2－1
37 辻 ・長谷川 （ヨネックス）
38 郭 ・朝日奈 （本田技研鈴鹿）
39 山川・那須 （松下電器）
40 藤原・平田 （川崎製鉄水島）
41 高木・米山 （電電北海道）
42 佐藤・浅利 （丸善石油千葉）
43 三村・加藤 （クラレ西条）
44 小泉・梅原 （北陸電力）
45 後藤・芹沢 （日本自動変速機）
46 富田・谷島 （電電近畿）
47 二瓶・松田 （新幹線仙台）
48 藤田・斉藤 （本田技研狭山）
49 山岡・安達 （三菱電機福山）
50 栗 ・ 管 （関東自工）
51 菅原・末坂 （トヨタ自工）
52 増田・中村 （大津市役所）
53 粕谷・古沢 （栃木県庁）
54 岡 ・岡田 （香川県庁）
55 銭谷・中井 （河崎ラケット）
56 今泉・米沢 （高岡市役所）
57 山口・ 林 （新日鐵名古屋）
58 高野・竹内 （富士重工群馬）
59 川前・南田 （スワロー化研）
60 後藤・西村 （ヨネックス）
61 佐藤・平沢 （電電北海道）
62 安良城・ 鈴木 （三菱油化四日市）
63 高藤・徳田 （松風陶歯）
64 秋庭・丸山 （鶴岡市役所）
65 谷口・坂本 （トヨタ自工）
66 堀越・坂井 （北辰電機）
67 三上・田中 （富士重工宇都宮）
68 金子・喜良 （興亜石油山口）
69 秋葉・ 平 （横浜市役所）
70 片岡・横山 （新日鐵広畑）
71 竹内・能田 （丸善石油松山）
72 岡田・梅沢 （住友金属鹿島）
73 田所・土田 （電電東京）

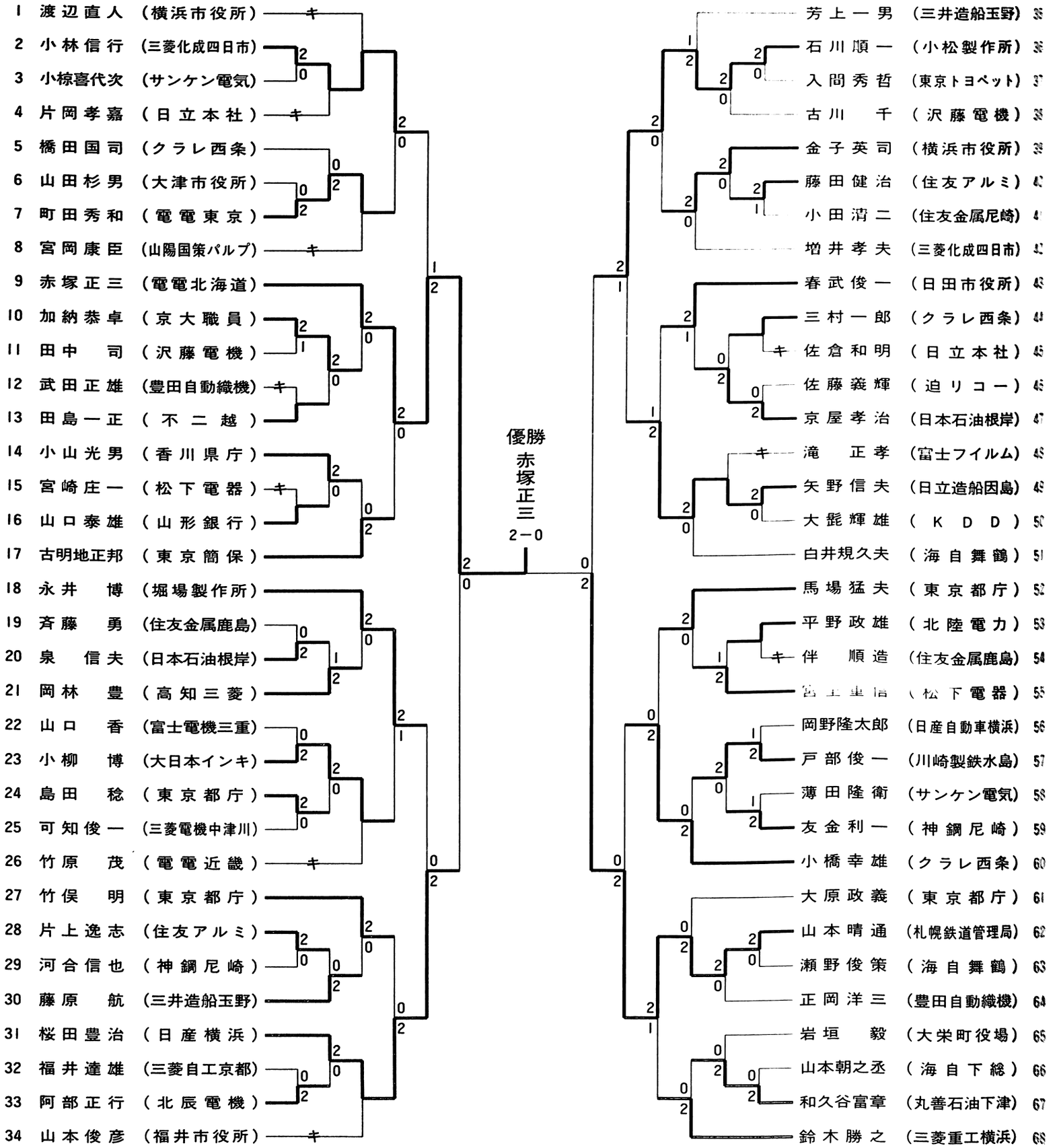
■女子単の部


1 湯木博恵 (河崎ラケット)
2 狭川恭子 (藤 忠)
3 阿川一代 (百十四銀行)
4 星川喜恵子 (地崎工業)
5 葛西明子 (サントリー)
6 上野加代子 (旭光学益子)
7 池田 薫 (不二越)
8 山本久美 (高知サンスポーツ)
9 大塚ソノエ (ヨネックス)
10 楠田光子 (三菱電機伊丹)
11 小野尊世 (高松琴平電鉄)
12 小松澄子 (日本電装)
13 遠藤美智子 (関東自工)
14 高岸陽子 (河崎ラケット)
15 川角貴子 (住友金属鹿島)
16 黒宮智子 (富士電機三重)
17 横山ナルミ (サントリー)
18 東海林文子 (サントリー)
19 金野和枝 (東邦レーヨン)
20 鈴木のり子 (山形銀行)
21 渡辺喜美 (トヨタ自工)
22 山沢圭子 (旭光学益子)
23 磯崎早余子 (高松琴平電鉄)
24 山口明美 (三菱自工京都)
25 真下文江 (富士重工群馬)
26 沢内真由美 (河崎ラケット)
27 平久美子 (三洋電機)
28 山岸秀代 (富士通長野)
29 児玉康子 (丸善石油千葉)
30 四宮美苗 (百十四銀行)
31 松田洋子 (日立戸塚)
32 小山真弓 (松本組)
33 平子早苗 (本田技研鈴鹿)
34 町田富美 (住友金属尼崎)
35 近藤小織 (河崎ラケット)
優勝
湯木博恵
2−0
徳田敦子 (サントリー) 36
市村 静 (新潟エヌティエヌ) 37
宮崎玲子 (日立戸塚) 38
平田伊佐子 (百十四銀行) 39
水谷昌代 (日本電装) 40
平井貴子 (三菱電機伊丹) 41
稲垣和美 (K D D) 42
菅瀬裕子 (本田技研鈴鹿) 43
日山裕子 (旭光学益子) 44
原口恵子 (サントリー) 45
中尾ひろみ (地崎工業) 46
山田高子 (高松琴平電鉄) 47
山崎信代 (不二越) 48
宮本小夜子 (北辰電機) 49
柳田智佳子 (トヨタ自工) 50
横峯初江 (丸善石油千葉) 51
荒平智子 (三菱自工京都) 52
端 陽護 (河崎ラケット) 53
関根和子 (ヨネックス) 54
千葉穂波 (住友金属和歌山) 55
池田綾子 日立戸塚) 56
二川清美 (トヨタ自工) 57
渡辺多喜子 (河崎ラケット) 58
石橋久子 (住友金属鹿島) 59
岩谷祥子 (富士電機三重) 60
山下朋子 (高松琴平電鉄) 61
河村茂美 (三洋電機) 62
小寺裕美 (松本組) 63
高橋佳子 (大同特殊鋼) 64
芹沢恵理子 (日産吉原) 65
西村美千代 (サントリー) 66
北池ひとみ (百十四銀行) 67
矢田浩子 (日本電気相模原) 68
若村弥生 (滋賀銀行) 69
米倉よし子 (電電東京) 70

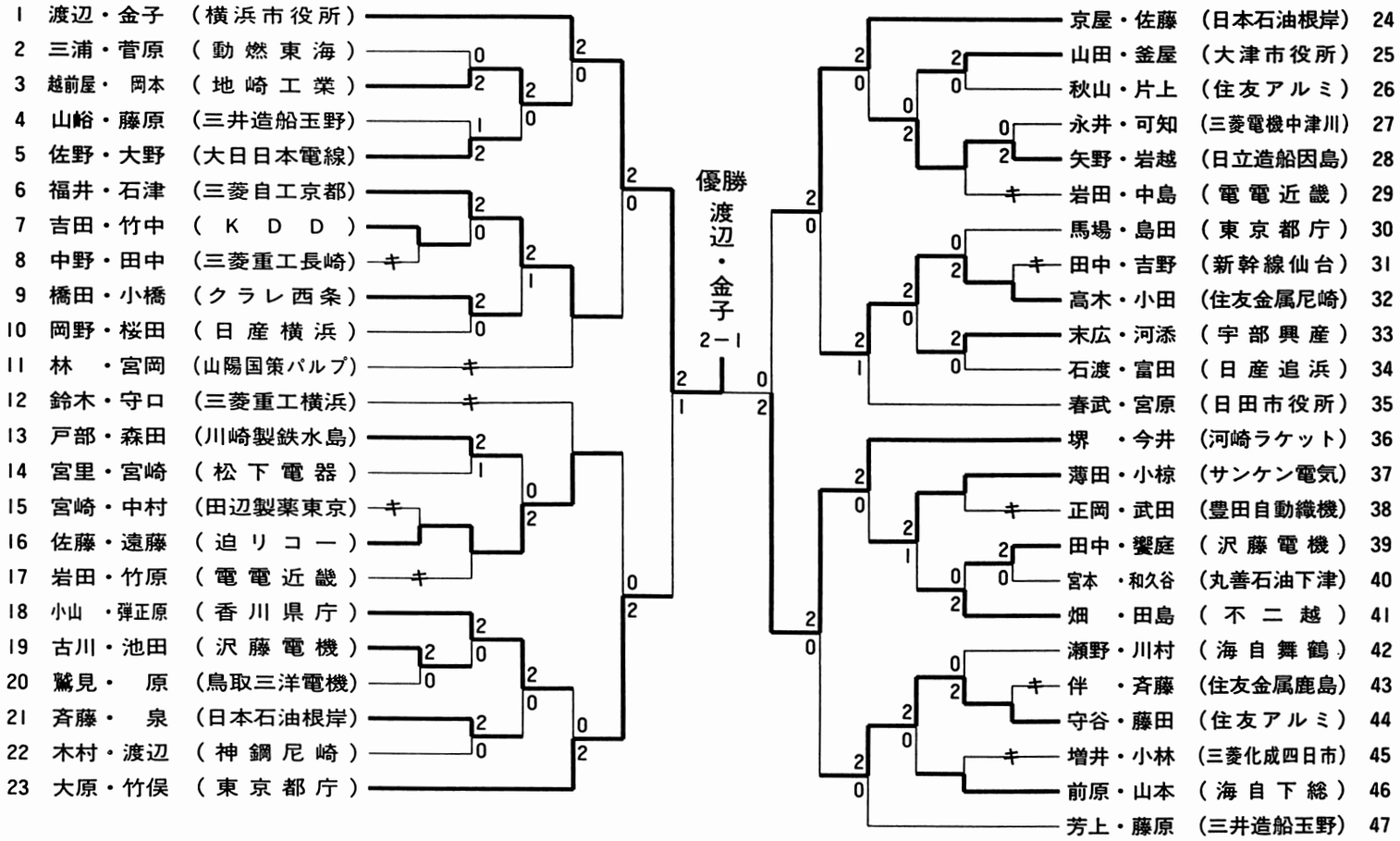
■女子複の部


1 徳田・高田 （サントリー）
2 遠藤・千葉 （住友金属鹿島）
3 森 ・辻村 （本田技研鈴鹿）
4 高野・仲田 （ヨネックス）
5 遠藤・田中 （関東自工）
6 狭川・山崎 （藤 忠）
7 小寺・小山 （松本組）
8 河村・ 平 （三洋電機）
9 青木・坂内 （富士通会津）
10 渡辺・小幡 （富士フイルム）
11 端 ・高岸 （河崎ラケット）
12 山岸・山崎 （富士通長野）
13 小松・片山 （日本電装）
14 若村・榎並 （滋賀銀行）
15 上野・海賀 （旭光学益子）
16 栂野尾・ 土田 （ヨネックス）
17 長谷川・ 福田 （大栄町役場）
18 鈴木・道訳 （三井東圧千葉）
19 国奥・菊池 （サントリー）
20 真下 ・津久井 （富士重工群馬）
21 川鍋・福本 （KDD）
22 千葉・口地 （住友金属和歌山）
23 渡辺・柳田 （トヨタ自工）
24 横山・西村 （サントリー）
25 星川・中尾 （地崎工業）
26 根本・斉藤 （明治生命）
27 山田・磯崎 （高松琴平電鉄）
28 池田・斉藤 （日立戸塚）
29 久保田・ 栗山 （三菱電機伊丹）
30 黒宮・岩谷 （富士電機三重）
31 日山 ・日向野 （旭光学益子）
優勝
徳田・高田
2－1
32 米倉・三田 （電電東京）
33 町田・ 巽 （住友金属尼崎）
34 平子・菅瀬 （本田技研鈴鹿）
35 小野・山下 （高松琴平電鉄）
36 松田・宮崎 （日立戸塚）
37 川角・石橋 （住友金属鹿島）
38 市村・斉藤 （新潟エヌティエヌ）
39 谷 ・葛西 （サントリー）
40 宮本・及川 （北辰電機）
41 皆川・水谷 （日本電装）
42 佐藤・丸山 （三菱化成水島）
43 川崎・植田 （三洋電機）
44 赤尾杉・ 草野 （日立戸塚）
45 金野 ・小野寺 （東邦レーヨン）
46 山沢・植竹 （旭光学益子）
47 東海林・ 原口 （サントリー）
48 近藤・渡辺 （河崎ラケット）
49 池田・山崎 （不二越）
50 田中・板倉 （富士電機三重）
51 高瀬・石井 （富士重工群馬）
52 四宮・平田 （百十四銀行）
53 山口・荒平 （三菱自工京都）
54 山西・安田 （トヨタ自工）
55 稲垣・橋本 （KDD）
56 磯野・岩見 （サントリー）
57 鈴木・荒川 （山形銀行）
58 児玉・横峯 （丸善石油千葉）
59 矢田・井上 （日本電気相模原）
60 山岸・只野 （地崎工業）
61 楠田・平井 （三菱電機伊丹）
62 加塩・小田 （日本電装）
63 関根・大塚 （ヨネックス）

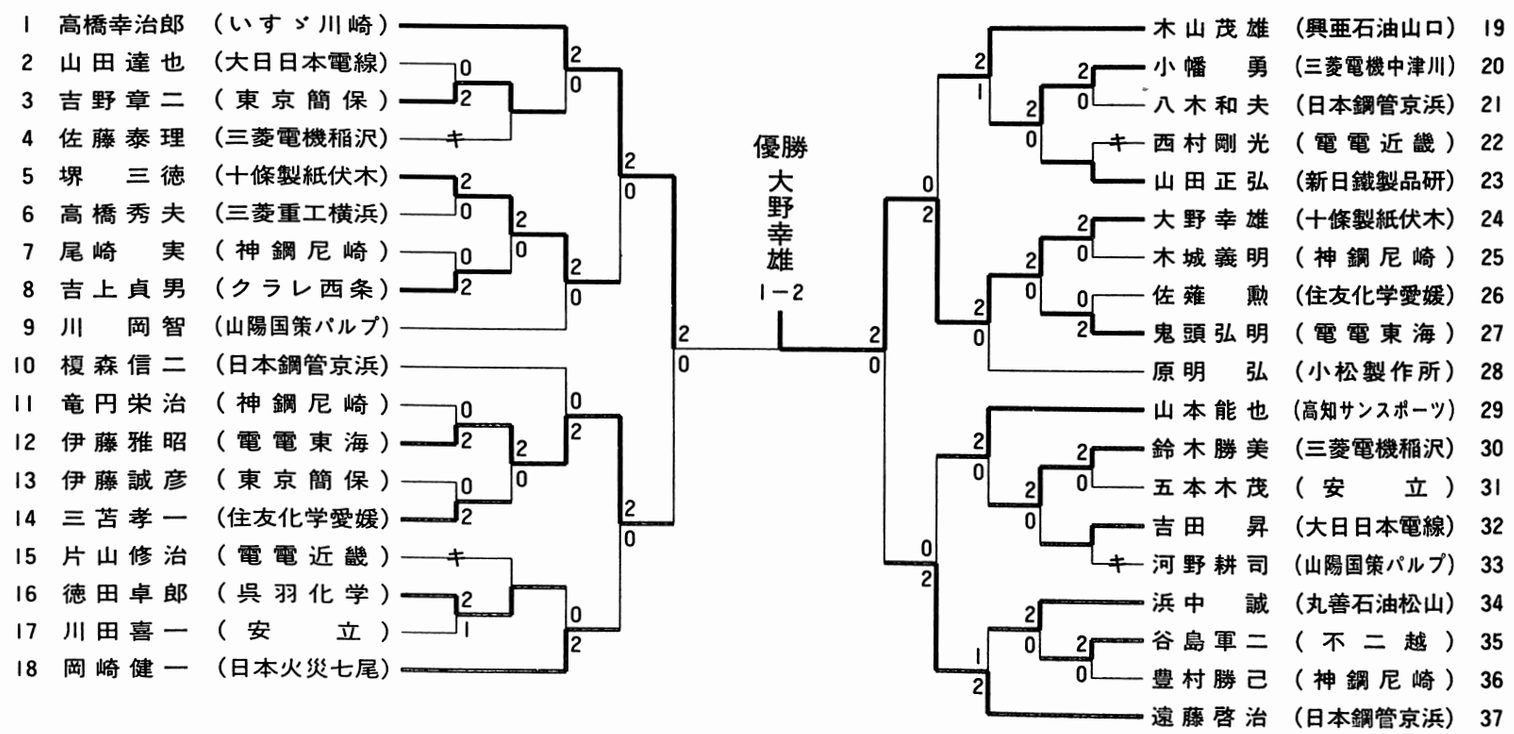
■30歳以上男子単の部


1 渡辺直人 (横浜市役所)
2 小林信行 (三菱化成四日市)
3 小椋喜代次 (サンケン電気)
4 片岡孝嘉 (日立本社)
5 橋田国司 (クラレ西条)
6 山田杉男 (大津市役所)
7 町田秀和 (電電東京)
8 宮岡康臣 (山陽国策パルプ)
9 赤塚正三 (電電北海道)
10 加納恭卓 (京大職員)
11 田中 司 (沢藤電機)
12 武田正雄 (豊田自動織機)
13 田島一正 (不二越)
14 小山光男 (香川県庁)
15 宮崎庄一 (松下電器)
16 山口泰雄 (山形銀行)
17 古明地正邦 (東京簡保)
18 永井 博 (堀場製作所)
19 斉藤 勇 (住友金属鹿島)
20 泉 信夫 (日本石油根岸)
21 岡林 豊 (高知三菱)
22 山口 香 (富士電機三重)
23 小柳 博 (大日本インキ)
24 島田 稔 (東京都庁)
25 可知俊一 (三菱電機中津川)
26 竹原 茂 (電電近畿)
27 竹俣 明 (東京都庁)
28 片上逸志 (住友アルミ)
29 河合信也 (神鋼尼崎)
30 藤原 航 (三井造船玉野)
31 桜田豊治 (日産横浜)
32 福井達雄 (三菱自工京都)
33 阿部正行 (北辰電機)
34 山本俊彦 (福井市役所)
優勝
赤塚正三
2−0
芳上一男 (三井造船玉野)
石川順一 (小松製作所)
入間秀哲 (東京トヨペット)
古川 千 (沢藤電機)
金子英司 (横浜市役所)
藤田健治 (住友アルミ)
小田清二 (住友金属尼崎)
増井孝夫 (三菱化成四日市)
春武俊一 (日田市役所)
三村一郎 (クラレ西条)
佐倉和明 (日立本社)
佐藤義輝 (迫リコー)
京屋孝治 (日本石油根岸)
滝 正孝 (富士フイルム)
矢野信夫 (日立造船因島)
大髭輝雄 (KDD)
白井規久夫 (海自舞鶴)
馬場猛夫 (東京都庁)
平野政雄 (北陸電力)
伴 順造 (住友金属鹿島)
[illegible] (松下電器)
岡野隆太郎 (日産自動車横浜)
戸部俊一 (川崎製鉄水島)
薄田隆衛 (サンケン電気)
友金利一 (神鋼尼崎)
小橋幸雄 (クラレ西条)
大原政義 (東京都庁)
山本晴通 (札幌鉄道管理局)
瀬野俊策 (海自舞鶴)
正岡洋三 (豊田自動織機)
岩垣 毅 (大栄町役場)
山本朝之丞 (海自下総)
和久谷富章 (丸善石油下津)
鈴木勝之 (三菱重工横浜)

■30歳以上男子複の部



■40歳以上男子単の部



■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	電電北海道	平山　三城	遠藤好男・高木勝弘・佐藤義孝・平沢　徹・米山孝一・篠尾孝幸・木村敏男・赤塚正三
	札幌鉄道管理局	乙武　重丸	山本晴通・平　秋義・柴田賢治・広川幸児・高崎厚生・高橋　進・野沢　明
	地崎工業	越前屋直行	越前屋直行・岡本　伝
岩手	新日鐵・釜石	本多　三郎	高橋道夫・阿部哲夫・菅原又男・橋本三司・浅沼安正・伊藤道雄
山形	鶴岡市役所	小林　保夫	真田昭良・上原正明・小林保夫・丸山勝美・秋庭一生
	山形銀行	山口　泰雄	山口泰雄・荒井謙治・伊藤孝夫・三浦政治・斉藤隆吉
宮城	新幹線・仙台	福永　雅俊	田辺　豊・松田芳範・田中昭夫・吉野伸一・大沼久喜・土瓶源治・須藤義昭
	迫リコー	佐藤　義輝	遠藤光博・佐々木弘幸・佐藤義輝・後藤忠正・鈴木靖男
	ソニーマグネプロダクツ	秋山　功	秋山　功・早坂正広
	岩沼セメント工業	千葉　信次	永田俊昭
福島	三菱電機・郡山	大河原貞敏	大河原貞敏・松崎和朗・星野　勉・石井勝彦
	呉羽化学		徳田卓郎
茨城	住友金属・鹿島	伴　順造	岡田常雄・駒田　忠・墳本敏幸・鶴見富美雄・梅沢和則・塩谷忠秋・柳岡成児・伴　順造 斉藤　勇
	動燃・東海村	菅原　雪夫	真鍋建史・渡辺健治・牧野　勉・上原典文・中里昌治・沢原重男・三浦　満・菅原雪夫
	日立化成・茨城	中束　三嘉	水野　裕・田沢和幸・松田勝俊・上石田常治・渡辺好則・中島敦夫・横地　潔
栃木	富士重工・宇都宮	永山　隆	三上隆康・川上岩雄・霜山　哲・田中　勇・山崎一雄・飯村正実
	栃木県庁	粕谷　武	湯川雄一・古沢元浩・森本金一・安藤武雄・粕谷　武・池田　実・和久光男
	人見ガラス		人見佳克
群馬	富士重工・群馬	渡辺　晃一	高野貞男・大木利行・中居功治・島田清和・竹内康夫・松本悟史・佐々木旭
	沢藤電機	渡辺　淳	志村勝己・古川　千・田中　司・池田幸雄・鍔庭孝夫
	三菱電機・群馬	米田　守	米田　守・田島文雄
千葉	丸善石油・千葉	本間　実	浅利章悦・馬場秀明・滝本和大・野村康一・岩本圭吾・鮫島洋一・佐藤一男
	富士電気・千葉	石橋　康幸	近藤益夫・南　千勇・藤沢温夫・山田　充・中尾伴清・渡辺　亨
	海上自衛隊・下総	山本朝之丞	山本朝之丞・前原　豊
	大日本インキ		小柳　博
埼玉	本田技研・狭山	藤田　茂樹	清水宏之・藤田茂樹・阿部　力・岩田好夫・藤田信夫・斉藤一夫・久保　正
	サンケン電気	今井　清兼	薄田隆衛・田中忠義・小椋喜代次・宮本一義・坂元　勝・和田　節・小林洋一
	河崎ラケット・埼玉	松浦　一郎	岡田　清・丸山繁夫・平野耕一・近藤英宏・松浦一郎
	田辺製薬・東京	宮崎　道彦	宮崎道彦・中村　透・鈴木辰夫・森　哲治・本橋　隆・大塚久男
	パイオニア・所沢	近藤　均	馬場良一・沢辺孝夫
東京	諸江製作所	須田　孝夫	市村栄文・篠崎誠治・須田孝夫・三浦　誠・三上達也
	東京電力	上岡　泉	石原泰造・岩間　源・矢部　明・佐野裕俊・厚川　勇・橋本　栄・田中　徹
	北辰電機	千葉　正皓	中島康信・堀越　進・阿部正行・佐藤正己・上原日出男・坂井　幹・黒崎二男
	東京トヨペット	入間　秀哲	福田利男・中谷明人・橘川光孝・沢田和俊・山野正義・菊地　修・入間秀哲
	ヨネックス	栂野尾昌一	栂野尾昌一・飯野佳孝・辻　敏弘・長谷川博幸・後藤武信・林田草樹・西村　修・千葉　智 西出龍守
	河崎ラケット	今井　茂満	今井茂満・斉藤敏行・銭谷欽治・中井基夫・角田重男・根岸　淳・西川慎一・坂井　栄一 河崎一幸・福井正康
	東京簡易保険局	吉野　章二	沼田七郎・古明地正邦・武田公正・石岡宏喜・狗飼　覚・中沢睦夫・吉野章二・伊藤誠彦
	日立製作所・本社	片岡　孝嘉	林　幸三・南　寿夫・佐倉和明・片岡孝嘉・谷垣正雄・西谷　悟
	KDD・東京	大髭　輝雄	大髭輝雄・遠藤正弘・吉田峰雄・竹中啓二・斉藤利昭・藤平　守・五十嵐　正
	岩崎通信機	沢田　和彦	沢田和彦・中瀬一義・下山　貢・家串友治・手塚雅志・手塚浩志
	東京都庁	島田　稔	大原正義・馬場猛夫・島田　稔・山崎　隆・中田洋二・後藤　勝・小林賢治・竹俣　明

県名	事業所名	監督名	選手名
東京	電電東京	池田 信孝	池田信孝・田所光男・尾崎幹雄・土田証雄・久保勇次・千野 晃・宮森庄吉・町田秀和
	日本無線	吉田 繁	村上武志・吉田 繁・後藤金作・佐藤 隆・平川勇一・千葉政一・益田伸一
神奈川	関東自動車工業	郡司 毅	栗 英嗣・菅 敏明・笠井教行・高橋 清・佐々木靖雄・加藤 豊・松本 真
	横浜市役所	高橋 正宏	秋庭 博・平 敏司・渡辺直人・金子英司・上野利三・坂井 孝・広沢昭一
	三菱重工・横浜造船所	高橋 秀夫	上野 強・山本 勝・鈴木勝之・守口 茂・上野 強・赤垣昭憲・高橋保則・高橋秀夫
	日本石油・根岸	京屋 孝治	泉 信夫・佐藤幸男・京屋孝治・斉藤 満・丸山則明・石渡輝己・野友昭夫
	富士通・川崎	鈴木 弘之	寺田 繁・篠崎俊久・青木和夫・杉原好一・渡辺 誠・鈴木弘之
	日産自動車・横浜	桜田 豊治	竹村芳郎・岡野隆太郎・桜田豊治・伊藤 選・照井良治・大谷清志
	日立製作所・戸塚	甘粕 完治	斧 政男・川瀬和利・秋山昌博・谷口勝則・甘粕完治
	いすゞ自動車・川崎	田中 正誼	佐々木孝治・手塚利男・高橋孝治郎・菊地 修・小泉武夫・坂田好司
	日産自動車・追浜	石渡 潤	石渡 潤・富田久雄
	NKK・京浜	八木 和夫	八木和夫・遠藤啓治・桜森信二
	新日鐵・製品技研		山田正弘
	安立		川田喜一・五本木 茂
新潟	三菱金属・新潟	有本 健	大泉利之・宮村一則・石垣道夫・樋口良則・宮村 久・山崎芳一・星 誠司
	三條機械		鈴木 裕
富山	高岡市役所	中山 邦夫	今泉 勉・関村順治・牧野光男・米沢和男・宮林照男・米 正隆・河村博之
	不二越	畑 栄進	八川修一・清水信之・小松美樹男・山崎 明・田島一正・畑 栄進・松下 豊・谷島軍二 水口良一
	三昌技研	飛弾 是博	松浦健二・毛利智成・野畑秀樹・飛弾是博・源通直樹
	十條製紙・伏木	堺 三徳	堺 三徳・大野幸雄
石川	金沢市役所	堀 知章	米田幸生・林 芳弘・山口 亮・山下敏行・大村正信・坂本 真・太田博之
	小松製作所・粟津	中村 均	石川順一・桝野泰弘・北 秀樹・宮腰幸一・関戸隆司・本 良一・原 明弘・中村 均
	ゴーセン	村谷 信夫	酒井直人・谷島英男
	桶谷歯科	桶谷 文夫	堂谷内均
	日本火災・七尾	飴谷 信夫	岡崎健一・飴谷信夫
福井	福井市役所		山本俊彦
	北陸電力	泉 辰男	平野政雄・角五三男・小泉一男・梅原初志・若林敏夫・野路健一
静岡	日本自動変速機	後藤 和之	芹沢英彦・土屋 仁・後藤和之・関野 強・村松三郎・鈴木朗典・鷲坂正記
	富士フイルム・富士宮	滝 正孝	西島知彦・井出裕雄・吉岡直彦・池田光宏・川原崎仁・諏訪部豊・滝 正孝
	日産自動車・吉原		若松 誠
愛知	トヨタ自動車	長谷川敏彦	山本秀樹・梶川博之・谷口 寛・磯野雄二・菅原敬二・坂本安志・坂本昌嗣・新田正喜・ 未坂 進
	新日鐵・名古屋	山本 卓男	山口元吉・天野良彦・佐々木秀一・林 甚代・小西友幸・町 充・菅井 孝
	名古屋鉄道	井沢 宏	加藤保利・山本良雄・村上敏行・加藤憲治
	豊田自動織機	武田 正雄	榊原輝次・正岡洋三・武田正雄・白取明人・一戸光明・高橋政勝・山田栄一
	三菱重工業・名古屋	船木 真司	岩田 崇・松田 仁・松波 譲・沢田正夫・青山忠雄・船木真司・旭実喜雄
	電電東海	渡辺 幸男	伊藤雅昭・中川紀嗣・伊藤正昭・長江新八・大江喜久雄・水谷悦郎・鬼頭弘明
	三菱電機・稲沢	鈴木 勝美	佐藤泰理・鈴木勝美
岐阜	三菱電機・中津川	永井 卓郎	永井卓郎・可知俊一・田口信之・小田 肇・大畑澄夫・小幡 勇・吉田栄一
	岐阜県庁	日比 正昭	田中伸治・加納義之・高橋伸治・高橋秀治・柳生一成・小島一也・林 正幸
三重	日東電工	門田 正彦	服部芳博・清原 進・西村 徹・小川隆志・豊田 浩・船木 孝・山本光則
	富士電機製造・三重	山口 香	山口 香・下田 勲・服部広美・後藤 久・藤本規夫・後藤俊彦・藤井俊郎

県名	事業所名	監督名	選手名
三重	三菱化成・四日市	増井　孝夫	増井孝夫・小林信行・伊藤正己・諸田秀二・田中秀俊・市来哲郎
	三菱油化・四日市	古川　幸一	安良城雄介・大倉　忠・一木弘之・服部英樹・北村　保・鈴木正平・泉　洋二
	本田技研・鈴鹿	郭　秀裕	郭　秀裕・松田大吉郎・浜口久克・井上鉄也・黒肥地一則・朝比奈正光
滋賀	大津市役所	久保　宏	釜屋明和・山田杉男・東川　衛・矢部忠司・増田伊知郎　中村　亨・藤堂　真
	松下エアコン	中藪　高志	古賀澄雄・山本　昇・吉田良和・斉藤光治・上田　潔・藤野　清
京都	松風陶歯	徳田　進	高藤哲岳・徳田　進・深谷幸雄・伊佐悦範
	海上自衛隊・舞鶴	田野　栄敏	田野栄敏・瀬野俊策・川村道厚・白井規久夫・白井幸夫・小山良光・沢田巧二
	島津製作所	若林　登	高寺賢吉・奥田俊次・上田　勉・東　洋一・若林　登・小野　洋
	三菱自工・京都	福井　達雄	西村勝美・谷沢和彦・福井達雄・石津正明・竹井宣夫・佐々木正司・堀井幸泰
	京都大学職員	川本　末夫	加納恭卓
	堀場製作所		永井　博
大阪	電電近畿	岩田　昇	宮本宏和・井上晴之・山下順次郎・谷島助男・平野新二・松重恵三・富田章夫・竹原　茂 片山修治・西村剛光・岩田　勇・岩田　昇・中島真一
	スワロー化研	林　辰男	川前明裕・吉森勝之・南田義正・松浦一浩・南　貴志・藤本英樹・佐野　弘
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	山川正一・宮崎庄一・那須哲太郎・中角好男・宮沢久男・樋口正幸・宮里重信
	ゴーセン	上田　了	横田利弘・本石幸一・津坂秀雄・高橋清治・星野清司・酒井　薫・角田　勝
	住友生命	丸井　広道	木原　茂・河本保夫・丸井広道・佐藤芳朗・小池田　満・柳本和夫・狩野卓也
	興亜石油・大阪	井関　博	吾郷裕志・藤野敏幸・日下英明・南　功・岩垣雅男・奥野　保・広田喜信
	阪急電鉄	渋谷　元己	市橋　茂・出田安隆・長沢秀信・下野治生・蔵本英二・内形慎太朗・渋谷元己
	ダイキン・淀川	石川　道雄	星野孝一・山越孝蔵・石川道雄・河下秀則・黒田能一・苅屋正幸
	サントリー	山本　次生	森下一夫・宮崎克己
	ＫＤＤ大阪	藤井　靖雄	橋本敏郎
兵庫	新日鐵・広畑	塗　嘉夫	平松重吉・塩飽　初・片岡正之・横山真二・堤田富夫・藤城武義・山田孝昭
	三菱電機・伊丹	矢賀　雅人	矢賀雅人・入口弥一郎・寺尾一秀・中岡嘉孝・久保真一・吉岡昭義
	大日日本電線	吉田　昇	森田幸男・佐野義則・大野恵一・山本健吾・足立　博・狩集　功・今井則明・吉田　昇 山田達也
	三菱電機・神戸	佐々木利彦	佐々木利彦・栗秋庄龍・糸田　敬・上藤朝之・田中一郎・[illegible]
	神戸市役所	高原　信幸	高原信幸・沢田信二・老田幸雄・安房田光男・岸本綾夫・横関　勇
	神戸製鋼・尼崎	田崎　哲夫	木城義明・竜円栄治・友金利一・河合信也・木村正利・渡辺博氏・豊村勝己・尾崎　実
	住友金属・尼崎		小田清二・高木昭憲
	三菱重工・神戸	瀬川　欽也	松本俊英・佐々木繁夫
和歌山	住友金属・和歌山	宇治　収	谷口洋二・小形善樹・川村佳司・野沢英雄・辻本　進・北山一成・小川　均
	丸善石油・下津	林　保雄	楠戸春則・穂谷真弘・和久谷富章・上野健一・森　隆・向井広行・中尾一之・宮本武司
鳥取	大栄町役場	福田　泰宏	杉川弘行・飯田光男・福田恭宏・岩垣　毅
	東郷町役場		岡本義範
	鳥取三洋電機	鷲見　育亮	鷲見育亮・原　信昭
岡山	川崎製鉄・水島	戸部　俊一	永井　孝・藤原道弘・平田重男・北村治雄・森田　衛・金崎敏男・景山　誠・戸部俊一
	三井造船・玉野	藤原　航	松井　一・三村　渉・藤原　航・田丸勝己・芳上一男・山本　清・毛利利夫・山峪充弘 藤原修二・木村　薫・植松高次
広島	三菱電機・福山	安達　恵吉	安達恵吉・山岡　満・木村浩之・山田進一郎・安達喜兼・坂森増二・金尾克司
	日立造船・因島	岩越　章	矢野信夫・山本昭生・岡野正志・中村忠一・野田山強・岩越　章
	日本鋼管・福山		梅月　隆
山口	宇部興産	松村　哲幸	末広秀樹・河添忠夫・坂本賢二・藤原　薫
	興亜石油・山口	田中　博美	加藤英臣・原　和秀・金子隆志・喜良明文・木山茂雄・田中博美・真紫秀実

県名	事業所名	監督名	選手名
山口	山陽国策パルプ・岩国	宮岡　康臣	宮岡康臣・林　厚志・川岡　智・河野耕司
大分	日田市役所	田中　大也	春武俊一・宮原秀三
長崎	三菱重工・長崎	田中　貞夫	向井美弥夫・森田純一・中野和雄・辻　優・田中貞夫・馬場重文・福田良治
	三菱電機・長崎	小林　正昭	川久保鴨宏・長松保男・小林正昭・山口正博・梅本俊規・松山　清・川上敏夫
香川	香川県庁	真鍋　剛	岡田忠己・岡　道祐・弾正原義春・真鍋　剛・岡下俊次・小山光男
	高松市役所	横岡　忠幸	栗田康市・中西　功・木村　茂・大久保　進・菅原恒幸・松木直樹
	百十四銀行	杉本　裕	日下　昇
高知	高知サンスポーツ	山本　能也	松井智治・山本能也
	高知三菱	溝渕　義信	岡林　豊
愛媛	丸善石油・松山	白石　卓夫	永井龍夫・竹内洋雅・浜中　誠・白石卓夫・能田隆雄・三村尚樹
	クラレ西条	横井　虎男	小橋幸雄・三村一郎・吉上貞男・橋田国司・加藤　昇・川上悦典・野口秀文・谷口金夫 横井虎男
	住友化学・愛媛	小林　正典	戸井田　誠・佐薙　勲・津村勉・姫野文徳・伊藤和夫・永井光昭・三苫孝一
	松下寿電機工業	小林　高明	溝口道孝・河端純一・野口明博・村上広徳・中村啓二・越智　久・森本孝明
	住友アルミニウム・菊本	森　恒男	片上逸志・千葉重信・秋山英明・守谷喜久雄・藤田健治・高塚俊司

（女子の部）

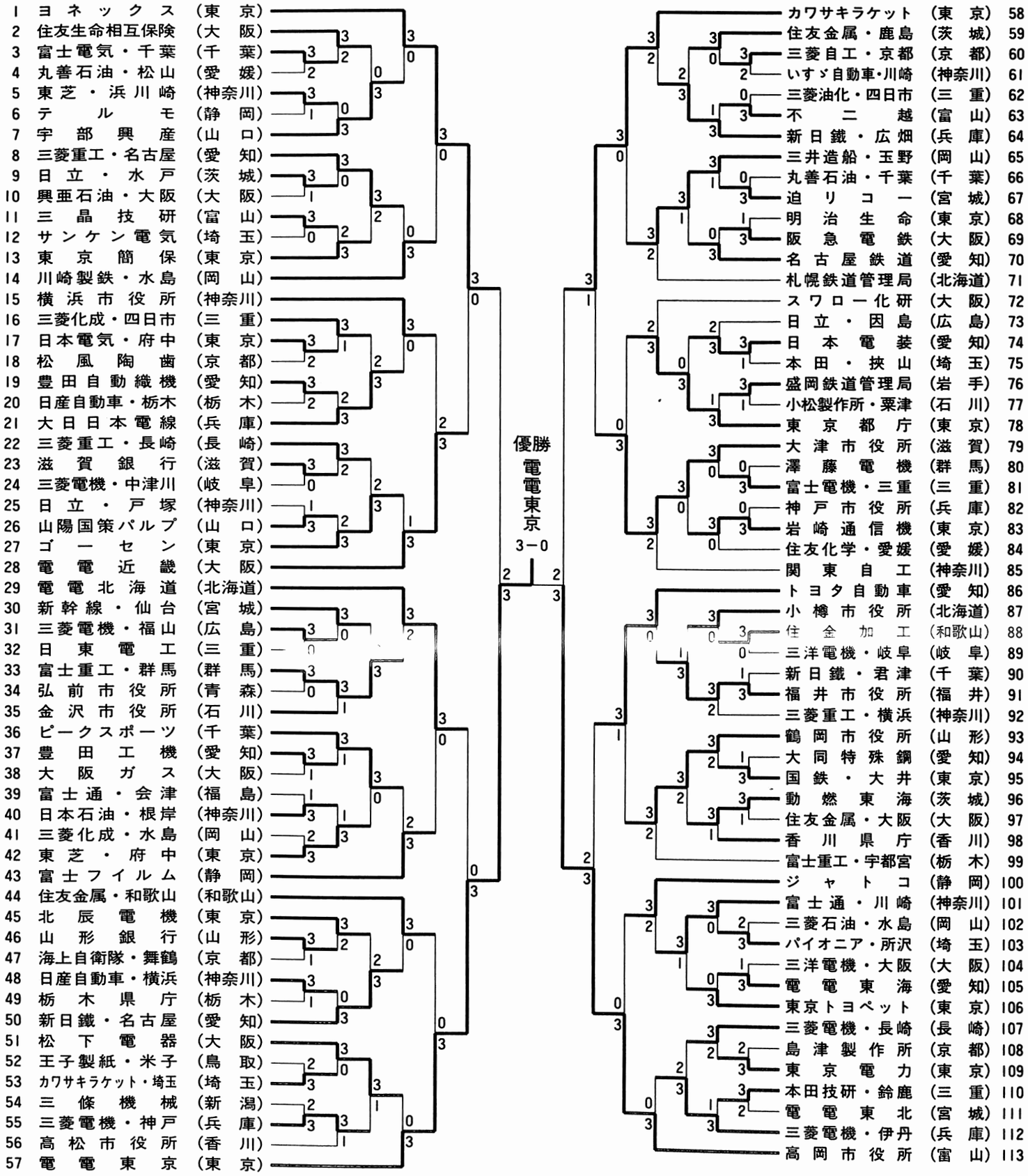
県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	地崎工業	越前屋直行	山岸ひとみ・星川喜恵子・中尾ひろみ・只野晴美・佐藤恵子・深沢サユリ
山形	山形銀行	山口　泰雄	鈴木のり子・荒川由美
福島	富士通・会津	塚越　厚生	青木マチ子・坂内孝子・斉藤陽子・三浦旨子
茨城	住友金属・鹿島	伴　順造	川角貴子・遠藤幸江・石橋久子・松本葉子・千葉典子・船木精子
	日立化成・茨城	大塚富士夫	吉田雅子・田口照代・大和田妙子・坂入紀代美・杉本千秋・穂積京子・野口春美
栃木	旭光学・益子	小塙　宏人	日向野藤枝・日山裕子・山沢圭子・上野加代子・海賀里美・古田茂子・植竹由美
	日産自動車・栃木	工藤　建夫	高田圭子・石川泰子・大島美智江・市村明子・田中幸子・桜井春美
群馬	富士重工・群馬	[illegible]　通雄	真下文江・町田三枝子・高瀬富士子・津久井美枝・石井紀子
	三菱電機・群馬	米田　守	本多富枝・斉藤裕子・並木久実子・岩崎　光
	大同特殊鋼	大倉　幸雄	高橋佳子
千葉	丸善石油・千葉	幸野　邦昭	児玉康子・横峯初江
	三井東圧・千葉	山下　喜祥	鈴木梅子・道訳美枝子
東京	北辰電機	千葉　正皓	宮本小夜子・稲田寿美・及川栄子・生田美穂・高井久仁子・塩尻玲子・佐々木智恵子
	東京トヨペット	入間　秀哲	佐々木千鶴子・中村宏子・日比淳子・峯岸幸子・栗山優子
	ヨネックス	栂野尾悦子	栂野尾悦子・飯野裕子・土田美加・関根和子・大塚ソノエ・石田ひとみ・高野和代・仲田浩子
	河崎ラケット	湯木　博恵	湯木博恵・端　陽護・近藤小織・渡辺多喜子・沢内真由美・高岸陽子・渡来たか子
	KDD・東京	松浪鋭四郎	稲垣和美・橋本直子・川鍋早智子・福本節子・青木芳子
	東京都庁	島田　稔	山崎清子・大河原清江・島根圭子・楠　栄
	電電東京	池田　信孝	米倉よし子・三田知佳子・桜井千鶴子　石原保子
	明治生命	杉本　伸之	根本雅江・斉藤紀子・面来加津子・土屋喜英子・橋本恒子
	安田火災海上	山崎　和彦	清藤ゆう子・高橋京子・柳沢友子・香椎百栄・小野圭子・大塚由紀子
	学習研究社	小島南海雄	岩沢千賀子・黒川恵美子・石丸恵美子・喜多川昌子・斉田由美・寺沢いずみ
神奈川	日立製作所・戸塚	佐藤　久敏	松田洋子・赤尾杉　恵・池田綾子・斉藤浩子・草野美恵子・宮崎玲子
	関東自動車	郡司　毅	遠藤美智子・田中和子・早川真澄・三宮ひろみ・山下美佐子・根本洋子
	新日鐵・製品技研	山田　正弘	寺本裕子・弥島生子・古郡礼子・薬真寺国子

県名	事業所名	監督名	選手名
神奈川	日産自動車・横浜	桜田　豊治	山田敦子・植草不二代・石井裕子・笹本敦子・深石恵以子・津田朱美
	日本電気・相模原	宮入　恒明	矢田浩子・井上ゆき
長野	富士通・長野	小林　敏一	山岸秀代・山崎美代子・畔上みゆき・岡村法子・太田美恵子・小林久子
新潟	新潟エヌティエヌ		市村　静・斉藤桂子
富山	不二越	畑　栄進	池田　薫・山崎信代
静岡	本州製紙・富士	町田　守正	甲田　操・鈴木弘美・磯部千代子・戸塚真理子・橋本秀子・今井田真澄・笠井恵子
	富士フイルム・富士宮	滝　正孝	渡辺貴美子・小幡陽子
	日産自動車・吉原		芦沢恵理子
愛知	日本電装	藤江　至	皆川詔子・小松澄子・水谷昌代・加塩淳子・小田あさ子・片山りつ子・畑原博美
	トヨタ自動車	川合　信之	渡辺喜美・山西百恵・二川清美・加藤千恵子・青木はつ代・柳田智佳代子・安田外美
	豊田自動織機	正岡　洋三	小川みゆき・佐藤明美・黒岩和美・滝本裕美・原子節子・下山るみ子
	新日鐵・名古屋	山本　卓男	小野孝江・安藤範里子・吉田可奈子・佐伯幸子・竹内佐知子
	豊田通商	豊原　洋治	木野美智代・伊藤多恵・鈴木豊子・中村孝子・梅村由美
岐阜	東邦レーヨン	清水　利一	金野和枝・小野寺智江
三重	松下電工・伊勢	上田　晴美	奥野佳・福田恵子・浜千代都美子・姫小松晴美・森下　香
	富士電機・三重	後藤　久	田中恵子・板倉典子・黒宮智子・森　久美代・岩谷祥子
	本田技研・鈴鹿	河原　賢治	平子早苗・森　小百合・菅瀬裕子・辻村輝美・中崎　和
滋賀	滋賀銀行	井上　三男	井上敦子・西村佐和子・若村弥生・阪口典子・榎並美佐子・大伴博美・澤田政子
	松下電工・彦根	増田　信治	岩根善美・藤井峰代・山室美恵子・中村恵子・北川裕子
京都	三菱自工・京都	戸沢　正雄	山口明美・荒平智子
奈良	藤忠	狭川　恭子	狭川恭子・山崎康子
大阪	サントリー	山本　次生	徳田敦子・東海林文子・谷　美津代・高田幹子・横山ナルミ・葛西明子・原口恵子・西村美千代 磯野恵理子・岩見洋子・国奥美智代・菊池洋子
	三洋電機・大阪	月原　朗	川崎知子・河村茂美・平久美子・植田日出子・沼田晴代・七米恵美
	電電近畿	滝野　公一	久保田嘉代・吉田千恵美・山田節子・野村由美子
	阪急百貨店	岸本　佳和	諫山妙子・岡本京子・軸屋良子・黒川裕子・倉本美佐子・林
兵庫	三菱電機・伊丹	北　義一	久保田睦美・栗山美智栄・楠田光子・平井貴子・上山記代・大江恵子
	住友金属・尼崎	高木　昭憲	広瀬純子・町田富美・中野則子・巽　園代・高野正子
和歌山	住友金属・和歌山	宇治　収	千葉穂波・口地可奈
鳥取	大栄町役場	福田　恭宏	長谷川優子・福田靖子
岡山	岡山市役所	能沢　凡夫	橋本千春・藤本央子・倉田裕子・岡崎真由美・西尾真美・相賀節子・杉本光枝
	川崎製鉄・水島	阪口　勇	小林敏子・木村典子・三宅洋子・中野悦子・高津美枝子・御領園純子・藤沢恭子
	松本組	小寺　裕美	小寺裕美・小山真弓
	三菱化成・水島	東　昌二	佐藤妙子・丸山文恵
香川	高松琴平電鉄	東条フミ子	山田高子・磯崎早余子・小野尊世・山下朋子・東条フミ子
	百十四銀行	杉本　裕	北池ひとみ・四宮美苗・平田伊佐子・阿川一代・岡本昌子・中川育子・波柴京子
高知	高知サンスポーツ	山本　能也	山本久美

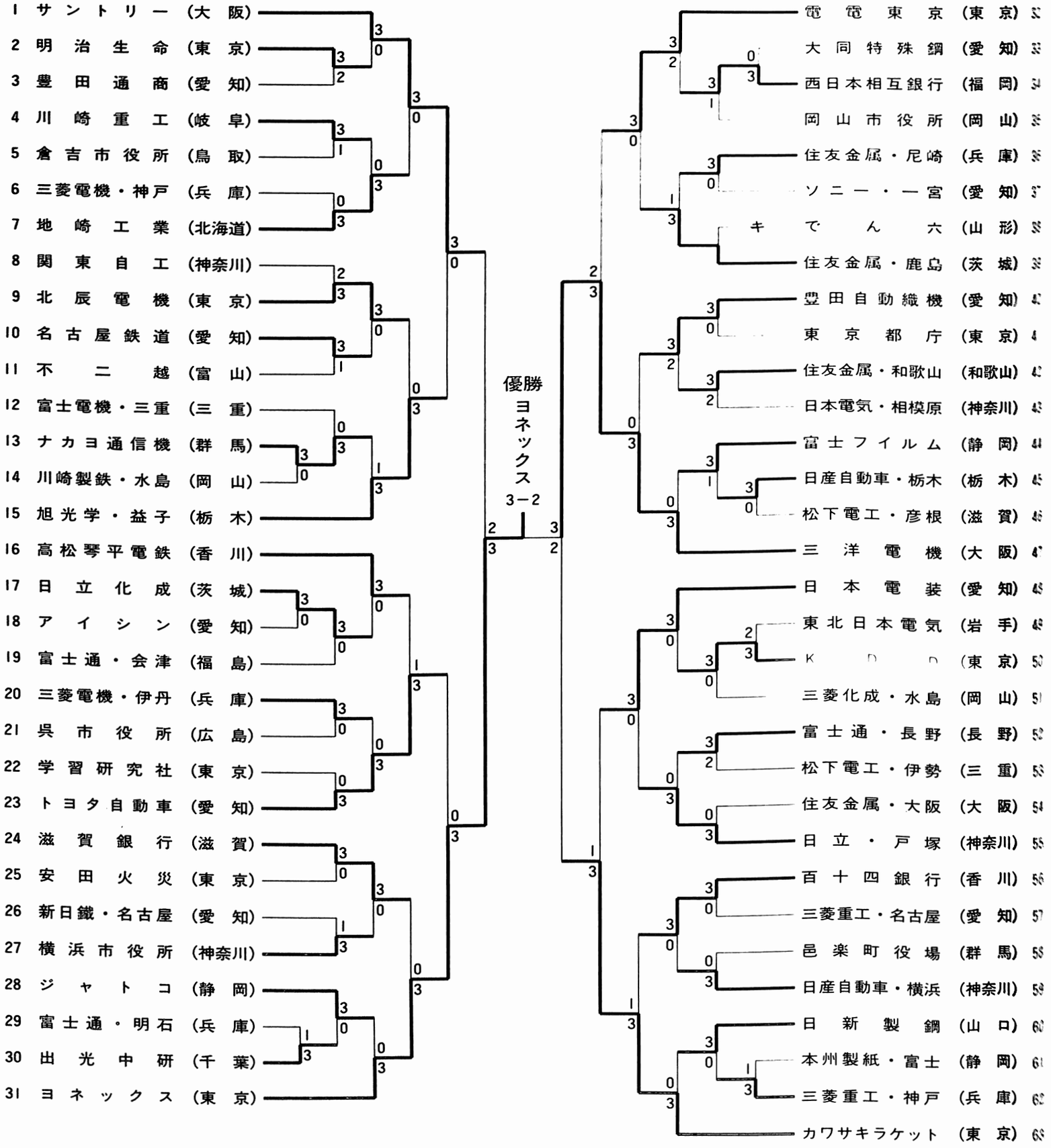
第31回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1981年(昭和56年)9月10～15日
開 催 地：愛知県名古屋市、知名市、一宮市
会　　場：愛知県体育館、名古屋市体育館
知多市体育館、一宮市産業体育館

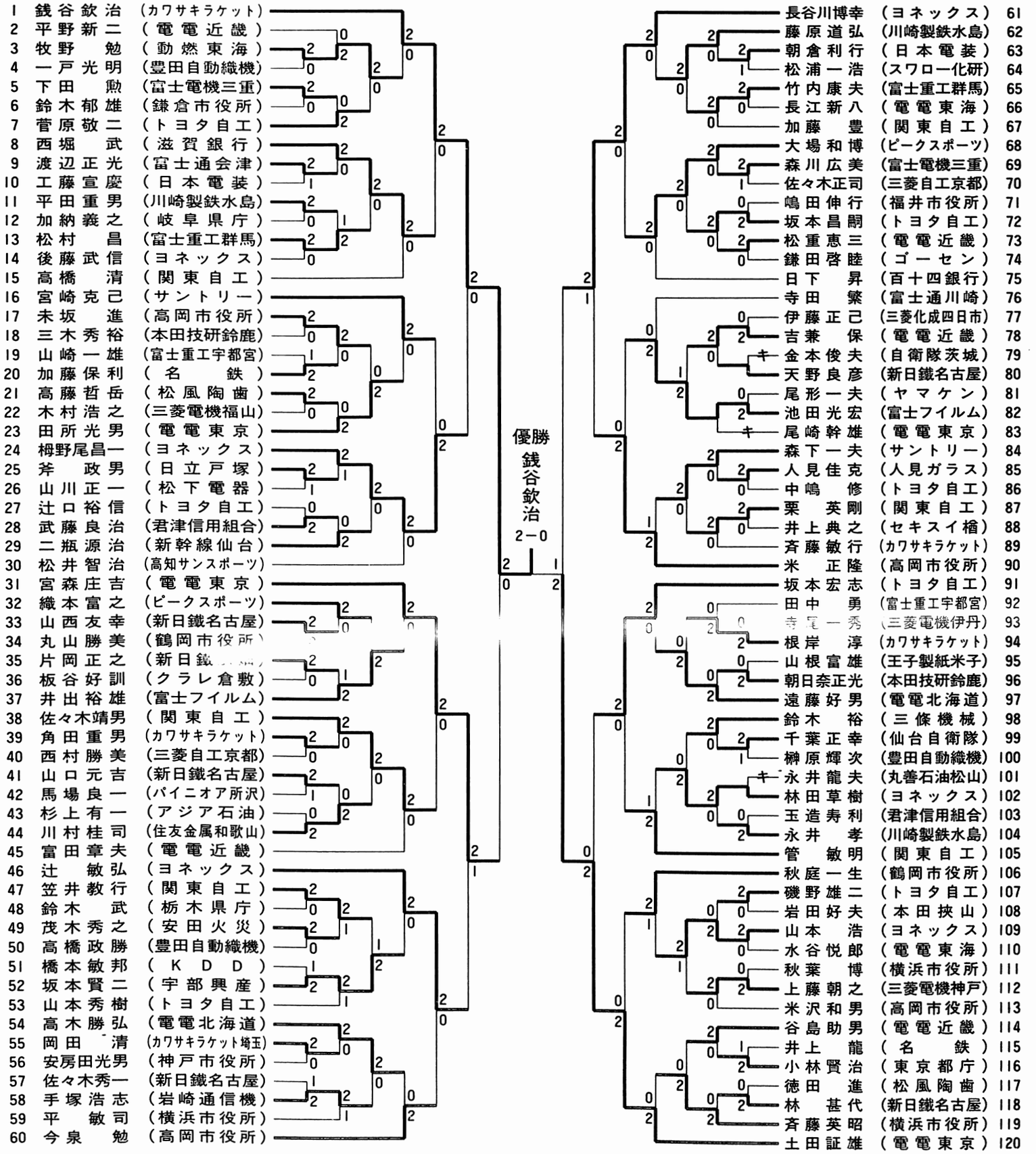
■男子団体の部



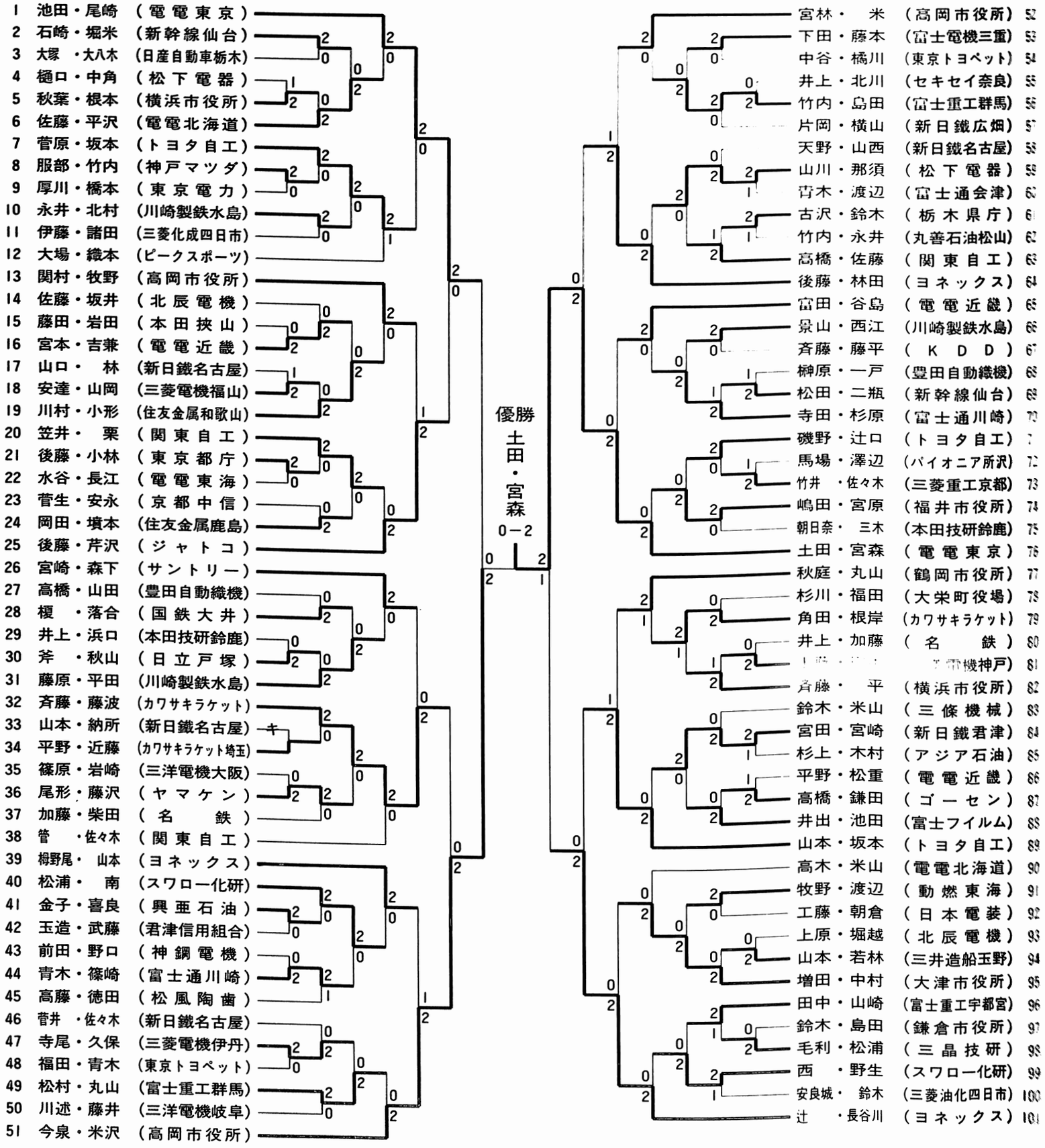
■女子団体の部


1 サントリー (大阪)
2 明治生命 (東京)
3 豊田通商 (愛知)
4 川崎重工 (岐阜)
5 倉吉市役所 (鳥取)
6 三菱電機・神戸 (兵庫)
7 地崎工業 (北海道)
8 関東自工 (神奈川)
9 北辰電機 (東京)
10 名古屋鉄道 (愛知)
11 不二越 (富山)
12 富士電機・三重 (三重)
13 ナカヨ通信機 (群馬)
14 川崎製鉄・水島 (岡山)
15 旭光学・益子 (栃木)
16 高松琴平電鉄 (香川)
17 日立化成 (茨城)
18 アイシン (愛知)
19 富士通・会津 (福島)
20 三菱電機・伊丹 (兵庫)
21 呉市役所 (広島)
22 学習研究社 (東京)
23 トヨタ自動車 (愛知)
24 滋賀銀行 (滋賀)
25 安田火災 (東京)
26 新日鐵・名古屋 (愛知)
27 横浜市役所 (神奈川)
28 ジャトコ (静岡)
29 富士通・明石 (兵庫)
30 出光中研 (千葉)
31 ヨネックス (東京)
優勝
ヨネックス
3−2
電電東京 (東京)
大同特殊鋼 (愛知)
西日本相互銀行 (福岡)
岡山市役所 (岡山)
住友金属・尼崎 (兵庫)
ソニー・一宮 (愛知)
キでん六 (山形)
住友金属・鹿島 (茨城)
豊田自動織機 (愛知)
東京都庁 (東京)
住友金属・和歌山 (和歌山)
日本電気・相模原 (神奈川)
富士フイルム (静岡)
日産自動車・栃木 (栃木)
松下電工・彦根 (滋賀)
三洋電機 (大阪)
日本電装 (愛知)
東北日本電気 (岩手)
KDD (東京)
三菱化成・水島 (岡山)
富士通・長野 (長野)
松下電工・伊勢 (三重)
住友金属・大阪 (大阪)
日立・戸塚 (神奈川)
百十四銀行 (香川)
三菱重工・名古屋 (愛知)
邑楽町役場 (群馬)
日産自動車・横浜 (神奈川)
日新製鋼 (山口)
本州製紙・富士 (静岡)
三菱重工・神戸 (兵庫)
カワサキラケット (東京)

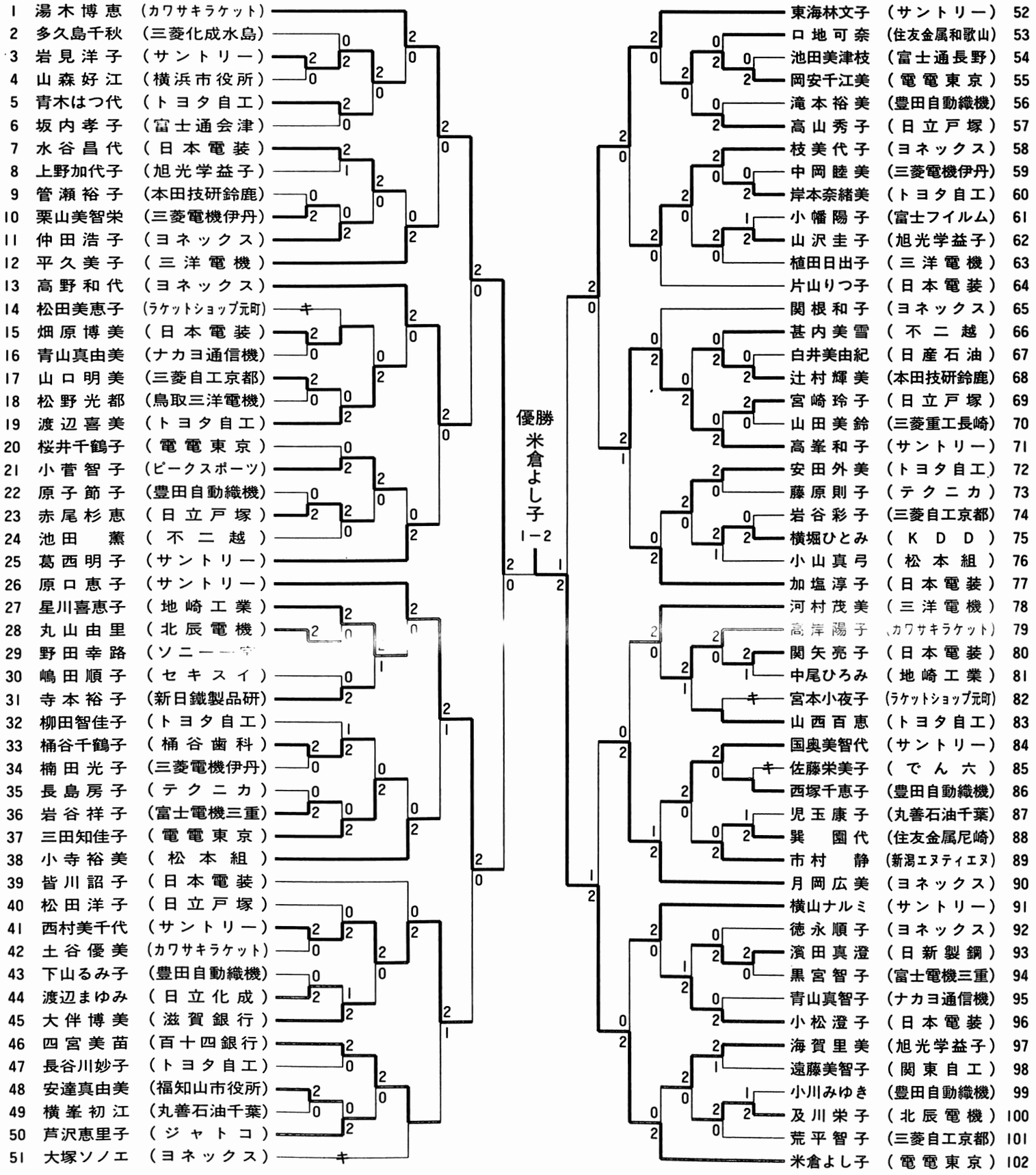
■男子単の部


1 銭谷欽治 (カワサキラケット)
2 平野新二 (電電近畿)
3 牧野勉 (動燃東海)
4 一戸光明 (豊田自動織機)
5 下田勲 (富士電機三重)
6 鈴木郁雄 (鎌倉市役所)
7 菅原敬二 (トヨタ自工)
8 西堀武 (滋賀銀行)
9 渡辺正光 (富士通会津)
10 工藤宣慶 (日本電装)
11 平田重男 (川崎製鉄水島)
12 加納義之 (岐阜県庁)
13 松村昌 (富士重工群馬)
14 後藤武信 (ヨネックス)
15 高橋清 (関東自工)
16 宮崎克己 (サントリー)
17 未坂進 (高岡市役所)
18 三木秀裕 (本田技研鈴鹿)
19 山崎一雄 (富士重工宇都宮)
20 加藤保利 (名鉄)
21 高藤哲岳 (松風陶歯)
22 木村浩之 (三菱電機福山)
23 田所光男 (電電東京)
24 栂野尾昌一 (ヨネックス)
25 斧政男 (日立戸塚)
26 山川正一 (松下電器)
27 辻口裕信 (トヨタ自工)
28 武藤良治 (君津信用組合)
29 二瓶源治 (新幹線仙台)
30 松井智治 (高知サンスポーツ)
31 宮森庄吉 (電電東京)
32 織本富之 (ピークスポーツ)
33 山西友幸 (新日鐵名古屋)
34 丸山勝美 (鶴岡市役所)
35 片岡正之 (新日鐵[illegible])
36 板谷好訓 (クラレ倉敷)
37 井出裕雄 (富士フイルム)
38 佐々木靖男 (関東自工)
39 角田重男 (カワサキラケット)
40 西村勝美 (三菱自工京都)
41 山口元吉 (新日鐵名古屋)
42 馬場良一 (パイニオア所沢)
43 杉上有一 (アジア石油)
44 川村桂司 (住友金属和歌山)
45 富田章夫 (電電近畿)
46 辻敏弘 (ヨネックス)
47 笠井教行 (関東自工)
48 鈴木武 (栃木県庁)
49 茂木秀之 (安田火災)
50 高橋政勝 (豊田自動織機)
51 橋本敏邦 (KDD)
52 坂本賢二 (宇部興産)
53 山本秀樹 (トヨタ自工)
54 高木勝弘 (電電北海道)
55 岡田清 (カワサキラケット埼玉)
56 安房田光男 (神戸市役所)
57 佐々木秀一 (新日鐵名古屋)
58 手塚浩志 (岩崎通信機)
59 平敏司 (横浜市役所)
60 今泉勉 (高岡市役所)
優勝
銭谷欽治
2－0
61 長谷川博幸 (ヨネックス)
62 藤原道弘 (川崎製鉄水島)
63 朝倉利行 (日本電装)
64 松浦一浩 (スワロー化研)
65 竹内康夫 (富士重工群馬)
66 長江新八 (電電東海)
67 加藤豊 (関東自工)
68 大場和博 (ピークスポーツ)
69 森川広美 (富士電機三重)
70 佐々木正司 (三菱自工京都)
71 嶋田伸行 (福井市役所)
72 坂本昌嗣 (トヨタ自工)
73 松重恵三 (電電近畿)
74 鎌田啓睦 (ゴーセン)
75 日下昇 (百十四銀行)
76 寺田繁 (富士通川崎)
77 伊藤正己 (三菱化成四日市)
78 吉兼保 (電電近畿)
79 金本俊夫 (自衛隊茨城)
80 天野良彦 (新日鐵名古屋)
81 尾形一夫 (ヤマケン)
82 池田光宏 (富士フイルム)
83 尾崎幹雄 (電電東京)
84 森下一夫 (サントリー)
85 人見佳克 (人見ガラス)
86 中嶋修 (トヨタ自工)
87 栗英剛 (関東自工)
88 井上典之 (セキスイ楢)
89 斉藤敏行 (カワサキラケット)
90 米正隆 (高岡市役所)
91 坂本宏志 (トヨタ自工)
92 田中勇 (富士重工宇都宮)
93 寺尾一秀 (三菱電機伊丹)
94 根岸淳 (カワサキラケット)
95 山根富雄 (王子製紙米子)
96 朝日奈正光 (本田技研鈴鹿)
97 遠藤好男 (電電北海道)
98 鈴木裕 (三條機械)
99 千葉正幸 (仙台自衛隊)
100 榊原輝次 (豊田自動織機)
101 永井龍夫 (丸善石油松山)
102 林田草樹 (ヨネックス)
103 玉造寿利 (君津信用組合)
104 永井孝 (川崎製鉄水島)
105 管敏明 (関東自工)
106 秋庭一生 (鶴岡市役所)
107 磯野雄二 (トヨタ自工)
108 岩田好夫 (本田挾山)
109 山本浩 (ヨネックス)
110 水谷悦郎 (電電東海)
111 秋葉博 (横浜市役所)
112 上藤朝之 (三菱電機神戸)
113 米沢和男 (高岡市役所)
114 谷島助男 (電電近畿)
115 井上龍 (名鉄)
116 小林賢治 (東京都庁)
117 徳田進 (松風陶歯)
118 林甚代 (新日鐵名古屋)
119 斉藤英昭 (横浜市役所)
120 土田証雄 (電電東京)

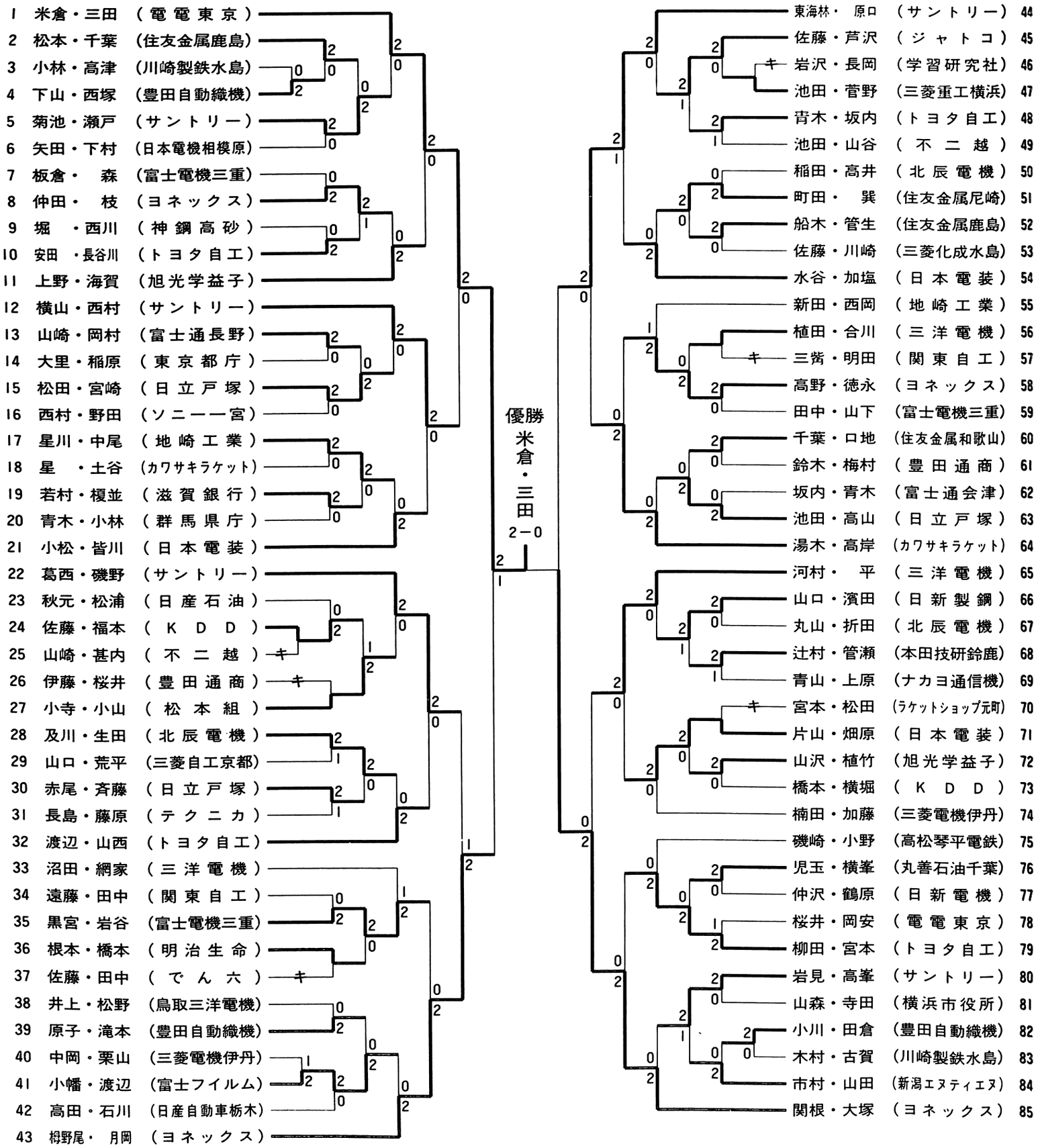
■男子複の部


1 池田・尾崎 （電電東京）
2 石崎・堀米 （新幹線仙台）
3 大塚・大八木 （日産自動車栃木）
4 樋口・中角 （松下電器）
5 秋葉・根本 （横浜市役所）
6 佐藤・平沢 （電電北海道）
7 菅原・坂本 （トヨタ自工）
8 服部・竹内 （神戸マツダ）
9 厚川・橋本 （東京電力）
10 永井・北村 （川崎製鉄水島）
11 伊藤・諸田 （三菱化成四日市）
12 大場・織本 （ピークスポーツ）
13 関村・牧野 （高岡市役所）
14 佐藤・坂井 （北辰電機）
15 藤田・岩田 （本田挟山）
16 宮本・吉兼 （電電近畿）
17 山口・林 （新日鐵名古屋）
18 安達・山岡 （三菱電機福山）
19 川村・小形 （住友金属和歌山）
20 笠井・栗 （関東自工）
21 後藤・小林 （東京都庁）
22 水谷・長江 （電電東海）
23 菅生・安永 （京都中信）
24 岡田・墳本 （住友金属鹿島）
25 後藤・芹沢 （ジャトコ）
26 宮崎・森下 （サントリー）
27 高橋・山田 （豊田自動織機）
28 榎・落合 （国鉄大井）
29 井上・浜口 （本田技研鈴鹿）
30 斧・秋山 （日立戸塚）
31 藤原・平田 （川崎製鉄水島）
32 斉藤・藤波 （カワサキラケット）
33 山本・納所 （新日鐵名古屋）
34 平野・近藤 （カワサキラケット埼玉）
35 篠原・岩崎 （三洋電機大阪）
36 尾形・藤沢 （ヤマケン）
37 加藤・柴田 （名鉄）
38 管・佐々木 （関東自工）
39 梶野尾・山本 （ヨネックス）
40 松浦・南 （スワロー化研）
41 金子・喜良 （興亜石油）
42 玉造・武藤 （君津信用組合）
43 前田・野口 （神鋼電機）
44 青木・篠崎 （富士通川崎）
45 高藤・徳田 （松風陶歯）
46 菅井・佐々木 （新日鐵名古屋）
47 寺尾・久保 （三菱電機伊丹）
48 福田・青木 （東京トヨペット）
49 松村・丸山 （富士重工群馬）
50 川述・藤井 （三洋電機岐阜）
51 今泉・米沢 （高岡市役所）
優勝
土田・宮森
0－2
宮林・米 （高岡市役所） 52
下田・藤本 （富士電機三重） 53
中谷・橘川 （東京トヨペット） 54
井上・北川 （セキセイ奈良） 55
竹内・島田 （富士重工群馬） 56
片岡・横山 （新日鐵広畑） 57
天野・山西 （新日鐵名古屋） 58
山川・那須 （松下電器） 59
青木・渡辺 （富士通会津） 60
古沢・鈴木 （栃木県庁） 61
竹内・永井 （丸善石油松山） 62
高橋・佐藤 （関東自工） 63
後藤・林田 （ヨネックス） 64
富田・谷島 （電電近畿） 65
景山・西江 （川崎製鉄水島） 66
斉藤・藤平 （KDD） 67
榊原・一戸 （豊田自動織機） 68
松田・二瓶 （新幹線仙台） 69
寺田・杉原 （富士通川崎） 70
磯野・辻口 （トヨタ自工） 71
馬場・澤辺 （パイオニア所沢） 72
竹井・佐々木 （三菱重工京都） 73
嶋田・宮原 （福井市役所） 74
朝日奈・三木 （本田技研鈴鹿） 75
土田・宮森 （電電東京） 76
秋庭・丸山 （鶴岡市役所） 77
杉川・福田 （大栄町役場） 78
角田・根岸 （カワサキラケット） 79
井上・加藤 （名鉄） 80
[illegible]機神戸） 81
斉藤・平 （横浜市役所） 82
鈴木・米山 （三條機械） 83
宮田・宮崎 （新日鐵君津） 84
杉上・木村 （アジア石油） 85
平野・松重 （電電近畿） 86
高橋・鎌田 （ゴーセン） 87
井出・池田 （富士フイルム） 88
山本・坂本 （トヨタ自工） 89
高木・米山 （電電北海道） 90
牧野・渡辺 （動燃東海） 91
工藤・朝倉 （日本電装） 92
上原・堀越 （北辰電機） 93
山本・若林 （三井造船玉野） 94
増田・中村 （大津市役所） 95
田中・山崎 （富士重工宇都宮） 96
鈴木・島田 （鎌倉市役所） 97
毛利・松浦 （三晶技研） 98
西・野生 （スワロー化研） 99
安良城・鈴木 （三菱油化四日市） 100
辻・長谷川 （ヨネックス） 101

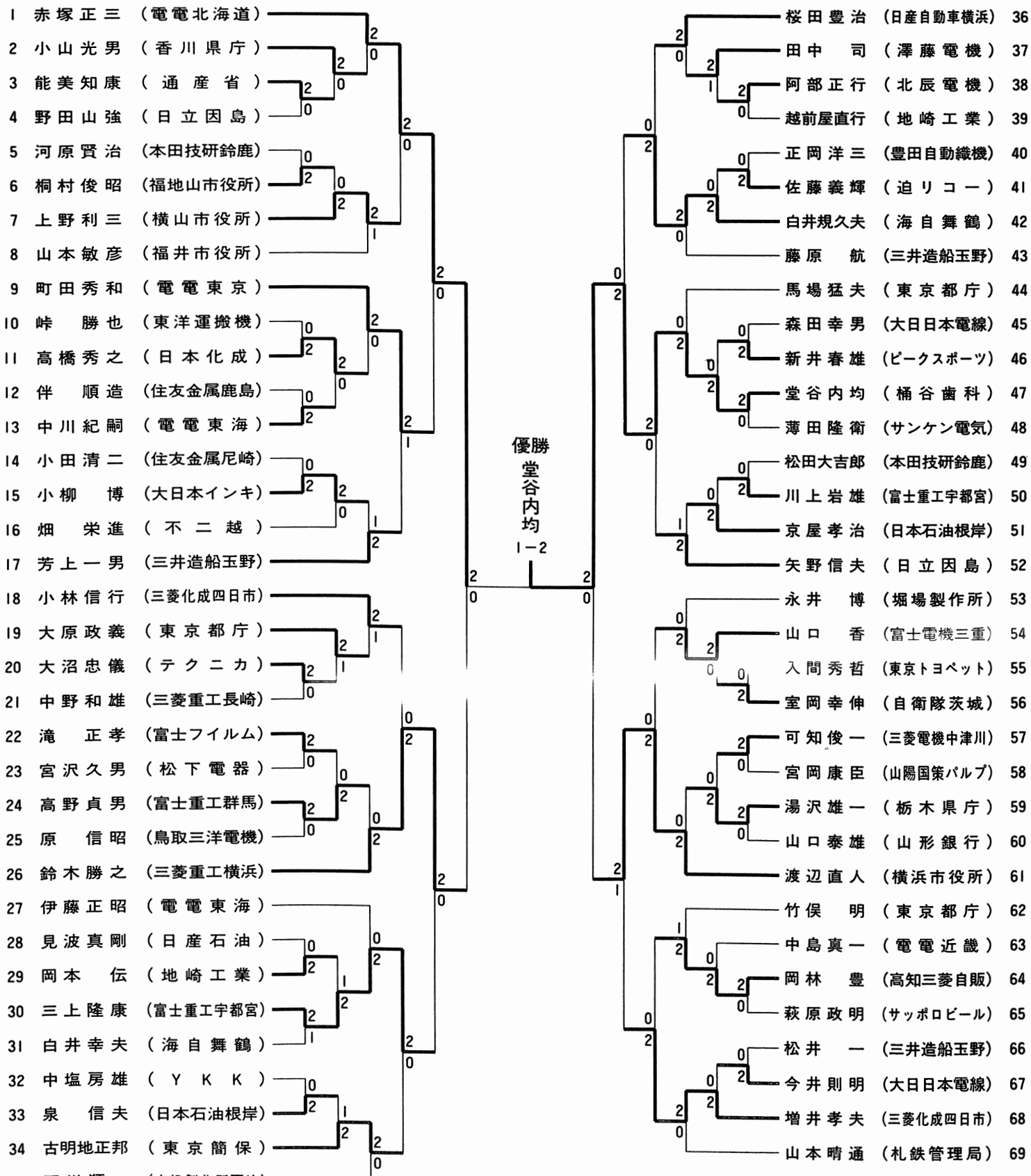
■女子単の部


1 湯木博恵 (カワサキラケット)
2 多久島千秋 (三菱化成水島)
3 岩見洋子 (サントリー)
4 山森好江 (横浜市役所)
5 青木はつ代 (トヨタ自工)
6 坂内孝子 (富士通会津)
7 水谷昌代 (日本電装)
8 上野加代子 (旭光学益子)
9 管瀬裕子 (本田技研鈴鹿)
10 栗山美智栄 (三菱電機伊丹)
11 仲田浩子 (ヨネックス)
12 平久美子 (三洋電機)
13 高野和代 (ヨネックス)
14 松田美恵子 (ラケットショップ元町)
15 畑原博美 (日本電装)
16 青山真由美 (ナカヨ通信機)
17 山口明美 (三菱自工京都)
18 松野光都 (鳥取三洋電機)
19 渡辺喜美 (トヨタ自工)
20 桜井千鶴子 (電電東京)
21 小菅智子 (ピークスポーツ)
22 原子節子 (豊田自動織機)
23 赤尾杉恵 (日立戸塚)
24 池田薫 (不二越)
25 葛西明子 (サントリー)
26 原口恵子 (サントリー)
27 星川喜恵子 (地崎工業)
28 丸山由里 (北辰電機)
29 野田幸路 (ソニー一宇)
30 嶋田順子 (セキスイ)
31 寺本裕子 (新日鐵製品研)
32 柳田智佳子 (トヨタ自工)
33 桶谷千鶴子 (桶谷歯科)
34 楠田光子 (三菱電機伊丹)
35 長島房子 (テクニカ)
36 岩谷祥子 (富士電機三重)
37 三田知佳子 (電電東京)
38 小寺裕美 (松本組)
39 皆川詔子 (日本電装)
40 松田洋子 (日立戸塚)
41 西村美千代 (サントリー)
42 土谷優美 (カワサキラケット)
43 下山るみ子 (豊田自動織機)
44 渡辺まゆみ (日立化成)
45 大伴博美 (滋賀銀行)
46 四宮美苗 (百十四銀行)
47 長谷川妙子 (トヨタ自工)
48 安達真由美 (福知山市役所)
49 横峯初江 (丸善石油千葉)
50 芦沢恵里子 (ジャトコ)
51 大塚ソノエ (ヨネックス)
優勝
米倉よし子
1-2
52 東海林文子 (サントリー)
53 口地可奈 (住友金属和歌山)
54 池田美津枝 (富士通長野)
55 岡安千江美 (電電東京)
56 滝本裕美 (豊田自動織機)
57 高山秀子 (日立戸塚)
58 枝美代子 (ヨネックス)
59 中岡睦美 (三菱電機伊丹)
60 岸本奈緒美 (トヨタ自工)
61 小幡陽子 (富士フイルム)
62 山沢圭子 (旭光学益子)
63 植田日出子 (三洋電機)
64 片山りつ子 (日本電装)
65 関根和子 (ヨネックス)
66 甚内美雪 (不二越)
67 白井美由紀 (日産石油)
68 辻村輝美 (本田技研鈴鹿)
69 宮崎玲子 (日立戸塚)
70 山田美鈴 (三菱重工長崎)
71 高峯和子 (サントリー)
72 安田外美 (トヨタ自工)
73 藤原則子 (テクニカ)
74 岩谷彩子 (三菱自工京都)
75 横堀ひとみ (KDD)
76 小山真弓 (松本組)
77 加塩淳子 (日本電装)
78 河村茂美 (三洋電機)
79 高岸陽子 (カワサキラケット)
80 関矢亮子 (日本電装)
81 中尾ひろみ (地崎工業)
82 宮本小夜子 (ラケットショップ元町)
83 山西百恵 (トヨタ自工)
84 国奥美智代 (サントリー)
85 佐藤栄美子 (でんろく)
86 西塚千恵子 (豊田自動織機)
87 児玉康子 (丸善石油千葉)
88 巽園代 (住友金属尼崎)
89 市村静 (新潟エヌティエヌ)
90 月岡広美 (ヨネックス)
91 横山ナルミ (サントリー)
92 徳永順子 (ヨネックス)
93 濱田真澄 (日新製鋼)
94 黒宮智子 (富士電機三重)
95 青山真智子 (ナカヨ通信機)
96 小松澄子 (日本電装)
97 海賀里美 (旭光学益子)
98 遠藤美智子 (関東自工)
99 小川みゆき (豊田自動織機)
100 及川栄子 (北辰電機)
101 荒平智子 (三菱自工京都)
102 米倉よし子 (電電東京)

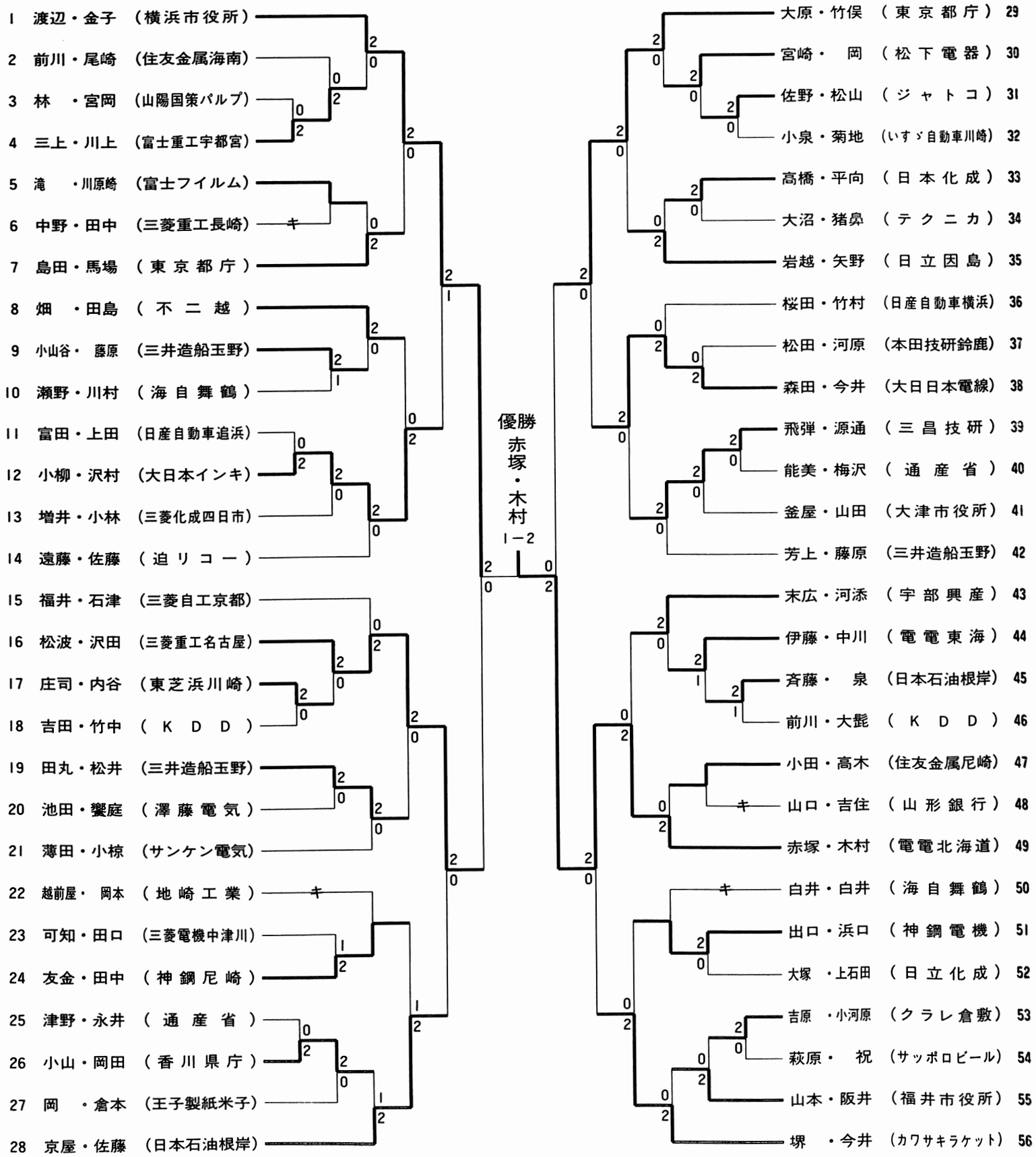
■女子複の部


1 米倉・三田 （電電東京）
2 松本・千葉 （住友金属鹿島）
3 小林・高津 （川崎製鉄水島）
4 下山・西塚 （豊田自動織機）
5 菊池・瀬戸 （サントリー）
6 矢田・下村 （日本電機相模原）
7 板倉・ 森 （富士電機三重）
8 仲田・ 枝 （ヨネックス）
9 堀 ・西川 （神鋼高砂）
10 安田 ・長谷川 （トヨタ自工）
11 上野・海賀 （旭光学益子）
12 横山・西村 （サントリー）
13 山崎・岡村 （富士通長野）
14 大里・稲原 （東京都庁）
15 松田・宮崎 （日立戸塚）
16 西村・野田 （ソニー一宮）
17 星川・中尾 （地崎工業）
18 星 ・土谷 （カワサキラケット）
19 若村・榎並 （滋賀銀行）
20 青木・小林 （群馬県庁）
21 小松・皆川 （日本電装）
22 葛西・磯野 （サントリー）
23 秋元・松浦 （日産石油）
24 佐藤・福本 （KDD）
25 山崎・甚内 （不二越）
26 伊藤・桜井 （豊田通商）
27 小寺・小山 （松本組）
28 及川・生田 （北辰電機）
29 山口・荒平 （三菱自工京都）
30 赤尾・斉藤 （日立戸塚）
31 長島・藤原 （テクニカ）
32 渡辺・山西 （トヨタ自工）
33 沼田・網家 （三洋電機）
34 遠藤・田中 （関東自工）
35 黒宮・岩谷 （富士電機三重）
36 根本・橋本 （明治生命）
37 佐藤・田中 （でんろく）
38 井上・松野 （鳥取三洋電機）
39 原子・滝本 （豊田自動織機）
40 中岡・栗山 （三菱電機伊丹）
41 小幡・渡辺 （富士フイルム）
42 高田・石川 （日産自動車栃木）
43 柯野尾・ 月岡 （ヨネックス）
優勝
米倉・三田
2－0
東海林・ 原口 （サントリー） 44
佐藤・芦沢 （ジャトコ） 45
岩沢・長岡 （学習研究社） 46
池田・菅野 （三菱重工横浜） 47
青木・坂内 （トヨタ自工） 48
池田・山谷 （不二越） 49
稲田・高井 （北辰電機） 50
町田・ 巽 （住友金属尼崎） 51
船木・管生 （住友金属鹿島） 52
佐藤・川崎 （三菱化成水島） 53
水谷・加塩 （日本電装） 54
新田・西岡 （地崎工業） 55
植田・合川 （三洋電機） 56
三嵜・明田 （関東自工） 57
高野・徳永 （ヨネックス） 58
田中・山下 （富士電機三重） 59
千葉・口地 （住友金属和歌山） 60
鈴木・梅村 （豊田通商） 61
坂内・青木 （富士通会津） 62
池田・高山 （日立戸塚） 63
湯木・高岸 （カワサキラケット） 64
河村・ 平 （三洋電機） 65
山口・濱田 （日新製鋼） 66
丸山・折田 （北辰電機） 67
辻村・管瀬 （本田技研鈴鹿） 68
青山・上原 （ナカヨ通信機） 69
宮本・松田 （ラケットショップ元町） 70
片山・畑原 （日本電装） 71
山沢・植竹 （旭光学益子） 72
橋本・横堀 （KDD） 73
楠田・加藤 （三菱電機伊丹） 74
磯崎・小野 （高松琴平電鉄） 75
児玉・横峯 （丸善石油千葉） 76
仲沢・鶴原 （日新電機） 77
桜井・岡安 （電電東京） 78
柳田・宮本 （トヨタ自工） 79
岩見・高峯 （サントリー） 80
山森・寺田 （横浜市役所） 81
小川・田倉 （豊田自動織機） 82
木村・古賀 （川崎製鉄水島） 83
市村・山田 （新潟エヌティエヌ） 84
関根・大塚 （ヨネックス） 85

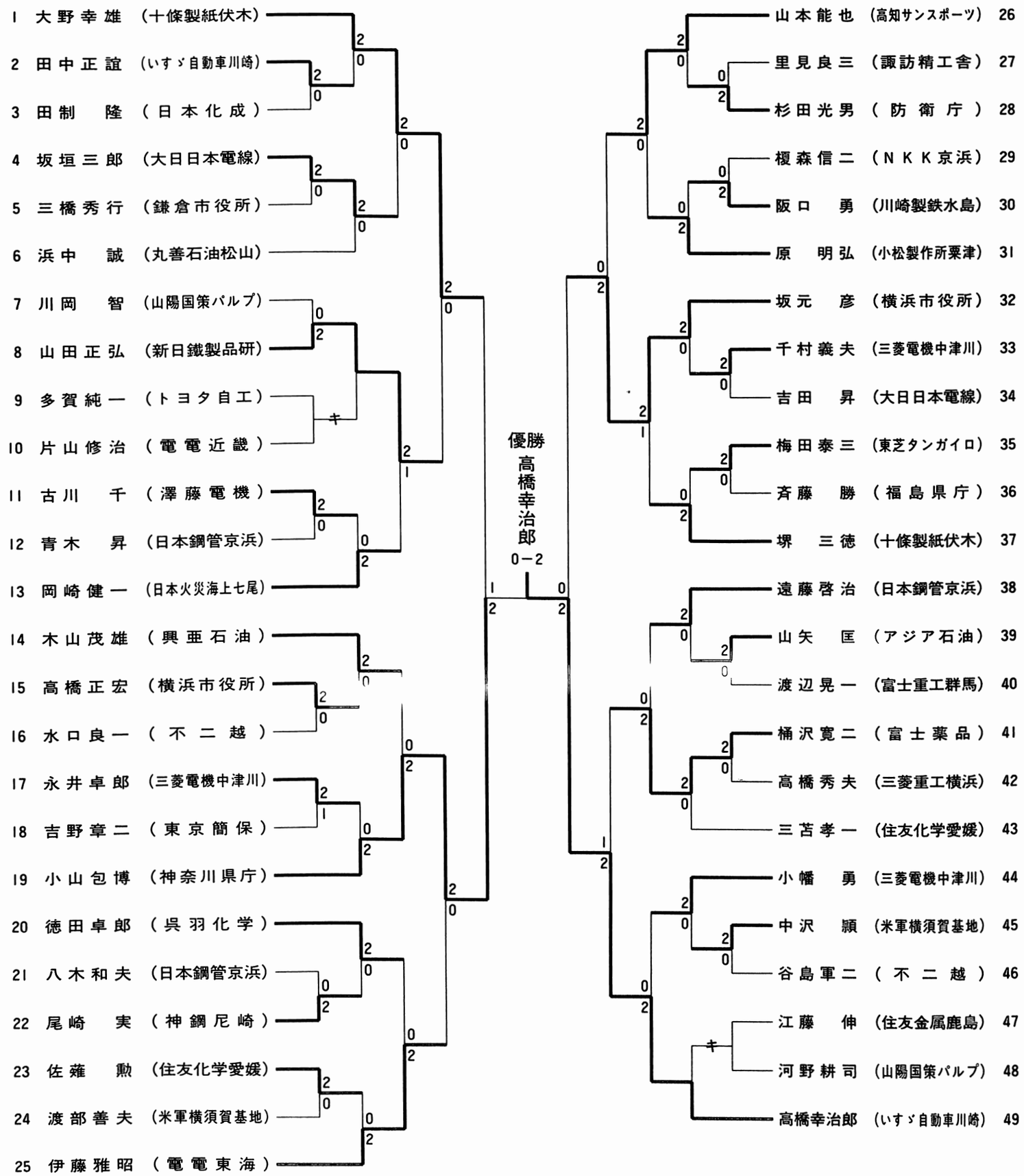
■30歳以上男子単の部


1 赤塚正三 (電電北海道)
2 小山光男 (香川県庁)
3 能美知康 (通産省)
4 野田山強 (日立因島)
5 河原賢治 (本田技研鈴鹿)
6 桐村俊昭 (福地山市役所)
7 上野利三 (横山市役所)
8 山本敏彦 (福井市役所)
9 町田秀和 (電電東京)
10 峠 勝也 (東洋運搬機)
11 高橋秀之 (日本化成)
12 伴 順造 (住友金属鹿島)
13 中川紀嗣 (電電東海)
14 小田清二 (住友金属尼崎)
15 小柳 博 (大日本インキ)
16 畑 栄進 (不二越)
17 芳上一男 (三井造船玉野)
18 小林信行 (三菱化成四日市)
19 大原政義 (東京都庁)
20 大沼忠儀 (テクニカ)
21 中野和雄 (三菱重工長崎)
22 滝 正孝 (富士フイルム)
23 宮沢久男 (松下電器)
24 高野貞男 (富士重工群馬)
25 原 信昭 (鳥取三洋電機)
26 鈴木勝之 (三菱重工横浜)
27 伊藤正昭 (電電東海)
28 見波真剛 (日産石油)
29 岡本 伝 (地崎工業)
30 三上隆康 (富士重工宇都宮)
31 白井幸夫 (海自舞鶴)
32 中塩房雄 (YKK)
33 泉 信夫 (日本石油根岸)
34 古明地正邦 (東京簡保)
35 石川順一 (小松製作所粟津)
優勝
堂谷内均
1-2
桜田豊治 (日産自動車横浜) 36
田中 司 (澤藤電機) 37
阿部正行 (北辰電機) 38
越前屋直行 (地崎工業) 39
正岡洋三 (豊田自動織機) 40
佐藤義輝 (迫リコー) 41
白井規久夫 (海自舞鶴) 42
藤原 航 (三井造船玉野) 43
馬場猛夫 (東京都庁) 44
森田幸男 (大日日本電線) 45
新井春雄 (ピークスポーツ) 46
堂谷内均 (桶谷歯科) 47
薄田隆衛 (サンケン電気) 48
松田大吉郎 (本田技研鈴鹿) 49
川上岩雄 (富士重工宇都宮) 50
京屋孝治 (日本石油根岸) 51
矢野信夫 (日立因島) 52
永井 博 (堀場製作所) 53
山口 香 (富士電機三重) 54
入間秀哲 (東京トヨペット) 55
室岡幸伸 (自衛隊茨城) 56
可知俊一 (三菱電機中津川) 57
宮岡康臣 (山陽国策パルプ) 58
湯沢雄一 (栃木県庁) 59
山口泰雄 (山形銀行) 60
渡辺直人 (横浜市役所) 61
竹俣 明 (東京都庁) 62
中島真一 (電電近畿) 63
岡林 豊 (高知三菱自販) 64
萩原政明 (サッポロビール) 65
松井 一 (三井造船玉野) 66
今井則明 (大日日本電線) 67
増井孝夫 (三菱化成四日市) 68
山本晴通 (札鉄管理局) 69

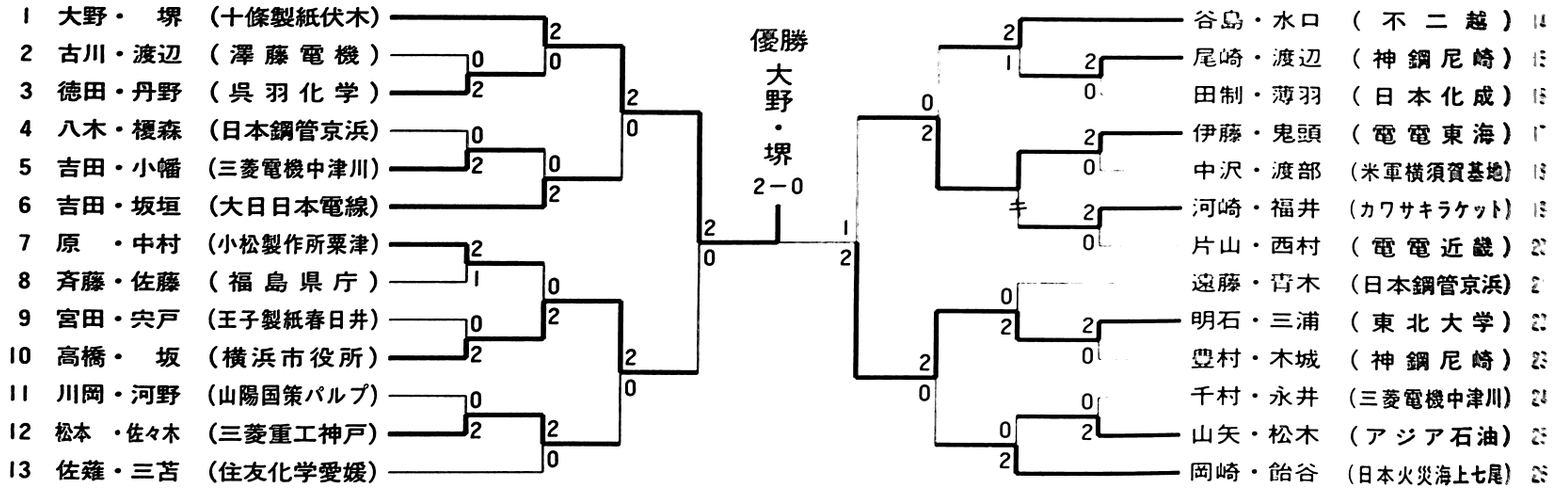
■30歳以上男子複の部


1 渡辺・金子 （横浜市役所）
2 前川・尾崎 （住友金属海南）
3 林 ・宮岡 （山陽国策パルプ）
4 三上・川上 （富士重工宇都宮）
5 滝 ・川原崎 （富士フイルム）
6 中野・田中 （三菱重工長崎）
7 島田・馬場 （東京都庁）
8 畑 ・田島 （不二越）
9 小山谷・ 藤原 （三井造船玉野）
10 瀬野・川村 （海自舞鶴）
11 富田・上田 （日産自動車追浜）
12 小柳・沢村 （大日本インキ）
13 増井・小林 （三菱化成四日市）
14 遠藤・佐藤 （追リコー）
15 福井・石津 （三菱自工京都）
16 松波・沢田 （三菱重工名古屋）
17 庄司・内谷 （東芝浜川崎）
18 吉田・竹中 （KDD）
19 田丸・松井 （三井造船玉野）
20 池田・饗庭 （澤藤電気）
21 薄田・小椋 （サンケン電気）
22 越前屋・ 岡本 （地崎工業）
23 可知・田口 （三菱電機中津川）
24 友金・田中 （神鋼尼崎）
25 津野・永井 （通産省）
26 小山・岡田 （香川県庁）
27 岡 ・倉本 （王子製紙米子）
28 京屋・佐藤 （日本石油根岸）
優勝
赤塚・木村
1－2
29 大原・竹俣 （東京都庁）
30 宮崎・ 岡 （松下電器）
31 佐野・松山 （ジャトコ）
32 小泉・菊地 （いすゞ自動車川崎）
33 高橋・平向 （日本化成）
34 大沼・猪鼻 （テクニカ）
35 岩越・矢野 （日立因島）
36 桜田・竹村 （日産自動車横浜）
37 松田・河原 （本田技研鈴鹿）
38 森田・今井 （大日日本電線）
39 飛弾・源通 （三昌技研）
40 能美・梅沢 （通産省）
41 釜屋・山田 （大津市役所）
42 芳上・藤原 （三井造船玉野）
43 末広・河添 （宇部興産）
44 伊藤・中川 （電電東海）
45 斉藤・ 泉 （日本石油根岸）
46 前川・大髭 （KDD）
47 小田・高木 （住友金属尼崎）
48 山口・吉住 （山形銀行）
49 赤塚・木村 （電電北海道）
50 白井・白井 （海自舞鶴）
51 出口・浜口 （神鋼電機）
52 大塚 ・上石田 （日立化成）
53 吉原 ・小河原 （クラレ倉敷）
54 萩原・ 祝 （サッポロビール）
55 山本・阪井 （福井市役所）
56 堺 ・今井 （カワサキラケット）

■40歳以上男子単の部


1 大野幸雄 (十條製紙伏木)
2 田中正誼 (いすゞ自動車川崎)
3 田制 隆 (日本化成)
4 坂垣三郎 (大日日本電線)
5 三橋秀行 (鎌倉市役所)
6 浜中 誠 (丸善石油松山)
7 川岡 智 (山陽国策パルプ)
8 山田正弘 (新日鐵製品研)
9 多賀純一 (トヨタ自工)
10 片山修治 (電電近畿)
11 古川 千 (澤藤電機)
12 青木 昇 (日本鋼管京浜)
13 岡崎健一 (日本火災海上七尾)
14 木山茂雄 (興亜石油)
15 高橋正宏 (横浜市役所)
16 水口良一 (不二越)
17 永井卓郎 (三菱電機中津川)
18 吉野章二 (東京簡保)
19 小山包博 (神奈川県庁)
20 徳田卓郎 (呉羽化学)
21 八木和夫 (日本鋼管京浜)
22 尾崎 実 (神鋼尼崎)
23 佐薙 勲 (住友化学愛媛)
24 渡部善夫 (米軍横須賀基地)
25 伊藤雅昭 (電電東海)
優勝
高橋幸治郎
0−2
26 山本能也 (高知サンスポーツ)
27 里見良三 (諏訪精工舎)
28 杉田光男 (防衛庁)
29 榎森信二 (NKK京浜)
30 阪口 勇 (川崎製鉄水島)
31 原 明弘 (小松製作所粟津)
32 坂元 彦 (横浜市役所)
33 千村義夫 (三菱電機中津川)
34 吉田 昇 (大日日本電線)
35 梅田泰三 (東芝タンガイロ)
36 斉藤 勝 (福島県庁)
37 堺 三徳 (十條製紙伏木)
38 遠藤啓治 (日本鋼管京浜)
39 山矢 匡 (アジア石油)
40 渡辺晃一 (富士重工群馬)
41 桶沢寛二 (富士薬品)
42 高橋秀夫 (三菱重工横浜)
43 三苫孝一 (住友化学愛媛)
44 小幡 勇 (三菱電機中津川)
45 中沢 顕 (米軍横須賀基地)
46 谷島軍二 (不二越)
47 江藤 伸 (住友金属鹿島)
48 河野耕司 (山陽国策パルプ)
49 高橋幸治郎 (いすゞ自動車川崎)

■40歳以上男子複の部


1 大野・ 堺 (十條製紙伏木)
2 古川・渡辺 (澤藤電機)
3 徳田・丹野 (呉羽化学)
4 八木・榎森 (日本鋼管京浜)
5 吉田・小幡 (三菱電機中津川)
6 吉田・坂垣 (大日日本電線)
7 原 ・中村 (小松製作所粟津)
8 斉藤・佐藤 (福島県庁)
9 宮田・宍戸 (王子製紙春日井)
10 高橋・ 坂 (横浜市役所)
11 川岡・河野 (山陽国策パルプ)
12 松本 ・佐々木 (三菱重工神戸)
13 佐薙・三苫 (住友化学愛媛)
優勝
大野・堺
2－0
谷島・水口 (不二越)
尾崎・渡辺 (神鋼尼崎)
田制・薄羽 (日本化成)
伊藤・鬼頭 (電電東海)
中沢・渡部 (米軍横須賀基地)
河崎・福井 (カワサキラケット)
片山・西村 (電電近畿)
遠藤・青木 (日本鋼管京浜)
明石・三浦 (東北大学)
豊村・木城 (神鋼尼崎)
千村・永井 (三菱電機中津川)
山矢・松木 (アジア石油)
岡崎・飴谷 (日本火災海上七尾)

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	電電北海道	平山　三城	遠藤好男・高木勝弘・木村敏男・佐藤義孝・平沢　徹・米山孝二・篠尾孝幸・赤塚正三
	札幌鉄道管理局	乙武　重丸	広川幸児・山田好明・山本晴通・高崎厚生・高橋　進・野沢　明・七崎悦範
	小樽市役所	大石　章	高野幹男・東田朋己・佐々木尚文・斉藤　裕・阿部幸夫・目黒清則・徳満康浩
	地崎工業	越前屋直行	岡本　伝・越前屋直行
青森	弘前市役所	山崎　直樹	斉藤和則・福士文敏・島内俊二・福士忠弘・佐藤雅幸・工藤徳男・小山内聡
岩手	盛岡鉄道管理局	佐藤　恭彦	鬼柳孝夫・石川　淳・畠山静夫・高橋房裕・石川　聡・岩淵和浩
山形	山形銀行	山口　泰雄	吉住　昭・山口泰雄・伊藤孝夫・荒井謙治・三浦政治・斉藤隆吉・鈴木洋史
	セマケン		藤沢博史・尾形一男
	鶴岡市役所	窪田　寛士	真田昭良・丸山勝美・秋庭一生・上原正明・佐藤　茂・小林保夫・佐藤茂己
宮城	新幹線・仙台	福永　雅俊	田辺　豊・大沼久喜・松田芳範・石崎利夫・二瓶源治・堀米孝太郎・須藤義昭
	電電東北	浅沼　吉男	尾形信夫・峯田喜次郎・足立順一・新宮光也・下山雅市・小沢正彦
	迫リコー	佐藤　義輝	遠藤光博・佐藤義輝・阿部克己・佐々木弘幸・後藤忠正・鈴木靖男
	仙台自衛隊	河角　良臣	千葉正幸
	東北大学	奈良坂　孝	明石　誠・三浦紀重
	ＹＫＫ	水口　利之	中塩房雄
福島	富士通・会津		谷沢正広・青木昭弘・高橋良仁・渡辺正光・清野徹也
	福島県庁	斉藤　勝	斉藤　勝・佐藤正欣
	日本化成	高橋　秀之	高橋秀之・平向一郎・田制　隆・薄羽康友
	呉羽化学	徳田　卓郎	徳田卓郎・丹野敦之
茨城	日立・水戸	浜田　勇	菅野　孝・和田講一・福田喜代志・早川　博・阿部信幸・細山裕司・村谷信之
	日立化成	大塚富士夫	大塚富士夫・上石田常治
	動燃・東海村	三浦　満	真鍋建史・渡辺健治・牧野　勉・上原典文・小林　満・沢原重男
	自衛隊・茨城	室岡　幸伸	金本俊夫・室岡幸伸
	住友金属・鹿島	伴　順浩	昭田常雄・野口　忠・墳本敏行・塩入七代・武田富夫助・梅沢和則・伴　順造・江藤　伸 堀岡成充
栃木	日産[illegible]・栃木	工藤　建夫	大塚浩司・田上　悟・佐藤　博・大八木正・横山秀雄
	人見ガラス	人見　晃一	人見佳克
	栃木県庁	鈴木　武	湯沢雄一・鈴木　武・和久光男・古沢元浩
	富士重工・宇都宮	永山　隆	川上岩雄・三上隆康・田中　勇・山崎一雄・飯村正実・大島　厳・近嵐裕治
群馬	富士重工・群馬	渡辺　晃一	松村　昌・竹内康夫・丸山清春・目黒正浩・井上秀文・常田正人・大條洋一・島田清和 高野貞男・渡辺晃一
	澤藤電機	志村　勝己	田中　司・池田幸雄・古川　千・志村勝巳・饗庭孝夫・藤田康夫・角田恒雄・渡辺　淳
千葉	丸善石油・千葉	本間　実	佐藤一男・浅利章悦・馬場秀明・滝本和大・上田正敏・高橋俊明・岩本圭悟
	新日鐵・君津	吉田　寛	宮田秀人・宮崎雅治・岡　良則・吉田　寛・佐々木信弘
	日産石油		見波真悟
	君津信用組合	佐々間政弘	武藤良治・玉造寿則
	大日本インキ	小柳　博	小柳　博・沢村　寛
	富士電機・千葉	石橋　康平	進藤益夫・南　千勇・藤沢温夫・中尾伴清・渡辺　享・山田　充
	ピークスポーツ	峯元　一匡	鶴野　弘・新井春雄・大場和博・織本富之・鈴木啓次・峯元一匡
埼玉	パイオニア・所沢	近藤　均	千葉　健・馬場良一・小松久男・小泉敏章・澤部孝夫・鈴木洋一・近藤　均
	河崎ラケット・埼玉	松浦　一郎	岡田　清・丸山繁夫・平野耕一・近藤英宏・祖泉伸一・松浦一郎・増田義一
	本田技研・狭山	藤田　茂樹	阿部　力・岩田好夫・清水宏之・藤田茂樹・山崎義信・藤田信夫・大橋　正
	サンケン電気	今井　清兼	薄田隆護・小椋喜代次・田中忠義・坂元　勝・和田　節・水野　茂

県名	事業所名	監督名	選手名
埼玉	サッポロビール	谷　直人	荻原政明・祝　英雄
	テクニカ	大久保　孟	大沼忠義・猪爪仁志
東京	防衛庁	小野田出幸	杉田光男
	安田火災	山崎　和彦	茂木秀之
	通産省	能美　知康	能美知康・梅沢卓夫・津野　孝・永井正博
	日本電気・府中	秋吉　文男	秋吉文男・向井晴久・宮口　等・上原俊一・青山耕一郎・若林博史・丸山一馬
	KDD	大髭　輝雄	斉藤利昭・藤平　守・前川栄一・大髭輝雄・吉田峰雄・竹中啓二
	ゴーセン・東京	中村　輝充	高橋清治・津坂秀雄・星野清志・鎌田啓睦・佐賀隆志
	岩崎通信機	沢田　和彦	沢田和彦・中瀬一義・下山　實・家串友治・手塚雅志・田名部直人・手塚浩志
	ヨネックス	栂野尾昌一	栂野尾昌一・辻　敏弘・長谷川博幸・林田草樹・山本　浩・工藤重信・後藤武信
	カワサキラケット	今井　茂満	今井茂満・斉藤敏行・銭谷欽治・角田重男・根岸　淳・藤波哲治・辻　常雄・堺　栄一 河崎一幸・福井正康
	東京トヨペット	入間　秀哲	福田利男・中谷明人・橘川光孝・青木年也・小林義孝・山野正義・入間秀哲
	東京都庁	島田　稔	大原正義・馬場猛夫・島田　稔・中田洋二・後藤　勝・小林賢治・竹俣　明
	東京電力	上岡　泉	内田修修・石原泰造・矢野　明・厚川　勇・佐野裕俊・橋本　栄・田中　徹
	明治生命	杉本　伸之	山田友良・服部秀昭・宮永武司・川上善康・前田哲郎・山本裕治・望月　淳
	東京簡易保険局	武田　公正	古明地正邦人・武田公正・石岡宏喜・中沢睦夫・八杉貞雄・吉野章二
	東芝・府中	利光　孝	橋口　誠・斉藤　純・利光　孝・西沢　實・早川正志
	国鉄・大井	佐藤　修	榎　博久・落合康夫・鎌田和光・鵜沢秀寿・柏木裕二・鈴木悦雄
	電電東京	池田　信孝	池田信孝・尾崎幹雄・田所光男・土田証雄・宮森庄吉・久保勇次・千野　晃・町田秀和
	北辰電機	千葉　正皓	上原日出男・堀越　進・阿部正行・佐藤正巳・坂井　幹
神奈川	NKK・京浜	八木　和夫	八木和夫・榎森信二・遠藤啓治・青木　昇
	神奈川県庁		小山包博
	横浜市役所	高橋　正宏	斉藤英明・平　敏司・渡辺直人・金子英司・上野利三・秋葉　博・根本道夫・高橋正宏 坂　元産
	日立・戸塚	甘粕　完治	斧　政男・川瀬和利・秋山昌博・宮坂政男・甘粕完治・北村敏明
	三菱重工・横浜	鈴木　勝之	古谷陽一・高橋保則・鈴木勝之・上野　強・山本　勝・赤垣昭憲・高松秀夫
	日産自動車・横浜	桜田　豊治	竹村芳郎・高橋　始・桜田豊治・塚本　選・照井良治・大谷清志・清水昭二
	関東自工	井上　忠久	菅　敏明・佐々木靖雄・笠井教行・高橋　清・粟　英剛・加藤　豊・高階尚緒・佐藤正行
	東芝・浜川崎	青木　実	庄司俊介・内谷正明・柳田治二・佐藤丹次・高津賢司・後藤栄治・秋山光太郎
	富士通・川崎	鈴木　弘之	寺田　繁・篠崎俊久・青木一夫・杉原好一・鈴木弘之・四関修一・山田隆太郎
	日本石油・根岸	泉　信夫	斉藤　満・佐藤幸男・京屋孝治・泉　信夫・石渡輝巳・目黒善喜・野友昭夫
	富士通・川崎	鈴木　弘之	寺田　繁・篠崎俊久・青木和夫・杉原好一・渡辺　誠・鈴木弘之
	いすゞ自動車・川崎	田中　正誼	佐々木孝治・菊地　修・高橋孝治郎・小泉武夫・手塚利男・坂田好司・田中正誼
	東芝タンガロイ	斉藤　保夫	梅田泰三
	鎌倉市役所		鈴木郁雄・島田正樹・三橋秀行
	新日鐵・製品研		山田正弘
	日産自動車・追浜		富田久雄・上田保夫
	米軍横須賀基地		中沢　顕・渡辺善夫
新潟	三條機械製作所	鈴木　裕	鈴木　裕・米山　高・久佳勝利・木村政勝・小柳敏雄・金子　聡・佐藤幸明
長野	諏訪精工舎	塩川　敏行	里見良三
富山	高岡市役所	中山　邦夫	今泉　勉・関村順治・牧野光男・宮林照男・米沢和男・米　正隆・末　坂進
	三晶技研	飛弾　是博	毛利智成・松浦健二・源通直樹・飛弾是博・野畑秀樹・関口謙一
	十條製紙・伏木	工　粂夫	大野幸雄・堺　三徳

県名	事業所名	監督名	選手名
富山	不二越	畑　栄進	八川修一・小松美樹男・山崎　明・西野和雄・利田益弘・明宮秀昭・北野　崇・畑　栄進 谷島軍二・水口良一・田島一正
	富士薬品		桶沢寛二
石川	金沢市役所	堀　知章	林　芳弘・山下敏行・山口　亮・大村正信・坂本　真・中村久雄・米田幸生
	小松製作所・粟津	中村　均	石川順一・桝屋泰弘・北　秀樹・宮越幸一・山川和夫・本良　一・原　明弘・中村　均
	桶谷歯科		堂谷内均
	日本火災・七尾	飴谷　信夫	岡崎健一・飴谷信夫
福井	福井市役所	増永　秀則	阪井範行・山本敏彦・嶋田伸行・宮原　一・増永秀則
静岡	テルモ	渡辺　昭	渡辺　昭・佐野康之・山崎　章・若松隆宏・楠　一昌・有賀三男・望月規義
	富士フィルム	滝　正孝	西島知彦・井出裕雄・吉岡直彦・池田光宏・武井弘征・諏訪部豊・滝　正孝・川原崎仁
	ジャトコ	後藤　和之	芹沢英彦・土屋　仁・後藤和之・関野　強・村松三郎・鈴木朗典・佐野時男・松山博雄
岐阜	三洋電機・岐阜	中井　宏幸	藤井　昭・安藤修一・川述貞延・南波敬三・水野信一・松浦竹典・朝田吉雄
	三菱電機・中津川	千村　義夫	小幡　勇・吉田栄一・永井卓郎・可知俊一・千村義夫・大畑澄夫・田口信之・小田　肇
	岐阜県庁	日比　正昭	加納義之
三重	三菱化成・四日市	増井　孝夫	増井孝夫・小林信行・諸田秀二・市来哲郎・荻田昌昭・毛利浩治・伊藤正巳
	本田技研・鈴鹿	井上　鉄也	井上鉄也・朝日奈正光・河原賢治・三木秀裕・浜口久克・古川勝康・宮崎明彦・松田大吉郎
	富士電機・三重	山口　香	山口　香・下田　勲・森川広美・後藤　久・藤本規夫・後藤俊彦・藤井俊郎
	三菱油化・四日市	古川　幸一	安良城雄介・大倉　忠・服部英樹・北村　保・後藤幸孝・鈴木正平・泉　洋二
	日東電工	蒲田　博	西村　徹・豊田　浩・小川隆志・清原　進・服部芳博・船木　孝・山本光則
	神鋼電機	笠間　進	前田　充・野口　泰・出口　肇・浜口正之
滋賀	大津市役所	久保　宏	釜屋明和・西原四郎・山田杉男・増田伊知郎・矢部忠司・中村　享・藤堂　真
	滋賀銀行	広田　敏夫	藤井弘実・西堀　武・吉田英史・金子正彦・荒木雅男
	TOM	峠　勝也	峠　勝也
京都	福知山市役所	野田　義夫	桐村俊明
	京都中央信用金庫	黒田　豊	菅生　誠・安永　誠
	堀場製作所	永井　博	永井　博
	三菱自工・京都	福井 [illegible]	[illegible]・谷沢和彦・福井達雄・佐々木正司・堀井幸泰・寺尾　豊・石津正明
	海上自衛隊・舞鶴	八木　英俊	田野栄敏・瀬野俊策・藤村利美・小山良光・川村道厚・白井規久夫・白井幸夫
	松風陶歯	奥田馨史雄	高藤哲岳・徳田　進・深谷幸雄・伊佐恒範・竹本栄造
	島津製作所	奥田　俊次	東　洋一・小野　洋・奥田俊次・若林　登・井上　昇・藤江正則・高寺賢吉
大阪	KDD大阪	藤井　靖雄	橋本敏郎
	サントリー	山本　次生	宮崎克己・森下一夫
	電電近畿	滝野　公一	谷島助男・宮本宏和・平野新二・松重恵三・冨田章夫・村田信博・吉兼　保・中島真一 片山修治・西村剛光
	スワロー化研	鷲尾　正一	松浦一浩・南　貴志・西　章弘・野生　計・竹林秀和・川前明裕・鷲尾正一
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	山川正一・那須哲太郎・樋口正幸・中角好男・宮崎庄一・宮沢久男・室元利彦・岡　国臣
	住友金属・大阪	森田　勉	藤野勝次・中沢　登・森田　勉・梅本　彰・野村　隆・山口正和・山道正義
	大阪ガス	北野　公男	小西秀政・北野公男・弘瀬一生・田中真平・早水栄治・出口　譲
	住友生命保険	丸井　広道	小池田　満・木原　茂・丸井広道・佐藤和夫・河本保夫・河合英樹・小川敏夫
	阪急電鉄	市橋　茂	出田安隆・長沢秀信・下野治生・蔵本英二・大野孝二・岡元和弥・市橋　茂
	三洋電機・大阪	篠原　達夫	池田三郎・篠原達夫・岩崎正彦・角南行治・田所正光・辻田平幸・太田和男
	興亜石油・大阪	吾郷　裕志	吾郷裕志・奥野　保・岩垣雅男・日下英明・南　功・広田喜信・箕畑正則
兵庫	住友金属・尼崎	高木　昭憲	小田省二・高木昭憲
	神戸マツダ	橋本　正巳	服部清彦・竹内　茂
	三菱重工・神戸	瀬川　欽也	松本俊英・佐々木繁夫

県名	事業所名	監督名	選手名
兵庫	神戸製鋼・尼崎	渡辺　博氏	尾崎　実・友金利一・田中　至・渡辺博氏・豊村勝巳・木城義明
	新日鐵・広畑	塗　嘉夫	片岡正之・横山真二・藤城武義・広畑輝男・堤田富夫・山田孝昭・平松重吉
	三菱電機・伊丹	矢賀　雅人	寺尾一秀・入口弥一郎・矢賀雅人・久保真一・福富幸雄
	大日日本電線	吉田　昇	森田幸男・今井則明・佐野義則・大野恵一・星立　博・吉田　昇・板垣三郎
	神戸市役所	川口　正光	高原信幸・安房田光男・岸本綾夫・横関　勇・岩田幸雄・横山公一
	三菱電機・神戸	佐々木利彦	佐々木利彦・真崎和美・糸田　敬・上藤朝之・田中一郎・小林忠信
奈良	セキスイ	田中　孝雄	井上典之・北川嘉信
和歌山	住友金属・海南	前川　周三	前川周三・尾崎充男
	住友金属・和歌山	成田　忠一	北山洋二・辻本　進・川村佳司・小形善樹・北山一成・小川　均・野沢英雄
	住金化工	塩谷　広次	田村昭男・徳岡昭次・塩谷広次・中尾孝司・三谷吉彦
岡山	川崎製鉄・水島	中山　睦雄	永井　孝・景山　誠・藤原道弘・平田重男・北村治雄・西江　均・穴吹栄二
	クラレ・倉敷	吉原　俊治	板谷好訓・吉原俊治・小河原治
	三菱石油・水島	渡辺　敦夫	渡辺敦夫・北井勝義・永山和男・若林秀夫・平田　清・田中良治・川上耕司
	三井造船・玉野	藤原　航	芳上一男・田村勝巳・松井　一・山本　清・近藤守男・若林邦任・藤原　航・山峪充弘 藤原修弐
	三菱化成・水島	東　昌二	前田　勇・笠原博文・東　昌二・白神達之・山本実雄
広島	三菱電機・福山	安達　恵吉	安達恵吉・山岡　満・平田尋巳・木村浩之・安達喜兼・山田進一郎・板森増二
	日立・因島	岩越　章	矢野信夫・中村忠一・山本昭生・川本浩之・平川公彦・野田山強・岩越　章
鳥取	鳥取三洋・電機	鷲見　育亮	原　信昭
	王子製紙・米子	安田　徳郎	倉本仁司・神谷昌博・山根富雄・砂川清美・岡　昭徳・北山　晃・八田英俊
	大栄町役場	田中　精一	杉山弘行・福田恭宏
山口	山陽国策パルプ	宮岡　康臣	辻中公人・寺岡利明・林　厚志・富岡康臣・高橋良明・村上弘明・後藤　晃・川岡　智 河野構司
	宇部興産	末広　秀樹	末広秀樹・河添忠夫・坂本賢二・中村俊和・渡辺　宏・藤原　薫・吉川直樹
	興亜石油	田中　博美	金子隆志・喜良明文・木山茂雄
香川	アジア石油	山矢　匡	杉上有一・木村　功・山矢　匡・松木信夫
	香川県庁	真鍋　剛	小山光男・岡　道裕・岡田忠巳・弾正原義春・真鍋　剛・渡辺[illegible]
	高松市役所	野口　利行	栗田康市・大久保　進・太田辰見・木村　茂・松本直樹・多田　満・中西　功
	百十四銀行	日下　昇	日下　昇
愛媛	住友化学・愛媛	権野　明博	佐薙　勲・永井光昭・津村　勉・伊藤和夫・三苫孝一・戸井田　誠・姫野文徳
	丸善石油・松山	能田　隆雄	永井龍夫・竹内洋雅・浜中　誠・能田隆雄・玉井昭憲・石田雅行
高知	高知サンスポーツ	山本　能也	松井智治・山本能也
	高知三菱	溝渕　義信	岡林　豊
長崎	三菱重工・長崎	田中　貞夫	向井美弥夫・森田純一・中野和雄・辻　優・三根　哲・田中貞夫・馬場重文
	三菱電機・長崎	小林　正昭	川久保暢宏・長松保男・小林正昭・梅本俊規・松山　清
愛知	トヨタ自動車	谷口　寛	山本秀樹・坂本宏志・菅原敬二・坂本昌嗣・磯野雄二・辻口裕信・中嶋　修
	新日鐵・名古屋	山本　卓男	山口元吉・天野良彦・佐々木秀一・林　甚代・山西友幸・納所久夫・菅井　孝
	日本電装	上前　茂人	竹田勝彦・朝倉利行・工藤宣慶・田辺康弘・北浦重和・中嶋多田春・上田政弘
	豊田自動織機	武田　正雄	榊原輝次・高橋政勝・一戸光明・山田栄一　正岡洋三・武田正雄・渡辺康夫
	三菱重工・名古屋	山岡　雄一	岩田　崇・松田　仁・松波　譲・沢田正夫・青山忠雄・中橋友行・旭実喜雄
	名古屋鉄道	井沢　宏	加藤保利・井上　龍・柴田琢也・加藤憲治・林　久男・斉藤敬一郎
	電電東海	渡辺　幸男	中川紀嗣・伊藤正昭・水谷悦郎・長江新八・大江喜久雄・伊藤雅昭・鬼頭弘明
	豊田工機	加藤　徳久	西田良彦・加藤徳久・加藤豪俊・佐治　悟・日比野伸昭・松岡秀男・土田信也
	大同特殊鋼	曽我　信重	北川利光・賢生秀隆・戸松一郎・目黒　等・谷川　武・徳橋広美・曽我信重
	王子製紙・春日井	宮田　鉄良	宮田鉄良・宍戸弘史

（女子の部）

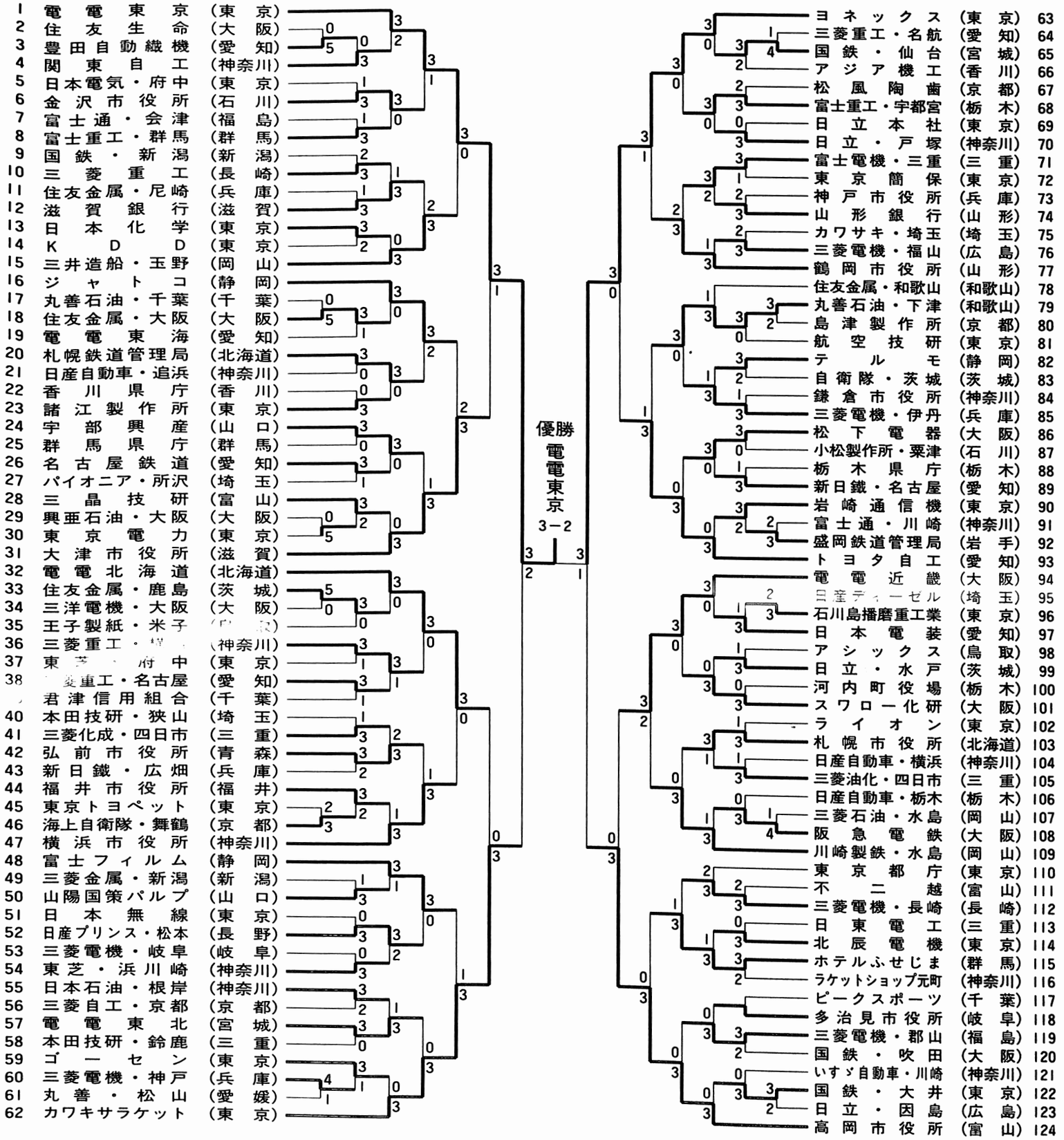
県名	事業所名	監督名	選手名
北海道	地崎工業	越前屋直行	星川喜恵子・中尾ひろみ・新田恵子・矢野晴美・深沢サユリ・西岡孝子
岩手	日本電気・東北	上村　幸吉	三浦とよみ・津田幸江・金今和子・藤村恵美
山形	でん六	伊藤　洋一	佐藤栄美子・田中ゆり子・五十嵐由里・遠藤裕子
福島	富士通・会津		青木マチ子・坂内孝子・武藤ヤエ子・三浦旨子
茨城	住友金属・鹿島	伴　順造	中野由子・松本薬子・千葉典子・船木精子・菅生優子・坂本一江
	日立化成	大塚富士夫	皆川恵美・野口春美・渡辺まゆみ・矢畑かよ子・桜井美代子
栃木	日産自動車・栃木	横山　秀雄	高田圭子・石川泰子・大島美智江・山口るり子
	旭光学・益子	小塙　宏人	植竹由美・山沢圭子・上野加代子・海賀里美・荒川圭子
群馬	ナカヨ通信機	小栗　征夫	小林ルリ子・青山真由美・中島順子・青山真智子・上原由利子
	邑楽町役場	遠藤　幸夫	蜂須弘美・田部井悦子・大月出裕子・筑比地美代子・藤田和美・吉田京子
	群馬県庁	青木　智子	小林正子・青木智子
千葉	ピークスポーツ	峯元　一匡	小菅智子
	丸善石油・千葉	本間　実	児玉康子・横峯初江
	出光・中研	緒方　宣夫	栗田勢津子・増田秀子・緒形友子・竹越美恵
	日産石油	見波　真剛	松浦陽子・白井美由紀・秋元弘子
埼玉	テクニカ	大久保　孟	藤原則子・長島房子
東京	電電東京	池田　信孝	米倉よし子・三田知佳子・桜井千鶴子・岡安千江美・宗像和江
	ヨネックス	栂野尾悦子	栂野尾悦子・関根和子・大塚ソノエ・高野和代・徳永順子・枝美代子・月岡広美・仲田浩子
	カワサキラケット	湯木　博恵	湯木博恵・端　陽護・沢内真由美・高岸陽子・土谷優美・星八重子・河野和子
	東京都庁	島田　稔	山崎清子・大河原清江・大里真由美・稲原朋子
	北辰電機	千葉　正皓	稲田寿美・及川栄子・生田美穂・高井久仁子・佐々木智恵子・丸山由里・折田典子
	明治生命	杉本　伸之	根本雅江・斉藤紀子・面来加津子・橋本恒子・土屋喜英子・滝沢裕子
	KDD	松浪鋭四郎	橋本直子・佐藤和美・福本智子・増田[illegible]・青木芳子
	安田火災	山崎　和彦	清藤ゆう子・大塚由紀子・高橋京子・柳沢友子・望月八重子・深津景子・鶴田亜紀
	学習研究社	小島南海雄	岩沢千賀子・斉田由美・喜多川昌子・長谷川はるみ・長岡みゆき・黒川恵美子
神奈川	日本電気・相模原	宮入　恒明	矢田浩子・田中洋美・下村千恵・掛川英子・嶋林彰子
	日立・戸塚	佐藤　久敏	松田洋子・赤尾杉恵・宮崎玲子・池田綾子・高山秀子・斉藤浩子・小松美紀
	横浜市役所	安藤　保	山森好江・寺田純子・佐藤智子・吉江ちづる
	三菱重工・横浜	鈴木　勝之	石田菊江・菅野佳枝
	日産自動車・横浜	桜田　豊治	石井裕子・笹本敦子・深石恵以子・荒井恵子
	関東自工	井上　忠久	遠藤美智子・田中和子・三觜ひろみ・明田ひとみ・坂内裕美子・大石幸子
	新日鐵・製品研	山田　正弘	寺本裕子
	ラケットショップ元町	小島　一平	松田美恵子・宮本小夜子
新潟	新潟エヌティエヌ	本田　務	市村　静・山田登美子
長野	富士通・長野	小林　敏一	山崎美代子・畔上みゆき・岡村法子・池田美津枝・小林美鈴・甲田智栄美
富山	不二越	田島　一正	池田　薫・山崎信代・山谷光代・甚内美雪
石川	桶谷歯科	桶谷千鶴子	桶谷千鶴子
静岡	本州製紙・富士	町田　守正	甲田　操・磯部千代子・鈴木弘美・戸塚真理子・塩川葉子・橋本秀子・今井田真澄
	富士フィルム	滝　正孝	渡辺貴美子・小幡陽子・望月美和子・中野喜久江
	ジャトコ	望月　一	佐藤圭子・芦沢恵理子・望月ゆう子・遠藤弥生
岐阜	川崎重工	大西　正芳	可児純子・瀬川恵美子・中島幸子・石原敦子・五島早苗
三重	富士電機・三重	後藤　久	田中恵子・板倉典子・黒宮智子・森　久美代・岩谷祥子・山下智子

県名	事業所名	監督名	選手名
三重	本田技研・鈴鹿	黒肥地一則	辻村輝美・菅瀬裕子
	松下電工・伊勢	上田　晴美	福田恵子・浜千代都美子・姫子松晴美・森下　香
滋賀	松下電工・彦根	増田　信治	藤井峰代・中村恵子・西堀久子・苗村三五子
	滋賀銀行	井上　三男	榎並美佐子・若村弥生・大伴博美・澤田政子・辻由美子・山田千満子・上羽保子
京都	三菱自工・京都	戸沢　正雄	山口明美・荒平智子・岩谷彩子
	福知山市役所	野田　義夫	安達真由美
	日新電機	梶村　和成	中沢優美・鶴原由美
大阪	住友金属・大阪	森田　勉	福田知美・東美佐子・水落恵子・加島聡美・井原彰子・川端日登美
	三洋電機	月原　朗	川崎知子・河村茂美・平久美子・植田日出子・沼田晴代・網家玲子・合川裕子
	サントリー	山本　次生	東海林文子・横山ナルミ・葛西明子・原口恵子・西村美千代・国奥美智代・高峯和子・岩見洋子 磯野恵理子・菊地洋子・瀬戸優子
兵庫	三菱電機・伊丹	矢賀　雅人	中岡睦美・栗山美智栄・楠田光子・加藤由紀代
	三菱電機・神戸	上藤　朝之	田坂佐知子・岸上裕子・武貞景子・野崎かおる・畑田佳代・西沢真理
	住友金属・尼崎	高木　昭憲	町田富美・巽　園代・藤戸久美子・原　峰子・大村初美
	三菱重工・神戸	瀬川　欽也	宮野早苗・吉原恵美子・西山洋子・山内永子・田中昭代・金沢葉子
	富士通・明石	高畠　勇	三浦恵子・小椋孝美・木下満喜子・吉原久美・栗林尚美・橋間順子
	神戸製鋼・高砂	梅田　裕美	堀　滋美・西川美晴
奈良	セキスイ	田中　孝雄	嶋田順子
和歌山	住友金属・和歌山	成田　忠一	千葉穂波・松本　恵・口地可奈・野村真利子
岡山	川崎製鉄・水島	阪口　勇	三宅洋子・小林敏子・木村典子・古賀知子・高津美枝子・松井博子・大月君恵
	三菱化成・水島	東　昌二	佐藤妙子・丸山文恵・川崎京子・多久島千秋・向原英美
	松本組	小寺　裕美	小寺裕美・小山真弓
	岡山市役所	熊沢　凡夫	相賀節子・杉本光枝・藤木史子・西尾直美・倉田裕子・橋岡節子・笠井桂子
広島	呉市役所	相田　和男	工藤千恵美・西村弥生・臼井瑞恵・本谷由子
鳥取	倉吉市役所	中林　正樹	松本益江・米田美奈子・山下雅子・坂本志津枝・河原条俊子
	鳥取三洋電機	鷲見　育亮	松野光都・井上和子
山口	日新鉄鋼	善本　公志	田中和枝・山口里枝・濱田真澄・今枝真利子
香川	高松琴平電鉄	東条フミ子	磯崎早余子・小野尊世・山下朋子・東条フミ子
	百十四銀行	日下　昇	北池ひとみ・四宮美苗・阿川一代・波柴京子・中川育子・能野順子
長崎	三菱重工・長崎	田中　貞夫	山口美鈴
福岡	西日本相互銀行	田中　茂行	江口佐和美・高見みどり・阿武屋圭子・北村雅美
愛知	アイシン精機	飯見　隆治	加藤麻利子・渡辺もとこ・松島千明・小野原彦子・円山久美子・引地喜代子・諸泉松代
	ソニー・一宮	大友　武	西村優子・野田幸路・小島美幸・金森節子・清水美津子・野入里美・松野由紀子
	豊田通商	西山　直文	木野美智代・伊藤多恵・鈴木豊子・中村孝子・梅村由美・桜井由美
	大同特殊鋼	曽我　信重	東　敏恵・古川律子・深沢美砂・藤田由利・山崎孝子
	三菱重工・名古屋	山岡　雄一	松田由美子・旭奈穂子・濱恵子・大山泰代・宮地有子・拓植裕恵・川端幸子
	名古屋鉄道	井沢　宏	三崎恵子・近藤あけみ・今井京子・佐賀　恵
	豊田自動織機	正岡　洋三	小川みゆき・原子節子・滝本裕美・下山るみ子・田食晴代・西塚千恵子
	日本電装	藤江　至	小松澄子・加塩淳子・皆川詔子・水谷昌代・片山りつ子・畑原博美・関矢亮子
	新日鐵・名古屋	山本　卓男	佐伯幸子・吉田加奈子・小野孝江・森川美和・浅田妙子
	トヨタ自動車	堀　幸矩	渡辺喜美・山西百恵・柳田智佳子・宮本深由紀・安田外美・長谷川妙子・岸本奈緒美 青木はつ代・坂内優美子

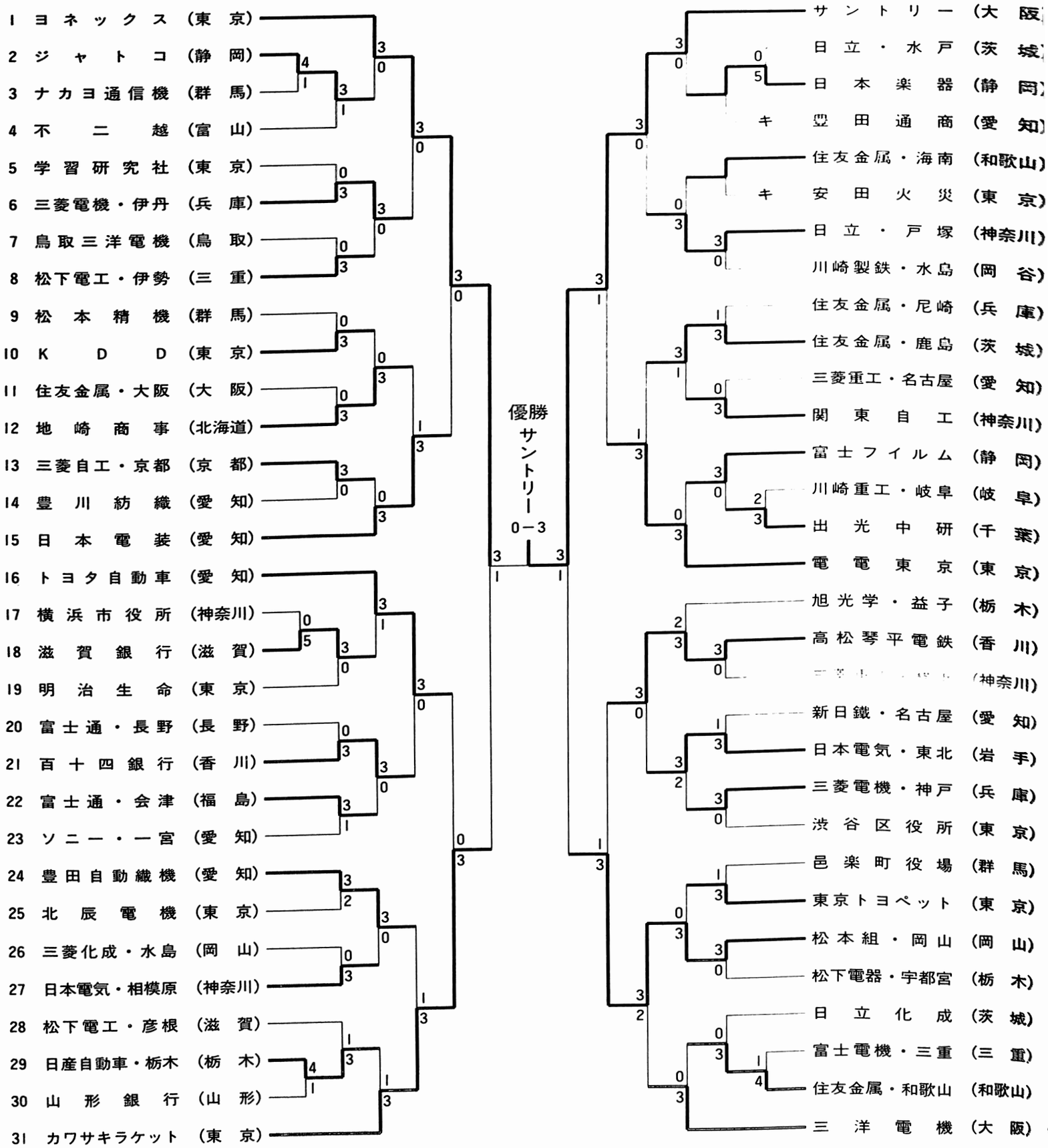
第32回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1982年(昭和57年)6月16～20日
開 催 地：東京都立川市
会　　場：東京都立川市市民体育館

■男子団体の部



■女子団体の部


1 ヨネックス (東京)
2 ジャトコ (静岡)
3 ナカヨ通信機 (群馬)
4 不二越 (富山)
5 学習研究社 (東京)
6 三菱電機・伊丹 (兵庫)
7 鳥取三洋電機 (鳥取)
8 松下電工・伊勢 (三重)
9 松本精機 (群馬)
10 KDD (東京)
11 住友金属・大阪 (大阪)
12 地崎商事 (北海道)
13 三菱自工・京都 (京都)
14 豊川紡織 (愛知)
15 日本電装 (愛知)
16 トヨタ自動車 (愛知)
17 横浜市役所 (神奈川)
18 滋賀銀行 (滋賀)
19 明治生命 (東京)
20 富士通・長野 (長野)
21 百十四銀行 (香川)
22 富士通・会津 (福島)
23 ソニー・一宮 (愛知)
24 豊田自動織機 (愛知)
25 北辰電機 (東京)
26 三菱化成・水島 (岡山)
27 日本電気・相模原 (神奈川)
28 松下電工・彦根 (滋賀)
29 日産自動車・栃木 (栃木)
30 山形銀行 (山形)
31 カワサキラケット (東京)
優勝
サントリー
0－3
サントリー (大阪)
日立・水戸 (茨城)
日本楽器 (静岡)
キ 豊田通商 (愛知)
住友金属・海南 (和歌山)
キ 安田火災 (東京)
日立・戸塚 (神奈川)
川崎製鉄・水島 (岡谷)
住友金属・尼崎 (兵庫)
住友金属・鹿島 (茨城)
三菱重工・名古屋 (愛知)
関東自工 (神奈川)
富士フイルム (静岡)
川崎重工・岐阜 (岐阜)
出光中研 (千葉)
電電東京 (東京)
旭光学・益子 (栃木)
高松琴平電鉄 (香川)
(神奈川)
新日鐵・名古屋 (愛知)
日本電気・東北 (岩手)
三菱電機・神戸 (兵庫)
渋谷区役所 (東京)
邑楽町役場 (群馬)
東京トヨペット (東京)
松本組・岡山 (岡山)
松下電器・宇都宮 (栃木)
日立化成 (茨城)
富士電機・三重 (三重)
住友金属・和歌山 (和歌山)
三洋電機 (大阪)

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
北海道	札幌市役所	島中　貞夫	山口　明生	佐藤　靖志	渋井敏紀・工藤義憲・中平正幸・久保田昭夫・佐藤靖志・皆川正己 中村義則
	電電北海道	菅原　光宏	木村　敏男	米山　孝二	遠藤好男・佐藤義孝・平沢　徹・米山孝二・篠尾幸孝・久郷俊明 千葉昌弘
	札幌鉄道管理局	富田　哲郎	乙武　重丸	乙武　重丸	広川幸児・山田好明・高橋　進・高崎厚生・七崎悦範・松村徳市 乙村重丸
青森	弘前市役所	小山内信一	山崎　直樹	中村　博典	斉藤和則・福士文敏・工藤徳男・佐藤雅幸・島内俊二・桜田　靖 小山内聡
岩手	盛岡鉄道管理局	佐藤　恭彦	佐藤　恭彦	鬼柳　孝夫	鬼柳孝夫・畠山静夫・石川　淳・石川　聡・高橋房裕・岩渕和浩
宮城	電電東北	孫田　忠誠	尾形　信夫	新宮　光也	峯田喜次郎・足立順市・小沢正彦・須藤嘉朗・狩野義則・江原　弘 鈴木正美
	国鉄・仙台	関　千秋	笠原　元晴	鈴木　由香	松田　芳範・二瓶源治・田辺　豊・大沼久喜・石崎利夫・堀米孝太郎 木村　宏
山形	鶴岡市役所	中鉢喜八郎	窪田　寛士	佐藤千佳子	真田昭良・上原正明・小林保夫・丸山勝美・秋庭一生・佐藤　茂 佐藤茂巳
	山形銀行	小関　正洋	吉住　昭	吉住　昭	山口泰雄・荒井謙治・三浦政治・斎藤隆吉・鈴木洋史
福島	富士通・会津	松田　嘉博	塚越　厚生	谷沢　正広	青木昭弘・寺田　繁・渡辺正光・高橋良仁・清野徹也・結城富雄
	三菱電機・郡山	星野　勉	星野　勉	星野　勉	松崎和朗・大河原貞敏・井上治朗・星野　勉・村越要蔵・古川一浩 大河原正浩
茨城	自衛隊・茨城	山下　裕久	室岡　幸伸	金本　俊夫	室岡幸伸・糸賀弘己・五味渕実・金本俊夫・洞口　勝・安藤正美 中村公一
	日立・水戸	濱田　勇	濱田　勇	菅野　孝	和田講一・阿部信之・狩野秀一・松崎祐治・早川　博・福田喜代志 菅野　孝
	住友金属・鹿島	別所　清	島林　総蔵	梅沢　和則	駒田　忠・墳本敏幸・柳岡成児・梅沢和則・塩谷忠秋・坂本昌士 渡辺博道
栃木	栃木県庁	湯沢　雄一	湯沢　雄一	和久　光男	湯沢雄一・古沢元浩・鈴木　武・池田勝浩・和久光男・安藤武雄 池田　実
	富士重工・宇都宮	本多　靖正	永山　隆	高橋　保	三上隆康・川上岩雄・田中　勇・大島　厳・山崎一男・高橋　保
	河内町役場	鈴木　悦夫	鈴木　悦夫	橋本　初男	鈴木悦夫・斉藤幸夫・橋本初男・和田典行
	日産自動車・栃木	千場　忠祐	田中　英男	佐藤　博	[illegible]・青柳哲夫・入江正夫
群馬	群馬県庁	[illegible]　亘	江黒　亘	松本喜久男	千葉元衛・金井　功・林　保男・村井貴幸・山崎信明・笛田千春 松本喜久男
	富士重工・群馬	江田　道雄	渡辺　晃一	大木　利行	高野貞男・松村　昌・中居功治・竹内康夫・丸山清春・目黒正浩 常田正人
	ホテルふせじま	伏島　武一	伏島　晴彦	遠藤ひとみ	遠藤正弘・池田隆治・宮崎　広・高橋利明・萩原幸宏・高橋辰夫 伏島晴彦
埼玉	カワサキラケット・埼玉	澤泉　力三	松浦　一郎	近藤　英宏	平野耕一・岡田　清・丸山繁夫・近藤英宏・祖泉伸一・山口照俊 久本純治
	本田技研・狭山	水野谷秀麿	藤田　茂樹	水野谷秀麿	藤田茂樹・阿部　力・岩田好夫・山崎義信・清水宏之・大橋　正
	日産ディーゼル	岡村　信一	木下　秀利	新井　晃	木下秀利・酒井宏実・新井富男・佐伯哲郎・新井　晃
	パイオニア・所沢	鈴木　勤	近藤　均		千葉　健・鈴木洋一・小松久男・小泉敏章・澤辺孝夫・馬場良一 山下　力
千葉	ピークスポーツ	峯元　一匡	峯元　一匡	鈴木　啓次	新井春雄・大場和博・織本富之・鈴木啓次・鶴野　弘・峯元一匡
	丸善石油・千葉	梶井田博義	本間　実	幸野　邦昭	佐藤一男・浅利章悦・滝本和大・上田正敏・畑中孝昭・岩瀬　洋 本間　実
	君津信用組合	山口　進	佐久間政広	佐久間政広	玉造寿則・武藤良治・山口　進・佐久間政広・川島　浩
東京	電電東京	相澤　和夫	池田　信孝	宮下規矩雄	池田信孝・尾崎幹雄・田所光男・土田証雄・宮森庄吉・久保勇次
	ヨネックススポーツ	土田　隆	栂野尾昌一	佐藤　竜典	栂野尾昌一・辻　敏弘・長谷川博幸・工藤重信・山本　浩・宮本幸弘 千徳勝利
	カワサキラケット	堺　栄一	今井　茂満	川井　浩	銭谷欽治・角田重男・中井基夫・根岸　淳・藤波哲治・別府雅典 楠美誠悦

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
東京	東京トヨペット	入間 秀哲	入間 秀哲	入間 秀哲	福田利男・橘川光孝・青木年也・小林義孝・沢田和俊・山野正義 北村義孝
	東京電力	石原 泰造	内田 修	橋本 栄	石原泰造・岩間 顕・佐野治俊・原田 勇・橋本 栄・田中 徹 高野 徹
	東京都庁	島田 稔	島田 稔	小林 賢治	後藤 勝・島田 稔・大原政義・中田洋二・小林賢治・馬場猛夫
	北辰電機	上畑 清郎	中山 広明	佐藤 雅巳	上原日出男・佐藤雅巳・堀越 進・阿部正行・坂井 幹・山本洋彦 大越雄樹
	国鉄・大井	鎌田 耕一	佐藤 修	鈴木 悦雄	山口清春・鎌田和光・鵜沢秀男・板 博久・落合康夫・柏木裕二 鈴木悦雄
	石川島播磨重工	高橋 菱	村田 俊夫	村田 俊夫	浅井良伸・塚本明男・宮城信次・村田俊夫・新江弘美・佐藤 武
	諸江製作所	清島 清治	市村 栄文	篠崎 誠治	市村栄文・篠崎誠治・杉山 保・勝木由夫・平田敏師・糸満 顕 貫井智一
	東芝・府中	今橋 一彦	利光 孝	橋口 誠	利光 孝・西沢 寛・吉田正幸・坂口千年・長内秀彦・斉藤 純 早坂正志
	航空宇宙技研	堀内 正司	楯 篤志	楯 篤志	楯 篤志・平林則明・野口正芳・佐藤 衛
	KDD	跡部 真之	大髭 輝雄	五十嵐 正	竹中啓二・斉藤利昭・新井隆博・藤平 守・塩谷 正・前川栄一 釜石 篤
	東京簡保	蔵之内信昭	武田 公正	廣田みちる	吉野登二・吉明地正邦・八杉貞雄・小畑辰美・中沢睦夫・飯塚正之 武田公正
	ゴーセン・東京	上田 了	中村 輝充	高野 文子	高橋清治・津坂秀雄・鎌田啓睦・佐賀 隆・青木義生・星野清志
	岩崎通信機	定野 満	沢田 和彦	沢田 和彦	中瀬一義・下山 実・沢田和彦・家串友治・手塚浩志・手塚雅志 宗方一志
	日本光学	中込 惇	本多 修治	中込 惇	宮島 実・根岸光正・渡辺英明・百瀬智宣・斉木利雄・大滝 茂 三上 修
	日本無線	吉田 繁	後藤 金作	佐藤 隆	後藤金作・吉田 繁・平川勇一・佐藤 隆・千葉政一・磯野順司
	日本電気・府中	鳥居 高志	秋吉 文男	丸山 一馬	向井晴久・宮口 等・上原俊一・奥村享一・千田 誠・若林博史 青山耕一郎
	日立・本社	助重 滋男	片岡 孝嘉	南 寿夫	林 幸三・南 寿夫・片岡孝嘉・佐倉和明・谷垣正雄・佐藤広行
	ライオン	荒井 道夫	荒井 道夫	樋沢 修	馬場好美・遠藤 実・中丸芳広・山懸義文・樋沢 修・荒井道夫
神奈川	ラケットショップ元町	宮川 秀樹	小島 一平	永吉 知彦	小島一平・草島正治・門前 優・小山良之・小倉久和・渡辺勇樹 石黒伸久
	日産自動車・横浜	進藤 彰夫	桜田 豊治	大谷 清志	竹村芳雄・塚本 選・照井良[illegible] 桜田豊治
	鎌倉市役所	三橋 秀行	小松 真一	丹沢 正	鈴木郁雄・島田正樹・諸石昭好・内田勝宏・関沢幹雄・磯崎勇次 小松真一
	東芝・浜川崎	松浦紀久雄	青木 実	庄司 俊介	柳田治二・庄司俊介・内谷正明・高津賢司・井堀正則・後藤栄治 阿部 清
	いすゞ自動車・川崎	佐々木孝治	佐々木孝治	手塚 利男	佐々木孝治・菊地 修・高橋幸治郎・手塚利男・伊藤一好
	日産自動車・追浜	富田 久雄	石渡 潤	富田 久雄	石渡 潤・富田久雄・大桃佐利・飯沢秋好・高橋敏昭・丸尾訓明
	日立・戸塚		甘粕 完治	北村 敏明	斧 政男・坂口勝則・秋山昌博・宮坂政男・甘粕完治・北村敏明
	日本石油・根岸	京屋 孝治	泉 信夫	泉 信夫	京屋孝治・泉 信夫・石津富雄・目黒善喜・石渡輝己・野友昭夫 大久保俊生
	三菱重工・横浜	尾上 久浩	鈴木 勝之	上野 強	鈴木勝之・古谷陽一・高橋保則・守口 茂・小松 宏・上野 強 近藤純一
	富士通・川崎	篠崎 俊久	鈴木 弘之		篠崎俊久・杉原好一・青木一夫・菊地生昭・寺門義之・山ノ内一明 山田隆太郎
	関東自工	郡司 毅	井上 忠久	三觜ひろみ	管 敏明・佐々木靖雄・高橋 清・加藤 豊・前田 透・一瀬浩美 高橋久之
	横浜市役所	元木 光男	安藤 保	葛篭貫 武	広沢昭一・斉藤英昭・平 敏司・金子英司・秋葉 博・根本道夫 柄本 孝
新潟	三菱金属・新潟	那須野 滋	有本 健	三宮祐紀子	入沢一由・星 誠司・山崎芳一・宮村一則・大泉和之・宮村 久 那須野 滋
	国鉄・新潟	藤牧 利夫	大堀 正明	岡村 修	居城 誠・佐々木康郎・桜庭春芳・重山 明・田村 功・大野得郎 山田 健

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
長野	日産プリンス・松本販売	降旗　克己	小林　一道	渡辺　聡子	山川泰博・梨子田大茂・奥原祐二・田中一也・横山隆男・林　康行 内川満博・斉藤秀哉
富山	高岡市役所	中崎　一之	中山　邦夫	河村　博之	今泉　勉・関村順治・牧野光男・宮林照男・米沢和男・米　正隆 末坂　進
	三晶技研	浅井　秀一	飛弾　是博	源通　直樹	飛弾是博・源通直樹・毛利智成・松浦健二・吉森勝之
	不二越	川上　洋一	畑　栄進	梶谷　典夫	八川修一・小松美樹男・山崎　明・明官秀昭・西野和雄・中島　進 新田寛義
石川	小松製作所・粟津	熊田　郁也	中村　均	本　良一	石川順一・桝野泰弘・北　秀樹・宮越幸一・関戸隆司・原　明弘 本　良一
	金沢市役所	駒谷　良則	堀　知章	太田　博之	林　芳広・山口　亮・米田幸生・山下敏行・太村正信・毛利達彦 森　昭則
福井	福井市役所	小野田幸夫	増永　秀則	松村　尚美	増永秀則・山本敏彦・嶋田伸行・宮原　一・岩本好文
静岡	テルモ	山崎　章	渡辺　昭	佐野　康之	渡辺　昭・佐野康之・若松隆宏・望月規義・有賀三雄
	ジャトコ	久保田幸夫	後藤　和之	佐藤　佳久	芹沢英彦・関野　勉・後藤和之・鈴木朗典・村松三郎・佐野時男 望月　一
	富士フイルム	吉田　真	滝　正孝	小幡　陽子	西島知彦・井出裕雄・吉岡直彦・池田光宏・武井弘征・諏訪部豊 滝　正孝
愛知	トヨタ自動車	北田　寛一	谷口　寛	谷口　寛	山本秀樹・磯野雄二・菅原敬二・坂本宏志・坂本昌嗣・辻口裕信 中嶋　修
	名鉄	速水　正昭	井沢　宏	加藤　憲治	加藤保利・井上　龍・加藤憲治・林　久男・斉藤敬一郎
	日本電装	鈴木　欣老	上前　茂人	田辺　康弘	上前茂人・工藤宣慶・朝倉利行・田辺康弘・中嶋正春・金子　聡 藤田　実
	豊田自動織機	大束　祥順	武田　正雄	武田　正雄	高橋政勝・一戸光明・岩渕信司・山田栄一・朝倉善康・武田正雄 尾崎　弘
	新日鐵・名古屋	小島　吉夫	山本　卓男	山本　卓男	山口元吉・佐々木秀一・林　甚代・山西友幸・納所久夫・菅井　孝 山本卓男
	三菱重工・名古屋	旭　寿夫	中橋　友行	柴田　慎一	松波　譲・沢田正夫・岩田　崇・青山忠雄・旭実喜雄・船木真司 大矢部道雄
	電電東海	冨永　武義	渡辺　幸男	安戸　一孝	木谷栄一郎・伊藤正晴・中田勘嗣・長江新八・木下耕一・清水孝四 伊藤雅昭
	三菱重工・[illegible]	高見　昌男	山岡　雄一	中川　文雄	松田　仁・濱　俊雅・坂本雅美・中川正剛・小林茂幸・坂本教公 鶴丸悦正
三重	三菱化成・四日市	増子　達郎	増井　孝夫	川合　洋子	増井孝夫・小林信行・伊藤正己・諸田秀二・田中秀俊・市来哲郎 荻田昌昭
	本田技研・鈴鹿	朝日奈正光	下村　雅彦	黒田　良文	朝日奈正光・三木秀裕・沢口達哉・古川勝康・鈴木義弘・世古浩一 黒田良文
	富士電機・三重	馬場　晋	山口　香	森川　広美	山口　香・下田　勲・後藤俊彦・森川広美・後藤　久・藤本規夫 小林英毅
	三菱油化・四日市	高橋　力男	古川　幸一	生川　文彦	安良城雄介・泉　洋児・鈴木正平・大倉　忠
	日東電工	蒲田　博	服部　芳博	豊田　浩	西村　徹・清原　進・服部芳博・船木　孝・豊田　浩・山本光則 小川隆志
岐阜	三洋電機・岐阜	藤井　昭生	中井　宏幸	荒木　久信	安藤修一・川述貞延・水野信一・南波敬三・松浦竹典・荒木久信 藤井昭生
	多治見市役所	万字　益雄	河田　満	青山　崇	河田　満・仙田弘志・武知勝年・青山　崇・河田祥則・佐藤喜好 佐藤真彦
滋賀	大津市役所	久保　宏	久保　宏	佐藤　賢	釜屋明和・山田杉男・増田伊知郎・中村　享・藤堂　真・矢部忠司 藤原健二
	滋賀銀行	井上　三男	井上　三男	西堀　武	駒井久男・西堀　武・金子正彦・藤井弘美・川副直博・広田敏夫 荒木雅男
京都	三菱自工・京都	岡本　宏也	福井　達雄	横山　高尚	福井達雄・谷沢和彦・勝村育生・竹井宣夫・佐々木正司・寺尾　豊
	松風陶歯	高藤　哲岳	高藤　哲岳	長谷川ひとみ	徳田　進・伊佐恒範・深谷幸雄・奥田磐史雄・竹本栄造・小笹博之 高藤哲岳
	海上自衛隊・舞鶴	八木　英俊	八木　英俊	白井規久夫	田野栄敏・川村道厚・瀬野俊策・小山良光・白井規久夫・白井幸夫 沢田巧二

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
京都	島津製作所	野村 嘉明	奥田 俊次	高寺 賢吉	東 洋一・奥田俊次・小野 洋・高寺賢吉・藤江正則・井上 昇 若林 登
大阪	電電近畿	角田 喜宏	谷島 助男	鈴木 康弘	宮本宏和・平野新一・松重忠一・村田信博・福田章夫・吉兼 保 守安達二
	住友金属・大阪	藤野 勝次	藤野 勝次	東 美佐子	中沢 登・梅本 彰・野村 隆・山口正和・梅津裕一・斉藤正博 藤野勝次
	松下電器・大阪		渡辺 雅仁	北野 誠一	宮崎庄一・山川正一・那須哲太郎・樋口正幸・中角好男・川本厳良 仲田康英
	住友生命	河合 英樹	丸井 広道	山口 幸子	河合英樹・小池田満・丸井広道・河本保夫・佐藤和夫・小川敏夫 谷田勝哉
	スワロー化研	朝倉 義三	鷲尾 正一	鈴木 富子	西 章弘・野生 計・竹林秀和・南 貴志・南田義正・川前明裕 鷲尾正一
	三洋電機・大阪	池田 三郎	篠原 達夫	辻田 平幸	岩崎正彦・角南行治・田所正光・小路常光・西島 功・辻田平幸 篠原達夫
	阪急電鉄	操田 浩	操田 浩		出田安隆・長沢秀信・下野治生・蔵本英二・市橋 茂・大野孝二 西郷幸司
	国鉄・吹田	東山 健次	中島 憲二	矢田 義秋	永野 豊・小松公人・矢田義秋・山下 治
	興亜石油・大阪	久村 幸正	井関 博		吾郷裕志・岩垣雅典・日下英明・広田喜信・田中秀行・南 功
兵庫	三菱電機・神戸	美濃 順一	佐々木利彦	野崎かおる	上藤朝之・森永雄二・若林洋司・田中一郎・三宅慎太郎・池渕順一 真崎和美
	新日鐵・広畑	江成 務	塗 嘉夫	平川 正義	片岡正之・平松重吉・横山真二・坪井英之・堤田富大・藤城武義 川北信一
	三菱電機・伊丹	北 義一	矢賀 雅人	寺尾 一秀	中岡嘉孝・福富幸雄・寺尾一秀・直野俊治・吉富明生・入口弥一郎 入口藤男・村田信二
	神戸市役所	川口 正光	川口 正光	岸本 綾夫	高原信幸・沢田信二・岸本綾夫・安房田光男・横関 勇・老田達雄
	住友金属・尼崎	松田 勝彦	高木 昭憲	奥村 晴一	高木茂和・小田清二・斉藤圭二・蔭山茂喜・片岡栄一・高木昭憲 奥村晴一
和歌山	丸善石油・下津	石川 順平	和久谷富章	前原 拓也	穂谷真弘・楠戸春則・上野健一・森 隆・中尾一之・向井広行 橋爪長太郎
	住友金属・和歌山	竹山 宗芳	成田 忠一	赤坂 幹夫	川村桂司・北山洋二・小形喜樹・小川 均・西山祥一・梅林信幸 乳井重雄
鳥取	アシックス	田中 平三	安部 一夫	松本冨美子	柏木慎一郎・武良進吾・高[illegible]
	王子製紙・米子	安田 徳郎	安田 徳郎	佐藤 大昭	岡 昭徳・倉本仁司・北出 晃・神谷昌博・八田英俊・砂川清美 山根富雄
岡山	三井造船・玉野	北垣 淳剛	虻江 優	松岡 純子	藤原 航・芳上一男・山本 清・近藤守男・若林邦任・青木隆久 土居信夫
	川崎製鉄・水島	高松 和彦	中山 睦雄		藤原道弘・平田重男・永井 孝・北村治雄・西江 均・片岡洋一 中山睦雄
	三菱石油・水島	苗加 順一	渡辺 敦夫	渡辺 敦夫	田中良治・北井勝義・川上耕司・永山和男・高塚道男・若林秀夫 平田 清
広島	日立・因島	米村 実	岩越 章	岩越 章	矢野信夫・川本浩之・山本昭生・中村忠一・平川公彦・岩越 章
	三菱電機・福山	森谷 吉弘	安達 恵吉	板森 増二	安達恵吉・山岡 満・安達喜兼・山田進一郎・板森増二・佐久間康郎 丸山 利
山口	宇部興産	松村 哲幸	末廣 秀樹	田中 義秋	末廣秀樹・河添忠夫・坂本賢二・藤原 薫・中村俊和・渡辺 宏 吉川直樹
	山陽国策パルプ・岩国	谷渕 龍夫	川戸 浩司	貴船 博己	宮岡康臣・林 厚志・辻中公人・高橋良明・保良智司・後藤 晃 村上弘明
香川	香川県庁	河合 親	弾正原義春	榎本 典昭	弾正原義春・小山光男・岡 道祐・渡辺健也・榎本典昭・今雪良智 谷本竹司
	アジア機工	山矢 匡	山矢 匡	木村 功	山矢 匡・久保田和男・木村 功・橋本初芳
愛媛	丸善石油・松山	兼岡 伸次	永井 龍夫	竹内 洋雅	竹内洋雅・玉井昭憲・永井龍夫・石田雅行・岡崎紘一・兼岡伸次
長崎	三菱重工・長崎	江戸昭八郎	田中 貞夫	田中 賢介	福田良治・向井美弥夫・森田純一・三根 哲・中野和雄・田中賢介 田中貞夫
	三菱電機・長崎	小林 正昭	小林 正昭	梅本 俊規	川久保暢宏・小林正昭・梅本俊規・松山 清・久保真一

（女子の部）

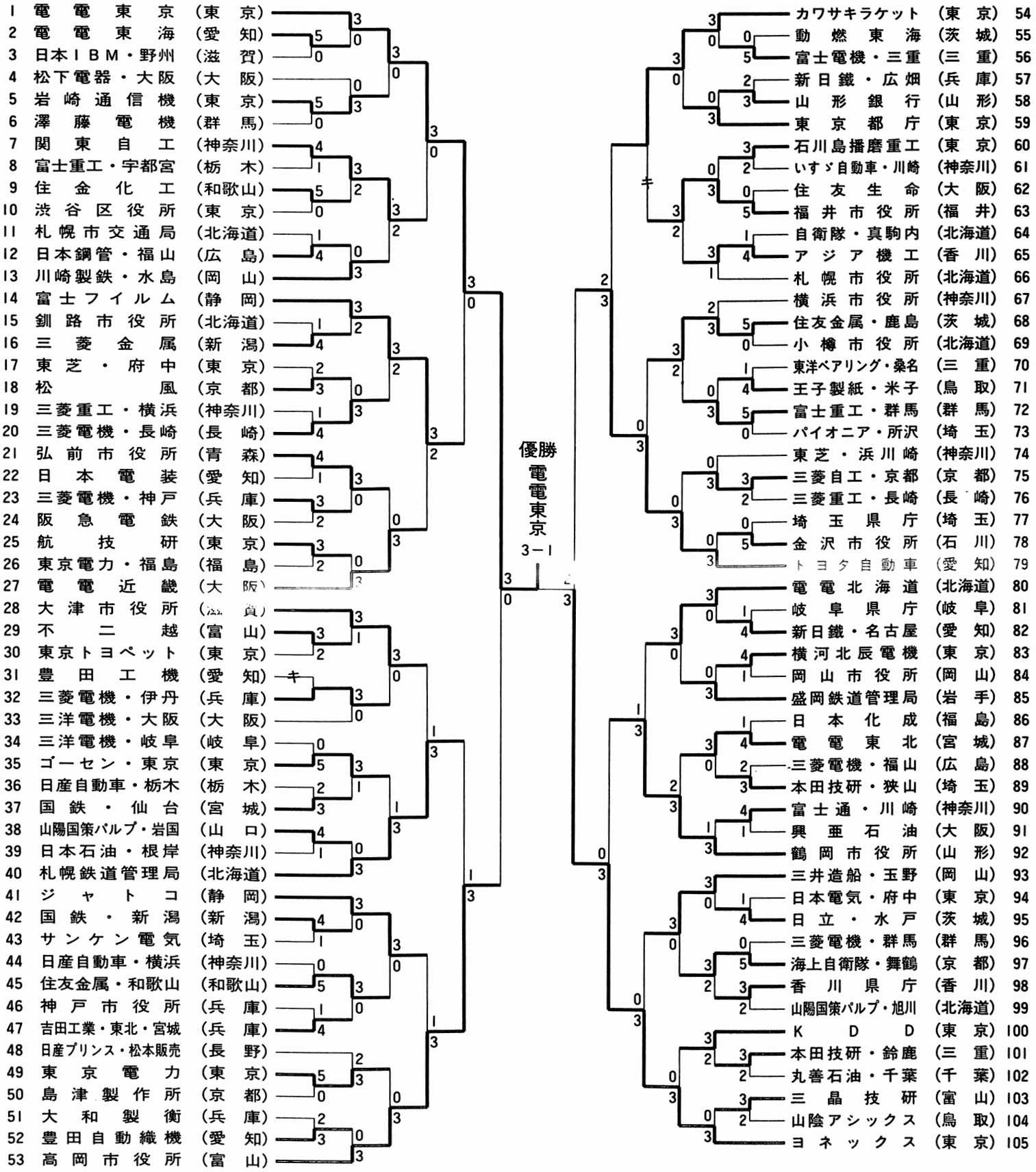
県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
北海道	地崎商事	松浦　勤	越前屋直行	岡本　伝	星川喜恵子・中尾ひろみ・新田恵子・只野晴美・深沢サユリ 西岡孝子
岩手	日本電気・東北	上村　幸吉	上村　幸吉		津田幸江・藤村恵美・小野寺恵美子・及川富美子
山形	山形銀行	小関　正洋	吉住　昭	吉住　昭	鈴木のり子・荒川由美・金子美由紀・石沢恵美子・星　直美
福島	富士通・会津	松田　嘉博	塚越　厚生	谷沢　正広	青木マチ子・坂内孝子・寺田浩子・三浦旨子・武藤ヤイ子
茨城	住友金属・鹿島	別所　清	島林　総蔵	梅沢　和則	船木精子・中野由子・菅生優子・坂本一江・日向美幸・北崎百合子 柏　礼子
	日立・水戸	濱田　勇	福田喜代志	菅野　孝	四ツ倉恵子・大内玲子・木内朱美・中井川洋美・進藤美樹
	日立化成	塩谷　彰一	大塚富士夫	野口　春美	皆川恵美・野口春美・渡辺まゆみ・矢畑かよ子・桜井美代子 香取真由美・藤井美子
栃木	松下電器・宇都宮	平出十四夫	平出十四夫		有野恵子・早川一江田・石浜芳恵・杉山一美
	日産自動車・栃木	千場　忠祐	田中　英男	髙田　圭子	高田圭子・石川泰子・大島美智江・山口るりこ・石川恵美子
	旭光学・益子	倉本　秀清	小塙　宏人	植竹　由美	山沢圭子・上野加代子・海賀里美・植竹由美・荒川圭子・猪瀬美津枝
群馬	邑楽町役場	相場　定利	田部井悦子	筑比地美代子	田部井悦子・大胘祐子・筑比地美代子・吉田京子・藤田和美
	松本精機	檜原　常子	近藤　政子	戸谷　和枝	近藤政子・町田ひさ江・戸谷和枝・檜原常子・鈴木恵美子 松井千恵子
	ナカヨ通信機	小栗　征夫	上野　弘一	青山真由美	青山真由美・中島順子・上原由利子・青山真智子
千葉	出光・中研	緒方　宣夫	緒方　宣夫	山本　文忠	緒方友子・増田秀子・粟田勢津子・原寿美子
東京	ヨネックススポーツ	土田　隆	栂野尾悦子	増田　啓子	栂野尾悦子・宮森ソノエ・高野和代・枝美代子・徳永順子・月岡広美
	カワサキラケット	堺　栄一	湯木　博恵	染谷　瑞穂	湯木博恵・高岸陽子・土屋優美・本橋佳代子・山下奈々子・星八重子 染谷瑞穂
	安田火災	松島　実	山崎　和彦	鶴田　亜紀	清藤ゆう子・高橋京子・望月八重子・大塚由起子・只木智美 関　千恵・池田久子
	東京トヨペット	入間　秀哲	入間　秀哲	峯岸　幸子	村杉ともか・渡辺恵理奈・花輪美保・内野律子
	渋谷区役所	秋野　尊愛	近岡　昭	桑原　和夫	松本昭子・菊地富江・吉野遊子・若尾よしみ・伊沢剛子・和田由貴江
	ＫＤＤ	跡部　直之	村[illegible]	上原　正俊	橋本直子・佐藤和美・川鍋早智子・福本節子・渡辺ひとみ
	学習研究社	古岡　勝	小島南海雄	黒川恵美子	岩沢千賀子・長岡みゆき・黒川恵美子・斎田由美・喜多川昌子 長谷川はるみ・杉山紀子
	北辰電機	上畑　清郎	中山　広明	佐藤　雅巳	高井久仁子・及川栄子・生田美穂・折田典子・丸山由里 佐々木智恵子
	明治生命	宮永　武司	杉本　伸之	服部　秀昭	根本雅江・斉藤紀子・面来加津子・橋本恒子・土屋喜英子・滝沢裕子
	電電東京	相澤　和夫	池田　信孝	宮下規矩雄	米倉よし子・三田知佳子・桜井千鶴子・岡安千江美・宗像和江 平尾彰子
神奈川	三菱重工・横浜	尾上　久浩	鈴木　勝之	石田　菊江	菅野佳枝・熊沢加代子・横山しのぶ・大竹真紀子・石田菊江
	日本電気・相模原	板倉　信雄	宮入　恒明	矢田　浩子	田中洋美・掛川英子・嶋林彰子・下村千恵・伊藤哲子・神野佳恵 加藤明美
	横浜市役所	元木　光男	安藤　保	髙橋　陽子	山森好江・寺田純子・吉江ちづる・佐藤智子・野村優子・中島佳江 渋沢美智子
	関東自工	郡司　毅	井上　忠久	三觜ひろみ	明田ひとみ・遠藤美智子・大石幸子・坂内祐美子・羽鳥裕貴子 片瀬寿賀・菅沼みちる
	日立・戸塚		佐藤　久敏	小松　美紀	赤尾杉恵・宮崎玲子・高山秀子・斉藤浩子・小松美紀
長野	富士通・長野	平賀　譲	小林　敏一	山崎美代子	山崎美代子・畔上みゆき・池田美津枝・小林美鈴・甲田智栄美 久保美智恵
富山	不二越	川上　洋一	中田　一利	梶谷　典夫	池田　薫・山谷光代・甚内美雪・平井智美・高本清美
静岡	富士フイルム	吉田　真	滝　正孝	小幡　陽子	小幡陽子・佐野みゆき・望月美和子・中野喜久江・渡辺貴美子
	ジャトコ	久保田幸夫	松山　博雄	佐藤　佳久	芦沢恵里子・佐藤圭子・遠藤弥生・望月ゆう子・富田令子 石垣真裕操・出島鈴代
	日本楽器	国田　佳資	飯野　佳孝	永田　弓子	飯野裕子・山本美津子・川島直子・彼島佳子・原田純子・小池かおり

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名 (○印は主将)
愛知	日本電装	小須田恒輔	藤江 至	小松 澄子	皆川詔子・小松澄子・加塩淳子・片山りつ子・関矢亮子・宮本美津子 佐名美幸
	トヨタ自動車	北田 寛一	堀 幸矩	谷口 寛	柳田智佳子・長谷川妙子・岸本奈緒美・丸井ひとみ・田中美千代 橋本真由美・寺嶋紀見
	豊田自動織機	大東 祥順	武田 正雄		小川みゆき・滝本裕美・田食晴代・西塚千恵子
	ソニー・一宮	戸張 正勝	大友 武	清水美津子	野田幸路・小島美幸・松野由起子・野入里美・高間洋子・藤田佳子 村瀬恵美子
	三菱重工・名古屋	旭 寿夫	中橋 友行	柘植 祐恵	旭奈穂子・浜 恵子・宮地有子・萬谷みどり・大山泰代・小木曽弘美 利光麻理子
	豊田紡織	山内 透	小栗 桂治	山田千代子	木下玲子・向居直美・柴田道子・神戸伊佐子・吉住成美・山田千代子
	豊田通商	坂井 雄三	西山 直文	中村 孝子	伊藤多恵・梅村由美・西村光代・渡部百合子
	新日鐵・名古屋	小島 吉夫	菅井 孝	山本 卓男	吉田可奈子・浅田妙子・森川美和・津田奈緒美・谷内陽子・渋谷裕子 小坂由美子
三重	松下電工・伊勢	高瀬洋志夫	上田 晴美	福田 恵子	福田恵子・浜千代都美子・姫子松晴美・松下 香
	富士電機・三重	馬場 晋	後藤 久	森川 広美	田中恵子・黒宮智子・板倉典子・岩谷祥子・山下智子・森 千晴
岐阜	川崎重工・岐阜	中井 通夫	白山 秀一	赤松 弘一	可児純子・瀬川恵美子・五島早苗・石原敦子
滋賀	滋賀銀行	井上 三男	井上 三男	西堀 武	若村弥生・大伴博美・沢田政子・辻由美子・青山寿美・上羽保子 山田千満子
	松下電工・彦根		守野 定夫 増田 信治	中村 恵子	藤井峰代・田中登子・苗村三五子・西堀ひさ子・橋川光子・中村恵子
京都	三菱自工・京都	岡本 宏也	戸沢 正雄	横山 高尚	山口明美・荒平智子・岩谷彩子・高倉さち子
大阪	三洋電機	国 弘正	月原 朗	宇治 収	河村茂美・平久美子・植田日出子・網家玲子・合川裕子・北田スミ子 冨田美千代
	サントリー	岡野 昌弘	山本 次生	野中 弘美	東海林文子・葛西明子・西村美千代・国奥美智代・岩見洋子 高峯和子・陣内貴美子
	住友金属・大阪	藤野 勝次	水落 恵子	東 美佐子	水落恵子・加島聡美・井原彰子・川満日登美・阿部茂子
兵庫	三菱電機・伊丹	北 義一	矢賀 雅人	加藤由紀子	井口利江・谷沢信子・谷口須美子・乾 万里・永井恵子
	住友金属・尼崎	松田 勝彦	高木 昭憲	奥村 晴一	町田富美・巽 園代・大村初美・[illegible] 峰子・川中節子
	三菱電機・神戸	美濃 順一	佐々木利彦	野崎かおる	岸上裕子・野崎かおる・畑田佳代・武貞景子・西沢真理・林 智子 加木場久子
和歌山	住友金属・和歌山	竹山 宗芳	辻本 進	野沢 英雄	千葉穂波・大塚静枝・口地可奈・野村真利子・正田美智子
	住友金属・海南	友松 泰男	前川 周三	竹中 裕子	林 幸子・尾保手鈴美・小西清子・坊出貢子・竹中裕子・福田百香 西浦仁美
鳥取	鳥取三洋電機	高田 昭利	鷲見 育亮	牧田 保明	井上和子・春吉美津子・西本美幸・西尾真理子
岡山	松本組・岡山	朝霧 晴夫	近藤 小織	小寺 裕美	近藤小織・高田幹子・小寺裕美・合田なおみ
	三菱化成・水島	伊藤 正雄	川上 徹悟	白神 達之	佐藤妙子・川崎京子・多久島千秋・向原英美
	川崎製鉄・水島	中山 睦雄	三宅 洋子	千田 裕子	古賀知子・三宅洋子・木村典子・森分紀子・亀山結花・三宅淳子 安藤久美
香川	高松琴平電鉄	中村朔之介	東条フミ子		東条フミ子・磯崎早余子・小野尊世・山下朋子・前川知寿子
	百十四銀行	大津 新平	日下 昇	新田 豊子	北池ひとみ・桑島美苗・阿川一代・岡本昌子・中川育子・波柴京子 佃 貴子

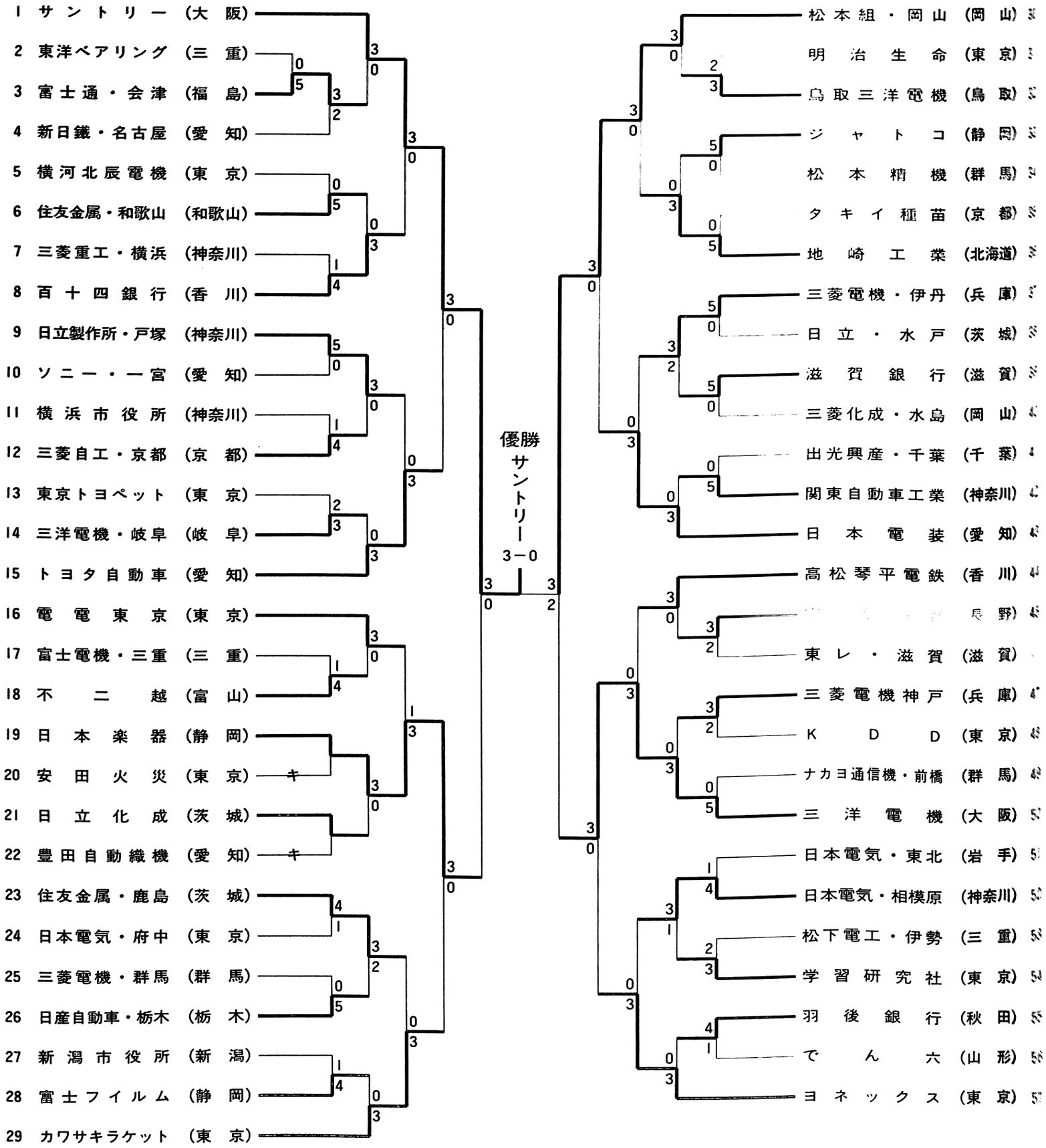
第33回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1983年(昭和58年)6月22～26日
開 催 地：北海道札幌市
会　　場：札幌中島体育センター別館、
札幌市北区体育館、札幌中央体育館

■男子団体の部



■女子団体の部


1 サントリー (大阪)
2 東洋ベアリング (三重)
3 富士通・会津 (福島)
4 新日鐵・名古屋 (愛知)
5 横河北辰電機 (東京)
6 住友金属・和歌山 (和歌山)
7 三菱重工・横浜 (神奈川)
8 百十四銀行 (香川)
9 日立製作所・戸塚 (神奈川)
10 ソニー・一宮 (愛知)
11 横浜市役所 (神奈川)
12 三菱自工・京都 (京都)
13 東京トヨペット (東京)
14 三洋電機・岐阜 (岐阜)
15 トヨタ自動車 (愛知)
16 電電東京 (東京)
17 富士電機・三重 (三重)
18 不二越 (富山)
19 日本楽器 (静岡)
20 安田火災 (東京)
21 日立化成 (茨城)
22 豊田自動織機 (愛知)
23 住友金属・鹿島 (茨城)
24 日本電気・府中 (東京)
25 三菱電機・群馬 (群馬)
26 日産自動車・栃木 (栃木)
27 新潟市役所 (新潟)
28 富士フイルム (静岡)
29 カワサキラケット (東京)
優勝
サントリー
3－0
松本組・岡山 (岡山)
明治生命 (東京)
鳥取三洋電機 (鳥取)
ジャトコ (静岡)
松本精機 (群馬)
タキイ種苗 (京都)
地崎工業 (北海道)
三菱電機・伊丹 (兵庫)
日立・水戸 (茨城)
滋賀銀行 (滋賀)
三菱化成・水島 (岡山)
出光興産・千葉 (千葉)
関東自動車工業 (神奈川)
日本電装 (愛知)
高松琴平電鉄 (香川)
長野
東レ・滋賀 (滋賀)
三菱電機神戸 (兵庫)
KDD (東京)
ナカヨ通信機・前橋 (群馬)
三洋電機 (大阪)
日本電気・東北 (岩手)
日本電気・相模原 (神奈川)
松下電工・伊勢 (三重)
学習研究社 (東京)
羽後銀行 (秋田)
でんろく (山形)
ヨネックス (東京)

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
長崎	三菱重工・長崎	江戸昭八郎	田中　貞夫	田中　賢介	江坂敏郎・森田純一・三根　哲・福田良治・中野和雄・田中貞夫 田中賢介
	三菱電機・長崎	小林　正昭	長松　保男	川久保暢宏	小林正昭・長松保男・川久保暢宏・松山　清・川上敏夫・久保真一
香川	アジア機工	山矢　匡	山矢　匡	木村　功	山矢　匡・久保田和男・杉上有一・木村　功・橋本初芳・田中政剛
	香川県庁	河合　親	弾正原義春	今雪　良智	弾正原義春・小山光男・渡辺健也・今雪良智・谷本竹司・榎本典昭 岡田忠己
山口	山陽国際パルプ・岩国	谷渕　龍夫	宮岡　康臣	貴船　博巳	高橋良明・辻中公人・宮岡康臣・林　厚志・村上弘明・保良智司 後藤　晃
鳥取	山陰アシックス	田中　平三	安部　一夫	松本冨美子	武良進吾・山本　浩・高梨　務・足立文和・安部一夫・柏木慎一郎 一橋　剛
	王子製紙・米子	安田　徳郎	岡　昭徳	八田　英俊	倉本仁司・神谷昌博・砂川清美・山根富雄・北出　晃・武良　優 岡　昭徳
広島	三菱電機・福山	稲田　信	安達　恵吉	板森　増二	安達恵吉・山岡　満・安達喜兼・平田尋己・佐久間康郎・板森増二
	日本鋼管・福山	脇谷　昇武	梅月　隆	前田　巧	梅月　隆・財津真二・辻原利之・上杉淳司・佐藤嗣隆
岡山	川崎製鉄・水島	高松　和彦	中山　睦雄		永井　孝・藤原道弘・平田重男・西江　均・北村治雄・片岡洋一 中山睦雄
	三井造船・玉野	細田　高代	虻江　優	松岡　純子	藤原　航・松井　一・山本　清・近藤守男・若林邦任・高本行男 土居信夫
	岡山市役所	岸本　秀雄	岡本　武利	青木　元春	小松　貴・三浦　真・内藤元久・平井道也・矢吹栄治・妹尾和彦 庄森龍剛
和歌山	住友金属・和歌山	竹山　宗芳	野沢　英雄	豊崎　俊春	小川　均・北山洋二・西山祥一・梅林信幸・乳井重雄・児島　浩 川村桂司
	住友化工	辻　司	塩谷　広次	浦口　勉	田村昭男・森　隆・玉置幸三・徳岡昭次・西　章弘・中尾孝司
兵庫	新日鐵・広畑	江成　務	平松　重吉	片岡　正之	片岡正之・平松重吉・横山真二・坪井英之・広岡輝男・川北信一
	三菱電機・伊丹	北　義一	寺尾　一秀	寺尾　一秀	寺尾一秀・中岡嘉孝・福富幸雄・直野俊治・入口弥一郎
	大和製衡	木下欣二郎	小川　雄一	草田　降	小川雄一・稲本光一・草田　降・山本　勝・藤本純一
	三菱電機・神戸	[illegible]	上藤　朝之	上藤　朝之	上藤朝之・森永雄二・池渕順一・三宅慎太郎・横田　明・若林洋司
	神戸市役所	川口　正光	高原　信幸	岸本　直	高原信幸・沢田信二・横関　勇・安房田光男・岸本綾夫・萩之内和実
大阪	電電近畿		池田　芳麻	鈴木　康弘	平野新二・松重恵三・宮本宏和・吉兼　保・守安達二・保科正浩 武野　忠
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	藤井　潔	北野　誠一	宮崎庄一・山川正一・那須哲太郎・中角好男・樋口正幸・森脇紳二 米良大助
	興亜石油	久村　幸正	井関　博	井関　博	吾郷裕志・日下英明・岩垣雅典・広田正則
	三洋電機・大阪	池田　三郎	篠原　達夫	久保田義弘	岩崎正彦・角南行治・田所正光・山内重夫・太田和男・西島　功 篠原達夫
	住友生命	高畑　義郎	丸井　広道	山口　幸子	丸井広道・小池田満・河合英樹・狩野卓也・小川敏夫・田畑秀樹 谷田勝哉
	阪急電鉄	操田　浩	渋谷　元己		出田安隆・長沢秀信・下野治生・蔵本英二・大野孝二
京都	三菱自工・京都	岡本　宏也	福井　達雄	荒平　智子	勝村育生・谷沢和彦・竹井宣夫・佐々木正司・寺尾　豊・福元文雄 福井達雄
	松風	高藤　哲岳	高藤　哲岳	長谷川ひとみ	徳田　進・伊佐恒範・深谷幸雄・高藤哲岳・小笹博之・平田昌弘 竹本栄造
	海上自衛隊・舞鶴	平川　求文	田野　栄敏	川村　道厚	田野栄敏・小山良光・瀬野俊策・川村道厚・白井規久夫・白井幸夫 沢田巧二
	島津製作所	野村　嘉明	奥田　俊次	井上　昇	東　洋一・奥田俊次・小野　洋・高寺賢吉・井上　昇・沢井良明 若林　登
滋賀	大津市役所	久保　宏	佐藤　賢	西原　四郎	釜屋明和・山田杉男・藤原健二・増田伊知郎・中村　亨・藤堂　真 矢部忠司
	日本ＩＢＭ・野州	木下　寿則	小原　径一	馬場　和樹	木下寿則・富田健一・梅本一寛・柏原慶一・俣木淳一
三重	富士電機・三重	馬場　晋	山口　香	森川　広美	山口　香・下田　勲・森川広美・藤本規夫・小林英毅・後藤　久 伊藤幸和

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
三重	本田技研・鈴鹿	黒肥地一則	黒肥地一則	世古 浩一	三本秀裕・朝日奈正光・鈴木義弘・澤口達哉・古川勝康・遠藤哲也 世古浩一
	東洋ベアリング・桑名	日比野正明	小林 茂樹	石橋 昌則	小林茂樹・石橋昌則・尾畑信一・清水保彦・三輪悦二
愛知	トヨタ自動車	小宮 好雄	谷口 寛	谷口 寛	山本秀樹・磯野雄二・菅原敬二・坂本宏志・坂本昌嗣・須貝英俊 上田啓夫
	豊田工機	佐伯外興昭	佐伯外興昭	安藤まゆみ	日比野伸昭・上田信也・大阪哲嗣・加藤泰俊・東 正也・松岡秀男
	新日鐵・名古屋	小島 吉夫	山本 卓男	加藤 勇一	山口元吉・大野良彦・佐々木秀一・林 基代・山西友幸・町 充 納所久夫
	豊田自動織機	大東 祥順	武田 正雄		岩渕信司・一戸光明・石井宏明・尾崎 弘・榊原輝次・渡辺康夫 小林 稔
	日本電装	鈴木 欣老	朝倉 利行	藤田 実	工藤宣慶・朝倉利行・中嶋正春・金子 聡・田辺康弘・藤田 実 蒲池 明
	電電東海	冨永 武義	伊藤 雅昭	伊藤 正昭	水谷悦郎・中川紀嗣・長江新八・伊藤正昭・清水孝四・中村昌司 木下耕一
岐阜	三洋電機・岐阜	阪口巳代治	中井 宏幸	川述 貞延	松浦竹典・藤井昭生・川述貞延・荒木久信・中井宏幸
	岐阜県庁	篠田 恭彦	日比 正昭	野口 和美	田口伸治・加納義之・浅野人美・小池裕紀・高橋秀治・高橋伸治 内記淳司
静岡	ジャトコ	久保田幸夫	後藤 和之	佐藤 佳久	後藤和之・芹沢英彦・鈴木朗典・土屋 仁・村松三郎・関野 強 佐野時男
	富士フイルム	滝 正孝	滝 正孝	滝 正孝	滝 正孝・西島知彦・井出裕雄・吉岡直彦・池田光宏・武井弘征 竹田明彦
福井	福井市役所	小野田幸夫	増永 秀則	松村 尚美	山本敏彦・鶴田伸行・宮原 一・岩本好文・野村和夫・増永秀則
石川	金沢市役所	駒谷 良則	田辺 忠彦	太田 博之	山下敏行・林 芳広・米田幸生・毛利達彦・太村正信・田村 稔 森 昭則
富山	高岡市役所	開 博	中山 邦夫	河村 博之	今泉 勉・関村順治・牧野光男・米沢和男・米 正隆・宮林照男 西本幸夫
	三晶技研	浅井 秀一	飛弾 是博	源通 直樹	飛弾是博・源通直樹・毛利智成・松浦健二・吉森勝之
	不二越	川上 洋一	畑 栄進	梶谷 典夫	八川修一・山崎 明・西野和雄・明官秀昭・中島 進・碓井政人 畑 栄進
長野	日産プリンス・松本販売	降旗 克巳	小林 一道	渡辺 聡子	山川泰博・梨子田大茂・奥原祐二・内川満博・降旗克巳・斉藤秀哉 田中一也
新潟	国鉄・新潟	江原 昭二	大堀 正明	居城 誠	居城 誠・佐々木康郎・桜庭春芳・大野得郎・山田 健・田村 ・ 菅原清隆
	三菱金属	山本 勝	有本 健	三宮祐紀子	入沢一由・山本 勝・大泉和之・宮村 久・那須野滋
神奈川	関東自工	有村 洋一	井上 忠久	三觜ひろみ	高橋 清・佐々木靖雄・加藤 豊・細谷 昇・高橋久之・一瀬浩美 横田順一
	横浜市役所	元木 光男	安藤 保	安藤 康輝	広沢昭一・秋葉 博・平 敏司・斉藤英昭・阿部信行・根本道夫 柄本 孝
	三菱重工・横浜	尾上 久浩	古谷 陽一	横山しのぶ	高橋保則・古谷陽一・鈴木勝之・小松 宏・上野 強・近藤純一 前田淳一
	富士通・川崎	安福 真民	篠崎 俊久	鈴木 弘之	篠崎俊久・青木一夫・後藤正志・寺門義之・鶴田紀雄・鈴木弘之 山ノ内一明
	日本石油・根岸		京屋 孝治	渋谷 和浩	京屋孝治・泉 信夫・目黒善喜・石渡輝巳・大久保俊生・渋谷和浩 野友昭夫
	いすゞ自動車・川崎	波 博義	菊池 修	手塚 利男	高橋幸治郎・佐々木孝治・菊池 修・手塚利男・伊藤一好・尾形隆英
	日産自動車・横浜	進藤 彰夫	桜田 豊治	大谷 清志	竹村芳雄・塚本 選・大谷清志・小泉浩一・桜田豊治・清水昭二
	東芝・浜川崎	松浦紀久雄	庄司 俊介	庄司 俊介	柳田治二・庄司俊介・内谷正明・井堀正則・阿部 清・岡田 実
東京	電電東京	相澤 和夫	池田 信孝	宮下規矩雄	池田信孝・尾崎幹雄・土田証雄・久保勇次・宮森庄吉・西山博司 長内征美
	ヨネックス	土田 隆	栂野尾昌一	佐藤 竜典	栂野尾昌一・長谷川博幸・宮本幸弘・丹藤勇一・工藤重信・千徳勝利 西村 修
	カワサキラケット	堺 栄一	今井 茂満	川井 浩	今井茂満・銭谷欣治・角田重男・根岸 淳・藤波哲治・別府雅典 楠美誠悦
	東京都庁	島田 稔	島田 稔	小林 賢治	後藤 勝・島田 稔・大原政義・小林賢治・高田 浩・中田洋二

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
東京	東京トヨペット	入間　秀哲	入間　秀哲	沢田　和俊	福田利男・橘川光孝・青木年也・山野正義・沢田和俊・菊地　修
	岩崎通信機	定野　満	中瀬　一義	中瀬　一義	中瀬一義・家串友治・手塚浩志・手塚雅志・宗形一志・鳥羽恒康
	東芝・府中	今橋　一彦	利光　孝	橋口　誠	利光　孝・坂口千年・西沢　寛・長内秀彦・斉藤　純・早坂正志 北林雅之
	東京電力	石原　泰造	内田　修	橋本　栄	石原泰造・岩間　源・厚川　勇・橋本　栄・田中　徹・高野　徹
	航空宇宙技研	堀内　正司	高梨　進	楯　篤志	楯　篤志・平林則明・野口正芳・佐藤　衛・名越孝行・阿部正男 水原　泰
	横河北辰電機	上畑　清郎	中山　広明	生田　美穂	上原日出男・阿部正行・堀越　進・山本洋彦・中山広明・蜂巣博司
	石川島播磨重工	高橋　譲	浅井　良伸	佐藤　武	塚本明男・宮城信次・浅井良伸・橋本秀郎・新江弘美・菅野利三 佐藤　武
	日本電気・府中	鳥居　高志	丸山　一馬	丸山　一馬	向井晴久・宮口　等・千田　誠・上原俊一・奥村亨一・丸山一馬
	KDD	武村　俊平	大髭　輝雄	目黒　仁一	藤平　守・橋本敏邦・斎藤利昭・新井隆博・塩谷　正・松永　浩 谷岡祐一
	渋谷区役所	秋野　尊愛	近岡　昭	和田由貴江	近岡　昭・川口善司・桑原和夫・佐野浩一・真木洋一・遠山敏幸 福島和也
	ゴーセン・東京	山上　啓三	中村　輝充	高野　文子	鎌田啓睦・青木義生・星野清志・本石俊憲・兼坂省一・中村輝充
埼玉	パイオニア・所沢	鈴木　勤	近藤　均	鈴木　洋一	馬場良一・澤辺孝夫・近藤　均・山下　力・那賀敬弘・鈴木洋一
	本田技研・狭山	小島日出夫	藤田　茂樹	大橋　正	藤田茂樹・岩田好夫・山崎義信・清水宏之・堀越　勉
	埼玉県庁	吉成　素彦	黒須　栄	芦沢　正博	芦沢正博・粂　浩二・黒川雅彦・椎木隆夫・大熊　孝
	サンケン電気	田中　忠義	今井　清兼	田中　忠義	薄田隆衛・小椋喜代次・和田　節・坂元　勝・田中忠義
千葉	丸善石油・千葉	梶田　博義	本間　実	幸野　邦昭	佐藤一男・滝本和大・浅利章悦・中尾一之・岩瀬　洋・鮫島洋一 本間　実
群馬	富士重工・群馬	江田　道雄	渡辺　晃一	高野　貞男	中居功治・松村　昌・竹内康夫・丸山清春・目黒正浩・井上秀文 山崎健二
	澤藤電機	志村　勝己	志村　勝己	甕庭　孝夫	田中　司・古川　千・池田幸雄・渡辺孝夫・藤田康夫・角田恒雄 志村勝己
	三菱電機・群馬	茂木　正弘	茂木　正弘		米田　守・町田光之・田島文雄・高橋勝美・茂木正弘
栃木	日産自動車・栃木	千場　忠祐	田中　英男	大島美智江	大八木正・青柳哲夫・大塚浩司・田上　悟・笠井孝之
	富士重工・宇都宮	本多　靖正	永山　隆	近嵐　裕司	三上隆康・川上岩雄・田中　勇・大島　巌・山崎一雄
茨城	住友金属・鹿島	川崎　守夫	島林　総蔵	梅沢　和則	駒田　忠・墳本敏幸・梅沢和則・坂本昌士・渡辺博道・岡田常雄
	日立・水戸	濱田　勇	和田　講一	菅野　孝	和田講一・福田喜代志・本村祐造・狩野秀一・松崎祐治・小島孝治 菅野　孝
	動燃・東海村	笹尾　信之	米川　雪夫	中里　昌治	渡辺健治・小林　満・上原典文・市毛良明・堀口幸一・綿引博美
福島	日本化成	大塚　良次	古館　信義	渡辺　隆男	高橋秀之・平向一郎・平山雅広・小松孝典・古館信義・渡辺隆男
	東京電力・福島	中林　仁	斉藤　満雄	小塚　達男	本間　宏・長谷川政利・小塚達男・山田保夫・飯田武利・白井文人 五十嵐圭一
宮城	電電東北	孫田　忠誠	尾形　信夫	峯田喜次郎	田所光男・足立順市・須藤嘉朗・樋場淳浩・狩野義則・江原　弘 峯田喜次郎
	国鉄・仙台	笠原　元晴	須藤　義昭	及川　明子	松田芳範・二瓶源治・田辺　豊・大沼久喜・笠原元晴・石崎利夫 堀米孝太郎
	吉田工業・東北	水口　利之	中塩　房雄	押切　吉基	千葉清人・佐々木祐治・中塩房雄・押切吉基・金輪隆司・丸谷昭三 平間要一
山形	鶴岡市役所	窪田　寛士	小林　保夫	佐藤千佳子	真田昭良・上原正明・秋庭一生・丸山勝美・佐藤　茂・佐藤茂巳 大川利男
	山形銀行	茂木　重蔵	吉住　昭	土田　和夫	荒井謙治・三浦政治・斎藤隆吉・鈴木洋史・大谷英二
岩手	盛岡鉄道管理局	佐藤　泰彦	鬼柳　孝夫	鬼柳　孝夫	石川　淳・畠山静夫・高橋房裕・石川　聡・鬼柳孝夫
青森	弘前市役所	小山内信一	山崎　直樹	中村　博典	斉藤和則・工藤徳男・福士文敏・佐藤雅幸・島内俊二・福士忠弘 小山内聡
北海道	電電北海道	中道　雅克	木村　敏男	篠尾　幸孝	遠藤好男・佐藤義孝・平沢　徹・米山孝二・久郷俊明・千葉昌弘 中島俊也

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
北海道	札幌市役所	島中　貞夫	山口　明生	佐藤　靖志	渋井敏紀・工藤義憲・野田　豊・中平正幸・久保田昭夫・高田政則 中村義則
	小樽市役所	深山　雄造	大石　章	笹山　時彦	高野幹男・東田朋也・佐々木尚文・阿部幸夫・目黒清則・徳満康浩 藤川歳之
	釧路市役所	植木　英郎	斉藤　英樹	石原　憲一	藤井達也・目塚敏勝・荒木英男・山下　茂・浅野留治・吉田茂徳 藤井範彦
	札幌市交通局	難波　年弘	山田　一博	熊木　憲治	山田一博・熊木憲治・今　和紀・岸本和弘・修理　修
	札幌鉄道管理局	冨田　哲郎	乙武　重丸	野沢　明	高嶋厚生・高橋　進・松村徳由・松岡　誠・七崎悦範・山本晴通 山田好明
	山陽国策パルプ・旭川	戸出　信春	岡部　文男	岩佐　穣	山形賢二・高畑佳史・大槻英男・門馬　朗・竹田　誠・岩佐　穣 岡部文男
	自衛隊・真駒内	込山　三男	山田　正光	水上　紘宇	葛西孝行・伊藤寿史・田中裕司・能戸光美・鳴瀬　豊・相川　強 宮前裕之

（女子の部）

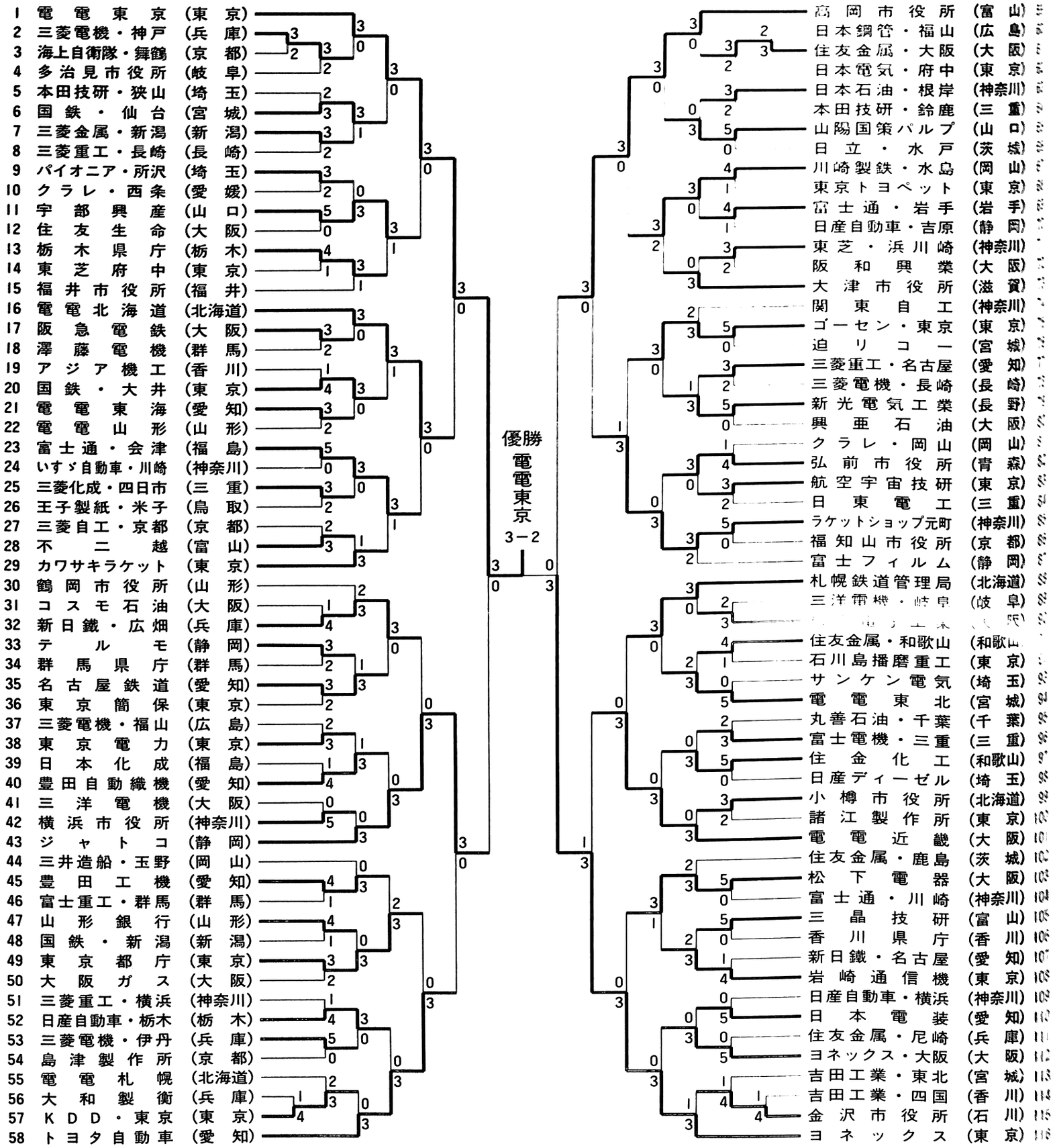
県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
香川	高松琴平電鉄	中村朔之介	東条フミ子	東条　義昭	東条フミ子・磯崎早余子・松村順子・前川知寿子・成合三枝
	百十四銀行	大津　新平	日下　昇	新田　豊子	浜田由理・岡本昌子・波柴京子・中川育子・佃　貴子・樋口礼子
鳥取	鳥取三洋電機	高田　昭利	鷲見　育亮	牧田　保明	西本美幸・西尾真理子・徳長由美・小坂淳子・森本礼子
岡山	松本組・岡山	朝霧　晴夫	河本　小織	合田なおみ	河本小織・高田幹子・原田美智子・合田なおみ
	三菱化成・水島	伊藤　正雄	東　昌二	白神　達之	川崎京子・多久島千秋・板野好子・原田寿子・馬場佳津子
和歌山	住友金属・和歌山	竹山　宗芳	川村　佳司	豊崎　俊春	野村真利子・大塚静枝・正田美智子・寺田恵美子
兵庫	三菱電機・伊丹	北　義一	矢賀　雅人	寺尾　一秀	谷沢信子・谷口須美子・永井恵子・井口利江・乾　万里・山崎邦恵 近葉裕子
	三菱電機・神戸	佐々木利彦	野崎かおる	上藤　朝之	野崎かおる・畑田佳代・武貞景子・林　智子・柿本正美・竹内百合
大阪	サントリー	井上　健弘	山本　次生	磯野恵理子	東海林文子・葛西明子・西村美千代・岩見洋子・菊池洋子・高峯和子 陣内貴美子
	三洋電機	中井　健三	月原　朗	宇治　収 網家　玲子	河村茂美・平久美子・上田日出子・合田裕子・[illegible]子 富田美千代・福田麻寿美
京都	三菱自工・京都	岡本　宏也	戸沢　正雄	荒平　智子	山口明美・荒平智子・岩谷彩子・高倉さち子
	タキイ種苗	麻田　次男	田中　睦美	大槻　雅代	田中睦美・大槻雅代・岡田真理子・茶野圭子・矢島美貴・並木詠子
滋賀	滋賀銀行	井上　三男	西堀　武	西堀　武	沢田政子・大伴博美・辻由美子・青山寿美・上羽保子・山田千満子 赤井恵美子
	東レ・滋賀	橋本　健	古川　正行	沢野美津子	北垣明美・沢野美津子・曾和啓子・滝本尚美・佐倉美智子
三重	松下電工・伊勢	高瀬洋志夫	福田　恵子	福田　恵子	福田恵子・浜千代都美子・姫子松晴美・森下　香・北岡真美
	富士電機・三重	馬場　晋	山口　香	森川　広美	板倉典子・田中恵子・黒宮智子・岩谷祥子・山下智子・森　千晴 竹内奈々美
	東洋ベアリング・桑名	日比野正明	小林　茂樹	石橋　昌則	水谷美恵子・服部より子・伊藤裕美子・一木美樹江・佐藤真弓
愛知	日本電装	水野　正人	藤江　至	片山りつ子	片山りつ子・関矢亮子・宮本美津子・佐名美幸・宮本　忍・元田慶子 阿部浜子
	トヨタ自動車	小宮　好雄	堀　幸矩	谷口　寛	柳田智佳子・笠松美智代・岸本奈緒美・丸井ひとみ・田中美千代 橋本真由美・不破優加里
	豊田自動織機	大束　祥順	朝倉　康善		滝本裕美・西塚千恵子・田食晴代・斉藤直子・黒沢江美子
	ソニー・一宮	戸張　正勝	大友　武	村瀬恵美子	野田幸路・横山浩子・山田理恵・森八重子・岡崎比呂美・村瀬恵美子 藤田佳子
	新日鐵・名古屋	小島　吉夫	菅井　孝	吉田可奈子	吉田可奈子・浅田妙子・森川美和・谷内陽子・渋谷裕子・津曲奈緒美 小坂由美子
岐阜	三洋電機・岐阜	阪口巳代治	中井　宏幸	川述　貞延	高橋由美子・荒井京子・白井淳子・井上栄子・服部節子
静岡	日本楽器	国田　佳資	飯野　佳孝	白松千加子	山本美津子・川島直子・彼島佳子・白松千加子・原田純子・松嶋由美 大田真由美

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
静岡	富士フイルム	滝　正孝	川原崎　仁	滝　正孝	小幡陽子・望月美和子・中野喜久江・諸星孝子・渡辺貴美子 小島実和・中山登美子
	ジャトコ	久保田幸夫	松山　博雄	佐藤　佳久	芦沢恵里子・遠藤弥生・富田令子・望月喜代美・望月ゆう子 佐藤圭子・石垣真裕操
富山	不二越	川上　洋一	中田　一利	新田　寛義	中島　薫・山谷光代・甚内美雪・平井智美・高本清美
長野	富士通・長野	宮坂　優	小林　敏一	山崎美代子	池田美津枝・久保美智恵・吉岡かおる・梅沢悦子・山崎美代子
新潟	新潟市役所	阿部　満夫	阿部　満夫	村尾　俊昭	坂井信子・村尾弘子・森合やす子・池田朋子
神奈川	三菱重工・横浜	尾上　久浩	石田　菊江	横山しのぶ	石田菊江・菅野佳枝・熊沢加代子・横山しのぶ・大竹真紀子 松本美恵子・鈴木千穂
	日本電気・相模原	板倉　信雄	宮入　恒明	大森　弓子	掛川英子・加藤明美・神野佳恵・伊藤哲子・山村奈美・廣田美登里
	日立製作所・戸塚	田中　兼夫	佐藤　久敏	小松　美紀	高山秀子・宮崎玲子・小松美紀・永山由紀美・伊藤麻利子・井上雅子
	横浜市役所	元木　光男	吉江ちづる	安藤　康輝	寺田純子・佐藤智子・吉江ちづる・山森好江・中島佳江・野村優子 高橋陽子
	関東自工	有村　洋一	巽　康司	三宅ひろみ	明田ひとみ・遠藤美智子・三宅ひろみ・片瀬寿賀・大石幸子 坂内祐美子・金成正美
東京	ヨネックス	土田　隆	栂野尾昌一	増田　啓子	栂野尾悦子・枝美代子・高野和代・月岡広美・高峯尚子・森山弘美
	カワサキラケット	堺　栄一	湯木　博恵	染谷　瑞穂	湯木博恵・星八重子・高岸陽子・土谷優美・染谷瑞穂・長尾うみ子
	電電東京	相澤　和夫	池田　信孝	宮下規矩雄	米倉よし子・三田知佳子・岡安千江美・宗像和枝・平尾章子 岡崎仁子・小嶽江里香
	ＫＤＤ	跡部　真之	松浪鋭四郎	前川　栄一	橋本直子・福本節子・渡辺ひとみ・羽生尚子
	学習研究社	古岡　勝	小島南海雄	黒川恵美子	岩沢千賀子・杉山紀子・長岡みゆき・長谷川はるみ・二瓶由美子 和田千尋・川島奈緒子
	横河北辰電機	上畑　清郎	中山　広明	生田　美穂	及川栄子・折田典子・田中寿美・生田美穂・和田秋子
	安田火災	松島　実	山崎　和彦	関　千恵	大塚由紀子・只木智美・池田久子・枝川千代子・萩原明美
	明治生命	宮永　武司	杉本　伸之	前澤　俊彦	根本雅江・斉藤紀子・橋本恒子・土屋喜英子・野口寿美恵・滝沢裕子
	日本電気・府中	白里　[illegible]　[illegible]馬		篠塚　洋子	小野泰世・高山雅子・林　敬子・関口宏美・奥野智子・篠塚洋子
	東京トヨペット	入間　秀哲	入間　秀哲	渡辺恵理奈	村杉ともか・花輪美保・内野律子・天野広美・川上裕代・渡辺恵理奈
千葉	出光興産・千葉	山本　清二	山本　清二	緒形　友子	増田秀子・緒形友子・粟田勢津子・原寿美子・瀧嶋友子
群馬	ナカヨ通信機・前橋	小栗　征夫	上野　弘一	青山真由美	青山真由美・上原由利子・中島順子・青山真智子・石井清美
	松本精機	鈴木　武志	近藤　政子	戸谷　和枝	近藤政子・鈴木恵美子・檜原常子・松井千恵子・戸谷和枝
	三菱電機・群馬	茂木　正弘	茂木　正弘		本多　富枝・斉藤裕子・並木久実子・小暮佳代子
栃木	日産自動車・栃木	千場　忠祐	田中　英男	高田　圭子	高田圭子・大島美智江・山口るり子・石川恵美子・武井正代
茨城	住友金属・鹿島	川崎　守夫	島林　総蔵	梅沢　和則	菅生優子・坂本一江・日向美幸・北崎百合子・鈴木京子・渡辺ナオミ
	日立化成	中東　三嘉	小口　辰雄	小口　辰雄	皆川恵美・渡辺まゆみ・藤井美子・香取真由美・矢畑かよ子 桜井美代子
	日立・水戸	濱田　勇	福田喜代志	和田　講一	四ツ倉恵子・木内朱美・中井川洋美・進藤美樹・大貫敦子・大内玲子
福島	富士通・会津	松田　嘉博	塚越　厚生	谷沢　正広	青木マチ子・玉木孝子・寺田浩子・三浦旨子
山形	でん六	渡辺　真也	伊藤　洋一	赤城　勉	佐藤栄美子・五十嵐由里・田口真由美・丹野弘美・村山昭子
岩手	日本電気・東北	中溝　和明	佐藤　博美	千葉　一美	津田幸江・藤村恵美・小野寺恵美子・菅原明美・伊藤久仁子 及川富美子
秋田	羽後銀行	高橋　恬三	加賀谷武夫	相場　清一	菊地祐子・小林朝子・石郷岡真弓・米田浩子・永沢真澄
北海道	地崎工業	佐々木倉三	越前屋直行	只野　晴美	中尾ひろみ・新田恵子・只野晴美・深沢サユリ・西岡孝子 和田美津子・小池かおり

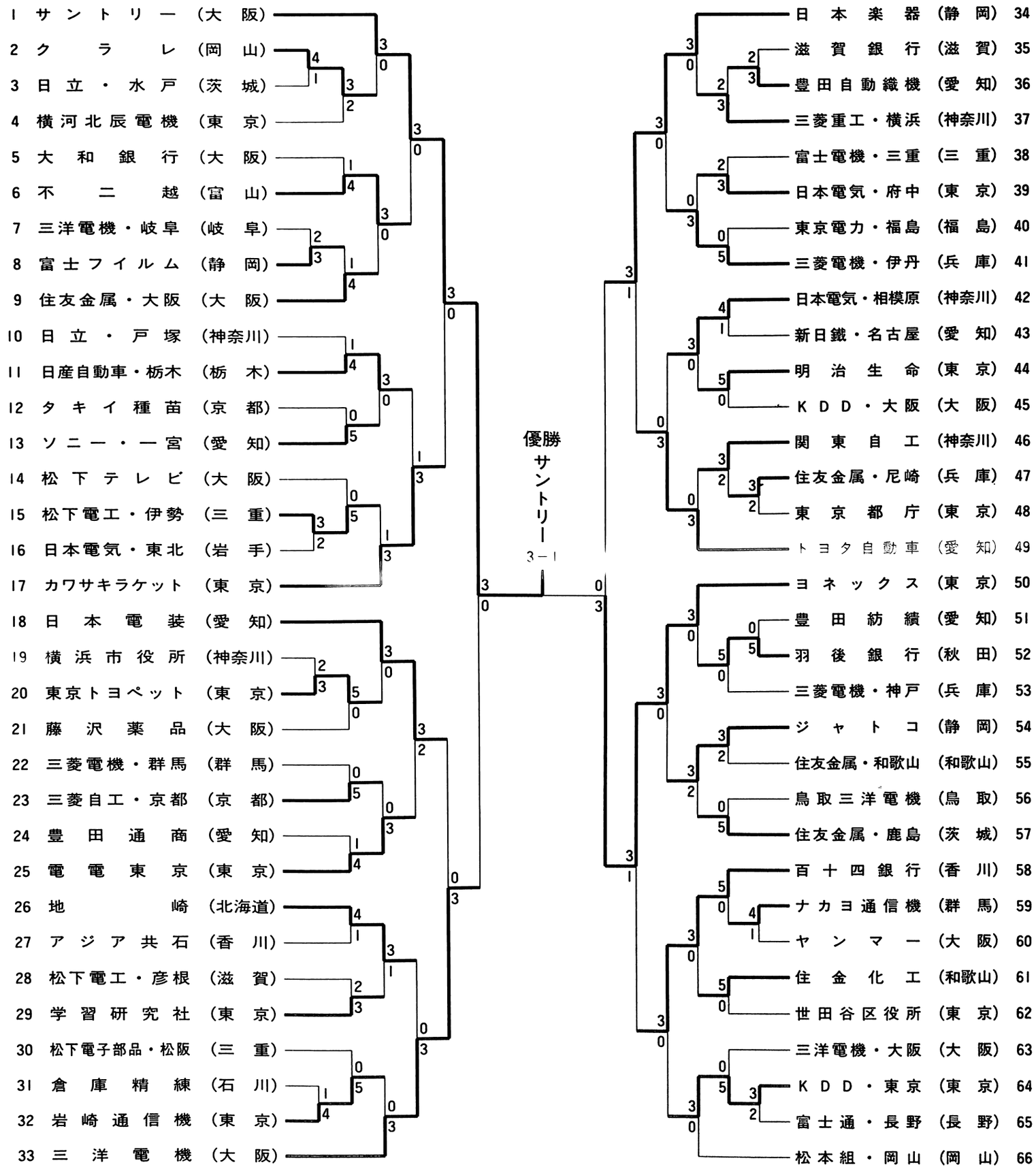
第34回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1984年（昭和59年）6月13～17日
開 催 地：大阪府大阪市、枚方市
会　　場：大阪市中央体育館、
大阪市東淀川体育館、松下電器体育

■男子団体の部



■女子団体の部


1 サントリー（大阪）
2 クラレ（岡山）
3 日立・水戸（茨城）
4 横河北辰電機（東京）
5 大和銀行（大阪）
6 不二越（富山）
7 三洋電機・岐阜（岐阜）
8 富士フイルム（静岡）
9 住友金属・大阪（大阪）
10 日立・戸塚（神奈川）
11 日産自動車・栃木（栃木）
12 タキイ種苗（京都）
13 ソニー・一宮（愛知）
14 松下テレビ（大阪）
15 松下電工・伊勢（三重）
16 日本電気・東北（岩手）
17 カワサキラケット（東京）
18 日本電装（愛知）
19 横浜市役所（神奈川）
20 東京トヨペット（東京）
21 藤沢薬品（大阪）
22 三菱電機・群馬（群馬）
23 三菱自工・京都（京都）
24 豊田通商（愛知）
25 電電東京（東京）
26 地崎（北海道）
27 アジア共石（香川）
28 松下電工・彦根（滋賀）
29 学習研究社（東京）
30 松下電子部品・松阪（三重）
31 倉庫精練（石川）
32 岩崎通信機（東京）
33 三洋電機（大阪）
優勝
サントリー
3－1
34 日本楽器（静岡）
35 滋賀銀行（滋賀）
36 豊田自動織機（愛知）
37 三菱重工・横浜（神奈川）
38 富士電機・三重（三重）
39 日本電気・府中（東京）
40 東京電力・福島（福島）
41 三菱電機・伊丹（兵庫）
42 日本電気・相模原（神奈川）
43 新日鐵・名古屋（愛知）
44 明治生命（東京）
45 KDD・大阪（大阪）
46 関東自工（神奈川）
47 住友金属・尼崎（兵庫）
48 東京都庁（東京）
49 トヨタ自動車（愛知）
50 ヨネックス（東京）
51 豊田紡績（愛知）
52 羽後銀行（秋田）
53 三菱電機・神戸（兵庫）
54 ジャトコ（静岡）
55 住友金属・和歌山（和歌山）
56 鳥取三洋電機（鳥取）
57 住友金属・鹿島（茨城）
58 百十四銀行（香川）
59 ナカヨ通信機（群馬）
60 ヤンマー（大阪）
61 住金化工（和歌山）
62 世田谷区役所（東京）
63 三洋電機・大阪（大阪）
64 KDD・東京（東京）
65 富士通・長野（長野）
66 松本組・岡山（岡山）

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
北海道	小樽市役所	深山　雄造	大石　章	笹山　時彦	高野幹男・東田朋巳・阿部幸夫・目黒清則・徳満康浩・佐々木尚文 笹山時彦
	札幌鉄道管理局	真鍋　精志	乙武　重丸	乙武　重丸	高崎厚生・高橋　進・山本晴通・七崎悦範・松村徳市・松岡　誠 乙武重丸
	電電札幌	長谷川正基	佐藤　義孝	平沢　徹	長谷川正基・佐藤義孝・福島清寛・板東義則・猪股　剛・平沢　徹 成田寿郎
	電電北海道	中道　雅克	遠藤　好男	篠尾　幸孝	遠藤好男・米山孝二・久郷俊明・千葉昌弘・篠尾幸孝・中島俊也 加藤　学
青森	弘前市役所	小野　浩一	山崎　直樹	中村　博典	斉藤和則・工藤徳男・福士文敏・佐藤雅幸・島内俊二・小山内一仁 小野浩一
岩手	富士通・岩手	浅岡　博通	佐藤　酉男	鈴木　礼子	岩渕裕光・菊地生昭・阿部弘和・岩渕千春・藤谷清文
宮城	国鉄・仙台	笠原　元晴	松田　芳範	及川　明子	松田芳範・二瓶源治・石井右示・伊藤　暁・小沢睦雄・堀米孝太郎 石崎利夫
	迫リコー	阿部　克巳	阿部　克巳	後藤　忠正	阿部克巳・後藤忠正・佐々木弘幸・畑山靖夫・伊藤孝雄・鈴木明夫
	電電東北	孫田　忠誠	田所　光男	江原　弘	田所光男・須藤嘉朗・高橋直樹・樋場淳浩・狩野義則・渡辺勝治 加藤安史
	吉田工業・東北	水口　利之	中塩　房雄	高橋　一浩	千葉清人・佐々木祐治・中塩房雄・丸谷昭三・小林　修・千葉直樹 金輪隆司
山形	鶴岡市役所	窪田　寛士	小林　保夫	佐藤千佳子	真田昭良・上原正明・秋庭一生・丸山勝美・佐藤　茂・佐藤茂巳 大川利男
	電電山形	佐々木正弘	斉藤　光芳	渡辺　和彦	伊坪昭宏・岡田寿紀・佐藤俊広・阿部孝司・田中春光・児玉光善 井上　真
	山形銀行	茂木　重蔵	渡辺　勝利	吉住　昭	荒井謙治・大谷英二・永井　悟・渡辺　賢・鈴木洋史
福島	日本化成	渡辺　晟	古館　信義	石井　要一	高橋秀之・平向一郎・渡辺隆男・石井要一・小松孝典・藤田　智
	富士通・会津	松田　嘉博	塚越　厚生	渡辺　正光	寺田　繁・渡辺正光・杉原好一・清野徹也・結城富雄・星　徹
茨城	住友金属・鹿島	川崎　守夫	島林　総蔵	梅沢　和則	駒田　忠・岡田常雄・梅沢和則・坂本昌士・渡辺博道・武田富美明 島林総蔵
	日立・水戸	高砂　徹	早川　博	菅野　孝	松崎祐治・小島孝治・狩野秀一・菅野　孝・早川　博・和田講一 福田喜代志
栃木	栃木県庁	湯沢　雄一	湯沢　雄一	和久　光男	湯沢雄一・古沢元浩・鈴木[illegible]・[illegible]・[illegible]・

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
東京	カワサキラケット	福井　正康	松浦　一郎	川井　浩	根岸　淳・藤波哲治・角田重男・別府雅典・福島　保・角谷正雄 川井　浩
	KDD・東京	武村　俊平	大髭　輝雄	目黒　仁一	藤平　守・橋本敏邦・上原正俊・永野　茂・松永　浩・谷岡祐一 嶋田　聡
	ゴーセン・東京	山上　啓三	中村　輝充	高野　文子	鎌田啓睦・星野清志・青木義生・本石俊憲・兼坂省一
	国鉄・大井	永利　進	落合　康夫	真貝　健二	鈴木登美夫・杈　博久・落合康夫・佐川伸一・岩本　裕・加藤　仁 真貝健二
	航空宇宙技研	堀内　正司	高梨　進	楯　篤志	高梨　進・名越孝行・楯　篤志・阿部正男・平林則明・野口正芳 佐藤　衛
	東京簡易保険局	蔵之内信昭	古明地正邦	廣田みちえ	古明地正邦・八杉貞雄・中沢睦夫・飯塚正之・小林正人・小畑辰美 武田公正
	東京電力	内田　修	内田　修	田中　徹	内田　修・石原泰造・岩間　源・厚川　勇・橋本　栄・田中　徹 高野　徹
	東京トヨペット	入間　秀哲	入間　秀哲	沢田　和俊	福田利男・橘川光孝・大瀬久司・小林義孝・沢田和俊・入間秀哲
	東京都庁	島田　稔	島田　稔	黒田　祥之	後藤　勝・大原政義・島田　稔・小林賢治・高田　浩・中田洋二 黒田祥之
	東芝・府中	今橋　一彦	西澤　寛	長内　秀彦	早坂正志・斎藤　純・長内秀彦・上野梅郎・五十嵐哲・坂口千年 西澤　寛
	日本電気・府中	鳥居　高志	丸山　一馬	丸山　一馬	向井晴久・宮口　等・上原俊一・奥村享一・千田　誠・青山耕一郎 丸山一馬
	諸江製作所	杉山　保	杉山　保	貫井　智一	杉山　保・糸満　顕・貫井智一・木立定治・猪俣祐二
神奈川	いすゞ自動車・川崎	波　博義	波　博義	手塚　利男	高橋幸治郎・波　博義・菊池　修・手塚利男・伊藤一好・尾形隆英
	関東自工	有村　洋一	井上　忠久	三宮ひろみ	高橋　清・佐々木靖雄・加藤　豊・細谷　昇・高橋久之・一瀬浩美 友廣徹郎
	東芝・浜川崎	松浦紀久雄	阿部　清	阿部　清	内谷正明・阿部　清・秋山光太郎・岡田　実・柿沼二郎・加藤忠春
	日産自動車・横浜	清野　忠勝	竹村　芳雄	大谷　清志	江崎義夫・塚本　選・小泉浩一・太田弘一・竹村芳雄・桜田豊治 大谷清志
	日本石油・根岸	京屋　孝治	泉　[illegible]	泉　[illegible]	[illegible]・[illegible]・丸山則明・石渡輝巳・野友昭夫・大久保俊生 渋谷和浩
	富士通・川崎	出浦　通夫	青木　一夫	鈴木　弘之	青木一夫・寺門義之・後藤正志・鶴田紀雄・鈴木弘之・稲垣広宣 鈴木幸雄
	三菱重工・横浜	尾上　久浩	鈴木　勝之	鈴木　勝之	古谷陽一・高橋保則・小松　宏・鈴木勝之・上野　強・前田淳一 高橋秀夫
	横浜市役所	元木　光男		葛篭貫　武	平　敏司・秋葉　博・斉藤英昭・森　篤・広沢昭一・根本道夫 柄本　孝
	ラケットショップ元町	宮川　秀樹	赤星　三樹	織裳　景子	草島正治・石黒伸久・豊田　裕・小倉久和・西出龍守・赤星三樹
新潟	三菱金属・新潟		有本　健	樋口　良則	山本　勝・入沢一由・星　誠司・山崎芳一・大泉和之・宮村　久 那須野　滋
	国鉄・新潟	江原　昭二	居城　誠	桜庭　春芳	居城　誠・大野得朗・田村　功・山田　健・菅原清隆・松島宏志 山岸利郎
長野	新光電気工業	高橋　昌彦	竹之内政春	竹内　徳喜	川島雅幸・山本秀一・井上慎二・山浦賢一・清滝　博・竹内徳喜
富山	高岡市役所	開　博	中山　邦夫	河村　博之	今泉　勉・関村順治・米沢和男・米　正隆・末坂　進・西本幸夫 牧野光男
	三晶技研	浅井　秀一	飛弾　是博	源通　直樹	毛利智成・松浦健二・吉森勝之・森　佳和・野畑秀樹・飛弾是博 源通直樹
	不二越	川上　洋一	畑　栄進	畑　栄進	八川修一・山崎　明・西野和雄・明官秀昭・中島　進・新田寛義 碓井政人
石川	金沢市役所	駒谷　良則	田辺　忠彦	太田　博之	山下敏行・林　芳広・米田幸生・大村正信・毛利達彦・田村　稔 山口　亮
福井	福井市役所	増永　秀則	増永　秀則	山本　敏彦	増永秀則・山本敏彦・嶋田伸行・宮原　一・岩本好文・谷口治光
静岡	ジャトコ	久保田幸夫	後藤　和之	佐藤　佳久	芹沢英彦・関野　強・後藤和之・鈴木朗典・村松三郎・中田　茂 土屋　仁
	テルモ	佐野　康之	若松　隆宏	佐野　康之	佐野康之・若松隆宏・望月規義・楠　一昌・有賀三雄
	日産自動車・吉原	飯島　孝彰	山本　秀和	若松　誠	平野哲司・山本秀和・鳥居郁夫・中司　勇・若松　誠

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
静岡	富士フイルム	滝　正孝	滝　正孝	滝　正孝	西島知彦・井出裕雄・吉岡由彦・池田光宏・武井弘征・竹田明彦 滝　正孝
愛知	トヨタ自動車	北田　寛一	谷口　寛	中嶋　修	山本秀樹・坂本宏志・菅原敬二・須貝英徳・坂井外喜男・上田容夫 川本英明
	新日鐵・名古屋	小島　吉夫	山本　卓男	加藤　勇一	天野良彦・佐々木秀一・林　昌代・山西友幸・町　充・納所久夫 白田直人
	電電東海	小牟田　博	伊藤　雅昭	穴戸　一秀	中川紀嗣・伊藤正昭・木下耕一・長江新八・水谷悦郎・清水孝四 中村昌司
	豊田工機	佐伯外與昭	佐伯外與昭	安藤まゆみ	日比野伸昭・加藤豪俊・大阪哲嗣・土田信也・松岡秀男・東　正也
	豊田自動織機	大東　祥順	武田　正雄	朝倉　康善	岩渕信司・石井宏明・尾島　弘・林　忠明・榊原輝次・小枝利彦 朝倉康善
	日本電装	鈴木　欣老	工藤　宣慶	鈴木　嘉正	工藤宣慶・知識博隆・山田浩二・浦池　明・松原伸幸・荒木春彦 森下勇司
	三菱重工・名古屋	旭　寿夫	中橋　友行	旭　奈穂子	松波　譲・沢田正夫・岩田　崇・旭美喜雄・柴田慎一
	名鉄	速水　正昭	井沢　宏	加藤　憲治	加藤保利・井上　龍・加藤憲治・林　久男・斉藤敬一郎・松田浩資
三重	日東電工	蒲田　博	服部　芳博	豊田　浩	服部芳博・清原　進・小川隆志・豊田　浩・坂本雄二・福島和広
	富士電機・三重	馬場　晋	山口　香	森川　広美	山口　香・下田　勲・森川広美・藤本規夫・小林英毅・伊藤幸和 森田善幸
	三菱化成・四日市	増子　達郎	市来　哲郎	神野つや子	伊藤正己・小林信行・田中秀俊・増井孝夫・諸田秀二・毛利浩治 多田晃宏
	本田技研・鈴鹿		朝日奈正光	朝日奈正光	朝日奈正光・下村雅彦・浜口久克・澤口達哉・世古浩一
岐阜	多治見市役所	万宇　益雄	武知　勝年	青山　崇	武知勝年・河田　満・仙田弘志・青山　崇・河田祥則・佐藤喜好 佐藤真彦
	三洋電機・岐阜	阪口巳代治	中井　宏幸	川述　貞延	松浦竹典・藤井昭生・水野信一・南波敬三・荒木久信・藤本高義 川述貞延
滋賀	大津市役所	佐藤　賢	釜屋　明和	木村　孝英	増田伊知郎・中村　亨・藤堂　真・矢部忠司・西原四郎・山田杉男 山田通義
京都	海上自衛隊・舞鶴	山部　巍	田野　栄敏	川村　道厚	白井規久夫・瀬野俊策・白井幸夫・沢田巧一・長縄康幸・長岡好徳 畑　豊浩
	島津製作所	野村　嘉明	奥田　俊次	井上　昇	東　洋一・奥田俊次・高寺賢吉・[illegible]・青山功基 若林　登
	福知山市役所	芦田　章	野田　義夫	牧　晴喜	和田慎一・桐村俊昭・芦田清和・高橋啓二・藤原謙司
	三菱自工・京都	岡本　宏也	戸沢　正雄	石津　正明	谷沢和彦・竹井宣夫・佐々木正司・寺尾　豊・福元文雄・福井達雄 石津正明
大阪	コスモ石油・堺	清水　邦彦	疋田　栄一	東畑　陽子	和久谷富章・穂谷真弘・西井兼一・辻　正博・疋田栄一・諏訪　弘 芝村伸也
	興亜石油・大阪	久村　幸正	井関　博	井関　博	吾郷裕志・日下英明・岩垣雅典・南　功・広田喜信・田中秀行 中本義樹
	大阪ガス	野村　明雄	北野　公男	弘瀬　一生	小西秀政・西野幸雄・弘瀬一生・田中真平・田村雅昭・北川伝治 早水栄治
	三洋電機・大阪	池田　三郎	篠原　達夫	辻田　平幸	岩崎正彦・角南行治・田所正光・山内重夫・太田和男・篠原達夫 西島　巧
	住友金属・大阪	中沢　恒	内田　俊輔	中沢　登	梅本　彰・藤野勝次・山口正和・野村　隆・梅津裕一・斉藤正博
	住友生命	高畑　義郎	丸井　広道	山口　幸子	丸井広道・木原　茂・河合英樹・小池田満・狩野卓也・北岡　務 谷田勝哉
	電電近畿	大谷　武司	牧志　倫夫	平野　新三	松重恵三・冨田章夫・吉兼　保・守安達二・保科正浩・近藤雅明 松井峯生
	阪和興業	片山　正昭	片山　正昭	小路　泰彦	片山正昭・原　健・中野隆夫・小路泰彦
	松下電子工業	江上　正一	仲田　康英	仲田　康英	米良大助・桂　貴男・馬場康行・太田智一郎・仲田康英
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	宮崎　庄一	宮里　重信	山川正一・那賀哲太郎・樋口正幸・中角好男・川本巌良・納富隆志
	ヨネックス・大阪	黒子　武	村西　清文	浅利　剛志	林田草樹・山本秀樹・田口茂樹・村尾　勉・浅利剛志・猪多博之 野田靖之
	阪急電鉄	操田　浩	出田　安隆	古川　富恵	出田安隆・長沢秀信・下野治生・蔵本英二・大野孝二・市橋　茂

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
兵庫	住友金属・尼崎	松田　勝彦	小田　清二	川中　節子	高木昭憲・高木茂和・奥村晴一・斉藤圭二・片岡栄一・新堂孝浩 小田清二
	新日鐵・広畑	飯田　洋	平松　重吉	平川　正義	片岡正之・平松重吉・塩飽　初・横山真二・広岡輝男・坪井英之 藤城武義
	大和製衡	木下欣二郎	小川　純一	草田　隆	稲本光一・草田　隆・小川雄一・山本　勝・藤本純一・西川光志 小林　勝
	三菱電機・伊丹	北　義一	寺尾　一秀	寺尾　一秀	矢賀雅人・寺尾一秀・中岡嘉孝・入口弥一郎・入口藤男・直野後治
	三菱電機・神戸	佐々木利彦	上藤　朝之	野崎かおる	池渕順一・三宅慎太郎・上藤朝之・佐々木利彦
和歌山	住金化工	辻　司	塩谷　広次	朝倉　哲男	玉置幸三・田村昭男・森　隆・徳岡昭次・西　章弘・中尾孝司 三谷吉彦
	住友金属・和歌山	竹山　宗芳	野沢　英雄	福島　一正	川村桂司・小川　均・北山洋二・小形善樹・梅林信幸・乳井重雄 児島　浩
鳥取	王子製紙・米子	安田　徳郎	岡　昭徳	谷本　竜夫	倉本仁司・砂川清美・山根富雄・武良　優・神谷昌博・岡　昭徳
岡山	川崎製鉄・水島	川西　肇	中山　睦雄	穴吹　栄二	永井　孝・平田重男・藤原道弘・北村治雄・西江　均・片岡洋一 三村勇人
	クラレ・岡山	坂井　俊英	吉原　俊治	小河原　治	板谷好訓・田枝誠一・佐藤邦彦・香山光明・山下　剛・網島淳二 中須賀史行
	三井造船・玉野	細田　高代	藤原　航	大倉　達也	近藤守男・松井　一・山本　清・若林邦任・三村　渉・高本行男 藤原　航
広島	日本鋼管・福山	脇谷　昇武	梅月　隆	藤井　直美	梅月　隆・田上義美・財津真二・上杉淳司・佐藤嗣隆・冨田正臣 小野裕征
	三菱電機・福山	稲田　信	安達　恵吉	板森　増二	安達恵吉・山岡　満・山崎史郎・安達喜兼・森田泰浩・丸山　利
山口	宇部興産	田中　実雄	末広　秀樹	田中　義秋	末広秀樹・河添忠夫・坂本賢二・渡辺　宏・吉川直樹・峯石俊幸 沖　貞雄
	山陽国策パルプ・岩国	谷渕　龍夫	宮岡　康臣	貴船　博己	宮岡康臣・林　厚志・高橋良明・保良智司・村上弘明・高橋和也
香川	アジア機工	橋本　晃	橋本　晃	木村　功	杉上有一・木村　功・佐藤一寿・石川正敏・橋本初芳
	香川県庁	弾正原義春	真鍋　剛	谷本　竹司	谷本竹司
	吉田工業・四国	横幕　賢一	古竹　公三	沢田　訓彦	古竹公三・好井博文・沢田訓彦・山本　学・麦谷敏也
愛媛	クラレ・西条	和食　征二	横井　虎男	小橋　幸雄	小橋幸雄・橋田国司・安永省一・三村一郎・加藤　昇・川上悦典
長崎	三菱重工・長崎	江戸昭八郎	田中　貞夫	田中　賢介	中野和雄・福田良治・三根　哲・森田純一・江坂敏郎・竹永　学 田中貞夫
	三菱電機・長崎	小林　正昭	小林　正昭	川久保暢宏	小林正昭・川久保暢宏・坂本一男・久保真一・太田和昭

（女子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
北海道	地崎	松浦　勤	岡本　伝	深沢サユリ	和田美津子・小池かおり・奈良ゆかり・只野晴美・西岡孝子 深沢サユリ
秋田	羽後銀行	高橋　恬三	加賀谷武夫	相場　清一	石郷岡真弓・菊池祐子・米田浩子・永沢真澄
岩手	日本電気・東北	千葉　忍	藤村　恵美	千葉　一美	藤村恵美・小野寺恵美子・菅原明美・後藤利香・菅原好枝
福島	東京電力・福島	岩本　實	小塚　達男	猪狩　心一	渡部キイ子・金久保峰子・大橋喜代子・山内利江・大山悦子 松本美奈・安田友子
茨城	住友金属・鹿島	川崎　守夫	島林　総蔵	梅沢　和則	菅生優子・日向美幸・北崎百合子・渡辺ナオミ
	日立・水戸	高砂　徹	早川　博	菅野　孝	四ツ倉恵子・大貫敦子・進藤美樹・竹内香代子・伊藤恵子
栃木	日産自動車・栃木	千場　忠祐	田中　英男	大島美智江	石川泰子・大島美智江・大高正江・小貫早苗・須藤千代子・光田和恵
群馬	ナカヨ通信機	小栗　征夫	上野　弘一	青山真由美	青山真由美・中島順子・青山真智子・石井清美・板橋春美
	三菱電機・群馬	茂木　正弘	米田　守	本多　富枝	斉藤裕子・並木久実子・高橋あゆみ・久保田可奈恵
東京	岩崎通信機	定野　満	中瀬　一義	内間　郁江	久保田祥子・小沢紀子・内間郁江・時田弘子・伊藤ひとみ・藤沢直美
	カワサキラケット	福井　正康	松浦　一郎	染谷　瑞穂	湯木博恵・高岸陽子・星八重子・染谷瑞穂・長門寿恵・清藤　和 大野真裕美

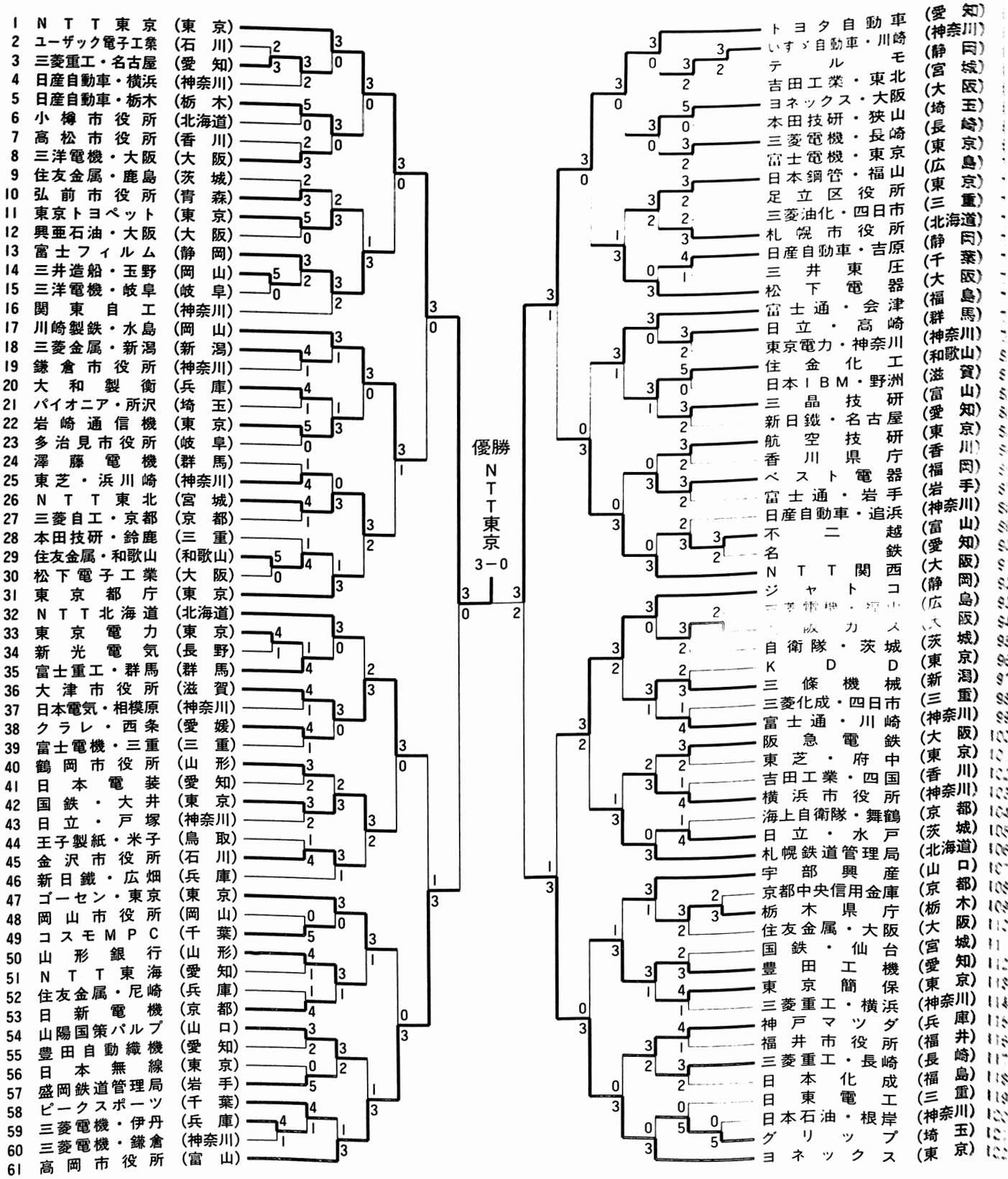
県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
東京	学習研究社	古岡　勝	小島南海雄	小林　恭子	岩沢千賀子・杉山紀子・鍋田みゆき・和田千尋・長谷川はるみ 川島奈緒子・三瓶由美子
	KDD・東京	松浪鋭西郎	竹端　捷次	友永　智成	佐藤和美・橋本直子・横堀ひとみ・取出悦子・羽生尚子・外　朱実
	世田谷区役所	八頭司達郎	安藤　武夫	小沼　勇二	小川芳江・鈴木紀子・杉本美津子・岡本京子
	電電東京	鈴木　龍平	池田　信孝	佐藤　祐三	米倉よし子・三田知佳子・平尾彰子・岡嶋仁子・小嶺江理香 星野由美子
	東京トヨペット	入間　秀哲	入間　秀哲	渡辺恵理奈	村杉ともか・花輪美保・内野律子・川上裕代・斉藤めぐみ 橋之口美津子・渡辺恵理奈
	東京都庁	島田　稔	島田　稔	黒田　祥之	大里まゆみ・稲原朋子・堀切園なつみ・柳原小夜子・栗城ツギ子
	日本電気・府中	鳥居　高志	丸山　一馬	山下千代乃	山下千代乃・林　敬子・関口宏美・吉野かほる・土屋ひとみ 石塚美和子・吉野幸子
	明治生命	宮永　武司	佐々木　淳	戸村　久子	根本雅江・橋本恒子・土屋喜英子・和田由利・野口寿美恵
	ヨネックス	吉本　貞夫	栂野尾悦子	藤井　直子	栂野尾悦子・枝美代子・高野和代・月岡広美・森山弘美・高峯尚子 宮森ソノエ
	横河北辰電機	堀越　進	清水美恵子	畠山　美彩	安本栄子・生田美穂・折田典子・石渡淳子・和田秋子・山田美恵 清水美恵子
神奈川	関東自工	有村　洋一	巽　康司	三猪ひろみ	遠藤美智子・三猪ひろみ・大石幸子・坂内裕美子・菅沼みち子 金成正美・行方淑枝
	日本電気・相模原	板倉　信雄	宮入　恒明	大森　弓子	加藤明美・大熊千恵子・神野佳恵・山村奈美・伊藤哲子・廣田美登里
	日立・戸塚	田中　康之	佐藤　久敏		高山秀子・小松美紀・永山由紀美・伊藤麻利子・井上雅子・小川明巳
	三菱重工・横浜	尾上　久浩	鈴木　勝之	鈴木　勝之	熊沢加代子・大竹真紀子・横山しのぶ・菅野佳枝・高橋理恵
	横浜市役所	元木　光男	吉江ちづる	葛篭貫　武	吉江ちづる・寺田純子・山森好江・中島佳江・野村優子・高橋陽子 鎌田由美子
長野	富士通・長野	宮坂　優	関谷　弘一	山崎美代子	山崎美代子・池田美津枝・吉岡かおる・梅沢悦子・滝沢政子 東山純子
富山	不二越	川上　洋一	畑　栄進	平井　智美	中島　薫・山谷光代・長内美雪・高本清美・平井智美
石川	倉庫精練	福島　昭	東　茂樹	東　茂樹	奥野孝代・湊　昌代・沢由香里・松本正美・不島幸江
静岡	日本楽器	国田　佳資	飯野　佳孝	白松千加子	川島直子・白松千加子・原田純子・[illegible] 松嶋由美・谷本美代子
	ジャトコ	久保田幸夫	松山　博雄	望月ゆう子	芦沢恵里子・遠藤弥生・富田令子・望月貴代美・高井良枝
	富士フイルム	滝　正孝	川原崎　仁	滝　正孝	小幡陽子・望月美和子・中野喜久江・諸星孝子・佐野みゆき 渡辺貴美子・佐野万寿子
愛知	新日鐵・名古屋	小島　吉夫	菅井　孝	山本　美紀	浅田妙子・森川美和・谷内陽子・渋谷裕子・津曲奈緒美・早川聡美 片山徳枝
	ソニー・一宮	戸張　正勝	岩下富士男		村瀬恵美子・今井貴子・名和知江子・横山浩子・森八重子 岡崎比呂美・山田理恵
	トヨタ自動車	北田　寛一	松島　保	谷口　寛	柳田智佳子・橋本真由美・田中美千代・寺嶋紀巳・遠藤真弓 光石寿子・袴田かなみ
	豊田自動織機	大束　祥順	渡辺　康夫	朝倉　康善	西塚千恵子・斉藤直子・黒沢江美子・佐藤裕美子・徳留芳美 田路淳子
	豊田通商	奥田　恭子	西山　直文	西村　光代	奥田恭子・渡部百合子・西村光代・中野和美
	豊田紡績	山内　透	小栗　桂治	神戸伊佐子	金　綾子・桝家由加里・朝倉陽子・浅井美津江・神戸伊佐子
	日本電装	水野　正人	藤江　至	片山りつ子	片山りつ子・関矢亮子・宮本美津子・佐名美幸・宮本　忍・元田慶子 山田美紀
三重	富士電機・三重	馬場　晋	山口　香	森川　広美	黒宮智子・板倉典子・山下智子・森　千晴・竹内奈々美・鈴木朱美
	松下電工・伊勢	渡辺　邦重	上田　晴美	浜千代都美子	福田恵子・姫子松晴美・浜千代都美子・北岡真美・山本節子 杉田保美・東谷正美
	松下電子部品・松坂	矢形　政巳	矢形　政巳	矢形　政巳	矢形政巳・山川うたこ・中村恵美・西田洋美・中世古昌子・梅津朱美 長井ひとみ
岐阜	三洋電機・岐阜	阪口巳代治	中井　宏幸	川述　貞延	高橋由美子・荒井京子・井上栄子・服部節子
滋賀	滋賀銀行	西堀　武	西堀　武	吉田　英史	青山寿美・上羽保子・山田千満子・赤井恵美子・三宅美奈

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名
滋賀	松下電工・彦根	守野　定夫	谷　和男	中村　恵子	西堀ひさ子・橋川光子・古田真理子・荻原明美・中村恵子・高橋真樹
京都	タキイ種苗	麻田　次男	橋本　正巳	大槻　雅代	大槻雅代・岡田眞理子・茶野圭子・矢島美貴・田中久代
	三菱自工・京都	岡本　宏也	戸沢　正雄	石津　正明	山口明美・荒平智子・岩谷彩子・高倉さち子
大阪	サントリー	井上　健弘	山本　次生	長谷川洋子	葛西明子・西村美千代・東海林文子・菊池洋子・高峯和子・星　和枝 原田真理恵
	三洋電機	月原　朗	銭谷　欽治	宇治　収	河村茂美・植田日出子・合川裕子・北田スミ子・冨田美千代 福田麻寿美・平山美恵子
	ＫＤＤ・大阪	満渕　宏二	藤井　靖雄	市原　正弘	岩橋あけみ・倉田直美・水岸多佳美・中嶋真理子・笠次一美
	三洋電機・大阪	池田　三郎	篠原　達夫	岩倉裕美子	中田弘美・室井芳江・寄田真苗・佐々木典美・岡田茂美・岩倉裕美子
	住友金属・大阪	中沢　恒	内田　俊輔	中沢　登	加島聡美・阿部茂子・福岡知美・井原彰子・川満日登美
	大和銀行	伊藤　憲二	伊藤　憲二	津田佳代子	津田佳代子・萩原淳子・山本美江・黒木眞智子・紅露ゆかり 千田朗子・松田裕臣
	藤沢薬品	河井　幾男	河井　幾男	安部　謙	鈴木京子・大友寿美・中村真矢子・金子博美・西条紀子・甲斐典子
	松下テレビ		奥本　義晴	山本　貴雄	綿部純子・立石恵美子・小林奈津代・松浦日利美・林　美佳 岩崎公代・藤本明子
	ヤンマー	益子　國教	楠瀬　義正	山代善史行	金澤治子・香川喜代美・岡田麻理・山本聡子・中川貞子・三浦敦子 金原千代子
兵庫	住友金属・尼崎	松田　勝彦	出口　修己	川中　節子	巽　園代・大村初美・川中節子・早崎かほる
	三菱電機・伊丹	北　義一	矢賀　雅人	寺尾　一秀	谷澤信子・谷口須美子・永井恵子・山崎邦恵・近葉裕子・小永琴美
	三菱電機・神戸	佐々木利彦	野崎かおる	野崎かおる	林　智子・柿本正美・馬場慶子・野崎かおる・武貞景子
和歌山	住金化工	辻　司	塩谷　広次	三谷　吉彦	成瀬由美・井戸本瑞代・東　幾代・向山郁代
	住友金属・和歌山	竹山　宗芳	川村　桂司	福島　一正	正田美智子・寺田恵美子・栗原里津子・後藤佳子
鳥取	鳥取三洋電機		鷲見　育亮	鷲見　育亳	西本美幸・徳長由美・小坂淳子・小林延江・森本礼子・金崎幸子 河田由美子
岡山	松本組・岡山	御堂　[illegible]	[illegible]	河内　富子	原田美智子・小山真弓・合田なおみ・河内富子
	クラレ	坂井　俊英	小河原　治	小河原　治	天野真理・福田正子・万代暁美・阿部ゆかり・鳴田孝子・川根美智子
香川	アジア共石	宮川　誠	長尾　由佳	山崎友見子	長尾由佳・松田節美・山本美八子・山崎友見子
	百十四銀行	窪川　道夫	日下　昇	中川　育子	岡本昌子・中川育子・佃　貴子・樋口礼子・永井明美・中川富美子 平井美代子

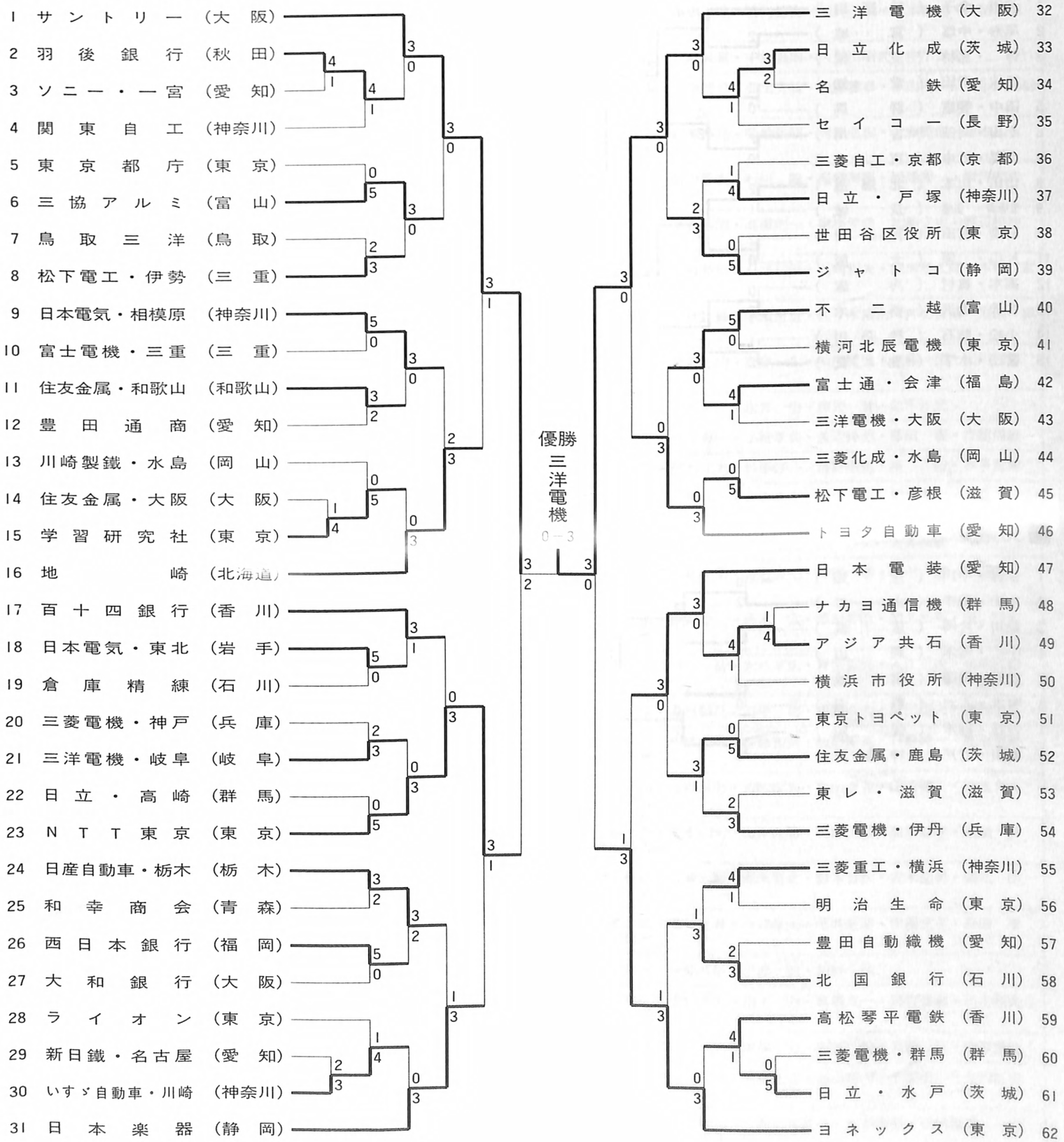
第35回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1985年(昭和60年)6月19～23日
開催地：神奈川県藤沢市
会場：藤沢市秋葉台文化体育館、
藤沢市秩父宮記念体育館、
いすゞ自動車藤沢体育館

■男子団体の部

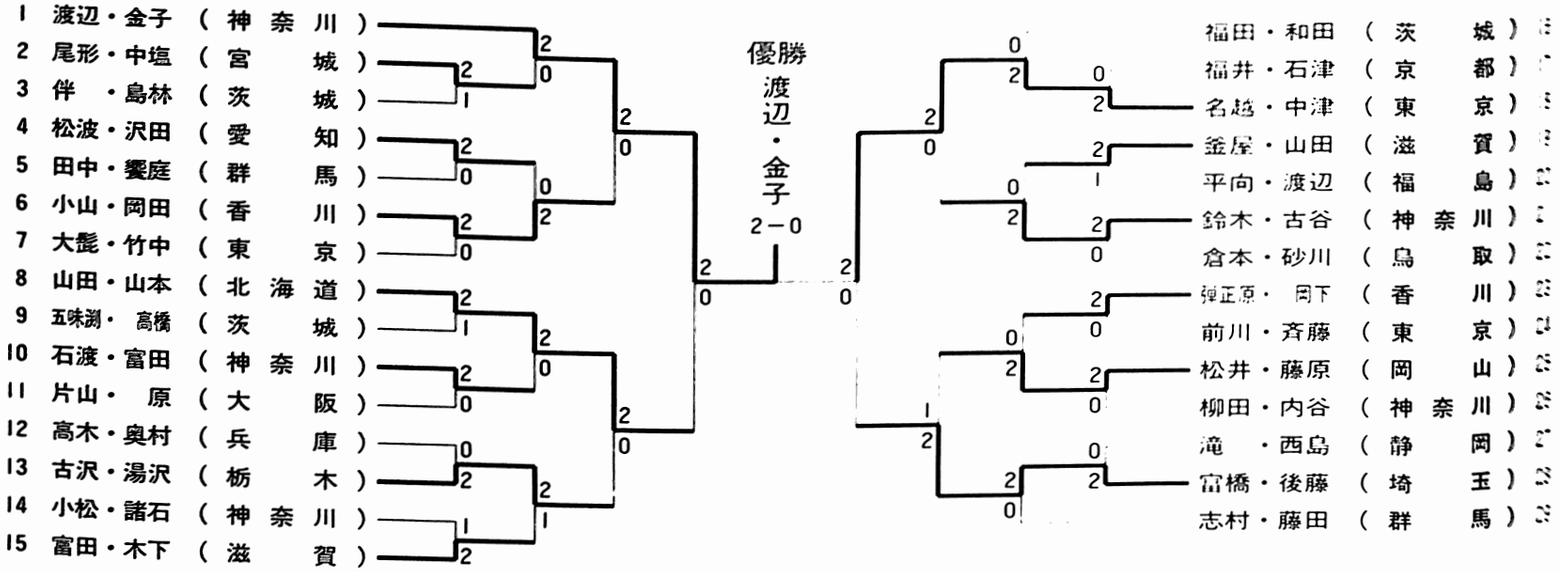


■女子団体の部

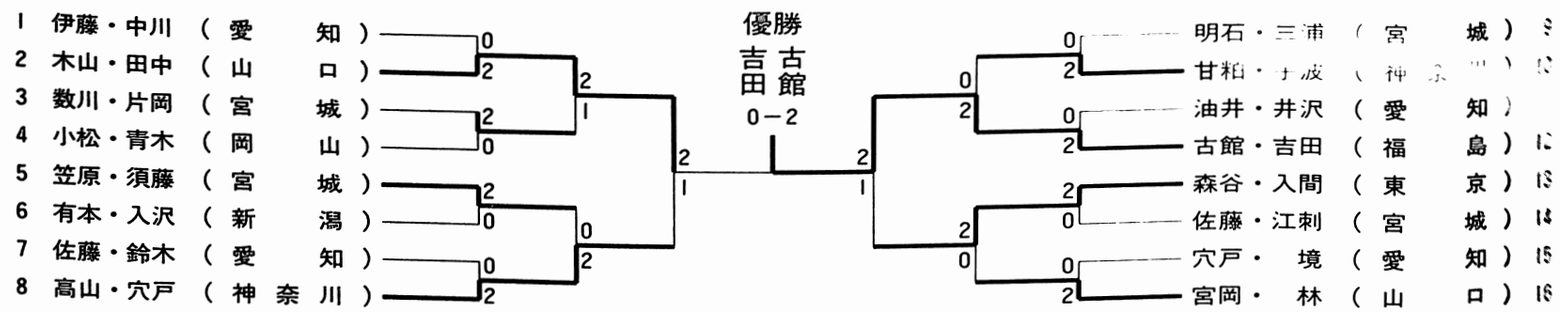

1 サントリー（大阪）
2 羽後銀行（秋田）
3 ソニー・一宮（愛知）
4 関東自工（神奈川）
5 東京都庁（東京）
6 三協アルミ（富山）
7 鳥取三洋（鳥取）
8 松下電工・伊勢（三重）
9 日本電気・相模原（神奈川）
10 富士電機・三重（三重）
11 住友金属・和歌山（和歌山）
12 豊田通商（愛知）
13 川崎製鐵・水島（岡山）
14 住友金属・大阪（大阪）
15 学習研究社（東京）
16 地崎（北海道）
17 百十四銀行（香川）
18 日本電気・東北（岩手）
19 倉庫精練（石川）
20 三菱電機・神戸（兵庫）
21 三洋電機・岐阜（岐阜）
22 日立・高崎（群馬）
23 NTT東京（東京）
24 日産自動車・栃木（栃木）
25 和幸商会（青森）
26 西日本銀行（福岡）
27 大和銀行（大阪）
28 ライオン（東京）
29 新日鐵・名古屋（愛知）
30 いすゞ自動車・川崎（神奈川）
31 日本楽器（静岡）
優勝
三洋電機
0－3
32 三洋電機（大阪）
33 日立化成（茨城）
34 名鉄（愛知）
35 セイコー（長野）
36 三菱自工・京都（京都）
37 日立・戸塚（神奈川）
38 世田谷区役所（東京）
39 ジャトコ（静岡）
40 不二越（富山）
41 横河北辰電機（東京）
42 富士通・会津（福島）
43 三洋電機・大阪（大阪）
44 三菱化成・水島（岡山）
45 松下電工・彦根（滋賀）
46 トヨタ自動車（愛知）
47 日本電装（愛知）
48 ナカヨ通信機（群馬）
49 アジア共石（香川）
50 横浜市役所（神奈川）
51 東京トヨペット（東京）
52 住友金属・鹿島（茨城）
53 東レ・滋賀（滋賀）
54 三菱電機・伊丹（兵庫）
55 三菱重工・横浜（神奈川）
56 明治生命（東京）
57 豊田自動織機（愛知）
58 北国銀行（石川）
59 高松琴平電鉄（香川）
60 三菱電機・群馬（群馬）
61 日立・水戸（茨城）
62 ヨネックス（東京）

[35回記念大会オープンの部]

■30歳以上(70歳ペアー)の部



■35歳以上(80歳ペアー)の部



■出場選手名簿

（男子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	望月幸三郎 伊勢　武	遠藤　好男	篠尾　幸孝	○米山孝二・遠藤好男・久郷俊明・千葉昌弘・中島俊也・加藤　学 伊藤雅弘
	小樽市役所	深山　雄造	大石　章	目黒　清則	○東田朋巳・阿部幸夫・徳満康浩・齋藤隆明・佐々木尚文・高野幹男 目黒清則
	札幌鉄道管理局	栗原　進	乙武　重丸	乙武　重丸	○高崎厚生・高橋　進・松村徳市・松岡　誠・山本晴通・山田好明 乙武重丸
	札幌市役所	島中　貞夫	中平　正幸	工藤　和子	○渋井敏紀・工藤義憲・中村義則・久保田昭夫・中平正幸
青森	弘前市役所	小野　浩一	山崎　直樹	中村　博典	○斉藤和則・工藤徳男・福士文敏・佐藤雅幸・小山内一仁・小山内聡 小野浩一
岩手	富士通岩手	浅岡　博通	佐藤　酉男	鈴木　礼子	○藤谷清文・岩渕裕光・菊地生昭・阿部弘和・近藤秀信・鈴木広志 岩渕英典
	盛岡鉄道管理局	佐藤　恭彦	鬼柳　孝夫	鬼柳　孝夫	○石川　淳・畠山静夫・石川　聡・高橋房裕・松尾秀一・岩渕和浩 鬼柳孝夫
宮城	ＮＴＴ東北	山田　敏夫	田所　光男	坂本　一雄	○田所光男・須藤嘉朗・高橋則一・樋場淳浩・加藤安史・渡辺勝治 菲沢伸幸
	国鉄仙台	笠原　元晴	松田　芳範	太田　久夫	○松田芳範・二瓶源治・石井右示・石崎利夫・堀米孝太郎・木村　宏 小沢睦雄
	吉田工業・東北	岩野　邦久	中塩　房雄	押切　吉基	○千葉清人・小林　修・中塩房雄・佐々木祐治・押切吉基・太田　淳 北浦　順
山形	鶴岡市役所	窪田　寛士	小林　保夫	佐藤千佳子	○真田昭良・上原正明・秋庭一生・丸山勝美・佐藤　茂・大川利男 遠藤清一
	山形銀行	茂木　重蔵	渡辺　勝利	土田　和夫	○荒井謙治・大谷英二・永井　悟・渡辺　賢・鈴木洋史
福島	日本化成	古館　信義	平向　一郎	石井　要一	○平向一郎・石井要一・小松孝典・渡辺隆男・藤田　智・古館信義
	富士通・会津	松田　嘉博	塚越　厚生	渡辺　正光	○寺田　繁・渡辺正光・杉原好一・清野徹也・星　　徹・本多克博
茨城	自衛隊・茨城	宮田　章	田山　貞男	金本　俊夫	○五味渕実・高橋成一・金本俊夫・洞口　勝・樅木寿一・豊島　昇 大田章二
	住友金属・鹿島	川崎　守夫	鳥林　総蔵	生田　里子	○梅沢和則・駒田　忠・岡田常雄・岸　正仁・島林総蔵
	日立・水戸	高野　徹	菅野　孝	菅野　孝	○松崎祐治・小島孝治・狩野秀一・菅野　孝・早川　博・和田講一 福田喜代志
栃木	栃木県庁	古沢　元浩	湯沢　雄一	田野辺幸正	○古沢元浩・湯沢雄一・鈴木　武・池田勝浩・和久光男・原　利浩 琴寄行雄
	日産自動車・栃木	千場　忠祐	田中　英男	石川　泰子	○笠井孝之・田上　悟・大八木正・青柳哲夫・入江正夫・菊地尉修 入江久夫
群馬	澤藤電機	田中　　司	志村　勝己	角田　恒雄	○古川　千・志村勝己・田中　司・餐庭孝夫・藤田康夫・角田恒雄
	日立・高崎	松本　博之	別所　明雄	長井　晴夫	○安藤則夫・伊藤文久・神藤和博・飯野博英・石原純一・鹿沼重雄 石川英寿
	富士重工・群馬	杉本　伸夫	渡辺　晃一	大木　利行	○中居功治・高野貞男・竹内康夫・丸山清春・山崎健二・越後久夫 目黒正浩
千葉	コスモＭＰＣ	久保　　浩	浅利　章悦	相沢喜久男	○佐藤一男・滝本和大・田中政剛・斉藤正敏・前田益孝・岩瀬　洋 橋爪長太郎
	ピークスポーツ	峯元　一匡	峯元　一匡	鈴木　啓次	○新井春雄・大場和博・織本富之・鈴木啓次・吉永法男・峯元一匡 鶴野　弘
	三井東圧	石田　紘志	畠山　　修	斉藤　　忠	○斉藤　忠・星　光春・今井保夫・菅井竜基・伊藤武志・島田　孝 江田信一
埼玉	ラケットハウスグリップ	富橋　末治	後藤　武信	三浦　　誠	○富橋末治・後藤武信・三浦　誠・粕谷　肇
	パイオニア・所沢	鈴木　　勤	近藤　　均	那賀　敬弘	○鈴木洋一・澤辺孝夫・山下　力・馬場良一・那賀敬弘・三上利夫 富山　洋
	本田技研・狭山	朝倉　敏雅	藤田　茂樹	大橋　　正	○藤田茂樹・岩田好夫・阿部　力・堀越　勉・大橋　正・内野昌明
東京	ＮＴＴ東京	鈴木　龍平	池田　信孝	佐藤　祐三	○尾崎幹雄・土田証雄・宮森庄吉・西山博司・本田浩二・長内征美 藤咲勇一
	ヨネックス	土田　隆史	栂野尾昌一	望月　　資	○長谷川博幸・丹藤勇一・栂野尾昌一・宮本幸弘・石場隆雄 望月　資・木村雅彦

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
東京	足立区役所	鵜澤 敏信	鵜澤 敏信	鵜澤 敏信	○小林光雄・大和田勉・久保井秀夫・丸山秀高・笹林義春・菅野和幸
	岩崎通信機	定野 満	家串 友治	北本 清行	○家串智治・手塚睿志・手塚雅志・宗形一志・鳥羽恒康・黒澤 武
	KDD	武村 俊平	大髭 輝雄	目黒 仁一	○藤平 守・橋本敏邦・高橋昭彦・水野 茂・松永 浩・松岡祐一 嶋田 聡
	航空宇宙技研	堀内 正司	高梨 進	楯 篤志	○高梨 進・名越孝行・楯 篤志・平林則明・野口正芳・佐藤 衛 二井田道隆
	ゴーセン・東京	山上 啓三	中村 輝充	斉藤 明子	○鎌田啓睦・本石俊憲・兼坂省一・時田新一・長田修一・中村輝充
	国鉄・大井	渡辺 康彦	山口 清奉	加藤 仁	○落合康夫・榎 博久・山口清奉・鈴木登美夫・佐川伸一・岩本 裕 真貝健二
	東京簡保	蔵之内信昭	古明地正邦	広田みちる	○古明地正邦・小畑辰美・中沢睦夫・八杉貞雄・飯塚正之・小林正人 吉野章二
	東京電力・東京	石原 泰造	内田 修	高野 徹	○内田 修・石原泰造・厚川 勇・橋本 栄・信田正憲・高野 徹
	東京都庁	島田 稔	大原 政義	高田 浩	○島田 稔・大原政義・後藤 勝・小林賢治・高田 浩・首藤誠司
	東京トヨペット	入間 秀哲	入間 秀哲	沢田 和俊	○福田利男・橘川光孝・大瀬久司・根岸 信・神田正浩・沢田和俊 入間秀哲
	東芝・府中	今橋 一彦	西沢 寛	五十嵐 哲	○早坂正志・斎藤 純・西沢 寛・利光 考・坂口千年・長内秀彦 上野梅郎
	日本無線	吉田 繁	榎本 茂	佐藤 隆	○須藤 繁・後藤金作・吉田 繁・佐藤 隆・石川正司・松田 朗
	富士電機・東京	新沢 正人	後藤 吉勝	廣瀬 英彰	○新沢正人・後藤吉勝・廣瀬英彰・伊藤 徹・岩森純好・山部 聡
新潟	三條機械	外山 修	木村 政勝	小柳 敏雄	○鈴木 裕・米山 高・羽龍良記・丸山勝弥・久住勝利・金子 聡 佐藤幸明
	三菱金属・新潟	多田 光男	有本 健	樋口 良則	○入沢一由・星 誠司・石垣道夫・宮村 久・山崎芳一・山本 勝 那須野滋
長野	新光電気工業	井上 慎二	高橋 昌彦	山本 秀一	○井上慎二・川島雅幸・山浦賢一・月岡博一・北沢 潔・樋口政俊
富山	高岡市役所	開 博	中山 邦夫	河村 博之	○今泉 勉・関村順治・米沢和男・米 正隆・末坂 進・西本幸夫 牧野光男
	三晶技研	浅井 秀一	飛弾 是博	毛利 賀成	○吉森勝之・松浦健二・毛利智成・寺田信行・星野清志・森 佳和
	不二越	川上 洋一	畑 栄進	八町 康行	○八川修一・山崎 明・[illegible]・新田寛義 碓井政人
石川	金沢市役所	駒谷 良則	田辺 忠彦	太田 博之	○山下敏行・林 芳広・太村正信・毛利達彦・田村 稔・米田幸生 森 昭則
	ユーザック電子工業	松本 満	岡島 浩一		○岡島浩一・嶋田隆志・清水善長・清水一昭
福井	福井市役所	山本 敏彦	増永 秀則	岩本 好文	○嶋田伸行・宮原 一・谷口治光・岩本好文・増永秀則・山本敏彦
静岡	ジャトコ	佐場野英一	後藤 和之	佐藤 佳久	○芹沢英彦・関野 強・後藤和之・鈴木朗典・村松三郎・中田 茂 土屋 仁
	テルモ	佐野 康之	若松 隆宏	有賀 三雄	○佐野康之・若松隆宏・楠 一昌・望月規義・有賀三雄
	日産自動車・吉原	飯島 孝彰	望月 吉広	若松 誠	○望月吉広・平野哲司・山本秀和・中司 勇・若松 誠
	富士フイルム	吉田 真	滝 正孝	滝 正孝	○滝 正孝・西島知彦・井出裕雄・吉岡直彦・池田光宏・武井弘征 竹田明彦
岐阜	三洋電機・岐阜	阪口己代治	中井 宏幸	川述 貞延	○松浦竹典・藤井昭生・荒木久信・藤本高義・水野信一・澤井哲二 川述貞延
	多治見市役所	万字 益雄	大島 貞夫	青山 崇	○武知勝年・河田 満・仙田弘志・青山 崇・佐藤喜好・河田祥則 佐藤真彦
愛知	トヨタ自動車	北田 寛一	谷口 寛	谷口 寛	○山本秀樹・坂本宏志・宝達昌嗣・須貝英徳・坂井外喜男・古賀勝志 川本英明
	NTT東海	小牟田 博	伊藤 雅昭	宍戸 一秀	○水谷悦郎・清水孝四・中川紀嗣・木下耕一・池田文彦・中村昌司 伊藤正昭
	新日鐵・名古屋	小島 吉夫	山本 卓男	加藤 勇一	○天野良彦・林 甚代・山西友幸・納所久夫・坪井英之・菅井 孝 佐々木秀一
	豊田工機	佐伯外與昭	佐伯外與昭	石原ひかり	○日比野伸昭・土田信也・峰登志郎・東 正也・永多 実
	豊田自動織機	大束 祥順	武田 正雄	石井 宏明	○岩淵信司・石井宏明・尾崎 弘・林 忠明・永井 桂・福士美浩 佐山康成

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
愛知	日本電装	鈴木　欣老	工藤　宣慶	鈴木　嘉正	○工藤宣慶・知識博隆・鈴木嘉正・松原伸幸・荒木春彦・服部慶一 寺崎　明
	三菱重工・名古屋	沢田　正夫	旭　寿夫	旭　奈穂子	○沢田正夫・松波　譲・旭実喜雄・船木真司・柴田慎一・山中充正 稲垣省司
	名鉄	速水　正昭	井沢　宏	加藤　憲治	○加藤保利・井上　龍・林　久男・斉藤敬一郎・松田浩資
三重	日東電工		蒲田　博	豊田　浩	○服部芳博・清原　進・豊田　浩・坂本雄二・福島和広
	富士電機・三重	山口　香	下田　勲	森川　広美	○山口　香・下田　勲・森川広美・藤本規夫・小林英毅・伊藤幸和 森田善幸
	本田技研・鈴鹿	世古　浩一	朝比奈正光	朝比奈正光	○朝比奈正光・澤口達哉・下村雅彦・鈴木義弘・古川勝康・石田謙造 知光耕治
	三菱化成・四日市	増子　達郎	増井　孝夫	神野つや子	○伊藤正己・小林信行・田中秀俊・市来哲郎・毛利浩治・荻田昌昭 多田晃宏
	三菱油化・四日市	高橋　力男	大倉　忠	生川　文彦	○大倉　忠・安良城雄介・鈴木正平・泉　洋二・井崎敏己・後藤幸孝 北村　保
滋賀	大津市役所	佐藤　賢	西原　四郎	山田　通義	○増田伊智郎・中村　亨・奥村　真・矢部忠司・竹端英夫・中川　健 中川　康
	日本ＩＢＭ・野洲	富田　健一	石原　誠	木下　寿則	○富田健一・木下寿則・梅本一寛・俣木淳一・森川潤一郎・寺井治和 大迫昭憲
京都	海上自衛隊・舞鶴	蔵園　東洋	山部　巍	瀬野　俊策	○田野栄敏・瀬野俊策・川村道厚・白井規久夫・白井幸夫・沢田巧二 長岡好徳
	京都中央信用金庫	黒田　豊	黒田　豊	吉田　憲一	○吉田憲一・根本　一・安永　誠・米光秀夫・平井　悟
	日新電機	木全　薫	梶村　和也	高田　弘	○梶村和也・橘　栄作・山中秀樹・宮林幸正・富田久幸・上田政行 神川哲也
	三菱自工・京都	岡本　宏也	戸沢　正雄	石津　正明	○福井達雄・竹井宣夫・谷沢和彦・佐々木正司・寺尾　豊・福元文雄 石津正明
大阪	ＮＴＴ関西	大谷　武司	牧志　倫夫	吉兼　保	○松重恵三・冨田章夫・守安達二・保科正浩・武野　忠・近藤雅明 松井峰生
	大阪ガス	野口　明雄	北野　公男	弘瀬　一生	○北川伝治・西野幸雄・小西秀政・田中真平・高石　哲・早水栄治 斉藤浩司
	興亜石油・大阪	久村　幸正	吾郷　裕志	日下　英明	○吾郷裕志・坂井秀昭・日下英明・岩垣雅典・中本義樹・広田喜信 南　功
	三洋電機・大阪	池田　三郎	篠原　達夫	辻田　平幸	○岩崎正彦・角南行治・大田和男・山内重夫・久保田義弘・西島　功 高橋義和
	住友金属・大阪	中沢　恒	中沢　登	西村　央子	○山口正和・梅本　彰・藤野勝次・野村　隆・梅津裕一・斉藤正博
	阪急電鉄	操田　浩	出田　安隆	古川　富恵	○出田安隆・下野治生・蔵本英二・大野孝二・西郷幸司・小野俊雄
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	宮崎　庄一	納富　隆志	○山川正一・那須哲太郎・中角好男・川本巌良・樋口正幸・森脇紳二 山口昭彦・勝川道和
	松下電子工業	大橋　誠治	近藤　敏和	仲田　康英	○米良大助・桂　貫男・安藤　浩・古川　悟・梅村真一・仲田康英 近藤敏和・馬場康行
	ヨネックス・大阪	黒子　武	村西　清文	浅利　剛志	○林田草樹・山本秀樹・諸多博之・田口茂樹・村尾　勉・浅利剛志
兵庫	神戸マツダ	橋本　正己	藤江　久善	川畑　幾世	○服部清彦・秋月道隆・森野修治・岡田克美・小島政浩・藤江久善 竹内　茂
	新日鐵・広畑	飯田　洋	平松　重吉	泉　吉弘	○片岡正之・塩飽　初・平松重吉・横山真二・藤城武義・広岡輝男 八十友昭
	住友金属・尼崎	松田　勝彦	奥村　晴一	川中　節子	○斉藤圭二・片岡栄一・高木昭憲・小田清二・高木茂和・新堂孝浩 奥村晴一
	三菱電機・伊丹	伊藤　利朗	寺尾　一秀	岡村　淑子	○入口弥一郎・寺尾一秀・直野俊治・志方　光
	大和製衡	木下欣二郎	小川　雄一	西田小百合	○小川雄一・草田　隆・稲本光一・山本　勝・藤本純一・黒田真孝
和歌山	住金化工	辻　司	塩谷　広次	岩本松次郎	○玉置幸三・田村昭男・森　隆・徳岡昭次・西　章弘・中尾孝司 岩本松次郎
	住友金属・和歌山	竹山　宗芳	川村　桂司	福島　一正	○北山洋二・野沢英雄・小川　均・西山祥一・梅林信幸・乳井重雄 児嶋　浩
岡山	岡山市役所	岸本　秀雄	岡本　武利	藤木　史子	○小松　貴・藤井英雄・青木元春・三浦　真・妹尾和彦・平井道也 内藤元久

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
岡山	川崎製鉄・水島	川西　肇	中山　睦雄	穴吹　栄二	○中山睦雄・平田重男・藤原道弘・北村治雄・西江　均・穴吹栄二 三村勇人
	三井造船・玉野	細田　高代	藤原　航	松岡　純子	○松井　一・丸岡　隆・山本　清・若林邦任・土居信夫・羽崎美智夫 高本行男
広島	日本鋼管・福山	脇谷　昇武	梅月　隆	藤井　直美	○小野裕征・田上義美・財津貞二・木村典正・上杉淳司・佐藤嗣隆 梅月　隆
	三菱電機・福山	稲田　信	山岡　満	山崎　史郎	○山岡　満・山崎史郎・安達喜基・丸山　利・板森増二・森田泰浩 平田尋己
山口	宇部興産	田中　実雄	末廣　秀樹	田中　義秋	○末廣秀樹・河添忠夫・坂本賢二・渡辺　宏・沖　貞雄
	三陽国策パルプ・岩国	谷淵　龍夫	林　厚志	貴船　博己	○宮岡康臣・林　厚志・高橋良明・保良智司・後藤　晃・村上弘明 高橋和也
鳥取	王子製紙・米子		安田　徳郎		○倉本仁司・砂川清美・山根富雄・武良　優
香川	香川県庁	真鍋　剛	弾正原義春	谷本　竹司	○弾正原義春・小山光男・岡田忠己・岡下俊次・今雪良智・谷本竹司 香川正樹
	高松市役所	大平　照正	栗田　康市	野口　利行	○大久保進・太田辰見・綾田隆文・向谷久喜・栗田康市・中西　功 木村　茂
	吉田工業・四国	横幕　賢一	古竹　公三	坂東　輝夫	○古竹公三・好井博文・山本　学・麦谷敏也・沢田訓彦・坂東輝夫
愛媛	クラレ・西条	田中　次郎	橋田　国司	橋田　国司	○川上悦興・田坂祐二・近藤勝行・上川徳郎・橋田国司・三村一郎
福岡	ベスト電器	北田　葆光	坂田　雄二	武川　博美	○相良勝吉・奥山祐司・田中慎治・近藤公輔・藤本　悟
長崎	三菱重工・長崎	江戸昭八郎	田中　貞夫	田中　賢介	○中野和雄・福田良治・三根　哲・森田純一・江坂敏郎・竹永　学 田中貞夫
	三菱電機・長崎	小林　正昭	松山　清	山川　正光	○松山　清・久保真一・林　吉則・里見　正・諸熊宏典・山川正光 川久保暢宏
神奈川	いすゞ自動車・川崎	波　博義	手塚　利男	伊藤　一好	○高橋幸治郎・菊池　修・手塚利男・伊藤一好・尾形隆英・池田浩通
	鎌倉市役所	三橋　秀行	小松　真一	諸石　昭好	○鈴木郁雄・島田正樹・儀島誠司・吉野友明・加藤　博・込山泰弘
	関東自工	有村　洋一	井上　忠久	大石　幸子	○高橋　清・細谷　昇・高橋久之・一瀬浩美・友広徹郎・正田章二 石川　剛
	東芝・浜川崎	庄司　俊介	庄司　俊介	阿部　清	○阿部　清・柳田治二・庄司俊介・内山正明・関田　実・加藤忠春 柿沼二郎
	東京電力・神奈川	臼田誠二郎	市野　貞夫	山本　正	○小林栄二・板倉　敏・赤坂和久・五十嵐功・渡辺政幸・田中　徹 鵜沢　豊
	日産自動車・追浜	脇坂　敏	石渡　潤	富田　久雄	○飯沢秋好・大桃佐利・広津守人・高橋敏昭・丸尾訓明・鈴木一保 富田久雄
	日産自動車・横浜	清野　忠勝	竹村　芳雄	中島ともよ	○小泉浩一・山内好一・太田弘一・塚本　選・桜田豊治・竹村芳雄 大谷清志
	日本電気・相模原	板倉　信雄	西出　龍守	新谷　哲生	○福井　猛・池田英也・高橋伸弥・西出龍守・土田秀紀・湊　省一 吉川正夫
	日本石油・根岸	京屋　孝治	泉　信夫		○石渡輝己・野友昭夫・高橋　登・目黒善喜・泉　信夫・京屋孝治 丸山則明
	日立・戸塚	田中　康之	坂口　勝則	北村　敏明	○坂口勝則・目良雅彦・鰐川　朗・川合正信・甘粕完治・川北高裕 秋山昌博
	富士通・川崎	出浦　通夫	青木　一夫	鈴木　弘之	○青木一夫・鈴木弘之・寺門義之・後藤正志・鶴田紀雄・稲垣広宣 鈴木幸雄
	三菱重工・横浜	前沢　祐一	鈴木　勝之	鈴木　勝之	○古谷陽一・鈴木勝之・小松　宏・熊谷純雄・前田淳一・上野　強 守家保規
	三菱電機・鎌倉	布施　明	池田　勝彦	鈴木あずさ	○石井正男・桑城　豊・片山　敏・大須賀弘行・畠山秀美・橋本　孝 古内浩二
	横浜市役所	元木　光男	宍戸　安治	村松　利之	○平　敏司・斉藤英昭・秋葉　博・広沢昭一・根本道夫・柄本　孝 森　篤

（女子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	地崎	松浦　勤	岡本　伝	奈良ゆかり	○和田美津子・小池かおり・奈良ゆかり・小川美和
青森	和幸商会	岡本　勝光	上田　哲也	岡本　睦子	○太田陽子・成田寿代・松岡淑子・野呂和加子
秋田	羽後銀行	細谷　昭次	荒川龍一郎	相場　清一	○菊地祐子・石郷岡真弓・米田浩子・永沢真澄・柳谷郁子・菊地公子
岩手	日本電気・東北	千葉　忍	佐々木輝美雄	千葉　一美	○藤村恵美・小野寺恵美子・菅原明美・菅原好枝・後藤利香 鈴木智恵子・本城知枝
福島	富士通・会津	松田　嘉博	塚越　厚生	渡辺　正光	○青木マチ子・上野久仁子・長谷川加代子・菊地美香・山口幸子 佐藤　泉
茨城	住友金属・鹿島	川崎　守夫	島林　総蔵	生見　晶子	○日向美幸・渡辺ナオミ・川村裕子・瓜田博子・山口弘子
	日立化成	中束　三嘉	岩田　輝彦	岩田　輝彦	○藤井美子・香取真由美・小祝幸代・吉田友子・倉持美紀・石川和恵 川澄奈穂美
	日立・水戸	高砂　徹	早川　博	菅野　孝	○大貫敦子・竹内香代子・伊藤恵子・有馬正美・田中琴美
栃木	日産自動車・栃木	千場　忠祐	大塚　浩司	石川　泰子	○石川泰子・武井正代・大高正江・小貫早苗・須藤千代子・光田和恵
群馬	ナカヨ通信機	小栗　征夫	上野　弘一	青山真由美	○青山真由美・青山真智子・石井清美・板橋春美・根津真奈美 大久保麗香・大沢光江
	日立・高崎	松本　博之	別所　明雄	長井　晴夫	○新井昌美・岡田三枝・北村紀利子・高瀬晴美・曽田幸子 茂木ゆかり・吉井君枝
	三菱電機・群馬	米田　守	田島　文雄	並木久実子	○本多富枝・斉藤裕子・高橋あゆみ・久保田可奈恵・並木久実子
東京	ヨネックス	土田　隆史	栂野尾悦子	藤井　直子	○高野和代・藤井直子・宮森ソノエ・西山美代子・森山弘美 高峯尚子・徳光由美子
	ＮＴＴ東京	鈴木　龍平	池田　信孝	佐藤　祐三	○米倉よし子・三田知佳子・平尾彰子・岡崎仁子・小嶽江理香 星野由美子・平井真由美
	学習研究社	小島南海雄	今井　茂満	二瓶由美子	○大塚千賀子・杉山紀子・鎌田みゆき・和田千尋・川島奈緒子 中山美里・永田ゆうなぎ
	世田谷区役所	八頭寺達郎	荒井　久雄	鈴木　紀子	○小川芳江・岡本京子・鈴木紀子・佐藤明子・野尻幸子・岡倉真由美 鐵本春美
	東京都庁	島田　稔	島田　稔	大里まゆみ	○大里まゆみ・稲原朋子・堀切園むつみ・柳原小枝子・栗城ツギ子
	東京トヨペット	入間　秀哲	入間　秀哲	渡辺恵理奈	○村杉ともか・花輪美保・川上裕代・斉藤めぐみ・橋之口美津子 吉田裕子・渡辺恵理奈
	明治生命	宮永　武司	杉本　伸之	佐々木　淳	○根本雅江・橋本恒子・土屋喜英子・斉藤みどり・高木久美子
	横河北辰電機	南條　尚	生田　美穂	畠山　美彩	○生田美穂・清水美恵子・畠山美彩・山田美恵・西田幾子・沢田　泉
	ライオン	荒井　道夫	大野　憲弘	村上　公子	○中山光子・篠崎祐紀子・黒岩和子・石川ゆう子・岩土和子 那須智子・松丸容子
長野	セイコー	戸嶋　清房	戸嶋　清房	北原　竜也	○板垣奈美・矢崎雅子・中沢静江・古畑明美・岩波和子 東海林とも子
富山	三協アルミニウム工業	渡辺　圭一	北山　清志	河合　昭博	○池田真奈美・今川真理子・大谷鶴美・山田美紀・上浜陽子 中出　忍
	不二越	川上　洋一	畑　栄進	八町　康行	○山谷光代・甚内美雪・平井智美・高本清美・山口ちはる
石川	倉庫精練	若松　忠夫	東　茂樹	東　茂樹	○奥野孝代・沢由香里・湊　昌代・松本正美・不島幸江・高森麻貴
	北国銀行	明石　宗一	岡部　憲昌	宗本　義隆	○彼島佳子・水本幸代・大野亜矢子・斉藤美知子・松本悦子 森田美幸・丸山晴江
静岡	日本楽器	国田　佳資	飯野　佳孝	尾崎　升美	○原田純子・元田里恵子・大田真由美・松嶋由美・谷本美代子 植松弘美・尾崎升美
	ジャトコ	佐場野英一	松山　博雄	佐藤　佳久	○芦沢恵里子・遠藤弥生・望月貴代美・高井良枝・関野令子
岐阜	三洋電機・岐阜	阪口巳代治	中井　宏幸	川述　貞延	○高橋由美子・荒井京子・後藤洋子・三田陽子・大橋由子・林佳津代
愛知	新日鐵・名古屋	小島　吉夫	菅井　孝	山本　美紀	○谷内陽子・渋谷裕子・津曲奈緒美・早川聡美・片山徳枝・渡辺弘美 浅田妙子
	ソニー・一宮	戸張　正勝	岩下富士男	名和知江子	○今井貴子・名和知江子・西口美鈴・倉田靖子・坂本ちえ美 矢島　栄
	トヨタ自動車	北田　寛一	松島　保	寺嶋　紀巳	○遠藤真弓・寺嶋紀巳・松井香奈枝・光石寿子・林　幸枝・高田美和 松本清美
	豊田自動織機	大東　祥順	武田　正雄	石井　宏明	○斉藤直子・黒沢江美子・佐藤裕美子・田路淳子・徳留芳美 野呂奈生子

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
愛知	豊田通商	西山　直文	西山　直文	西村　光代	○奥田恭子・奥村ひろみ・西村光代・渡部百合子・佐藤真理子 渡部百合子
	日本電装	田中　篤郎	藤江　至	元田　慶子	○大野真裕美・関矢亮子・宮本美津子・佐名美幸・宮本　忍 白川由理・高原恵美
	名鉄	速水　正昭	井沢　宏	加藤　憲治	○近藤あけみ・佐賀　恵・大野真奈美・藤井良子・岩田典子
三重	富士電機・三重	山口　香	下田　勲	森川　広美	○黒宮智子・宮尾典子・竹内奈々美・鈴木朱美・伊藤華津・萩野美和 森　千晴
	松下電工・伊勢	元山　正徳	上田　晴美	北岡　真美	○北岡真美・山本節子・杉田保美・山下小百合・西口千種
滋賀	東レ・滋賀	山田　邦男	古川　正行	田中　実	○中川　都・沢田礼子・加藤典恵・滝本尚美・佐倉美智子・近藤博子 中井幸恵
	松下電工・彦根	谷　和男	中村　恵子	西堀ひさ子	○西堀ひさ子・高橋眞樹・清水幸子・安澤千賀子・寺村由美
京都	三菱自工・京都	岡本　宏也	戸沢　正雄	石津　正明	○山口明美・岩谷彩子・高倉さち子・北川典子・浜田　薫
大阪	サントリー	松下堅一郎	(総)山本次生 宮崎　克己	森下　一夫 谷地　春子	○西村美千代・菊池洋子・高峯和子・星　和枝・原田真理恵 渡辺律子・北本久美子
	三洋電機	中井　健三	宇治　収	銭谷　欽治 田畠　佐苗	○北田スミ子・冨田美千代・河村茂美・平山美恵子・岡田由美 星野由美子・清水尚美
	三洋電機・大阪	池田　三郎	篠原　達夫	辻田　平幸	○岩倉裕美子・室井芳江・寄田真苗・佐々木典美・岡田　茂美
	住友金属・大阪	中沢　恒	内田　俊輔	西村　央子	○加島聡美・井原彰子・阿部茂子・押切美喜
	大和銀行	勝田　泰久	伊藤　憲二		○津田佳代子・萩原淳子・山本美江・紅露ゆかり・千田朗子
兵庫	三菱電機・伊丹	伊藤　利朗	矢賀　雅人	岡村　淑子	○近葉裕子・山崎邦恵・小永琴美・白井洋子・梶岡信子・谷口須美子 永井恵子
	三菱電機・神戸	佐々木利彦	上藤　朝之	上藤　朝之	○中野牧子・馬場慶子・野崎かおる・藤田直子
和歌山	住友金属・和歌山	竹山　宗芳	川村　桂司	福島　一正	○正田美智子・寺田恵美子・栗原里津子・後藤佳子・中島明美
岡山	川崎製鉄・水島	川西　肇	古賀　知子	穴吹　栄二	○古賀知子・三宅淳子・亀山結花・萩原富江・川上幸枝・竹林喜久美
	三菱化成・水島	村瀬　和夫	川上　徹吾	山本　実雄	○川崎京子・多久島千秋・板野好子・馬場佳津子
鳥取	鳥取三洋電機	鷲見　育亮	鷲見　育亮	鷲見　育亮	○福田麻寿美・徳長由美・小坂淳子・小林延江・金崎幸子・西尾明子 森本文代
香川	アジア共石	小玉　章	小玉　章		○長尾由佳・山崎友見子・松田節美・青野早苗・熊谷清美
	高松琴平電鉄	中村朔之介	東条フミ子		○東条フミ子・前川知寿子・成合三枝・桑田和代
	百十四銀行	窪川　道夫	窪川　道夫	中川　育子	○佃　貴子・樋口礼子・永井明美・中田富美子・上井美代子 山田理恵・武内真由美
福岡	西日本銀行		釜　洋輝	釜　洋輝	○高見みどり・阿武屋圭子・浜口孝子・清田香苗・浜マサ子 白石恭子
神奈川	いすゞ自動車・川崎	波　博義	手塚　利男	粟野千津子	○阿保優子・永田妙子・古谷野有子・佐々木幸織・粟野千津子 白井治美
	関東自工	有村　洋一	巽　康司	大石　幸子	○三苫ひろみ・大石幸子・高橋祐美子・片瀬寿賀・金成正美 行方淑枝・中嶋昌美
	日本電気・相模原	板倉　信雄	宮入　恒明	二瓶由理子	○加藤明美・大熊千恵子・伊藤哲子・山村奈美・高橋和子・関　由紀 松下直子
	日立・戸塚	田中　康之	佐藤　久敏	伊藤麻利子	○高山秀子・永山由紀美・井上雅子・伊藤麻利子・小川明己 黒田智子
	三菱重工・横浜	前沢　祐一	守口　茂	横山しのぶ	○熊沢加代子・大竹真紀子・横山しのぶ・高橋理恵・松本美恵子 菅野佳枝・石田菊江
	横浜市役所	元木　光男	森　ちづる		○森ちづる・野村優子・山森好江・中島佳江・寺田純子・高橋陽子 染野真澄

■オープン大会出場選手

県名	30歳以上	35歳以上
北海道	山田好明・山本晴通	
宮城	尾形信夫・中塩房雄	笠原元晴・須藤義昭・数川昭市・片岡秀樹・佐藤照市・江刺昌春 明石　誠・三浦紀重
福島	平向一郎・渡辺隆男	古館信義・吉田邦男
茨城	五味渕実・高橋成一・伴　順造・島林総蔵・福田喜代志・和田講一	
栃木	古沢　元浩・湯沢雄一	
群馬	志村勝己・藤田康夫・田中　司・饗庭孝夫	

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
富山	北陸電力・富山	柳沢　昭信	平野　政雄	竹中　敏光 江田　晃	○中家信博・水野博之・水本幸弘・江田　晃・吉本茂利・平野政雄
	十條製紙・伏木	田代　正司	大野　幸雄		○嵐　英一・高崎裕一・中嶋正男・蔵野耕治・林　清和・山本　潤 谷口孝志・加須栄隆治
	三晶技研	浅井　秀一	毛利　智成	飛弾　是博 平野　祐子	○吉森勝之・北野　隆・湯上佳和・堀　正人・種田茂博・沢田淳悦 野村智紀・毛利智成
石川	ＮＴＴ北陸	畠山　丈治	浜谷　安裕	直地　直	○谷島助男・宮本勝裕・森田　均・坂井外喜男・宮本照啓・浜谷安裕 國本伸一・東　隆裕
	金沢市役所	山下　修平	林　芳広	太田　博之 山形　博	○田村　稔・太村正信・毛利達彦・庄田秀実・永井俊宏・内田雄士
	津田駒工業	鍋嶋　範雄	安江　勉		○高島直樹・小川裕之・広村　繁・高野敏雄・吉川政美・二口吉邦 金谷敏夫・奥本正博
	北國銀行	大門　重樹	岡部　憲昌	重政　誠之	○羽田義仁・羽田憲治・崎田健一・西島弘幸・山本明彦・藤島誠孝 武田　修
福井	福井市役所	嶋田　伸行	嶋田　伸行	髙橋　譲	○宮原　一・山本敏彦・嶋田伸行・西行　裕・髙橋　譲・藤田和彦 南京良幸・山本和彦
	北陸電力・福井	村田　繁一	角　五三男	谷先　政人	○高野一男・前田初志・金川克行・角野真一・亀田昌利・藤尾裕一
長野	富士通・長野	萩原　正孝	丸山　隆	鎌田　正幸 髙山　卓子	○鎌田正幸・丸山　隆・酒井正彦・出川輝義・上原克人・戸谷正人 山崎　豊・丸山和宏
	石川島芝浦機械	北川　良司	北川　良司	赤羽　元春	○奥原祐二・島田直樹・丸山　宏・赤羽元春・北川良司
岐阜	多治見市役所	万字　益雄	武知　勝年	河田　満 青山　崇	○仙田弘志・武知勝年・河田　満・青山　崇・鷲見哲也・虎沢和洋
	航空自衛隊・岐阜	小島　文雄	佐藤　正美	池端　康弘 籾垣　千鶴	○池端康弘・植松弘忠・岸本勝治・有馬清人・小島文雄・小川国助
静岡	テルモ	板垣　賢紀	渡辺　昭	有賀　三雄	○佐野康之・渡辺　昭・若松隆宏・中村規義・有賀三雄
	富士フィルム	滝　正孝	西島　知彦	川原崎　仁 後藤　明美	○井出裕雄・池田光宏・中村繁幸・武井弘征・小野里朋之・吉岡直彦 西島知彦・滝　正孝
	ジャトコ	佐場野英一	後藤　和之	佐藤　佳久	○吉野智昭・若松　誠・坂上隆広・石嶺善健・井出勝弘・中島信頼 後藤和之・関野　強
	アスモ	田口　紀一			○山本明靖・田村輝美・神谷秀康・髙橋　徹・上村昌彦・金子　司 有馬久雄
愛知	ＮＴＴ東海	小板　紀夫	伊藤　雅昭	伊藤　正昭	○水谷悦郎・木下耕一・池田文彦・伊藤正昭・中村昌司・北島洋一 匂坂健司・清水孝四
	名古屋鉄道	速水　正昭	井沢　宏	斉藤敬一郎	○井上　龍・林　久男・斉藤敬一郎・髙橋章仁・川嶋清和・鬼頭幸裕
	アイシン精機	岩岡　照夫	飯見　隆治	菊地　勲 武部美保子	○大月善巳・内田昌行・菊地　勲・内山久都・北里憲之・新実弘崇 飯見隆治
	豊田工機	松田　源市	日比野伸昭	土田　信也 峰　登志郎	○野呂　徹・峰　登志郎・土田信也・東　正也・石井裕二・宮坂　悟 石田　満・近藤正俊
	トヨタ車体	西村　裕治	米沢　強	酒井　哲也	○後藤吉広・角藤利明・斉藤勝明・浜田一博・利田　実・片山朝之 木村拓也・玉田孝治
	豊田自動織機	上原　信彦	武田　正雄	川村　順子	○岩渕信司・近藤善英・佐山康成・佐藤崇裕・神山紀雄・松本　周 山田孝幸
	トヨタ自動車	長谷川敏彦	坂本　宏志	山本　秀樹	○古賀勝志・川本英明・福田昭典・小本義久・城木夢高・松野和秀 仙田　肇・菅原敬二
	新日鐵・名古屋	安藤　巖	天野　良彦	山西　友幸 佐々木秀一	○納所久夫・天野良彦・坪井英之・白田直人・田中敏夫・案部博史 田畑泰俊・佐々木秀一
	東海興業	木村　勝昭	早川　満志	中村　俊哉 田中　勝之	○田住曜理・阿知和幹根・永井　優・玉田智史・大竹達裕・安井憲司 吉田　努・松浦貴嘉
	三菱重工・エア製	和仁　幹雄	沢田　正夫	福嶋三智子	○沢田正夫・岩田　崇・松波　譲・大塚一博・小倉和幸・杉村正直
三重	日本電装	田中　篤郎	片岡　泰		○中川　健・西川　勉・常山兼二・山内一志・喜岡泰弘・磯部昌弘 坂崎　守・奥田貴士
	中部電力・三重	倭　昭博	奥野　浩		○奥野　浩・吉沢信男・小堀一次・島田正道・坂井敏也・伊藤孝志 小野安明

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
三重	コスモ石油・四日市	草川孝四郎	福田伊佐治	天春和歌子	○荒木良之・上野健一・山上正行・野呂雅也・川戸真也・永坂昌信 東　孝一
	富士電機・三重	小林　裕和	森川　広美	水谷　俊雄	○小林英毅・森田善幸・水谷俊雄・糀谷清史・小久保昌和・藤本規夫 森川広美
	三菱化成・四日市	増井　孝夫	小林　信行	小林　信行 村山　裕子	○毛利浩治・荻田昌昭・石井繁光・多田晃宏・森　篤・森山唯史 小林信行・田中秀俊
	松下電子部品・松阪	矢形　政己	松本　浩二	森本　栄一 松本　浩二	○森本博幸・酒徳一利・福田敏伸・木下　保・中川祥一・橋爪孝文 村木康之・松本浩二
	日東電工・亀山	蒲田　博	蒲田　博	福島　和広	○福島和広・豊田　浩・坂本雄二・宮本　誠・植田俊秀・澤田和仁 松尾信行
滋賀	東レ・滋賀	後藤　晴司	古川　正行	中井　幸恵	○中川　康・大塚　保・森山勝平・秋山律文・岡田耕作・辻　清和 吉居　秀・小菅憲治
	日本ＩＢＭ・野洲	木下　寿則	冨田　健一	塩田　晃二	○磯田茂和・冨田健一・小林浩明・花田正喜・青木一夫・森川潤一郎 俣木淳一・伊藤治夫
京都	島津製作所	山本　紘史	奥田　俊次	角田　二郎	○山本寿志・西村睦喜・藤井圭一・井上　昇・平岡秀介・浦谷孝信 斉藤清代巳・奥田俊次
	京都中央信用金庫	黒田　豊	黒田　豊	吉田　憲一 安永　誠	○安永　誠・堀　勝義・吉田憲一・菅生　誠・矢野暢久・吉田清隆 根本　一・土橋幸二
	三菱自工・京都	平林　豊	福井　達雄	勝村　育生 谷口　雄二	○佐々木正司・竹井宣夫・寺尾　豊・広瀬　敬・藤井敏正・中薮　仁 大石繁幸・三沢哲也
	松下電子部品・京都	芦原　泰彦	久保　正人	山本　朋子	○柴田　悟・山岸武泰・寺田正文・金　泰男・太田智一郎・瀬尾賢次 谷本和宏・矢田昌規
	福知山市役所	野田　義夫	杉山　弘	芦田　豊文	○和田慎一・桐村俊昭・芦田清和・高橋啓二・大島光夫・藤原謙司 足立浩生
大阪	ＮＴＴ関西	畑　武司	冨田　章夫	松井　峰生 冨田　章夫	○奥野　勉・辻田泰昌・村山友二・今東　建・早戸敬雄・大谷誠二 松井峰生・冨田章夫
	大阪ガス	吉里　文雄	北野　公男	西野　幸雄 弘瀬　一生	○早水栄治・西野幸雄・田中真平・斉藤浩司・福井裕之・高島和秀 槙納　正・園部一彦
	住友金属・大阪	中沢　登	梅本　彰	斉藤　正博 西村　央子	○高橋康司・梅津裕一・田代浩一・高山幸久・木村正人・原　利信 林田知之・高島　猛
	住友生命	丸井　広道	狩野　卓也		○川本博之・丸井広道・狩野卓也・白井健一・水谷　豊・稗田康晴 橋本篤史・東畑健一
	阪急電鉄	野沢　明雄	下野　治生	中井　賢一	○藏本英二・大野孝二・小野俊雄・中村　昇・佐藤俊哉・高島昭秀
	コスモ石油・堺	竹中　正弘	竹内　洋雅	楠戸　春則 尾北　和美	○諏訪　弘・井口尚人・西野賢司・穂谷真弘・楠戸春則・疋田栄一 芝村伸也・竹内洋雅
	三洋電機・大東	角南　行治	角南　行治	島倉　康浩	○岩崎正彦・宇治　収・角南行治・島倉康浩・西島　功・江木　浩 久保田義弘
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	宮崎　庄一	宮里　重信	○山川正一・中角好男・山口昭彦・勝川道和・江口俊之・長谷浩道 常山康一・鈴木智文
	松下電子部品・大阪	森脇　紳二	森脇　紳二	山口知衣子	○長山武弘・森脇紳二・樋口正幸・西井伸之・名川達弥・見市幸司
兵庫	三菱重工・神戸	松本　俊英	瀬川　欽也	四ツ谷　誠	○村上郁夫・大橋　功・房田憲兒・平川克彦・斉藤徹哉・多田智浩 平井大三
	新日鐵・広畑	勝山　憲夫	片岡　正之	塩飽　初 泉　吉弘	○広岡輝男・片岡正之・塩飽　初・横山真二・八十友昭・平松重吉 山磨和弘・宮原　通
	大阪チタニウム製造	水野　俊彦	境　良治	玉木　義久	○竹村和夫・藤原光雄・宮本幸一・南野　浩・畑　博士・井上　信 小田清二・井高広幸
	大和製衡	木下欣二郎	山本　勝	小川　雄一	○木田英明・山本　勝・藤本純一・黒田真孝・大西　隆・上田圭顕 小林安司・小川雄一
	新明和工業・宝塚	大浦　泰	平　昌一	西倉　金作	○矢野辰幸・平　昌一・吉岡英二・岡田勝美・金尾英明・河内秀行 市岡大輔・小田康仁
和歌山	住友金属・和歌山	平松　茂人	北山　洋二	福島　一正	○乳井重雄・梅林信幸・西山祥一・中尾孝司・北川　康・松尾秀樹 永田紀一・北山洋二
鳥取	ＮＴＴ鳥取	藤縄　健治	藤縄　健治	小倉　信行	○石塚晴敏・的場浩実・太田保栄・小倉信行・柏木茂樹・藤縄健治 越智是典
	三洋電機・鳥取	鷲見　育亮	山本　明良	山本　美幸	○小谷清史・山本明良・伊藤和彦・田渕光章・亀谷雅之・門脇寛文 川田憲一・石丸直人

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
岡山	クラレ・岡山	田中　次郎	永井　公一	吉原　俊治 香山　光明	○板谷好訓・田枝誠一・山下　剛・中須賀史行・石本一豊・吉原俊治
	川崎製鉄・水島	戸部　俊一	中山　睦雄	穴吹　栄二	○三村勇人・藤原道弘・北村治雄・垣見一俊・片岡洋一・中山睦雄 穴吹栄二・森田　衛
	三井造船・玉野	北田　普俊	藤原　航	松岡　純子	○山本　清・田丸勝己・若林邦任・大倉達也・北山　学・三辻邦章 山川康広・鈴木啓治
広島	広島市役所	坂田　和子	尾崎　清	中村　克司	○中村克司・後藤　茂・山本克司・尾崎　清・佐々木和義・藤田康二 林　哲也・山領　篤
	海洋電子工業・広島	平山　信保	西村　健二	末岡　義昭 住岡　照行	○日川和彦・住岡照行・末岡義昭・内山昌弘・曽我井貴文・坂本典洋 川田輝夫
山口	宇部興産	山切　睦彦	末廣　秀樹	高田美穂子	○沖　貞雄・安田耕司・大内淳宏・犬塚佐智雄・秋元直幸 日下部　潤
	山陽国策パルプ	大泉　信一	高橋　良明	森本　孝敏 貴船　博己	○高橋和也・高橋良明・森本孝敏・室井伸夫・柳　宏幸・木村雄一
香川	タダノ	綾田　光丸	綾田　光丸	宮脇　伸行 吉田　一人	○田中純一・福家正登・俣嵜慎二・中村　亨・一宮康夫・加藤建義 吉田一人・宮脇伸行
	百十四銀行	牛谷　茂	堀上　義博	谷本　和義 山田比呂志	○谷本和義・堀上義博・亀谷幸生・山田比呂志・松本浩二
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　裁美	沙　海平 真名子靖代	○藤本　悟・山田幸司・東　義徳・桜井雄一・石田隆之・石井正行 松浦二郎・沙　海平
長崎	三菱重工・長崎造船所	喜多　昭夫	田中　貞夫	田中　賢介	○江坂敏郎・竹永　学・三根　哲・溝上敦夫・田中忠文・福田良治 中野和雄・岡田芳彦
宮城	ＮＴＴ東北	白戸　秀孝	原田　利雄	吉田　幸司 小野寺春男	○加藤安史・原田利雄・渡辺勝治・韮沢伸幸・柴崎信之・渡部祐一 海老沢孝一・柴崎直樹
	ＪＲ東日本	田中　正典	田辺　豊	松田　芳範 山田　和彦	○石井右示・松田芳範・田辺　豊・小沢睦雄・渡辺孝秀・中村　徹 木村　宏・山田和彦
	自衛隊・仙台	鏡　貞治	千葉　正幸	千葉　正幸 原　旭	○千葉正幸・石垣　久・菅原孝一・原　旭・岩渕　清・千葉一雅 金　秀勝
	仙台市役所	佐川　善信	鈴木　勇治	高橋　昇 佐藤　文一	○千葉利行・大友光平・佐藤文一・永野日出登・佐藤和之・鈴木勇治 門馬高広・熊坂　武
	十條製紙・石巻	福永　行雄	遠藤　節郎	斉藤　忠克 須田　幸夫	○伊藤康志・佐藤光彦・菅野耕一・斉藤智喜・鈴木真吉・須田幸夫 遠藤節郎
	ＹＫＫ東北	水口　利之	中塩　房雄	斉藤　勇一	○中村弘康・中塩房雄・渋谷哲義・佐藤文彦・富久　晃・太田　淳 渡辺正幸・岩渕章洋

（女子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	阿部　隆	米山　孝二	伊藤　雅弘 加藤　学	○弓削展子・小飼真弓・小笠原　満・田中範子・佐藤京子 土屋留美子
	チザキ	岩崎　昭郎	岡本　伝	板東　康夫 中村　富光	○星和代子・岩崎絵里子・高橋雅子・西村麻美・林　夕起子 田中　忍
秋田	羽後銀行	泉屋　謙一	泉屋　謙一	佐藤　晃	○柳谷郁子・大森るみ子・嵯峨やよい・笹村靖子
山形	でん六	山口　良典	伊藤　洋一	長谷川典靖 高橋　一彦	○伊藤礼子・中鉢はる美・木村郁子・菅野明子・高橋佳世
	日本電気・山形	熊倉　広明	大場　和博	近藤美知子	○近藤美知子・秋場奈美・鹿野今日子・上野　律
	山形ケンウッド	林　正三	鈴木　伸二	五十嵐　裕	○菅原郁子・山科則枝・阿達小百合・江川ユリ・菊池志保・佐藤由美
福島	富士通・会津	塚越　厚生	青木マチ子	青木マチ子 渡辺　正光	○大関美和子・宇南山　恵・兼谷サユリ・岩田恵美・五百川栄子 本田幸知・赤羽和枝・五十嵐由美
茨城	日立化成	水野　裕	岩田　輝彦	広沢　清 三浦　哲	○高野美子・木住野かおる・石嶋礼子・大久保典江・佐久間淳子
	日立・水戸	早川　博	菅野　孝	小島　孝治	○板並君代・江川千代・豊島恵子・飛沢久美子
	住友金属・鹿島	縄竹　雅久	岡田　常雄	高田　八重	○加藤　恵・小林美郁子・川村裕子・山口弘子・高田八重
栃木	日産自動車・栃木	田畑　照雄	田中　英男	笠井　孝之 光田　和恵	○小貫早苗・光田和恵・黒須洋子・小野里伊美・大森美穂
群馬	日立・高崎	吉見　武夫	別所　明雄	安藤　則夫 安藤　則夫	○高瀬晴美・高橋里枝・吉澤美和・八木清美・牛込紀子・大沢ゆかり
	三ッ葉電機製作所	富川　富	土屋　昭一	湯浅　宏 島田　正志	○藤岡美智子・塚越恵子・川越敦子・小林和子・大澤芳美・松本弘子
	富士通・館林	高田　正憲	石戸　広昭	山谷　徳昭 吉田　浩美	○八木ひとみ・吉澤輝美・吉田恵美・中川友子・栗原洋子・茂木利恵 丸山小百合・伊藤直美
埼玉	東京電力・埼玉	鈴木　英明	畑山八重子	横溝　徹	○小倉敏枝・畑山八重子・永井寛子・草柳美奈子・横田優子 永瀬朋子
千葉	日立・茂原	真山　晃一	森澄　健夫	引場　正行	○引場美幸・篠原雅代・渡辺雅代・向江真由美
	大日本インキ化学・千葉	小柳　博	河野　芳成	元栄ちはる 嶋崎　禎子	○蓮見直子・佐藤千春・嶋崎禎子・森　亜矢子・田中美保子 鹿野真由美
	日本電気・我孫子	伊藤　正治	川崎　玲子	岡田　順一 山下　淳一	○横山珠美・川崎玲子・石川まり子・相馬直子・笠井聡子・渡辺恵美
東京	ヨネックス	吉本　貞夫	栂野尾昌一	范　明 由町　美樹	○陣内貴美子・森　久子・捧　匡子・西田美和子・田村富士美 松本理恵・赤尾　香・岩田良子
	関東郵政		羽根田洋子	岩井由美子	○羽根田洋子・岩井由美子・吉田美和子・平塚和江・江口清子
	ＮＴＴ東京	池田　信孝	宮森　庄吉	田児よし子 山下　博	○上村美香・松尾知美・都木弘美・立花久枝・岡山登紀子・道上彰子 阪本雅子・田児よし子
	コスモ石油	高谷　忍	永井　龍夫	桑島　孝洋 片山　弘子	○石田好子・高橋さち子・片山弘子・竹本早苗・平出智子・小林恵美
	東京都庁	島田　稔	島田　稔	島田　稔 小林　賢治	○重松まゆみ・笹林朋子・田倉テイ子・田中阿紀・渡辺麻季 宮本千鶴子・杉谷真里
	三共	加藤　治	佐藤　始	酒井　純一	○及川道子・外松幹子・村松純子・池田啓子・宮沢由起子・朝倉　恵 松橋保子・真鍋洋美
	学習研究社	小島南海雄	斉藤　敏行	小島南海雄	○大塚千賀子・中山美里・小林恭子・花田康子・二谷伸子・丹野由美 坂口朋美
	岩崎通信機	定野　満	家串　友治	家串　友治	○藤沢直美・藤平結花・吉沢知佐子・増島真由美・松崎育子
	コニカ	薮内　克也	内田　淳吉	内田　淳吉	○小塩和子・五代恵美・勝山亜矢子・樫村みどり・小泉ふみ子 渡辺久美子・諸星弘子
	富士通・南多摩	鈴木　孝一	木村　均	横澤　守	○宇梶起史子・宇梶起世子・野崎康子・本多伸江・青木朋美 石森千恵子

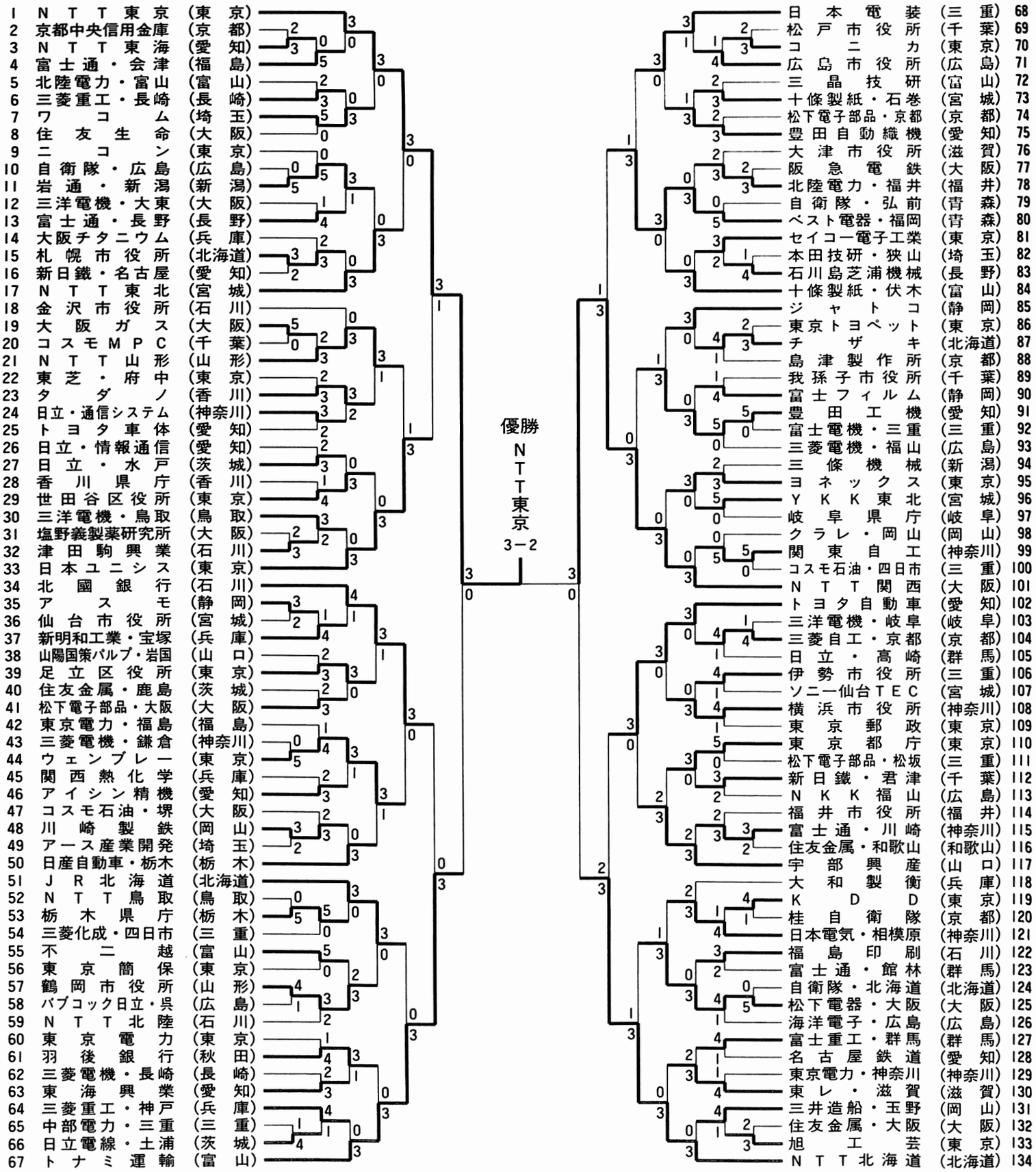
県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
神奈川	三菱重工・横浜	鈴木　勝之	鈴木　勝之	髙橋　保則 白井　恵子	○椎名律子・白井恵子・鈴木利枝・小林暁子・秋本恵美・飯村美奈子
	横浜市役所	根本　和夫	境野　伸也	中島　佳江	○中島佳江・森　ちづる・安藤智子・中郡裕子・大沼由紀子
	石川播磨重工・横浜	安藤　恵成	中島　義種	永吉　知彦 山内　廣志	○髙橋佳子・成田美智子・森上美奈・守田千羽弥・山本美保 伊勢川加奈・森上美奈・及川京子
	日立・戸塚	田中　康之	佐藤　久敏	藤原　文子	○岸本ひとみ・高山秀子・黒田智子・鈴木景子・藤原文子・東使悦子
	旭化成工業・川崎	伊澤　槙一	荻生　一	冨田　信昭 冨田　信昭	○寺田ゆかり・皆川英理・椛島小千美・本田幸恵・古谷　操 義間貴子
	関東自動車工業	有村　洋一	髙橋　清	瀬下　由紀	○瀬下由紀・植竹由美・高瀬圭子・早川恵美子・佐々由美子 森　祐子・笹　真由美
	日本電気・相模原	板倉　信雄	宮入　恒明	足立　和則 安藤　昌子	○関田律子・青戸香織・近常直美・森　真由美・真本順子 松岡見和子・加賀ゆかり・安藤昌子
富山	不二越	長谷　俊男	畑　栄進	谷井　透浩 若島真由美	○石川正美・笹野淳子・田辺佐依・三輪晴美・若島真由美・斉藤昭美 矢合真由美・作田美絵
	三協アルミ	北山　清志	河合　昭博	吉岡　英樹 髙山真由美	○大堀麻紀・佐々木　忍・野々村美春・山根理江・沢田百合 水本みか・山下美香・大谷鶴美
	ＹＫＫ富山	髙橋　利博	森　徳男	辻沢　康弘	○稲沢佳織・森　徳子・武田めぐみ・山岡久美子
石川	北國銀行	大門　重樹	岡部　憲昌	彼島　佳子 重政　誠之	○岡田真澄・中尾仁美・中田裕子・堅田美奈子・閤田和恵・山口美香 鍛冶香名美・鶴来悦子
	ＰＦＵ	峯村　和美	中川　守	森　さとい	○橋本寿代・小山紀子・中橋利美・多田久美・気谷利加・森　さとい
福井	福井県庁	牧野　正明	羽川　良夫	平岡　康明 毛利　直美	○田中妙子・竹根瑞枝・松村みどり・田中ゆかり・毛利直美
	福井市役所	嶋田　伸行	多田　慧子	仲山真由美	○多田慧子・宮浦そとえ・南保正枝・仲山真由美・野坂美由紀 加藤正代
長野	新光電気	髙橋　昌彦	井上　慎二	川島　雅幸 青木由里子	○喜久川直子・常田弘美・武田紀子・青木由里子・野治慶子
	富士通・長野	荻原　正孝	丸山　隆	鎌田　正幸 髙山　卓子	○滝沢政子・小林和美・加藤順子・髙山卓子・畔上裕美・北沢美佳 藤村明美
岐阜	川崎重工業・岐阜	大井　邦成	三輪　静夫	片岡　俊明 浜野　幸寛	○正木恵美子・小林陽子・野垣由布子・岩田由紀子・岩田千加子
	三洋電機・岐阜	片野　吉郎	中井　宏幸	得能　稔 三宅百合子	○三田陽子・田上頼子・薫田聡子・三宅百合子・石井めぐみ
静岡	ヤマハ	石田　喜克	飯野　佳孝	吉永　将史 平野　智子	○笠原千夏子・辜　家明・金丸陽子・横手智江美・山田美紀 篠原久子・林　矢須子・山内美奈子
	富士通・沼津	吉田　哲三	渡辺　誠	伊代野栄子 榊原　和美	○渡辺ゆみ・伊代野栄子・榊原和美・戸田直美・松本朋子・佐野直巳 伊豆沢有季子・渡辺史代
	ジャトコ	佐場野英一	後藤　和之	望月　美晴	○遠藤久美子・大内めぐみ・石川直美・飯山貴美・牛澤三奈 森　文華・堀　ひろみ・望月美晴
愛知	豊田通商	中村　忠雄	江端　正己	加藤　聖子	○大島裕子・新井雅子・小俣　栄・加藤聖子・葛谷実穂・墨　久子
	名古屋鉄道	速水　正昭	井沢　宏	斉藤敬一郎	○水野裕子・中西康子・稗田みな子・山下　新・高木美恵子
	アイシン精機	岩岡　照夫	武部美保子	橋爪　泉 武部美保子	○石田裕子・市川律子・山地裕美・山地　香・武部美保子・石井敦子 上田菜央子・甲斐雅代
	豊田工機	松田　源市	西田　良彦	石原ひかり	○伊相直美・椎葉好美・大宅友里・渡辺桂子・竹本直子 佐々木実千代・河田暢子
	トヨタ車体	西村　裕治	米沢　強	酒井　哲也	○藤原悦子・早川美奈子・上村登美代・安藤充子・小向妙子 砂田ひかり
	豊田自動織機	上原　信彦	武田　正雄	川村　順子	○川村順子・奥谷美月・相馬美奈子・森　ゆかり・伊藤美穂 小野寿子・大坂真由子
	トヨタ自動車	長谷川敏彦	菅原　敬二	山本　秀樹	○鳥居由恵・田中裕子・三浦美紀子・藤本暢子・松田泰子・松島貴子 満田とも・清水由紀子
	日本電装	鈴木　孝	福田　実		○河村祐子・三原千恵子　仲山美奈・日山智絵・杉本真紀子

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名 (○印は主将)
愛知	豊田合成	竹内 邦嘉	野村 幸信	杉浦 芳博	○平川ひとみ・森 智美・今尾圭子・安田里美・藤下恭子・小池昌美 小田川みゆき
三重	松下電工・津	西森 省次	永井 俊道	中村 恭治 古谷 晃子	○古谷晃子・中森美佳・大平真千子・北出まゆみ
	富士電機・三重	小林 裕和	森川 広美	森川 広美	○水谷栄里子・安保香里・川井貴子・村上まち・佐野美和
	松下電工・伊勢	元山 正徳	山本 博文	上田 真理	○上田真理・中森直子・中瀬美穂・世古口典子・田中 恵・荒木美奈 小林里美
滋賀	東レ・滋賀	後藤 晴司	古川 正行	中井 幸恵	○河村益美・池田芳恵・西山幸恵・今井友紀・奥村晶子・大辻マキ 中井幸恵
	松下電工・彦根	谷 和男	谷 和男	高木香菜江	○長瀬隆子・南 紀子・望月奈々・吉田友紀・高木香菜江・米田 恵 梅本淳子
京都	京都中央信用金庫	黒田 豊	吉田 清隆	吉田 憲一 安永 誠	○藤支芳美・大崎由季代・藤本康代・藤元美香・宮脇桂子・大江弘子 河前節子
	三菱自工・京都	平林 豊	戸沢 正雄	石井 典子 石津 正明	○大槻悦子・浜田 薫・小野昌子・田中晴美・梶浦由紀・三宅通代
大阪	サントリー	長谷川理夫	山本 次生	宮崎 克巳 堤 眞由美	○廣田時子・谷地春子・小池由扶子・磯崎照枝・金井和恵・磯崎京美 松田治子・本多千香
	三洋電機	尚 幅梅	銭谷 欽治	喜多 努 奥山 保子	○田代美智世・秋元美佐緒・北浦道代・今村 薫 三ツ川貴子・利川貴子・南里高子・南里泰子
	住友金属・大阪	中沢 登	梅本 彰	斉藤 正博 西村 央子	○中浜優江・辻 直子・春木貞己・谷内洋子・添田香名美・藤田綾子 千石明代・筒井恵理
	大和銀行	桂 芳樹	桂 芳樹	千田 朗子	○千田朗子・長沢幸江・永原裕里・立道佐知子・福田真弓・増田純子
	コスモ石油・堺	茂木 康行	楠戸 春則	穂谷 真弘 妻木 久明	○佐藤智子・岡崎和代・岸田恭子・宮本 恵・森 恵美子
	松下電器・大阪	渡辺 雅仁	宮崎 庄一	宮里 重信 瓜生 和子	○濱田裕美子・大谷美樹・鈴木美江・松本砂千・福原葉子・出原直美 寺尾幸子・寺尾陽子
兵庫	三菱重工・神戸	松本 俊英	四ツ谷 誠	四ツ谷 誠	○越智真弓・前山 愛・伊野宗麻美・奥村博子
	大阪チタニウム製造	水野 俊彦	加藤 貞範	玉木 義久	○成瀬充子・八原知子・山本 操・伊与木美保・中川陽子・渡部純子
	三菱電機・伊丹	大沼 昭栄	矢賀 雅人	松本 泰典 堀井 尚美	○清水浩美・大村和代・白川恵理・井上 香・久保田美可・緒方真弓 泉 由香理・千代由美子
和歌山	住友金属・和歌山	平松 茂人	川村 桂司	福島 一正	○工藤志子・尾崎由実・岡野班子・島田栄美・下地三和子
鳥取	三洋電機・鳥取	鷲見 育亮	福田麻寿美	山本 美幸	○福田麻寿美・森木文代・西木ちひろ・中平広美・曽我典子
	ナショナルマイクロモータ		岡田 謙一		○陶山聡子・渡部美香・長尾理美・妹沢映江・戸田和美
岡山	まつもとコーポレーション	朝霧 晴夫	朝霧 晴夫	土肥まり子	○岡 良依・土肥まり子・渡辺美穂・藤原清美・佐藤由香
	松下電器・岡山	小井 清宏	高祖 美喜	高祖 美喜	○松王香音里・横田裕子・西林昭子・徳田玲子・太田有紀・中川晴美 木村純子
香川	高松琴平電鉄	中村朔之介	小西 太	東条フミ子 東条 義昭	○東条フミ子・入金ゆみ子・古田幸代・村尾佳美・北山理恵
	百十四銀行	牛谷 茂	亀谷 幸生	山田比呂志 中川 育子	○山白麻紀・辻 章子・古田真由美・森下さおり・村瀬安代 六車澄子・中西明子・本井美紀
福岡	ベスト電器	坂田 雄二	森 裁美	馬 仲華 真名子靖代	○清水尚美・藤 裕枝・渡辺順子・田頭美奈子・伊藤ひろみ 川添美奈・桜本幸枝・片岡道子
熊本	九州日本電気	橋口 廣則	坂本 正	宮本 幸弘 石橋 律子	○林 美希・杉野美貴・田畑美香・上田純子・甲斐美和・中原敬子 梅崎千枝美・新留直美
宮城	七十七銀行	阿子島高幸	高橋 祥允	須藤 肇 須藤 肇	○黒澤晃子・管野裕子・阿部福子・伊藤真奈美・本郷優子・鈴木綾子 佐藤晴香

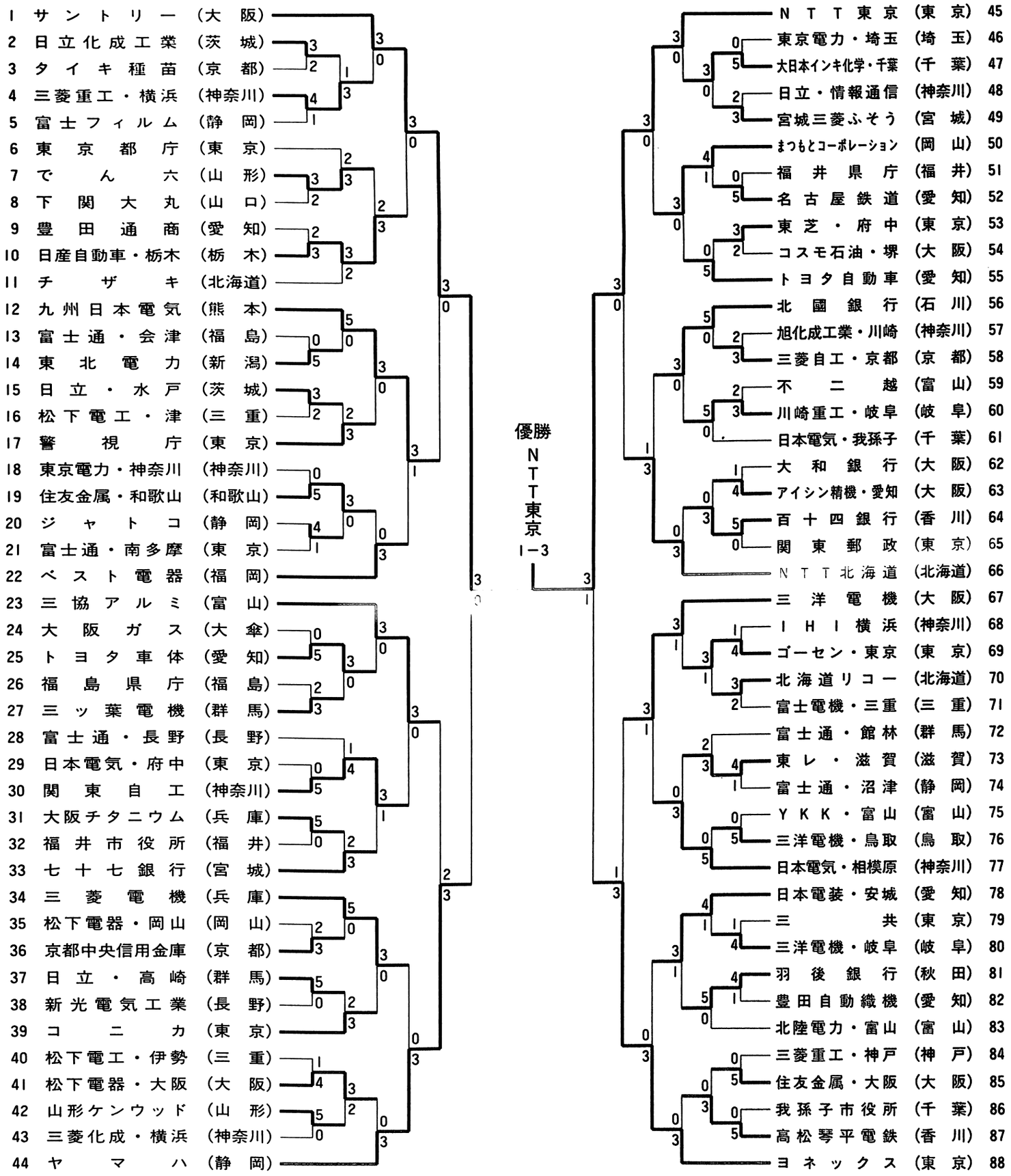
第42回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1992年(平成4年)6月17～21日
開 催 地：広島県広島市
会　　場：東区スポーツセンター、
佐伯区スポーツセンター、
中区スポーツセンター

男子団体の部



■女子団体の部


1 サントリー (大阪)
2 日立化成工業 (茨城)
3 タイキ種苗 (京都)
4 三菱重工・横浜 (神奈川)
5 富士フィルム (静岡)
6 東京都庁 (東京)
7 でんろく (山形)
8 下関大丸 (山口)
9 豊田通商 (愛知)
10 日産自動車・栃木 (栃木)
11 チザキ (北海道)
12 九州日本電気 (熊本)
13 富士通・会津 (福島)
14 東北電力 (新潟)
15 日立・水戸 (茨城)
16 松下電工・津 (三重)
17 警視庁 (東京)
18 東京電力・神奈川 (神奈川)
19 住友金属・和歌山 (和歌山)
20 ジャトコ (静岡)
21 富士通・南多摩 (東京)
22 ベストト電器 (福岡)
23 三協アルミ (富山)
24 大阪ガス (大傘)
25 トヨタ車体 (愛知)
26 福島県庁 (福島)
27 三ッ葉電機 (群馬)
28 富士通・長野 (長野)
29 日本電気・府中 (東京)
30 関東自工 (神奈川)
31 大阪チタニウム (兵庫)
32 福井市役所 (福井)
33 七十七銀行 (宮城)
34 三菱電機 (兵庫)
35 松下電器・岡山 (岡山)
36 京都中央信用金庫 (京都)
37 日立・高崎 (群馬)
38 新光電気工業 (長野)
39 コニカ (東京)
40 松下電工・伊勢 (三重)
41 松下電器・大阪 (大阪)
42 山形ケンウッド (山形)
43 三菱化成・横浜 (神奈川)
44 ヤマハ (静岡)
優勝
NTT東京
1−3
NTT東京 (東京) 45
東京電力・埼玉 (埼玉) 46
大日本インキ化学・千葉 (千葉) 47
日立・情報通信 (神奈川) 48
宮城三菱ふそう (宮城) 49
まつもとコーポレーション (岡山) 50
福井県庁 (福井) 51
名古屋鉄道 (愛知) 52
東芝・府中 (東京) 53
コスモ石油・堺 (大阪) 54
トヨタ自動車 (愛知) 55
北國銀行 (石川) 56
旭化成工業・川崎 (神奈川) 57
三菱自工・京都 (京都) 58
不二越 (富山) 59
川崎重工・岐阜 (岐阜) 60
日本電気・我孫子 (千葉) 61
大和銀行 (大阪) 62
アイシン精機・愛知 (大阪) 63
百十四銀行 (香川) 64
関東郵政 (東京) 65
NTT北海道 (北海道) 66
三洋電機 (大阪) 67
IHI横浜 (神奈川) 68
ゴーセン・東京 (東京) 69
北海道リコー (北海道) 70
富士電機・三重 (三重) 71
富士通・館林 (群馬) 72
東レ・滋賀 (滋賀) 73
富士通・沼津 (静岡) 74
YKK・富山 (富山) 75
三洋電機・鳥取 (鳥取) 76
日本電気・相模原 (神奈川) 77
日本電装・安城 (愛知) 78
三共 (東京) 79
三洋電機・岐阜 (岐阜) 80
羽後銀行 (秋田) 81
豊田自動織機 (愛知) 82
北陸電力・富山 (富山) 83
三菱重工・神戸 (神戸) 84
住友金属・大阪 (大阪) 85
我孫子市役所 (千葉) 86
高松琴平電鉄 (香川) 87
ヨネックス (東京) 88

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名　（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	阿部　隆	米山　孝二	伊藤　雅弘 弓削　展子	○山尾克則・伊藤雅弘・角谷淳一・工藤忠和・古川英樹・星　拓磨 米山孝二
	ＪＲ北海道	飯塚　一力	乙武　重丸	髙橋　　進 七崎　悦範	○松村徳市・七崎悦範・馬木貴之・髙嶋　進・髙橋　進・松岡　誠 米田紀興・田口英史
	札幌市役所	西村　哲夫	中平　正幸	髙崎　厚生 渋井　敏紀	○中村義則・渋井敏紀・宮嶋延光・市川幸典・中平正幸・髙崎厚生 田辺道郎・萩原利雄
	チザキ	岩崎　昭郎	佐藤　　信	板東　康夫 田中　　忍	○佐藤　信・高本邦博・板東康夫・十河昌明・林　秀行・木村靖浩 内田恵一・高坂　誠
	自衛隊・北海道	野村　武昌	佐々木秀男	佐藤　芳雄 佐藤　春雄	○須藤秀樹・伊藤寿史・中野今朝四郎・西嶋美樹・小林壽一 伊藤　勝・網　文寿・大沼　穆
青森	自衛隊・弘前	水谷　岑生	水谷　岑生	岡崎　博志	○長谷川柳春・岡崎博志・山田　誠・三浦一郎・成田義昭・西村嘉則 本田隆規・和泉　仁
宮城	ＮＴＴ東北	佐藤　修蔵	原田　利雄	高松　直志	○加藤安史・韮沢伸幸・柴崎信之・柴崎直樹・吉田幸司・海老沢孝一 渡辺祐一・原田利雄
	十條製紙・石巻	福永　行雄	遠藤　節郎	須田　幸夫 斉藤　忠克	○伊藤康志・菅野耕一・佐藤　晃・須田幸夫・佐藤光彦・鈴木真吉 遠藤節郎
	仙台市役所	佐川　善信	鈴木　勇治	佐藤　文一	○千葉利行・永野日出登・門馬高広・鈴木勇治・大友光平・佐藤和之 熊坂　武・平塚一広
	ＹＫＫ東北	藤　　博美	中村　弘康	斉藤　勇一	○富久　晃・太田　淳・岩渕章洋・中村弘康・佐藤文彦
	ソニー仙台ＴＥＣ	岡田　俊行	早坂　秀明	足坂真一郎	○只野慎一・川井貴幸・三浦利昭・足坂真一郎・早坂秀明・大場岳史 阿部光浩
秋田	羽後銀行	斎藤　和憲	泉屋　深一	佐藤　　晃	○魚谷啓法・片桐英二・鈴木康暢・鈴木理之・髙橋仁司
山形	鶴岡市役所	中鉢喜八郎	小林　保夫	佐藤千佳子	○秋庭一生・阿達和夫・清野　健・佐藤　茂・丸山勝美・小林　学 庄司栄一・佐藤茂巳
	ＮＴＴ山形	富山　公雄	岡田　寿紀	佐藤　恒雄	○小中英智・中島　修・岡田寿紀・折原則一・寺島剛志
福島	富士通・会津	塚越　厚生	寺田　　繁	杉原　好一 渡辺　正光	○星　徹・西潟昌利・菅原　進・秋山善光・本多克博・佐藤勝司 長谷川淳也・寺田　繁
	東京電力・福島	久芳　道義	斉藤　満雄	玉井　俊光	○半谷雄二・山田保夫・宗像多門・小塚達男・本間　宏・鎌田信一 深谷秀行
茨城	日立・水戸	早川　　博	菅野　　孝	小島　孝治 小島　孝治	○梅室真二・狩野秀一・菅野政明・小島孝治・結束雄二・篠崎和弥
	日立電線・土浦	森合　英純	高安　英樹	江原　　均 池辺　　栄	○高安英樹・柴沼良美・小島博史・有江卓也・佐藤克己・鈴木利男 池辺　栄・松延典寿
	住友金属・鹿島	縄竹　雅久	岡田　常雄	中村　　清 髙田　八重	○板垣龍平・小林靖敏・奥田重孝・鈴木貴志・梅沢和則・原子弘之 佐々木義之・石田直也
栃木	日産自動車・栃木	田畑　照雄	田中　英男	大八木　正 小野里伊美	○入江正夫・大八木　正・入江久夫・上野　孝・笠井孝之 海老原正美・鈴木　譲・岩佐伸一
	栃木県庁	原　　利浩	湯沢　雄一	鈴木　　武 小島　秀雄	○原　利浩・湯沢雄一・小島秀雄・琴寄行雄・高橋安則・鈴木　武 池田勝浩・石川忠央
群馬	富士重工・群馬	水出　紀雄	渡辺　晃一	島田　清和 中居　功治	○竹内康夫・斉藤　宏・尾園正和・太田真敏・丸山清春・高山冨士雄 伊藤美剛・福士大治
	富士通・館林	高田　正憲	木村　　博	安藤　修二 山谷　徳昭	○横山　稔・君島　修・山野井高生・門脇宗人・松元功一・大塚一幸 田嶋正一・木村　博
	日立・高崎	吉見　武夫	別所　明雄	飯野　博英 飯野　博英	○飯野博英・石川栄寿・北爪　彰・木村誠弘・安藤則夫・森木永宗 菅野浩行・鹿沼重雄
埼玉	本田技研・狭山	古谷　利夫	松原　裕史	藤田　信夫 宮越　通康	○藤田茂樹・岩田好夫・今野直人・大橋　正・宮越通康・正木和久 堀越　勉・清水宏之
	アース産業開発	中橋　　優	中橋　　優	山本　常男	○髙橋　昭・江原一彦・森尻浩恥・中橋　優・中野　明・島根真一郎 東　隆一
	ワコム	髙木　　隆	徳田　敦子	小飼美香子	○清水保則・市宮　茂・井部信宏・谷本浩史
千葉	我孫子市役所	関口　浩紀	岡　　信幸	坂巻　弘一 竹村のぞみ	○関口浩紀・広瀬一弘・飯田秀勝・小林　修・磯岡光夫・坂巻弘一 中西直樹・鈴木光一

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
千葉	松戸市役所	関　政秀	吉岡　彰	吉岡　彰	○花嶋美生・吉岡　彰・大川　潤・山本義昭・鈴木秀和・本多稔之 野沢光広
	新日鐵・君津	田中　徹	吉田　寛	阿部　哲夫 永井　信吾	○宮崎雅浩・阿部哲夫・佐藤明海・宮田秀人・吉田　寛・菅原又男 岡　良則・佐藤　勉
	コスモMPC	西尾　元佑	浅利　章悦	瀧本　和大 前田　益孝	○岩瀬　洋・佐藤一男・佐々木仁一・鈴木博之・瀧本和大・伊藤晃一 米沢　仁・高木篤志
東京	NTT東京	池田　信孝	尾崎　幹雄	山下　博	○松野修二・長内征美・柳谷辰哉・宮　康二・江藤裕樹・町田文彦 高橋英治
	日本ユニシス	中村　明彦	阿部　秀夫	鈴木　千秋 田中　淳	○峯岸康史・中條起希・中川敏治・石井　隆・立本敬人・菊地　修 山崎　慎・大屋貴司
	コニカ	薮内　克也	内田　淳吉	内田　淳吉	○薮内克也・小泉俊一・吉永　巌・江連秀敏・内田淳吉・木川就二 豊泉輝彦・大貫　勝
	足立区役所	馬場　猛夫	馬場　猛夫	鈴木　敦子	○鵜澤敏信・久保井秀雄・笹林義春・長門忠雄・小林光雄 大和田　勉・佐々木　拓・宮本道雄
	KDD	松浪鋭四郎	前川　栄一	則松　直樹	○藤平　守・橋本敏邦・松永　浩・鵜田　聡・前川栄一・目黒仁一 谷岡祐一・太田博之
	世田谷区役所	八頭司達郎	安藤　武夫	窪田　益夫 吉田　太一	○桑原雅浩・横山　登・土屋雅章・山口英二・巌　充也・稲積康充 古川　洋・岩倉　博
	ヨネックス	土田　隆	丹藤　勇一	青山　正伸	○髙橋賢治・阿部浩志・青山正伸・斉藤佳晴・丹藤勇一・岡部　元 福田和浩・江連忠雄
	東京トヨペット		入間　秀哲	大瀬　久司	○鈴木一成・小塩　信・渡辺　孝・神田正浩・大瀬久司・橘川光孝 稲村善之
	東京都庁	島田　稔	島田　稔	島田　稔 多田　信之	○後藤　勝・大原政義・高田　浩・多田信之・島田　稔・小林賢治 黒田祥之
	セイコー電子工業	磯　孝男	山下　史郎	村田　広行 武藤　健	○磯　孝男・吉田宜史・梅野光一・宇野　智・武藤　健・吉野朋之 井上一夫・高橋信二
	旭工芸		山口　安則	村上　勝	○中津不二雄・板谷孝男・村上　勝・佐々木孝二・横田和博 鳥羽信哉・篠崎　実・山口安則
	東京電力	佐藤　祥次	内田　修	厚川　勇 高野　徹	○石原泰造・厚川　勇・塙　勝治・井川芳明・岩間　源・橋本　栄 高野　徹・茂木俊幸
	東京簡易保険局	渡辺　文雄	古明地正邦	古明地正邦 廣田みちゑ	○小畑辰美・飯塚正之・醍醐達也・岸　利彦・古明地正邦・中沢睦夫 杉田勝則・田村　収
	東京郵政	古川　省吾	多田　晃一	[illegible]	○永田伸一・木村克宣・青木敏光・多田晃一・佐藤宏之・松本尚之
	ニコン	金谷富士夫	本多　修治	百瀬　智宣 三上　修	○根岸光正・宮島　実・小室　功・金久保勝巳・百瀬智宣・三上　修 菊地孝幸・増子俊正
	東芝・府中	山崎　義次	坂口　千年	辻村　昌彦	○早坂正志・上野梅郎・辻村昌彦・成田好崇・竹内英雄・近藤　浩 安藤　功・橋口　誠
	ウェンブレー	草島　正治	草島　正治	勝浦　親次 正田　章二	○喚津耕太郎・正田章二・草島正治・須田和男
神奈川	日本電気・相模原	石井喜三郎	月岡　貴公	内山　泰則	○土田秀紀・内山泰則・小野　武・清原　稔・月岡貴公・高山照彦 石川雅由
	横浜市役所	根本　和夫	境野　伸也	森　篤	○根本道夫・平　敏司・一瀬浩美・浜路　圭・柄本　孝・斉藤英昭 村上秀典・藤沢智明
	日立・通信システム	下山　隆	渋谷　健一	川口　知子 吉原　久子	○杉山勝美・目良雅彦・藤井　圭・岡　洋治・鰐川　朗・百上幸一郎
	三菱電機・鎌倉	佐藤　政雄	池田　勝彦	石井　正男 古内　浩二	○片山　敏・熊谷　修・古内浩二・石井正男・佐藤修司・下山幸一郎
	関東自工	有村　洋一	高橋　清	細谷　昇 佐々由美子	○奈良秀行・加藤康二・太田清志・大橋昭人・細谷　昇・小枝憲久 佐原弘明
	富士通・川崎	岡沢　陸郎	青木　一夫		○後藤正志・稲垣広宣・及川利行・増子康紀・青木一夫・和久井伸一 佐藤大輔・高木康広
	東京電力・神奈川	荒川　弘雄	平井　規之	大田　勇	○小林栄二・五十嵐　功・田中　徹・佐藤隆弘・榎　博久・須藤政身 渡辺　敦・山本　正
	日立・情報通信	田中　康之	佐藤　久敏	東使　悦子	○藤田良一・馬場哲也・渡辺康之・秋山昌博・半田賢二
新潟	三條機械製作所	外山　修	久住　勝利	羽龍　良記	○鈴木　裕・羽龍良記・相馬寛輝・小島豊史・米山　高・丸山勝弥 内山　隆

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
新潟	岩崎通信・新潟	堀井　国雄	酒井　宏禎	斉藤　治憲 尾矢　桂子	○飯塚芳英・小木将綱・高田謙一・大月　実・佐藤哲也・古川美光
長野	石川島芝浦機械	北川　良司	赤羽　元春	内川　啓子	○奥原祐二・吉野泰正・赤羽元春・丸山　宏・山崎　繁
	富士通・長野	萩原　正孝	丸山　隆	鎌田　正幸 高山　卓子	○上原克士・出川輝義・戸谷正人・岩下直也・鎌田正幸・堀口　浩 丸山和宏・丸山　隆
富山	トナミ運輸	安達　達明	堺　三徳	今泉　勉 荒木　純	○濱北和彦・木船栄士・気谷篤人・岩渕公一・石場　隆・大堀　均 本山秀昭・三浦　修
	十條製紙・伏木	高須賀恒夫	大野　幸雄	加須栄隆治 嵐　英一	○嵐　英一・中嶋正男・林　清和・神代和久・高崎裕一・蔵野耕治 山本　潤・山田佳史
	三晶技研	浅井　秀一	毛利　智成	飛弾　是博 平野　祐子	○吉森勝之・北野　隆・堀　正人・沢田淳悦・毛利智成・湯上佳和 種田茂博・野村智紀
	不二越	畑　栄進	新田　寛義	恒川　誠 早川　久義	○濱松栄次・平井保光・種島芳明・谷井透浩・甚内豊久・山下直哉 高西誠二・三鍋良知
	北陸電力・富山	井上　英一	柳沢　昭信		○水野博之・別森敬一・吉本茂利・中家信博・水本幸弘・平野政雄
石川	北國銀行	大門　重樹	羽田　義仁	岡部　憲昌	○羽田憲治・崎田健一・星　明彦・武田　修・羽田義仁・西島弘幸 藤島誠孝・小池田　基
	金沢市役所	山下　修平	太村　正信	山形　博 村田　孝子	○庄田秀実・田村　稔・内田雄士・林　芳広・毛利達彦・永井俊宏 太村正信
	福島印刷	横田　貞昭	加藤　一弥	竹村　晴夫 荒木　裕	○山口英晃・柴田雄次・綾瀬寛隆・林　剛・大塚貴康・橋本哲也 松原宏明
	ＮＴＴ北陸	渡部　研二	松下　力	佐々木正良 小泉　桂子	○浜谷安裕・谷島助男・森田　均・宮本照啓・宮本勝裕・嵐山正二 坂井外喜男・東　隆裕
	津田駒工業	鍋嶋　範雄	安江　勉	小川　裕之	○奥本正博・小川裕之・高野敏雄・二口吉邦・金谷敏夫・広村　繁 山越文彦・安江　勉
福井	福井市役所	嶋田　伸行	嶋田　伸行	南京　良幸	○西行　裕・嶋田伸行・南京良幸・高橋　譲・山本敏彦・宮原　一 村井敏晃・武澤政彰
	北陸電力・福井	萩原　盛衛	角　五三男	野路　健一 谷先　政人	○高野一男・金川克行・亀田昌利・長谷川博幸・前田初志・角野真一 藤尾裕一
岐阜	岐阜県庁	大平　康弘	高橋　伸治	加納　義之 内記　淳司	○荻巣雅俊・小島一也・河田　誠・高橋秀治・加納義之・内記淳司 宮前良一
	三洋電機・岐阜	堀田　康治	片野　吉郎	松浦　竹典 石丸　貴久	○石丸貴久・藤本高義・得能　稔・樋口剛司・松浦竹典・尾関　肇 角屋順一・野田　勇
静岡	ジャトコ	小野　和明	後藤　和之	佐藤　佳久	○吉野智昭・石嶺善健・若松　誠・高島智之・坂上隆広・中島信頼 井出勝弘・川島直樹
	富士フィルム	滝　正孝	西島　知彦	篠原千枝子	○井出裕雄・中村繁幸・小野里朋之・吉岡直彦・池田光宏・武井弘征 佐野英利・西島知彦
	アスモ	田口　紀一	曲田　吉光		○山本明端・神谷秀康・上村昌彦・有馬久雄・田村輝美・高橋　徹 金子　司
愛知	トヨタ自動車	長谷川敏彦	坂本　宏志	山本　秀樹	○古賀勝志・城木夢高・仙田　肇・橋本宗士・福田昭典・川本英明 滝田　智・菅原敬二
	豊田工機	松田　源市	日比野伸昭	土田　信也 峰　登志郎	○東　正也・野呂　徹・宮坂　悟・田村勝久・峰　登志郎・石井裕二 石田　満・川島一剛
	豊田自動織機	上原　信彦	武田　正雄	川村　順子	○岩渕信司・松本　周・山田孝幸・神山紀雄・岩山克視・佐山康成 佐藤崇裕・知念幸治
	アイシン精機	岩岡　照夫	飯見　隆治	菊地　勲 飯見　隆治	○大月善巳・北里憲之・澤村義信・新家英樹・菊地　勲・内田昌行 新實引崇・内山久都
	トヨタ車体	西村　裕治	米沢　強	酒井　哲也	○後藤吉広・浜田一博・玉田孝治・柴田裕士・斉藤勝明・木村拓也 鍋割英雄・森　美尚
	東海興業	木村　勝昭	早川　満志	阿知和幹根 田中　勝之	○永井　優・玉田智史・吉田　努・松浦貴嘉・渡辺進二・大竹達裕 安井憲司・角藤利明
	名古屋鉄道	速水　正昭	井沢　宏	斉藤敬一郎	○井上　龍・斉藤敬一郎・鬼頭幸裕・田中正博・林　久男・川嶋清和 森下貴人
	新日鐵・名古屋	二杁　幸夫	菅井　孝	小川雄一郎 佐々木秀一	○納所久夫・案部博史・白田直人・宮下一紀・坪井英之・田畑泰俊 上枝　伸・内田公明
	ＮＴＴ東海	小板　紀夫	岩間　進	伊藤　正昭	○中村昌司・水谷悦郎・清水孝四・藍川幸司・勾坂健司・池田文彦 向井孝直・伊藤正昭

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名 (○印は主将)
三重	日本電装	田中 篤郎	片岡 泰		○中川 健・山内一志・磯部昌弘・渡部 亮・宇野忠男・片岡 泰
	三菱化成・四日市	増井 孝夫	小林 信行	小林 信行 村山 裕子	○毛利浩治・多田晃宏・森山唯史・森 篤・荻田昌昭・石井繁光 成瀬幸宏・小林信行
	富士電機・三重	山口 香	藤本 規夫	水谷 俊雄	○藤本規夫・糟谷清史・水谷俊雄・橋本貴仁・小林英毅・佐藤滋晃 森川広美・西村栄治
	コスモ石油・四日市	久玉 清人	福田伊佐治	高井ますみ	○荒木良之・川戸真也・東 孝一・中川義明・野呂雅也・永坂昌信 奥田耕司
	中部電力・三重	倭 昭博	柴山 幸一		○奥野 浩・小堀一次・坂井敏也・小野安明・吉沢信男・島田正道 伊藤孝志
	伊勢市役所	松岡 信	松岡 信	松岡 信 松岡 信	○松岡 信・大西善浩・筒井俊夫・杉野行茂・永田密山・沖塚孝久 丸山 光
	松下電子部品・松阪	矢形 政己	松本 浩二	酒徳 一利 松本 浩二	○森本博幸・福田敏伸・中川祥一・村木康之・酒徳一利・木下 保 橋爪孝文・松本浩二
滋賀	東レ・滋賀	後藤 晴司	古川 正行	中井 幸恵	○吉居 秀・末永 勉・森山勝平・中川 康・岡田耕作・宮崎誠二
	大津市役所	佐藤 賢	釜屋 明和		○増田伊知郎・奥村 真・森嵜隆之・芹澤孝則・中村 亨・吉川忠司 服部賢一
京都	三菱自工・京都	平林 豊	石津 正明	福井 達雄 斉藤則彦	○藤井敏正・寺尾 豊・中藪 仁・斉藤朋彦・佐々木正司・広瀬 敬 三澤哲也・森 幸夫
	松下電子部品・京都	福留 忠顕	久保 正人	柴田 悟 山本 朋子	○山岸武泰・大森 実・太田智一郎・谷本和宏・寺田正文・金 泰男 瀬尾賢次・矢田昌規
	島津製作所	山本 紘史	西村 睦喜	角田 二郎	○山本寿志・東 洋一・平岡秀介・斉藤清代巳・西村睦喜・井上 昇 浦谷孝信・角田二郎
	桂自衛隊		片岡 雄一	平原 丈晴	○伊藤宜次・平原丈晴・片岡吉弘・立花 武・片岡雄一・坂田幸治
	京都中央信用金庫	黒田 豊	黒田 豊	吉田 憲一 安永 誠	○安永 誠・吉田憲一・吉田清隆・矢野暢久・堀 勝義・菅生 誠 根本 一・土橋幸二
大阪	ＮＴＴ関西	野々市谷健	松井 峰生	奥野 勉	○辻田泰昌・村山友二・早戸敬雄・植村昭彦・奥野 勉・今東 建 大谷誠二・今井彰宏
	松下電器・大阪	渡部 雅仁	宮崎 庄一	大川原焼夫	○三村幸司・山口昭彦・江口俊之・常山康一・山崎雅也・中角好男 長谷浩道・常山兼二
	住友金属・大阪	中沢 登	梅本 [illegible]	西村 央子	○梅津智一・山崎量次・原 [illegible]・[illegible]・田代浩一・高山幸久 高島 猛・吉岡 誠
	阪急電鉄	野沢 明雄	下野 治生	中井 賢一	○大野孝二・蔵本英二・佐藤俊哉・小野俊雄・下野治生・中村 昇 高島昭秀
	三洋電機・大東	池田 三郎	角南 行治	久保田義弘	○岩崎正彦・小路常光・島倉康浩・江木 浩・宇治 収・高橋義和 西島 功・久保田義弘
	松下電子部品・大阪	森脇 紳二	長山 武弘	見市 幸司 山口知衣子	○森脇紳二・西井伸之・名川達弥・末田真一・樋口正幸・長山武弘 見市幸司・河本健二
	大阪ガス	吉里 文雄	北野 公男	弘瀬 一生	○早水栄治・田中真平・槙納 正・福井裕之・大井貴夫・斉藤浩司 園部一彦・高島和秀
	塩野義製薬研究所	本摩 恒利	本摩 恒利	北川 忠雄 長井 正彦	○玉木芳雄・竹内寿和・幸野 薫・吉野秀男・佐藤彰彦・中島弘司 地主 豊
	コスモ石油・堺	竹中 正弘	穂谷 真弘	諏訪 弘 竹内 洋雅	○西野賢司・篠田和孝・穂谷真弘・諏訪 弘・井口尚登・船戸真也 楠戸春則・竹内洋雅
	住友生命	丸井 広道	狩野 卓也	林 登代	○川本博之・前田俊成・白井健一・橋本篤史・丸井広道・前田浩志 水谷 豊・東畑健一
兵庫	大和製衡	滝口 良一	小川 雄一	藤本 純一	○木田英明・藤本純一・大西 隆・小林安司・山本 勝・黒田真孝 上田圭顕・五十嵐 勝
	大阪チタニウム	太田 年幸	竹村 和夫	中川 陽子	○畑 博士・藤原光雄・南野 浩・小田清二・竹村和夫・宮本幸一 井上 信
	三菱重工・神戸	松本 俊英	瀬川 欽也	四ツ谷 誠	○村上都夫・房田憲児・平井大三・中居孝廣・大橋 功・多田智浩 平川克彦・四ツ谷 誠
	関西熱化学	大塚 英博	平川 端信	吉田 恵	○松田泰宣・中塚篤史・宮西尚輝・江口武志・前田進一・後藤卓司 永吉健太郎・松尾誠一
	新明和工業・宝塚	大浦 泰	平 昌一	西倉 金作 吉田 紀子	○矢野辰幸・吉岡英二・金尾英明・市岡大輔・平 昌一・岡田勝美 河内秀行・小田康仁

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
和歌山	住友金属・和歌山	平松　茂人	北山　洋二	福島　一正	○乳井重雄・西山祥一・北川　康・北山洋二・梅林信幸・児嶋　浩 松尾秀樹
鳥取	ＮＴＴ鳥取	藤井　吾郎	藤縄　健治	的場　浩実	○石塚晴敏・柏木茂樹・藤縄健治・的場浩実・小倉信行・太田保栄
	三洋電機・鳥取	鷲見　育亮	小谷　清史	川田　憲一	○小谷清史・伊藤和彦・亀谷雅之・石丸直人・山本明良・田渕光章 門脇寛文・佃　誠
岡山	三井造船・玉野	日下　光	山本　清	山本　清 松岡　純子	○若林邦任・大倉達也・山川康広・仁井昌志・山本　清・三辻邦章 鈴木紀和・高山裕之
	川崎製鉄・水島	戸部　俊一	中山　睦雄	穴吹　栄二	○三村勇人・片岡洋一・林　晃弘・中山博人・藤原道弘・垣見一俊 長谷和邦・中山睦雄
	クラレ・岡山	田中　次郎	吉原　俊治	永井　公一 板谷　好訓	○板谷好訓・山下　剛・香山光明・吉原俊治・田枝誠一・中須賀史行 冨田真三
山口	宇部興産	山切　睦彦	末廣　秀樹	高田美穂子	○沖　貞雄・大内淳宏・秋元直幸・安田耕司・犬塚佐智雄 日下部　潤
	山陽国策パルプ・岩国	大泉　信一	高橋　良明	村上　弘明 貴船　博己	○高橋和也・村上弘明・森本孝敏・柳　宏幸・高橋良明・清水裕司 室井伸夫・木村雄一
香川	香川県庁	真鍋　剛	真鍋　剛	小山　光男 永瀬　守俊	○今雪良智・香川正樹・西尾修治・弾正原義春・大山彰広・岡下俊次 吉田就二・豊島正人
	タダノ	綾田　光丸	吉田　一人	吉田　一人 宮脇　伸行	○田中純一・中村　亨・俣嵜慎二・加藤建義・坂崎真一・福家正登 田中　治
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　栽美	沙　海平 手島　靖絵	○山田幸司・石井正行・藤原瑛佳・水島浩一・石田隆之・松浦二郎 沙　海平・許　文武
長崎	三菱重工・長崎造船所	喜多　昭夫	田中　貞夫	田中　賢介	○江坂敏郎・三根　哲・岡田芳彦・常岡忠勝・竹永　学・溝上敦夫 中野和雄・松尾　栄
	三菱電機・長崎	江口　忠道	小林　正昭	久保　真一	○久保真一・小林正昭・山口信雄・川久保暢宏・松山　清・林　吉則
広島	広島市役所	上川　孝明	後藤　茂	尾崎　清 中村　克司	○中村克司・山本克司・佐々木和義・林　哲也・後藤　茂・尾崎　清 藤田康二・山領　篤
	三菱電機・福山	大町　均	安達　恵吉	山岡　満 重国　宏明	○山岡　満・安達喜兼・杉原　篤・浦野　渉・安達恵吉・山本茂之 重国宏明・河本泰行
	ＮＫＫ福山	脇谷　昇武	田上　義美	梅月　隆 佐藤　嗣隆	○原　貴・鷹取　司・篠原竜也・原　光彦・梅月　隆・日浅　厳 久木田卓郎・芝　嘉浩
	バブコック日立・呉	山本　学	高本　成仁	磯部　達二	○吉廻秀久・河野信義・磯部達二・奥本勝志・村上恭一・久保勇人 吉元　譲・塩谷明宏
	海上自衛隊・広島	山根　忠正	津田　晃	河崎　泰典 平山　恒男	○河崎泰典・平山恒男・森野資宏・沖田貴之・津田　晃・木原　進 吉田喜隆・末武勝行
	海洋電子・広島	平山　信保	西村　健二	末岡　義昭 住岡　照行	○日川和彦・末岡義昭・曽我井貴文・向井克至・住岡照行・内山昌弘 川田輝夫・加土孝博

（女子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	阿部　隆	米山　孝二	伊藤　雅弘 弓削　展子	○小笠原　満・田中範子・佐藤京子・弓削展子・日景真弓 土屋留美子・武田明美
	北海道リコー	壽山　文雄	珍田　毅	牧　由 村岡　隆行	○岩井芳美・菅野めぐみ・長谷川真弓・谷　砂智子・宮部清美 田村亜紀
	チザキ	岩崎　昭郎	佐藤　信	板東　康夫 田中　忍	○星和代子・西村麻美・林　夕起子・高木浩美・高橋雅子・田中　忍 尾関知子
宮城	七十七銀行	阿子島高幸	寒河江一利	須藤　肇 菅野　裕子	○黒澤晃子・本郷優子・佐藤晴香・阿部福子・鈴木綾子・菅野裕子
	宮城三菱ふそう	三橋　英雄	高橋　正男		○佐藤幸恵・佐藤麻希子・中條由紀・中村克子・須田有紀子
秋田	羽後銀行	斎藤　和憲	泉屋　謙一	佐藤　晃	○柳谷郁子・嵯峨やよい・今野真理・大森るみ子・笹村靖子

県　名	事　業　所　名	部　　長	監　督　名	コーチ マネージャー	選　　手　　名　（○印は主将）
山　形	でん六	山口　良典	伊藤　洋一	長谷川典靖 高橋　一彦	○伊藤礼子・高橋佳世・菅野明子・中鉢はる美・木村郁子
	山形ケンウッド	竹内　昌燎	鈴木　伸二	佐藤　由美	○山科則枝・佐藤由美・斎藤麻理子・本間みか・菊池志保 五十嵐珠美・齋藤洋子
福　島	福島県庁	大井　俊夫	佐藤　常寿	渡部　知子	○林　尚美・菅野紀美子・齋藤幸子・武井朋子・高木恵美
	富士通・会津	塚越　厚生	渡辺　正光	清野　徹也 五十嵐由美	○大関美和子・宇南山　恵・五百川栄子・本多政子・兼谷サユリ 本田幸知・赤羽和枝・芳賀美知子
茨　城	日立・水戸	早川　　博	菅野　　孝	小島　孝治 小島　孝治	○板並君代・飛沢久美子・豊島恵子・岡田瑞枝
	日立化成	水野　　裕	岩田　輝彦	広沢　　清 三浦　　哲	○高野美子・石嶋礼子・国府田みゆき・大久保典江・木住野かおる
栃　木	日産自動車・栃木	田畑　照雄	田中　英男	笠井　孝之 小野里伊美	○小貫早苗・小野里伊美・青柳真由美・黒須洋子・大森美穂
群　馬	富士通・館林	高田　正憲	石戸　広昭	安藤　　博 木村　　博	○中川友子・栗原洋子・丸山小百合・吉田恵美・茂木利恵・石戸恵子
	日立・高崎	吉見　武夫	別所　明雄	飯野　博英 飯野　博英	○高橋里枝・八木清美・牛込紀子・高瀬晴美・大澤ゆかり
	三ッ葉電機製作所	面川　　富	森下　公広	椎名　博之 椎名　博之	○藤岡美智子・小林和子・松本弘子・塚越恵子・大澤芳美 富澤ゆり子
埼　玉	東京電力・埼玉	三上　嶽一	横溝　　徹	畑山八重子	○畑山八重子・草柳美奈子・根岸由里子・江原美和・榎本敏枝 永瀬朋子・瀬戸美都代
千　葉	我孫子市役所	関口　浩紀	岡　　信幸	坂巻　弘一 竹村のぞみ	○木村文子・斉藤晴美・飯田礼乃・竹村のぞみ・阿曽恵子
	日本電気・我孫子	伊藤　正治	高橋　淳子	岡田　順一 山下　淳一	○横山珠美・高橋淳子・渡辺恵美・川崎玲子・石川まり子・山本和子
	大日本インキ化学・千葉	河野　芳成	蓮見　直子	森　亜矢子 嶋崎　禎子	○蓮見直子・嶋崎禎子・田中美保子・佐藤千春・鹿野真由美
東　京	ヨネックス	吉本　貞夫	栂野尾昌一	范　　明 由町　美樹	○捧　匡子・田村富士美・小野寺恵美子・岩田良子・松本理恵 由町美樹・赤尾　香
	ＮＴＴ東京	池田　信孝	宮森　由吉	田児よし子 山下　　博	○上村美香・松尾知美・都木弘美・立花久枝・岡山登紀子・道上彰子 阪本雅子・田児よし子
	ゴーセン・東京	山上　啓三	鎌田　啓陸	兼坂　省一 小松崎美恵	○小松崎美恵・松岡智子・盛定　聖・太田直美・篠塚麻乃 堤　真由美
	関東郵政	本田　　勉	羽根田洋子	佐藤　宏之 岩井由美子	○羽根田洋子・吉田美和子・塩野目敏江・岩井由美子・佐藤清子 福士早苗
	三共	加藤　　治	佐藤　　始	酒井　純一	○乃川道子・宮沢由起子・朝倉　恵・村松純子・池田啓子 真鍋洋美・大武美紀
	日本電気・府中	岡田　昌義	久保田真一	久保田真一 多田富美子	○多田富美子・新井典子・吉岡真由美・五十嵐ひとみ・柳沢綾子 林　邦子・松岡暁子
	東芝・府中	山崎　義次	坂口　千年	早坂　正志 辻村　昌彦	○武田美奈・早坂泰子・佐藤栄子・上野裕子・大宮美穂子・吉野志麻
	富士通・南多摩	鈴木　孝一	木村　　均	横澤　　守 横澤　　守	○宇梶起史子・南新康子・石森千恵子・長谷川起世子・本多伸江 実田優子
	東京都庁	島田　　稔	島田　　稔	大原　政義 多田　信之	○重松まゆみ・田倉テイ子・杉谷真里　笹林朋子・壁矢千鶴子 佐藤澄世
	警視庁	荒井　義男	松本　茂之	横須賀　稔 尾関　修一	○根津邦子・國分幸恵・木幡佐和子・村上文江・加治木順子 岡本美穂
	コニカ	薮内　克也	内田　淳吉	内田　淳吉	○小塩和子・五代恵美・中村順子・吉永亜矢子・渡辺久美子 樫村みどり
神奈川	日本電気・相模原	吉居　謙二	宮入　恒明	足立　和則 宮入　恒明	○関田律子・森　真由美・若林清香・加賀ゆかり・青戸香織 貞本順子・田中久美子・安藤昌子
	三菱重工・横浜	鈴木　勝之	鈴木　勝之	高橋　保則 白井　恵子	○椎名律子・鈴木利枝・飯村美奈子・水本英里・白井恵子・小林暁子 竹森真理子

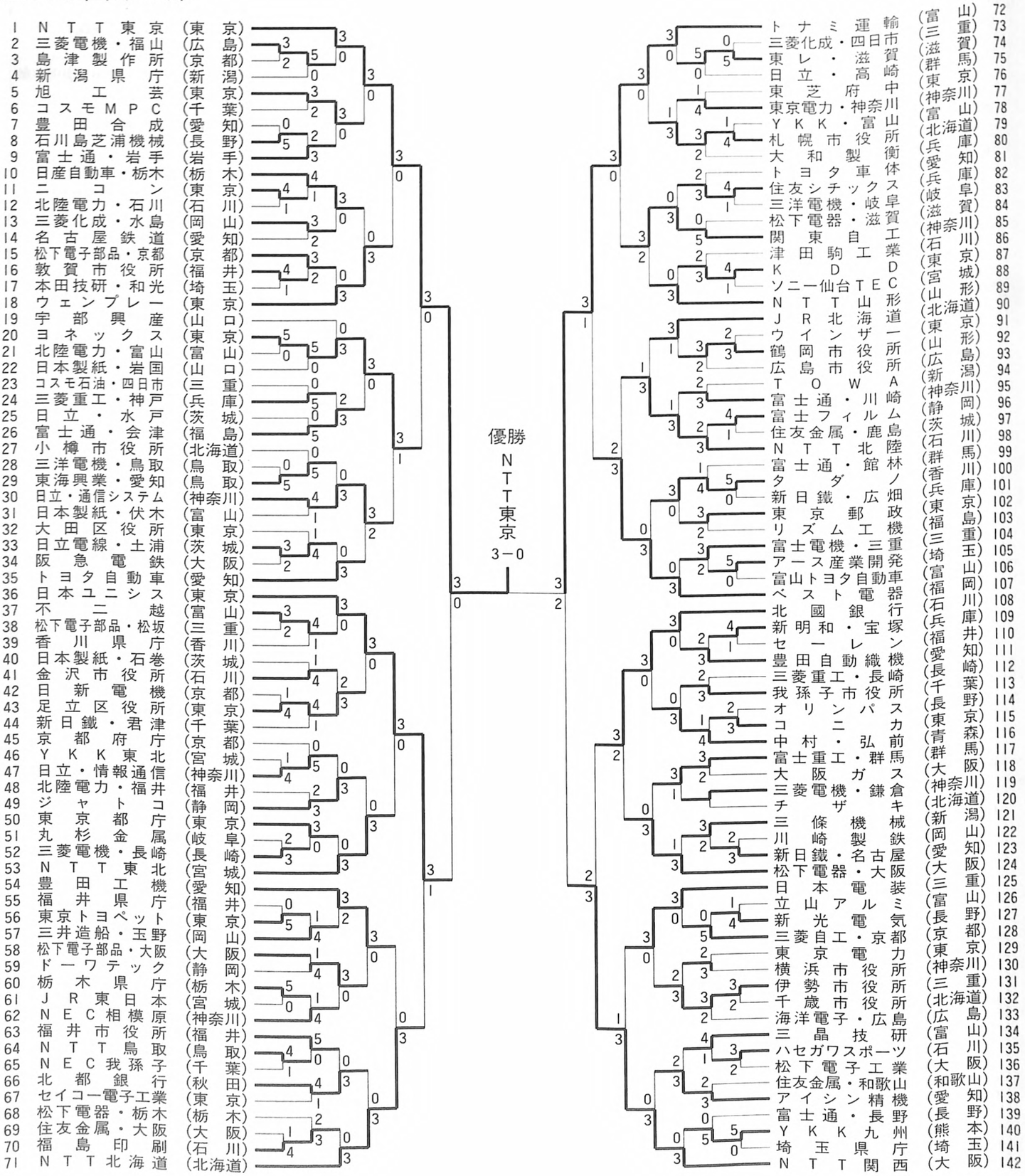
県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
神奈川	関東自工	有村　洋一	高橋　清	佐々由美子	○森　祐子・瀬下由紀・早川恵美子・中　美和子・高瀬圭子 佐々由美子・小川真由美
	旭化成・川崎	荻生　一	冨田　信昭	冨田　信昭 皆川　英理	○寺田ゆかり・桃島小千美・義間貴子・猪狩由紀子・吉川英理 古谷　操・畔田友紀子
	三菱化成・横浜	村山　謙二	大貫　千恵	和田　登 興津　操	○佐々木千津子・清水靖子・興津　操・吉田久美子・大貫千恵 柴原陽子・石川あかね
	東京電力・神奈川	荒川　弘雄	浦辺　新治	渡部　真一	○浅田幸江・瀬川清子・清沢直美・石橋良子・赤荻三知子・津川透子 須藤光恵
	日立・情報通信	田中　康之	佐藤　久敏	東使　悦子	○宮竹ひとみ・藤田智子・東使悦子・池田智美・高山秀子・藤原文子 柏木淳子・花輪悦子
	石川島播磨重工・横浜	安藤　恵成	中島　義種	永吉　知彦 山内　廣志	○守田千羽弥・森上美奈・伊勢川加奈・高橋佳子・山本美保 成田美智子・鈴木　薫
新潟	東北電力	小林　智夫	今野　孝	亀田　誠 小林　栄一	○竹野景子・山崎由美子・遅沢恵子・松縄香織・栗林可奈子 矢口裕貴子
長野	新光電気	高橋　昌彦	二ツ柳慎二	川島　雅幸 青木由里子	○喜久川直子・野治慶子・元平昭子・石沢美由紀・常田弘美 青木由里子・武田紀子
	富士通・長野	萩原　正孝	堀口　浩	鎌田　正幸 高山　卓子	○加藤順子・畔上裕美・北沢美佳・冨岡美幸・高山卓子・藤村明美 横山祥子
富山	三協アルミ	井村　修	河合　昭博	吉岡　英樹 高山真由美	○大堀麻紀・野々村美春・沢田百合・坂田美佐・佐々木　忍 山根理江・水本みか・老田一恵
	不二越	畑　栄進	畑　栄進	中士　勝 若島真由美	○三輪晴美・矢合真由美・村井良生子・若島真由美・作田美絵
	北陸電力・富山	井上　英一	柳沢　昭信		○砂田奈里・金山直美・野口文子・薄波裕子
	ＹＫＫ富山		森　徳男	辻沢　康弘	○稲沢佳織・山岡久美子・松島千秋・森　徳子・経塚利津子
石川	北國銀行	大門　重樹	羽田　義仁	藤島　誠孝 岡部　憲昌	○中尾仁美・堅田美奈子・山口美香・鶴来悦子・中田裕子・閤田和恵 鍛冶香名美
福井	福井県庁	牧野　正明	平岡　康明	平岡　康明 松田　健志	○田中妙子・中西エミ子・田中ゆかり・松田香代子・前川瑞枝 牛嶋智恵
	福井市役所	嶋田　伸行	多田　慧子	野坂美由紀	○南保正枝・野坂美由紀・澤田佳苗・多田慧子・小西里美
岐阜	三洋電機・岐阜	堀田　康治	片野　吉郎	松浦　竹典 石丸　貴久	○三田陽子・田上頼子・熊崎　綾・薫田聡子・三宅百合子
	川崎重工・岐阜	大井　邦成	三輪　静夫	葉山　賢司 小林　陽子	○小林陽子・岩田由紀子・登田美穂・野垣由布子・岩田千加子 青木敬子
静岡	ヤマハ	神谷　恒雄	飯野　佳孝	吉永　将史 平野　智子	○笠原千夏子・横手智江美・平野智子・林　矢須子・山内美奈子 篠原久子・野中真由美・幸　家明
	富士通・沼津	吉田　哲三	渡辺　誠	伊代野栄子 渡辺　由美	○松本朋子・戸田直美・伊豆沢有季子・山本百合子・榊原和美 佐野直巳・渡辺史代・勝亦朋美
	ジャトコ	小野　和明	後藤　和之	望月　美晴	○遠藤久美子・石川直美・森　文華・望月美晴・飯山貴美・牛澤三奈 堀　ひろみ
	富士フイルム	滝　正孝	滝　正孝	篠原千枝子	○後藤明美・桜井結花里・川原崎千帆・篠原千枝子・鈴森陽子 中口有子・長橋功子
愛知	トヨタ自動車	長谷川敏彦	菅原　敬二	山本　秀樹	○鳥居由恵・三浦美紀子・松田泰子・前田久美子・清水由紀子 藤本暢子・松島貴子・中水流由美
	日本電装・安城	鈴木　孝	福田　実	米倉　歩	○三原千恵子・日山智絵・杉本真紀子・高岡直美・仲山美奈 矢島優子・吉永圭井子・米倉　歩
	豊田通商	中村　忠雄	江端　正己	葛谷　実穂	○加藤聖子・葛谷実穂・桜井恭子・新井雅子・墨　久子
	アイシン精機	岩岡　照夫	飯見　隆治	武部美保子 飯見　隆治	○石田裕子・山地　香・上田菜央子・川崎朋子・山地裕美・石井敦子 甲斐雅代・荒平　希
	豊田自動織機	上原　信彦	武田　正雄	川村　順子	○伊藤美穂・川村順子・中嶋布美子・小野寿子・荻野由紀子
	名古屋鉄道	速水　正昭	井沢　宏	斉藤敬一郎	○水野裕子・稗田みな子・山下　新・中西康子・高木美恵子

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
愛知	トヨタ車体	西村　裕治	米沢　強	酒井　哲也	○藤原悦子・上村登美代・小向妙子・竹原明日香・早川美奈子 安藤充子・砂田ひかり・高松加代子
三重	富士電機・三重	山口　香	藤本　規夫	水谷　俊雄	○水谷栄里子・村上まち・川井貴子・伊藤早苗
	松下電工・津	西森　省次	永井　俊道	倉田　真紀	○古谷晃子・大平真千子・刀根三奈・中森美佳・北出まゆみ 倉田真紀
	松下電工・伊勢	元山　正徳	山本　博文	世古口典子	○世古口典子・小林里美・荒木美奈・田中　恵・上田真理・田中　恵 上田友美
滋賀	東レ・滋賀	後藤　晴司	古川　正行	中井　幸恵	○河村益美・今井友紀・中井幸恵・奥村晶子・安土文代
京都	三菱自工・京都	平林　豊	戸澤　正雄	福井　達雄 大石　繁幸	○田中晴美・三宅通代・小野昌子・平中恵美・梶浦由紀・浜田　薫 長谷年子
	京都中央信用金庫	黒田　豊	吉田　清隆	吉田　憲一 安永　誠	○藤支芳美・藤元美香・大江弘子・大崎由季代・藤本康代・宮脇桂子 河前節子
	タキイ種苗	麻田　次男	今西　正	高橋　昌子	○大森一美・高橋昌子・梅津三洋子・川勝みゆき・今村祐子 間宮美代子・岡田久美子
大阪	サントリー	長谷川理夫	山本　次生	丁　其慶 韓　愛平	○廣田時子・谷地春子・小池由扶子・金井和恵・磯崎京美・松田治子 宮村愛子・橋本淳子
	三洋電機	喜多　努	銭谷　欽治	喜多　努 尚幡　梅	○北浦道代・今村　薫・三ツ川貴子・稲熊康子・田中佐妃子 利川貴子・利川三貴・冨田美保
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	宮里　重信	瓜生　和子	○大谷美樹・福原葉子・寺尾幸子・高谷千枝・守安裕美子・出原直美 寺尾陽子・浅田美加
	コスモ石油・堺	佐藤　辰宣	楠戸　春則	穂谷　真弘 妻木　久明	○佐藤智子・岡崎和代・宇利幸恵・竹下有貴・岸田恭子・宮本　恵 木村恵利・野田千恵
	大和銀行	桂　芳樹	桂　芳樹	千田　朗子	○千田朗子・長沢幸江・永原裕里・立道佐知子・福田真弓・松本純子
	住友金属・大阪	中沢　登	斉藤　正博	中浜　優江	○千石明代・藤田綾子・清水智子・添田香名美・筒井恵理・滝田美佳
	大阪ガス	吉里　文雄	北野　公男	弘瀬　一生	○広瀬奈美・向　美樹・水津由美・山川晴美・中山真弓・冨田朱美
兵庫	三菱電機・伊丹	大沼　[illegible]	大賀　雅人	松本　泰典 久保田美可	○井上　香・久保田美可・畑山もとこ・清水浩美・白川恵理 千代由美子・鬼塚知美・大村和代
	大阪チタニウム	太田　年幸	境　良治	中川　陽子	○八原知子・伊与木美保・渡部純子・山本　操・中川陽子
	三菱重工・神戸	松本　俊英	越智　真弓	四ツ谷　誠	○前山　愛・伊野家麻美・田中和子・越智真弓・和田智恵・吉岡実希
和歌山	住友金属・和歌山	平松　茂人	川村　桂司	野澤　英雄 福島　一正	○工藤志子・島田栄美・石崎静香・尾崎由実・下地三和子
鳥取	三洋電機・鳥取	鷲見　育亮	伊藤　和彦	山本　美幸	○福田麻寿美・西木ちひろ・田中真由美・門脇めぐみ・森木文代 曽我典子・門脇あゆみ
岡山	まつもとコーポレーション	朝霧　晴夫	朝霧　晴夫	土肥まり子	○佐藤由香・藤原清美・安原久恵・土肥まり子・住矢美幸
	松下電器・岡山	小井　清宏	高祖　美喜		○中川晴美・横田裕子・木村純子・吉久幸子・徳田玲子・西林昭子 石村弥栄
山口	下関大丸	木村　義生	井上　雅美	沖村　尚美	○井上雅美・清田公恵・沖村尚美・内田玲子
香川	高松琴平電鉄	中村朔之介	小西　太	熊野　泰士 東条フミ子	○東条フミ子・古田幸代・北山理恵・入金ゆみ子・村尾佳美 三徳香代子
	百十四銀行	牛谷　茂	亀谷　幸生	山田比呂志 中川　育子	○山白麻紀・森下さおり・六車澄子・富田美津枝・古田真由美 村瀬安代・中西明子・谷岡園子
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　裁美	徐　允榮 手島　靖絵	○清水尚美・田頭美奈子・片岡道子・伊丹志乃・渡辺順子・桜本幸枝 川添美奈・長野理恵
熊本	九州日本電気	橋口　廣則	坂本　正	宮本　幸弘 福井　奈美	○田畑美香・上田純子・中原敬子・石橋律子・林　美希・甲斐美和 新留直美・中尾浩実

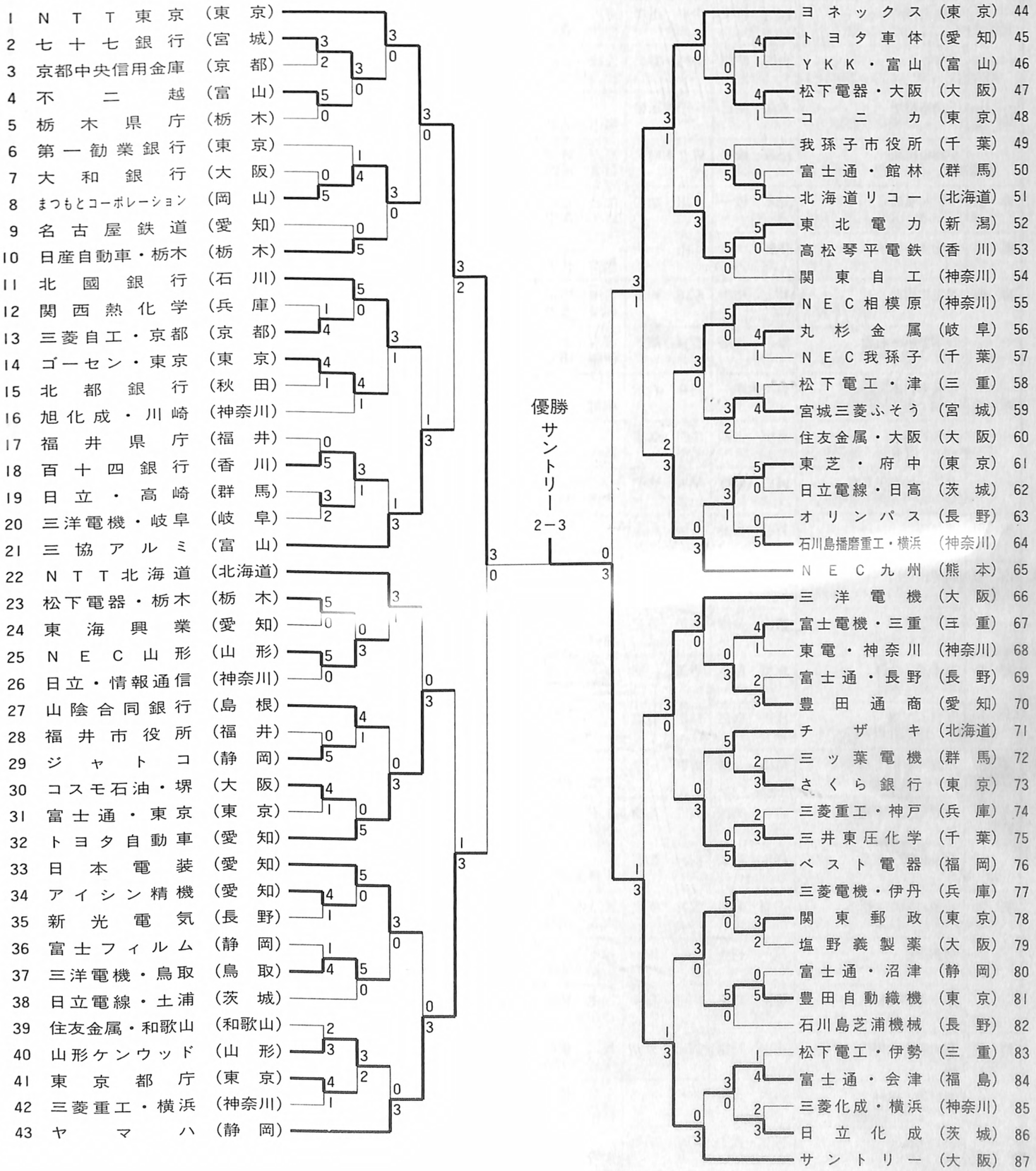
第43回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1993年(平成5年)6月23～27日
開 催 地：富山県高岡市、新湊市、小杉町
会　　場：新湊市総合体育館、
小杉町民体育館、高岡市民体育館

■男子団体の部



■女子団体の部


1 NTT東京 (東京)
2 七十七銀行 (宮城)
3 京都中央信用金庫 (京都)
4 不二越 (富山)
5 栃木県庁 (栃木)
6 第一勧業銀行 (東京)
7 大和銀行 (大阪)
8 まつもとコーポレーション (岡山)
9 名古屋鉄道 (愛知)
10 日産自動車・栃木 (栃木)
11 北國銀行 (石川)
12 関西熱化学 (兵庫)
13 三菱自工・京都 (京都)
14 ゴーセン・東京 (東京)
15 北都銀行 (秋田)
16 旭化成・川崎 (神奈川)
17 福井県庁 (福井)
18 百十四銀行 (香川)
19 日立・高崎 (群馬)
20 三洋電機・岐阜 (岐阜)
21 三協アルミ (富山)
22 NTT北海道 (北海道)
23 松下電器・栃木 (栃木)
24 東海興業 (愛知)
25 NEC山形 (山形)
26 日立・情報通信 (神奈川)
27 山陰合同銀行 (島根)
28 福井市役所 (福井)
29 ジャトコ (静岡)
30 コスモ石油・堺 (大阪)
31 富士通・東京 (東京)
32 トヨタ自動車 (愛知)
33 日本電装 (愛知)
34 アイシン精機 (愛知)
35 新光電気 (長野)
36 富士フィルム (静岡)
37 三洋電機・鳥取 (鳥取)
38 日立電線・土浦 (茨城)
39 住友金属・和歌山 (和歌山)
40 山形ケンウッド (山形)
41 東京都庁 (東京)
42 三菱重工・横浜 (神奈川)
43 ヤマハ (静岡)
優勝
サントリー
2−3
44 ヨネックス (東京)
45 トヨタ車体 (愛知)
46 YKK・富山 (富山)
47 松下電器・大阪 (大阪)
48 コニカ (東京)
49 我孫子市役所 (千葉)
50 富士通・館林 (群馬)
51 北海道リコー (北海道)
52 東北電力 (新潟)
53 高松琴平電鉄 (香川)
54 関東自工 (神奈川)
55 NEC相模原 (神奈川)
56 丸杉金属 (岐阜)
57 NEC我孫子 (千葉)
58 松下電工・津 (三重)
59 宮城三菱ふそう (宮城)
60 住友金属・大阪 (大阪)
61 東芝・府中 (東京)
62 日立電線・日高 (茨城)
63 オリンパス (長野)
64 石川島播磨重工・横浜 (神奈川)
65 NEC九州 (熊本)
66 三洋電機 (大阪)
67 富士電機・三重 (三重)
68 東電・神奈川 (神奈川)
69 富士通・長野 (長野)
70 豊田通商 (愛知)
71 チザキ (北海道)
72 三ツ葉電機 (群馬)
73 さくら銀行 (東京)
74 三菱重工・神戸 (兵庫)
75 三井東圧化学 (千葉)
76 ベスト電器 (福岡)
77 三菱電機・伊丹 (兵庫)
78 関東郵政 (東京)
79 塩野義製薬 (大阪)
80 富士通・沼津 (静岡)
81 豊田自動織機 (東京)
82 石川島芝浦機械 (長野)
83 松下電工・伊勢 (三重)
84 富士通・会津 (福島)
85 三菱化成・横浜 (神奈川)
86 日立化成 (茨城)
87 サントリー (大阪)

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名　（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	牧野　哲也 (平山　三城)	米山　孝二	伊藤　雅弘 臼井　展子	○角谷淳一・工藤忠和・吉川英樹・米山孝二・伊藤雅弘・村井秀樹 星　拓磨
	ＪＲ北海道	飯塚　一力	乙武　重丸	高橋　進 七崎　悦範	○松村徳市・松岡　誠・米田紀興・田口英史・高橋　進・馬木貴之 高鳴　進・佐竹友昭
	札幌市役所	西村　哲夫	中平　正幸	野川　豊 渋井　敏紀	○高崎厚生・宮嶋延光・市川幸典・中平正幸・中村義則・田辺道郎 萩原利雄・渋井敏紀
	チザキ	岩崎　昭郎	中村　富光	佐藤　信 星　和代子	○佐藤　信・高本邦博・板東康夫・林　秀行・伊賀政幸
	千歳市役所	大江　晃己	小田桐正徳	奥山　則雄	○佐藤一浩・大江晃己・森井　茂・伊藤隆宏・奥山則雄・小田桐正徳 大野明男
	小樽市役所	小坂　康平	佐々木尚文	高野　幹男 目黒　清則	○徳満康浩・工藤俊幸・東田朋巳・阿部幸夫・藤川歳之・木村清仁 高野幹男・目黒清則
青森	中村・弘前	鈴木　俊一	市川　功司	加藤　正嗣 佐々木徳也	○加藤正嗣・新苗　亮・佐々木徳也・佐藤隆三・加藤幸光・由町匠央 対馬巨樹・市川功司
岩手	富士通・岩手	伊藤　眞	山内　一明	鈴木　礼子	○藤谷清文・近藤秀信・長尾正樹・小原智雄・佐藤慎也・佐藤　誠
宮城	ＮＴＴ東北	井上　和幸	原田　利雄	吉田　幸司 高松　直志	○加藤安史・海老沢孝一・渡辺祐一・内村　剛・韮沢伸幸・柴崎信之 柴崎直樹・原田利雄
	日本製紙・石巻	福永　行雄	遠藤　節郎	須田　幸夫 伊藤　康志	○佐藤光彦・鈴木真吉・鈴木勝也・菅野耕一・佐藤　晃
	ＪＲ東日本	佐々木孝一	石井　右示	中村　徹	○石井右示・中村　徹・渡辺孝秀・木村　宏
	ＹＫＫ東北	押切　吉基	中村　弘康	富久　晃	○富久　晃・中村弘康・佐藤文彦・平間要一・中塩房雄・太田　淳 岩渕章洋
	ソニー仙台ＴＥＣ	岡田　俊行	早坂　秀明	角田　妙子	○三浦利昭・川井貴幸・只野慎一・足坂真一郎・早坂秀明・大場岳史 上野　実
秋田	北都銀行	斉藤　和憲	斉藤　和憲		○魚谷啓法・片桐英二・鈴木康暢・鈴木理之・高橋仁司
山形	鶴岡市役所	中鉢喜八郎	小林　保夫	伊原千佳子	○真田昭良・丸山勝美・小林　学・清野　健・秋庭一生・長谷川吉祥 阿達和夫・庄司栄一
	ＮＴＴ山形	富山　公雄	岡田　寿紀	村岡　守	○小中英智・寺島剛志・岡田寿紀・中島　修・村岡　守
福島	富士通・会津	塚越　厚生	寺田　繁	星　徹 渡辺　正光	○西潟昌利・五十嵐敏幸・長谷川淳哉・藤田幸一・佐藤勝司 菅原　進・佐々木貴吉・寺田　繁
	リズム工機	成田　保己	島影　盛継		○島影盛継・山口善胤・高橋裕一・桑原伸一・星　芳弘
茨城	日立・水戸	早川　博	菅野　孝	菅野　政明	○梅室真二・結束雄二・篠崎和弥・大塚　正・菅野政明・小森匡紹
	日立電線・土浦	森合　英純	高安　英樹	江原　均 池辺　栄	○高安英樹・紫沼良美・小島博史・有江卓也・佐藤克己・鈴木利男 池辺　栄・湯原義暁
	住友金属・鹿島	縄竹　雅久	梅沢　和則	小林美都子	○板垣龍平・小林靖敏・佐々木義之・小島康裕・板垣龍平・奥田重孝 鈴木貴志・豊島　賢
栃木	日産自動車・栃木	田畑　照雄	笠井　孝之	大八木　正 大森　美穂	○鈴木　譲・大八木　正・入江久夫・中川伸一・笠井孝之 海老原正美・清水　勝・川島正之
	栃木県庁	原　利浩	湯沢　雄一	鈴木　武 小島　秀雄	○原　利浩・池田勝浩・高橋安則・琴寄行雄・湯沢雄一・鈴木　武 和久光男・小島秀雄
	松下電器・栃木	権田　彰男	岡室　利彦	福田　和弘 谷口　尚久	○松本　誠・加藤正幸・小篠和弘・大山功治・黒須昌芳・野口敬洋 山口昌彦・我妻裕二
群馬	富士重工・群馬	水出　紀雄	渡辺　晃一	島田　清和 中居　功治	○竹内康夫・尾園正和・高山冨士雄・横嶋泰彦・丸山清春・斉藤　宏 太田真敏
	富士通・館林	高田　正憲	木村　博	安藤　修二 渡辺　文明	○松元功一・田嶋正一・渡辺文明・木村　博・横山　稔・門脇宗人 石戸広昭・君島　修
	日立・高崎	吉見　武夫	別所　明雄	飯野　博英	○飯野博英・石川栄寿・木村誠弘・北爪　彰・安藤則夫・森木永宗 菅野浩行・鹿沼重雄
埼玉	本田技研・狭山	田口　一彦	吉川　浩平	田口　一彦	○山崎善男・関谷睦博・馬場一郎・佐藤浩一・田口一彦・稲村　茂 川越幸紀・吉川浩平

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
埼玉	アース産業開発	中橋　優	中橋　優	山本　常男	○高橋　昭・中野　明・東　隆一・橋本拓也・谷澤和美・黒沢弘志 江原一彦・中橋　優
	埼玉県庁	三原　輝美	森口　新	古屋　昌裕 山崎　直子	○芦澤正博・石塚光夫・柿沼和幸・安藤栄治郎・粂　浩二・岡本良一 麻生信之・島村　明
千葉	我孫子市役所	関口　浩紀	岡　信幸	坂巻　弘一 竹村のぞみ	○関口浩紀・広瀬一弘・飯田秀勝・三宅智之・磯岡光夫・坂巻弘一 中西直樹
	ＮＥＣ我孫子	伊藤　正治	岡田　順一	岡田　順一 山下　淳一	○芝田敦志・岡田順一・小那木正夫・山下淳一・伊藤正治・富樫君雄 井上亮二
	新日鐵・君津	田中　徹	吉田　寛	阿部　哲夫 穂坂　達也	○宮崎雅浩・阿部哲夫・宮田秀人・川村憲明・吉田　寛・佐藤明海 佐藤佳人・佐藤　勉
	コスモＭＰＣ	西尾　元佑	田中　政剛	瀧本　和大 畑中　孝昭	○伊藤晃一・佐藤一男・佐々木仁一・高木篤志・瀧本和大・岩瀬　洋 谷野公昭・鈴木博之
東京	ＮＴＴ東京	池田　信孝	尾崎　幹雄	本田　浩二 山下　博	○松野修二・宮　康二・町田文彦・須賀隆宏・柳谷辰哉・江藤裕樹 高橋英治
	日本ユニシス	中村　明彦	阿部　秀夫	立本　敬人 中條　起希	○峯岸康史・石井　隆・大谷知昌・山崎　慎・菊地　修・中川敏治 大屋貴司・山田秀樹
	コニカ	薮内　克也	内田　淳吉	小泉　俊一	○吉永　巌・薮内克也・豊泉輝彦・野口　節・内田淳吉・小泉俊一 江連秀敏・大貫　勝
	足立区役所	馬場　猛夫	馬場　猛夫	鈴木　敦子	○鵜澤敏信・久保井秀雄・笹林義春・宮本道雄・小林光雄 大和田　勉・佐々木　拓・長門忠雄
	ＫＤＤ	松浪鋭四郎	大髭　輝雄	則松　直樹	○藤平　守・橋本敏邦・谷岡祐一・太田博之・前川栄一・松永　浩 嶋田　聡・宇佐美　稔
	大田区役所	伊藤　一郎	有路　幸一	瀬戸島昌人	○後藤　忠・野口　清・井上秀一・瀬戸島昌人・伊藤一郎・芝崎　誠 江川博康・横山之一
	ヨネックス	土田　隆	丹藤　勇一	青山　正伸	○阿部浩志・高橋賢治・青山正伸・江連忠雄・丹藤勇一・福田和浩 斉藤佳晴・石橋　隆
	東京トヨペット		入間　秀哲	大瀬　久司	○鈴木一成・小塩　誠・稲村善之・入間秀哲・橘川光孝・渡辺　孝 神田正浩・大瀬久司
	東京都庁	島田　稔	島田　稔	島田　稔 多田　信之	○後藤　勝・大原政義・高田　浩・多田信之・島田　稔・小林賢治 黒田祥之
	セイコー電子工業	礒　孝男	山下　史郎	安藤　晃溥 [illegible]	○礒　孝男・武藤　健・吉野明之・梅野光一・高橋信二・吉田宜史 [illegible]野　智・猪狩守宏
	旭工芸	山口　安則	山口　安則	村上　勝	○中津不二雄・村上　勝・佐々木孝二・井上一夫・山口安則 横田和博・神谷敏幸
	東京電力	佐藤　祥次	内田　修	塙　勝治	○石原泰造・厚川　勇・塙　勝治・茂木俊幸・岩間　源・橋本　栄 高野　徹・斉藤貴之
	ウインザー	山田　悠一	石川　桂治	音野　均 安田　明弘	○秋田哲也・佐野雄一・杉浦　務・狩野太郎・清水正紀・小幡　栄 安田明弘・脇坂修一
	東京郵政	古明地正邦	多田　晃一	佐藤　宏之 大橋喜久夫	○永田伸一・佐藤宏之・青木敏光・多田晃一・古明地正邦・木村克宣 松本尚之・醍醐達也
	ニコン	金谷富士夫	百瀬　智宣	本多　修治 三上　修	○根岸光正・宮島　実・三上　修・金久保勝己・小室　功・菊池孝幸 渡辺英明・斉木利雄
	東芝・府中	大島　司文	坂口　千年	早坂　正志 辻村　昌彦	○成田好崇・上野梅郎・辻村昌彦・本間　誠・早坂正志・近藤　浩 安藤　功
	ウェンブレー	杉田　一博	草島　正治	勝浦　親次 正田　章二	○須田和男・清水保則・草島正治・高辻正樹・畴津耕太郎・正田章二 勝浦親次・宮脇英雄
神奈川	ＮＥＣ・相模原	宮入　恒明	月岡　貴公	内山　泰則	○土田秀紀・内山泰則・小野　武・工藤一宏・月岡貴公・高山照彦 清原　稔
	横浜市役所	坂　元彦	境野　伸也	根本　道夫	○平　敏司・浜路　圭・斉藤英昭・村山満夫・一瀬浩美・村上英典 藤沢智明・川島正也
	日立・通信システム	下山　隆	渋谷　健一	藤谷　亜弥 富田　寿子	○杉山勝美・目良雅彦・藤井　圭・鈴木昭次・岡　洋治・鰐川　朗 百上幸一郎・中橋一晃
	三菱電機・鎌倉	池田　勝彦	池田　勝彦	石井　正男 金井真智子	○片山　敏・熊谷　修・井原伸行・石井正男・古内浩二
	関東自工	有村　洋一	高橋　清	佐々由美子	○奈良秀行・加藤康二・太田清志・村上正美・細谷　昇・小枝憲久 手島耕二・田辺　哲
	富士通・川崎	岡沢　陸郎	青木　一夫		○後藤正志・稲垣広宣・及川利行・増子康紀・青木一夫・和久井伸一 佐藤大輔・高木康広

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
神奈川	東京電力・神奈川	荒川　弘雄	平井　規之	佐藤　隆弘	○小林栄二・五十嵐　功・須藤政身・山口　修・榎　博久・山本　正 田中　徹・鈴木辰宏
	日立・情報通信	渡辺　卓美	坂口　勝則	東使　悦子	○藤田良一・馬場哲也・坂口勝則・秋山昌博・半田賢二・小野覚史
新潟	三條機械製作所	外山　修	久住　勝利	羽龍　良記	○鈴木　裕・羽龍良記・相馬寛輝・小島豊史・米山　高・丸山勝弥 内山隆史
	新潟県庁	阿部　智	市村　雅之	大川　剛史 本保　信義	○小林　巧・島田久幸・後藤　真・金子信之・重山　明・小杉信広 瀬賀　功・梁川克史
	TOWA		熊倉　光一	斉藤　昌典 富樫　省二	○菅原正利・富樫省二・熊倉光一・長谷川　毅・長谷川利彦
長野	石川島芝浦機械	北川　良司	赤羽　元春	矢口　啓元 塩原　由美	○奥原祐二・吉野泰正・土屋　渡・赤羽元春・丸山　宏・清水　潔 上條研一
	富士通・長野	萩原　正孝	丸山　隆	鎌田　正幸 髙山　卓子	○上原克士・出川輝義・戸谷正人・丸山　隆・鎌田正幸・酒井正彦 丸山和宏
	オリンパス	今井　敏明			○今井敏明・村上　勝・手塚久則・竹内章雄
	新光電気	髙橋　昌彦	二ツ柳慎二	川島　雅幸 青木由里子	○川島雅幸・各務美信・二ツ柳慎二・橋倉吉之・清水義久・若林孝佳
石川	北國銀行	大門　重樹	羽田　義仁	岡部　憲昌	○羽田憲治・崎田健一・山本明彦・武田　修・羽田義仁・西島弘幸 藤島誠孝・小池田　基
	金沢市役所	岸谷　隆	太村　正信	林　芳広 山形　博	○庄田秀実・田村　稔・内田雄士・山口正主・毛利達彦・永井俊宏 杉原秀俊・大村正信
	福島印刷	横田　貞昭	加藤　一弥	竹村　晴夫 荒木　裕	○山口英晃・柴田雄次・綾瀬寛隆・林　剛・大塚貴康・橋本哲也 松原宏明
	ハセガワスポーツ	長谷川　進	長谷川　進	長谷川一郎 中川　抄織	○長谷川　進・髙島直樹・岩田一也・岩本博昭・河内秀晃
	北陸電力・石川	徳野　武	鈴木　昭彦	安田　佳代	○岡田健児・国谷厚志・今村　学・前田　毅・吉本茂利・紺谷忠義 船木龍吉
	NTT北陸	宮川　政秋	松下　力	直地　直 小泉　桂子	○谷島助男・森田　均・宮本照啓・東　隆裕・浜谷安裕・坂井外喜男 山尾克則・宮本勝裕
	津田駒工業	鍋嶋　範雄	安江　勉	広村　繁	○奥本正博・広村　繁・高野敏雄・金谷敏夫・小川裕之・山越文彦 二口吉邦・古川政美
福井	福井県庁	牧野　正明	高岡　桂	白嵜　淳 羽川　良夫	○平岡康明・松田健志・白嵜　淳・川端裕之・髙岡　桂・羽川良夫 加藤和彦
	福井市役所	嶋田　伸行	嶋田　伸行	野坂美由紀	○南京良幸・嶋田伸行・西行　裕・山本光紀・山本敏彦・宮原　一 髙橋　譲・武澤政彰
	敦賀市役所	比田　庄衛	寺崎　由雄	寺崎　由雄 南出　悟志	○寺崎由雄・南出悟志・山岸茂樹・富田太朗・澤崎　章・比田庄衛
	北陸電力・福井	萩原　盛衛	角　五三男	野路　健一 谷先　政人	○高野一男・金川克行・亀田昌利・文殊四郎裕一・前田初志 角野真一・藤尾裕一
	セーレン	黒川　誠之	井上　哲也	井上　哲也 森近　浩靖	○長田正一・植林晃宏・安田泰啓・井上哲也・荒木道男・向川髙広 吉田清隆
岐阜	丸杉金属	杉山　忠国	戸崎　守雄	天野きみ子	○北島祐司・大塚洋和・戸崎守雄・鈴木菊夫・今井　努
	三洋電機・岐阜	堀田　康治	片野　吉郎	松浦　竹典 得能　稔	○得能　稔・辻田平幸・樋口剛司・尾関　肇・松浦竹典・藤本高義 角屋順一・野田　勇
静岡	ジャトコ	小野　和明	後藤　和之	佐藤　佳久	○坂上隆広・中島信頼・渡辺高博・髙島智之・石嶺善健・吉野智昭 若松　誠・川島直樹
	富士フィルム	滝　正孝	西島　知彦		○井出裕雄・中村繁幸・武井弘征・高橋哲也・池田光弘・佐野英利 小野里朋之・西島知彦
	ドーワテック	佐藤　守	林　守夫	池ヶ谷良秋	○林　守夫・梅田裕之・増田和樹・勝又康雄・野田康行・塩谷昌之 石井久雄・池ヶ谷良秋
愛知	トヨタ自動車	長谷川敏彦	坂本　宏志	古賀　勝志 山本　秀樹	○福田昭典・城木夢高・仙田　肇・植村武司・古賀勝志・滝田　智 橋本宗士・藤岡清満
	豊田工機	松田　源市	日比野伸昭	土田　信也 峰　登志郎	○東　正也・野呂　徹・石田　満・川島一剛・峰　登志郎・石井裕二 永多　実・田村勝久
	豊田自動織機	上原　信彦	岩渕　信司	鈴木　規弘	○松本　周・山田孝幸・神山紀雄・野口　忍・岩渕信司・佐藤崇裕 知念幸治・緒方信也

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
愛知	アイシン精機	仲　敬介	飯見　隆治	武部美保子	○大月善巳・北里憲之・新家英樹・飯見隆治・菊地　勲・内田昌行 吾妻扇太郎
	トヨタ車体	三品　康雄	米沢　強	酒井　哲也	○後藤吉広・玉田孝治・小林安司・森　美尚・斉藤勝明・木村拓哉 鍋割英雄・常松幸一
	東海興業	木村　勝昭	早川　満志	鈴木　章広 柳　孝三	○吉田　努・角藤利明・大竹達裕・柳　孝三・河合信一郎・平尾昌也 酒井良之・安井憲司
	名古屋鉄道	速水　正昭	井沢　宏	斉藤敬一郎	○井上　龍・斉藤敬一郎・鬼頭幸裕・田中正博・林　久男・川嶋清和 森下貴人
	新日鐵・名古屋	二杁　幸夫	山本　卓男	佐々木秀一 内田　公明	○案部博史・白田直人・田畑泰俊・上枝　伸・納所久夫・坪井英之 宮下一紀・小畠知也
	豊田合成	竹内　邦嘉	野村　幸信	高田　靖彦	○平下茂史・丹羽　勇・伊藤孝弘・木村　進・野村幸信・林　隆 黒井孝宏・前出進一
三重	日本電装	田中　篤郎	片岡　泰	中川　健 山田　興生	○山内一志・磯部昌弘・平井　肇・百丸祐輝・中川　健・吉田義利 宇野忠男・山田興生
	三菱化成・四日市	増井　孝夫	小林　信行	小林　信行 村山　裕子	○毛利浩治・森山唯史・石井繁光・石橋　融・荻田昌昭・成瀬幸宏 秋山一弥・小林信行
	富士電機・三重	山口　香	藤本　規夫	水谷　俊雄	○水谷俊雄・佐藤滋晃・藤本規夫・森川広美・糀谷清史・橋本貴仁 小林英毅・山口　香
	コスモ石油・四日市	向山　昭	福田伊佐治	水谷　尚代	○荒木良之・川戸真也・東　孝一・中川義明・野呂雅也・永坂昌信 奥田耕司・谷口嘉飛普
	伊勢市役所	松岡　信	松岡　信	松岡　信 松岡　信	○東　健治・永田密山・筒井俊夫・丸山　光・松岡　信・沖塚孝久 大西善浩
	松下電子部品・松阪	矢形　政巳	松本　浩二	酒徳　一利 松本　浩二	○森本博幸・福田敏伸・中川祥一・村木康之・酒徳一利・木下　保 橋爪孝文・松本浩二
滋賀	東レ・滋賀	後藤　晴司	古川　正行	細野　博	○吉居　秀・末永　勉・宮崎誠二・高谷直樹・中川　康・岡田耕作 木村剛史・森山勝平
	松下電器・滋賀	吉田　則夫	斎藤　光治	高橋　敏幸 今在家幸子	○西井伸之・石田佳史・中島幸夫・奥田淳司・山本　昇・広岡良則 寺田篤典
京都	三菱自工・京都	三宅　巧	石津　正明	福井　達雄 竹内　真樹	○広瀬　敬・寺尾　豊・藤井敏政・細井一卿・佐々木正司・三澤哲也 谷口雄二・斉藤則彦
	松下電子部品・京都	福留　忠顕	久保　[illegible]	[illegible] 山本　朋子	○山岸武泰・寺田正文・太田智一郎・谷本和宏・大森　実・金　泰男 瀬尾賢次・矢田昌規
	島津製作所	山本　紘史	西村　睦喜	井上　昇	○平岡秀介・斉藤清代巳・東　洋一・山田航也・山本寿志・浦谷孝信 戸田浩之・井上　昇
	日新電機	上田　政行	宮林　幸正	桜井　綾子	○山中秀樹・本田修士・井上晃志・梶村和成・宮林幸正・川崎俊正 橘　栄作・富田久幸
	京都府庁	茂木孝二郎	茂木孝二郎	山本　明	○遠藤和美・山本　明・笹井剛満・茂木孝二郎・三木良行
大阪	ＮＴＴ関西	野々市谷健	松井　峰生	辻田　泰昌	○村山友二・今東　建・大谷誠二・今井彰彦・辻田泰昌・早戸敬雄 植村昭彦・松井峰生
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	宮崎　庄一	大川原暁夫	○中角好男・長谷浩道・常山兼二・大川原暁夫・山口昭彦・江口俊之 山崎雅也・常山康一
	住友金属・大阪	中沢　登	梅本　彰	西村　央子	○梅津裕一・高山幸久・高島　猛・吉岡　誠・田代浩一・原　利信 日高義次・畑崎　豊
	阪急電鉄	小野　俊雄	下野　治生	中井　賢一	○大野孝二・佐藤俊哉・荻野匡司・小野俊雄・蔵本英二・中村　昇 椎屋美津生・下野治生
	松下電子工業	仲田　康英	仲田　康英	秋谷　利幸	○命苫清雄・馬場康行・国信建臣・良田裕亮・桂　貴男・小山　顕 福井武司・弥栄裕之
	松下電子部品・大阪	上島　辰行	森脇　紳二		○長山武弘・名川達弥・赤沢建樹・森脇紳二・見市幸司
	大阪ガス	吉里　文雄	北野　公男	西野　幸雄 園部　一彦	○早水栄治・斉藤浩司・園部一彦・高島和秀・田中真平・槙納　正 大井貴夫・井上正一
兵庫	大和製衡	滝口　良一	山本　勝	藤本　純一	○木田英明・藤本純一・五十嵐　勝・山本　勝・黒田真孝・上田圭顕
	新日鐵・広畑	勝山　憲夫	塩飽　初	平松　重吉 泉　吉弘	○広岡輝男・山磨和弘・八幡邦憲・平松重吉・塩飽　初・柴　靖規 宮原　通
	三菱重工・神戸	松本　俊英	瀬川　欽也	四ツ谷　誠	○大橋　功・房田憲児・平井大三・三宅恒久・村上郁夫・平川克彦 佐野　亨

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
兵庫	住友シチックス	太田　年幸	竹村　和夫	中川　陽子	○藤原光雄・井上　信・南野　浩・宮本幸一・小田清二・畑　博士
	新明和工業・宝塚	大浦　泰	平　昌一	西倉　金作 吉田　紀子	○矢野辰幸・吉岡英二・金尾英明・河内秀行・平　昌一・岡田勝美 市岡大輔・小田康仁
和歌山	住友金属・和歌山	山下　良一	北山　洋二	福島　一正	○児島　浩・西山祥一・北川　康・梅林信幸・乳井重雄・北山洋二
鳥取	ＮＴＴ鳥取	山本　貢	藤縄　健治	石塚　晴敏 的場　浩実	○石塚晴敏・藤縄健治・柏木茂樹・小倉信行・的場浩実
	三洋電機・鳥取	鷲見　育亮	小谷　清史	山本　美幸	○小谷清史・山本明良・亀谷雅之・石丸直人・伊藤和彦・田渕光章 門脇寛文
岡山	三井造船・玉野	日下　光	藤原　航 助山本　清	松岡　純子	○若林邦任・大倉達也・仁井昌志・井上靖浩・山本　清・三辻邦章 高山裕之・逸見　修
	川崎製鉄・水島	中島　一磨	中山　睦雄	三村　勇人	○三村勇人・中山睦雄・垣見一俊・長谷和邦・藤原道弘・片岡洋一 中山博人・林　晃弘
	三菱化成・水島	杉山　仁	東　昌二	笠原　博文 上本美由季	○横田豊和・横山健一・荒木義隆・西本高士・笠原博文・小池茂紀 井上浩文
広島	広島市役所	上川　孝明	後藤　茂	尾崎　清 中村　克司	○山領　篤・山本克司・佐々木和義・藤田康二・後藤　茂・尾崎　清 中村克司・林　哲也
	三菱電機・福山	大町　均	安達　恵吉	山岡　満 桑田　裕一	○西尾茂之・安達恵吉・杉原　篤・定平吉史・山岡　満・安達喜兼 浦野　渉・江村嘉信
	海洋電子・広島	平山　信保	橋本　宏	末岡　義昭 住岡　照行	○内山昌弘・日川和彦・曽我井貴文・向井克至・住岡照行・末岡義昭 川田輝夫・加土孝博
山口	宇部興産	山切　睦彦	末廣　秀樹	高田美穂子	○沖　貞雄・吉川直樹・日下部　潤・安田耕司・大内淳宏・末廣秀樹
	日本製紙・岩国	大和田哲夫	高橋　良明	村上　弘明 室井　伸夫	○高橋和也・村上弘明・柳　宏幸・中山　整・高橋良明・森本孝敏 木村雄一・室井伸夫
香川	香川県庁	真鍋　剛	岡田　忠巳	小山　光男 永瀬　守俊	○今雪良智・香川正樹・弾正原義春・豊島正人・岡下俊次・西尾修治 吉田就二・大山彰広
	タダノ	帯包　泰博	吉田　一人	吉田　一人 宮脇　伸行	○田中純一・中村　亨・福家正登・田中　治・坂崎真一・奥田貴士 加藤建義・俣嵜慎二
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　栽美	沙　海平 手島　靖絵	○山田幸司・石井正行・藤原瑛佳・金城　学・石田隆之・松浦二郎 水島浩一・沙　海平
長崎	三菱重工・長崎造船所	喜多　昭夫	田中　貞夫	田中　賢介	○江坂敏郎・三根　哲・岡田芳彦・常岡忠勝・竹永　学・溝上敦夫 中野和雄・松尾　栄
	三菱電機・長崎	江口　忠道	小林　正昭	川久保暢宏	○久保真一・森山良一・松山　清・川久保暢宏・山口信雄・高月俊光 小林正昭
	ＹＫＫ・九州	大田　金三	石黒之武久	穴井　聡	○村中陽介・古井博高・山村光司・穴井　聡・花田政文・石黒之武久
富山	トナミ運輸	安達　達明	堺　三徳 助今泉　勉	今泉　勉 荒木　純	○濱北和彦・気谷篤人・大堀　均・本山秀昭・木船栄士・岩渕公一 吉田直樹・三浦　修
	日本製紙・伏木	高須賀恒夫	大野　幸雄	加須栄隆治 嵐　英一	○高崎裕一・蔵野耕治・山本　潤・谷口孝志・中嶋正男・林　清和 山田佳史・車　祥幸
	不二越	田島　一正	濱松　栄次	畑　栄進 若島真由美	○濱松栄次・山下直哉・恒川　誠・早川久義・平井保光・谷井透浩 中土　勝・三鍋良知
	三晶技研	浅井　秀一	毛利　智成	飛弾　是博 平野　祐子	○吉森勝之・林　幸一・堀　正人・沢田淳悦・毛利智成・湯上佳和 種田茂博・野村智紀
	富山トヨタ自動車	田形　昌敏	田形　昌敏	木村　正人 山崎　光明	○谷口宗徳・清水勝弘・三ッ塚紀世彦・柿沢方之・松田高幸 高畑　稔・吉田功治・山崎光明
	ＹＫＫ・富山	森　徳男			○今井治広・朝日奈利幸・森　徳男・辻沢康弘・長谷秀樹
	立山アルミ	上野　忠之	上野　忠之	竹内　松芳	○竹内松芳・高井俊昭・木下泰延・加須栄洋之・森井　仁・石田常雄
	北陸電力・富山	柳沢　昭信	平野　政雄	中家　信博	○中家信博・大井龍仁・水野博之・別森敬一・平野政雄

（女子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	牧野　哲也 （平山三城）	米山　孝二	(コ)伊藤雅弘 (コ)日景真弓 (マ)臼井展子	○小笠原　満・田中範子・佐藤京子・臼井展子・日景真弓 土屋留美子・武田明美
	北海道リコー	藤山　文雄	珍田　毅		○岩井芳美・長谷川真弓・勝井陽子・宮部清美・太田百合子
	チザキ	岩崎　昭郎	中村　富光	佐藤　信 星　和代子	○星和代子・林　夕起子・日原恵美里・岩崎美香・高橋雅子 尾関知子・梶原夕子・高木浩美
宮城	七十七銀行	高橋　祥允	寒河江一利	須藤　肇 菅野　裕子	○黒澤晃子・鈴木綾子・榛澤恵美・本郷優子・佐藤晴香・佐藤敏美
	宮城三菱ふそう	三橋　英雄	高橋　正男	平塚　宣宏	○佐藤幸恵・中條由紀・佐々香織・須田有紀子・大友智恵 森　美恵子
秋田	北都銀行	斉藤　和憲	佐藤　晃		○大森るみ子・笹村靖子・佐々木妙子・嵯峨やよい・今野真理
山形	ＮＥＣ山形	古瀬　和則	大場　和博		○近藤美知子・鹿野今日子・隈部友紀子・秋場奈美・中山万由美 片山美希
	山形ケンウッド	竹内　昌燎	鈴木　伸二	佐藤　由美	○山科則枝・佐藤由美・斎藤麻理子・本間みか・菊池志保 五十嵐珠美・斎藤洋子
福島	富士通・会津	塚越　厚生	清野　徹也	本多　克博 兼谷サユリ	○大関美和子・本田幸知・森　昭衣・宇南山　恵・五百川栄子 芳賀美知子・永塚久美子・岩田恵美
茨城	日立電線・日高	深堀　敏夫	新井　修	鈴木　英雄 吉田　英子	○大和田麻由美・吉田英子・竹村朋子・石川　香・梶山いづみ 入澤由美子・戸祭由香
	日立化成	水野　裕	岩田　輝彦	高野　美子 三浦　哲	○石鳴礼子・国府田みゆき・戸田美由紀・大久保典江・藤田雅子
	日立電線・土浦	森合　英純	高安　英樹	江原　均 矢口　純子	○富田久美子・三留久美・深作照恵・矢口純子・園部ひろみ
栃木	日産自動車・栃木	田畑　照雄	笠井　孝之	大八木　正 大森　美穂	○小貫早苗・大森美穂・小野里伊美・青柳真由美
	栃木県庁	原　利浩	湯沢　雄一	大塚　泰世	○岡田和子・森田洋子・河野雅奈美・小野寺弘子・大塚泰世 大根田明子
	松下電器・栃木	中山　年史	阿久津幹男	阿部　英喜 [illegible]	○影山美和・河又美穂・羽山小百合・長谷川菊枝・永島良恵 新倉昌代・長南陽子・平出晴子
群馬	富士通・館林	高田　正憲	石戸　広昭	君島　修 渡辺　文明	○丸山小百合・倉上真由美・石戸恵子・茂木利恵・新井純子 栗原洋子
	日立・高崎	吉見　武夫	別所　明雄	飯野　博英	○高橋里枝・牛込紀子・八木清美・高瀬晴美・大澤ゆかり
	三ッ葉電機製作所	富川　富	湯浅　宏	藤岡美智子 島田　正志	○藤岡美智子・大澤芳美・富澤ゆり子・塚越恵子・石川治代
千葉	我孫子市役所	関口　浩紀	岡　信幸	坂巻　弘一 竹村のぞみ	○木村文子・斉藤晴美・飯田礼乃・竹村のぞみ・阿曽恵子・成瀬京子
	ＮＥＣ我孫子	伊藤　正治	岡田　順一	岡田　順一 山下　淳一	○川崎玲子・石川まり子・高橋淳子・渡邊恵美
	三井東圧化学	榊原　崇夫	今井　保夫	貝塚　隆喜	○牛島美智子・飛留間久美・三原はるか・斉藤規子・藤田裕子
東京	ヨネックス	吉本　貞夫	栂野尾昌一	(コ)范　明 (コ)陣内貴美子	○田村富士美・岩田良子・由町美樹・小野寺恵美子・捧　匡子 松本理恵・赤尾　香・後藤さゆり
	ＮＴＴ東京	池田　信孝	田児よし子	本田　浩二 山下　博	○松尾知美・立花久枝・道上彰子・田児よし子・岡山登紀子 阪本雅子
	ゴーセン・東京	山上　啓三	兼坂　省一	藤波　哲治 小松崎美恵	○小松崎美恵・盛定　聖・青山雅美・成本真祐美・堤　真由美
	関東郵政	元木　徹夫	羽根田洋子	佐藤　宏之 岩井由美子	○佐藤清子・岩井由美子・福士早苗・羽根田洋子・吉田美和子
	富士通・東京	馬場　賢	木村　均	横澤　守 長谷川起世子	○宇梶起史子・石森千恵子・実田優子・長谷川起世子・岸野和代 福石真弓
	東芝・府中	大島　司文	坂口　千年	早坂　正志 吉野　志麻	○佐藤栄子・早坂泰子・小川広子・上野裕子・武田美奈・吉野志麻
	第一勧業銀行	義家　紀男	梶田　敏夫	村尾　和昭 高橋　肇	○西村通子・土居広恵・白土久美子・三力谷則子・真瀬孝子 若林孝子・坂田裕加子

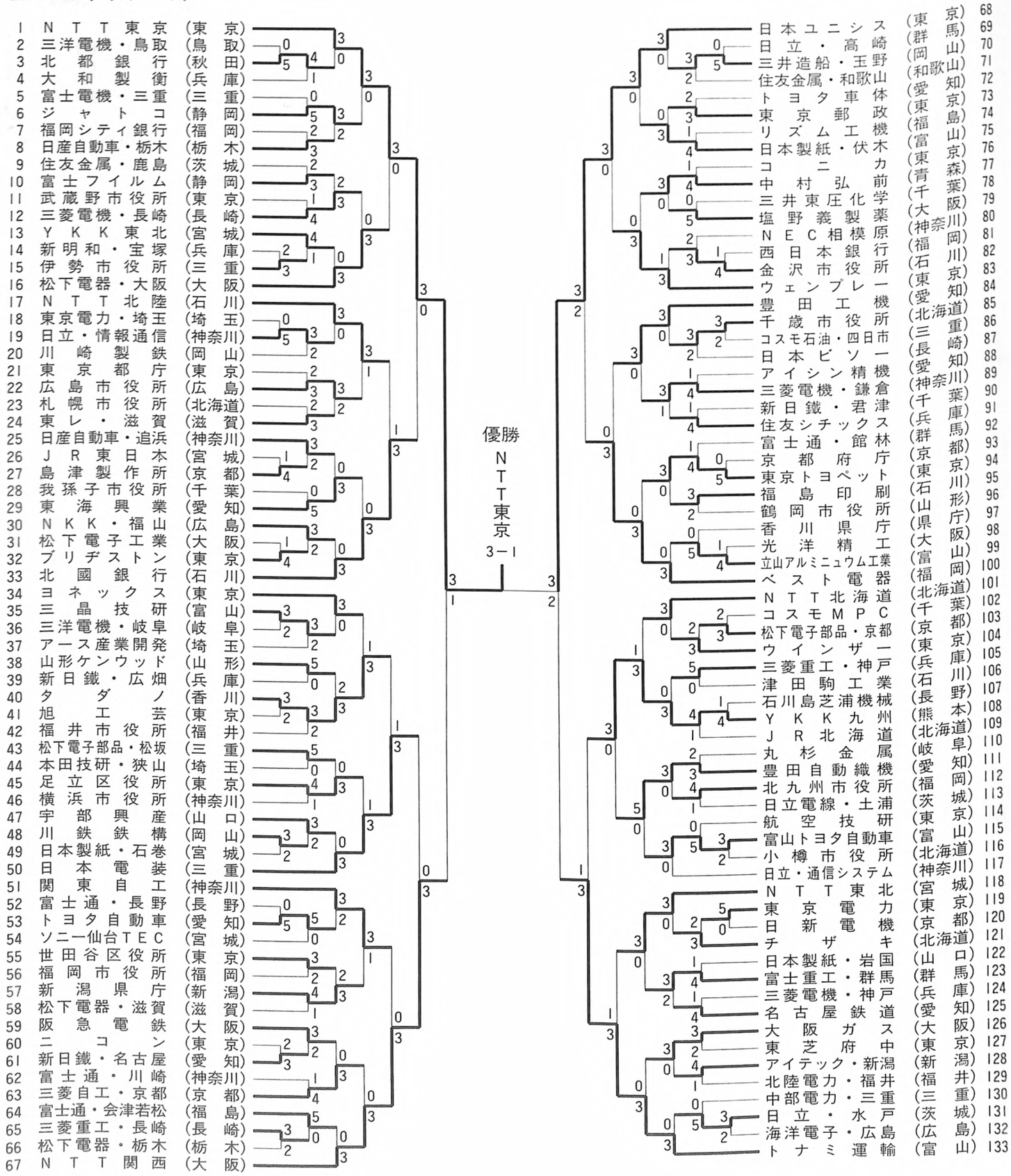
県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
東京	東京都庁	島田　稔	島田　稔	多田　信之	○重松まゆみ・田倉テイ子・杉谷真里　笹林朋子・壁矢千鶴子 佐藤澄世
	さくら銀行	石川　孝	石川　孝	安藤　孝司 今村　香織	○浅野英子・磯　美和・中丸紀子・大内浜子・竹内美津代
	コニカ	薮内　克也	木川　就二	小泉　俊一	○吉永亜矢子・渡辺久美子・鈴木克枝・小塩和子・中村順子
神奈川	ＮＥＣ相模原	板倉　信雄	宮入　恒明	足立　和則 若林　清香	○田中久美子・加賀ゆかり・安藤昌子・工藤理絵・若林清香 物井あゆみ・長谷川貴子
	三菱重工・横浜	鈴木　勝之	鈴木　勝之	高橋　保則 小川　恵子	○小林暁子・椎名律子・飯村美奈子・福田昌美・小川恵子・鈴木利枝 竹森真理子
	関東自工	有村　洋一	高橋　清	佐々由美子	○森　祐子・中　美和子・小川真由美・斎藤未来・伊藤圭子 佐々由美子・大塚由架子
	旭化成・川崎	岩田　幸夫	富田　信昭	冨田　信昭 皆川　英理	○寺田ゆかり・畔田友紀子・義間貴子・猪狩由紀子・皆川英理 椛島美紀・境　亜紀子
	三菱化成・横浜	牛窪　孝	村山　謙二	和田　登 佐藤　恵子	○大貫千恵・柴原陽子・佐藤恵子・富田靖子・興津　操・吉田久美子
	東電・神奈川	荒川　弘雄	浦辺　新治	渡部　真一	○浅田幸江・瀬川清子・須藤光恵・赤荻三知子・津川透子 成田あゆみ
	日立・情報通信	渡辺　卓美	佐藤　久敏	東使　悦子	○藤原文子・柏木淳子・池田智美・鈴木景子・東使悦子
	ＩＨＩ横浜	中島　義種	中島　義種	永吉　知彦 山内　廣志	○山本美保・成田美智子・信平他恵子・伊勢川佳奈・高橋佳子 加谷圭子
新潟	東北電力	有田　浩三	今野　孝	亀田　誠 小林　栄一	○船津佳子・松縄香織・遅沢恵子・斉藤かおり・竹野景子 栗林可奈子・矢口裕貴子・遠藤みゆき
長野	新光電気	高橋　昌彦	二ツ柳慎二	川島　雅幸 青木由里子	○喜久川直子・西山知子・青木由里子・常田弘美・野治慶子 元平昭子
	オリンパス	今井　敏明			○中野玲子・宮下祐美・古橋正美・高坂典枝・大槻佳代
	富士通・長野	萩原　正孝	戸谷　正人	鎌田　正幸 高山　卓子	○加藤順子・藤村明美・横山祥子・高山卓子・北沢美佳・富岡美幸
	石川島芝浦機械	北川　良司	北川　良司	三村　昌永 浅輪　学	○内川啓子・岸田絵理・塩原由美・白木麻実
石川	北國銀行	大門　重樹	岡部　憲昌	松田奈緒子	○中田裕子・西島美奈子・鶴来悦子・牛田美希・閤田和恵・山口美香 鍛冶香名美・中嶋智子
福井	福井県庁	牧野　正明	田中　妙子	白嵜　淳 毛利　直美	○田中妙子・中西エミ子・毛利直美・松田香代子・田中ゆかり 牛嶋智恵
	福井市役所	嶋田　伸行	村井　敏晃	野坂美由紀	○南保正枝・田中功子・小西里実・高橋慶子・多田慧子・野坂美由紀 澤田佳苗
岐阜	三洋電機・岐阜	堀田　康治	片野　吉郎	得能　稔 得能　稔	○三田陽子・田上頼子・熊崎　綾・薫田聡子・三宅百合子
	丸杉金属	杉山　忠国	戸崎　守雄	天野きみ子	○杉山ゆう子・山内雅代・野垣詠子・杉山千明・居波順子・成瀬恵子 長谷川有紀・清水美香
静岡	ヤマハ	富田　一	飯野　佳孝	辜　家明 山田　美紀	○平野智子・林　矢須子・野中真由美・二貝恭子・山内美奈子 史　方静・篠原久子・中山佐知子
	富士通・沼津	吉田　哲三	渡辺　誠	伊代野栄子 渡辺　ゆみ	○松本朋子・戸田直美・伊豆沢有季子・依田亜希子・榊原和美 渡辺史代・勝亦朋美・大塚裕子
	ジャトコ	小野　和明	後藤　和之	遠藤久美子	○飯山貴美・牛澤三奈・堀　ひろみ・加藤裕美・石川直美・森　文華 望月美晴
	富士フイルム	滝　正孝	滝　正孝	川原崎　陣	○後藤明美・桜井結花里・中口有子・鈴森陽子・野村友紀 川原崎千帆
愛知	トヨタ自動車	長谷川敏彦	菅原　敬二	源島　利恵	○藤本暢子・清水由紀子・松島貴子・前田久美子・鳥居由恵 松田泰子・中水流由美・大串朱美
	日本電装	壁谷権一朗	福田　実	吉永圭井子	○日山智絵・青木美代子・米倉　歩・吉永圭井子・矢島優子 杉本真紀子・高岡直美
	豊田通商	中村　忠雄	江端　正巳	葛谷　実穂	○墨　久子・櫻井恭子・彦坂知美・葛谷実穂・加藤千里
	アイシン精機	仲　敬助	飯見　隆治	武部美保子	○石田裕子・甲斐雅代・荒平　希・児玉典子・上田菜央子・石井敦子 船橋美江子
	豊田自動織機	上原　信彦	武田　正雄	川村　順子	○荻野由紀子・伊藤美穂・中園文江・川村順子・中嶋布美子

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
愛知	名古屋鉄道	速水　正昭	井沢　宏	斉藤敬一郎	○水野裕子・高木美恵子・山下　新・中西康子・稗田みな子 柳原一葉
	トヨタ車体	三品　康雄	米沢　強	上村登美代	○小向妙子・砂田ひかり・河本洋子・高松加代子・安藤充子 竹原明日香・鈴木和泉・間瀬亜紀子
	東海興業	木村　勝昭	阿知和幹根	中村　俊哉 永井　優	○村瀬恵子・横井ひとみ・大鹿美智子・大谷秀子・宇佐美香代子 深谷恵美・菊嶋理絵・笹嶋公子
三重	富士電機・三重	山口　香	藤本　規夫	水谷　俊雄	○水谷栄里子・伊藤早苗・川口美保子・村上まち・村上みほ
	松下電工・津	西森　省次	永井　俊道	北出まゆみ	○古谷晃子・大平真千子・刀根三奈・中森美佳・北出まゆみ 倉田真紀
	松下電工・伊勢	元山　正徳	山本　博文	荒木　美奈	○田中　恵・荒木美奈・上田友美・西山永里子・小林里美・田中　恵 吉村真紀・廣地亜紀穂
京都	三菱自工・京都	三宅　巧	竹井　宣夫	白石　晋也 梶浦　由紀	○田中晴美・三宅通代・長谷年子・平中恵美
	京都中央信用金庫	吉田　清隆	安永　誠	菅生　誠 矢野　暢久	○藤元美香・藤本康江・芝崎由美子・福井芳美・大崎由季代
大阪	サントリー	藤田　宜紀	山本　次生	丁　其慶 韓　愛平	○小池由扶子・金井和恵・松田治子・橋本淳子・廣田時子・磯崎京美 宮村愛子・佐藤千賀子
	三洋電機	矢形　博信	銭谷　欽治	宮崎　克巳 花田美千代	○北浦道代・井田貴子・星川　愛・山田裕美・利川三貴・西田美由紀 田中佐妃子・村上直美
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	山川　正一	宮里　重信 瓜生　和子	○大谷美樹・勝川葉子・安留有紀・高谷千枝・鈴木美江・出原直美 瓜生和子
	コスモ石油・堺	佐藤　辰宣	楠戸　春則	竹内　雅洋 妻木　久明	○佐藤智子・岡崎和代・竹下有貴・下川英里・岸田泰子・宮本　恵 野田千恵・徳岡泰子
	大和銀行	桂　芳樹	桂　芳樹	千田　朗子	○千田朗子・福田真弓・山本葉子・永原裕里・松本純子
	住友金属・大阪	中沢　登	梅本　彰	添田香名美	○清水智子・藤田綾子・筒井恵里・千石明代・滝田美佳・篠原　咲
	塩野義製薬	本摩　恒利	北川　忠雄	玉木　芳雄 幸野　薫	○金田和枝・川畑ゆみ子・伊東聖子・岩谷嘉子・上川床智子 大塚悦子
兵庫	三菱電機・伊丹	大沼　昭栄	矢賀　雅人	松本　泰典 久保田美可	○井上　香・鬼塚知美・森川和枝・久保田美可・鬼束明美・秋山紫峰
	関西熱化学	大塚　英博	平川　靖信	松田　泰宣 平川　靖信	○太巻朋子・吉田　恵・秋岡純子・松田佐輝子
	三菱重工・神戸	松本　俊英	瀬川　欽也	四ツ谷　誠	○前山　愛・和田智恵・吉岡実希・伊野家麻美・田中和子
和歌山	住友金属・和歌山	山下　良一	川村　桂司	津川　豊英 福島　一正	○尾崎由実・下地三和子・川口陽子・島田栄美・石崎静香
鳥取	三洋電機・鳥取	鷲見　育亮	伊藤　和彦	福田麻寿美 山本　美幸	○福田麻寿美・門脇あゆみ・曽我典子・門脇あゆみ・西木ちひろ 田中真由美
	山陰合同銀行	本生　安英	勝部　賢治	作野　美応	○足達和泉・古閑迫美香・坂本佳寿子・渕上幸代
岡山	まつもとコーポレーション	朝霧　晴夫	朝霧　晴夫	土肥まり子	○佐藤由香・住矢美幸・宮本順子・土肥まり子・安原久恵
香川	高松琴平電鉄	千田　穣一	小西　太	東条フミ子 熊野　泰士	○東条フミ子・古田幸代・北山理恵・入金ゆみ子・村尾佳美 三徳香代子
	百十四銀行	村井　浩	亀谷　幸生	山田比呂志 中川　育子	○古田真由美・本井美紀・富田美津枝・山下真奈美・村瀬安代 中西明子・谷岡園子・中園恵子
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　裁美	徐　允榮 手島　靖絵	○田頭美奈子・川添美奈・佐藤由美・時任美紀・渡辺順子・片岡道子 福嶋さつき・金　正子
熊本	ＮＥＣ九州	橋口　廣則	坂本　正	宮本　幸弘	○田畑美香・上田純子・中原敬子・中尾浩実・林　美希・甲斐美和 石橋律子・和田めぐみ
富山	三協アルミ	井村　修	河合　昭博	吉岡　英樹 山下　美香	○佐々木　忍・沢田百合・老田一恵・山崎美紀・野々村美春 水本みか・坂田美佐・渡辺真由美
	不二越	田島　一正	畑　栄進	平井　保光 若島真由美	○若島真由美・作田美絵・矢合真由美・田辺佐依
	ＹＫＫ富山	森　徳男		平野　敏春	○稲沢佳織・森　徳子・松本めぐみ・松下千秋・紙屋貴子・石田陽子

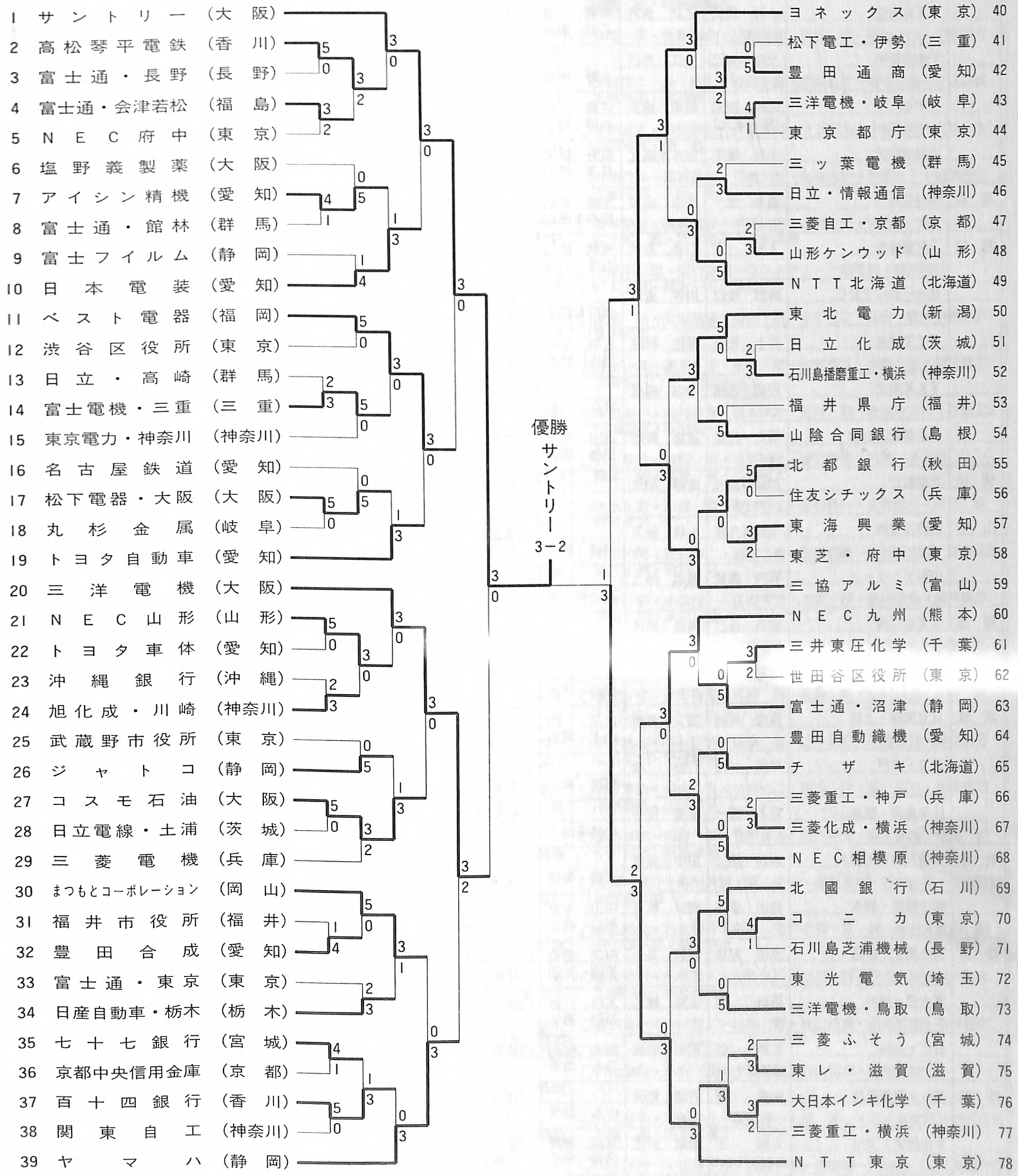
第44回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1994年(平成6年)6月15～19日
開 催 地：福岡県福岡市
会　　場：福岡市立南体育館、
福岡市立博多体育館、
福岡市立中央体育館

■男子団体の部



■女子団体の部


1 サントリー（大阪）
2 高松琴平電鉄（香川）
3 富士通・長野（長野）
4 富士通・会津若松（福島）
5 NEC府中（東京）
6 塩野義製薬（大阪）
7 アイシン精機（愛知）
8 富士通・館林（群馬）
9 富士フイルム（静岡）
10 日本電装（愛知）
11 ベスト電器（福岡）
12 渋谷区役所（東京）
13 日立・高崎（群馬）
14 富士電機・三重（三重）
15 東京電力・神奈川（神奈川）
16 名古屋鉄道（愛知）
17 松下電器・大阪（大阪）
18 丸杉金属（岐阜）
19 トヨタ自動車（愛知）
20 三洋電機（大阪）
21 NEC山形（山形）
22 トヨタ車体（愛知）
23 沖縄銀行（沖縄）
24 旭化成・川崎（神奈川）
25 武蔵野市役所（東京）
26 ジャトコ（静岡）
27 コスモ石油（大阪）
28 日立電線・土浦（茨城）
29 三菱電機（兵庫）
30 まつもとコーポレーション（岡山）
31 福井市役所（福井）
32 豊田合成（愛知）
33 富士通・東京（東京）
34 日産自動車・栃木（栃木）
35 七十七銀行（宮城）
36 京都中央信用金庫（京都）
37 百十四銀行（香川）
38 関東自工（神奈川）
39 ヤマハ（静岡）
優勝
サントリー
3−2
40 ヨネックス（東京）
41 松下電工・伊勢（三重）
42 豊田通商（愛知）
43 三洋電機・岐阜（岐阜）
44 東京都庁（東京）
45 三ッ葉電機（群馬）
46 日立・情報通信（神奈川）
47 三菱自工・京都（京都）
48 山形ケンウッド（山形）
49 NTT北海道（北海道）
50 東北電力（新潟）
51 日立化成（茨城）
52 石川島播磨重工・横浜（神奈川）
53 福井県庁（福井）
54 山陰合同銀行（島根）
55 北都銀行（秋田）
56 住友シチックス（兵庫）
57 東海興業（愛知）
58 東芝・府中（東京）
59 三協アルミ（富山）
60 NEC九州（熊本）
61 三井東圧化学（千葉）
62 世田谷区役所（東京）
63 富士通・沼津（静岡）
64 豊田自動織機（愛知）
65 チザキ（北海道）
66 三菱重工・神戸（兵庫）
67 三菱化成・横浜（神奈川）
68 NEC相模原（神奈川）
69 北國銀行（石川）
70 コニカ（東京）
71 石川島芝浦機械（長野）
72 東光電気（埼玉）
73 三洋電機・鳥取（鳥取）
74 三菱ふそう（宮城）
75 東レ・滋賀（滋賀）
76 大日本インキ化学（千葉）
77 三菱重工・横浜（神奈川）
78 NTT東京（東京）

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	部長 副部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	牧野　哲也 (木村敏男)	伊藤　雅弘	角谷　淳一 臼井　展子	○工藤忠和・古川英樹・星　拓磨・伊藤雅弘・村井秀樹・佐藤嘉伸 角谷淳一
	札幌市役所	西村　哲夫	中平　正幸	野川　豊 渋井　敏紀	○高崎厚生・市川幸典・宮嶋延光・渋井敏紀・田辺道郎・萩原利雄 中村義則・中平正幸
	ＪＲ北海道	小林　徳宏	乙武　重丸	高橋　進 乙武　重丸	○松村徳市・郷路一郎・米田紀興・田口英史・高橋　進・馬木貴之 高嶋　進・乙武重丸
	千歳市役所	大江　晃己	大江　晃己	大野　明男	○奥山則雄・大野明男・森井　茂・大江晃己・但馬信郎・伊藤隆宏
	チザキ	岩崎　昭郎 (中村富光)	板東　康夫	佐藤　信 高橋　雅子	○林　秀行・高本邦博・平山智広・佐藤　信・鈴木健士・板東康夫
	小樽市役所	小坂　康平	佐々木尚文	高野　幹男 目黒　清則	○徳満康浩・工藤俊幸・東田朋巳・高野幹男・藤川歳之・木村清仁 阿部幸夫・目黒清則
青森	中村弘前	鈴木　俊一	市川　功司	加藤　正嗣 佐々木徳也	○加藤幸光・蒔苗　亮・加藤正嗣・対馬博樹・由町匠史・坂本　純 対馬巨樹・市川功司
宮城	ＪＲ東日本	上田　宏	石井　右示	曳地　由和 石井　右示	○石井右示・曳地由和・渡辺孝秀・中村　徹・木村　宏
	ソニー仙台ＴＥＣ	岡田　俊行	川井　貴幸	須田有紀子	○三浦利昭・大場岳史・上野　実・小幡　慶・川井貴幸・只野慎一 足坂真一郎
	ＮＴＴ東北	井上　和幸	原田　利雄	吉田　幸司 原田　利雄	○韮沢伸幸・寺島剛志・内村　剛・金城　勉・海老沢孝一・柴崎信之 原田利雄・柴崎直樹
	ＹＫＫ東北	押切　吉基	中塩　房雄	富久　晃	○中村弘康・佐藤文彦・岩渕章洋・板橋　悟・太田　淳・富久　晃 中塩房雄
	日本製紙・石巻	福永　行雄	遠藤　節郎	須田　幸夫 伊藤　康志	○佐藤光彦・伊藤康志・鈴木　淳・佐藤　晃・鈴木真吉・沼田　学 鈴木勝也
秋田	北都銀行	加賀谷武夫	斎藤　和憲		○魚谷啓法・片桐英二・青柳壮彦・鈴木理之・高橋仁司
山形	鶴岡市役所	中鉢喜八郎	小林　保夫	難波　初子	○真田昭良・丸山勝美・小林　学・庄司栄一・秋庭一生・阿達和夫 清野　健・長谷川吉庄
	山形ケンウッド	竹内　昌燎	鈴木　伸二	五十嵐　裕	○佐藤一永・中川敬彦・神保一寿・五十嵐　裕・本間真也・近藤洋二
福島	リズム工機	成田　保己	島影　盛継	高橋　裕一	○島影盛継・山口善胤・関本正義・桑原伸一・星　芳弘・高橋裕一
	富士通・会津	塚越　厚生	寺田　繁	渡辺　正光 渡辺　正光	○西潟昌利・本多克博・佐藤勝司・長谷川淳哉・星　徹・藤田幸一 五十嵐敏幸・寺田　繁
茨城	日立電線・土浦	森合　英純	高安　英樹	江原　均 山下　琢治	○高安英樹・柴沼良美・小島博史・山下琢治・佐藤克己・鈴木利男 湯原義暁・染谷政宏
	日立・水戸	早川　博	菅野　孝	梅室　真二	○菅野政明・大塚　正・篠崎和弥・早川　博・梅室真二・結束雄二 菅野　孝
	住友金属・鹿島	鈴木　秀一	板垣　竜平	小林美郁子	○板垣龍平・小林靖敏・鈴木貴志・豊島　賢・梅沢和則・奥田重孝 小島康裕・大木利浩
栃木	日産自動車・栃木	吉村　達三	田中　英男	大森　美穂	○大八木　正・入江正夫・鈴木　譲・中川伸一・笠井孝之・入江久夫 比護　剛
	松下電器・栃木	権田　彰男	岡室　利彦	中山　年史 谷口　尚久	○松本　誠・加藤正幸・野口敬洋・山口昌彦・黒須昌芳・小篠政和 大山功治・岡屋利彦
群馬	富士重工・群馬	水出　紀雄	渡辺　晃一	中居　功治 尾園　正和	○竹内康夫・尾園正和・太田真敏・花田伸一・丸山清春・斉藤　宏 横嶋泰彦・成田英司
	富士通・館林	恩田　聖	安藤　修二	木村　博 石戸　恵子	○横山　稔・石戸広昭・松元功一・木村　博・門脇宗人・橋本龍児
	日立・高崎	佐藤　弘	別所　明雄	梅本　恒紀 八木　清美	○飯野博英・石川栄寿・菅野浩行・木村誠弘・安藤則夫・鹿沼重雄 北爪　彰
埼玉	アース産業開発	中橋　優	谷澤　和美	山本　常男	○高橋　昭・正岡　真・江原一彦・黒沢弘志・谷澤和美・中野　明 橋本拓也・中橋　優
	本田技研・狭山	大橋　正	松原　裕史	宮越　通康 深谷　幸子	○正木和久・堀越　勉・岡崎次郎・宮越通康・熊澤好夫・藤田茂樹 今野直人
	東京電力・埼玉	鈴木　英昭	中島　章	内田　真弘 久米原多恵子	○持田千彰・五十嵐良輔・菅家一浩・松本由起夫・高橋光年 横溝　徹・松村典昭・川瀬光洋

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
千葉	我孫子市役所	関口　浩紀	岡　信幸	岡本　伸一 竹村のぞみ	○関口浩紀・坂巻弘一・中西直樹・広瀬一弘・磯岡光夫・飯田秀勝 三宅智之・小林　修
	コスモＭＰＣ	西尾　元佑	田中　政剛	瀧本　和大 前田　益孝	○伊藤晃一・佐藤一男・高木篤志・米澤　仁・瀧本和大・鈴木博之 谷野公昭・鈴木雅志
	新日鐵・君津	田中　徹	吉田　寛	阿部　哲夫 穂坂　達也	○宮崎雅浩・阿部哲夫・宮田秀人・岡　良則・吉田　寛・佐藤明海 佐藤　勉・穂坂達也
	三井東圧化学	榊原　崇夫	斉藤　忠	貝塚　隆喜	○島田　孝・今井保夫・貝塚隆喜・斉藤　忠・近田一幸・平野博史
東京	ＮＴＴ東京	池田　信孝	尾崎　幹雄	高田　次郎	○松野修二・宮　康二・町田文彦・須賀隆宏・柳谷辰哉・江藤裕樹 高橋英治・渡辺清一
	日本ユニシス	中村　明彦	阿部　秀夫	徐　彪 山崎　慎	○峯岸康史・中川敏治・大屋貴司・大谷知昌・中條起希・石井　隆 山田秀樹・徐　彪
	ヨネックス	土田　隆	丹藤　勇一	青山　正伸	○阿部浩志・高橋賢治・石橋　隆・江連忠雄・丹藤勇一・福田和浩 斉藤佳晴・土田　隆
	足立区役所	馬場　猛夫	馬場　猛夫	久保井秀夫 鈴木　博善	○鵜澤敏信・笹林義春・長門忠雄・梅野光一・大和田　勉 佐々木　拓・宮本道雄・青木勇児
	旭工芸	佐々木憲一	山口　安則	佐々木孝二 神谷　敏幸	○中津不二雄・山口安則・佐々木孝二・大塚竜義・横田和博 村上　勝・井上一夫・神谷敏幸
	東京都庁	島田　稔	島田　稔	島田　稔 多田　信之	○後藤　勝・大原政義・高田　浩・多田信之・島田　稔・小林賢治 黒田祥之
	東京トヨペット		入間　秀哲	大瀬　久司 大瀬　久司	○鈴木一成・渡辺　孝・藤森　隆・入間秀哲・小塩　信・稲村善之 大瀬久司
	東京郵政	古明地正邦	多田　晃一	佐藤　宏之 大橋喜久夫	○永田伸一・木村克宣・松本尚之・田村　収・古明地正邦・佐藤宏之 醍醐達也・多田晃一
	東京電力	佐藤　祥次	内田　修	吉澤　勝治	○石原泰造・厚川　勇・吉澤勝治・渡辺勝也・岩間　源 橋本　栄・高野　徹・八尋明夫
	ウインザー	山田　悠一	石川　桂治	音野　均 安田　明弘	○清水正紀・小幡　栄・安田明弘・脇坂修一・佐野雄一・杉浦　務 狩野太郎
	ウェンブレー		草島　正治	前田　吉憲	○須田和男・正田章二・前田吉憲・宮脇英雄・畴津耕太郎・清水保則 高辻正樹・宍戸　司
	コニカ	藪内　克也	内田　淳吉	小泉　俊一	○吉永　巌・小泉俊一・江連秀敏・大貫　勝・藪内克也・豊泉輝彦 野口　節・本田　誠
	ニコン	金谷富士夫	本多　修治	今泉　浩二 百瀬　智宣	○根岸光正・三上　修・菊池孝幸・百瀬智宣・宮島　実・小室　功 増子俊正・池野智久
	東芝・府中	大島　司文	坂口　千年	早坂　正志 吉野　志麻	○成田好崇・上野梅郎・近藤　浩・安藤　功・辻村昌彦・本間　誠
	航空宇宙技研	高梨　進	楯　篤志	野田　順一 戸田　宣洋	○楯　篤志・平林則明・佐藤　衛・辻井利昭・名越孝行・野口正芳 須谷記和・野村聡幸
	世田谷区役所	八頭司達郎	巖　充也	山口　英二 横山　登	○桑原雅浩・横山　登・小沼勇次・古川　洋・巖　充也・稲積康充 土屋雅章・山田昇平
	武蔵野市役所	佐藤　実	露木　保敏	菅沢　康雄	○清水藤雄・田澤　隆・菅沢康雄・田原美樹・露木保敏・佐藤　実 中川芳雄・城間政純
	ブリヂストン	青木　守	堺　栄一	佐藤　輝行	○佐藤　輝行・清川芳隆・堺　栄一・福沢康司・福沢和彦・今井茂満 田元粳次郎
神奈川	日立・通信システム	渋谷　健一	下山　隆	鰐川　朗	○杉山勝美・目良雅彦・藤井　圭・中橋一晃・岡　洋治・鰐川　朗 百上幸一郎・鈴木昭次
	関東自工	有村　洋一	高橋　清	細谷　昇 百上美和子	○奈良秀行・小枝憲久・加藤康二・田辺　哲・細谷　昇・太田清志 大橋昭人・手島耕司
	日立・情報通信	渡辺　卓美	藤田　良一	坂口　勝則 東使　悦子	○藤田良一・半田賢二・梅澤　寛・秋山昌博・馬場哲也・小野覚史
	ＮＥＣ・相模原	宮入　恒明	土田　秀紀	内山　泰則	○内山泰則・小野　武・土田秀紀・高山照彦・清原　稔
	日産自動車・追浜	阿部　利顕	上田　保夫	丸尾　訓名	○丸尾訓名・末崎良介・坂詰洋一・岸　信一・五十嵐克明・桜田豊治 石渡　潤・伊藤　選
	富士通・川崎	本郷　憲雄	青木　一夫		○和久井伸一・後藤正志・佐藤大輔・寺田健一・青木一夫・及川利行 高木康弘・増子康紀
	三菱電機・鎌倉	池田　勝彦	池田　勝彦	片山　敏 金井真智子	○片山　敏・熊谷　修・井原伸行・石井正男・古内浩二・宮崎伸也

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
神奈川	横浜市役所	坂　元彦	堺野　伸也	高山　英幸	○平　敏司・浜路　圭・川島正也・藤沢智明・一瀬浩美・村上英典 国枝英樹・斉藤英昭
新潟	新潟県庁	岡田　耕作	市村　雅之	小林　巧 後藤　真	○重山　明・小杉信広・金子信之・本保信義・島田久幸・瀬賀　功 梁川克史・金井広喜
	アイテック新潟	堀井　国雄	飯塚　芳英		○大月　実・本保越洋・頼所公司・小木将綱・飯塚芳英
長野	石川島芝浦機械	落合　達雄	奥原　祐二	矢口　啓元 塩原　由美	○丸山　宏・土屋　渡・五味昭一・吉野泰正・清水　潔・奥原祐二
	富士通・長野	萩原　正孝	丸山　隆	鎌田　正幸 高山　卓子	○上原克士・出川輝義・戸谷正人・岩下直也・鎌田正幸・酒井正彦 丸山和宏・丸山　隆
富山	トナミ運輸	安達　達明	堺　三徳	今泉　勉 荒木　純	○濱北和彦・岩渕公一・吉田直樹・三浦　修・気谷篤人・大堀　均 本山秀昭・紺谷幸一
	日本製紙・伏木	高須賀恒夫	蔵野　耕治	林　清和	○山本　潤・林　清和・加須栄隆治・車　祥幸・中嶋正男・谷口孝志 山田佳史・蔵野耕治
	三晶技研	浅井　秀一	吉森　勝之	飛弾　是博 湯上　佳和	○湯上佳和・辻口真人・野村智紀・毛利智成・沢田淳悦・坂井克有 吉森勝之・堀　正人
	富山トヨタ自動車	田形　昌敏	山崎　光明	山崎　光明	○谷口宗徳・三ッ塚紀世彦・清水勝弘・山崎光明・松田高幸 柿沢方之・平井　仁
	立山アルミ工業	内田小五郎	竹内　松芳	加須栄洋之	○竹内松芳・高井俊昭・広瀬　勝・石田常雄・加須栄洋之・橋場勝則 木下泰延
石川	北國銀行	大門　重樹	岡部　憲昌	長谷川　進 岡部　憲昌	○崎田健一・山本明彦・武田　修・羽田義仁・西島弘幸・藤島誠孝 小池田基
	ＮＴＴ北陸	中川　裕	浜谷　安裕	浜谷　安裕 加端希弘子	○谷島助男・佐々木正良・森田　均・山尾克則・宮本勝裕・宮本照啓 坂井外喜男・東　隆裕
	金沢市役所	源田　久男	太村　一信	山形　博 村田　孝子	○永井俊宏・田村　稔・内田雄士・山口正樹・毛利達彦・庄田秀実 杉原秀俊・林　芳広
	福島印刷	横田　貞昭	加藤　一弥	竹村　晴夫 荒木　裕	○橋本哲也・大塚貴康・綾瀬寛隆・林　剛・山口英晃・柴田雄次 松原宏明・青山大吾
	津田駒工業	鍋嶋　範雄	安江　勉	広村　繁	○広村　繁・小川裕之・高野敏雄・二口吉邦・奥本正博・山越文彦 金谷敏夫・安江　勉
福井	北陸電力・福井	萩原　盛衛	角　五三男	野路　健一 前田　初志	○高野一男・金川克行・高石昌利・文殊四郎裕一・前田初志 角野真一・藤尾裕一・江畑将享
	福井市役所	嶋田　伸行	宮原　一	野坂美由紀	○南京良幸・宮原　一・高橋　譲・武澤政彰・山本敏彦・西行　裕 山本光紀
岐阜	丸杉金属興業	杉山　忠国	戸崎　守雄	清水　美香	○北島祐司・大塚洋和・井谷義和・鈴木菊夫・今井　努・戸崎守雄
	三洋電機・岐阜	上口　敦弘	片野　吉郎	松浦　竹典 得能　稔	○得能　稔・藤本高義・尾関　肇・松浦竹典・樋口剛司・野田　勇
静岡	ジャトコ	小野　和明	後藤　和之	石川　直美	○坂上隆広・渡辺高博・中島信頼・川島直樹・若松　誠・吉野智昭 高島智之・藪内憲和
	富士フィルム	滝　正孝	池田　光宏	井出　裕雄	○武井弘征・中村繁幸・池田光宏・西島知彦・小野里朋之・佐野英利 高橋哲也・井出勝弘
愛知	豊田工業	佐伯外與昭	峰　登志郎	土田　信也 峰　登志郎	○石井裕二・野呂　徹・石田　満・川島一剛・峰　登志郎・東　正也 田村勝久・平塚輝夫
	東海興業	木村　勝昭	早川　満志	柳田　順一 平尾　昌也	○吉田　努・大竹達裕・酒井良之・河合信一郎・角藤利明・安井憲司 柳　孝三・石田　猛
	豊田自動織機	上原　信彦	岩渕　信司	小林　誠 鈴木　規弘	○松本　周・山田孝幸・神山紀雄・野口　忍・岩渕信司・佐藤崇裕 知念幸治・緒方信也
	アイシン精機	仲　啓介	飯見　隆治	武部美保子	○大月善巳・新實弘崇・北里憲之・飯見隆治・内田昌行・菊池　勲 吾妻扇太郎・中根龍也
	トヨタ自動車	長谷川敏彦	山本　秀樹	鈴村　雅弘	○福田昭典・滝田　智・仙田　肇・植村武司・古賀勝志・城木夢高 橋本宗士・鈴村雅弘
	新日鐵・名古屋	二杁　幸夫	山本　卓男	佐々木秀一 内田　公明	○案部博史・坪井英之・上枝　伸・小畠知也・納所久夫・田畑泰俊 宮下一紀・中山知幸
	名古屋鉄道	速水　正昭	井上　龍	斉藤敬一郎	○鬼頭幸裕・林　久男・川嶋清和・田中正博・井上　龍・斉藤敬一郎 森下貴人・酒井高則
	トヨタ車体	三品　康雄	米沢　強	上村登美代	○斉藤勝明・玉田孝治・小林安司・森　美尚・後藤吉広・木村拓哉 鍋割英雄・片岡裕志

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
三重	日本電装	土方　良守	片岡　泰	中川　健	○山内一志・磯部昌弘・宇野忠男・片岡　泰・中川　健・吉田義利 百丸祐輝
	伊勢市役所	松岡　信	松岡　信	松岡　信 松岡　信	○松岡　信・大西善浩・筒井俊夫・永田密山・丸山　光・沖塚孝久 東　健治・杉坂行茂
	富士電機・三重	山口　香	藤本　規夫	佐藤　滋晃	○水谷俊雄・糀谷清史・藤本規夫・大谷敏広・佐藤滋晃・橋本貴仁 小林英毅・中村匡成
	松下電子部品・松阪	横畠　源伸	森本　博幸	酒徳　一利 高尾まり子	○橋爪孝文・森本博幸・梅村一雄・福田敏伸・村木康之 酒徳一利・中川祥一
	中部電力・三重	西脇　善清	杉野　武	吉沢　信男	○奥野　浩・小堀一次・坂井敏也・小野安明・川合　順・吉沢信男 島田正道・伊藤孝志
	コスモ石油	足立　公	福田伊佐治	水谷　尚代	○荒木良之・永坂昌信・奥田耕治・谷口嘉飛普・川戸真也・東　孝一 中川義明
滋賀	東レ・滋賀	後藤　晴司	古川　正行	細野　博	○吉居　秀・中川　康・大西　勘・岡田耕作・高谷直樹
	松下電器・滋賀	吉田　則夫	斉藤　光治	松澤　正和 今在家幸子	○西井伸之・広岡良則・寺田篤典・中居清行・石田佳史・中島幸夫 奥田淳司・田中一大
京都	三菱自工・京都	三宅　巧	張間　裕史	福井　達雄 曽宮　鋭展	○広瀬　敬・三澤哲也・佐々木正司・西村　功・寺尾　豊・中村広志 仙石武士・北橋周作
	島津製作所	山本　紘史	西村　睦喜	井上　昇	○平岡秀介・斉藤清代巳・戸田浩之・西村睦喜・浦谷孝信・山田航也 飛川一茂・井上　昇
	日新電機	上田　政行	本田　修士	高田　弘	○井上晃志・山中秀樹・川崎俊正・梶村和成・本田修士・宮林幸正 橘　栄作・村尾正好
	京都府庁	茂木孝二郎	遠藤　和美	高橋　清治 高橋　正治	○遠藤和美・三木良行，中井哲弘・松田邦彦・茂木孝二郎・笹井剛満 高橋正治・山本　明
	松下電子部品・京都	福留　忠顕	久保　正人	山本　朋子	○山岸武泰・瀬尾賢次・矢田昌規・寺田正文・太田智一郎・谷本和宏 金光泰男・柴田　悟
大阪	ＮＴＴ関西	野々市谷健	松井　峰生	松田　英男 片山　龍作	○村山友二・今東　建・大谷誠二・植村昭彦・辻田泰昌・早戸敬雄 今井彰宏・渡辺哲義
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	宮崎　庄一	勝川　道和	○中角好男・山口昭彦・常山兼二・大川原暁夫・山川正一・長谷浩道 常山兼二・山崎雅也
	塩野義製薬	本摩　恒利	玉木　芳雄	北川　忠雄 長井　正彦	○佐藤彰彦・幸野　薫・吉野秀男・竹内寿和・中島弘司・玉木芳雄
	光洋精工	松村　善朝	高岡茂八郎	植田　勉 山崎　智司	○蓮井茂伸・安達　謙・永見充康・中田耕司・立亀正平・山崎智司 植田　勉・高岡茂八郎
	大阪ガス	吉里　文雄	北野　公男	西野　幸雄 園部　一彦	○早水栄治・田中真平・大井貴夫・高島和秀・槙納　正・園部一彦 福井裕之・弘瀬一生
	松下電子工業	山本　貞夫	仲田　康英	秋谷　利幸	○命苫清雄・小山　顕・馬場康行・安宅稔和・国信建臣・福井武司 弥栄裕之・松尾和尋
	阪急電鉄	小野　俊雄	下野　治生	中井　賢一	○大野孝二・中村　昇・椎屋美津生・下野治生・蔵本英二・佐藤俊哉 高島昭秀
兵庫	住友シチックス	太田　年幸	南野　浩	岡本　英子	○藤原光雄・井上　信・小川貴史・南野　浩・小田清二
	新明和工業・宝塚	大浦　泰	平　昌一	西倉　金作 吉田　紀子	○岡田勝美・吉岡英二・小田康仁・平　昌一・市岡大輔
	三菱重工・神戸	松本　俊英	瀬川　欽也	四ツ谷　誠	○大橋　功・房田憲児・平井大三・三宅恒久・村上郁夫・平川克彦 佐野　享
	新日鐵・広畑	勝山　憲夫	塩飽　初	平松　重吉 泉　吉弘	○広岡輝男・柴　靖規・宮原　通・曽我部博光・山磨和弘・塩飽　初 平松重吉・生柄　良
	三菱電機・神戸	佐々木利彦	池淵　順一	三宅慎太郎 小屋松明巳	○植川敏弘・池淵順一・五島崇勝・山路優一・三宅慎太郎・岡本芳和 藤井大輔・中居孝廣
	大和製衡	滝口　良一	山本　勝	藤本　純一	○木田英明・藤本純一・五十嵐　勝・山本　勝・黒田真孝・上田圭顕
和歌山	住友金属・和歌山	岡沢　亨	北山　洋二	福島　一正	○児嶋　浩・梅林信幸・乳井重雄・北山洋二・西山祥一・北川　康
鳥取	三洋電機・鳥取	鷲見　育亮	小谷　清史	山本　明良 森木　文代	○小谷清史・田渕光章・伊藤和彦・石丸直人・山本明良・亀谷雅之 門脇寛文
岡山	川崎製鉄・水島	中島　一磨	中山　睦雄	三村　勇人	○三村勇人・中山睦雄・垣見一俊・長谷和邦・藤原道弘・片岡洋一 中山博人・田中　薫

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名 (○印は主将)
岡山	川鉄鉄構	泉川 真一	野田 修嗣		○石本一豊・吉田正輝・田中 学・三好研二・岩田章秀・野田修嗣
	三井造船・玉野	日下 光	山本 清	松岡 純子	○若林邦任・大倉達也・仁井昌志・山本 清・三辻邦章・田丸勝巳
広島	海洋電子・広島	松崎 一夫	橋本 宏	末岡 義昭 山本 孝典	○内山昌弘・日川和彦・曽我井貴文・加上孝博・住岡照行・末岡義昭 川田輝夫・森山拓哉
	NKK・福山	福田 満	梅月 隆	田上 義美 佐藤 嗣隆	○原 貴・守安孝二・篠原竜也・堀江賢二郎・梅月 隆・佐藤嗣隆
	広島市役所	上川 孝明	後藤 茂	尾崎 清 中村 克司	○山領 篤・尾崎 清・大下慎一・藤田康二・山本克司・佐々木和義 中村克司・林 哲也
山口	宇部興産	山切 睦彦	末廣 秀樹	髙田美穂子	○沖 貞雄・吉川直樹・安田耕司・末廣秀樹
	日本製紙・岩国	大和田哲夫	高橋 良明	林 厚志 貴船 博巳	○高橋和也・村上弘明・室井伸夫・中山 整・高橋良明・森本孝敏 柳 宏幸・千同英治
香川	タダノ	帯包 泰博	吉田 一人	加藤 建義 奥田 貴士	○田中純一・福家正登・佃 和也・加藤建義・中村 亨・奥田貴士 吉田一人・糸瀬智成
	香川県庁	真鍋 剛	弾正原義春	岡下 俊次 生西妙歌子	○岡 道祐・岡下俊付・谷本竹司・豊島正人・弾正原義春・香川正樹 大山彰広・西尾修治
長崎	三菱電機・長崎	江口 忠道	小林 正昭	川久保暢宏 久保 真一	○山口信雄・高月俊光・小林正昭・久保真一・松山 清・森山良一 川久保暢宏・本山隆幸
	三菱重工・長崎造船所	喜多 昭夫	田中 貞夫	田中 賢介	○溝上敦夫・竹永 学・三根 哲・今積英樹・江坂敏郎・中野和雄 岡田芳彦・馬場寿宏
	日本ピソー		高比良達成	平 朱美	○下釜紀幸・長浦正義・三浦久利・井上光法・古川勝也・井上一法
	YKK・九州	長谷川泰志	石黒之武久		○村中陽介・霜上和宏・古井博高・穴井 聡・田上厚志・花田政文 井上貴浩
福岡	ベスト電器	坂田 雄二	森 栽美	沙 海平 原 眞由美	○許 斌・石井正行・水島浩一・横澤良平・石田隆之・藤原瑛佳 松浦二郎・沙 海平
	西日本銀行	釜 洋輝	西本 浩一	西本 浩一 西本 浩一	○佐田 聡・宮崎 剛・城戸康徳・里 英俊・中村正巳・古賀義紀 高井博久
	福岡シティ銀行	江口 俊彦	南 孝治		○南 孝治・平井宏樹・江口俊彦・久住 猛・竹井洋志
	北九州市役所	渕上 英紀	池田 智彦	奥田 哲朗 和田 将洋	○有田仁志・城平 浩・水口明彦・勝部龍平・堂山 武・福井良介 大森隆行・田代健治
	福岡市役所	岡 節郎	彌永 高則	彌永 高則	○江田健三・中牟田良博・佐藤 浩・重松克利・彌永高則 久保田和広

（女子の部）

県名	事業所名	部長（副部長）	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	牧野　哲也（木村敏男）	伊藤　雅弘	日景　真弓 臼井　展子	○小笠原　満・土屋留美子・武田明美・臼井展子・田中範子 佐藤京子・日景真弓
	チサキ	岩崎　昭郎（中村富光）	板東　康夫	佐藤　信 髙橋　雅子	○髙橋雅子・尾関知子・岩崎美香・八角亜紀・林　夕起子 日原恵美里・梶原夕子・島本知美
宮城	宮城三菱ふそう	三橋　英雄	髙橋　正男	平塚　宣宏	○佐藤幸恵・中條由紀・佐々香織・須田有紀子・大友智恵 森　美恵子
	七十七銀行	髙橋　祥允	髙橋　祥允	須藤　肇 鈴木　裕之	○黒澤晃子・榛沢恵美・山崎志乃・星　美和子・佐藤敏美・藤本和子
秋田	北都銀行	加賀谷武夫	斎藤　永吉	永沢　真澄	○嵯峨やよい・今野真理・永沢真澄・笹村靖子・佐々木妙子
山形	ＮＥＣ山形	山口　文雄	大場　和博		○近藤美知子・鹿野今日子・中山万由美・秋場奈美・片山美希 隈部友紀子
	山形ケンウッド	竹内　昌燎	鈴木　伸二	佐藤　由美	○山科則枝・五十嵐珠美・斎藤洋子・末原　朱・菊池志保 斎藤麻理子・本間みか・佐藤由美
福島	富士通・会津	塚越　厚生	清野　徹也	渡辺　正光 渡辺　正光	○大関美和子・五百川栄子・森　昭衣・宇南山　恵・本田幸知 福田佳織
茨城	日立化成	水野　裕	岩田　輝彦	岩田　輝彦 三浦　哲	○髙野美子・国府田みゆき・桜井己枝子・大久保典江・戸田美由紀 石嶋礼子
	日立電線・土浦	森合　英純	髙安　英樹	江原　均 矢口　純子	○富田久美子・三留久美・深作照恵・矢口純子・園部ひろみ
栃木	日産自動車・栃木	吉村　達三	田中　英男	大森　美穂	○影山伊美・大森美穂・鶴見よし子・青柳真由美
群馬	三ッ葉電機製作所	面川　富	小林　隆康	藤岡美智子 島田　正志	○藤岡美智子・大澤芳美・松本弘子・塚越恵子・石川治代
	富士通・館林	恩田　聖	石戸　広昭	木村　博 石戸　恵子	○茂木利恵・倉上真由美・中島美智子・新井純子・八木ひとみ 石戸恵子
	日立・高崎	佐藤　弘	別所　明雄	鹿沼　重雄 飯野　博英	○髙橋里枝・原田紀子・大澤ゆかり・高瀬晴美・八木清美
埼玉	東光電気	内田　隆司	慶野　文敏	伊原　喜則 小形　紀彦	○大熊信枝・小倉道子・町田久美子・相澤香代子・関根由紀子
千葉	大日本インキ	河野　芳成	蓮見　直子	小柳　博 蓮見　直子	○佐藤千春・西浦康予・蓮見直子・嶋崎禎子・御簾納直美
	三井東圧化学	榊原　崇人	川嶋　伸広	貝塚　隆喜	○矢島美智子・飛留間久美・三原はるか・斉藤規子・藤田裕子
東京	ＮＴＴ東京	池田　信孝	田児よし子	高田　次郎	○松尾知美・立花久枝・道上彰子・田児よし子・岡山登紀子 阪本雅子
	ヨネックス	吉本　貞夫	栂野尾昌一	范　明 後藤さゆり	○田村富士美・岩田良子・後藤さゆり・捧　匡子・小野寺恵美子 石井知恵美
	東京都庁	島田　稔	島田　稔	大原　政義 多田　信之	○重松まゆみ・田倉テイ子・杉谷真里・野嶽　愛・笹林朋子 壁谷政義・佐藤澄世
	コニカ	薮内　克也	木川　就二	小泉　俊一	○吉永亜矢子・渡辺久美子・小塩和子・鈴木克枝
	東芝・府中	大島　司文	坂口　千年	早坂　正志 吉野　志麻	○佐藤栄子・武田美奈・吉野志麻・上野裕子・小川広子
	富士通・東京	柳澤　勉	木村　均	田嶋　正一 渡辺　文明	○宇梶起史子・石森千恵子・丸山小百合・福石真弓・長谷川起世子 実田優子・岸野和代
	ＮＥＣ・府中	岡田　昌義	真田洋太郎	久保田真一 松田富美子	○松田富美子・荒岡知佳子・林　邦子・木下奈美
	世田谷区役所	安田　正貴	岩倉　博	我妻　修 杉中　寛之	○横山美佳・鎌田有花・山本展子・石川真由美・多田育子
	渋谷区役所	近岡　昭	松本　昭子	遠山　敏幸 島田　正好	○吉野遊子・小沢直子・吉本葉子・遠山由貴江・関　恵子・廣瀬富江
	武蔵野市役所	佐藤　実	露木　保敏	田澤　隆 鈴木　礼子	○伊東みよ子・鈴木礼子・西谷智子・中田有紀・湊　啓子・菊池　泉 宗形京子
神奈川	ＮＥＣ相模原	石井喜三郎	中野　政雄	中家　友彦	○田中久美子・物井あゆみ・安藤昌子・工藤理絵・若林清香 加賀ゆかり・長谷川貴子・大坪麻衣子

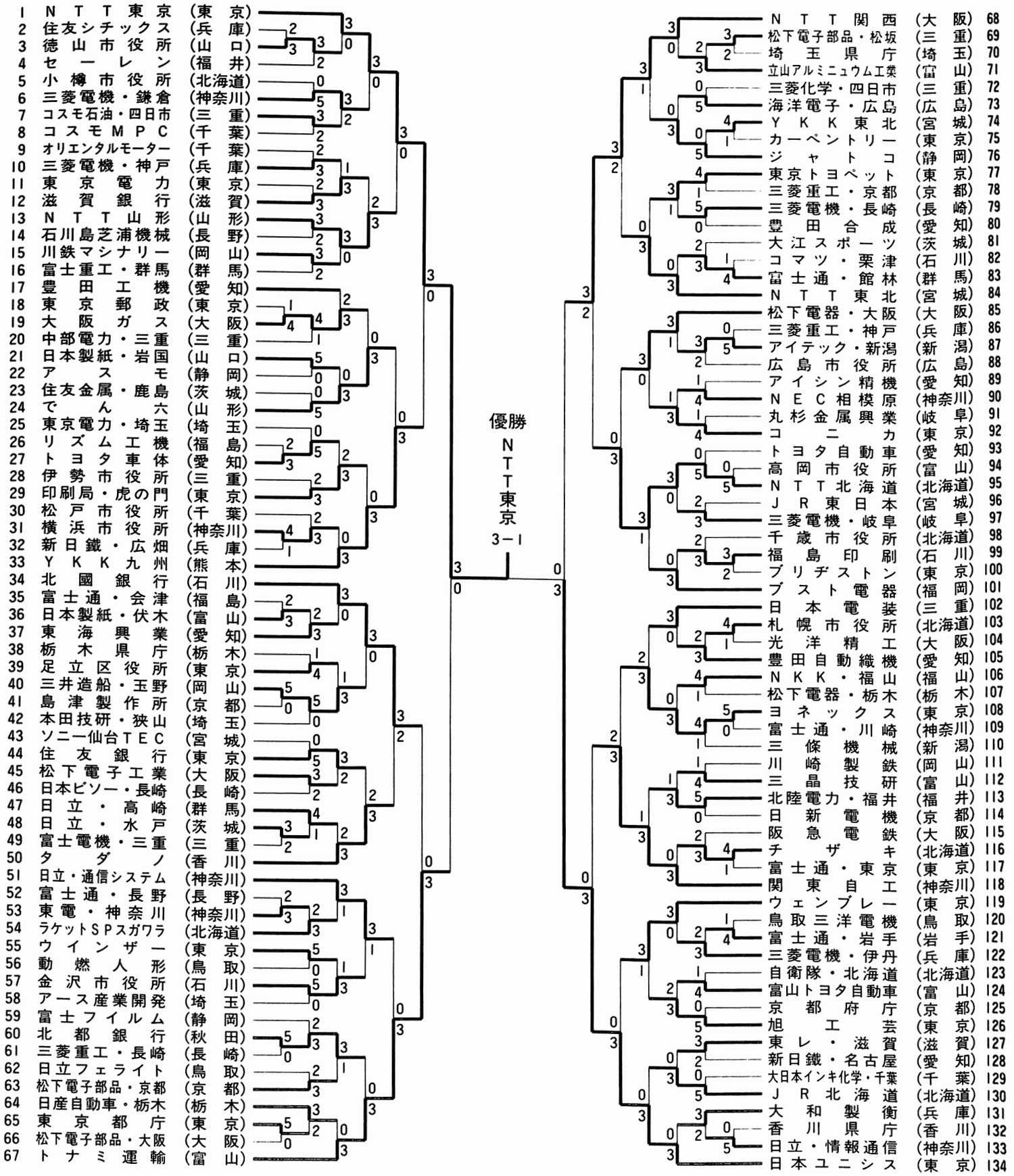
県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
神奈川	旭化成・川崎	岩田　幸夫	冨田　信昭	冨田　信昭 皆川　英理	○寺田ゆかり・畔田友紀子・義間貴子・猪狩由紀子・皆川英理 椛島美紀・境　亜紀子・渡辺むつみ
	日立・情報通信	渡辺　卓美	甘粕　完治	坂口　勝則 東使　悦子	○藤原文子・東使悦子・太田久美恵・柏木淳子・池田智美
	三菱重工・横浜	鈴木　勝之	鈴木　勝之	高橋　保則 福田　昌美	○小林暁子・飯村美奈子・福田昌美・椎名律子・竹森真理子
	石川島播磨重工・横浜	村瀬　曜一	森井　泰博	永吉　知彦 山内　廣志	○伊勢川佳奈・山本美保・信平他恵子・武田佳子・成田美智子 伊集院千羽弥・加谷圭子
	東電・神奈川	手島　康博	浦辺　新治	渡部　真一 浅田　幸江	○須藤光恵・赤荻三知子・津川透子・加山由紀・浅田幸江・瀬川清子 成田あゆみ
	関東自工	有村　洋一	高橋　清	百上美和子	○大塚由架子・百上美和子・斉藤未来・森　祐子・小川真由美
	三菱化成・横浜	牛窪　孝	村山　謙二	和田　登 大貫　千恵	○富田靖子・興津　操・吉田久美子・柴原陽子・佐藤恵子・大貫千恵
新潟	東北電力	有田　浩三	有坂みち里	亀田　誠 遅沢　恵子	○船津佳子・松縄香織・矢口裕貴子・斉藤かおり・竹野景子 栗林可奈子・遠藤みゆき・住矢直美
長野	石川島芝浦機械	落合　達雄	赤羽　元春	矢口　元啓 塩原　由美	○内川啓子・白木麻美・塩原由美・岸田絵理・小嶋早織
	富士通・長野	荻原　正孝	丸山　隆	鎌田　正幸 高山　卓子	○北沢美佳・高山卓子・横山祥子・小林和美
富山	三協アルミ	北山　清志	河合　昭博	吉岡　英樹 山下　美香	○山崎美紀・坂田美佐・小泉陽子・栗栖真弓・佐々木　忍・孫　丹 小泉友紀・渡辺真由美
石川	北國銀行	大門　重樹	岡部　憲昌	羽田　義仁 岡部　憲昌	○中田裕子・山口美香・松田奈緒子・青木静香・閤田和恵・中嶋智子 下村絵理・中川紀子
福井	福井県庁	牧野　正明	加藤　和彦	小島　高志 毛利　直美	○田中妙子・松田香代子・毛利直美・中西エミ子・田中ゆかり
	福井市役所	嶋田　伸行	村井　敏晃	野坂美由紀	○南保正枝・高橋慶子・澤田佳苗・多田慧子・田中功子
岐阜	丸杉金属興業	杉山　忠国	戸崎　守雄	清水　美香	○杉山ゆう子・野垣詠子・杉山千明・熊澤真実・山内雅代 長谷川有紀・清水美香
	三洋電機・岐阜	上口　敦弘	片野　吉郎	得能　稔 得能　稔	○三田陽子・田上頼子・熊崎　綾・薫田聡子・三宅百合子
静岡	ヤマハ	富田　一	飯野　佳孝	辜　家明 山口美羽子	○平野智子・林矢須子・野中真由美・中山佐知子・山内美奈子 史　方静・二見恭子・山本静香
	富士フイルム	滝　正孝	滝　正孝	井出　裕雄	○鈴森陽子・川原崎千帆・中口有子・桜井結花里・野村友紀
	ジャトコ	小野　和明	後藤　和之	吉野　智昭 石川　直美	○石川直美・堀　ひろみ・市川美保・森　文華・加藤裕美・清　明世
	富士通・沼津	吉田　哲三	渡辺　誠	三井　栄子 伊豆沢有季子	○松本朋子・伊豆沢有季子・大塚裕子・戸田直美・勝亦朋美 榊原和美
愛知	トヨタ自動車	長谷川敏彦	菅原　敬二	川本　英明 山本　秀樹	○藤本暢子・清水由紀子・源島利恵・中出綾子・鳥居由恵 前田久美子・大串朱美
	日本電装	壁谷権一朗	福田　実		○日山智絵・青木美代子・高岡直美・矢島優子・米倉　歩 吉永圭井子
	名古屋鉄道	速水　正昭	井沢　龍	斉藤敬一郎	○水野裕子・稗田みな子・山下　新・井上奈美・上田康子 高木美恵子・柳原一葉
	豊田自動織機	上原　信彦	武田　正雄	川村　順子	○中嶋布美子・川村順子・荻野由紀子・中園文江
	トヨタ車体	三品　康雄	米沢　強	上村登美代	○砂田ひかり・河本葉子・高松加代子・椛沢とし子・竹原明日香 鈴木和泉・間瀬亜紀子・小川美紀
	アイシン精機	仲　敬助	飯見　隆治	武部美保子	○石田裕子・上田奈央子・船橋美江子・石井敦子・甲斐雅代 児玉典子
	豊田通商	西山　直文	江端　正己	西山　直文 加藤　千里	○墨　久子・彦坂知美・小林真理・葛谷実穂・加藤千里
	東海興業	木村　勝昭	田住　曜理	永井　優 菊嶋　理絵	○村瀬恵子・深谷恵美・笹嶋公子・島津智恵・大鹿美智子・大谷秀子 芳金裕美・広瀬晴恵
	豊田合成	竹内　邦嘉	野村　幸信	高田　靖彦	○藤下恭子・伊藤千枝・四方　希・小田川みゆき・大谷優子

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
三重	富士電機・三重	山口　香	藤本　規夫	佐藤　滋晃	○水谷栄里子・伊藤早苗・村上みほ・渡辺京子・村上まち 川口美保子・宮原智美
	松下電工・伊勢	元山　正徳	山本　博文		○田中　恵・吉村真紀・廣地亜紀穂・小林里美・上田友美 西山永里子・田中　恵・荒木美奈
滋賀	東レ・滋賀	後藤　晴司	野村　邦夫	細野　博	○奥村晶子・安土文代・桑名淳子・西山幸恵・山崎十志子
京都	三菱自工・京都	三宅　巧	石津　正明	築山　晴美 梶浦　由紀	○長谷年子・平中恵美・立石裕子・坂井朋子・三宅通代・椋本真澄 大倉理恵・築山晴美
	京都中央信用金庫	吉田　清隆	安永　誠	菅生　誠 矢野　暢久	○藤元美香・芝崎由美子・宮脇桂子・大崎由季代・高橋久美子
大阪	サントリー	藤田　宜紀	山本　次生	丁　其慶 佐藤千賀子	○小池由扶子・金井和恵・宮村愛子・大田貴子・廣田時子・磯崎京美 本田　望・宮村亜貴子
	三洋電機	喜多　好	銭谷　欽治	宮崎　克巳 利川　三貴	○北浦道代・冨田美保・山田裕美・中山智香子・井田貴子 田中佐妃子・村上直美・増茂孝枝
	コスモ石油・堺	佐藤　辰宣	楠戸　春則	竹内　雅洋 妻木　久明	○竹下有貴・岸田恭子・野田千恵・下川英里・宮本　恵・高塚恵美
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	山川　正一	瓜生　和子	○大谷美樹・高谷千枝・池上磨恵・出原直美・安留有紀・瓜生和子
	塩野義製薬	本摩　恒利	片山　照明	北川　忠雄 長井　正彦	○金田和枝・上川床智子・大塚悦子・早原　薫・岩谷嘉子・伊東聖子 池上雅代
兵庫	三菱電機・伊丹	佐久間秀一	矢賀　雅人	松本　泰典 森川　和枝	○鬼塚知美・鬼束明美・大村　泉・大村和代・森川和枝・秋山紫峰 長谷川美奈子
	三菱重工・神戸	松本　俊英	四ッ谷　誠	四ツ谷　誠	○前山　愛・田中和子・宇高美香・伊野家麻美・吉岡美希
	住友シチックス	太田　年幸	境　良治	岡本　英子	○渡部純子・岡本英子・中川陽子・輝尾朗子
鳥取	三洋電機・鳥取	鷲見　育亮	伊藤　和彦	上前麻寿美 森木　文代	○上前麻寿美・星川　愛・門脇めぐみ・曽我典子・門脇あゆみ 若月朋美
	山陰合同銀行	本生　安英	勝部　賢治	星野実智代 渕上　幸代	○足達和泉・坂本佳寿子・古閑迫美香・星野実智代・渕上幸代 鍬守潤子
岡山	まつもとコーポレーション	朝霧　靖夫	朝霧　晴夫	朝霧　晴夫 宮本　順子	○佐藤由香・住矢美幸・宮本順子・土肥まり子・安原久恵・神宝朝子
香川	百十四銀行	村井　浩	亀谷　幸生	山田比呂志	○村瀬安代・富田美津枝・中園恵子・谷岡園子・山下真奈美 岡　さとみ
	高松琴平電鉄	千田　穣一	小西　太	熊野　泰士 小西　太	○古田幸代・三徳香代子・東条ふみ子・村尾佳美・平野ゆかり
熊本	ＮＥＣ九州	坪倉　貴之	坂本　正	宮本　幸弘	○甲斐美和・田畑美香・中原敬子・中尾浩実・林　美希・上田純子 石橋律子・西内洋子
沖縄	沖縄銀行	永山千枝美	中地　雄高	仲里ひとみ	○永山千枝美・宮里知江・石川幸子・仲里ひとみ・金城朝野
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　裁美	徐　允榮 中本ともみ	○田頭美奈子・清水尚美・片岡道子・原　眞由美・川添美奈 渡辺順子・佐藤由美・石垣朝生

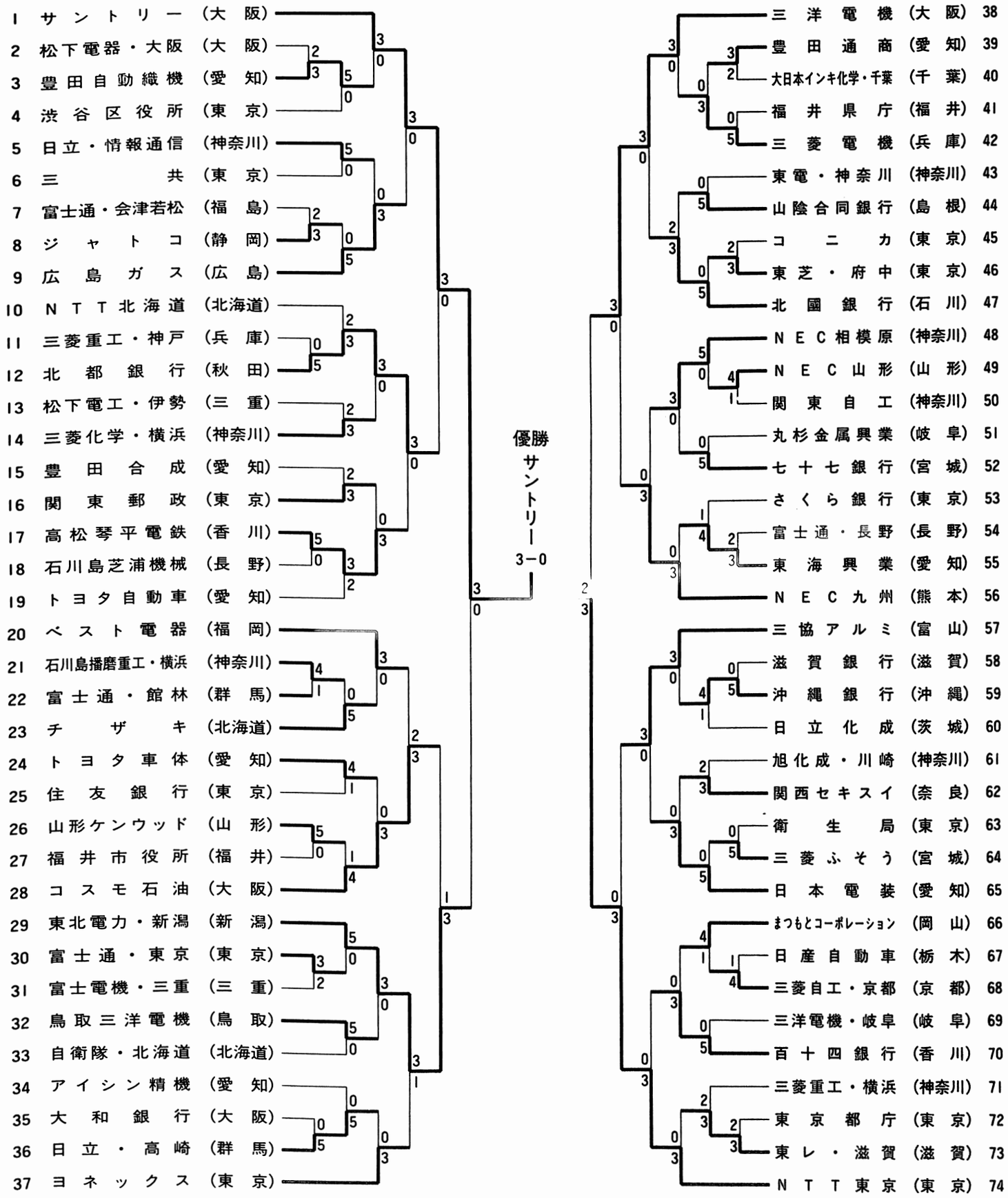
第45回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1995年(平成7年)6月21～25日
開 催 地：北海道札幌市
会　　場：札幌中島体育センター別館、
札幌市北区体育館、
札幌市豊平区体育館、
札幌市白石体育館

■男子団体の部



■女子団体の部


1 サントリー（大阪）
2 松下電器・大阪（大阪）
3 豊田自動織機（愛知）
4 渋谷区役所（東京）
5 日立・情報通信（神奈川）
6 三共（東京）
7 富士通・会津若松（福島）
8 ジャトコ（静岡）
9 広島ガス（広島）
10 NTT北海道（北海道）
11 三菱重工・神戸（兵庫）
12 北都銀行（秋田）
13 松下電工・伊勢（三重）
14 三菱化学・横浜（神奈川）
15 豊田合成（愛知）
16 関東郵政（東京）
17 高松琴平電鉄（香川）
18 石川島芝浦機械（長野）
19 トヨタ自動車（愛知）
20 ベストト電器（福岡）
21 石川島播磨重工・横浜（神奈川）
22 富士通・館林（群馬）
23 チザキ（北海道）
24 トヨタ車体（愛知）
25 住友銀行（東京）
26 山形ケンウッド（山形）
27 福井市役所（福井）
28 コスモ石油（大阪）
29 東北電力・新潟（新潟）
30 富士通・東京（東京）
31 富士電機・三重（三重）
32 鳥取三洋電機（鳥取）
33 自衛隊・北海道（北海道）
34 アイシン精機（愛知）
35 大和銀行（大阪）
36 日立・高崎（群馬）
37 ヨネックス（東京）
優勝
サントリー
3－0
38 三洋電機（大阪）
39 豊田通商（愛知）
40 大日本インキ化学・千葉（千葉）
41 福井県庁（福井）
42 三菱電機（兵庫）
43 東電・神奈川（神奈川）
44 山陰合同銀行（島根）
45 コニカ（東京）
46 東芝・府中（東京）
47 北國銀行（石川）
48 NEC相模原（神奈川）
49 NEC山形（山形）
50 関東自工（神奈川）
51 丸杉金属興業（岐阜）
52 七十七銀行（宮城）
53 さくら銀行（東京）
54 富士通・長野（長野）
55 東海興業（愛知）
56 NEC九州（熊本）
57 三協アルミ（富山）
58 滋賀銀行（滋賀）
59 沖縄銀行（沖縄）
60 日立化成（茨城）
61 旭化成・川崎（神奈川）
62 関西セキスイ（奈良）
63 衛生局（東京）
64 三菱ふそう（宮城）
65 日本電装（愛知）
66 まつもとコーポレーション（岡山）
67 日産自動車（栃木）
68 三菱自工・京都（京都）
69 三洋電機・岐阜（岐阜）
70 百十四銀行（香川）
71 三菱重工・横浜（神奈川）
72 東京都庁（東京）
73 東レ・滋賀（滋賀）
74 NTT東京（東京）

■出場選手名簿

（男子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
熊本	ＹＫＫ九州	長谷川泰志	石黒之武久		○村中陽介・霜上和宏・古井博高・RIONNY MAINAKY 田上厚志・花田政文・井上貴浩
長崎	三菱電機・長崎	江口　忠道	小林　正昭	川久保暢宏 久保　真一	○山口信雄・森山良一・松山　清・本山隆幸・高月俊光・小林正昭 久保真一・中山和久
	日本ビソー・長崎	岩永　乍弘	高比良達成	三浦　久利 平　朱美	○下釜紀幸・古川勝也・高比良達成・長浦正義・三浦久利・井上光法
	三菱重工・長崎	喜多　昭夫	田中　貞夫	長谷川恵子	○溝上敦夫・中野和雄・今積英樹・三根　哲・竹永　学・岡田芳彦 松尾　栄・田中　功
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　栽美	沙　海平 真名子靖代	○許　斌・石田隆之・藤原瑛佳・五十嵐一智・沙　海平・石井正行 水島浩一・棟居秀行
香川	香川県庁	真鍋　剛	弾正原義春	岡下　俊次 青野　訓子	○岡　道祐・岡下俊次・西尾修治・谷本竹司・弾正原義春・香川正樹 吉田就二・小山光男
	タダノ	帯包　泰博	吉田　一人	加藤　建義 奥田　貴士	○田中純一・福家正登・佃　和也・加藤建義・中村　亨・奥田貴士 吉田一人・糸瀬智成
山口	日本製紙・岩国	徳冨　敦彦	高橋　良明	村上　弘明 貴船　博己	○高橋和也・村上弘明・室井伸夫・木村雄一・高橋良明・森本孝敏 柳　宏幸・中山　整
	徳山市役所	高木　俊郎	磯村　祥一	有吉　一男 磯部　忠	○福田正彦・田内正彦・岸村尚通・山東　寿・沖　貞雄・秋元直幸 寺岡裕信・大竹新人
広島	広島市役所	上川　孝明	藤井　治雄	藤本　吉三 金子　貴美	○山領　篤・山本克司・佐々木和義・藤田康二・北倉義政・尾崎　清 中村克司・林　哲也
	ＮＫＫ・福山	前田　巧	梅月　隆	田上　義美 松浦　美和	○原　貴・守安孝二・佐藤嗣隆・堀江賢二郎・梅月　隆
	海洋電子・広島	松崎　一夫	橋本　宏	末岡　義昭 住岡　照行	○内山昌弘・住岡照行・川田輝夫・加土孝博・末岡義昭・曽我井貴文 向井克至・森山拓哉
岡山	川鉄マシナリー	泉川　真一	野田　修嗣	中田美樹哉	○石本一豊・野田修嗣・吉田正輝・白神　純・三好研二・岩田章秀 田中　学・中田美樹哉
	三井造船・玉野	日下　光	山本　清	松岡　純子	○若林邦任・大倉達也・仁井昌志・山本　清・三辻邦章・田丸勝巳
	川崎製鉄・水島	中島　一磨	中山　睦雄	垣見　一俊	○三村勇人・片山洋一・中山博人・田中　薫・藤原道弘・垣見一俊 長谷和邦・中　恵一
	動燃・人形	井手　治	深田　善三	堀　俊夫	○堀　俊夫・遠藤雄二・山崎　斉・藤林　剛・遠藤裕治・島池政満 藤田英二・原野陽夫
鳥取	日立フェライト	岩田　顕栄	岩田　顕栄	西村　聡 岩見久仁子	○由本　学・西村　聡・岩田顕栄・森山健太郎・佐々木修二
	鳥取三洋電機	鷲見　育亮	鷲見　育亮	伊藤　文代	○小谷清史・伊藤和彦・亀谷雅之・山本明良・田渕光章・門脇寛文
兵庫	新日鐵・広畑	勝山　憲夫	塩飽　初	平松　重吉 泉　吉弘	○広岡輝男・山磨和弘・曽我部博光・宮本直哉・塩飽　初・柴　靖規 生柄　良　宮本貴弘
	住友シチックス	大田　年幸	藤原　光雄	竹村　和夫 川村　律夫	○藤原光雄・井上　信・小田清二・竹村和夫・小川貴史
	三菱電機・伊丹	佐久間秀一	寺尾　一秀	松本　泰典 森川　和枝	○松本泰典・河田保憲・三宅隆之・坪井光明・児玉貴之
	三菱電機・神戸	佐々木利彦	池淵　順一	小屋松明己	○岡本芳和・五島崇勝・三宅慎太郎・大栄俊和・池渕順一・小西克広 山路優一
	大和製衡	滝口　良一	山本　勝	藤本　純一	○木田英明・五十嵐　勝・藤本純一・山本　勝・上田圭顕
	三菱重工・神戸	松本　俊英	瀬川　欽也	四ッ谷　誠	○大橋　功・房田憲児・佐野　享・林　豊彦・村上郁夫・平井大三 三宅恒久
大阪	ＮＴＴ関西	野々市谷建	松井　峰生	村上　友二 木杜　哲	○今東　健・早戸敬彦・植村昭彦・岸田明宏・村山友二・大谷誠二 渡辺哲義・松井峰生
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	宮崎　庄一	勝川　道和 赤澤　建樹	○勝川道和・長谷浩道・大川原暁夫・山川正一・宮崎庄一・山口昭彦 常山康一・常山兼二
	松下電子工業	山本　貞夫	仲田　康英	仲田　康英	○命苫清雄・小山　顕・桂　貴男・安宅稔和・国信建臣・福井武司 馬場康行・松尾和尋

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
大阪	阪急電鉄	小野　俊雄	蔵本　英二	岩佐　清秀	○大野孝二・中村　昇・椎屋美津生・蔵本英二・佐藤俊哉
	大阪ガス	吉里　文雄	北野　公男	西野　幸雄 園部　一彦	○早水栄治・槙納　正・大井貴夫・高島和秀・田中真平・園部一彦 福井裕之・西野幸雄
	光洋精工	松村　善朝	高岡茂八郎	植田　勉 山崎　智司	○安達　謙・永見充康・山川耕志朗・菊地　隆・山崎智司・植田　勉 中田耕司・高岡茂八郎
	松下電子部品・大阪	森脇　紳二	森脇　紳二	見市　幸司 長山　武弘	○長山武弘・名川達弥・武藤英司・森脇紳二・見市幸司
京都	京都府庁	茂木孝二郎	遠藤　和美	遠藤　和美 茂木孝二郎	○遠藤和美・池田美彦・西川　浩・茂木孝二郎・中井哲弘
	日新電機	上田　政行	川崎　俊正	高田　弘	○井上晃志・梶村和成・本田修士・山中秀樹・川崎俊正・宮林幸正 橘　栄作・村尾正好
	松下電子部品・京都	福留　忠顕	久保　正人	宮澤　久男 山本　朋子	○山岸武泰・寺田正文・太田智一郎・谷本和宏・大森　実・金光泰男 瀬尾賢次・矢田昌規
	島津製作所	山本　紘史	西村　睦喜	井上　昇	○山田航也・山本寿志・斉藤清代巳・西村睦喜・平岡秀介・戸田浩之 角田二郎・井上　昇
	三菱自工・京都	三宅　巧	佐々木正司	谷口　雄二 石津　正昭	○中薮　仁・三澤哲也・北橋周作・谷口雄二・佐々木正司・広瀬　敬 西村　功・原田　卓
滋賀	東レ・滋賀	滝田　祐二	古川　正行	細野　博	○中川　康・宮崎誠二・高谷直樹・百田憲和・吉居　秀・岡田耕作 宇野忠男・大園英名
	滋賀銀行	駒井　久夫	畳谷　康一	吉田　英史	○片岡憲二・畳谷康一・杉田満広・吉田　尚・福知俊治
三重	伊勢市役所	松岡　信	松岡　信	松岡　信 松岡　信	○松岡　信・丸山　光・大西善浩・沖塚孝久・永田密山・東　健治 筒井俊夫
	富士電機・三重	山口　香	藤本　規夫	佐藤　滋晃	○糀谷清史・橋本貴仁・中村匡成・佐藤滋晃・大谷敏広・武田進也
	コスモ石油・四日市	足立　公	福田伊佐治	米山　真代	○荒木良之・永坂昌信・奥田耕司・谷口嘉飛普・川戸真也・東　孝一 中川義明・大西由高
	三菱化学・四日市	増井　孝夫	小林　信行	小林　信行 市川　啓了	○森山唯史・秋山一弥・成瀬幸宏・石橋　融・荻田昌昭・大倉　忠 多田晃宏・毛利浩治
	松下電子部品・松阪	中小路幸誠	福田　敏伸	酒徳　一利 高尾まり子	○橋爪孝文・森本博幸・梅村一義・福田敏伸・村木康之・酒徳一利 中川祥一
	中部電力・三重	西脇　喜清	杉野　武	小堀　一次 奥野　浩	○奥野　浩・東澤悦雄・島田多田道・西村浩輝・矢田裕昭・吉澤信男 川合　順・松田展幸
	日本電装	土方　良守	片岡　泰	中川　健 片岡　泰	○山内一志・磯部昌弘・木村貴幸・片岡　泰・中川　健・百丸祐輝 栗原大介
愛知	トヨタ自動車	堀　幸矩	古賀　勝志	磯野　雄二	○滝田　智・城木夢高・植村武司・吉田　通・福田昭典・橋本宗士 鈴村雅弘・清水昭博
	豊田工機	佐伯外興昭	日比野伸昭	野呂　徹 峰　登志郎	○石井裕二・野呂　徹・石田　満・川島一剛・峰　登志郎・東　正也 田村勝久・田上富章
	東海興業	木村　勝昭	早川　満志	河合信一郎 酒井　良之	○角藤利明・大竹達裕・安井憲司・柳田順一・吉田　努・平尾昌也 石田　猛・柳　孝三
	豊田自動織機	上原　信彦	岩渕　信司	川村　順子	○山田孝幸・佐藤崇裕・神山紀雄・知念幸治・松本　周・岩渕信司 小林　誠・野口　忍
	新日鐵・名古屋	二杁　幸夫	山本　卓男	佐々木秀一 内田　公明	○案部博史・坪井英之・上枝　伸・中山和幸・納所久夫・田畑泰俊 小畠知也・内田公明
	豊田合成	丹羽　勇	野村　幸信	高田　靖彦	○平下茂史・丹羽　勇・前出進一・野村幸信・清水　誠・岩田　真
	トヨタ車体	三品　康雄	米沢　強	竹原明日香	○斉藤勝明・玉田孝治・鍋割英雄・木村拓哉・小林安司・常松幸一
	アイシン精機	平岩　功	飯見　隆治	飯見　隆治	○吾妻扇太郎・内田昌行・中根竜也・池田博充・大月善巳・北里憲之 秋元憲幸・飯見隆治
静岡	ジャトコ	小野　和明	後藤　和之	森　文華	○坂上隆広・吉野智昭・川島直樹・清水達也・若松　誠・中島信頼 藪内憲和
	アスモ		山本　明靖	神谷　秀康	○田村輝美・金子　司・西川雅巳・高橋　徹・山本明康・神谷秀康 野辺忠久

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
静岡	富士フィルム	滝　正孝	滝　正孝	井出　裕雄 滝　正孝	○武井弘征・佐野英利・井出裕雄・小野里朋之・中村繁幸・池田光宏 滝　正孝・吉岡直彦
岐阜	三洋電機・岐阜	片野　吉郎	樋口　剛司	松浦　竹典 樋口　剛司	○樋口剛司・藤本高義・野田　勇・宇都千秋・松浦竹典・尾関　肇 角屋順一
	丸杉金属興業	杉山　忠国	戸崎　守雄	熊澤　真実	○北島祐司・大塚洋和・戸崎守雄・今井　努・鈴木菊夫
福井	セーレン	黒川　誠之	井上　哲也	井上　哲也	○長田正一・安田泰啓・吉田清隆・桑野晃一・植林宏晃・向川高広 井上哲也
	北陸電力・福井	萩原　盛衛	角　五三男	野路　健一 前田　初志	○高野一男・金川克行・藤尾祐一・江畑将亨・前田初志・高石昌利 文殊四郎裕一
石川	北國銀行	深山　彬	岡部　憲昌	長谷川　進 岡部　憲昌	○山本明彦・西島弘幸・武田　修・羽田義仁・崎田健一・藤島誠孝 小池田　基
	金沢市役所	源田　久男	太村　正信	太田　博之 村田　孝子	○永井俊宏・田村　稔・内田雄士・山口正樹・毛利達彦・庄田秀実 杉原秀俊・山形　博
	福島印刷	横田　貞昭	大塚　貴康	加藤　一弥 竹村　晴夫	○橋本哲也・山口英晃・綾瀬寛隆・青山大吾・柴田雄次・大塚貴康 林　剛・大澤直也
	コマツ・粟津	中村　均	桝野　泰弘	栄田　健志	○北　秀樹・金山尚幸・北野大輔・桝野泰弘・栄田健志・世良正博
富山	トナミ運輸	安達　達明	堺　三徳	今泉　勉 荒木　純	○気谷篤人・今井彰宏・紺谷幸一・今井紀夫・本山秀昭・鈴木草麻生 谷内貴昭・本田和裕
	日本製紙・伏木	高須賀恒夫	蔵野　耕治	加須栄隆治	○山本　潤・林　清和・谷口孝志・山田佳史・中嶋正男・橋場勝則 加須栄隆治・車　祥幸
	立山アルミニウム工業	本永　雅徳	竹内　松芳	高井　俊昭	○竹内松芳・高井俊昭・木下泰延・加須栄洋之・森井　仁・広瀬　勝
	三晶技研	飛弾　是博	吉森　勝之	毛利　智成 湯上　佳和	○湯上佳和・辻口真人・野村智紀・毛利智成・沢田淳悦・坂井克有 吉森勝之・堀　正人
	富山トヨタ自動車	田形　昌敏	山崎　光明	山崎　光明	○谷口宗徳・清水勝弘・船　茂樹・山崎光明・平井　仁・柿沢方之 髙島　猛
	高岡市役所	室谷　泰弘	河村　博之	米沢　和男 牧野　光男	○末坂　進・西本幸夫・米　正隆・東野利幸・中出裕嗣
長野	石川島芝浦機械	落合　達雄	奥原　祐二	北川　良司 塩原　由美	○丸山　宏・土屋　渡・横山和弘・奥原祐二・吉野泰正・五味昭一 島田将之
	富士通・長野	萩原　正孝	丸山　隆	鎌田　正幸 丸山　隆	○丸山和宏・出川輝義・丸山　隆・上原克士・鎌田正幸
新潟	三條機械	外山　修	久住　勝利	羽龍　良記	○鈴木　裕・羽龍良記・内山隆史・相馬寛輝・米山　高・丸山勝弥 小島豊史
	アイテック・新潟	堀井　国雄	飯塚　芳英	本保　越洋	○大月　実・本保越洋・飯塚芳英・小木将綱・國井裕和
神奈川	富士通・川崎	本郷　憲雄	青木　一夫	青木　一夫	○後藤正志・稲垣広宣・佐藤大輔・鈴木　薫・青木一夫・髙木康弘 和久井伸一・増子康紀
	ＮＥＣ相模原	石井喜三郎	土田　秀紀	内山　泰則	○内山泰則・清原　稔・土田秀紀・小野　武・阿部義博
	日立・通信システム	渋谷　健一	下山　隆	鰐川　朗 押田　義司	○杉山勝美・百上幸一郎・藤井　圭・岡　洋治・鰐川　朗・中橋一晃 鈴木昭次・関口仁志
	関東自工	有村　洋一	細谷　昇	小川真由美	○加藤康二・手島耕二・田辺　哲・奈良秀行・太田清志・大橋昭人 細谷　昇
	東電・神奈川	江川　正尚	平井　規之	山口　修	○小林栄二・五十嵐　功・吉澤勝治・田中　徹・榎　博久・山本　正 須藤政身・津滝修司
	三菱電機・鎌倉	中村　強	池田　勝彦	片山　敏 古内　浩二	○片山　敏・熊谷　修・井原伸行・石井正男・古内浩二・宮崎伸也
	日立・情報通信	甘粕　完治	秋山　昌博	藤原　文子	○馬場哲也・半田賢二・渡辺康之・藤田良一・小野覚史・梅澤　寛
	横浜市役所		境野　伸也	鍋島　保則	○一瀬浩美・浜路　圭・村山満夫・平　敏司・村上英典・国枝英樹 川島正也・高山英幸
東京	ＮＴＴ東京	池田　信孝	尾崎　幹雄	真壁　久	○松野修二・町田文彦・須賀隆弘・片山卓哉・宮　康二・高橋英治 渡辺清一・久保田雄三

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名 (○印は主将)
東京	日本ユニシス	中村 昭彦	阿部 秀夫	徐 彪 中島 覚	○石井 隆・菊地 修・大屋貴司・大谷知昌・中條起希・徐 彪 山田秀樹
	ウェンブレー		草島 正治	前田 吉憲	○須田和男・正田章二・前田吉憲・宮脇英雄・晴津耕太郎・清水保則 高辻正樹・宍戸 司
	足立区役所	馬場 猛夫	馬場 猛夫	小林 光雄 鈴木 敦子	○鵜澤敏信・大和田 勉・佐々木 拓・梅野光一・久保井秀夫 笹林義春・長門忠雄・青木勇児
	旭工芸	佐々木憲一	山口 安則	佐々木孝二 神谷 敏幸	○中津不二雄・山口安則・佐々木孝二・大塚龍義・横田和博 村上 勝・井上一夫・神谷敏幸
	東京トヨペット	入間 秀哲	大瀬 久司	大瀬 久司	○鈴木和成・渡辺 孝・小塩 信・大瀬久司・高橋真司・稲村善之 藤森 隆・入間秀哲
	ヨネックス	土田 隆	丹藤 勇一	石橋 隆	○阿部浩志・高橋賢治・江連忠雄・石橋 隆・丹藤勇一・福田和浩 斉藤佳晴・土田 隆
	ウインザー	山田 悠一	石川 桂治	音野 均 安田 明弘	○清水正紀・杉浦 務・狩野太郎・武井利守・秋田哲也・安田明弘 脇坂修一
	東京都庁	島田 稔	島田 稔	島田 稔 島田 稔	○後藤 勝・大原政義・高田 浩・多田信之・島田 稔・小林賢治 黒田祥之
	東京電力	佐藤 祥次	佐藤 祥次	内田 修 内田 修	○石原泰造・橋本 栄・高野 徹・八尋明夫・厚川 勇・二階堂昌明 斉藤貴之・渡辺勝也
	コニカ	薮内 克也	内田 淳吉	小泉 俊一	○吉永 巌・豊泉輝彦・野口 節・本田 誠・薮内克也・江連秀敏 大貫 勝・岡村真一
	東京郵政	古明治正邦	多田 晃一	佐藤 宏之 大橋喜久夫	○永田伸一・佐藤宏之・松本尚之・田村 収・古明治正邦・木村克宣 醍醐達也・多田晃一.
	富士通・東京	柳澤 勉	粟田 豊	木村 均 長谷川起世子	○渡辺文明・牧 秀彦・長谷川孝祐・粟田 豊・西場裕晃・大塚武明 工藤祐一・木村 均
	ブリヂストン	大谷 則隆	堺 栄一	田元粳次郎 佐藤 輝行	○佐藤輝行・福沢和彦・福沢康司・高橋 豊・今井茂満・清川芳隆 堺 栄一・田元粳次郎
	印刷局・虎の門	河野 誠	斉藤 浩之	青木かおる	○斉藤浩之・上田祐一・松本光貴・吉田浩明・瀧川亮一・河野 誠
	カーペントリー		宗形 一志	佐藤 次郎	○岩井昭治・海老原栄一・北村[illegible]・佐藤次郎・町 健太郎 宗形一志
	住友銀行	宮本 [illegible]	[illegible]	園田 直孝 山田 武也	○山田武也・澤田徹郎・石川栄二郎・久保充孝・園田直孝・野崎泰宏 大木秀夫・平野正浩
千葉	オリエンタルモーター	大滝 紀和	稲見 英昭	藤巻 人士 佐藤 直之	○長谷川 亮・佐藤直之・藤巻人士・中島康博・大滝紀和・稲見英昭 野村将司
	コスモMPC	西尾 元祐	田中 政剛	瀧本 和大 前田 益孝	○鈴木博之・伊藤晃一・佐々木仁一・高木篤志・関根徳孝・瀧本和大 米澤 仁・鈴木雅志
	大日本インキ化学・千葉	小松 敏成	小柳 博	白井 正隆 蓮見 直子	○佐久間義孝・小柳 博・勝元秀行・小松敏成・河野芳成・中川喜博 大野 治
	松戸市役所	関 政秀	吉岡 彰	秋元 正司 佐久間真理子	○花嶋美生・山本義昭・本多稔之・吉岡 彰・大川 潤・野沢光広 鈴木秀和
埼玉	本田技研・狭山	堀越 勉	松原 裕史	大橋 正 宮越 通康	○正木和久・熊澤好夫・岡崎次郎・草薙真哉・藤田茂樹・宮越通康 川上健太郎
	埼玉県庁	三原 輝美	森口 新	古屋 昌裕 川岸 早苗	○芦澤正博・石塚光夫・喜多真人・柿沼和幸・粂 浩二・岡本良一 麻生信之
	アース産業開発	中橋 優	谷澤 和美	山本 常男	○高橋 昭・正岡 剛・江原一彦・中橋 優・谷澤和美・中野 明 古橋基之
	東京電力・埼玉	鈴木 英昭	中島 章	内田 真弘 根岸由里子	○持田千彰・五十嵐良輔・松村典昭・松本由紀夫・高橋光年 管家一浩・川瀬光洋・白田剛司
群馬	日立・高崎	佐藤 弘	別所 明雄	安藤 則男 飯野 博英	○飯野博英・石川英寿・菅野浩行・斉藤祐一・安藤則男・木村誠弘 北爪 彰
	富士重工・群馬	青木 盛芳	渡辺 晃一	中居 功治 尾園 正和	○丸山清春・尾園正和・太田真敏・久保元樹・竹内康夫・斉藤 宏 太田嗣人・千葉竜也
	富士通・館林	恩田 聖	石戸 広昭	木村 博 石戸 恵子	○横山 稔・木村 博・松元功一・門脇宗人・石戸広昭・橋本龍児
栃木	栃木県庁	湯沢 雄一	古沢 元浩	鈴木 武 柿沼 章洋	○原 利浩・琴寄行雄・小島秀雄・篠原和之・和久光男・高橋安則 石川忠央・青柳祐介

県名	事業所名	部長 (副部長)	監督名	コーチ マネージャー	選手名 (○印は主将)
栃木	松下電器・栃木	岡室　利彦	松本　誠	中山　年史 岡室　利彦	○松本　誠・加藤正幸・谷口尚久・山口昌彦・黒須昌芳・小篠政和 大山功治・杉山徳次
	日産自動車・栃木	吉村　達三	笠井　孝之	大八木　正 影山　伊美	○入江久夫・入江正夫・上野　孝・比護　剛・笠井孝之・海老原正美 中川伸一・大八木　正
茨城	日立・水戸	高砂　徹	早川　博	管野　孝 梅室　真二	○管野政明・結束雄二・有馬功二・梅室真二・篠崎和弥・菅野　孝
	住友金属・鹿島	鈴木　秀一	板垣　龍平	小島　康裕	○板垣龍平・小林靖敏・高橋　豊・豊島　賢・梅沢和則・奥田重孝 鈴木貴志・大木利浩
	大江スポーツ	大江　礼謹	大江　礼謹	浜　幸人 大江美代子	○野中康弘・小畑清隆・大江礼謹・浜　幸人・満岡正昭
福島	リズム工機	成田　保己	島影　盛継	高橋　裕一	○島影盛継・山口善胤・関本正義・桑原伸一・星　芳弘・高橋裕一
	富士通・会津	塚越　厚生	塚越　厚生	邱　峥嵘 渡辺　正光	○西潟昌利・本多克博・佐藤勝司・佐々木貴吉・星　徹・五十嵐敏幸 長谷川淳哉・寺田　繁
山形	ＮＴＴ山形	鈴木　悟	岡田　寿紀	折原　則一 加藤　安史	○小中英智・折原則一・中島　修・岡田寿紀・加藤安史・三浦卓夫 村岡　守
	でん六	山口　良典	伊藤　洋一	長谷川典靖 高橋　一彦	○長谷川典靖・竹田良一・近　尚徳・嵐田芳輝・有路幸則・伊藤洋一
秋田	北都銀行	加賀谷武夫	斉藤　永吉	斉藤　永吉	○鈴木理之・青柳荘彦・鈴木康暢・魚谷啓法・片桐英二
宮城	ＪＲ東日本	上田　宏	石井　右示	曳地　由和 石井　右示	○中村　徹・石井右示・加藤正行・渡辺孝秀・曳地由和
	ＮＴＴ東北	原田　正晴	原田　利雄	柴崎　直樹 吉田　幸司	○韮沢伸幸・寺島剛志・内村　剛・関根靖則・海老沢孝一・柴崎信之 上滝賢二・金城　勉
	ソニー仙台ＴＥＣ	岡田　俊行	大場　岳史	須田有紀子	○小幡　慶・大場岳史・三浦利昭・足坂真一郎・川井貴幸・只野慎一 上野　実
	ＹＫＫ東北	押切　吉基	中塩　房雄	富久　晃	○中村弘康・佐藤文彦・岩渕章洋・佐藤謙二・太田　淳・富久　晃 板橋　悟・中塩房雄
岩手	富士通・岩手	伊藤　眞	山ノ内一明	照井真由美	○藤谷清文・立野秀信・佐藤慎也・鈴木広志・小原智雄・佐藤　誠
北海道	ＮＴＴ北海道	月尾　修 木村　敏男	伊藤　雅弘	工藤　忠和	○村井秀樹・佐藤嘉伸・斉藤一裕・伊藤雅弘・古川英樹・星　拓磨 工藤忠和
	ＪＲ北海道	小林　徳宏 (栗原　進) (乙武　重丸)	高橋　進	渡辺麻由子	○郷路一郎・馬木貴之・高嶋　進・松村徳市・寺尾隆司・米田紀興 田口英史・高橋　進
	ラケットショップスガワラ	菅原　薫	菅原　薫	小飼　清統 小飼　清統	○松村洋一・伊多波佳幸・小飼清統・後藤貴宏・菅原　薫
	チザキ	岩崎　昭郎 (中村　富光)	板東　康夫	佐藤　信 八角　亜紀	○林　秀行・佐藤　信・鈴木健士・板東康夫・高本邦博・高橋　司
	千歳市役所	大江　晃己	小田桐正徳	森井　茂 奥山　則雄	○佐藤一浩・大野明男・伊藤隆宏・奥山則雄・森井　茂・櫻井敬大
	小樽市役所	小坂　康平	佐々木尚文	高野　幹男 目黒　清則	○徳満康浩・木村清仁・阿部幸夫・目黒清則・工藤俊幸・東田朋巳 高野幹男・阿部宏之
	陸上自衛隊・北海道	津村　隆夫	鈴木　正	網　文寿 石橋　尚樹	○須藤英樹・伊藤　勝・伊藤章芳・中村富士展・成田義昭・西嶋美樹 朝日　亮・三宅健司
	札幌市役所	西村　哲夫	中平　正幸	野川　豊 渋井　敏紀	○高崎厚生・市川幸典・宮嶋延光・渋井敏紀・田辺道郎・萩原利雄 中村義則・中平正幸

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
沖縄	沖縄銀行	永山千枝美	板良敷朝祐	石川　幸子	○永山千枝美・仲里ひとみ・宮里知江・金城朝野・石川幸子
熊本	ＮＥＣ九州	大島　完治	坂本　正	宮本　幸弘 坂本　正	○甲斐美和・林　美希・中原敬子・石橋律子・中尾浩実・西内洋子 福井奈美・春武美穂
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　裁美	孫　世英 真名子靖代	○石垣朝生・利川三貴・田頭美奈子・渡辺順子・林矢須子 中山佐知子・二見恭子・三原和子
香川	高松琴平電鉄	千田　穣一	小西　太	熊野　泰士 東条フミ子	○古田幸代・村尾佳美・三徳香代子・平野ゆかり・東条フミ子
	百十四銀行	高橋　和史	亀谷　幸生	山田比呂志 亀谷　幸生	○村瀬安代・富田美津枝・谷岡園子・山下真奈美・中園恵子 岡さとみ・山下　恵
広島	広島ガス	東　水豊	謝　永祥	溝辺　幸雄	○犠野京子・谷岡美保・布施由紀・角山　恵
岡山	まつもとコーポレーション	三宅　敏雄	田中　泰弘	宮本　順子	○佐藤由香・土肥まり子・住矢美幸・宮本順子・神宝朝子
鳥取	山陰合同銀行	三谷　惣一	星野実智代	安部　多加	○星野実智代・坂本佳寿子・後藤利子・渕上幸代・上田佳奈 安部多加
	鳥取三洋電機	鷲見　育亮	伊藤　和彦	上前麻寿美 伊藤　文代	○門脇めぐみ・門脇あゆみ・上前麻寿美・本坊香苗・若月朋美 曽我典子
奈良	関西セキスイ		堀切　健美	野村　昌美	○鳥飼智子・畑山ともこ・土庵素子・島津葉子・野村昌美
兵庫	三菱重工・神戸	松本　俊英	瀬川　欽也	四ツ谷　誠	○前山　愛・伊野家麻美・和田智恵・宇高美香・田邊意佐代
	三菱電機・伊丹	佐久間秀一	寺尾　一秀	松本　泰典 森川　和枝	○鬼塚知美・森川和枝・秋山紫峰・鬼塚明美・大村　泉・武富いず美 田村裕美
大阪	サントリー	日下　總一	山本　次生	丁其　慶 本田　順子	○金井和恵・小池由扶子・磯崎京美・宮村愛子・宮村亜貴子 大田貴子・本田　望・葛野智子
	三洋電機	矢形　博信	銭谷　欽次	宮崎　克己 喜多　努	○井田貴子・冨田美保・山田裕美・村上直美・中山智香子・貴田　泉 田中美保・鬼池めぐみ
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	山川　正一	宮崎　庄一 瓜生　和子	○出原直美・高谷千枝・安留有紀・池上磨恵・小野裕里・瓜生和子
	大和銀行	桂　芳樹	桂　芳樹	千田　朗子 永原　裕里	○福田真弓・千田朗子・永原裕里・山本葉子・横山欄子
	コスモ石油・堺	山下　邦彦	楠戸　春則	蘇　雄 妻木　久明	○下川英里・高塚恵美・伊藤真弓・山本静香・西　ルミ
京都	三菱自工・京都	三宅　巧	寺尾　豊	石津　正明 梶浦　由紀	○長谷年子・椋本真澄・築山恵美・立石裕子・大倉理恵・坂井朋子 三宅通代・平中恵美
滋賀	東レ・滋賀	滝田　祐二	古川　正行	細野　博	○奥村晶子・山崎十志子・井上奈穂・佐々木由美
	滋賀銀行	駒井　久夫	畳谷　康一	吉田　英史	○村松英子・松原弘枝・木村有利・深田恭子・井上真由美
三重	松下電工・伊勢	元山　正徳	山本　博文	上田　友美	○田中　恵・上田友美・吉村真紀・廣地亜紀穂・西山永里子 水井ちさと・阪本恵理
	富士電機・三重	山口　香	藤本　規夫	佐藤　滋晃	○水谷栄里子・村上まち・伊藤早苗・川口美保子・宮原智美 渡辺京子
愛知	豊田通商	中村　忠雄	平末　伸次	西山　直文 加藤　千里	○墨　久子・彦坂知美・加藤千里・小林真理・宇留賀さよ 宇留賀きよ
	日本電装	壁谷権一朗	福田　実	福田　実	○青木美代子・高岡直美・日山智絵・米倉　歩・吉永圭井子 野中亮子・吉武由加里
	トヨタ自動車	長谷川敏彦	山本　秀樹	古賀　勝志 磯野　雄二	○前田久美子・鳥居由恵・清水由紀子・大串朱美・中出綾子 原田いづみ・藤本暢子
	トヨタ車体	三品　康雄	米沢　強	竹原明日香	○竹原明日香・河本洋子・鈴木和泉・間瀬亜紀子・小川美紀 糀沢とし子
	東海興業	木村　勝昭	永井　優	阿知和幹根 大谷　秀子	○笹嶋公子・大谷秀子・井上久美・芳金裕美・広瀬晴恵・島津智恵 仲内美樹・笹嶋智子

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
愛知	アイシン精機	平岩　功	飯見　隆治	飯見　隆治	○上田菜央子・甲斐雅代・船橋美江子・児玉典子・石田裕子
	豊田織機	上原　信彦	武田　正雄	川村　順子	○中嶋布美子・荻野由紀子・川村順子・中園文江
	豊田合成	丹羽　勇	野村　幸信	高田　靖彦	○小田川みゆき・伊藤千枝・大谷優子・四方　希
静岡	ＪＡＴＣＯ	小野　和明	後藤　和之	若松　誠 森　文華	○森　文華・堀　ひろみ・加藤裕美・市川美保・清　明世
岐阜	三洋電機・岐阜	片之　吉郎	樋口　剛司	野田　勇 樋口　剛司	○三田陽子・薫田聡子・田上頼子・大江百合子・熊崎　綾
	丸杉金属興業	杉山　忠国	戸崎　守雄	熊澤　真実	○杉山ゆう子・野垣詠子・杉山千明・清水美香・熊澤真実
福井	福井県庁	川端　裕之	川端　裕之	西村　佳晃 毛利　直美	○田中妙子・松田香代子・田中ゆかり・毛利直美・藤井ゆきえ
	福井市役所	嶋田　伸行	宮原　一	村井　敏晃 野坂美由紀	○南保正枝・多田慧子・高橋慶子・澤田佳苗・高村香織
石川	北國銀行	深山　彬	岡部　憲昌	羽田　義仁 岡部　憲昌	○下村絵里・中田裕子・中嶋智子・松田奈緒子・中川紀子・青木静香
富山	三協アルミ	北山　清志	河合　昭博	吉岡　英樹 小泉　陽子	○山崎美紀・佐々木　忍・松田治子・孫　　丹・小泉友紀・高岩佳恵 渡辺真由美・高野八重
長野	富士通・長野	萩原　正孝	丸山　隆	鎌田　正幸 高山　卓子	○北沢美佳・横山祥子・高山卓子・小林和美
	石川島芝浦機械	落合　達雄	赤羽　元春	矢口　元啓 塩原　由美	○内川啓子・岸田絵里・小嶋早織・塩原由美
新潟	東北電力・新潟	有田　浩三	有坂　蹟里	亀田　誠 小林　栄一	○竹野景子・船津佳子・松縄香織・栗林可奈子・遠藤みゆき 斎藤かおり・住矢直美・遅沢恵子
神奈川	三菱重工・横浜	鈴木　勝之	鈴木　勝之	高橋　保則 福田　昌美	○飯村美奈子・福田昌美・伊倉美奈子・黒川利枝・竹森真理子
	石川島播磨重工・横浜	村瀬　曜一	森井　泰博	永吉　知彦 山内　廣志	○伊集院千羽弥・山本美保・成田美智子・武田佳子・信平他恵子 加谷圭子
	旭化成・川崎	岩田　幸夫	富田　信昭	富田　信昭 皆川　英理	○寺田ゆかり・畔田友紀子・境　亜紀子・猪狩由紀子・渡辺みつみ
	関東自工	有村　洋一	高橋　清	小川真由美	○大塚由架子・高瀬圭子・佐々由美子・小川真由美・斉藤未来
	東電・神奈川	江川　正尚	板倉　敏	大貫　理恵	○須藤光恵・浅田幸江・赤荻三知子・瀬川清子・津川透子 成田あゆみ・石井里江子・宇田久美子
	三菱化成・横浜	横竹　一郎	村山　謙二	和田　登 大貫　千恵	○興津　操・正木恵子・吉田久美子・木原明子・渡辺庸子・大貫千恵
	日立・情報通信	渡辺　卓美	藤原　文子	藤原　文子	○柏木淳子・半田悦子・池田智美・太田久美恵・藤原文子
	ＮＥＣ相模原	石井喜三郎	中野　政雄	中塚　友彦 田中久美子	○加賀ゆかり・物井あゆみ・長谷川貴子・吉井位江・工藤理絵 岩淵美代子・田中久美子
東京	ＮＴＴ東京	古田　崇	池田　信孝	真壁　久	○松尾知美・立花久枝・岡山登紀子・道上彰子・阪本雅子 岸　ひろ子
	ヨネックス	吉本　貞夫	栂野尾昌一	石井知恵美	○岩田良子・木村和子・小野寺恵美子・後藤さゆり・関口尚未 石井知恵美
	コニカ	薮内　克也	木川　就二	小泉　俊一	○吉永亜矢子・小塩和子・渡辺久美子・鈴木克枝・遠山美詠子
	東芝・府中	坂口　千年	早坂　正志	辻村　昌彦	○的場美奈・佐藤栄子・上野裕子・早坂泰子・小川広子・吉野志麻
	東京都庁	島田　稔	島田　稔	大原　政義 高田　浩	○重松まゆみ・笹林朋子・壁矢千鶴子・杉谷真里・佐藤澄世 野嶽　愛
	富士通・東京	高田　正憲	木村　均	粟田　豊 長谷川起世子	○長谷川起世子・石森千恵子・実田優子・丸山小百合・柿沼五輪子 上倉久未子・岸野和世・福石真弓
	関東郵政	元木　徹夫	羽根田洋子	佐藤　宏之 岩井由美子	○佐藤清子・羽根田洋子・岩井由美子・秋山美和子・権田尚美 茂木弥絵・小澤夕子・赤根由美

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
東京	さくら銀行	石川　孝	石川　孝	浅野　英子	○浅野英子・大内浜子・磯　美和・大野里美・早川理栄子
	衛生局	本橋　紀子	中本百合江	清水　保則 中本百合江	○植田さおり・小山美樹子・小野泰枝・新村順子・中本百合江 本橋紀子・清野信子・秋葉美智子
	三共	加藤　治	佐藤　英俊	大畑　靖雄	○村松純子・渋谷美佐希・鈴木恵子・佐野由佳・真鍋洋美・大武美紀
	渋谷区役所	近岡　昭	松本　昭子	御山　好夫 島田　正好	○吉野遊子・遠山由貴江・小沢直子・関　佳子・吉本葉子
	住友銀行	宮本　啓三	園田　直孝	園田　直孝 山田　武也	○毛塚里栄・神谷知子・森本寛子・安藤佳代・菊池雅子
千葉	大日本インキ化学・千葉	小松　敏成	蓮見　直子	白井　正隆 蓮見　直子	○佐藤千春・嶋崎禎子・御簾納直美・鹿野真由美・田中美保子 蓮見直子
群馬	富士通・館林	恩田　聖	石戸　広昭	安藤　修二 石戸　恵子	○横山利恵・倉上真由美・今井ますえ・細谷法子・赤井由美子 岩瀬奈美・坂巻美代子・石戸恵子
	日立・高崎	佐藤　弘	別所　明雄	安藤　則夫 飯野　博英	○高橋里枝・高瀬晴美・大澤ゆかり・飯野清美・遠藤梨恵
栃木	日産自動車・栃木	吉村　達三	笠井　孝之	大八木　正 影山　伊美	○影山伊美・青柳真由美・前原真由美・鶴見よし子
茨城	日立化成	上石田常治	水野　裕	田辺　貴弘 三浦　哲	○高野美子・大久保典江・石嶋礼子・戸田美由紀・永島美津子
福島	富士通・会津	塚越　厚生	清野　徹也	渡辺　正光 渡辺　正光	○大関美和子・五百川栄子・芳賀美知子・森　昭衣・吉本正枝 宇南山　恵・兼谷サユリ
山形	山形ケンウッド	潮田　和正	末原　朱	佐藤　由美	○末原　朱・本間みか・斎藤洋子・斉藤麻理子・五十嵐珠美 長谷川美千・佐藤由美
	ＮＥＣ山形	山口　文雄	大場　和博		○鹿野今日子・近藤美知子・中山万由美・隅部友紀子・片山美希
秋田	北都銀行	加賀谷武夫	斉藤　永吉	魚谷　啓法 斉藤　永吉	○嵯峨やよい・青柳しのぶ・押田洋恵・山口美羽子・中村純子
宮城	三菱ふそう	三橋　英雄	高橋　正男	平塚　宣宏 佐藤　幸恵	○須田有紀子・猪岡亜紀・大友智恵・佐々香織・森美恵子・佐藤幸恵
	七十七銀行	高橋　祥[illegible]	高橋　祥[illegible]	鈴木　裕之 黒澤　晃子	○星美和子・佐藤敏美・山口亜希・山崎志乃・藤本和子・庄子絵美 牛渡初美
北海道	ＮＴＴ・北海道	月尾　修	伊藤　雅弘	日景　真弓 工藤　忠和	○田中範子・土屋留美子・佐藤京子・武田明美・高橋昌子・日景真弓
	チザキ	岩崎　昭郎	中村　富光	佐藤　信 八角　亜紀	○日原恵美里・林夕起子・尾関知子・梶原夕子・岩崎美香・八角亜紀 鳥本知美・星川　愛
	陸上自衛隊・北海道	津村　隆夫	鈴木　正	小林　壽一 三宅　健二	○藤村紋子・上田夕香・高橋真紀・藤井奈美江・工藤麻世

〈団体戦の部〉

男子団体

回数	年度	開催地	優勝			準優勝		
			チーム名	監督名	選手名	チーム名	監督名	選手名
1	1952	東京都	十條製紙伏木工場（富山）	石上　実	清水　正　筆谷　浩仁　工　条夫 宮下　芳一　釣谷　友一　佐野善治郎 正村慎一郎	トヨタ自動車（愛知）	酒巻　和男	上羽　家秀　岩月　真平　小池　鉱市 蟹　和夫　貝本　暁　中井　義行 酒巻　和男
2	1953	横浜市	十條製紙伏木工場（富山）	正村慎一郎	正村慎一郎　清水　正　筆谷　浩仁 工　条夫　宮下　芳一　釣谷　友一 佐野善治郎	ナルトスポーツ（神奈川）	秋元　幾男	岡　淳一　秋元　幾男　相馬　万吉 井上　正春　脇　養次郎
3	1954	長崎市	十條製紙伏木工場（富山）	石上　実	石上　実　清水　正　工　条夫 宮下　芳一　筆谷　浩仁　釣谷　友一 佐野善次郎　荒木亥久男	日産自動車（神奈川）	加藤　国雄	鈴木　秀雄　菊地　貫雄　荒井　孝彦 三好　清一　酒井　隆夫　宮岡　源二
4	1955	名古屋市	日本鋼管鶴見造船所（神奈川）	菊間　昭治	菅原　伸夫　崎尾　元　佐藤　昌久 砥石　勤　佐治　豊　小野　光美 遠藤　啓治　鈴木　富春	トヨタ自動車（愛知）	小池　鉱市	小池　鉱市　深津　豊　上羽　家秀 山城　智徳　岩月　真平　多賀　純一 市川　利治　荒川　司郎
5	1956	高岡市	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	清水　正　佐野善次郎　釣谷　友一 荒木亥久男　品川　則之　筆谷　浩二 宮下　芳一　工　条夫	日本鋼管鶴見造船所（神奈川）	菊間　昭治	国枝　良資　崎尾　元　佐藤　昌久 砥石　勤　佐治　豊　小野　光美 遠藤　啓治　鈴木　富春
6	1957	高松市	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	清水　正　佐野善次郎　釣谷　友一 荒木亥久男　品川　則之　筆谷　浩仁 宮下　芳一　扇沢　三徳	日本鋼管鶴見造船所（神奈川）	菊間　昭治	菊間　昭治　佐治　豊　国枝　良資 小野　光美　遠藤　啓治　砥石　勤 佐藤　昌久　鈴木　富春
7	1957	岐阜市	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	釣谷　友一　荒木亥久男　扇沢　三徳 佐野善次郎　品川　則之　清水　正	日本鋼管鶴見造船所（神奈川）	菊間　昭治	菊間　昭治　遠藤　啓治　鈴木　富春 国枝　良資　小野　光美　佐治　豊 佐藤　昌久　土佐　余哉
8	1958	札幌市	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	釣谷　友一　荒木亥久男　扇沢　三徳 佐野善次郎　品川　則之　大野　幸男 清水　正	日本鋼管鶴見造船所（神奈川）	菊間　昭治	佐治　豊　遠藤　啓治　小野　光美 佐藤　昌久　鈴木　富春　菅原　伸夫 石川　三郎　真壁　孝
9	1959	善通寺市	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	荒木亥久男　品川　則之　扇沢　三徳 大野　幸男　江守　清　加須栄英雄 佐野善次郎　清水　正	札幌鉄道管理局（北海道）	西本秀一郎	井川　誠　長山　森久　熊倉　昭二 島　辰雄　平沢　啓裕　有路　信彦 渋井　明
10	1960	名古屋市	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	荒木亥久男　品川　則之　扇沢　三徳 大野　幸男　江守　清　山田　昭夫	電電東京（東京）	並木萬次郎	高橋　童　貝戸　肇　沢村　浩 岩本　龍一　喜多川　広　北島　克英
11	1961	倉敷市	十條製紙伏木工場（富山）	清水　正	荒木亥久男　品川　則之　扇沢　三徳 大野　幸男　江守　清　山田　昭夫	電電東京（東京）	並木萬次郎	高橋　童　星野　忠男　貝戸　肇 沢村　浩　喜多川　広　小林　克之
12	1962	熊本市	電電東京（東京）	並木萬次郎	星野　忠男　井門　鎮雄　富田　豊 貝戸　肇　沢村　浩　喜多川　広 森谷喜久男	トヨタ自動車（愛知）	多賀　純一	佐藤　忠史　小宮　好雄　岩后　隆昭 勝田　照夫　赤羽　茂治　多賀　純一
13	1963	三条市	トヨタ自動車（愛知）	多賀　純一	小宮　好雄　北田　寛一　板垣　善憲 岩后　隆昭　勝田　照夫　鈴木　紀元 多賀　靖之　谷沢　経次	電電東京（東京）	高橋　章	星野　忠男　森谷喜久男　井門　鎮雄 貝戸　肇　沢田　力　沢村　浩 富田　豊　横倉　良樹
14	1964	松山市	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	鈴木　紀元　小宮　好雄　杉政　和男 板垣　善憲　岩后　隆昭　勝田　昭夫 多賀　靖之　小林　一宏	電電東京（東京）	星野　忠男	沢田　力　星野　忠男　鈴木　幸春 井門　鎮雄　富田　豊　田上　十六 森谷喜久男　横倉　良樹
15	1965	北九州市	トヨタ自動車（愛知）	山越　智徳	小宮　好雄　板垣　善憲　長谷川敏彦 鈴木　紀元　杉政　和男　小林　一宏 多賀　靖之　坂本　正二	電電東京（東京）	星野　忠男	星野　忠男　井門　鎮雄　沢田　力 鈴木　幸春　田上　十六　森谷喜久男 横倉　良樹
16	1966	大阪市	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	小宮　好雄　板垣　善憲　長谷川敏彦 安沢　武司　杉政　和男　小林　一宏 多賀　靖之　鈴木　紀元	電電東京（東京）	星野　忠男	星野　忠男　井門　鎮雄　鈴木　幸春 田上　十六　森谷喜久男　日野　泰三 横倉　良樹　本橋　平八

2．過去の栄冠　全日本実業団バドミントン選手権大会

〈団体戦の部〉

男子団体

回数	年度	開催地	優勝			準優勝		
			チーム名	監督名	選手名	チーム名	監督名	選手名
17	1967	勝山市	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	小宮　好雄　板垣　善憲　長谷川敏彦 安沢　武司　小林　一宏　牛島　秀雄 伊藤　一夫	ヨネヤマラケット（東京）	秋山　真男	秋山　真男　小島　一平　藤川　俊雄 西川　嘉作　篠山　賢吾　米山　広作
18	1968	諫早市	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	小宮　好雄　板垣　善憲　長谷川敏彦 安沢　武司　小林　一宏　牛島　秀雄 伊藤　一夫	電電東京（東京）	鈴木　幸春	鈴木　幸春　田上　十六　森谷喜久男 日野　泰三　横倉　良樹　星野　義昭 鈴木　健二
19	1969	釜石市	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	安沢　武司　松島　保　小宮　好雄 板垣　善憲　長谷川敏彦　牛島　秀雄 伊藤　一夫　杉政　和男	電電東京（東京）	鈴木　幸春	鈴木　幸春　森谷喜久男　日野　泰三 横倉　良樹　星野　義昭　鈴木　健二 山田　亨
20	1970	高松市	ヨネヤマラケット（東京）	小島　一平	小島　一平　栂野尾昌一　鈴木　正造 米山　勇	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	板垣　善憲　安沢　武司　小林　一宏 牛島　秀雄　松島　保　堀　幸矩 東浦　修二
21	1971	鹿児島市	トヨタ自動車（愛知）	小宮　好雄	小林　一宏　牛島　秀雄　板垣　善憲 安沢　武司　本間　順次　松島　保 松島　信之　東浦　秀二	電電東京（東京）	鈴木　幸春	森谷喜久男　星野　義昭　鈴木　健二 池田　信孝　町田　秀和　小林　一行 野本　網夫
22	1972	茂原市	高岡市役所（富山）	中山　邦夫	河村　博之　今泉　勉　関村　順次 牧野　光男　宮林　照男　京田　和男 中山　邦夫	河崎ラケット（東京）	福井　正康	堺　栄一　落合　孝之　平井　克英 宮川　英樹　川津　晃　今井　茂満 佐々木寿男
23	1973	石岡市	電電東京（東京）	鈴木　幸春	鈴木　健二　池田　信孝　町田　秀和 小林　一行　田所　光男　浜谷　安裕 田児　淳一	ヨネヤマラケット（東京）	小島　一平	小島　一平　栂野尾昌一　木戸　純一 鈴木　正造　米山　勇　菅原　薫 千葉　忠夫
24	1974	松阪市	電電東京（東京）	鈴木　幸春	鈴木　健二　池田　信孝　小林　一行 小林　敏行　田所　光男　浜谷　安裕 尾崎　幹雄	高岡市役所（富山）	中山　邦夫	河村　博之　今泉　勉　関村　順治 牧野　光男　米原　照男　米沢　和男 中山　邦夫
25	1975	高岡市	高岡市役所（富山）	中山　邦夫	河村　博之　米原　照男　今泉　勉 米沢　和男　関村　順治　中山　邦夫 牧野　光男	電電東京（東京）	鈴木　幸春	鈴木　健二　田所　光男　池田　信孝 浜谷　安裕　小林　一行　尾崎　幹雄 小林　敏行
26	1976	藤沢市	電電東京（東京）	鈴木　健二	鈴木　健二　町田　秀和　星野　義昭 森谷喜久男　野本　網夫　池田　信孝 田所　光男　尾崎　幹雄　田児　淳一 土田　証雄	高岡市役所（富山）	中山　邦夫	河村　博之　今泉　勉　関村　順治 牧野　光男　米原　照男　米沢　和男 中山　邦夫
27	1977	大阪市 京都市	河崎ラケット（東京）	堺　栄一	平井　克秀　斉藤　敏行　銭谷　欽治 中井　基夫　堺　栄一　角田　重男 藤波　哲治　紺野　義光	電電東京（東京）	鈴木　健二	池田　信孝　田所　光男　尾崎　幹雄 土田　証雄　町田　秀和　野本　網夫 田児　淳一　鈴木　健二　森谷喜久男 星野　義昭
28	1978	東京都	電電東京（東京）	鈴木　健二	野本　網夫　田児　淳一　森谷喜久男 星野　義昭　池田　信孝　田所　光男 尾崎　幹雄　土田　証雄　町田　秀和 鈴木　健二	ヨネックス（東京）	土田　隆	栂野尾昌一　飯野　佳孝　中山　謙吾 西野　一征　大場　和博　西村　龍夫 後藤　武信　梅田　勝彦　菅原　薫 辻　敏弘
29	1979	岡山市 倉敷市	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	栂野尾昌一　飯野　佳孝　大場　和博 辻　敏弘　後藤　武信　長谷川博幸 梅田　勝彦	電電東京（東京）	池田　信孝	池田　信孝　田所　光男　町田　秀和 尾崎　幹雄　田児　淳一　野本　網夫 土田　証雄　森谷喜久男　星野　義昭
30	1980	新居浜市	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	栂野尾昌一　飯野　佳孝　辻　敏弘 長谷川博幸　後藤　武信　林田　草樹	高岡市役所（富山）	中山　邦夫	今泉　勉　関村　順治　牧野　光男 米沢　和男　宮林　照男　米　正隆 河村　博之
31	1981	名古屋市	電電東京（東京）	池田　信孝	池田　信孝　尾崎　幹雄　久保　勇次 田所　光男　千野　晃　土田　証雄 町田　秀和　宮森　庄吉	高岡市役所（富山）	中山　邦夫	今泉　勉　米　正隆　関村　順治 末坂　進　牧野　光男　宮林　照男 米沢　和男
32	1982	立川市	電電東京（東京）	池田　信孝	池田　信孝　宮森　庄吉　尾崎　幹雄 土田　証雄　久保　勇次　田所　光男	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	栂野尾昌一　工藤　重信　長谷川博幸 千徳　勝利　宮本　幸弘　辻　敏弘

〈団体戦の部〉

男子団体

回数	年度	開催地	優勝			準優勝		
			チーム名	監督名	選手名	チーム名	監督名	選手名
33	1983	札幌市	電電東京（東京）	池田　信孝	池田　信孝　宮森　庄吉　尾崎　幹雄 西山　博司　土田　証雄　長内　征美 久保　勇次	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	栂野尾昌一　工藤　重信　長谷川博幸 千徳　勝利　宮本　幸弘　西村　修 丹藤　勇一
34	1984	大阪市	電電東京（東京）	池田　信孝	池田　信孝　西山　博司　尾崎　幹雄 長内　征美　土田　証雄　藤咲　勇一 宮森　庄吉	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	栂野尾昌一　石場　隆雄　長谷川博幸 望月　資　宮本　幸弘　丹藤　勇一
35	1985	藤沢市	ＮＴＴ東京（東京）	池田　信孝	尾崎　幹雄　本田　浩二　土田　証雄 長内　征美　宮森　庄吉　藤咲　勇一 西山　博司	トヨタ自動車（愛知）	谷口　寛	山本　秀樹　坂井外善男　坂本　宏志 古賀　勝志　宝達　昌嗣　川本　英明 須賀　英徳
36	1986	京都市	ＮＴＴ東京（東京）	池田　信孝	尾崎　幹雄　西川　博司　土田　証雄 本田　浩二　宮森　庄吉　長内　征美	トヨタ自動車（愛知）	山本　秀樹	須賀　英徳　芦井　隆俊　坂井外善男 山本　秀樹　川本　英明　宝達　昌嗣 古賀　勝志
37	1987	名古屋市	ＮＴＴ東京（東京）	池田　信孝	宮森　庄吉　長内　征美　尾崎　幹雄 松野　修二　西山　博司　柳谷　辰哉 本田　浩二	ヨネックス（東京）	長谷川博幸	宮本　幸弘　井上　哲章　石場　隆雄 長谷川博幸　望月　資　栂野尾昌一
38	1988	金沢市	ＮＴＴ東京（東京）	池田　信孝	西山　博司　松野　修二　尾崎　幹雄 柳谷　辰哉　本田　浩二　佐賀　史昭 長内　征美	日本電装（三重）	藤江　至	片岡　泰　中川　智史　西川　勉 須藤　憲一　福田　実　内富　進 福田　実　内富　進　常山　兼二 磯部　昌弘
39	1989	岡山市	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	西山　博司　柳谷　辰哉　本田　浩二 佐賀　史昭　長内　征美　宮　康二 松野　修二　江藤　裕樹	日本電装（三重）	藤江　至	片岡　泰　須藤　憲一　西川　勉 常山　兼二　福田　実　磯部　昌弘 中川　健　喜岡　泰弘
40	1990	神戸市	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	西山　博司　本田　浩二　長内　征美 松野　修二　柳谷　辰哉　佐賀　史昭 宮　康二　江藤　裕樹	ＮＴＴ関西（大阪）	冨田　章夫	松井　峰生　冨田　章夫　武野　忠 奥野　勉　辻田　泰昌　村山　友二 今東　健　早戸　敬雄
41	1991	仙台市	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	松野　修二　西山　博司　本田　浩二 長内　征美　柳谷　辰哉　宮　康二 江藤　裕樹　町田　文彦	ＮＴＴ北海道（北海道）	米山　孝二	山尾　克則　伊藤　雅弘　角谷　淳一 田中　弘幸　工藤　忠和　古川　英樹 加藤　学　米山　孝二
42	1992	広島市	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	松野　修二　江藤　裕樹　長内　征美 町田　文彦　柳谷　辰哉　高橋　英治 宮　康二	ＮＴＴ関西（大阪）	松井　峰生	辻田　泰昌　奥野　勉　村山　友二 今東　健　早戸　敬雄　大谷　誠二 植村　昭彦　今井　彰宏
43	1993	高岡市 新湊市 小杉市	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	松野　修二　町田　文彦　柳谷　辰哉 高橋　英治　宮　康二　須賀　隆宏 江藤　裕樹	トナミ運輸（富山）	堺　三徳	濱北　和彦　大堀　均　木船　栄士 吉田　直樹　気谷　篤人　本山　秀昭 岩淵　公一　三浦　修
44	1994	福岡市	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	松野　修二　宮　康二　町田　文彦 須賀　隆弘　柳谷　辰哉　江藤　裕樹 高橋　英治　渡辺　清一	日本ユニシス（東京）	阿部　秀夫	峯岸　康史　中川　敏治　大屋　貴司 大谷　知昌　中條　起希　石井　隆 山田　秀樹　徐　彪
45	1995	札幌市	ＮＴＴ東京（東京）	尾崎　幹雄	松野　修二　須賀　隆弘　宮　康二 渡辺　清一　町田　文彦　片山　卓哉 高橋　英治　久保田雄三	日本ユニシス（東京）	阿部　秀夫	石井　隆　大屋　貴司　中條　起希 山田　秀樹　菊地　修　大谷　知昌 徐　彪
46	1996	東京都	トナミ運輸（富山）	堺　三徳	気谷　篤人　本田　和裕　今井　彰宏 今井　紀夫　鈴木草麻生　大山　宏司 谷内　貴昭　万　政文	ＮＴＴ東京（東京）	松野　修二	宮　康二　久保田雄三　渡辺　清一 竹鼻　拓也　町田　文彦　大田　慎二 須賀　隆弘　松野　修二

2．過去の栄冠　全日本実業団バドミントン選手権大会

〈団体戦の部〉

女子団体

回数	年度	開催地	優勝			準優勝		
			チーム名	監督名	選手名	チーム名	監督名	選手名
1	1952	東京都	トヨタ自動車（愛知）	酒巻　和男	保田　久子　伊与田照子　山本　満子 吉永千代子	日本コロムビア（神奈川）	荒川とみ子	奥谷　喬代　荒川とみ子
2	1953	横浜市	トヨタ自動車（愛知）	酒巻　和男	保田　久子　伊与田照子　山内登美子 藤井　宣子	日本コロムビア（神奈川）	中野　一夫	奥谷　喬代　荒川とみ子
3	1954	長崎市	トヨタ自動車（愛知）	小池　鉱市	保田　久子　伊与田照子　山田　雪子 水野きよ子	日本コロムビア（神奈川）	伊東　隆文	小林　歌子　荒川とみ子
4	1955	名古屋市	仙台郵政局（宮城）	高橋辛六郎	谷津　京子　西堀富美子　佐藤　範子 栗山　栄子	日本コロムビア（神奈川）	伊東　隆文	荒川とみ子　大川　良子　小林　歌子
5	1956	高岡市	日本コロムビア（神奈川）	伊東　隆文	小林　歌子　荒川とみ子　大川　良子	仙台郵政局（宮城）	高橋辛六郎	谷津　京子　西堀富美子　佐藤　範子
6	1957	高松市	岡山市役所（岡山）	崎本幸三郎	権田　節子　光本　政子	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	大沢　節子　花井　洋子
7	1957	岐阜市	秋山経理事務所（香川）	川崎　智	井上　桂子　横井キヌエ　森岡貴美子 川崎　智	岡山市役所（岡山）	梶原　肇	権田　節子　小林　桂子　光本　政子
8	1958	札幌市	森岡経理事務所（香川）	川崎　智	横井キヌエ　山下　久子	岡山市役所（岡山）	山上　周之	権田　節子　光本　政子
9	1959	善通寺市	高岡市役所（富山）	中山　邦夫	高島　洋子　中島　玲子	森岡経理事務所（香川）	川崎　智	横井キヌエ　山下　久子
10	1960	名古屋市	高岡市役所（富山）	中山　邦夫	高島　洋子　中島　玲子	帝国石油（秋田）	相場　清一	木村　政子　横山　満子
11	1961	倉敷市	帝国石油（秋田）	相場　清一	木村　政子　高橋　泰子　横山　満子 長崎　文子	高岡市役所（富山）	中山　邦夫	高島　洋子　中島　玲子
12	1962	熊本市	金森藤平商店（富山）	島井　政作	橘　美智子　酒井美智子	琴平電鉄（香川）	竹内　恭平	横井　文子　森　久子　宮武　範子 山下　由子
13	1963	三条市	帝国石油（秋田）	相場　清一	横山　満子　長崎　文子　高橋　泰子 伊藤美津子	琴平電鉄（香川）	有馬　正作	田島外茂子　横井　文子　森　久子 宮武　範子　山下　由子　渡辺百合子
14	1964	松山市	琴平電鉄（香川）	有馬　正作	横井　文子　宮武　範子　森　久子 山下　由子　田島外茂子　渡辺百合子	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	林　信子　粂田　順子　土井三枝子 和田　昌代　橘　妙子
15	1965	北九州市	琴平電鉄（香川）	有馬　正作	横井　文子　森　久子　渡辺百合子 清水　照美	トヨタ自動車（愛知）	深津　豊	土井三枝子　橘　妙子　粂田　順子 和田　昌代　大塚　弘子　武田　初代 林　信子
16	1966	大阪市	琴平電鉄（香川）	有馬　正作	横井　文子　渡辺百合子　宮武　範子 清水　照美　山本　真江　細川　泰子	電電東京（東京）	星野　忠男	真部　文子　有木とみ子　鈴木　柳子 金藤　貞子　鈴木　恵　叶内瑠美子

〈団体戦の部〉

女子団体

回数	年度	開催地	優勝			準優勝		
			チーム名	監督名	選手名	チーム名	監督名	選手名
17	1967	勝山市	琴平電鉄（香川）	有馬　正作	横井　文子　渡辺百合子　宮武　範子 山本　真江　細川　泰子	電電東京（東京）	星野　忠男	有木とみ子　叶内瑠美子　日下　悦子 岡部ふさ子　土井　治子　鈴木　柳子
18	1968	諫早市	電電東京（東京）	富田　豊	有木とみ子　日下　悦子　土井　治子 岡部ふさ子　田仲美津子　櫛毛　ミキ 奈良岡洋子	北辰電機（東京）	植田　耕司	高橋とも子　水野小夜子　山上　博子 新田児フミ
19	1969	釜石市	トヨタ自動車（愛知）	北田　寛一	上野　明美　太田　節子　深沢むつ子 金子美和子　吉倉　恵子　竹中　令子 橋本　香代　小沢八重子	豊田自動織機（愛知）	植原　信彦	辻田　京子　大橋美知子　工藤美佐枝 鈴木　葉子
20	1970	高松市	琴平電鉄（香川）	香西　章	山本　真江　細川　泰子　井上るり子 薗浦　孝子	三菱自工京都（京都）	岡本　宏也	永井かおり　山下三枝子　岡崎　繁子 永井むつみ　小林フサ子
21	1971	鹿児島市	百十四銀行（香川）	柴田　隆男	山本みどり　赤沢ひろ子　福本　幸子 小西　幸代　大坪恵美子　森　清美 大西　順子	電電東京（東京）	鈴木　幸春	土井　治子　奈良岡洋子　阿久津まさ子 横山　光子　藤井　幸子
22	1972	茂原市	三菱電機伊丹（兵庫）	萩野　一夫	福永久弐子　柴山きよ子　高崎　弘子 大場　照美　尼崎　初子　牧野　睦美	電電東京（東京）	鈴木　幸春	松浦　洋子　阿久津まさ子　横山　光子 藤井　幸子　石崎　茂子　小笠原泰子 竹内　恵子
23	1973	石岡市	ヨネヤマラケット（東京）	木戸　純一	竹中　悦子　相沢マチ子　我妻たき子 佐久間雅子　大江　京子　岩淵　順子	百十四銀行（香川）	柴田　隆男	川東　秀美　森　清美　安藤　清子 石井マリ子　山内　房子　長尾　弥生 山口　豊子
24	1974	松阪市	カワサキラケット（東京）	堺　栄一	湯木　博恵　柴山きよ子　池田　美加 宇都　裕子　松谷　京子　高坂　和枝 長谷川幸枝	電電東京（東京）	鈴木　健二	石崎　茂子　小笠原泰子　今田真知子 坂口千恵子　清水　礼子　福原　友子 伊藤ひさ子
25	1975	高岡市	河崎ラケット（東京）	堺　栄一	湯木　博恵　松谷　京子　柴山きよ子 高坂　和枝　池田　美加　長谷川幸枝 宇都　裕子	電電東京（東京）	鈴木　健二	石崎　茂子　清水　礼子　今田真知子 福原　友子　坂口千恵子　中鉢　悦子 菅原より子
26	1976	藤沢市	サントリー（大阪）	山本　次生	西尾真理子　秋本八代美　谷　美津代 秋本　幸子　徳田　敦子	ヨネックス（東京）	土田　隆	我妻たき子　栂野尾悦子　陣内　裕子 古谷　成代　今田トシ子　伊能　悦子 及川　悦子　高谷　陽子
27	1977	大阪市 京都市	サントリー（大阪）	山本　次生	西尾真理子　秋本八代美　谷　美津代 秋本　幸子　徳田　敦子　高田　幹子 東海林文子	河崎ラケット（東京）	堺　栄一	湯木　博恵　池田　美加　千葉　陽子 若海　輝代　渡辺みゆき　星　八重子 渡来たか子
28	1978	東京都	サントリー（大阪）	山本　次生	西尾真理子　谷　美津代　高田　幹子 東海林文子　秋本　幸子　徳田　敦子 葛西　明子　野中　弘美　横山ナルミ	河崎ラケット（東京）	堺　栄一	湯木　博恵　千葉　陽子　近藤　小織 渡辺多喜子　若海　輝代　渡辺みゆき
29	1979	岡山市 倉敷市	サントリー（大阪）	山本　次生	秋本　幸子　谷　美津代　徳田　敦子 高田　幹子　東海林文子　葛西　明子 原口　恵子　横山ナルミ　野中　弘美	河崎ラケット（東京）	堺　栄一	湯木　博恵　千葉　陽子　近藤　小織 渡辺多喜子　沢内真由美　若海　輝代
30	1980	新居浜市	サントリー（大阪）	山本　次生	徳田　敦子　東海林文子　谷　美津子 高田　幹子　横山ナルミ　原口　恵子 西村美千代	河崎ラケット（東京）	湯木　博恵	湯木　博恵　端　陽子　近藤　小織 渡辺多喜子　沢内真由美　高岸　陽子 渡来たか子
31	1981	名古屋市	ヨネックス（東京）	栂野尾悦子	栂野尾悦子　関根　和子　枝　美代子 大塚ソノエ　月岡　広美　高野　和代 仲田　浩子　徳永　順子	三洋電機（大阪）	月原　朗	川崎　知子　網家　玲子　河村　茂美 合川　裕子　平　久美子　植田日出子 沼田　晴代
32	1982	立川市	サントリー（大阪）	山本　次生	東海林文子　高峯　和子　葛西　明子 陣内貴美子　西村美千代　国奥美智代 岩見　洋子	ヨネックス（東京）	栂野尾悦子	栂野尾悦子　月岡　広美　枝　美代子 徳永　順子　高野　和代　宮森ソノエ

2．過去の栄冠　全日本実業団バドミントン選手権大会

〈団体戦の部〉

女子団体

回数	年度	開催地	優勝			準優勝		
			チーム名	監督名	選手名	チーム名	監督名	選手名
33	1983	札幌市	サントリー（大阪）	山本　次生	東海林文子　高峯　和子　葛西　明子 陣内貴美子　西村美千代　瀬戸　優子 岩見　洋子	松本組　岡山（岡山）	河本　小織	河本　小織　原田美智子　高田　幹子 合田なおみ
34	1984	大阪市	サントリー（大阪）	山本　次生	葛西　明子　星　和枝　西村美千代 東海林文子　原田真理恵　菊池　洋子 高峯　和子	ヨネックス（東京）	栂野尾悦子	栂野尾悦子　森山　弘美　枝　美代子 高峯　直子　高野　和代　宮森ソノエ 月岡　広美
35	1985	藤沢市	三洋電気（大阪）	月原　　朗	北田スミ子　岡田　由美　冨田美千代 星野由美子　河村　茂美　清水　尚美 平山美恵子　磯野佐智子	サントリー（大阪）	宮崎　克己	西村美千代　渡辺　律子　菊池　洋子 北本久美子　高峯　和子　廣田　時子 星　和枝　山本　智恵　原田真理恵
36	1986	京都市	三洋電気（大阪）	宇治　　収	北田スミ子　鴻原　春美　平山美恵子 小泉　陽子　岡田　由美　田代美智世 星野由美子　清水　尚美	サントリー（大阪）	宮崎　克己	西村美千代　原田真理恵　高峯　和子 渡辺　和子　渡辺　律子　田島　志乃 廣田　時子　北本久美子　谷地　春子
37	1987	名古屋市	三洋電機（大阪）	宇治　　収	北田スミ子　田代美智世　星野由美子 新木　貴子　清水　尚美　秋元美佐緒 鴻原　春美　小泉　陽子	ＮＴＴ東京（東京）	池田　信孝	田児よし子　上村　美香　久保知佳子 星野実智代　平井真由美　松尾　知美 小飼　真弓　毛利　千秋
38	1988	金沢市	三洋電機（大阪）	宇治　　収	北田スミ子　小泉　陽子　田代美智世 奥山　保子　新木　貴子　秋元美佐緒 北浦　道代　今村　　薫	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	陣内貴美子　青木きよみ　高峯　尚子 捧　匡子　森　久子　藤井　直子
39	1989	岡山市	サントリー（大阪）	山本　次生	北本久美子　小池由扶子　廣田　時子 金井　和恵　谷地　春子　磯崎　京美 磯崎　照枝　金井　智恵	三洋電機（大阪）	宇治　　収	鴻原　春美　新木　貴子　小泉　陽子 秋元美佐緒　田代美智世　北浦　道代 奥山　保子　今村　　薫
40	1990	神戸市	サントリー（大阪）	山本　次生	北本久美子　廣田　時子　谷地　春子 磯崎　照枝　小池由扶子　金井　和恵 磯崎　京美	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	陣内貴美子　森　久子　捧　匡子 西田美和子　松本　理恵　由町　美樹 赤尾　　香
41	1991	仙台市	サントリー（大阪）	山本　次生	廣田　時子　谷地　春子　小池由扶子 磯崎　照枝　金井　和恵　磯崎　京美 松田　治子　本多　千香	ヨネックス（東京）	栂野尾昌一	陣内貴美子　森　久子　捧　匡子 西田美和子　田村富士美　松本　理恵 赤尾　　香　岩田　良子
42	1992	広島市	ＮＴＴ東京（東京）	宮森　庄吉	上村　美香　岡山登紀子　松尾　知美 道上　彰子　都木　弘美　阪本　雅子 立花　久枝　田児よし子	サントリー（大阪）	山本　次生	廣田　時子　磯崎　京美　谷地　春子 松田　治子　小池由扶子　宮村　愛子 金井　和恵　橋本　淳子
43	1993	高岡市 新湊市 小杉市	サントリー（大阪）	山本　次生	小池由扶子　松田　治子　廣田　時子 宮村　愛子　金井　和恵　橋本　淳子 磯崎　京美　佐藤千賀子	ＮＴＴ東京（東京）	田児よし子	松尾　知美　岡山登紀子　田児よし子 道上　彰子　立花　久枝　阪本　雅子
44	1994	福岡市	サントリー（大阪）	山本　次生	小池由扶子　金井　和恵　宮村　愛子 大田　貴子　廣田　時子　磯崎　京美 本田　　望　宮村亜貴子	ＮＴＴ東京（東京）	田児よし子	松尾　知美　立花　久枝　道上　彰子 田児よし子　岡山登紀子　阪本　雅子
45	1995	札幌市	サントリー（大阪）	山本　次生	金井　和恵　宮村亜貴子　小池由扶子 大田　貴子　磯崎　京美　本田　　望 宮村　愛子　葛野　智子	ＮＴＴ東京（東京）	池田　信孝	松尾　知美　立花　久枝　道上　彰子 阪本　雅子　岡山登紀子　岸　ひろ子
46	1996	東京都	三洋電機（大阪）	銭谷　欽治	井田　貴子　増茂　孝枝　山田　裕美 貴田　　泉　村上　直美　田中　美保 中山智香子　川口　桐香	三協アルミ（富山）	河合　昭博	松田　治子　高野　八重　佐々木　忍 明石　由美　小泉　友紀　河口奈緒美 渡辺真由美　市橋　美紀

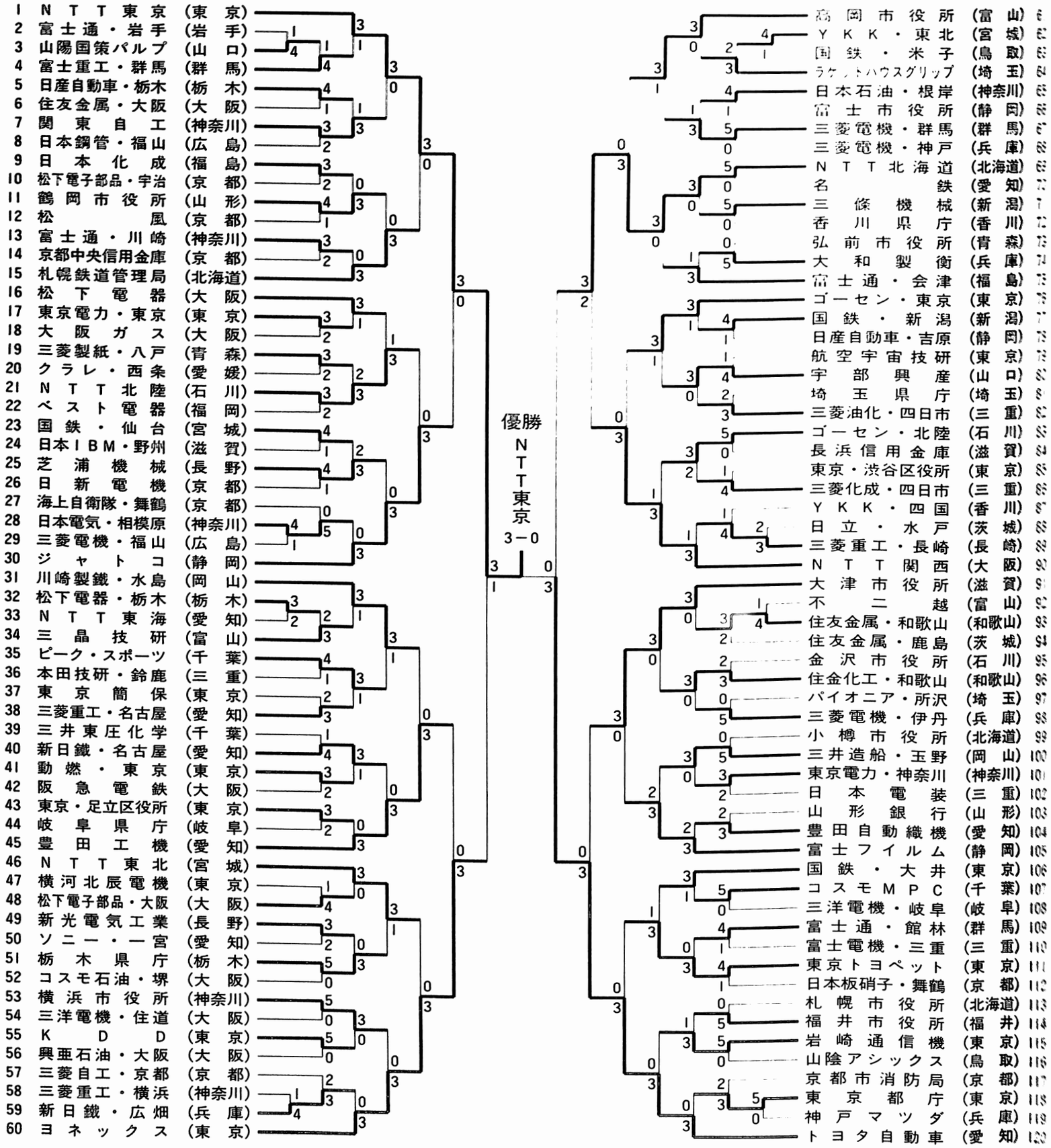
■オープン大会出場選手

県　名	30　歳　以　上	35　歳　以　上
埼　玉	富橋末治・後藤武信	
東　京	大髭輝雄・竹中啓二・前川栄一・斎藤利昭・名越孝行・中津不二雄	森谷喜久男・入間秀哲
新　潟		有本　健・入沢一由
静　岡	滝　正孝・西島知彦	
愛　知	松波　譲・沢田正夫	伊藤雅昭・中川紀嗣・宍戸一秀・境　一弘・油井秀男・井沢　宏 佐藤泰理・鈴木勝美
滋　賀	富田健一・木下寿則・釜屋明和・山田杉男	
京　都	福井達雄・石津正明	
大　阪	片山正昭・原　健	
兵　庫	高木昭憲・奥村晴一	
岡　山	松井　一・藤原　航	小松　貴・青木元春
山　口		宮岡康臣・林　厚志・木山茂雄・田中博美
鳥　取	倉本仁司・砂川清美	
香　川	弾正原義春・岡下俊次・小山光男・岡田忠己	
神奈川	柳田治二・内谷正明・鈴木勝之・古谷陽一・渡辺直人・金子英司 石渡　潤・小松真一・諸石昭好	高山詔二・宍戸安治・甘粕完治・宇波演隆

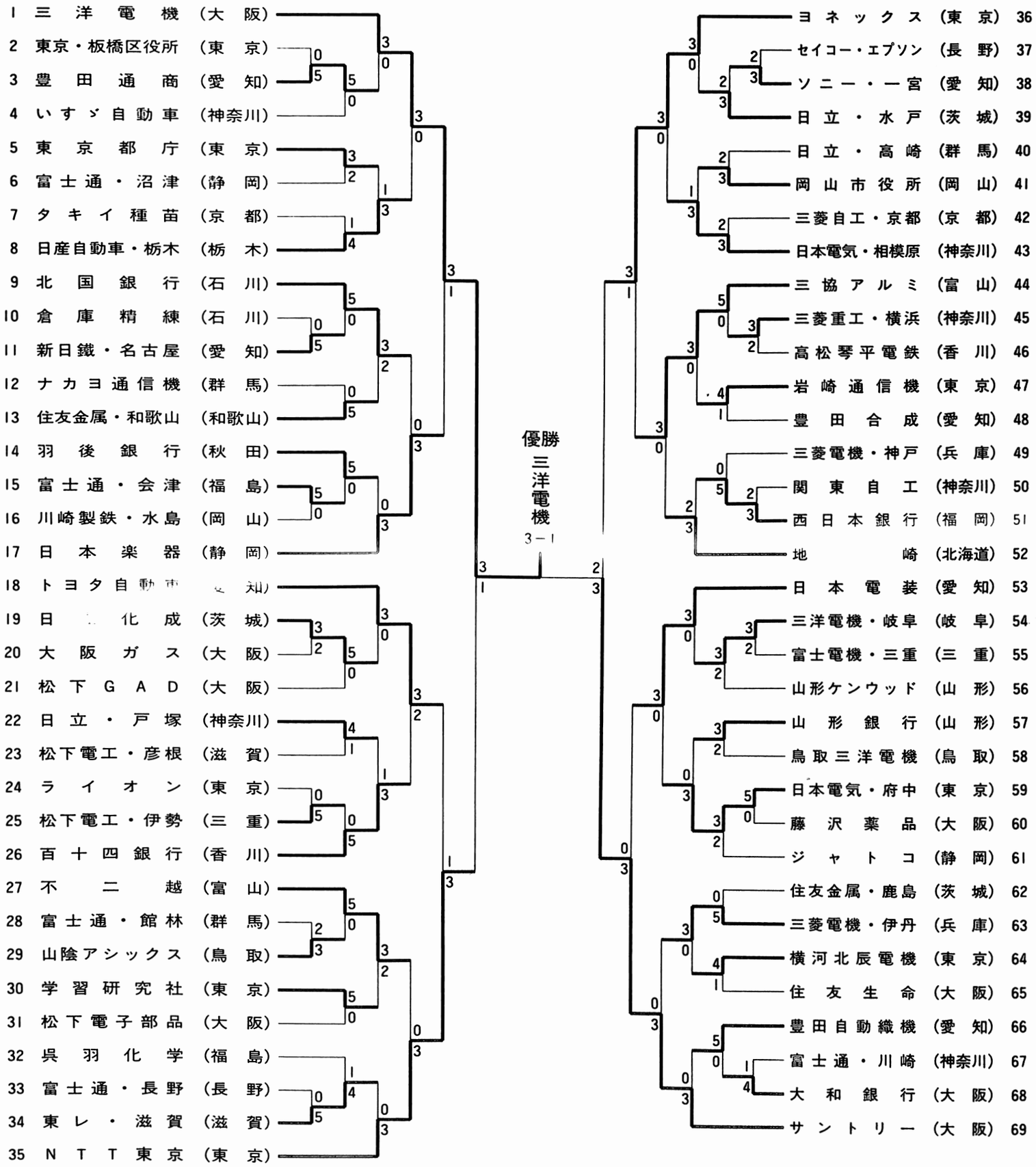
第36回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1986年(昭和61年)6月13～17日
開 催 地：京都府京都市
会　　場：京都府立体育館、京都市体育館

■男子団体の部



■女子団体の部


1 三洋電機 (大阪)
2 東京・板橋区役所 (東京)
3 豊田通商 (愛知)
4 いすゞ自動車 (神奈川)
5 東京都庁 (東京)
6 富士通・沼津 (静岡)
7 タキイ種苗 (京都)
8 日産自動車・栃木 (栃木)
9 北国銀行 (石川)
10 倉庫精練 (石川)
11 新日鐵・名古屋 (愛知)
12 ナカヨ通信機 (群馬)
13 住友金属・和歌山 (和歌山)
14 羽後銀行 (秋田)
15 富士通・会津 (福島)
16 川崎製鉄・水島 (岡山)
17 日本楽器 (静岡)
18 トヨタ自動車 (愛知)
19 日[illegible]化成 (茨城)
20 大阪ガス (大阪)
21 松下GAD (大阪)
22 日立・戸塚 (神奈川)
23 松下電工・彦根 (滋賀)
24 ライオン (東京)
25 松下電工・伊勢 (三重)
26 百十四銀行 (香川)
27 不二越 (富山)
28 富士通・館林 (群馬)
29 山陰アシックス (鳥取)
30 学習研究社 (東京)
31 松下電子部品 (大阪)
32 呉羽化学 (福島)
33 富士通・長野 (長野)
34 東レ・滋賀 (滋賀)
35 NTT東京 (東京)
優勝
三洋電機
3－1
36 ヨネックス (東京)
37 セイコー・エプソン (長野)
38 ソニー・一宮 (愛知)
39 日立・水戸 (茨城)
40 日立・高崎 (群馬)
41 岡山市役所 (岡山)
42 三菱自工・京都 (京都)
43 日本電気・相模原 (神奈川)
44 三協アルミ (富山)
45 三菱重工・横浜 (神奈川)
46 高松琴平電鉄 (香川)
47 岩崎通信機 (東京)
48 豊田合成 (愛知)
49 三菱電機・神戸 (兵庫)
50 関東自工 (神奈川)
51 西日本銀行 (福岡)
52 地崎 (北海道)
53 日本電装 (愛知)
54 三洋電機・岐阜 (岐阜)
55 富士電機・三重 (三重)
56 山形ケンウッド (山形)
57 山形銀行 (山形)
58 鳥取三洋電機 (鳥取)
59 日本電気・府中 (東京)
60 藤沢薬品 (大阪)
61 ジャトコ (静岡)
62 住友金属・鹿島 (茨城)
63 三菱電機・伊丹 (兵庫)
64 横河北辰電機 (東京)
65 住友生命 (大阪)
66 豊田自動織機 (愛知)
67 富士通・川崎 (神奈川)
68 大和銀行 (大阪)
69 サントリー (大阪)

■出場選手名簿

（男子の部）

県名	事業所名	部長（副部長）	監督名	マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	望月幸三朗（伊勢　武）	遠藤　好男	篠尾　幸孝	○米山孝二・遠藤好男・千葉昌弘・久郷俊明・中島俊屋・伊藤雅弘・加藤　学・田中弘幸
	小樽市役所	深山　雄造	大石　章	目黒　清則	○東田朋巳・高野幹男・笹山時彦・磯野智裕・阿部幸夫・徳満康浩・藤川歳之・目黒清則
	札幌鉄道管理局	栗原　進	乙武　重丸	乙武　重丸	○高崎厚生・高橋　進・七崎悦範・松村徳市・松岡　誠・奥名泰光・乙武重丸・山本晴通
	札幌市役所	島中　貞夫	久保田昭夫	渋井　敏紀	○工藤義憲・久保田昭夫・渋井敏紀・中村義則・中平正幸
青森	弘前市役所	小野　浩一	山崎　直樹	中村　博典	○斉藤和則・工藤徳男・福士文敏・佐藤雅幸・佐々木富英・小野浩一・中村博典・山崎直樹
	三菱製紙・八戸	佐藤　靖彦	池田　勝	佐藤　康子	○浅利龍徳・宮川通治・西塚健治・工藤一志・品川正良・嶋田育夫
岩手	富士通・岩手	浅岡　博通	佐藤　酉男	鈴木　礼子	○菊地正昭・岩渕裕光・阿部弘和・藤谷清文・鈴木広志・鈴木浩喜
宮城	ＮＴＴ東北	山田　敏夫	田所　光男	春日　茂雄	○原田利雄・須藤嘉朗・高橋直樹・樋場淳浩・加藤安史・渡辺勝治・菲沢伸幸・高橋則一
	国鉄・仙台	須藤　義昭	笠原　元晴	太田　久夫	○松田芳範・石崎利夫・堀米孝太郎・二瓶源治・石井右示・伊藤　暁・笠原元晴・木村　宏
	ＹＫＫ東北	水口　利之	中塩　房雄	押切　吉基	○小林　修・太田　淳・北浦　順・中村弘康・金輪隆司・千葉清人・中塩房雄・押切吉基
山形	鶴岡市役所	窪田　寛士	小林　保夫	佐藤千佳子	○真田昭良・土原正明・丸山勝美・秋庭一生・佐藤　茂・遠藤清一・阿達和夫・小林　学
	山形銀行	茂木　重蔵	渡辺　勝利	土田　和夫	○荒井謙治・大谷英二・永井　悟・渡辺　賢・鈴木洋史
福島	日本化成	古館　信義	平向　一郎	石井　要一	○平向一郎・藤田　智・小松孝典・石井要一
	富士通・会津	塚越　厚生	青木　昭弘	渡辺　正光	○寺田　繁・渡辺正光・杉原好一・清野徹也・結城富雄・星　徹・本多克博・岩崎三良
茨城	住友金属・鹿島	川崎　守夫	島林　総蔵	生見　晶子	○梅沢和則・岡田常雄・坂本昌士・岸　正仁・板垣龍平・小林靖敏・島林総蔵
	日立・水戸	金内　寛	菅野　孝	小島　孝治	○松崎裕治・小島孝治・狩野秀一・大塚　正・梅室真二・早川　博・菅野　孝
栃木	栃木県庁	湯沢　雄一	湯沢　雄一	和久　光男	○鈴木　武・湯沢雄一・古沢元浩・池田勝浩・原　利浩・和久光男・琴寄行雄・小島秀雄
	日産自動車・栃木	千葉　忠祐	大八木　正	大高　正江	○大八木正・笠井孝之・飯田良二・入江正夫・入江久夫・新山守男
	松下電器・栃木	宮野　隆三	岡室　利彦	伊原　武司	○岡室利彦・山崎秀之・斉藤義一・呉井信夫・渡辺智博・加藤昭宏・松本　誠・高橋利光
群馬	富士重工・群馬	杉本　伸夫	渡辺　晃一	大木　利行	○中居功治・竹内康夫・島田清和・目黒正浩・岡田孝雄・丸山清春・福井一夫・古賀俊輔
	富士通・館林	尾山　英雄	安藤　修二	安藤　修二	○木村　博・松元功一・横山　稔・石戸広昭・渡辺文明・君嶋　修
	三菱電機・群馬	石井　克典	米田　守	町田　光之	○米田　守・石井勝彦・町田光之・境野英光・久保田好光・藤生昭夫・宮下輝正
埼玉	埼玉県庁	吉成　素彦	黒須　栄	芦沢　正博	○久保田宇作・荒木正則・粂　浩二・大熊　孝・石塚光夫
	パイニオア・所沢	鈴木　勤	近藤　均	那賀　敬弘	○馬場良一・近藤　均・鈴木洋一・澤辺孝夫・山下　力・那賀敬弘・三上利夫・千葉　健
	ラケットハウスグリップ	富橋　末治	後藤　武信	粕谷　肇	○三浦　誠・後藤武信・粕谷　肇・富橋末治・小野玲穂
千葉	コスモＭＰＣ	久保　浩	浅利　章悦	前田　益孝	○佐藤一男・滝本和大・田中政剛・斉藤正敏・岩瀬　洋・佐々木仁一・浅利章悦・前田益孝
	ピークスポーツ	峯元　一匡	大場　和博	鈴木　啓次	○新井春雄・大場和博・織本冨之・鈴木啓次・吉永法男・鶴野　弘・峯元一匡・杉　幸助
	三井東圧化学・千葉	石田　紘志	江藤　太志	斉藤　忠	○斉藤　忠・畠山　修・今井保夫・星　光春・江田信一・伊藤武志・島田　孝・橋本隆喜
東京	ＮＴＴ東京	鈴木　龍平	池田　信孝	瀬田　幸夫	○尾崎幹雄・土田証雄・宮森庄吉・西山博司・本田浩二・長内征美
	ヨネックス	土田　隆	長谷川博幸	望月　資	○長谷川博幸・宮本幸弘・石場隆雄・伊東幸男・松浦進二・丹藤勇一・望月　資
	岩崎通信機	定野　満	家串　友治	北本　清行	○宗形一志・家串友治・手塚浩志・手塚雅志・鳥羽恒康・黒澤　武

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名（○印は主将）
東京	KDD	武村 俊平	大髭 輝雄	目黒 仁一	○藤平 守・前川栄一・橋本敏邦・永野 茂・松永 浩・谷岡祐一 嶋田 聡・太田博之
	航空宇宙技研	堀内 正司	楯 篤志	中村 孝	○楯 篤志・堀内正司・名越孝行・平林則明・野口正芳・佐藤 衛
	国鉄・大井	小川 明	榎 博久	小原 州山	○落合康夫・榎 博久・鈴木登美夫・佐川伸一・岩本 裕・阿部 徹 加藤 仁・八幡敬尚
	ゴーセン・東京	山上 啓三	中村 輝光	石塚 和枝	○鎌田啓睦・本石俊憲・兼坂省一・葛西孝輝・蒔田新一・上野儀一 中村輝光
	東京・足立区役所	巽 昭	馬場 猛夫	鈴木 敦子	○小林光雄・鵜沢敏信・大和田勉・久保井秀夫・丸山秀高・笹林義春 馬場猛夫
	東京簡易保険局	蔵之内信昭	古明地正邦	広田みちる	○小畑辰美・古明地正邦・中沢睦夫・飯塚正之・八杉貞雄・吉野章二 小林正人・岸 利彦
	東京・渋谷区役所	秋野 尊愛	近岡 昭	和田由貴江	○桑原和夫・近岡 昭・佐野浩一・真木洋一・遠山敏幸・川口善司 福島和也・高井秀明
	東京電力・東京	内田 修	内田 修	高野 徹	○石原泰造・岩間 源・厚川 勇・橋本 栄・塙 勝治・高野 徹 信太正憲・内田 修
	東京都庁	島田 稔	大原 政義	黒田 祥之	○後藤 勝・小林賢治・高田 浩・中田洋二・首藤誠司・落合真人
	東京トヨペット	入間 秀哲	入間 秀哲	沢田 和俊	○福田利男・橋川光孝・大瀬久司・根岸 信・神田正浩・沢田和俊
	動燃・東京	三島 毅	三浦 満	小谷 美樹	○真鍋建史・三浦 満・牧野 勉・小椋幸男・栗原幹雄・小谷美樹
	横河北辰電機	南條 尚	南條 尚	石川 俊夫	○千野一彦・岸波利夫・上原日出男・山下富雄・林 正哉・横川明弘 清水孝祥・鳥山祐一
神奈川	関東自工	有村 洋一	高橋 清	中嶋 昌美	○細谷 昇・高橋 清・高橋久之・一瀬浩美・友広徹郎・奈良秀行 宮本弘幸
	東京電力・神奈川	臼田誠次郎	笛田 卓司	原 祐司	○小林栄二・五十嵐功・田中 徹・二階堂昌明・板倉 敏・赤坂和久 山本 正・渡辺政幸
	日本石油・根岸	京屋 孝治	泉 信夫	泉 信夫	○石渡輝巳・京屋孝治・泉 信夫・丸山則明・高橋 登・目黒善喜 野友昭夫・渋谷和浩
	日本電気・相模原	板倉 信雄	宮入 恒明	新谷 哲生	○西出龍守・月岡貴公・高橋伸弥・土田秀紀・高橋英昭・内山泰則 中島次郎・宮城俊一
	富士通・川崎	出浦 通夫	青木 一夫	青木 一夫	○青木一夫・寺門義之・後藤正志・鶴田紀雄・稲垣広宣・増子克幸 岩松隆則・菅田直純
	三菱重工・横浜	前沢 祐一	鈴木 勝之	上野 強	○古谷陽一・小松 宏・鈴木勝之・上野 強・江見正和・清田正弘 前田淳一・植木恒光
	横浜市役所	元木 光男	宍戸 安治	村松 利之	○斉藤英昭・渡辺直人・金子英司・秋葉 博・森 篤・広沢昭一 根本道夫・柄本 孝
新潟	国鉄・新潟	植村 俊夫	大堀 正明	松島 宏志	○桜庭春芳・大野得郎・田村 功・山田 健・重山 明・菅原清隆 松島宏浩・山岸利郎
	三條機械製作所	外山 修	佐藤 幸明	青木 明	○鈴木 裕・米山 高・羽龍良記・丸山勝弥・深沢慎一・中条雅良 久住勝利・金子 聡
長野	石川島芝浦機械	松戸 幸雄	北川 良司	三村 昌永	○赤羽元春・奥原祐二・黒須勇児・座光寺俊二・丸山 宏・北川良司 平林敏生・三村昌永
	新光電気工業	高橋 昌彦	高橋 昌彦	山本 秀一	○井上慎二・川島雅幸・山浦賢一・山本秀一・清滝 博・小林博文
富山	高岡市役所	前原 寿夫	中山 邦夫	河村 博之	○今泉 勉・関村順治・牧野光男・米沢和男・宮林照男・米 正隆 末坂 進・西本幸夫
	三晶技研	稲沢 光雄	浅井 秀一	毛利 智成	○吉森勝之・毛利智成・森 佳和・北野 隆・寺田信行・堀 正人
	不二越	川上 洋一	畑 栄進	平井 智美	○八川修一・山崎 明・中島 進・新田寛義・碓井政人・八町康行 甚内豊久・畑 栄進
石川	NTT北陸	浅埜 正吾	松下 力	直地 直	○宮本勝裕・松下 力・浜谷安裕・塩田光男・谷島助男・嵐山正二 森田 均・宮本照啓
	金沢市役所	駒谷 良則	太田 博之	松本三千代	○大村正信・米田幸生・山下敏行・林 芳広・森 昭則・毛利達彦 田村 稔・庄田秀実
	ゴーセン・北陸	上田 了	村谷 信男	酒井 直人	○酒井直人・谷島英男・水上 智・村谷信男・伊崎克徳・中元 学
福井	福井市役所	山本 敏彦	増永 秀則	岩本 好文	○嶋田伸行・谷口治光・宮原 一・北川修二・岩本好文・増永秀則 山本敏彦
岐阜	岐阜県庁	篠田 恭彦	浅野 人美	内記 淳司	○加納義之・高橋伸治・田口伸治・小島一也・柳生一成・荻巣雅俊 内記淳司

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名（○印は主将）
岐阜	三洋電機・岐阜	阪口巳代治	中井 宏幸	川述 貞延	○藤井昭生・澤井哲一・藤本高義・内田清人・石丸貴久・中村 修 川述貞延
静岡	ジャトコ	佐場野英一	後藤 和之	佐藤 佳久	○芹沢英彦・後藤和之・関野 強・吉野智昭・佐吉勇人・鈴木朗典 中田 茂・村松 一郎
	日産自動車・吉原	飯島 孝彰	山本 秀和	若松 誠	○鳥居郁夫・平野哲司・山本秀和・若松 誠・中司 勇・石塚宏一 秋田谷淳
	富士市役所	影山 隆亮	川端 忠司	増田 鍵一	○菅沼友明・笠井好美・吉郷文博・笹村安英・増田鍵一
	富士フイルム	滝 正孝	滝 正孝	滝 正孝	○西島知彦・井出裕雄・池田光宏・武井弘征・竹田明彦・川原崎仁 吉岡直彦・滝 正孝
愛知	トヨタ自動車	北田 寛一	山本 秀樹	山本 秀樹	○須貝英徳・坂井外喜男・川本英明・古賀勝志・芦井隆俊・山本秀樹 宝達昌嗣
	NTT東海	小野 豊久	伊藤 雅昭	宍戸 一秀	○水谷悦郎・中川純嗣・伊藤正昭・中村昌司・清水孝四・木下耕一 池田文彦
	新日本製鐵・名古屋	小島 吉夫	天野 良彦	加藤 勇一	○白田直人・山西友幸・納所久夫・坪井英之・天野良彦・佐々木秀一 林 甚代・田中敏夫
	ソニー・一宮	岩田 照道	加納 好道	岩下富士男	○内山真信・清水健司・森 健児・坂本和成・坂井浩一・加納好道 佐々木講一
	豊田工機	佐伯外與昭	佐伯外與昭	石原ひかり	○日比野伸昭・鉾登志郎・野呂 徹・土田信也・東 正也・永多 実 小島厚志
	豊田自動織機	大東 祥順	武田 正雄	朝倉 康善	○岩渕信司・石井宏明・尾崎 弘・近藤善英・浅井 淳・林 忠明 間瀬敏秋・福士美浩
	名鉄	速水 正昭	井沢 宏	加藤 憲治	○井上 龍・加藤保利・林 久男・斎藤敬一郎・松田浩資・村上敏行 山本良雄
	三菱重工・名古屋	石川 義治	沢田 正夫	旭 奈穂子	○沢田正美・松波 譲・石川義治・旭実喜雄・船木真司・柴田慎一 山中充正・稲垣省司
三重	日本電装	田中 篤郎	片岡 泰	片岡 泰	○片岡 泰・須藤憲一・福士武寿・浜口勝正・寺崎 明・服部慶一
	富士電機・三重	山口 香	下田 勲	森川 広美	○下田 勲・森川広美・藤本規夫・小林英毅・森田善幸・安保尚雅 水谷俊雄・稗田寿道
	本田技研・鈴鹿	井上 鉄也	井上 鉄也	井上 鉄也	○井上鉄也・朝日奈正光・鈴木義弘・澤口達哉・古川勝康・世古浩一 池田 勉・知光耕治
	三菱化成・四日市	増井 孝夫	小林 信行	黒宮 香	○市来啓郎・田中秀俊・小林信行・伊藤正巳・名田晃宏・荻田昌昭 石井繁光・手島隆雄
	三菱油化・四日市	高橋 力男	大倉 忠	生川 文彦	○安良城雄介・大倉 忠・鈴木正平・泉 洋二・井崎敏巳・一木弘之 北村 保・高橋力男
滋賀	大津市役所	佐藤 賢	釜屋 明和	西原 四郎	○増田伊智郎・中村 亨・奥村 真・矢部忠司・竹端英夫・中川 健 中川 康・山田杉男
	長浜信用金庫	川村 義夫	横山 昌弘	野木 秀樹	○竹中滋祥・横山昌弘・平本秀章・浅井浩二・金森 亮・野木秀樹
	日本IBM・野洲	石原 誠	富田 健一	寺井 治和	○梅本一寛・俣木淳一・森川潤一郎・東郷浩司・小林浩明・塩田晃二 磯田茂和・大迫昭憲
大阪	NTT関西	村田 宏	冨田 章夫	吉兼 保	○守安達二・武野 忠・近藤雅明・松井峰生・奥野 勉・冨田章夫 保科正浩
	大阪ガス	野村 明雄	北野 公男	弘瀬 一生	○北川伝治・西野幸雄・小西秀政・田中真平・高石 哲・斉藤浩司 塩田 孝・早水栄治
	興亜石油・大阪	久村 幸正	井関 博	溝口 光義	○吾郷裕志・坂井秀昭・中北輝助・日下英明・広田喜信・溝口光義 中本義樹
	コスモ石油・堺	清水 邦彦	疋田 栄一	尾北 和美	○諏訪 弘・和久谷富章・楠戸春則・穂谷真弘・竹内洋雅・疋田栄一 辻 正博・芝村伸也
	三洋電機・住道	池田 三郎	篠原 達夫	辻田 平幸	○久保田義弘・岩崎正彦・角南行治・山内重夫・大田和男・西島 功 高橋義和・江木 浩
	住友金属・大阪	中沢 恒	中沢 登	西村 央子	○山口正和・梅本 彰・藤野勝次・野村 隆・梅津裕一・斎藤正博
	阪急電鉄	野沢 明雄	市橋 茂	森 富恵	○下野治生・出田安隆・長沢秀信・西郷幸司・佐藤俊哉・大野孝二 小野俊雄
	松下電器・大阪	渡辺 雅仁	宮崎 庄一	北野 誠一	○山川正一・那須哲太郎・中角好男・川本厳良・森脇紳二・樋口正幸 山口昭彦・宮崎庄一
	松下電子部品・大阪	吉川 照意	若松 伸彦	山下 仁	○松本浩二・長山武弘・名川達弥・田原 博・木下 保・長谷浩道 見市幸司・西井伸之

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名（○印は主将）
兵庫	神戸マツダ	橋本　正己	藤江　久善	川畑　幾世	○服部清彦・秋月道隆・森野修治・岡田克美・小島政浩・藤江久善 竹内　茂
	新日本製鐵・広畑	川崎　良樹	平松　重吉	泉　吉弘	○片岡正之・平松重吉・塩飽　初・横山真二・藤城武義・広岡輝男 八十友昭・堤田富大
	大和製衡	木下欣二郎	小川　雄一	草田　隆	○山本　勝・小川雄一・稲本光一・草田　隆・藤本純一・黒田真孝
	三菱電機・伊丹	伊藤　利朗	寺尾　一秀	北　義一	○入口弥一郎・直野俊治・寺尾一秀・志方　光・坪井光明
	三菱電機・神戸	佐々木利彦	上藤　朝之	野崎かおる	○池渕順一・三宅慎太郎・白石　哲・佐々木利彦・糸田　敬 真崎和美・上藤朝之
和歌山	住金化工	辻　司	塩谷　廣次	岩本松次郎	○山路幸三・森　隆・徳岡昭次・西　章弘・中尾孝司・菊地雄二 岩本松次郎
	住友金属・和歌山	竹山　宗芳	川村　桂司	福島　一正	○小川　均・北山洋二・野沢英雄・梅林信幸・西山祥一・乳井重雄 児嶋　浩・北川　康
鳥取	国鉄・米子	向井　文夫	向井　文夫	布廣　淳史	○松下泰司・布廣淳史・田中博己・足立　勉・三輪哲也・船越賢一郎
	山陰アシックス	田中　平三	安部　一夫	吉田　由美	○武良進吾・山本　浩・高梨　務・浜田一也・崎津　勉・掘田　誠 柏木慎一郎・安部一夫
岡山	川崎製鐵・水島	戸部　俊一	中山　睦雄	穴吹　栄二	○藤原道弘・平田重男・北村治雄・西江　均・片岡洋一・三村勇人 中山睦雄・穴吹栄二
	三井造船・玉野	細田　高代	藤原　航	松岡　純子	○山本　清・若林邦任・土居信夫・松井　一・芳上一男・藤原　航 高本行男・田丸勝巳
広島	日本鋼管・福山	脇谷　昇武	田上　義美	藤井　直美	○田上義美・小野裕正・財津真二・上杉淳司・佐藤嗣隆
	三菱電機・福山	稲田　信	稲田　信	山崎　史郎	○安達恵吉・山岡　満・山崎史郎・安達喜兼・板森増二・桑田裕一
山口	宇部興産	田中　実男	末廣　秀樹	田中　義秋	○坂本賢二・河添忠夫・沖　貞雄・安田耕司・吉川直樹・末廣秀樹
	山陽国策パルプ	谷渕　龍夫	宮岡　康臣	貴船　博己	○高橋良明・林　厚志・村上弘明・高橋和也・後藤　晃・森本孝敏 宮岡康臣
香川	香川県庁	真鍋　剛	弾正原義春	谷本　竹司	○今雪良智・弾正原義春・岡田忠巳・岡　道祐・谷本竹司・香川正樹 永瀬守俊・豊島正人
	ＹＫＫ四国	横幕　賢一	古竹　公三	角野　晃和	○古竹公三・沢野訓彦・小比賀英二・好井博文・山本　学・麦谷敏也
愛媛	クラレ・西条	山[illegible]　次郎	横井　虎男	橋田　国司	○三村一郎・安永[illegible]・加藤[illegible]・野口秀文・川上悦典・田坂祐二 近藤勝行・上川徳郎
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　裁美	武川　博美	○相良勝吉・辻本良三・奥山祐司・近藤公輔・藤本　悟・多賀陽一 石田隆之・堀　賢輔
長崎	三菱重工・長崎	江戸昭八郎	田中　貞夫	田中　賢介	○江坂敏郎・竹永　学・森田純一・三根　哲・福田良治・中野和雄 田中貞夫・田中賢介
京都	海上自衛隊・舞鶴	梶　昭宏	八木　英俊	川村　道厚	○白井規久夫・白井幸夫・田野栄敏・瀬野俊策・沢田巧二・藤村利美 長岡好徳・村上和人
	京都市消防局	石田　雅彦	田中　博	大辻子了二	○北村　伸・酒人立昌弘・物部秀樹・伊藤昇司・市田悦万・田中　博 大辻子了二・辻　米英
	京都中央信用金庫	黒田　豊	黒田　豊	吉田　清隆	○吉田憲一・根本　一・安永　誠・米光秀夫・平井　悟・菅生　誠 松崎憲一・矢野暢久
	松風	高藤　哲岳	高藤　哲岳	大石　摂子	○徳田　進・高藤哲岳・深谷幸雄・伊佐恒範・出口幹人・奥田馨史雄
	日新電機	木全　薫	林　保治	高田　弘	○梶村和成・橘　栄作・山中秀樹・富田久幸・宮林幸正・村上勝也 神川哲也・前田　恒
	日本板硝子・舞鶴	永谷　秀之	竹田　正明	藤野外志郎	○藤野外志郎・永谷秀之・英　進介・荒木　進・岡山彰夫・吉崎　彰 山田佳哉・森本　進
	松下電子部品・宇治	九里　哲夫	久保　正人	久保　正人	○田中徳兵衛・宮澤久男・山岸武泰・太田智一郎・金　泰男 柴田　悟・瀬尾賢次
	三菱自工・京都	岡本　宏也	戸沢　正雄	石津　正明	○佐々木正司・福井達雄・寺尾　豊・谷沢和彦・福元達雄・広瀬　敬 白石晋也・藤井敏正

（女子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	地崎	岩崎　昭郎	岡本　伝	奈良ゆかり	○和田美津子・加藤洋子・奈良ゆかり・小川美和
秋田	羽後銀行	細谷　昭次	村越　稔	相場　清一	○石郷岡真弓・米田浩子・永沢真澄・柳谷郁子・菊地公子

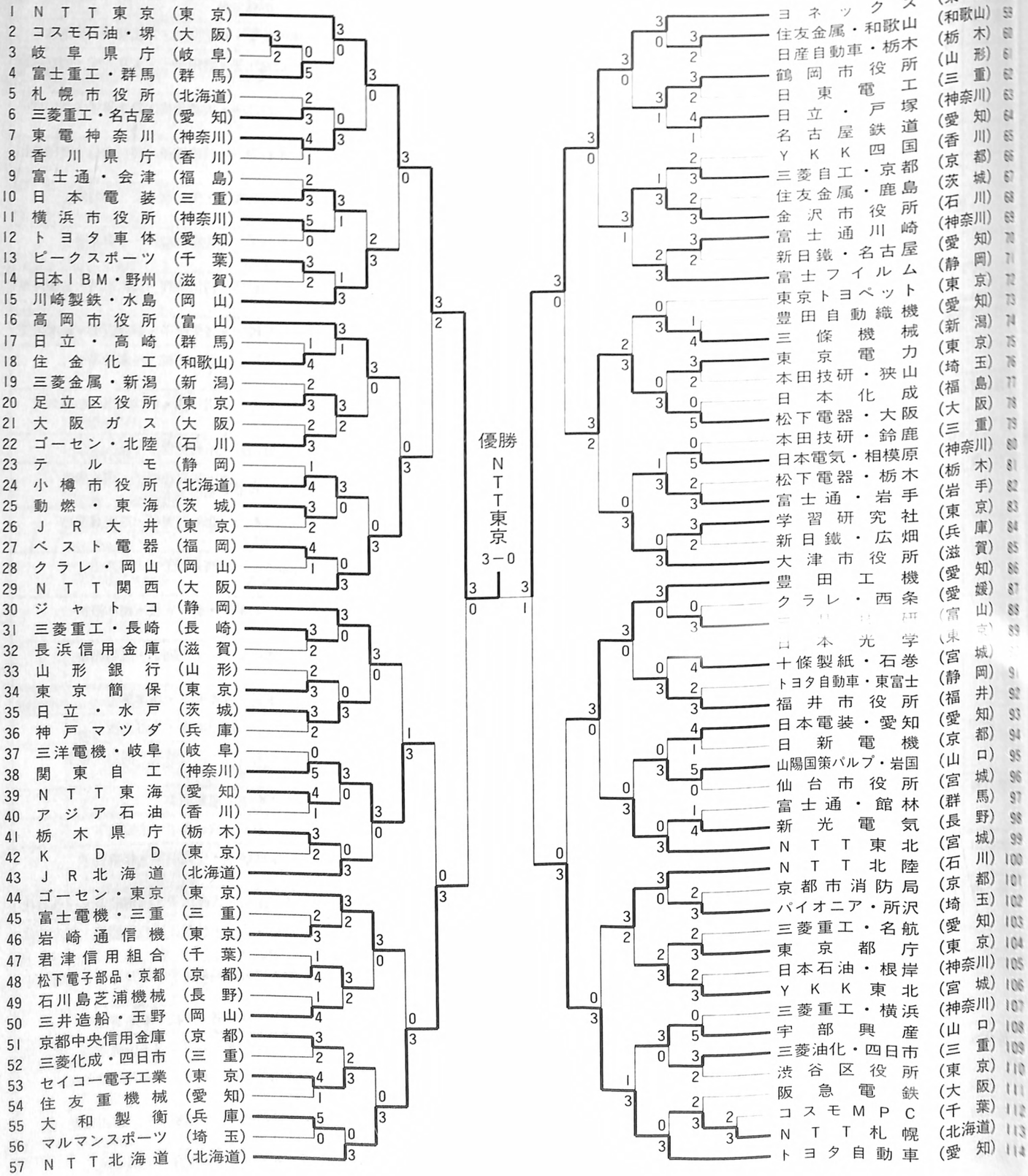
県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
山形	山形銀行	茂木　重蔵	伊藤　孝夫	土田　和夫	○金子美由紀・石沢恵美子・斉藤晴美・渡辺由美子・森谷浩子
	山形ケンウッド	神山　三男	神山　三男	神山　三男	○五十嵐隆子・野口かおり・若木小百合・工藤美枝子・白幡慶子 佐藤啓子
福島	呉羽化学	中野　恭雄	丹野　敦之	小野　利彦	○鈴木紀恵・伊藤昌代・根本敦子・橋田富枝・柴田敦子
	富士通・会津	塚越　厚生	谷沢　正広	渡辺　正光	○青木マチ子・高橋久仁子・長谷川加代子・菊地美香・安斉英子 五十嵐一枝・須貝やよい・佐藤洋子
茨城	住友金属・鹿島	川崎　守夫	島林　総蔵	生見　晶子	○川村裕子・瓜田博子・山口弘子・奥瀬知香・五十嵐靖子
	日立化成・下館	中東　三嘉	岩田　郷彦	鈴木　由美	○藤井美子・川澄奈穂実・香取真由美・倉持美紀・小祝幸代 吉田友子
	日立製作所・水戸	金内　寛	早川　博	小島　孝治	○大貫敦子・伊藤恵子・竹内香代子・有馬正美
栃木	日産自動車・栃木	千場　忠祐	田中　英男	大高　正江	○大高正江・武井正代・須藤千代子・光田和恵
群馬	ナカヨ通信機	小栗　征夫	上野　弘一	青山真智子	○青山真智子・石井清美・板橋春美・大久保麗香・根津真奈美 大沢光江
	日立・高崎	松本　博之	別所　明雄	安藤　則夫	○岡田三枝・吉井君枝・茂木ゆかり・曽田幸子・高瀬晴美
	富士通・館林	尾山　英雄	安藤　修二	安藤　修二	○広田恵子・河田恵美子・志津利恵子・遠藤幸恵・土崎順子
東京	NNT東京	鈴木　龍平	池田　信孝	瀬田　幸夫	○米倉よし子・久保知佳子・平井真由美・小飼真弓・上村美香 星野実智代
	ヨネックス	吉本　貞夫	栂野尾昌一	徳光由美子	○高野和代・栂野尾悦子・藤井直子・陣内貴美子・高峯尚子 森山弘美・青木きよみ・徳光由美子
	岩崎通信機	足野　満	家串　友治	北本　清行	○時田弘子・手塚ひとみ・藤沢直美・村山恵三・高梨法子
	学習研究社	小島南海雄	今井　茂満	長谷川はるみ	○大塚千賀子・鎌田みゆき・杉山紀子・川島奈緒子・永田ゆうなぎ 小林紀子・中山美里・和田千尋
	東京・板橋区役所	三本　達吉	三本　達吉	栗原美智子	○岡山香織・内田利恵・大久保真枝・鈴木さえ子・石山陽子 栗原美智子
	東京都庁	島田　稔	島田　稔		○大里まゆみ・稲原朋子・堀切園むつみ・田倉テイ子
	日本電気・府中	渡辺　健彦	丸山　一馬	福島　芳美	○林　敬子・関口宏美・吉田幸子・石塚美和子・中村美代子 吉野かほる
	横河北辰電機	南條　尚	生田　美穂	田口　義紀	○清水美恵子・生田美穂・畠山美彩・山田美恵・西田幾子・沢田　泉
	ライオン	荒井　道夫	大野　憲弘	村上　公子	○中山光子・篠崎祐紀子・黒岩和子・小林福代・長田江身子 三好圭子・小松幸子
神奈川	いすゞ自動車	小川　恵也	手塚　利男	手塚　利男	○手塚優子・古谷野有子・星　和子・二宮由美子
	関東自工	有村　洋一	高橋　清	中嶋　昌美	○金成正美・片瀬寿賀・行方淑枝・中嶋昌美・林　直美・植竹由美
	日本電気・相模原	板倉　信雄	宮入　恒明	二瓶由理子	○大熊千恵子・高橋和子・関　由妃・松下直子・月野裕喜子 藤松正美・長原真理
	三菱重工・横浜	前沢　祐一	鈴木　勝之	横山しのぶ	○熊沢加代子・大竹真紀子・横山しのぶ・高橋理恵・三浦美子 松本美恵子・菅野佳枝
	日立・戸塚	田中　康之	佐藤　久敏	北村　敏明	○永山由紀美・高山秀子・井上雅子・伊藤麻利子・小川明美 黒田智子・岸本ひとみ・樋口晶子
	富士通・川崎	出浦　通夫	青木　一夫	青木　一夫	○高橋明子・駒場政江・和久井陽子・小泉貴和子・松岡　泉 小川裕美子・米内山啓子・海老沼ひとみ
長野	セイコーエプソン	木下　宏行	木下　宏行	北原　龍也	○板垣奈美・中沢静江・矢崎雅子・岩波和子・東海林とも子 古畑明美
	富士通・長野	桑原　信行	篠崎　俊久		○吉岡かおる・丸山美代子・梅沢悦子・滝沢政子・東山純子 加藤純子・高山卓子
富山	三協アルミ	渡辺　圭一	北山　清志	河合　昭博 藤川　知子	○今川真理子・大谷鶴美・田向和子・山田美紀・中出　忍・上浜陽子 藤川知子
	不二越	川上　洋一	畑　栄進	平井　智美	○山谷光代・甚内美雪・高本清美・笹野淳子・田辺佐依・川上麻子 平井智美
石川	倉庫精練	若松　忠夫	東　茂樹		○湊　昌代・沢由香利・松本正美・不島幸江・高森麻貴・中村孝代
	北国銀行	明石　宗一	岡部　憲昌	羽田　義仁	○彼島佳子・水本幸代・大野亜矢子・斉藤美和子・一木千代乃 油野敏美・丸山晴江・松本悦子
岐阜	三洋電機・岐阜	阪口巳代治	中井　宏幸	川述　貞延	○高橋由美子・大橋由子・林佳津代・後藤洋子・三田陽子

県名	事業所名	部長（副部長）	監督名	マネージャー	選手名（○印は主将）
静岡	ジャトコ	佐場野英一	松山　博雄	遠藤　弥生	○遠藤弥生・望月貴代美・高井良枝・大内めぐみ・高井治代
	日本楽器	進　九三郎（大菅裕而）	飯野　佳孝	吉氷　将史	○元田里恵子・尾崎升美・大田真由美・松嶋由美・谷本美代子 笠原千夏子・金丸陽子・横手智江美
	富士通・沼津	吉田　哲三	渡部　真生	渡辺　誠	○安井真弓・井上由美子・伊代野栄子・井沢　薫・掛橋将信 長谷川明子・小玉恵美子・掛橋多貴
愛知	新日本製鐵・名古屋	小島　吉夫	佐々木秀一	渡辺　弘美	○谷内陽子・渋谷裕子・早川聡美・渡辺弘美・片山徳枝・菊地恭子
	ソニー・一宮	岩田　照道	岩下富士男	倉田　靖子	○西口美鈴・今井貴子・名知知江子・倉田靖子・矢島　栄・間宮弘恵 後藤和子
	豊田合成	竹内　邦嘉	岡田　誠治	野村　幸信	○平松ゆかり・宮田秀子・中村洋子・大橋佳代・鈴木昇子・塚田博美 舟橋明子・鈴木芳子
	トヨタ自動車	北田　寛一	谷口　寛	光石　寿子	○遠藤真弓・松井香奈枝・光石寿子・竹内淑子・林　幸枝・高田美和 松本清美・伊倉幸子
	豊田自動織機	大東　祥順	武田　正雄	朝倉　康善	○黒澤江美子・徳留芳美・佐藤裕美子・野呂奈生子・津崎孝子 宿屋美佐子・田路淳子
	豊田通商	西山　直文	西山　直文	中野　和美	○奥田恭子・奥村ひろみ・光崎祐子・佐藤眞理子・中野和美 近藤晃代
	日本電装	竹内　秀夫	藤江　至	元田　慶子	○宮本美津子・佐名美幸・元田慶子・白川由理・高原恵美・永野洋恵 丑田明子・佐藤浩子
三重	富士電機・三重	山口　香	下田　勲	森川　広美	○黒宮智子・宮尾典子・萩野美和・水谷栄里子・新開直美・鈴木朱美
	松下電工・伊勢	元山　正徳	上田　晴美	杉田　保美	○杉田保美・山本節子・山下小百合・西口千種・馬瀬登志子 奥村美智子
滋賀	東レ・滋賀	山田　雅平	山中　保一	田中　実	○加藤典恵・西山綾子・沢田礼子・中川　都・中井幸恵・杉本久美 杉本由紀路・沢野美津子
	松下電工・彦根	谷　和男	谷　和男	西堀ひさ子	○清水幸子・安澤千賀子・寺村由美・中村佳世
大阪	三洋電機	中井　健三（月原　朗）	宇治　収	銭谷　欽治	○北田スミ子・平山美恵子・岡田由美・星野由美子・清水尚美 鴻原春美・小泉陽子・田代美智世・奥山保子
	サントリー	長谷川理夫	宮崎　克己	山本　智恵	○西村美千代・高峯和子・田島志乃・北本久美子・原田真理恵 渡辺律子・廣田時子・谷地春子
	大阪ガス	野村　明雄	北野　公男	弘瀬　一生	○柳瀬典枝・荒西継美・園部祐子・厚地美智子・大町奈生 長谷部知子・中瀬奈美
	住友生命	高畑　義郎	丸井　広道	前川智恵美	○井上昌子・三間加奈子・石川恵美子・撰　宜枝・梅本優美 瀬野めぐみ・前川智恵美
	大和銀行	伊藤　憲二	伊藤　憲二		○津田佳代子・山本美江・紅露ゆかり・千田朗子・尾崎和枝 長沢幸江・柳生圭子
	藤沢薬品	岡本　司	岡本　司	永易　伸二	○西条紀子・鈴木京子・内田博美・佐藤典子・坂本葉子
	松下ＧＡＤ	渡辺　雅仁	宮里　重信	卜部真由美	○上野真弓・紙田佳美・山下裕子・西田美貴・大谷美樹
	松下電子部品・大阪	吉川　照意	吉川　照意	山下　仁	○濱田裕美子・渡辺照美・松井美智子・高谷晴美・前川早智子 赤松知衣子・中村いと子
兵庫	三菱電機・伊丹	伊藤　利朗	矢賀　雅人	北　義一	○白井洋子・伊藤里美・荻生美奈子・尾亀瑠美
	三菱電機・神戸	佐々木利彦	中野　牧子	野崎かおる	○馬場慶子・藤田直子・野崎かおる・武貞景子・中野牧子
和歌山	住友金属・和歌山	竹山　宗芳	川村　桂司	福島　一正	○正田美智子・栗原里津子・後藤佳子・中島明美・和泉礼子 嶌田訓子
鳥取	山陰アシックス	田中　平三	柏木慎一郎	吉田　由美	○森脇富子・坂本佳代子・吉田由美・佐藤恵子・岡田朋子・遠藤春代
	鳥取三洋電機	棚木　徹	鷲見　育亮		○福田麻寿美・徳長由美・小坂淳子・小林延江・西尾朋子・森木文代 岩見弥生・山下まゆみ
岡山	岡山市役所	岸本　秀雄	青木　元晴	妹尾　和彦	○藤木史子・岡百合子・大橋　恵・吉田千賀子・沼野量子・相賀節子 岡部美賀子
	川崎製鐵・水島	戸部　俊一	古賀　知子	穴吹　栄二	○古賀知子・亀山結花・竹林喜久美・川上幸枝・荻原富江
香川	高松琴平電鉄	中村朔之介	東条フミ子	東条　義昭	○東条フミ子・前川知寿子・成合三枝・桑田和代・山崎直美
	百十四銀行	窪川　道夫	佃　貴子	辻　章子	○佃　貴子・樋口礼子・永井明美・中川富美子・平井美代子 山田理恵・武内真由美・松村晴子
福岡	西日本銀行	古賀　誠二	釜　洋輝	高見みどり	○高見みどり・阿武屋圭子・浜口孝子・上原ゆかり・清田香苗 浜マサ子・白石恭子
京都	タキイ種苗	麻田　次男	橋本　正己	矢島　美貴	○岡田真理子・矢島美貴・茶野圭子・田中久代・大森一美
	三菱自工・京都	岡本　宏也	戸沢　正雄	石津　正明	○高倉さち子・山口明美・岩谷彩子・北川典子・浜田　薫・大槻悦子 春原一葉

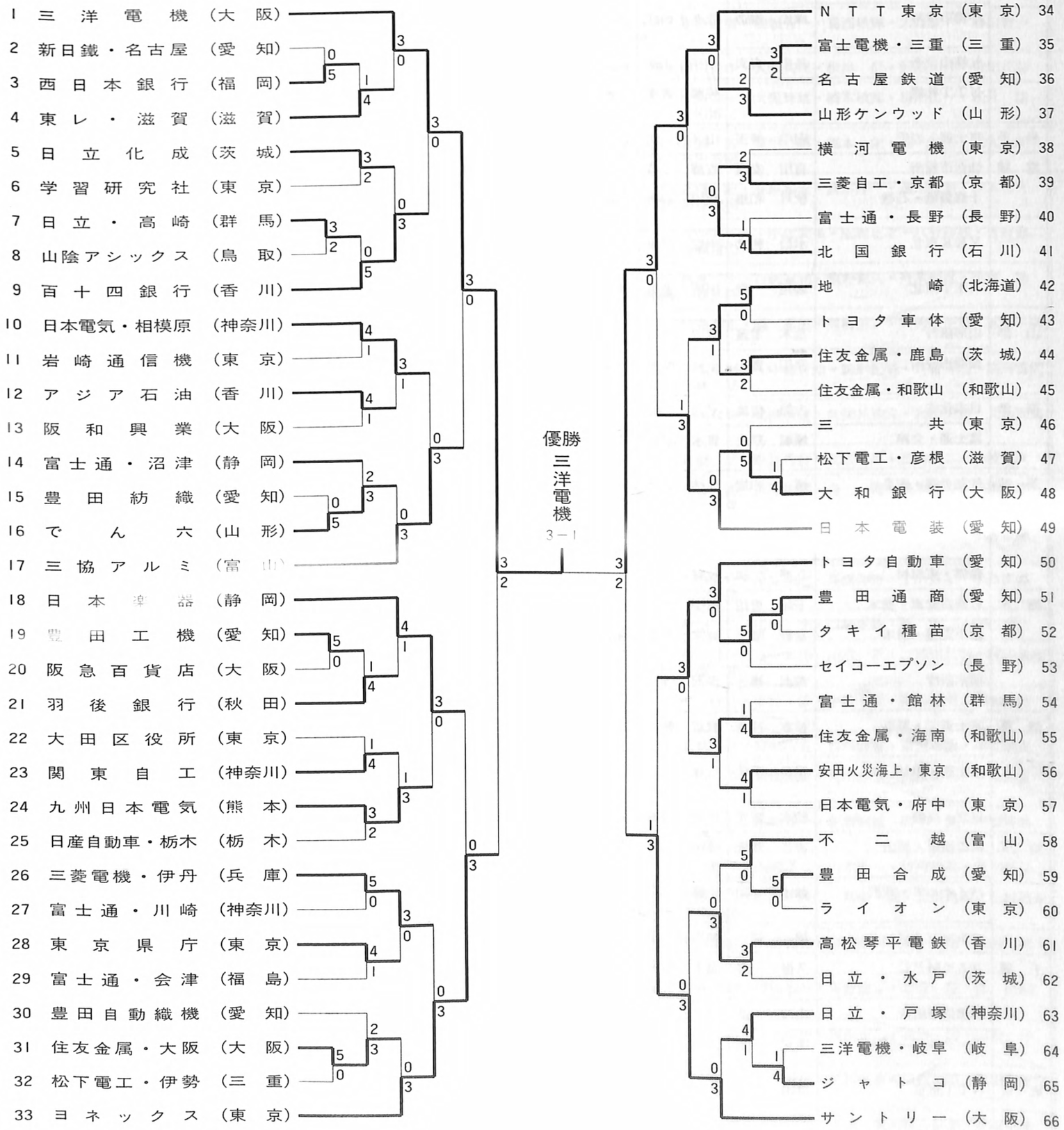
第37回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1987年(昭和62年)6月3～7日
開 催 地：愛知県名古屋市
会　　場：愛知県体育館、
名古屋市露橋スポーツセンター
名古屋市枇杷島スポーツセンター

■男子団体の部



■女子団体の部


1 三洋電機（大阪）
2 新日鐵・名古屋（愛知）
3 西日本銀行（福岡）
4 東レ・滋賀（滋賀）
5 日立化成（茨城）
6 学習研究社（東京）
7 日立・高崎（群馬）
8 山陰アシックス（鳥取）
9 百十四銀行（香川）
10 日本電気・相模原（神奈川）
11 岩崎通信機（東京）
12 アジア石油（香川）
13 阪和興業（大阪）
14 富士通・沼津（静岡）
15 豊田紡織（愛知）
16 でんろく（山形）
17 三協アルミ（富山）
18 日本楽器（静岡）
19 豊田工機（愛知）
20 阪急百貨店（大阪）
21 羽後銀行（秋田）
22 大田区役所（東京）
23 関東自工（神奈川）
24 九州日本電気（熊本）
25 日産自動車・栃木（栃木）
26 三菱電機・伊丹（兵庫）
27 富士通・川崎（神奈川）
28 東京県庁（東京）
29 富士通・会津（福島）
30 豊田自動織機（愛知）
31 住友金属・大阪（大阪）
32 松下電工・伊勢（三重）
33 ヨネックス（東京）
優勝
三洋電機
3－1
34 NTT東京（東京）
35 富士電機・三重（三重）
36 名古屋鉄道（愛知）
37 山形ケンウッド（山形）
38 横河電機（東京）
39 三菱自工・京都（京都）
40 富士通・長野（長野）
41 北国銀行（石川）
42 地崎（北海道）
43 トヨタ車体（愛知）
44 住友金属・鹿島（茨城）
45 住友金属・和歌山（和歌山）
46 三共（東京）
47 松下電工・彦根（滋賀）
48 大和銀行（大阪）
49 日本電装（愛知）
50 トヨタ自動車（愛知）
51 豊田通商（愛知）
52 タキイ種苗（京都）
53 セイコーエプソン（長野）
54 富士通・館林（群馬）
55 住友金属・海南（和歌山）
56 安田火災海上・東京（和歌山）
57 日本電気・府中（東京）
58 不二越（富山）
59 豊田合成（愛知）
60 ライオン（東京）
61 高松琴平電鉄（香川）
62 日立・水戸（茨城）
63 日立・戸塚（神奈川）
64 三洋電機・岐阜（岐阜）
65 ジャトコ（静岡）
66 サントリー（大阪）

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	望月幸三郎	遠藤　好男	久郷　俊明	○米山孝二・千葉昌弘・中島俊也・伊藤雅弘・山尾克則・加藤　学 田中弘幸・久郷俊明
	ＪＲ北海道	山崎　正博	乙武　重丸	山田　好明	○高橋　進・七崎悦範・松村徳市・松岡　誠・奥名泰光・山田好明 乙武重丸・田中昭夫
	小樽市役所	深山　雄造	佐々木尚文	目黒　清則	○東田朋巳・高野幹男・斉藤　裕・阿部幸夫・阿部宏之・徳満康浩 藤川歳之・目黒清則
	札幌市役所	島中　貞夫	中平　正幸	渋井　敏紀	○工藤義憲・中平正幸・久保田昭夫・渋井敏紀・中村義則・高崎厚夫
	ＮＴＴ札幌		佐藤　義孝	平沢　徹	○佐藤義孝・平沢　徹・梅田淳尚・長谷川正基・高田浩二・福島清寛 山本八郎
岩手	富士通・岩手	田中　伸平	山ノ内一明	鈴木　礼子	○菊地生昭・岩渕裕光・藤谷清文・石川浩一・鈴木広志
宮城	仙台市役所	有川　安雄	佐藤　修	佐々木由美子	○鉄本勇治・千葉利行・佐藤文一・永野日出登・佐藤和之・佐々木孝
	十條製紙・石巻	秋月　和雄	数川　昭市	片岡　秀樹	○遠藤節郎・今野安明・須田幸夫・佐藤裕司・本多勝弘・伊藤康志 数川昭市・片岡秀樹
	ＹＫＫ東北	水口　利之	中塩　房雄	中塩　房雄	○太田　淳・千葉清人・金輪隆司・小林　修・北浦　順・中村弘康 中塩房雄
	ＮＴＴ東北	堀辺　豊	田所　光男	春日　茂雄	○田所光男・高橋直樹・加藤安史・渡辺勝治・菲沢伸幸・高橋則一 中島　修・柴崎信之
山形	山形銀行	茂木　重蔵	渡辺　勝利	上田　和夫	○斎藤隆吉・荒井謙満・大谷英二・永井　悟・渡辺　賢・鈴木洋史
	鶴岡市役所	窪田　寛士	小林　保夫	佐藤千佳子	○真田昭良・上原正明・丸山勝美・秋庭一生・佐藤茂巳・遠藤清一 小林　学・佐藤　茂
福島	日本化成	古館　信義	平向　一郎	渡辺　隆男	○平向一郎・石井要一・小松孝典・藤田　智・渡辺隆男
	富士通・会津	塚越　厚生	青木　昭弘	渡辺　正光	○寺田　繁・渡辺正光・杉原好一・清野徹也・星　徹・本多克博 大森隆義・宮島和彦
茨城	住友金属・鹿島	濱　和雄	島林　総蔵	生見　晶子	○坂本昌士・梅沢和則・岸　正仁・板垣龍平・小林靖敏・岡田常雄 島林総蔵
	日立・水戸	金内　寛	早川　博	小島　孝治	○菅野　孝・早川　博・小島孝治・狩野秀一・梅室真二・大塚　正 結束雄二・堀ノ内滋
	動燃・東海村	三浦　満	牧野　勉	渡辺　健治	○市毛良明・牧野　勉・渡辺健治・上原典文・野口一晴・堀口幸一
栃木	日産自動車・栃木	千場　忠祐	田中　英男	須藤千代子	○入江正夫・笠井孝之・大八木正・飯[illegible]
	松下電器・栃木	宮野　隆三	岡室　利彦	阿部　英喜	○高橋利光・安達昌芳・加藤昭宏・松本　誠・呉井信夫・千坂[illegible] 斉藤義一・岡室利彦
	栃木県庁	湯沢　雄一	湯沢　雄一	和久　光男	○鈴木　武・古沢元浩・湯沢雄一・池田勝浩・和久光男・原　利浩 琴寄行雄・小島秀雄
群馬	富士重工・群馬	杉本　伸夫	渡辺　晃一	中居　功治	○中居功治・島田清和・竹内康夫・丸山清春・目黒正浩・福井一夫 古賀俊輔・高山富士雄
	富士通・館林	綱島　千秋	安藤　修二	小林　晴幸	○木村　博・横山　稔・石戸広昭・松元功一・君嶋　修・渡辺文明 綱川秀明
	日立・高崎	松本　博元	別所　明雄	安藤　則夫	○安藤則夫・飯野博英・鹿沼重雄・石原純一・石川栄寿
埼玉	本田技研・狭山	古谷　利夫	藤田　茂樹	池田　一豊	○岩田好夫・藤田茂樹・堀越　勉・宮越通康・大橋　正・阿部　力 清水宏之・山崎義信
	パイオニア・所沢	鈴木　勤	近藤　均	那賀　敬弘	○馬場良一・近藤　均・鈴木洋一・澤辺孝夫・山下　力・那賀敬弘 三上利夫・様馬　操
	マルマンスポーツ	堺　栄一	根岸　淳	寺島　仁志	○根岸　淳・中嶋洋幸・寺島仁志・粕谷太郎・天満政寿・堺　栄一
千葉	コスモＭＰＣ	久保　浩	滝本　和夫	幸野　邦昭	○佐藤一男・滝本和夫・岩瀬　洋・佐々木仁一・谷野公昭・米沢　仁 幸野邦昭・久保　浩
	君津信用組合	山口　進	守　政広	浅倉　伸一	○武藤良治・炭口　進・守　政広・玉造寿則・浅倉伸一・吉野　斉
	ピークスポーツ	峯元　一匡	大橋　和博	鉄木　啓次	○新井春雄・峯元一匡・鶴野　弘・大場和博・織本富之・鈴　啓次 吉永法男・杉　幸助
東京	ＮＴＴ東京	原田　和坦	池田　信孝	瀬田　幸夫	○宮森庄吉・尾崎幹雄・西山博司・本田浩二・長内征美・松野修二 柳谷辰哉
	ヨネックス	土田　隆	長谷川博幸	望月　資	○宮本幸弘・石場隆雄・望月　資・井上哲章・長谷川博幸 栂野尾昌一

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名（○印は主将）
東京	東京都庁	島田　稔	大原　政義	高田　浩	○後藤　勝・小林賢治・島田　稔・高田　浩・首藤誠司・落合真人 多田信之・前田　仁
	ＪＲ大井	中沢　滋	鈴木登美夫	小原　州山	○佐川伸一・鈴木登美夫・山口清奉・岩本　裕・加藤　仁・斉藤　博 八幡敬尚・小原州山
	岩崎通信機	定野　満	北本　清行	北本　清行	○手塚雅志・下山　実・北本清行・山崎隆之・家串友治・黒沢　武
	ゴーセン・東京	山上　啓三	中村　輝充	石塚　和枝	○鎌田啓睦・本石俊憲・兼坂省一・葛西孝輝・大森誠一・蒔田新一 中村輝光
	東京トヨペット	入間　秀哲	入間　秀哲	沢田　和俊	○福田利男・橘川光孝・大瀬久司・根岸　信・沢田和俊・神田正浩
	ＫＤＤ	溝渕　宏二	大髭　輝雄	目黒　仁一	○藤平　守・前川栄一・大髭輝雄・橋本敏邦・目黒仁一・松永　浩 嶋田　聡・太田博之
	東京電力	佐藤　祥次	内田　修	高野　徹	○石原泰造・岩間　源・厚川　勇・橋本　栄・塙　勝治・信太正範 高野　徹・井川芳明
	渋谷区役所	秋野　尊愛	桑原　和夫	和田由貴江	○佐野浩一・近岡　昭・桑原和夫・真木洋一・遠山敏幸・鉄木岩夫 野村基美・高月徹也
	東京簡易保険局	蔵之内信昭	古明地正邦	広田みちゑ	○小林正人・古明地正邦・小畑辰美・飯塚正之・八杉貞雄・吉野章二 岸　利彦・醍醐達也
	日本光学	金谷富士雄	本多　修治	池野　智久	○根岸光正・宮島　実・百瀬智宣・池野智久・斉木利雄・小室　功 五十部博幸・堀井清彦
	セイコー電子工業	井上　一夫	山下　史郎	佐藤　明洋	○井上一夫・伊藤耕吉・磯　孝男・高橋信二・大阿久正美・武藤　健 梅野光一
	学習研究社	小島南海雄	小島南海雄	小島南海雄	○今井茂満・小島南海雄・中森　知・駒形紀男・真野秀則・別府雅則 大沢広彰・小林　覚
	足立区役所	馬場　猛夫	馬場　猛夫	鈴木　敦子	○小林光雄・馬場猛夫・鵜澤敏信・久保井秀夫・大和田勉・丸山秀高 笹林義春
神奈川	関東自工	有村　洋一	高橋　清	中嶋　昌美	○細谷　昇・高橋　清・奈良秀行・友広徹郎・正田章二・小枝憲久
	横浜市役所	根本　和夫	金子　英司	広沢　昭一	○平　敏司・秋葉　博・斉藤英昭・森　篤・根本道夫・柄本　孝 一瀬浩美・村上英典
	富士通・川崎	岡沢　陸郎	青木　一夫	米内山啓子	○青木一夫・寺門義之・後藤正志・鶴田紀雄・稲垣広宣・小倉吉隆 菅田直純・増子克幸
	日本電気・相模原	[illegible]	西山　龍守	宮入　恒明	○月岡貴公・西出龍守・足立和則・高橋伸弥・土田秀紀・中島次郎 内山泰則・高山照彦
	[illegible]立・戸塚	田中　康之	秋山　昌博	北村　敏明	○秋山昌博・鰐川　朗・田中　亨・山地正修・林　宏二・渡辺康之
	東電・神奈川	臼田誠次郎	笛田　卓司	原　祐司	○小林栄二・榎　博久・五十嵐功・山本　正・二階堂昌明・渡辺政幸 田中　徹・伊藤　誠
	三菱重工・横浜	前沢　祐一	鈴木　勝之	鈴木　勝之	○古谷陽一・鈴木勝之・上野　強・小松　宏・高橋秀夫・植木恒光 守口　茂
	日本石油・根岸	京屋　孝治	泉　信夫	泉　信夫	○石渡輝巳・高橋　登・野友昭夫・目黒善喜・京屋孝治・泉　信夫
新潟	三条機械製作所	外山　修	久住　勝利	佐藤　幸明	○鈴木　裕・米山　高・羽龍良記・丸山勝弥・深沢慎一・中条雅良 金子　聡
	三菱金属・新潟	多田　光男	有本　健	樋口　良則	○山本　勝・宮村　久・山崎芳一・那須野滋・田中　晃・中野将浩 星　誠司・石垣道夫
長野	新光電気	高橋　昌彦	高橋　昌彦	山本　秀一	○井上慎二・川島雅幸・山浦賢一・山本秀一・竹内徳喜・若林孝佳
	石川島芝浦機械	松戸　幸雄	北川　良司	赤羽　元春	○赤羽元春・奥原祐二・座光寺俊二・丸山　宏・北川良司・三村昌永 中山善光・大槻一郎
富山	高岡市役所	前原　寿夫	河村　博之	牧野　光男	○今泉　勉・関村順治・米澤和男・宮林照男・米　正隆・末坂　進 西本幸夫
	三晶技研	浅井　秀一	飛驒　是博	星野　清志	○毛利智成・吉森勝之・寺田信行・星野清志・北野　隆・森　佳和 堀　正人・源通直樹
石川	ＮＴＴ北陸	浅埜　正吾	松下　力	直地　直	○浜谷安裕・井口郁英・谷島助男・嵐山正二・森田　均・田甫　守 巻下昭浩・宮本照啓
	金沢市役所	駒田　良則	太田　博之	荒井美千代	○太村正信・山下敏行・林　芳広・毛利達彦・田村　稔・庄田秀実 泉　光男・山口　亮
	ゴーセン・北陸	上田　了	橋谷　信男	小田　直美	○酒井直人・谷島英男・水上　智・犬嶋　央・村谷信男・伊崎克徳
福井	福井市役所	山本　敏彦	増永　秀則	嶋田　伸行	○宮原　一・嶋田伸行・谷口治光・高橋一男・北本光紀・北川修二 山本敏彦・増永秀則

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名（○印は主将）
岐阜	岐阜県庁	篠田 恭彦	浅野 人美	小島 一也	○加納義之・浅野人美・高橋伸治・田口伸治・小島一也・荻巣雅俊 内記淳司
	三洋電機・岐阜	阪口巳代治	松浦 竹典	松浦 竹典	○藤本高義・藤井昭生・[illegible]・内田清人・澤井喜二・松浦竹典 石丸貴久・中村 修
静岡	富士フイルム	林 伸幸	滝 正孝	案月美和子	○西島知彦・井出治雄・吉田直彦・池田光宏・武井弘征・竹田明彦 鈴木郁夫・滝 正孝
	テルモ	坂垣 賢紀	渡辺 昭	有賀 三雄	○渡辺 昭・佐野博之・山崎 章・名越隆宏・望月規義・有賀三雄 松本 修
	ジャトコ	佐場野英一	後藤 和之	佐藤 佳久	○芹沢英彦・関野 強・鈴木朗典・佐古勇人・中田 茂・後藤和之 吉野知昭
	トヨタ自動車・東富士	大坂 邦昭	杉本 隆義	影山 昌久	○影山昌久・榎本定男・川崎秀仁・杉本隆義・山田修司
三重	日本電装	田中 篤郎	片岡 泰	福士 武彦	○片岡 泰・西川 勉・服部[illegible]・[illegible]・喜岡泰弘・中川智史 常山[illegible]・内富 [illegible]
	富士電機・三重	山口 香	森川 広美	森川 広美	○藤本規夫・小林英毅・森田善幸・安保尚雅・水谷俊雄・稗田寿道 糀谷清史・森川広美
	三菱油化・四日市	高橋 力男	大倉 忠	生川 文彦	○安良城雄介・大倉 忠・鈴木正平・泉 洋[illegible]・井崎敏巳・後藤幸孝 [illegible]本弘之・北村 保
	三菱化成・四日市	増井 孝夫	小林 信行	黒宮 香	○田中秀俊・荻田昌昭・石井繁光・小林信行・伊藤正巳・多田晃広 毛利浩治・増井孝夫
	本田技研・鈴鹿	井上 鉄也	井上 鉄也	井上 鉄也	○井上鉄也・朝比奈正光・澤田達哉・吉川勝康・鈴木義弘・石田謙[illegible] 下村雅彦・河原賢治
	日東電工	蒲田 博	蒲田 博	豊田 浩	○豊田 浩・坂本雄[illegible]・福島和広・宮本 誠・森本達也
滋賀	大津市役所	佐藤 賢	釜屋 明和	西原 四郎	○増田伊智朗・奥村 真・中村 亨・吉川忠司・竹端英夫・山田杉男 山田通義
	日本ＩＢＭ・野洲	冨田 健一	梅本 一寛	寺井 治和	○木下寿則・東郷浩司・小林浩明・花田正喜・塩田晃二・城戸吉巳 磯田茂和・中川 健
	長浜信用金庫	川村 義夫	横山 昌弘	野木 秀樹	○金森 亮・横山昌弘・竹中滋祥・平本秀章・浅井浩二・野木秀樹
京都	京都中央信用金庫	黒田 豊	黒田 豊	吉田 清隆	○吉田憲[illegible]・根本 [illegible]・安永 誠・米光秀夫・平井 悟・吉田清隆
	日新電機	林 保治	梶村 和成	高田 弘	○梶村和成・橘 栄作・山中秀樹・宮林幸正・富田久幸・前田 恒
	松下電子部品・京都	北川 幸雄	久保 正人	久保 正人	○田中徳兵衛・山岸武泰・太田智[illegible]郎・瀬尾賢次・金 泰男 柴田 悟・寺田正文・[illegible]
	京都市消防局	石田 雅彦	北村 伸	田中 博	○大辻子了[illegible]・酒人[illegible]・物部秀樹・北村 伸・田中 博 辻 米英・市田悦万・伊藤昇司
	三菱自工・京都	岡本 宏也	戸沢 正雄	石津 正明	○佐々木正司・福井達雄・谷沢和彦・竹井宣夫・広瀬 敬・藤井敏正 白石晋也・中薮 仁
大阪	ＮＴＴ関西	村田 宏	冨田 章夫	冨田 章夫	○武野 忠・松井峰生・奥野 勉・辻田泰昌・冨田章夫・近藤雅明
	松下電器・大阪	渡辺 雅仁	宮崎 庄一	北野 誠一	○山川正一・那須哲太郎・中角好男・樋口正幸・森脇紳二・山口昭彦 勝川道和・見市幸司・長谷浩道
	大阪ガス	野村 明雄	北野 公男	弘瀬 一生	○北川伝治・田中真平・早水栄治・高石 哲・斉藤浩司・塩田 孝 児玉実広・西野幸雄
	阪急電鉄	野沢 明雄	市橋 茂	森 富恵	○下野治生・出田安隆・蔵本英二・大野孝二・西郷幸司・小野俊雄 佐藤俊哉
	コスモ石油・堺	竹中 正弘	疋田 栄一	内田 嘉男	○竹内洋雅・和久谷富章・楠戸春則・穂谷真弘・西井兼一・芝村伸也 辻 正博・疋田栄一
兵庫	新日鐵・広畑	川崎 良樹	平松 重吉	泉 吉弘	○片岡正之・塩飽 初・横山真二・八十友昭・広岡輝男・平松重吉 藤城武義・堤田富夫
	大和製衡	木下欣二郎	小川 雄一	草田 隆	○山本 勝・木下欣二郎・小川雄[illegible]・藤田光[illegible]・業田 隆・藤本純[illegible] 黒田真孝・大西 隆
	神戸マツダ	橋本 正巳	藤江 久善	川畑 幾世	○服部清彦・秋月道隆・森野修治・岡田克美・小島政浩・加藤隆弘 竹内 茂・藤江久喜
和歌山	住金化工	辻 司	塩谷 廣次	岩本松次郎	○山路幸三・森 隆・徳岡昭次・西 章弘・中尾孝司・菊地雄二 岩本松次郎
	住友金属・和歌山	竹山 宗芳	北山 洋二	福島 一正	○西山祥一・北山洋[illegible]・梅林信幸・乳井重雄・児嶋 浩・北川 康
岡山	川崎製鐵・水島	戸部 俊一	中山 睦雄	安永 有里	○平田重男・藤原道弘・北村治雄・片岡洋[illegible]・[illegible]村勇人・中山睦雄 穴吹栄二

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名（○印は主将）
岡山	三井造船・玉野	細田 高代	藤原 航	松岡 純子	○山本 清・若林邦任・高本行男・大倉達也・藤原 航・松井 一 田丸勝巳・長谷秀樹
	クラレ・岡山	伊藤 博	小河原 治	永井 公一	○板谷好訓・田枝誠一・香山光明・山下 剛・吉原俊治・永井公一 小河原治
山口	宇部興産	田中 実雄	末廣 秀樹	宮本 真弓	○坂本賢二・末廣秀樹・河添忠夫・吉川直樹・沖 貞雄・安田耕司
	山陽国策パルプ・岩国	谷渕 龍夫	林 厚志	貴船 博己	○高橋良明・宮岡康臣・林 厚志・村上弘明・高橋和也・森本孝敏 室井伸夫・宮岡 崇
香川	ＹＫＫ四国	横幕 賢一	古竹 公三	西川かおり	○坂東輝夫・好井博文・山本 学・麦谷敏也・古竹公三
	アジア石油	佐藤 一寿	杉上 有一	関 和代	○杉上有一・小場達也・大宮宗俊・石川正敏・葛原 勇・橋本初芳
	香川県庁	真鍋 剛	弾正原義春	永瀬 守俊	○岡田忠巳・小山光男・永瀬守春・弾正原義春・今雪良智・谷本竹司 香川正樹・豊島正人
愛媛	クラレ・西条	浜 博公	横井 虎男	橋田 国司	○三村一郎・加藤 昇・川上悦典・田坂祐二・近藤勝行・伊東 貢 佐々木順一・藤田哲雄
福岡	ベスト電器	坂田 雄二	森 裁美	武川 博美	○近藤公輔・相良勝吉・藤本 悟・東 義徳・山田幸司・山田修司 桜井雄一・石田隆之
長崎	三菱重工・長崎	江戸昭八郎	田中 貞夫	田中 賢介	○江坂敏郎・竹永 学・三根 哲・福田良治・中野和雄・田中貞夫 溝上敦夫・岡田芳彦
愛知	トヨタ自動車	北田 寛一	山本 秀樹	山本 秀樹	○須貝英徳・坂本宏志・坂井外喜男・古賀勝志・川本英明・小本義久 城木夢高
	豊田工機	佐伯外與昭	日比野伸昭	石原ひかり	○峰登志郎・日比野伸昭・大阪哲嗣・土田信也・野呂 徹・東 正也 永多 実
	豊田自動織機	大東 祥順	武田 正雄	近藤 善英	○岩渕信司・石井宏明・尾崎 弘・近藤善英・永井 桂・佐山康成 福士美浩・間瀬敏秋
	新日鐵・名古屋	小島 吉夫	天野 良彦	加藤 勇一	○白田直人・天野良彦・林 甚代・山西友幸・納所久夫・坪井英之 田中敏夫
	三菱重工・名古屋	石川 義治	沢田 正夫	旭 奈穂子	○沢田正夫・松波 譲・旭実喜雄・岩田 崇・船木真司・柴田慎一 岡村保広・稲垣省司
	名古屋鉄道	[illegible]	石沢 宏	加藤 憲治	○井上 龍・加藤保利・加藤憲治・林 久男・斉藤敬一郎・松田浩資 高橋章仁
	[illegible]東海	小野 豊久	伊藤 雅昭	伊藤 正昭	○水谷悦郎・清水孝四・木下耕一・池田文彦・伊藤正昭・中村昌司 中川紀嗣・宍戸一秀
	トヨタ車体	西村 裕治	米沢 強	荻原 稲子	○米沢 強・田部博之・宮田一幸・後藤吉広・廣田拓也・鈴木弘行 河原久志・町田 剛
	三菱重工・名航	千田 尭	近藤 純一	中川 文雄	○青山 忠雄・濱 俊雅・近藤純一・小林茂幸・坂本雅美・末吉宏次 小河原邦博・久永直樹
	住友重機械	足立 匡久	物部 良弘	高尾 雄大	○福田 茂・物部義弘・中川俊幸・松木博志・中武義広・深谷隆雄 西山英彦
	日本電装・愛知	鈴木 欣老	工藤 宣慶	村田 貴世	○工藤宣慶・知識博隆・朝倉利行・今井裕志・蒲池 明・荒木春彦 岩井智伸

（女子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	地崎	松浦 勤	岡本 伝	加藤 洋子	○和田美津子・加藤洋子・小川美和・平間由紀・宮森郁子
秋田	羽後銀行	相庭 洋二	村越 稔	相場 敏晴	○永沢真澄・米田浩子・柳谷郁子・菊地公子
山形	山形ケンウッド	神山 三男	神山 三男	神山 三男	○五十嵐隆子・野口かおり・若木小百合・菅原郁子・菊池志保 工藤美枝子・三浦真美
	でん六	山口 良典	伊藤 洋一	秋葉 憲和	○田口真由美・東海林文子・丹野弘美・伊藤礼子・長瀬時子
福島	富士通・会津	塚越 厚生	谷沢 正広	渡辺 正光	○青木マチ子・鈴木順子・須貝やよい・菊地美香・長谷川加代子 安斎英子・佐藤洋子・大関美和子
茨城	住友金属・鹿島	濱 和雄	島林 総蔵	生見 晶子	○瓜田博子・川村裕子・山口弘子・本間裕美・南雲好枝・奥瀬知香 五十嵐靖子
	日立・水戸	金内 寛	早川 博	小島 孝治	○大貫敦子・竹内香代子・有馬正美・米山恵美子
	日立化成	中束 三嘉	岩田 輝彦	岩田 輝彦	○藤井美子・川澄奈穂実・小祝幸代・山中かおり・石嶋礼子

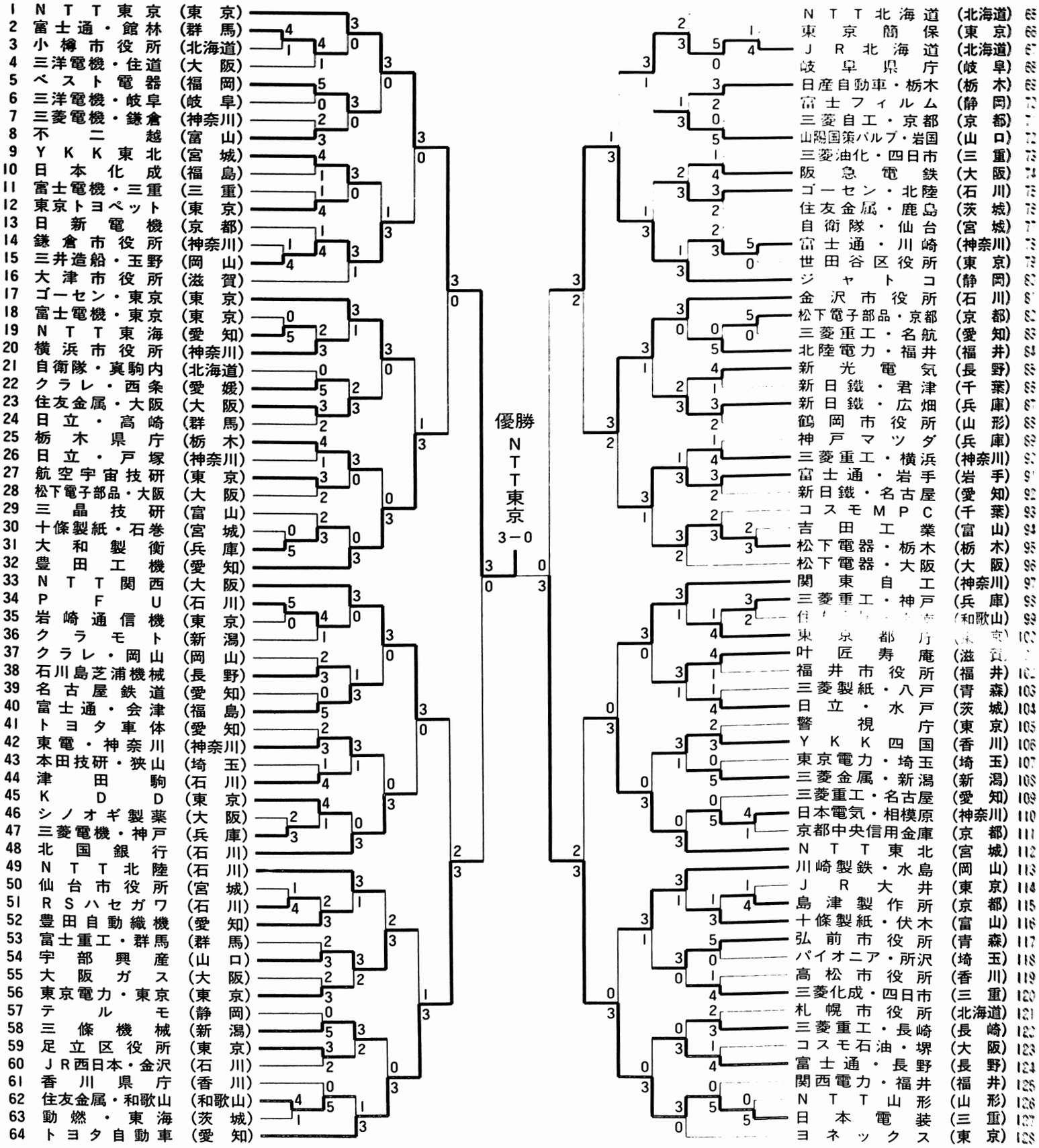
県名	事業所名	部長 (副部長)	監督名	コーチ マネージャー	選手名 (○印は主将)
栃木	日産自動車・栃木	千葉　忠祐	田中　英男	須藤千代子	○須藤千代子・光田和恵・黒須洋子・仁平美江
群馬	富士通・館林	綱島　千秋	安藤　修二	小林　晴幸	○志津利恵子・広田恵子・遠藤幸恵・土崎順子・関　裕子
	日立・高崎	松本　博之	別所　明雄	安藤　則夫	○岡田三枝・茂木ゆかり・曽田幸子・高瀬晴美・吉井君枝
東京	NTT東京	原田　和坦	池田　信孝	瀬田　幸夫	○田児よし子・久保知佳子・平井真由美・小飼真弓・上村美香 星野実智代・松尾知美・毛利千秋
	ヨネックス	吉本　貞夫	栂野尾昌一	丹藤　勇一	○陣内貴美子・高峯尚子・森山弘美・徳光由美子・青木きよみ 森　久子
	東京都庁	島田　稔	大原　政義	大里まゆみ	○大里まゆみ・笹林朋子・田倉ナイ子・栗城ツギ子・田中阿紀
	岩崎通信機	定野　満	北本　清行	北本　清行	○堤　弘子・手塚ひとみ・藤沢直美・高梨法子・村山恵三・野村　春
	学習研究社	小島南海雄	今井　茂満	小島南海雄	○大塚千賀子・杉山紀子・鎌田みゆき・石田千寿・川島奈穂子 小林恭子・中山美里・永田ゆうなぎ
	日本電気・府中	東海林宏史	丸山　一馬	福島　芳美	○中村美代子・林　敬子・吉田幸子・福島芳美・柳沢綾子
	横河電機	南條　尚	生田　美穂	沢田　泉	○畠山美彩・清水美恵子・山田美恵・西田幾子・沢田　泉・生田美穂
	安田火災海上	大嶋　研一	大嶋　研一	山崎　珠恵	○池田久子・枝川千代子・秋原明美・河村真由美・山崎珠恵
	三共	加藤　治	岩下　龍二	繁原　英治	○村松純子・外松幹子・川上美和・宮沢由起子・池田啓子・朝倉　恵
	大田区役所	有路　幸一	江川　博康	瀬戸島昌人	○江澤令子・夏目佳代子・黒岩千都子・柳沢とし美・諸田順子 有路美千代
	ライオン	荒井　道夫	大野　憲弘	村上　公子	○篠崎祐紀子・石川ゆう子・三好圭子・岩土和子・那須智子 小松幸子・中山光子
神奈川	関東自工	有村　洋一	高橋　清	中嶋　昌美	○行方淑枝・林　直美・中嶋昌美・高瀬圭子・矢本清美・植竹由美 宮脇美奈子
	日本電気・相模原	板倉　信雄	宮入　恒明	松下　直子	○大熊千恵子・高橋和子・関　由妃・松下直子・岡田由美子 月野裕喜子・藤松正美
	日立・戸塚	田中　康之	高山　秀子	黒田　智子	○伊藤麻利子・高山秀子・小川明巳・黒田智子・岸本ひとみ 樋口晶子
	富士通・川崎	岡沢　陸郎	青木　一夫	米内山啓子	○青木明子・駒場政江・和久井陽子・小泉貴和子・米内山啓子
長野	富士通・長野	竹田　勇吉	篠崎　俊久		○梅沢悦子・滝沢政子・高山卓子・[illegible]・加藤順子・丸山美代子
	セイコーエプソン	木下　宏行	木下　宏行	北原　龍也	○板垣奈美・中沢静江・大崎雅子・岩波和子・東海林とも子
富山	三協アルミ	辻本　勉	北山　清志	河合　昭博	○今川真理子・大谷鶴美・田向和子・山田美紀・上浜陽子・藤川知子 伏喜由美子・谷口正美
	不二越	川上　洋一	畑　栄進	八川　修一	○平井智美・高本清美・笹野淳子・田辺佐依・川上麻子・岸美根子 中島　薫
石川	北国銀行	大門　重樹	岡部　憲昌	一木千代乃	○水本幸代・彼島佳子・大野亜矢子・斉藤美和子・岡田真澄 油野敏美・西紀美江・閤田和恵
岐阜	三洋電機・岐阜	阪口巳代治	松浦　竹典	松浦　竹典	○大橋由子・三田陽子・後藤洋子・服部節子・小田切久恵
静岡	日本楽器	進　九三郎 (大菅裕而)	飯野　佳孝	吉氷　将史 笠原千夏子	○松嶋由美・大田真由美・谷本美代子・笠原千夏子・金丸陽子 横手智江美・中田裕子・山田美紀
	ジャトコ	佐場野英一	佐藤　佳久	望月貴代美	○望月貴代美・高井良枝・大内めぐみ・遠藤久美子
	富士通・沼津	吉田　哲三	渡部　真生		○井上由美子・安井真弓・伊代野栄子・井沢　薫・高硲寛子 渡辺ゆみ
三重	松下電工・伊勢	元山　正徳	山本　博文	山下小百合	○山下小百合・西口千種・関矢育子・田上弘子・奥村美智子 稲垣恵子・馬渕登志子
	富士通・三重	山口　香	森川　広美	森川　広美	○黒宮智子・鈴木朱美・新開直美・萩野美和・水谷栄里子・佐波昌代
滋賀	松下電工・彦根	谷　和男	藤本　勝利		○寺村由美・安澤千賀子・中村佳世・前川みどり
	東レ・滋賀	山田　雅平	山中　保一	細野　博	○中井幸恵・加藤典恵・西山綾子・杉本久美・杉本由紀路
京都	三菱自工・京都	岡本　宏也	戸沢　正雄	石津　正明	○高倉さち子・浜田　薫・北川典子・大槻悦子・春原一葉・小野昌子 溝口奈峰子
	タキイ種苗	麻田　次男	矢島　美貴	茶野　圭子	○岡田眞理子・矢島美貴・茶野圭子・田中久代・大森一美
大阪	三洋電機	中井　健三 (月原　朗)	宇治　収	銭谷　欽治 田畠　佐苗	○北田スミ子・星野由美子・清水尚美・鴻原春美・小泉陽子 田代美智世・新木貴子・秋元美佐緒

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
大阪	サントリー	松下堅一郎	山本　次生	宮崎　克己	○高峯和子・北本久美子・渡辺律子・廣田時子・谷地春子 西村美千代・田島志乃・小池由扶子
	住友金属・大阪	中沢　恒	中沢　登	西村　央子	○原田いずみ・市川　綾・中濱優江・松長美和
	大和銀行	伊藤　憲二	伊藤　憲二	津田佳代子	○津田佳代子・山本美江・千田朗子・紅露ゆかり・尾崎和枝 柳生圭子・長沢幸江・立道佐知子
	阪和興業	片山　正昭	片山　正昭	福島　真波	○福島真波・西田直子・荻野恭代・辻貴美子
	阪急百貨店		畠中　芳雄	栗田　勝之	○上枝淳子・山下貴子・橋田結花里・田部美幸・辻　直子
兵庫	三菱電機・伊丹	伊藤　利朗	矢賀　雅人	寺尾　一秀	○白井洋子・荻生美奈子・伊藤里美・尾亀留実・大村和代
和歌山	住友金属・和歌山	竹山　宗芳	川村　桂司	野沢　英雄 福島　一正	○栗原里津子・後藤佳子・和泉礼子・嶌田訓子・工藤志子
	住友金属・海南	友松　恭男	前川　周三		○植松多恵子・宮本通子・木下みどり・杉林小百合
鳥取	山陰アシックス	田中　平三	安部　一夫	吉田　愛	○岡田朋子・遠藤春代・吉田　愛・長谷川美香・森脇富子
香川	高松琴平電鉄	中村朔之助	小西　太	東条　義昭	○成合三枝・東条フミ子・桑田和代・山崎直美・稲田かおり
	百十四銀行	窪川　道夫	窪川　道夫	新田　豊子	○永井明美・中川富美子・平井美代子・山田理恵・松村晴子 辻　章子・山白麻紀
	アジア石油	佐藤　一寿	杉上　有一	石井きくみ	○熊谷清美・青野早苗・関　和代・石井きくみ
福岡	西日本銀行		釜　洋輝	阿武屋圭子	○阿武屋圭子・浜口孝子・清田香苗・浜マサ子・白石恭子
熊本	九州日本電気	丸山　誠	坂本　正	蓑田　聡子	○大嶌みどり・中原紀代美・森下真由美・林　美希・堀内美重
愛知	日本電装	竹内　秀夫	藤江　至	佐名　美幸	○宮本美津子・佐名美幸・大屋幸恵・永野洋恵・丑田明子・佐藤浩子 佐々恵理・間庭由美
	トヨタ自動車	北田　寛一	川合　信之	山本　秀樹	○遠藤真弓・竹内淑子・林　幸枝・高田美和・松本清美・伊倉幸子 田村真理子・田中裕子
	豊田自動織機	大東　祥順	武田　正雄	近藤　善英	○津崎孝子・佐藤裕美子・田路淳子・徳留芳美・野呂奈生子 宿屋美佐子・加藤治子・新田昌子
	豊田通商	西田　直文	西田　直文	佐藤眞理子	○奥田恭子・光嵜祐子・三橋結実・佐藤眞理子・中野和美・近藤晃代
	トヨタ車体	西村　裕治	米沢　強	荻原　稲子	○後藤恵子・後藤もと子・杉山きよみ・佐藤直美・林　絹子 黒川美保
	豊田紡織		小田桐　勉		○松橋弘子・石田由美子・安藤祐美子・金子由美
	豊田合成	竹内　邦嘉	岡田　誠治	兼松　茂樹	○鈴木昇子・蜘手博美・舟橋明子・鈴木芳子・角田倫子・秋本恵美子 浦木玉子・丸田裕子
	名古屋鉄道	速水　正昭	井沢　宏	加藤　憲治	○近藤あけみ・大野真奈美・水野裕子・竹川美幸・安藤尚美
	豊田工機	佐伯外興昭	西田　良彦	石原ひかり	○浜田みゆき・佐々木実千代・神之田直美・上野理華・三浦里絵 椎葉好美・白谷鈴子・田中智恵
	新日鐵・名古屋	小島　吉夫	佐々木秀一	渡辺　弘美	○谷内陽子・渋谷裕子・早川聡美・片山徳枝・渡辺弘美・菊池恭子 椛木景子

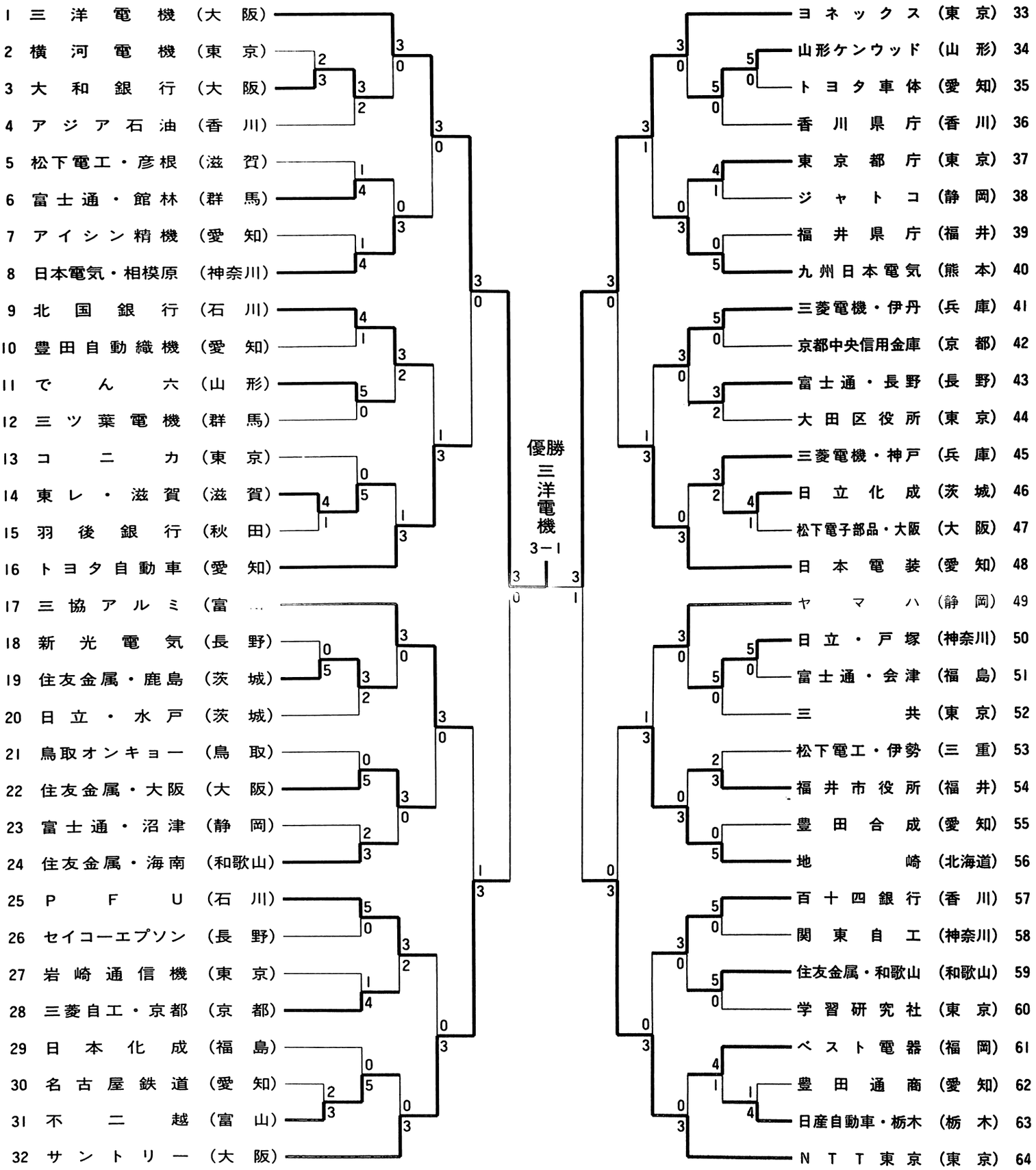
第38回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1988年(昭和63年)6月15～19日
開催地：石川県金沢市
会場：金沢市総合体育館、石川県体育館、北陸電力体育館

■男子団体の部



■女子団体の部


1 三洋電機（大阪）
2 横河電機（東京）
3 大和銀行（大阪）
4 アジア石油（香川）
5 松下電工・彦根（滋賀）
6 富士通・館林（群馬）
7 アイシン精機（愛知）
8 日本電気・相模原（神奈川）
9 北国銀行（石川）
10 豊田自動織機（愛知）
11 でんろく（山形）
12 三ツ葉電機（群馬）
13 コニカ（東京）
14 東レ・滋賀（滋賀）
15 羽後銀行（秋田）
16 トヨタ自動車（愛知）
17 三協アルミ（富…
18 新光電気（長野）
19 住友金属・鹿島（茨城）
20 日立・水戸（茨城）
21 鳥取オンキョー（鳥取）
22 住友金属・大阪（大阪）
23 富士通・沼津（静岡）
24 住友金属・海南（和歌山）
25 PFU（石川）
26 セイコーエプソン（長野）
27 岩崎通信機（東京）
28 三菱自工・京都（京都）
29 日本化成（福島）
30 名古屋鉄道（愛知）
31 不二越（富山）
32 サントリー（大阪）
優勝
三洋電機
3－1
33 ヨネックス（東京）
34 山形ケンウッド（山形）
35 トヨタ車体（愛知）
36 香川県庁（香川）
37 東京都庁（東京）
38 ジャトコ（静岡）
39 福井県庁（福井）
40 九州日本電気（熊本）
41 三菱電機・伊丹（兵庫）
42 京都中央信用金庫（京都）
43 富士通・長野（長野）
44 大田区役所（東京）
45 三菱電機・神戸（兵庫）
46 日立化成（茨城）
47 松下電子部品・大阪（大阪）
48 日本電装（愛知）
49 ヤマハ（静岡）
50 日立・戸塚（神奈川）
51 富士通・会津（福島）
52 三共（東京）
53 松下電工・伊勢（三重）
54 福井市役所（福井）
55 豊田合成（愛知）
56 地崎（北海道）
57 百十四銀行（香川）
58 関東自工（神奈川）
59 住友金属・和歌山（和歌山）
60 学習研究社（東京）
61 ベスト電器（福岡）
62 豊田通商（愛知）
63 日産自動車・栃木（栃木）
64 NTT東京（東京）

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名　（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	北川　誠	米山　孝二	大沼　哲哉	○千葉昌弘・米山孝二・中島俊也・伊藤雅弘・山尾克則・加藤　学 田中弘幸
	小樽市役所	深山　雄造	磯野　智裕	目黒　清則	○東田朋已・高野幹男・阿部幸夫・目黒清則・徳満康浩・藤川歳之 斉藤隆明・笹山時彦
	ＪＲ北海道	山崎　正博	乙武　重丸	乙武　重丸	○高橋　進・七崎悦範・松村徳市・松岡　誠・奥名泰光・山田好明 田中昭夫・乙武重丸
	札幌市役所	島中　貞夫	中平　正幸	渋井　敏紀	○工藤義憲・中平正幸・久保田昭夫・渋井敏紀・高崎厚生・中村義則
	自衛隊・真駒内	込山　三男	佐々木秀男	阿部　敏和	○伊藤寿史・田中裕司・中野今朝四郎・橋本清一・新田勇次 高山健一・佐々木秀男・阿部敏和
青森	弘前市役所	佐々木富英	斉藤　和則	今井　五月	○斉藤和則・中村博典・福士忠弘・工藤徳男・福士文敏・佐藤雅幸 小山内一仁・西村嘉訓
	三菱製紙・八戸	佐藤　靖彦	池田　勝	佐藤　康子	○工藤一志・品川正良・鳴田育夫・西塚健治・宮川通治・浅利龍徳
岩手	富士通・岩手	田中　伸平	山ノ内一明	鈴木　礼子	○岩渕裕光・菊地生昭・藤谷清文・近藤秀信・鈴木広志・山ノ内一明
宮城	ＮＴＴ東北	堀辺　豊	田所　光男	春日　茂雄	○原田利雄・加藤安史・吉田幸司・渡辺勝治・菲沢伸幸・柴崎信之 丸山孝彦・田所光男
	仙台市役所	有川　安雄	鈴木　勇治	佐々木　孝	○千葉利行・佐藤文一・大友光平・永野日出登・佐藤和之・佐々木孝 鈴木勇治・大泉新一
	ＹＫＫ東北	水口　利之	水口　利之	押切　吉基	○太田　淳・中村弘康・北浦　順・渋谷哲義・中塩房雄・押切吉基
	十條製紙・石巻	坂本　達彦	数川　昭市	片岡　秀樹	○遠藤節郎・佐藤裕司・本多勝弘・伊藤康志・佐藤光彦・菅野耕一
	自衛隊・仙台	千葉　瑞圀	石持　亘一	千葉　正壽	○北山信次・石持亘一・石垣　久・渡辺富士男・菅原孝一・岩渕　清 原　旭
山形	鶴岡市役所	窪田　寛士	小林　保夫	佐藤千佳子	○真田昭良・上原正明・丸山勝美・秋庭一生・遠藤清一・小林　学 阿達和夫・佐藤茂巳
	ＮＴＴ山形	斎藤　八郎	岡田　寿紀	二宮　秀明	○小中英智・高橋則一・中島　修・佐藤一明・岡田寿紀
福島	日本化成	古館　信義	平向　一郎	渡辺　隆男	○平向一郎・高橋秀之・石井要一・小松孝典・藤田　智・渡辺隆男
	富士通・会津	塚越　厚生	青木　昭弘	渡辺　正光	○寺田　繁・渡辺正光・杉原好一・清野徹也・星　徹・本多克博 上野　孝・岩崎三良
茨城	住友金属・鹿島	濱　和雄	岡田　常雄	瓜田　博子	○梅沢和則・板垣龍平・元山卓也・岡田常雄・岸　正仁・小林靖敏 島林総蔵
	日立・水戸	早川　博	菅野　孝	小島　孝治	○小島孝治・狩野秀一・梅室真二・大塚　正・堀之内滋・結束雄二 早川　博・菅野　孝
	動燃・東海村	三島　毅	三浦　満	斉藤　誠美	○渡辺健治・牧野　勉・堀口幸一・市毛良明・綿引博美・福井雅裕 栗原孝幸・野中一晴
栃木	栃木県庁	池田　勝浩	湯沢　雄一	和久　光男	○池田勝浩・湯沢雄一・鈴木　武・原　利浩・和久光男・琴寄行雄 小島秀雄
	日産自動車・栃木	千葉　忠祐	笠井　孝之	須藤千代子	○笠井孝之・大八木正・飯田良二・入江正夫・青柳哲夫・海老原正美 入江久夫
	松下電器・栃木	宮野　隆三	岡室　利彦	阿久津幹男	○岡室利彦・呉井信夫・斉藤義一・高橋利光・松本　誠・加藤昭宏 安達昌芳・佐々木宏幸
群馬	富士重工・群馬	杉本　伸夫	渡辺　晃一	福井　一夫	○高野貞男・中居功治・島田清和・竹内康夫・目黒正浩・高山富士雄 斉藤　宏・瓜田正勝
	富士通・館林	綱島　千秋	安藤　修二	小林　晴幸	○木村　博・横山　稔・松元功一・石戸広昭・君島　修・渡辺文明 大塚一幸
	日立・高崎	松本　博之	別所　明雄	阿部　祥子	○安藤則夫・飯野博英・鹿沼重雄・石川栄寿・別所明雄
埼玉	東京電力・埼玉	鈴木　英昭	高橋　光年	笠原　千彰	○高橋光年・笠原千彰・加藤徳彦・五十嵐良輔・鈴木英昭
	パイオニア・所沢	小鷹　文隆	近藤　均	那賀　敬弘	○馬場良一・近藤　均・鈴木洋一・澤辺孝夫・山下　力・那賀敬弘 富山　洋・伊澤利明
	本田技研・狭山	藤田　茂樹	岩田　好夫	大橋　正	○藤田茂樹・岩田好夫・堀越　勉・正木和之・今野直人・大橋　正 藤田信夫
千葉	コスモＭＰＣ	西尾　元佑	浅利　章悦	前田　益孝	○岩瀬　洋・滝本和大・佐藤一男・谷野公昭・佐々木仁一・鈴木博之 米沢　仁・幸野邦昭
	新日鐵・君津	田中　徹	吉田　寛	岡　良則	○宮崎雅浩・阿部哲夫・菅原又男・宮田秀人・佐藤明海・吉田　寛 岡　良則

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
東京	ＮＴＴ東京	原田　和坦	池田　信孝	棚井　幸則	○西山博司・尾崎幹雄・本田浩二・長内征美・松野修二・柳谷辰哉 佐賀史昭
	ヨネックス	土田　隆	丹藤　勇一	望月　資	○井上哲章・丹藤勇一・望月　資・阿部浩志・工藤重信・西村　修
	岩崎通信機	定野　満	北本　清行	北本　清行	○家串友治・下山　実・北本清行・山崎隆之・馬場唯生・島崎真波
	ＫＤＤ	松浪鋭四郎	大髭　輝雄	目黒　仁一	○藤平　守・橋本敏邦・前川栄一・竹中啓二・松永　浩・谷岡祐一 嶋田　聡・太田博之
	航空宇宙技研	堀内　正司	楯　篤志	楯　篤志	○楯　篤志・堀内正司・名越孝行・平林則明・野口正芳・佐藤　衛
	ＪＲ大井	真保　光男	鈴木登美夫	小原　州山	○佐川伸一・岩本　裕・斉藤　博・鎌田和光・塩田貢司・八幡敬尚 鈴木登美夫・小原州山
	ゴーセン・東京	山上　啓三	鎌田　啓睦	内田　かね	○本石俊憲・鎌田啓睦・兼坂省一・葛西孝輝・蒔田新一
	足立区役所	巽　昭	馬場　猛夫	鈴木　敦子	○鵜澤敏信・巽　昭・馬場猛夫・笹林義春・小林光雄・大和田勉 久保井秀夫・佐々木拓
	東京簡易保険局	渡辺　文雄	古明地正邦	広田みちえ	○小畑辰美・古明地正邦・飯塚正之・中沢睦夫・木村克宣・醍醐達也 小林正人・岸　利彦
	世田谷区役所	八頭司達郎	安田　正貴	荒井　久雄	○窪田益夫・巌　充也・横山　登・小沼勇次・稲積康充・桑原雅浩 土屋雅章・古川　洋
	東京電力	佐藤　祥次	内田　修	高野　徹	○石原泰造・内田　修・岩間　源・厚川　勇・橋本　栄・塙　勝治 信太正憲・高野　徹
	東京都庁	島田　稔	大原　政義	高田　浩	○後藤　勝・小林賢治・島田　稔・大原政義・高田　浩・首藤誠司 落合真人・多田信之
	東京トヨペット	日高　義昭	入間　秀哲	沢田　和俊	○福田利男・大瀬久司・橘川光孝・根岸　信・神田正浩・越智直人 長崎　稔・沢田和俊
	警視庁	荒井　義男	荒井　義男	松本　茂之	○横須賀稔・小島保浩・佐藤保次・数井謙二・尾関修一・佐々木匡保 熊谷忠直
	富士電機・東京	新沢　正人	廣瀬　英彰	吉川　清美	○廣瀬英彰・新沢正人・後藤吉勝・杉田　勉・伊藤　徹・岩森純好
神奈川	関東自工	有村　洋一	高橋　清	林　直美	○細谷　昇・高橋　清・奈良秀行・友広徹郎・正田章二・小枝憲久 太田清志
	東電・神奈川	勝又　淳旺	笛田　卓司	五十嵐　功	○小林栄二・榎　博久・五十嵐功・[illegible]　正・二階堂昌明・渡辺政幸 田中　徹・鴨下公男
	日立・戸塚	田中　康之	秋山　昌博	[illegible]　晶子	○鍔川　朗・坂口勝則・秋山昌博・山地正修・田中　亨
	日本電気・相模原	[illegible]　信雄	宮入　恒明	二瓶由理子	○月岡貴公・西出龍守・足立和則・高橋伸弥・土田秀紀・内山泰則 中島次郎・高山照彦
	富士通・川崎	岡沢　陸郎	青木　一夫	青木　一夫	○後藤正志・青木一夫・寺門義之・稲垣広宣・鶴田紀雄・増子克幸 小倉吉隆・菅田直純
	三菱重工・横浜	前沢　祐一	鈴木　勝之	上野　強	○古谷陽一・高橋保則・小松　宏・鈴木勝之・植木恒光・黒川英章 守口　茂・上野　強
	横浜市役所	根本　和夫	金子　英司	境野　伸也	○森　篤・秋葉　博・境野伸也・斉藤英昭・根本道夫・柄本　孝 一瀬浩美・村松利之
	鎌倉市役所	三橋　秀行	小松　真一	諸石　昭好	○鈴木郁雄・諸石昭好・島田正樹・磯島誠司・吉野友明・込山泰弘 加藤　博・川村悦章
	三菱電機・鎌倉	池田　勝彦	池田　勝彦	石井　正男	○石井正男・下山幸一郎・背川　貢・大須賀弘行・片山　敏 熊谷　修・古内浩二
新潟	クラモト	岩渕　好男	倉島　一夫	宝劔　明美	○中野昭司・山口賢治・千田　悟・吉田　明・阿部栄一・木村幸一
	三条機械製作所	外山　修	久住　勝利	羽龍　良記	○鈴木　裕・米山　高・羽龍良記・丸山勝弥・中条雅良・相馬寛輝
	三菱金属・新潟	多田　光男	有本　健	樋口　良則	○山本　勝・山崎芳一・星　誠司・宮村　久・那須野滋・田中　晃 中野将浩・石垣道夫
長野	石川島芝浦機械	松戸　幸雄	北川　良司		○赤羽元春・奥原祐二・座光寺俊二・大槻一郎・丸山　宏・島田直樹
	新光電気	高橋　昌彦	山本　秀一	中島　啓子	○井上慎二・川島雅幸・山浦賢一・若林孝佳・月岡博一・小林博文 山本秀一
	富士通・長野	竹田　勇吉	篠崎　俊久		○鎌田正幸・丸山　隆・酒井正彦・出川輝義・篠崎俊久・奥野　功 上原克士・戸谷正人
富山	三晶技研	浅井　秀一	飛弾　是博	藤井富貴子	○毛利智成・吉森勝之・寺田信行・星野滑志・北野　隆・湯上佳和 堀　正人・種田茂博
	吉田工業	高橋　利博	高橋　利博		○森　徳男・今井治広・辻沢康弘・富田雅人・岡本昌樹

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名　(○印は主将)
富山	不二越	川上　洋一	畑　栄進	川上　麻子	○八川修一・中島　進・新田寛義・碓井政人・八町康行・甚内豊久 山崎　仁・畑　栄進
	十條製紙・伏木	田代　正司	堺　三徳	大野　幸男	○神代和久・山下庄次・高崎裕一・嵐　英一・中嶋正男・蔵野耕治 川島康裕・川崎靖弘
福井	福井市役所	山本　敏彦	嶋田　伸行	内藤　守	○嶋田伸行・谷口治光・宮原　一・岩本好文・高橋　譲・山本光紀 内藤　守・山本敏彦
	関西電力・福井	竹内　時彦	金森　義雄	今村　文彦	○今村文彦・関野博章・木原昭雄・吉村　茂・高橋昌之・青地献将 奥田美智男・杉谷邦彦
	北陸電力・福井	村田　繁一	角　五三男	尾崎　正博	○高野一男・角五三男・前田初志・中家信博・金川克行・亀田昌利 藤尾裕一
岐阜	岐阜県庁	篠田　恭彦	浅野　人美	小島　一也	○加納義之・高橋伸治・田口伸治・小島一也・荻巣雅俊・内記淳司 河田　誠・浅野人美
	三洋電機・岐阜	阪口己代治	松浦　竹典	松浦　竹典	○藤本高義・藤井昭生・内田清人・松浦竹典・菅　祐司・浅田雅彦 有本　譲・荒木久信
静岡	ジャトコ	佐場野英一	後藤　和之	佐藤　佳久	○吉野智昭・住吉勇人・芹沢英彦・関野　強・中田　茂・坂上隆広 中西博文・後藤和之
	テルモ	板垣　賢紀	渡辺　昭	有賀　三雄	○佐野康之・渡辺　昭・山崎　章・若松隆宏・中村規義・有賀三雄 松本　優
	富士フイルム	林　伸幸	滝　正孝	望月美和子	○西島知彦・井出裕雄・吉岡直彦・池田光宏・武井弘征・竹田明彦 諏訪部豊・滝　正孝
愛知	トヨタ自動車	北田　寛一	山本　秀樹	山本　秀樹	○須貝英徳・坂井外喜男・古賀勝志・川本英明・小本義久・城木夢高 福田昭典・坂本宏志
	ＮＴＴ東海	杉浦　弘文	伊藤　雅昭	伊藤　正昭	○水谷悦郎・木下耕一・池田文彦・伊藤正昭・中村昌司・中川紀嗣 境　一弘
	新日鐵・名古屋	安藤　巌	天野　良彦	加藤　勇一	○納所久夫・天野良彦・林　甚代・山西友幸・坪井英之・白田直人 田中敏夫・佐々木秀一
	トヨタ車体	西村　裕治	米沢　強	酒井　哲也	○米沢　強・田部博之・廣田拓也・後藤吉広・鈴木弘行・町田　剛 宮田一幸・角藤利明
	豊田工機	佐伯外與昭	日比野伸昭	小島　厚志	○峰登志郎・日比野伸昭・大阪哲嗣・土田信也・野呂　徹・東　正也 永多　実・石井裕二
	豊田自動織機	大束　祥順	武田　正雄	近藤　善英	○岩渕信司・近藤善英・尾崎　弘・永井　桂・林　忠明・佐山康成 黒沢俊光・笹　伸一
	名古屋鉄道	速水　正昭	井澤　宏	加藤　憲治	○井上　龍・林　久男・斉藤敬一郎・松田浩資・高橋章仁・川嶋清和 加藤憲治・山本良雄
	三菱重工・名古屋	石川　義治	沢田　正夫	旭　奈穂子	○沢田正夫・松波　譲・岩田　崇・中橋友行・旭実喜雄・船木真司 柴田慎一・稲垣省司
	三菱重工・名航	千田　堯	小林　茂幸	中川　文雄	○青山忠雄・浜　俊雅・近藤純一・小林茂幸・坂本雅美・末吉宏次 久永直樹
三重	日本電装	田中　篤郎	藤江　至	福士　武寿	○片岡　泰・西川　勉・福田　実・常山兼二・中川智史・須藤憲一 内富　進・磯部昌弘
	富士電機・三重	山口　香	藤本　規夫	森川　広美	○藤本規夫・森田善幸・水谷俊雄・安保尚雅・稗田寿道・大塚幸次 佐藤滋晃・糀谷清史
	三菱化成・四日市	増井　孝夫	小林　信行	黒宮　香	○増井孝夫・萩田昌昭・毛利浩治・多田晃宏・石井繁光・手島隆雄 小林信行・斉藤正治
	三菱油化・四日市	高橋　力男	大倉　忠	生川　文彦	○大倉　忠・安良城雄介・鈴木正平・泉　洋二・井崎敏己・後藤幸孝 服部英樹・北村　保
滋賀	大津市役所	佐藤　賢	山田　杉男	西原　四郎	○増田伊智朗・奥村　真・中村　亨・吉川忠司・山田杉男・山田通義 森嵜隆之
	叶匠寿庵	芝田　清邦	宇野　恒和	竹端　英夫	○中川　康・重高憲一・新庄　厚・中川　健・梅田　彰・清水剛彦 宇野恒和・竹端英夫
京都	京都中央信用金庫	黒田　豊	黒田　豊	吉田　清隆	○吉田憲一・根本　一・安永　誠・米光秀夫・平井　悟・吉田清隆 矢野暢久
	島津製作所	野村　嘉明	奥田　俊次	井上　昇	○藤井圭一・東　洋一・斉藤清代巳・山本寿志・西村睦喜 井手田英樹・奥田俊次・井上　昇
	日新電機	林　保治	山中　秀樹	橘　栄作	○宮林幸正・梶村和成・山中秀樹・富田久幸・本田修二・橘　栄作
	松下電子部品・京都	山本　修	久保　正人	山本　朋子	○田中徳兵衛・山岸武泰・寺田正文・太田智一郎・瀬尾賢次 金　泰男・柴田　悟・大森　実

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
京都	三菱自工・京都	平林　豊	戸沢　正雄	石津　正明	○竹井宣夫・福井達雄・谷沢和彦・寺尾　豊・福元文雄・広瀬　敬 藤井敏正・白石晋也
大阪	ＮＴＴ関西	勝又　健志	冨田　章夫	冨田　章夫	○松井峰生・武野　忠・奥野　勉・辻田泰昌・上杉浩徳・村山友二 冨田章夫
	大阪ガス	野村　明雄	北野　公男	弘瀬　一生	○北川伝治・西野幸雄・田中真平・早水栄治・斉藤浩司・児玉実広 福井裕之・塩田　孝
	コスモ石油・堺	竹中　正弘	疋田　栄一	芝村　伸之	○竹内洋雅・和久谷富章・楠戸春則・穂谷真弘・西井兼一・芝村伸也 辻　正博・疋田栄一
	三洋電機・住道	角南　行治	池田　三郎	高橋　義和	○岩崎正彦・角南行治・山内重夫・大田和男・久保田義弘・西島　功 安丸和久・江木　浩
	住友金属・大阪	中沢　恒	中沢　登	西村　央子	○梅津裕一・野村　隆・斎藤正博・高橋康司・中沢　登
	阪急電鉄	野沢　明雄	市橋　茂	西郷登代子	○下野治生・蔵本英二・西郷幸司・大野孝二・小野俊雄・佐藤俊哉 高島昭秀
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	宮崎　庄一	北野　誠一	○山川正一・中角好男・樋口正幸・山口昭彦・勝川道和・見市幸司 長谷浩道・江口俊之
	松下電子部品・大阪	森脇　紳二	森脇　紳二	赤松知衣子	○長山武弘・松本浩二・名川達弥・福田敏伸・木下　保・森脇紳二 西井伸之
	塩野義製薬	本摩　恒利	本摩　恒利	長井　正彦	○玉木芳雄・中島弘司・幸野　薫・地主　豊・佐藤彰彦・竹内寿和
兵庫	神戸マツダ	藤江　久善	藤江　久善	川畑　幾世	○服部清彦・秋月道隆・森野修治・岡田克美・小島政浩・加藤隆弘 竹内　茂
	新日鐵・広畑	秋岡　眞人	平松　重吉	泉　吉弘	○片岡正之・塩飽　初・平松重吉・横山真二・八十友昭・広岡輝男 寺橋弘康・泉　吉弘
	大和製衡	小川　雄一	木下欣二郎	藤本　純一	○山本　勝・藤本純一・黒田真孝・大西　隆・木田英明・小川雄一 飯塚俊介・草田　隆
	三菱重工・神戸	宮本　勝治	瀬川　欽也	村上　詠子	○平川克彦・斉藤徹哉・房田憲兒・村上郁夫・大橋　功・多田智浩 原田健一
	三菱電機・神戸	中堀　一郎	上藤　朝之	上藤　朝之	○三宅慎太郎・池渕順一・横田　明・藤原光雄・佐々木利彦 真崎和美・吉岡和美・上藤朝之
和歌山	住友金属・海南	友松　泰男	尾崎　充男	大上　忠志	○中前昌幸・高垣俊宏・北山一成・大上忠志・前川周三・広畠三次
	住友金属・和歌山	貴志　祐吉	[illegible]	福島　一正	○西山祥一・森　隆・梅林信幸・中尾孝司・児嶋　浩・北山洋二 乳井重雄・北川　康
岡山	川崎製鐵・水島	戸部　俊一	中山　睦雄	穴吹　栄二	○藤原道弘・平田重男・片岡洋一・三村勇人・中山睦雄・穴吹栄二 戸部俊一
	三井造船・玉野	細田　高代	田丸　勝己	松岡　純子	○山本　清・田丸勝己・若林邦任・大倉達也・高本行男・長谷秀樹 芳上一男
	クラレ・岡山	丹羽　義博	田中　次郎	小河原　治	○板谷好訓・田枝誠一・香山光明・山下　剛・福山裕之・小河原治 永井公一
山口	宇部興産	山切　睦彦	末廣　秀樹	高田美穂子	○坂本賢二・河添忠夫・吉川直樹・沖　貞雄・安田耕司・末廣秀樹
	山陽国策パルプ・岩国	谷渕　龍夫	高橋　良明	片山　直江	○村上弘明・高橋良明・高橋和也・森本孝敏・室井伸夫・宮岡　崇 後藤　晃・林　厚志
香川	香川県庁	真鍋　剛	真鍋　剛	今雪　良智	○今雪良智・弾正原義春・岡田忠巳・谷本竹司・香川正樹・豊島正人 永瀬守俊・小山光男
	ＹＫＫ四国	横幕　賢一	古竹　公三	板東　輝夫	○古竹公三・好井博文・小比賀英二・麦谷敏也
	高松市役所	畠山　正男	栗田　康市	山花　有喜	○大久保進・木村　茂・西川　博・栗田康市・大山美光・中西　功 綾田隆文・向谷久喜
愛媛	クラレ・西条	浜　博公	横井　虎男	橋田　国司	○野口秀文・伊東　貢・田坂祐二・近藤勝行・佐々木順一・川上康之 三村一郎・加藤　昇
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　裁美	真名子靖代	○近藤公輔・相良勝吉・藤本　悟・山田幸司・東　義徳・桜井雄一 山田修司・石田隆之
長崎	三菱重工・長崎造船所	江戸昭八郎	田中　貞夫	田中　賢介	○江坂敏郎・竹永　学・中野和雄・福田良治・三根　哲・田中貞夫 田中賢介・岡田芳彦
石川	ＮＴＴ北陸	畠山　丈治	松下　力	直地　直	○浜谷安裕・井口郁英・佐々木正良・塩田光男・谷島助男・嵐山正二 森田　均・宮本照啓
	金沢市役所	駒谷　良則	太田　博之	直江　立香	○毛利達彦・山下敏行・林　芳広・太村正信・田村　稔・庄田秀実 山口　亮・泉　光男

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
石川	ゴーセン・北陸	上田　了	村谷　信男	小田　直美	酒井直人・谷島英男・水上　智・犬嶋　央・村谷信男・伊崎克徳
	ＰＦＵ	平林　義朗	清水　善長	杉下真由美	清水善長・岡島浩一・中川　守・八手宣彦・浅野通直
	ＪＲ西日本・金沢	谷口　紀久	山本　徹	北　義治	山本　徹・玉村正司・谷口　裕・石村　守・竹中康弘・北　義春
	津田駒	鍋嶋　範雄	安江　勉	金谷　敏夫	山本秀夫・奥本正博・古川政美・金谷敏夫・高島直樹・広村　繁 柿本伸次・二口吉邦
	北國銀行	大門　重樹	岡部　憲昌	重政　誠之	羽田義仁・羽田憲治・西島弘幸・福島誠孝・武田　修・重政誠之
	ハセガワ	長谷川　進	長谷川　進	中川　抄織	長谷川進・新屋与市・長谷川一郎・岩本博昭・安川直人

（女子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	地崎	岩崎　昭郎	岡本　伝	加藤　洋子	○和田美津子・加藤洋子・小川美和・平間由紀・星和代子
秋田	羽後銀行	相庭　洋二	相庭　洋二	相場　敏晴	○永沢真澄・柳谷郁子・菊地公子・嵯峨なつこ・大森るみ子 斉藤由美子
山形	でん六	山口　良典	伊藤　洋一	髙橋　一彦	○田口真由美・東海林文子・丹野弘美・伊藤礼子・長瀬時子 木村郁子・磯　夕子・小野亜紀子
	山形ケンウッド	竹内　昌燎	神山　三男	五十嵐隆子	○五十嵐隆子・若木小百合・菅原郁子・菊池志保・山科則枝 野口かおり・工藤美枝子
福島	日本化成	古館　信義	平向　一郎	伊藤　美幸	○平向芳江・田中貞子・平子文枝・伊藤美幸
	富士通・会津	塚越　厚生	谷沢　正広	渡辺　正光	○青木マチ子・長谷川加代子・菊地美香・大関美和子・須貝やよい 菊地　泉・物江紀子・宇南山恵
茨城	住友金属・鹿島	濱　和雄	岡田　常雄	瓜田　博子	○瓜田博子・川村裕子・山口弘子・本間裕美・五十嵐靖子・奥瀬知香 南雲好枝
	日立化成	中東　三嘉	岩田　輝彦	広沢　清	○藤井美子・小祝幸代・石嶋礼子・木住野かおる・打田あき子
	日立・水戸	早川　博	菅野　孝	小島　孝治	○小貫敦子・小島香代子・有馬正美・米山恵美子・海老沢富子
栃木	日産自動車・栃木	千葉　忠祐	田中　英男	須藤千代子	○須藤千代子・斉藤早苗・海老原和恵・黒須洋子・西野奈美子
群馬	三ツ葉電機製作所	面川　富	湯浅　宏	椎名　博之	○藤岡美智子・和田宏美・鹿沼光代・川越敦子
	富士通・舘林	綱島　平秋	安藤　修二	小林　晴幸	○遠藤幸恵・志津利恵子・土崎順子・関　裕子・八木ひとみ 黒澤淳子
東京	ＮＴＴ東京	原田　和坦	池田　信孝	棚井　幸則	○上村美香・田児よしこ・岡部真由美・小飼真弓・星野実智代 松尾知美・毛利千秋
	ヨネックス	吉本　貞夫	栂野尾昌一	青木きよみ	○陣内貴美子・高峯尚子・森　久子・青木きよみ・捧　匡子 藤井直子
	岩崎通信機	定野　満	北本　清行	北本　清幸	○堤　弘子・久保田祥子・藤沢直美・高梨法子・村山恵三・野村　京
	学習研究社	小島南海雄	今井　茂満	小島南海雄	○大塚千賀子・杉山紀子・鎌田みゆき・石田千尋・森川奈緒子 中山美里・小林恭子
	大田区役所	伊藤　一郎	有路　幸一	江川　博康	○柳澤とし美・黒岩千都子・沢澤令子・諸田順子
	東京都庁	島田　稔	島田　稔	重松まゆみ	○重松まゆみ・笹林朋子・田倉テイ子・田中阿紀
	三共	加藤　治	岩下　龍二	岩野　雄次	○及川道子・村松純子・外松幹子・宮沢由起子・松橋保子・今井恵美 朝倉　恵・池田啓子
	横河電機	南條　尚	生田　美穂	大村　泉	○生田美穂・清水美恵子・山田美恵・林　幾子・太田美千代 林美香子・小林由紀美・秋山美佐子
	コニカ		小塩　和子	内田　淳吉	○五代恵美・小塩和子・樫村みどり・小泉ふみ子・勝山亜矢子
神奈川	関東自工	有村　洋一	浅見　勇	林　直美	○行方淑枝・中嶋昌美・林　直美・植竹由美・矢本清美・高瀬圭子 宮脇美奈子・瀬下由紀
	日本電気・相模原	板倉　信雄	宮入　恒明	二瓶由理子	○松下直子・岡田由美子・二瓶由理子・川野名智美・月野裕喜子 藤松正美・和賀幸子・桜庭いずみ
	日立・戸塚	田中　康之	高山　秀子	樋口　晶子	○黒田智子・高山秀子・岸本ひとみ・樋口晶子・鈴木景子
長野	新光電気	髙橋　昌彦	山本　秀一	中島　敬子	○坂本みどり・中島敬子・喜久川直子・常田弘美・北尾根貴美
	セイコーエプソン	羽田　敏勝	木下　宏行	中沢　静江	○中沢静江・矢崎雅子・東海林とも子・岩波和子

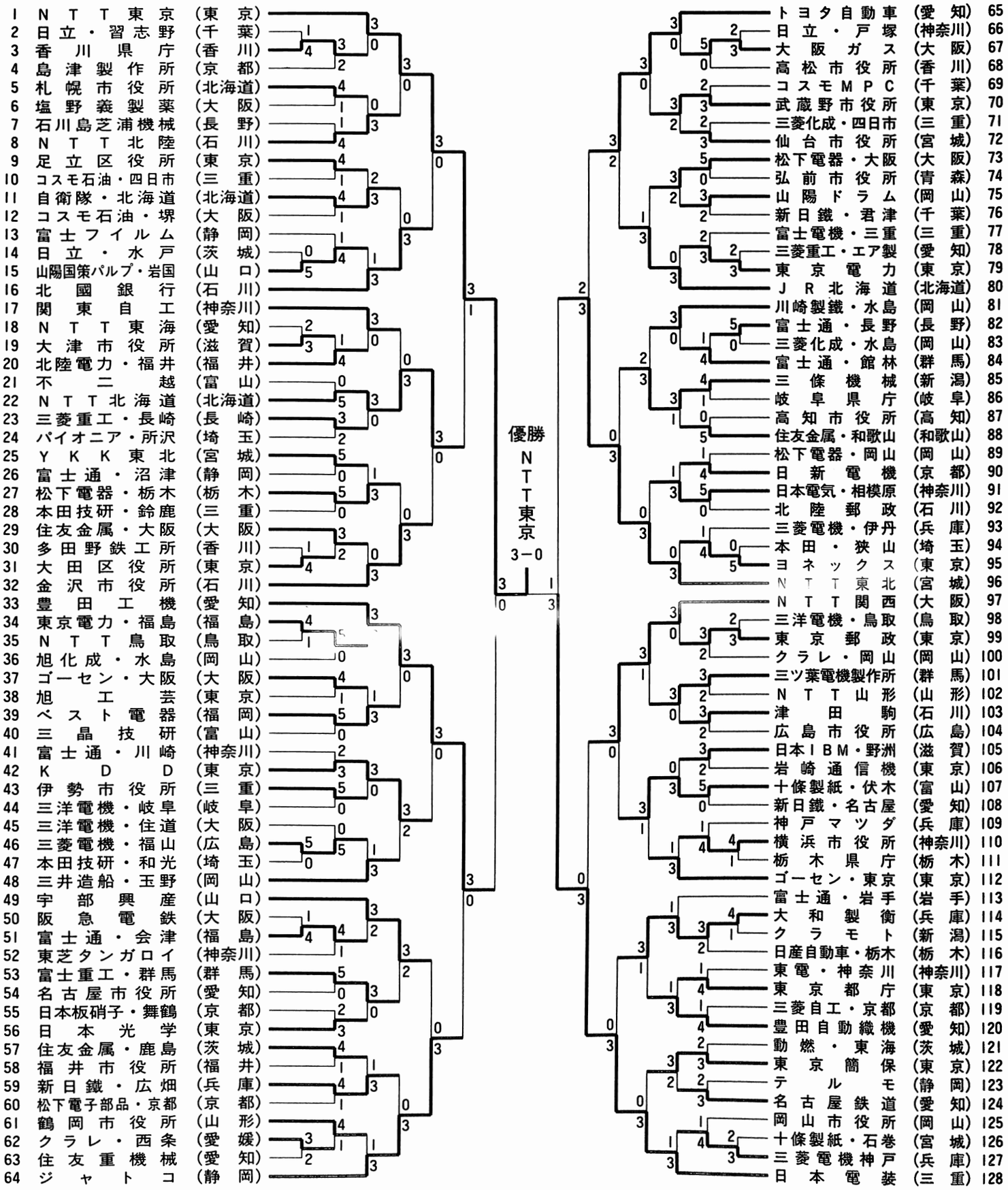
県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
長野	富士通・長野	竹田　勇吉	伊東　文夫		○滝沢政子・梅沢悦子・吉岡かおる・東山純子・加藤順子・高山卓子 畔上裕美
富山	三協アルミ	辻本　勉	北山　清志	河合　昭博 藤川　知子	○今川真理子・大谷鶴美・山田美紀・上浜陽子・伏喜由美子 能沢智佳子・谷口正美・亀谷志都
	不二越	川上　洋一	畑　栄進	川上　麻子	○笹野淳子・田辺佐依・川上麻子・岸美根子
福井	福井市役所	山本　敏彦	増永　秀則	田中のり子	○多田慧子・宮浦そとえ・松村尚美・南保正枝・田中のり子 大橋美恵
	福井県庁	牧野　正明	川端　裕之	毛利　直美	○藤川智弓・毛利直美・竹根瑞枝・松村みどり・上田雅子 松田香代子・田中妙子
静岡	ジャトコ	佐場野英一	松山　博雄	望月貴代美	○望月貴代美・高井良枝・大内めぐみ・遠藤久美子・羽切恵実子
	ヤマハ	仲道　達夫 大菅　裕而	飯野　佳孝	吉氷　将史 平野　智子	○笠原千夏子・谷本美代子・金丸陽子・平野智子・横手智江美 山田美紀・中田裕子
	富士通・沼津	吉田　哲三	渡辺　真生	岩田　明郎	○井上由美子・安井真弓・伊代野栄子・高硲寛子・渡辺ゆみ 伊代野和美・中村容子
愛知	名古屋鉄道	速水　正昭	井澤　宏	加藤　憲治	○近藤あけみ・大野真奈美・水野裕子・竹川美幸・安藤尚美
	トヨタ車体	西村　裕治	米沢　強	酒井　哲也	○後藤恵子・後藤もと子・佐橋真美・林　絹子・黒川美保 宇佐美栄里・水野佳代子
	豊田合成	竹内　邦嘉	岡田　誠治	杉浦　芳博	○舟橋明子・鈴木昇子・鈴木芳子・浦木玉子・丸田裕子・森　智美 平川ひとみ
	トヨタ自動車	北田　寛一	菅原　敬二	山本　秀樹	○松本清美・伊倉幸子・田村真理子・田中裕子・三上明子・慶秀清子 三浦美紀子
	豊田自動織機	大束　祥順	武田　正雄	近藤　善英	○宿屋美佐子・津崎孝子・佐藤裕美子・野呂奈生子・加藤治子 森ゆかり・奥谷美月・相馬美奈子
	豊田通商	西山　直文	江端　正己	佐藤眞理子	○佐藤眞理子・三橋結実・鈴木晃代・新井雅子・大島裕子
	日本電装	鈴木　孝	亀谷　幸生	三原千恵子	○大屋幸恵・丑田明子・佐藤浩子・永野洋恵・佐々恵理・間庭由美 河村祐子・三原千恵子
	アイシン精機	岩岡　照夫	飯見　隆治	武部美保子	○市川律子・武部美保子・橋爪　泉・紀平あき子・鈴木智恵子
三重	松下電工・伊勢	元山　正徳	山本　博文	山下小百合	○山下小百合・西口千種・関矢育子・田上弘子・稲垣恵子・中森直子
滋賀	東レ・滋賀	河野　基亜	細野　[illegible]	[illegible]	○中井幸江・加藤典恵・西山綾子・杉本由紀路・杉本久美・西山幸恵
	松下電工・彦根	[illegible]	[illegible]		○安澤千賀子・中村佳世・前川みどり・小笠原幸子・南　紀子 長瀬隆子・村松千歳
京都	三菱自工・京都	平林　豊	戸沢　正雄	浜田　薫	○北川典子・高倉さち子・浜田　薫・春原一葉・大槻悦子・小野昌子 溝口奈峰子・田中晴美
	京都中央信用金庫	黒田　豊	黒田　豊	吉田　清隆	○藤支芳美・藤本康江・宮脇桂子・大江弘子
大阪	三洋電機	中井　健三	宇治　収	銭谷　欽治 清水　尚美	○北田スミ子・小泉陽子・田代美智世・奥山保子・新木貴子 秋元美佐緒・北浦道代・今村　薫
	サントリー	松下堅一郎	山本　次生	田島　志乃	○北本久美子・谷地春子・廣田時子・小池由扶子・磯崎照枝 金井和恵・西村美千代・磯崎京美
	大和銀行	伊藤　憲二	伊藤　憲二	千田　朗子	○千田朗子・津村佳代子・尾崎和枝・長沢幸江・柳生圭子 立道佐知子・福田真弓
	住友金属・大阪	中沢　恒	中沢　登	西村　央子	○原田いずみ・市川　綾・中濱優江・辻　直子・松長美和・谷内洋子
	松下電子部品・大阪	森脇　紳二	森脇　紳二	赤松知衣子	○濱田裕美子・高谷晴美・中村いと子・前川早智子・松本砂千 玉置節子・大谷美樹・赤松知衣子
兵庫	三菱電機・伊丹	伊藤　利朗	矢賀　雅人	伊藤　里美	○荻生美奈子・伊藤里美・尾亀留実・白井洋子・大村和代・清水浩美 清水明子
	三菱電機・神戸	中堀　一郎	大町　有希	上藤　朝之	○藤田直子・馬場慶子・中野牧子・野崎かおる・武貞景子・大町有希
和歌山	住友金属・和歌山	貴志　祐吉	川村　桂司	野沢　英雄 福島　一正	○和泉礼子・嶌田訓子・工藤志子・和泉美恵子
	住友金属・海南	友松　泰男	尾崎　充男		○植松多恵子・木下みどり・杉林小百合・濱内沙織
鳥取	鳥取オンキョー	小原　弘幸	佐々木英人		○竹歳文子・下山由美子・渡辺晴美・道端信子
香川	アジア石油	佐藤　一寿	杉上　有一	石井きくみ	○青野早苗・熊谷清美・関　和代・石井きくみ・近藤由里恵
	香川県庁	真鍋　剛	真鍋　剛	今雪　良智	○藤沢映子・矢田裕子・横井五月・石川恵三子・谷本紀子・石川人巳

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
香川	百十四銀行	窪川　道夫	窪川　道夫	新田　豊子	○中川富美子・山田理恵・松村晴子・辻　章子・山白麻紀 森下さおり・古田真由美
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　裁美	真名子靖代	○磯村久美・藤　裕技・崎本実穂・安川八千代・長浜亜紀・伊藤　愛 田頭美奈子・渡辺順子
熊本	九州日本電気	橋口　廣則	坂本　正	宮本　幸弘 蓑田　聡子	○大嶌みどり・中原紀代美・森下真由美・林　美希・堀内美重 工藤雅代・杉野美貴・田畑美香
石川	ＰＦＵ	平林　義朗	岡島　浩一	杉下真由美	○麝香有里・和田真由美・谷川絹代・森さとい・山田喜美枝
	北國銀行	大門　重樹	岡部　憲昌	彼島　佳子	○水本幸代・斉藤美和子・岡田真澄・油野敏美・一木千代乃 閤田和恵・西紀美栄・山口美香

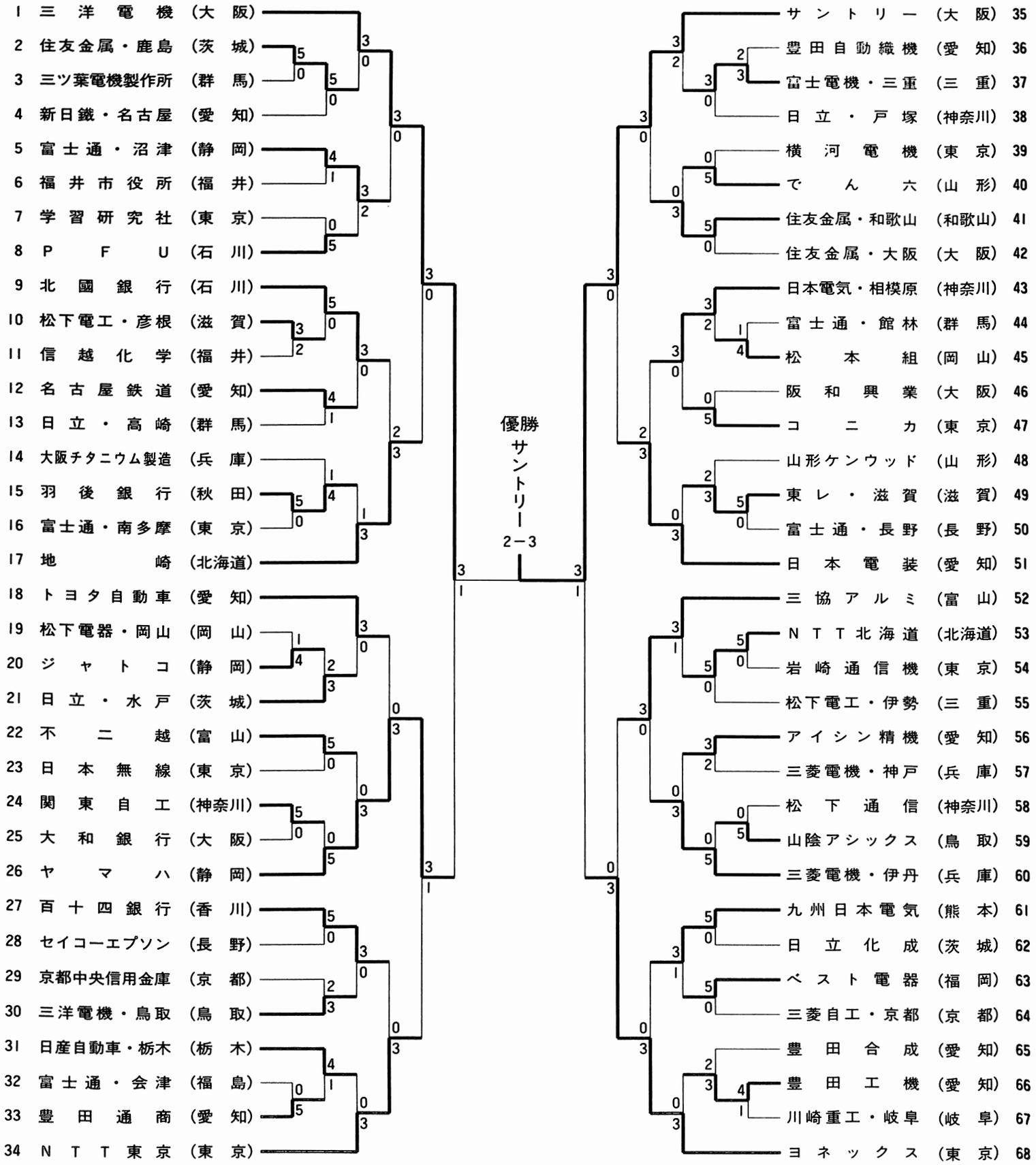
第39回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1989年(平成元年)6月14～18日
開 催 地：岡山県岡山市
会　　場：岡山市総合文化体育館、
　　岡山県体育館

■男子団体の部



■女子団体の部


1 三洋電機（大阪）
2 住友金属・鹿島（茨城）
3 三ツ葉電機製作所（群馬）
4 新日鐵・名古屋（愛知）
5 富士通・沼津（静岡）
6 福井市役所（福井）
7 学習研究社（東京）
8 PFU（石川）
9 北國銀行（石川）
10 松下電工・彦根（滋賀）
11 信越化学（福井）
12 名古屋鉄道（愛知）
13 日立・高崎（群馬）
14 大阪チタニウム製造（兵庫）
15 羽後銀行（秋田）
16 富士通・南多摩（東京）
17 地崎（北海道）
18 トヨタ自動車（愛知）
19 松下電器・岡山（岡山）
20 ジャトコ（静岡）
21 日立・水戸（茨城）
22 不二越（富山）
23 日本無線（東京）
24 関東自工（神奈川）
25 大和銀行（大阪）
26 ヤマハ（静岡）
27 百十四銀行（香川）
28 セイコーエプソン（長野）
29 京都中央信用金庫（京都）
30 三洋電機・鳥取（鳥取）
31 日産自動車・栃木（栃木）
32 富士通・会津（福島）
33 豊田通商（愛知）
34 NTT東京（東京）
優勝
サントリー
2－3
35 サントリー（大阪）
36 豊田自動織機（愛知）
37 富士電機・三重（三重）
38 日立・戸塚（神奈川）
39 横河電機（東京）
40 でんろく（山形）
41 住友金属・和歌山（和歌山）
42 住友金属・大阪（大阪）
43 日本電気・相模原（神奈川）
44 富士通・館林（群馬）
45 松本組（岡山）
46 阪和興業（大阪）
47 コニカ（東京）
48 山形ケンウッド（山形）
49 東レ・滋賀（滋賀）
50 富士通・長野（長野）
51 日本電装（愛知）
52 三協アルミ（富山）
53 NTT北海道（北海道）
54 岩崎通信機（東京）
55 松下電工・伊勢（三重）
56 アイシン精機（愛知）
57 三菱電機・神戸（兵庫）
58 松下通信（神奈川）
59 山陰アシックス（鳥取）
60 三菱電機・伊丹（兵庫）
61 九州日本電気（熊本）
62 日立化成（茨城）
63 ベスト電器（福岡）
64 三菱自工・京都（京都）
65 豊田合成（愛知）
66 豊田工機（愛知）
67 川崎重工・岐阜（岐阜）
68 ヨネックス（東京）

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名　（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	北川　誠	米山　孝二	中島　俊也	○伊藤雅弘・米山孝二・千葉昌弘・中島俊也・山尾克則・加藤　学 角谷淳一・工藤忠和
	ＪＲ北海道	山崎　正博	乙武　重丸	乙武　重丸	○高橋　進・七崎悦範・松村徳市・松岡　誠・奥名泰光・山田好明 田中昭夫・乙武重丸
	札幌市役所	島中　貞夫	中平　正幸	渋井　敏紀	○工藤義憲・中平正幸・久保田昭夫・渋井敏紀・中村義則・高崎厚生 市川幸典
	自衛隊・北海道	野村　武昌	佐々木秀男	池元　裕	○千葉正幸・伊藤寿史・金子　栄・小林寿一・中野今朝四郎 橋本清一・本村洋二郎
青森	弘前市役所	中村　博典	斉藤　和則	工藤　徳男	○斉藤和則・工藤徳男・福士文敏・佐藤雅幸・小山内一仁・中村博典 佐々木富英・小野浩一
岩手	富士通・岩手	田中　信平	山内　一明	鈴木　礼子	○菊地生昭・岩渕裕光・鈴木広志・近藤秀信・藤谷清文・小原智雄
宮城	ＮＴＴ東北	堀辺　豊	田所　光男	渡辺真由美	○原田利雄・加藤安史・吉田幸司・渡辺勝治・韮沢伸幸・柴崎信之 渡部祐一
	仙台市役所	佐川　善信	鈴木　勇治	佐藤　文一	○千葉利行・佐藤文一・大友光平・永野日出登・佐藤和之・熊坂　武 鈴木勇治
	ＹＫＫ東北	水口　利之	水口　利之	押切　吉基	○太田　淳・中村弘康・中塩房雄・渋谷哲義・金輪隆司・押切吉基
	十條製紙・石巻	濱島　明人	数川　昭市	片岡　秀樹	○遠藤節郎・佐藤裕司・本多勝弘・伊藤康志・佐藤光彦・菅野耕一
山形	鶴岡市役所	窪田　寛士	小林　保夫	佐藤千佳子	○真田昭良・上原正明・丸山勝美・秋庭一生・小林　学・阿達和夫 長谷川吉祥・佐藤　茂
	ＮＴＴ山形	斎藤　八郎	岡田　寿紀		○小中英智・高橋則一・中島　修・鈴木　尚・三浦卓夫・岡田寿紀
福島	東京電力・福島	鈴木　祐	斎藤　満雄	山内　利江	○山田保夫・斎藤満雄・本間　宏・五十嵐圭一・小塚達男・白井文人 鎌田信一・半谷雄二
	富士通・会津	塚越　厚生	青木　昭弘	渡辺　正光	○寺田　繁・渡辺正光・杉原好一・清野徹也・上野　孝・星　　徹 本多克博・西潟昌利
茨城	住友金属・鹿島	濱　和雄	岡田　常雄	五十嵐靖子	○梅沢和則・墳本敏幸・岡田常雄・元山卓也・板垣龍平・小林靖敏
	日立・水戸	早川　博	菅野　孝	小島　孝治	○小島孝治・狩野秀一・梅室真二・大塚　正・結束雄二・堀之内滋 菅野政明・菅野　孝
	動燃・東海村	三島　毅	三浦　満	牧野　勉	○渡辺健治・牧野　勉・堀口幸一・長山政博・篠原修二・福井雅裕 栗原孝幸・綿引博美
栃木	栃木県庁	[illegible]	湯沢　雄一	和久　光男	○池田勝浩・湯沢雄一・古沢元浩・鈴木　武・和久光男・原　利浩 琴寄行雄・小島秀雄
	日産自動車・栃木	千葉　忠祐	大八木　正	黒須　洋子	○笠井孝之・田上　悟・大八木正・飯田良二・青柳哲夫・海老原将美 入江久夫
	松下電器・栃木	宮野　隆三	中山　年史	阿久津幹男	○岡室利彦・呉井信夫・松本　誠・安達昌芳・佐々木宏幸・小篠政和 野口敬洋・加藤正幸
群馬	富士重工・群馬	杉本　伸夫	渡辺　晃一	島田　清和	○中居功治・島田清和・竹内康夫・斉藤　宏・五十嵐聡・高野貞男 目黒正浩・瓜田正勝
	富士通・館林	綱島　千秋	安藤　修二	小林　晴幸	○木村　博・横山　稔・石戸広昭・松元功一・君島　修・渡辺文明 大塚一幸・綱川秀明
	三ツ葉電機製作所	面川　富	湯浅　宏	島田　正志	○高橋弘敏・片桐哲也・勅使川原尚・藤沢　智・武井康郎・湯浅　宏
埼玉	パイオニア・所沢	小鷹　文隆	近藤　均	那賀　敬弘	○馬場良一・近藤　均・鈴木洋一・澤辺孝夫・山下　力・那賀敬弘 伊澤利明・相馬　操
	本田技研・狭山	藤田　茂樹	岩田　好夫	大橋　正	○宮越通康・正木和久・今野直人・福井喜一・藤田茂樹・岩田好夫 堀越　勉・大橋　正
	本田技研・和光	阿部　賢治	高野　一男	阿部　賢治	○吉川浩平・山崎善男・関谷睦博・井上　章・田口一彦・稲村　茂 馬場一郎・登松光雄
千葉	コスモＭＰＣ	西尾　元佑	浅利　章悦	前田　益孝	○岩瀬　洋・滝本和大・佐藤一男・谷野公昭・佐々木仁一・鈴木博之 米沢　仁
	新日鐵・君津	田中　徹	吉田　寛	永井　信吾	○宮崎雅浩・吉田　寛・阿部哲夫・菅原又男・佐藤明海・岡　良則 宮田秀人
	日立・習志野	三木　健光	北畠　静吉	北畠　静吉	○北畠静吉・金塚　茂・西本　勝・佐々木敦志・根本幸二・前川靖宏
東京	ＮＴＴ東京	江畑　誠一	(総)池田信孝 尾崎　幹雄	棚井　幸則	○西山博司・本田浩二・長内征美・松野修二・柳谷辰哉・佐賀史昭 宮　康二・江藤裕樹

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名 (○印は主将)
東京	岩崎通信機	定野 満	北本 清行	北本 清行	○馬場唯生・下山 実・北本清行・山崎隆之・家串友治
	KDD	松浪鋭四郎	大髭 輝雄	目黒 仁一	○藤平 守・橋本敏邦・前川栄一・松永 浩・谷岡祐一・鴫田 聡 太田博之・則松直樹
	ゴーセン・東京	山上 啓三	鎌田 啓睦	内田 かね	○本石俊憲・鎌田啓睦・葛西孝輝・兼坂省一・中村和弘・蒔田新一
	足立区役所	巽 昭	巽 昭	鈴木 敦子	○鵜澤敏信・馬場猛夫・小林光雄・久保井秀夫・大和田勉・笹林義春 佐々木拓・長門忠雄
	ヨネックス	土田 隆	丹藤 勇一	望月 資	○丹藤勇一・梅野尾昌一・土田 隆・望月 資・阿部浩志・高橋賢治 青山正伸
	旭工芸	山口 安則	山口 安則	横田 和博	○中津不二雄・山口安則・横田和博・板谷孝男・谷吉宇義則 鳥羽信哉・村上 勝
	東京簡易保険局	渡辺 文雄	古明地正邦	廣田みちゑ	○小畑辰美・古明地正邦・飯塚正之・中沢睦夫・醍醐達也・岸 利彦 田村 収・小林正人
	東京電力	佐藤 祥次	内田 修	高野 徹	○石原泰造・岩間 源・厚川 勇・高野 徹・内田 修・橋本 栄 塙 勝治・文挟誠一
	東京都庁	島田 稔	島田 稔	小林 賢治	○後藤 勝・島田 稔・高田 浩・小林賢治・大原政義・落合真人 多田信之
	ニコン	金谷冨士夫	本多 修治	池野 智久	○根岸光正・百瀬智宣・斎木利雄・宮島 実・小室 功・三上 修 池野智久・菊地孝幸
	東京郵政	古川 省吾	多田 晃一	大橋喜久夫	○多田晃一・古川省吾・木村克宣・杉田勝則・佐藤宏之・信組政博 青木敏光・永田伸一
	大田区役所	大泉 勝行	有路 幸一	江澤 令子	○芝崎 誠・伊藤一郎・有路幸一・野口 清・江川博康・瀬戸島昌人
	武蔵野市役所	森山 兼政	露木 保敏	益守 武道	○清水藤雄・露木保敏・益守武道・田沢 隆・坂口一道・押切正利 山口敏雄・森山兼政
神奈川	関東自工	有村 洋一	浅見 勇	林 直美	○細谷 昇・奈良秀行・正田章二・小枝憲久・大田 清・佐原弘明 高橋 清
	東京電力・神奈川	勝又 淳旺	笛田 卓司	(マネージャー) 畑楠 陽子 浅田 幸江	○小林栄二・桜 博久・五十嵐功・山本 正・渡辺政幸・田中 徹
	日立・戸塚	田中 康之	甘粕 完治	樋口 晶子	○鰐川 朗・甘粕完治・坂口勝則・秋山昌博・田中 亨・渡辺康之 杉山勝美・藤田良一
	日本電気・相模原	板倉 信雄	月岡 貴公	二瓶由理子	○土田秀紀・月岡貴公・西出龍守・足立和則・内山泰則・中島次郎 高山照彦
	富士通・川崎	岡沢 陸郎	青木 一夫		○後藤正志・青木一夫・稲垣広宜・増子克幸・蜂谷 順・和久井伸一 菅田直純・鈴木 薫
	横浜市役所	根本 和夫	境野 伸也	井上 雄太	○森 篤・平 敏司・斉藤英昭・根本道夫・一瀬浩美・村松利之 鎌倉保之・村上英典
	東芝タンガロイ	梅田 泰三	伊藤 朗	千葉 利幸	○重野清志・伊藤 朗・竹中 力・江尻新一・小野 武・岩本 努 田所一幸・奥野 昇
新潟	クラモト	岩渕 好男	倉島 一夫	武藤 明美	○中野昭司・山口賢治・千田 悟・吉田 明・木村幸一
	三條機械製作所	外山 修	久住 勝利	羽龍 良記	○鈴木 裕・米山 高・羽龍良記・丸山勝弥・相馬寛輝・佐藤幸明
長野	石川島芝浦機械	北川 良司	北川 良司	赤羽 元春	○赤羽元春・奥原祐二・島田直樹・座光寺俊二・丸山 宏
	富士通・長野	竹田 勇吉	丸山 隆	酒井 正彦	○鎌田正幸・丸山 隆・伊藤丈夫・出川輝義・堀口 浩・戸谷正人 上原克士・山崎 豊
富山	三晶技研	浅井 秀一	毛利 智成	平野 祐子	○吉森勝之・星野清志・北野 隆・種田茂博・澤田淳悦・毛利智成 寺田信行・源通直樹
	不二越	川上 洋一	畑 栄進	高西 誠二	○八川修一・新田寛義・碓井政人・濱松栄次・甚内豊久・山崎 仁 八町康行・山下直哉
	十條製紙・伏木	田代 正司	堺 三徳	林 清和	○嵐 英一・高崎裕一・中嶋正男・蔵野耕治・川島康裕・川崎靖弘 山本 潤・谷口孝志
石川	金沢市役所	山下 修平	山口 亮	諸 美菜子	○毛利達彦・林 芳広・山下敏行・山形 博・太村正信・田村 稔 庄田秀実・永井俊宏
	NTT北陸	畠山 丈治	松下 力	直地 直	○浜谷安裕・佐々木正良・宮本勝裕・谷島助男・森田 均・平野秀樹 坂井外喜男・宮本照啓
	津田駒工業	鍋嶋 範雄	安江 勉	高島 直樹	○奥本正博・金谷敏夫・高島直樹・広村 繁・小川裕之・古川政美 二口吉邦・塩谷真樹

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
石川	北國銀行	大門　重樹	岡部　憲昌	重政　誠之	○羽田義仁・羽田憲治・崎田健一・西島弘幸・藤島誠孝・武田　修
	北陸郵政	赤井　敏和	酒井　民夫	徳村　政雄	○里谷　温・野村保弘・杉山明夫・小山浩司・徳村政雄・寺井宏之
福井	福井市役所	山本　敏彦	鳴田　伸行	村井　敏晃	○宮原　一・鳴田伸行・谷口治光・村井敏晃・高橋　譲・山本光紀 内藤　守・山本敏彦
	北陸電力・福井	村田　繁一	角　五三男	尾崎　正博	○高野一男・角五三男・前田初志・中家信博・金川克行・亀田昌利 藤尾裕一
岐阜	岐阜県庁	大平　康弘	浅野　人美	荻巣　雅俊	○加納義之・高橋伸治・小島一也・内記淳司・河田　誠・宮前良一 田口伸治・荻巣雅俊
	三洋電機・岐阜	阪口巳代治	松浦　竹典	藤本　高義	○藤本高義・有本　譲・浅田雅彦・松浦竹典・石丸貴久・藤井昭生 水野信一
静岡	ジャトコ	佐場野英一	後藤　和之	佐藤　佳久	○吉野智昭・住吉勇人・坂上隆広・中田　茂・後藤和之・飯野　馨 井出勝弘・若松　誠
	テルモ	板垣　賢紀	渡辺　昭	有賀　三雄	○渡辺　昭・佐野康之・山崎　章・若松隆宏・中村規義・有賀三雄 松本　優
	富士フイルム	林　伸幸	滝　正孝	望月美和子	○井出裕雄・西島知彦・池田光宏・武井弘征・吉岡直彦・諏訪部豊 竹田明彦・滝　正孝
	富士通・沼津	吉田　哲三	渡部　真生		○岩田明郎・掛橋将信・星野光昭・川口明広・山口　剛・石田　薫 遠藤正二
愛知	トヨタ自動車	北田　寛一	山本　秀樹	山本　秀樹	○須貝英徳・古賀勝志・川本英明・福田昭典・小本義久・城木夢高 松野和秀
	ＮＴＴ東海	杉浦　弘文	伊藤　雅昭	伊藤　正昭	○水谷悦郎・木下耕一・池田文彦・伊藤正昭・中村昌司・北島洋一 境　一弘
	新日鐵・名古屋	安藤　巌	天野　良彦	内田　公明	○納所久夫・天野良彦・佐々木秀一・山西友幸・白田直人・坪井英之 田中敏夫・高田悦郎
	豊田工機	佐伯外與昭	日比野伸昭	石原ひかり	○峰登志郎・日比野伸昭・土田信也・野呂　徹・東　正也・永多　実 石井裕二・宮坂　悟
	豊田自動織機	大束　祥順	岩渕　信司	近藤　善英	○岩渕信司・近藤善英・永井　桂・林　忠明・木全春彦・佐山康成 笹　伸一・山田孝幸
	名古屋鉄道	速水　正昭	井沢　宏	斉藤敬一郎	○井上　龍・林　久男・斉藤敬一郎・高橋章仁・川嶋清和
	名古屋市役所	春日井利雄	竹内　隆三	小林　幸代	○川上重秋・平野博久・常包泰樹・藤田英二・良　光裕・沢田和宏 大羽利幸
	三菱重工・エア製	石川　浩一	沢田　正夫	福嶋三智子	○岩田　崇・松波　譲・沢田正夫・岡村保広・稲垣省司・志摩輝彦 小倉和幸・山中充正
	住友重機械	中田　健二	物部　良弘	高尾　雄大	○福田　茂・吉田　努・物部良弘・松木博志・中川俊幸
三重	日本電装	田中　篤郎	藤江　至	福士　武寿	○片岡　泰・西川　勉・福田　実・中川　健・須藤憲一・常山兼二 喜岡泰弘・磯部昌弘
	富士電機・三重	山口　香	森川　広美	森川　広美	○藤本規夫・森田善幸・水谷俊雄・安保尚雅・稗田寿道・佐藤滋晃 糀谷清史・森川広美
	三菱化成・四日市	増井　孝夫	小林　信行	伊藤みどり	○毛利浩治・荻田昌昭・多田晃宏・石井繁光・手島隆雄・森山唯史 小林信行・増井孝夫
	コスモ石油・四日市	江川　哲夫	長谷川輝和	渡部　るみ	○山上正行・荒木良之・野呂雅也・上野健一・川戸真也・吉川和良
	本田技研・鈴鹿	朝比奈正光	朝比奈正光	石井　誠	○朝比奈正光・石井　誠・石川浩志・世古浩一・武藤昭三・中川　誠 澤口達哉・井上鉄也
	伊勢市役所	水谷　光男	松岡　信	松岡　信	○中尾信幸・永田密山・松岡　信・丸山　光・大西康浩
滋賀	大津市役所	佐藤　賢	西原　四郎	西原　四郎	○増田伊知郎・奥村　真・中村　亨・森嵜隆之・芹澤孝則・吉川忠司
	日本ＩＢＭ・野洲	冨田　健一	木下　寿則	東郷　浩司	○礒田繁和・花田正喜・塩田晃二・森川潤一郎・小林浩明・城戸吉巳 広瀬純吾・木下寿則
京都	島津製作所	野村　嘉明	奥田　俊次	斉藤清代巳	○西村睦喜・奥田俊次・角田二郎・平岡秀介・井上　昇・冨浪　清 山本寿志・斉藤清代巳
	日新電機	林　保治	山中　秀樹	橘　栄作	○宮林幸正・梶村和成・山中秀樹・富田久幸・本田修士・橘　栄作 前田　恒・森　宗之
	松下電子部品・京都	山本　修	久保　正人	山本　朋子	○山岸武泰・柴田　悟・寺田正文・金　泰男・太田智一郎・瀬尾賢次
	三菱自工・京都	平林　豊	戸沢　正雄	福井　達雄	○寺尾　豊・竹井宣夫・佐々木正司・広瀬　敬・藤井敏正・白石晋也 中薮　仁・大石繁幸

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
京都	日本板硝子・舞鶴	永谷　秀之	竹田　正明	藤野外志郎	○永谷秀之・英　進介・森本　進・吉崎　彰・松井一幸・荒木　進 伊藤朋道・藤野外志郎
大阪	ＮＴＴ関西	橋口　孝志	冨田　章夫	上杉　浩徳	○松井峰生・冨田章夫・武野　忠・奥野　勉・辻田泰昌・村山友二 今東　建
	大阪ガス	野村　明雄	北野　公男	弘瀬　一生	○小倉啓宏・西野幸雄・田中真平・早水栄治・斉藤浩司・福井裕之 園部一彦
	コスモ石油・堺	竹中　正弘	疋田　栄一	諏訪　弘	○竹内洋雅・和久谷富章・楠戸春則・穂谷真弘・諏訪　弘・疋田栄一 芝村伸也
	三洋電機・住道	角南　行治	宇田川　清	島倉　康浩	○岩崎正彦・角南行治・小路常光・久保田義弘・高木裕之・西島　功 江木　浩・鮫島哲朗
	住友金属・大阪	中沢　登	中沢　登	西村　央子	○梅津裕一・梅本　彰・斎藤正博・高橋康司・田代浩一・山崎量次 多賀直人
	阪急電鉄	野沢　明雄	市橋　茂	西郷登代子	○下野治生・蔵本英二・大野孝二・小野俊雄・佐藤俊哉・高島昭秀
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	宮崎　庄一	北野　誠一	○山川正一・中角好男・樋口正幸・山口昭彦・勝川道和・長谷浩道 江口俊之・常山康一
	ゴーセン・大阪	上田　了	横田　利弘	増井　早苗	○山崎哲彦・横田利弘・山田智嗣・村松　博
	塩野義製薬	本摩　恒利	本摩　恒利	長井　正彦	○玉木芳雄・佐藤彰彦・竹内寿和・中島弘司・幸野　薫・地主　豊 吉野秀男
兵庫	神戸マツダ	藤江　久善	服部　清彦	川畑　幾世	○秋月道隆・森野修治・岡田克美・小島政浩・加藤隆弘・服部清彦 藤江久善・竹内　茂
	新日鐵・広畑	秋岡　眞人	片岡　正之	泉　吉弘	○横山真二・片岡正之・塩飽　初・八十友昭・平松重吉・広岡輝男 宮原　通・松坂博行
	大和製衡	木下欣二郎	小川　雄一	草田　隆	○山本　勝・藤本純一・黒田真孝・大西　隆・木田英明・三木晴順 小川雄一・草田　隆
	三菱電機・神戸	中堀　一郎	上藤　朝之	上藤　朝之	○池淵順一・上藤朝之・三宅慎太郎・横田　明・吉岡和美・藤原光雄
	三菱電機・伊丹	平林　庄司	寺尾　一秀	清水　浩美	○寺尾一秀・坪井光明・直野俊治・遠藤裕司・入口弥一郎
和歌山	住友金属・和歌山	平松　茂人	北山　洋二	福島　一正	○梅林信幸・中尾孝司・乳井重雄・児嶋　浩・北川　康・北山洋二 森　隆・西山祥一
鳥取	三洋電機・鳥取	鷲見　育亮	鷲見　育亮	浜川伸一郎	○山本明良・小谷清史・伊藤和彦・田渕光章・門脇寛文・谷口博明 川田憲一
	ＮＴＴ鳥取	藤縄　健治	藤縄　健治	石塚　晴敏	○柏木茂樹・的場浩実・石塚晴敏・越智是典・太田保栄・藤縄健治
広島	広島市役所	坂田　和子	尾崎　清	中村　克司	○中村克司・山本克司・尾崎　清・大下慎一・林　哲也・佐々木和義
	三菱電機・福山	稲田　信	安達　恵吉	山崎　史郎	○山岡　満・安達恵吉・安達喜兼・山本茂之・川原秀光・山崎史郎
山口	宇部興産	山切　睦彦	末廣　秀樹	高田美穂子	○沖　貞雄・吉川直樹・安田耕司・大内淳宏・末廣秀樹・河添忠夫
	山陽国策パルプ・岩国	大泉　信一	高橋　良明	片山　直江	○高橋和也・高橋良明・森本孝敏・柳　宏幸・村上弘明・保良智司 後藤　晃・室井伸夫
香川	香川県庁	真鍋　剛	真鍋　剛	今雪　良智	○今雪良智・岡田忠己・小山光男・香川正樹・永瀬守俊・西尾修治
	多田野鉄工所	宮脇　伸行	酒巻　宏	吉田　一人	○吉田一人・宮脇伸行・酒巻　宏・加藤建義・加藤邦晴・田中純一 伊賀　正・池内幸雄
	高松市役所	畠山　正男	栗田　康市	栗田　康市	○大久保進・木村　茂・藤本行治・栗田康市・鍋嶋武志・中西　功 綾田隆文・向谷久喜
愛媛	クラレ・西条	坂田　雄二	森　裁美	真名子靖代	○加藤　昇・野口秀文・伊東　貢・田坂祐二・上川徳郎・近藤勝行 佐々木順一・河端裕二
高知	高知市役所	松村　信夫	南部　雅章	矢野　宏幸	○沖原光明・久武博司・広瀬敏安・南部雅章・丸山宏之
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　裁美	真名子靖代	○藤本　悟・山田幸司・東　義徳・桜井雄一・山田修司・石田隆之 樋口百年・石井正行
長崎	三菱重工・長崎造船所	江戸昭八郎	田中　貞夫	田中　賢介	○江坂敏郎・竹永　学・中野和雄・福田良治・三根　哲・溝上敦夫 岡田芳彦・松尾英樹
岡山	川崎製鐵・水島	戸部　俊一	藤原　道弘	穴吹　栄二	○藤原道弘・中山睦雄・中浜昌宏・北村治雄・穴吹栄二・片岡洋一 三村勇人・垣見一俊
	三井造船・玉野	北田　普俊	藤原　航	松岡　純子	○山本　清・若林邦任・大倉達也・高本行雄・田丸勝己・長谷秀樹 藤原　航
	山陽ドラム		藤原　一志		○笠原靖典・横田豊和・川上新太郎・春名英樹・藤原一志

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
岡山	クラレ・岡山	丹波　善博	田中　次郎	小河原　治	○板谷好訓・田枝誠一・香山光明・山下　剛・福山裕之・白神和彦 吉原俊治・永井公一
	岡山市役所	小松　貴	藤井　英雄	平井　道也	○青木元春・小松　貴・藤井英雄・三浦　真・矢吹栄治・福田　巧 金居巧也・平井道也
	旭化成・水島	東谷　昇		黒木　義徳	○高見浩二・貝原義文・逸見利雄・岡本正孝・阿川信幸・黒木義徳 船越哲夫
	三菱化成・水島	村瀬　和夫	東　昌二	妹藤加代子	○竺原博文・東　昌二・川上徹悟・山本実雄・星野博幸・程原政信 矢口健一・中西　勤
	松下電器・岡山	豊川　英司	高祖　美喜	岩田　由紀	○安田英樹・土岐尚司・尾畑晴彦・久保直生・福田　哲

（女子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	地崎	松浦　勤	岡本　傳	熊谷　敏夫	○和田美津子・小川美和・岩崎絵里子・加藤洋子・星加代子
	ＮＴＴ北海道	北川　誠	米山　孝二	中島　俊也	○弓削展子・小飼真弓・小笠原満・田中範子
秋田	羽後銀行	相庭　洋二	相場　敏晴	魚谷　啓法	○柳谷郁子・大森るみ子・斉藤由美子・嵯峨やよい
山形	でん六	山口　良典	伊藤　洋一	高橋　一彦	○伊藤礼子・木村郁子・菅野明子・田口真由美・中鉢はるみ 寺尾雪江
	山形ケンウッド	竹内　昌燎	神山　三男	五十嵐　裕	○若木小百合・菅原郁子・山科則枝・江川ユリ・菊池志保
福島	富士通・会津	塚越　厚生	谷沢　正広	渡辺　正光	○青木マチ子・長谷川加代子・物江紀子・宇南山恵・須貝やよい 大関美和子・菊地　泉・岩田恵美
茨城	住友金属・鹿島	濱　和雄	岡田　常雄	五十嵐靖子	○瓜田博子・山口弘子・五十嵐靖子・川村裕子・本間裕美
	日立化成	中束　三嘉	岩田　輝彦	広沢　清	○藤井美子・石嶋礼子・吉田友子・小祝幸代・木住野かおる
	日立・水戸	早川　博	菅野　孝	小島　孝治	○小島香代子・海老沢富子・米山恵美子・江川千代
栃木	日産自動車・栃木	千場　忠祐	田中　英男	黒須　洋子	○黒須洋子・海老原和恵・斉藤早苗・小野里伊美
群馬	三ツ葉電機製作所	面川　富	土屋　昭一	島田　正志	○松本弘子・鹿沼光代・和田宏美・藤岡美智子・川越敦子
	富士通・館林	綱島　千秋	安藤　修二	木村　博	○遠藤幸恵・八木ひとみ・吉田恵美・中川友子・関　裕子・黒澤淳子 吉澤輝美・栗原洋子
	日立・高崎	松[illegible]	[illegible]	岡部　祥子	○鈴木三枝・高瀬晴美・高橋里枝・曽田幸子・吉沢美和
東京	ヨネックス	吉本　貞夫	栂野尾昌一	范　明 若井　郁子	○陣内貴美子・高峯尚子・森　久子・捧　匡子・田村富士美 森山弘美・若井郁子
	ＮＴＴ東京	江畑　誠一	(総)池田信孝 池田　信孝	棚井　幸則	○上村美香・星野実智代・松尾知美・毛利千秋・都木弘美・立花久枝 岡山登紀子
	岩崎通信機	定野　満	北本　清行	北本　清行	○藤沢直美・堤　弘子・村山恵三・久保田祥子・高梨法子・藤平結花
	学習研究社	小島南海雄	今井　茂満	小島南海雄	○大塚千賀子・杉山紀子・中山美里・松嶋伸子・石田千尋 森川奈緒子・小林恭子・坂口朋美
	富士通・南多摩	鈴木　孝一	木村　均	宇梶起世子	○宇梶起世子・野崎康子・佐藤好美・一條美恵子・宇梶起史子
	日本無線	吉田　繁	吉田　繁	松田　朗	○奈良美穂子・海老沢志津子・村野きみ江・本間苗美・今恵美子
	横河電機	南條　尚	生田　美穂	生田　美穂	○太田美千代・林美香子・秋山美佐江・深沢和美・林　幾子 小林由紀美・小沢容子
	コニカ	簸内　克也	小塩　和子	内田　淳吉	○五代恵美・勝山亜矢子・樫村みどり・小塩和子・小泉ふみ子 諸星弘子
神奈川	関東自工	有村　洋一	高橋　清	林　直美	○林　直美・植竹由美・矢本清美・佐々由美子・高瀬圭子 宮脇美奈子・瀬下由紀・早川恵美子
	日本電気・相模原	板倉　信雄	宮入　恒明	二瓶由理子	○岡田由美子・西出直子・月野裕喜子・貞本順子・川野名智美 藤松正美・関田律子・加賀ゆかり
	日立・戸塚	田中　康之	佐藤　久敏	樋口　晶子	○黒田智子・小川明己・樋口晶子・槙田　薫・高山秀子・岸本ひとみ 鈴木景子・藤原文子
	松下通信	阿部　保雄	伊藤　秀二	中村　澄恵	○中村澄恵・長谷川五由美・関水尚子・大河内由紀・細井紀美 内田直美・今井和代・長友一恵

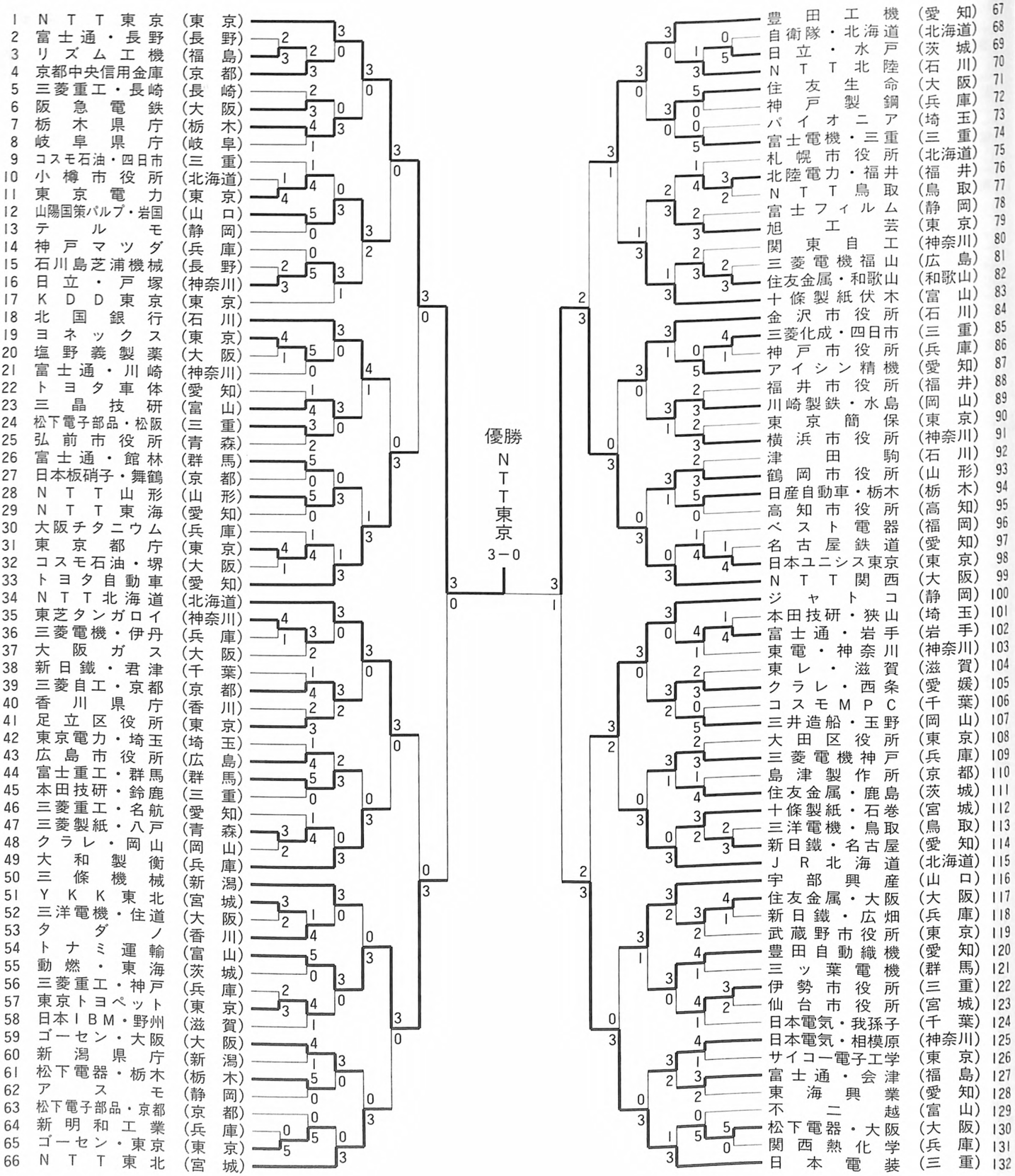
県名	事業所名	部長 (副部長)	監督名	コーチ マネージャー	選手名 (○印は主将)
長野	セイコーエプソン	前田 直久	羽田 敏勝	岩波 和子	○岩波和子・矢崎雅子・塚原由香利・中沢静江・東海林とも子
	富士通・長野	竹田 勇吉	奥野 功	高山 卓子	○滝沢政子・加藤順子・小林由華・高山卓子・東山純子・小林和美 畔上裕美
富山	三協アルミ	辻本 勉	北山 清志	河合 昭博 藤川 知子	○大谷鶴美・上浜陽子・佐々木忍・野々村美春・伏喜由美子 能沢智佳子・亀谷志都・山根理江
	不二越	川上 洋一	畑 栄進	平井 保光	○笹野淳子・川上麻子・石川正美・若島真由美・田辺佐依・岸美根子 三輪晴美
石川	PFU	桜井 啓司	中川 守	大場由美子	○谷川絹代・大場由美子・橋本寿代・森さとい・小山紀子
	北國銀行	大門 重樹	岡部 憲昌	彼島 佳子	○水本幸代・岡田真澄・油野敏美・西紀美栄・斉藤美和子 堅田美奈子・一木千代乃・山口美香
福井	福井市役所	山本 敏彦	増永 秀則	田中 成子	○多田慧子・松村尚美・田中功子・野阪美由紀・宮浦そとえ 南保正枝・仲山真由美・加藤正代
	信越化学	山岡 信高	林 恒男	小竹原勝浩	○佐々木文恵・今村弥生・平山純子・小中真樹
岐阜	川崎重工業・岐阜	松岡 龍三	三輪 静夫	三輪 静夫	○正木恵美子・金田香織・小林陽子・工藤雅美・小池佐知子
静岡	ジャトコ	佐場野英一	渡辺 悌	高井 良枝	○高井良枝・遠藤久美子・石川直美・大内めぐみ・羽切恵実子
	ヤマハ	仲道 達夫 (大菅裕而)	飯野 佳孝	吉永 将史 平野 智子	○笠原千夏子・横手智江美・山田美紀・林矢須子・金丸陽子 中田裕子・平野智子・山内美奈子
	富士通・沼津	吉田 哲三	渡部 真生		○井上由美子・渡辺ゆみ・榊原和美・中林仁美・伊代野栄子 伊代野和美・戸田直美
愛知	名古屋鉄道	速水 正昭	井沢 宏	斉藤敬一郎	○近藤あけみ・水野裕子・林真奈美・中西康子
	豊田工機	佐伯外與昭	西田 良彦	石原ひかり	○佐々木実千代・神之田直美・長島徳子・上野理華・椎葉好美 伊相直美
	豊田合成	竹内 邦嘉	岡田 誠治	杉浦 芳博	○舟橋明子・丸田裕子・森 智美・今尾圭子・浦木玉子・平川ひとみ 安田里美・野田倫余
	トヨタ自動車	北田 寛一	坂本 宏志	菅原 敬二 菅原 敬二	○田村真理子・慶秀清子・三浦美紀子・松田泰子・三上明子 田中裕子・藤本暢子・加藤佳美
	豊田自動織機	大束 祥順	武田 正雄	近藤 善英	○加藤治子・新田房子・奥谷美月・西塚ひとみ・宿屋美佐子 森ゆかり・相馬美奈子・小野寿子
	豊田通商	西山 直文	西山 直文	大島 裕子	○佐藤眞理子・新井雅子・小俣 栄・三橋結実・大島裕子・加藤聖子
	日本電装	鈴木 孝	亀谷 幸生	丑田 明子	○大屋幸恵・佐藤浩子・間庭由美・仲山美奈・丑田明子・佐々恵理 河村祐子
	アイシン精機	岩岡 照夫	飯見 隆治	橋爪 泉	○市川律子・鈴木智恵子・山地 香・橋爪 泉・山地裕美 武部美保子
	新日鐵・名古屋	安藤 巖	天野 良彦	加藤 勇一	○片山徳枝・菊地恭子・矢野博美・渡辺弘美・椛木景子
三重	松下電工・伊勢	元山 正徳	山本 博文	田上 弘子	○稲垣恵子・田上弘子・上田真理・関矢育子・中森直子・中瀬美穂
	富士電機・三重	山口 香	森川 広美	森川 広美	○水谷栄里子・安田明美・佐波昌代・佐野美和
滋賀	東レ・滋賀	河野 基亜	細野 博	加藤 典恵	○杉本由紀路・杉本久美・池田芳恵・中井幸恵・西山幸恵・河村益美
	松下電工・彦根	谷 和男	谷 和男	小笠原幸子	○中村佳世・前川みどり・南 紀子・高木香菜江・安澤千賀子 長瀬隆子・村松千歳
京都	三菱自工・京都	平林 豊	戸沢 正雄	石津 正明	○北川典子・大槻悦子・田中晴美・浜田 薫・小野昌子
	京都中央信用金庫	黒田 豊	黒田 豊	吉田 清隆	○藤支芳美・大崎由季代・大江弘子・藤本康江・宮脇桂子
大阪	三洋電機	中井 健三	宇治 収	銭谷 欽治 冨田美千代	○鴻原春美・小泉陽子・田代美智世・奥山保子・新木貴子 秋元美佐緒・北浦道代・今村 薫
	サントリー	長谷川理夫	山本 次生	田島 志乃	○北本久美子・廣田時子・谷地春子・磯崎照枝・小池由扶子 金井和恵・磯崎京美・金井智恵
	大和銀行	伊藤 憲二	伊藤 憲二	千田 朗子	○千田朗子・長沢幸江・福田真弓・尾崎和枝・立道佐知子
	住友金属・大阪	中沢 登	梅本 彰	西村 央子	○中濱優江・辻 直子・谷内洋子・原田いずみ・春木貞美
	阪和興業	辻 貴美子	原 健	荻野 恭代	○辻貴美子・高橋裕子・矢田洋子・荻野恭代
兵庫	三菱電機・伊丹	平林 庄司	矢賀 雅人	清水 浩美	○荻生美奈子・大村和代・清水明子・伊藤里美・清水浩美・堀井尚美
	三菱電機・神戸	中堀 一郎	大町 有希	上藤 朝之	○小屋松明巳・大町有希・中野牧子・板垣ゆみ子・藤田直子 野崎かおる

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
兵庫	大阪チタニウム製造	田端　一喜	境　良治	伊藤真由美	○川端充子・伊藤真由美・神吉真弓・八原知子
和歌山	住友金属・和歌山	平松　茂人	川村　桂司	福島　一正	○和泉礼子・工藤志子・植松多恵子・和泉美恵子
鳥取	山陰アシックス	田中　平三	安部　一夫	安岡　浩志	○岡田朋子・吉田　愛・渋谷多恵・長谷川美香・渡辺優子・遠藤春代
	三洋電機・鳥取	鷲見　育亮	鷲見　育亮	浜川伸一郎	○福田麻寿美・森木文代・幡　嘉子・小坂淳子・西尾朋子・中平広美
香川	百十四銀行	牛谷　茂	牛谷　茂	新田　豊子	○松村晴子・辻　章子・古田真由美・村瀬安代・中川富美子 山白麻紀・森下さおり・新田豊子
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　裁推	真名子靖代	○磯村久美・藤　裕枝・田頭美奈子・伊藤ひろみ・清水尚美 崎本実穂・渡辺順子
熊本	九州日本電気	橋口　廣則	坂本　正	宮本　幸弘 中原紀代美	○林　美希・工藤雅代・田畑美香・甲斐美和・蒲池みどり・杉野美貴 上田純子・中原敬子
岡山	松本組・岡山	朝霧　晴夫	山本美智子	土肥まり子	○岡　良江・河原美津巳・西本早苗・山本美智子・土肥まり子
	松下電器・岡山	豊川　英司	高祖　美喜	岩田　由紀	○坂井純子・谷田さおり・野崎聖子・紀井晴美・徳田玲子 横山千奈美

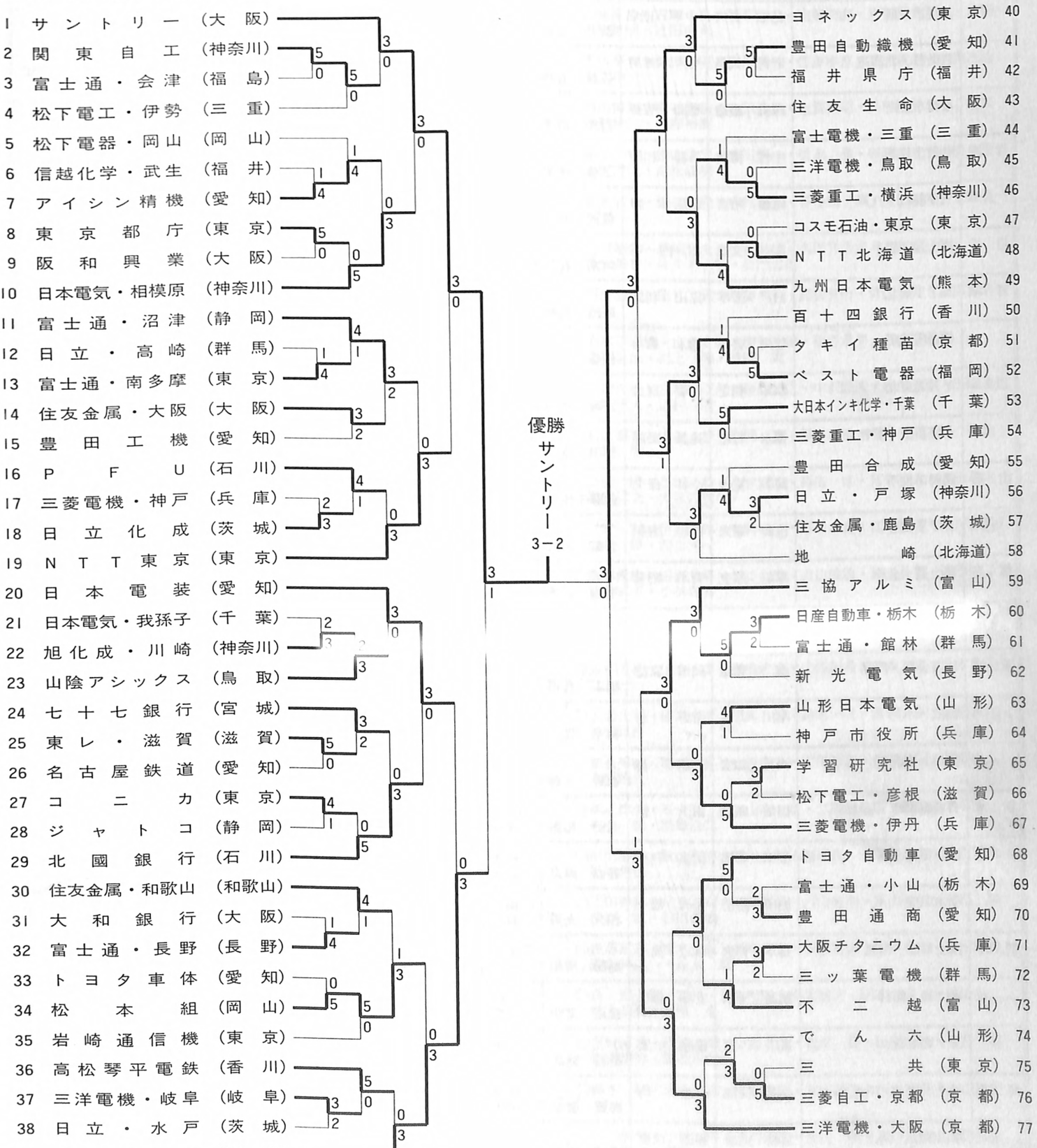
第40回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1990年(平成2年)6月13～17日
開 催 地：兵庫県神戸市
会　　場：神戸市中央体育館、
神戸ポートアイランドホール、
川崎重工業(株)健保神戸体育館

■男子団体の部



■女子団体の部


1 サントリー（大阪）
2 関東自工（神奈川）
3 富士通・会津（福島）
4 松下電工・伊勢（三重）
5 松下電器・岡山（岡山）
6 信越化学・武生（福井）
7 アイシン精機（愛知）
8 東京都庁（東京）
9 阪和興業（大阪）
10 日本電気・相模原（神奈川）
11 富士通・沼津（静岡）
12 日立・高崎（群馬）
13 富士通・南多摩（東京）
14 住友金属・大阪（大阪）
15 豊田工機（愛知）
16 PFU（石川）
17 三菱電機・神戸（兵庫）
18 日立化成（茨城）
19 NTT東京（東京）
20 日本電装（愛知）
21 日本電気・我孫子（千葉）
22 旭化成・川崎（神奈川）
23 山陰アシックス（鳥取）
24 七十七銀行（宮城）
25 東レ・滋賀（滋賀）
26 名古屋鉄道（愛知）
27 コニカ（東京）
28 ジャトコ（静岡）
29 北國銀行（石川）
30 住友金属・和歌山（和歌山）
31 大和銀行（大阪）
32 富士通・長野（長野）
33 トヨタ車体（愛知）
34 松本組（岡山）
35 岩崎通信機（東京）
36 高松琴平電鉄（香川）
37 三洋電機・岐阜（岐阜）
38 日立・水戸（茨城）
39 ヤマハ（静岡）
優勝
サントリー
3－2
40 ヨネックス（東京）
41 豊田自動織機（愛知）
42 福井県庁（福井）
43 住友生命（大阪）
44 富士電機・三重（三重）
45 三洋電機・鳥取（鳥取）
46 三菱重工・横浜（神奈川）
47 コスモ石油・東京（東京）
48 NTT北海道（北海道）
49 九州日本電気（熊本）
50 百十四銀行（香川）
51 タキイ種苗（京都）
52 ベスト電器（福岡）
53 大日本インキ化学・千葉（千葉）
54 三菱重工・神戸（兵庫）
55 豊田合成（愛知）
56 日立・戸塚（神奈川）
57 住友金属・鹿島（茨城）
58 地崎（北海道）
59 三協アルミ（富山）
60 日産自動車・栃木（栃木）
61 富士通・館林（群馬）
62 新光電気（長野）
63 山形日本電気（山形）
64 神戸市役所（兵庫）
65 学習研究社（東京）
66 松下電工・彦根（滋賀）
67 三菱電機・伊丹（兵庫）
68 トヨタ自動車（愛知）
69 富士通・小山（栃木）
70 豊田通商（愛知）
71 大阪チタニウム（兵庫）
72 三ッ葉電機（群馬）
73 不二越（富山）
74 でんろく（山形）
75 三共（東京）
76 三菱自工・京都（京都）
77 三洋電機・大阪（京都）

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	部長 (副部長)	監督名	コーチ マネージャー	選手名　(○印は主将)
北海道	ＮＴＴ北海道	北川　誠 (伊勢　武)	米山　孝二	加藤　学	○伊藤雅弘・山尾克則・角谷淳一・田中弘幸・工藤忠和・古川英樹 米山孝二・加藤　学
	ＪＲ北海道	山崎　正博	乙武　重丸	乙武　重丸	○松村徳市・高橋　進・七崎悦範・松岡　誠・奥名泰光・平野朝也 乙武重丸・田中昭夫
	札幌市役所	島中　貞夫	中平　正幸	渋井　敏紀	○工藤義憲・久保田昭夫・中平正幸・渋井敏紀・中村義則・高崎厚生 宮島延光・市川幸典
	自衛隊・北海道	野村　武昌	佐々木秀男	佐藤　春雄	○小林壽一・佐藤芳雄・塚本英樹・伊藤　勝・中村富士展・佐藤春雄 西嶋美樹・橋本　顕
	小樽市役所	深山　雄造	磯野　智裕	目黒　清則	○東田朋巳・高野幹男・阿部幸夫・目黒清則・斉藤隆明・徳満康浩 藤川歳之・工藤俊幸
青森	弘前市役所	中村　博典	斉藤　和則	工藤　徳男	○斉藤和則・小山内　聡・佐々木富英・福士忠弘・福士文敏 佐藤雅幸・舘村伸生・小山内一仁
	三菱製紙・八戸	佐藤　靖彦	池田　勝	椛沢　五月	○工藤一志・浅利龍徳・品川正良・森　晴樹・嶋田育夫
岩手	富士通・岩手	柳原　文雄	山ノ内一明	鈴木　礼子	○菊地生昭・藤谷清文・鈴木広志・近藤秀信・小原智雄・長尾正樹 佐藤慎也
宮城	ＮＴＴ東北	白戸　秀孝	原田　利雄	原田　利雄	○加藤安史・吉田幸司・韮沢伸幸・柴崎信之・渡部祐一・海老沢孝一 原田利雄
	仙台市役所	佐川　善信	鈴木　勇治	佐藤　文一	○千葉利行・大友光平・佐藤文一・永野日出登・熊坂　武・鈴木勇治 佐藤和之・門馬高広
	ＹＫＫ東北	水口　利之	中塩　房雄	斉藤　勇一	○中村弘康・中塩房雄・渋谷哲義・高橋一浩・佐藤文彦・富久　晃
	十條製紙・石巻	福永　行雄	遠藤　節郎	須田　幸夫	○佐藤裕司・本多勝弘・伊藤康志・佐藤光彦・菅野耕一・斉藤智喜
山形	鶴岡市役所	窪田　寛士	小林　保夫	佐藤千佳子	○真田昭良・秋庭一生・丸山勝美・小林　学・阿達和夫・長谷川吉祥 遠藤清一・上原正明
	ＮＴＴ山形	浅海　憲夫	岡田　寿紀	菅野　一郎	○小中英智・高橋則一・中島　修・鈴木　尚・寺島剛志・岡田寿紀
福島	富士通・会津	塚越　厚生	青木　昭弘	渡辺　正光	○寺田　繁・渡辺正光・清野徹也・上野　孝・星　　徹・本多克博 西潟昌利・佐藤勝司
	リズム工機	新井　　滋	島影　盛継	猪俣奈保美	○島影盛継・藤田幸一・山口善胤・高橋裕一
茨城	住友金属・鹿島	濱　　和雄	岡田　常雄	橋本　真司	○小林靖敏・板垣龍平・墳本敏幸・元山卓也・網　隆司・長谷部卓也 福田淳一・岡田常雄
	日立・水戸	早川　　博	菅野　　孝	梅室　真二	○小島孝治・狩野秀一・梅室真二・大塚　正・堀之内　滋・結束雄二 菅野政明・菅野　孝
	動燃・東海村	浅見　知宏	三浦　　満	牧野　　勉	○渡辺健治・牧野　勉・堀口幸一・渡辺貴巳・福井雅裕・平葭正男 菖蒲康夫・寺田　仁
栃木	日産自動車・栃木	田畑　照雄	田上　　悟	光田　和恵	○笠井孝之・田上　悟・大八木　正・飯田良二・海老原正美 入江久夫
	松下電器・栃木	権田　彰男	岡室　利彦	谷口　尚之	○松本　誠・呉井信夫・中原保治・安達昌芳・加藤正幸・小篠政和 野口敬洋
	栃木県庁	池田　勝浩	湯沢　雄一	和久　光男	○湯沢雄一・鈴木　武・和久光男・原　利浩・琴寄行雄・高橋安則 渡辺順一・小島秀雄
群馬	富士重工・群馬	杉本　伸夫	渡辺　晃一	島田　清和	○中居功治・島田清和・竹内康夫・斉藤　宏・高山富士雄・福井一夫 瓜田正勝・小高雅人
	富士通・館林	綱島　千秋	安藤　修二	渡辺　文明	○木村　博・横山　稔・松元功一・石戸広昭・君島　修・大塚一幸 山野井高生・田島正一
	三ッ葉電機	富川　　富	湯浅　　宏	椎名　博之	○高橋弘敏・片桐哲也・勅使川原尚・藤沢　智・大下　明・武井康郎 湯浅　宏
埼玉	パイオニア・所沢	小鷹　文隆	近藤　　均	那賀　敬弘	○馬場良一・近藤　均・鈴木洋一・澤辺孝夫・山下　力・那賀敬弘 伊澤利明・相馬　操
	本田技研・狭山	宮越　通康	藤田　茂樹	宮越　通康	○岩田好夫・正木和久・今野直人・大橋　正・堀越　勉・西山徳孝 藤田茂樹・宮越通康

県名	事業所名	部長 (副部長)	監督名	コーチ マネージャー	選手名 (○印は主将)
埼玉	東京電力・埼玉	三上　獄一	高橋　光年	横溝　徹	○笠原千彰・五十嵐良輔・加藤徳彦・久米原　実・菅家一浩 高橋光年・横溝　徹・鈴木英昭
千葉	コスモ石油・千葉	西尾　元佑	浅利　章悦	前田　益孝	○岩瀬　洋・瀧本和大・佐藤一男・谷野公昭・佐々木仁一・米沢　仁 鈴木博之・伊藤晃一
	新日鐵・君津	田中　徹	吉田　寛	永井　信吾	○宮崎雅浩・吉田　寛・阿部哲夫・佐藤明海・宮田秀人・岡・良則 川村憲明・辻田由夫
	日本電気・我孫子	伊藤　正治	伊藤　正治	山下　淳一	○奥村亨一・浜田征明・岡田順一・佐藤孝彦・芝田敦志・伊藤正治 山下淳一
東京	ＮＴＴ東京	江畑　誠一 (池田　信孝)	尾崎　幹雄	沼崎　洋典	○西山博司・柳谷辰哉・本田浩二・佐賀史昭・長内征美・宮　康二 松野修二・江藤裕樹
	ＫＤＤ	松浪鋭四郎	大髭　輝雄	目黒　仁一	○藤平　守・橋本敏邦・前川栄一・松永　浩・谷岡祐一・嶋田　聡 太田博之・則松直樹
	ゴーセン・東京	山上　啓三	鎌田　啓睦	中村　和弘	○兼坂省一・鎌田啓睦・中村和弘・谷地館　渉・蒔田新一・上野儀一
	足立区役所	馬場　猛夫	馬場　猛夫	鈴木　敦子	○鵜澤敏信・馬場猛夫・小林光雄・久保井秀夫・大和田　勉 笹林義春・佐々木　拓・長門忠雄
	ヨネックス	土田　隆	丹藤　勇一	青山　正伸	○阿部浩志・望月　資・丹藤勇一・高橋賢治・青山正伸・福田和浩
	旭工芸	山口　安則	山口　安則	横田　和博	○中津不二雄・山口安則・横田和博・板谷孝男・谷古宇義則 鳥羽信哉・村上　勝・篠崎　実
	東京簡易保険局	渡辺　文雄	古明地正邦	廣田みちる	○小畑辰美・古明地正邦・飯塚正之・中沢睦夫・杉田勝則・醍醐達也 小林正人・田村　収
	東京電力	佐藤　祥次	内田　修	高野　徹	○石原泰造・内田　修・岩間　源・厚川　勇・橋本　栄・塙　勝治 高野　徹
	東京都庁	島田　稔	島田　稔	小林　賢治	○後藤　勝・島田　稔・小林賢治・高田　浩・落合真人・多田信之 黒田祥之・大原政義
	大田区役所	奥田　猛	有路　幸一	江澤　令子	○芝崎　誠・伊藤一郎・有路幸一・野口　清・江川博康・瀬戸島昌人 山崎　淳・井上秀一
	武蔵野市役所	森山　兼政	露木　保敏	田沢　幸子	○露木保敏・田沢　隆・坂口一道・山口敏雄・村上英和・近藤伸二 益守武道・小林春喜
	セイコー電子工業	井上　一夫	井上　一夫	村田　広行	○伊藤耕吉・高橋信二・磯　孝男・井上一夫・武藤　健・安藤晃溥 宇野　智・梅野光一
	日本ユニシス	中村　明彦	鈴木　千秋	田中　淳	○鈴木千秋・田中　淳・田嶋宏光・中條起希・菊池　修・立本敬人
	東京トヨペット		入間　秀哲		○大瀬久司・橘川光孝・根岸　信・鈴木一成・渡辺　孝・稲村善之 神田正浩
神奈川	関東自工	有村　洋一	高橋　清	瀬下　由紀	○奈良秀行・細谷　昇・小枝憲久・太田清志・佐原弘明・加藤康二 大橋昭人
	東京電力・神奈川	中澤　元丸	小林　栄二	須藤　光恵	○榎　博久・五十嵐　功・山本　正・二階堂昌明・渡辺政幸 田中　徹・前島浩二
	日立・戸塚	田中　康之	甘粕　完治	藤原　文子	○杉山勝美・秋山昌博・鰐川　朗・藤田良一・藤井　圭・半田賢二 馬場哲也
	日本電気・相模原	板倉　信雄	月岡　貴公	内山　康則	○土田秀紀・足立和則・月岡貴公・内山康則・高山照彦・有馬　勝 清原　稔・石川雅由
	富士通・川崎	岡沢　陸郎	青木　一夫		○後藤正志・青木一夫・稲垣広宣・小倉吉隆・増子克幸・菅田直純 和久井伸一・鈴木　薫
	横浜市役所	根本　和夫	境野　伸也	村松　利之	○森　篤・平　敏司・斉藤秀昭・根本道夫・柄本　孝・一瀬浩美 村上英典・浜路　圭
	東芝タンガロイ	梅田　泰三	伊藤　朗	名城　政彦	○重野清志・伊藤　朗・小野　武・岩本　努・田所一幸・奥野　昇 福田幸男・高橋正行
新潟	三條機械製作所	外山　修	久住　勝利	羽龍　良記	○鈴木　裕・米山　高・羽龍良記・丸山勝弥・相馬寛輝・内山隆史
	新潟県庁	阿部　智	小林　巧	大谷　昇	○古山樹生・小林　巧・市村雅之・重山　明・若杉直樹・島田久幸 金子信之・瀬賀　功
長野	富士通・長野	竹田　勇吉	丸山　隆	滝沢　政子	○鎌田正幸・丸山　隆・酒井正彦・出川輝義・山崎　豊・上原克士 戸谷正人・丸山和宏

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
長野	石川島芝浦機械	北川　良司	赤羽　元春	小沢　美佳	○奥原祐二・島田直樹・丸山　宏・山川雅元・赤羽元春
富山	三晶技研	浅井　秀一	毛利　智成	平野　祐子	○吉森勝之・北野　隆・星野清志・種田茂博・沢田淳悦・堀　正人 湯上佳和・毛利智成
	不二越	長谷　俊男	畑　栄進	八川　修一	○新田寛義・濱松栄次・平井保光・其内豊久・山崎　仁・八町康行 山下直哉・藤平欣司
	十條製紙・伏木	田代　正司	大野　幸雄	林　清和	○嵐　英一・高崎裕一・中嶋正男・蔵野耕治・林　清和・山本　潤 谷口孝志・加須栄隆治
	トナミ運輸	安達　達明	堺　三徳	浅野　研一	○濱北和彦・櫟　敏明・大船栄士・石橋　隆・岩渕公一・気谷篤人 荒木　純・三浦　修
石川	金沢市役所	山下　修平	山形　博	諸　美菜子	○田村　稔・荒納茂樹・山下敏行・太村正信・毛利達彦・庄田秀実 永井俊宏・内田雄志
	ＮＴＴ北陸	畠山　丈治	松下　力	小泉　桂子	○浜谷安裕・谷島助男・森田　均・坂井外喜男・宮本照啓・宮本勝裕 佐々木正良・小林喜博
	津田駒工業	鍋嶋　範雄	安江　勉	髙島　直樹	○奥本正博・金谷敏夫・髙島直樹・小川裕之・広村　繁・高野敏雄 古川政美・二口吉邦
	北國銀行	大門　重樹	岡部　憲昌	重政　誠之	○羽田義仁・羽田憲仁・崎田健一・西島弘幸・藤島誠孝・武田　修 山本明彦
福井	福井市役所	山本　敏彦	嶋田　伸行	村井　敏晃	○宮原　一・山本敏彦・嶋田伸行・西行　裕・高橋　譲・山本光紀 内藤　守・藤田和彦
	北陸電力・福井	村田　繁一	角　五三男	谷先　政人	○高野一男・前田初志・金川克行・角野真一・亀田昌利・藤尾裕一
岐阜	岐阜県庁	大平　康弘	浅野　人美	荻巣　雅俊	○加納義之・高橋伸治・田中清行・小島一也・荻巣雅俊・内記淳司 河田　誠・宮前良一
静岡	ジャトコ	佐場野英一	後藤　和之	佐藤　佳久	○吉野智昭・飯野　馨・若松　誠・坂上隆広・後藤和之・中田　茂 井出勝弘・石嶺善健
	テルモ	板垣　賢紀	渡辺　昭	有賀　三雄	○佐野康之・渡辺　昭・若松隆宏・中村規義・有賀三雄・松本　優
	富士フイルム	林　伸幸	滝　正孝	長橋のり子	○西島知彦・井出裕雄・吉岡直彦・池田光宏・武井弘征・竹田明彦 小野里朋之・滝　正孝
	アスモ	田口　紀一	田口　紀一	神谷　秀康	○山本明靖・田村輝美・高橋　徹・神谷秀康・上村昌彦・有馬久男
愛知	豊田工機	佐伯外與昭	日比野伸昭	小島　厚志	○峰　登志郎・日比野伸昭・土田信也・野呂　徹・東　正也 石井裕二・永多　実・宮坂　悟
	トヨタ自動車	北田　寛一	山本　秀樹	山本　秀樹	○古賀勝志・須貝英徳・川本英明・福田昭典・小本義久・城木夢高 松野和秀
	豊田自動織機	大束　祥順	武田　正雄	近藤　善英	○岩渕信司・近藤善英・笹　伸一・山田孝幸・坂倉　勝・岡田政朗 鬼頭幸裕・佐山康成
	ＮＴＴ東海	杉浦　弘文	伊藤　雅昭	伊藤　正昭	○水谷悦郎・木下耕一・池田文彦・伊藤正昭・中村昌司・北島洋一 匂坂健司・清水孝四
	新日鐵・名古屋	安藤　巖	山本　卓男	高田　悦郎	○納所久夫・佐々木秀一・天野良彦・山西友幸・白田直人・坪井英之 田中敏夫・内田公明
	トヨタ車体	西村　裕治	米沢　強	酒井　哲也	○後藤吉広・角藤利明・斉藤勝明・浜田一博・利田　実・玉田孝治 片山朝之・木村拓也
	名古屋鉄道	速水　正昭	井沢　宏	斉藤敬一郎	○井上　龍・林　久男・斉藤敬一郎・高橋章仁・川嶋清和
	三菱重工・名航	近藤　純一	小林　茂幸	中川　文雄	○青山忠雄・坂本雅美・末吉宏次・久永直樹・浜　俊雅・近藤純一 小林茂幸
	アイシン精機	岩岡　照夫	飯見　弘崇	橋爪　泉	○大月善巳・菊地　勲・北里憲之・内田昌行・澤村義信・新実弘崇 新家英樹・飯見隆治
	東海興業	木村　勝昭	早川　満志	田中　勝之	○阿知和幹根・中村俊哉・田住曜理・永井　優・鈴木章広・玉田智史 大竹達裕・安井憲司
三重	日本電装	田中　篤郎	藤江　至	福士　武寿	○片岡　泰・西川　勉・福田　実・中川　健・常山兼二・磯部昌弘 奥田貴士・坂崎　守
	富士電機・三重	山口　香	森川　広美	佐藤　滋晃	○森川広美・藤本規夫・森田善幸・水谷俊雄・安保尚雅・糀谷清史 佐藤滋晃

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
三重	三菱化成・四日市	増井　孝夫	小林　信行	伊藤みどり	○毛利浩治・荻田昌昭・多田昌昭・石井繁光・森山唯史・森　篤 小林信行・増井孝夫
	コスモ石油・四日市	草川孝四郎	長谷川輝和	小林恵美子	○山上正行・上野健一・荒木良之・野呂雅也・川戸真也・永坂昌信
	本田技研・鈴鹿	世古　浩一	世古　浩一	世古　浩一	○世古浩一・森下武司・東　太朗・武藤昭三・石井　誠・石川浩志
	伊勢市役所	松岡　信	松岡　信	松岡　信	○松岡　信・永田密山・大西善浩・沖塚孝久・筒井俊夫・丸山　光
	松下電子部品・松阪	松本　浩二	松本　浩二	西口富久代	○森本博幸・酒徳一利・福田敏伸・木下　保・中川祥一・橋爪孝文 松本浩二
滋賀	日本ＩＢＭ・野洲	冨田　健一	冨田　健一	木下　寿則	○木下寿則・磯田茂和・塩田晃二・小林浩明・花田正喜・青木一夫 俣木淳一・東郷浩司
	東レ・滋賀	後藤　晴司	足立　眞哉	東　正貴	○中川　康・末永　勉・大塚　保・辻　清和・秋山律文・岡田耕作 成宮　元・吉居　秀
京都	島津製作所	山本　紘史	奥田　俊次	角田　二郎	○井上　昇・奥田俊次・山本寿志・平岡秀介・斉藤清代巳・浦谷孝信 中川　章・角田二郎
	松下電子部品・京都	芦原　泰彦	久保　正人	山本　朋子	○山岸武泰・柴田　悟・寺田正文・金　泰男・太田智一郎・瀬尾賢次
	三菱自工・京都	平林　豊	戸沢　正雄	谷口　雄二	○寺尾　豊・竹井宣夫・佐々木正司・広瀬　敬・白石晋也・中藪　仁 大石繁幸・三澤哲也
	日本板硝子・舞鶴	永谷　秀之	竹田　正明	藤野外志郎	○伊藤朋道・荒木　進・吉崎　彰・松井一幸・森本　進・英　進介 大島一夫・藤野外志郎
	京都中央信用金庫	黒田　豊	吉田　憲一	矢野　暢久	○安永　誠・吉田憲一・吉田清隆・菅生　誠・矢野暢久・米光秀夫 平井　悟・堀　勝義
大阪	ＮＴＴ関西	橋口　孝志	冨田　章夫	冨田　章夫	○松井峰生・辻田泰昌・今東　建・奥野　勉・村山友二・早戸敬雄 武野　忠・冨田章夫
	松下電器・大阪	渡辺　雅仁	宮崎　庄一	北野　誠一	○山川正一・中角好男・山口昭彦・勝川道和・江口俊之・長谷浩道 常山康一・鈴木智文
	ゴーセン・大阪	上田　了	横田　利弘	増井　早苗	○山崎哲彦・山田智嗣・村松　博・河内昌祐・古木　浩・横田利弘
	住友金属・大阪		中沢　登	高山　央子	○斉藤正博・梅津裕一・高橋康司・田代浩一・山崎量次・多賀直人 木村正人・林田知之
	阪急電鉄	野沢　明雄	下野　治生	西郷登代子	○蔵本英二・大野孝二・小野俊雄・佐藤俊哉・高島昭秀・中村　昇 下野治生
	三洋電機・住道	角南　行治	宇田川　清	久保田義弘	○岩崎正彦・角南行治・大田和男・久保田義弘・西島　功・江木　浩 高橋義和
	塩野義製薬	本摩　恒利	本摩　恒利	北川　忠雄 片山　照昭	○玉木芳雄・佐藤彰彦・竹内寿和・中島弘司・幸野　薫・地主　豊 吉野秀男・紀伊　誠
	大阪ガス	吉里　文雄	北野　公男	弘瀬　一生	○早水栄治・西野幸雄・田中真平・斉藤浩司・園部一彦・福井裕之 弘瀬一生・高島和秀
	住友生命	丸井　広道	狩野　卓也	前川知恵美	○川本博之・丸井広道・狩野卓也・白井健一・水谷　豊・稗田康晴 橋本篤史・東畑健一
	コスモ石油・堺	竹中　正弘	楠戸　春則	諏訪　弘	○竹内洋雅・楠戸春則・和久谷富章・疋田栄一・諏訪　弘・穂谷真弘 芝村伸也・大段久幸
和歌山	住友金属・和歌山	平松　茂人	北山　洋二	福島　一正	○梅林信幸・森　隆・西山祥一・中尾孝司・乳井重雄・北川　康 松尾秀樹・永田紀一
鳥取	三洋電機・鳥取	鷲見　育亮	鷲見　育亮	川田　憲一	○山本明良・小谷清史・伊藤和彦・田渕光章・門脇寛文・川田憲一 亀谷雅之
	ＮＴＴ鳥取	藤縄　健治	藤縄　健治	石塚　晴敏	○石塚晴敏・的場浩実・柏木茂樹・越智是典・太田保栄・藤縄健治
岡山	川崎製鉄・水島	戸部　俊一	中山　睦雄	穴吹　栄二	○藤原道弘・中山睦雄・片岡洋一・三村勇人・川上新太郎・垣見一俊 穴吹栄二・戸部俊一
	三井造船・玉野	北田　普俊	山本　清	松岡　純子	○山本　清・若林邦任・大倉達也・田丸勝巳・長谷秀樹・石原達也 北山　学・藤原　航
	クラレ・岡山	奥浦屋謙治	田中　次郎	小河原　浩	○板谷好訓・富田真三・田枝誠一・福山裕之・香山光明・永井公一 石本一豊・吉原俊治

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名 (○印は主将)
広島	広島市役所	坂田 和子	尾崎 清	中村 克司	○中村克司・山本克司・尾崎 清・佐々木和義・林 哲也・山領 篤
	三菱電機・福山	森谷 吉弘	安達 恵吉	桑田 祐一	○山岡 満・安達恵吉・安達啓兼・桑田祐一・山本茂之・川原秀光 重国宏明
山口	宇部興産	山切 睦彦	末廣 秀樹	高田美穂子	○沖 貞男・吉川直樹・安田耕司・大内淳宏・犬塚佐智雄・末廣秀樹
	山陽国策パルプ・岩国	大泉 信一	高橋 良明	貴船 博己	○高橋和也・高橋良明・森本孝敏・柳 宏幸・木村雄一
香川	香川県庁	真鍋 剛	真鍋 剛	永瀬 守俊	○今雪良智・弾正原義春・岡田忠巳・小山光男・岡下俊次・香川正樹 永瀬守俊・西尾修治
	タダノ	綾田 光丸	宮脇 伸行	吉田 一人	○田中純一・福家正登・俣崎慎二・中村 亨・一宮康夫・加藤建義 吉田一人・宮脇伸行
愛知	クラレ・西条	漆原 恒夫	横井 虎男	橋田 国司	○加藤 昇・伊東 貢・上川徳郎・近藤勝行・佐々木順一・河端裕二 中村正重・野口秀文
高知	高知市役所	松村 信夫	南部 雅章	矢野 宏幸	○沖原光明・丸山宏之・横田幸雄・矢野宏幸・久武博司
福岡	ベスト電器	坂田 雄二	森 裁美	真名子靖代	○藤本 悟・山田幸司・山田修司・東 義徳・桜井雄一・石田隆之 石井正行・尾上雄一
長崎	三菱重工・長崎造船所	江戸昭八郎	田中 貞夫	田中 賢介	○江坂敏郎・竹永 学・三根 哲・岡田芳彦・福田良治・中野和雄 松尾英樹・田中賢介
兵庫	大和製衡	木下欣二郎	草田 隆	草田 隆	○木田英明・山本 勝・藤本純一・黒田真孝・大西 隆・三木晴順 上田圭顕・小川雄一
	三菱電機・伊丹	大沼 昭栄	寺尾 一秀	大村 和代	○直野俊治・志方 光・入口弥一郎・入口藤男・坪井光明・遠藤裕司 前田和昭・松本泰典
	三菱電機・神戸	中堀 一郎	上藤 朝之	上藤 朝之	○三宅慎太郎・池渕順一・大国朋生・武田憲一・上藤朝之
	新日鐵・広畑	秋岡 眞人	片岡 正之	泉 吉弘	○広岡輝男・片岡正之・横山真二・八十友昭・平松重吉・山磨和弘 宮原 通・松坂博行
	神戸マツダ	藤江 久善	服部 清彦	川畑 幾世	○秋月道隆・森野修治・小島政浩・加藤隆弘・服部清彦・藤江久善 竹内 茂
	大阪チタニウム製造	田端 一喜	加藤 貴範	山本 操	○竹村和夫・畑 博士・藤原光雄・宮本幸一・加藤貴範・井上 信 小田清二・井高広幸
	関西熱化学	堀 鎮雄	平川 靖信	上村 裕人	○松田泰宣・松尾誠一・松浦啓介・江口武志・中島邦明・寺田美幸 平川靖信
	三菱重工・神戸	松本 俊英	松本 俊英	四ッ谷 誠	○平川克彦・斉藤徹哉・中居孝廣・村上郁夫・房田憲児・多田智浩 大橋 功・永安真一
	新明和工業	津森 正志	伊嶋 紀章	川岡 利夫	○天羽浩昭・高橋勝行・平 昌一・西倉金作・吉岡英二・市岡大輔
	神戸市役所	川口 正光	川口 正光	沢田 信二	○横関 勇・萩之内和実・山口 清・横川文彦・中野市雄・小林賢一 大礼能成・大谷幸治
	神戸製鋼・尼崎	小泉 淳一	友金 利一	井原 唯夫	○友金利一・高坂俊夫・高原輝行・津和崎俊行・保井一志・尾崎 実 上島義明・田中 至

（女子の部）

県名	事業所名	部長 (副部長)	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	北川　誠 (伊勢　武)	米山　孝二	加藤　学	○弓削展子・小飼真弓・小笠原　満・田中範子
	地崎	松浦　勤 (岩崎　昭郎)	岡本　伝	中村　富光 加藤　洋一	○加藤洋子・星　和代子・岩崎絵里子・伊奈貴美
宮城	七十七銀行	阿子島高幸	高橋　祥允	須藤　肇	○黒澤晃子・菅野裕子・阿部福子・伊藤真奈美・本郷優子・鈴木綾子
山形	でんろく	山口　良典	伊藤　洋一	高橋　一彦	○伊藤礼子・中鉢はる美・木村郁子・菅野明子
	山形日本電気	熊倉　広明	大場　和博	鹿野今日子	○近藤美知子・鹿野今日子・阿部博子・平田ゆき
福島	富士通・会津	塚越　厚生	青木マチ子	渡辺　正光	○長谷川加代子・大関美和子・宇南山　恵・菊地　泉・兼谷サユリ 岩田恵美・五百川栄子・斉藤智恵美
茨城	住友金属・鹿島	濱　和雄	岡田　常雄	高田　八重	○瓜田博子・本間裕美・小林美郁子・加藤　恵・高田八重
	日立化成	中束　三嘉	岩田　輝彦	広沢　清	○高野美子・木住野かおる・打田亜希子・石嶋礼子・吉田友子
	日立・水戸	早川　博	菅野　孝	梅室　真二	○小島香代子・板並君代・豊島恵子・江川千代
栃木	日産自動車・栃木	田畑　照雄	田中　英男	光田　和恵	○光田和恵・斉藤早苗・黒須洋子・小野里伊美
	富士通・小山	坪井　良雄	沢畑　克人	谷本　三和	○武井晴美・大森美葉・関口加代子・谷本三和
群馬	三ッ葉電機製作所	面川　富	土屋　昭一	椎名　博之	○藤岡美智子・塚越恵子・川越敦子・小林和子
	富士通・館林	網島　千秋	小林　晴幸	吉田　浩美	○八木ひとみ・黒澤淳子・吉田恵美・中川友子・吉澤輝美・栗原洋子 茂木利恵・丸山小百合
	日立・高崎	吉見　武夫	別所　明雄	安藤　則夫	○鈴木三枝・高瀬晴美・高橋里枝・吉澤美和
千葉	大日本ホンキ化学・千葉	河野　芳成	河野　芳成	嶋崎　禎子	○蓮見直子・佐藤千春・森　亜矢子・嶋崎禎子・田中美保子
	日本電気・我孫子	伊藤　正治	伊藤　正治	山下　淳一	○横山珠美・川崎玲子・高橋淳子・中島年美・石川まり子
東京	ヨネックス	吉本　貞夫	梅野尾昌一	范　明 范　明	○陣内貴美子・森　久子・捧　匡子・西田美和子・松本理恵 由町美樹・赤尾　香
	ＮＴＴ東京	江畑　誠一 (池田　信孝)	宮森　庄吉	田児よし子 田児よし子	○上村美香・都木弘美・松尾知美・立花久枝・岡山登紀子・毛利千秋 石原昭子
	岩崎通信機	定野　満	家串　友治	家串　友治	○藤沢直美・村山恵三・藤平結花・吉沢知佐子・増島真由美 宮崎明美
	学習研究社	小島南海雄	今井　茂満	小島南海雄	○大塚千賀子・杉山紀子・森川奈緒子・中山美里・小林恭子 石田千尋・花田康子・坂口朋美
	富士通・南多摩	鈴木　孝一	木村　均	横澤　守	○宇梶起世子・野崎康子・宇梶起史子・北川五輪子・本多伸江
	コニカ	薮内　克也	小塩　和子	内田　淳吉	○五代恵美・小塩和子・勝山亜矢子・樫村みどり・小泉ふみ子 諸星弘子
	コスモ石油	高谷　忍	能田　隆雄	片山　弘子	○石田好子・平野太寿子・阿納真由美・高橋さち子・竹本早苗 片山弘子・平出智子
	三共	加藤　治	佐藤　始	酒井　純一	○乃川道子・村松純子・宮沢由起子・池田啓子・佐藤恵美・真鍋洋美
	東京都庁	島田　稔	大原　政義	小林　賢治	○重松まゆみ・笹林朋子・田倉テイ子・田中阿紀・渡辺麻季 宮本千鶴子・杉谷真里
神奈川	関東自動車工業	有村　洋一	高橋　清	瀬下　由紀	○植竹由美・高瀬圭子・矢本清美・宮脇美奈子・瀬下由紀 早川恵美子・佐々由美子
	日本電気・相模原	足立　和則	宮入　恒明	関田　律子	○川野名智美・関田律子・青戸香織・貞本順子・松岡見和子 加賀ゆかり・安藤昌子

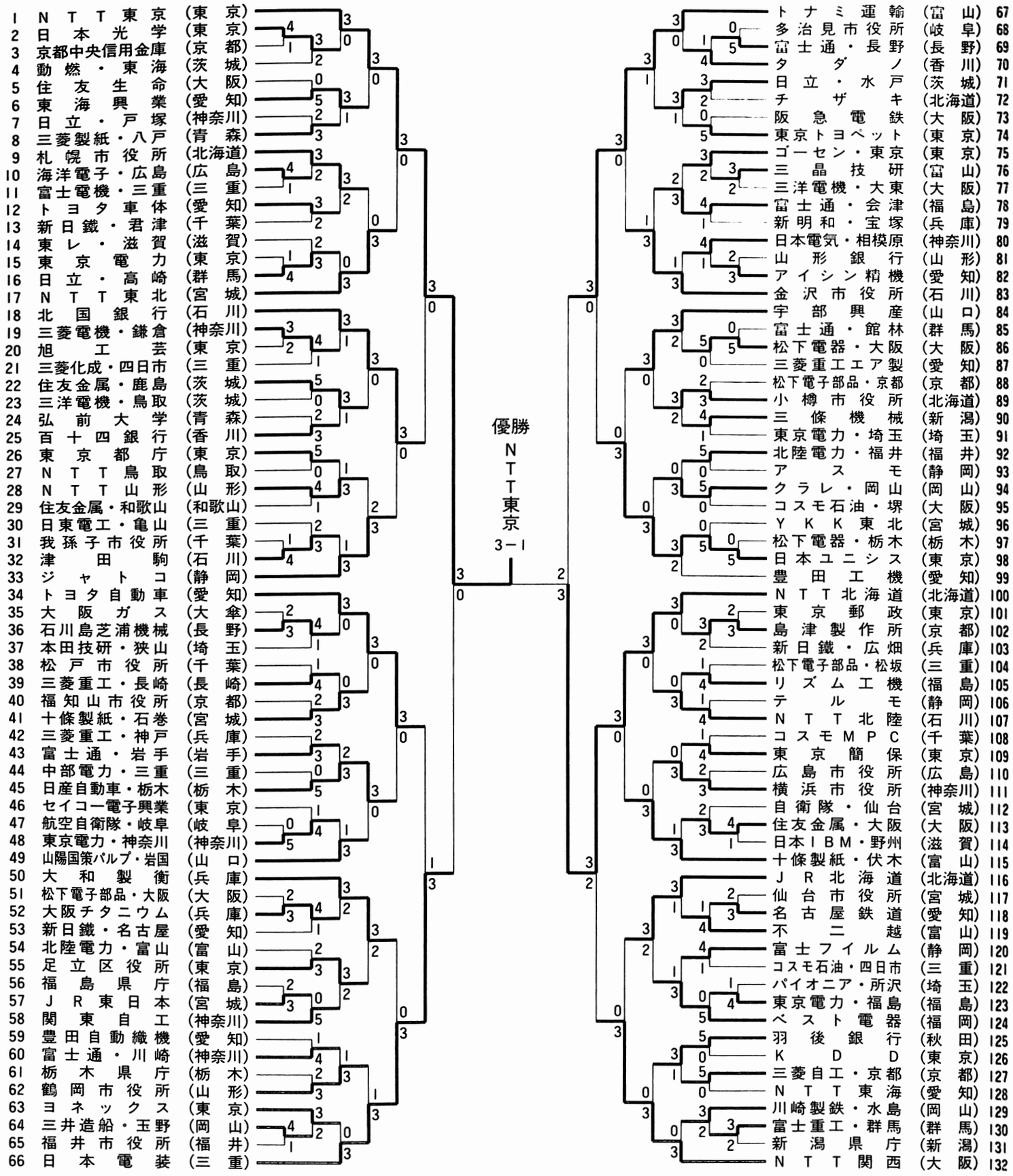
県名	事業所名	部長 (副部長)	監督名	コーチ マネージャー	選手名 (○印は主将)
神奈川	日立・戸塚	田中　康之	佐藤　久敏	藤原　文子	○黒田智子・高山秀子・岸本ひとみ・鈴木景子・槇田　薫・若井蜻子 藤原文子
	旭化成・川崎	伊澤　槙一	荻生　一	冨田　信昭	○中村恭子・寺田ゆかり・皆川英理・本田幸恵・椛島小千美
	三菱重工・横浜	前沢　祐一	鈴木　勝之	伊倉美奈子	○白井恵子・椎名律子・伊倉美奈子・鈴木利枝・飯村美奈子 秋本恵美・小林暁子・石田菊江
長野	富士通・長野	竹田　勇吉	丸山　隆	高山　卓子	○滝沢政子・小林和美・加藤順子・高山卓子・畔上裕美
	新光電気	高橋　昌彦	井上　慎二	井上　慎二	○常田弘美・喜久川直子・武田紀子・石沢美由紀・青木由里子
富山	三協アルミ	辻本　勉	北山　清志	河合　昭博 藤井　知子	○大谷鶴美・上浜陽子・亀谷志都・佐々木　忍・野々村美春 山根理江・沢田百合・伏喜由美子
	不二越	長谷　俊男	畑　栄進	高西　誠二	○笹野淳子・田辺佐依・石川正美・三輪晴美・若島真由美・斉藤昭美
石川	ＰＦＵ	峯村　和美	中川　守	大谷　珠美	○森　さとい・橋本寿代・小山紀子・大谷珠美・中橋利美
	北國銀行	大門　重樹	岡部　憲昌	彼島　佳子 彼島　佳子	○斉藤美和子・岡田真澄・堅田美奈子・閤田和恵・油野敏美 山口美香・中尾仁美・鍛冶香名美
福井	信越化学工業・武生	山岡　信高	宮地　裕和	奥山　健治	○佐々木文恵・今村弥生・小中真樹・平山純子・竹田智美 手島しげみ
	福井県庁	牧野　正明	松山　治幸	毛利　直美	○竹根瑞枝・毛利直美・松村みどり・田中ゆかり・田中妙子 藤川智弓
岐阜	三洋電機・岐阜	山下　正勝	浅田　雅彦	島　節子	○三田陽子・後藤洋子・大橋由子・小田切久恵・島　節子
静岡	ヤマハ	仲道　達夫 (大菅　裕而)	飯野　佳孝	吉永　将史 吉永　将史	○宮村　司（トレーナー） 笠原千夏子・金丸陽子・横手智江美・山田美紀・幸　家明・銭　萍 平野智子・林　矢須子
	ジャトコ	佐場野英一	岡野　強	大内めぐみ	○大内めぐみ・遠藤久美子・石川直美・飯山貴美・牛澤三奈 森　文華
	富士通・沼津	吉田　哲三	渡辺　誠	佐野　直巳	○伊代野栄子・渡辺ゆみ・戸田直美・榊原和美・山本百合子 松本朋子・渡辺史代・伊豆沢有季子
愛知	トヨタ自動車	北田　寛一	坂本　宏志	菅原　敬二	○田村真理子・田中裕子・鳥居由恵・三浦美紀子・藤本暢子 松田泰子・満田とも・松島貴子
	日本電装	鈴木　孝	亀谷　幸生	河村　祐子	○大屋幸恵・丑田明子・佐藤浩子・間庭由美・河村祐子・三原千恵子 仲山美奈・日山智絵
	豊田自動織機	大東　祥順	武田　正雄	近藤　善英	○加藤治子・奥谷美月・森　ゆかり・相馬美奈子・小野寿子 伊藤美穂・川村順子
	アイシン精機	岩岡　照夫	飯見　隆治	橋爪　泉	○鈴木智恵子・市川律子・橋爪　泉・山地裕美・山地　香・石田裕子
	豊田通商	西山　直文	江端　正己	大島　裕子	○佐藤眞理子・三橋結実・新井雅子・大島裕子・小俣　栄・加藤聖子 葛谷実穂
	豊田工機	佐伯外與昭	西田　良彦	石原ひかり	○佐々木実千代・上野理華・神之田直美・椎葉好美・伊相直美 大宅友里・渡邊桂子・竹本直子
	名古屋鉄道	速水　正昭	井沢　宏	斉藤敬一郎	○近藤あけみ・林　真奈美・水野裕子・中西康子・稗田みな子
	トヨタ車体	西村　裕治	米沢　強	林　絹子	○宇佐美栄理・黒川美保・早川美奈子・藤原悦子・上村登美代 安藤充子・小向妙子
	豊田合成	竹内　邦嘉	野村　幸信	小池　昌美	○浦木玉子・丸田裕子・平川ひとみ・森　智美・今尾圭子・安田里美 野田倫余・藤下恭子
三重	松下電工・伊勢	元山　正徳	山本　博文	中森　直子	○中森直子・稲垣恵子・田上弘子・上田真理・中瀬美穂・世古口典子
	富士電機・三重	山口　香	森川　広美	佐野　美和	○水谷栄里子・佐野美和・安保香里・安藤さよ子・川井貴子
滋賀	東レ・滋賀	後藤　晴司	池田　芳恵	加藤　典恵	○池田芳恵・中井幸恵・河村益美・西山幸恵・杉本久美・加藤典恵
	松下電工・彦根	谷　和男	谷　和男	小笠原幸子	○南　紀子・長瀬隆子・中村佳世・高木香菜江・吉田友紀・望月奈々 廣瀬章子・西谷多江子

県名	事業所名	部長 (副部長)	監督名	コーチ マネージャー	選手名 (○印は主将)
京都	三菱自工・京都	平林　豊	福井　達雄	石津　正明	○浜田　薫・北川典子・大槻悦子・小野昌子・田中晴美・梶浦由紀
	タキイ種苗	瀧井　恒男	大森　一美	間宮美代子	○大森一美・井崎淑子・今村祐子・霜中広江・高橋昌子・間宮美代子 梅津三洋子・岡田久美子
大阪	サントリー	井上　健弘 (長谷川理夫)	山本　次生	宮崎　克巳 宮崎　克己	○北本久美子・谷地春子・廣田時子・小池由扶子・磯崎照枝 磯井和恵・磯崎京美・松田治子
	住友金属・大阪	梅本　彰		西村　央子	○中浜優江・辻　直子・春木貞己・谷内洋子・添田香名美・千石明代 藤田綾子
	大和銀行	伊藤　憲二	伊藤　憲二	千田　朗子	○千田朗子・尾崎和枝・長沢幸江・立道佐知子・福田真弓・増田純子
	阪和興業	片山　正昭	原　健	西田　直子	○荻野恭代・辻　貴美子・矢田洋子・高橋裕子・根岸洋子
	住友生命	丸井　広道	狩野　卓也	前川知恵美	○梅本優美・井上昌子・円実千恵美・前川知恵・井上晶子
	三洋電機	吉岡　雅行 (中井　健三)	銭谷　欽治	喜多　努	○田代美智代・奥山保子・秋元美佐緒・北浦道代・今村　薫 利川貴子・三ツ川貴子・南里泰子
和歌山	住友金属・和歌山	平松　茂人	川村　桂司	福島　一正	○工藤志子・木下みどり・岡野班子・尾崎由実
鳥取	山陰アシックス	田中　平三	安部　一夫	安岡　浩志	○岡田朋子・北山春代・吉田　愛・長谷川美香・渡辺優子・渋谷多恵 藤原明子
	三洋電機・鳥取	鷲見　育亮	鷲見　育亮	川田　憲一	○福田麻寿美・森木文代・西尾朋子・幡　嘉子・中平広美・曽我典子
岡山	松本組	朝霧　晴夫	山本美智子	土肥まり子	○岡　良依・土肥まり子・渡辺美穂・藤原清美・山本美智子
	松下電器・岡山	豊川　英司	高祖　美喜	岩田　由紀	○松王香音里・徳田玲子・横田裕子・太田有紀
香川	百十四銀行	牛谷　茂	牛谷　茂	中川　育子	○松村晴子・辻　章子・山白麻紀・古田真由美・森下さおり 村瀬安代・六車澄子
	高松琴平電鉄	中村朔之介	東条　義昭	東条フミ子	○山崎直美・入金ゆみ子・古田幸代・村尾佳美・東条フミ子
福岡	ベスト電器	坂田　雄二	森　哉美	真名子靖代	○藏村久美・清水尚美・藤　裕枝・田頭美奈子・渡辺順子 伊藤ひろみ
熊本	九州日本電気	宮本　幸弘	坂本　正	宮本　幸弘 中原紀代美	○林　美希・杉野美貴・田畑美香・工藤雅代・中原敬子・上田純子 甲斐美和・新留直美
兵庫	三菱電機・伊丹	大沼　昭栄	矢賀　雅人	松本　泰典 松本　泰典	○萩生美奈子・清水浩美・清水明子・堀井尚美・久保田美可 泉　由香里・緒方真弓・麻生吉春
	三菱電機・神戸	中堀　一郎	大町　有希	上藤　朝之	○小屋松明巳・板垣ゆみ子・林由紀子・川中扶起子・大町有希
	大阪チタニウム製造	田端　一喜	水野　俊彦	山本　操	○川端充子・伊藤真由美・八原知子・山本　操・伊与木美保
	神戸市役所	川口　正光	高原　信幸	渡辺ゆかり	○塚本紀代美・多田郁美・渡辺ゆかり・八木美智子・延元博美 船引晴美・新子芳美
	三菱重工・神戸	松本　俊英	鳥井　正洋	原田　健一	○越智真弓・岡本章代・前山　愛・北田直美・伊野家麻美・奥村博子 長家紀代

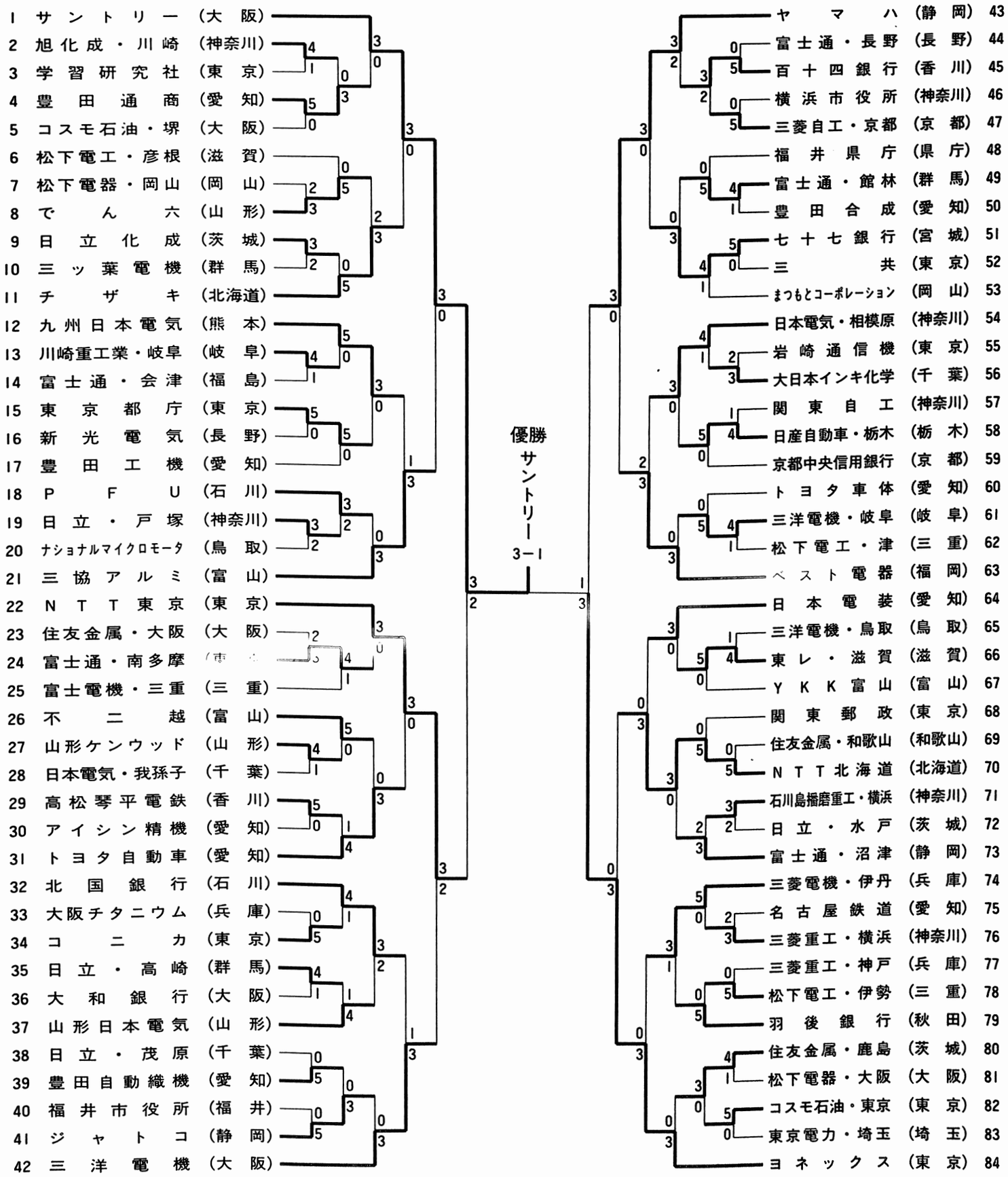
第41回全日本実業団バドミントン選手権大会

開催期日：1991年(平成3年)6月12～16日
開 催 地：宮城県仙台市
会　　場：仙台市体育館、宮城県スポーツセンター、
仙台市泉体育館、
仙台市勤労者体育館(仙台サンプラザ)

■男子団体の部



■女子団体の部


1 サントリー (大阪)
2 旭化成・川崎 (神奈川)
3 学習研究社 (東京)
4 豊田通商 (愛知)
5 コスモ石油・堺 (大阪)
6 松下電工・彦根 (滋賀)
7 松下電器・岡山 (岡山)
8 でんろく (山形)
9 日立化成 (茨城)
10 三ッ葉電機 (群馬)
11 チザキ (北海道)
12 九州日本電気 (熊本)
13 川崎重工業・岐阜 (岐阜)
14 富士通・会津 (福島)
15 東京都庁 (東京)
16 新光電気 (長野)
17 豊田工機 (愛知)
18 PFU (石川)
19 日立・戸塚 (神奈川)
20 ナショナルマイクロモータ (鳥取)
21 三協アルミ (富山)
22 NTT東京 (東京)
23 住友金属・大阪 (大阪)
24 富士通・南多摩 (東京)
25 富士電機・三重 (三重)
26 不二越 (富山)
27 山形ケンウッド (山形)
28 日本電気・我孫子 (千葉)
29 高松琴平電鉄 (香川)
30 アイシン精機 (愛知)
31 トヨタ自動車 (愛知)
32 北国銀行 (石川)
33 大阪チタニウム (兵庫)
34 コニカ (東京)
35 日立・高崎 (群馬)
36 大和銀行 (大阪)
37 山形日本電気 (山形)
38 日立・茂原 (千葉)
39 豊田自動織機 (愛知)
40 福井市役所 (福井)
41 ジャトコ (静岡)
42 三洋電機 (大阪)
優勝
サントリー
3－1
ヤマハ (静岡) 43
富士通・長野 (長野) 44
百十四銀行 (香川) 45
横浜市役所 (神奈川) 46
三菱自工・京都 (京都) 47
福井県庁 (県庁) 48
富士通・館林 (群馬) 49
豊田合成 (愛知) 50
七十七銀行 (宮城) 51
三共 (東京) 52
まつもとコーポレーション (岡山) 53
日本電気・相模原 (神奈川) 54
岩崎通信機 (東京) 55
大日本インキ化学 (千葉) 56
関東自工 (神奈川) 57
日産自動車・栃木 (栃木) 58
京都中央信用銀行 (京都) 59
トヨタ車体 (愛知) 60
三洋電機・岐阜 (岐阜) 61
松下電工・津 (三重) 62
ベスト電器 (福岡) 63
日本電装 (愛知) 64
三洋電機・鳥取 (鳥取) 65
東レ・滋賀 (滋賀) 66
YKK富山 (富山) 67
関東郵政 (東京) 68
住友金属・和歌山 (和歌山) 69
NTT北海道 (北海道) 70
石川島播磨重工・横浜 (神奈川) 71
日立・水戸 (茨城) 72
富士通・沼津 (静岡) 73
三菱電機・伊丹 (兵庫) 74
名古屋鉄道 (愛知) 75
三菱重工・横浜 (神奈川) 76
三菱重工・神戸 (兵庫) 77
松下電工・伊勢 (三重) 78
羽後銀行 (秋田) 79
住友金属・鹿島 (茨城) 80
松下電器・大阪 (大阪) 81
コスモ石油・東京 (東京) 82
東京電力・埼玉 (埼玉) 83
ヨネックス (東京) 84

■出場選手名簿　（男子の部）

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名　（○印は主将）
北海道	ＮＴＴ北海道	阿部　隆	米山　孝二	伊藤　雅弘 加藤　学	○山尾克則・伊藤雅弘・角谷淳一・田中弘幸・工藤忠和・古川英樹 加藤　学・米山孝二
	札幌市役所	島中　貞夫	中平　正幸	野川　豊 渋井　敏紀	○中村義則・中平正幸・渋井敏紀・高崎厚生・宮島延光・田辺道郎 市川幸典・萩原利雄
	ＪＲ北海道	飯塚　一力	乙武　重丸	高橋　進 七崎　悦範	○松村徳市・高橋　進・七崎悦範・松岡　誠・奥名泰光・馬木貴之 米田紀興・乙武重丸
	チザキ	岩崎　昭郎	岡本　傳	板東　康夫 中村　富光	○佐藤　信・林　秀行・高本邦博・木村靖浩・岡本　傳・板東康夫
	小樽市役所	深山　雄造	佐々木尚文	高野　幹男 目黒　清則	○東田朋巳・徳満康浩・阿部幸夫・目黒清則・藤川歳之・工藤俊幸 木村清仁・高野幹男
青森	弘前大学	山内　賢	田沢　一徳	佐藤　洋正 武内　由美	○佐藤芳仁・田中一人・亀谷禎清・長内　悟・對馬浩徳・葛谷昭司 葛西一宏・兜森聡一
	三菱製紙・八戸	佐藤　靖彦	池田　勝	伊藤　英文 椛沢　五月	○品川正良・浅利龍徳・工藤一志・嶋田育夫・西塚健治・宮川通治 岡堀克利・階上　聡
岩手	富士通・岩手	柳原　文雄	山ノ内一明	鈴木　礼子	○菊地生昭・近藤秀信・鈴木広志・藤谷清文・小原智雄・長尾正樹 佐藤慎也
秋田	羽後銀行	泉屋　謙一	泉屋　謙一	佐藤　晃	○魚谷啓法・鈴木理之・高橋仁司・高橋健一
山形	ＮＴＴ山形	浅海　憲夫	岡田　寿紀	菅野　一郎	○小中英智・高橋則一・中島　修・寺島剛志・鈴木　尚・岡田寿紀
	山形銀行	茂木　重蔵	荒井　謙治	渡辺　勝利 渡辺　賢	○渡辺　賢・荒井謙治・斎藤隆吉・大谷英二・永井　悟・鈴木洋史
	鶴岡市役所	窪田　寛士	小林　保夫	佐藤千佳子	○真田昭良・秋庭一生・丸山勝美・長谷川吉祥・阿達和夫・小林　学 清野　健・佐藤　茂
福島	福島県庁	大井　俊夫	大井　俊夫	武藤　信一 宮崎　典男	○遠藤真司・高橋　清・佐藤勝美・佐藤常寿・宮崎典男・小椋洋一 清水由久・渡辺　孝
	富士通・会津	塚越　厚生	青木　昭弘	青木　昭弘 渡辺　正光	○寺田　繁・渡辺正光・杉原好一・清野徹也・星　徹・本田克博 西潟昌利・佐藤勝司
	リズム工機	新井　滋	島影　盛継	猪俣奈保美 猪俣奈保美	○島影盛継・桑原伸一・山口善胤・高橋裕一
	東京電力・福島	久芳　道義	斉藤　満雄	山田喜代子	○山田保夫・斉藤満雄・本間　宏・白井文人・鎌田信一・半谷雄二 玉井俊光・宗像多門
茨城	日立・水戸	早川　博	菅野　孝	小島　孝治	○梅室真二・堀之内　滋・小島孝治・狩野秀一・大塚　正・結束雄二 菅野政明・篠崎和弥
	動燃・東海	三島　毅	三浦　満	牧野　勉	○渡辺健治・牧野　勉・渡辺貴巳・堀口幸一・塩崎博文・福井雅裕 平葭正男・笠松康洋
	住友金属・鹿島	縄竹　雅久	岡田　常雄		○板垣龍平・小林靖敏・梅沢和則・墳本敏幸・網　隆司・長谷部卓也 奥田重孝・原子弘之
栃木	栃木県庁	和久　光男	湯沢　雄一	鈴木　武 琴寄　行雄	○和久光男・池田勝浩・原　利浩・琴寄行雄・高橋安則・渡辺順一 小島秀雄
	松下電器・栃木	権田　彰男	岡室　利彦	福田　和弘 小篠　政和	○松本　誠・安達昌芳・加藤正幸・野口敬洋・山口昌彦・山崎敦史 大山功治・我妻裕二
	日産自動車・栃木	田畑　照雄	田中　英男	笠井　孝之 光田　和恵	○大八木　正・笠井孝之・田上　悟・入江久夫・鈴木　譲
群馬	日立・高崎	吉見　武夫	別所　明雄	鹿沼　重雄 安藤　則夫	○安藤則夫・飯野博英・石川栄寿・伊藤泰典・森木永宗・北爪　彰 菅野浩行・木村誠弘
	富士重工・群馬	杉本　伸夫	渡辺　晃一	島田　清和	○中居功治・島田清和・竹内康夫・丸山清春・斉藤　宏・高山冨士雄 高橋卓也・四宮浩一
	富士通・館林	高田　正憲	安藤　修二	橋本　龍児 門脇　宗人	○木村　博・横山　稔・松元功一・君島　修・渡辺文明・大塚一幸 山野井高生・田嶋正一
埼玉	東京電力・埼玉	三上　嶽一	五十嵐良輔	高橋　光年 横溝　徹	○笠原千彰・高橋光年・五十嵐良輔・望月政巳・加藤徳彦・横溝　徹 菅家一浩・松村典昭
	パイオニア・所沢	小鷹　文隆	近藤　均	島田　健一	○馬場良一・近藤　均・澤辺孝夫・山下　力・那賀敬弘・伊澤利明 島田健一・鈴木洋一
	本田技研・狭山	大橋　正	松原　裕央	阿部　力 宮越　通康	○宮越通康・藤田茂樹・岩田好夫・正木和久・今野直人・堀越　勉 池田一豊・久岡寛一

県名	事業所名	部長	監督名	コーチ マネージャー	選手名（○印は主将）
千葉	松戸市役所	関　政秀	吉岡　彰	吉岡　彰	○花嶋美生・鈴木秀和・本多稔之・野沢光広・大川　潤・吉岡　彰
	コスモMPC	西尾　元佑	浅利　章悦	滝本　和大 前田　益孝	○岩瀬　洋・滝本和大・佐藤一男・伊藤晃一・佐々木仁一・谷野公昭 鈴木博之・高木篤志
	我孫子市役所	磯岡　光夫	岡　信幸	坂巻　弘一 竹村のぞみ	○磯岡光夫・岡　信幸・広瀬一弘・関口浩紀・坂巻弘一・飯田秀勝
	新日本製鐵・君津	田中　徹	吉田　寛	阿部　哲夫 永井　信吾	○宮崎雅浩・吉田　寛・阿部哲夫・佐藤明海・宮田秀人・岡　良則 菅原又男・辻田由夫
東京	東京電力	佐藤　祥次	内田　修	高野　徹	○石原泰造・内田　修・岩間　源・厚川　勇・橋本　栄・塙　勝治 高野　徹
	東京郵政	古川　省吾	多田　晃一	大橋喜久夫	○永田伸一・多田晃一・古川省吾・木村勝宣・佐藤宏之・青木敏光 松本尚之
	NTT東京	池田　信孝	尾崎　幹雄	山下　博	○松野修二・西山博司・本田浩二・長内征美・柳谷辰哉・宮　康二 江藤裕樹・町田文彦
	東京簡易保険局	渡辺　文雄	古明地正邦	古明地正邦 廣田みちゑ	○小畑辰美・古明地正邦・中沢睦夫・飯塚正之・醍醐達也・杉田勝則 岸　利彦・田村　収
	東京トヨペット		入間　秀哲		○大瀬久司・根岸　信・鈴木一成・橘川光孝・渡辺　孝・稲村善之 神田正浩
	日本ユニシス	中村　明彦	鈴木　千秋	田中　淳	○中條起希・立本敬人・菊地　修・中川敏浩・山崎　慎・峯岸康史 山本義昭・田嶋宏光
	KDD	松浪鋭四郎	大髭　輝雄	則松　直樹	○藤平　守・前川栄一・橋本敏邦・目黒仁一・田島浩人・谷岡祐一 嶋田　聡・太田博之
	東京都庁	島田　稔	島田　稔	島田　稔 小林　賢治	○後藤　勝・島田　稔・小林賢治・高田　浩・黒田祥之・多田信之 大原政義・高城　徹
	ヨネックス	土田　隆	丹藤　勇一	望月　資 青山　正伸	○阿部浩志・丹藤勇一・望月　資・高橋賢治・青山正伸・福田和浩 栂野尾昌一・土田　隆
	ゴーセン・東京	山上　啓三	鎌田　啓睦	小松崎美恵	○兼坂省一・鎌田啓睦・中村和弘・谷地館　渉・北　義行・蒔田新一
	セイコー電子工業	礒　孝男	山下　史郎	村田　広行 武藤　健	○礒　孝男・武藤　健・吉田宜史・吉野朋之・梅野光一・井上一夫 高橋信二・伊藤耕吉
	ニコン	金谷冨士夫	本多　修治	藤井　一伸 [illegible]	○根岸光正・渡辺英明・百瀬智宣・宮島　実・小室　功・三上　修 菊地孝幸・金久保勝巳
	旭工芸	[illegible]　安則	山口　安則	村上　勝	○中津不二雄・山口安則・横田和博・板谷孝男・谷古宇義則 鳥羽信哉・村上　勝・篠崎　実
	足立区役所	馬場　猛夫	馬場　猛夫	鈴木　敦子	○鵜澤敏信・小林光雄・久保井秀雄・大和田勉・笹林義春 佐々木　拓・長門忠雄・宮本道雄
神奈川	東京電力・神奈川	中沢　元丸	笛田　卓司	浅田　幸江	○小林栄二・榎　博久・五十嵐　功・二階堂昌明・山本　正 田中　徹・佐藤隆弘・太田　勇
	横浜市役所	根本　和夫	境野　伸也	村松　利之	○根本道夫・平　敏司・斉藤英昭・村松利之・一瀬浩美・鎌倉保之 村上英典・浜路　圭
	日立・戸塚	田中　康之	坂口　勝則	藤原　文子	○藤田良一・秋山昌博・林　宏二・渡辺康之・半田賢二・馬場哲也
	富士通・川崎	岡沢　陸郎	青木　一夫		○後藤正志・青木一夫・稲垣広宣・和久井伸一・蜂谷　順・及川利行 増子康紀・小倉吉隆
	関東自工	有村　洋一	高橋　清	瀬下　由紀	○奈良秀行・細谷　昇・小枝憲久・太田清志・佐原弘明・加藤康二 大橋昭人・村上正美
	三菱電機・鎌倉	池田　勝彦	池田　勝彦	石井　正男 古内　浩二	○大須賀弘行・片山　敏・熊谷　修・石井正男・古内浩二
	日本電気・相模原	板倉　信雄	月岡　貴公	内山　泰則	○土田秀紀・足立和則・月岡貴公・内山泰則・高山照彦・石川雅由 清原　稔・小野　武
新潟	新潟県庁	阿部　智	市村　雅之	大川　剛史 平田淳一郎	○小林　巧・重山　明・若杉直樹・島田久幸・金子信之・瀬賀　功 小杉信広・市村雅之
	三條機械製作所	外山　修	久住　勝利	羽龍　良記	○鈴木　裕・久住勝利・米山　高・羽龍良記・丸山勝弥・相馬寛輝 内山隆史
富山	トナミ運輸	安達　達明	堺　三徳	樑　敏明 荒木　純	○濱北和彦・木船栄士・石橋　隆・岩渕公一・気谷篤人・三浦　修 大堀　均・吉田直樹
	不二越	長谷　俊夫	新田　寛義	三鍋　良知 高西　誠二	○濱松栄次・平井保光・基内豊久・藤平欣司・山下直哉・山崎　仁 種昂芳明・新田寛義

2．過去の栄冠　　全日本実業団バドミントン選手権大会

〈個人戦の部〉

注1．個人戦は第8回大会より第12回の間社会人大会を併催。
従ってこの間の記録は社会人大会の記録参照のこと
注2．全日実大会の個人戦は31回大会をもって中止となる。
注3．混合複の種目は28回大会をもって中止となる。
注4．この表の内3位については18回大会大会以降は3位決定戦を行っていないので3位は2者となる。それ以前は選手名の前に3，4にて3位，4位を示した。

一般男子単

回数	年度	優勝	準優勝	3位（4位）（注4）
13	1963	小宮好雄（トヨタ自動車）	板垣善憲（トヨタ自動車）	井門鎮雄（電電東京）　沢田力（電電東京）
14	1964	小宮好雄（トヨタ自動車）	板垣善憲（トヨタ自動車）	3岡崎恵三（甲府市役所）4堺栄一（河崎ラケット）
15	1965	板垣善憲（トヨタ自動車）	沢田力（電電東京）	3小宮好雄（トヨタ自動車）4岡崎恵三（甲府市役所）
16	1966	板垣善憲（トヨタ自動車）	安沢武司（トヨタ自動車）	3岡崎恵三（甲府市役所）4堺栄一（河崎ラケット）
17	1967	秋山真男（ヨネヤマラケット）	板垣善憲（トヨタ自動車）	3安沢武司（トヨタ自動車）4堺栄一（河崎ラケット）
18	1968	小島一平（ヨネヤマラケット）	宮永武司（明治生命）	鈴木健二（電電東京）　渡辺直人（横浜市役所）
19	1969	小島一平（ヨネヤマラケット）	渡辺直人（横浜市役所）	堺栄一（河崎ラケット）　安沢武司（トヨタ自動車）
20	1970	小島一平（ヨネヤマラケット）	鈴木健二（電電東京）	池田信孝（電電東京）　栂野尾昌一（ヨネヤマラケット）
21	1971	本間順次（トヨタ自動車）	今泉勉（高岡市役所）	宮川秀樹（河崎ラケット）　鈴木健二（電電東京）
22	1972	本間順次（トヨタ自動車）	栂野尾昌一（ヨネヤマラケット）	鈴木健二（電電東京）　鷲尾正一（スワロー化研）
23	1973	本間順次（トヨタ自動車）	小島一平（ヨネヤマラケット）	池田信孝（東京）　今泉勉（高岡市役所）
24	1974	本間順次（トヨタ自動車）	栂野尾昌一（ヨネックス）	牧野光男（高岡市役所）　池田信孝（電電東京）
25	1975	銭谷欽治（河崎ラケット）	本間順次（トヨタ自動車）	栂野尾昌一（ヨネックス）　池田信孝（電電東京）
26	1976	銭谷欽治（河崎ラケット）	小島一平（RS元町）	土田証雄（電電東京）　今泉勉（高岡市役所）
27	1977	銭谷欽治（河崎ラケット）	土田証雄（電電東京）	飯野佳孝（ヨネックス）　栂野尾昌一（ヨネックス）
28	1978	土田証雄（東京電電）	辻敏弘（ヨネックス）	飯野佳孝（ヨネックス）　栂野尾昌一（ヨネックス）
29	1979	銭谷欽治（河崎ラケット）	土田証雄（電電東京）	辻敏弘（ヨネックス）　栂野尾昌一（ヨネックス）
30	1980	銭谷欽治（河崎ラケット）	土田証雄（電電東京）	長谷川博幸（ヨネックス）　今泉勉（高岡市役所）
31	1981	銭谷欽治（河崎ラケット）	土田証雄（電電東京）	長谷川博幸（ヨネックス）　宮森庄吉（電電東京）

一般女子単

回数	年度	優勝	準優勝	3位（4位）（注4）
13	1963	横井文子（琴平電鉄）	高橋奉子（帝国石油秋田）	3横井文子（琴平電鉄）4橘美智子（金森商店）
14	1964	横井文子（琴平電鉄）	森久子（琴平電鉄）	3田島外茂子（琴平電鉄）4根岸純（岡山市役所）
15	1965	横井文子（琴平電鉄）	横山満子（帝国石油）	3森久子（琴平電鉄）4高橋満子（帝国石油）
16	1966	横井文子（琴平電鉄）	近藤光枝（丸紅飯田）	3横山満子（帝国石油）4山本真江（琴平電鉄）
17	1967	横井文子（琴平電鉄）	佐々木フミ（東邦レース）	3加賀谷ユミ子（敬愛職員）4細川泰子（琴平電鉄）
18	1968	佐々木フミ（東邦レース）	高橋とも子（北辰電機）	山本真江（琴平電鉄）　田仲美津江（電電東京）
19	1969	太田節子（トヨタ自動車）	永井かおり（三菱重工京都）	奈良岡洋子（電電東京）　大橋美知子（豊田自動織機）
20	1970	大橋美智子（豊田自動織機）	山本真江（琴平電鉄）	山本みどり（百十四銀行）　池田栄子（三菱電機伊丹）
21	1971	湯木博恵（河崎ラケット）	相沢マチ子（ヨネヤマラケット）	森清美（百十四銀行）　岡崎繁子（三菱自工京都）
22	1972	湯木博恵（河崎ラケット）	石崎茂子（電電東京）	横尾節子（神奈川県庁）　竹中悦子（ヨネヤマラケット）
23	1973	湯木博恵（河崎ラケット）	竹中悦子（ヨネヤマラケット）	相沢マチ子（ヨネヤマラケット）　石崎茂子（電電東京）
24	1974	湯木博恵（河崎ラケット）	竹中悦子（ヨネヤマラケット）	相沢マチ子（ヨネヤマラケット）　石崎茂子（電電東京）
25	1975	湯木博恵（河崎ラケット）	石崎茂子（電電東京）	相沢マチ子（ヨネックス）　竹中悦子（ヨネックス）
26	1976	湯木博恵（河崎ラケット）	池田美加（河崎ラケット）	徳田敦子（サントリー）　栂野尾悦子（ヨネックス）
27	1977	徳田敦子（サントリー）	湯木博恵（河崎ラケット）	池田美加（河崎ラケット）　高田幹子（サントリー）
28	1978	近藤小織（河崎ラケット）	徳田敦子（サントリー）	湯木博恵（河崎ラケット）　米倉よし子（電電東京）
29	1979	湯木博恵（河崎ラケット）	米倉よし子（電電東京）	近藤小織（河崎ラケット）　徳田敦子（サントリー）
30	1980	湯木博恵（河崎ラケット）	徳田敦子（サントリー）	近藤小織（河崎ラケット）　米倉よし子（電電東京）
31	1981	米倉よし子（電電東京）	湯木博恵（河崎ラケット）	東海林文子（サントリー）　原口恵子（サントリー）

2．過去の栄冠　全日本実業団バドミントン選手権大会

〈個人戦の部〉

一般男子複

回数	年度	優勝	準優勝	3位（4位）（注4）
13	1963	小宮好雄 板垣善憲（トヨタ自動車）	沢田　力 井門鎮雄（電電東京）	3 星野忠男 富田　豊（電電東京）　4 大野幸雄 小野勝洋（十條製紙）
14	1964	小宮好雄 板垣善憲（トヨタ自動車）	岡崎恵三 遠藤真男（甲府市役所）	3 森　晃一 足立　明（松下電子）　4 多賀靖之 北田寛一（トヨタ自動車）
15	1965	小宮好雄 板垣善憲（トヨタ自動車）	岡崎恵三 遠藤真男（甲府市役所）	3 沢田　力 鈴木幸春（電電東京）　4 井門鎮雄 田上十六（電電東京）
16	1966	板垣善憲 安沢武司（トヨタ自動車）	小宮好雄 杉政和雄（トヨタ自動車）	3 井門鎮雄 田上十六（電電東京）　4 岡崎恵三 遠藤真男（甲府市役所）
17	1967	秋山真男 小島一平（ヨネヤマラケット）	小宮好雄 板垣善憲（トヨタ自動車）	3 長谷川敏彦 安沢武司（トヨタ自動車）　4 田上十六 星野義昭（電電東京）
18	1968	小宮好雄 板垣善憲（トヨタ自動車）	星野義昭 鈴木健治（電電東京）	田上十六 森谷喜久男（電電東京）　伊村　隆 樋口一春（名鉄）
19	1969	長谷川敏彦 安沢武司（トヨタ自動車）	伊村　隆 樋口一春（名古屋鉄道）	鈴木幸春 星野義昭（電電東京）　松島　保 板垣善憲（トヨタ自動車）
20	1970	小島一平 栂野尾昌一（ヨネヤマラケット）	鈴木健二 池田信孝（電電東京）	伊村　隆 樋口一春（名鉄）　春武俊一 宮原秀三（日田市役所）
21	1971	河村博之 今泉　勉（高岡市役所）	堺　栄一 平井克英（河崎ラケット）	川上洋一 池田政規（不二越）　伊村　隆 樋口一春（名鉄）
22	1972	栂野尾昌一 木戸純一（ヨネヤマラケット）	河村博之 今泉　勉（高岡市役所）	山本洋彦 佐藤信夫（北辰電機）　岩田　勇 滝野公一（電電近畿）
23	1973	栂野尾昌一 木戸純一（ヨネヤマラケット）	河村博之 今泉　勉（高岡市役所）	鈴木健二 池田信孝（電電東京）　本間順次 谷口　寛（トヨタ自動車）
24	1974	本間順次 谷口　寛（トヨタ自動車）	河村博之 今泉　勉（高岡市役所）	関村順治 牧野光男（高岡市役所）　池田信孝 尾崎幹雄（電電東京）
25	1975	栂野尾昌一 飯野佳孝（ヨネックス）	本間順次 谷口　寛（トヨタ自動車）	河村博之 今泉　勉（高岡市役所）　関村順治 牧野光男（高岡市役所）
26	1976	栂野尾昌一 飯野佳孝（ヨネックス）	池田信孝 尾崎幹雄（電電東京）	河村博之 今泉　勉（高岡市役所）　関村順治 牧野光男（高岡市役所）
27	1977	栂野尾昌一 飯野佳孝（ヨネックス）	今泉　勉 牧野光男（高岡市役所）	土田証雄 田所光男（電電東京）　池田信孝 尾崎幹雄（電電東京）
28	1978	栂野尾昌一 飯野佳孝（ヨネックス）	今泉　勉 牧野光男（高岡市役所）	土田証雄 田所光男（電電東京）　池田信孝 尾崎幹雄（電電東京）
29	1979	池田信孝 尾崎幹雄（電電東京）	田所光男 土田証雄（電電東京）	辻　敏弘 長谷川博幸（ヨネックス）　木村敏男 遠藤好男（電電北海道）
30	1980	栂野尾昌一 飯野佳孝（ヨネックス）	田所光男 土田証雄（電電東京）	辻　敏弘 長谷川博幸（ヨネックス）　池田信孝 尾崎幹雄（電電東京）
31	1981	土田証雄 宮森庄吉（電電東京）	今泉　勉 米沢和男（高岡市役所）	辻　敏弘 長谷川博幸（ヨネックス）　池田信孝 尾崎幹雄（電電東京）

〈個人戦の部〉

一般女子複

回数	年度	優勝	準優勝	3位（4位）（注4）	
13	1963	横井文子 森　久子（琴平電鉄）	橘美智子 酒井美智子（金森商店）	3 秋山文子 佐藤照子（電電東京）	4 有木とみ子 三原弘美（電電東京）
14	1964	横井文子 森　久子（琴平電鉄）	田島外茂子 宮武範子（琴平電鉄）	3 小合佳子 重政百枝（クラレ岡山）	4 有木とみ子 星野弘美（電電東京）
15	1965	横井文子 森　久子（琴平電鉄）	横山満子 高橋奉子（帝国石油）	秋山恵子 有木とみ子（電電東京）	土井三枝子 粂田順子（トヨタ自動車）
16	1966	横山満子 高橋奉子（帝国石油）	近藤光枝 才脇妙子（丸紅飯田）	3 佐々木フミ 児玉キョウ子（東邦レース）	4 有木トミ子 叶内瑠美子（電電東京）
17	1967	横井文子 渡辺百合子（琴平電鉄）	有木とみ子 日下悦子（電電東京）	3 叶内瑠美子 岡部フサ子（電電東京）	4 武田初代 大塚弘子（トヨタ自動車）
18	1968	上野明美 太田節子（トヨタ自動車）	有木とみ子 田仲美津江（電電東京）	高橋とも子 水野小夜子（北辰電機）	深沢むつ子 金子美和子（トヨタ自動車）
19	1969	中野明美 太田節子（トヨタ自動車）	深沢むつ子 金子美和子（トヨタ自動車）	有木とみ子 土井治子（電電東京）	永井かおり 山下三枝子（三菱自工京都）
20	1970	池田栄子 篠山和江（三菱電機伊丹）	山本真江 細川泰子（琴平電鉄）	井上るり子 薗浦孝子（琴平電鉄）	永井かおり 山下三枝子（三菱自工京都）
21	1971	湯木博恵 鈴木華子（河崎ラケット）	工藤美佐子 紺野幾子（豊田織機）	池田栄子 大竹由里子（三菱電機伊丹）	井上るり子 薗浦孝子（琴平電鉄）
22	1972	湯木博恵 千葉陽子（河崎ラケット）	井上るり子 薗浦孝子（琴平電鉄）	田所静子 石原英子（琴平電鉄）	柴山きよ子 高崎弘子（三菱電機伊丹）
23	1973	相沢マチ子 竹中悦子（ヨネヤマラケット）	石崎茂子 今田真知子（電電東京）	高橋映子 宮本小夜子（北辰電機）	田所静子 石原英子（琴平電鉄）
24	1974	竹中悦子 相沢マチ子（ヨネックス）	湯木博恵 池田美加（河崎ラケット）	田所静子 石原英子（琴平電鉄）	石崎茂子 今田真知子（電電東京）
25	1975	湯木博恵 池田美加（河崎ラケット）	相沢マチ子 竹中悦子（ヨネックス）	藤井由美子 沼能久子（旭光学益子）	川東秀美 山口豊子（百十四銀行）
26	1975	湯木博恵 池田美加（河崎ラケット）	西尾真理子 秋本八代美（サントリー）	谷美津子 秋本幸子（サントリー）	石崎茂子 今田真知子（電電東京）
27	1977	徳田敦子 高田幹子（サントリー）	栂野尾悦子 陣内裕子（ヨネックス）	湯木博恵 池田美加（河崎ラケット）	谷美津子 秋本幸子（サントリー）
28	1978	徳田敦子 高田幹子（サントリー）	湯木博恵 千葉陽子（河崎ラケット）	石原英子 田所静子（琴平電鉄）	飯野裕子 植野恵美子（ヨネックス）
29	1979	徳田敦子 高田幹子（サントリー）	谷美津代 秋本幸子（サントリー）	関根和子 大塚ソノエ（ヨネックス）	平井佐代子 山田高子（琴平電鉄）
30	1980	徳田敦子 高田幹子（サントリー）	米倉よし子 三田知佳子（電電東京）	栂野尾悦子 土田美加（ヨネックス）	関根和子 大塚ソノエ（ヨネックス）
31	1981	米倉よし子 三田知佳子（電電東京）	関根和子 大塚ソノエ（ヨネックス）	栂野尾悦子 月岡広美（ヨネックス）	東海林文子 原口恵子（サントリー）

2．過去の栄冠　全日本実業団バドミントン選手権大会

〈個人戦の部〉

30歳男子単

回数	年度	優勝	準優勝	3位（4位）（注4）
13	1963	高見広治（新潟大学）	荒川司郎（トヨタ自動車）	多賀純一（トヨタ自動車）　池田芳麻（電電大阪）
14	1964	前田俊一（丸菱商事）	溝渕宏二（国際電電）	3谷沢経次（トヨタ自動車）4浜中　誠（丸善石油松山）
15	1965	粟　守（古河電工）	溝渕宏二（国際電電）	3浜中　誠（丸善石油松山）4山城智徳（トヨタ自動車）
16	1966	遠藤啓治（日本鋼管）	堺　三徳（十條製紙伏木）	3武村俊平（国際電電）4三苫孝一（住友化学菊本）
17	1967	遠藤啓治（日本鋼管）	武村俊平（国際電電）	3堺　三徳（十條製紙伏木）4三苫孝一（住友化学菊本）
18	1968	遠藤啓治（日本鋼管）	青木　昇（日本鋼管）	渕上英紀（北九州市役所）　武村俊平（国際電電）
19	1969	遠藤啓治（日本鋼管）	武村俊平（国際電電）	渕上英紀（北九州市役所）　清水　力（大日日本電線）
20	1970	小山包博（神奈川県庁）	渋井　明（国鉄北海道総局）	武村俊平（国際電電）　遠藤啓治（日本鋼管）
21	1971	川上洋一（不二越）	遠藤啓治（日本鋼管）	大野幸雄（十條製紙伏木）　小松　貴（岡山市役所）
22	1972	川上洋一（不二越）	遠藤啓治（日本鋼管）	小松　貴（岡山市役所）　小山包博（神奈川県庁）
23	1973	吉田邦男（日立戸塚）	宮永武司（明治生命）	黒崎二男（北辰電機）　早川　博（日立水戸）
24	1974	増井孝夫（三菱化成四日市）	鈴木勝之（三菱重工横浜）	吉田邦男（日立戸塚）　窪田恵三（甲府市役所）
25	1975	鈴木勝之（三菱重工横浜）	渡辺直人（横浜市役所）	吉田邦男（日立戸塚）　増井孝夫（三菱化成四日市）
26	1976	渡辺直人（横浜市役所）	鈴木勝之（三菱重工横浜）	吉田邦男（日豊通信）　増井孝夫（三菱化成四日市）
27	1977	渡辺直人（横浜市役所）	鈴木勝之（三菱重工横浜）	増井孝夫（三菱化成四日市）　竹俣　明（東京都庁）
28	1978	渡辺直人（横浜市役所）	鈴木勝之（三菱重工横浜）	山本敏彦（福井市役所）　馬場猛夫（東京都庁）
29	1979	渡辺直人（横浜市役所）	鈴木勝之（三菱重工横浜）	山本敏彦（福井市役所）　芳上一男（三井造船玉野）
30	1980	赤塚正三（電電北海道）	山本晴通（札幌鉄道管理局）	桜田豊治（日産自横浜）　石川順一（小松製作所）
31	1981	堂谷内均（桶谷歯科）	芳上一男（三井造船玉野）	渡辺直人（横浜市役所）　鈴木勝之（三菱重工横浜）

40才男子単

回数	年度	優勝	準優勝	3位（4位）（注4）
13	1963	相馬清一（帝国石油秋田）	越智勤也（住友化学菊本）	3井出剛一（電電大阪）4降井欽一（日産自動車）
14	1964	三沢英二（北九州市役所）	社　竹三（岡山市役所）	影浦康史（愛媛県庁）　鈴木光一（山之内製薬）
15	1965	三沢英二（北九州市役所）	越智勤也（住友化学菊本）	井原平八郎（国鉄後藤）　安藤八郎（住友化学菊本）
16	1966	三沢英二（北九州市役所）	作原好二（神戸地裁）	3山城智徳（トヨタ自動車）4安藤八郎（住友化学菊本）
17	1967	越智勤也（住友化学菊本）	森脇籌夫（国際電気）	3三沢英二（北九州市役所）4山城智徳（トヨタ自動車）
18	1968	中島泰二（大村市役所）	三沢英二（北九州市役所）	山城智徳（トヨタ自動車）　森脇籌夫（国際電気）
19	1969	浜中　誠（丸善石油松山）	中島泰二（大村市役所）	森脇籌夫（国際電気）　井原平八郎（国鉄後藤）
20	1970	浜中　誠（丸善石油松山）	千葉重信（住友化学菊本）	越智勤也（住友化学菊本）　諫元慎一（日田市役所）
21	1971	浜中　誠（丸善石油松山）	中島泰二（大村市役所）	片平直照（長崎市役所）　森脇籌夫（国際電気）
22	1972	畑　忠雄（福井県庁）	浜中　誠（丸善石油松山）	中島泰二（大村市役所）　森脇籌夫（国際電気）
23	1973	浜中　誠（丸善石油松山）	中島泰二（大村市役所）	山崎重藤（国鉄東京）　浅井　譲（国鉄後藤）
24	1974	浜中　誠（丸善石油松山）	中島泰二（大村市役所）	浅井　譲（国鉄後藤）　小林忠信（三菱電機神戸）
25	1975	山田正弘（新日鐵）	浜中　誠（丸善石油松山）	中島泰二（大村市役所）　小林忠信（三菱電機神戸）
26	1976	遠藤啓治（日本鋼管）	堺　三徳（十條製紙伏木）	原　明弘（小松製作所）　山田正弘（新日鐵製品研）
27	1977	遠藤啓治（日本鋼管）	堺　三徳（十條製紙伏木）	高橋幸治郎（いすゞ川崎）　原　明弘（小松製作所）
28	1978	高橋幸治郎（いすゞ自動車）	遠藤啓治（日本鋼管）	堺　三徳（十條製紙伏木）　伊藤雅昭（電電東海）
29	1979	高橋幸治郎（いすゞ自動車）	遠藤啓治（日本鋼管京浜）	木山茂雄（興亜石油山口）　岡崎健一（日本火災七尾）
30	1980	大野幸雄（十條製紙伏木）	高橋幸治郎（いすゞ川崎）	山本能也（高知サンスポ）　伊藤雅昭（電電東海）
31	1981	高橋幸治郎（いすゞ自動車）	小山包博（神奈川県庁）	坂　元彦（横浜市役所）　大野幸雄（十條製紙伏木）

2．過去の栄冠　全日本実業団バドミントン選手権大会

〈個人戦の部〉

30歳男子複

回数	年度	優勝	準優勝	3位（4位）（注4）
13	1963	荒川司郎 谷沢経次（トヨタ自動車）	林　辰夫 広瀬幸男（日産化学）	3 小山正夫 島田　勉（日本曹達）　4 神井久男 近藤忠徳（住友化学新居浜）
14	1964	福井正康 河崎一幸（河崎ラケット）	荒川司郎 谷沢経次（トヨタ自動車）	3 浜中　誠 池内義夫（丸善石油）　4 福井久男 神野恒信（住友化学新居浜）
15	1965	山田達也 吉田　昇（大日日本電線）	池内義夫 浜中　誠（丸善石油松山）	3 山城智徳 多賀純一（トヨタ自動車）　4 福井久男 津吉哲郎（住友化学新居浜）
16	1966	武村俊平 溝淵宏二（国際電電）	佐々木義政 浅井　譲（国鉄後藤工場）	3 釣谷友一 堺　三徳（十條製紙伏木）　4 福井正康 河崎一幸（河崎ラケット）
17	1967	遠藤啓二 佐治　豊（日本鋼管）	武村俊平 松浪鋭四郎（国際電電）	3 釣谷友一 堺　三徳（十條製紙伏木）　4 福井正康 河崎一幸（河崎ラケット）
18	1968	遠藤啓二 青木　昇（日本鋼管）	淵上英紀 勝野雅文（北九州市役所）	河崎一幸 福井正康（河崎ラケット）　溝渕宏二 松浪鋭四郎（国際電電）
19	1969	溝淵宏二 武村俊平（国際電電）	淵上英紀 勝野雅文（北九州市役所）	青木　昇 遠藤啓治（日本鋼管）　河崎一幸 福井正康（河崎ラケット）
20	1970	大野幸雄 堺　三徳（十條製紙伏木）	小山包博 中丸靖元（神奈川県庁）	千葉正寿 石持亘一（自衛隊仙台）　溝渕宏二 武村俊平（国際電電）
21	1971	大野幸雄 堺　三徳（十條製紙伏木）	遠藤啓二 青木　昇（日本鋼管）	三苫孝一 千葉重信（住友化学菊本）　小山包博 中丸靖元（神奈川県庁）
22	1972	大野幸雄 堺　三徳（十條製紙伏木）	星野義昭 井門鎮雄（電電東京）	五本木茂 野坂英樹（安立電気）　小山包博 池成隆夫（神奈川県庁）
23	1973	大野幸雄 堺　三徳（十條製紙伏木）	藤原　航 田丸勝己（三井造船玉野）	黒崎二男 堀越　進（北辰電機）　小山包博 中丸靖元（神奈川県庁）
24	1974	遠藤真男 窪田恵三（甲府市役所）	森谷喜久男 星野義昭（電電東京）	宮原秀三 春武俊一（日田市役所）　黒崎二男 堀越　進（北辰電機）
25	1975	春武俊一 宮原秀三（日田市役所）	川上洋一 永原昌雄（不二越）	鈴木　蕃 島田　稔（東京都庁）　星野義昭 森谷喜久男（電電東京）
26	1976	春武俊一 宮原秀三（日田市役所）	林　厚志 宮岡康臣（三陽パルプ）	鈴木勝之 倉田豊三郎（三菱重工横浜）　星野義昭 森谷喜久男（電電東京）
27	1977	森谷喜久男 星野義昭（電電東京）	春武俊一 宮原秀三（日田市役所）	藤原　航 上野輝治（三井造船玉野）　友金利一 来田正雄（神戸製鋼尼崎）
28	1978	森谷喜久男 星野義昭（電電東京）	春武俊一 宮原秀三（日田市役所）	藤原　航 上野輝治（三井造船玉野）　竹俣　明 馬場猛夫（東京都庁）
29	1979	渡辺直人 金子英司（横浜市役所）	芳上一男 藤原　航（三井造船玉野）	京屋孝治 佐藤幸男（日本石油）　竹俣　明 大原政義（東京都庁）
30	1980	渡辺直人 金子英司（横浜市役所）	堺　栄一 今井茂満（河崎ラケット）	京屋孝治 佐藤幸男（日本石油）　竹俣　明 大原政義（東京都庁）
31	1981	赤塚正三 木村敏男（電電北海道）	渡辺直人 金子英司（横浜市役所）	松波　譲 沢田正夫（三菱重工名古屋）　竹俣　明 大原政義（東京都庁）

2．過去の栄冠　　全日本実業団バドミントン選手権大会

〈個人戦の部〉

40歳男子複

回数	年度	優勝	準優勝	3位（4位）（注4）
13	1963	相場清一 矢作（帝国石油秋田）	東　芳男 降井欽一（日産自動車）	3宮沢高嶺 竹内紋治（日本曹達）　4社　竹三 小梶繁雄（岡山市役所）
14	1964	越智勤也 安藤八郎（住友化学）	谷本庄一 池上　任（高松市役所）	——
15	1965	三沢英二 坂本　良（北九州市役所）	越智勤也 安藤八郎（住友化学菊本）	3社　竹三 小梶繁雄（岡山市役所）　4井原平八郎 田鍬敏治（国鉄後藤）
16	1966	山城智徳 深津　豊（トヨタ自動車）	三沢英二 坂本　良（北九州市役所）	3田鍬敏治 井原平八郎（国鉄後藤）　4社　竹三 小梶繁雄（岡山市役所）
17	1967	山城智徳 深津　豊（トヨタ自動車）	谷口房治 久代貫三郎（久代㈱）	越智勤也 安藤八郎（住友化学菊本）　社　竹三 小梶繁雄（岡山市役所）
18	1968	江田　恵 諫元慎一（日田市役所）	越智勤也 松本貞夫（住友化学菊本）	深津　豊 山城智徳（トヨタ自動車）　谷口房治 久代貫三郎（舞鶴商事）
19	1969	江田　恵 諫元慎一（日田市役所）	井原平八郎 松恭昌俊（国鉄後藤）	安藤八郎 福井久男（住友化学新居浜）　千田周平 兼平松太郎（森岡鉄道局）
20	1970	松永恭昌 佐々木義政（国鉄後藤）	後藤　守 井沢　宏（名古屋鉄道）	谷口房治 久代貫三郎（舞鶴商事）　越智勤也 千葉重信（住友化学菊本）
21	1971	後藤　守 井沢　宏（名古屋鉄道）	松永恭昌 佐々木義政（国鉄後藤）	片平直照 木村明男（長崎市役所）　明珍　勝 西村　喬（三井造船所）
22	1972	横井虎男 谷口金夫（クラレ西条）	佐々木義政 浅井　譲（国鉄後藤）	尾崎惟信 大平和三（三菱電機神戸）　伊藤利朗 伊藤忠信（三菱電機神戸）
23	1973	横井虎男 谷口金夫（クラレ西条）	尾崎惟信 大平和三（三菱電機神戸）	井原平八郎 松永恭昌（国鉄後藤）　佐々木義政 浅井　譲（国鉄後藤）
24	1974	横井虎男 谷口金夫（クラレ西条）	尾崎惟信 大平和三（三菱電機神戸）	松永恭昌 浅井　譲（国鉄後藤）　井原平八郎 佐々木義政（国鉄後藤）
25	1975	横井虎男 谷口金夫（クラレ西条）	尾崎惟信 大平和三（三菱電機神戸）	吉田　昇 山田達也（大日日本電線）　梅枝孝之 森田俊明（国立舞鶴病院）
26	1976	横井虎男 谷口金夫（クラレ西条）	遠藤啓治 榎森信二（日本鋼管）	曽根徳郎 梅枝孝之（国立舞鶴病院）　佐々木義政 井原平八郎（国鉄後藤）
27	1977	岡崎健一 飴谷信夫（日本火災海上七尾）	伊藤雅昭 鬼頭弘明（電電東海）	谷口金夫 吉上貞雄（クラレ西条）　佐々木義政 井原平八郎（国鉄後藤）
28	1978	岡崎健一 飴谷信夫（日本火災海上七尾）	伊藤雅昭 鬼頭弘明（電電東海）	遠藤啓治 榎森信二（日本鋼管京浜）　溝渕宏二 武村俊平（国際電電大阪）
29	1979	川岡　智 河野耕司（山陽国策パルプ）	遠藤啓治 榎森信二（日本鋼管京浜）	岡崎健一 飴台信夫（日本火災七尾）　伊藤雅昭 鬼頭弘明（電電東海）
30	1980	堺　三徳 大野幸雄（十條製紙伏木）	岡崎健一 飴谷信夫（日本火災七尾）	浜中　誠 白石卓夫（丸善石油松山）　谷島軍二 水口良一（不二越）
31	1981	堺　三徳 大野幸雄（十條製紙伏木）	明石　誠 三浦紀重（東北大学）	高橋正宏 坂　元彦（横浜市役所）　伊藤雅昭 鬼頭弘明（電電東海）

2．過去の栄冠　全日本実業団バドミントン選手権大会

〈個人戦の部〉

混合複

回数	年度	優勝	準優勝	3位（4位）（注4）	
13	1963	小宮好雄 蔵本文子（トヨタ自動車）	星野忠男 有木とみ子（電電東京）	3 板垣善憲 林　信子（トヨタ自動車）	4 小松　貴 根岸　純（岡山市役所）
14	1964	小宮好雄 林　信子（トヨタ自動車）	板垣善憲 粂田順子（トヨタ自動車）	3 星野忠男 有木とみ子（電電東京）	4 井門鎮雄 星野弘美（電電東京）
15	1965	板垣善憲 粂田順子（トヨタ自動車）	小宮好雄 土井三枝子（トヨタ自動車）	3 星野忠男 有木とみ子（電電東京）	4 三宅孝明 玉水典子（西日本相互銀行）
16	1966	小宮好雄 上野明美（トヨタ自動車）	盛野博之 河村和子（高岡市役所）	3 板垣善憲 粂田順子（トヨタ自動車）	4 堺　栄一 原　則子（河崎ラケット）
17	1967	小宮好雄 上野明美（トヨタ自動車）	板垣善憲 太田節子（トヨタ自動車）	3 田上十六 叶内瑠美子（電電東京）	4 鈴木幸春 有木とみ子（電電東京）
18	1968	小宮好雄 上野明美（トヨタ自動車）	板垣善憲 太田節子（トヨタ自動車）	山本洋彦 高橋とも子（北辰電機）	田上十六 有木とみ子（電電東京）
19	1969	安沢武司 金子美和子（トヨタ自動車）	鈴木健二 有木とみ子（電電東京）	小宮好雄 上野明美（トヨタ自動車）	府岡　弘 安間千代子（福井銀行）
20	1970	安沢武司 竹中礼子（トヨタ自動車）	鈴木健二 奈良岡洋子（電電東京）	星野義昭 土井治子（電電東京）	池田信孝 阿久津きさ子（電電東京）
21	1971	堺　栄一 湯木博恵（河崎ラケット）	池田信孝 阿久津まさ子（電電東京）	山本洋彦 山上博子（北辰電機）	星野義昭 土井治子（電電東京）
22	1972	堺　栄一 湯木博恵（河崎ラケット）	池田信孝 阿久津まさ子（電電東京）	鈴木健二 石崎茂子（電電東京）	武田正雄 辻田京子（豊田自動織機）
23	1973	堺　栄一 湯木博恵（河崎ラケット）	栂野尾昌一 竹中悦子（ヨネヤマラケット）	山本洋彦 高橋映子（北辰電機）	田所光男 今田真知子（電電東京）
24	1974	堺　栄一 湯木博恵（河崎ラケット）	栂野尾昌一 竹中悦子（ヨネヤマラケット）	佐藤信夫 岩崎映子（北辰電機）	平井克英 柴山きよ子（河崎ラケット）
25	1975	平井克英 柴山きよ子（河崎ラケット）	飯野佳孝 相沢マチ子（ヨネックス）	栂野尾昌一 竹中悦子（ヨネックス）	今井茂満 池田美加（河崎ラケット）
26	1976	栂野尾昌一 栂野尾悦子（ヨネックス）	堺　栄一 湯木博恵（河崎ラケット）	池田信孝 石崎茂子（電電東京）	飯野佳孝 陣内裕子（ヨネックス）
27	1977	日下　昇 牛田真由美（百十四銀行）	菅原　薫 我妻たき子（ヨネックス）	野本網夫 清水礼子（電電東京）	鈴木健二 中鉢悦子（電電東京）
28	1978	日下　昇 牛田真由美（百十四銀行）	宮崎克己 西尾真理子（サントリー）	古明池正邦 穐山みちゑ（東京簡保）	西野一征 飯野裕子（ヨネックス）

2．過去の栄冠　全日本総合バドミントン選手権大会

男子単・女子単の部

回数	年度	開催地	男子単の部		女子単の部	
			優勝	準優勝	優勝	準優勝
1	昭和22年	東京都	岡　淳一（神奈川）	藤井光男（東京）	中村タキ（神奈川）	川俣千枝子（神奈川）
2	23	横浜市	岡　淳一（神奈川）	広田敏秀（東京）	吉田とよ子（神奈川）	成瀬龍子（石川）
3	24	金沢市	岡　淳一（神奈川）	広田敏秀（東京）	吉田とよ子（神奈川）	貝原マサエ（石川）
4	25	東京都	岡　淳一（神奈川）	広田敏秀（東京）	遠藤文子（神奈川）	堀江綾子（愛知）
5	26	奈良市	広田敏秀（東京）	岡　淳一（神奈川）	登　悦子（石川）	堀江綾子（愛知）
6	27	新潟市	広田敏秀（慶応大）	佐藤芳朗（立教大）	吉田光子（福島）	荒川とみ子（神奈川）
7	28	東京都	望月文雄（立教大）	佐藤芳朗（立教大）	荒川とみ子（日本コロムビア）	大川良子（日本コロムビア）
8	29	高松市	上田益弘（同志社大）	佐藤芳朗（立教大）	大川良子（日本コロムビア）	荒川とみ子（日本コロムビア）
9	30	東京都	片石兼敏（立教大）	杉田　博（横浜YMCA）	権田節子（岡山クラブ）	武田　（若松クラブ）
10	31	横浜市	佐藤芳朗（セントポール）	片石兼敏（立教大）	横井キヌエ（善通寺一高OG）	戸田寿子（山陽ＯＧ）
11	32	東京都	永井栄一（立教大）	佐藤芳朗（セントポール）	田島外茂子（善通寺一高）	宮川ツヤ子（善通寺一高）
12	33	長野市	佐藤芳朗（小田急観光）	杉田　博（港南中教員）	田島外茂子（熊本女子大）	
13	34	横浜市	板垣隆房（立教大）		田島外茂子（熊本女子大）	
14	35	東京都	小宮好雄（立教大）	岡崎恵三（緑ヶ丘高）	橘美智子（般若鉄工所）	田島外茂子（熊本女子大）
15	36	京都市	小宮好雄（立教大）	永井栄一（ベニア商会）	秋山文子（熊本女子大）	橘美智子（金森商店）
16	37	横浜市	宮永武司（慶応大）		高木紀子（日女体短大）	
17	38	岐阜市	渡部紘一（新潟(教)）		横井文子（琴平電鉄）	
18	39	会津若松	宮永武司（明治生命）		高木紀子（東海女短教）	
19	40	秋田市	秋山真男（中央大）		横山満子（帝国石油）	
20	41	東京都	小島一平（中央大）		高木紀子（東海女短教）	
21	42	横浜市	小島一平（ヨネヤマラケット）		高木紀子（東海女短教）	
22	43	東京都	小島一平（ヨネヤマラケット）	本間順次（中央大）	高橋とも子（北辰電機）	高木紀子（東海女短教）
23	44	東京都	小島一平（ヨネヤマラケット）		湯木博江（日本女体大）	
24	45	東京都	小島一平（ヨネヤマラケット）	秋山真男（山梨）	竹中悦子（青陵女短大職員）	湯木博江（日本女体大）
25	46	東京都	栂野尾昌一（ヨネヤマラケット）	小島一平（ヨネヤマラケット）	中山紀子（弘文堂）	湯木博江（カワサキラケット）
26	47	東京都	小島一平（ヨネヤマラケット）	本間順次（トヨタ自工）	湯木博江（カワサキラケット）	西尾真理子（日本体大）
27	48	東京都	小島一平（ＲＳ元町）	銭谷欽治（中央大）	湯木博江（カワサキラケット）	竹中悦子（ヨネヤマラケット）
28	49	東京都	銭谷欽治（中央大）	栂野尾昌一（ヨネックス）	湯木博恵（カワサキラケット）	池田美加（カワサキラケット）
29	50	東京都	小島一平（ＰＳ元町）	銭谷欽治（河崎ラケット）	湯木博恵（河崎ラケット）	徳田敦子（四条畷短女大）
30	51	東京都	銭谷欽治（河崎ラケット）	土田証雄（電電東京）	湯木博恵（河崎ラケット）	栂野尾悦子（ヨネックス）
31	52	東京都	銭谷欽治（河崎ラケット）	土田証雄（電電東京）	近藤小織（日本女体大）	湯木博恵（河崎ラケット）
32	53	東京都	銭谷欽治（河崎ラケット）	土田証雄（電電東京）	徳田敦子（サントリー）	近藤小織（河崎ラケット）
33	54	東京都	銭谷欽治（河崎ラケット）	土田証雄（電電東京）	米倉よし子（電電東京）	湯木博恵（河崎ラケット）
34	55	東京都	長谷川博幸（ヨネックス）	銭谷欽治（河崎ラケット）	北田スミ子（四条畷女短大）	米倉よし子（電電東京）
35	56	東京都	銭谷欽治（カワサキ）	長谷川博幸（ヨネックス）	北田スミ子（四条畷女短大）	東海林文子（サントリー）
36	57	東京都	長谷川博幸（ヨネックス）	土田証雄（電電東京）	北田スミ子（三洋電機）	東海林文子（サントリー）
37	58	東京都	長谷川博幸（ヨネックス）	松浦進二（法政大）	東海林文子（サントリー）	河本小織（松本組）
38	59	東京都	銭谷欽治（三洋電機）	西山博司（電電東京）	北田スミ子（三洋電機）	米倉よし子（電電東京）
39	60	名古屋市	西山博司（ＮＴＴ東京）	松浦進二（法政大）	北田スミ子（三洋電機）	陣内貴美子（ヨネックス）
40	61	東京都	松浦進二（ヨネックス）	松野修二（山梨県教）	北田スミ子（三洋電機）	陣内貴美子（ヨネックス）
41	62	東京都	西山博司（ＮＴＴ東京）	松野修二（ＮＴＴ東京）	北田スミ子（三洋電機）	田児よし子（ＮＴＴ東京）
42	63	守口市	松浦進二（フジチュー）	松野修二（ＮＴＴ東京）	北田スミ子（三洋電機）	陣内貴美子（ヨネックス）
43	平成元年	東京都	松野修二（ＮＴＴ東京）	松浦進二（フジチュー）	宮村愛子（サントリー）	金井和恵（サントリー）
44	2	東京都	松浦進二（フジチュー）	松野修二（ＮＴＴ東京）	水井妃佐子（四条畷女短大）	松尾知美（ＮＴＴ東京）
45	3	東京都	松野修二（ＮＴＴ東京）	松浦進二（フジチュー）	松尾知美（ＮＴＴ東京）	水井妃佐子（四条畷女短大）
46	4	守口市	霜上和宏（日本体大）	本山秀昭（トナミ運輸）	宮村愛子（サントリー）	水井妃佐子（フジチュー）
47	5	東京都	町田文彦（ＮＴＴ東京）	霜上和宏（日本体大）	水井妃佐子（フジチュー）	水井泰子（フジチュー）
48	6	守口市	町田文彦（ＮＴＴ東京）	本山秀昭（トナミ運輸）	水井妃佐子（フジチュー）	大田貴子（サントリー）
49	平成７年	東京都	町田文彦（ＮＴＴ東京）	舛田圭太（金沢市立工高）	水井妃佐子（フジチュー）	井田貴子（三洋電機）

2．過去の栄冠　全日本社会人バドミントン選手権大会

開催年(回数)	開催地	一般男子単優勝	一般男子複優勝	一般女子単優勝	一般女子複優勝	混合複優勝
1958(1)	札幌市	佐藤芳郎(神奈川)	山田養三(仙台郵政) 生田仁紀雄	横井キヌエ(善通寺) 森岡経理	横井キヌエ(善通寺) 山下久子 森岡経理	石原利通(岡山) 戸田寿子
1959(2)	善通寺市	佐藤芳郎(神奈川)	佐藤芳郎(小田急観光) 杉田博 港南中教員	横井キヌエ(善通寺) 森岡経理	横井キヌエ(善通寺) 山下久子 森岡経理	貝戸肇(東京都) 諸田みや子
1960(3)	名古屋市	杉田博(港南中教員)	荒木亥久男(十條製紙) 大野幸雄	高島陽子(高岡市役所)	高島洋子(高岡市役所) 中島玲子	北島克英(東京都) 有木トミ子
1961(4)	倉敷市	永井栄一(三越)	片石兼敏(岩倉ホモゲン) 永井栄一 三越	橘美智子(般若鉄工)	福本和子(百十四銀行) 福井文子 香川	杉田博(神奈川) 杉田良子
1962(5)	熊本市	小宮好雄(トヨタ自動車)	星野忠男(電電東京) 宮田豊	横井文子(琴平電鉄)	橘美智子(金森成平) 酒井美智子 商店	小宮好雄(トヨタ自動車) 蔵本文子
1963(6)	市岡市	小宮好雄(トヨタ自動車)	小宮好雄(トヨタ自動車) 板垣善憲	横山満子(帝国石油)	横井文子(琴平電鉄) 森久子	星野忠男(電電東京) 有木トミ子
1964(7)	大宮市	宮永武司(明治生命)	宮永武司(明治生命) 堺栄一 河崎ラケット	高木紀子(岐阜)	高木紀子(岐阜) 天野博江	星野忠男(電電東京) 有木トミ子
1965(8)	武生市	宮永武司(明治生命)	宮永武司(明治生命) 堺栄一 河崎ラケット	高木紀子(岐阜)	高木紀子(岐阜) 天野博江	板垣善憲(トヨタ自動車) 粂田順子
1966(9)	長崎市	秋山真男(ヨネヤマラケット)	岡崎恵三(甲府市役所) 秋山真男 ヨネヤマラケット	近藤光枝(大阪)	近藤光枝(大阪) 才脇妙子	板垣善憲(トヨタ自動車) 粂田順子
1967(10)	釜石市	板垣善憲(トヨタ自動車)	小宮好雄(トヨタ自動車) 板垣善憲	高木紀子(岐阜)	高木紀子(岐阜) 天野博江	板垣善憲(トヨタ自動車) 太田節子
1968(11)	和歌山市	小島一平(ヨネヤマラケット)	堺栄一(河崎ラケット) 西野一征	高橋とも子(北辰電機)	高木紀子(岐阜) 天野博江	鈴木幸男(電電東京) 有木トミ子
1969(12)	鹿児島市	小島一平(ヨネヤマラケット)	堺栄一(河崎ラケット) 関一誠 早大職員	裕恵美子(富山市役所)	上野明美(トヨタ自動車) 太田節子	安沢武司(トヨタ自動車) 金子美和子
1970(13)	千葉市	小島一平(ヨネヤマラケット)	堺栄一(河崎ラケット) 関一誠 早大職員	竹中悦子(ヨネヤマラケット)	竹中悦子(ヨネヤマラケット) 相沢マチ子	堺栄一(河崎ラケット) 天野博江 岐阜
1971(14)	甲府市	秋山真男(山梨)	本間順次(トヨタ自工) 松島保	高木紀子(弘文堂)	高木紀子(弘文堂) 湯木博恵 河崎ラケット	堺栄一(河崎ラケット) 天野博江 岐阜
1972(15)	四日市市	秋山真男(山梨)	宮川秀樹(東京都) 関一誠	中山紀子(弘文堂)	中山紀子(弘文堂) 湯木博恵 河崎ラケット	堺栄一(河崎ラケット) 天野博江 岐阜
1973(16)	佐賀市	小島一平(ヨネヤマラケット)	今泉勉(高岡市役所) 牧野光男	湯木博恵(河崎ラケット)	湯木博恵(河崎ラケット) 柴山きよ子	堺栄一(河崎ラケット) 天野博江 岐阜
1974(17)	浪岡市	今泉勉(高岡市役所)	池田信孝(電電東京) 尾崎幹雄	湯木博恵(河崎ラケット)	湯木博恵(河崎ラケット) 池田美加	今井茂満(河崎ラケット) 池田美加
1975(18)	中野市	小島一平(神奈川)	栂野尾昌一(ヨネックス) 飯野佳孝	湯木博恵(河崎ラケット)	湯木博恵(河崎ラケット) 池田美加	今井茂満(河崎ラケット) 池田美加
1976(19)	宮崎市	銭谷欽治(河崎ラケット)	今泉勉(高岡市役所) 牧野光男	湯木博恵(河崎ラケット)	栂野尾悦子(ヨネックス) 古谷成代	栂野尾昌一(ヨネックス) 栂野尾悦子

2．過去の栄冠　　全日本社会人バドミントン選手権大会

開催年(回数)	開催地	一般男子単優勝	一般男子複優勝	一般女子単優勝	一般女子複優勝	混合複優勝
1977(20)	真岡市	土田証雄(電電東京)	梶野尾昌一(ヨネックス) 飯野佳孝	湯木博恵(河崎ラケット)	徳田敦子(サントリー) 高田幹子	池田信孝(電電東京) 池田茂子
1978(21)	大津市	長谷川進(石川)	今泉勉(高岡市役所) 牧野光男	湯木博恵(河崎ラケット)	米倉よし子(電電東京) 植野恵美子(ヨネックス)	日下昇(百十四銀行) 牛田真由美
1979(22)	松江市	銭谷欽治(河崎ラケット)	池田信孝(電電東京) 尾崎幹雄	湯木博恵(河崎ラケット)	土田美加(東京) 原田美智子	土田証雄(電電東京) 土田美加(東京)
1980(23)	桐生市	銭谷欽治(河崎ラケット)	梶野尾昌一(ヨネックス) 飯野佳孝	近藤小織(河崎ラケット)	米倉よし子(電電東京) 徳田敦子(サントリー)	森下一夫(サントリー) 谷美津代
1981(24)	登別市	土田証雄(電電東京)	土田証雄(電電東京) 宮森庄吉	湯木博恵(カワサキラケット)	米倉よし子(電電東京) 三田知佳子	宮森庄吉(電電東京) 三田知佳子
1982(25)	桐生市	長谷川博幸(ヨネックス)	土田証雄(電電東京) 宮森庄吉	北田スミ子(三洋電機)	米倉よし子(東京) 徳田敦子(電電東京)	鈴木裕(新潟) 関根和子
1983(26)	田原本町	銭谷欽治(カワサキラケット)	土田証雄(電電東京) 宮森庄吉	北田スミ子(三洋電機)	米倉よし子(東京) 徳田敦子(電電東京)	梶野尾昌一(ヨネックス) 梶野尾悦子
1984(27)	大栄市	西山博司(電電東京)	長谷川博幸(ヨネックス) 宮本幸弘	北田スミ子(三洋電機)	米倉よし子(東京) 徳田敦子(NTT東京)	工士恭司(熊本) 陣内貴美子
1985(28)	甲府市	西山博司(NTT東京)	長谷川博幸(ヨネックス) 宮本幸弘	米倉よし子(電電東京)	米倉よし子(東京) 徳田敦子(NTT東京)	谷田尚嗣(大阪) 高峯和子(サントリー)
1986(29)	糸満市	井上哲章(東京)	西山博司(NTT東京) 松浦進二(ヨネックス)	北田スミ子(三洋電機)	米倉よし子(東京) 徳田敦子(NTT東京)	谷田尚嗣(大阪) 高峯和子(サントリー)
1987(30)	長岡京市	松野修二(NTT東京)	松浦進二(フジチュー) 松野修二(NTT東京)	北田スミ子(三洋電機)	北田スミ子(三洋電機) 小泉陽子	鈴木裕(新潟) 月岡広美
1988(31)	登別市	西山博司(NTT東京)	西山博司(NTT東京) 井上哲章(ヨネックス)	鴻原春美(三洋電機)	陣内貴美子(ヨネックス) 森久子	宮康二(東京) 高峯尚子
1989(32)	筑紫野市	西山博司(NTT東京)	松浦進二(フジチュー) 松野修二(NTT東京)	小池由扶子(サントリー)	陣内貴美子(ヨネックス) 森久子	谷田尚嗣(大阪) 廣田時子(サントリー)
1990(33)	美川町	江藤裕司(NTT東京)	松浦進二(フジチュー) 松野修二(NTT東京)	金井和恵(サントリー)	陣内貴美子(ヨネックス) 森久子	村山友二(NTT関西) 今村薫(三洋電機)
1991(34)	新庄市	江藤裕樹(NTT東京)	松浦進二(フジチュー) 松野修二(NTT東京)	谷地春子(サントリー)	田児よし子(NTT東京) 鴻原春美(尚美学園)	
1992(35)	坂出市	町田文彦(NTT東京)	松浦進二(フジチュー) 松野修二(NTT東京)	宮村愛子(サントリー)	宮村愛子(サントリー) 松田治子	
1933(36)	大府市	町田文彦(NTT東京)	町田文彦(NTT東京) 宮康二	金井和恵(サントリー)	田村富士美(ヨネックス) 岩田良子	
1994(37)	白河市	須賀隆弘(NTT東京)	久保田雄三(東京) 片山卓哉	井田貴子(三洋電機)	宮村愛子(サントリー) 宮村亜貴子	
1995(38)	三原市	須賀隆弘(NTT東京)	宮康二(NTT東京) 高橋英治	水井妃佐子(フジチュー)	宮村愛子(サントリー) 宮村亜貴子	吉武裕史(吉武歯科医院) 田村富士美

(注) 第1回～第5回までは全日本実業団大会と併催開催

2．過去の栄冠　バドミントン日本リーグ大会

男子の部

回数	年度	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
1	昭和54年	ヨネックス	電電東京	全日本学生	カワサキ	高岡市役所	―		
2	55	電電東京	ヨネックス	高岡市役所	全日本学生	カワサキ	電電北海道		
3	56	電電東京	全日本大	高岡市役所	カワサキ	電電北海道	ヨネックス		
4	57	電電東京	ヨネックス	高岡市役所	全日体大	カワサキ	電電北海道		
5	58	ヨネックス	電電東京	高岡市役所	電電北海道	カワサキ	電電近畿		
6	59	電電東京	ヨネックス	高岡市役所	トヨタ自動車	電電近畿	電電北海道		
7	60	NTT東京	ヨネックス	NTT北海道	トヨタ自動車	NTT関西	高岡市役所		
8	61	ヨネックス	NTT東京	NTT北海道	トヨタ自動車	NTT関西	高岡市役所		
9	62	NTT東京	ヨネックス	トヨタ自動車	NTT関西	NTT北海道	高岡市役所		
10	63	NTT東京	トヨタ自動車	NTT関西	NTT北海道	日本電装	高岡市役所		
11	平成元年	NTT東京	NTT関西	NTT北海道	トヨタ自動車	NTT東北	日本電装		
12	2	NTT東京	NTT北海道	NTT関西	トナミ運輸	日本電装	北國銀行	トヨタ自動車	ジャトコ
13	3	NTT東京	トナミ運輸	NTT関西	北國銀行	トナミ運輸	日本電装	NTT北海道	NTT東北
14	4	NTT東京	NTT関西	トナミ運輸	日本ユニシス	NTT北海道	トヨタ自動車	日本電装	北國銀行
15	5	NTT東京	トナミ運輸	NTT関西	日本ユニシス	NTT東北	NTT北海道	日本電装	トヨタ自動車
バドミントン日本リーグ'94		NTT東京	NTT関西	トナミ運輸	日本ユニシス	NTT北海道	NTT東北	ベスト電器	日本電装
バドミントン日本リーグ'95		NTT東京	日本ユニシス	YKK九州	ベスト電器	NTT東北	トナミ運輸	NTT北海道	NTT関西

女子の部

回数	年度	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
1	昭和54年	サントリー	ヨネックス	カワサキ	全日本学生	日本電装	―――		
2	55	カワサキ	サントリー	ヨネックス	三洋電機	全日本学生	日本電装		
3	56	サントリー	ヨネックス	三洋電機	カワサキ	日本電装	全日体大		
4	57	サントリー	三洋電機	ヨネックス	全日体大	カワサキ	日本電装		
5	58	サントリー	ヨネックス	三洋電機	日本電装	日本楽器	カワサキ		
6	59	サントリー	三洋電機	ヨネックス	日本電装	日本楽器	トヨタ自動車		
7	60	サントリー	三洋電機	ヨネックス	日本電装	三協アルミ	日本楽器		
8	61	三洋電機	三協アルミ	NTT東京	サントリー	ヨネックス	日本電装		
9	62	ヨネックス	三洋電機	NTT東京	サントリー	三協アルミ	日本電装		
10	63	ヨネックス	三洋電機	サントリー	ヤマハ	三協アルミ	日本電装		
11	平成元年	サントリー	三洋電機	ヨネックス	三協アルミ	ヤマハ	NTT東京		
12	2	三洋電機	サントリー	ヨネックス	ヤマハ	九州日本電気	三協アルミ	NTT東京	ベスト電器
13	3	サントリー	ヨネックス	NTT東京	ヤマハ	三洋電機	三協アルミ	九州日本電気	ベスト電器
14	4	サントリー	三協アルミ	NEC九州	ヤマハ	NTT東京	三洋電機	ヨネックス	NEC相模原
15	5	サントリー	三洋電機	NTT東京	ヤマハ	NEC九州	ヨネックス	三協アルミ	NEC
バドミントン日本リーグ'94		サントリー	三協アルミ	三洋電機	ヤマハ	NTT東京	NEC九州	ヨネックス	ベスト電器
バドミントン日本リーグ'95		三洋電機	三協アルミ	サントリー	NEC九州	ベスト電器	NTT東京	三菱電機	ヨネックス

2．過去の栄冠　全日本実業団対全日本学生バドミントン団体対抗戦

第1回大会　開催日　昭和48年4月8日
会　場　東京都千代田体育館

	順位	チーム名	代表者	監督	マネージャー	選手
男子の部	優勝	電電東京	諸星三代治	鈴木幸春	豊島光男	鈴木健二 池田信孝 町田秀和 小林一行 小林敏行 田所光男 浜谷安裕
	2位	トヨタ自工	深津　豊	堀　幸矩		本間順次 松島　保 谷口　寛 松島信之 松井宏司
	3位	河崎ラケット	河崎吉太郎	堺　栄一		落合孝之 平井克英 堺　栄一 宮川秀樹 佐々木寿男 角田重男 今井茂満
	3位	高岡市役所	開　博	中山邦夫	中山邦夫	河村博之 今泉　勉 関村順治 牧野光男 宮林照男 京田和男 中山邦夫
女子の部	優勝	日本体育大学	清水正一	関根義雄	加藤房子	北島稔子 陣内裕子 秋本八代美 西尾真理子 谷　美津代 佐伯智子 古谷成代
	2位	ヨネックススポーツ	米山広作	富橋未治	篠田賢吾	竹中悦子 相沢マチ子 我妻たき子 佐久間雅子 大江京子 岩淵順子
	3位	青山学院大学	相馬武美	山崎道男	小野敬子	漆畑ひとみ 鈴木千鶴子 白瑕里子 松村香澄 稲垣和美 高橋真知子 坂本真紀子
	3位	東京女子体育大学	名和和子	高島　稔	外崎秀子	名和和子 清水良子 外崎秀子 木村千恵子 藤井陽子 矢口洋子 長谷川信江

第2回大会　開催日　昭和49年4月7日
会　場　東京都板橋区立体育館

	順位	チーム名	代表者	監督	マネージャー	選手
男子の部	優勝	高岡市役所	開　博	中山邦夫		河村博之 今泉　勉 関村順治 牧野光男 宮林照男 京田和男
	2位	中央大学		斉藤　斉	横田泰徳	銭谷欽治 日下　昇 横田泰徳 山本茂樹 大場和博 中原敏和 三ノ宮芳和
	3位	電電東京	諸星三代治	鈴木健二	豊島光男	池田信孝 町田秀和 小林一行 小林敏行 田所光男 浜谷安裕 尾崎幹雄
	3位	河崎ラケット	河崎吉太郎	堺　栄一	松浦一郎	落合孝之 平井克英 今井茂満 堺　栄一 角田重男 川辺芳男 菅原弘貴
女子の部	優勝	日本体育大学	長田一臣	関根義雄	山本恭子	山森明美 陣内裕子 秋本八代美 佐伯智子 西尾真理子 古谷成行 服部直子
	2位	ヨネックススポーツ	米山広作	栂野尾昌一	佐藤むつ子	竹中悦子 相沢マチ子 我妻たき子 佐久間雅子 大江京子 山口久美子 榎本紀子
	3位	電電東京	諸星三代治	鈴木健二	豊島光男	石崎茂子 小笠原泰子 今田真知子 坂口千恵子 清水礼子 福原友子 伊藤ひろ子
	3位	日本女子体育大学	中島　花	今井　先	小林恵子	石田雅子 吉川孝子 樋口智子 鈴木真知子 千葉陽子 松田敦子

2．過去の栄冠　　全日本実業団対全日本学生バドミントン団体対抗戦

第3回大会　開催日　昭和50年4月13日
会　場　駒沢オリンピック公園体育館

	順位	チーム名	代表者	監督	マネージャー	選手
男子の部	優勝	電電東京	諸星三代治	鈴木健二	上野幸一	池田信孝　田所光男　浜谷安裕　尾崎幹雄 小林一行　小林敏行　野本綱夫　田児淳一
	2位	高岡市役所	開　博	中山邦夫	中山邦夫	河村博之　今泉　勉　関村順治　牧野光男 米原照男　米沢和男
	3位	法政大学	吉川　哲	鈴木　隆	木下元則	下田春樹　米山正和　菊地孝則　中井基夫 辻　敏弘　原　敏夫　佐藤信一
	3位	電電北海道	福田整司	伊勢　武	中瀬幸記	木村敏男　赤塚正三　平山三城　古川孝行 遠藤好男　九原正敏　佐藤義孝
女子の部	優勝	日本女子体育大学	中島　花	今井　先	平野やす江	林　寿美子　桝谷美智子　千葉陽子　松田敦子 近藤小織　渡辺多喜子
	2位	日本体育大学	長田一臣	関根義雄	大塚清恵	佐伯智子　谷　美津代　服部直子　古谷成代 高瀬治子　松田美恵子　井上昌子
	3位	青山学院大学	柿沢智恵子	斉藤　伸	柿沢智恵子	白玖里子　松村香澄　稲垣和美　鈴木紀代 坂本真紀子　橋本直子　門脇ルリ子
	3位	電電東京	諸星三代治	鈴木健二	上野幸一	石崎茂子　今田真知子　坂口千恵子　清水礼子 福原友子　菅原より子　伊藤ひろ子

第4回大会　開催日　昭和51年4月28日
会　場　東京都板橋区立体育館

	順位	チーム名	代表者	監督	マネージャー	選手
男子の部	優勝	電電東京	本間　弘	鈴木健二	上野幸一	池田信孝　田所光男　尾崎幹雄　野本綱夫 田児淳一　町田秀和　土田証雄
	2位	高岡市役所	開　博	中山邦夫		河村博之　今泉　勉　関村順治　牧野光男 米原照男　米沢和男
	3位	中央大学	服部正夫	杉山和彦	栗　英剛	三ノ宮芳和　秋葉　博　西村正美　坂井　孝 長谷川博幸　米山孝二　吉岡伸浩
	3位	法政大学	古川　哲	鈴木　隆	工藤重広	中井基夫　原　敏夫　辻　敏弘　後藤純一 仲尾信一　佐藤重好　井上健二
女子の部	優勝	日本女子体育大学	中島　花	今井　先	村田嘉江	千葉陽子　松田敦子　村田嘉江　大場三弥子 近藤小織　渡辺多喜子　原田美智子
	2位	四条畷学園女子短期大学	黒田公子	片岡輝明	小川美富	高田幹子　辻　かおる　落合光子　広瀬純子 植野恵美子　佐藤真弓
	3位	日本体育大学	清水正一	関根義雄	川崎典子	高瀬治子　松田美恵子　石井由美子　石田尚子 日山裕子　関根和子　大塚ソノエ
	3位	河崎ラケット	福井正康	堺　栄一	松浦一郎	湯木博恵　池田美加　宇都裕子　松谷京子 渡辺みゆき　堀江厚子　安味節子

2．過去の栄冠　　全日本実業団対全日本学生バドミントン団体対抗戦

第5回大会　開催日　昭和52年1月29日
会　場　国立競技場代々木第二体育館

	順位	チーム名	代表者	監督	マネージャー	選手
男子の部	優勝	電電東京	本間　弘	鈴木健二	上野幸一	池田信孝　田所光男　町田秀和　野本綱夫 田児淳一　尾崎幹雄　土田証雄
	2位	ヨネックススポーツ	米山広作	栂野尾昌一	村西清文	栂野尾昌一　飯野佳孝　西村龍夫　大場和博 村西清文　西村　修　佐藤竜典
	3位	法政大学	古川　哲	鈴木　隆	井上健二	仲尾信一　佐藤重好　井上健二　冨田章夫 酒井直人　宮森庄吉　毛利智成
	3位	高岡市役所	開　博	中山邦夫		河村博之　今泉　勉　関村順治　牧野光男 米原照男　米沢和男
女子の部	優勝	四條畷学園女子短大	片岡輝明	片岡輝明	宮下久栄	高田幹子　落合みつ子　辻　かおる　広瀬純子 植野恵美子　佐藤真弓
	2位	河崎ラケット	福井正康	堺　栄一	松浦一郎	湯木博恵　池田美加　渡辺みゆき　安味節子 松谷京子　堀江厚子
	3位	サントリー	斉藤良美	山本次生	今西貴美代	西尾真理子　秋本八代美　谷　美津子　秋本幸子 徳田敦子
	3位	ヨネックススポーツ	米山広作	栂野尾悦子	高谷陽子	栂野尾悦子　我妻たき子　陣内裕子　今田トシ子 高谷陽子　及川悦子　伊能悦子



全日本実業団バドミントン

四条畷短大が制覇

男子は電々東京が三連勝

第五回全日本実業団・学生バドミントン選抜大会（同実業団バドミントン連盟、毎日新聞社主催）最終日は三十日、東京・代々木体育館別館で男女の決勝までが行われた。

女子は実業団大会一位のサントリーが快勝で敗退、学生と実業団の代表で決勝が争われ、四条畷短大が河崎ラケットを3―1で破って優勝した。男子は電電東京がヨネックスをくだし三年連続四回目の優勝をとげた。

▽女子団決勝

河崎ラケット　3（復―――2　単2―1）1　四条畷短大

四条畷短大　3（復2―0　単1―0）0　サントリー

▽団決勝

電電東京　3（復2―0　単2―0）0　法政大

ヨネックス　3（復2―0　単2―1）2　高岡市役所

▽四決勝

電電東京　3（復2―0　単1―0）0　ヨネックス

前部二回戦を迎えようとするサントリー女子が、団決勝で四条畷短大にストレートで破れたのは予想外だった。外観、協力の立場にある同チームだけに、勝敗を決めなければならない団命の場では、お互いに戦いにくかった面もあったろうが、急成長をにらり注目されているサントリーチームの底力と、今後の活躍を大いに期待したいものだ。

四条畷短大が、まとまったチームプレイで、強豪河崎ラケットチームを下して初優勝をかざったことは、あっぱれな団体である。

代々東京男子が、ダブルス戦に強い法大を難なく撃破し、決勝ではヨネックスを文句なく抑えて三年連続四回目という輝かしい成績をおさめたことは、代々ならではの強さぶりを如実に示したといえよう。

（写真は、代々東京の池田男子）

昭和52年2月5日新日本スポーツより

2．過去の栄冠　　トマス杯・ユーバー杯権大会

トマス杯過去の成績と日本代表選手

回数	開催年	優勝国	日本成績	開催国	日本代表選手
1	1949	マレーシア	不参加	イギリス	
2	1952	マレーシア	不参加	シンガポール	
3	1955	マレーシア	予選敗退	シンガポール	岡　道明　望月文雄　武田一徳　上田益弘　杉田　博　佐藤芳朗
4	1958	インドネシア	途中棄権	シンガポール	片石兼敏　永井栄一　佐藤芳朗　越川　啓
5	1961	インドネシア	不参加	インドネシア	
6	1964	インドネシア	本選出場	日　本	小宮好雄　板垣善寛　永井栄一　堺　栄一　宮永武司
7	1967	マレーシア	3位入賞	インドネシア	堺　栄一　宮永武司　秋山真男　安沢武司　小島一平　森　芳夫
8	1970	インドネシア	予選敗退	マレーシア	堺　栄一　秋山真男　小島一平　西野一征　栂野尾昌一　本間順次
9	1973	インドネシア	予選敗退	インドネシア	秋山真男　小島一平　栂野尾昌一　本間順次　今泉　勉　池田信孝
10	1976	インドネシア	予選敗退	タ　イ	小島一平　池田信孝　栂野尾昌一　本間順次　飯野佳孝　土田証雄　銭谷欽治
11	1979	インドネシア	3位入賞	インドネシア	銭谷欽治　土田証雄　尾崎幹雄　辻　敏弘　飯野佳孝　長谷川博幸
12	1982	中　国	本選出場	イギリス	銭谷欽治　土田証雄　辻　敏弘　宮森庄吉　長谷川博幸
13	1984	インドネシア	本選出場	マレーシア	長谷川博幸　宮森庄吉　西山博司　井上哲章　松野修二　松浦進二
14	1986	中　国	予選敗退	インドネシア	宮森庄吉　西山博司　井上哲章　松野修二　松浦進二
15	1968	中　国	予選敗退	マレーシア	西山博司　柳谷辰哉　江藤裕樹　井上哲章　松野修二　松浦進二
16	1990	中　国	本選出場	日　本	松野修二　松浦進二　江藤裕樹　町田文彦　宮　康二
17	1992	マレーシア	予選敗退	マレーシア	松野修二　松浦進二　江藤裕樹　町田文彦　片山卓哉　宮　康二　久保田雄三　本山秀昭
18	1994	インドネシア	予選敗退	インドネシア	松野修二　松浦進二　町田文彦　須賀隆弘　片山卓哉　久保田雄三　本田和裕
19	1996		予選敗退	香　港	

●第7回大会まではチャレンジラウンド制(挑戦国を決めてからチャンピオン国と対戦)。第12回大会までは3年おきに開催、第13回大会から2年おきにユーバー杯と同時開催。

ユーバー杯過去の成績と日本代表選手

回数	開催年	優勝国	日本成績	開催国	日本代表選手
1	1957	アメリカ	不参加	イギリス	
2	1960	アメリカ	不参加	アメリカ	
3	1963	アメリカ	不参加	アメリカ	
4	1966	日　本	優勝	ニュージーランド	高木紀子　天野博江　横山満子　高橋とも子　横井文子　後藤和子
5	1969	日　本	優勝	日　本	高木紀子　天野博江　高橋とも子　湯木博江　浦口恵子　相沢マチ子　竹中悦子　後藤和子　本間恵美子
6	1972	日　本	優勝	日　本	中山(高木)紀子　湯木博江　竹中悦子　相沢マチ子　高坂　薫　柴山きよ子　高崎弘子　石崎茂子
7	1975	インドネシア	準優勝	インドネシア	湯木博恵　相沢マチ子　竹中悦子　池田美加　塩崎睦子　西尾真理子　秋本八代美　徳田敦子
8	1978	日　本	優勝	ニュージーランド	湯木博恵　徳田敦子　近藤小織　高田幹子　植野恵美子　米倉よし子
9	1981	日　本	優勝	日　本	徳田敦子　近藤小織　高田幹子　米倉よし子　東海林文子　北田スミ子　大塚ソノ江　高峯和子　陣内貴美子
10	1984	中　国	本選出場	マレーシア	徳田敦子　河本(近藤)小織　高田幹子　米倉よし子　東海林文子　北田スミ子
11	1986	中　国	4位	インドネシア	北田スミ子　陣内貴美子　米倉よし子　鴻原春美　高峯和子　星　和枝
12	1988	中　国	4位	マレーシア	北田スミ子　高峯尚子　陣内貴美子　小泉陽子　北本久美子　野口英代
13	1990	中　国	3位	日　本	宮村愛子　金井和恵　鴻原春美　陣内貴美子　水井妃佐子　松尾知美　森　久子　捧　匡子
14	1992	中　国	本選出場	マレーシア	水井妃佐子　宮村愛子　鴻原春美　陣内貴美子　森　久子　松尾知美　捧　匡子
15	1994	インドネシア	本選出場	インドネシア	廣田時子　小池由扶子　水井妃佐子　水井泰子　松尾知美　捧　匡子　佐々木忍　井田貴子
16	1996			香　港	

●第5回大会までチャレンジラウンド制。第10回大会までは3年おきに開催、以後は2年おきにトマス杯と同時開催。

日本実業団バドミントン連盟
諸規定

1.日本実業団バドミントン連盟規定
2.（財）日本バドミントン協会規定

1．日本実業団バドミントン連盟規定（昭和36年～平成８年）

注）本規約は昭和36年に制定され
平成８年まで施行された
平成９年からは新規定となる

日本実業団バドミントン連盟規約

第１章　名称・組織・本部

（旅費の内容）

第１条　本連盟は、日本実業団バドミントン連盟と称する。
第２条　本連盟は、各都道府県実業団バドミントン連盟（以下支部連盟と称する）をもって組織する。
第３条　本連盟は、本部を東京都新宿区西新宿７丁目22番37　ストーク西新宿福星401号に置く。
第４条　本連盟は、全日本実業団のバドミントン競技の総括団体として、財団法人日本バドミントン協会に加盟する。

第２章　目的・事業

第５条　本連盟は、日本に於けるバドミントン競技の育成発達を図り、併せて実業団の親睦融和を図ることをもって目的とする。
第６条　本連盟は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
１．競技の指導、普及。
２．全日本実業団選手権大会、その他の競技会の開催。
３．その他本連盟の目的を達成するに必要な事項。

第３章　加盟・脱退

第７条　本連盟に加盟しようとする支部連盟及び団体は、別に定める分担金、登録金を添え別紙様式により申請するものとする。
加盟団体が次の場合にあたるときは、会長は理事会の議を経て退会させることが出来る。
１．アマチュアでなくなったとき。
２．本連盟の秩序を乱したとき。
３．故なく分担金・登録金を滞納したとき。

第４章　役員

第８条　本連盟に次の役員を置く。
会　長　１名
副会長　若干名
理　事　若干名
監　事　３名
理事の内１名を理事長、若干名を常務理事とする。
第９条　会長は、総会に於いて推薦し、本連盟を代表し会務を総括する。
第10条　副会長は総会に於いて推薦し、会長はこれを委嘱する。
副会長は会長を補佐し、会長に故ある時はその職務を代行する。
第11条　理事長及び常務理事は、理事が互選し会長がこれを委嘱する。
理事長は、会長の指示を受け会務を執行し、常務理事は常務理事会を組織し理事長を補佐する。
理事長は、必要に応じ常務理事の内より、副理事長及び事務局長を置くことが出来る。
第12条　理事は、別に定めるところにより選出する。
理事及び監事は、総会に於いて承認し、会長がこれを委嘱する。
理事は、理事会に於いて会務にあたる。
監事は、本連盟の財務を監査する。
理事及び監事は、代議員を兼ねることが出来ない。
第13条　代議員は、支部連盟を代表し総会に於いて重要事項の審議にあたる。
代議員は、別に定めるところにより支部連盟から選出する。
第14条　本連盟は、必要に応じ総会の議を経て名誉顧問及び参与を置くことが出来る。
顧問及び参与は会長の諮問に応ずる。

1．日本実業団バドミントン連盟規定（昭和36年～平成8年）

第15条　役員の任期は2カ年とし、再選を妨げない。
補充役員の任期は前任者の残任期間とする。

第5章　会議

第16条　総会は、定期総会及び臨時総会とする。
総会は、会長・副会長・理事長・常務理事・理事及び代議員を以て構成する。
定期総会は毎年1回開き、臨時総会は会長が必要と認めた時又は構成員の3分の1以上の請求があった時臨時に開く。
第17条　定期総会では、次の事項を決定する。
1．事業並びに収支決算報告の承認に関する事項。
2．予算編成並びに事業計画に関する事項。
3．規約の改正に関する事項。
4．役員の選任に関する事項。
5．重要な財産の処分又は重大な義務の負担に関する事項。
6．その他理事会に於いて総会に付する事を適当と認めた事項。
第18条　総会は、会長がこれを招集する。
第19条　総会の議長は、会長がこれにあたり、会長不在のときは出席した構成員の中から選任する。
議長は、総会の秩序を保持し議事を整理する。
第20条　総会は、構成員（委任を含む）の半数以上が出席しなければ開くことが出来ない。
総会に於ける議決権は、出席した構成員（委任を含む）に付き各1個とし、議事はその過半数を以て決する。
可否同数の場合は議長の決するところによる。
第21条　理事会は会長、副会長、理事長、常務理事及び理事を以て組織し、その議事は出席した役員の過半数を以て決する。
可否同数の場合は、理事長の決するところによる。
理事会は、理事長これを招集し総会から委任された事項を審議運営する。
常務理事会は会長、副会長、理事長及び常務理事を以て組織し、その他は規約の理事会に同じ。

第6章　経費・会計

第22条　本連盟会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日を以て終わる。
本連盟の経費は、支部連盟・加盟団体の分担金、登録金及び寄附金、補助金、その他の収入でこれにあてる。
第23条　本連盟の会費（分担金及び登録金）は、総会の議を経て別に定める。

第7章　雑則

第24条　この規約の改正は、構成員の3分の2以上が出席した総会に於ける、過半数の賛成を以て議決しなければならない。

付　則

1．この規約は、昭和36年7月25日から施行する。
2．この規約に定めのない事項については、規約細則及び理事会の議を経て決定する。
3．この規約の一部を改正し、昭和38年6月4日から施行する。
4．この規約の一部を改正し、昭和49年6月25日から施行する。
5．この規約の一部を改正し、昭和56年4月1日から施行する。
6．この規約の一部を改正し、昭和57年6月16日から施行する。
7．この規約の一部を改正し、平成元年6月14日から施行する。

1．日本実業団バドミントン連盟規定（昭和36年～平成８年）

日本実業団バドミントン連盟規約細則

（平成元年６月14日　於　岡山）

1．　分担金は、１支部（各都道府県連盟）当たり、年額　20,000円とし、登録料は、加盟団体１事業所年額　4,000円とする。

2．　理事は、北海道・東北・北信越・関東・京浜・東海・近畿・中国・四国・九州の各ブロックより１名、及び加盟支部の事業所が20増すごとに加盟支部より１名選出する。
　なお、学識経験者を含む会長推薦理事は、前記選出理事総数の３分の１以内とする。

3．　代議員は、１支部当たり１名とし、加盟支部の事業所が20増すごとに、１名追加とする。

4．　事務局員若干名を会長が推薦し、連盟の事務を行う。

5．　選手の移籍については、その相互事業所の代表者の承認を要し、もしいずれかの代表の承認が得られぬ場合は、その選手は２年間出場停止とする。

6．　全日本実業団バドミントン選手権大会

(1)　各都道府県代表出場とする。

ア．　各都道府県代表数は、男女各々１チームまでとし、その加盟支部の事業所数が７事業所増すごとに男女各々１チームの追加出場を認める。

イ．　各都道府県の選出は、各加盟支部で行う。

ウ．　前年度大会５位（ベスト８）までのチームは、本連盟の推薦出場とする。

エ．　開催県の出場チーム数は、別途考慮する。（常務理事会）

(2)　男子、女子団体戦は２複３単としチーム編成は、選手４名以上８名以内とする。

(3)　開催期は、毎年６月下旬を原則とする。

(4)　出場割当数は、その大会の前年度の12月31日現在の登録数により算出する。

(5)　次の各項に該当するものは出場できない。

ア．　臨時雇員（アルバイト等）

イ．　学生生徒（夜学生生徒を除く）
　但し、夜学生については全日本学生バドミントン連盟会員、及び会員であった者のうち、引き続き学生であるもの。

ウ．　日本における在住期間が２年に満たない、日本国籍以外（外国人）の選手。

(6)　組合せは公開抽選で行う。
但し、前年度大会ベスト16位まではシードチームとし、別途抽選を行う。
なお、ベスト８位までは常務理事会で決定する。

1．日本実業団バドミントン連盟規定（平成9年より施行）

注）本規約は平成8年7月3日総会（東京）にて
改正承認され、平成9年より施行される

日本実業団バドミントン連盟規定

第1章　総　　則

第1条　本連盟の名称は、日本実業団バドミントン連盟と称する。
第2条　本連盟の組織は、各都道府県実業団バドミントン連盟（以下支部連盟と称する）をもって組織する。
第3条　本連盟は、本部を東京都新宿区西新宿7丁目22番地37　ストーク西新宿福星401号に置く。

第2章　目的及び事業

第4条　本連盟は、日本に於けるバドミントン競技の育成発展を図り、併せて実業団の親睦融和を図ることをもって目的とする。
第5条　本連盟は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
1．財団法人日本バドミントン協会への加盟
2．全日本実業団選手権大会、その他の競技会の開催。
3．競技の普及及び指導。
4．その他本連盟の目的を達成するに必要な事項

第3章　登　　録

第6条　本連盟に登録しようとする支部連盟は、別に定める登録規定により申請するものとする。

第4章　役員及び事務局員

第7条　本連盟は、次の役員を置く。
1．会　長　　1　名
2．副会長　　若干名
3．理　事　　若干名
4．監　事　　2　名
第8条　本連盟は、前条の役員の他に、顧問及び参与等を置くことができる。
第9条　第7条及び第8条の役員等の選出方法は、別に定められた役員選出規定による。
第10条　本連盟の役員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
1．補欠により選任された役員の任期は、前任者の残任期間とする。
2．役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまで引き続いて、その職務を行う。
第11条　会長は、本連盟の業務を総理し、本連盟を代表する。
第12条　副会長は、会長を補佐し、会長事故あるとき、その任務を代理し、又その職務を処理する。
第13条　理事長は、理事が互選し、会長がこれを委嘱する。
理事長は、会長及び副会長を補佐し、総会の議決に基づき、本連盟の業務を処理する。
第14条　理事長より選任された副理事長は、理事長事故あるとき、又は欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序により副理事長がその職務を代行する。
第15条　理事は、理事会を組織し、総会から委任された事項及び第5条に定められた事項の審議運営にあたる。
第16条　監事は、本連盟の業務及び財務に関し、次の業務にあたる。
1．本連盟の業務の執行を監査する。
2．業務の執行又は財務の状況について不備を発見したときは、これを理事会及び総会に報告し、改善を求める。
第17条　別に定められた役員選出規定により選任された代議員は、支部連盟を代表し、総会において重要事項の審議にあたる。なお、理事及び監事は、代議員を兼ねることができない。
第18条　顧問及び参与は、会長の諮問に応ずる。
第19条　別に定められた役員選出規定により選出された事務局員は、理事長の指定に従い、本連盟の事務を行う。

1．日本実業団バドミントン連盟規定（平成9年より施行）

第5章　会　　議

第20条　定期総会は、毎年1回開催し、会長がこれを招集構成員は、役員及び代議員とする。
ただし、構成員の3分の1以上が請求したときは、その請求があった日から1ヵ月以内に、臨時総会を開催しなければならない。

第21条　総会の議長は、会長がこれにあたり、会長不在のときは、出席した構成員の中から選任する。
議長は総会の秩序を保持し議事を運営する。

第22条　総会は、構成員の半数以上の出席（委任を含む）によって成立し、総会における議事は、出席者の過半数をもって決する。
ただし、可否同数の場合は、議長の決するところとする。

第23条　定期総会では、次の事項を決定する。
1．事業並びに収支決算報告の承認に関する事項
2．予算編成並びに事業計画に関する事項
3．規約の改正に関する事項
4．役員の選任に関する事項
5．重要な財産の処分又は重大な義務の負担に関する事項
6．その他理事会において総会に付する事を適当と認めた事項

第24条　理事会は、理事長がこれを招集する。
その議事は、出席者の過半数をもって決する。
ただし、可否同数の場合は、議長の決するところとする。
なお、構成員として、監事を加える事ができるが、議決権を持たないものとする。

第25条　専門委員長会議は、必要に応じ理事長がこれを招集する。

第26条　理事会及び専門委員長会議の議長は、理事長とする。

第6章　専門委員会

第27条　本連盟の業務遂行のため、次の専門委員会を設ける。
1．総務委員会
2．財務委員会
3．大会運営委員会

第28条　専門委員会は、理事で構成し、運営に関する事項を作成し、理事会の承認を得ること。
なお、専門委員長は、業務の遂行上必要とした場合、理事長の承認を得て、推薦委員を選出することができる。

第7章　資産及び会計

第29条　本連盟の資産は次のとおりとする。
1．支部連盟の分担金
2．登録料
3．事業に伴う収入
4．寄附金品
5．その他の収入

第30条　第7章の運営に関する事項は、総会の議を経て別に定める。

第31条　本連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第8章　補　　則

第32条　本連盟の事務所に、次の書類及び帳簿を備えなければならない。
1．規定及び規程等
2．役員名簿及び登録名簿

3．財産目録及び資産台帳
4．収入支出に関する帳簿及び証拠書類
5．総会及び理事会等の議事に関する書類
6．その他必要な書類及び帳簿

第33条　本連盟の書類等の保管期間は５年とし、その廃却の指示は理事長とする。

第９章　雑　　則

第34条　総会及び理事会の会議には議事録を作成し、議長及び出席者の代表２名以内が署名押印の上、これを保存する。

第35条　本規定の改廃は、総会の議決による。

付　則

1．この規定は、昭和36年７月25日から施行する。
2．この規定に定めない事項については、規定細則及び理事会の議を経て決定する。
3．この規定の一部を改正し、昭和38年６月４日から施行する。
4．この規定の一部を改正し、昭和49年６月25日から施行する。
5．この規定の一部を改正し、昭和56年４月１日から施行する。
6．この規定の一部を改正し、昭和57年６月16日から施行する。
7．この規定の一部を改正し、平成元年６月14日から施行する。
8．この規定の一部を改正し、平成９年４月１日から施行する。

1．日本実業団バドミントン連盟規定

日本実業団バドミントン連盟登録規程

第１条　日本実業団バドミントン連盟規定第３章第６条により本規程を定める。
第２条　本連盟に加盟をする支部連盟は、支部登録と事業所登録を行う。
第３条　登録は、「登録票」（様式１）、「支部連盟役員登録票」（様式２）、「事業所一覧表」（様式３）により、分担金、登録料を添えて行うこと。
第４条　分担金及び登録料は、総会の議を経た次のとおりとする。
(1)　分担金は、１支部年額20,000円とする。
(2)　登録料は、１事業所年額7,000円とする。
第５条　登録は、年度始めにこれを更新するものとする。
第６条　登録する支部連盟の事業所、同時に２つ以上の支部連盟から登録することはできない。
第７条　登録、又は変更登録は、本連盟に届けられたときをもって完了する。
第８条　加盟団体が、つぎの各号のいずれかに該当するときは、理事会及び総会の議を経て、会長がこれを除名することができる。
(1)　本連盟の規定に違反する行為があったとき。
(2)　財団法人日本バドミントン協会競技者資格規定に触れる行為があったとき。
(3)　刑法に抵触する行為があったとき。
(4)　虚偽の登録申請をしたとき。
(5)　故意に、分担金、登録料を滞納したとき。
第９条　本規程の改廃は、総会の決議による。

附　則
本規程は、平成９年４月１日より施行する。

日本実業団バドミントン連盟役員選出規程

第１条　日本実業団バドミントン連盟規定第４章第９条、第17条及び第19条により本規程を定める。
第２条　会長、副会長及び監事は、理事会にて候補を推薦し、総会において選任する。
第３条　理事は、北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州ブロックより各１名を選出し、「ブロック理事選出届」（様式４）に、また支部連盟の登録事業所数が50を越えた場合１名をその支部が選任し、「支部理事選出届」（様式５）を起票し本連盟に報告する。
ブロック理事、支部理事が任期中で交代する場合は、「変更届」（様式４または様式５）により届ける。
第４条　理事長は業務遂行上必要とした場合、推薦理事を選出することができる。なお、推薦理事数は前条理事数の３分の１以内とする。
第５条　代議員は、１支部１名とし、その支部が選任するとともに、「代議員選出届」（様式６）に記票し、本連盟に報告する。代議員が任期中で交代する場合は、「変更届」（様式６）により届ける。
第６条　ブロック理事、並びに支部理事・代議員等が任期中に変更ある場合は、「役員変更届」（様式６）を起票し、本連盟に報告する。
第７条　理事長は、業務の遂行上必要とする場合、事務局員を置くことができる。
第８条　顧問、参与の推薦は、理事会に委嘱する。
第９条　本規程の改廃は、総会の決議による。

附　則
本規程は、平成９年４月１日より施行する。

1．日本実業団バドミントン連盟規定

日本実業団バドミントン連盟旅費規程

(目　的)
第１条　本連盟の役員が、理事会等に出席する旅費の金額及び支給方法について定める。
(旅費の内容)
第２条　本規程により、支払う旅費の内訳は次のとおりとする。
(1)交通費（鉄道運賃、自動車賃、船舶運賃、航空運賃）
(2)宿泊費
(利用交通機関)
第３条　交通機関は、鉄道利用を原則とするが、鉄道路程が、４時間を越える場合は、支払った航空運賃とする。
第４条　交通費は、原則として本人の立て替え払いとし後に精算する。
(旅費の計算)
第５条　旅費の計算は次のとおりとする。
(1)　交通費は最短距離によって支払う。
(2)　鉄道運賃の計算は居住地の鉄道最最寄り駅より現地の鉄道最最寄り駅とする。
(3)　宿泊費は宿泊数により支払う。
(4)　会議の宿泊は、１泊を原則とするが、特別な理由（災害等）で理事長が認めた場合はこの限りではない。
(交通費・宿泊費)
第６条　交通費、宿泊費は次のとおり支払う。
(1)　交通費　：　実費を支払う。
(2)　宿泊費　：　１泊10,000円を支給する。ただし、大会期間中は指定された旅館に宿泊し、個人への宿泊費の支払いはしない。
第７条　本規程の改廃は、総会の議決による。
附　則
１．本規程は、平成３年６月12日より施行する。
２．この規程の一部を改正し、平成９年４月１日より施行する。

日本実業団バドミントン連盟表彰規程

第１条　表彰は、バドミントンの普及振興に功労のあったものに功労賞、技能等の優秀なものに技能賞を授与する。
第２条　功労賞を与える基準
(1)　全日本実業団バドミントン選手権大会に15回以上出場の団体、及び10回以上出場の監督、コーチ並びに選手
(2)　日本実業団バドミントン連盟の発展のために特に顕著な功績のあるもの
(3)　日本実業団バドミントン連盟の役員を歴任し、その功績が顕著なもの
(4)　バドミントンの技術、施設、用具その他バドミントンに関する改善、向上に特に功労のあったもの
(5)　その他理事会において認めたもの
第３条　技能賞を与える基準
全日本実業団バドミントン選手権大会において３年以上連続優勝した団体。
第４条　被表彰者の推薦及び選考
(1)功労賞：被表彰者の推薦は、所属各支部連盟の会長及び総務委員会とし、理事会及び総会で承認を得なければならない
(2)技能賞：被表彰団体は、総務委員会で推薦し、理事会及び総会で承認を得なければならない
第５条　功労賞は、被表彰者の所属支部連盟において「推薦書」（様式７）に記票し、本連盟に申請する。
第６条　表彰は、原則として毎年全日本実業団バドミントン選手権大会開会式の際に実施する。
第７条　日本リーグに関しては別に定める。
第８条　本規程の改廃は、総会の決議による。
附　則
１．本規程細則は、昭和59年２月25日より施行する。
２．この規程の一部を改正し、平成９年４月１日より施行する。

1．日本実業団バドミントン連盟規定

専門委員会業務分担表

総務委員会

登　　録	(1)　加盟支部連盟よりの登録受付に関すること (2)　登録名簿の作成並びに周知に関すること (3)　登録規程第９条(1)，(3)～(5)の処理に関すること
書　　記	(1)　各種会議開催に伴う会場確保並びに周知に関すること (2)　各種会議の議事録作成及び周知に関すること (3)　各種会議の記録（資料，議事録等）の維持管理に関する事
規定管理	(1)　連盟規定，表彰規程，登録規程，旅費規程，役員選出規程等の規程類の維持管理に関すること (2)　連盟規定に基づく新たな規程類の原案作成に関すること
組織管理	(1)　理事及び代議員の選出の為の告知に関すること (2)　役員名簿の作成並びに周知に関すること
窓口業務	(1)　日本バドミントン協会との窓口業務に関すること (2)　加盟支部連盟との窓口業務に関すること (3)　その他の各種団体との窓口業務に関すること
企画立案	(1)　全日本実業団選手権大会，日本リーグ等の主管基準，ガイドライン，計画書等の作成に関すること
広報活動	(1)　未加入の支部連盟の勧誘活動並びにＰＲ活動に関すること (2)　マスコミとの情報交換に関すること
総　　会	(1)　総会会場の確保並びに総会案内に関すること (2)　総会議案書の取りまとめ並びに周知に関すること (3)　総会運営全般に関すること (4)　総会報告書の作成並びに配付に関すること
表　　彰	(1)　被表彰者の推薦に関する取りまとめに関すること (2)　表彰規程による表彰の実施に関すること (3)　表彰に関する記録の維持管理に関すること
そ の 他	(1)　その他総務委員会の定めた事項に関すること

財務委員会

一般会計	(1)　一般会計の予算案及び決算案の作成に関すること (2)　一般会計の予算執行に関すること (3)　各会計帳票の作成並びに維持管理に関すること (4)　分担金，登録料，その他の収入の徴収に関すること (5)　その他一般会計業務全般に関すること
特別会計	(1)　特別会計の予算案及び決算案の作成に関すること (2)　特別会計の予算執行に関すること (3)　特別会計に対する各会計帳票の作成並びに維持管理に関すること (4)　その他特別会計業務全般に関すること
経過報告	(1)　一般会計の経過状況についての半期毎の報告に関すること (2)　特別会計の経過状況についての半期毎の報告に関すること (3)　一般会計及び特別会計の予実対比表の作成に関すること (4)　資産台帳等必要な資料の作成並びに維持管理に関すること
そ の 他	(1)　その他財務委員会の定めた事項に関すること

大会運営委員会

大　　会	(1)　全日本実業団バドミントン選手権大会，日本リーグ等の開催都道府県との打合わせ並びに調整に関すること (2)　大会要項の審議並びに調整に関すること (3)　日本実業団連盟より派遣する本部役員の選出に関すること (4)　登録規程第９条(2)の処理に関すること
記　　録	(1)　大会記録の保管並びに管理に関すること (2)　各年度毎のランキングの作成並びに周知に関すること
大会表彰	(1)　大会入賞者に対する表彰状等について関係官庁との折衝並びに受取に関すること (2)　優勝カップ等の維持管理に関すること (3)　前年度大会優勝者への杯返還の連絡に関すること
そ の 他	(1)　その他大会運営委員会の定めた事項に関すること

財団法人日本バドミントン協会寄附行為

第1章　総則

（名　　称）

第1条　　この法人は、財団法人日本バドミントン協会といい、外国に対してはThe Nippon Badminton Association（略称N.B.A.）という。

（事 務 所）

第2条　　この法人は、事務所を東京都渋谷区神南1丁目1番1号　岸記念体育館内に置く。

第2章　目的及び事業

（目　　的）

第3条　　この法人は、我が国におけるバドミントン界を統轄し、代表する団体として、バドミントンの普及振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。

（事　　業）

第4条　　この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

(1) バドミントンの普及及び指導
(2) バドミントンに関する審判員及び指導員の養成及び資格の認定
(3) 財団法人日本体育協会、国際バドミントン連盟及びアジアバドミントン連盟への加盟
(4) バドミントンに関する国際競技会及び国内競技会の開催
(5) バドミントンに関する国際競技会への代表者の選考及び派遣
(6) バドミントンの競技力の向上
(7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

第3章　資産及び会計

（資産の構成）

第5条　　この法人の資産は次のとおりとする。

(1) 設立当初の財産目録に記載された財産
(2) 資産から生ずる収入
(3) 加盟団体の分担金
(4) 事業に伴う収入
(5) 寄附金品
(6) その他の収入

（資産の種類）

第6条　　この法人の資産を分けて、基本財産と運用財産の二種とする。

2　基本財産は、次に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立当初の財産目録中基本財産の部に記載された財産。
(2) 基本財産とすることを指定して寄附された財産。
(3) 理事会で基本財産に繰り入れることを議決した財産。

3　運用財産は、基本財産以外の資産とする。

（資産の管理）

第7条　　この法人の資産は、会長が管理し、基本財産のうち現金は、理事会の議決を経て定期預金とする等確実な方法により、会長が保管する。

（基本財産の処分の制限）

第8条　　基本財産は、譲渡し、交換し、担保に供し、又は運用財産に繰り入れてはならない。ただし、この法人の事業遂行上やむを得ない理由があるときは、理事会の議決を経、かつ、文部大臣の承認を受けて、その一部に限りこれらの処分をすることができる。

（経費の支弁）

第9条　　この法人の事業遂行に要する経費は、運用財産をもって支弁する。

（事業計画及び収支予算）

第10条　　この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、会長が編成し、理事会の議決を経て、毎会計年度開始前に、文部大臣に届け出なければならない。事業計画及び収支予算を変更しようとする場合も同様とする。

（収支決算）
第11条　この法人の収支決算は、会長が作成し、財産目録、貸借対照表、事業報告書及び財産増減事由書とともに、監事の意見を付け、理事会の承認を受けて、毎会計年度終了後３か月以内に、文部大臣に報告しなければならない。
2　この法人の収支決算に剰余金があるときは、理事会の議決を経て、その一部若しくは全部を基本財産に編入し、又は翌年度に繰り越すものとする。
（長期借入金）
第12条　この法人が借入れをしようとするときは、その会計年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、理事会の議決を経、かつ、文部大臣の承認を受けなければならない。
（新たな義務の負担及び権利の放棄）
第13条　第８条ただし書及び前条の規定に該当する場合並びに収支予算で定めるものを除くほか、新たな義務の負担又は権利の放棄のうち重要なものを行おうとするときは、理事会の議決を経なければならない。
（会計年度）
第14条　この法人の会計年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

第４章　役員、評議員及び職員

（役　　員）
第15条　この法人には、次の役員を置く。
(1)　理事15名以上20名以内（うち、会長１名、副会長３名以内及び専務理事１名とする。）
(2)　監事２名又は３名
（役員の選任）
第16条　理事及び監事は、評議員会において選任し、理事は互選で会長、副会長及び専務理事を定める。
（理事の職務）
第17条　会長は、この法人の業務を総理し、この法人を代表する。
2　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、会長があらかじめ指名した順序により副会長がその職務を代理し、又はその職務を行う。
3　専務理事は、会長及び副会長を補佐し、理事会の議決に基づき、この法人の日常の業務を処理する。
4　理事は、理事会を組織して、この法人の業務を議決し、執行する。
（監事の職務）
第18条　監事は、この法人の業務及び財産に関し、次の各号に規定する職務を行う。
(1)　この法人の財産の状況を監査すること。
(2)　理事の業務執行の状況を監査すること。
(3)　財産の状況又は業務の執行について不整の事実を発見したときは、これを理事会、評議員会又は文部大臣に報告すること。
(4)　前号の報告をするため必要があるときは、理事会又は評議員会を招集すること。
（役員の任期）
第19条　この法人の役員の任期は、２年とし、再任を妨げない。
2　補欠又は増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。
3　役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、なおその職務を行う。
（役員の解任）
第20条　役員が次の各号の一に該当するときは、理事会及び評議員会において、理事現在数及び評議員現在数の各々の３分の２以上の議決により、これを解任することができる。
(1)　心身の故障のため、職務の執行に堪えないと認められるとき。
(2)　職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があると認められるとき。
（役員の報酬）
第21条　役員は、有給とすることができる。
2　役員の報酬は、理事会の議決を経て会長が定める。

（評議員の選出）
第22条　この法人には、評議員50名以上70名以内を置く。
2　評議員は各加盟団体代表者及び学識経験者のうちから、理事会で選出し、会長が任命する。
3　評議員は、役員を兼ねることができない。
4　評議員には、第19条、第20条の規定を準用する。この場合において、これらの規定中「役員」とあるのは、「評議員」と読み替えるものとする。

（評議員の職務）
第23条　評議員は、評議員会を組織して、この寄附行為に定める事項を行うほか、理事会の諮問に応じ、会長に対し、必要と認める事項について助言する。

（職　員）
第24条　この法人の事務を処理するため、事務局を設け職員を置く。
2　職員は、会長が任免する。
3　職員は、有給とする。
4　事務局に関する規定は、理事会の議決を経て別に定める。

第5章　名誉会長、顧問及び参与

（名誉会長、顧問及び参与）
第25条　この法人に名誉会長1名並びに顧問及び参与若干名を置くことができる。
2　名誉会長、顧問及び参与は、この法人に功労のあった者のうちから理事会の推薦により会長が委嘱する。
3　名誉会長及び顧問は、重要な事項について、会長の諮問に応じ意見を述べることができる。
4　参与は、会長の必要と認める事項について、その諮問に応じ意見を述べることができる。

第6章　会議

（理事会の招集等）
第26条　理事会は必要に応じ会長が招集する。ただし、理事現在数の3分の1以上から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求されたときは、その請求があった日から21日以内に理事会を招集しなければならない。
2　理事会の議長は、会長とする。

（理事会の定足数等）
第27条　理事会は、理事現在数の3分の2以上の者が出席しなければ、会議を開き議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を示した者は、出席者とみなす。
2　理事会の議事は、この寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、出席理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（評議員会）
第28条　つぎに掲げる事項については、理事会においてあらかじめ評議員会の意見を聞かなければならない。
(1)　事業計画及び収支予算についての事項
(2)　事業報告及び収支決算についての事項
(3)　基本財産についての事項
(4)　長期借入金についての事項
(5)　第1号、第3号及び前号に定めるものを除くほか、新たな義務の負担及び権利の放棄についての事項
(6)　その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるもの
2　前2条の規定は、評議員会についてこれを準用する。この場合において、前2条中「理事会」及び「理事」とあるのは、それぞれ「評議員会」及び「評議員」と読み替えるものとする。

（議 事 録）
第29条　すべての会議には、議事録を作成し、議長及び出席者の代表2名以上が署名押印の上、これを保存する。

第７章　専門委員会

（専門委員会）

第30条　この法人の事務遂行上必要があるときは、理事会の議決を経て専門委員会を設けることができる。

2　専門委員会の組織及び運営に関する事項は、理事会で別に定める。

第８章　加盟団体及び会員登録

（加　盟）

第31条　次に掲げる団体で、この法人の趣旨に賛同するものは、理事会及び評議員において、理事現在数及び評議員現在数の各々の３分の２以上の同意を得て、加盟団体となることができる。

(1)　各都道府県を代表するバドミントン競技団体

(2)　全国的に組織されたバドミントン競技団体

（資格の喪失）

第32条　この法人の加盟団体は、次の事由によってその資格を喪失する。

(1)　脱退

(2)　団体の解散

(3)　除名

（脱　退）

第33条　この法人の加盟団体が脱退しようとするときは、その事由を付した脱退届を提出し、理事会の同意を得なければならない。

（除　名）

第34条　この法人の加盟団体が、次の各号のいずれかに該当するときは、理事会及び評議員会の議決を経て、会長がこれを除名することができる。

(1)　この法人の加盟団体としての義務に違反したとき。

(2)　この法人の名誉を傷つけ、又はこの法人の目的に違反する行為のあったとき。

（分 担 金）

第35条　この法人の加盟団体は、理事会で定める分担金を毎年納入しなければならない。

2　既納の分担金は、いかなる事由があってもこれを返還しない。

3　分担金は、当該年度の６月と９月に分納することができる。

（登　録）

第36条　第31条第１号に掲げる加盟団体は、その所属会員をこの法人に登録しなければならない。

2　登録に関する規定は、理事会の議を経て別に定める。

第９章　寄附行為の変更及び解散

（寄附行為の変更）

第37条　この寄附行為は、理事会及び評議員会において、理事現在数及び評議員現在数の各々の３分の２以上の議決を経、かつ、文部大臣の認可を受けなければ変更できない。

（解　散）

第38条　この法人の解散は、理事会及び評議員会において、理事現在数及び評議員現在数の各々の４分の３以上の議決を経、かつ、文部大臣の認可を受けなければならない。

（残余財産の処分）

第39条　この法人の解散に伴う残余財産は、理事会及び評議員会において、理事現在数及び評議員現在数の各々の４分の３以上の議決を経、かつ、文部大臣の許可を受けて、この法人の目的に類似の目的を有する公益法人に寄附するものとする。

第10章　補則

（書類及び帳簿の備付け等）

第40条　この法人の事務所に、次の書類及び帳簿を備えなければならない。ただし、他の法令により、これらに変わる書類及び帳簿を備えたときは、この限りでない。

(1)　寄附行為

(2) 役員、評議員及びその他の職員の名簿及び履歴書
(3) 財産目録
(4) 資産台帳及び負債台帳
(5) 収入支出に関する帳簿及び証拠書類
(6) 理事会及び評議員会の議事に関する書類
(7) 処務日誌
(8) 官公署往復書類
(9) その他必要な書類及び帳簿

2 前項第5号の帳簿及び書類は10年以上、同項第6号の書類は永年、同項第7号から第9号までの書類及び帳簿は1年以上保存しなければならない。

（細　則）

第41条　この寄附行為の施行についての細則は、理事会の議決を経て、別に定める。

附　則

1．この寄附行為は、この法人の設立許可のあった日から施行する。
2．従来、日本バドミントン協会に属した権利義務の一切は、この法人が継承する。
3．第16条の規定にかかわらず、この法人設立当初の理事及び監事は次のとおりとし、その任期は第19条の規定にかかわらず昭和58年3月31日までとする。

理事（会　長）	桜内義雄
理事（副会長）	小口政雄
理事（副会長）	真藤　恒
理事（専務理事）	小飼栄一
理　事	相場清一
理　事	阿部　孚
理　事	池田昌道
理　事	伊藤鉱一
理　事	今北基夫
理　事	岡本武利
理　事	神沢　暁
理　事	北　義一
理　事	里見光徳
理　事	杉田安雄
理　事	関根義雄
理　事	遠井稔男
理　事	内藤安雄
理　事	野村嘉明
理　事	浜中　誠
理　事	和田　寿
監　事	上原正士
監　事	加藤三夫
監　事	福岡幸一

4．第14条の規定にかかわらず、この法人の設立当初の会計年度は、設立許可のあった日から昭和58年3月31日までとする。

日本実業団バドミントン連盟
連盟役員・支部連盟事務局役員名簿

平成７・８年度日本実業団バドミントン連盟役員名簿（1/4）

■会長・副会長

役　職	役員氏名	勤　務　先	勤務先　住所・電話 自　宅　住所・電話
会　長	山口　開生	日本電信電話㈱ 代表取締役会長	〒163-19 東京都新宿区西新宿 3-19-2 〒336 埼玉県浦和市別所 4-6-8
副会長	朝原　雅邦	日本電信電話㈱ 常務取締役東京支社長	〒108 東京都港区港南 1-9-1 ＮＴＴ品川ＴＷＩＮＳ 03-3740-8000 〒336 東京都渋谷区東 2-6-1
副会長	横井　初夫	日研化学㈱ 相談役	〒104 東京都中央区築地 5-4-4 住友築地ビル 03-3544-8895 〒152 東京都目黒区柿の木坂 2-1-12 03-3717-2294
副会長	宮永　武司	㈱明治生命厚生事業団 新宿健診センター	〒160 東京都新宿区西新宿 1-8-3 小田急明治生命ビル 03-3349-2734 〒279 千葉県浦安市美浜 4-29-14 0473-53-2030

■顧問・参与

顧問	米澤　滋	元会長	顧問	有賀圭一	元副会長	参与	丸山芳春	元理事長
顧問	秋草篤二	元会長	顧問	星　正也	元副会長	参与	相沢和夫	元理事長
顧問	山田哲三	元副会長	顧問	草加英資	元副会長	参与	鈴木龍平	元理事長
顧問	橋本真澄	元副会長	顧問	西村守正	元副会長	参与	中山邦夫	元常務理事
顧問	玉野義雄	元副会長	参与	今　武一	元理事長	参与	原田和坦	元理事長
顧問	浅原厳人	元副会長	参与	諸星三代治	元理事長	参与	野村嘉明	元副理事長

■理事長・副理事長

役　職 選出区分	役員氏名	勤　務　先 所　属	勤務先　住所・電話 自　宅　住所・電話
理事長 東海地区	油井　秀男	大府市役所 教育委員会スポーツ課	〒474 愛知県大府市横根 [illegible] 〒474 愛知県大府市桜木町２丁目11 0562-46-2958
副理事長 会長推薦	古田　崇	[illegible]	〒108-19 東京都港区港南 1-9-1 ＮＴＴツウィンズ 03-3740-9000 〒 東京都調布市南八雲台 1-6-1-115 0424-99-4311
副理事長 会長推薦	並木萬次郎	㈱東電通 西東京支店	〒192-03 東京都八王子市越野 4-418 0426-77-2611 〒206 東京都多摩市鶴牧 3-17-10-402 0423-72-2772
副理事長 北海道地区	伊勢　武	㈱つうけん	〒003 北海道札幌市白石区本通り19丁目南６番８号 011-860-1183 〒004 北海道札幌市豊平区平岡９条４丁目4-1 011-864-9088

■常務理事

選出区分	役員氏名	勤　務　先 所　属	勤務先　住所・電話 自　宅　住所・電話
東北地区 代　表	奈良坂　孝	東北大学	〒980 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 022-217-7382 〒983 宮城県仙台市宮城区高砂 1-18-10 022-258-8588
関東地区 代　表	幸野　邦昭	丸善石油化学千葉工場 （安全環境部保安課）	〒290 千葉県市原市五井南海岸３番地 0436-22-3236 〒290 千葉県市原市辰巳台西 1-4 0436-75-1591
京阪地区 代　表	京屋　孝治	日本石油精製㈱ 根岸製油所保安課	〒235 神奈川県横浜市磯子区鳳町 1-1 045-757-7179 〒231 神奈川県横浜市中区本牧町 1-51 本牧タウンハイツ405号 045-621-5187
北信越地区 代　表	河村　博之	高岡市役所 教育委員会総務課	〒933 富山県高岡市広小路 7-50 0766-20-1446 〒933-01 富山県高岡市伏木一宮 2-5-7 0766-44-3353
近畿地区 代　表	北　義一	三菱電機㈱伊丹製作所 営業部	〒661 兵庫県尼崎市塚口本町 8-1-1 06-497-8106 〒664 兵庫県伊丹市柏木町 1-6 0727-75-1188
中国地区 代　表	藤原　航	岡山県立大学 情報工学部	〒719-11 岡山県総社市窪木 111 0866-94-2128 〒710 岡山県倉敷市有城 268 086-429-1990
四国地区 代　表	吉田　一人	㈱タダノ 設計第一部第一グループ	〒769-21 香川県大川郡志度町大字志度 5405-3 0878-94-7530 〒761-04 香川県高松市亀田南町 260-6 0878-47-7288
九州地区 代　表	坂田　雄二	㈱ベスト電器 人事部	〒810 福岡県福岡市中央区那の津２丁目 1-12 092-732-7514 〒818 福岡県筑紫野市下見 193-23 092-926-4127

平成７・８年度日本実業団バドミントン連盟役員名簿（2/4）

都道府県名	役員氏名	勤務先 所属	勤務先　住所・電話 自宅　住所・電話	
東京地区 推薦	今井　茂満	ブリヂストンスポーツ㈱	〒101　東京都千代田区神田東松下町45 〒204　東京都清瀬市中里6-528-37	03-3257-4109 0424-94-0818
東京地区 推薦	本多　修治	㈱ニコン 大井製作所電画製造部	〒140　東京都品川区西大井1-6-3 〒343　埼玉県越谷市大間野町4-268-11	03-3773-1111　内線5381 0489-87-9129
神奈川地区 推薦	桜田　豊治	日産自動車㈱ 工機工場第２工機製作所	〒230　神奈川県横浜市鶴見区生麦2-2-34 〒239　神奈川県横須賀市岩戸5-9-10	045-505-8392 0468-49-5444
愛知地区 推薦	鈴木　勝美	菱電不動産㈱ 稲沢営業所	〒492　愛知県稲沢市菱町１番地 〒459　愛知県名古屋市緑区大高台１丁目808	0587-24-5646 052-621-9498
大阪地区 推薦	清水　義雄	高圧ガス保安協会 近畿支部	〒530　大阪府大阪市北区南森町1-4-19 〒569　大阪府高槻市寿町２丁目1-15	06-312-4051 0726-96-4933
大阪地区 推薦	月原　朗	三洋電機㈱ 社会業務センター	〒570　大阪府守口市京阪本通2-5-5 〒579　大阪府東大阪市日下町5-6-33	06-994-3564 0729-85-6038
東京 会長推薦	池田　信孝	日本電信電話㈱ 東京資材調達センター	〒108　東京都港区港南1-9-1 〒152　東京都目黒区鷹番2-21-1-42	03-3740－9003 03-3714-0505

■理事

選出区分	役員氏名	勤務先 所属	勤務先　住所・電話 自宅　住所・電話	
北海道	岡　明弘	北海道立特殊教育センター	〒06　北海道札幌市中央区円山西町２丁目 〒063　北海道札幌市西区発寒５条8-2-2-403	011-612-6211 011-662-1231
宮城	三浦　紀重	東北大学	〒980　宮城県仙台市青葉台片平区2-1-1 〒980　宮城県仙台市八幡4-4-8-501	022-217-5239 022-273-6598
千葉	石橋　康幸	富士電機㈱	〒151　東京都渋谷区代々木４丁目30-3 〒284　千葉県四街道市上野254	03-5388-7431 043-432-8401
東京	丹藤　勇一	ヨネックス㈱ 広報部第１課	〒113　東京都文京区湯島3-23-13 〒108　東京都港区芝浦2-1-11-602	03-3839-7115 03-5443-5433
東京	内田　淳吉	コニカ㈱ 第２部生産部５製課	〒191　東京都日野市さくら町 〒192　東京都八王子市舟木町3-182-25	0425-83-1521 0426-91-6369
神奈川	細谷　清	関東自動車工業㈱	〒237　神奈川県横須賀市田浦港町無番地 〒210　神奈川県川崎市川崎区大島3-26-10	0468-62-5813 044-244-2560
富山	牧野　光男	高岡市役所	〒933　富山県高岡市広小路7-50 〒933　富山県高岡市伏木古府2-1-3	0766-20-1232 0766-44-6462
石川	太田　博之	金沢市役所 再開発課	〒920　石川県金沢市広坂1-1-1 〒920　石川県金沢市旭町2-8-33	0762-23-2454 0762-21-8291
愛知	武田　正雄	豊田自動織機製作所 高浜工場産機生産管理課	〒444-13　愛知県高浜市豊田町2-1-1 〒448　愛知県刈谷市恩田町4-5	0566-53-3684 0566-22-6425
三重	山口　香	富士電機㈱ 三重事業団	〒510　三重県四日市市富士町1-27 〒510　三重県三重郡菰野町榊294	0593-30-1583 0593-96-1422
京都	佐藤　武人	オムロン㈱ 京都研究所ＣＣＯ	〒617　京都府長岡京市下海印寺伊賀寺20 〒605　京都府京都市東山区今熊野南日吉町22-27	075-951-5111 075-414-4004
大阪	北野　公男	大阪ガス㈱	〒554　大阪府大阪市此花区西島6-19-9 〒590-04　大阪府泉南郡熊取町自由が丘１丁目14-5	06-466-4568 0724-53-3086
兵庫	瀬川　欣也	三菱重工業㈱ 神戸造船所ＫＲＳサービス課	〒652　兵庫県神戸市兵庫区和田崎町１丁目1-1 〒675-01　兵庫県加古川市平岡町二俣441-7	078-672-4786 0794-37-2066
東京	星野　義昭	日本電信電話㈱ 西東京支店	〒229　神奈川県相模原市中央 〒179　東京都練馬区光が丘5-2-3-1406	0427-53-8884 03-3979-6880
東京	小林　正人	東京簡易保険 事務センター電算部電算課	〒108　東京都港区三田1-4-60 〒330　埼玉県大宮市本郷町1256-62	03-3798-7779 048-651-6177
神奈川	庄司　俊介	㈱東芝 浜川崎工場　経理部原価管理	〒210　神奈川県川崎市川崎区浮島町2-1 〒144　東京都大田区西六郷4-6-24-222	044-288-6234 03-3739-3744

■監事

東京	佐藤　忠男	日研化学㈱ 東京支店　業務課	〒104　東京都中央区新富1-1-5　新中央ビル 〒341　埼玉県三郷市早稲田6-25-15	03-3552-8741 0489-58-3553
滋賀	西原　四郎	大津市役所 ガス事業課	〒520　滋賀県大津市御陵町3-1 〒520-01　滋賀県大津市唐崎1-34-12	0775-25-1608 0775-79-2428

平成７・８年度日本実業団バドミントン連盟役員名簿（3/4）

■代議員

地区	代議員名	勤務先 所属	勤務先　住所・電話 自宅　住所・電話	
北海道	乙武　重丸	北海道旅客鉄道㈱	〒063 北海道札幌市北区北６条西５丁目	011-222-6197
			〒060 北海道札幌市中央区北２条東13丁目 デベックス213-201	011-222-6345
北海道	渋井　敏紀	札幌市役所	〒060 北海道札幌市中央区北１条西２丁目	011-211-2997
			〒003 北海道札幌市白石区中央２条４丁目1-18	011-813-3001
北海道	渋井　敏紀	札幌市役所	〒060 北海道札幌市中央区北１条西２丁目	011-211-2997
			〒003 北海道札幌市白石区中央２条４丁目1-18	011-813-3001
秋　田	斉藤　永吉	㈱北都銀行	〒012 秋田県市中通３丁目１番41号	0188-33-4211 内線3210
			〒012 秋田県秋田市模森２丁目7-29	0188-33-9545
宮　城	押切　吉基	ＹＫＫ㈱ 東北工場	〒989-63 宮城県志田郡三本木町三本木字吉田１番地	0229-52-3500
			〒989-61 宮城県古川市稲葉1-6-22	0229-24-2519
宮　城	原田　利雄	日本電信電話㈱ 東北支社	〒984 宮城県仙台市若林区五橋3-2-1	022-269-2350
			〒980 宮城県仙台市青葉区米ヶ袋1-6-2-503	022-221-8625
山　形	小林　保夫	鶴岡市役所	〒997 山形県鶴岡市馬場町9-25	0235-25-2111
			〒997 山形県鶴岡市砂田町21-8	0235-23-9684
茨　城	梅沢　和則	住友金属テクノロジー㈱ 鹿島事業部開発試験室	〒314 茨城県鹿島郡鹿島町大字光３	0299-84-2563
			〒311-24 茨城県行方郡潮来町延方3693-227（Ｅ5-11）	0299-66-1463
栃　木	田中　英男	日産自動車㈱ 栃木工場	〒329-06 栃木県河内郡上三川町蒲生2500	0285-56-1201
			〒321-01 栃木県宇都宮市富士見町16-18	0286-53-8725
埼　玉	藤田　茂樹	本田技研工業㈱ 狭山工場	〒350-13 埼玉県狭山市新狭山1-10-1	0429-53-4111
			〒350-12 埼玉県日高市新堀新田11-14	0429-89-3508
千　葉	石橋　康幸	富士電機㈱	〒290 東京都渋谷区代々木４丁目30-3	03-5388-7431
			〒284 千葉県四街道市上野254	043-432-8401
東　京	高田　浩	東京都水道局 長沢浄水場	〒154 神奈川県川崎市多摩区三田5-1-1	044-911-2018
			〒144 東京都大田区南六郷1-33-3-401	03-3730-7815
東　京	多田　晃一	東京郵政 千歳郵便局第一集配課		03-3426-4105
			〒164 東京都中野区中野2-27-19-1014	03-3383-4232
東　京	近岡　昭	渋谷区役所 教育委員会学務課	〒290 東京都渋谷区宇田川町1-1	03-3463-1211 内線2822
			〒164 東京都中野区中央4-559	03-3382-6673
東　京	木村	第３ＰＰ事業部第４開発部	〒206 東京都稲城市大丸1405	044-754-3286
			〒206 東京都稲城市矢野口519-1-303	0423-77-8582
東　京	柴田　博樹	ＪＲ東日本㈱ 大井工場	〒140 東京都品川区広町2-1-19	03-3773-0118
			〒171 東京都豊島区南長崎4-13-35-2505	03-3954-6981
神奈川	青木　一夫	富士通㈱ 川崎工場アセンブリ設備開発部	〒211 神奈川県川崎市中原区上小田中1015	044-777-1111 内線3-6138
			〒210 神奈川県川崎市川崎区鋼管通り3-16-17	044-333-9287
神奈川	五十嵐　功	東京電力㈱ 神奈川支店生田営業所	〒 神奈川県生田区	044-933-2763
			〒245 神奈川県泉区弥生台22-3	045-812-8412
神奈川	平　敏司	横浜市役所 港南区役所　戸籍課	〒231 神奈川県横浜市中区港町1-1	045-847-8332
			〒232 神奈川県横浜市南区蒔田町841-1蒔田団地7-102	045-741-7099
長　野	二ッ柳　慎二	新光電気工業㈱ ＴＳ製造課	〒381-22 長野県長野市小島田町80	0262-83-1000 内線3518
			〒381 長野県長野市浅川押田311-2	0262-96-1968
富　山	畑　栄進	㈱不二越	〒930 富山県富山市石金20	0764-23-5111
			〒930-22 富山県富山市四方江代685-8	0764-35-2312
石　川	岡部　憲昌	㈱北国銀行	〒921 石川県金沢市下堤町１番地	0762-63-1111
			〒921 石川県金沢市三口新町4-9-16	0762-47-1717
福　井	角　五三男	北陸電力㈱ サービスステーション「エルフ福井」	〒910 福井県福井市西木田２丁目8-1	0776-33-0909
			〒910 福井県大野市蕨生83-16-1	0779-65-0394
岐　阜	高橋　伸治	岐阜県庁 岐阜県議会事務局議事調査課	〒500-70 岐阜県岐阜市薮田南2-1-1	058-272-1111 内線3325
			〒501-61 岐阜県羽島郡笠松町北及2020	0058-388-0292
静　岡	滝　正孝	富士写真フィルム㈱ 生産技術部保全グループ	〒418 静岡県富士宮市台中里200	0544-26-7729
			〒418 静岡県富士宮市宮原412-3	0544-24-2289
愛　知	山本　卓男	新日本製鐵㈱ 名古屋製鐵所設備部電気計装技術室	〒476 愛知県東海市東海町53	052-603-7482
			〒478 愛知県知多市南巽が丘1-82	0562-34-7284
愛　知	飯見　隆治	アイシン精機㈱ 安城工場生活産業事業部原価課	〒446 愛知県安城市箕輪町正福田1-24	0566-76-9122
			〒444 愛知県岡崎市上佐々木町字元鳴8-3	0564-31-9688

平成７・８年度日本実業団バドミントン連盟役員名簿（4/4）

地区	代議員名	勤務先 所属	勤務先　住所・電話 自宅　住所・電話	
三　重	荒木　良之	㈱コスモ石油 四日市製油所	〒510　三重県四日市市大協町1-1 〒513　三重県鈴鹿市長太旭町2-10-12	0593-54-8737 0593-85-2845
三　重	栗本　英幸	日本合成ゴム㈱ 四日市工場	〒510　三重県四日市市川尻町100 〒510　三重県四日市市森力山町1-12-108	0593-45-8080 0593-46-8083
滋　賀	古川　正行	東レ㈱ 滋賀事業所	〒520　滋賀県大津市園山１丁目1-1 〒525　滋賀県草津市野村１丁目13-14	0775-33-8086 0775-64-4573
京　都	若林　　登	㈱島津製作所 試験計測(事)技術部	〒604　京都府京都市中京区西ノ京桑原町１ 〒617　京都府長岡京市粟生北開11-2	075-832-1904 075-952-3012
京　都	石津　正明	三菱自動車工業㈱ 京都製作所京都生技部海外技術G	〒616　京都府京都市右京区太秦巽町１ 〒520-01　滋賀県大津市日吉台４丁目10-10	075-864-8069 0775-79-4350
大　阪	山本　次生	サントリー㈱	〒530　大阪府大阪市北区堂島浜2-1-40 〒562　大阪府箕面市坊島3-2-25	06-346-1157 0727-23-5543
大　阪	竹内　洋雅	コスモ石油㈱ 堺製油所	〒592　大阪府堺市築港新町３丁目16番地 〒592　大阪府堺市浜寺元町1-56浜寺元町社宅208号	0722-45-8559 0722-64-8659
大　阪	勝川　道和	松下電器産業㈱	〒571　大阪府門真市松葉町2-15 〒576　大阪府交野市妙見坂3-7-205	06-901-1161 0720-93-7727
兵　庫	境　　良治	住友シチックス㈱ 総務部人事グループ	〒660　兵庫県尼崎市東浜町１番地 〒662　兵庫県西宮市宮前町５番30-103	06-413-4301 0798-36-6438
岡　山	山本　　清	三井造船㈱ 玉野事業所	〒706　岡山県玉野市玉3-1-1 〒706　岡山県玉野市和田5-2-1 三井造船和田社宅203号	0863-23-2430 0863-81-8175
山　口	末廣　秀樹	宇部興産㈱ 宇部本社人事部労務G	〒755　山口県宇部市西本町1-12-32 〒754　山口県吉敷郡小郡町田町	0836-31-1119 08397-2-2109
鳥　取	鷲見　育亮	鳥取三洋電機㈱	〒680　鳥取県鳥取市立川町７丁目101 〒689-02　鳥取県鳥取市美萩町１丁目128	0857-21-2057 0857-59-0460
香　川	禅正原義春	香川県庁 高松高等技術学校	〒761　香川県高松市郷東町587-1 〒761　香川県高松市中山町590-1	0878-81-3171 0878-82-1937
長　崎	田中　貞夫	三菱重工業㈱ 長崎造船所	〒850-91　長崎県長崎市飽の浦町1-1 〒869-46　長崎県長崎市大浜町1484番地１	0958-28-5511 0958-65-3262
熊　本	坂本　　正	ＮＥＣ九州日本電機㈱	〒861-41　熊本県熊本市八幡1-1-1 〒869-46　熊本県八代郡宮原町102	096-357-2111 0965-62-2301

平成７・８年度支部連盟事務局役員名簿（1/5）

■役員

都道府県名	役職	氏名	勤務先	勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号
北海道	会長	青山 繁樹	北海道旅客鉄道㈱	〒001 札幌市北区北５条西４丁目 〒006 札幌市手稲区宮の沢１条5-258-13	011-581-7111 011-685-5837
	理事長	岡 明弘	北海道立特殊教育センター	〒064 札幌市中央区円山西町２丁目 〒063 札幌市西区発寒５条8-2-2-403	011-612-6211 011-662-1231
	事務局	渋井 敏紀	札幌市役所	〒064 札幌市中央区北１条西２丁目 〒003 札幌市白石区中央２条4-1-18	011-211-2997 011-813-3001
青森	会長	岡本 勝光	和幸商会㈱	〒036 弘前市本町35-1 〒036 弘前市桔梗野1-22-6	0172-35-3030 0172-35-7785
	理事長	森山 忠雄	清神薄弱者更生施設 「三和の里」	〒036 弘前市三和字下恋塚189-7 〒036 弘前市樹木2-18-1	0172-93-2515 0172-34-7689
	事務局	工藤 徳男	弘前市役所組合事務局	〒036 弘前市上白銀町1 〒036 弘前市茂森新町2-1-24	0172-35-1111内421 0172-34-2792
岩手	会長	佐々木洋平	県議会議員	〒029-11 西磐井郡花泉町油島11	0198-22-2722
	理事長	杉田 忠光	花巻保健所	〒024 北上市堤ヶ丘1-7-53	0198-22-4951 0197-64-2424
	事務局	山之内一明	富士通㈱岩手工場 ４プロ製造	〒029-45 胆沢郡金ヶ崎町西根森山4-2 〒024 水沢市川端143-16	0197-44-5311
宮城	会長	佐藤巳代治	元ＮＴＴ職員 （県協会顧問）	〒984 仙台市若林区大和町1-9-13	022-237-1079
	理事長	奈良坂 孝	東北大学工学部資源工学科	〒980 仙台市青葉区荒巻字青葉 〒983 仙台市宮城野区高砂1-18-10	022-217-7382 022-258-8588
	事務局	田副 恒徳	仙台市役所 仙台市若林区 中央市民センター	〒984 仙台市若林区南小泉1-1-1 〒984 仙台市若林区舟丁21	022-282-1173 022-227-6409
秋田	会長	鈴木 辰雄	㈱北都銀行	〒010 秋田市中通3-1-41	0188-33-4211
	理事長	斉藤 永吉	㈱北都銀行	〒010 秋田市中通3[illegible]4[illegible] 〒010 秋田市横森2-7-29	0188-33-4211 0188-33-9545
	事務局	斉藤 [illegible]	[illegible]	〒997 秋田市中通3-1-41 〒997 秋田市横森2-7-29	0188-33-4211 0188-33-9545
山形	会長	田宮 惇男	㈱山形ケンウッド	〒997 鶴岡市宝田1-15-80 〒997 鶴岡市本町３丁目2-23都マンション404号	0235-24-4811 0235-22-3414
	理事長	小林 保夫	鶴岡市役所	〒997 鶴岡市馬場町9-25 〒997 鶴岡市砂田町21-8	0235-25-2111 0235-23-9684
	事務局	熊田 詠子	山形日本電機㈱ 鶴岡工場	〒997 鶴岡市宝田1-14-38 〒997 鶴岡市宝町9-25	0235-25-4121 0235-22-6061
福島	会長	徳田 卓郎	呉羽化学工業㈱	〒974 いわき市綿町落合16 〒974 いわき市金山朝日台47	0246-63-5111 0246-63-6410
	理事長	塚越 厚生	富士通ＡＭＤ セミコンダクタ㈱	〒965 会津若松市門田工業団地6 〒965 会津若松市門田大字黒岩字石高134-9	0242-29-9511 0242-24-7449
	事務局	渡辺 正光	富士通㈱ 会津若松工場	〒965 会津若松市門田工業団地3 467-3 〒965 会津若松市門田大字年貢町字大道東	0242-28-6111内4515 0242-26-2907
茨城	会長	手塚 克彦	茨城県議会議員	〒310 水戸市三の丸1-5-38 〒315 石岡市総社1-1-53	029-221-8111 0299-22-2873
	理事長	小島 一夫	土浦短期大学	〒300 土浦市真鍋6-7-10 〒305 つくば市大角豆794	0298-22-6125 0298-52-9110
	事務局	梅澤 和則	住友金属テクノロジー㈱	〒314 鹿児郡鹿児町大字光3 〒311-24 行方郡湖来町延方乙3693-117(E5-1-1)	0299-84-2563 0299-66-1463
栃木	会長	保坂 俊一	関東自動車㈱	〒320 宇都宮市駅前通り3-2-5 〒320 宇都宮市西一の沢16	0286-36-6113 0286-48-1845
	理事長	永山 隆	富士重工業㈱ 宇都宮製作所	〒320 宇都宮市陽南1-1-11 〒320 宇都宮市上戸祭町3011-7	0286-59-4682 0286-24-7773
	事務局	三上 隆康	富士重工業㈱ 宇都宮製作所	〒320 宇都宮市陽南1-1-11 〒320-01 宇都宮市茂原1-3-15	0286-59-4654 0286-53-5294

平成７・８年度支部連盟事務局役員名簿（2/5）

■役員

都道府県名	役職	氏名	勤務先	勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号
群馬	会長	日野 貞夫	三ツ葉電機㈱	〒376 桐生市広沢町1-2681 〒376 桐生市堤3-13-15	0277-52-0111 0277-22-5616
	理事長	神沢 暁（アツシ）	日本ルフト	〒370-01 太田市大字西新町12 〒370-01 佐波郡境町大字伊予久570	0276-31-2221 0270-76-1537
	事務局	米田 守	三菱電機㈱	〒370-04 新田郡尾島岩松800 〒370-04 新田郡尾島町粕川73-16	0276-52-1111内2750 0276-52-4106
埼玉	会長	吉成 楽彦	元「埼玉県庁」勤務	〒336 浦和市別所3-11-18	048-864-6224
	理事長	藤田 茂樹	本田技研㈱ 狭山工場	〒350-13 狭山市狭山1-10-1 〒350-12 日高市大字堀新田11-14	0429-53-4111内3627 0429-89-3508
	事務局	富橋 末治	㈲ラケットハウス グリップ	〒330 大宮市大門町2-5 吉田ビル2F 〒362 上尾市上370-26-401	048-644-3115 048-771-8575
千葉	会長	高橋 重夫	東邦大付属東邦高校	〒275 習志野市泉町2-1-37 〒263 千葉市稲毛稲毛東5-9-7	0474-72-8191 043-242-1905
	理事長	相沢喜久夫	コスモ石油㈱ 千葉製油所	〒290 市原市五井海岸2 弐番館604 〒290 市原市辰巳台西2-2-2エステスクエア市原辰巳台	0436-23-4111内5632 0436-74-9021
	事務局	斎藤 忠	三井東圧機工㈱ 千葉支店プロジェクト部	〒297 茂原市東郷2232-2 〒297 茂原市東郷2225-1富士見第１アパート28号	0475-23-6651 0475-25-5565
東京	会長	宮永 武司	明治生命厚生事業団 新宿健診センター	〒160 新宿区西新宿1-8-3 〒279 千葉県浦安市美浜4-29-14	03-3349-2734 0473-53-2030
	理事長	今井 茂満（シゲミツ）	ブリヂストンスポーツ㈱	〒101 千代田区神田東松下町45 〒204 清瀬市中里6-528-37	03-3257-4109 0424-94-0818
	事務局	本間 俊一	石川島播磨重工㈱	〒135 江東区豊洲3-2-16 〒344 埼玉県春日部市大字牛島606-1	03-3534-3049 048-754-8050
神奈川	会長	太田 恵	神奈川県県議会議員	〒229 相模原市下九沢1120 〒229 相模原市相模6-13-18	0427-74-7516 0427-71-7070
	理事長	京屋 孝治	日本石油精製㈱ 根岸製油所	〒231 横浜市磯子区鳳町1-1 〒231 横浜市中区本牧町1-51本牧タウンハイツ405	045-757-7154 045-621-5187
	事務局	京屋 孝治	日本石油精製㈱ 根岸製油所	〒231 横浜市磯子区鳳町1-1 〒231 横浜市中区本牧町1-51本牧タウンハイツ405	045-757-7154 045-621-5187
新潟	会長	米山 稔	ヨネックス㈱	〒113 東京都文京区湯島3-23-13	03-3836-1221
	理事長	有本 健（ケン）	㈱テクノ大手	〒102 東京都千代田区大手町1-14-16 〒950 新潟市東中島1-4-5	03-3221-1741 025-276-0146
	事務局	樋口 良則	三菱マテリアル㈱	〒950 新潟市小金町3-1 〒951 新潟市関屋大川前1-9-10	025-275-5469 025-265-1812
長野	会長	北川 良司	石川島芝浦機械	〒390 松本市石芝1-1-1 〒315 松本市島内3801	0263-25-4507 0263-47-1748
	理事長	丸山 隆	富士通㈱ 長野工場	〒300 長野市北尾張郡36 〒381 長野市高田幸1294-2ラブラスみやはら101	0262-43-1121内3518 0262-94-2122
	事務局	二ツ柳慎二（フタツヤナギシンジ）	新光電気工業㈱ ＴＳ製造課	〒381-22 長野市小島田80 〒381 長野市浅川押田311-2	0262-83-1000内532 0262-96-1968
富山	会長	中山 邦夫	高岡ケーブルネットワーク㈱	〒933 高岡市昭和町1-2-10 〒939-02 富山県射水郡大島町北野129	0766-26-6900 0766-52-1480
	理事長	牧野 光男	高岡市役所 広報統計課	〒933 高岡市広小路7-50 〒933-01 高岡市伏木故府2-1-3	0766-20-1232 0766-44-6462
	事務局	牧野 光男	高岡市役所 広報統計課	〒933 高岡市広小路7-50 〒933-01 高岡市伏木故府2-1-3	0766-20-1232 0766-44-6462
石川	会長	大門 重樹	㈱北國銀行	〒920 金沢市下堤町１番地 〒921 金沢市弥生1-30-10	0762-63-1111 0762-42-1828
	理事長	安江 勉	津田駒工業㈱	〒921 金沢市野町5-18-18 〒921 金沢市長坂1-6-3	0762-42-1111 0762-41-0846
	事務局	重政 誠之	㈱北國銀行 根上支店	〒929-01 石川県能美郡根上町大成町4180 〒921 金沢市八日市2-331-4	0761-55-1311 0762-47-5251

平成７・８年度支部連盟事務局役員名簿（3/5）

■役員

都道府県名	役職	氏名	勤務先	勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号
福井	会長	小野田幸夫	福井市役所 総務部長	〒910 福井市大手3-10-1 〒910 福井市江守の里1-507	0776-20-5206 0776-36-2814
	理事長	山本 敏彦	福井市役所 勤労青少年ホーム	〒910 福井市大手3-10-1 〒910 福井市西木田1-12-21	0776-35-1023 0776-36-3683
	事務局	羽川（ハガワ） 良夫	福井警察署 会計課	〒 〒910 福井市西学園1-914	0776-24-0007 0776-35-5291
岐阜	会長	大竹 健司	カネボウ㈱	〒502 岐阜市正木1880 〒502 岐阜市南正木31-5	058-295-2111 058-232-3490
	理事長	高橋（ノブハル） 伸治	岐阜県議会事務局 議事調査課	〒500-70 岐阜市薮田南2-1-1 〒501-61 岐阜県羽島郡笠松町北及2020	058-272-1111内3325 058-388-0292
	事務局	河田 誠	岐阜県総務部財政課	〒500-70 岐阜市薮田南2-1-1 〒502 岐阜市津島町3-83	058-272-1111内2125 058-231-8908
静岡	会長	影山（カゲヤマ） 隆亮	㈳富士建設業協会 事務局長	〒419 富士市本市場454-8 〒419 富士市岩本2183	0545-61-2838 0545-61-0902
	理事長	滝 正孝	富士写真フィルム㈱ 生産技術部	〒418 富士宮市大中里200 〒418 富士宮市宮原412-3	0544-26-7729 0544-24-2289
	事務局	滝 正孝	富士写真フィルム㈱ 生産技術部	〒418 富士宮市大中里200 〒418 富士宮市宮原412-3	0544-26-7729 0544-24-2289
愛知	会長	深津 豊	愛知陸運㈱	〒485 小牧市大字小木字郷西285-5 〒470-12 豊田市渡刈町14	0568-72-1100 0565-28-0373
	理事長	武田 正雄	㈱豊田自動織機製作所 高浜工場	〒444-13 高浜市豊田町2-1-1 〒448 刈谷市恩田町4-5	0566-53-3684 0566-22-6425
	事務局	鈴木 勝美	三菱電機㈱稲沢製作所内 菱電不動産㈱稲沢営業所	〒492 稲沢市菱町1 〒459 名古屋市緑区大高台1-808	0587-24-5646 052-621-9498
三重	会長	金森 正	県議会議員	〒514 津市広明町13 〒510 四日市市常磐2-9-4	0592-24-2852 0593-53-3401
	理事長	増井 孝夫	三菱化学㈱ 四日市事業所	〒510 四日市市東邦町1 〒510-12 四日市市桜台1-23-4	0593-45-7050 0593-26-1786
	事務局	栗本 [illegible]	日本合成ゴム㈱ 四日市工場	〒510 四日市市川尻町100 〒510 四日市市森力山町1-12-108	0593-45-8080 0593-46-8083
滋賀	会長	栗本藤四郎	栗本医院	〒520 大津市大門通3-29 〒520 大津市大門通3-29	0775-25-3737 0775-22-3737
	理事長	佐藤 賢（ケン）	大津市役所教委総務課	〒520 大津市御陵町3-1 小野101 〒607 京都市山科区勧修寺縄手町12-16ドミール	0775-23-0406 075-592-4569
	事務局	西原 四郎	大津市役所安全サービス課	〒520 大津市御陵町3-1 〒520-01 大津市唐崎1-34-12	0775-23-1420 0775-79-2428
京都	会長代行	野村 嘉明	(元)㈱島津製作所	〒615 京都市西京区桂艮町18-6	075-381-5376
	理事長	佐藤 武人	オムロン㈱ 京都研究所CCO	〒617 長岡京市下海印寺伊賀寺20 〒605 京都市東山区今熊野南日吉町22-27	075-951-5111 075-551-4004
	事務局	若林 登	㈱島津製作所 試験計測(事)技術部	〒604 京都市中京区西ノ京桑原町1 〒617 長岡京市粟生北開11-2	075-832-1904 075-952-3012
大阪	会長	尾崎 弘	(元)日本電通建設㈱	〒 〒669-11 西宮市生瀬高台13-2	0797-84-7070
	理事長	清水 義雄	高圧ガス保安協会 近畿支部	〒530 大阪市北区南森町1-4-19 〒569 高槻市寿町2-1-15	06-312-4051 0726-96-4933
	事務局	加藤 吉正	東洋運搬㈱ 物流事業部	〒550 大阪市西区京町堀1-15-10 〒566 摂津市正雀4-10-40	06-441-9161 06-383-5003
兵庫	会長	大前 繁雄	兵庫県会議員 学校法人大前学園理事長	〒663 西宮市津門綾羽町2-3 〒663 西宮市津門綾羽町2-3	0798-34-2893 0798-23-0283
	理事長	北 義一	三菱電機㈱ 伊丹製作所 営業所	〒661 尼崎市塚口本町8-1-1 〒664 伊丹市柏木町1-6	06-497-8105 0727-75-1188
	事務局	瀬川 欣也	三菱重工業㈱ 神戸造船所神戸菱興サービス	〒652 神戸市兵庫区和田崎町1-1-1 〒675-01 加古川市平岡町二俣447-7	078-672-4786 0794-37-2066

平成７・８年度支部連盟事務局役員名簿（4/5）

■役員

都道府県名	役職	氏名	勤務先	勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号
奈良	会長	松尾　良行	(奈良県協会副会長)	〒630-01 生駒市高山町8686	07437-8-0220
	理事長	平　敏明	生駒市役所	〒630 生駒市東新町8-38 〒632 天理市富堂町163-8	07437-4-1111内693 07436-3-2035
	事務局	中井戸(モトヒロ)資広	大和ガス㈱	〒635 大和高田市旭南町8-36 〒639-21 北葛城郡新庄町大字南道穂166-13	0745-22-6221内322 0745-69-2941
岡山	会長	片山　義久	中国精油㈱社長	〒700 岡山市中山下2-1-77 〒703 岡山市門田屋敷1-4-29	086-224-5771 086-272-4493
	理事長	藤原　航(ワタル)	岡山県立大学情報工学部	〒719-11 総社市窪木111 〒710 倉敷市有城268	0866-94-2128 086-429-1990
	事務局	朝霧　晴夫	㈱まつもとコーポレーション	〒700 岡山市絵図町1-40 〒702 岡山市南輝3-16-11	086-253-2121 086-264-4763
広島	会長	松崎　一夫	海洋電子工業㈱ 広島事業所	〒724-07 呉市郷原町字一ノ松光山2507-915 〒731-42 安芸郡熊野町柿迫231	0823-77-1241 082-854-1016
	理事長	後藤　茂	広島市役所	〒730 中区国泰寺町1-6-34 〒739-17 広島市安佐北区倉掛1-28-7	082-245-2111 082-843-7529
	事務局	加土　孝博	海洋電子工業㈱ 広島事業所	〒724-07 呉市郷原町字一ノ松光山2507-915 〒733 広島市西区己斐西町28-3	0823-77-1241 082-271-4539
山口	会長	広重　一郎	宇部興産ビル㈱	〒755 宇部市相生町8-1 宇部興産ビル 〒755-02 宇部市東岐波区中須賀	0836-34-1110 0836-58-3347
	理事長	末廣　秀樹	宇部興産㈱ 宇部本社人事部労務G	〒755 宇部市西本町1-12-32 〒754 山口県吉敷郡小郡町田町	0836-31-1119 08397-2-2109
	事務局	高田美穂子(ミホコ)	宇部興産㈱ 宇部統合本部総務部労務課	〒755 宇部市大字小串1978-10 〒756 小野田市北竜王町9-17	0836-31-5113 0836-84-0866
島根	会長	三谷　惣一	㈱山陰合同銀行	〒690 松江市白潟本町18 〒690 松江市大正町447-12	0852-26-7111 0852-27-5510
	理事長	星野実智代	㈱山陰合同銀行	〒690 松江市白潟本町18 〒690 松江市上乃木10-1-8	0852-26-7111 0852-23-4100
	事務局	阿部　多加	㈱山陰合同銀行	〒690 松江市白潟本町18 〒690 松江市西川津町3586-1	0852-26-7111 0852-31-4579
鳥取	会長	米山幸太郎	鳥取三洋電機㈱	〒680 鳥取市立川町7-101 〒680 鳥取市西町3-210	0857-21-2001 0857-27-8070
	理事長	鷲見(スミ)　育亮(ヤスアキ)	鳥取三洋電機㈱	〒680 鳥取市立川町7-101 〒689-02 鳥取市美荻野1-128	0857-21-2001 0857-59-0460
	事務局	小谷(コタニ)　清史	鳥取三洋電機㈱	〒680 鳥取市立川町7-101 〒680 鳥取市南吉方3-212	0857-21-2001 0857-21-2048
愛媛	会長	浜中　誠	ラケットショップハマナカ松山店	〒790 松山市西一万8-9 〒799-24 北条市和田甲324-1	0899-33-2366 0899-94-1000
	理事長	石井　健一	ＮＴＴ四国電報サービスセンタ マーケッティング担当	〒790 松山市一番町4-2 〒791 松山市山西町390-1 ＮＴＴ古三津社宅623	0899-36-3405 0899-53-2660
	事務局	石井　健一	ＮＴＴ四国電報サービスセンタ マーケッティング担当	〒790 松山市一番町4-2 〒791 松山市山西町390-1 ＮＴＴ古三津社宅623	0899-36-3405 0899-53-2660
香川	会長	千田　穣一	高松琴平電気鉄道㈱	〒760 高松市寿町1-5-20 〒769-01 綾歌郡国分寺町国分2060-2	0878-21-5671 0878-74-0696
	理事長	東条　義昭	高松琴平電気鉄道㈱	〒760 高松市寿町1-5-20 〒761 高松市一宮町1682-4	0878-21-5671 0878-86-3756
	事務局	東条　義昭	高松琴平電気鉄道㈱	〒760 高松市寿町1-5-20 〒761 高松市一宮町1682-4	0878-21-5671 0878-86-3756
福岡	会長	北田　葆光	㈱ベスト電器	〒810 福岡市中央区那の津2-1-12 〒810 福岡市中央区大名1-1-37	092-781-7161 092-741-8028
	理事長	坂田　雄二	㈱ベスト電器	〒810 福岡市中央区那の津2-1-12 〒810 福岡市筑紫野市下見193-23	092-732-7514 092-926-4127
	事務局	石垣　朝生	㈱ベスト電器	〒810 福岡市中央区那の津2-1-12 〒810 福岡市中央区平尾2-19-9	092-732-7514 092-521-0588

平成７・８年度支部連盟事務局役員名簿（5/5）

■役員

都道府県名	役職	氏名	勤務先	勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号
長崎	会長	久間　章生	衆議院議員	〒850　長崎市栄町1-23大野ビル2F 〒850　長崎市栄町1-23大野ビル2F	0958-21-3711 0958-21-3711
	理事長	田中　貞夫	三菱重工業㈱ 長崎造船所造船工作部	〒850-91　長崎市飽ノ浦町1-1 〒850　長崎市大浜町1484-1	0958-28-5511 0958-65-3262
	事務局	田中　貞夫	三菱重工業㈱ 長崎造船所造船工作部	〒850-91　長崎市飽ノ浦町1-1 〒850　長崎市大浜町1484-1	0958-28-5511 0958-65-3262
熊本	会長	松本　孝一	松本病院	〒860　熊本市新市街12-5 〒860　熊本市新市街12-5	096-352-0338 096-352-9281
	理事長	吉居　謙二	ＮＥＣ九州日本電気㈱	〒861-41　熊本市八幡1-1-1 〒861-41　熊本市近見町1097-8	096-357-2111 096-355-4815
	事務局	坂本　正	ＮＥＣ九州日本電気㈱	〒861-41　熊本市八幡1-1-1 〒869-46　熊本県八代郡宮原町102	096-357-2111 0965-62-2301
沖縄	会長	大山　基		〒 〒	
	理事長			〒 〒	
	事務局	中地　雄高	沖縄銀行 人事部	〒900　那覇市久茂地3-10-1 〒904-21　沖縄市泡瀬1628-2	098-869-1312内1313

編集後記

創立35周年記念誌編集委員会
委員長　並木萬次郎

お待たせ致しました。ようやく、やっと日本実業団バドミントン連盟創立35周年記念誌「三十五年史」を刊行することが出来ました。

記念誌の編纂については30周年記念事業として計画がありましたが実現せず、平成4年に35周年記念事業の実施が決定され、その後編集委員会が平成6年3月に発足し、本格的に作業が開始されました。

それから2年半の間、会員および関係各位のご協力のもと編纂に努めてまいりました。

平成6年に原稿を届けてくださった方々、貴重な資料をお届けいただいた方々には、「ようやく」「やっと」ということばで、この気持ちを伝えお詫び致します。

何分連盟創設以前及び当初については、最近のように記事を残す習慣がなく、所謂やりっぱなしの嫌いがあり当時の資料の収集には苦労致しました。このように連盟の資料不十分であった点は、極力旧知の方々の話を聞いたり、数名の方の記憶に頼った面も若干あります。結果として不明のままとなった事項もあり、本誌の記事の一部には空白の箇所も出来ましたが、その大筋にはまずまず許容して頂けると思っていますので、ご容赦いただきたくお願い申し上げます。

記事の内容がどうしてもトップレベルの方を中心に綴られがちとなり、陽の当たらぬ場所で苦労した人々を忘れがちなことで、これを回避するよう努めましたが、その狙いは果たせたかどうか、その意のある点を汲み取って頂ければ有り難いです。

まだまだ書き残して置きたいことも多々ありましたが、延引は許されない時点まで追い込まれており、又限られた書面でもあり、残念でありますが、何とか纏め上げ発刊の運びとなりました。

そこで今一つの願いは、35周年という一つの区切りは付けましたので、これをたたき台として、関係各位から更に意見を出して頂き、何年か先の再刊の時に、訂正・加筆され、正しい歴史が発刊されることです。

編集委員の精一杯の努力に免じてお許し頂きたい。

終になりましたが、本誌編纂にあたり、株式会社ベースボールマガジン社より多数の写真・資料などのご提供を頂き、内容を充実できましたことを感謝いたしますと共に厚くお礼申し上げます。

また、ご多用の中寄稿頂いた会員各位に対してもここに厚くお礼申し上げます。

「温故知新」ということばがありますが、先人のご苦労、ご尽力を知り、わきまえ、今後の発展の糧を見い出し、それを基にわが日本実連がより飛躍出来れば、編集委員は望外の幸せです。

最後に多くの関係各位のご教示とご支援に深く感謝し、あとがきと致します。

記事付記

記事中配慮した事項及びお断りする事項をつぎに示しておきます。

(1) 記事中原則として敬称は略させて頂きましたのでご了承下さい。

(2) 掲載写真について

写真説明記事に、(BK)を付したものは日本バドミントン協会発行のバドミントン界から、(BM)を付したものは株式会社ベースボールマガジン社バドミントンマガジン編集部の提供による。

バドミントンマガジンは昭和55(1980)年が初版であり、それ以後の写真です。

バドミントン界は昭和44(1969)年が初版、昭和54(1979)年廃刊であるのでその間の写真です。

その他については会員からの提供による。

特に清水正氏(十條製紙)、多賀純一氏(トヨタ自工)からは貴重な写真を多数提供頂いたのでこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

(3)「大会の概観」について

第1回から第45回までの大会主管県より寄稿を期待しましたが、第1～5、8、10～12、15、17、18、25、28、39回は当時の役員が故人であったり、資料不足等で寄稿不能でこの回は空白となり残念でした。

従ってこれらは当時の新聞記事、写真などでカバーしました。

(4)「都道府県実連の歩み」について

登録支部(府県)実連全ての寄稿をお願いしましたが、一部の支部の提出がなく残念でした。

寄稿していただいた支部にとっては、この機会に一区切りつけることが出来、好結果ではなかったかと思います。

(5) 記録について

記録の資料不足で下記大会の一部に記録不明箇所がありました。

①団体戦の部　1回大会

②個人戦の部　9、10、12、17回大会

第1回～第3回大会の使用漢字は当時の漢字をそのまま使用しておきました。(当時まだ当用漢字が制定されていない時代で旧漢字です。)

事業所名はその折々の呼称で示してありますので、たとえば電電東京がNTT東京、新三菱重工が三菱重工、国鉄がJR、ヨネヤマラケットがヨネックススポーツ、ヨネックス等その変遷を追うことができます。

出場選手名簿は全大会掲載してあります。編集委員会では5回毎にしようかとの意向もありましたが、欠けた大会にのみ出場しておられる方のことを思うとそうするわけにも行かず、全大会と致しました。

日本実業団バドミントン連盟創立35周年記念誌編集委員


顧問　横井初夫


委員長　並木萬次郎


副委員長　野村嘉明


委員　黒崎二男


委員　京屋孝治


委員　幸野邦昭


委員　星野義昭

■日本実業団バドミントン連盟 創立35周年記念誌編集委員会

顧　問	横井初夫	〒152　東京都目黒区柿の木坂2-1-12	03-3717-2294
委員長	並木萬次郎	〒206　東京都多摩区鶴牧3-17-10-402	0423-72-2772
副委員長	野村嘉明	〒615　京都市西京区桂艮町18-6	075-381-5376
委　員	黒崎二男	〒226　横浜市都築区川向町1181-1	045-473-0852
委　員	京屋孝治	〒231　横浜市中区本牧1-51 本牧タウンハイツ405	045-621-5187
委　員	幸野邦昭	〒290　市原市辰巳台1-4 B-2301	0436-75-1591
委　員	星野義昭	〒179　東京都練馬区光ヶ丘5-2-3-1406	03-3979-6880

日本実業団バドミントン連盟
三十五年史

発　行　日　平成8年12月23日
発　行　者　日本実業団バドミントン連盟
〒160 東京都新宿区西新宿7-22-37
ストーク西新宿 福星ビル401号
TEL03-3365-2785
発行代表者　会長　山口開生
印　刷　所　株式会社　一向社